

# 和歌山城跡

—和歌山県立医科大学薬学部新築に伴う発掘調査報告書—

2021年3月

公益財団法人 和歌山県文化財センター





# 和歌山城跡

—和歌山県立医科大学薬学部新築に伴う発掘調査報告書—

2021年3月

公益財団法人 和歌山県文化財センター





1. 調査区と和歌山城（北上空から）



2. 3・4区 第4-1遺構面（上空から・上が北）







1. 1・2区 第4-2遺構面1-150 石組遺構（東から）



2. 3・4区 第3遺構面4-079・080 竈（北西から）



# 序

和歌山城の所在する和歌山市は、和歌山県の北部を西流して紀伊水道に注ぐ紀ノ川の河口域を占めています。河口域にある県下第1の広さを誇る和歌山平野を基盤に、古くから人々が生活を営み、数多くの遺跡が遺されています。また、古代には紀ノ川の北岸を南海道が通り、良好な湊をもつなど地理的に要衝な地であることで、和歌山の政治・経済・文化の中核と発展してきました。

和歌山城は、平野部の中ほどにある虎伏山とも呼ばれる岡山を中心に築かれた平山城で、江戸時代には御三家の一つである紀州徳川家の居城として維持され、現在、天守閣や二の丸など城の中核部が国の史跡に指定されています。

このたび、和歌山県立医科大学薬学部新築に伴い和歌山県の委託を受けて調査をおこなった場所は、家臣の屋敷地であった和歌山城の三の丸の一面に位置します。調査では、10面以上重なる遺構面を確認し、江戸時代の屋敷地内の様子や生活の内容を窺う資料を得ることができました。また、安土桃山時代には集落と畠を区画する大溝があり、それ以前には畠や水田が広がっていたことが分かり、弥生時代から江戸時代に至る土地活用の変遷が明らかになりました。

ここに、発掘調査の成果をまとめ報告書を刊行いたします。本書が郷土の歴史を知るための一資料となれば幸いかと存じます。

最後となりましたが、調査及び本書作成にあたりご指導・ご協力をいただきました関係各位の皆様方に深く感謝申し上げます。

令和3年3月

公益財団法人 和歌山県文化財センター  
理事長 櫻井敏雄





# 例 言

1. 本書は、和歌山市七番丁・九番丁に所在する和歌山城跡の発掘調査報告書である。
2. 調査は、和歌山県立医科大学薬学部新築に伴うもので、平成29年度・30年度に発掘調査を実施し、平成31年(令和元)度・令和2年度に報告書作成に伴う出土遺物等整理業務を実施した。
3. 本書には、和歌山県教育庁文化遺産課（以下、県文化遺産課）が令和2年度に実施した和歌山県立医科大学の外構部の調査成果も所収する。
4. 発掘調査及び出土遺物等整理業務は、和歌山県の委託を受け、和歌山県教育委員会（以下、県教委）の指導のもとに、公益財団法人和歌山県文化財センター（以下、当文化財センター）が実施した。
5. 発掘調査・整理業務の調査組織は下記の通りである。

	【平成29年度】	【平成30年度】	【平成31年度】 (令和元年度)	【令和2年度】
事務局長	南 正人	井上 挙宏	井上 挙宏	井上 挙宏
事務局次長				立花 佳樹
埋蔵文化財課長	藤井 幸司	丹野 拓	丹野 拓	丹野 拓
発掘調査業務担当	川崎 雅史 小林 充貴	川崎 雅史 土井 孝之 金澤 舞 森田真由香 小林 充貴		
出土遺物等整理業務担当			川崎 雅史 田之上裕子	川崎 雅史 濱崎 範子

なお、平成30年度の業務では、2-1区を土井・金澤が、1-1区・2-2区・3・4区を川崎・森田・小林が担当している。また、5区（外構部）の調査は、県文化遺産課の石丸彩が担当した。

6. 図版に使用した遺構写真は、発掘調査担当者が各々撮影したものと航空写真測量業務において撮影したもので、遺物写真は川崎と当文化財センター専門調査員佐伯和也が撮影した。また、木製品及び金属製品は、保存処理後に受託業者が撮影したものを一部使用した。
7. 本書の執筆は主に川崎がおこない、第4章を石丸が、付章を丸山真史（東海大学）が分担した。編集は川崎がおこなった。
8. 発掘調査及び出土遺物等整理業務で作成した実測図・写真・台帳などの記録資料は、当文化財センターが、出土遺物は県教委が保管している。
9. 発掘調査及び出土遺物等整理業務に際し、下記の方々からご協力を得た。記して感謝を表します。

井馬好英 河内一浩 福佐美智子

## 凡 例

1. 発掘調査及び出土遺物等整理業務は、『財団法人和歌山県文化財センター発掘調査マニュアル（基礎編）』（2006. 4）に準拠して行った。
2. 調査ならびに本書で使用した座標値は、平面直角座標系（世界測地系）第VI系のもので、値m単位で使用している。
3. 図面に使用している北方位は座標北を示す。なお、座標北は、調査区の範囲内で磁北から $6^{\circ} 02' 04''$  東偏し、真北から $0^{\circ} 27' 56''$  西偏する。
4. 遺構実測図の基準高は、東京湾標準潮位（T.P. +）の数値である。
5. 土色は、農林水産省農林水産技術会事務局監修「新版標準土色帖」（2010年版）に準じ、土質は調査担当者の任意の判断でおこなっている。
6. 調査区名・遺構番号は、基本的に発掘調査時のものを踏襲し、遺構番号は複数の調査区を同時並行で調査していたこともあって調査区ごとに1からの通し番号とし、調査区の後に遺構番号を3桁で付し、1-001などと表示する。また、遺構名は遺構番号の後に遺構種別を記して表示する場合もあり、複数の遺構によって構成される建物や柵などについては、遺構種別のあとに地区とアルファベットを組み合わせる礎石建物2-Aなどと表記する。
7. 遺物番号は、土器・土製品が番号のみで、瓦類がT、石器・石製品がS、ガラス製品にはG、金属製品・銭貨がM、木器・木製品がW、骨角製品にはBを冠して、それぞれ1から付している。
8. 調査で使用した調査コードについては、当文化財センターが実施した調査分が17-01・375（2017年度-和歌山市・和歌山城跡）、県文化遺産課が実施した調査分が20-01・375（2020年度-和歌山市・和歌山城跡）で、遺物の登録や記録資料はこのコードを用いて管理している。

# 本文目次

巻頭図版

序・例言・凡例

第1章 環境	1
第1節 地理的環境	1
第2節 周辺の遺跡	1
第3節 和歌山城の構造と変遷	3
第4節 三の丸と調査区	4
第5節 和歌山城跡の既往の調査	5
第2章 調査の経緯と経過	8
第1節 発掘調査の経緯	8
第2節 経過	8
1 発掘調査の経過	8
2 発掘調査の手順	8
3 調査区と地区割	9
4 記録	10
5 測量業務委託	10
6 応急遺物整理	10
7 出土遺物等整理業務	11
8 保存処理	11
9 現地説明会	11
第3章 調査の成果	12
第1節 調査の概要	12
第2節 1・2区の調査成果	12
1 基本層序と遺構面	12
2 第1遺構面の遺構	14
3 第2遺構面の遺構	15
4 第3遺構面の遺構	36
5 第4-1遺構面の遺構	49
6 第4-2遺構面の遺構	63
7 帰属面不明の遺構	71
8 第5-1遺構面の遺構	80
9 第5-2遺構面の遺構	80
10 第6-1遺構面の遺構	89
11 第6-2遺構面の遺構	89
12 第7遺構面の遺構	91
13 第8遺構面の遺構	93
14 第9遺構面の遺構	98

第3節	3・4区の調査成果	103
1	基本層序と遺構面	103
2	第1遺構面の遺構	103
3	第2遺構面の遺構	112
4	第3遺構面の遺構	120
5	第4-1遺構面の遺構	135
6	第4-2遺構面の遺構	151
7	帰属面不明の遺構	165
8	第5-1遺構面の遺構	187
9	第5-2遺構面の遺構	187
10	第6-2遺構面の遺構	195
11	第6-3遺構面の遺構	196
12	第7遺構面の遺構	196
13	第8遺構面の遺構	200
14	第9-1遺構面の遺構	207
15	第9-2遺構面の遺構	208
第4章	5区の調査成果	245
第1節	調査の方法と基本層序	245
1	座標と地区割	245
2	調査の手順	245
3	基本層序	245
第2節	調査の成果	245
1	第1遺構面	245
2	第2遺構面	247
3	小結	249
第5章	まとめ	251
第1節	江戸時代	251
1	遺構面の再整理	251
2	屋敷地の変遷	251
3	屋敷地内の様子	255
4	井戸	256
第2節	安土桃山時代	258
第3節	室町時代以前	259
第4節	総括	259
付 章	和歌山城跡(17-01・375)出土の動物遺存体	261
1)	動物遺存体の概要	261
2)	種類別の特徴	261
3)	考察	262
4)	まとめ	262

# 挿図目次

図1	和歌山平野の地形環境・中世	1	図41	1・2区 第4-1遺構面 検出遺構(1)	52
図2	周辺の遺跡	2	図42	1・2区 第4-1遺構面 検出遺構(2)	53
図3	和歌山城下町絵図(和歌山市立博物館蔵)と 調査区	4	図43	1・2区 第4-1遺構面 検出遺構(3)	54
図4	和歌山城跡の既往の調査区	5	図44	1・2区 第4-1遺構面 検出遺構(4)	55
図5	地区割	9	図45	1・2区 第4-1遺構面 検出遺構(5)	56
図6	1・2区の基本層序柱状図	12	図46	1・2区 第4-1遺構面 遺構出土土器(1)	57
図7	1-1区 西壁断面土層図	13	図47	1・2区 第4-1遺構面 遺構出土土器(2)	58
図8	1・2区 第1遺構面 全体図	14	図48	1・2区 第4-1遺構面 遺構出土土器(3)	59
図9	1・2区 第1遺構面 検出遺構	15	図49	1・2区 第4-1遺構面 遺構出土土器(4)	60
図10	1・2区 第1遺構面 遺構出土土器	15	図50	1・2区 第4-1遺構面 遺構出土土器(5)	61
図11	1・2区 第2遺構面 全体図	16	図51	1・2区 第4-1遺構面 遺構出土土器(6)	62
図12	1・2区 第2遺構面 検出遺構(1)	18	図52	1・2区 第4-2遺構面 全体図	63
図13	1・2区 第2遺構面 検出遺構(2)	19	図53	1・2区 第4-2遺構面 検出遺構(1)	65
図14	1・2区 第2遺構面 検出遺構(3)	20	図54	1・2区 第4-2遺構面 検出遺構(2)	66
図15	1・2区 第2遺構面 遺構出土土器(1)	21	図55	1・2区 第4-2遺構面 検出遺構(3)	67
図16	1・2区 第2遺構面 遺構出土土器(2)	22	図56	1・2区 第4-2遺構面 遺構出土土器(1)	68
図17	1・2区 第2遺構面 遺構出土土器(3)	23	図57	1・2区 第4-2遺構面 遺構出土土器(2)	69
図18	1・2区 第2遺構面 遺構出土土器(4)	24	図58	1・2区 第4-2遺構面 遺構出土土器(3)	70
図19	1・2区 第2遺構面 遺構出土土器(5)	25	図59	1・2区 帰属面不明の遺構 全体図	72
図20	1・2区 第2遺構面 遺構出土土器(6)	26	図60	1・2区 帰属面不明の遺構(1)	73
図21	1・2区 第2遺構面 遺構出土土器(7)	27	図61	1・2区 帰属面不明の遺構(2)	74
図22	1・2区 第2遺構面 遺構出土土器(8)	28	図62	1・2区 帰属面不明の遺構(3)	75
図23	1・2区 第2遺構面 遺構出土土器(9)	29	図63	1・2区 帰属面不明の遺構 出土土器(1)	76
図24	1・2区 第2遺構面 遺構出土土器(10)	30	図64	1・2区 帰属面不明の遺構 出土土器(2)	77
図25	1・2区 第2遺構面 遺構出土土器(11)	31	図65	1・2区 帰属面不明の遺構 出土土器(3)	78
図26	1・2区 第2遺構面 遺構出土土器(12)	32	図66	1・2区 帰属面不明の遺構 出土土器(4)	79
図27	1・2区 第2遺構面 遺構出土土器(13)	33	図67	1・2区 第5-1遺構面 全体図	82
図28	1・2区 第2遺構面 遺構出土土器(14)	34	図68	1・2区 第5-1・5-2遺構面 大溝断面図	83・84
図29	1・2区 第2遺構面 遺構出土土器(15)	35	図69	1・2区 第5-2遺構面 全体図	85
図30	1・2区 第3遺構面 全体図	36	図70	1・2区 第5-2遺構面 検出遺構(1)	86
図31	1・2区 第3遺構面 検出遺構(1)	40	図71	1・2区 第5-2遺構面 検出遺構(2)	87
図32	1・2区 第3遺構面 検出遺構(2)	41	図72	1・2区 第5-2遺構面 遺構出土土器	88
図33	1・2区 第3遺構面 検出遺構(3)	42	図73	1区 第6-1遺構面 全体図	89
図34	1・2区 第3遺構面 検出遺構(4)	43	図74	1・2区 第6-2遺構面 全体図	90
図35	1・2区 第3遺構面 遺構出土土器(1)	44	図75	1・2区 第7遺構面 全体図	92
図36	1・2区 第3遺構面 遺構出土土器(2)	45	図76	1・2区 第7遺構面 検出遺構	93
図37	1・2区 第3遺構面 遺構出土土器(3)	46	図77	1・2区 第8遺構面 全体図	94
図38	1・2区 第3遺構面 遺構出土土器(4)	47	図78	1・2区 第8遺構面 検出遺構	95
図39	1・2区 第3遺構面 遺構出土土器(5)	48	図79	1・2区 第7・8遺構面 遺構出土土器	96
図40	1・2区 第4-1遺構面 全体図	49	図80	1・2区 第9遺構面 全体図	97

図81	1・2区 第9遺構面 検出遺構	98	図124	3・4区 第4-2遺構面 全体図	154
図82	1・2区 整地土・包含層等出土遺物(1)	100	図125	3・4区 第4-2遺構面 検出遺構(1)	155
図83	1・2区 整地土・包含層等出土遺物(2)	101	図126	3・4区 第4-2遺構面 検出遺構(2)	156
図84	1・2区 整地土・包含層等出土遺物(3)	102	図127	3・4区 第4-2遺構面 検出遺構(3)	157
図85	3・4区の基本層序柱状図	103	図128	3・4区 第4-2遺構面 検出遺構(4)	158
図86	3・4区 第1遺構面 全体図	105	図129	3・4区 第4-2遺構面 遺構出土土器(1)	159
図87	3・4区 第1遺構面 検出遺構(1)	106	図130	3・4区 第4-2遺構面 遺構出土土器(2)	160
図88	3・4区 第1遺構面 検出遺構(2)	107	図131	3・4区 第4-2遺構面 遺構出土土器(3)	161
図89	3・4区 第1遺構面 遺構出土土器(1)	108	図132	3・4区 第4-2遺構面 遺構出土土器(4)	162
図90	3・4区 第1遺構面 遺構出土土器(2)	109	図133	3・4区 第4-2遺構面 遺構出土土器(5)	163
図91	3・4区 第1遺構面 遺構出土土器(3)	110	図134	3・4区 第4-2遺構面 遺構出土土器(6)	164
図92	3・4区 第1遺構面 遺構出土土器(4)	111	図135	3・4区 帰属面不明の遺構 全体図	166
図93	3・4区 第2遺構面 全体図	114	図136	3・4区 帰属面不明の遺構(1)	169
図94	3・4区 第2遺構面 検出遺構(1)	115	図137	3・4区 帰属面不明の遺構(2)	170
図95	3・4区 第2遺構面 検出遺構(2)	116	図138	3・4区 帰属面不明の遺構(3)	171
図96	3・4区 第2遺構面 遺構出土土器(1)	117	図139	3・4区 帰属面不明の遺構(4)	175
図97	3・4区 第2遺構面 遺構出土土器(2)	118	図140	3・4区 帰属面不明の遺構(5)	176
図98	3・4区 第2遺構面 遺構出土土器(3)	119	図141	3・4区 帰属面不明の遺構(6)	177
図99	3・4区 第3遺構面 全体図	121	図142	3・4区 帰属面不明の遺構(7)	178
図100	3・4区 第3遺構面 検出遺構(1)	124	図143	3・4区 帰属面不明の遺構(8)	179
図101	3・4区 第3遺構面 検出遺構(2)	125	図144	3・4区 帰属面不明の遺構 出土土器(1)	180
図102	3・4区 第3遺構面 検出遺構(3)	126	図145	3・4区 帰属面不明の遺構 出土土器(2)	181
図103	3・4区 第3遺構面 検出遺構(4)	127	図146	3・4区 帰属面不明の遺構 出土土器(3)	182
図104	3・4区 第3遺構面 検出遺構(5)	128	図147	3・4区 帰属面不明の遺構 出土土器(4)	183
図105	3・4区 第3遺構面 遺構出土土器(1)	129	図148	3・4区 帰属面不明の遺構 出土土器(5)	184
図106	3・4区 第3遺構面 遺構出土土器(2)	130	図149	3・4区 帰属面不明の遺構 出土土器(6)	185
図107	3・4区 第3遺構面 遺構出土土器(3)	131	図150	3・4区 帰属面不明の遺構 出土土器(7)	186
図108	3・4区 第3遺構面 遺構出土土器(4)	132	図151	3・4区 第5-1遺構面 全体図	188
図109	3・4区 第3遺構面 遺構出土土器(5)	133	図152	3・4区 第5-2遺構面 全体図	189
図110	3・4区 第3遺構面 遺構出土土器(6)	134	図153	3・4区 第5-2遺構面 検出遺構(1)	191
図111	3・4区 第4-1遺構面 全体図	136	図154	3・4区 第5-2遺構面 検出遺構(2)	192
図112	3・4区 第4-1遺構面 検出遺構(1)	139	図155	3・4区 第5-2遺構面 検出遺構(3)	193
図113	3・4区 第4-1遺構面 検出遺構(2)	140	図156	3・4区 第5-2遺構面 遺構出土土器(1)	194
図114	3・4区 第4-1遺構面 検出遺構(3)	141	図157	3・4区 第5-2遺構面 遺構出土土器(2)	195
図115	3・4区 第4-1遺構面 検出遺構(4)	142	図158	3・4区 第6-3遺構面 3-326溝断面	196
図116	3・4区 第4-1遺構面 検出遺構(5)	143	図159	3・4区 第6-2遺構面 全体図	197
図117	3・4区 第4-1遺構面 検出遺構(6)	144	図160	3・4区 第6-3遺構面 全体図	198
図118	3・4区 第4-1遺構面 遺構出土土器(1)	145	図161	3・4区 第7遺構面 全体図	201
図119	3・4区 第4-1遺構面 遺構出土土器(2)	146	図162	3・4区 第7遺構面 検出遺構(1)	202
図120	3・4区 第4-1遺構面 遺構出土土器(3)	147	図163	3・4区 第7遺構面 検出遺構(2)	203
図121	3・4区 第4-1遺構面 遺構出土土器(4)	148	図164	3・4区 第8遺構面 全体図	204
図122	3・4区 第4-1遺構面 遺構出土土器(5)	149	図165	3・4区 第9-1遺構面 全体図	205
図123	3・4区 第4-1遺構面 遺構出土土器(6)	150	図166	3・4区 第9-2遺構面 全体図	206

図167	3・4区 第9-1遺構面 検出遺構	207	図191	出土遺物 木製品 (3)	231
図168	3・4区 第7・9-1・2遺構面 遺構出土器	208	図192	出土遺物 木製品 (4)	232
図169	3・4区 整地土・包含層等出土遺物 (1)	209	図193	出土遺物 木製品 (5)	233
図170	3・4区 整地土・包含層等出土遺物 (2)	210	図194	出土遺物 木製品 (6)	234
図171	出土遺物 瓦類 (1)	211	図195	出土遺物 木製品 (7)	235
図172	出土遺物 瓦類 (2)	212	図196	出土遺物 木製品 (8)	236
図173	出土遺物 瓦類 (3)	213	図197	出土遺物 木製品 (9)	237
図174	出土遺物 瓦類 (4)	214	図198	出土遺物 木製品 (10)	238
図175	出土遺物 瓦類 (5)	215	図199	出土遺物 木製品 (11)	239
図176	出土遺物 瓦類 (6)	216	図200	出土遺物 木製品 (12)	240
図177	出土遺物 瓦類 (7)	217	図201	出土遺物 木製品 (13)	241
図178	出土遺物 瓦類 (8)	218	図202	出土遺物 木製品 (14)	242
図179	出土遺物 瓦類 (9)	219	図203	出土遺物 木製品 (15)	243
図180	出土遺物 瓦類 (10)	220	図204	出土遺物 木製品 (16)・骨角製品	244
図181	出土遺物 瓦類 (11)	221	図205	5区の基本層序	245
図182	出土遺物 石製品 (1)	222	図206	5区平面図	246
図183	出土遺物 石製品 (2)	223	図207	5区検出遺構 平面図及び土層断面図①	248
図184	出土遺物 石製品 (3)	224	図208	5区検出遺構 平面図及び土層断面図②	249
図185	出土遺物 金属製品 (1)	225	図209	5区出土遺物	250
図186	出土遺物 金属製品 (2)	226	図210	和歌山古屋敷絵図 (和歌山県立図書館蔵)	252
図187	出土遺物 銭貨 (1)	227	図211	和歌山城下屋敷大絵図 (和歌山県立図書館蔵)	252
図188	出土遺物 銭貨 (2)・ガラス製品	228	図212	江戸時代の井戸配置図	257
図189	出土遺物 木製品 (1)	229			
図190	出土遺物 木製品 (2)	230			

## 表目次

表1	和歌山城跡の既往の調査	6	表7	出土遺物観察表 (石製品)	320
表2	江戸時代の井戸一覧表	258	表8	出土遺物観察表 (金属製品)	321
表3	和歌山城 (17-01・375) 出土の動物遺存体集計表	263	表9	出土遺物観察表 (銭貨)	323
表4	主要遺構一覧表	267	表10	出土遺物観察表 (ガラス製品)	325
表5	出土遺物観察表 (土器類)	272	表11	出土遺物観察表 (木製品)	325
表6	出土遺物観察表 (瓦類)	316	表12	出土遺物観察表 (骨角製品)	332

## 写真目次

写真1	和歌山城天守閣	3	写真11	2-243溝断面（南西から）	99
写真2	発掘調査風景	9	写真12	3-006土坑断面（南から）	104
写真3	整理業務（遺物接合・補強作業）	11	写真13	4-039蹲踞 植木鉢に詰められた瓦	113
写真4	現地説明会風景	11	写真14	4-079・080竈断割り断面（南東から）	122
写真5	1-101・103土坑断面（南から）	51	写真15	3-107土坑断面（北から）	123
写真6	1-189柱穴（写真上が西）	64	写真16	4-120土坑断面（西から）	138
写真7	1-178柱穴断面（東から）	64	写真17	礎石建物3-B（北から）	151
写真8	1-207礎石 鉄鎌出土状況（西から）	64	写真18	3-244土坑（北西から）	190
写真9	2-170土坑断面（東から）	70	写真19	4-333土坑 遺物出土状況（南から）	195
写真10	1-360溝断面（北北東から）	99			

## 図版目次

巻頭図版1	1. 調査区と和歌山城（北上空から）	2. 3・4区 第4-1遺構面（上空から・上が北）	図版21	3・4区 第1・2遺構面検出遺構
巻頭図版2	1. 1・2区 第4-2遺構面 1-150石組遺構（東から）	2. 3・4区 第3遺構面 4-079・080竈（北西から）	図版22	3区 第1・2・3遺構面検出遺構
図版1	1・2区 第1遺構面検出遺構		図版23	4区 第1・2・3遺構面検出遺構
図版2	1・2区 第2遺構面検出遺構		図版24	3・4区 第3・4-1遺構面検出遺構
図版3	1・2区 第3遺構面検出遺構		図版25	3区 第4-1・4-2・5-1遺構面検出遺構
図版4	1・2区 第4-1遺構面検出遺構		図版26	4区 第4-1・4-2・5-1遺構面検出遺構
図版5	1・2区 第4-2・5-1面検出遺構		図版27	3区 第5-2・6-2・6-3遺構面検出遺構
図版6	1・2区 第5-1・5-2遺構面検出遺構		図版28	3・4区 第5-1・6-2遺構面検出遺構
図版7	1・2区 第5-1・5-2・6-1遺構面検出遺構		図版29	4区 第5-2・6-2・7遺構面検出遺構
図版8	1・2区 第6-2遺構面検出遺構		図版30	3・4区 第7・8遺構面検出遺構
図版9	1・2区 第7遺構面検出遺構		図版31	4区 第7・8・9-1遺構面検出遺構
図版10	1・2区 第8遺構面検出遺構		図版32	3・4区 第1・2遺構面検出遺構
図版11	1・2区 第9遺構面検出遺構		図版33	3・4区 第2遺構面検出遺構
図版12	1・2区 第1・2遺構面検出遺構		図版34	3・4区 第2・3遺構面検出遺構
図版13	1・2区 第2・3遺構面検出遺構		図版35	3・4区 第3遺構面検出遺構
図版14	1・2区 第3遺構面検出遺構		図版36	3・4区 第3・4-1遺構面検出遺構
図版15	1・2区 第3・4-1遺構面検出遺構		図版37	3・4区 第4-1遺構面検出遺構
図版16	1・2区 第4-1・4-2遺構面検出遺構		図版38	3・4区 第4-1・4-2遺構面検出遺構
図版17	1・2区 第4-2遺構面検出遺構・帰属面不明の遺構		図版39	3・4区 第4-2遺構面検出遺構
図版18	1・2区 帰属面不明の遺構		図版40	3・4区 第4-2遺構面検出遺構
図版19	1・2区 帰属面不明の遺構・第5-2遺構面検出遺構		図版41	3・4区 第4-2遺構面検出遺構
図版20	1・2区 第5-1・5-2遺構面より下位の遺構		図版42	3・4区 帰属面不明の遺構
			図版43	3・4区 帰属面不明の遺構
			図版44	3・4区 帰属面不明の遺構
			図版45	3・4区 帰属面不明の遺構
			図版46	3・4区 帰属面不明の遺構
			図版47	3・4区 第5-2遺構面検出遺構



図版48	3・4区 第5-1・5-2・6-2・6-3・7 遺構面検出遺構	図版78	3・4区 出土遺物 土器類 (8)
図版49	3・4区 第7・8遺構面検出遺構	図版79	3・4区 出土遺物 土器類 (9)
図版50	3・4区 第8・9-1・9-2遺構面検出遺構	図版80	3・4区 出土遺物 土器類 (10)
図版51	5区 検出遺構	図版81	3・4区 出土遺物 土器類 (11)
図版52	5区 検出遺構	図版82	3・4区 出土遺物 土器類 (12)
図版53	1・2区 出土遺物 土器類 (1)	図版83	3・4区 出土遺物 土器類 (13)
図版54	1・2区 出土遺物 土器類 (2)	図版84	3・4区 出土遺物 土器類 (14)
図版55	1・2区 出土遺物 土器類 (3)	図版85	3・4区 出土遺物 土器類 (15)
図版56	1・2区 出土遺物 土器類 (4)	図版86	3・4区 出土遺物 土器類 (16)
図版57	1・2区 出土遺物 土器類 (5)	図版87	5区 出土遺物
図版58	1・2区 出土遺物 土器類 (6)	図版88	出土遺物 瓦類 (1)
図版59	1・2区 出土遺物 土器類 (7)	図版89	出土遺物 瓦類 (2)
図版60	1・2区 出土遺物 土器類 (8)	図版90	出土遺物 瓦類 (3)
図版61	1・2区 出土遺物 土器類 (9)	図版91	出土遺物 瓦類 (4)
図版62	1・2区 出土遺物 土器類 (10)	図版92	出土遺物 瓦類 (5)
図版63	1・2区 出土遺物 土器類 (11)	図版93	出土遺物 瓦類 (6)・石製品 (1)
図版64	1・2区 出土遺物 土器類 (12)	図版94	出土遺物 石製品 (2)
図版65	1・2区 出土遺物 土器類 (13)	図版95	出土遺物 金属製品 (1)
図版66	1・2区 出土遺物 土器類 (14)	図版96	出土遺物 金属製品 (2)
図版67	1・2区 出土遺物 土器類 (15)	図版97	出土遺物 金属製品 (3)・銭貨 (1)
図版68	1・2区 出土遺物 土器類 (16)	図版98	出土遺物 銭貨 (2)
図版69	1・2区 出土遺物 土器類 (17)	図版99	出土遺物 銭貨 (3)・ガラス製品・木製品 (1)
図版70	1・2区 出土遺物 土器類 (18)	図版100	出土遺物 木製品 (2)
図版71	3・4区 出土遺物 土器類 (1)	図版101	出土遺物 木製品 (3)
図版72	3・4区 出土遺物 土器類 (2)	図版102	出土遺物 木製品 (4)
図版73	3・4区 出土遺物 土器類 (3)	図版103	出土遺物 木製品 (5)
図版74	3・4区 出土遺物 土器類 (4)	図版104	出土遺物 木製品 (6)
図版75	3・4区 出土遺物 土器類 (5)	図版105	出土遺物 木製品 (7)
図版76	3・4区 出土遺物 土器類 (6)	図版106	出土遺物 木製品 (8)
図版77	3・4区 出土遺物 土器類 (7)	図版107	出土遺物 木製品 (9)・骨角製品



# 第1章 環境

## 第1節 地理的環境（図1）

和歌山市の地質は中央構造線が東西に走り、この大断層を境に北と南で地質が大きく異なっている。北側は礫岩・砂岩・泥岩等の堆積岩層で構成される和泉層群、南側が結晶片岩を主体とする三波川変成帯である。ほぼ断層に沿うように西流する紀ノ川は紀伊水道に注ぎ、河口域に和歌山平野を形成している。

和歌山平野は縄文時代前期（約6000年前）頃の縄文海進頂期には、奥深い内湾となっており、紀ノ川は日前宮の東にある岩橋山塊付近で海に注いでいた。また、縄文海進以降から約2000年前にかけて、磯の浦付近からは南東の雑賀方面にかけて砂洲が形成され、湾の口は和歌浦付近で開くようになる。その後、

紀ノ川の堆積作用が進み、湾であった部分が陸化され三角州が発達する。古代までの紀ノ川の本流は梶取付近で蛇行して現在の土入川・和歌川に沿うようにかたちで和歌浦付近に注いでいたとされる。沿岸には砂洲が形成され海岸線は西側に寄るが、これが昭和40年ぐらいまでであった水軒浜の元となる。古代から中世頃になると、紀ノ川の本流は先に形成された砂洲を突き抜けて、雑賀崎北側の大浦付近に注ぐようになる。この名残が現在の水軒川で、当時の河道は、明治時代の地図を参照すれば、河口付近から水田となっている箇所をたどることで読み取ることができる。中世後半頃になると、紀ノ川は海岸部の砂洲を突破して、ほぼ現在の位置になったとされる。その後も河口左岸への砂洲の形成は更にすすみ、現在の和歌山市街地の基盤となっている。

註1（日下雅義「紀伊湊と吹上浜」『和歌山の研究』1979）掲載の図から

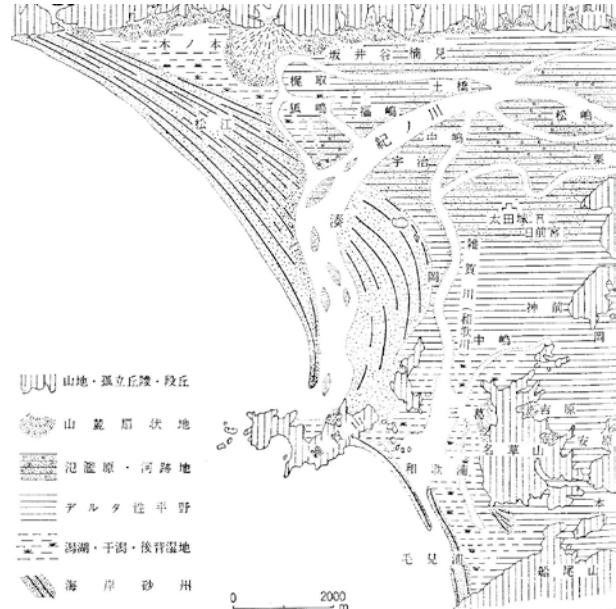


図1 和歌山平野の地形環境・中世（註1）

## 第2節 周辺の遺跡（図2）

紀ノ川左岸の和歌山平野にある原始・古代の遺跡は、ほとんどがJR和歌山駅東側の平野部から岩橋山塊にかけて展開している。縄文時代の遺跡としては、中期から晩期にかけての貝塚で、国指定史跡となっている鳴神貝塚が著名なところである。弥生時代になると遺跡の数も多くなり、それらの中でも大規模な環濠集落として知られる太田・黒田遺跡は、和歌山平野の拠点的な集落として位置づけられている。

古墳時代になると、岩橋山塊には多くの古墳が築かれるようになり、岩橋千塚古墳群・花山古墳群・井辺前山古墳群などの大群集墳を形成している。これらの古墳は紀ノ川下流域で勢力を誇っていた豪族・紀氏の墓であると理解されており、山麓にある鳴神地区遺跡などとの関わりが

考えられる。

古代では先述した太田・黒田遺跡や鳴神地区遺跡などで当該期の多くの遺物が出土しており、遺物の特殊性などから、官衙的な施設があったと考えられている。

鎌倉時代から室町時代にかけても、太田・黒田遺跡、鳴神地区遺跡のほか秋月遺跡などからこれらの時代の遺物が多く出土している。戦国期になると、太田党が太田城を築き、紀ノ川下流域の土豪集団である雑賀衆が和歌川河口から雑賀崎にかけて多くの砦を構えたとされる。これらのなかで、土橋氏が構えた吹上砦が、後に和歌山城が築かれる岡山にあったとする説がある。本願寺と結んで織田信長や羽柴秀吉に敵対した太田党・雑賀衆であるが、天正十三年（1585）には秀吉の紀州攻めにより太田城が水攻めされることになり、この時に秀吉が築いた堤の一部が出水に残されている。

江戸時代になると歴代の紀州藩主は、和歌山城下に清遊の場あるいは隠殿として殿館を設けており、これらには湊・浜・吹上・西浜御殿などがある。和歌山城下町の南端は、狭義な解釈では新堀川までと考えられるが、広義な解釈をすれば和歌川河口の和歌浦まで広げることができる。ここは東西にのびる天神山などが和歌山平野の南を塞いでおり、その南麓には徳川家康を祀る紀州東照宮や、江戸時代初期の和歌山城主であった浅野幸長が再興した和歌浦天満宮が鎮座している。城下の西は海となるが、江戸時代後半頃になって海岸線に沿って防潮・防波の目的で水軒堤防が築かれる。この堤防は精巧な技術でつくられた石積み堤防であることが発掘調査で明らかになっている。

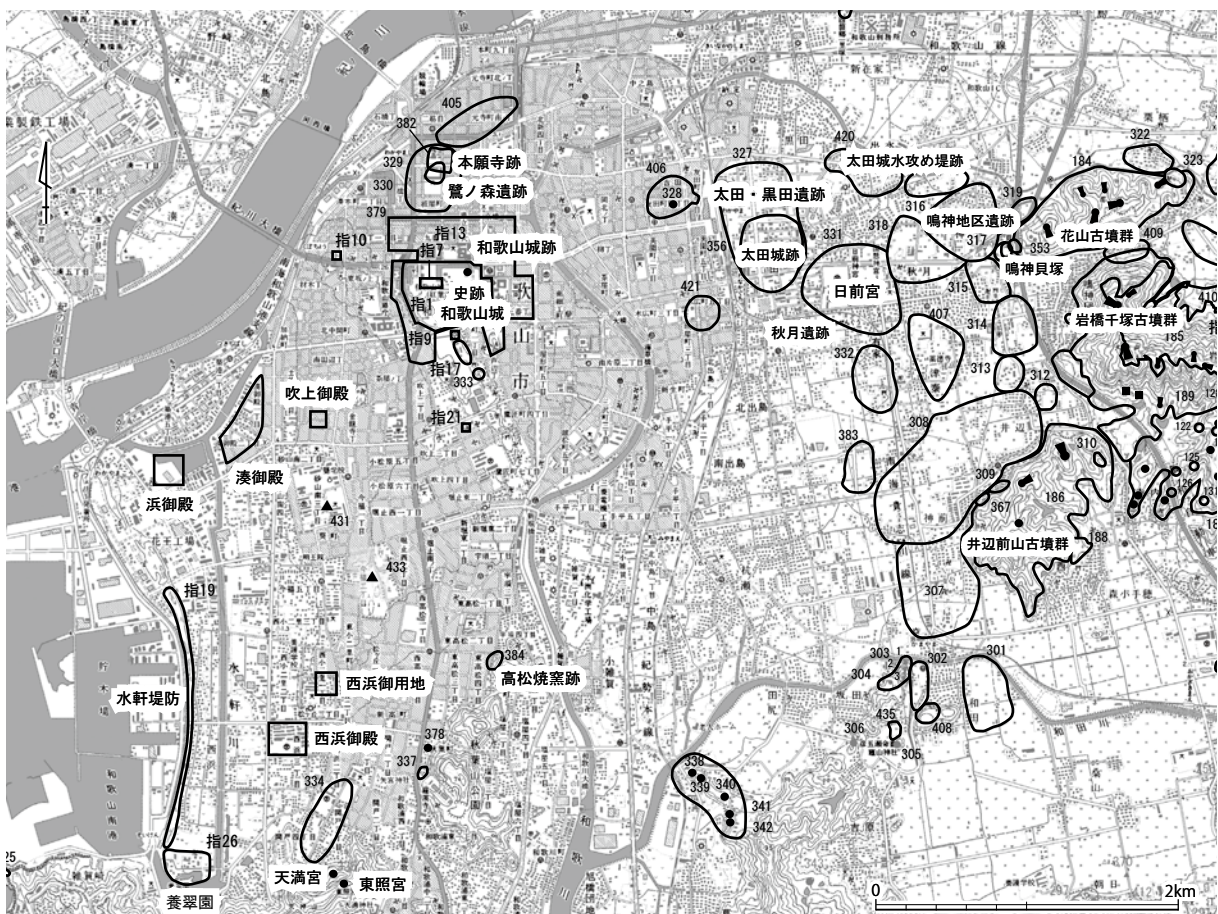


図2 周辺の遺跡



### 第3節 和歌山城の構造と変遷

和歌山城は、紀の川の河口域を占める和歌山平野の中ほどに位置し、独立丘陵で三波川変成帯の岩山である岡山（虎伏山）とその周囲の砂丘上に築かれた平山城である。その構造は、標高40～50mの岡山に天守と本丸を置き、その麓に内堀などで囲まれた二の丸、西の丸、砂の丸、南の丸などを配している。城の北から東にかけては内堀と外堀に囲まれた三の丸を置いており、二の丸・三の丸の縄張りを含め、各曲輪は高い石垣や堀を巡らして防御している。また、城の外郭ラインは北が紀ノ川、東が真田堀・和歌川、南が新堀川とすることができる。二の丸・三の丸・堀は正方位を軸に築かれており、この軸方位が城下町の町割りの基本となっている。このほか城の南側には寺町を置き、手薄となるこの方面の防御としている。



写真1 和歌山城天守閣

和歌山城の築城は、天正十三年（1585）に紀州を平定した羽柴（豊臣）秀吉が異母弟秀長に普請を命じたのが始まりである。翌年、秀長の城代として桑山重晴が入城した。当時の城域については明らかでないが、岡山の周囲と二の丸の一部に認められる結晶片岩の野面積み石垣が、この頃に築かれたものであると推定されている。その後、慶長五年（1600）に関ヶ原の戦いで軍功があった浅野幸長が入城し、城郭全体の改修をおこない、城下町を整備するなど、その後の和歌山城の原形を作った。この時期の石垣には和泉砂岩が用いられたとされる。元和五年（1619）には家康の十男である徳川頼宣が入城し、再び大改修が施された。また、五代藩主吉宗の時期には石垣の石材に熊野の花崗斑岩を用いて石垣普請をしたとされ、高櫓などがこの頃の石垣であると考えられている。このように城内に残る石垣は、時期によって石材が異なり、石積み方法も野面積みから打込みハギ、切込みハギ・布積みと石積み技法の変遷を見ることが出来る。

和歌山城は徳川御三家の城として江戸時代を通じて維持され、何度かの火災によって城内の建物が消失したものの再建されている。なかでも弘化三年（1846）には天守閣が落雷によって焼け落ちたが、御三家の特権で幕府より再建を許可され嘉永三年（1850）に復興している。

明治四年（1871）の廃城令によって城内のほとんどの建物が解体され、城域は官地となるか民間に払い下げられたが、天守閣の建物は残され、明治三四年（1901）以降は本丸、二の丸一帯は和歌山城公園として一般に公開されるようになった。第二次世界大戦時の昭和二〇年（1945）7月9日夜、アメリカ軍による大規模な戦略爆撃（和歌山大空襲）によって和歌山市街地の大部分とともに天守閣も焼失した。現在の天守閣は昭和33年に再建されたものである。

和歌山城の天守・本丸・二の丸など内堀が囲む城の中核部は、昭和6年に「史跡和歌山城」として「国史跡」に指定されている。なお、「史跡和歌山城」には平成30年と令和元年に南西隅にある扇の芝の一部が追加登録された。

#### 第4節 三の丸と調査区（図3）

三の丸は和歌山城の北側から東側にかけて位置し、紀ノ川と和歌川を結ぶ運河でもある堀川、西汐入川、広瀬川からなる外堀と内堀とに囲まれている。江戸時代の絵図や「紀伊続風土記」などから、外堀の内側に沿って松を植えた土塁が巡っていたことが窺える。

城下と三の丸との出入口としては、京橋口、湊橋口、北中橋口、東中橋口、三木町橋口、広瀬口があり、それぞれには城門がおかれていた。このうち徳川頼宜が入城以後の正面入口が京橋口で、唯一陸続きで鍵形に出入りするのが広瀬口である。三の丸と城の中枢部との行き来は、二の丸間を繋ぐ一の橋のみとなっている。

三の丸内の街路は、基本的に東西5本、南北5本であるが、南東部では変則的に鍵形になっている。城下から各入口を経た道も直線的には進めず、土塁沿いに折れることになっており、防御性が認められる。ただ、三の丸は評定所・会所などはあるものの、基本的には家臣の屋敷地で、江戸時代に描かれた絵図などから大小約50の屋敷地に区画され、上級家臣だけではなく禄高が数百石の中級家臣を中心として、切米で数十石の家臣も住んでいたことが分かっている。京橋口から一の橋にかけての大手道に相当する街路沿いには、紀州徳川家の付家老である新宮城主水野家・田辺城主安藤家や、筆頭家老である三浦家の屋敷地が置かれており、これらの屋敷地は他の屋敷地の数区画分の面積を占地している。水野家・安藤家・三浦家をはじめ同じ家老である加納家は、早い段階から同じ場所に屋敷地を構えており、他の家臣については時代によって屋敷地の移動がみられる。なお、調査区は安藤家屋敷地の南西側に位置する。

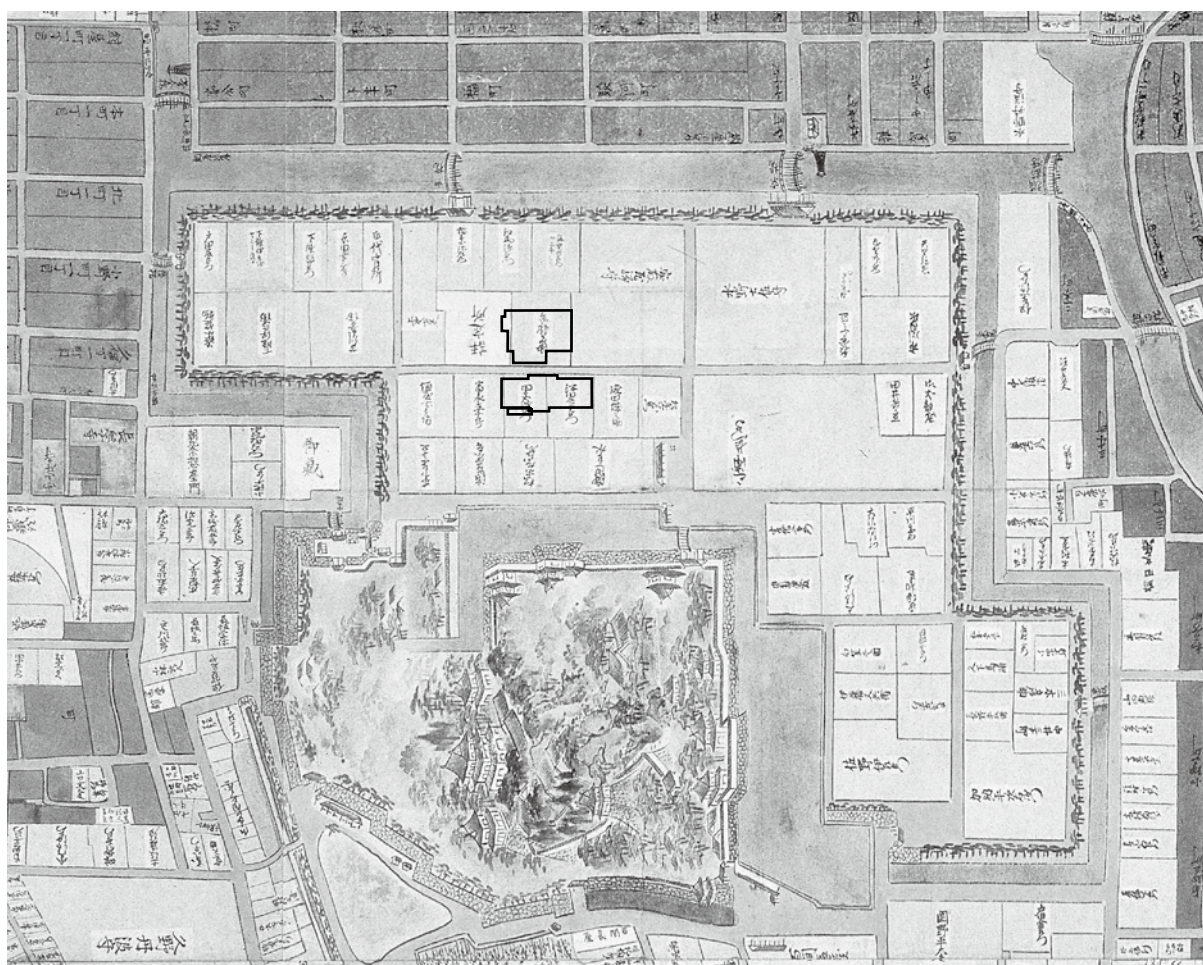


図3 和歌山城下町絵図（和歌山市立博物館蔵）と調査区



## 第5節 和歌山城跡の既往の調査（図4）

本来の和歌山城の範囲で、城に係る遺跡としては、「史跡和歌山城」と「和歌山城跡」がある。史跡和歌山城は天守閣・本丸・城の中核部分とそれらを囲む堀が範囲で、和歌山城跡は家臣の屋敷地である三の丸を主たる範囲とする。これまで史跡和歌山城の発掘調査は、和歌山市教育委員会（以下、市教委）・財団法人和歌山市文化体育振興事業団（以下、市事業団）・財団法人和歌山市都市整備公社（以下、市整備公社）・公益財団法人和歌山市文化スポーツ振興財団（以下、市振興財団）で39次にわたっておこなわれ、和歌山城跡の発掘調査としては、市教委・市事業団、市整備公社、市振興財団によって39次、当文化財センターで7次を数える。このほか和歌山城下町関係の調査としては、「鷲ノ森遺跡」の範囲内で15次まで実施されている。

既往の和歌山城跡の発掘調査では、安藤家や水野家などの付家老をはじめとする紀州徳川家の家臣の屋敷地が、江戸時代を通じて嵩上げを伴う複数回の整地をおこなっていることが明らかになるとともに、検出した遺構や遺物から屋敷地内の様子や食生活などが窺えるようになっていく。また、江戸時代以前の面も確認されるようになり、江戸時代の面の基盤となる風成堆積した砂層下には、中世末の面が、さらに下部には中世・古代・古墳時代の遺構面があり、今回、当地域の生活の開始が弥生時代中期まで遡ることが明らかになった。表1は市振興財団が刊行した報告書をもとに作成した一覧表である。

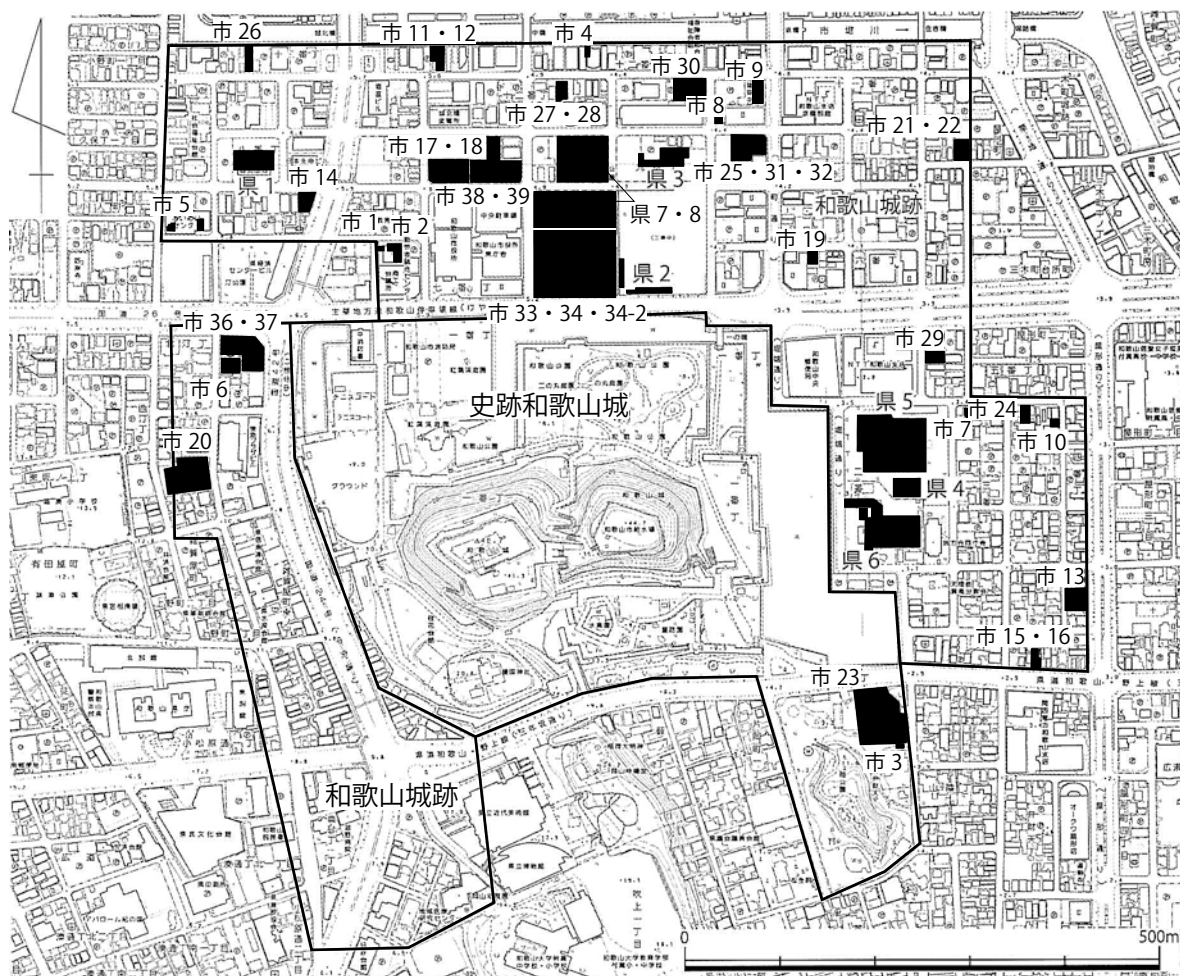


図4 和歌山城跡の既往の調査区

表1 和歌山城跡の既往の調査

市関係の調査					
回数	期 間	面積 (㎡)	概 要	調査 組織	文献
1	1991年5月	10.00	勘定門から北に延びる堀石垣の確認調査 遺構等未検出	A	
2	1991年12月～ 1992年1月	24.00	勘定門から北に延びる堀石垣の確認調査 遺構等未検出	B	1
3	1994年5月	30.00	遺跡南東部の百間長屋推定地付近の調査 江戸時代の石垣を検出	B	2
4	1994年8月～ 9月	60.00	市堀川から船を引き上げたと思われる近代の石敷遺構を検出	B	2
5	1995年10月	90.00	西外堀の確認調査 遺構等未検出	B	3
6	1996年11月	90.00	3時期にわたる武家屋敷跡の一部を検出	B	4
7	1996年12月	81.00	三の丸南東部の調査 武家屋敷跡の一部を検出	B	4
8	2001年12月	70.00	紀州徳川家付家老安藤家屋敷地跡の調査 遺構面を3面確認	B	5
9	2002年9月～ 10月	160.00	紀州徳川家付家老水野家屋敷地跡の調査 遺構面を4面確認 水野家家紋(沢瀉)の軒丸・滴水瓦等を含む瓦が大量に出土	B	6
10	2010年12月	11.66	江戸時代の遺物包含層を検出 遺構未検出	A	7
11	2011年6月	5.25	三の丸北外堀土塁の確認調査 土塁の一部を検出	A	8
12	2011年9月～ 10月	94.00	11次の本調査 近代から中世後期までの遺構面を計8面確認 第2面で浅野期築造の土塁を検出	C	8・9
13	2012年4月	23.44	三の丸東外堀の土塁の可能性のある盛土を検出	A	10
14	2012年7月	6.60	三の丸北西部の確認調査 遺構等未検出	A	10
15	2012年9月	10.57	三の丸南東部の確認調査 江戸時代の遺構面を2面確認	A	10
16	2012年11月～ 12月	52.50	15次の本調査 江戸時代の遺構面を2面確認 石組溝・井戸・土坑等を検出	D	10・ 11
17	2012年11月～ 12月	16.12	三の丸北部の確認調査 江戸時代の遺構面を2面確認	A	10
18	2013年1月～ 4月	918.84	三の丸北部の調査区 江戸時代の久野家・上野家の屋敷地跡 平安時代・鎌倉時代から江戸時代にかけての遺構面8面の調査	D	12
19	2013年6月	16.37	三の丸北東部の確認調査 三浦家の屋敷地跡 江戸時代後期の石組溝や土坑を検出 この他、立会調査で134.36㎡を実施	A	13
20	2013年12月	33.00	遺跡西端部の確認調査 基盤層は層厚2.0m以上の細～極細粒砂質シルトで遺構は未検出	A	
21	2015年4月	8.80	第22次調査に伴う確認調査	A	14
22	2015年4月	22.05	三の丸北東部の調査 東外堀石垣の一部を検出	A	14
23	2015年5月・ 9月	94.50	遺跡南東部の百間長屋推定地の調査 江戸時代の4面の遺構面を調査 中世の遺物包含層を確認	A	14
24	2015年7月	8.60	遺跡東端部の確認調査 江戸時代の遺構面は未確認	A	14
25	2015年8月	16.00	紀州徳川家付家老水野家屋敷地跡の調査 第32次調査に伴う確認調査	A	14
26	2015年10月～ 11月	51.00	三の丸北西端部の確認調査 外堀内側の土塁基底部と土塁南側に沿う道路跡を検出 土塁は基底部で19.2m	A	14
27	2015年11月	2.86	第28次調査に伴う確認調査	A	14
28	2016年2月～ 3月	45.31	毛馬家もしくは海野家屋敷地跡の調査 江戸時代の4面の遺構面を検出 建物礎石や石組溝・土坑などを検出	D	15
29	2015年11月	12.00	遺跡東端部の確認調査 中世以前の土坑を1基検出	A	14
30	2016年7月～ 11月	393.84	紀州徳川家付家老安藤家屋敷地跡の調査 安土桃山時代から江戸時代にかけての7面の遺構面を調査 石組暗渠などを確認	D	16
31	2015年10月～ 11月	62.50	第32次調査に伴う確認調査 4面の遺構面を確認するとともに溝や土坑を検出	A	
32	2016年4月～ 2016年8月	440.71	紀州徳川家付家老水野家屋敷地跡の調査 古墳時代から鎌倉時代の耕作面 安土桃山時代から江戸時代の遺構多数	D	17
33	2016年8月～ 9月	200.00	第34次調査に伴う確認調査 中世以前の遺構面4面及び江戸時代の遺構面3面を確認	A	18
34	2017年5月～ 2019年3月	5050.00	渡辺家・松平家・津田家・田宮家屋敷地跡の調査 古墳時代から江戸時代の遺構面10面を調査 古代から中世の屋敷地や耕作痕	D	19・ 27
34-2	2019年10月	285.0	第34次調査南端部の追加調査 江戸時代の遺構面2面を調査 井戸・土坑・石組遺構を検出	D	



市関係の調査					
回数	期 間	面積 (㎡)	概 要	調査 組織	文献
35	2018年2月	5.20	遺跡東端部における確認調査 東外堀の内部か 遺構面は未確認	A	20
36	2018年3月	21.72	第37次調査に伴う確認調査 対象地南端部で土坑などを検出	A	20
37	2018年5月	192.76	遺跡北西部の天方家・宮崎家の屋敷地境	D	21
38	2019年2月～3月	98.40	既存建物基礎撤去に伴う和歌山城跡三の丸評定所跡の調査	D	
39	2019年5月～ 12月	1362.60	立体駐車場建設に伴う和歌山城跡三の丸評定所の調査	D	28

県関係の調査					
回数	期 間	面積 (㎡)	概 要	調査 組織	文献
1	1996年11月～ 1997年1月	990.00	三の丸北西部の屋敷跡の調査 3面の遺構面を確認 最下面で室町試合の土坑を検出	E	22
2	2001年6月～ 8月	410.00	大手門近くの三の丸武家屋敷跡の調査 4面の遺構面を確認 礎石列・石組井戸・石組溝等を検出	E	23
3	2003年5月～ 6月	302.00	紀州徳川家付家老安藤家屋敷地の調査 4面の遺構面を確認 礎石列・石組溝等を検出	E	23
4	2006年9月～ 2007年3月	636.00	三の丸南東部の武家屋敷跡の調査 5面の遺構面を確認 土堀基礎・井戸・土坑等を検出 最下面は室町時代	E	24
5	2011年6月～ 2012年3月	2760.00	三の丸南東部の武家屋敷跡の調査 5面の遺構面を確認 絵図に描かれた4区画分の屋敷地に伴う遺構を検出	F	25
6	2013年8月～ 2014年3月	2824.00	三の丸南東部の武家屋敷地跡(佐野家他)の調査 江戸時代の4面の遺構面を確認 礎石建物・苑池状遺構・井戸等を検出	F	26
7	2017年11月～ 2019年1月	4159.90	本報告	F	
8	2020年4月～5月	133.00	本報告	G	

【調査組織】

A：和歌山市教育委員会 B：財団法人和歌山市文化体育振興事業団 C：財団法人和歌山市都市整備公社  
D：公益財団法人和歌山市文化スポーツ振興財団 E：財団法人和歌山県文化財センター  
F：公益財団法人和歌山県和歌山県文化財センター G：和歌山県教育委員会

【文献】

- 『和歌山市埋蔵文化財発掘調査年報2』 財団法人和歌山市文化体育振興事業団 1994年
- 『和歌山市埋蔵文化財発掘調査年報4』 財団法人和歌山市文化体育振興事業団 1997年
- 『和歌山市埋蔵文化財発掘調査年報5』 財団法人和歌山市文化体育振興事業団 1998年
- 『和歌山市埋蔵文化財発掘調査年報6』 財団法人和歌山市文化体育振興事業団 2000年
- 『和歌山市埋蔵文化財発掘調査年報8』 財団法人和歌山市文化体育振興事業団 2004年
- 『和歌山城跡 第9次発掘調査概報』 財団法人和歌山市文化体育振興事業団 2003年
- 『和歌山市内遺跡発掘調査概報-平成22年度-』 和歌山市教育委員会 2012年
- 『和歌山市内遺跡発掘調査概報-平成23年度-』 和歌山市教育委員会 2013年
- 『和歌山市埋蔵文化財発掘調査年報-平成23年度(2011年度)-』 公益財団法人和歌山市文化スポーツ振興財団 2014年
- 『和歌山市内遺跡発掘調査概報-平成24年度-』 和歌山市教育委員会 2014年
- 『和歌山市埋蔵文化財発掘調査年報-平成24年度(2012年度)-』 公益財団法人和歌山市文化スポーツ振興財団 2015年
- 『和歌山城跡第18次発掘調査報告書』 公益財団法人和歌山市文化スポーツ振興財団 2015年
- 『和歌山市内遺跡発掘調査概報-平成25年度-』 和歌山市教育委員会 2015年
- 『和歌山市内遺跡発掘調査概報-平成27年度-』 和歌山市教育委員会 2017年
- 『和歌山市埋蔵文化財発掘調査年報-平成27年度(2015年度)-』 公益財団法人和歌山市文化スポーツ振興財団 2018年
- 『和歌山城跡第30次発掘調査報告書』 公益財団法人和歌山市文化スポーツ振興財団 2019年
- 『和歌山城跡第32次発掘調査報告書』 公益財団法人和歌山市文化スポーツ振興財団 2019年
- 『和歌山市内遺跡発掘調査概報-平成28年度-』 和歌山市教育委員会 2018年
- 『和歌山市埋蔵文化財発掘調査年報-平成29年度(2017年度)-』 公益財団法人和歌山市文化スポーツ振興財団 2019年
- 『和歌山市内遺跡発掘調査概報-平成29年度-』 和歌山市教育委員会 2019年
- 『和歌山市埋蔵文化財発掘調査年報-平成30年度(2018年度)-』 公益財団法人和歌山市文化スポーツ振興財団 2020年
- 『和歌山城跡-県営城北団地建設に伴う発掘調査-』 財団法人和歌山県文化財センター 1997年
- 『和歌山城跡発掘調査報告書-県立医科大学跡地利用に係る発掘調査-』 財団法人和歌山県文化財センター 2003年
- 『和歌山城跡-和歌山地方・家庭裁判所増築工事に伴う発掘調査報告書-』 財団法人和歌山県文化財センター 2008年
- 『和歌山城跡-和歌山地家簡裁庁舎建設に伴う発掘調査報告書-』 公益財団法人和歌山県文化財センター 2015年
- 『和歌山城跡-和歌山地方合同庁舎新築に伴う発掘調査報告書-』 公益財団法人和歌山県文化財センター 2016年
- 『地宝のひびき』和歌山県内文化財調査報告会-発表資料集- 公益財団法人和歌山県文化財センター 2019年
- 『地宝のひびき』和歌山県内文化財調査報告会-発表資料集- 公益財団法人和歌山県文化財センター 2020年

## 第2章 調査の経緯と経過

### 第1節 発掘調査の経緯

調査は、和歌山城跡の範囲内にある和歌山市立伏虎中学校の跡地に和歌山県立医科大学薬学部校舎が建築が計画されたことに起因する。中学校跡地は道路を挟んで北敷地と南敷地に分かれ、北敷地と南敷地の北側には薬学部が、南敷地の南側には和歌山市民会館の建築が予定された。これらの予定地は三の丸を占地した紀州徳川家の家臣の屋敷地で、安政二年（1855）の『和歌山城下町絵図』からは北敷地が主に海野家、南敷地は津田家、田宮家、渡辺家、松平家の屋敷地にあたることが分かっていた。このことから市教委は、平成28年度に中学校跡地に6箇所の調査区を設定して、遺構の有無や遺構面の深度等を把握するための確認調査を実施した。これにより記録保存の対象となる遺構面は江戸時代が3面、中世以前が4面で、遺構面は調査地周辺一帯に展開していると判断された。

### 第2節 経過

#### 1 発掘調査の経過

確認調査の成果を受け、本発掘調査が実施されることになった。和歌山県立医科大学薬学部新築に伴う調査は、平成29年8月22日付け医第08220001号で和歌山県より和歌山県教育委員会（以下、県教委）に和歌山城跡発掘調査業務の依頼があり、平成29年8月22日付け文第08220001号で県教委から当文化財センターに発掘調査業務の実施計画書の提出依頼があったため、平成29年9月4日付け和文セ第169号で実施計画書を県教委に提出した。

これを受けて、平成29年9月6日付け文第08220001号の(2)で県教委より委託契約を締結するよう依頼があり、平成29年9月22日付けで和歌山県と当文化財センターとで発掘調査業務の委託契約を締結した。契約期間は平成31年3月29日までである。

また、調査の途中で、江戸時代の遺構面が4面存在し、さらに当初は存在しないと考えられていた16世紀後半から末頃の遺構面が存在することが明らかになり、記録保存する遺構面が増えたことや入札結果の減額などに伴う変更契約を平成30年3月1日付けでおこなっている。

1区は平成29年度業務として、平成29年11月から平成30年5月末まで調査を実施した。

2区・3区・4区については平成30年度の業務として調査を実施した。2区は平成30年4月から12月にかけて調査をおこなった。3区は平成30年1月から7月にかけて調査をおこない、その後反転して4区の調査を平成31年1月までおこなった。

#### 2 発掘調査の手順

発掘調査工事及び測量委託業務を付加業務としておこなっている。発掘調査工事（表土の機械掘削、包含層・遺構の人力掘削等）は、入札の結果、神出建設企業株式会社と請負契約をし、測量業務委託（基準点測量、航空写真測量及び図化）は、入札の結果、株式会社NAC総建と委託契約して実施した。

発掘調査の実施に当たっては、当文化財センターの技術職員が発掘調査現場に常駐し、調査に係る指示、記録作業をおこなった。発掘調査工事では、表土等を重機を使用して掘削を行い、その後、包含層以下を人力で掘削し、遺構の検出・掘削をおこなっている。人力掘削土はベルトコンベアーを使用し排土している。さらに、遺物を含まない土層を再度、重機を使用して掘削をおこない、遺構面保護層以下を再度人力で掘削し、遺構の検出・掘削をおこなっている。なお、1区の掘削土は場外搬出のうえ、処分した。発掘調査に際しては、当文化財センターの定めた『発掘調査マニュアル（基礎編）』（2006. 4）に準拠して実施している。



写真2 発掘調査風景

### 3 調査区と地区割（図5）

調査区は、調査対象地の南敷地の東側を1区、西側を2区として、北敷地の南側を3区、北側を4区としている。1区・2区とも調査の開始面が異なる範囲があったことから、江戸時代の遺構面から調査を開始した範囲を1-1区・2-1区、中世以前の遺構面から調査を開始した範囲を1-2区・2-2区としている。また、排土置場の確保するため1区と2区、3区と4区を反転して実施している。また、県文化遺産課が調査を実施した調査区は5区としている。

遺構実測図作成や遺物取り上げの際に用いた地区割の基準線は、平面直角座標系（世界測地系）第VI系の座標軸を使用し、和歌山城跡を網羅する区切りのいい北東隅の数値を地区割の基点（ $X=-195,000\text{m}$ 、 $Y=-75,000\text{m}$ ）とした。なお、この基点の座標は平成23・25年度に当文化財センターが発掘調査を実施した和歌山城跡の地区割に準拠した。

この基点から、西方向および南方向に各々100m毎に区切った区画を1単位とした大区画を設

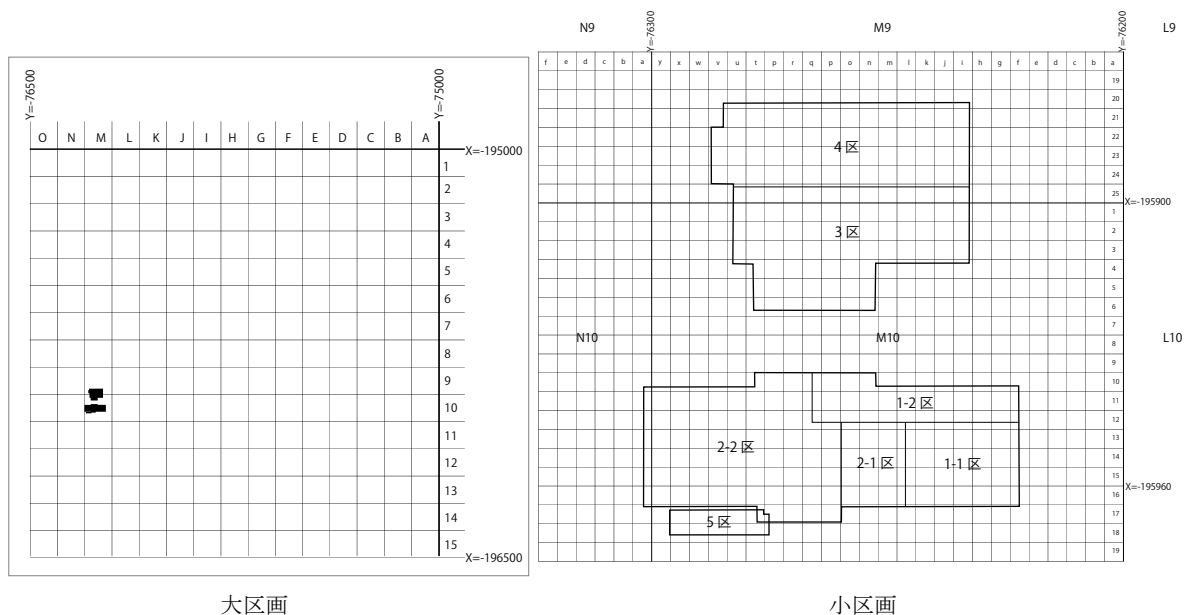


図5 地区割

定し、基点から西方向へ大文字アルファベットでA～Yと、南方向へアラビア数字で1～25と表記した。さらに大区画の中で4m四方の区画を1単位とした小区画を設定し、北東端を基点とし西方向へアルファベット小文字でa～yと、南方向へアラビア数字で1～25と表記した。遺構図作成や遺物取り上げの際には原則として、4m四方の小区画でおこない、大区画と小区画を組み合わせて表記した（例：M10g13）。今回の調査区は、大区画でM9、M10の範囲内に相当する。

方位は座標北を使用し、標高は東京湾平均海面（T.P.+）を基準とした値を使用した。

#### 4 記録

発掘調査で使用した調査コードは、17-01・375（2017年度一和歌山市・和歌山城跡）である。出土遺物、記録資料（図面、写真等）はこの調査コードを用い管理している。遺構番号は調査区ごとに種類にかかわらず通し番号とし、それぞれの遺構番号の前に調査区番号を冠して標記している。

出土遺物は、大区画－小区画を取り上げ区画とし、層位・遺構別に取り上げている。

記録は写真撮影と図面作成をおこなった。写真撮影については、全景写真のほかに検出した遺構のうち石組樹・井戸など主要な遺構の個別写真、遺構断面、調査区壁面などについて撮影している。これらの写真撮影にはフルサイズデジタルカメラ・中判デジタルカメラを使用し、撮影用足場や高所作業車などからも撮影している。また、これらと別に測量業務委託でラジコンヘリコプターを利用して、航空写真を撮影しており、垂直全体写真、垂直部分写真、周辺部を含めた斜め写真を撮っている。

図面作製については、一部を除く各遺構面の全体図を測量業務委託で航空写真測量を利用して図化（S=1/50）しているのをはじめ、一部の遺構面の全体図（S=1/20・1/40）、遺構配置図（S=1/100）、調査区壁面土層図（S=1/20）、主要な遺構平面図・断面図（S=1/10・1/20）などを手実測により作成している。

#### 5 測量業務委託

測量業務委託として前述した航空写真撮影、航空写真測量以外に基準点・水準点測量を実施している。基準点は、世界測地系を座標値とする4級基準点を4点設置した。4級基準点は、近接して実施している市振興財団の発掘調査で設置した3級基準点を既知点として、1・2区の隣接地に2箇所、3・4区の隣接地に2箇所に設置した。水準点の標高の基準は、市振興財団が設置した3級基準点を既知点として、今回新設した4級基準点までの路線において観測をおこなった。

#### 6 応急遺物整理

応急遺物整理は、和歌山城跡発掘調査現場事務所で遺物洗浄及び図面・写真整理等をおこなった。

調査で出土した遺物については、時期決定をおこない、調査方法の判断資料とするため、また、現地説明会等で公開をすることを目的として、洗浄作業を実施した。作業対象は土器類・瓦

類・石器・石製品がコンテナに487箱と木製品約400点である。

### 7 出土遺物等整理業務（写真3）

報告書作成に伴う出土遺物整理業務は、和歌山県の委託を受けて発掘調査で出土した遺物全点を対象におこなった。

遺物の登録・注記・接合・補強・復元・実測等の一連の作業をおこなうとともに、木製品については、汚れが生じていたことから再洗浄を実施した。現場で作成した遺構実測図の調整をおこない、遺物実測図とともにトレース作業を実施し、これらを組版して図面原稿を作成した。



写真3 整理業務（遺物接合・補強作業）

現場で撮影した遺構写真については、収納・登録等の作業をおこなうとともに、報告書掲載の遺物写真を撮影し、主要な遺構写真とともに組版をおこない写真図版を作成した。また、遺物観察表や遺構一覧表を作成するとともに、一連の作業を踏まえ原稿執筆をおこなった。

業務は平成31年4月から実施し、令和3年3月に本書を刊行するに至った。

### 8 保存処理

出土遺物等整理業務の一環として、木製品・金属製品の保存処理をおこなった。木製品・金属製品等は、ほぼ原形を保って出土しても、そのまま乾燥させると形が崩れ、場合によっては粉末状になる。木製品は水漬することで、一時的な保存は可能であるが、水替えが常時必要で長期保存には適さず、展示するのも困難である。このことから、出土した木製品・金属製品のうち重要度が高く、また処理の緊急性を要する木製品114点と、金属製品28点について保存処理をおこなった。保存処理は、株式会社文化財サービスに委託して糖アルコール含浸法により実施した。なお、保存処理を実施しなかった木製品・金属製品については、バキュームシーラーによって真空パックをおこなっている。

### 9 現地説明会（写真4）

普及活動の一環として、発掘調査で得られた数々の成果を地元をはじめ多くの方々に広く知ってもらうため、平成30年9月22日（土）に市振興財団と共催で現地説明会を実施した。説明対象となったのは、2区の第7遺構面、3区の第3遺構面で、近世陶磁器や古代瓦などの出土遺物の展示もおこなった。当日は、和歌山市内のほか、近隣市町村、県外から多くの参加者（約200名）があった。



写真4 現地説明会風景

# 第3章 調査の成果

## 第1節 調査の概要

調査区の一画には校舎が存在していた。南敷地では、1-2区を除き校舎基礎解体に伴い、江戸時代の遺構面を市振興財団が調査をおこなっていた。南敷地で校舎が存在しなかったのは1-1区・2-1区で、1-1区の範囲内には管理士の処分に伴い、市振興財団が調査をおこなった箇所がある。これらのことから、南敷地で当センターが第1遺構面から調査を開始したところは限定的で、第2遺構面あるいは第3遺構面から調査を開始した箇所もある。1-2区は校舎が存在した箇所であるが、江戸時代の面は調査されず削平されており、2-2区と同様に第5遺構面から調査を開始している。

北敷地では、調査区内で校舎基礎解体に伴う調査が行われた箇所については、第4-1遺構面あるいは第5-1遺構面から調査を開始している。以上のことから、南敷地・北敷地とも江戸時代の遺構内容については断片的となっている。

なお、1・2区（南敷地）と3・4区（北敷地）は、江戸時代の屋敷地においても隔絶していることから、それぞれ第2節・第3節と節を変えて記述し、県文化遺産課が調査をおこなった5区の内容については第4章に記述する。

## 第2節 1・2区の調査成果

### 1 基本層序と遺構面（図6）

第1層は近代以降の整地土である。現在の地表面下には学校敷地の整地土があり、それ以下には近現代の整地が繰り返しておこなわれ、いくつかの生活面が形成されている。それらの中には昭和20年の空襲被災面も認められる。

江戸時代の遺構面（第1～第4-1遺構面）は第2～5層上面に形成されているが、2-1区の南側では第5層が存在せず、第6層上面が第4-1遺構面となる。第5層は北東に向かって厚くなり、その直下の第6層上面で検出した面を第4-2遺構面として調査している。

江戸時代の遺構面の下は、自然堆積（風成堆積）した砂層（第6層）で、南西に向かって厚くなっている。第6層直下には16世紀後半から末頃の遺構面（第5遺構面）が形成されている。この遺構面についても、2時期以上をわたって形成されており、上位を第5-1遺構面、下位を第5-2遺構面として調査している。

第5遺構面以下は、中世の耕作面が続き、上位の面は畠として、下位の面は水田として土地

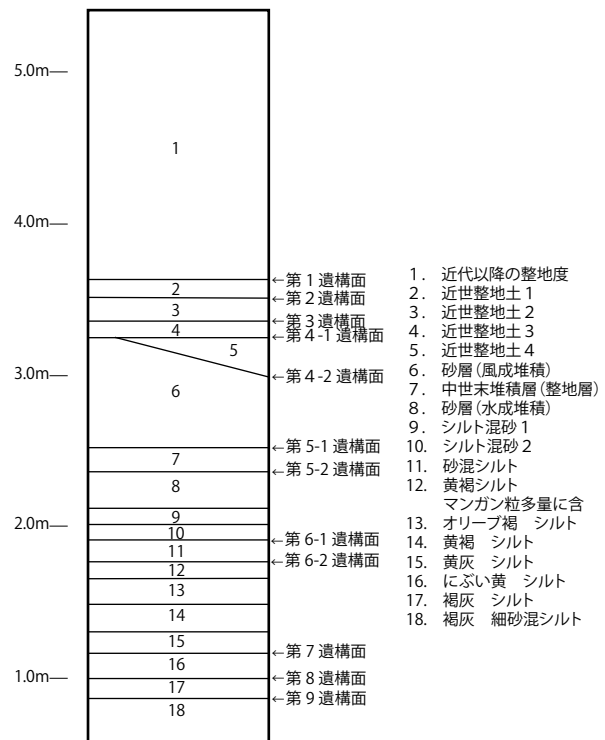
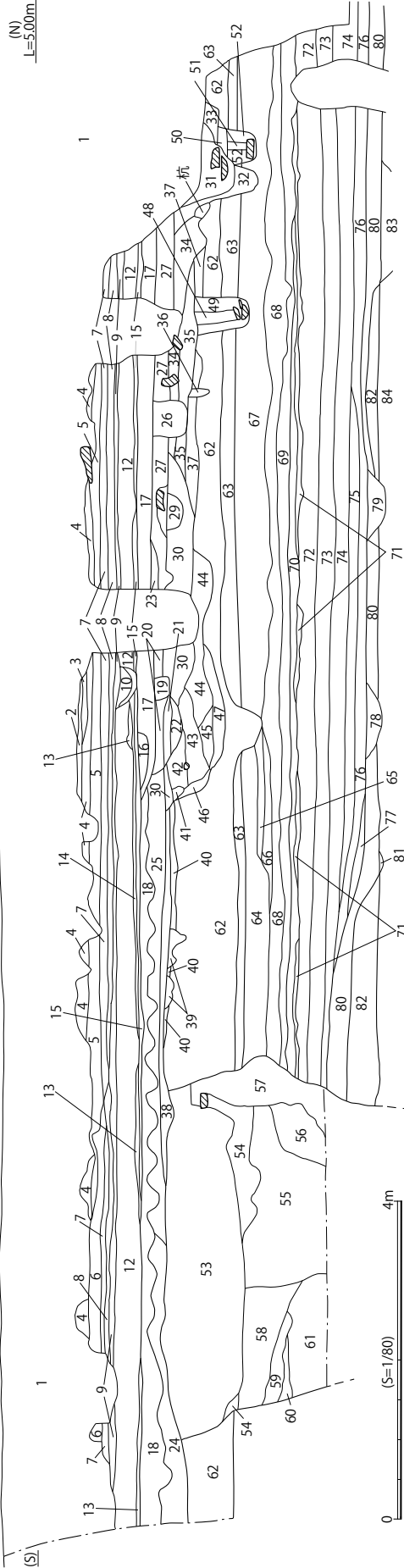


図6 1・2区の基本層序柱状図



- |   |                                     |                       |                    |                      |
|---|-------------------------------------|-----------------------|--------------------|----------------------|
| 1. 表土・覆土                                      | 25. 5Y4/3オリーブ褐 細砂混シルト               | 51. 5Y3/2オリーブ黒 細砂混シルト | 77. 5Y6/1黄弱粘質土     | 83. 10YR4/1褐灰 細砂混シルト |
| 2. 10YR4/3にぶい黄褐シルト                            | 26. 5Y5/3灰オリーブ粗 細砂混シルト              | 78. 5Y6/1黄弱粘質土        | 78. 5Y6/1黄弱粘質土     |                      |
| 3. 2.5YR4/2暗黄褐シルト小礫ハラス入る                      | 27. 5Y6/2灰オリーブ粗 細砂混シルト              | 79. 5Y6/1黄弱粘質土        | 79. 5Y6/1黄弱粘質土     |                      |
| 4. 10YR5/2灰黄褐シルト                              | 28. 5Y6/3オリーブ黄 細砂混シルト               | 80. 2.5Y6/3にぶい黄シルト    | 80. 2.5Y6/3にぶい黄シルト |                      |
| 5. 2.5Y4/3オリーブ褐 細砂混シルト                        | 29. 5Y6/3オリーブ黄 細砂混シルト               | 81. 2.5Y6/1黄灰弱粘質土     | 81. 2.5Y6/1黄灰弱粘質土  |                      |
| 6. 10YR5/1褐シルト+2.5Y6/3淺黄シルト                   | 30. 5Y6/3オリーブ黄 細砂混シルト               | 82. 10YR5/1褐灰シルト      | 82. 10YR5/1褐灰シルト   |                      |
| 7. 2.5Y4/3オリーブ褐 細砂混シルト+2.5Y6/4にぶい黄シルト         | 31. 5Y6/3オリーブ黄 細砂混シルト               | 83. 10YR3/1黒褐弱粘質土     | 83. 10YR3/1黒褐弱粘質土  |                      |
| 8. 5Y6/3オリーブ黄                                 | 32. 5Y6/3オリーブ黄 細砂混シルト               |                       |                    |                      |
| 9. 5Y4/2灰オリーブ 細砂混シルト0.5~2cm大の小礫多量を含む          | 33. 2.5Y4/3オリーブ褐 細砂混シルト             |                       |                    |                      |
| 10. 2.5Y5/3黄褐シルト混細砂                           | 34. 5Y5/3灰オリーブ 細砂混シルト               |                       |                    |                      |
| 11. 2.5Y2/1黒 細砂混灰化土                           | 35. 5Y6/3オリーブ黄 細砂混シルト               |                       |                    |                      |
| 12. 2.5Y4/3オリーブ褐シルト混細砂                        | 36. 2.5Y7/3淺黄粘土                     |                       |                    |                      |
| 13. 5Y4/2灰オリーブ 細砂                             | 37. 5Y6/2灰オリーブ褐 細砂混シルト              |                       |                    |                      |
| 14. 5Y4/2灰オリーブ 細砂0.2~2cm大の小礫少量含む              | 38. 5Y4/2ハイオリーブシルト混細砂灰化粒2~10mm大微量含む |                       |                    |                      |
| 15. 2.5Y3/2黒褐シルト(黄土)2.5Y6/4にぶい黄シルトブロック状に入る    | 39. 5Y3/2オリーブ黒 細砂混シルト               |                       |                    |                      |
| 16. 黄土粒・灰化粒2mm大極微量含む                          | 40. 2.5Y4/3オリーブ褐 細砂混シルト             |                       |                    |                      |
| 17. 2.5Y4/2暗灰黄シルト                             | 41. 2.5Y6/1黄灰粘土                     |                       |                    |                      |
| 18. 2.5Y5/3黄褐 細砂混シルト                          | 42. 2.5Y5/1黄褐シルト                    |                       |                    |                      |
| 19. 2.5Y6/4にぶい黄シルト                            | 43. 2.5Y5/4黄褐シルト                    |                       |                    |                      |
| 20. 2.5Y5/4黄褐 細砂混シルト+7.5YR6/4にぶい橙黄土           | 44. 2.5Y5/2暗灰黄シルト                   |                       |                    |                      |
| 21. 7.5YR4/6黄褐 黄土瓦中量含む                        | 45. 2.5Y6/4にぶい黄シルト                  |                       |                    |                      |
| 22. 7.5YR4/2灰褐黄土+5Y4/2灰オリーブ 中・細砂灰化粒2~5mm大微量含む | 46. 2.5Y6/3にぶい黄 細砂混シルト              |                       |                    |                      |
| 23. 5Y4/2灰オリーブ 細砂混シルト                         | 47. 5Y4/2灰オリーブ黒 細砂混シルト              |                       |                    |                      |
| 24. 2.5Y4/2暗灰黄シルト混細砂 2.5Y5/3黄褐 細砂混シルトとの境界     | 48. 5Y3/2オリーブ黒 細砂混シルト(柱痕)           |                       |                    |                      |
| 25. 2.5Y5/4黄褐シルト混細砂                           | 49. 5Y4/2灰オリーブ 細砂混シルト               |                       |                    |                      |
| 26. 5Y5/2灰オリーブ 細砂混シルト                         | 50. 5Y5/3灰オリーブ 細砂混シルト               |                       |                    |                      |
| 27. 5Y4/3暗オリーブシルト混細砂                          | 51. 5Y3/2オリーブ黒 細砂混シルト               |                       |                    |                      |
| 28. 2.5Y5/6黄褐 細砂混シルト                          | 52. 5Y4/3灰オリーブ褐 細砂混シルト              |                       |                    |                      |
| 29. 5Y4/2灰オリーブ 細砂混シルト上の石の下込め土                 | 53. 2.5Y4/3オリーブ粗 細砂混シルト             |                       |                    |                      |
| 30. 2.5Y4/4オリーブ粗 中・細砂混シルト                     | 54. 2.5Y4/2暗灰黄 細砂混シルト               |                       |                    |                      |
| 31. 5Y4/1灰 細砂混シルト                             | 55. 10YR5/2灰黄褐シルト                   |                       |                    |                      |
| 32. 5Y4/2灰オリーブ 細砂混シルト                         | 56. 10YR5/2灰黄褐シルト                   |                       |                    |                      |
|   | 57. 5Y6/2灰オリーブ粘土ブロック状に入る            |                       |                    |                      |
|   | 58. 5Y5/2灰オリーブ 細砂                   |                       |                    |                      |
|   | 59. 10YR6/5にぶい黄褐シルト                 |                       |                    |                      |
|   | 60. 2.5Y5/3黄褐 細砂混シルト                |                       |                    |                      |
|   | 61. 5Y4/2灰オリーブ 細砂                   |                       |                    |                      |
|   | 62. 5Y6/3オリーブ黄 細砂                   |                       |                    |                      |
|   | 63. 5Y5/3灰オリーブ 中・細砂                 |                       |                    |                      |
|   | 64. 5Y5/2灰オリーブ 細砂                   |                       |                    |                      |
|   | 65. 5Y5/3灰オリーブ粗砂                    |                       |                    |                      |
|   | 66. 5Y6/2灰オリーブ粗砂                    |                       |                    |                      |
|   | 67. 5Y6/3オリーブ黄シルト                   |                       |                    |                      |
|   | 68. 5Y4/2灰オリーブシルト混中・細砂              |                       |                    |                      |
|   | 69. 5Y5/2灰オリーブシルト混中・細砂              |                       |                    |                      |
|   | 70. 5Y6/3オリーブ黄 細砂混シルト               |                       |                    |                      |
|   | 71. 2.5Y5/6黄褐シルト                    |                       |                    |                      |
|   | 72. 2.5Y5/4黄褐シルト                    |                       |                    |                      |
|   | 73. 2.5Y4/3オリーブ粗シルト                 |                       |                    |                      |
|   | 74. 2.5Y5/2灰黄シルト                    |                       |                    |                      |
|   | 75. 2.5Y6/2灰黄シルト                    |                       |                    |                      |
|   | 76. 2.5Y5/1黄灰シルト                    |                       |                    |                      |
|   | 77. 2.5Y6/1黄灰シルト                    |                       |                    |                      |
|   | 78. 5Y6/1灰弱粘質土                      |                       |                    |                      |
|   | 79. 5Y6/1灰弱粘質土                      |                       |                    |                      |
|   | 80. 2.5Y6/3にぶい黄シルト                  |                       |                    |                      |
|   | 81. 2.5Y6/1黄灰弱粘質土                   |                       |                    |                      |
|   | 82. 10YR5/1褐灰シルト                    |                       |                    |                      |
|   | 83. 10YR3/1黒褐弱粘質土                   |                       |                    |                      |
|   | 84. 10YR4/1褐灰 細砂混シルト                |                       |                    |                      |
|   | 17・18層上:第1遺構面                       |                       |                    |                      |
|   | 17・18層下:第2遺構面                       |                       |                    |                      |
|   | 25・27層下:第3遺構面                       |                       |                    |                      |
|   | 38層下:第4-1遺構面                        |                       |                    |                      |
|   | 40層上:第4-2遺構面                        |                       |                    |                      |
|   | 63層上:第5-1遺構面                        |                       |                    |                      |
|   | 63層下:第5-2遺構面                        |                       |                    |                      |
|   | 70層上:第6-1遺構面                        |                       |                    |                      |
|   | 72層上:第6-2遺構面                        |                       |                    |                      |
|   | 76層上:第7遺構面                          |                       |                    |                      |
|   | 80層下:第8遺構面                          |                       |                    |                      |
|   | 82層下:第9遺構面                          |                       |                    |                      |

図7 1-1区 西隣断面土層図

活用されていたことが窺える。調査では第11層の砂混シルト層上面を第6-1遺構面、その下面のマンガンが多く含まれる第12層・黄褐シルト層上面を第6-2遺構面としている。その下部にも水平堆積した層位（水田面）が続くが、古代の遺物を包含する第15・16層の下面を第7遺構面、第8遺構面とし、さらに古墳時代に遡る第17層下面を第9遺構面として調査をおこなっている。

## 2 第1遺構面の遺構（図8・82・182・187、図版1・93・97・98）

江戸時代末以降の面であり、市振興財団によりすでに調査が完了した箇所や攪乱が多いことから、当センターで調査できた面積は狭く、また遺構密度も薄い。検出した遺構には、土坑・溝状遺構・耕作溝などがある。また、遺構検出時に第1遺構面上の整地土などから出土した遺物には肥前系陶器（754）、土製品（755）、銭貨（M105～M107・M124）、硯（S5）などがある。

### 1-004土坑（図9、図版12）

1-1区の東端付近で検出した土坑で、東端は調査区域外となる。平面形状は、不整円形を呈すると考えられる。規模は長さ1.10m、幅1.00m以上、深さ0.65mを測る。土坑の中ほどで結晶片岩の板石が立てられた状態で出土した。遺物は鉄釘が出土している。

### 1-006土坑（図9・10、図版12）

1-1区の南東部で検出した土坑で、東側は調査区域外となる。検出した形状は半円形で、規模は長さ1.50m、幅0.75m以上である。断面形状は船底状で、深さ0.15mを測る。出土遺物には土師質土器（1）のほか、施釉陶器、五徳の可能性のある鉄製品などがある。

### 耕作溝（図9・10、図版12）

東西方向に伸びる10本の溝で2-1区の南西部で検出した。溝西側は校舎基礎によって削平され、南側は調査区域外に続いていると考えられる。最長3.60m以上で、幅0.30～0.60m、深さ0.10mを測る。重複せず一直線に伸びる状況から畝の畝間溝で、溝底の間隔が0.50m前後と狭いことから数期の耕作に伴って形成されたものと考えられる。屋敷地内の空閑地にあった畝と解釈



図8 1・2区 第1遺構面 全体図



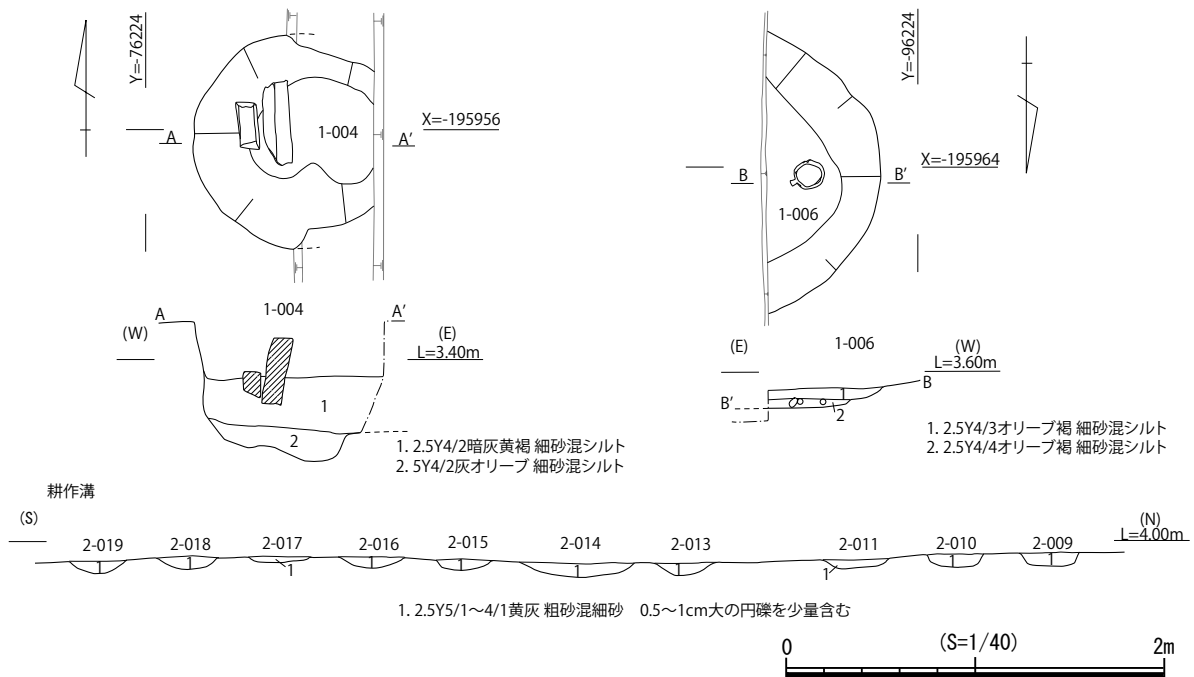


図9 1・2区 第1遺構面 検出遺構

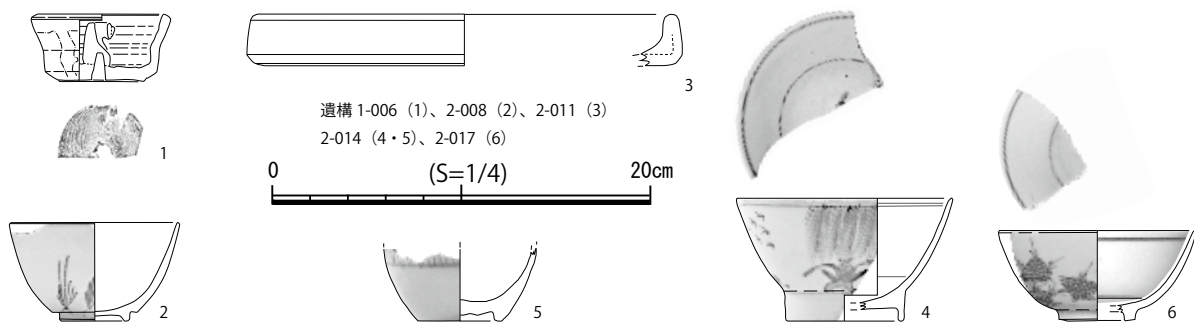


図10 1・2区 第1遺構面 遺構出土土器

することもできるが検討を要する。また、第2遺構面でもこれらの東側で同様の溝を検出しており、位置・方向や規模からどちらかの遺構面に集約される可能性も考えられる。

遺物は、肥前系磁器（4・5・6）、土師質土器（3）などが出土しているが、遺構に伴う遺物ではない可能性がある。

### 3 第2遺構面の遺構（図11・82・185・187・188、図版2・70・95・97・98）

18世紀から江戸時代終わり頃の遺構面であると考えられる。検出した遺構には、土坑や溝・ピット・耕作溝のほか結晶片岩の割石を充填した溝状遺構などがある。土坑は1-1区東端と1-1区から2-1区の北端に集中しており、屋敷地内でも建物が建っていなかった箇所であったことが窺える。また、遺構面上の整地土や遺構検出時に出土した遺物には肥前系磁器（756・763）、瀬戸美濃系磁器（757）、肥前系陶器（758）、堺・明石系陶器（759）、土師質土器（760～762）、土製品（764・765）、銅製蓋（M23）、飾り金具（M24）、銭貨（M97・M100・M102・M138）などが

ある。

### 1-011・012・017・028土坑（図12、図版12）

1-011・012・017・028土坑は1-1区東端で検出した土坑群で、土器類や瓦などの遺物が多量に出土し、1-017土坑→1-011土坑→1-012土坑の順で埋め戻されている。1-028土坑は1-011土坑の底で検出した。

1-011土坑は、平面形状が不整楕円形を呈し、長さ5.75m、幅2.85m、深さ1.05mを測る。大きく南北に分かれ、北側が古く南側が新しいが、最上層が同じであることから、埋め戻された時期は変わらないと考えられる。遺物は肥前系磁器（7～15）、肥前系陶器（18・20）、瀬戸美濃系陶器（16・17・21）、京・信楽系陶器（19）、堺・明石系陶器（22～24）、土師質土器（25・26）のほか、土製品（27）、瓦類（T42）、砥石、鉄釘、鉄塊、銅線、銅製ピン、漆喰、骨角製箸（B2）、動物遺存体（貝類、鹿角）などが出土している。16～18などは下位遺構（1-028土坑）からの混入と考えられる（図15・172・204、図版53・89・107）。

1-012土坑は北西隅付近が攪乱されるが、平面形状が隅丸方形を呈し長さ2.90m、幅2.30m以上、深さ1.20mを測る。断面形状は船底状を呈する。遺物は肥前系磁器（28～33）、肥前系陶器、瀬戸美濃系陶器（35）、京・信楽系陶器（34・39）、在地系陶器（35～38）、大谷焼（40・41）、堺・明石系陶器（42・43）、土師質土器（44）のほか、土製品（45・46）、瓦質鑄型（47）、瓦類、鉄釘、銅線、動物遺存体（サンゴ）などが出土している（図16、図版53）。

1-017土坑は、東側の大半が調査区域外となる。平面形状は明らかでないが、長さ2.25m以上、幅0.60m以上、深さ1.45mを測る。遺物は肥前系磁器（112・113・115～118）、瀬戸美濃系磁器（114）、肥前系陶器、京・信楽系陶器（119～121）、瀬戸美濃系陶器（122）、軟質施釉陶器（123）、堺・明石系陶器（124）、土師質土器（125・126）、瓦類、不明銅製品（M29）、動物遺存体（貝類）などが出土している（図20・185、図版56・95）。

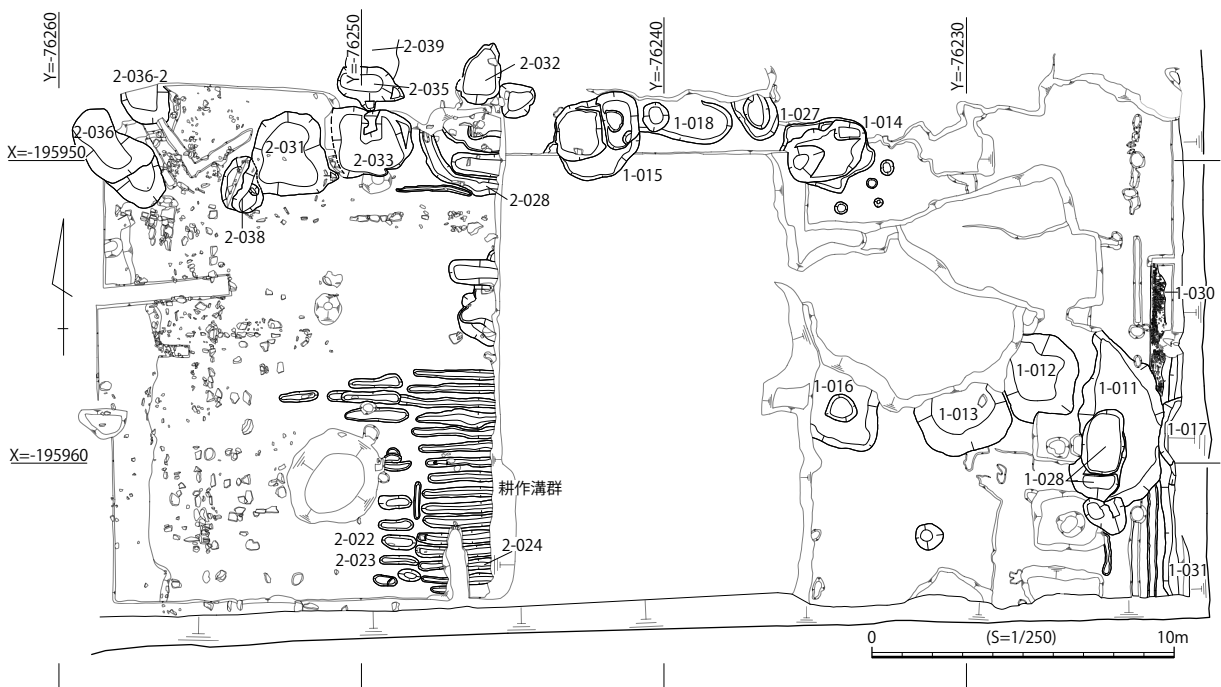


図11 1・2区 第2遺構面 全体図

1-028土坑は1-011土坑の掘削時に、引き続き掘り下げたが、遺物内容から第3遺構面あるいは第4-1遺構面に帰属すると判断できる。北と南の二つの小土坑に分かれるが、遺物からは時期差はないものと考えられる。規模は長さ2.05m、幅1.00m、深さ0.60mを測る。遺物は肥前系磁器（129～135）、肥前系陶器（136・137・139）、瀬戸美濃系陶器（138）、備前焼（140）、土師質土器（141～146）、瓦質土器、瓦類、砥石（S11）、鉄釘、鉄塊、不明銅製品、双六のコマ（B5）、動物遺存体（貝類・魚骨・獣骨・サンゴ）などが出土している（図21・182・204、図版56・93・107）。

#### 1-013土坑（図12・173、図版89）

1-1区の中央付近で検出した土坑で、北側は攪乱により削平される。平面形状は楕円形を呈し、規模は長さ3.00m、幅2.00m以上、深さ0.65mを測る。断面形状は船底状である。遺物は肥前系磁器、肥前系陶器、瀬戸美濃系陶器、土師質土器、瓦類（T43）、鉄釘などが出土している。

#### 1-014・015・018・027土坑（図13、図版12・13）

1-014・015・018・027土坑は、1-1区北端で検出した土坑群である。

1-014土坑は平面形状が隅丸方形を呈し、規模は長さ3.15m、幅2.40mを測る。底は西側に向かって深くなっており、最深で0.80mを測る。埋土には多量の瓦や結晶片岩が混入していた。遺物は肥前系磁器（48・49）、肥前系陶器（50）、京・信楽系陶器、堺・明石系陶器、瓦質土器、瓦類、銅線などが出土している（図16）。

1-015土坑は平面形状が隅丸方形を呈し、長さ2.75m、幅2.60m、深さ1.30mを測る。北側は下位で東西二つの土坑に分かれ、東側が先に埋め戻されるが、上位は同時に埋め戻され、遺物内容からもほぼ同じ時期として捉えることができる。多量の土器類や瓦などの遺物が出土し、廃棄土坑と考えられる。遺物は肥前系磁器（51～81）、肥前系陶器（86）、瀬戸美濃系陶器（82・84・85・87）、京・信楽系陶器（83・88・90）、在地系陶器（89）、大谷焼（91）、丹波焼（92）、堺・明石系陶器（93）、土師質土器（94～104）、土製品（105・106）のほか、瓦類（T44～T46）、鉄釘、銅線、動物遺存体（貝類）などが出土している（図17・18・19・173、図版54・55）。

1-018土坑は、重複する1-015・034土坑より古い。北側が攪乱により削平されるが、平面形状は楕円形を呈していたと考えられる。規模は長さ3.20m、幅1.45m、深さ0.25mを測る。断面形状は船底状を呈する。遺物は肥前系磁器、堺・明石系陶器（127）、土師質土器などが出土している（図21）。

1-027土坑は北側が攪乱により削平される。平面形状は楕円形を呈していたと考えられ、二段落ちして中央部が深くなる。規模は長さ1.40m以上、幅1.25m、深さ0.50mを測る。遺物は肥前系陶器、土師質土器（128）などが出土している（図21）。

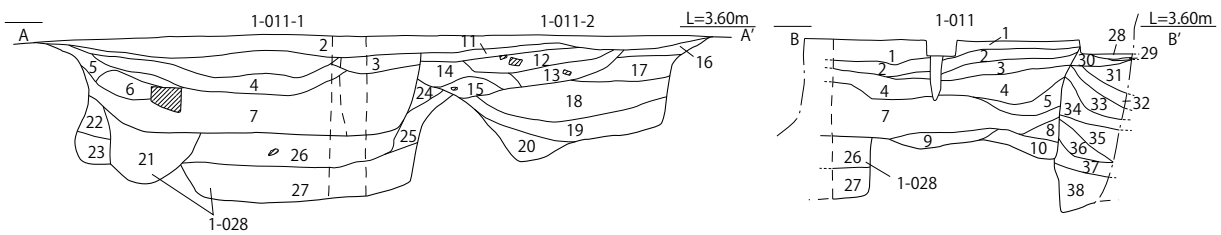
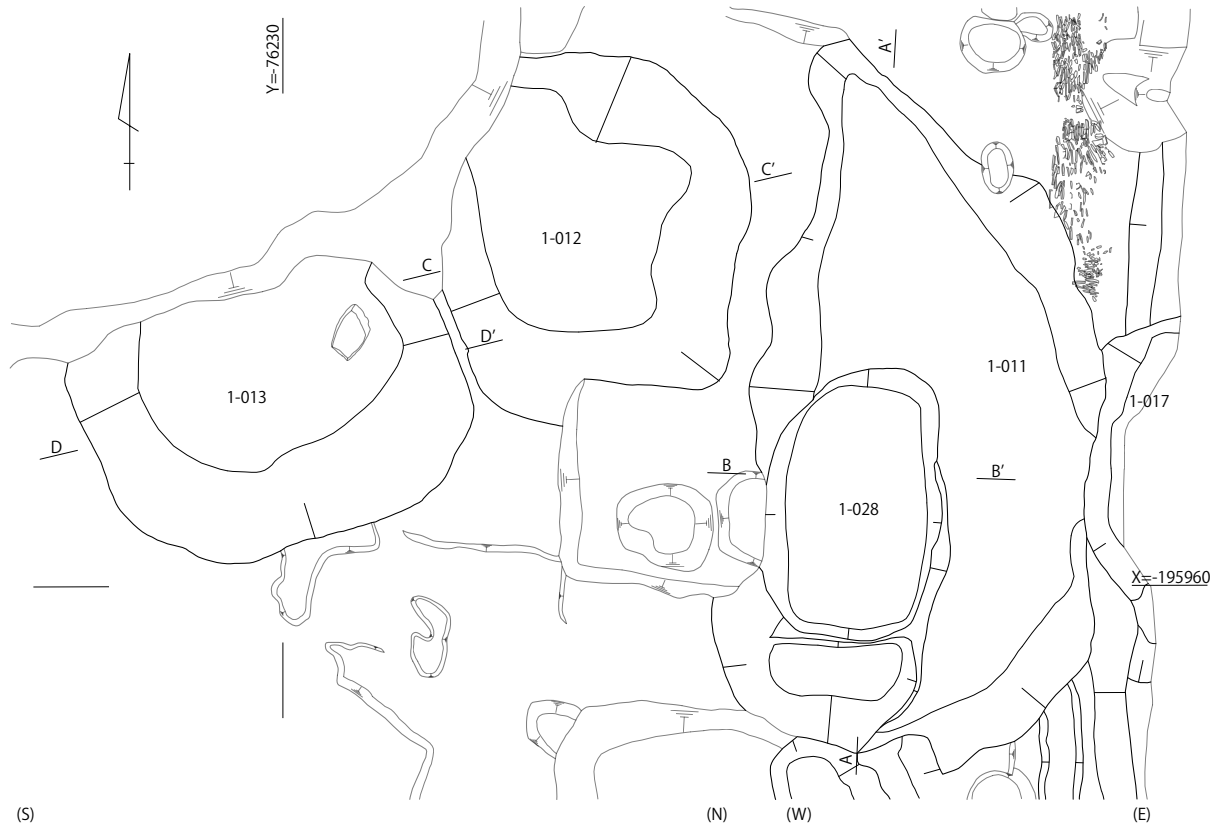
#### 1-030溝状遺構（図13・21、図版13）

1-1区東端で検出した溝状遺構で、正方位を指す南北方向の溝内に結晶片岩の割石を充填していた。南端は1-011土坑に切られることから明らかでないが、幅0.50mで、長さ4.50mを確認した。割石は3～10cmで、基本的に溝内に立て置きするように密に詰められており、構造物の基礎・地業の可能性もある。遺物は肥前系磁器（147）、堺・明石系陶器（148）、土師質土器、瓦、鉄釘などが出土している。

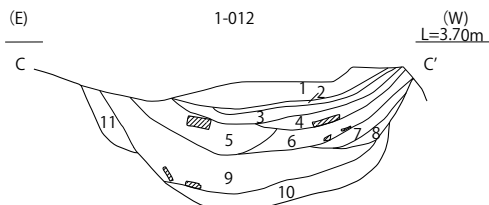
#### 2-032・033・035土坑（図14、図版13）

2-1区北東端で検出した土坑群である。

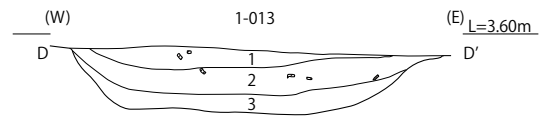
2-032土坑は平面形状が楕円形を呈し、規模は長さ2.00m、幅1.20m、深さ0.80mを測る。壁



- |                                    |                              |                                     |
|------------------------------------|------------------------------|-------------------------------------|
| 1. 10YR3/1黒褐 シルト 炭化粒2~20mm大少量含む    | 16. 2.5Y5/4黄褐 細砂混シルト         | 29. 5Y7/3浅黄 シルト                     |
| 2. 2.5Y5/3黄褐 シルト 漆喰土塊少量含む          | 17. 2.5Y4/4オリーブ褐 細砂混シルト      | 30. 2.5Y7/3浅黄オリーブ シルト               |
| 3. 2.5Y6/3にぶい黄 弱粘質土+2.5Y5/2暗灰黄 シルト | 18. 2.5Y5/2暗灰黄 細砂混シルト        | 31. 5Y4/1灰 細砂混シルト 炭化粒極微量含む 貝殻微量含む   |
| 4. 2.5Y5/2暗灰黄 細砂混シルト 貝殻少量含む        | 19. 2.5Y4/1黄灰 細砂混シルト         | 32. 5Y4/1灰 細砂混シルト+5Y7/3浅黄 シルト       |
| 5. 2.5Y5/4黄褐 シルト                   | 20. 2.5Y4/3オリーブ褐 細砂混シルト      | 33. 5Y5/1灰 細砂混シルト 炭化粒微量含む           |
| 6. 2.5Y3/1黒褐 弱粘質土                  | 10YR5/6黄褐 漆喰土 少量含む           | 34. 2.5Y4/3オリーブ褐 シルト混細砂             |
| 7. 5Y5/3灰オリーブ 細砂混シルト               | 21. 5Y4/2灰オリーブ 細砂混シルト        | 35. 5Y4/3暗オリーブ シルトと7.5YR5/6明褐 漆喰土混層 |
| 8. 5Y4/3暗オリーブ シルト 炭化粒1~2mm大微量含む    | 炭化粒歩料含む 貝殻片微量含む              | 36. 5Y4/3暗オリーブ シルト 炭化粒1~2mm大微量含む    |
| 9. 2.5Y4/3オリーブ 褐中・細砂混シルト 炭化粒微粒含む   | 22. 5Y4/3暗オリーブ 細砂混シルト        | 37. 5Y3/2オリーブ黒 細砂混シルト               |
| 10. 5Y7/3浅黄 弱粘質土(細砂混)              | 23. 5Y4/4暗オリーブ シルト混細砂        | 38. 5Y3/1オリーブ黒 シルト                  |
| 11. 5Y5/3灰オリーブ 細砂混シルト              | 24. 2.5Y4/2暗灰黄 シルト混細砂        |                                     |
| 12. 5Y5/2灰オリーブ 細砂混シルト 漆喰土塊・焼土微量含む  | 25. 2.5Y4/3オリーブ 褐 細砂混シルト     |                                     |
| 13. 2.5Y5/3黄褐 細砂混シルト 焼土塊微量含む       | 26. 2.5Y3/2黒褐 細砂混シルト 貝殻片少量含む |                                     |
| 14. 5Y4/4暗オリーブ 細砂混シルト              | 27. 5Y3/3暗オリーブ 褐 細砂混シルト      |                                     |
| 15. 2.5Y5/3黄褐 細砂混シルト               | 28. 2.5Y4/4オリーブ 褐 細砂混シルト     |                                     |



1. 2.5Y4/2暗灰黄 細砂混シルト 炭化粒2~5mm大極微量含む
2. 2.5Y5/4黄褐 細砂混シルト 漆喰土塊少量含む
3. 5Y4/1灰 細砂混シルト 炭化粒極微量含む
4. 5Y7/3浅黄 シルト
5. 2.5Y4/2暗灰黄 シルト 5Y7/3浅黄 シルトブロック状に入る
6. 2.5Y4/1黄灰 細砂混シルト
7. 5Y5/3灰オリーブ シルト混細砂
8. 5Y4/2灰オリーブ 細砂混シルト 貝殻片多量に入る
9. 5Y4/2灰オリーブ シルト 瓦密に、漆喰土塊微量入る
10. 5Y3/1オリーブ黒 細砂混シルト 5Y7/3浅黄 シルトブロック状に入る
11. 2.5Y5/3黄褐 細砂混シルト 2.5Y6/2灰黄 シルトブロック状に入る



1. 2.5Y4/3オリーブ褐 細砂混シルト
2. 2.5Y4/4オリーブ褐 細砂混シルト
3. 5Y4/3暗オリーブ 細砂混シルト

0 (S=1/60) 3m

図 12 1・2区 第2遺構面 検出遺構(1)

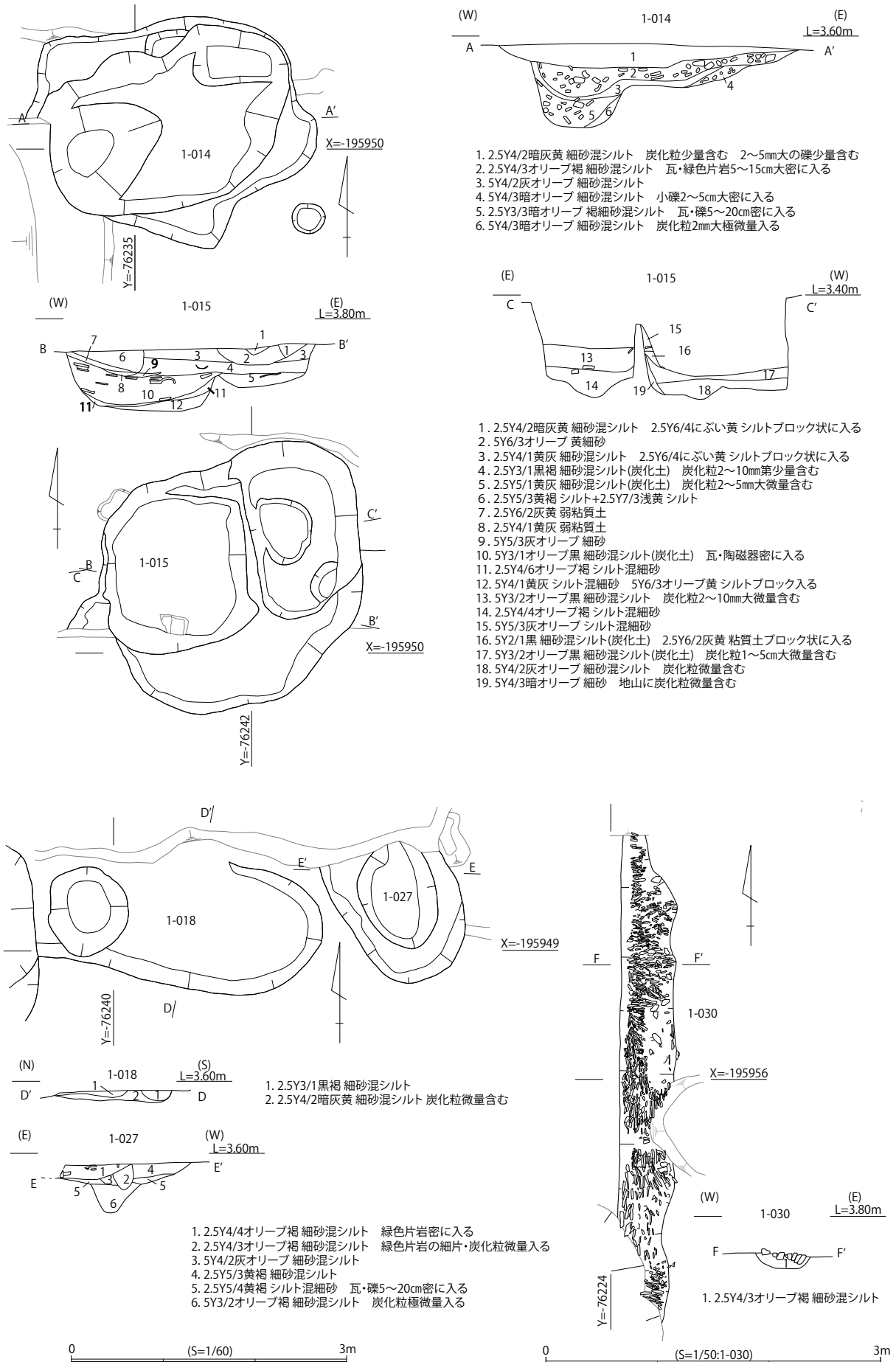


図13 1・2区 第2遺構面 検出遺構(2)

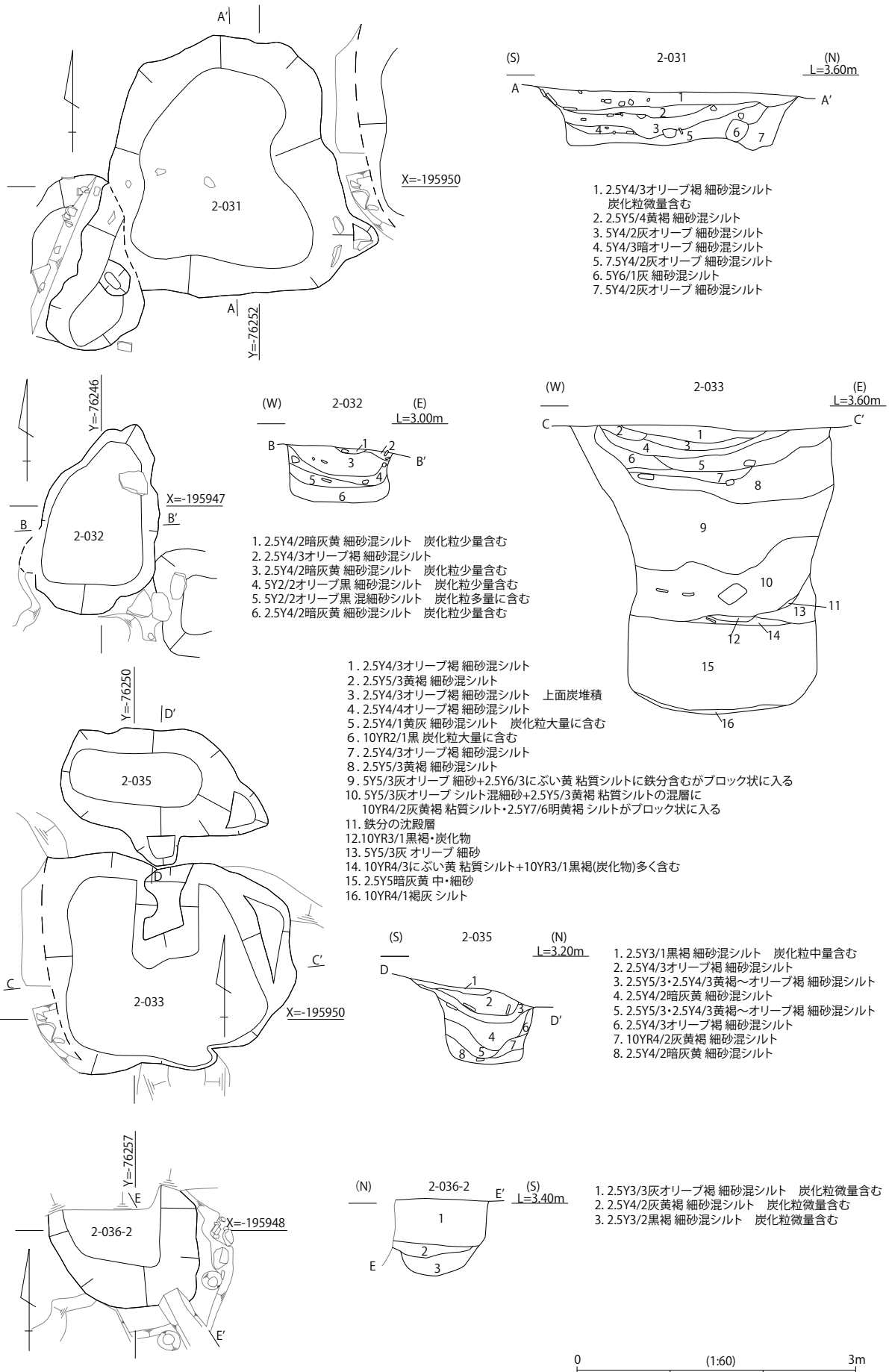


図 14 1・2区 第2遺構面 検出遺構 (3)

は直に落ち底はほぼ平坦である。中位には炭を多く含む層が堆積する。遺物は多量に出土し、肥前系磁器（186～193）、肥前系陶器、瀬戸美濃系陶器（199）、京・信楽系陶器（194～198）、大谷焼（200）、堺・明石系陶器（201・202）、土師質土器（203）、土製品（204）、瓦類、動物遺存体（魚骨）などがある（図23・24、図版58）。

2-033土坑は平面形状が不整形を呈する。規模は2.80m×2.20mで、深さが3.05mと1・2区では最も深く掘削された廃棄土坑である。砂層を挟んでほぼ直に掘り下げており、明確な再掘削痕が認められないことから、土器等の廃棄に伴って一気に埋め戻されていることが窺える。遺物は肥前系磁器（205～225）、肥前系陶器（231・234）、瀬戸美濃系陶器（226・227）、京・信楽系陶器（228～230・232・233・235・236）、堺・明石系陶器（237）、土師質土器（238～241）、土製品（242）、瓦質土器、瓦類（T1・T47～T50・T78）、基石（S9）、砥石（S20）、煙管（M44）、不明銅製品、骨製簪（B4）、動物遺存体（貝類・魚骨）などが出土している（図25・26・171・173・174・182・185・204、図版58・59・88・89・90・93・107）。

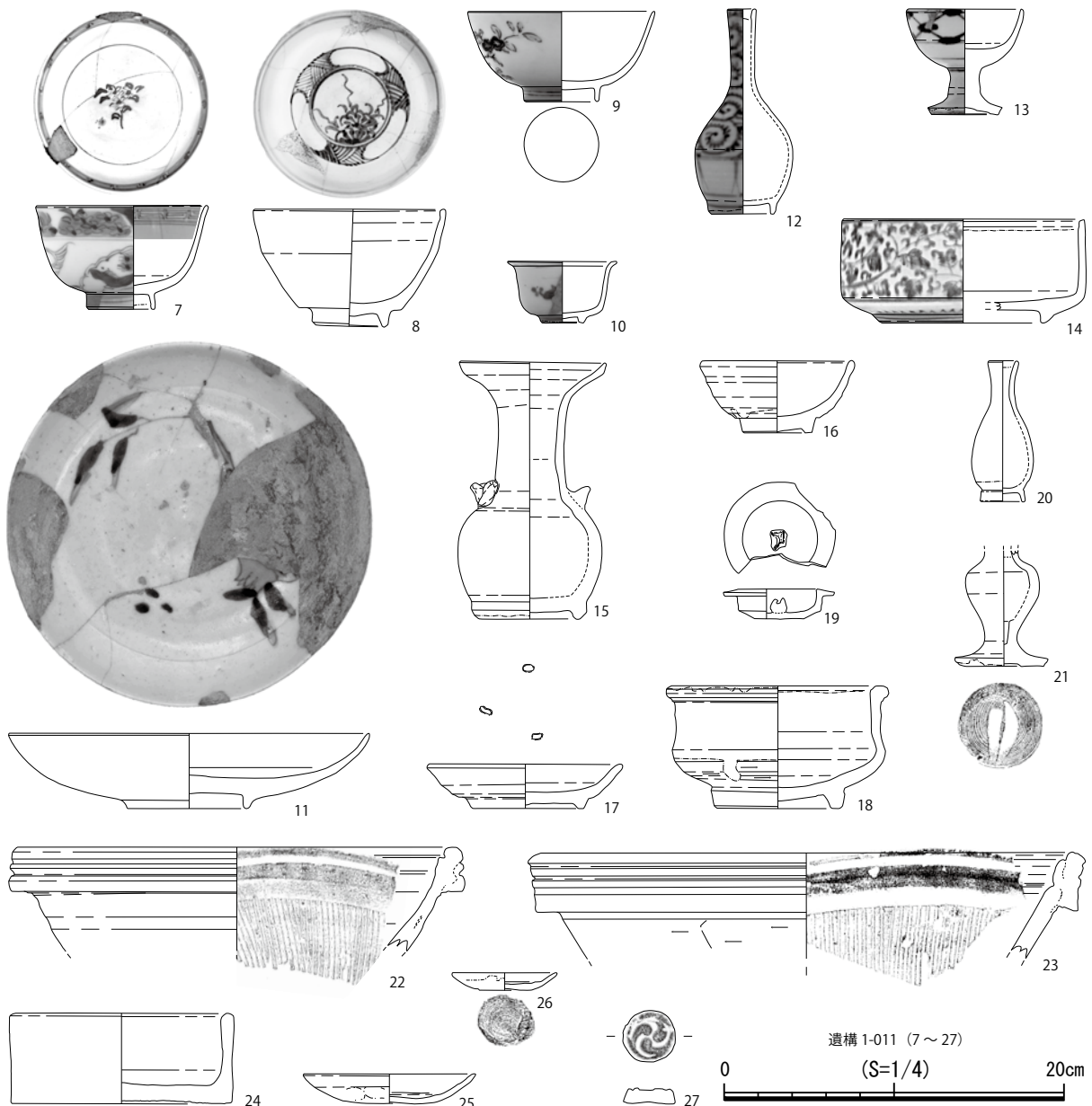


図15 1・2区 第2遺構面 遺構出土土器（1）



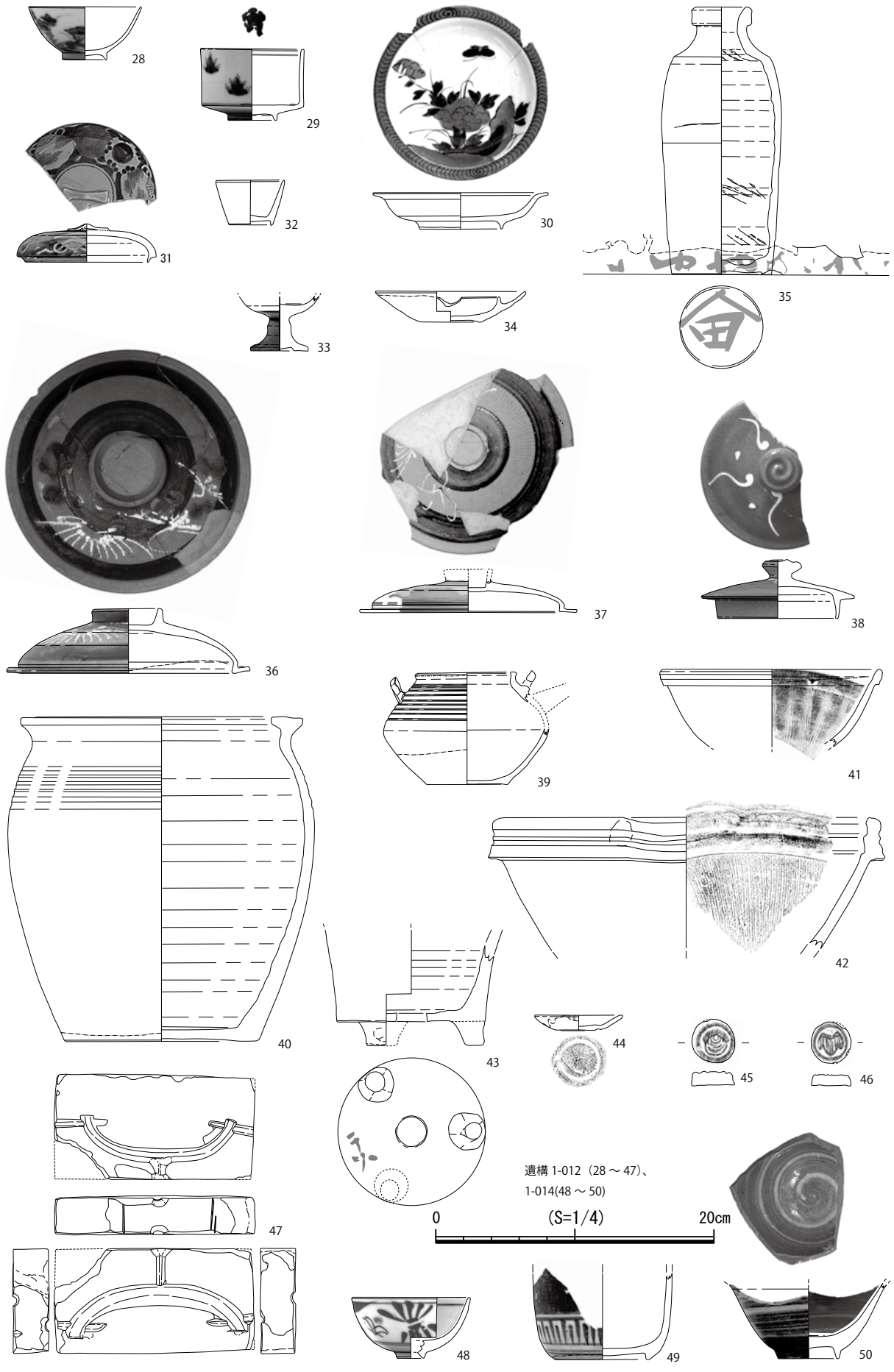


图 16 1·2区 第2遺構面 遺構出土土器 (2)



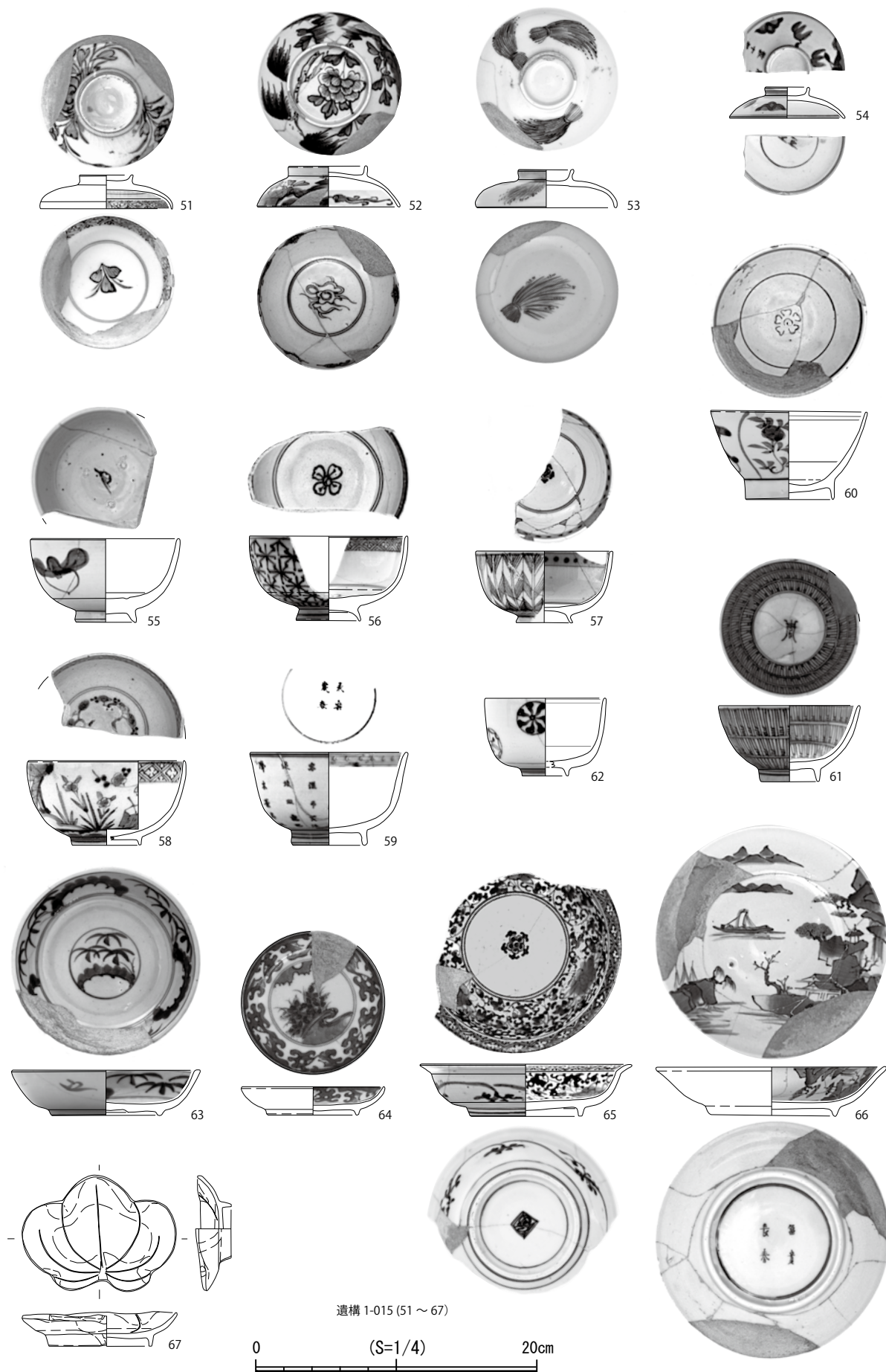


图 17 1·2区 第2遺構面 遺構出土土器 (3)

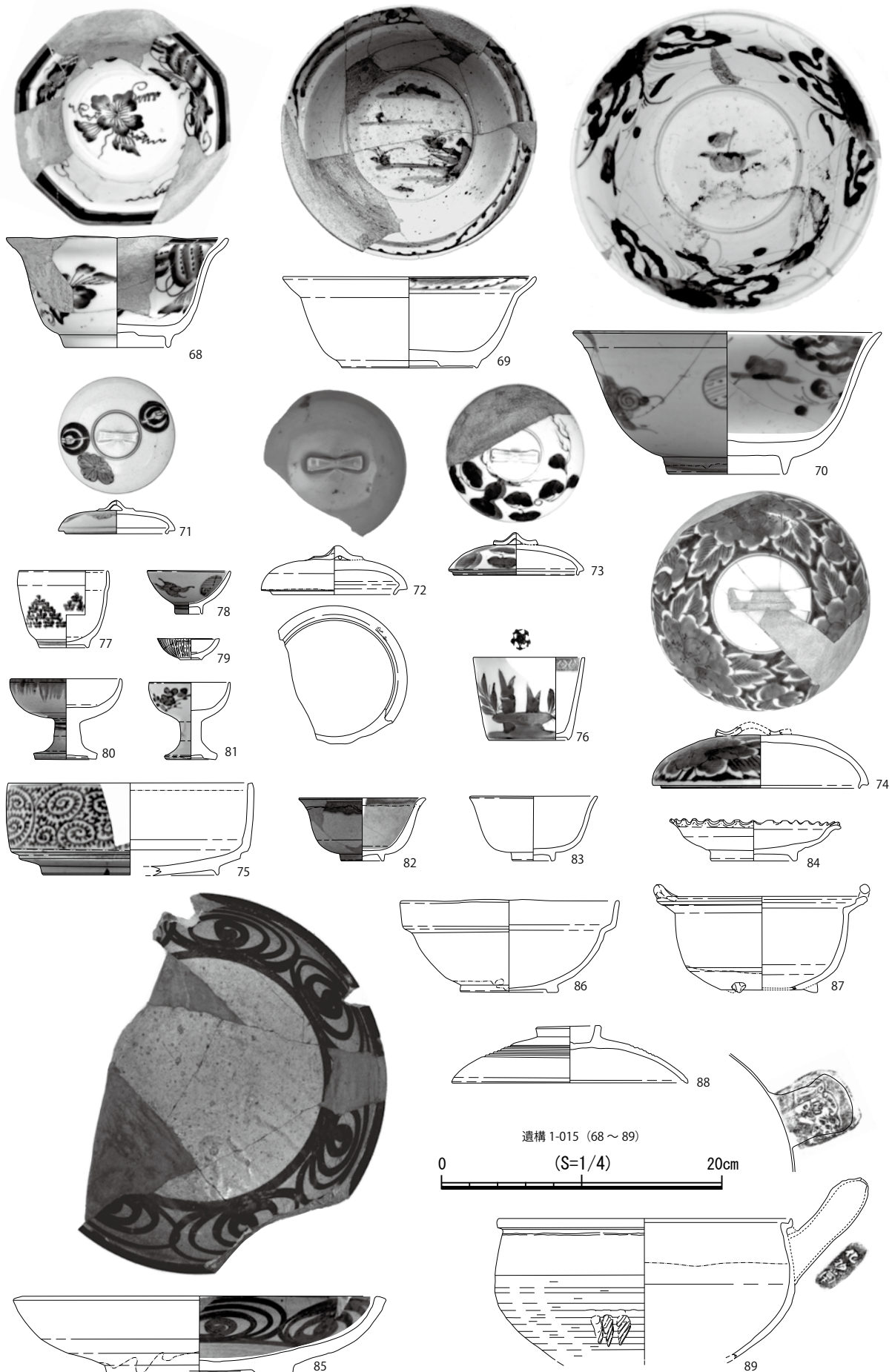


图 18 1·2区 第2遺構面 遺構出土土器 (4)

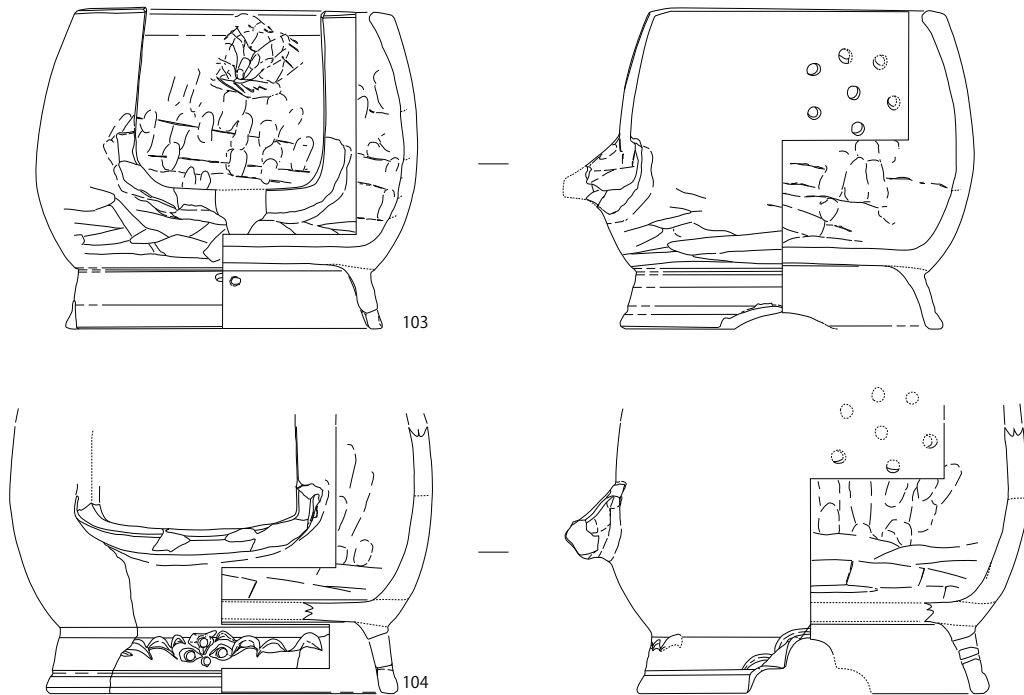
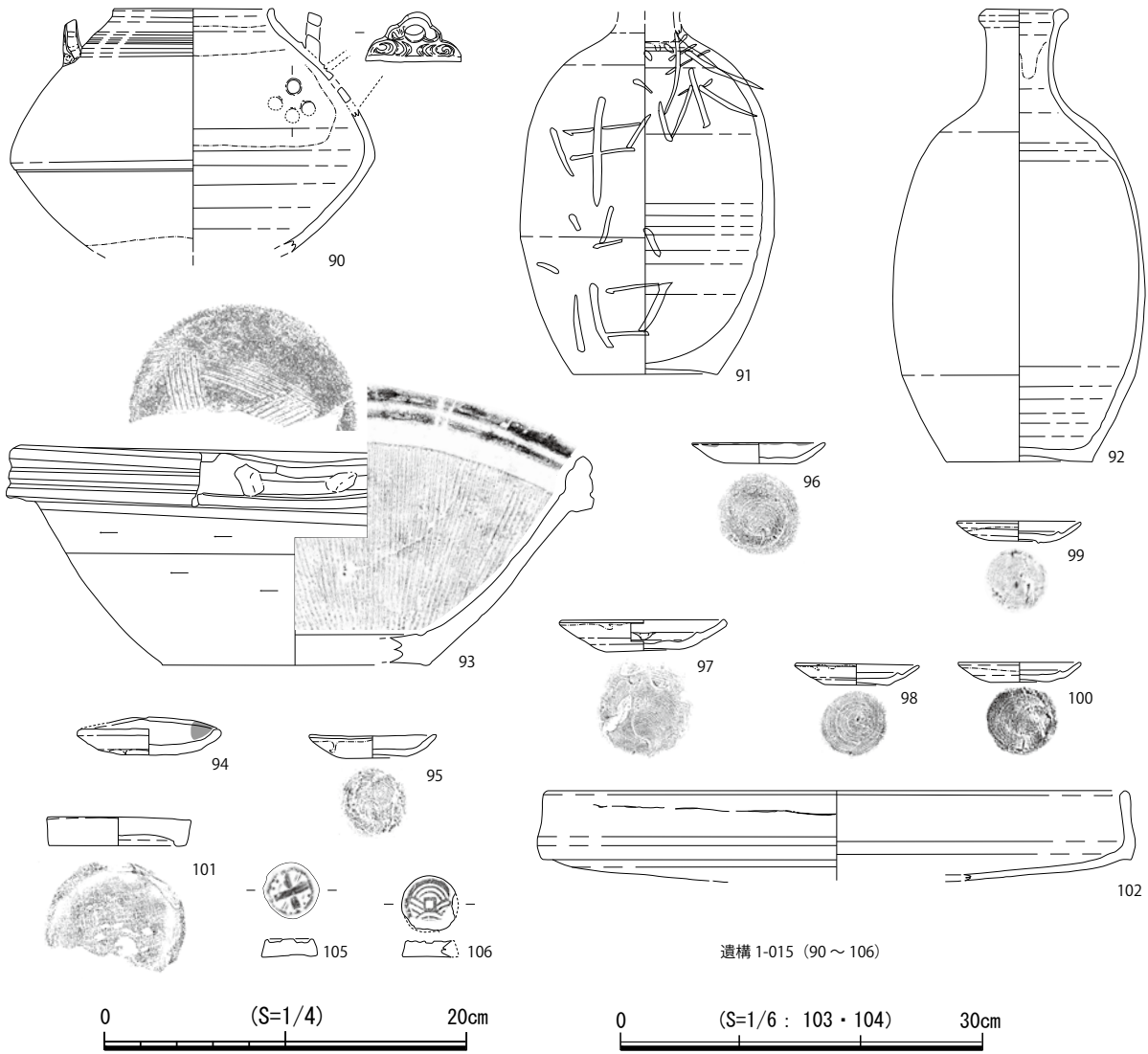


図 19 1・2区 第2遺構面 遺構出土土器 (5)



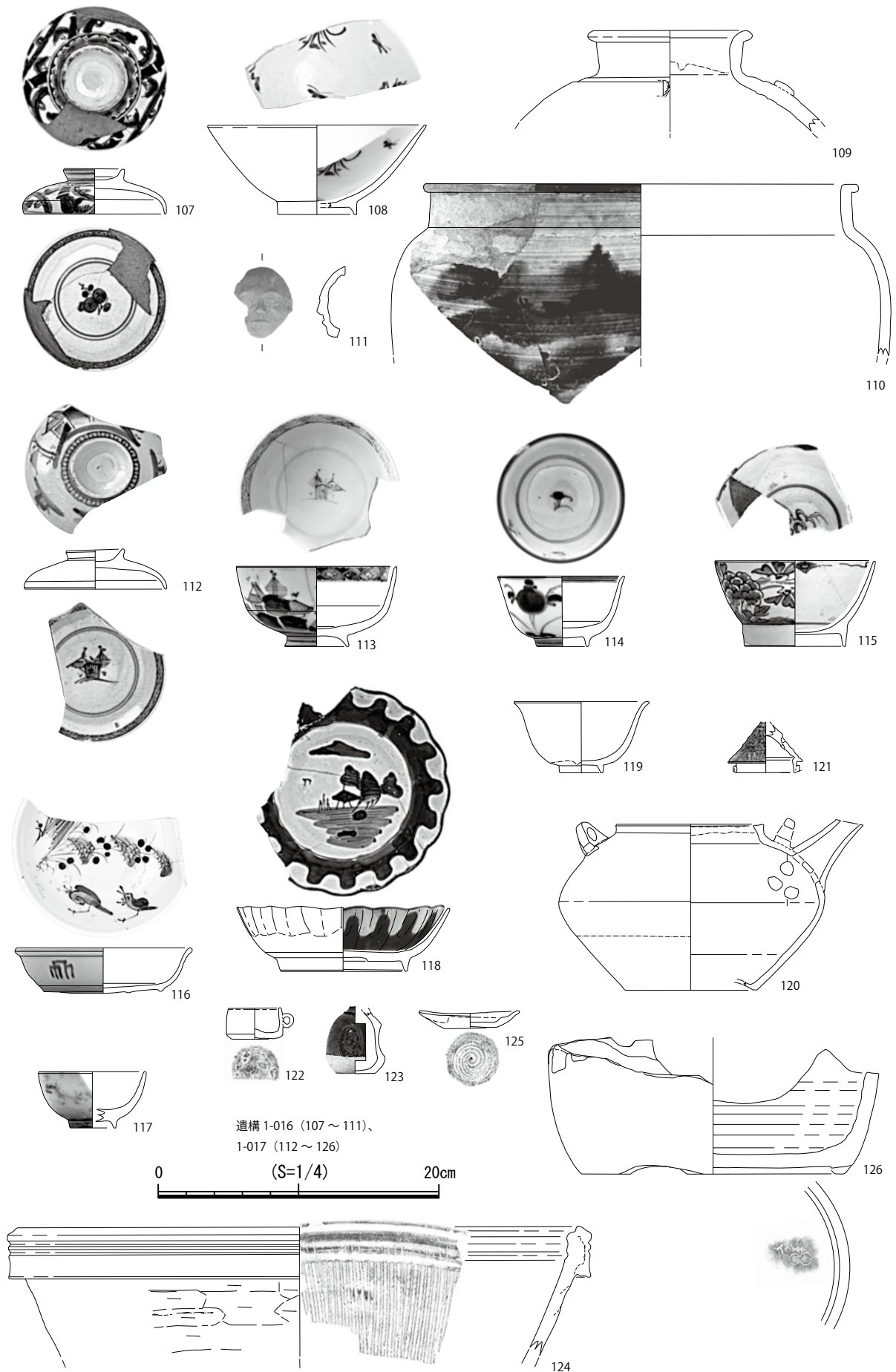


图 20 1・2区 第2遺構面 遺構出土土器 (6)

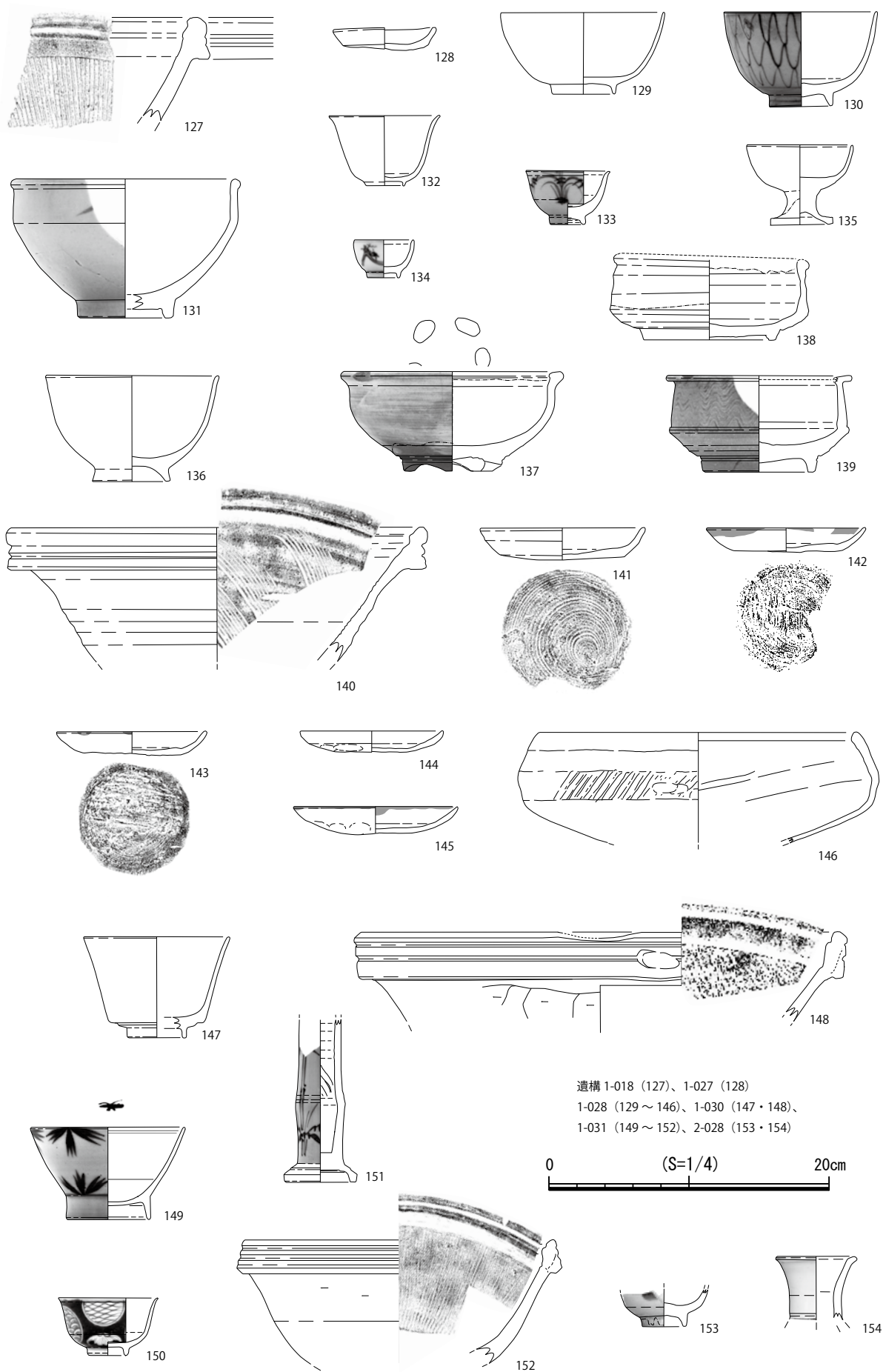
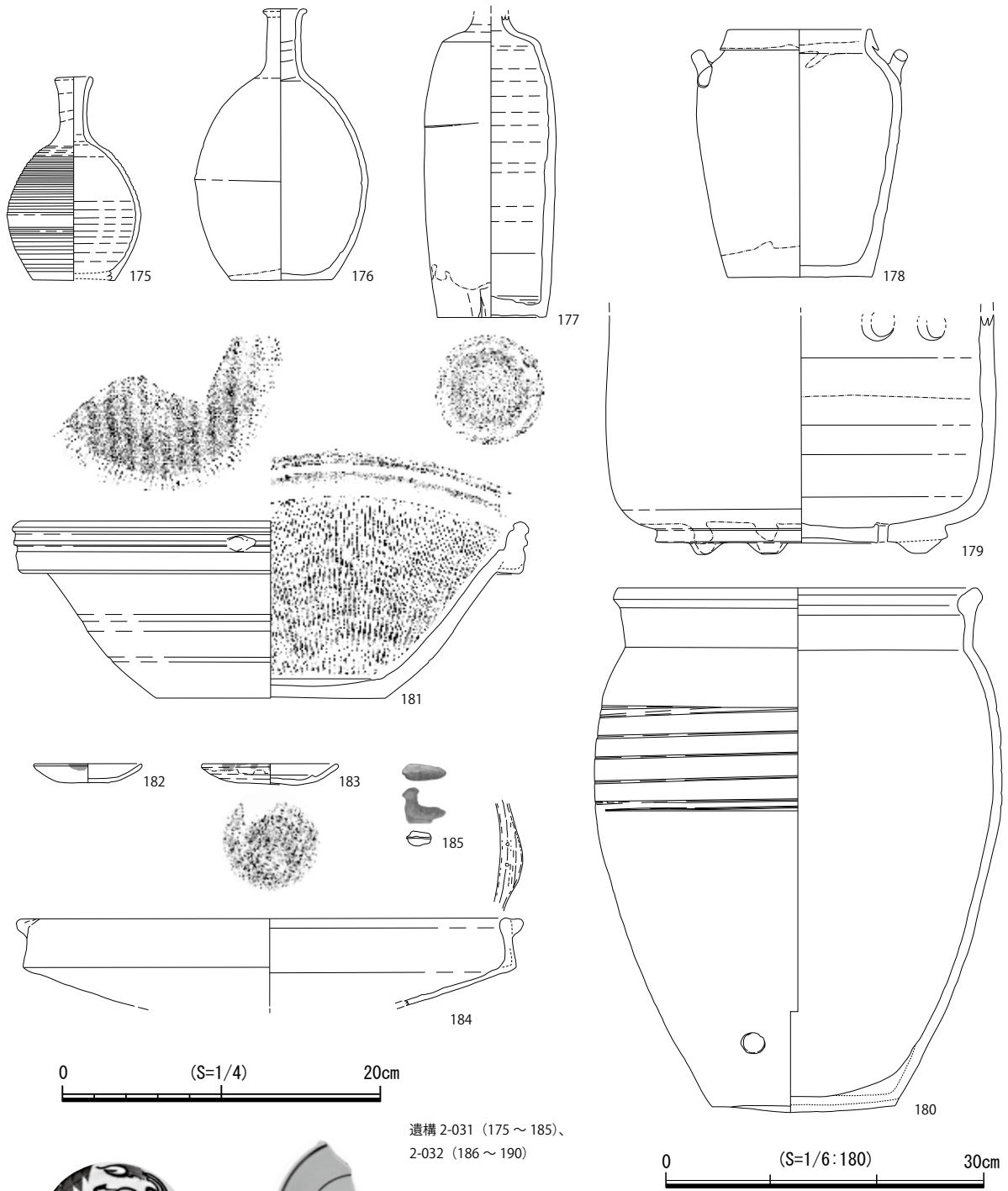


图 21 1・2区 第2遺構面 遺構出土土器 (7)



图 22 1・2区 第2遺構面 遺構出土土器 (8)





遺構 2-031 (175 ~ 185)、  
2-032 (186 ~ 190)

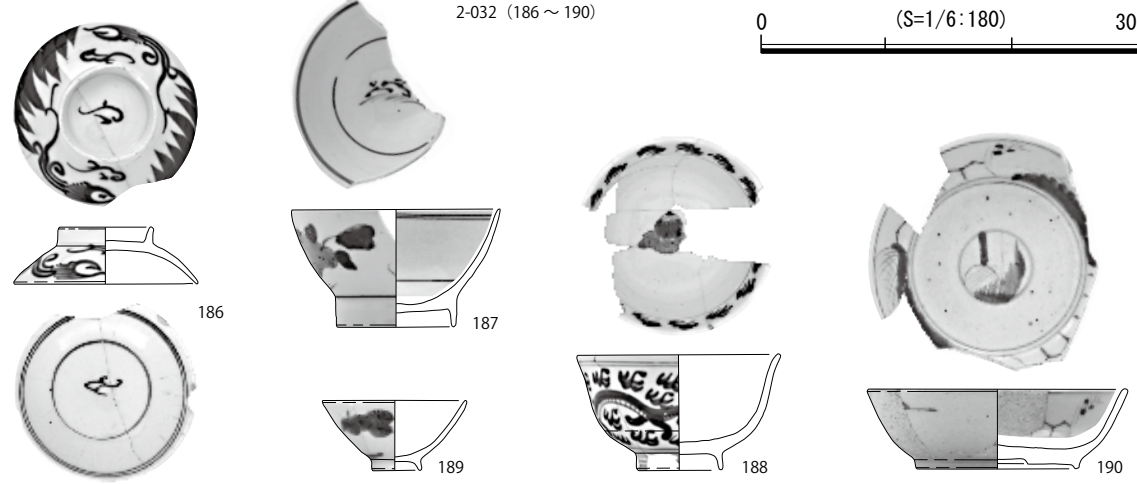


图 23 1・2区 第2遺構面 遺構出土土器 (9)

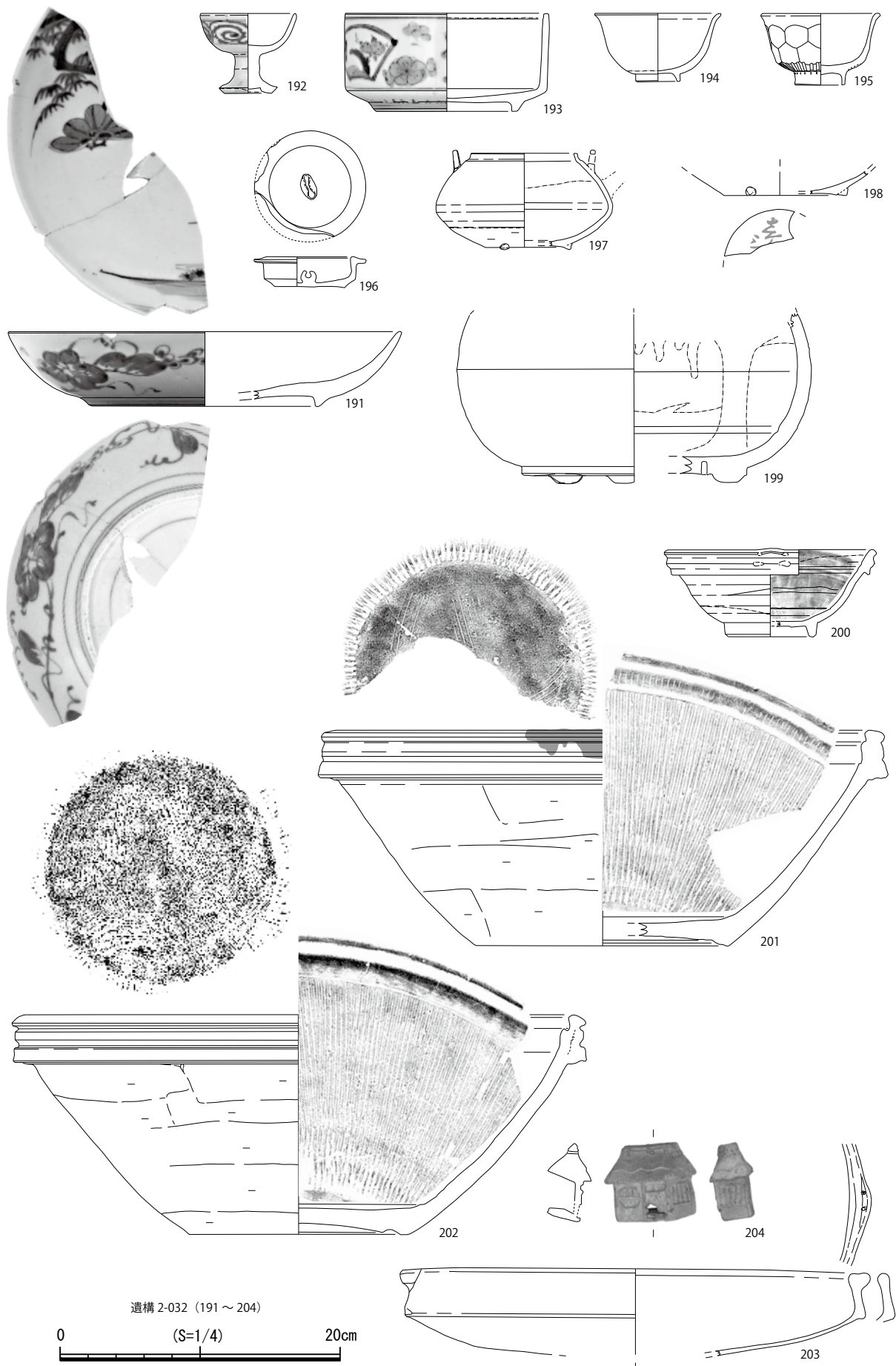


图 24 1·2区 第2遺構面 遺構出土土器 (10)

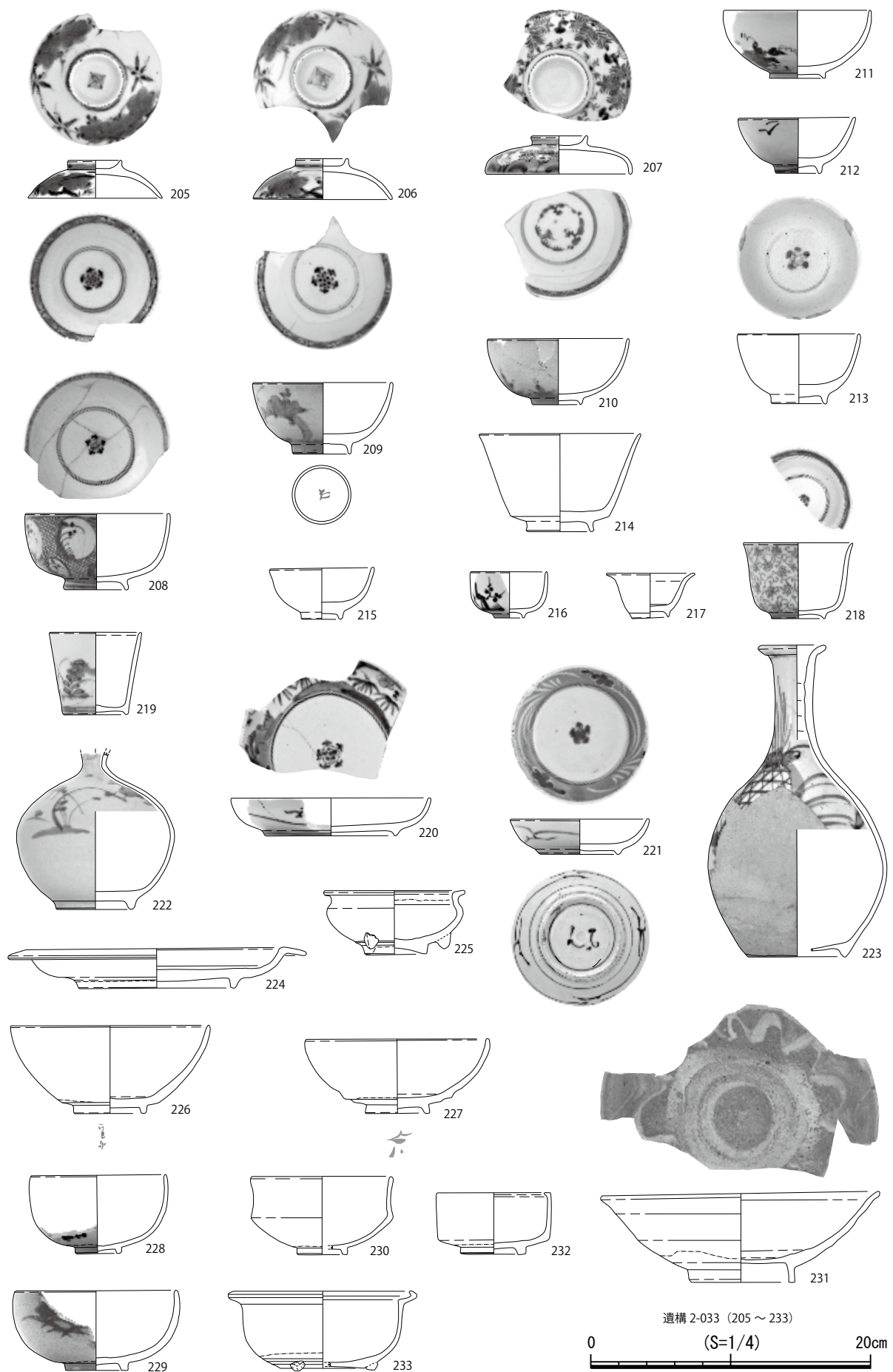


图 25 1・2区 第2遺構面 遺構出土土器 (11)

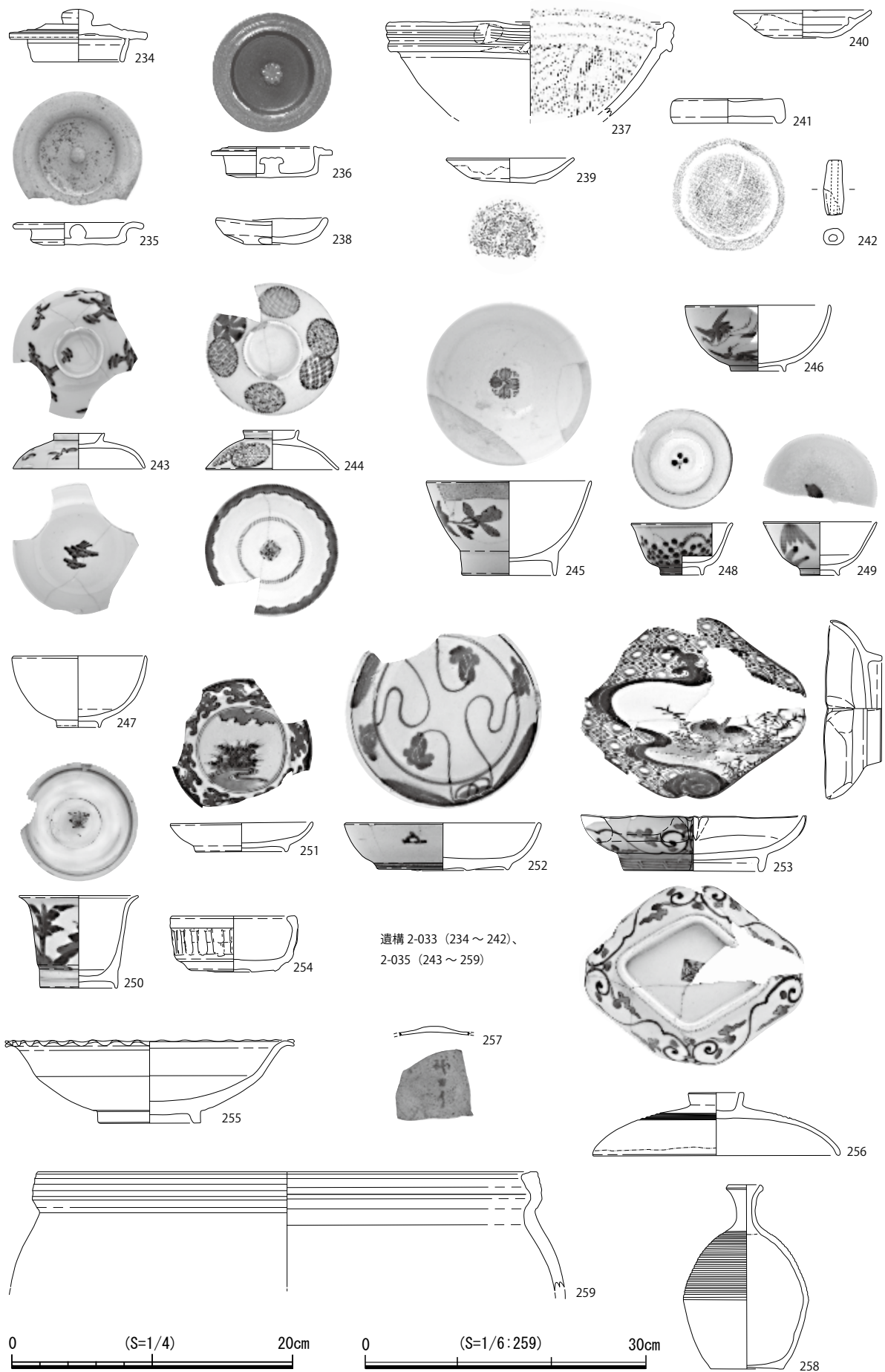


图 26 1・2区 第2遺構面 遺構出土土器 (12)



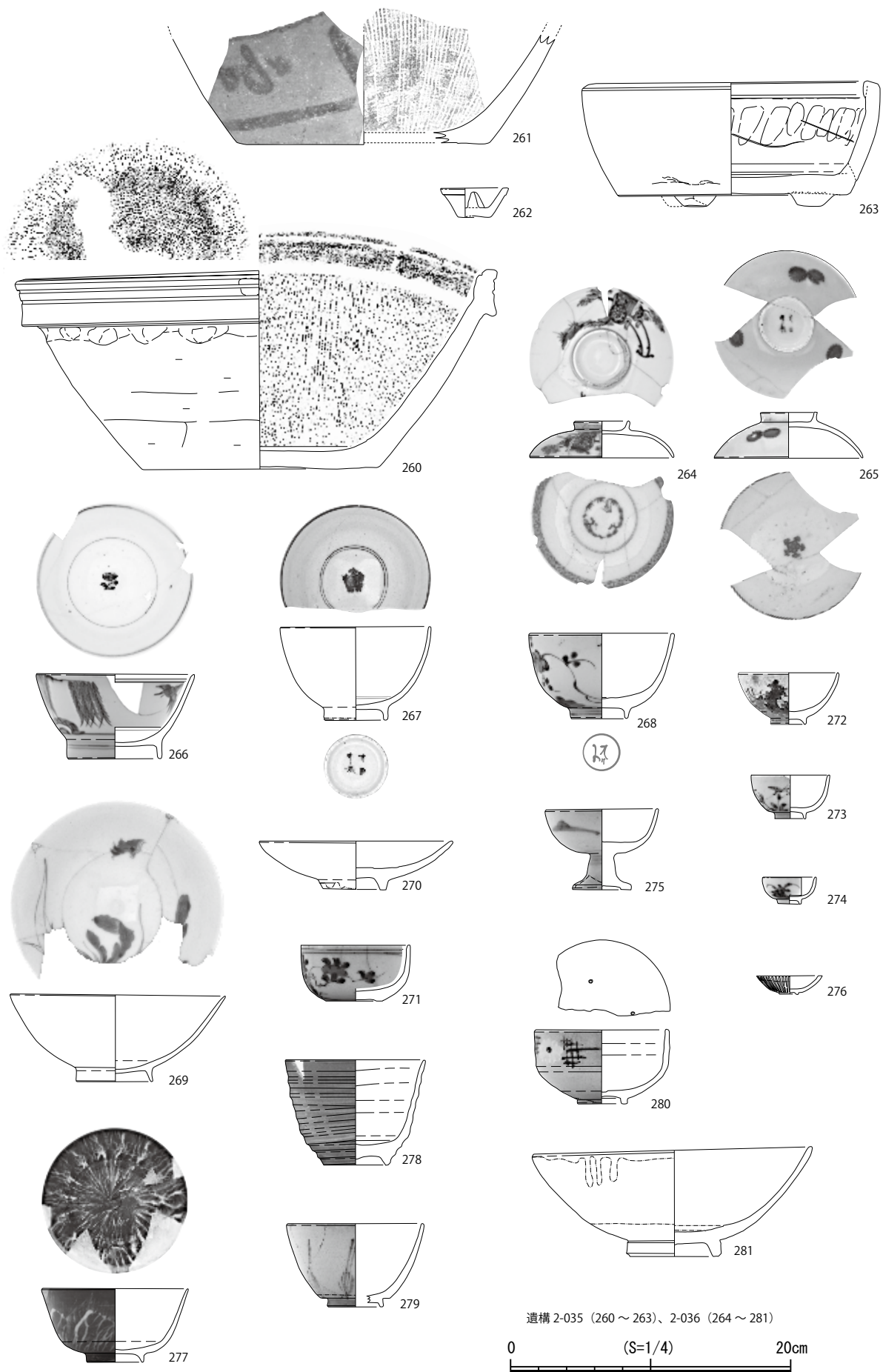


图 27 1・2区 第2遺構面 遺構出土土器 (13)

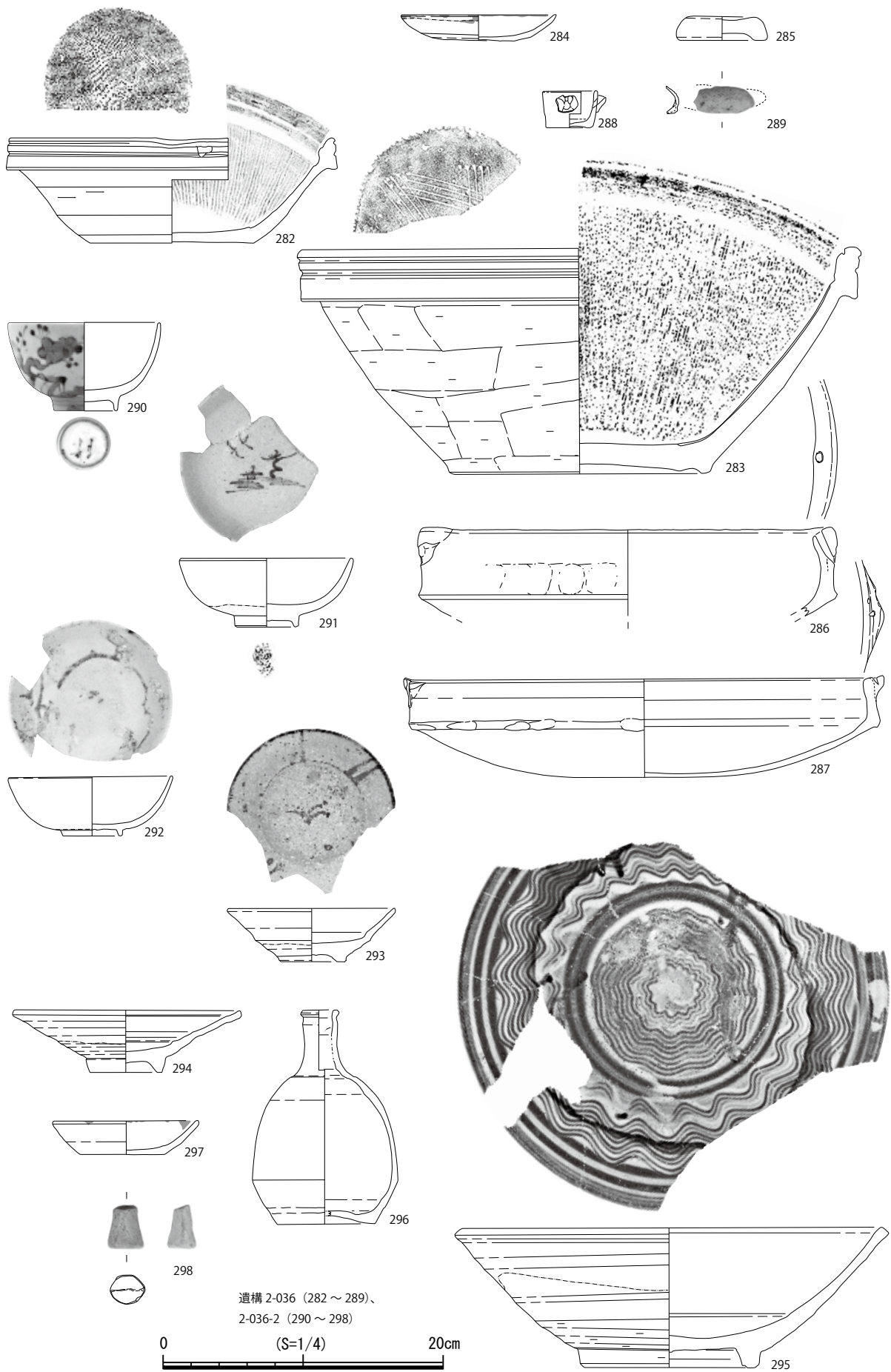


图 28 1・2区 第2遺構面 遺構出土土器 (14)



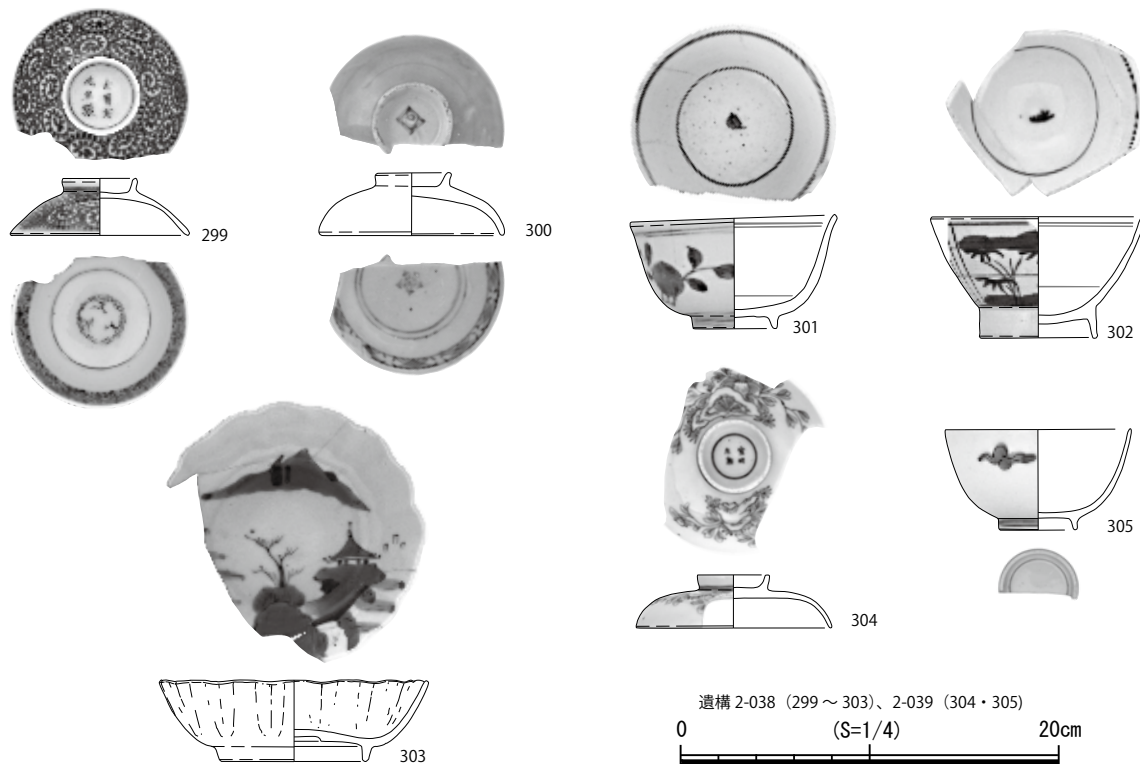


図29 1・2区 第2遺構面 遺構出土土器 (15)

2-035土坑は2-033土坑の北隣に位置し、2-039と重複するが前後関係は不明である。平面形状は楕円形を呈し、規模は長さ1.80m、幅1.10m、深さ1.00mを測る。遺物は肥前系磁器（243～247・249～254）、瀬戸美濃系磁器（248）、肥前系陶器、瀬戸美濃系陶器（255）、京・信楽系陶器（256）、在地系陶器（257）、大谷焼（258）、丹波焼（259）、堺・明石系陶器（260・261）、土師質土器（262）、瓦質土器（263）、瓦類（T79・T129）、硯（S3）、砥石（S16）、小刀（M5）など多量に出土している（図26・27・174・177・182・185、図版60・90・91・93）。

#### 2-031・036・036-2土坑（図14、図版13）

2-1区北西端で検出した土坑群である。

2-031土坑は平面形状が不整形を呈し、規模は2.80m×2.50m、深さ0.65mを測る。断面形状は逆台形を呈する。遺物は多量に出土し、肥前系磁器（156・157・159～167）、瀬戸美濃磁器（155・158）、肥前系陶器、瀬戸美濃系陶器（168・177・～179）、京・信楽系陶器（169～174）、大谷焼（175・176）、丹波焼（180）、堺・明石系陶器（181）、土師質土器（182～184）、瓦質土器、土製品（185）、瓦類（T77）、硯、壁土、動物遺存体（貝類・魚骨）などがある（図22・23・174、図版57・58）。

2-036土坑は平面形状が長楕円形を呈し、規模は長さ3.80m、幅1.90mを測る。底は北西に向かって深くなっており、最深部で1.20mを測る。遺物は多量に出土しており、肥前系磁器（264～276）、肥前系陶器（277・278・281）、京・信楽系陶器（279・280）、堺・明石系陶器（282・283）、土師質土器（284～287）、瓦質土器、土製品（288・289）、瓦類、硯、銅製匙（M26）、銅製簪（M27）、鉛製品（M33）、壁土、動物遺存体（貝類・鳥骨）などがある（図27・28・185、図版60・61・95）。

2-036-2土坑は北側が攪乱により削平される。平面形状が楕円形を呈していたと考えられ、規模は長さ1.50m以上、幅1.50m、深さ0.80mを測る。遺物は肥前系磁器（290）、肥前系陶器（291・293～295）、京・信楽系陶器（292）、丹波焼（296）、備前焼、土師質土器（297）、瓦質土器、土製品（298）、瓦類などがある（図28、図版61）。

#### 耕作溝（図187、図版97・98）

東西方向に延びる16本の溝で2-1区の南東部で検出した。溝の東側は市振興財団によって調査されている。最長7.1m以上で、幅0.3～0.6m、深さ0.1m前後を測る。第1遺構面と同様に重複せず一直線に伸びる状況から畝の畝間溝で、間隔が狭いことから数期の耕作に伴って形成されたものと考えられる。第1遺構面で検出した耕作溝と時期差があるか検討を要するが、屋敷地内に設けられた畝であったと考えられる。遺物は堺・明石系陶器、土師質土器、瓦の破片、銭貨（M98・M99・M119）などが出土している。

#### 4 第3遺構面の遺構（図30・82・173・185・187・188、図版3・70・89・95・96・98）

18世紀頃の遺構面であると考えられる。検出した遺構には、礎石建物・土塀基礎・柵・瓦列・溜桝・井戸・土坑・埋桶・溝状遺構などがある。礎石建物の周囲に井戸や大型の土坑・埋桶などが存在している。また、遺構面上の整地土や遺構検出時に出土した遺物には、肥前系磁器（769）、瀬戸美濃系陶器（766）、在地系陶器（767）、土師質土器（768）、土製品（770～772）、瓦類（T54・T55）、小柄（M6・M7）、火打金（M12）、煙管（M39）、銭貨（M120・M144・M159・M161）などがある。

#### 礎石建物2-A（図31、図版13）

2-1区から1-1区西端で検出したもので、1-1区では第3遺構面、2-1区では第4遺構面の遺構としているが、建物付近は第3遺構面と第4-1遺構面の地盤高が変わらず、検出状況などから第3遺構面に帰属すると判断した。ただ、第4遺構面の建物が継続して第3遺構面でも使われた

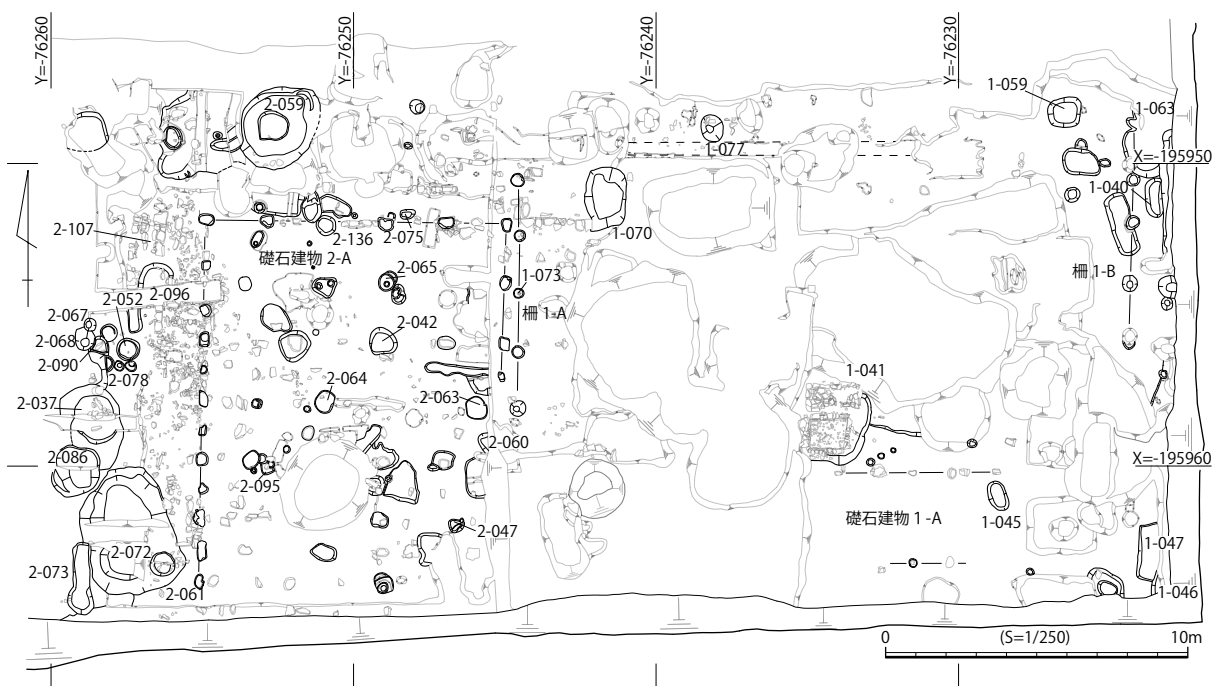


図30 1・2区 第3遺構面 全体図

可能性は否定できない。南側が調査区域外の可能性もあり、また、攪乱等により礎石のすべてが残存していない可能性もあるが、市振興財団が行った調査分も含め、おおよそ規模を推定することができる。礎石の間隔は、西側・東側の柱列が柱芯で約1.00m、北側については柱芯で約2.00mの間隔で並んでいることが窺える。南側については調査区域内において北側と同様な規則正しい柱列が確認できないことから、南にもう少し広がる可能性もある。これらから建物規模は、南北13.00m以上、東西約10.00mの南北棟であったと考えられ、屋敷地内では中心的な建物であった可能性がある。建物内には主柱に相当する柱礎石以外に、床を支える束柱に相当すると考えられる礎石も確認できるが、間取りを復元するに至っていない。礎石は30～50cmの扁平な砂岩あるいは結晶片岩で、地山面に直接平置きするか、やや掘り窪めて据えていた。礎石上面には、一辺10cm程度の方形の圧痕が確認できたが、柱そのものの大きさとするには小さいことから検討を要する。なお、北側の柱列に沿う石列や石組みについては、礎石建物2-Aと一連のものとして判断できる。

#### 礎石建物1-A (図32、図版14)

1-1区の南側で検出した建物で、北側が攪乱で削平され、南側が調査区域外となり、市振興財団により調査済みであったことから全容は明らかでないが、東西6.20m以上、南北約3.20m以上を測る。比較的間隔が揃う北側の柱間は、約1.20mを測る。礎石は25～60cmの扁平な砂岩か結晶片岩で、地山面に直接据えられていた。

#### 2-107土塀 (図31、図版13)

2-1区西端で検出した南北方向の土塀基礎である。周辺に多くの石が散乱していることで、調査時には位置を変えて2時期の土塀が存在するとしていたが、多くの石は遊離したものであり原位置を保つ石列から1時期であると判断した。規模は幅1.20mで、長さ4.00mが残存していたもので、30～50cmの扁平な石を両側に並べ、内側にはやや小振りな石を詰めていた。土塀の北と南の延長上には土坑が存在し、これらは後出する。土塀に沿う排水溝などはなく、また、礎石建物2-Aとの間隔が約1.00mと近接することからも建物と併存するものか検討を要する。

#### 1-077瓦列 (図32・187、図版14・97)

1-077瓦列は1-1区北側で検出した。幅は約0.60m、高さ約0.10mの東西方向の基壇状の高まりの外側に平瓦の半裁したものを密に並べたものである。多くは破壊されていたが、本来は二段以上積んでいたと考えられ、長さ9.40m以上伸びている。瓦列の西側には井戸や土坑があることから、礎石建物2-A付近から東側に存在し、屋敷地内を南北に区画する塀などの基礎であった可能性がある。遺物は瓦の検出時に銭貨(M95)が出土している。

#### 柵1-A (図31・187、図版97)

1-1区西端で検出したもので、ほぼ正方位で南北方向に伸びる。礎石建物2-Aの東に接し、建物に先行する可能性がある。長さ約7.40mを検出しており、柱間は1.80～1.90mを測る。柱穴の平面形状は不整円形を呈し、規模は0.33～0.45m、深さ0.18～0.45mを測る。遺物は柱穴から肥前系磁器や瓦、銭貨(M96)が出土している。

#### 柵1-B (図31)

1-1区東端で検出したもので、ほぼ正方位で南北方向に伸びる。長さ約7.20mを検出しており、柱間は1.40～2.00mを測る。柱穴の平面形状は不整円形もしくは楕円形を呈し、規模は0.40～0.50m、深さ0.15～0.25mを測る。遺物は柱穴から肥前系磁器や瓦が出土している。

#### 1-041溜桝 (図32・35・174・176、図版14・90・91)

1-1区の中央付近で検出した溜桝遺構で、南北に並ぶ二つの桝で構成される。北側の桝は、東西1.80m、南北0.80mの長方形で、壁は平瓦を立て並べている。本来は2段積み重ねていたと考えられ、深さは0.50mに復元できる。底には20～30cm程度の扁平な石を敷き並べていた。南側の桝は東西1.20m、南北1.00mの長方形で、壁は10～50cmの結晶片岩を7段以上横積みしており、深さは1.00mを測る。底には3～10cmの礫が敷かれていた。北側の桝の瓦列が南西隅で途切れていることから、北側桝で受けた排水などを南側の桝に落とす仕組みであった可能性がある。遺物は肥前系磁器(310)、京・信楽系陶器、備前焼、丹波焼、瓦類(T89・T118・T119)、鉄釘、動物遺存体(貝類)などが出土している。

#### 1-059土坑 (図32・174・178、図版14・90)

1-1区北東隅付近で検出した土坑で、平面形状は隅丸方形を呈する。規模は長さ1.10m、幅0.97m、深さ0.19mを測る。断面形状は船底状である。遺物は瓦類が比較的まとまって出土しており、肥前系磁器、京・信楽系陶器、土師質土器、瓦類(T70・T146)などがある。

#### 1-070土坑 (図33・35・36・182、図版62・93)

1-1区北西側で検出した土坑で、平面形状は隅丸長方形を呈する。規模は長さ2.00m、幅1.35m、深さ0.75mを測る。断面形状は逆台形であるが、断面観察の結果、東側が再掘削されていることが窺える。遺物は肥前系磁器(326～332)、瀬戸美濃系陶器(333)、在地系陶器(334)、堺・明石系陶器、土師質土器(335～337)、瓦質土器、瓦類、砥石(S24)、鉄釘、動物遺存体(貝類・鳥骨)などが出土している。

#### 2-037井戸 (図33・36・182・190、図版14・62)

2-1区西端で検出した井戸で、上部は攪乱によって削平されている。検出面での平面形状は楕円形を呈し、規模は東西1.90m×南北2.85mを測る。上部は砂礫で埋め戻されていた。上方では井戸側が確認できなかったが、下位で辛うじて井戸瓦が残存しており、本来の井戸側は上方まで井戸瓦を使用していたと考えられる。ただ、井戸内に瓦が落ち込んでいない状況から、廃棄時にほとんどの井戸瓦を抜いた可能性がある。井戸瓦の使用は標高0.20m付近までで、それより下位は木桶が2段以上積み重ねられていたが、標高-1.00m以下は崩落が著しく、最下部の状況は明らかでない。井戸側は井戸瓦部で直径0.80m、桶部で0.75m、確認した深さは検出面から4.40m以上となる。遺物は肥前系磁器(338)、肥前系陶器(339、340)、瀬戸美濃系陶器、京・信楽系陶器、堺・明石系陶器、備前焼、丹波焼、土師質土器(341)、瓦類、砥石(S14)、木製品曲物(W16)などが出土している。

#### 2-059井戸 (図33・36・185、図版15)

2-1区北側で検出した井戸で、検出面での掘形の形状は不整円形を呈する。規模は2.60m×2.50mで、井戸側の痕跡は直径約1.00mを測る。井戸側の構造は下部でも明確でなかったが、最終的な断割りで辛うじて木桶の痕跡を確認した。井戸瓦も出土しなかったことから、本来は上部まで木桶が積まれていたと判断できる。地表下3.40mとなる標高約0.00mまで掘り下げたが、井戸最下部まで到達しなかった。遺物は、井戸掘形から肥前系陶器(346)、丹波焼(347)、備前焼、瓦、煙管(M46)が、井戸側内から肥前系磁器、肥前系陶器、京・信楽系陶器、備前焼、瓦などが出土している。

## 2-072・086土坑（図34、図版15）

2-1区南西隅付近で検出した土坑である。

2-072土坑は平面形状が楕円形を呈し、規模は長さ4.20m、幅3.30m、深さ1.80mを測る。土層の堆積状況から、何度かの掘り直しを行っていると考えられ、遺物内容からも廃棄土坑であると考えられる。遺物は肥前系磁器（357～373）、肥前系陶器（375・377）、瀬戸美濃系陶器（376・378）、京・信楽系陶器（374）、堺・明石系陶器（379）、丹波焼（380・381）、土師質土器（382～385）、瓦質土器、土製品（386）、瓦（T3・T53・T69・T131・T136・T140）、砥石（S17）、煙管（M48）、不明鉄製品（M8）、銭貨（M103）、動物遺存体（魚骨）などが多量に出土している（図37・38・171・173・174・177・178・185・187、図版63・64・89・91・97）。

2-086土坑は2-037井戸と重複し、それより新しい。井戸側と重複するものでないことから、同時併存は可能であり、同一面の遺構と考えておきたい。平面形状は不整楕円形を呈し、規模は長さ1.80m、幅1.50m、深さ0.90mを測る。断面形状は船底状で、遺物は肥前系磁器（393～399）、肥前系陶器（401・402・404・405）、京・信楽系陶器（400）、丹波焼（403）、堺・明石系陶器（406・407）、土師質土器（408）、瓦質土器、土製品（409～414）、瓦類、硯（S1）、煙管（M37・M38・M42・M43・M47）、動物遺存体（魚骨・鳥骨）などが出土している（図38・39・182・185、図版64・93・96）。

## 2-061埋桶（図33）

2-1区の南西隅、2-072土坑の上面で検出した埋桶である。掘形の形状は円形で、規模は直径0.80m、残存する深さ0.10mを測る。桶は直径約0.70mで、腐朽した側板の痕跡を確認することができた。遺物は肥前系磁器、京・信楽系陶器、瀬戸美濃系陶器、土師質土器、土錘、瓦類のほか混入遺物として須恵器が出土している。

## 2-052・066・077・090埋桶（図34、図版15）

2-1区の西端で検出した埋桶群で、接近あるいは重複して位置する。どの埋桶も小規模で、集中することからも、単なる水溜めとかではなく、作業場などに設置された桶の可能性がある。

2-052埋桶は掘形の形状が円形で、規模は直径0.90m、残存する深さ0.25mを測る。直径約0.55mの桶を埋設したもので、腐朽した側板・底板の痕跡を確認することができた。遺物は肥前系磁器、肥前系陶器（345）、瀬戸美濃系陶器、土師質土器、瓦などが出土している（図36）。

2-068埋桶は2-066埋桶と重複し、それより新しい。また、2-090埋桶や他の遺構により西側・南側を削平される。掘形はやや不整形で、0.70m前後の掘形内に直径約0.50mの桶を埋設したもので、腐朽した桶の一部が残存していた。遺物は肥前系磁器、瓦質土器、土師質土器、瓦などが出土している。

2-077埋桶は北側に位置する2-068埋桶に後出し、西側を他の遺構により削平される。東側の約半分を検出したのみであるが、復元した直径は約0.55mを測る。平面では桶の痕跡を確認することができなかったが、断面から直径約0.45mの桶を埋設していたと考えられる。遺物は肥前系陶器、瓦などが出土している。

2-090埋桶は2-068埋桶と一部重複し、それに先行する。直径約0.55m、残存する深さ0.20mの掘形内に直径約0.40mの桶を埋設したもので、腐朽した桶の一部が残存していた。遺物は肥前系磁器、土師質土器、瓦などが出土している。



図31 1・2区 第3遺構面 検出遺構(1)



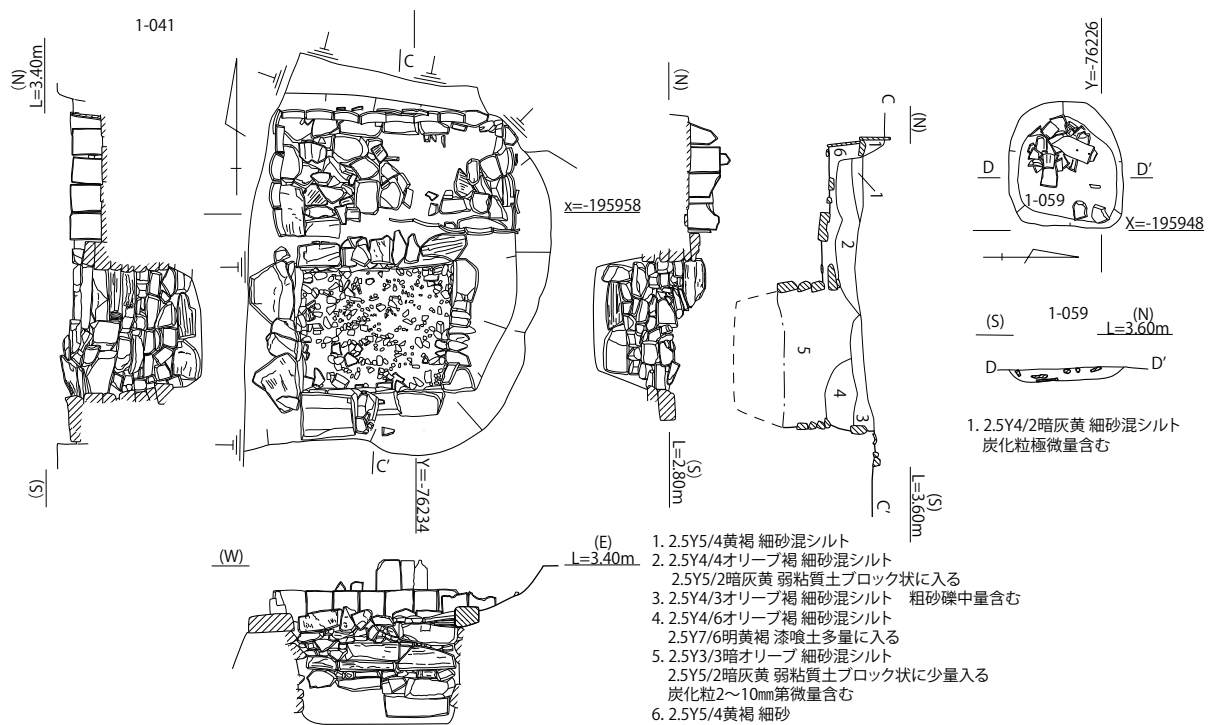
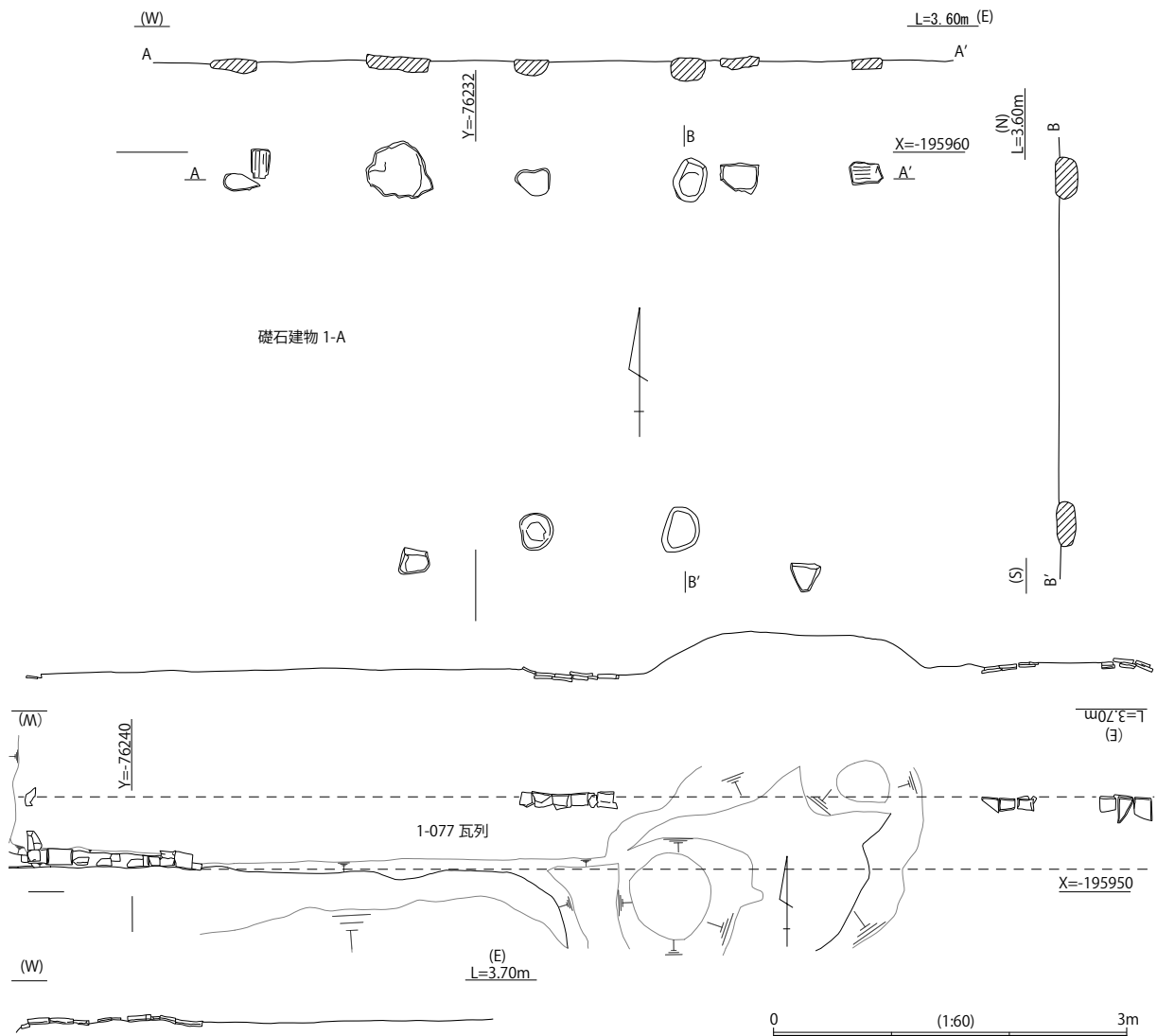


図32 1・2区 第3遺構面 検出遺構(2)

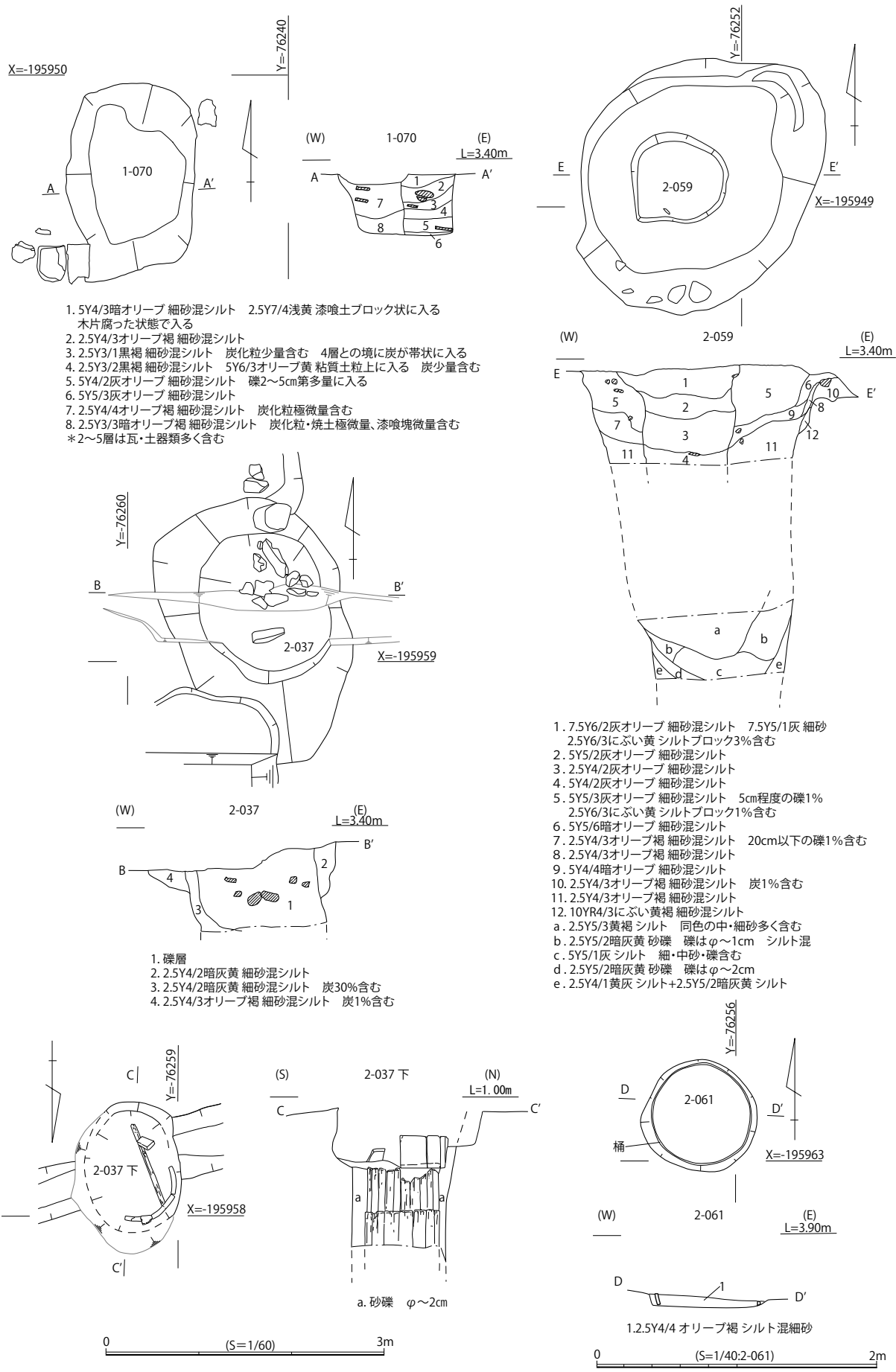
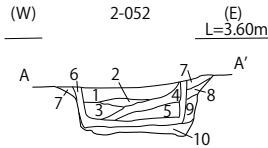
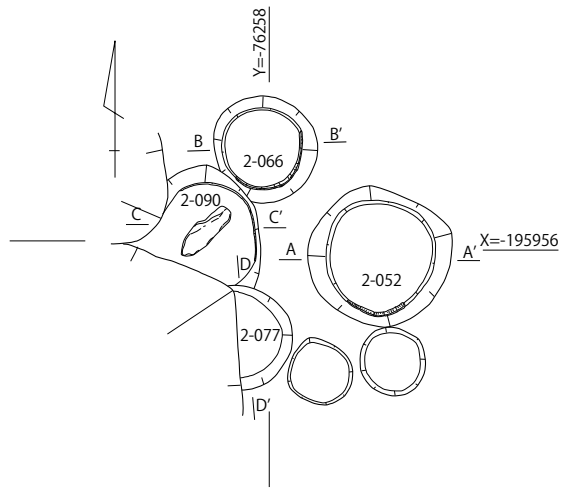
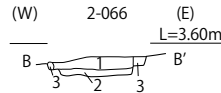


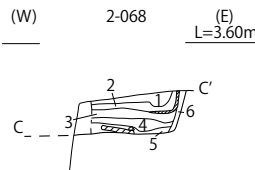
図 33 1・2区 第3遺構面 検出遺構(3)



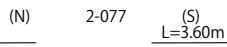
1. 5Y4/1灰 細砂混シルト 5Y5/1灰 細砂、5Y5/4オリーブ 細砂ブロック状に3%含む
2. 2.5Y4/3オリーブ褐 細砂混シルト
3. 5Y4/1灰 細砂混シルト 5Y5/1灰 細砂 7.5YR5/4にぶい褐 細砂位を50%含む
4. 5Y4/1灰 細砂混シルト 5Y5/1灰 細砂、5Y5/4オリーブ 細砂ブロック状に2%含む
5. 5Y4/1灰 細砂混シルト 5Y5/1灰 細砂 7.5YR5/4にぶい褐 細砂を50%含む
6. 2.5Y4/3オリーブ褐 細砂混シルト 桶の痕跡
7. 5Y4/1~5/1灰 細砂混シルト
8. 5Y4/3暗オリーブ 細砂混シルト
9. 5Y4/3灰オリーブ 細砂混シルト
10. 5Y5/1灰 細砂混シルト



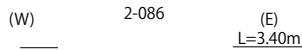
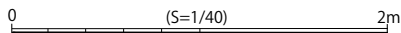
1. 2.5Y4/4オリーブ褐 シルト混細砂
2. 5Y5/1灰 シルト混細砂
3. 2.5Y4/2暗灰黄 シルト混細砂



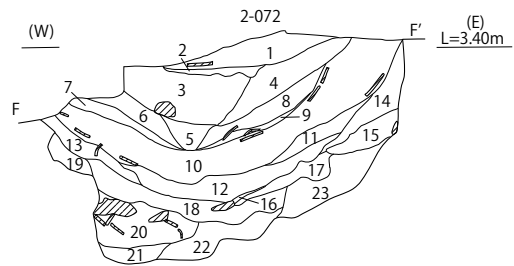
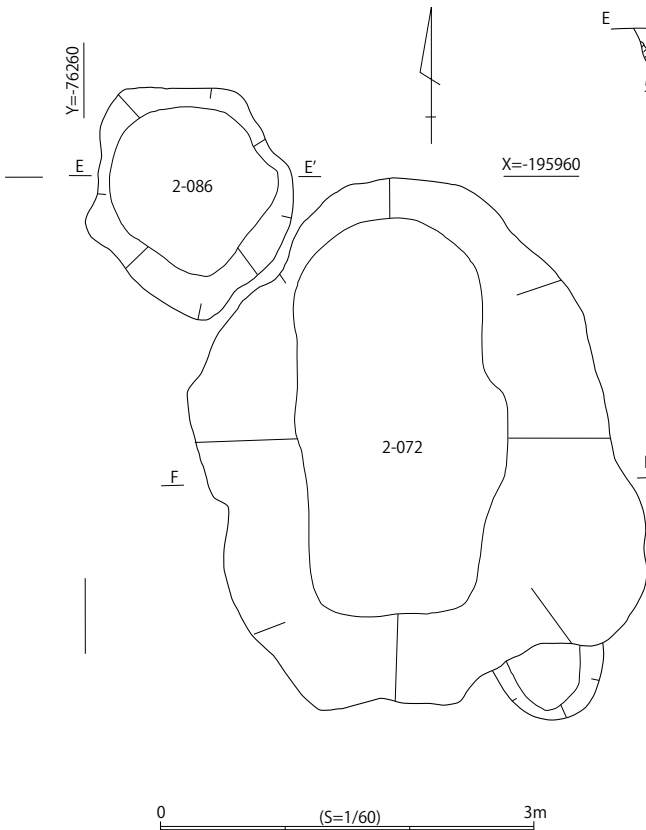
1. 5Y5/1灰 細砂混シルト
2. 5Y5/2灰オリーブ 細砂混シルト
3. 2.5Y4/3オリーブ褐 細砂混シルト(桶)
4. 5Y4/1灰 細砂混シルト
5. 5Y6/1灰 細砂混シルト
6. 5Y4/3暗オリーブ 細砂混シルト



1. 5Y6/6オリーブ 細砂混シルト
2. 2.5Y5/4黄褐 シルト混細砂
3. 2.5Y4/3オリーブ褐 シルト混細砂
4. 5Y6/6~6/8オリーブ シルト混細砂
5. 5Y5/1灰 シルト混細砂+5Y6/6オリーブ シルト混細砂をマール状に含む



1. 2.5Y3/2黒褐 細砂混シルト 炭2%含む
2. 2.5Y4/3オリーブ褐 細砂混シルト 炭2%含む
3. 2.5Y4/3オリーブ褐 細砂混シルト 炭1%含む
4. 2.5Y4/4オリーブ褐 細砂混シルト 炭1%含む
5. 2.5Y4/2暗灰黄 細砂混シルト 炭2%含む
6. 2.5Y4/3オリーブ褐 細砂混シルト 炭2%含む
7. 2.5Y4/3オリーブ褐 細砂混シルト



1. 2.5Y5/3オリーブ褐 細砂混シルト
2. 2.5Y5/2暗灰黄 細砂混シルト
3. 2.5Y5/3オリーブ褐 細砂混シルト 炭1%含む
4. 2.5Y4/2暗灰黄 細砂混シルト
5. 2.5Y4/3オリーブ褐 細砂混シルト 炭1%含む
6. 10Y5/2オリーブ灰 細砂混シルト
7. 10Y6/2オリーブ灰 細砂混シルト
8. 5Y4/3暗オリーブ 細砂混シルト 炭1%含む
9. 5Y4/2灰オリーブ 細砂混シルト 炭2%・焼土30%含む
10. 5Y4/2灰オリーブ シルト 瓦50%含む
11. 2.5Y4/3オリーブ褐 シルト 炭1%・焼土3%含む
12. 5Y4/2灰オリーブ シルト
13. 2.5Y3/3暗オリーブ褐 細砂混シルト
14. 2.5Y4/4オリーブ褐 細砂混シルト
15. 2.5Y5/4黄褐 シルト混細砂
16. 5Y4/2灰オリーブ シルト
17. 2.5Y5/3オリーブ褐 細砂混シルト 炭1%含む
18. 5Y4/1灰 細砂混シルト
19. 10YR4/3にぶい黄褐 細砂
20. 5Y4/2灰オリーブ シルト 瓦3%含む
21. 10YR4/3にぶい黄褐
22. 2.5Y4/3オリーブ褐 細砂混シルト
23. 2.5GY6/1オリーブ灰 シルトブロック50%含む 10YR4/4褐 細砂 2.5GY6/1オリーブ灰 シルトブロック30%含む

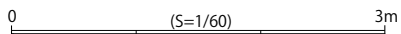


図34 1・2区 第3遺構面 検出遺構(4)

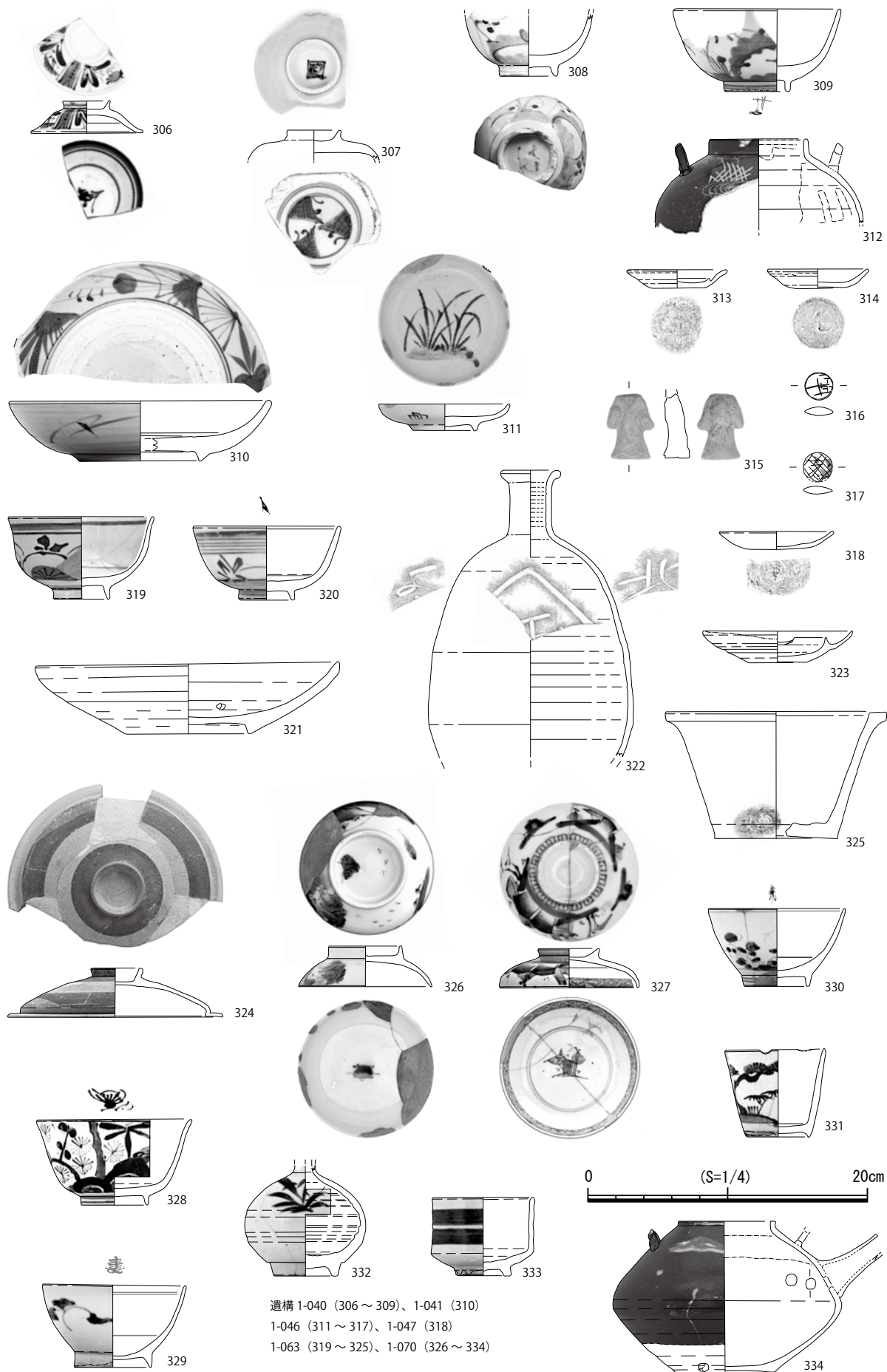
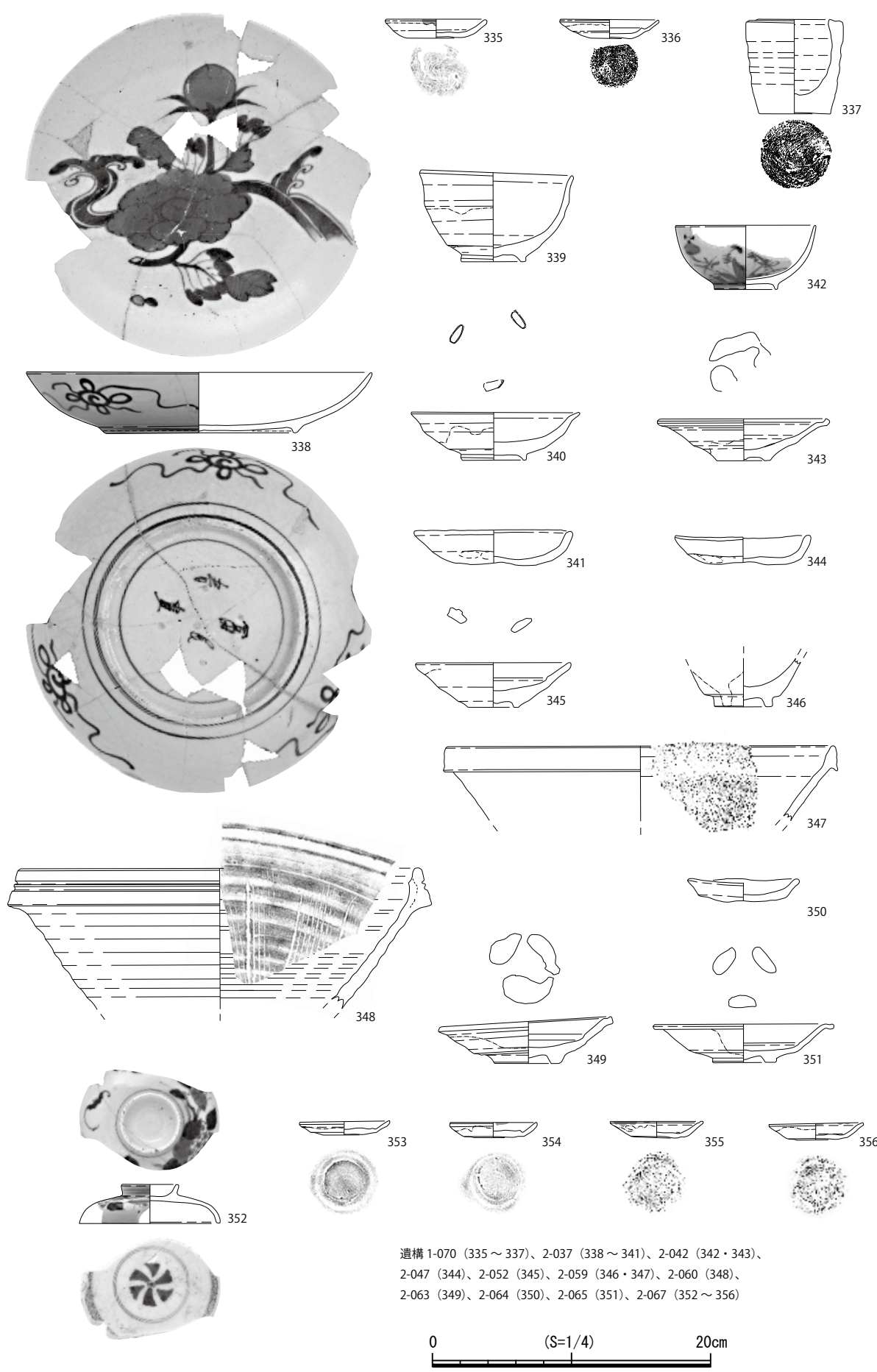


图 35 1·2区 第3遺構面 遺構出土土器 (1)



遺構 1-070 (335 ~ 337)、2-037 (338 ~ 341)、2-042 (342・343)、  
 2-047 (344)、2-052 (345)、2-059 (346・347)、2-060 (348)、  
 2-063 (349)、2-064 (350)、2-065 (351)、2-067 (352 ~ 356)

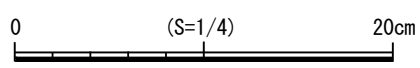


图 36 1・2区 第3遺構面 遺構出土土器 (2)



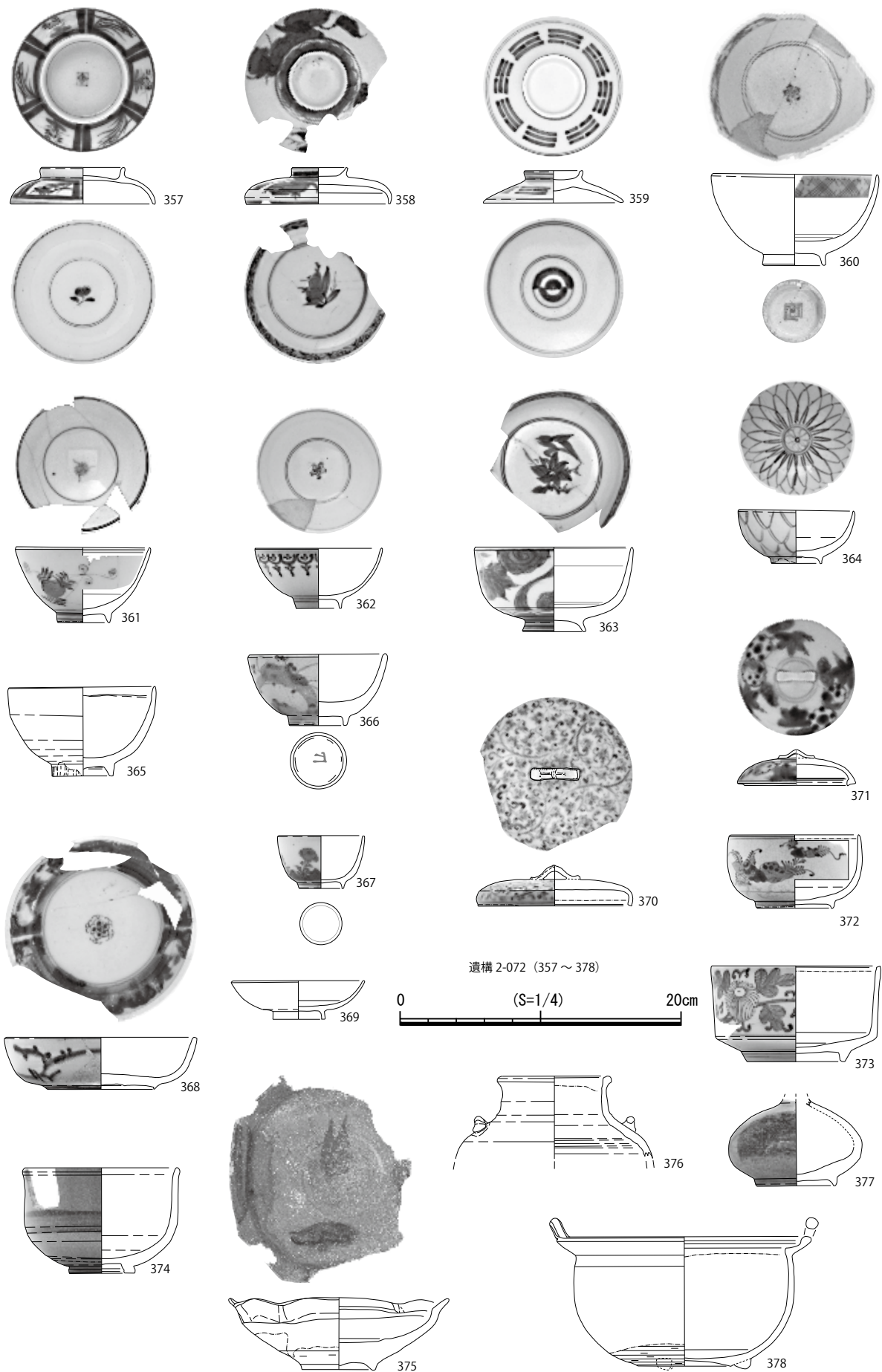


图 37 1·2区 第3遺構面 遺構出土土器 (3)

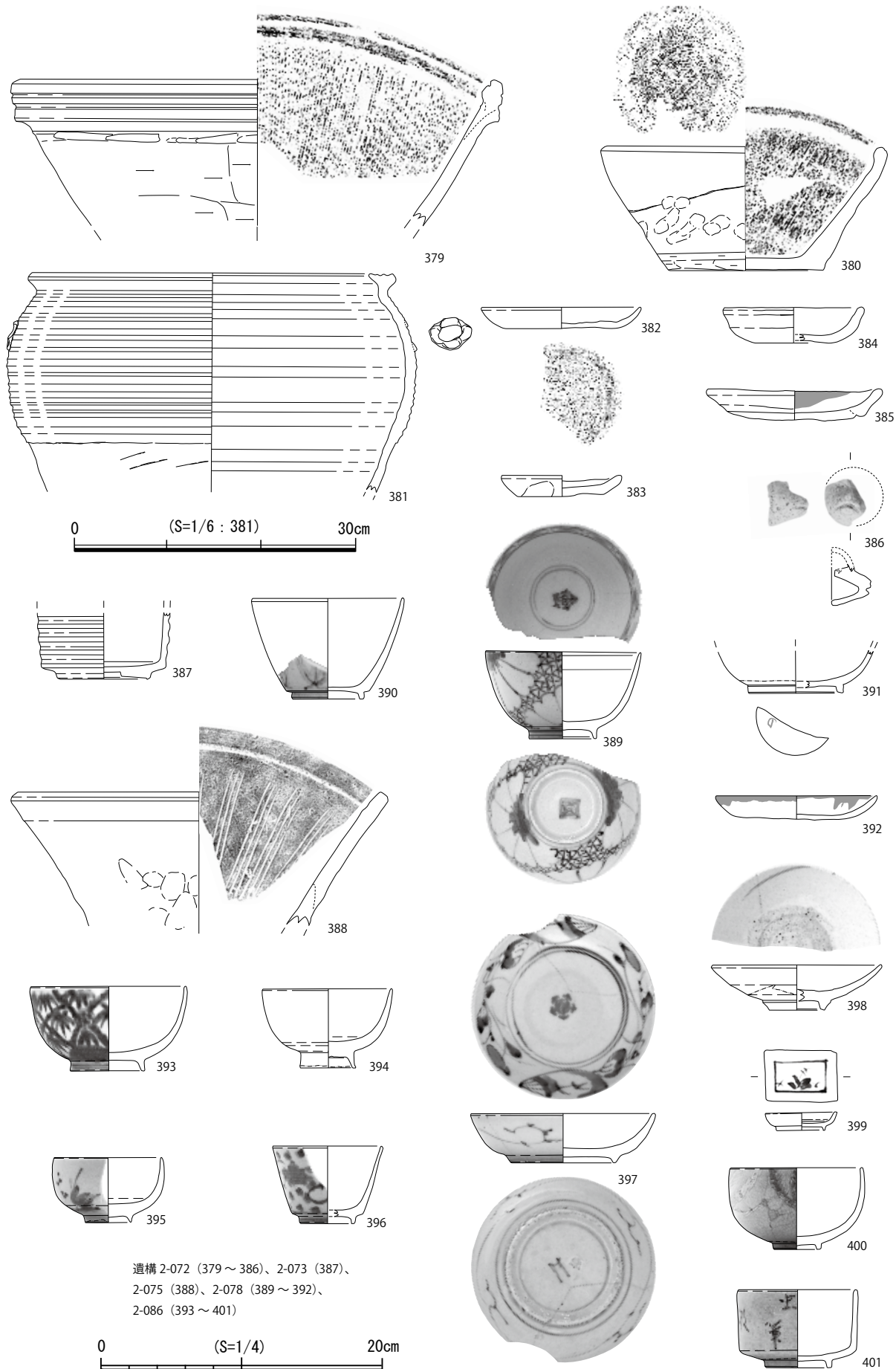


図 38 1・2区 第3遺構面 遺構出土土器 (4)

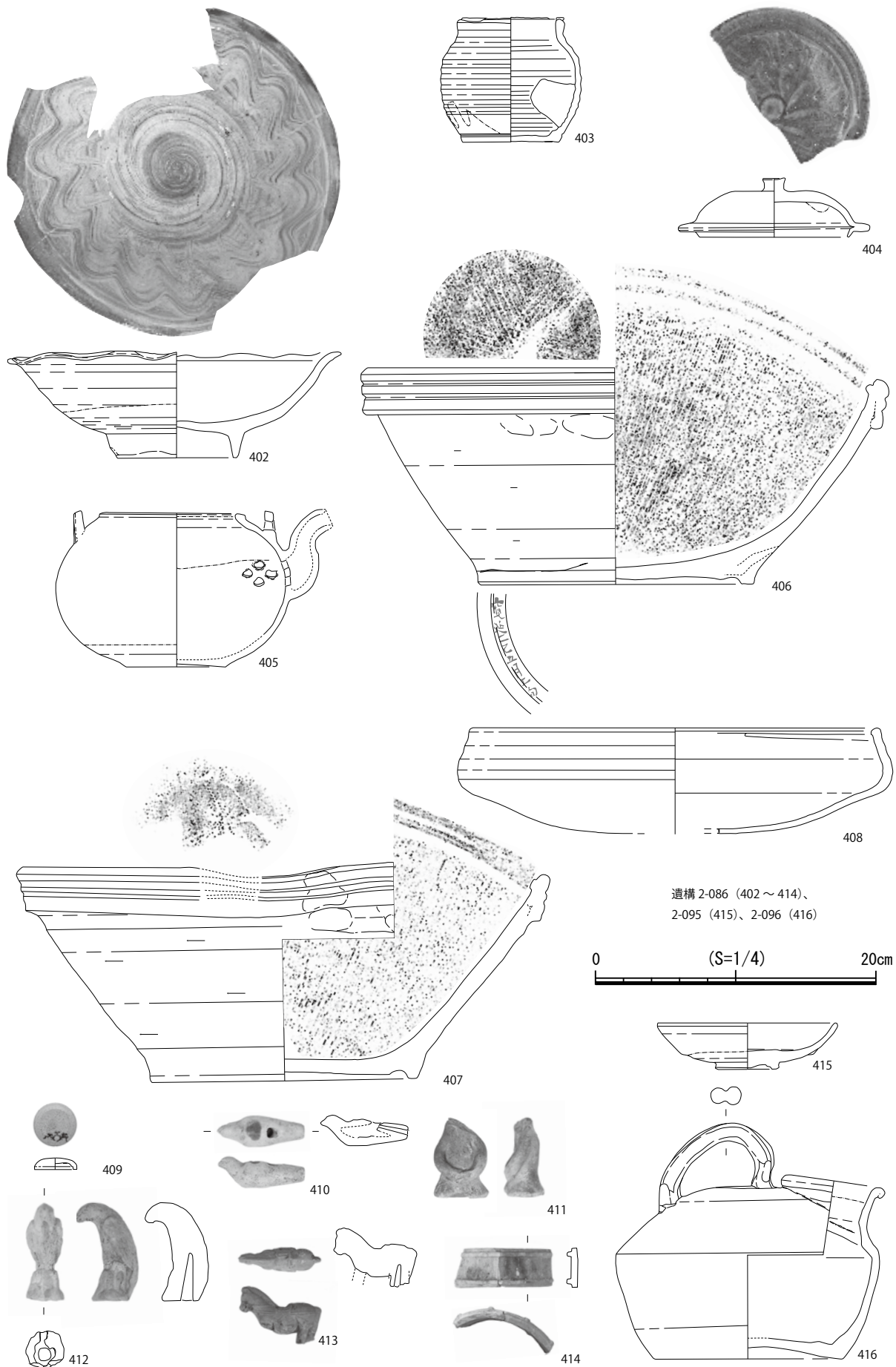


図 39 1・2区 第3遺構面 遺構出土土器 (5)

5 第4-1遺構面の遺構（図40・82・83・177・185・188、図版4・70・91・96・98）

17世紀頃の遺構面であると考えられる。検出した遺構には、井戸・土坑・石組溝などがある。2-1区付近は第3遺構面と第4-1遺構面の高さが同じであり、また、第3遺構面で検出している礎石建物2-Aもこの面から存在していた可能性がある。遺構面上の整地土や遺構検出時に出土した遺物には、肥前系磁器（773）、肥前系陶器（778～783）、瀬戸美濃系陶器（774～777）、丹波焼（784）、土師質土器（785～792）、瓦質土器（793）、土製品（794）、瓦類（T135）、煙管（M41）、銭貨（M158）などがある。

1-068井戸（図41・46・179・185、図版15・64・92・95）

1-1区南西隅で検出した井戸で、掘形は平面形状が隅丸方形を呈し、規模は約4.30m四方である。井戸側は井戸瓦を積んだもので、直径0.95mを測る。一段あたり12枚の井戸瓦を用いて、上下の目地が揃わないように積み上げていた。上位の井戸瓦は落ち込んでいたが、下位の5段が残存していた。井戸瓦の下部は直径0.95m、高さ0.50mの桶を置いているが、沈んだためか、井戸瓦との間に約0.20mの隙間が存在していた。断割りで、桶は1段のみ検出したが、それ以下については崩壊が著しく、基底部まで掘り下げることができなかった。検出面から3.70m掘り下げ、確認した最深部は標高-0.50mである。遺物は中国製磁器、肥前系磁器、肥前系陶器（418・421・422）、瀬戸美濃系陶器（417・419・420）、丹波焼（423）、瓦質土器（424）、土師質土器（425～427）、瓦類（T148）、小刀（M3）、煙管（M35）などが出土している。

1-082土坑（図42・46・174・185、図版65・95）

1-1区東側で検出した土坑で、平面形状は楕円形を呈する。規模は長さ2.00m、幅1.65m、深さ0.93mで、底は東側が深くなる。断面形状はU字状を呈する。遺物は肥前系磁器（430～432）、肥前系陶器（433）、瀬戸美濃系陶器、備前焼、土師質土器（434～436）、瓦質土器、瓦類（T81）、鉄釘・鉄鎌（M10）、火打金（M11）、目録釘（M17）などが出土している。

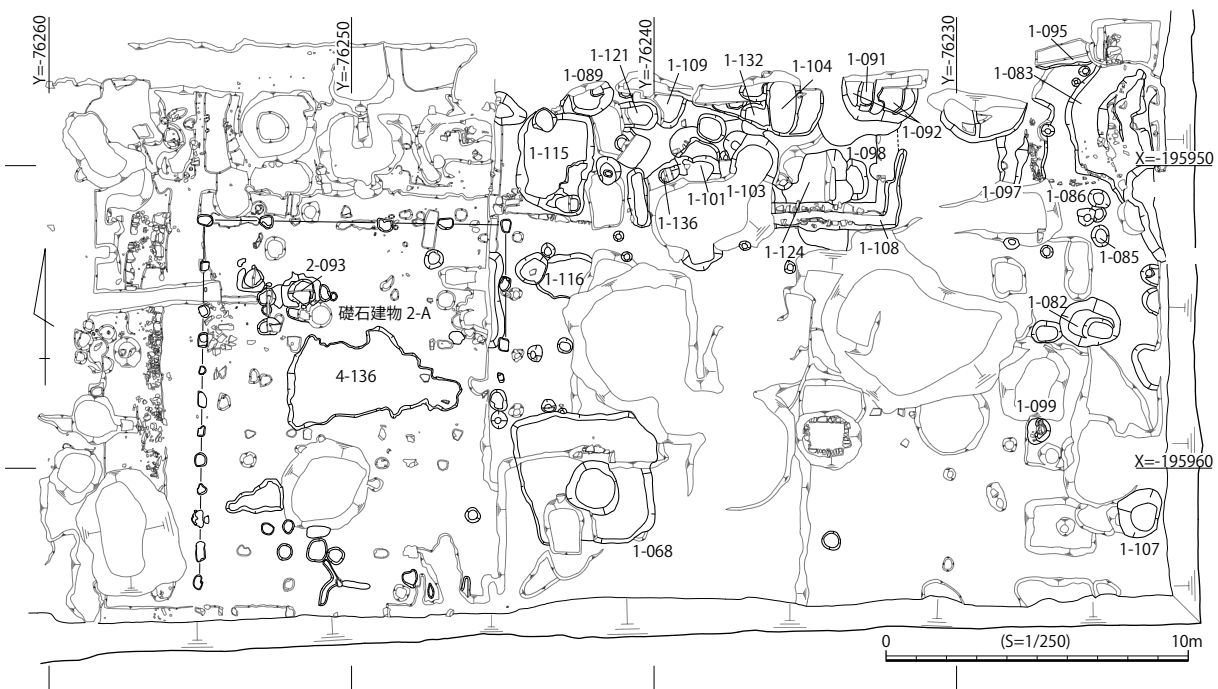


図40 1・2区 第4-1遺構面 全体図

### 1-083土坑 (図41・47・48・171・185・188、図版65・95・98)

1-1区北東部で検出した土坑で、平面形状は不整形を呈し、北側は攪乱により削平される。規模は長さ4.60m以上、幅2.65m、深さ1.00mを測る。底面は凹凸が著しい。埋土には20～50cm大の礫が多く混入するが、下位の1-150石組遺構の石材の可能性もある。遺物は中国製磁器(441)、肥前系磁器(437～440・442～444)、肥前系陶器(445～449、452、454～459)、瀬戸美濃系陶器(450・451・453・460～462)、京・信楽系陶器(463)、産地不明陶器(464)、備前焼(465・466)、丹波焼(467)、土師質土器(468～471)、瓦質土器(472)、土器転用面子(473～476)、瓦類(T7)、不明鉄製品(M13)、銭貨(M146)、鉄釘、煙管、鉤状銅製品、溶解物などが出土している。

### 1-091・092土坑 (図42、図版15)

1-1区北側の中央付近で検出した土坑で、北側が攪乱により削平される。検出時には明らかにできなかったが、二つの土坑が重複し、1-092土坑が埋まった後に1-091土坑が掘削されている。

1-091土坑は断面形状が長楕円形を呈していたと考えられ、長さ1.20m以上、幅1.15m、深さ1.70mを測る。断面形状はV字状を呈する。遺物は肥前系磁器(485～489)、肥前系陶器、瀬戸美濃系陶器、備前焼(490)、土師質土器(491・492)、瓦質土器(493)、瓦類(T82)、鉄釘、鉄塊などが出土している(図49・174、図版66)。

1-092土坑は断面形状が楕円形を呈していたと考えられ、規模は長さ2.50m、幅1.20m以上、深さ1.20mを測る。断面形状は深い船底状を呈し、底付近には10cm前後の礫が詰まっていた。遺物は瀬戸美濃系陶器、丹波焼、土師質土器(494)、瓦類などが出土している(図49、図版66)。

### 1-089・109・115・121・125土坑 (図44、図版16)

1-1区の北西隅付近で検出した土坑群で、隣接または重複する。

1-089土坑は北側が攪乱により削平される。平面形状は楕円形を呈すると考えられ、長さ1.45m、幅1.00m以上、深さ0.85mを測る。断面形状は船底状を呈する。遺物は肥前系磁器(479)、肥前系陶器(481)、瀬戸美濃系陶器(480)、産地不明陶器(482)、土師質土器(483・484)、瓦類、煙管(M45)などが出土している(図48・185、図版65・66)。

1-109土坑は重複する1-121土坑に先行する。北側が攪乱によって削平され、また、複数の遺構と重複することで全容が明らかでない。規模は長さ1.07m以上、幅1.00m、深さ0.55mを測る。遺物は肥前系磁器、肥前系陶器、瀬戸美濃系陶器、瓦類(T4)などが出土している(図171、図版88)。

1-115土坑は平面形状が隅丸長方形を呈し、いくつかの柱穴などと重複する。規模は長さ3.20m、幅2.40m、深さ0.77mを測る。断面形状は船底状で、底面は平坦である。遺物は肥前系磁器、肥前系陶器(541)、瀬戸美濃系陶器、土師質土器、瓦類(T5)などが出土している(図51・171、図版66)。

1-121土坑は重複する1-109土坑に後出し、西側が攪乱によって削平される。平面形状は楕円形を呈していたと考えられ、長さ1.20m以上、幅0.85m、深さ0.42mを測る。断面形状はU字状を呈する。遺物は中国製磁器、肥前系磁器、肥前系陶器、備前焼、土師質土器(543・544)、瓦類などが出土している(図51)。



1-125土坑は西側が攪乱によって削平されるが、平面形状は隅丸方形を呈していたと考えられる。規模は長さ1.10m、幅0.85m以上、深さ0.64mを測る。断面は中央部が深く二段落ちしている。遺物は肥前系陶器、備前焼、土師質土器、瓦類などが出土している。

#### 1-097土坑（図41・50、図版66）

1-1区北東隅付近で、1-083土坑の西側で検出した土坑である。北側を別遺構で、南側を攪乱で削平される。規模は長さ2.90m以上、幅1.67m、深さ0.46mを測る。断面形状は船底状を呈する。埋土には20～30cm程度の多くの礫が混入していた。遺物は肥前系磁器、肥前系陶器（504・505）、瀬戸美濃系陶器（503）、備前焼、土師質土器（506～510）、瓦質土器、瓦類、鉄釘などのほか動物遺存体（貝類）が出土している。

#### 1-101・103土坑（図42、写真5）

1-1区北側の中央付近で検出した土坑群で、それぞれがいくつかの遺構と重複し、南側が攪乱を受けて削平される。

1-101土坑は西側で1-140柱穴と重複し、それより新しい。平面形状が不整円形で、規模は長さ1.45m以上、幅1.35m、深さ0.80mを測る。断面形状は逆台形を呈する。遺物は信楽焼（514）、土師質土器（515～517）などのほか、混入遺物として須恵器が出土している（図50）。

1-103土坑は平面形状が不整円形を呈すると考えられ、規模は1.55m、幅1.45m以上、深さ0.96mを測る。断面形状は逆台形を呈する。遺物は中国製磁器、肥前系陶器（518）、瀬戸美濃系陶器、備前焼（519）、土師質土器（520～532）、瓦類、刀子（M4）、鉄釘などのほか動物遺存体（貝類）が出土している（図50・185、図版66・95）。

#### 1-104・132土坑（図42・43）

1-1区北側の中央付近で検出した土坑群である。

1-104土坑は1-132土坑と重複し、それより新しい。北側が攪乱により削平され、全容は明らかでない。規模は長さ4.30m、幅1.80m以上を測る。東寄りで土坑状に一段深くなった箇所があり、深さはその底で1.10mを測る。遺物は中国製磁器、肥前系磁器、肥前系陶器、瀬戸美濃系陶器、軟質施釉陶器（533）、備前焼（534）、土師質土器（535）、鞆羽口（536）、瓦類などが出土している（図50、図版66）。

1-132土坑は1-104土坑によって北側を削平されるが、1-104土坑の底で形状を確認することができた。平面形状は隅丸方形で、規模は長さ1.05m、幅0.80m、深さ0.60mを測る。断面形状はU字状を呈する。遺物は土師質土器（561・562）、鉄釘が出土している（図51）。

#### 1-107土坑（図43・51・174、図版66・90）

1-1区の南東隅付近で検出した土坑で、西側の肩部付近を攪乱により削平される。平面形状は不整楕円形で、規模は長さ1.73m、幅1.40m、深さ0.84mを測る。断面形状はV字状を呈する。遺物は中国製磁器（537）、肥前系磁器（538）、瀬戸美濃系陶器、備前焼、土師質土器（539・540）、瓦類



写真5 1-101・103土坑断面（南から）



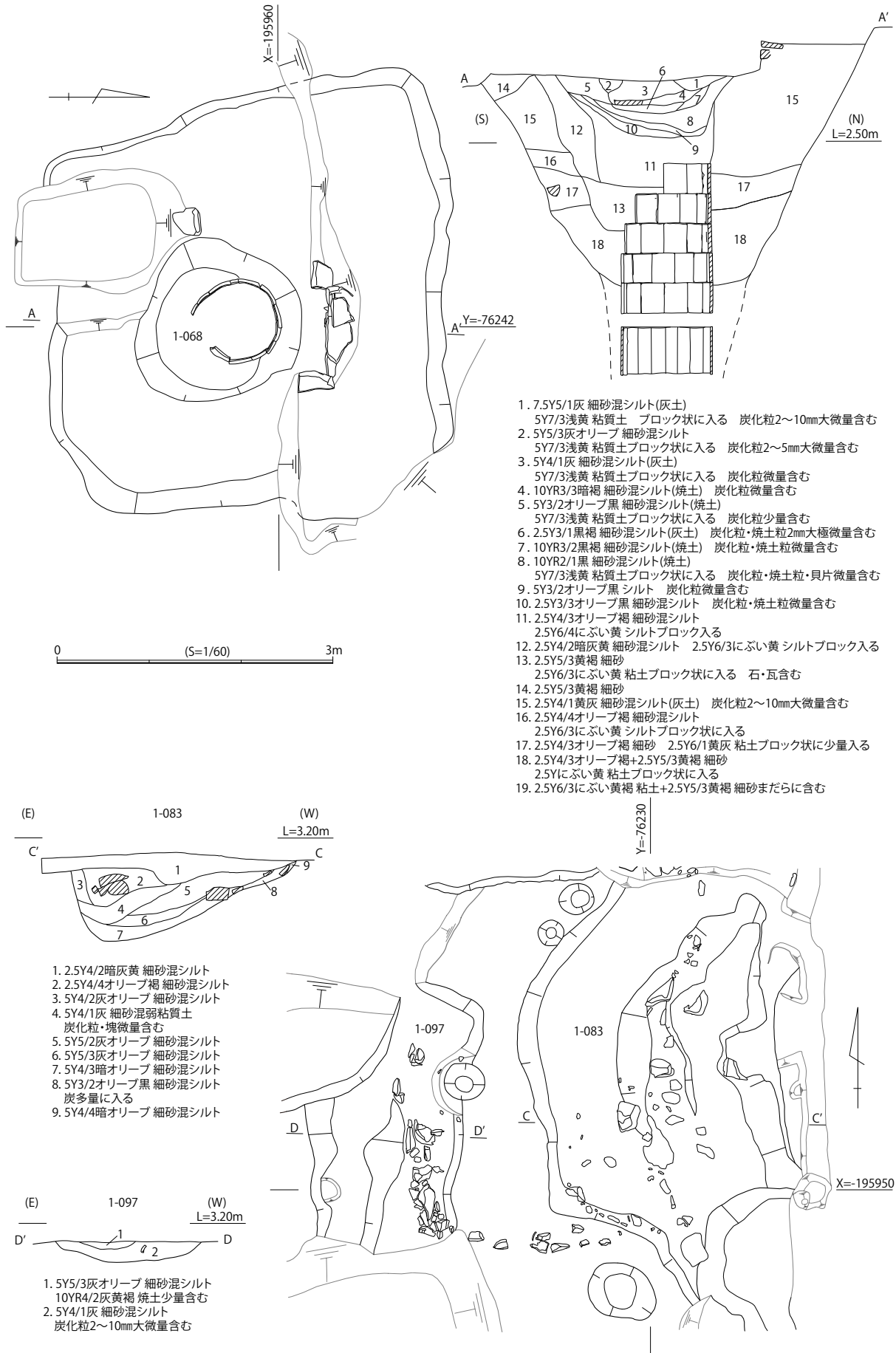


図41 1・2区 第4-1遺構面 検出遺構(1)

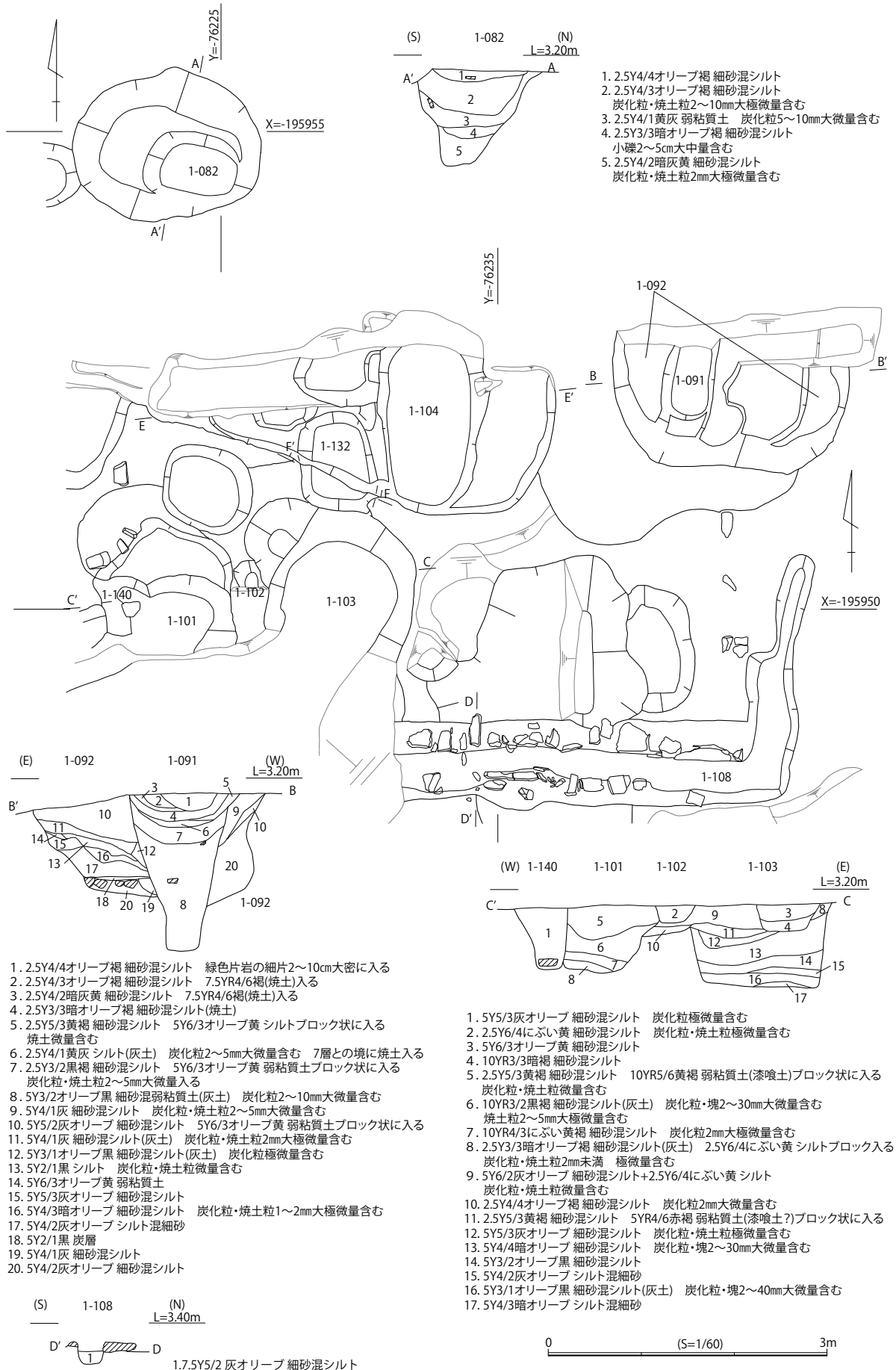


図42 1・2区 第4-1遺構面 検出遺構(2)

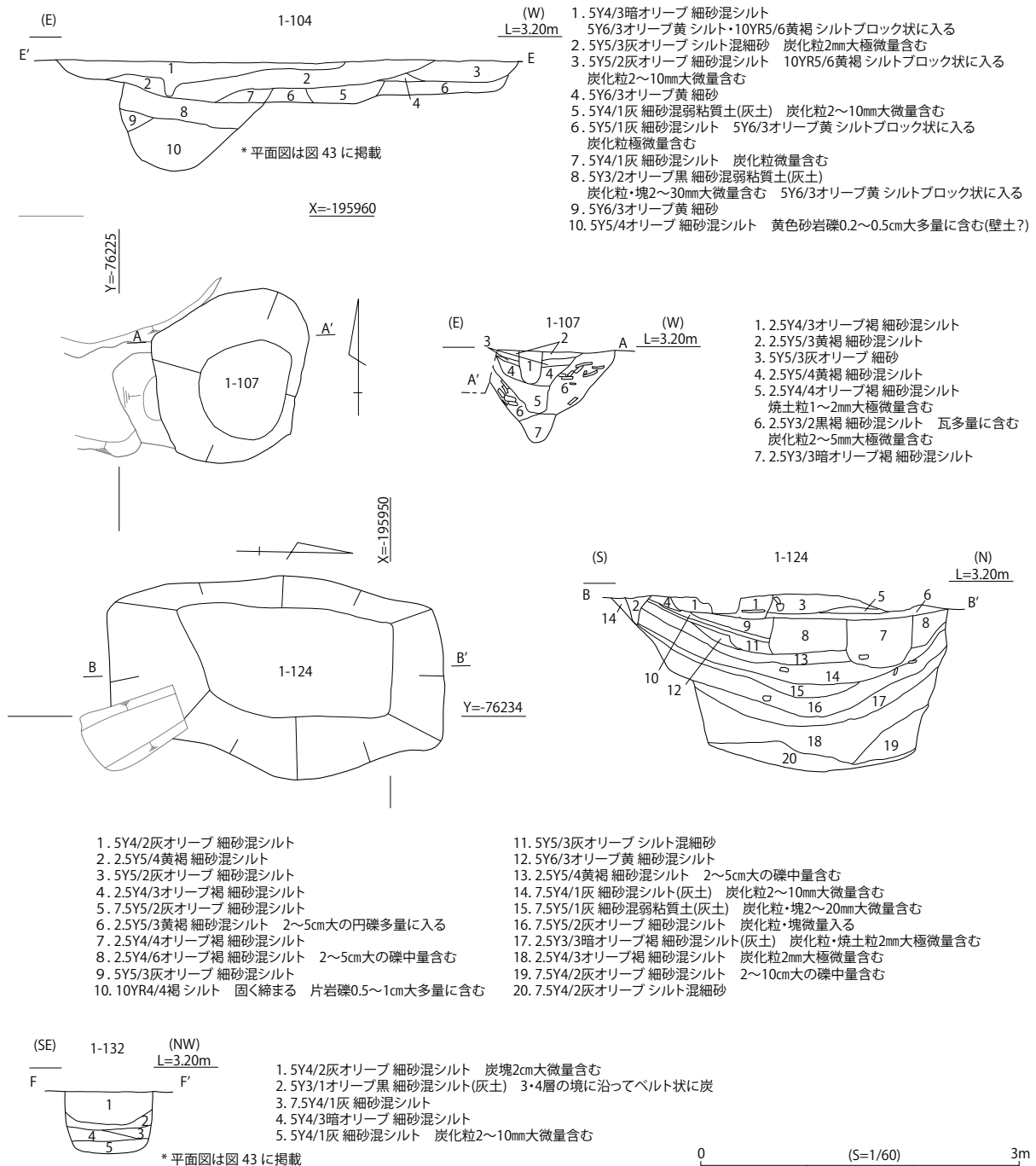


図43 1・2区 第4-1遺構面 検出遺構(3)

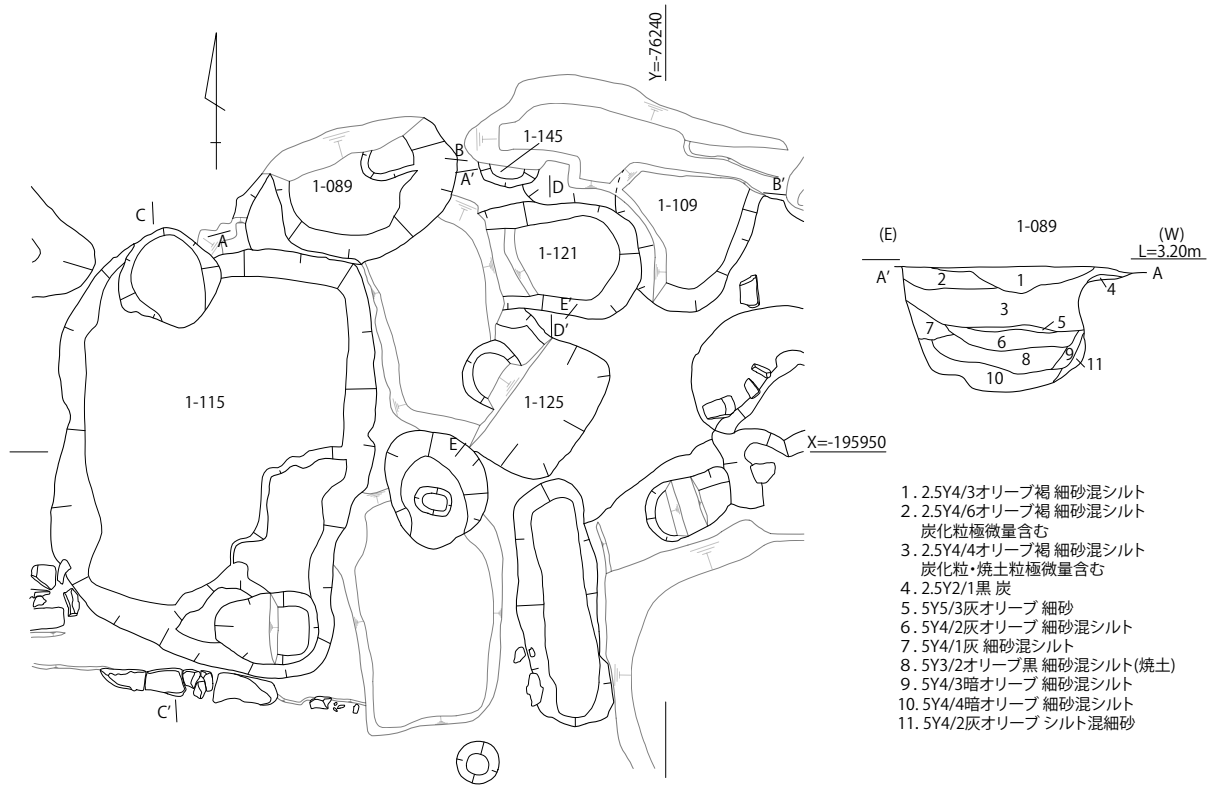
(T84)、硯、鉄釘、不明鉄製品などのほか、動物遺存体(貝類)が出土している。

### 1-108石組溝(図42、図版15)

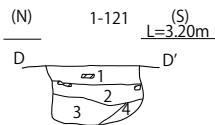
1-1区の北側中央付近で検出した石組溝で、西側は攪乱により削平される。東西方向に約7.00m伸び、東側で北方向にほぼ直角に折れ4.30m伸びている。石材は10~50cmの結晶片岩で、多くが抜き取られていた。溝の規模は幅0.25m、深さ0.20mを測る。遺物は肥前系磁器、土師質土器、瓦類などが出土している。

### 1-124土坑(図43・51・171・174・185、図版15・66・88・95)

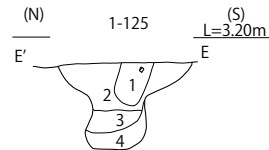
1-1区北側で検出した土坑で、上面を1-108石組溝が切り込んでいる。第4-1遺構面で検出し



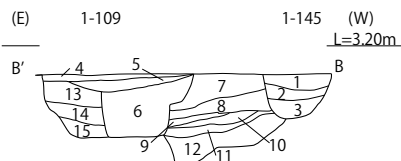
1. 2.5Y4/3オリーブ褐 細砂混シルト
2. 2.5Y4/6オリーブ褐 細砂混シルト 炭化粒極微量含む
3. 2.5Y4/4オリーブ褐 細砂混シルト 炭化粒・焼土粒極微量含む
4. 2.5Y2/1黒炭
5. 5Y5/3灰オリーブ 細砂
6. 5Y4/2灰オリーブ 細砂混シルト
7. 5Y4/1灰 細砂混シルト
8. 5Y3/2オリーブ黒 細砂混シルト(焼土)
9. 5Y4/3暗オリーブ 細砂混シルト
10. 5Y4/4暗オリーブ 細砂混シルト
11. 5Y4/2灰オリーブシルト混細砂



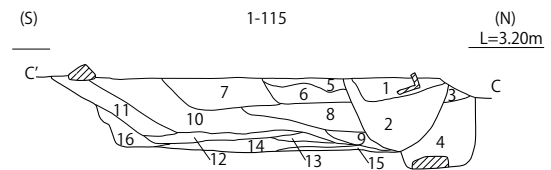
1. 10YR4/2灰黄褐 細砂混シルト
- 10Y5/1灰シルト混
2. 2.5Y4/1黄灰 細砂混弱粘質土(灰土)
- 2.5Y6/3にぶい黄シルトベルト状に入る 炭・焼土含む
3. 2.5Y4/4オリーブ褐 細砂混シルト
4. 2.5Y5/2暗灰黄 細砂混シルト



1. 5Y5/3灰オリーブ 細砂混シルト 2~5cm大の小礫少量含む
2. 5Y5/2灰オリーブ 細砂混シルト
3. 7.5Y5/2灰オリーブ 細砂混シルト
4. 7.5Y4/2灰オリーブ 細砂混シルト



1. 5Y5/3灰オリーブ 細砂混シルト
2. 5Y5/2灰オリーブシルト混細砂
3. 5Y4/2灰オリーブ 細砂混シルト
4. 2.5Y4/3オリーブ褐 細砂混シルト
5. 2.5Y3/3暗オリーブ褐 細砂混シルト
6. 2.5Y3/2黒褐 細砂混シルト
- 5YR4/6赤褐 弱粘質土(漆喰土)ブロック状に微量 炭化粒2mm大微量含む
7. 2.5Y4/2暗灰黄 細砂混シルト
- 7.5YR5/6明褐 弱粘質土(漆喰土?)ブロック状に入る
8. 5Y3/2オリーブ黒 細砂混シルト 炭化粒2~5mm大微量含む
9. 5Y3/1オリーブ黒炭層
10. 5Y4/2灰オリーブシルト混細砂
11. 5Y2/1黒炭層
12. 5Y4/3暗オリーブ 細砂混シルト
- 5YR4/6赤褐 弱粘質土(漆喰土?)ブロック状に微量入る
13. 5Y5/2灰オリーブ 細砂混シルト
14. 5Y4/2灰オリーブ 細砂混シルト 炭ベルト状に入る
- 5YR4/6赤褐 弱粘質土粒状に微量含む
15. 5Y5/3灰オリーブ 細砂混シルト



1. 5Y4/1灰 細砂混弱粘質土
2. 5Y4/2灰オリーブ 細砂混シルト 炭化粒2~5mm大微量含む
3. 2.5Y5/3黄褐 細砂混シルト
4. 2.5Y4/3オリーブ褐 細砂混シルト 炭化粒2~10mm大極微量含む
5. 2.5Y4/4オリーブ褐 細砂混シルト
6. 2.5Y4/1黄灰 細砂混弱粘質土(灰土) 炭化粒少量含む
7. 5Y5/3灰オリーブ 細砂混シルト 10YR5/6黄褐・5Y6/3オリーブ黄粘土ブロック状に入る 炭化粒2~10mm大極微量含む
8. 5Y5/2灰オリーブ 細砂混シルト
9. 5Y6/2灰オリーブ 細砂混シルト
10. 5Y6/3オリーブ黄 細砂混シルト 10YR5/6黄褐粘土ブロック状に入る
11. 7.5Y5/2灰オリーブ 細砂混シルト 2.5Y6/4にぶい黄粘土ブロック状に入る
12. 7.5Y5/1灰粘土
13. 2.5Y4/3オリーブ褐 細砂混シルト
14. 2.5Y4/4オリーブ褐シルト混細砂 一部7.5Y5/2灰オリーブ粘土混
15. 2.5Y3/3暗オリーブ褐 細砂混粘土
16. 2.5Y4/6オリーブ褐 細砂混シルト 2.5Y6/4にぶい黄粘土ブロック状に入る

0 (S=1/60) 3m

図44 1・2区 第4-1遺構面 検出遺構(4)

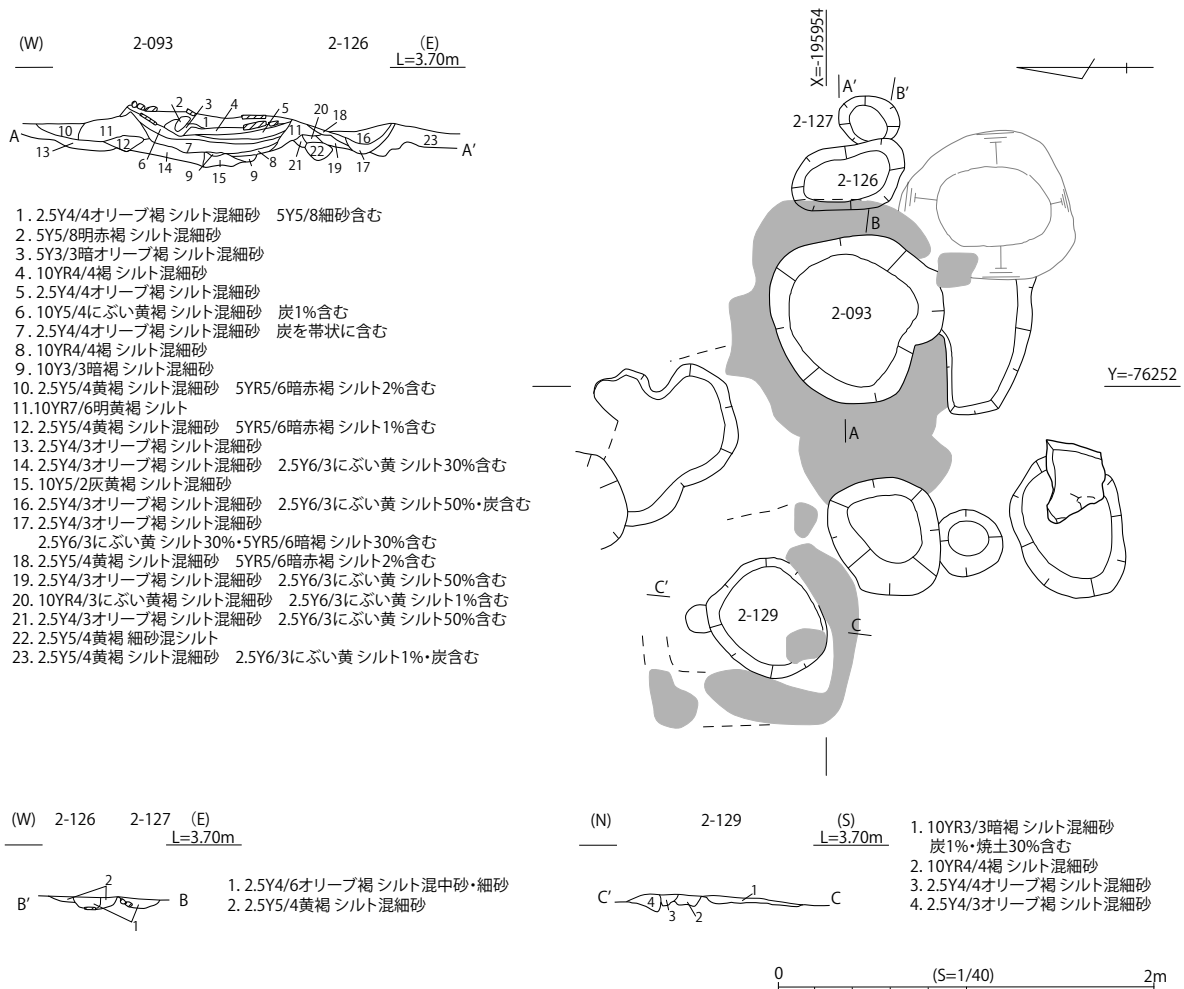


図45 1・2区 第4-1遺構面 検出遺構(5)

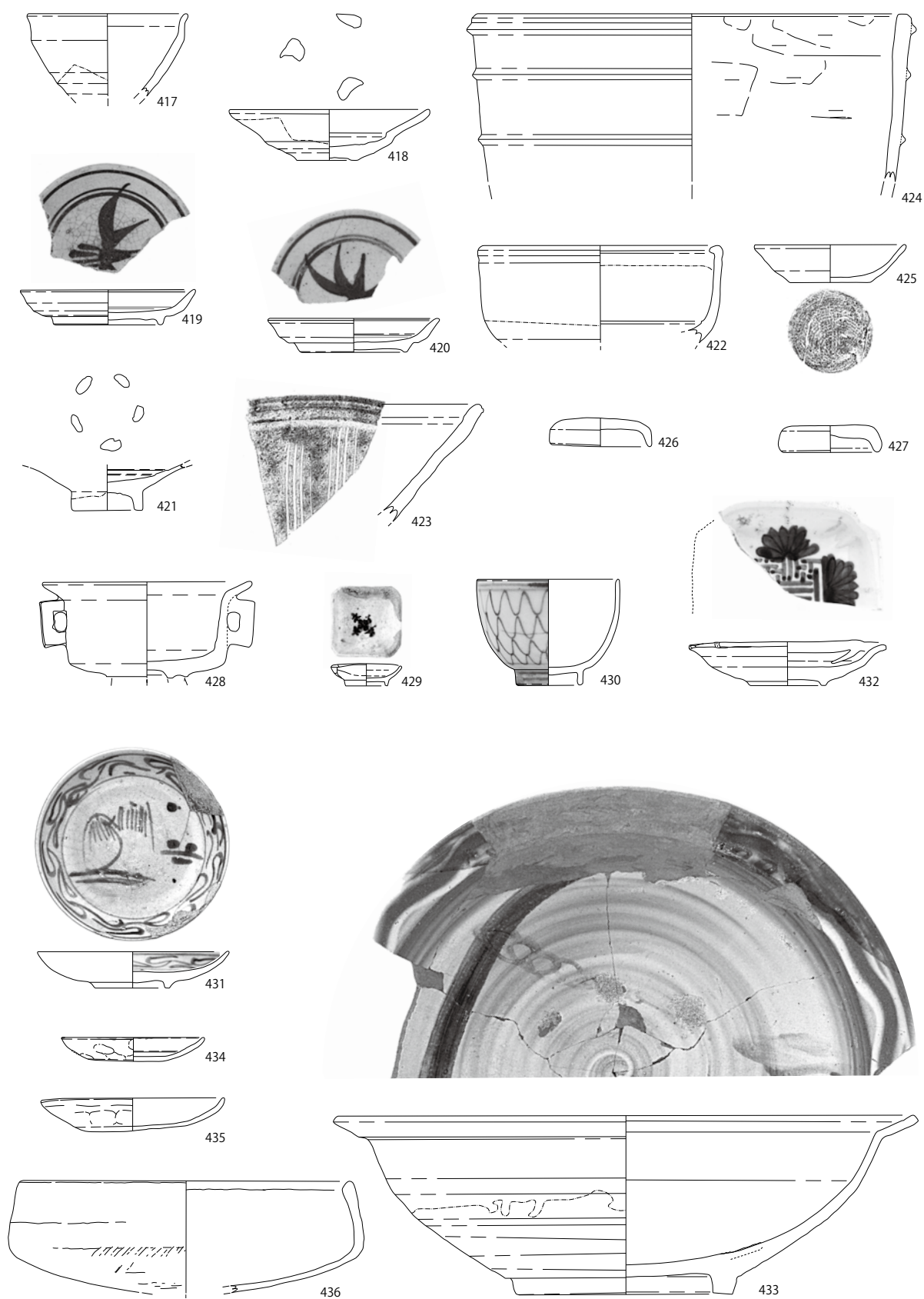
ているが、輪郭が明確でなかったことから本来は第4-2面の遺構とする方がよいかもしい。平面形状は南北に長い隅丸方形を呈し、規模は長さ3.20m、幅1.70m、深さ1.65mを測る。断面形状は逆台形である。遺物は中国製磁器、肥前系磁器、肥前系陶器(545~547・552)、瀬戸美濃系陶器(548~551)、備前焼、丹波焼、土師質土器(553~560)、瓦類(T6・T10・T88)、砥石、鉄釘、銅製箸(M21)、煙管(M34)、不明鉄製品などのほか動物遺存体(サンゴ)が出土している。

#### 2-093・129土坑(図45、図版16)

2-1区中央付近で検出した焼土面を伴う土坑群で、竈の基底の可能性もある。

2-093土坑は平面形状が不整円形を呈し、0.95m×0.90mで深さ0.25mを測る。土坑の周りには広く焼土面が確認されている。土坑内には複数の焼土面が積み重なっている可能性があるが、上部構造は明らかでない。遺物は肥前系磁器(563・564)、肥前系陶器、備前焼(565)、土師質土器(566)、瓦質土器、瓦類、煙管(M40)などのほか動物遺存体(貝類)が出土している(図51・185・図版96)。

2-129土坑は掘削後の形状は楕円形で、0.60m×0.55m、深さ0.10mを測る。断面精査から、数回にわたって掘削されていると考えられる。土坑南側の周囲には焼土面が確認できるが、本来は全周するように存在していた可能性がある。遺物は出土していない。



遺構 1-068 (417 ~ 427)、1-081 (428 · 429)、1-082 (430 ~ 436)

0 (S=1/4) 20cm

图 46 1·2区 第4-1遺構面 遺構出土土器(1)



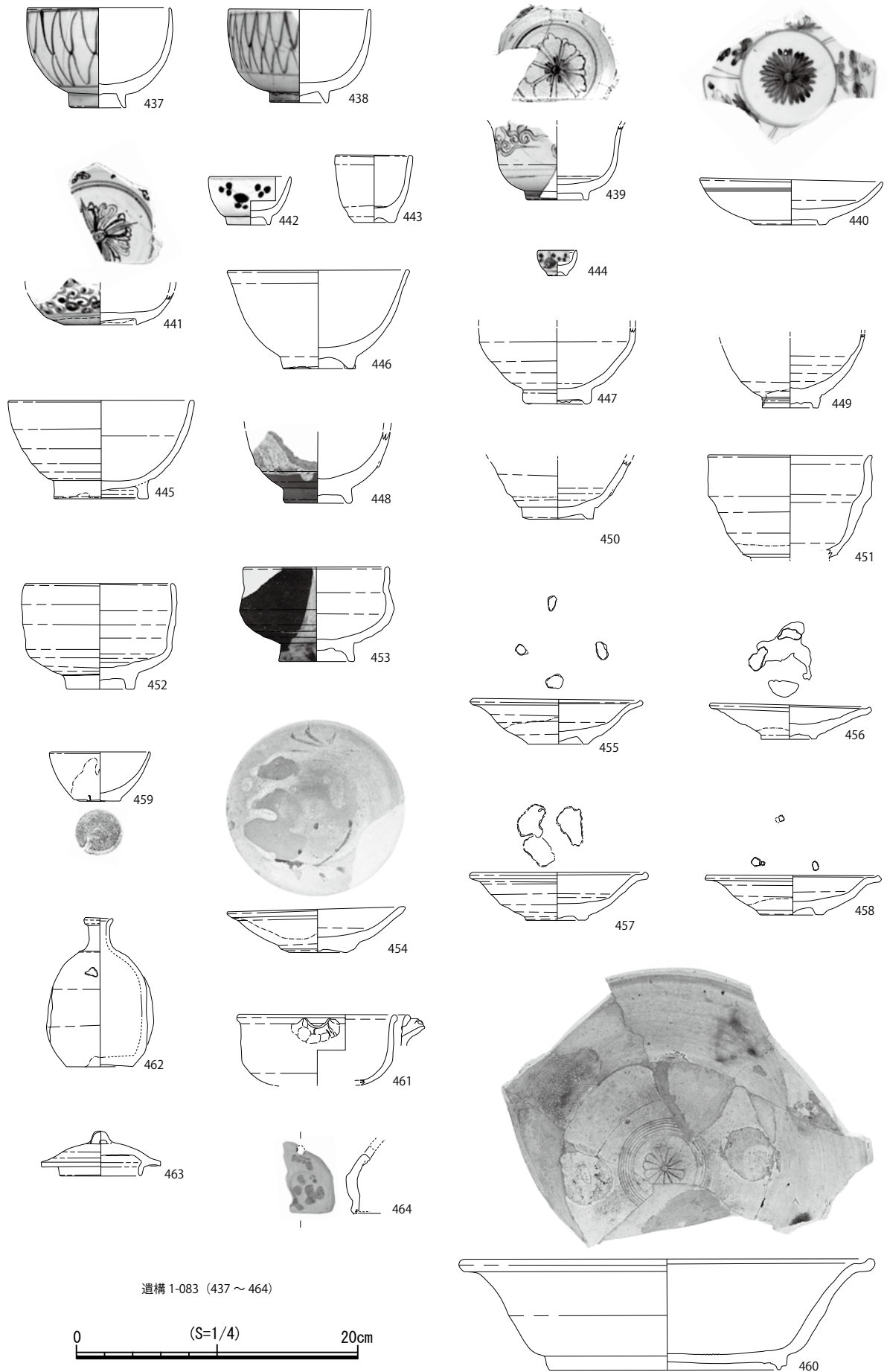


図47 1・2区 第4-1遺構面 遺構出土土器(2)

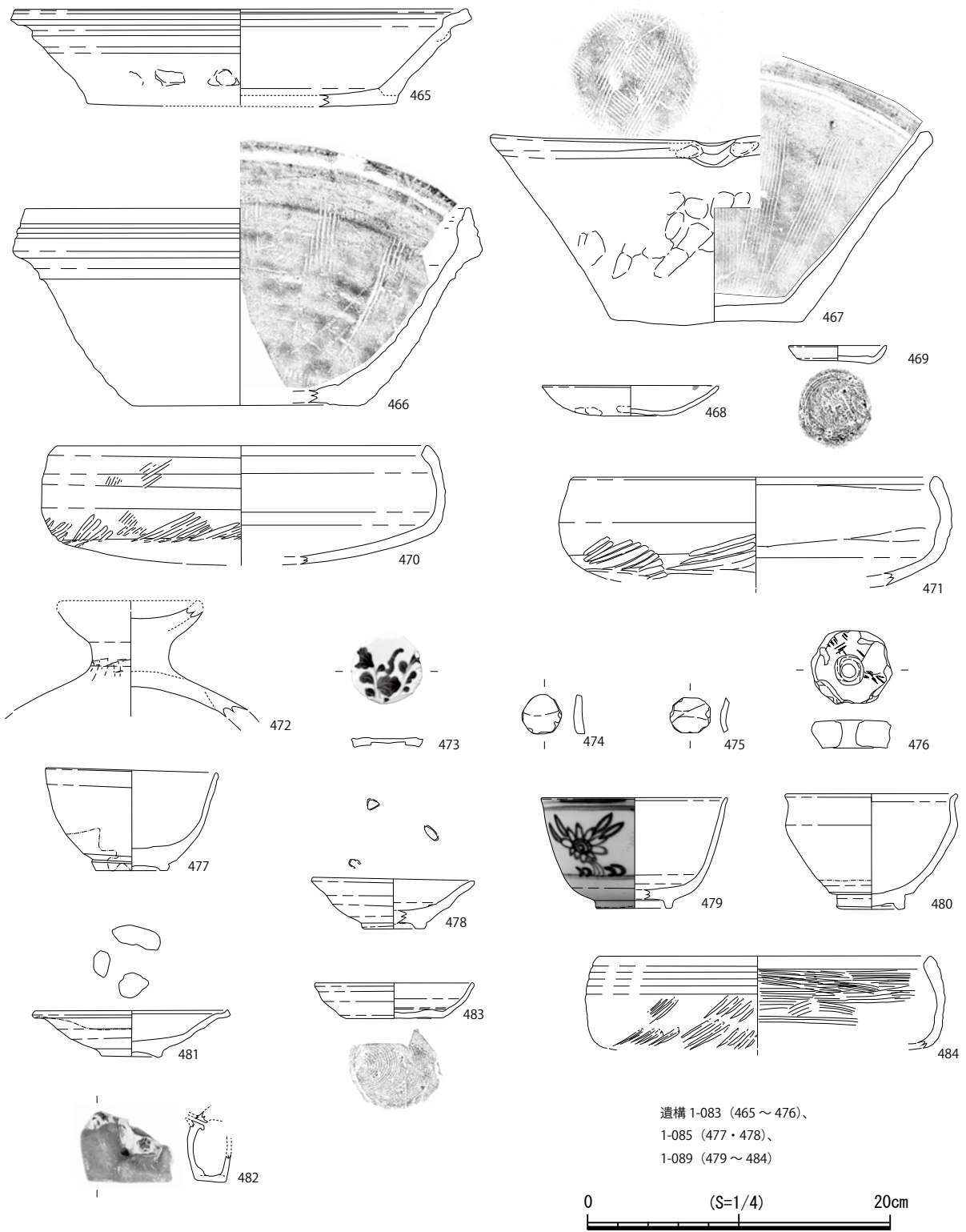


図 48 1・2区 第4-1遺構面 遺構出土土器 (3)

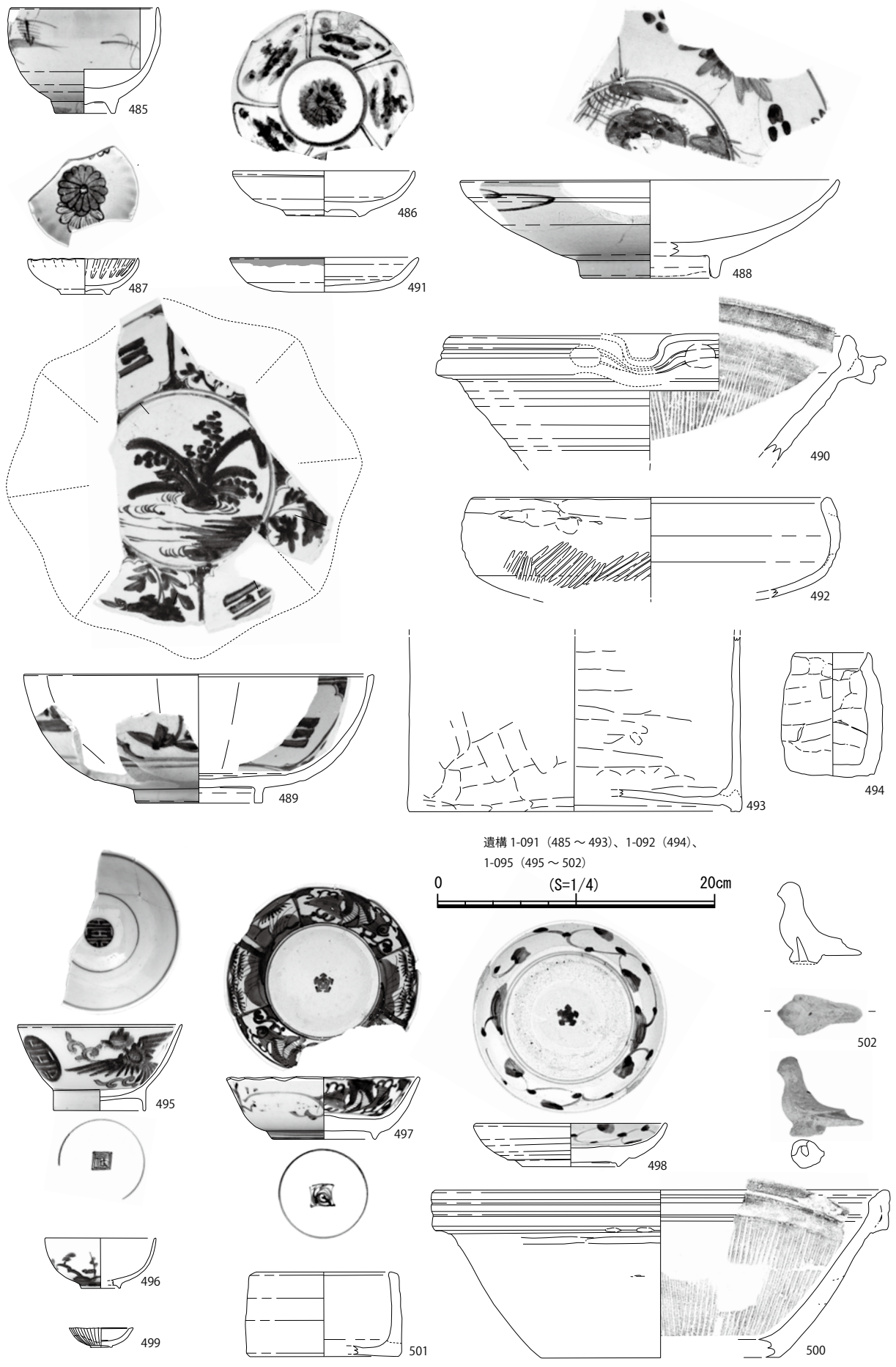


图 49 1・2区 第4-1遺構面 遺構出土土器(4)

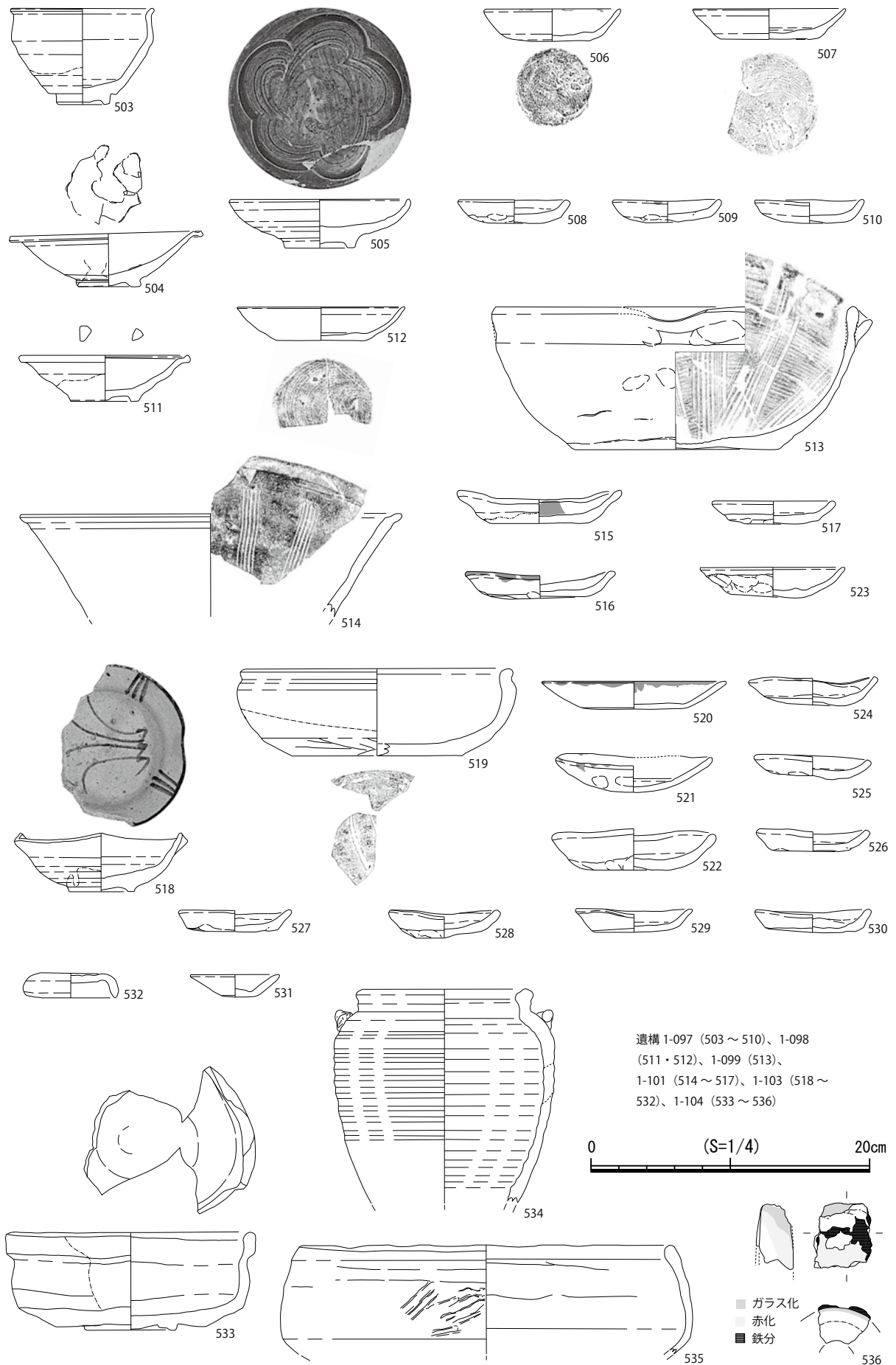


図50 1・2区 第4-1遺構面 遺構出土土器(5)

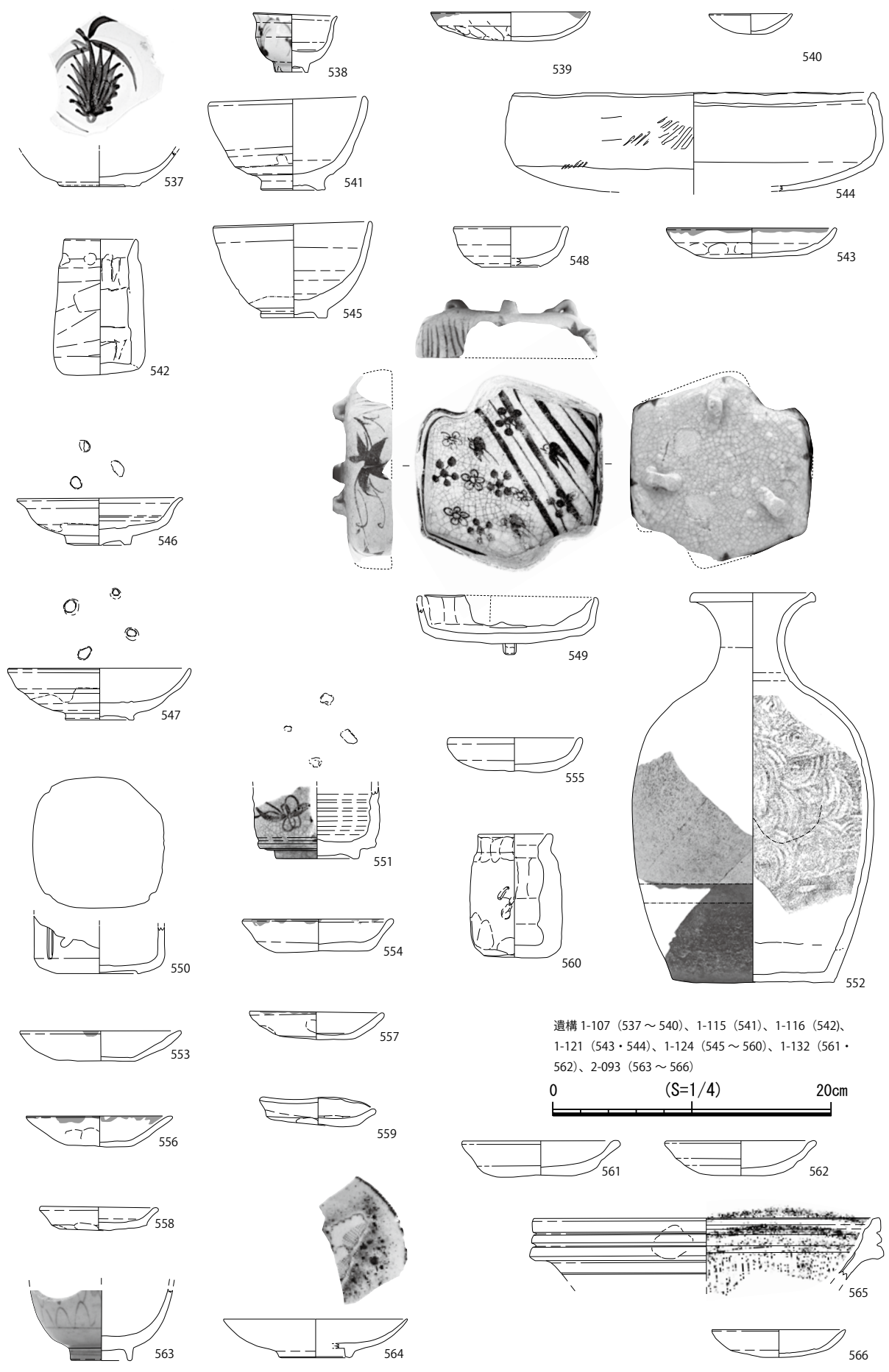


图 51 1・2区 第4-1遺構面 遺構出土土器(6)



6 第4-2遺構面の遺構 (図52・83・188、図版5・70・98)

17世紀前半頃の遺構面である。遺構面の高さは南西部で第3遺構面と変わらず、北側・東側で遺構面が低くなっている。その周辺は上位面においても遺構が集中する個所で、当遺構面で検出した遺構もかなり削平を受けている。検出した遺構には、建物を構成していたと考えられる柱穴、礎石列、石組遺構・集石遺構・土坑などがある。遺構面上の整地土や遺構検出時に出土した遺物には、肥前系磁器 (795)、肥前系陶器 (796~798)、瀬戸美濃系陶器 (799)、備前焼 (800)、土師質土器 (801~805)、銭貨 (M154) などがある。

柱穴 (写真6・7)

柱穴は底に据石を置くものが多く、直径0.30~0.60m、深さ0.25~0.60mを測る。据石は0.20

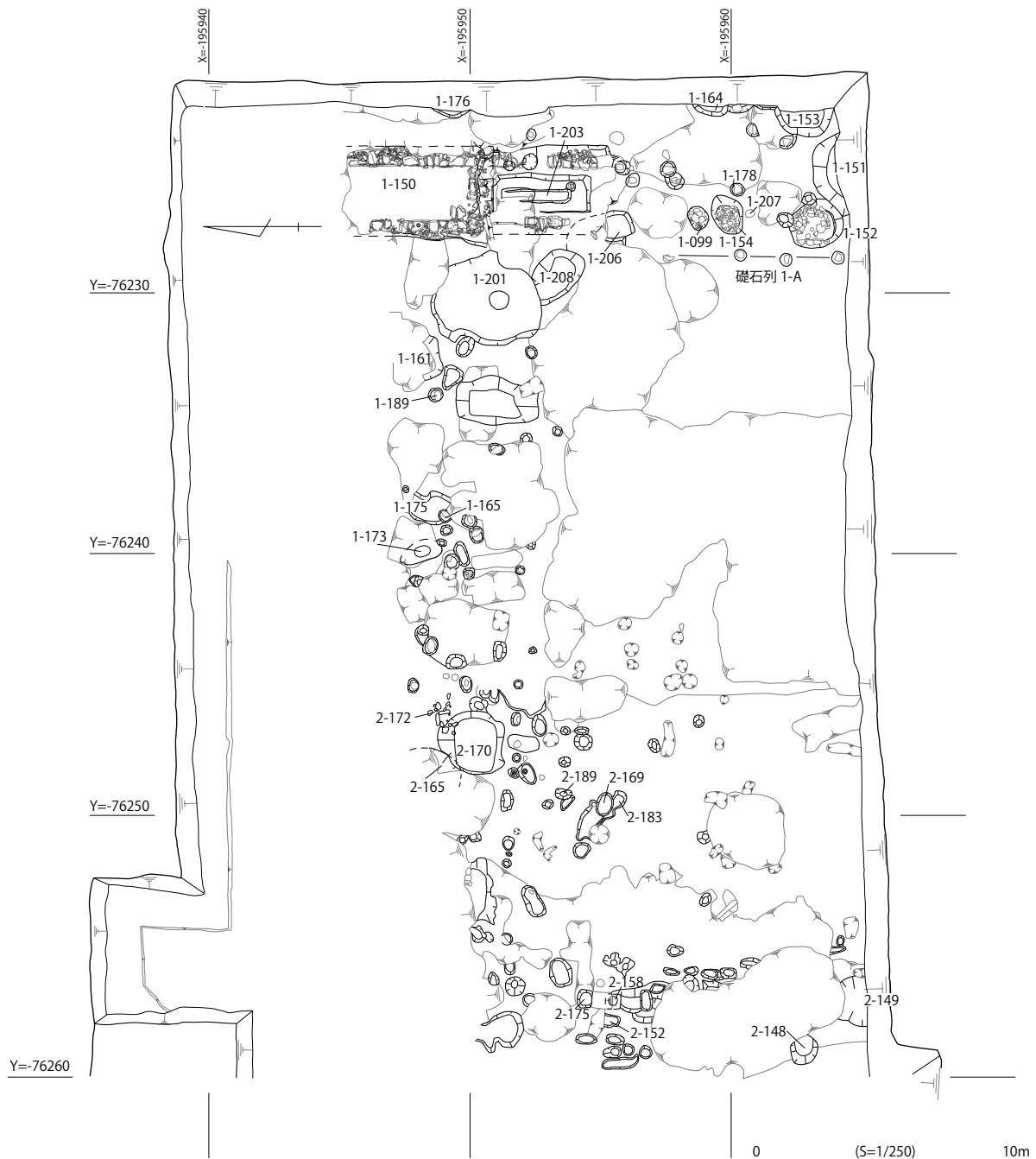


図52 1・2区 第4-2遺構面 全体図





写真6 1-189柱穴（写真上が西）



写真7 1-178柱穴断面（東から）

～0.50mの扁平な結晶片岩や砂岩で、柱痕から推定できる柱の大きさは約20cmである。1-1・2-1区の北側や1-1区南東部に集中し、その周辺に正方位で建つ掘立柱構造の建物が想定できるものの、明確なプランは明らかにすることができなかった。

#### 礎石列1-A（図53）

礎石列1-Aは1-1区南東部で検出した。正方位で南北に並ぶ礎石列であるが、北あるいは東側に広がりをもつ建物の一部であった可能性がある。柱間は約1.70～2.50mで、直径0.40～0.50m、深さ0.10mの柱穴の底に、30～35cmの扁平な結晶片岩を据えたものである。



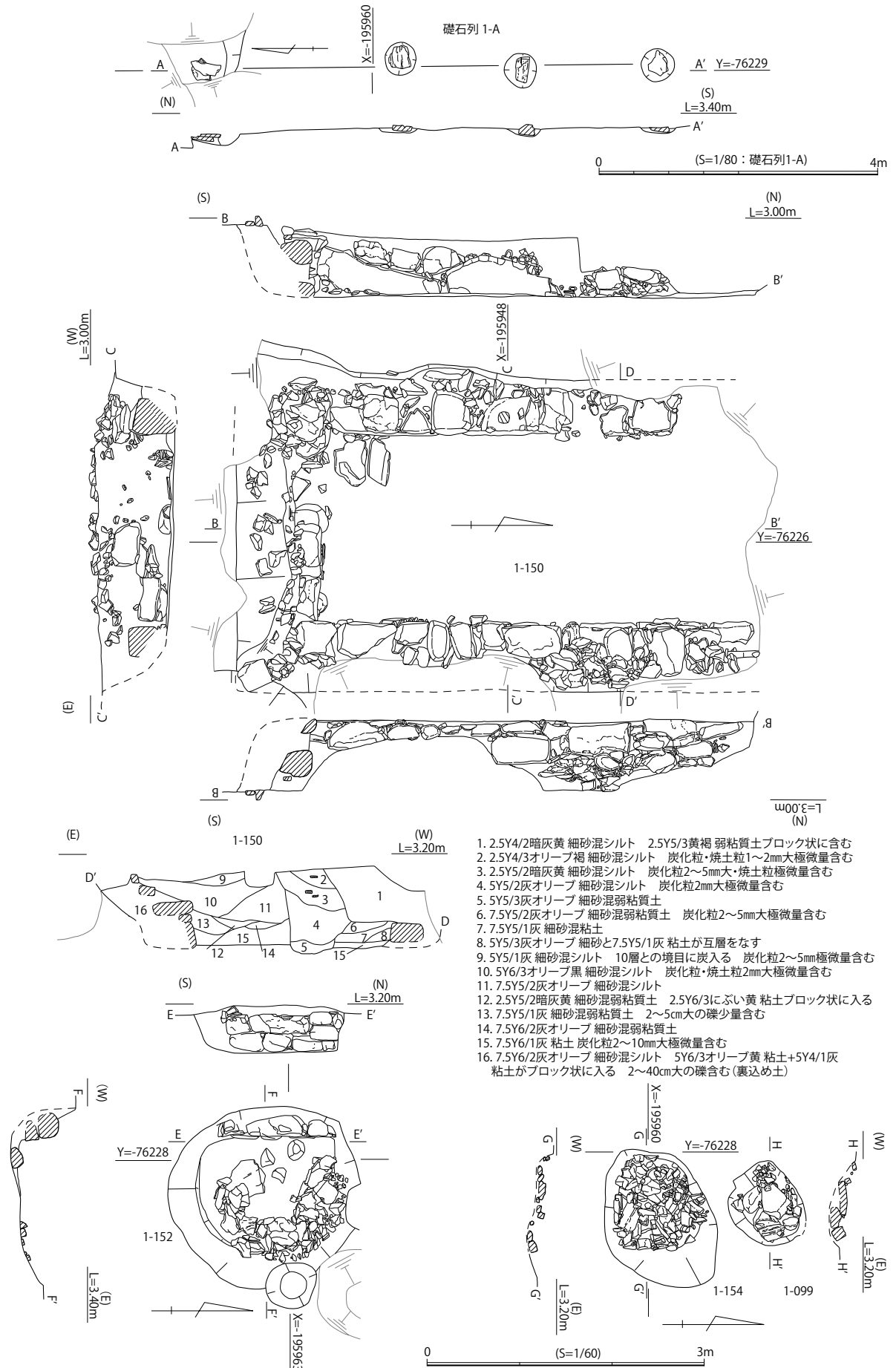
写真8 1-207礎石 鉄鎌出土状況（西から）

#### 1-150石組遺構（巻頭図版2、図53・56、図版16・67）

1-1区の北東隅付近で検出した石組遺構である。上部がかなり削平されており、基底部が残存していた。構造などから倉庫の可能性があるが、当時の遺構面を想定した場合、半地下式であった可能性が高い。軸は正方位で、規模は南北4.60m以上、東西2.00m、高さは残りの良い箇所では0.70mを測る。石材は基本的に砂岩の割石や自然石を用いて築いているが、石材の隙間や背後には結晶片岩の割石を使っている。床面の南西隅付近に扁平な石が2個存在しており、本来は床面全体に石を敷いていた可能性もある。石組の石材の大きさは20～100cm余りで、大きな石材には矢穴痕や刻印が認められる。刻印は和歌山城の浅野期の石垣に同様なものが存在し、当遺構についても検出面から浅野期に帰属すると考えられる。遺物は肥前系磁器（567）、肥前系陶器、瀬戸美濃系陶器（568）、備前焼、土師質土器（569）、面子、瓦類などが出土している。

#### 1-203石組遺構（図54・56・188、図版16・98）

1-1区の北東部で1-150石組遺構の南で検出した。当遺構の大部分の石材を抜き取って埋め戻し、その後1-150石組遺構を築いており、同様に半地下式の倉庫であった可能性がある。上部や周囲がかなり削平されており、西壁・東壁の石材の一部が残存する状況であった。軸は正方位で、1-150石組遺構の南に並ぶ様に位置し、東側の石組は1-150石組遺構から一直線になっている。現存する規模は南北4.50m以上、東西1.80mで、高さは残りの良い箇所では0.40mを測る。石



1. 2.5Y4/2暗灰黄 細砂混シルト
2. 2.5Y4/3オリブ褐 細砂混シルト 炭化粒・焼土粒1~2mm大極微量含む
3. 2.5Y5/2暗灰黄 細砂混シルト 炭化粒2~5mm大・焼土粒極微量含む
4. 5Y5/2灰オリブ 細砂混シルト 炭化粒2mm大極微量含む
5. 5Y5/3灰オリブ 細砂混弱粘質土
6. 7.5Y5/2灰オリブ 細砂混弱粘質土 炭化粒2~5mm大極微量含む
7. 7.5Y5/1灰 細砂混粘土
8. 5Y5/3灰オリブ 細砂と7.5Y5/1灰 粘土が互層をなす
9. 5Y5/1灰 細砂混シルト 10層との境目に入る 炭化粒2~5mm極微量含む
10. 5Y6/3オリブ黒 細砂混シルト 炭化粒・焼土粒2mm大極微量含む
11. 7.5Y5/2灰オリブ 細砂混シルト
12. 2.5Y5/2暗灰黄 細砂混弱粘質土 2.5Y6/3にぶい黄粘土ブロック状に入る
13. 7.5Y5/1灰 細砂混弱粘質土 2~5cm大の礫少量含む
14. 7.5Y6/2灰オリブ 細砂混弱粘質土
15. 7.5Y6/1灰 粘土 炭化粒2~10mm大極微量含む
16. 7.5Y6/2灰オリブ 細砂混シルト 5Y6/3オリブ黄粘土+5Y4/1灰粘土がブロック状に入る 2~40cm大の礫含む(裏込め土)

図 53 1・2区 第4-2 遺構面 検出遺構 (1)

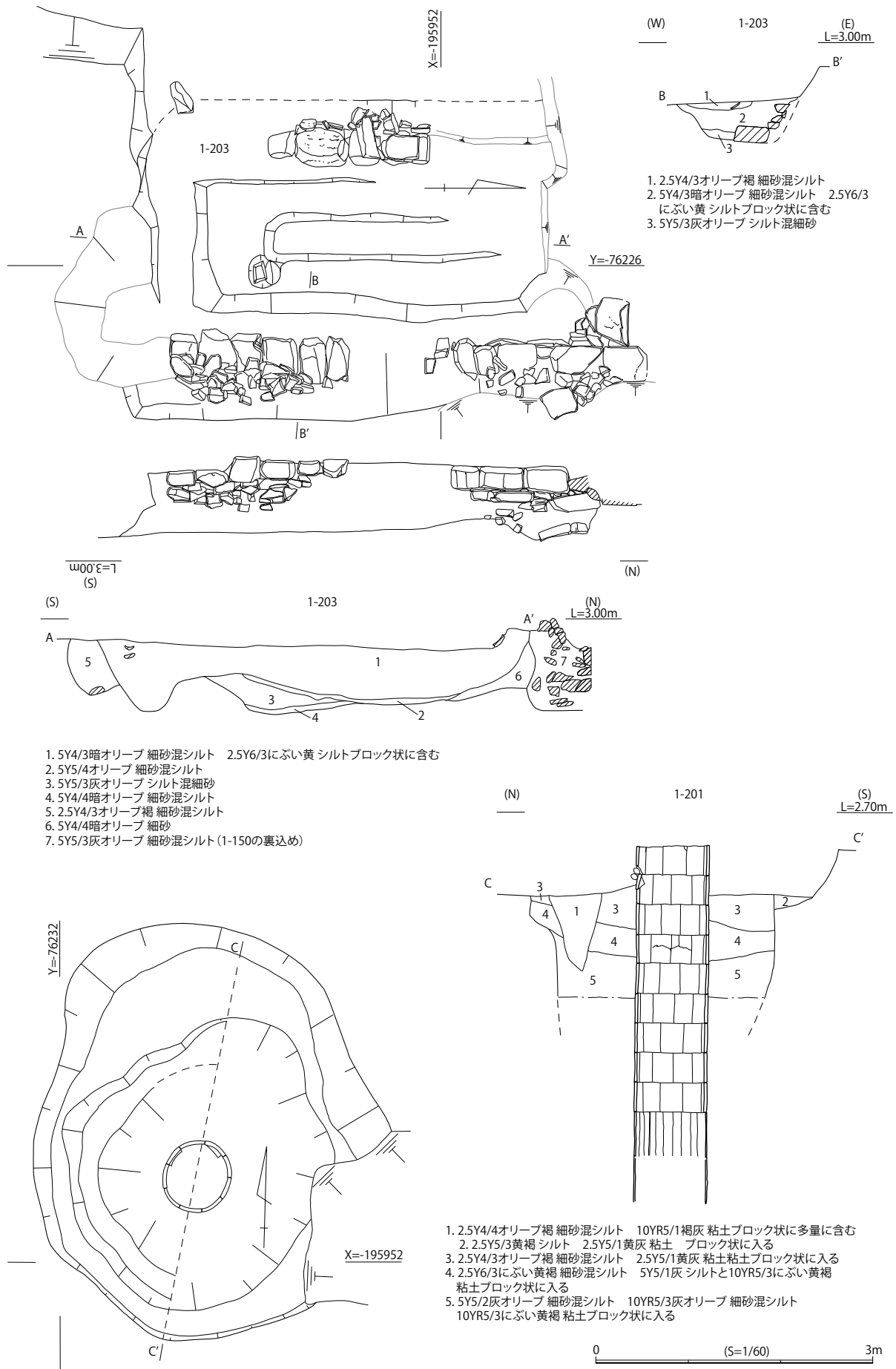


図 54 1・2区 第4-2遺構面 検出遺構(2)

材は基本的に砂岩の割石や自然石を用いて築いているが、石材の隙間や背後には結晶片岩の割石を用いている。石材の大きさは20～50cmである。遺物は備前焼、土師質土器（587）、瓦類、鉄釘、銭貨（M139）などが出土している。遺物や1-150石組遺構との切合い関係からも、江戸時代初期の遺構であると判断できる。

#### 1-201井戸（図54・179、図版17・92）

1-1区の東側で地下式倉庫に西接する井戸である。掘形は検出面で不整楕円形を呈し、長さ4.45m以上、幅3.80mを測る。井戸側は井戸瓦を積んだもので、直径0.70mを測る。一段あたり9枚の井戸瓦を用いて、上下の目地が揃わないように積み上げていた。確認した瓦積みは9段で、その下位（標高0.10m以下）には、直径0.75m、高さ0.50mの桶を2段以上積んでいることを、機械による断割りで確認している。検出面から4.00m掘り下げ、確認した最深部は標高-1.10mである。最下部の構造は明らかでない。遺物は掘形から、肥前系陶器、土師質土器、瓦類、鉄釘が、井戸側内から土師質土器が出土しているほか、井戸瓦（T147）がある。

#### 1-099・154集石土坑（図53、図版17）

1-099・154は1-1区南東部で検出した集石土坑で、南北に隣接する。

1-099集石土坑は平面形状が不整楕円形を呈し、規模は長さ0.85m、幅0.75m、深さ0.31mを測る。土坑内全体に、10～40cmの砂岩や結晶片岩を充填していた。遺物は土師質土器が出土している。

1-154集石土坑は平面形状が不整楕円形を呈し、規模は長さ1.65m、幅1.17m、深さ0.30mを測る。土坑内全体に、10～30cmの砂岩や結晶片岩を充填していた。遺物は肥前系磁器・施釉陶器の細片が出土している。

#### 1-152石組遺構（図53、図版17）

1-1区南東部で検出した。1-099・154集石土坑とは南北に並んでいる。平面形状は不整楕円形を呈し、規模は2.00m×2.00m、深さ0.50mを測る。西壁には15～60cmの砂岩が2・3段丁寧に積まれていたが、他方の壁には石積みが確認できず、底面には10～30cm程度の礫が散乱していた。本来は、四周に石を積んだ石組柵であった可能性がある。遺物は出土していない。

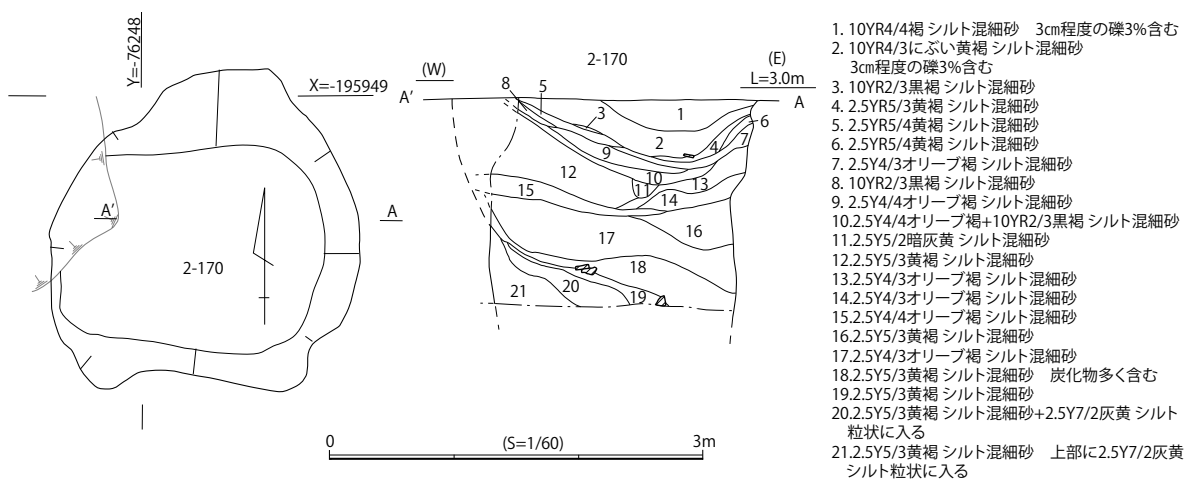


図55 1・2区 第4-2遺構面 検出遺構（3）

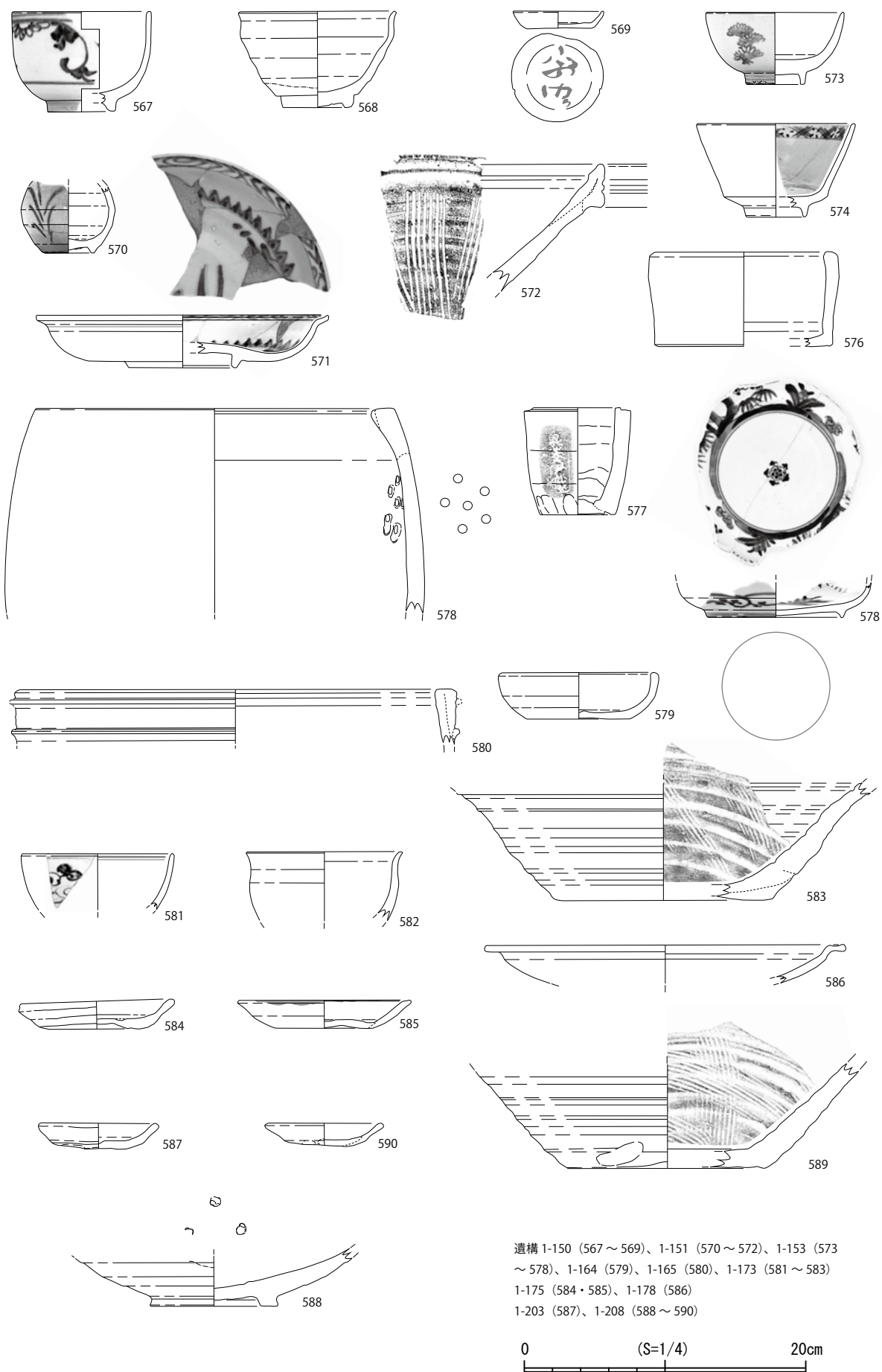


图 56 1・2区 第4-2遺構面 遺構出土土器 (1)

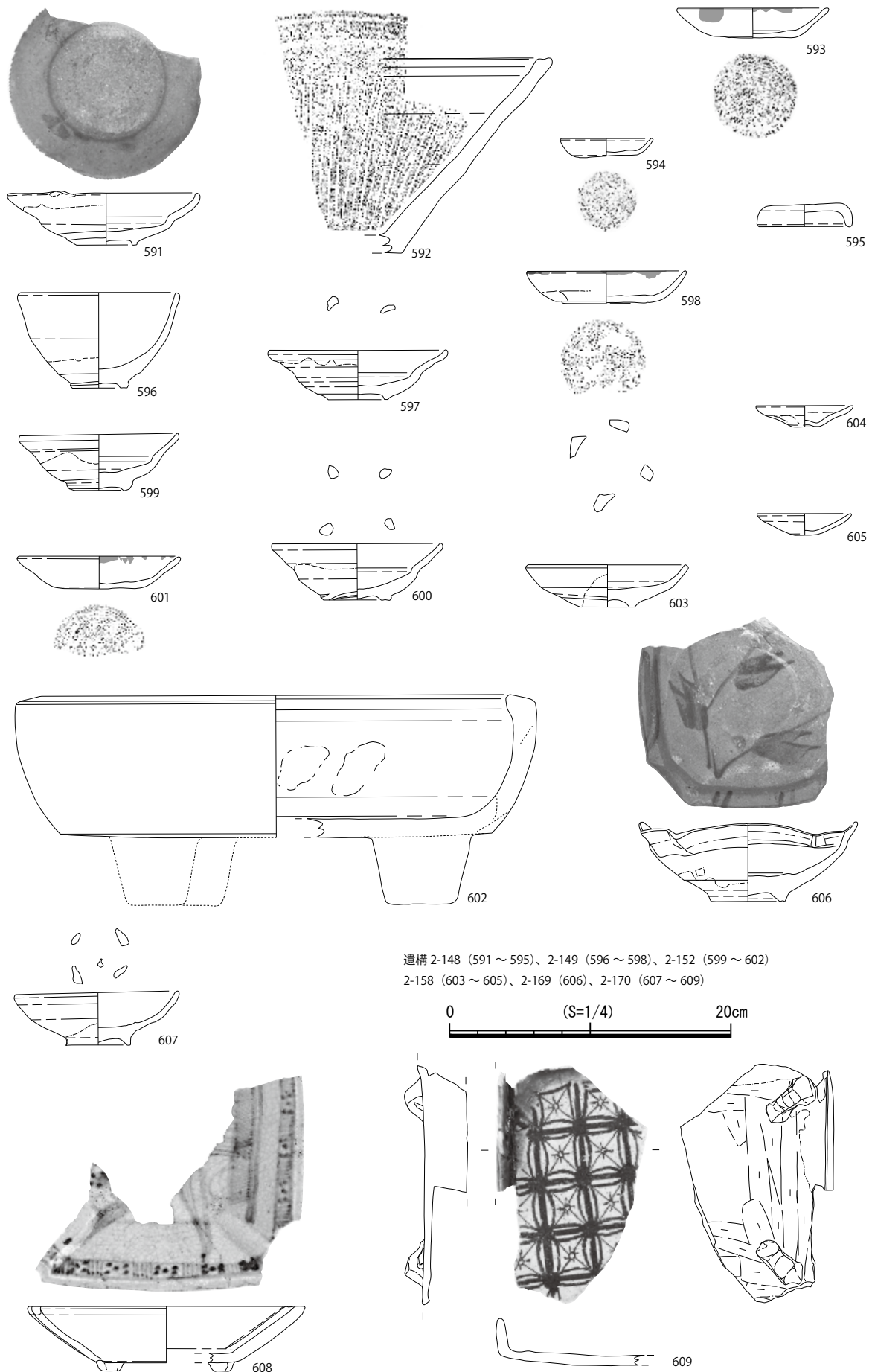


图 57 1・2区 第4-2遺構面 遺構出土土器(2)



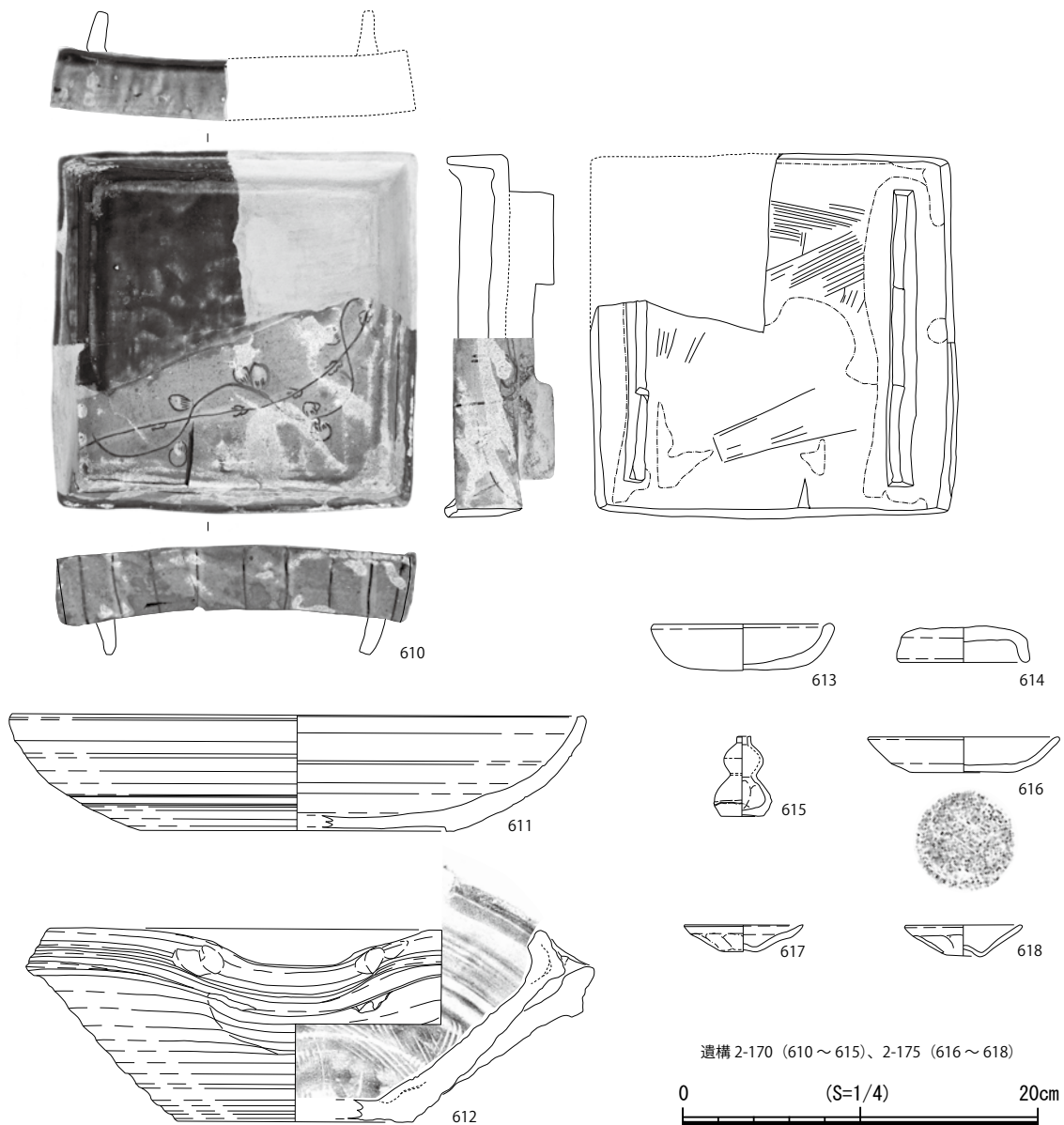


図58 1・2区 第4-2遺構面 遺構出土土器(3)

2-170土坑(図55・57・58、図版67、写真9)

2-1区北東隅付近で検出した土坑で、西側の上部が攪乱により削平される。平面形状は隅丸方形を呈し、規模は長さ2.40m、幅2.40m、深さ1.60m以上を測る。壁は直に落ち、断面観察から上位の層位の境目には炭層が帯状に入る。遺物は肥前系磁器、肥前系陶器(607・611)、瀬戸美濃系陶器(608～610)、備前焼(612)、土師質土器(613・614)、土製品(615)、瓦類、フイゴ羽口などが出土している。



写真9 2-170土坑断面(東から)

## 7 帰属面不明の遺構 (図59)

1-2区・2-2区で第5-1遺構面以下で検出した江戸時代の遺構や、2-1・1-1区で深い攪乱によって調査ができていなかった箇所で見出した江戸時代の遺構である。帰属する遺構面で見出できなかったもので、深く掘削された土坑や井戸などがある。遺物観察表では1～4-2と表記している。

### 1-232井戸 (図60、図版17)

1-1区の南東部で見出した井戸で、検出面での形状は楕円形で、規模は2.15m×2.00mを測る。確認した最深部は標高0.00mで、その範囲では井戸側は確認できなかった。肩部が大きく崩壊したことで、断割りも実施できておらず、下部構造は明らかでない。遺物は土師質土器と瓦が少量出土している。

### 1-304土坑 (図60・64・182・189、図版17・68・99)

1-1区の南東部で見出した土坑である。検出面での平面形状は楕円形で、規模は長さ2.15m、幅1.75m、深さは検出面から2.00mを測る。0.30m下がった付近で段をなし、ほぼ直に落ち込んでいる。土層は崩壊により記録することができなかった。遺物は中国製磁器、肥前系陶器(659・660)、備前焼(661・662)、土師質土器(663～666)、瓦類、砥石(S13)、鉄釘、木製品の漆器椀(W2)・曲物部材(W3～W5)・箸(W6～W9)、不明木製品(W10)、各種部材(W11～W13)が出土している。遺物内容から、本来は17世紀初頭の第4-2遺構面に帰属する可能性がある。

### 1-301井戸 (図60、図版17)

1-2区の東側で、第4-2遺構面で見出している1-201井戸の北側に位置する井戸である。掘形の北側は校舎建築・解体に伴う攪乱により削平される。検出面での掘形の平面形状は楕円形を呈していたと考えられ、長さ5.50m以上、幅4.50mを測る。掘形は上方では大きく、下方に向かって段掘りして狭くなっている。井戸側は井戸瓦を積んだもので掘形の南寄りに位置する。内法は直径0.80mを測り、一段あたり9枚の井戸瓦を用いて、上下の目地が揃わないように積み上げていた。確認した瓦積みは5段で、その下位(標高-0.60m以下)には、直径約0.80m、高さ約0.50mの桶を2段以上積んでいることを、重機による断割りで確認している。確認した最深部は標高-1.60mで、最下部の構造は明らかでない。遺物は掘形から肥前系磁器・瀬戸美濃系陶器・備前焼・土師質土器の細片、瓦が出土している。

### 2-208井戸 (図61・182、図版17・93)

2-1区と1-2区の境付近で見出した井戸で、検出面での平面形状は不整楕円形を呈し、長さ3.65m、幅3.15mを測る。掘形は上方では広いが、下位に向かって狭くなっている。井戸側の痕跡は検出面や断面で確認できるものの、構造は明らかでなかったが、下位の断割りによる桶積みであることを確認した。掘り下げた最深部は標高-1.10mまでで、最下部の構造は明らかでない。桶積みは2段分を見出しており、下方の桶は直径0.85m、高さ0.96mで、上方の桶は直径0.90mで、下方の桶の外側に重ねていた。遺物は肥前系磁器、肥前系陶器、瀬戸美濃系陶器、土師質土器、瓦類、砥石(S23)などが出土している。

### 2-212・213・214・234井戸 (図61、図版18)

2-2区の北西隅付近で見出した井戸で、重複あるいは近接する。2-234井戸は2-214・213井戸

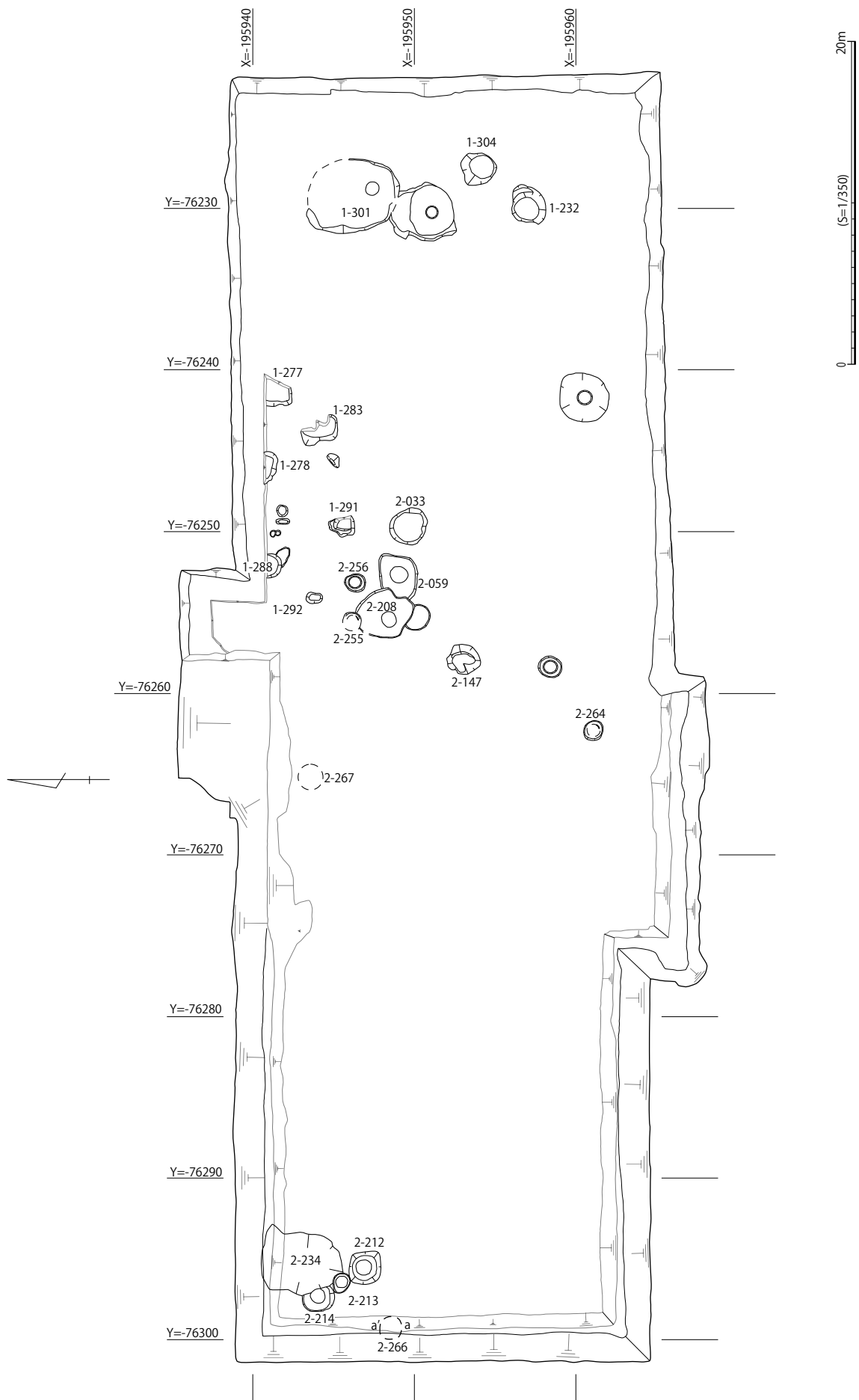


図 59 1・2区 帰属面不明の遺構 全体図

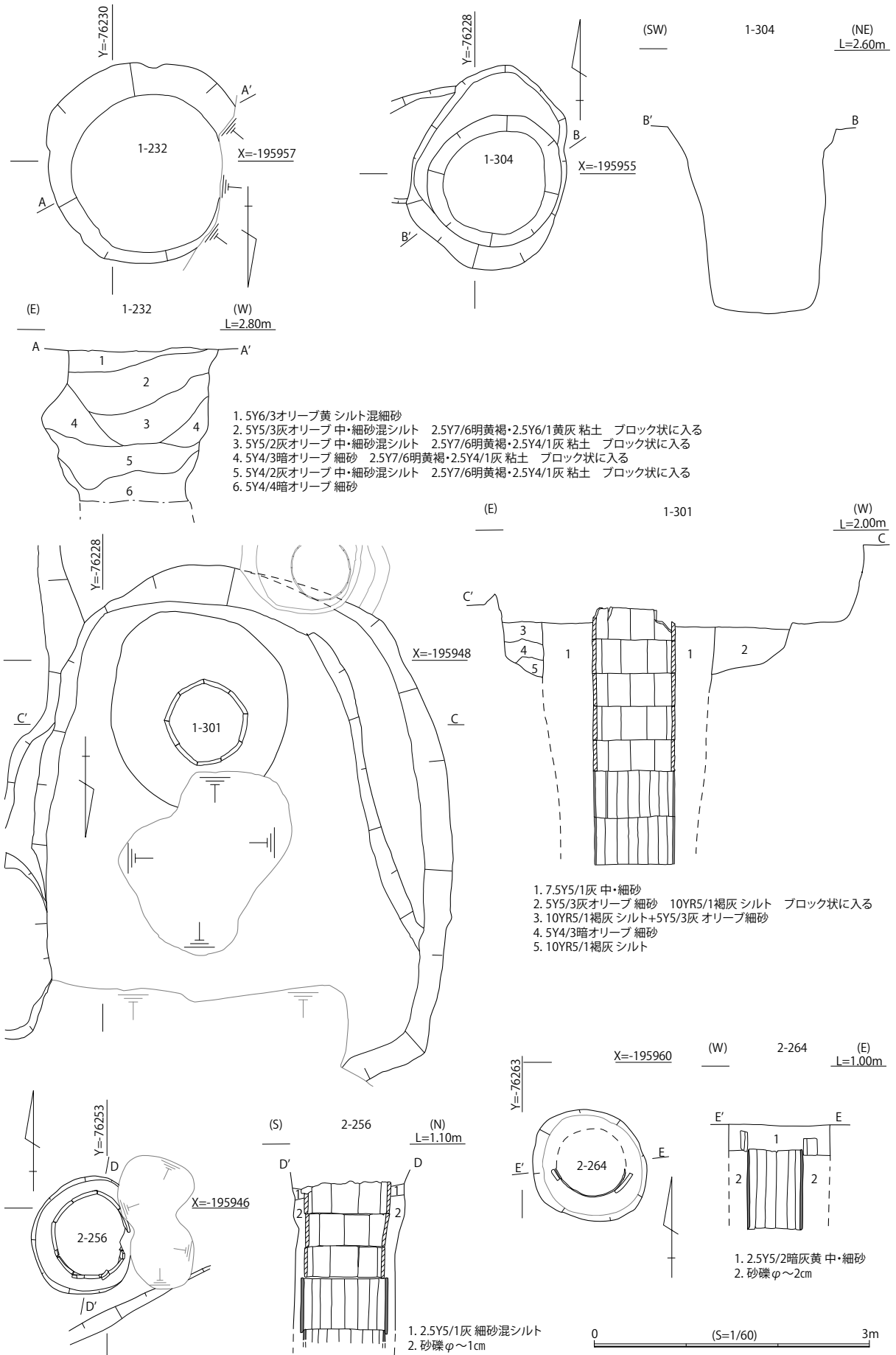


図 60 1・2区 帰属面不明の遺構 (1)

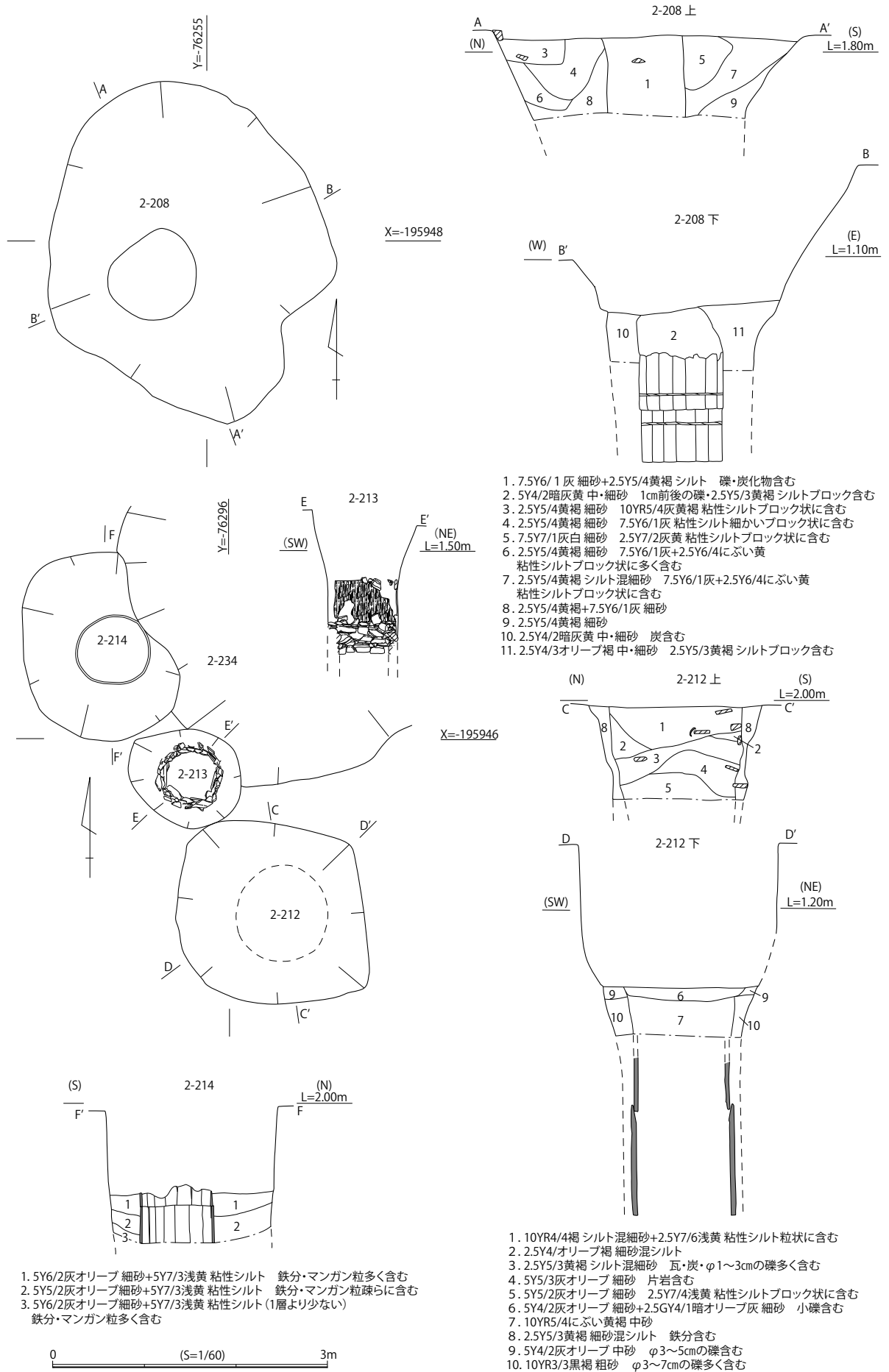


図 61 1・2区 帰属面不明の遺構 (2)

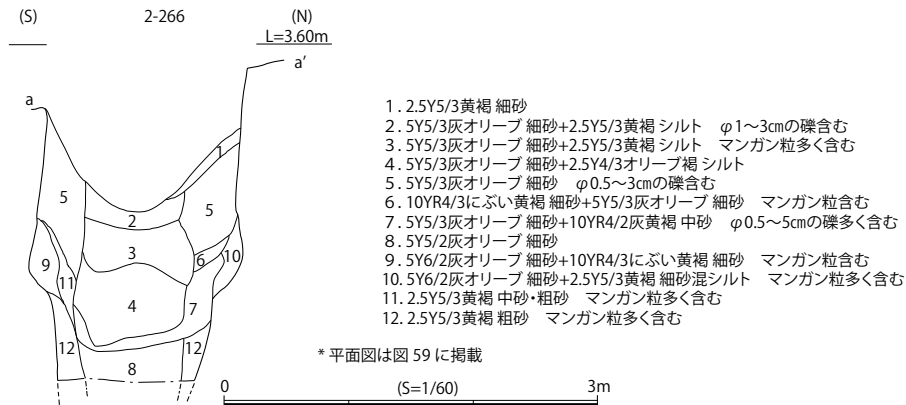


図62 1・2区 帰属面不明の遺構(3)

と重複し、新旧関係は2-214井戸→2-234井戸→2-213井戸の順となる。2-212井戸は2-213井戸と接するが、切合い関係をもたない。

2-212井戸は検出面での掘形の平面形状が不整楕円形で、規模は長さ2.45m、幅2.10mを測る。井戸側の構造は上方では明らかでなく、重機による断割りによって桶積みであることが分かった。ただ、遺物の中に井戸瓦が混在することから、上部が瓦積みであった可能性もある。確認した最深部は標高-2.00mで、それより下部の構造は明らかでない。桶積みは2段分検出したが、下方の桶は直径約1.10m、高さ1.20mを測る。上方の桶は直径1.05mで、下方の桶の上端部内側を削って、その上に載せていた。遺物は肥前系磁器、肥前系陶器、堺・明石系陶器、備前焼、土師質土器、瓦類などが出土している。

2-213井戸は検出面での掘形の平面形状が楕円形を呈し、規模は長さ1.27m、幅1.03mを測る。井戸側は上部が桶積み、下方が石積みである。桶は腐朽した部材が残る程度であったが、痕跡から直径約0.65mであったと考えられる。標高0.00m以下が石積みになり、その内法は0.53mを測る。石材は5~20cmの扁平な結晶片岩などで、基本的にそれを小口積みになっていた。石積みを確認したのは標高-0.70mまでで、それ以下の構造については明らかでない。遺物は肥前系磁器(692・693)、肥前系陶器(694)、備前焼、土師質土器、瓦類、基石(S10)、鉄釘(M20)などが出土している(図66・182・185、図版95)。

2-214井戸は東側を1-234井戸により削平される。検出面での掘形の平面形状は円形を呈し、規模は直径2.00mを測る。井戸側は桶積みで、桶の直径は0.80mを測る。検出した深さは標高0.60mまでで、それ以下の構造は明らかでない。遺物は肥前系磁器(695)が出土している(図66)。

2-234井戸は検出面での掘形の形状が楕円形を呈し、規模は長さ5.00m、幅3.60mを測る。中央部が深く攪乱されていることから、井戸側は確認できなかった。遺物は肥前系陶器(696)が出土している(図66、図版69)。

#### 2-256井戸(図60・66・179、図版18・69・92)

2-1区と1-2区の境付近で検出した井戸で、東側が攪乱により削平されている。検出面での掘形の平面形状は円形で、直径1.25mを測る。井戸側は井戸瓦を積んだもので、内法は直径0.80mを測り、一段あたり9枚の井戸瓦を用いて、上下の目地が揃わないように積み上げていた。確認した瓦積みは3段で、その下位(標高-0.30m以下)には、直径約0.85m、高さ約0.60mの桶を2段以上積み重ねていることを重機による断割りで確認している。確認した最深部は標高-



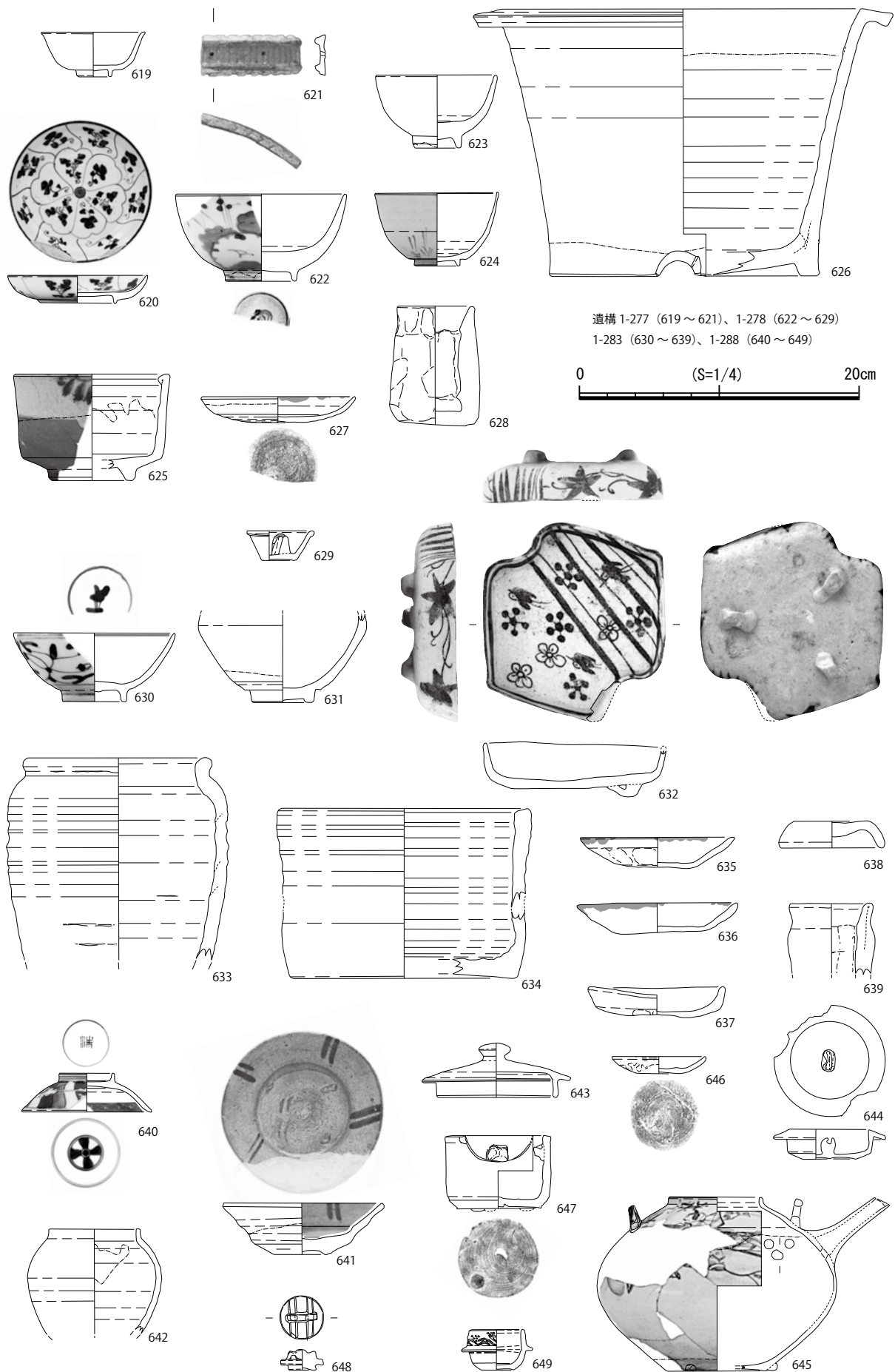


図 63 1・2区 帰属面不明の遺構 出土土器 (1)

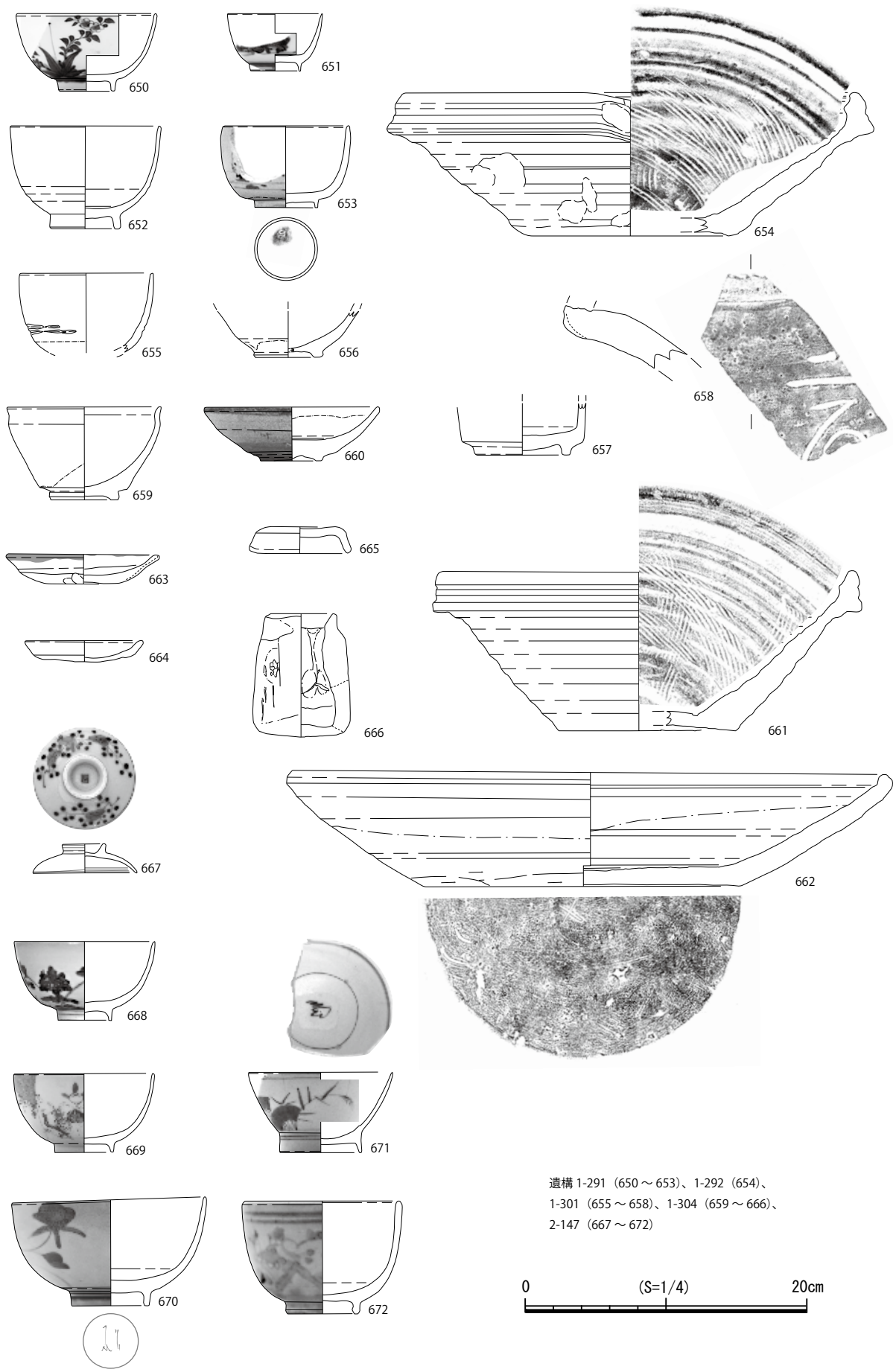


図64 1・2区 帰属面不明の遺構 出土土器(2)

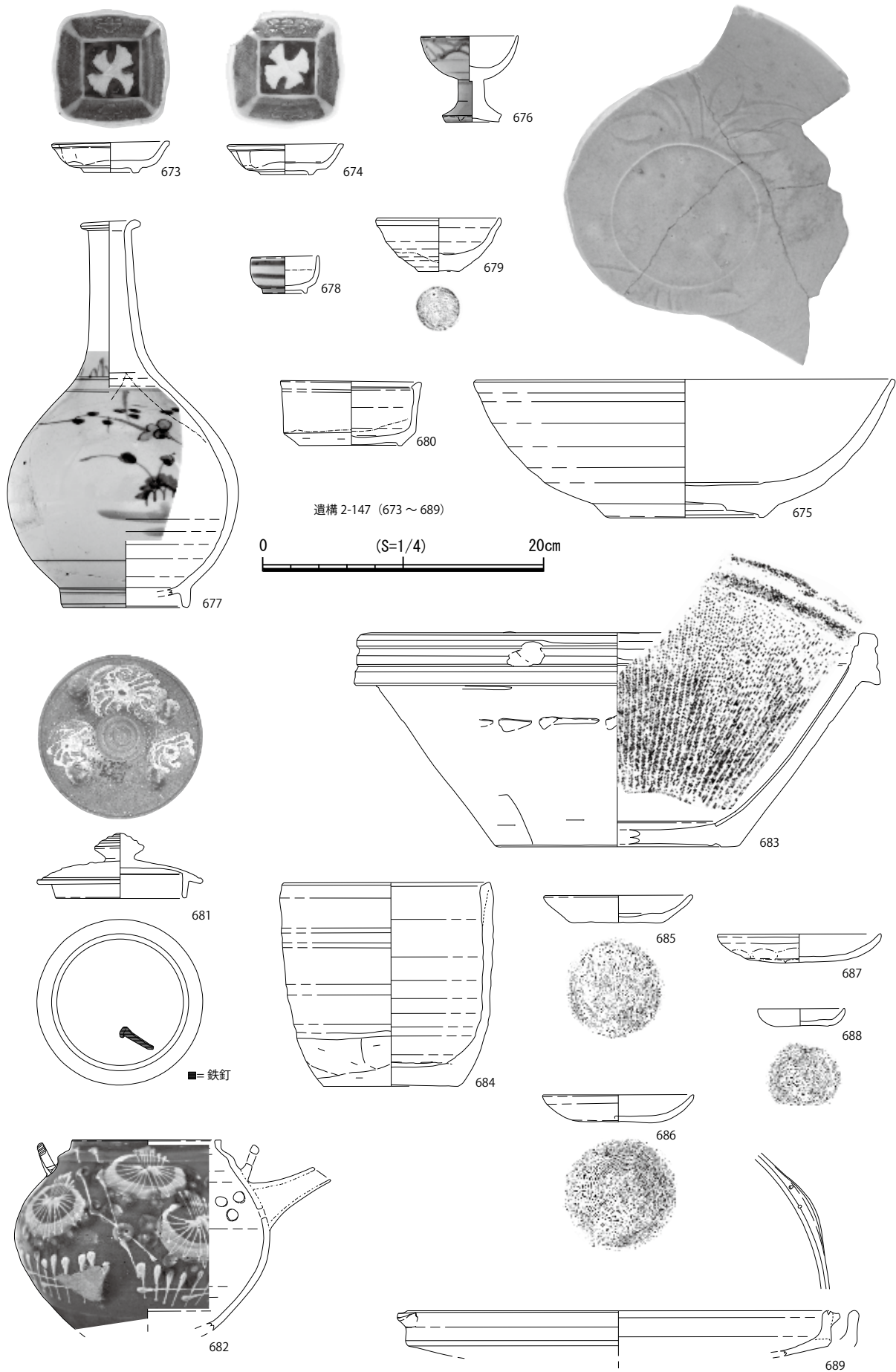
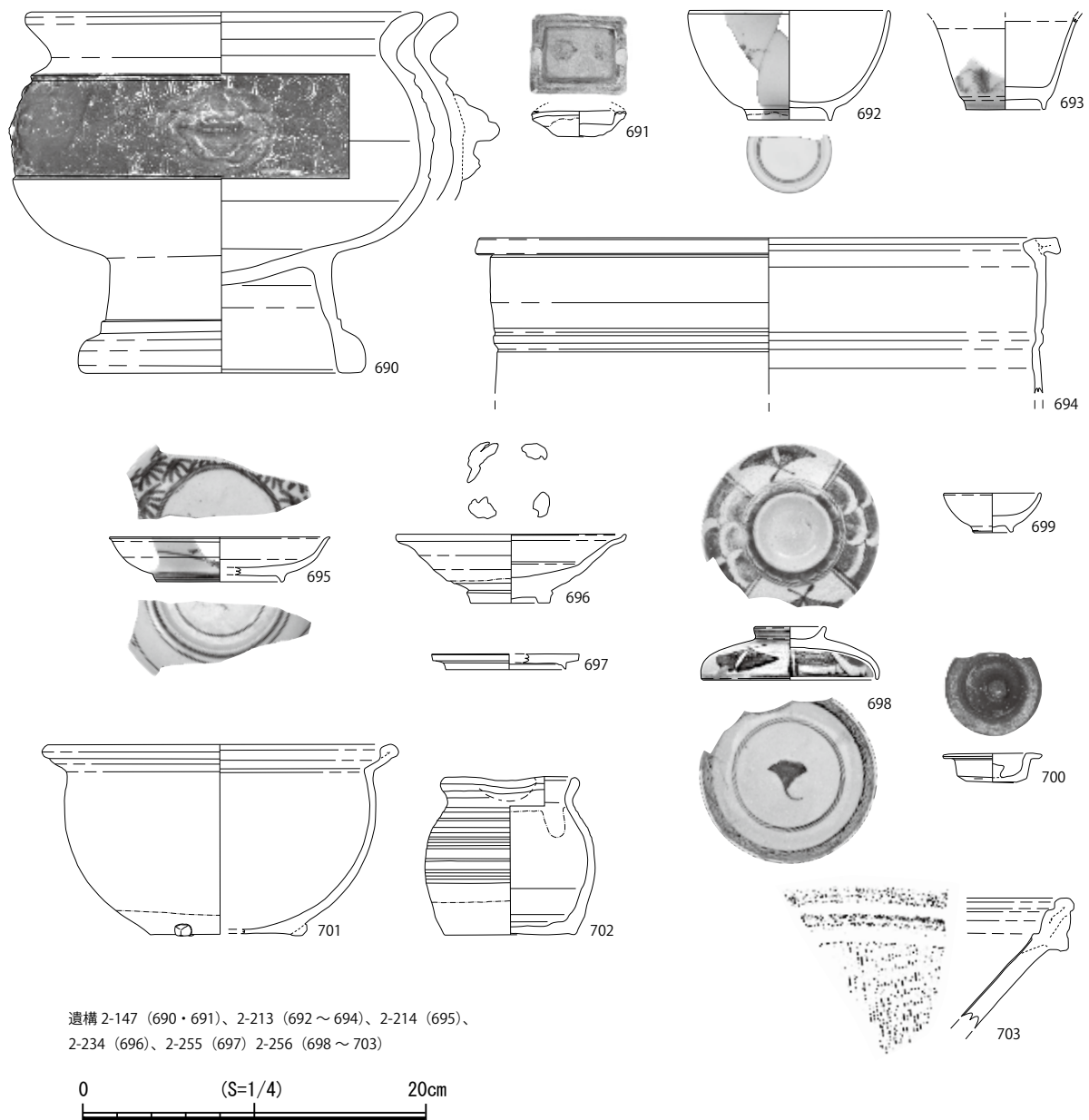


図 65 1・2区 帰属面不明の遺構 出土土器 (3)



遺構 2-147 (690・691)、2-213 (692～694)、2-214 (695)、  
2-234 (696)、2-255 (697) 2-256 (698～703)

図66 1・2区 帰属面不明の遺構 出土土器(4)

1.00mで、それより下部の構造は明らかでない。遺物は井戸側内から肥前系磁器(698・699)、肥前系陶器、瀬戸美濃系陶器、京・信楽系陶器(700・701)、堺・明石系陶器(703)、丹波焼(702)、土師質土器が出土しているほか、井戸瓦(T149)がある。

#### 2-264井戸(図60・179、図版18)

2-2区の南東部で、第5遺構面で検出した大溝の底で検出した井戸で、下位のみを確認している。検出面での掘形の形状は円形で、直径1.10mを測る。井戸側は井戸瓦を積み上げたもので、辛うじてその一部を確認した。復元した井戸側の内法は直径0.80mで、瓦の下位(標高0.10m以下)には、直径0.60m、高さ0.85mの桶を置いていた。確認した最深部は標高-0.75mで、それより下部の構造は明らかでない。遺物には井戸側に使用していた井戸瓦(T150)がある。

## 2-266井戸（図62、図版19）

2-2区の西壁で確認した井戸である。掘形の規模は幅約1.55mで、井戸側の構造は確認できなかった。断面で井戸側の痕跡が確認できるものの、井戸瓦を抜いたような痕跡はないことから、桶積みであった可能性があり、その直径は約0.80mと推定できる。遺物は出土していない。

## 8 第5-1遺構面の遺構（図67、図版5・6）

風成堆積した砂に埋没した状態で、大溝と畝の畝を検出している。土坑等も検出したが、本来は第5-2に帰属する遺構であったと考えられる。大溝については、第5-2遺構面で説明する。

### 畝（図版7・20）

畝の畝は高さもあり、畝の頭も丸みを帯びる状況から、畝立てが終わった後に放棄されていたものが埋まった状態ではなく、耕作中あるいは耕作後すぐに埋没したと判断できる。

大溝より東側で検出した畝の畝は、基本的に東西方向で、幅1.30～1.50mの間隔である。南寄りでは長さが7.00m余りと短い畝が並んでおり、それより東側では、畝は確認できていない。畝は重層するものでないことから、耕作は1期のみで終了していると判断できる。

大溝より西側で検出した畝の畝は、南北方向で一直線に約20.00m以上伸びている。西寄りでは畝間に乱れがあるものの、ほぼ1.50m間隔で整然と並んでいる。大溝の直近には畝が存在せず、道があった可能性がある。また、断面確認のみに留めたが、直下にも重層して畝の畝が存在しており、複数期の耕作が考えられる。下位の畝については、大溝付近まで畝が存在し、道と考えられる空間は存在しない。

## 9 第5-2遺構面の遺構（図69・83・171・185、図版6・7）

大溝の東側で畑の耕作土あるいは、整地土を除去した面で、井戸・土坑などを検出した。井戸が多く存在するが、建物遺構は検出できなかった。また、大溝の東側にはテラス状の平坦部があり、そこで不定形な土坑を多く検出している。遺構面上の整地土や遺構検出時に出土した遺物には、中国製磁器（806～809）、備前焼（810）、土師質土器（811～812）、瓦質土器（813）、瓦類（T11）、煙管（M36）などがある。

### 大溝（図68・72、図版20）

1・2区の中央付近で検出したもので、断面観察から当遺構面で掘削され、第5-1遺構面でも機能していたと判断できる。南側ではほぼ南北方向に伸び、調査区の北寄りで通路状の掘残しがあつて、それより北側は北北西－南南東方向に伸び、3・4区の大溝に繋がる。規模は幅約7.00～10.00m、深さ約2.20mで、調査区内で約22.00m確認している。溝の呼称を使っているものの、掘残しが存在し、また、明確な水の流れを示す堆積が見られないことから、区画あるいは防御を目的とした堀の可能性も考えられる。遺物は中国製磁器（721・722）、備前焼（723）、瀬戸美濃系陶器、土師質土器、瓦などのほかに混入遺物として須恵器が出土している。

## 1-254井戸（図70、図版19）

1-254井戸は1区の中央南寄りで検出したもので、周辺には構造が違う複数の井戸が存在している。検出面での平面形状は楕円形で、規模は長さ2.45m、幅2.30mを測る。井戸側は石積みで、内法は0.60m×0.47mと楕円形を呈する。石材は10～20cmの結晶片岩で、それを基本的に小



口積みしていた。石積みは標高0.25mまでで、それ以下には曲物や胴木などの構造物は明らかにならなならず、底面に10cm大の礫が敷かれていた。遺物は備前焼、土師質土器、瓦類のほか混入遺物として須恵器が出土している。

#### 1-273井戸（図70、図版19）

1区の東寄りで検出した井戸で、北側が攪乱により削平される。検出面での平面形状は円形を呈していたと考えられ、規模は直径約1.05mに復元できる。検出面から約0.60m下がったところより下段は径を小さくして直径0.30mとなり、細砂で一気に埋まった状態であった。また、下方では崩壊によるものか胴膨らみの形態となっている。井戸側の構造については明らかでないが、下段の直径が極めて小さいことから、掘削方法も含めて検討を要する。底は標高1.10m以下まで続いているが、周囲の壁面の崩壊により下部構造についても明らかにできなかった。遺物は土師質土器、瓦が出土している。

#### 1-302井戸（図70、図版19）

上面を江戸時代の1-201井戸・1-301井戸に削平される。検出面での掘形の平面形状は楕円形を呈し、規模は長さ1.60m、幅1.25mを測る。土層観察用のアゼが崩壊したこともあって、上部の構造は明らかでないが、井戸側の下位には桶が据えられていた。桶は直径0.65m、高さ0.25mで、標高-0.15mまで掘り下げたが、複数積んでいるかどうか明らかにすることができなかった。遺物は出土していない。

#### 1-306井戸（図70、図版19）

1区の南東寄りで検出した井戸で、西側を第4-1遺構面の1-068井戸に削平される。検出面での平面形状は楕円形を呈すると考えられ、長さ2.30m以上、幅1.60m以上を測る。約0.50m下がったところで下段は径を小さくして直径1.10mとなり、細砂で一気に埋まった状態で、1-273井戸と似た構造を持つ。また、井戸側の形態・下部構造は明らかでない。遺物は出土していない。

#### 1-221土坑（図71・72）

1区の中央南寄りで検出した土坑で、平面形状は楕円形を呈し、規模は長さ2.00m、幅1.80m、深さ1.45mを測る。底に向かって段状に落ち、下位は底幅が広く袋状になっている。遺物は中国製磁器、瀬戸美濃系陶器（706）、土師質土器が出土している。

#### 1-300・305土坑（図71、図版19）

1区の中央付近で検出した土坑で、上部に深い攪乱があったことから、第6遺構面で検出しているが、埋土の状況などから第5-2遺構面に帰属すると判断した。

1-300土坑は検出面での平面形状が楕円形を呈し、規模は長さ2.05m、幅1.05m、深さ1.15mを測る。1-221土坑と同様に底の方の幅が広く袋状を呈する。遺物は瓦や鉄釘などが出土している。

1-305土坑は検出面での平面形状が円形を呈し、規模は3.70m×3.65m、深さ1.10mを測る。底面は凹凸が著しい。同様な土坑は大溝から東側に多くあり、粘土採掘土坑の可能性はある。遺物は土師質土器（715・716）、瓦類などが出土している（図72）。

#### 1-303土坑（図71・72）

1区の東端で検出したもので、東側の大半が調査区域外となる。規模は長さ3.00m、幅0.80m、深さ1.00mを測る。近接する1-305と同様に、粘土採掘土坑の可能性はある。遺物は備前焼（713）、土師質土器（714）が出土している。



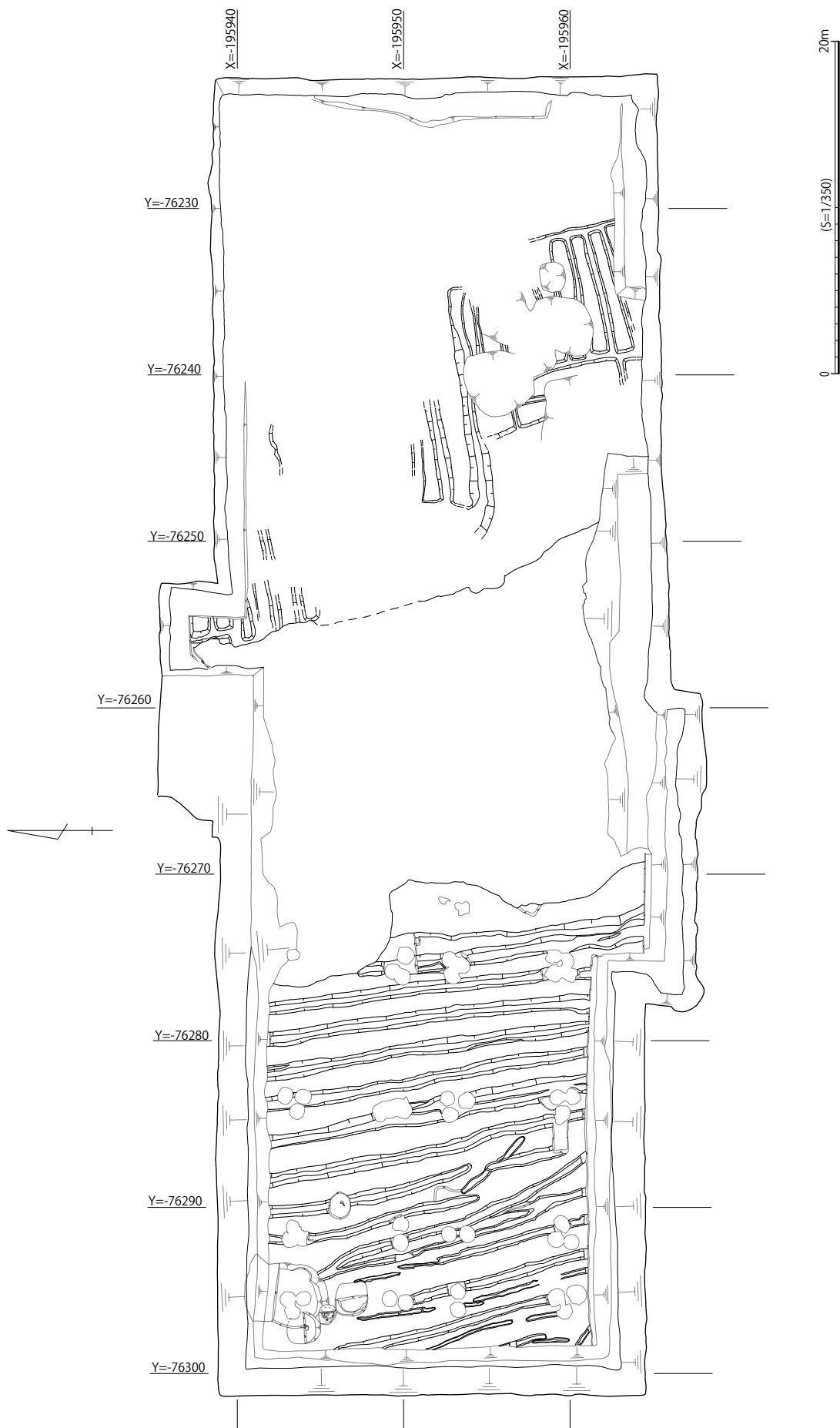
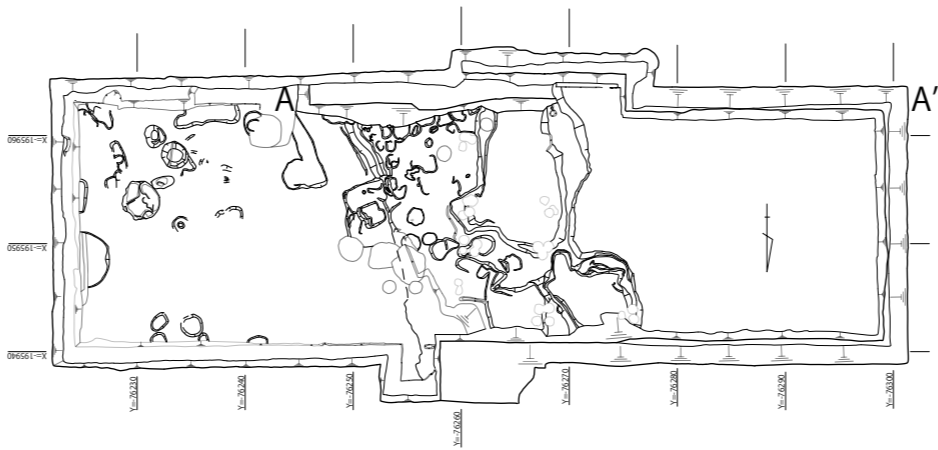
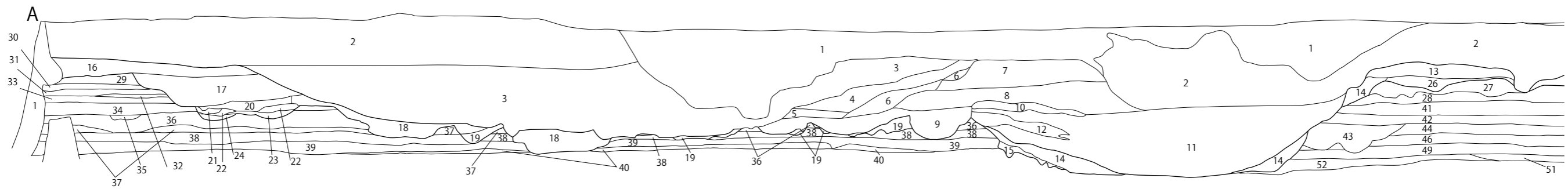


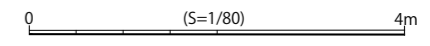
图 67 1・2区 第5-1遺構面 全体図



L=4.60m



- |   |  |   |
|---|--|---|
| <p>1. 攪乱 (近世以降)</p> <p>2. 5Y5/3灰オリブ 中・細砂</p> <p>3. 2.5Y5/2暗灰黄 中・細砂</p> <p>4. 10YR5/3にぶい黄褐 中・細砂</p> <p>5. 2.5Y5/3黄褐 中・細砂 同色のシルトブロック10%</p> <p>6. 2.5Y5/3黄褐 中・細砂 同色のシルトブロック40%</p> <p>7. 10YR5/4にぶい黄褐 中細砂</p> <p>8. 2.5Y4/3オリブ褐 シルト混中・細砂</p> <p>9. 2.5Y5/3黄褐 中・細砂 10YR5/2灰黄褐 シルトのブロックを多量に含む</p> <p>10. 10YR5/1褐灰中・細砂混シルト</p> <p>11. 10YR5/4にぶい黄褐 中・細砂~2.5Y5/2暗灰黄 中・細砂</p> <p>12. 10YR5/1褐灰 シルト混中・細砂</p> <p>13. 2.5Y4/3オリブ褐 中・細砂+2.5Y4/1黄灰 細砂混シルト</p> <p>14. 10YR5/2暗灰黄 シルト混中・細砂</p> <p>15. 10YR4/3にぶい黄褐 シルト混中・細砂</p> <p>16. 5Y5/2灰オリブ 細砂 10YR5/2灰黄褐 シルトブロックを多量に含む</p> <p>17. 2.5Y5/3黄褐 中・細砂</p> <p>18. 2.5Y5/3黄褐 中・細砂 10YR5/2灰黄褐 シルトをブロック状に含む</p> <p>19. 2.5Y4/2暗灰黄 シルト 2.5Y5/3黄褐 中・細砂を所々に含む</p> <p>20. 2.5Y5/2暗灰黄 中・細砂 10YR5/2灰黄褐 シルトをブロック状に含む</p> | <p>21. 2.5Y5/3黄褐 シルト混中・細砂</p> <p>22. 5Y4/1灰 シルト混中・細砂</p> <p>23. 2.5Y5/2暗灰黄 中・細砂混シルト</p> <p>24. 2.5Y5/3黄褐 中・細砂混シルト</p> <p>25. 2.5Y5/3黄褐 中・細砂 わずかに土分あり</p> <p>26. 2.5Y4/4褐 中・細砂</p> <p>27. 2.5Y4/3オリブ褐 中・細砂70%+2.5Y4/3オリブ褐 シルト30%</p> <p>28. 2.5Y4/3オリブ褐 中・細砂混シルト</p> <p>29. 5Y4/2灰オリブ 細砂</p> <p>30. 5Y5/2灰オリブ シルト混中・細砂</p> <p>31. 2.5Y5/2暗灰黄 細砂混シルト</p> <p>32. 5Y5/3灰オリブ 細砂混シルト</p> <p>33. 2.5Y5/3黄褐 細砂混シルト</p> <p>34. 2.5Y5/4黄褐 シルト</p> <p>35. 2.5Y5/4黄褐 シルト 中砂少し含む</p> <p>36. 2.5Y4/3オリブ褐 シルト</p> <p>37. 10YR5/2灰黄褐 シルト</p> <p>38. 10YR5/3にぶい黄褐 シルト</p> <p>39. 10YR5/1褐灰 シルト</p> <p>40. 10YR4/1褐灰 シルト</p> | <p>41. 5G5/1緑灰 粘性シルト</p> <p>42. 2.5GY4/1暗オリブ灰 シルト</p> <p>43. 5B4/1暗緑灰 粘性シルト**第7遺構面(2-239溝)</p> <p>44. 5G4/1暗緑灰 シルト</p> <p>45. 2.5GY4/1暗オリブ シルト**第8遺構面</p> <p>46. 10G4/1暗緑灰 シルト</p> <p>47. 10YR3/1黒褐 シルト**第9遺構面(2-247溝)</p> <p>48. 2.5GY3/1暗オリブ灰 シルト**第9遺構面(2-248溝)</p> <p>49. 5G3/1暗緑灰 シルト</p> <p>50. 5Y4/2灰オリブ シルト</p> <p>51. 10YR2/1黒 シルト</p> <p>52. 2.5GY3/1暗オリブ灰 細砂混シルト~2.5GY暗オリブ灰 シルト混細砂</p> |
|---|--|---|



L=4.60m

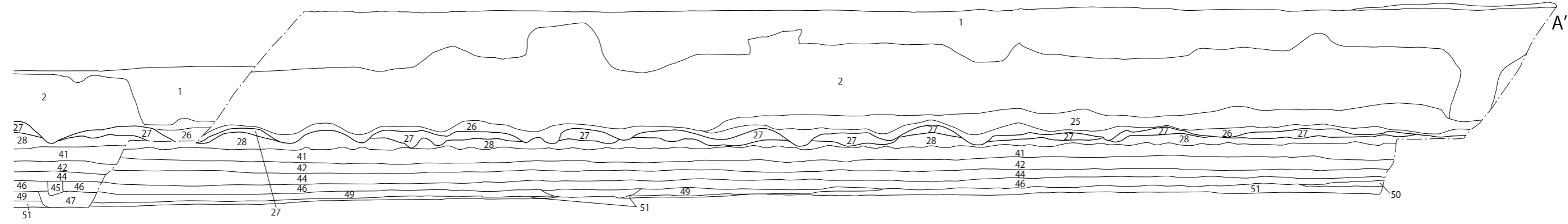


図 68 1・2区 第5-1・5-2遺構面 大溝断面図



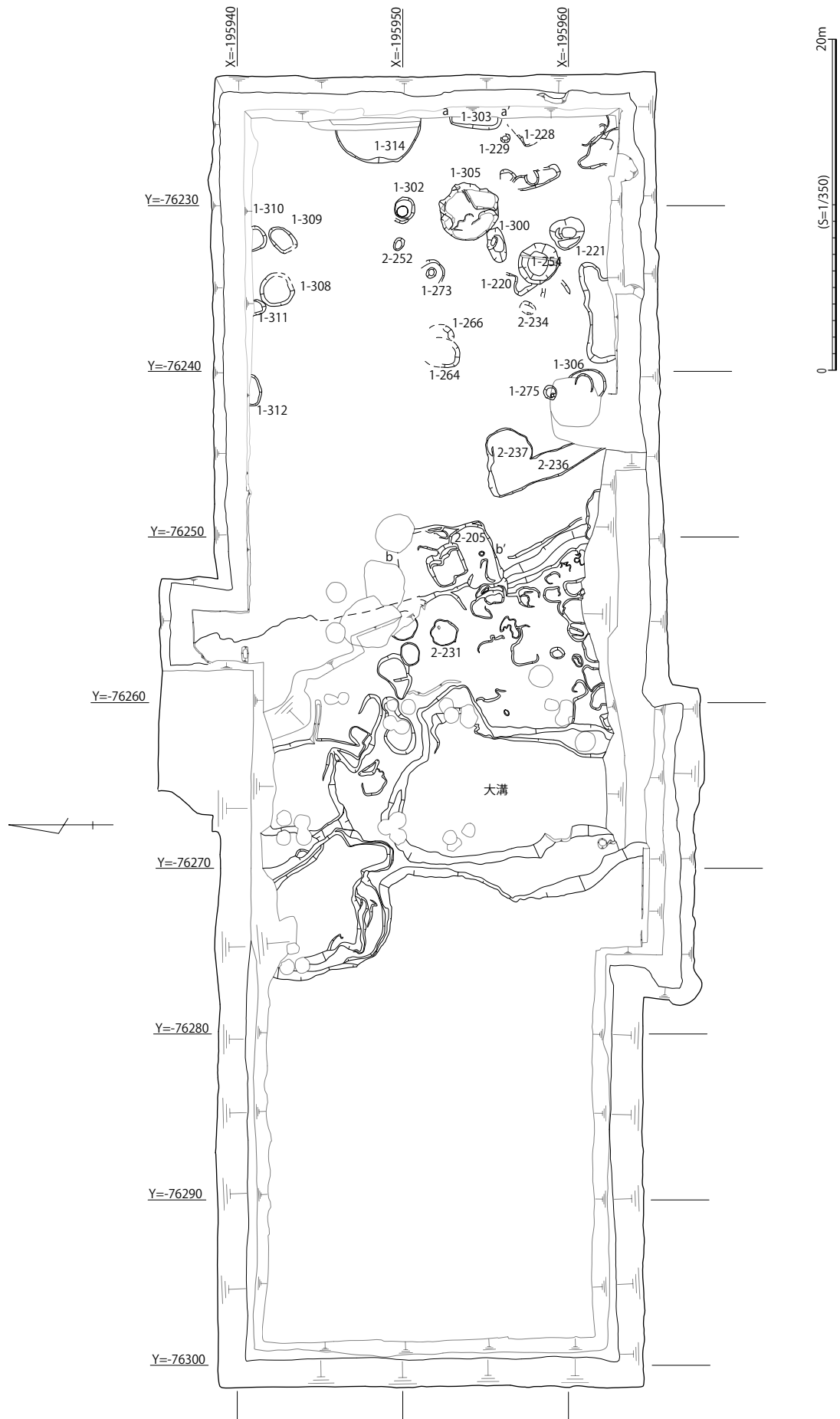


图69 1·2区 第5-2遺構面 全体図

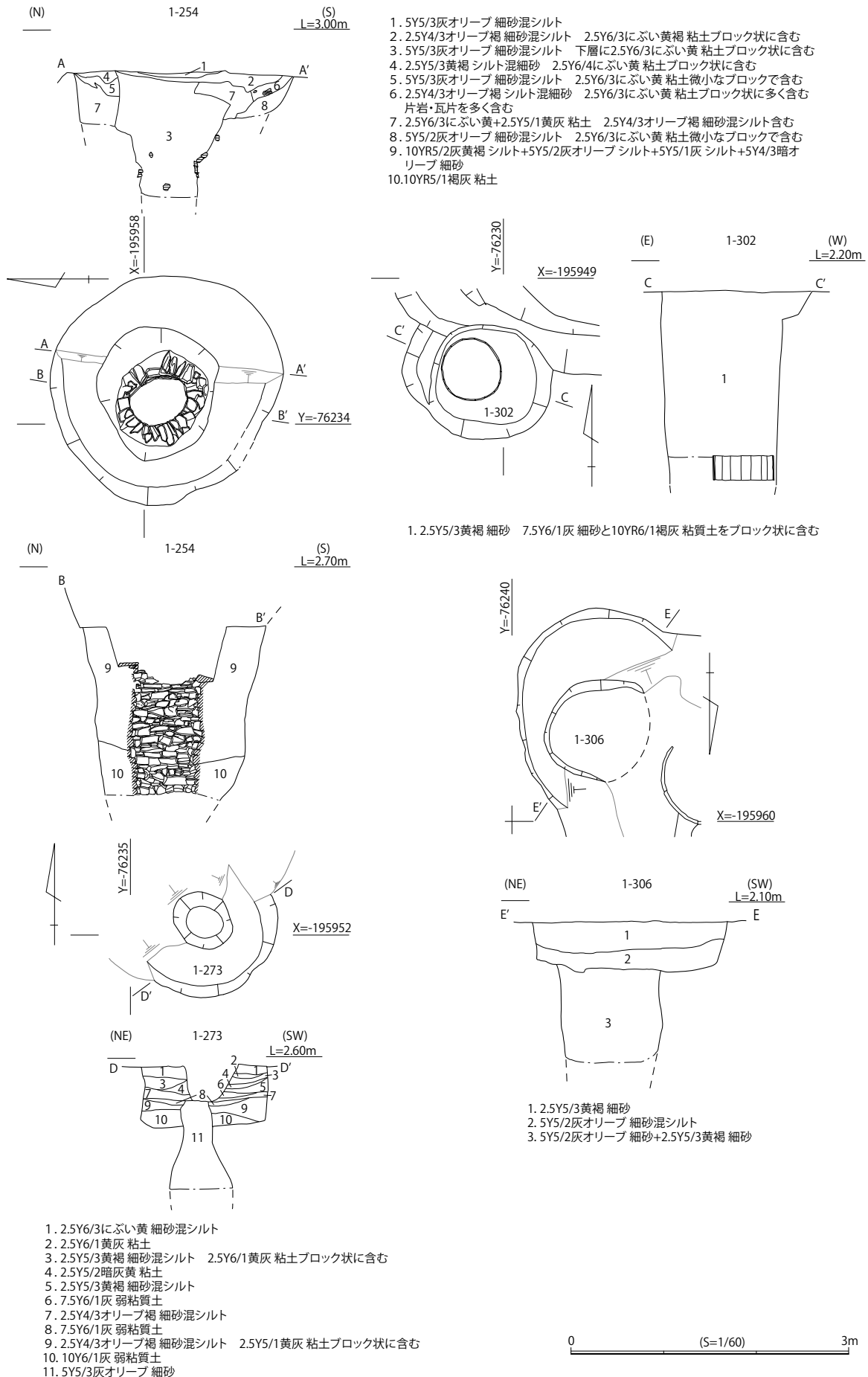
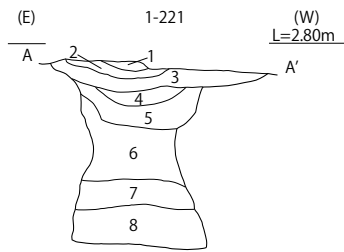
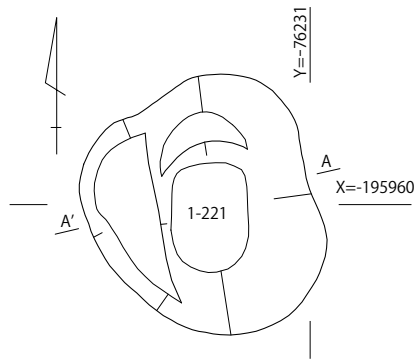
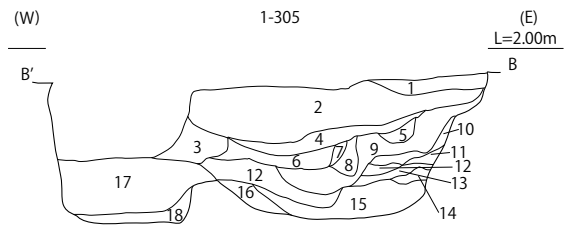
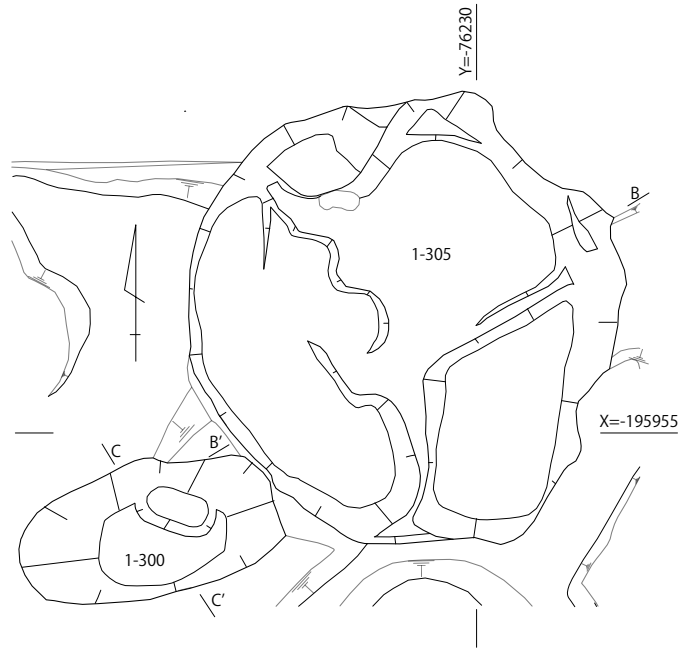


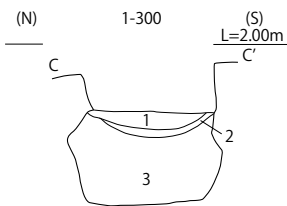
図70 1・2区 第5-2遺構面 検出遺構(1)



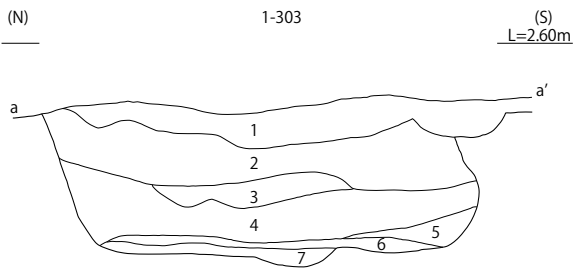
1. 5Y6/2灰オリブ 細砂混シルト
  2. 5Y6/3オリブ黄 細砂混シルト
  3. 5Y5/3灰オリブ 細砂混シルト
  4. 5Y5/2灰オリブ 細砂混シルト
  5. 5Y5/4オリブ 細砂混シルト
  6. 7.5Y5/2灰オリブ 細砂混シルト
  7. 2.5Y5/2暗灰黄 細砂混シルト
  8. 2.5Y4/3オリブ褐 極細砂
- 5Y7/3浅黄 粘土ブロック状に含む  
2mm大の炭化粒極微量含む  
炭化粒極微量含む



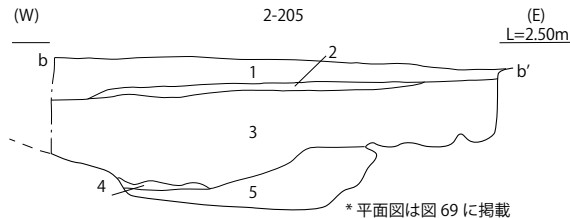
1. 5Y5/2灰オリブ 細砂に2.5Y5/2暗灰黄 粘土粒状に含む
2. 5Y5/3灰オリブ 細砂に2.5Y5/2暗灰黄 粘土小ブロック状に含む φ3~5cmの礫多く含む 鉄分沈着
3. 2.5Y6/3にぶい黄 粘土に5Y5/3灰オリブ 細砂含む マンガン粒含む
4. 5Y5/1灰 細砂に10YR5/6黄褐 細砂帯状に含む
5. 5Y5/1灰 細砂に5Y5/1灰 粘性シルトブロック状に含む
6. 5Y5/3灰オリブ 細砂に2.5Y5/2暗灰黄 粘土粒状に含む 炭化物含む
7. 5Y5/3灰オリブ 細砂
8. 2.5Y5/2暗灰黄 シルト混細砂 マンガン粒含む
9. 5Y5/3灰オリブ 細砂+2.5Y5/2暗灰黄 細砂
10. 2.5Y6/4にぶい黄 粘土混細砂 鉄分・マンガン粒含む
11. 5Y5/3灰オリブ 細砂+2.5Y5/2暗灰黄 細砂に2.5Y5/2暗灰黄 粘土粒上に含む
12. 5Y5/3灰オリブ 細砂
13. 2.5Y6/4にぶい黄 粘土混シルト マンガン粒含む
14. 5Y5/3灰オリブ 細砂
15. 2.5Y6/4にぶい黄 粘土混シルト 鉄分・マンガン粒含む
16. 2.5Y5/2暗灰黄 粘土に5Y5/3灰オリブ 細砂含む
17. 5Y5/3灰オリブ 細砂に2.5Y5/2暗灰黄 粘土含む 鉄分ブロック状に沈着
18. 5Y7/3浅黄 粘土に5Y5/3灰オリブ 細砂含む



1. 2.5Y5/4黄褐 細砂
  2. 2.5Y4/4オリブ褐 細砂
  3. 2.5Y4/3オリブ褐 細砂
- 2.5Y6/4にぶい黄 粘土ブロック状に少量含む



1. 2.5Y5/4黄褐 細砂
  2. 2.5Y5/3灰オリブ 細砂
  3. 5Y5/3灰オリブ 細砂
  4. 5Y5/2灰オリブ 細砂
  5. 5Y5/2灰オリブ 細砂
  6. 5Y5/3灰オリブ 細砂に鉄分を含む5Y7/3浅黄 粘土ブロック状に含む
  7. 5Y7/3浅黄 粘土混シルト 鉄分含む
- 2.5Y6/2灰黄 粘土ブロック状に多量に含む φ~5cmの礫含む  
2.5Y6/2灰黄 粘土ブロック状に少量含む  
2.5Y6/2灰黄 粘土粒状に含む



1. 5Y5/2灰オリブ シルト混細砂 鉄分筋状に入る
  2. 2.5Y5/3黄褐 シルト+5Y5/2灰オリブ シルト混細砂
  3. 2.5Y7/4淡黄 粘性シルトブロック状に含む
  4. 2.5Y6/2暗灰黄 シルト混細砂に2.5Y7/4浅黄 粘性シルトブロック状に含む 鉄分含む
  5. 2.5Y7/1灰白 粘性シルト混細砂 鉄分上部に多く含む
- 2.5Y5/4黄褐 細砂+5Y6/2灰オリブ 細砂

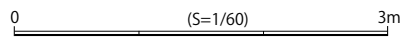
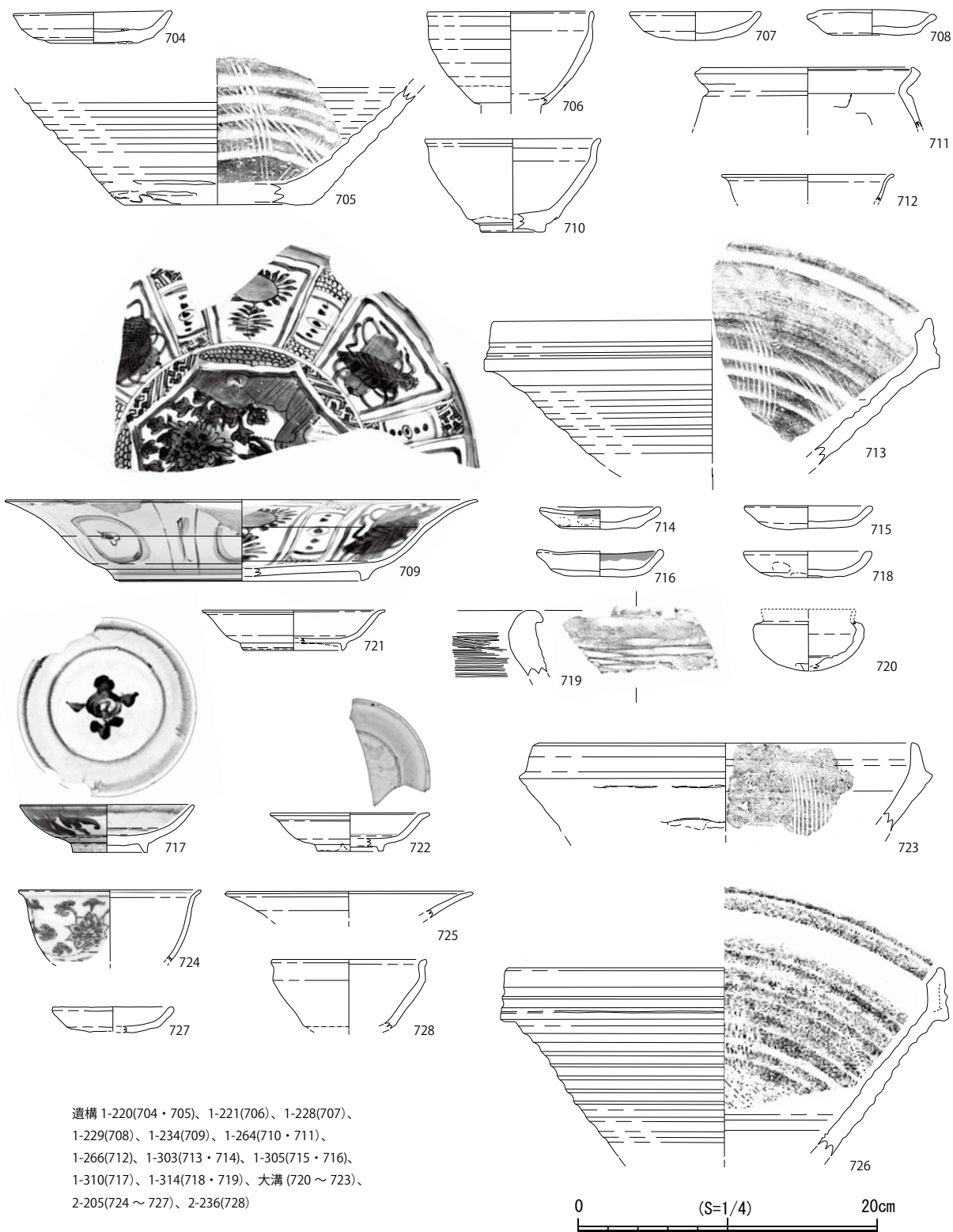


図 71 1・2区 第5-2遺構面 検出遺構(2)





遺構 1-220(704・705)、1-221(706)、1-228(707)、  
 1-229(708)、1-234(709)、1-264(710・711)、  
 1-266(712)、1-303(713・714)、1-305(715・716)、  
 1-310(717)、1-314(718・719)、大溝(720～723)、  
 2-205(724～727)、2-236(728)

図 72 1・2区 第5-2遺構面 遺構出土土器

## 2-205土坑（図71・72、図版69）

大溝東側のテラス状遺構に接して検出した土坑で、帰属面不明の井戸などによって北側が削平される。平面形状は隅丸方形を呈していたと考えられ、規模は長さ5.00m、幅3.90m、深さ1.20mを測る。底面は凸凹が著しく、粘土採掘土坑の可能性がある。遺物は中国製磁器（724）、朝鮮製磁器（725）、備前焼（726）、土師質土器（727）などが出土している。

## 10 第6-1遺構面の遺構（図73・83、図版7）

中世の遺構面は複数面存在し、上位は畝として、下位は水田として利用されている。第6-1遺構面の上面までは細砂が基調であったものが、この面からシルトが基調となる。1区でのみ調査をおこなっている。検出した遺構は、水田の耕作溝と畝の畝間溝、不定形な土坑などである。この面の上（耕作土）から、中国製磁器（814）土師器などが出土しており、これらから15世紀頃の耕作面であると考えられる。

### 耕作溝・畝

水田に伴う鋤溝は東西方向のみで、比較的重複も少ない。畝に伴うと考えられる畝は調査区の中央付近でのみ検出した。南北方向で、畝の幅は約1.50mを測る。明確な畦畔は検出していない。

## 11 第6-2遺構面の遺構（図74・83、図版8）

第6-1遺構面直下の耕作面で、マンガン粒が多く沈着した層の上面となる。検出した遺構には耕作溝と畦畔がある。この面の上（耕作土）から、中国製磁器（815）、土師器などが出土して



図73 1区 第6-1遺構面 全体図

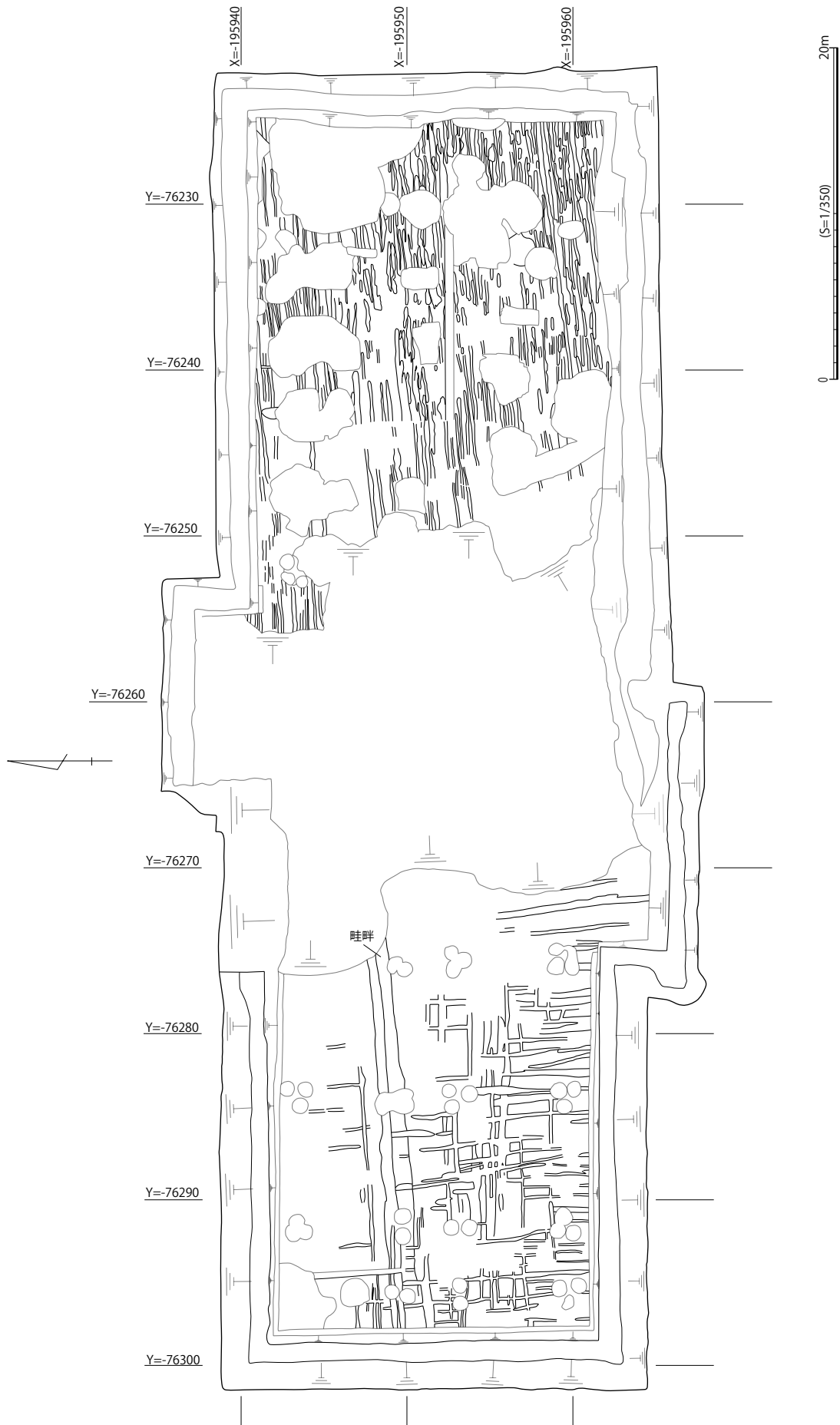


图74 1·2区 第6-2遺構面 全体図

おり、これらから14世紀頃の耕作面であると考えられる

#### 耕作溝・畦畔

1・2区の東側では、東西方向の水田耕作に伴う鋤溝を密な状態で検出している。西側では東西方向の鋤溝・畦畔とそれ直交する南北方向の鋤溝を検出している。畦畔は幅約1.00mで、長さ約23.00mを確認している。畦畔を貫くように南北方向の鋤溝が存在することから、南北方向の鋤溝が後出すると考えられる。広い範囲を調査して、畦畔は1条のみであり、水路に相当する溝も検出できないことから、水田区画は比較的大きかったと考えられる。

### 12 第7遺構面の遺構（図75・84、図版9・70）

調査区の東側は微高地で、そこに1-340谷状地形が切れ込んでおり、底付近で井戸・溝を検出した。西側は地山面がグライ化しており、遺構検出は困難であった。遺構面の上あるいは遺構検出時に瓦器（816）、黒色土器、土師器（817・820）、須恵器（818）、弥生土器（819）、土錘（821）などが出土している。平安時代の後半から末頃の遺構面であると考えられる。

#### 1-340谷状地形（図79・181・182、図版69・93）

谷状地形は1区の東端で北北西―南南東方向に伸び、そこから直交するように西南西に伸びている。西側に向かっては徐々に谷の起伏がなくなり平坦となる。谷状地形の幅は8.00～15.00mで、微高地と谷底との比高は0.20～0.50mを測る。遺物は埋土から瓦器（729～731）、黒色土器、土師器（732～738）、須恵器、弥生土器、埴輪（739）、土錘（740）、古代瓦（T172）、礫石器（S27）などが出土している。

#### 1-347井戸（図76・79・189、図版20・69・99）

調査区の東端で検出した井戸で、谷状地形の肩口付近に位置する。井戸の掘形の平面形状は楕円形で、規模は3.30m×3.00mを測る。上部構造は明らかでないが、検出面より0.8m下では結晶片岩の板石を敷きその内側に直径約44cmの曲物（W14・W15）を2つを重ね、下位の曲物の下には底板を置いていた。遺物は土師器（744・746）、瓦器（745）、黒色土器、須恵器が出土している。

#### 1-342溝（図76・182、図版93）

1-340谷状地形の底で検出した溝で、南方で北北西―南南東方向に伸び、南端は調査区域外に伸びる。1-344・1-346溝より古く、北端は1-346溝と交差する付近で途切れている。規模は幅0.60～1.20mで、深さは残りの良いところで0.35mを測り、断面形状は船底状を呈する。調査区内で長さ約13.00mを確認した。遺物は土師器・黒色土器・瓦器、礫石器（S28）などが出土している。

#### 1-343溝（図76）

1-340谷状地形の底で検出した溝で、北北西―南南東方向に伸びる。両端は調査区域外に伸び、調査区内で長さ約20.00mを確認した。1-344・1-346溝より古く、規模は幅0.40～0.65m、深さ0.12mで、断面形状は船底状を呈する。遺物は土師器・黒色土器が出土している。

#### 1-344・1-346溝（図76・79、図版69）

谷状地形の底で検出した溝で、約2.00mの間隔をあけて東北東―西南西方向に伸びる。西端は途中で検出できなくなり、東端は攪乱により削平されるが、両方向にはさらに伸びていたと考えられる。規模は1-344溝が幅0.45～0.90m、1-346溝が幅0.50～1.00mを測る。深さはともに0.20m前後で、断面形状は船底状を呈する。遺物は1-344溝から土師器、瓦器、須恵器、1-346から瓦

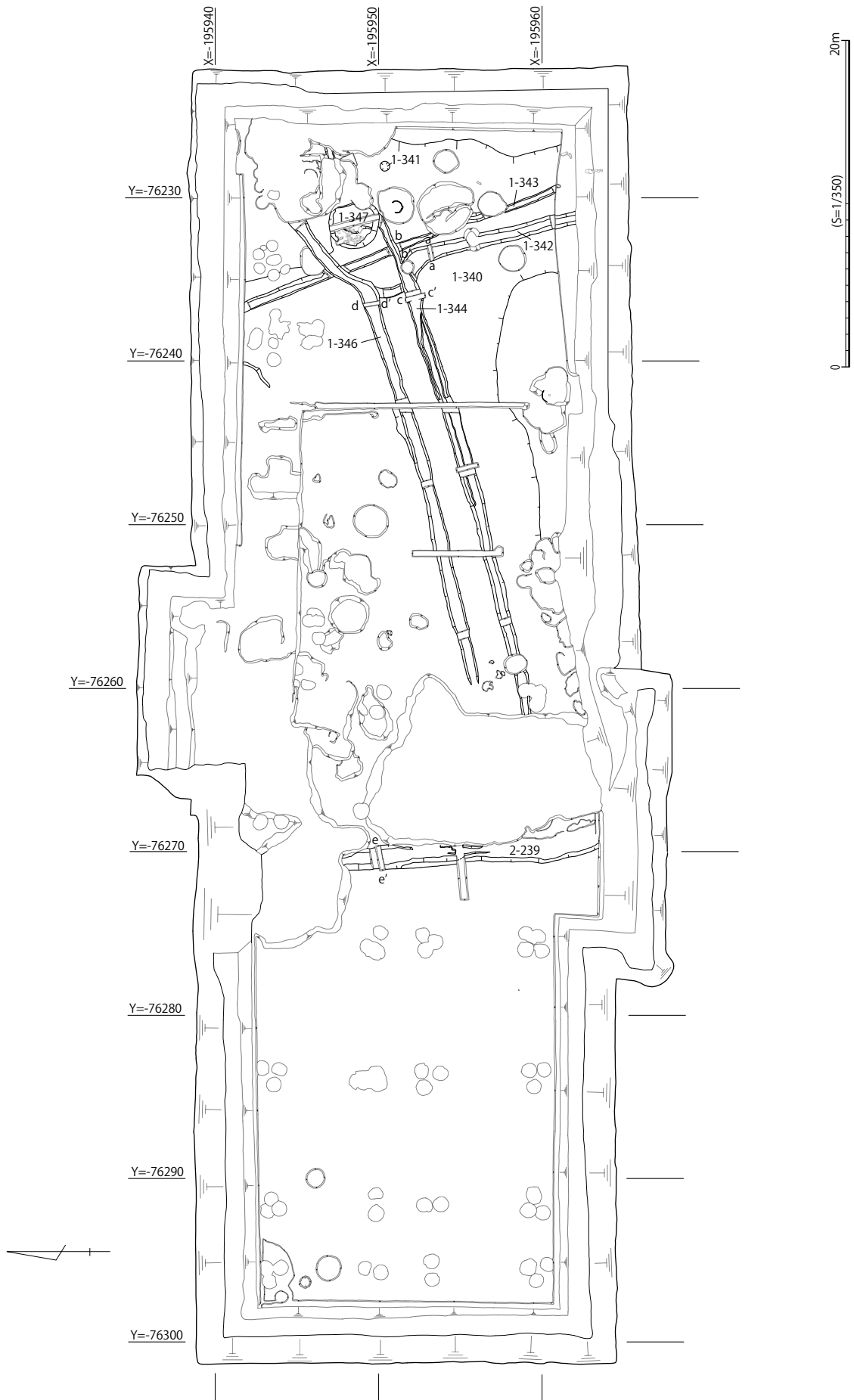


图 75 1·2区 第7遺構面 全体図

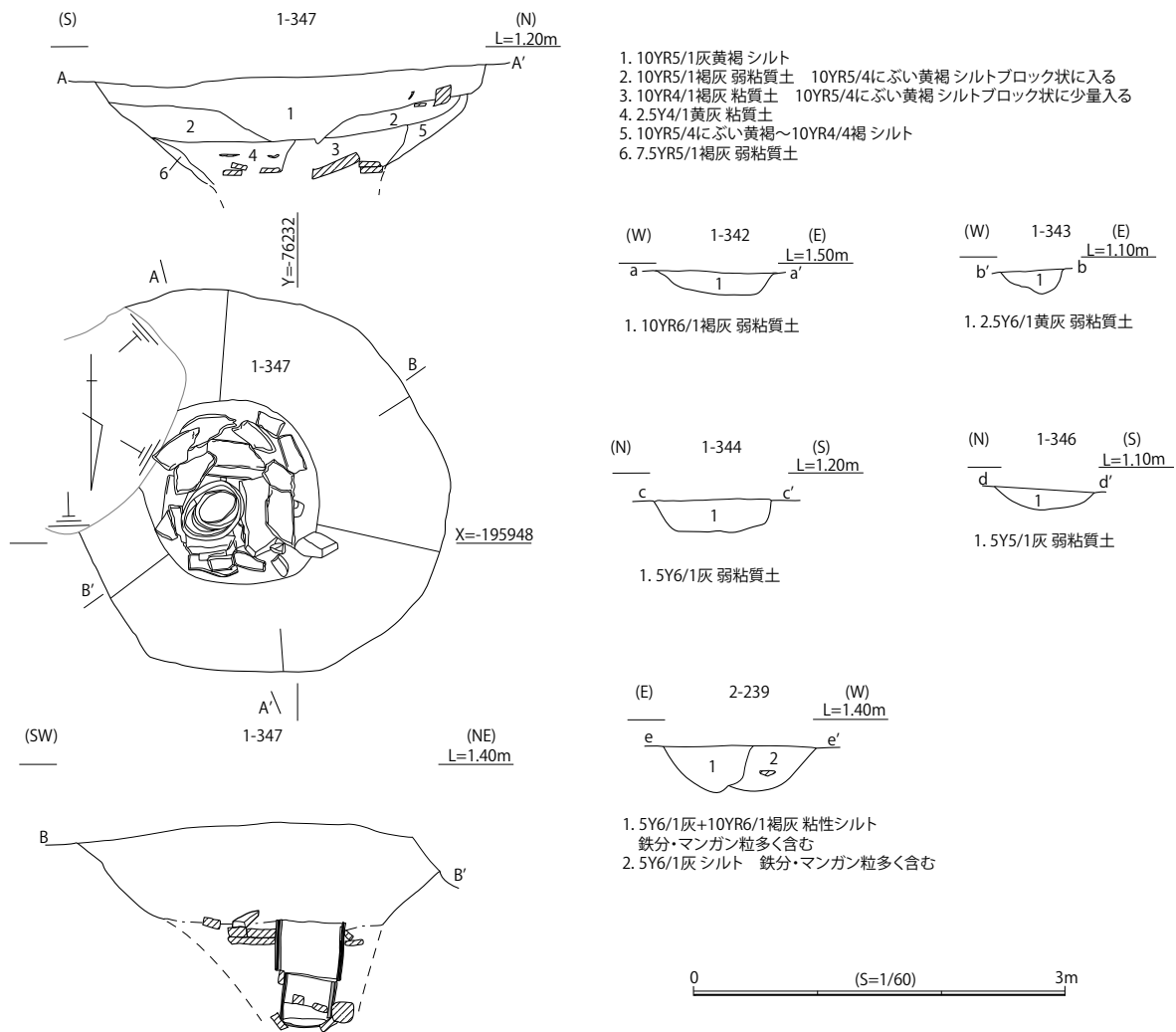


図76 1・2区 第7遺構面 検出遺構

器(742)、土師器(743)、黒色土器、須恵器などが出土している。

### 2-239溝 (図76・79)

調査区の中央付近で検出した南北方向の溝で、南端は調査区域外に伸び、北端は後世の遺構により削平される。幅0.80m前後の二つの溝が重複しており、再掘削されている可能性もある。深さは0.40m前後を測る。遺物は土師器・瓦器(747)・黒色土器・須恵器が出土している。

### 13 第8遺構面の遺構 (図77・84・181、図版10)

東側で谷状地形と溝、西側で掘立柱建物・柱穴などを検出した。西側は地山面がグライ化しており、遺構検出は困難であった。このため、掘立柱建物・柱穴などは、第9遺構面で検出したものである。第8遺構面上あるいは遺構検出時に出土した遺物には黒色土器(822～825)、土師器(826～834)、須恵器(835～837)、古墳時代の土師器(838)、土製品(839)、土錘(840)、古代瓦(T168～T171)などがある。

### 谷状地形・1-366・2-242溝 (図78)

第7遺構面と同様に調査区の東側は微高地となっており、そこに谷状地形が切れ込んでいます。



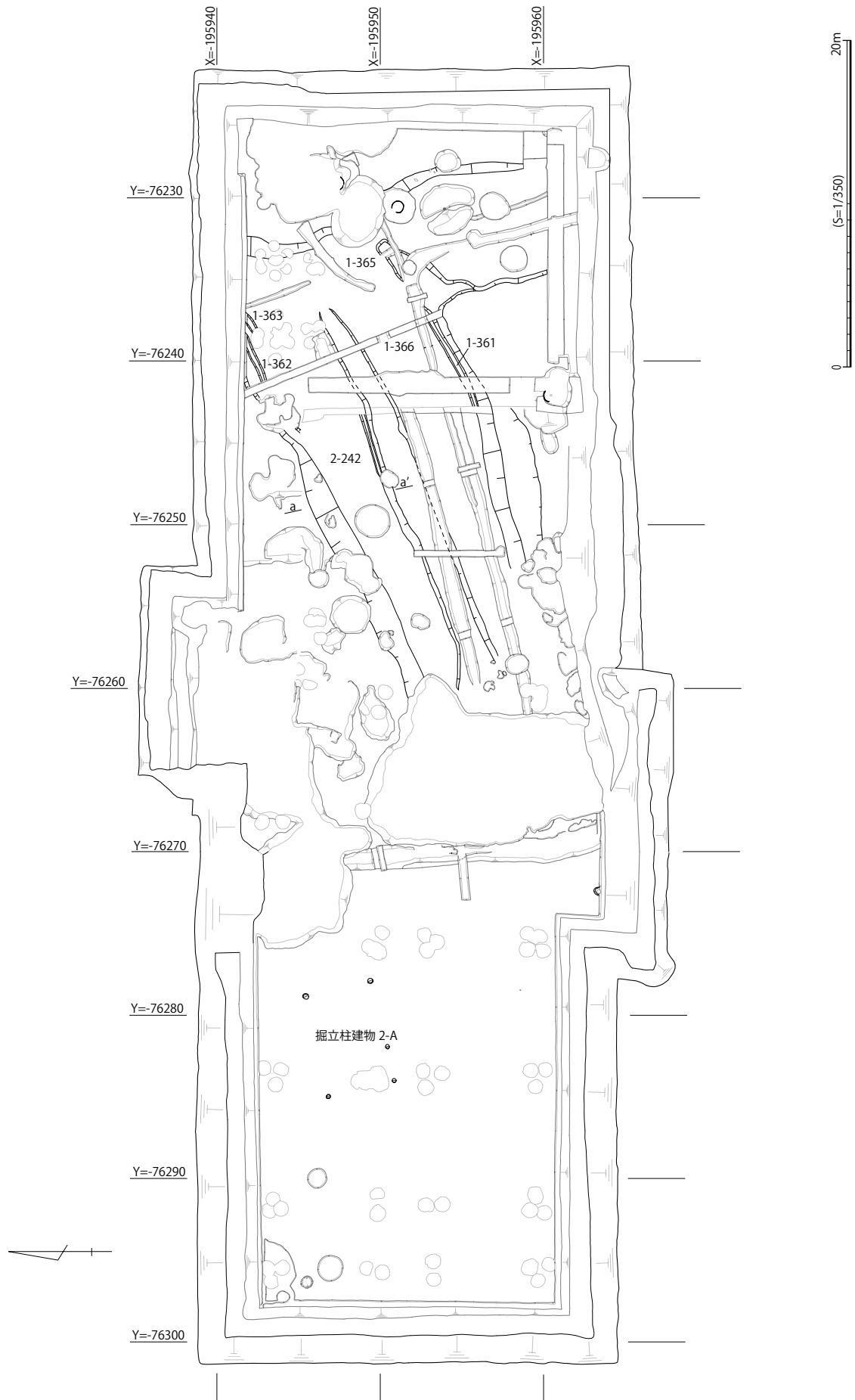


图 77 1・2区 第8遺構面 全体図

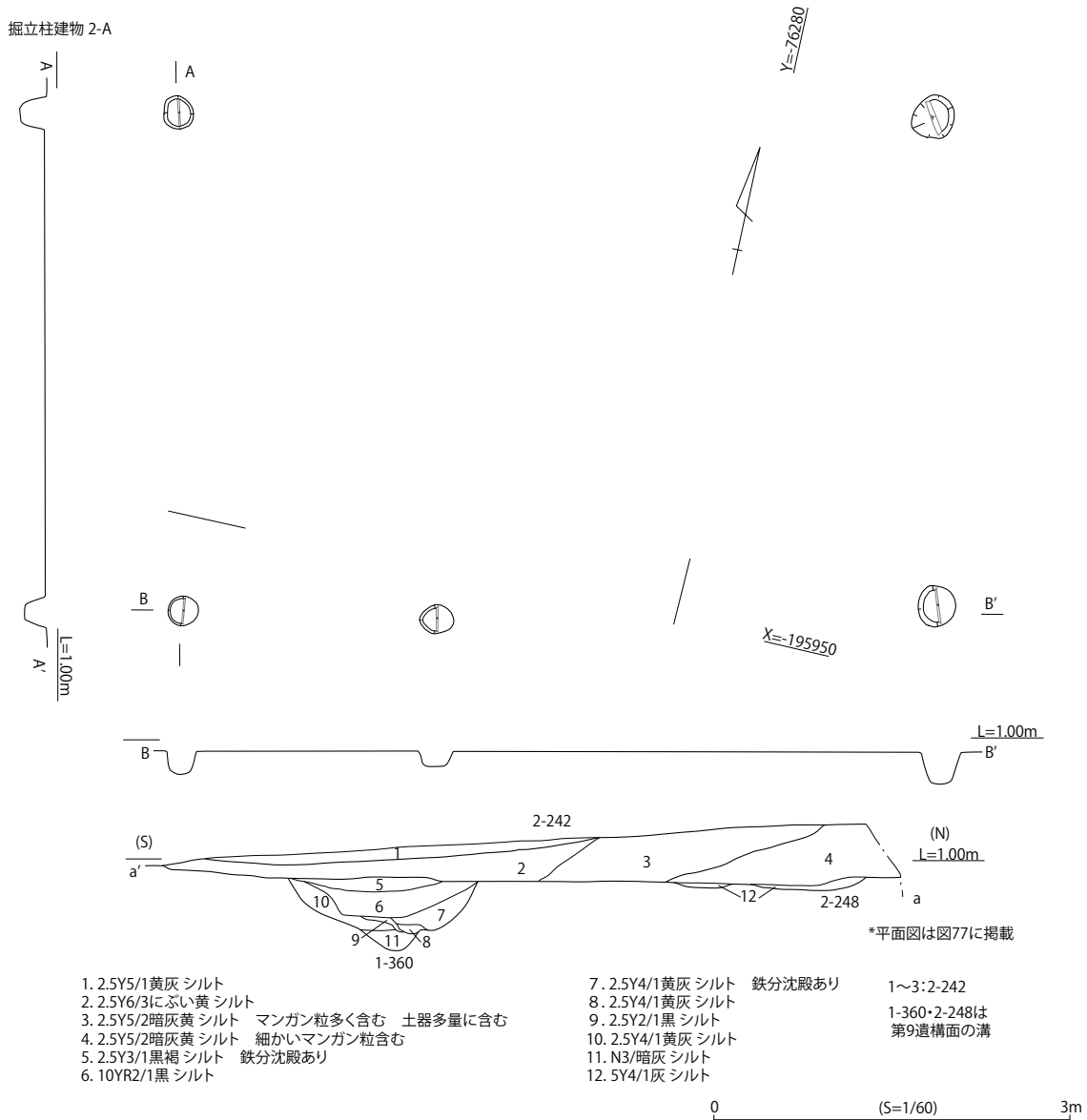


図 78 1・2区 第8遺構面 検出遺構

調査区内では東北東－西南西と北北西－南南東方向のL字状に検出したが、北北西にはさらに伸び、T字状に谷状地形が存在した可能性が高い。谷状地形の幅は8.00～12.00mで、微高地と谷底との比高は0.35～0.45mを測る。東北東－西南西に伸びる個所では、底付近で二つに分かれ北側を2-242溝、南側を1-366溝としている。溝の西側への展開が明らかでないが、谷状地形そのものが、南北に流れる水を西側に分水する水路であった可能性がある。遺物は2-242溝内に北方向から落ち込んだ状態で黒色土器（749・750）、土師器（751～753）、須恵器（748）などが出土している（図79）。

#### 掘立柱建物2-A（図78、図版20）

2区の西側で検出した建物で、すべての柱穴は検出できていないが、桁行6.30m、梁行4.20mを測る。建物軸はN-12°-Wを指す。柱穴は直径0.20～0.30m、深さは0.05～0.10mを測る。遺物は出土していない。

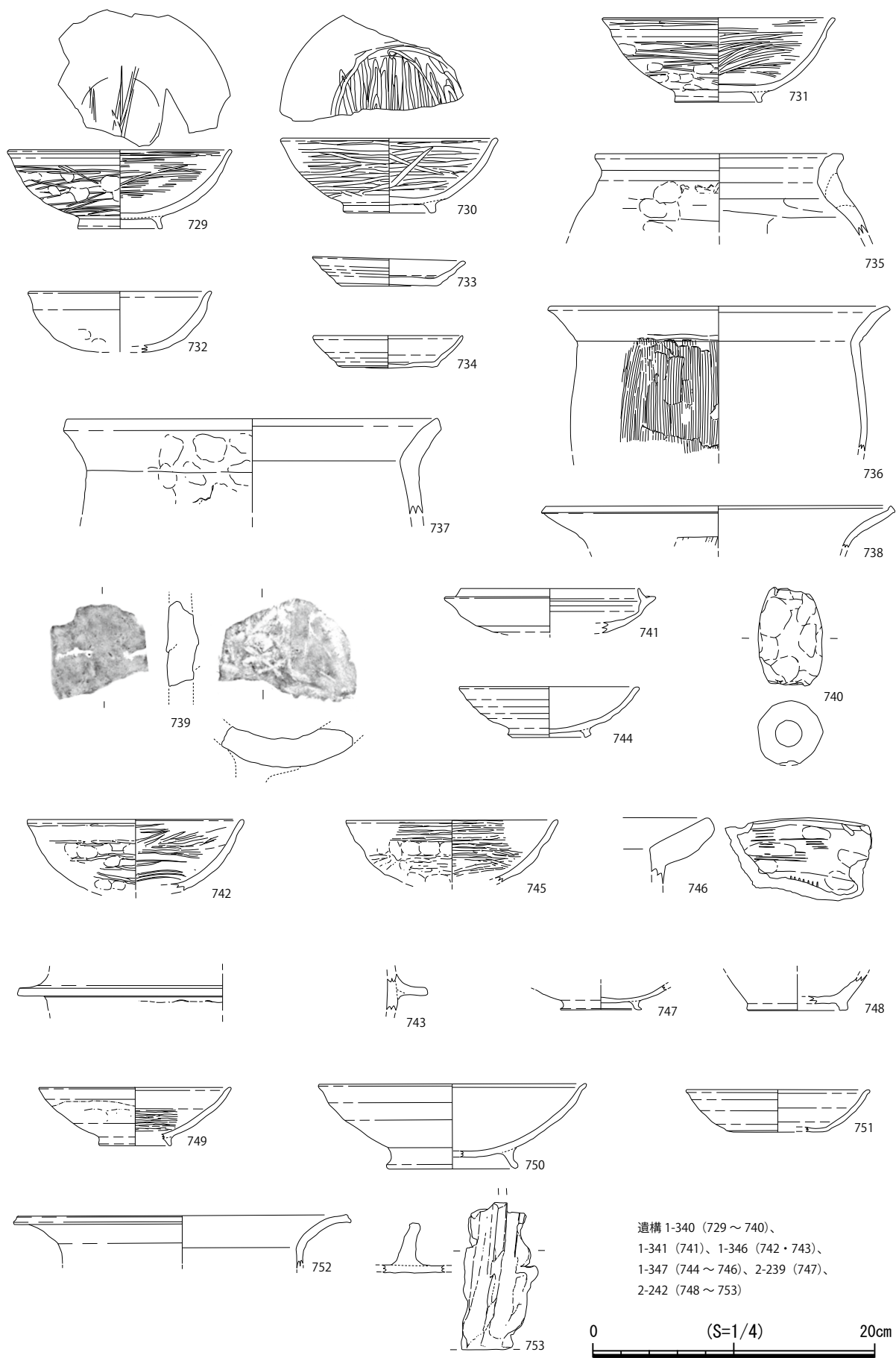


图 79 1・2区 第7・8遺構面 遺構出土土器

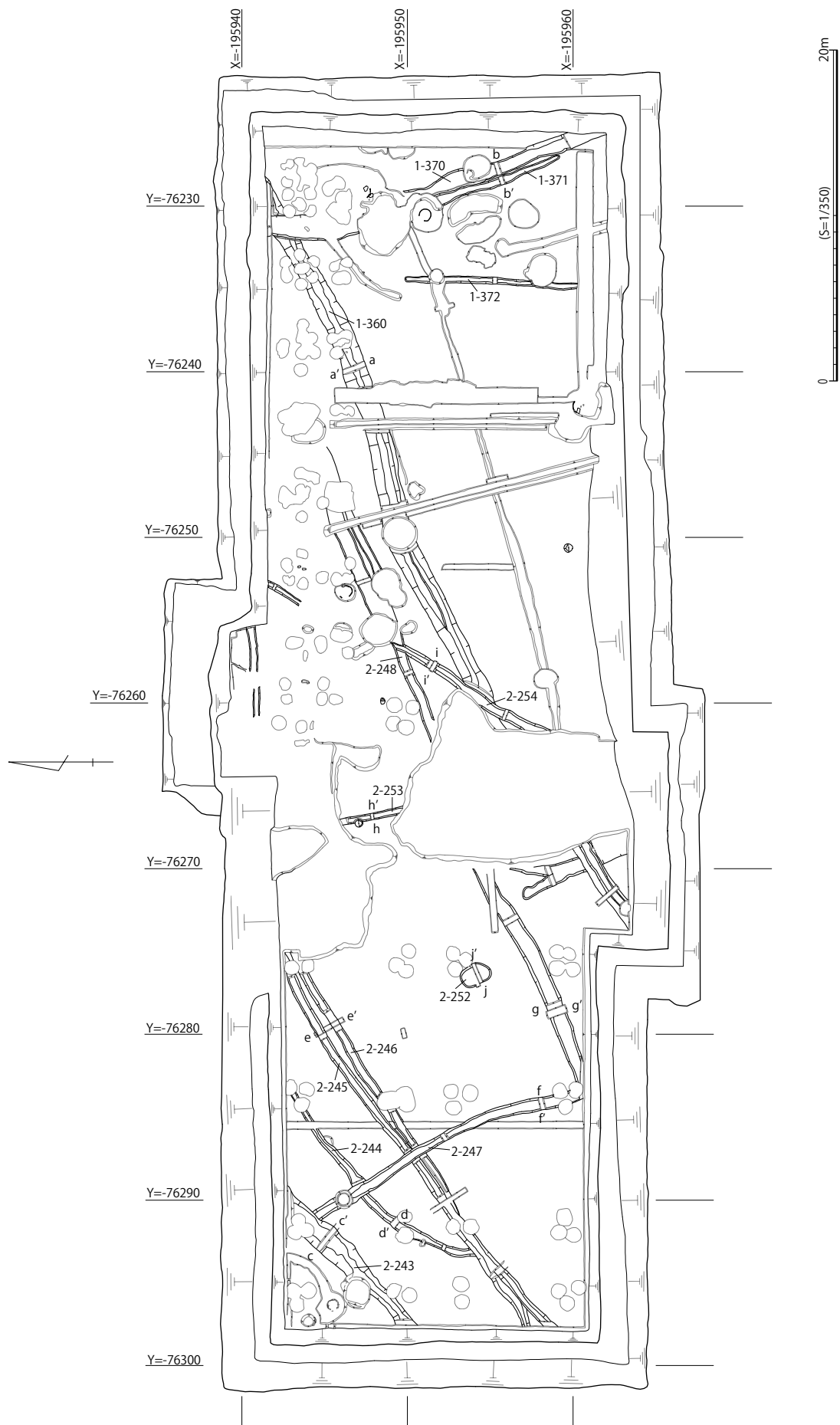


图 80 1·2区 第9遺構面 全体図

14 第9遺構面の遺構（図80・84・182、図版11・20・93・94）

検出した遺構には土坑・溝がある。溝は方向に規則性を見出すことができ、北東－南西方向、北西－南東、東－西、北－南方向があり、例外はあるものの、基本的に北東－南西方向の溝を切って北西－南東方向の溝が掘削されている。細く長く伸びる状況から流路の性格を持っていると考えられる。地山面は、南東隅付近でやや高くなっており、調査区全体がほぼ微低地に位置することになる。遺構面の上や遺構検出時に出土した遺物には須恵器（841）、土師器（842・843）、砥石（S29）、石鏃（S30）などがある。

1-370・371溝（図81）

1-370・371溝は1区東端で検出したもので、1-360溝より新しい。また、1-370溝より1-371溝の方が新しい。

1-370溝は北側で南北方向に、南側で北西－南東方向に緩やかな弧状を呈して伸びる。規模は幅0.80～1.20m、深さ0.25mで、断面形状は船底状を呈する。両端が調査区域外に伸び調査区内で長さ約21.00mを確認している。底の深さは北と南では差がなく、流れの方向は不明である。

1-371溝は幅0.20～0.70m、深さ0.10mで、断面形状は船底状を呈する。南端は調査区内から始まり、北端は明確でなく、長さ約8.00mを確認した。

1-370・371溝からは土師器・須恵器が出土している。

1-360・2-248溝（図81）

1-360・2-248溝は1区から2区にかけて検出した溝で、北東－南西方向に伸びる。

1-360溝は幅1.00～1.50m、深さ0.35～0.45mで、断面形状は船底状を呈する。両端は調査区域外に伸び、調査内で長さ約51.00mを確認した（写真10）。

2-248溝は幅0.70～1.20m、深さ0.05～0.10mで、断面形状は浅い船底状を呈する。南西端は調査区域外で、北西端は調査区内で途切れているが、更に伸びていたと考えられる。調査区内で

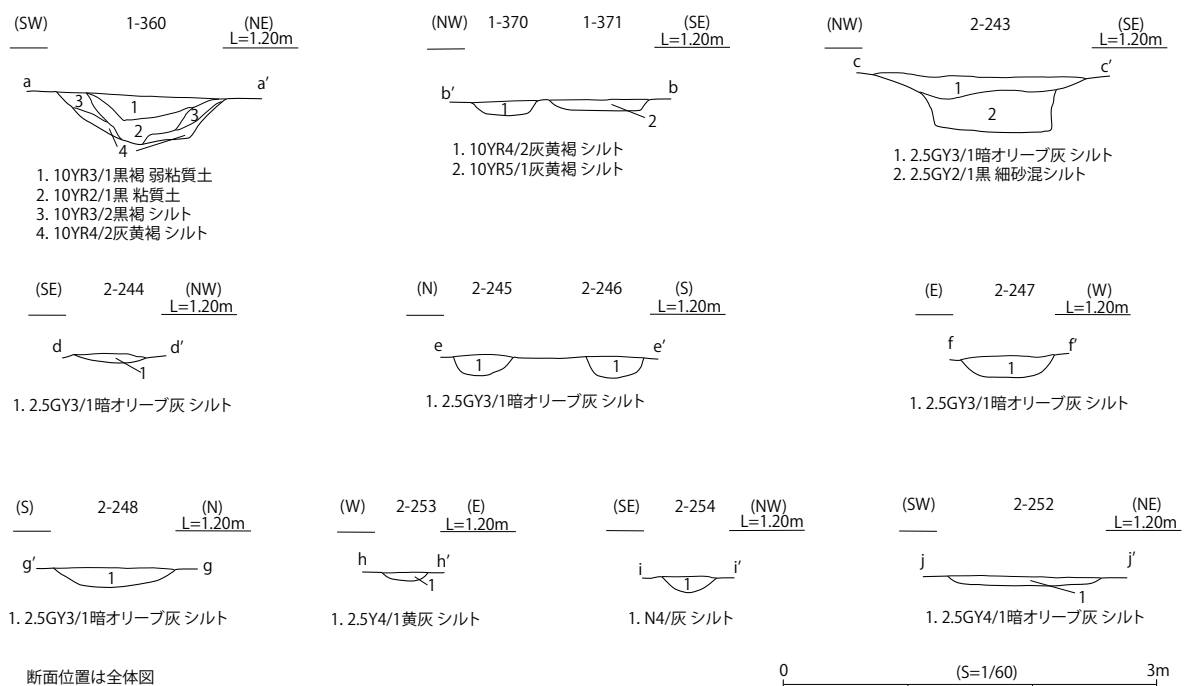


図81 1・2区 第9遺構面 検出遺構



写真10 1-360溝断面（北北東から）



写真11 2-243溝断面（南西から）

長さ約41.50m確認した。

1-360・2-248溝とも底の深さは両端で大きな差はなく、流れの方向は不明である。遺物は1-360溝から土師器、2-248溝から土師器・須恵器が出土しており、古墳時代の溝であると考えられる。

#### 2-245・246溝（図81）

2-245・246溝は2区の西側で検出したもので、調査区内で交差し、2-246溝より2-245溝の方が新しい。1-360・2-248・2-243溝とほぼ同じ北東－南西方向に伸びる。規模は両溝とも幅0.50m前後、幅0.05～0.15mで、断面形状は船底状を呈する。両端は調査区域外に伸び、調査区内で長さ約28.00mを確認した。両端の深さに大きな差はなく、流れの方向は不明である。遺物は出土していないが、古墳時代の溝であると考えられる。

#### 2-243溝（図81、写真11）

2-243溝は2区の西端で検出したもので、地山面が微高地から微低地に下る肩口に位置する。規模は幅0.70～1.50m、深さ0.25～0.35mで、断面形状は船底状を呈する。両端は調査区域外に伸び、調査区内で長さ11.50mを確認した。遺物は出土していないが、古墳時代の溝であると考えられる。

#### 2-247溝（図81）

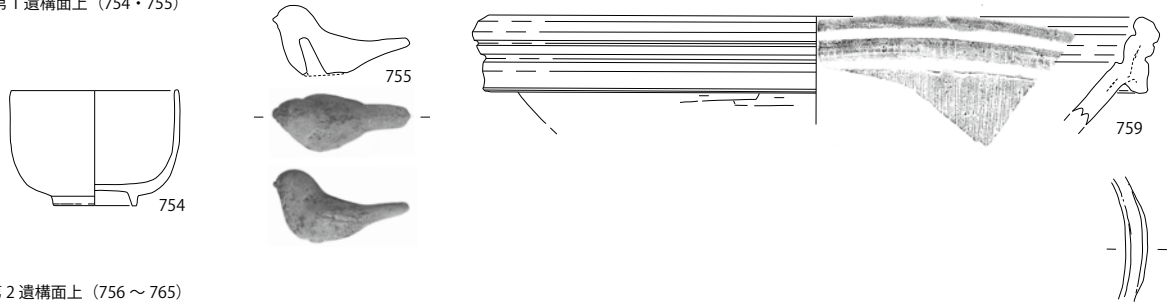
2-247溝は2区の西側で検出したもので、2-244・2-245・2-246溝と重複し、それより新しい。北側は2-243溝と接し、それより北側に伸びていないことから、2-243溝と同時期である可能性がある。規模は幅0.50～1.00m、深さ0.15mで、断面形状は船底状を呈する。南端は調査区域外に伸び、調査区内で長さ約18.00mを確認した。遺物は土師器が出土しており、古墳時代の溝であると考えられる。

#### 2-252土坑（図81）

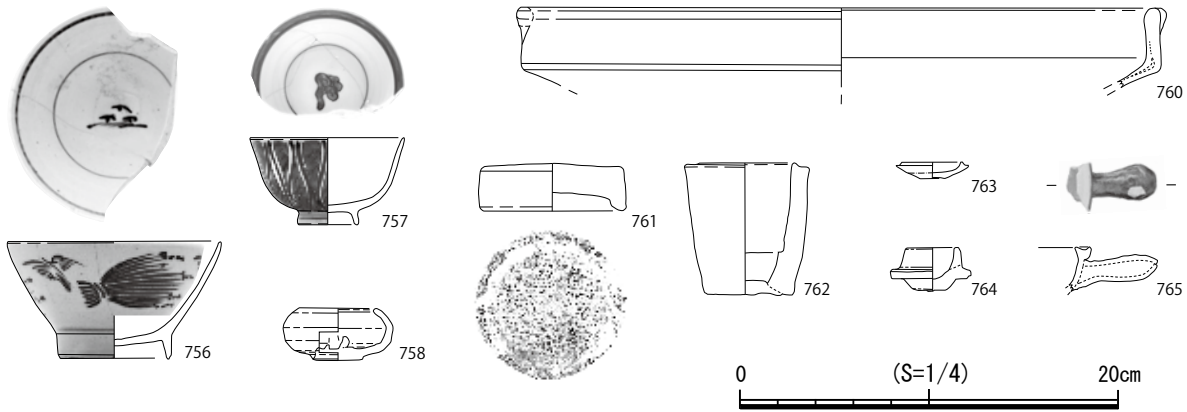
2区の中央付近で検出した土坑で、平面形状は楕円形を呈する。規模は長さ1.90m、幅1.30m、深さ0.05mを測る。断面形状は浅い船底状で、遺物は土師器片が出土している。



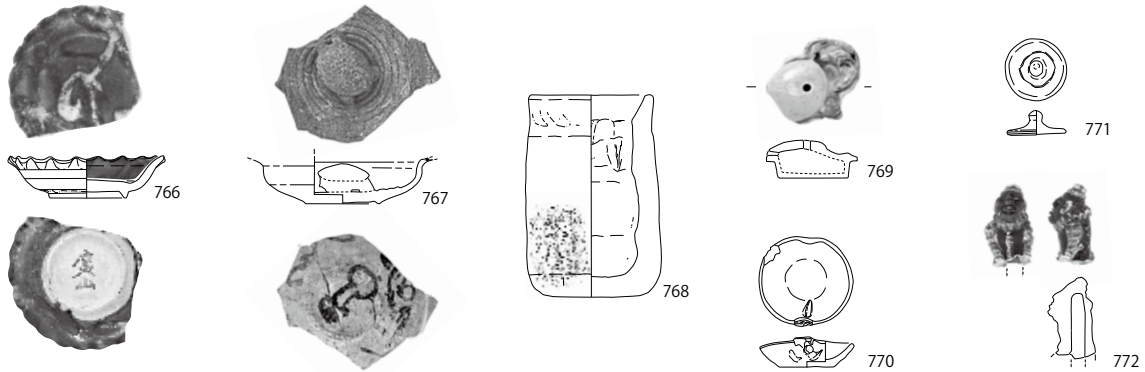
第1遺構面上 (754・755)



第2遺構面上 (756～765)



第3遺構面上 (766～772)



第4-1遺構面上 (773～782)

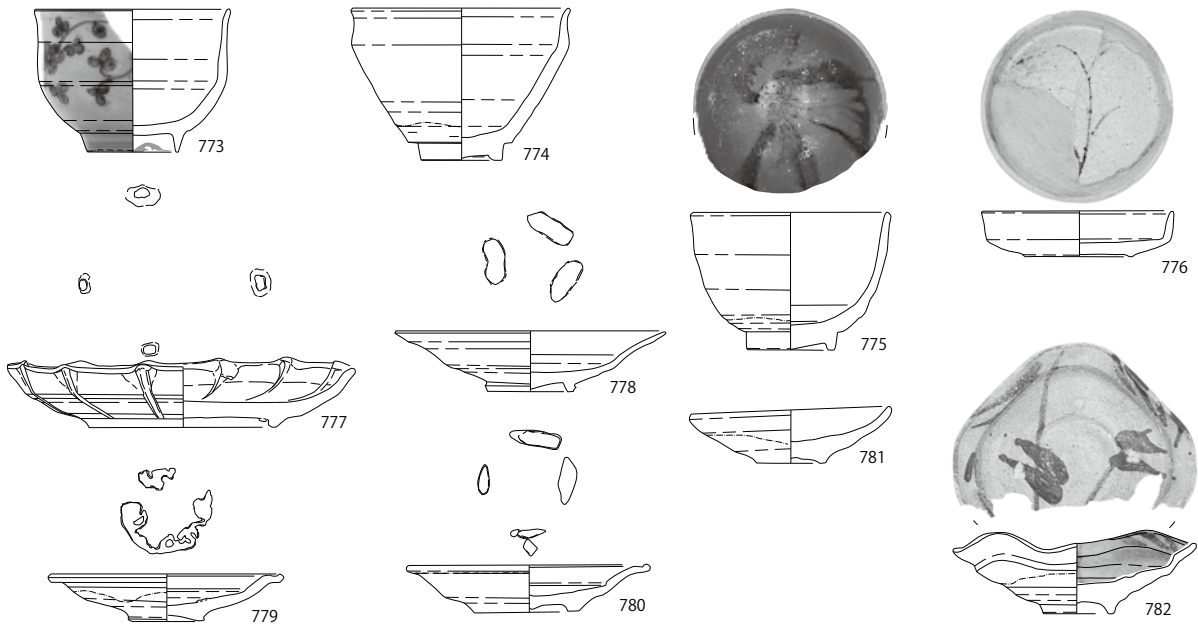
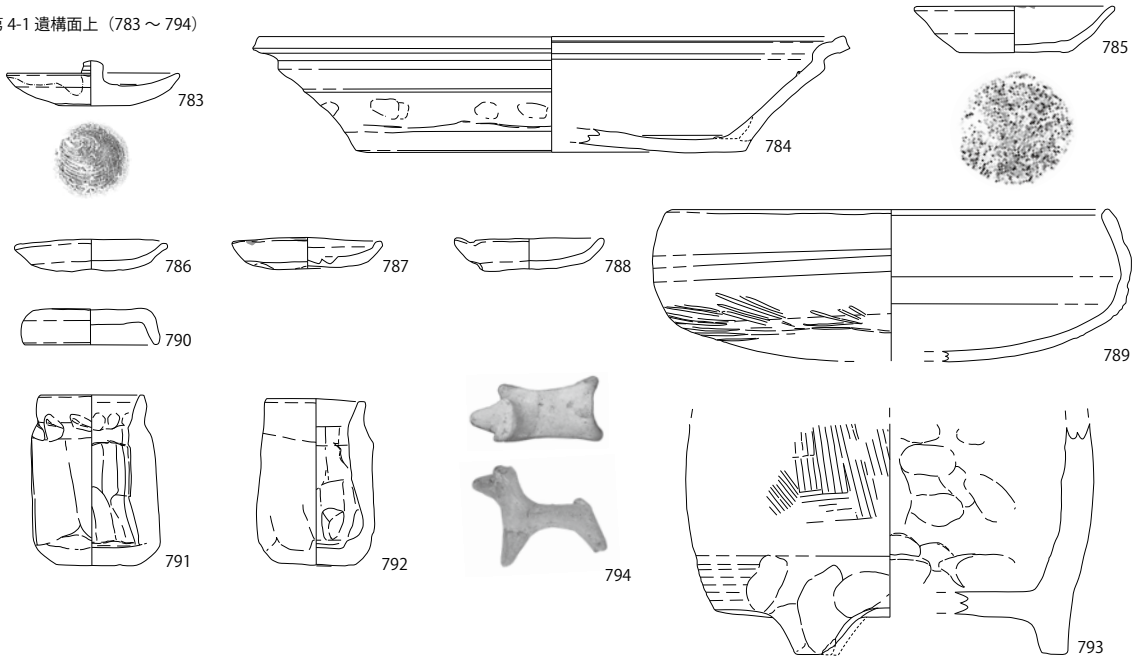
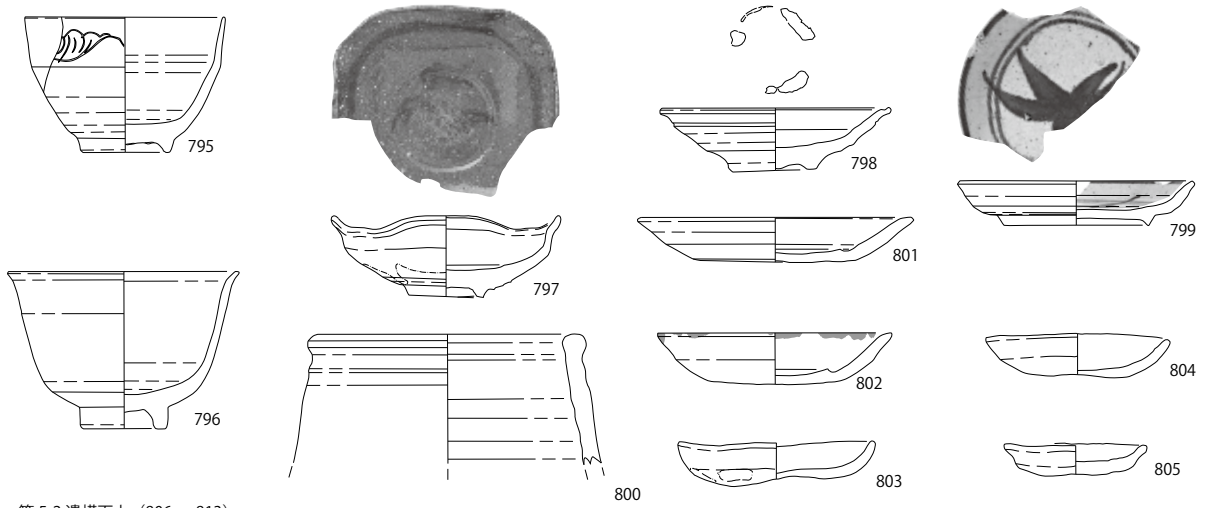


图82 1・2区 整地土・包含層等出土遺物 (1)

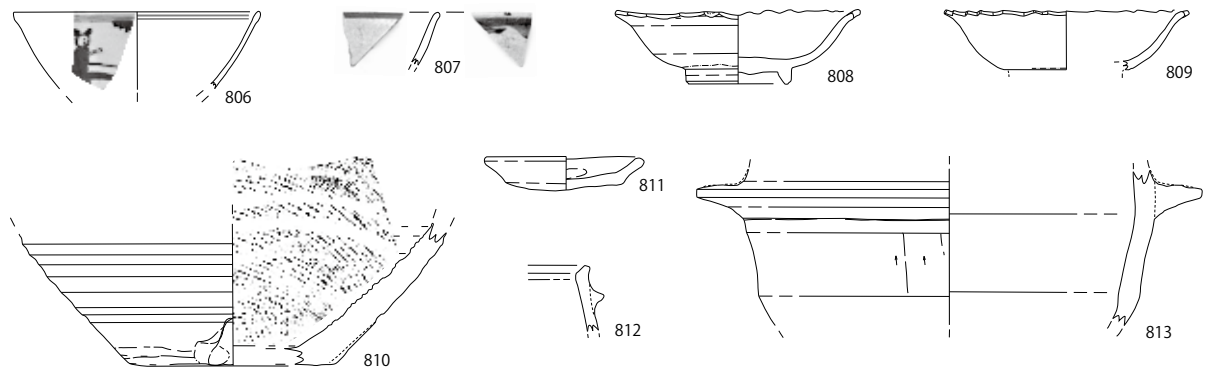
第4-1 遺構面上 (783~794)



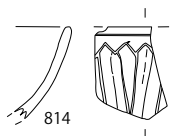
第4-2 遺構面上 (795~805)



第5-2 遺構面上 (806~813)



第6-1 遺構面上 (814)



第6-2 遺構面上 (815)

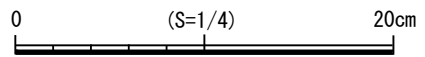
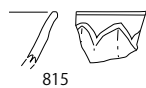
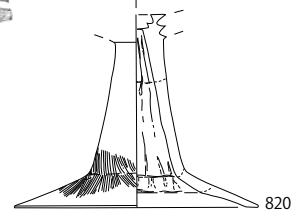
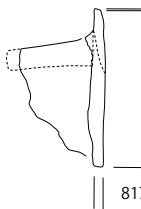
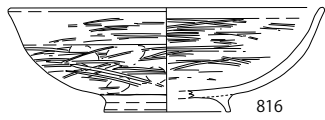
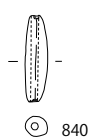
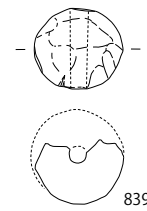
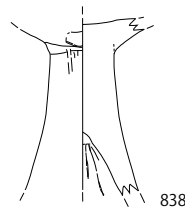
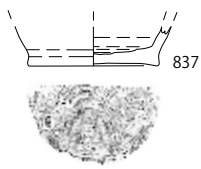
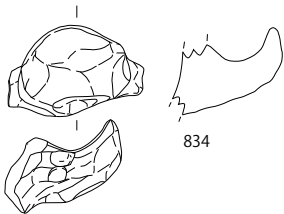
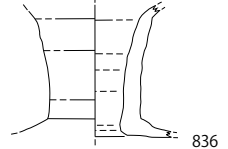
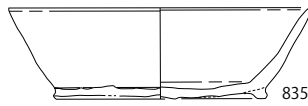
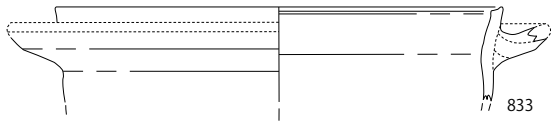
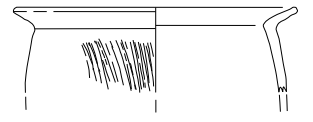
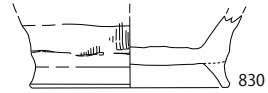
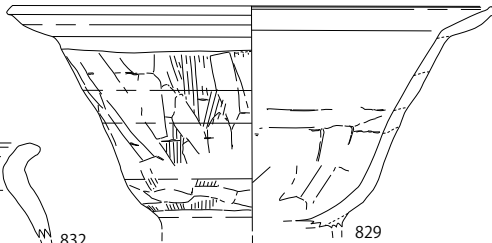
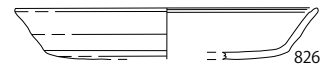
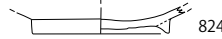
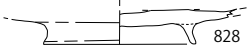
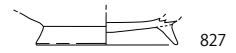
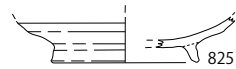
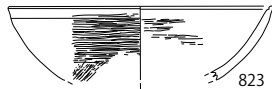
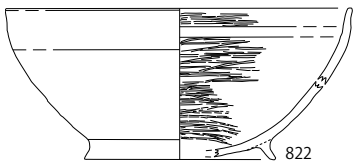


图 83 1・2区 整地土・包含層等出土遺物 (2)

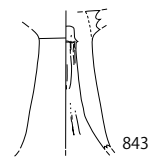
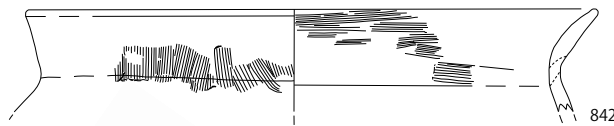
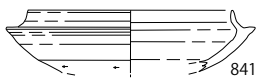
第7遺構面上 (816~821)



第8遺構面上 (822~840)



第9遺構面上 (841~843)



攪乱 (844~847)

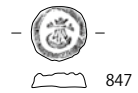
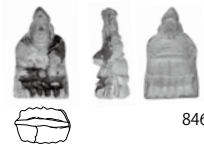
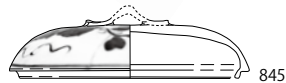
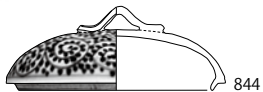
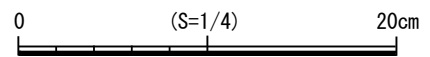
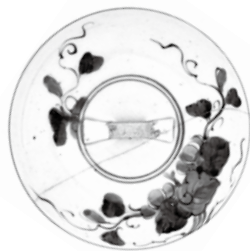


图84 1・2区 整地土・包含層等出土遺物 (3)

### 第3節 3・4区の調査成果

#### 1 基本層序と遺構面 (図85)

3・4区の基本層位は、1・2区とほぼ同じであるが、現地表面をはじめ江戸時代の各遺構面の標高は、1・2区に比べ3・4区側がやや低くなっている。中世以前の遺構面の標高は、1・2区と3・4区とも大きく変わらず、自然堆積(風成堆積)した砂層(第6層)の厚さが、江戸時代の遺構面の高さに影響していると判断できる。

1・2区と同様に江戸時代の遺構面は第2～6層上面に形成されており、整地により生活面の嵩上げをおこなっている。第6層は南西側に厚くなることから、その分北東側の整地土が厚くなり第6層も東側では存在しない箇所がある。

第6層下には16世紀後半から末頃の遺構面が複数面形成されており、第5-1・第5-2遺構面として調査をおこなっている。攪乱が多く十分に分層することができなかったが、北東側はほぼ同時期の遺構面がさらに存在した可能性がある。

第5-2遺構面以下は、中世の耕作面が続く、上方の面は畝として、下方の面は水田として土地活用されていたことが窺える。1区で調査した第12層上面の第6-1遺構面、第13層上面の第6-2遺構面は、ほぼ同じ内容の耕作面であったことから、3・4区では耕作溝等の残りが良い第6-2遺構面の調査をし、新たに第15層上面を第6-3遺構面として3区のみで調査をおこなっている。

古代の遺物を包含する第15・16層の下面をそれぞれ第7遺構面、第8遺構面としている。また、古墳時代以前と考えられる第17層下面を第9-1遺構面とし、ほぼ同一面で検出した弥生時代の遺構を第9-2遺構面として調査をおこなっている。

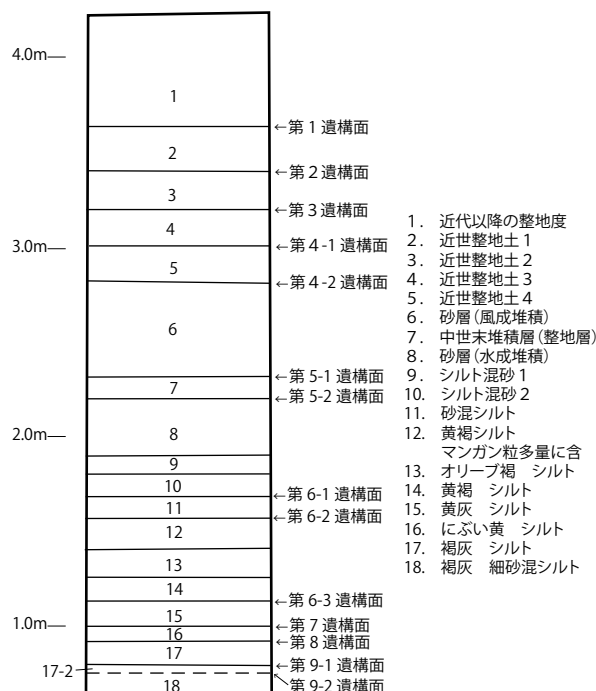


図85 3・4区の基本層序柱状図

#### 2 第1遺構面の遺構 (図86・169・186・187・188・204、図版21～23・96・97・98・107)

江戸時代末以降の遺構面であると考えられる。校舎の基礎による攪乱が著しく、検出した遺構は残片的にしか把握できない。遺構には土坑や漆喰を貼った土坑、塵芥処理穴と考えられる大型土坑などがあるが、遺構密度は希薄である。また、遺構検出時に第1遺構面の上面などから出土した遺物には土製品(1594～1597)、小柄(M54)、銭貨(M110・M136・M140・M153)、骨角製の有孔玉(B6)などがある。

#### 3-001・006土坑 (図87、図版32、写真12)

3区の東側で検出した土坑で、3-001と3-006は重複し、3-001の方が新しい。

3-001土坑は平面形状が長楕円形を呈し、長さ3.60m、幅1.90m、深さ1.00mを測る。断面形

状はU字状を呈する。層位は整然としたレンズ状堆積で、下層には多量の炭が含まれていた。遺物は各層から多量に出土しており、肥前系磁器（853・854・856～860・862・863）、瀬戸美濃磁器（848～852・855・861）、肥前系陶器（868・871・872）、瀬戸美濃系陶器（869）、京・信楽系陶器（864～867・870・873）、堺・明石系陶器（874・875）、土師質土器（876～881）、土製品、瓦類（T19・T59・T121）、鉄釘、不明銅製品のほか、動物遺存体（貝類・魚骨）などがある（図89・90・171・173・176、図版71・72・91）。

3-006土坑は西側の肩の一部が3-001土坑に、東側を攪乱により削平される。平面形状は楕円形を呈し、底面全体に漆喰を貼っていたと考えられる。規模は長さ2.10m、幅0.90m以上を測る。構築はまず約0.70m掘り下げて、0.15～0.20mの厚さで黄褐シルトを置き、その上に0.10mの厚さで漆喰を貼っていた。構造から池泉などの性格が考えられる。



写真12 3-006土坑断面（南から）

遺物は肥前系磁器、肥前系陶器、備前焼、土師質土器、瓦類、銭貨（M109）などのほか、動物遺存体（貝類）が出土している（図187、図版97）。

### 3-008土坑（図87・91・92・175・176、図版32・72・73・90・91）

3区の中央東寄りで検出した土坑で、東側が攪乱により削平され、半円形の状態で残存する。規模は長さ3.80m、幅2.00m以上、深さ0.80mを測る。遺物は多量に出土しており肥前系磁器（892・900・901）、瀬戸美濃系磁器（893～899）、肥前系陶器（906）、瀬戸美濃系陶器（902）、在地系陶器（903・904）、京・信楽系陶器（905）、堺・明石系陶器（907・908）、土師質土器（909～911）、瓦質土器（912）、瓦類（T90・T91・T123）、鉄釘、動物遺存体（獣骨・鳥骨・魚骨）などがある。

### 3-005・018土坑（図87、図版32）

3区の南東部で検出した土坑で、攪乱により削平されて平面形状の旧状は明らかでない。

3-005土坑は北側の一部と南側を大きく削平される。規模は長さ4.60m、幅1.20m以上、深さ0.60mを測る。遺物は多量に出土しており、肥前系磁器（883～885、887・888）、瀬戸美濃系磁器（882・886）、瀬戸美濃系陶器（889）、京・信楽系陶器（890）、堺・明石系陶器（891）、大谷焼、瓦類、鉄釘などがある（図90・91、図版72）。

3-018土坑は3-005土坑に西接し、西側と南側を攪乱により大きく削平される。規模は1.40m以上、0.70m以上、深さ0.78mを測る。遺物は瀬戸美濃系陶器、京・信楽系陶器（914・915）、備前焼・丹波焼、土師質土器（916）、瓦質土器、瓦類などが出土している（図92、図版73）。

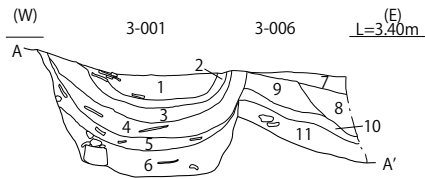
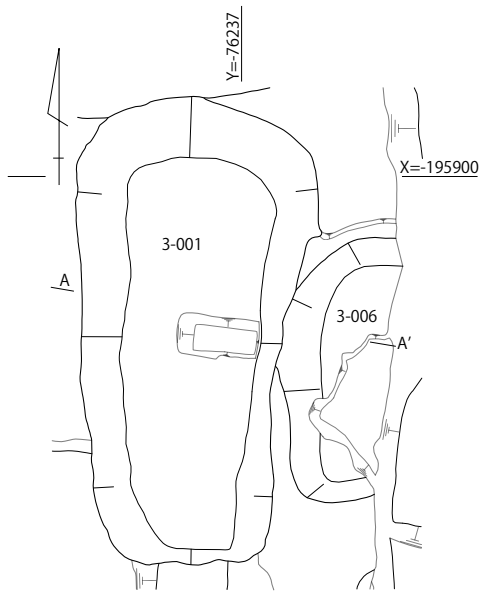
### 3-015土坑（図88・92）

3区の西端で検出した土坑で、平面形状は楕円形を呈し、規模は長さ1.20m、幅0.90m、深さ0.40mを測る。断面形状は逆台形を呈する。埋土には多くの漆喰片・瓦片・礫が多量に含まれていた。遺物は瀬戸美濃系陶器（913）や棧瓦などが出土している。

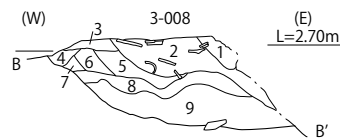
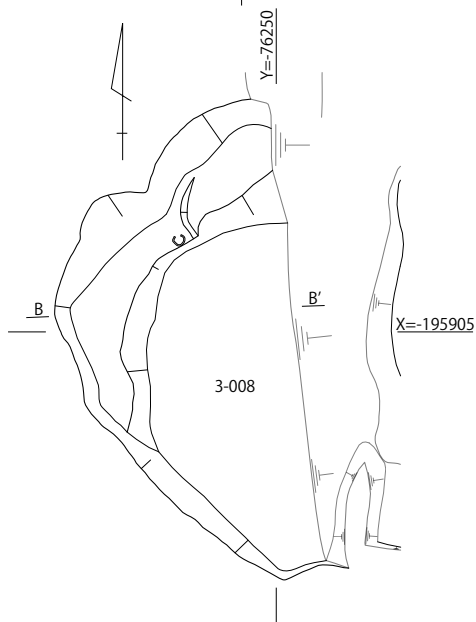


图 86 3・4区 第1遺構面 全体図

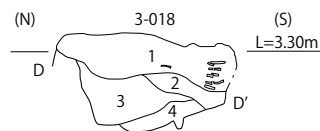




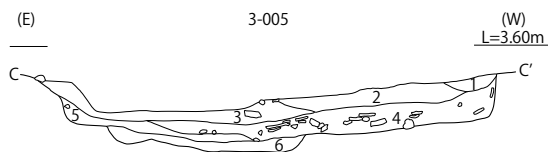
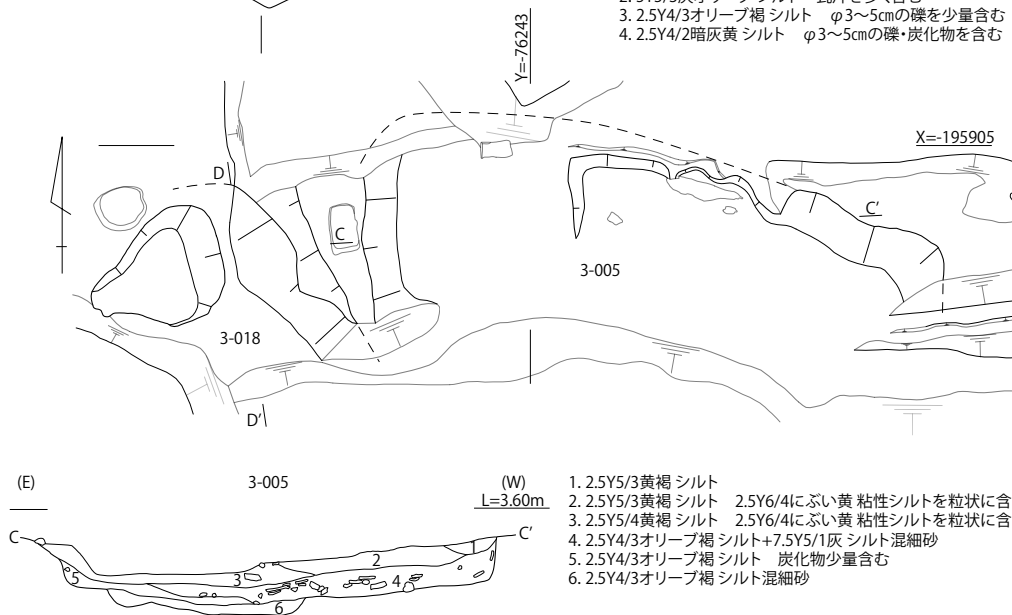
1. 2.5Y5/3黄褐シルト 炭化物・瓦・礫を含む
2. 2.5Y5/2暗灰黄シルト 炭化物・礫を含む 2.5Y7/4浅黄細砂混シルト(漆喰)をブロック状に含む
3. 2.5Y5/3黄褐シルト 5Y6/4オリーブ黄粘土をブロック状に含む 炭化物・礫含む
4. 2.5Y4/3オリーブ褐シルト 炭化物多量に含む 瓦含む
5. 5Y5/3灰オリーブシルト混細砂 瓦片多量に含む
6. 2.5Y4/2暗灰黄シルト混細砂 炭化物多量に含む 土器片・瓦片含む
7. 2.5Y5/3黄褐シルト φ3cmの礫を若干含む
8. 2.5Y4/3オリーブ褐シルト混細砂 炭化物含む
9. 2.5Y5/3黄褐シルト混細砂 φ~10cmの礫を含む
10. 2.5Y7/4浅黄 細砂混シルト・漆喰
11. 2.5Y5/4黄褐シルト 瓦片多く含む



1. 5Y5/2灰オリーブシルト混細砂 炭化物・礫・瓦片を含む
2. 5Y5/2灰オリーブシルト 細砂微量に含む 2.5Y7/4浅黄粘性シルトをブロック状に含む 礫・瓦片多く含む
3. 2.5Y5/3黄褐シルト
4. 2.5Y7/4浅黄粘性シルト 細砂少量含む
5. 2.5Y4/3オリーブ褐シルト混細砂 2.5Y7/4浅黄粘性シルトをブロック状に多く含む
6. 2.5Y4/3オリーブ褐 細砂混シルト 2.5Y7/4浅黄粘性シルトを粒状に含む
7. 2.5Y4/3オリーブ褐 細砂混シルト
8. 2.5Y4/3オリーブ褐シルト混細砂 炭化物・瓦片含む
9. 5Y5/2灰オリーブ細砂に5Y6/3オリーブ黄粘性シルトをブロック状に含む



1. 5Y5/2灰オリーブシルト混細砂 炭化物・瓦片・土器・φ3~7cmの礫を多く含む 2.5Y7/4浅黄 細砂混シルト(漆喰)を含む
2. 5Y5/3灰オリーブシルト 瓦片を多く含む
3. 2.5Y4/3オリーブ褐シルト φ3~5cmの礫を少量含む 下方に瓦片多い
4. 2.5Y4/2暗灰黄シルト φ3~5cmの礫・炭化物を含む



1. 2.5Y5/3黄褐シルト
2. 2.5Y5/3黄褐シルト 2.5Y6/4にぶい黄粘性シルトを粒状に含む 炭化物多く含む
3. 2.5Y5/4黄褐シルト 2.5Y6/4にぶい黄粘性シルトを粒状に含む 炭化物少量含む
4. 2.5Y4/3オリーブ褐シルト+7.5Y5/1灰シルト混細砂
5. 2.5Y4/3オリーブ褐シルト 炭化物少量含む
6. 2.5Y4/3オリーブ褐シルト混細砂

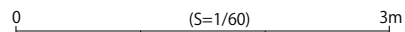


図87 3・4区 第1遺構面 検出遺構(1)

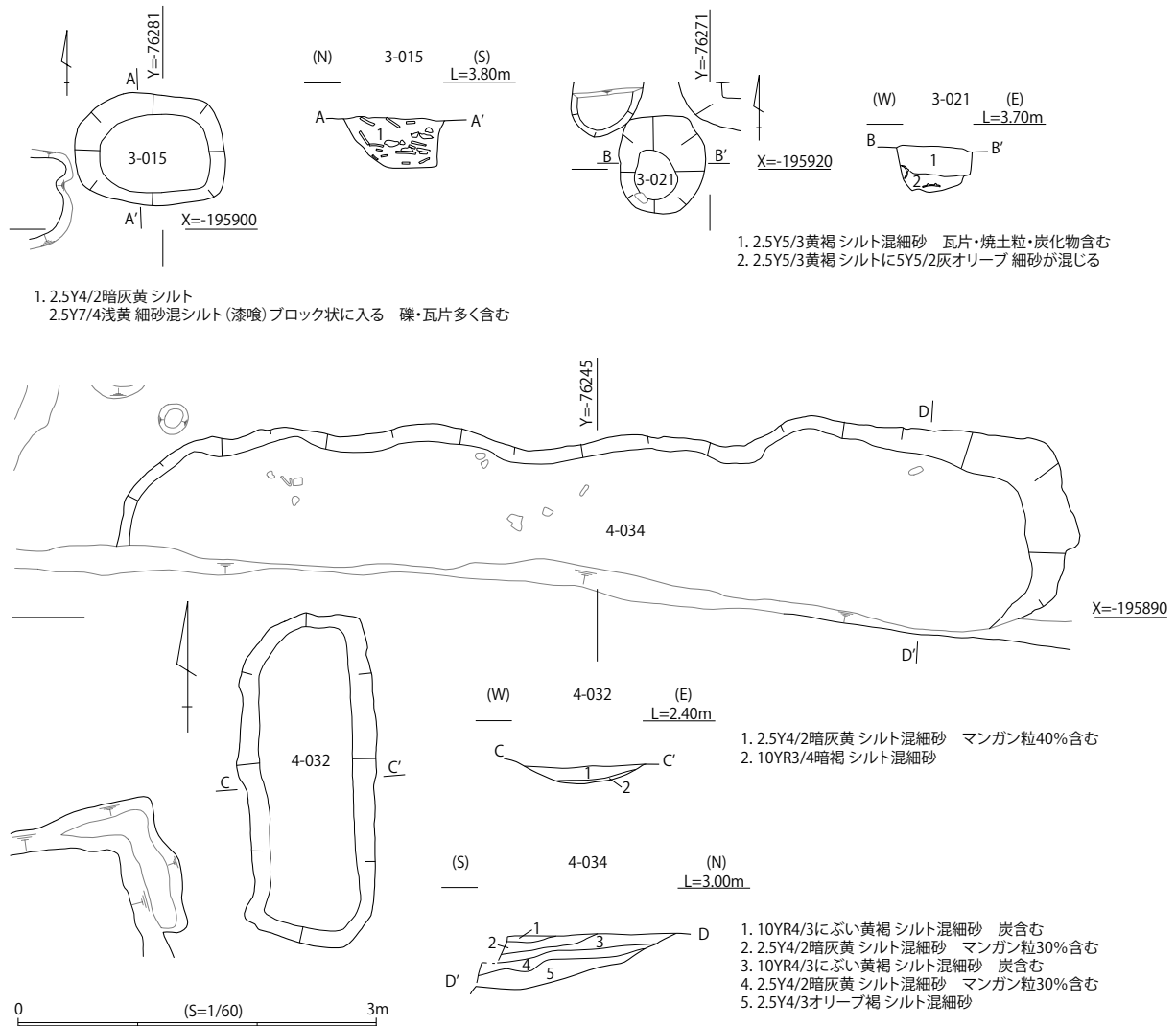


図88 3・4区 第1遺構面 検出遺構(2)

### 3-021土坑 (図88・92、図版73)

3区の南端中央西寄りで検出した土坑で、平面形状は楕円形を呈し、規模は長さ0.80m、幅0.70m、深さ0.45mを測る。断面形状はU字状を呈する。遺物は肥前系磁器(917)、肥前系陶器(918)、土製品(919)、土師質土器などのほか、動物遺存体(貝類)が出土している。

### 4-032・034土坑 (図88、図版32)

4区の東寄りで検出した土坑で、近接して位置する。4-032土坑と4-034土坑は本来重複していた可能性があるが、攪乱により4-032土坑の上部が削平されていて前後関係は明らかでない。

4-032土坑は平面形状が長楕円形を呈し、規模は長さ2.73m、幅1.10m、深さ0.20mを測る。断面形状は浅い船底状を呈する。遺物は肥前系磁器、土師質土器、瓦類などが出土している。

4-034土坑は南側を攪乱で削平される。平面形状の旧状は長楕円形を呈していたと考えられ、長さ7.85m、幅1.60m以上、深さ0.55mを測る。残存部から窺える断面形状は船底状を呈する。遺物は肥前系磁器(923)、肥前系陶器、瀬戸美濃系陶器、土師質土器、瓦、鉄釘、煙管(M84)などが出土している(図92・186、図版73)。

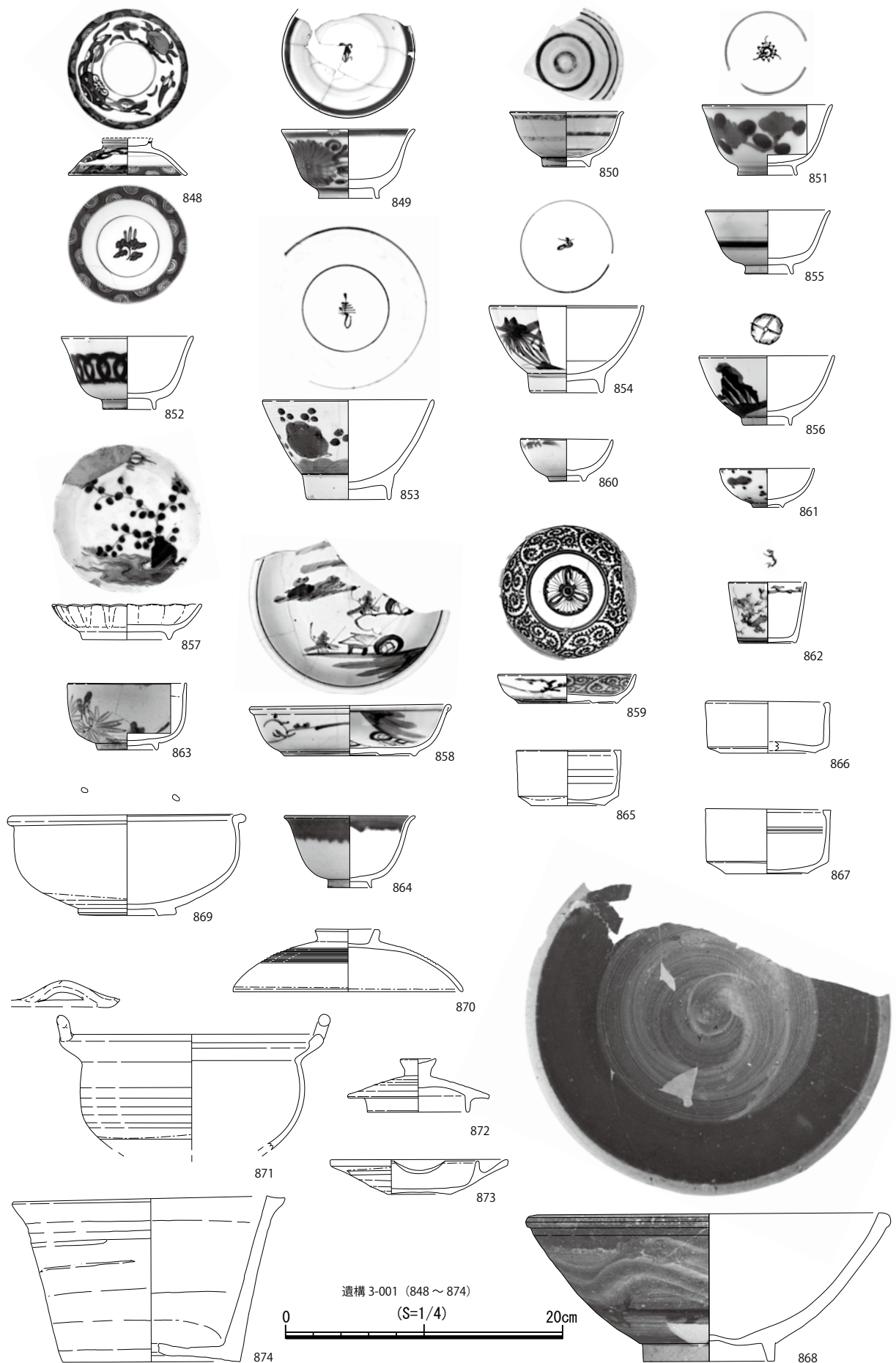


图 89 3·4区 第1遺構面 遺構出土土器 (1)

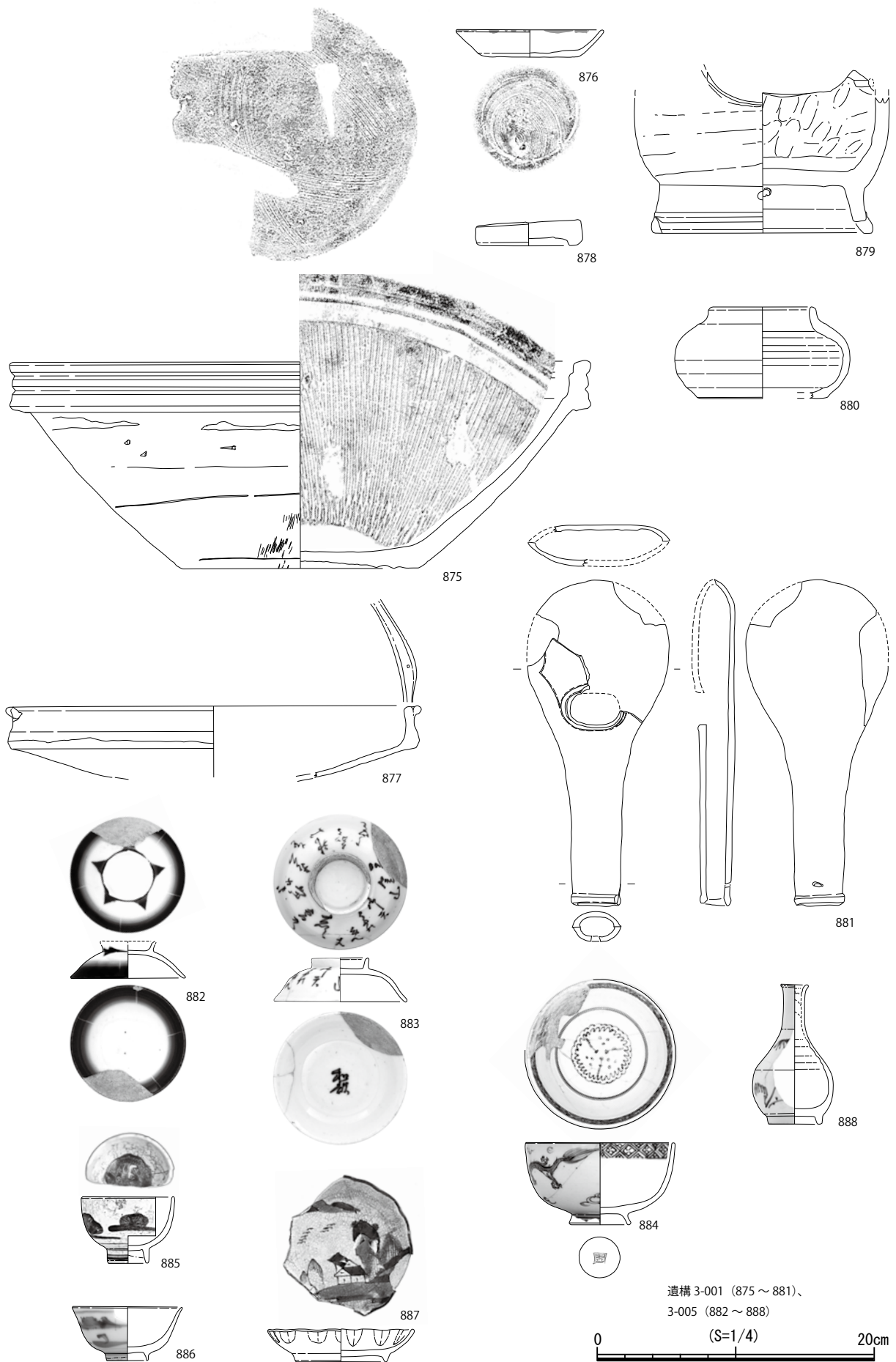


图90 3·4区 第1遺構面 遺構出土土器(2)



图 91 3·4区 第1遺構面 遺構出土土器 (3)



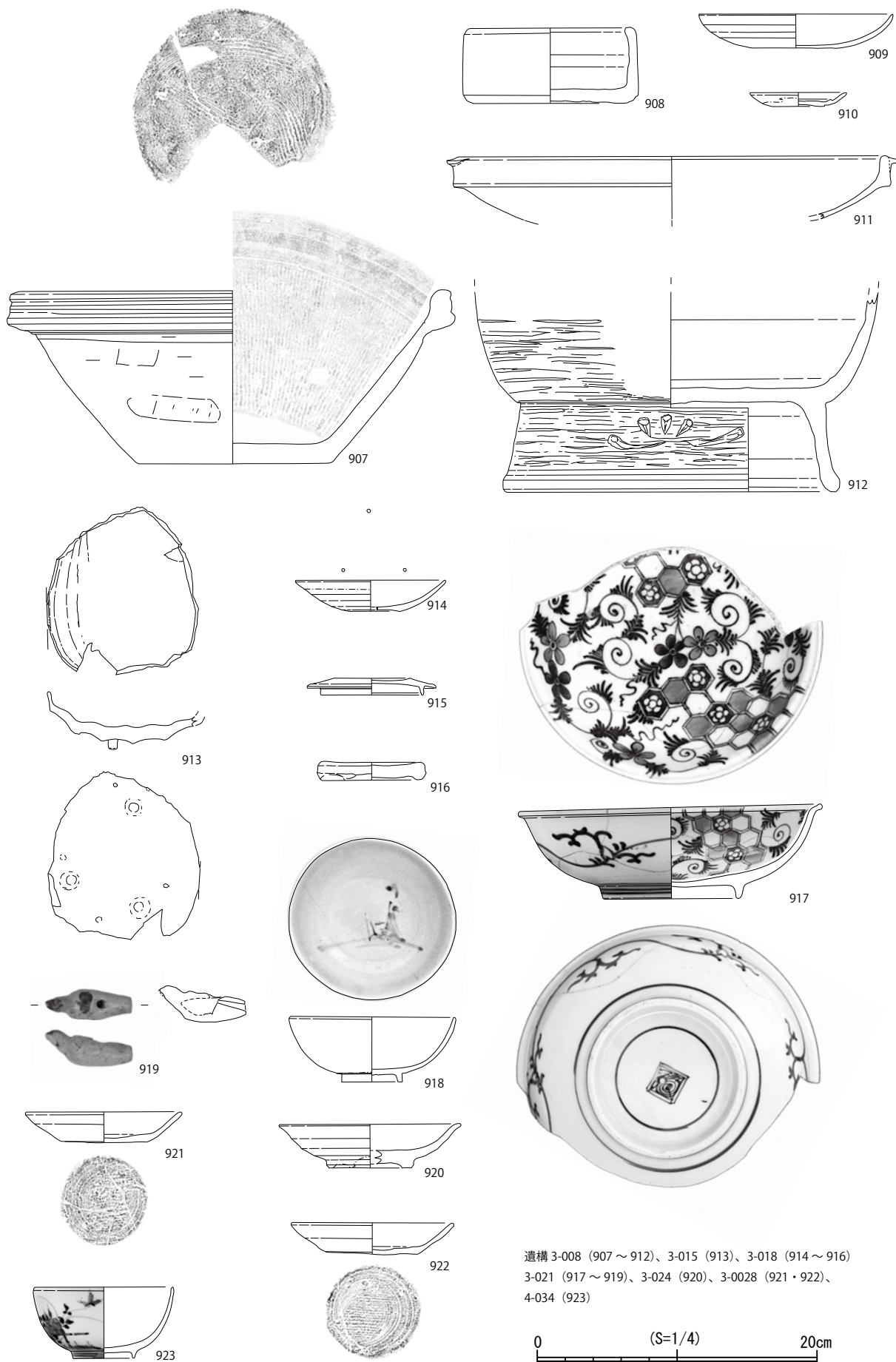


图 92 3·4区 第1遺構面 遺構出土土器(4)



3 第2遺構面の遺構（図93・169・175・176・183・186・187・188、図版21～23・90・91・94・96・97・98・99）

18世紀から江戸時代終わり頃の遺構面であると考えられる。攪乱が多く、調査できた箇所は限定的である。検出した遺構には礎石建物、瓦溜、石組溝、石組柵、井戸、竈、蹲踞（水琴窟）、土坑などがある。また、遺構検出時に第2遺構面の上面から出土した遺物には、肥前系磁器（1598・1599）、肥前系陶器（1600）、土師質土器（1601）、土製品（1602～1604）、瓦類（T93～T95・T126）、碁石（S32）、銅製箸（M71）、煙管（M86・M87・M91）、銭貨（M112～M115・M118・M126・M127・M137・M143・M147・M148・M155・M165～M167）などが出土している。

**礎石建物4-A（図94、図版32）**

4区の中央付近で検出した礎石建物である。周囲が攪乱により削平されて、検出できたのは南北2間（3.90m）・東西1間（2.00m）で、柱間は南北が約1.90m・2.00mを測る。礎石は0.40～0.60m、深さ0.10～0.15mの円形もしくは楕円形の掘形に据えられているが、このうち北側の2つの礎石は原位置を保つと考えられるものの、南側の2つの礎石は本来のものでない可能性もある。礎石の石材は砂岩で、北側の2石の大きさは30～50cmである。

**3-033石組溝・3-034土坑（図94、図版33）**

3区の南端で検出した。3-034土坑はここで記述するが3-033石組溝の下部で検出していることから、第3遺構面に帰属する可能性が高い。

3-033石組溝は正方位の南北方向に伸びる。北側が攪乱により削平され南側が調査区域外となるため検出した長さは約2.20mである。溝の幅は約0.20mで、深さは0.35mを測る。石組溝を構築するにあたっては、幅約2.00mで断面が船底状の溝を掘削して、その中央に石組をおこなっている。石組は10～60cmの結晶片岩を基本的に2・3段分横積みになっている。溝の上部で扁平な結晶片岩の板石が出土していることから、本来は蓋石を備えた暗渠構造の溝であった可能性がある。遺物は土師質土器が出土している。

3-034土坑は南側が調査区域外となり、調査区内では半円形の状態で検出している。規模は東西1.70m、幅1.45m以上、深さ1.00mを測る。断面形状は深い船底状を呈する。遺物は中国製磁器、肥前系磁器（928～931）、肥前系陶器（932）、丹波焼（933～935）、土師質土器、瓦質土器、瓦類（T26・T62）などが出土している（図96・172・173、図版74・88・89）。

**3-063石組柵・3-064井戸（図94、図版33）**

3区の中央北寄りで検出した。二つの遺構は重複し、3-064井戸の方が新しい。

3-063石組柵は長軸が正方位の南北方向を指す石組柵である。北側が3-064井戸によって削平され、また各所で石材が抜かれていた。掘形は隅丸方形で長さ2.20m、幅1.60mで、石組の内法は長さ南北1.70m以上、東西0.90mで、深さは残りの良い箇所約0.20mを測る。石材は10～40cmの結晶片岩か砂岩の割石で、それを横積みしていた。遺物は肥前系磁器、肥前系陶器、京・信楽系陶器、土師質土器、土製品、瓦類、鉄釘、煙管（M88）などのほか動物遺存体（貝類）が出土している（図186、図版97）。

3-064井戸は検出面での平面形状が不整楕円形を呈し、規模は長さ1.70m、幅1.05mを測る。井戸側は上位では痕跡のみで、標高1.30m以下で瓦積みが検出できた。埋土に井戸瓦が含まれないことから、上位の井戸側は桶であった可能性もある。瓦積み部の内法は直径0.70mで、一段

あたり9枚の井戸瓦を用いて、上下の目地が揃わないように積み上げていた。確認した瓦積みは3段であるが、さらに下位まで続いている。遺物は肥前系磁器、肥前系陶器、瀬戸美濃系陶器(938)、堺・明石系陶器、土師質土器、土製品、瓦類(T151)、砥石(S42)、鉄釘などが出土している(図96・179・183、図版92・94)。

### 3-048竈(図95・186、図版33)

3区の南端で検出した。上部が攪乱されて基底部が残る状態で、残存する規模は長さ1.40m、幅1.00mである。竈は底面に結晶片岩の板石を敷き、壁は板石を立てるか横置きして築いており、焚口は東側であった可能性がある。底石の上には焼土や炭が堆積していた。遺物は肥前系磁器、土師質土器、瓦類、不明銅製品(M68)などが出土している。

### 3-045竈(図95、図版33)

3区の西端で検出したもので、基底部のみが残存していた。構造は焚口が南側で竈本体の西側に小土坑を伴うもので、南側は攪乱により削平されていた。本体部の規模は焚口も含め奥行き1.20m以上で、幅は燃焼部で1.05m、焚口で0.60m、深さは燃焼部で0.10mを測る。燃焼部の底には方形に加工した10~20cmの礫が3カ所に置かれており、周囲には炭が多く堆積していた。遺物は出土していない。

### 4-039蹲踞(図95・98、図版34・75)

4区の中央付近で検出した。平面形状が楕円形を呈する東西0.80m、南北0.65m、深さ0.40mの土坑の上部に漆喰で深さ0.15mの水受けを設け、その下部に瀬戸美濃系陶器の植木鉢(980)を伏せ、植木鉢の孔と水受けの水門を合わせていた。植木鉢の中には瓦が雑に詰められており、周囲には別の植木鉢(981)の破片が置かれていた。遺物は植木鉢や瓦以外に、土師質土器や鉄釘などが出土している。



写真13 4-039蹲踞 植木鉢に詰められた瓦

### 3-037土坑(図95・96)

3区の西端で検出した土坑で、平面形状は円形を呈する。規模は1.40m×1.35mで、深さ0.50mを測る。断面形状は船底状であるが、中央付近が段落ちして深くなっている。遺物は中国製磁器、肥前系磁器(936)、肥前系陶器、瀬戸美濃系陶器、土師質土器、瓦類などが出土している。

### 3-072土坑(図95・97・98・172・175・183・186、図版33・74・75・88・90・94)

3区の東端で検出した大型の土坑である。周囲や上面が攪乱され、平面形状は把握し難いが、南北に長く掘削されていたと考えられ、確認できた規模は長さ9.00m以上、幅3.00~4.50m、深さ1.50mである。遺物は肥前系磁器(942~950)、肥前系陶器(951~953、955~962)、瀬戸美濃系陶器(954)、備前焼(963・965・966・968)、丹波焼(964・967)、土師質土器(969~979)、瓦質土器、瓦類(T29・T35・T97・T98)、砥石(S43)、鉄釘、銅製吊り金具(M77)などが出土している。屋敷境付近に位置し、大量の遺物が出土することからも塵芥を処理した廃棄土坑であると考えられる。ただ、層位が整ったレンズ状堆積であることから、明確な掘り直しは認められない。

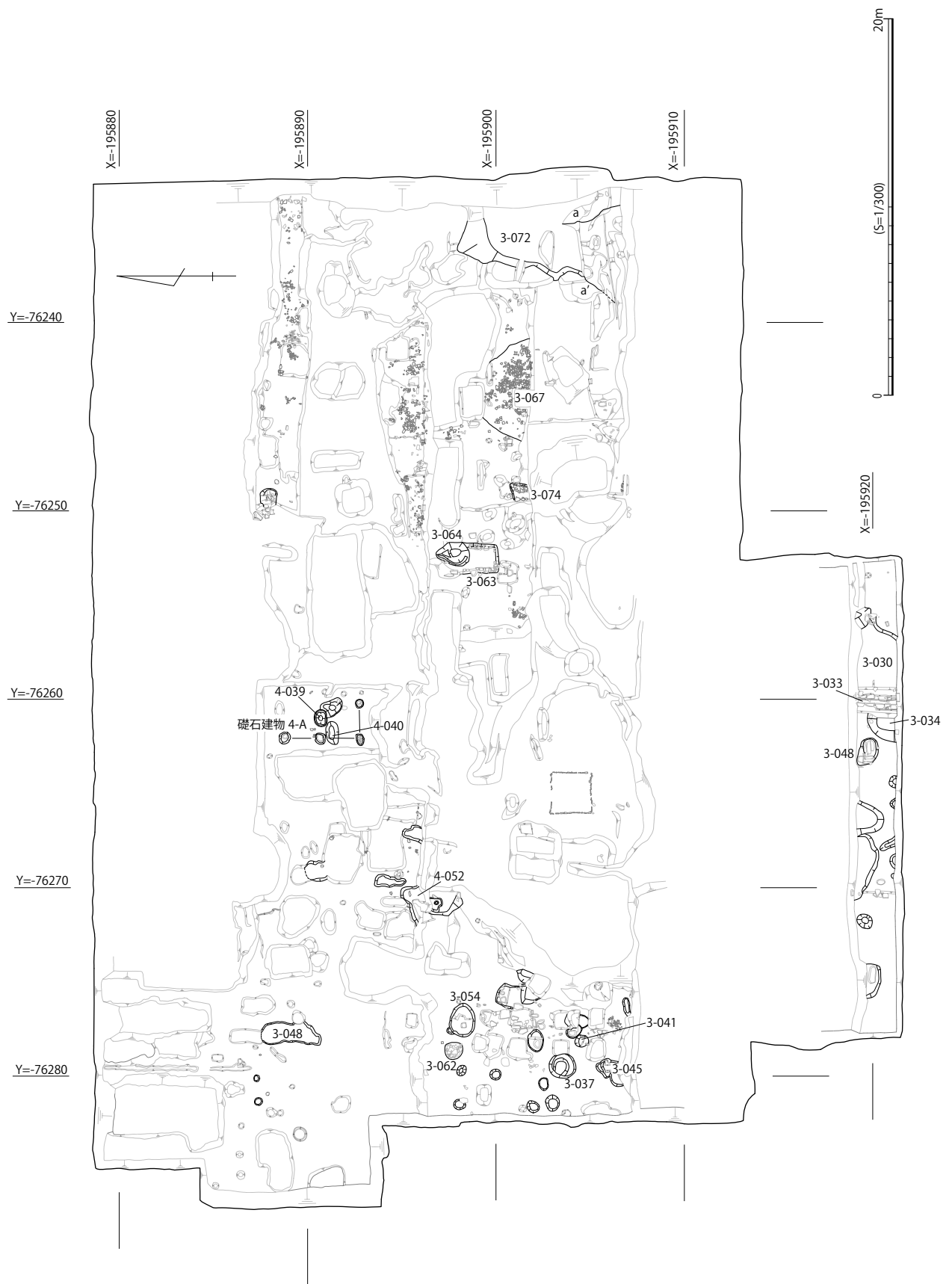


图 93 3・4区 第2遺構面 全体図

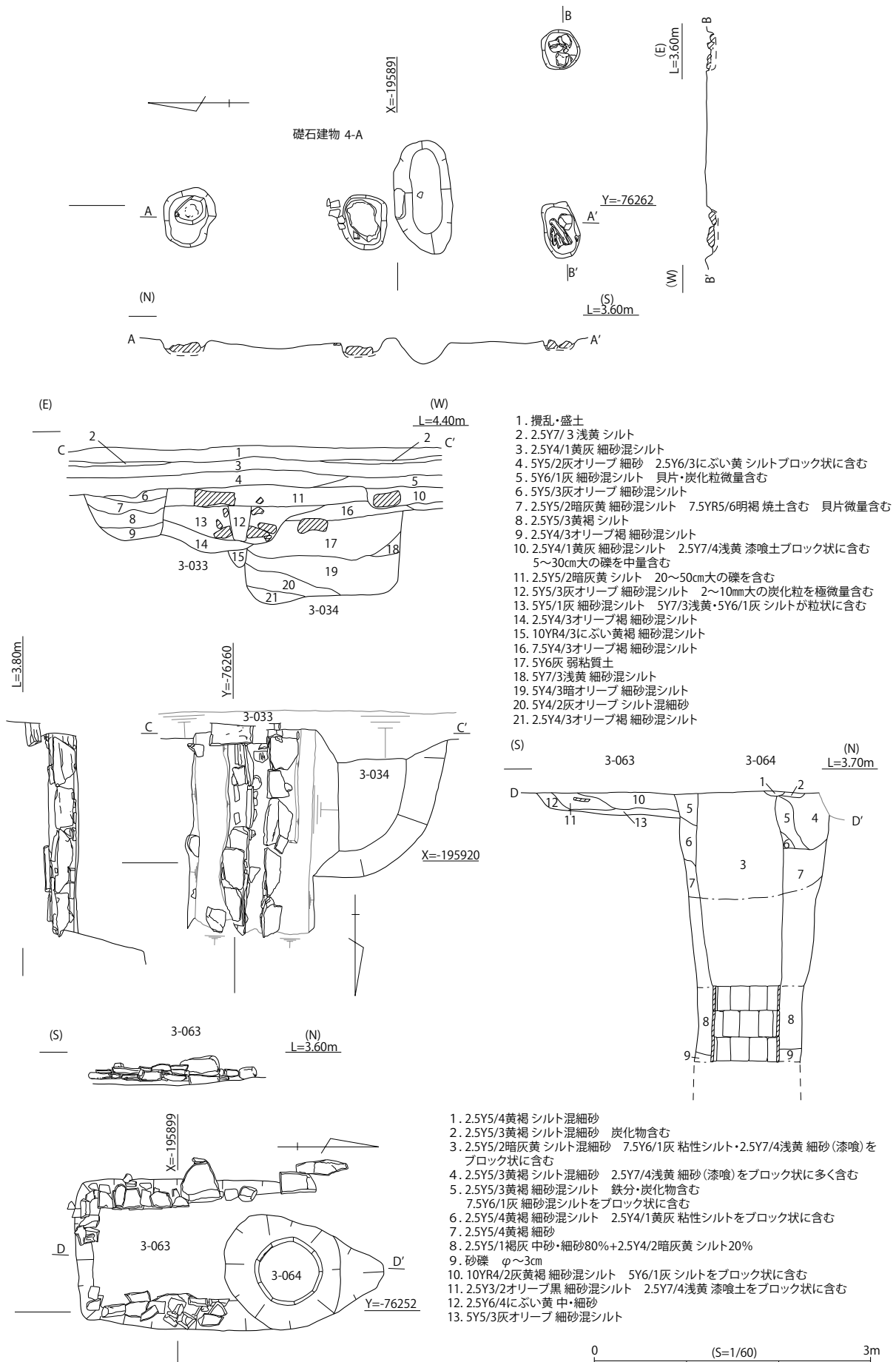
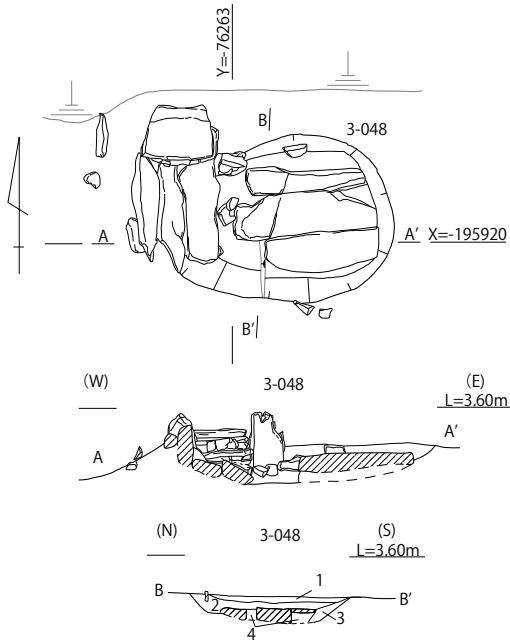
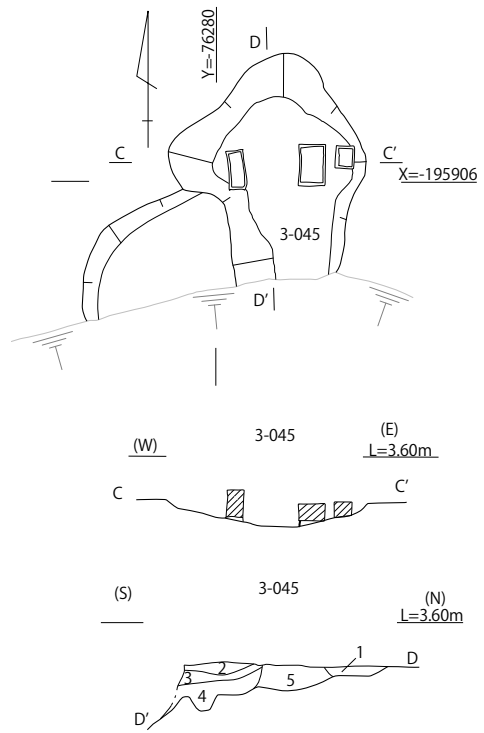


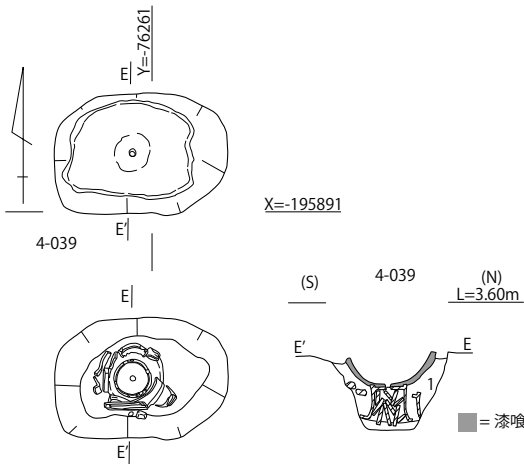
図94 3・4区 第2遺構面 検出遺構(1)



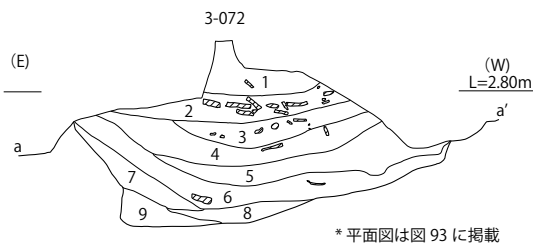
1. 5Y6/1灰粘土+5Y3/1オリブ黒炭化土+7.5YR5/6明褐焼土
2. 7.5YR3/1黒褐焼土・炭含む
3. 5Y3/2オリブ黒細砂混シルト
4. 5Y4/2灰オリブ細砂混シルト



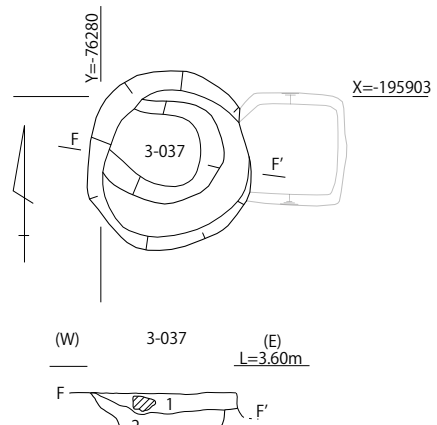
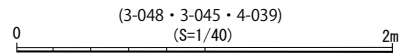
1. 5Y5/3灰オリブ細砂混シルト 2.5Y6/1灰シルトを含む
2. 5Y6/2灰オリブ粘性シルト 7.5Y6/1粘性シルトをブロック状に含む  
鉄分含む 底部に炭化物を多く含む
3. 5Y6/2灰オリブ粘性シルトに2.5Y2/1黒炭化物が多量に入る 片岩片を多く含む
4. 5Y5/2灰オリブ細砂混シルト 3層より炭の量少ない 片岩少量含む
5. 5Y5/3灰オリブ細砂混シルトに炭粒を多く含む



1. 2.5Y4/2 暗灰黄シルト 炭化物含む



1. 2.5Y5/3黄褐細砂混シルト
2. 2.5Y5/3黄褐細砂混シルト 2.5Y6/6明黄褐漆喰土をブロック状に含む
3. 2.5Y5/2暗灰黄細砂混シルト 10YR5/6黄褐漆喰土をブロック状に含む
4. 2.5Y4/2暗灰黄細砂混シルト 10YR5/6黄褐漆喰土と5Y7/3浅黄粘土をブロック状に含む
5. 5Y4/2灰オリブシルト混細砂 5Y7/3浅黄粘土をブロック状に含む
6. 5Y4/1灰細砂混弱粘質土 炭少量含む
7. 5Y5/1灰細砂混弱粘質土 炭微量含む
8. 5Y5/2灰オリブ細砂混シルト 5Y7/2灰白粘土をブロック状に含む
9. 5Y5/3灰オリブシルト混細砂 炭微量含む



1. 5Y5/2灰オリブシルト混細砂 炭化物・鉄分を含む
2. 2.5Y5/6黄褐シルト 鉄分を含む 底部に瓦片・石片混入

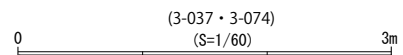


図 95 3・4区 第2遺構面 検出遺構(2)

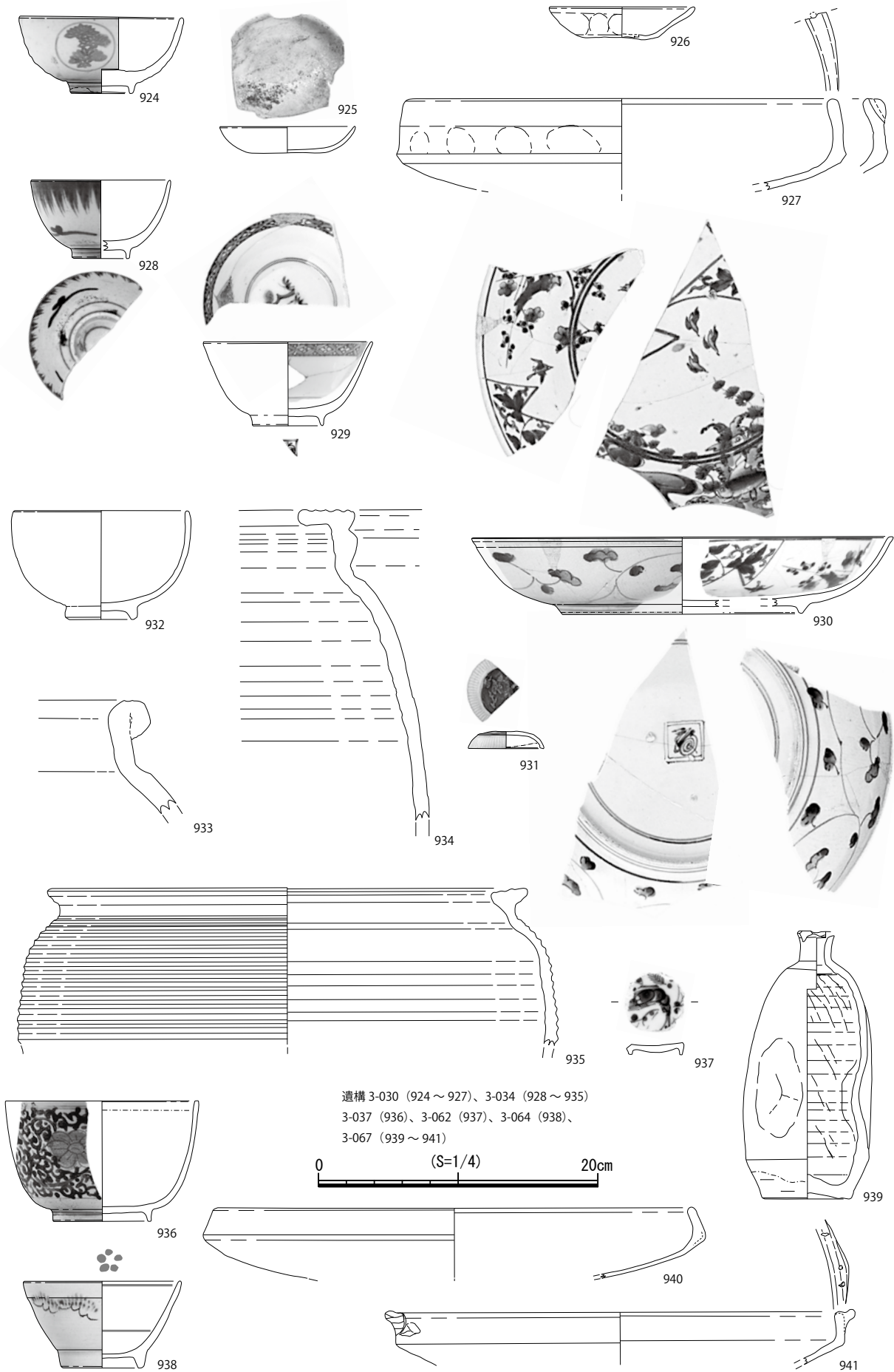


图 96 3·4区 第2遺構面 遺構出土土器 (1)



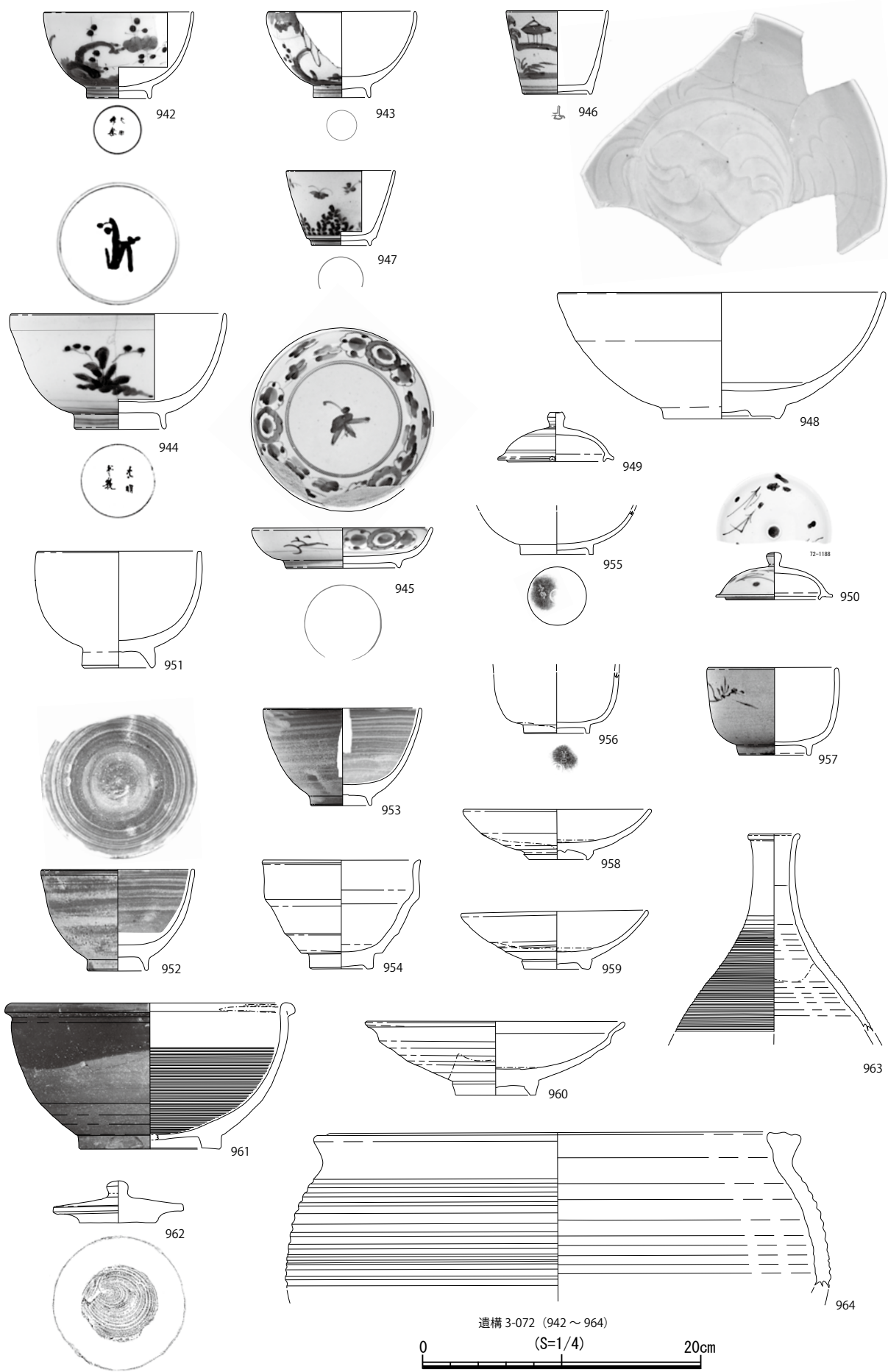


図97 3・4区 第2遺構面 遺構出土土器(2)

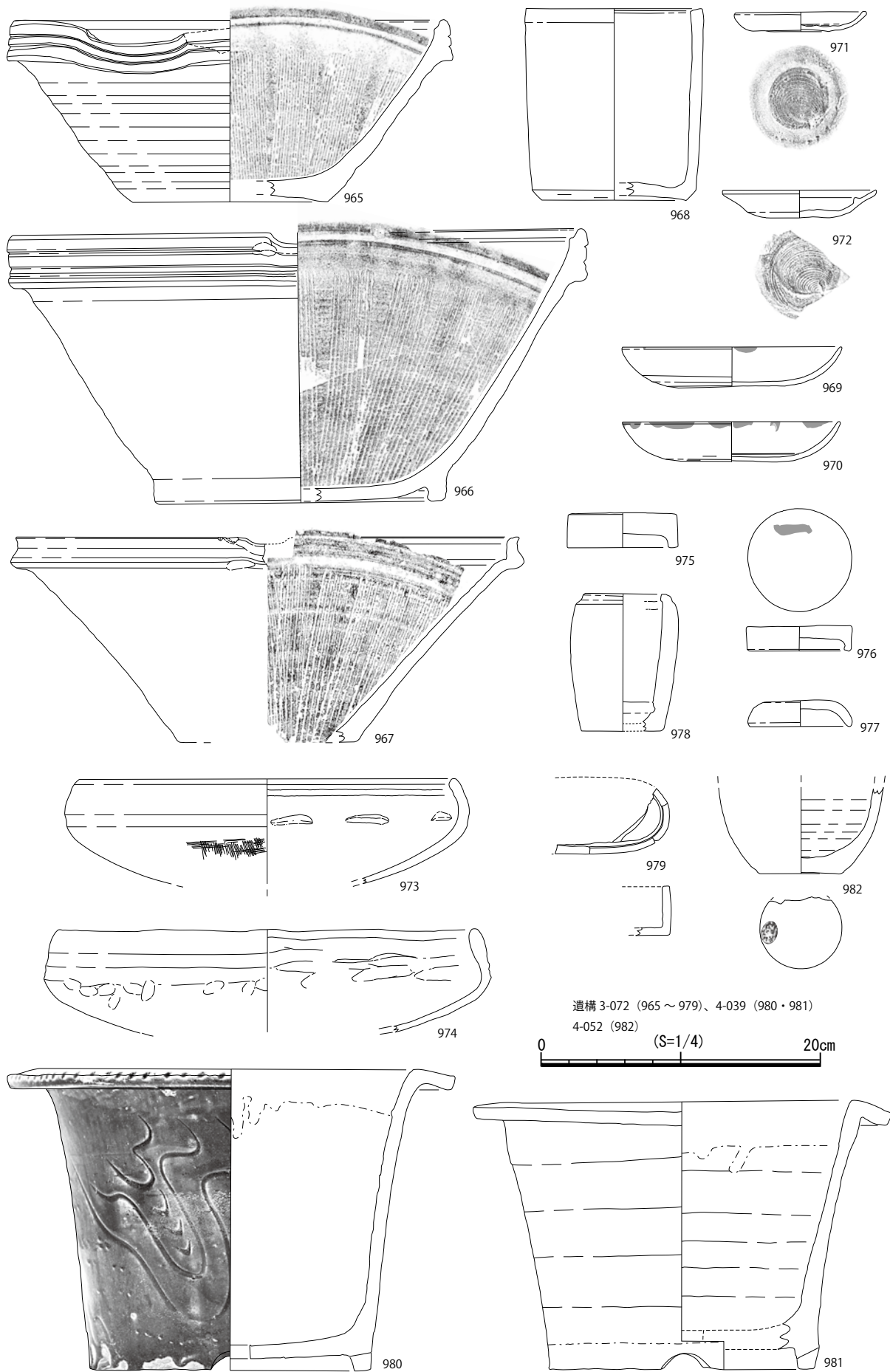


图 98 3・4区 第2遺構面 遺構出土土器 (3)

#### 4 第3遺構面の遺構 (図99・169・173・186、図版22～24・86・89・97)

18世紀頃の遺構面であると考えられる。検出した遺構には礎石建物、石組溝、井戸、竈、土坑、集石遺構などがある。この面も攪乱が著しい。また、遺構検出時に第3遺構面の上面から出土した遺物には、肥前系陶器(1605・1606・1608)、瀬戸美濃系陶器(1607)、京・信楽系陶器(1609)、土師質土器(1610)、土製品(1611～1614)、瓦類(T68)煙管(M90)などがある。

##### 礎石建物3-A(図100、図版34)

3区の中央北寄りで検出した。周囲が攪乱により削平され、また原位置を離れた礎石もあることから、建物の全容は明らかでない。建物軸は正方位で、確認できる規模は南北3.00m以上、東西3.20m以上である。柱間には1.00m前後と2.00m前後があり、主柱以外に束柱の礎石も混在していると考えられる。礎石は20～40cmの結晶片岩もしくは砂岩で、地山面に直置きしていた。

##### 4-090石組溝(図100・175～177、図版34・90・91)

4区の東寄りで、3区と接する付近で検出した石組溝である。攪乱により大きく削平され、検出した長さは約7.00mであるが、東と西方向には、更に伸びていたと考えられる。溝の幅は約0.30m、深さは残りの良い箇所では0.30mを測り、溝の両側には10～40cm程度の結晶片岩を2～3段積んでいる。遺物は瓦類(T99・T100・T120・T133)が出土している。江戸時代の絵図から窺うと、3-090石組溝の位置に屋敷境は存在しないことから、屋敷地内に設けられた排水溝であると考えられる。

##### 3-083-1・3-083-2井戸(図101・105・171・180・186、図版34・35・75・88・92・97)

3区の西側で検出した。当初は楕円形を呈する一つの土坑と認識していたが、途中まで掘り下げた結果、2つの井戸が重複していることが明らかになった。下位では南西側を3-083-1井戸、北東側を3-083-2井戸として調査をおこなっている。重複関係は3-083-1井戸の方が新しい。

3-083-1井戸は平面形状が楕円形を呈し、規模は1.80m×1.30mを測る。上位では井戸側が確認できなかったが、下位で瓦積みの井戸側を確認した。井戸側の内法は0.80mで一段あたり9枚の井戸瓦を用いており、上位までは瓦積みであったと判断できる。井戸側は標高0.20m以下が直径0.80mの桶となっている。この井戸の特徴は井戸側の外側にさらに桶を積んでいることで、掘形との間にほとんど隙間をあけていない。これは、井戸を構築する際に、崩落を防ぐために外側の桶を掘削しながら落とし込み、作業空間を確保したためであると判断できる。

3-083-2井戸は平面形状が楕円形を呈し、規模は2.10m×1.90mを測る。井戸側は上位では確認できず、下位で桶の箍の一部を確認したことから桶積みであったと判断できる。桶は痕跡から約1.10mであったと考えられる。

遺物はほとんどが上位で出土しており、二つの井戸の遺物が混在している。肥前系磁器(983・984)、肥前系陶器、瀬戸美濃系陶器、京・信楽系陶器(985)、備前焼、丹波焼、堺・明石系陶器(986)、土師質土器、瓦質土器(987)、瓦類(T18・T160)、基石、煙管(M82)などが出土している。このうちT18は3-083-2から出土し、T160は3-083-1井戸の井戸瓦である。

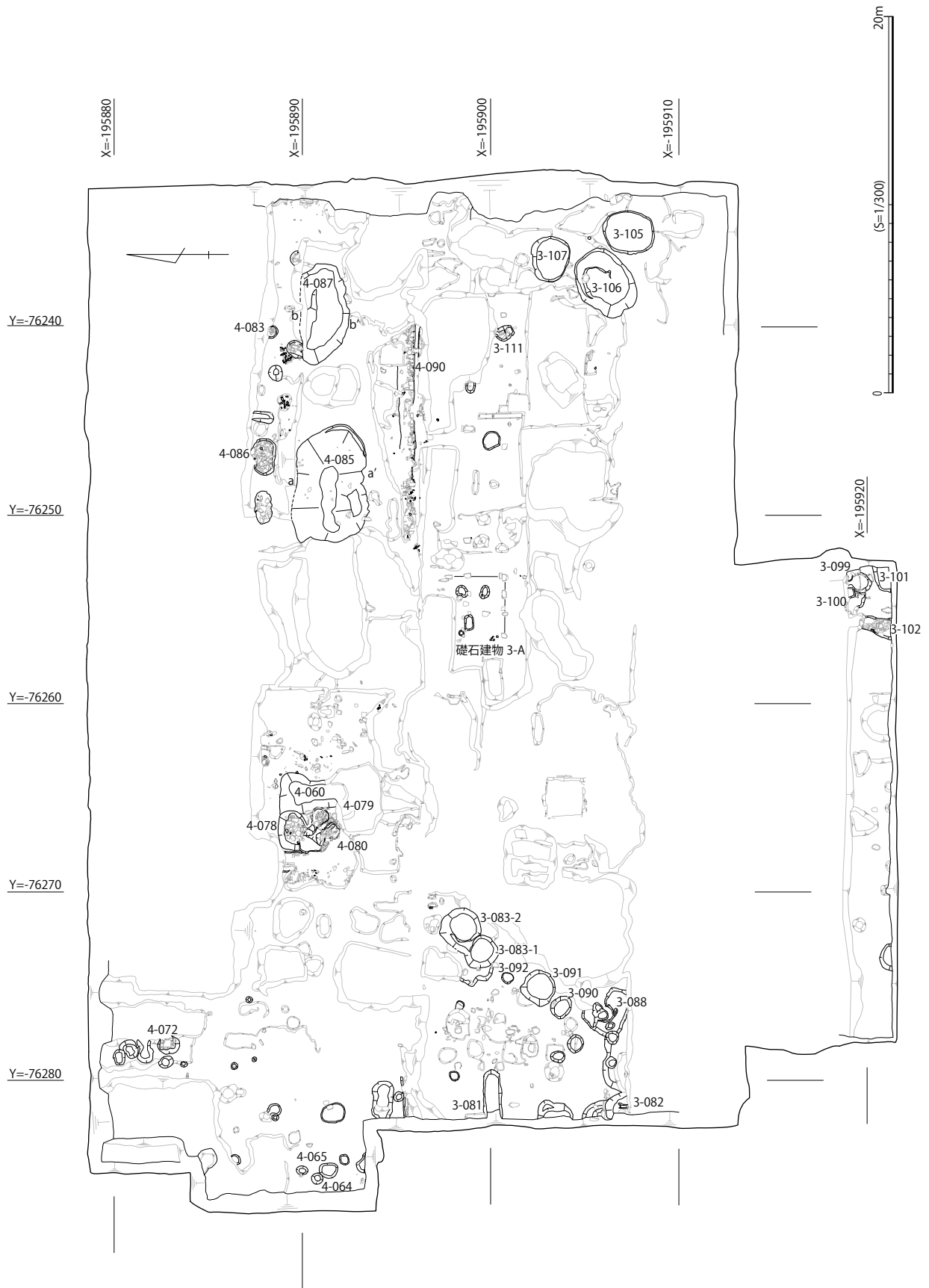


図 99 3・4区 第3遺構面 全体図

### 3-099・100竈（図101、図版35）

3区の南東隅付近で重複するように検出した竈である。3-099竈が古く、3-100竈の方が新しい。両方とも燃焼部が地山面より低くなっていることから、半地下式の構造であったと考えられる。

3-099竈は3-100竈により東側を、攪乱によって北側を削平され、燃焼部の一部が残存するのみである。規模は東西0.90m以上、南北0.60m以上、深さ0.50mを測る。壁の一部が焼け、底面には炭が多く含む層が堆積していた。遺物は肥前系陶器・瓦が出土している。

3-100竈は焚口付近から北側が削平されるが、比較的残存状態が良好な竈である。燃焼部は直径0.80mの円形で、残存する深さは0.50mを測る。壁は部分的に礫を用いて構築しており、広い範囲が被熱して赤色化していた。焚口は幅0.40mで、長さ0.20mが残存していた。遺物は肥前系磁器、肥前系陶器、土師質土器、瓦類などが出土している。

### 4-079・080竈（巻頭図版2、図102・108・171・177、図版35・76・77・91）

4区の中央付近で検出した燃焼部が二連の竈で、調査時にはそれぞれの燃焼部に遺構名を与えていることから、それを踏襲する。北東側の燃焼部が4-079竈、南西側の燃焼部が4-080竈である。竈は半地下式構造で、北西側から南東に下る穴を掘り、深い部分に4-079・080竈を同時に築いている。焚口から北西側にはゆるやかな傾斜をもつ前庭部が取り付く。燃焼部の平面形状はどちらも楕円形である。規模は4-079竈が0.83m×0.90m、深さ0.65m、4-080竈が



写真14 4-079・080竈断割り断面（南東から）

0.80m×0.85m、深さ0.60mを測る。焚口の幅は4-079・4-080竈とも0.30mである。前庭部は4-079・080竈両方の共有となっており、長さ1.50m、幅1.10mを測る。燃焼部の壁は、細長い結晶片岩を立て、隙間を土で塗り固めていた。底には同様な結晶片岩や砂岩を敷いており、焚口付近にはやや大振りの砂岩が敷かれていた。燃焼部から前庭部にかけては被熱で赤色化していた。遺物は4-079竈から肥前系磁器、肥前系陶器、京・信楽系陶器（1058）、土師質土器（1059～1061）、瓦質土器、瓦類（T21・T137）、鉄釘が、4-080竈から肥前系磁器、肥前系陶器（1062～1064）、土師質土器、瓦質土器、瓦類、鉄釘が出土している。また、前庭部からは肥前系陶器、丹波焼、土師質土器、瓦類などが出土している。

### 4-072石組柵（図102、図版36）

4区の西側で検出したもので、掘形の東側が攪乱により削平される。残存する掘形の規模は長さ1.10m、幅0.80m以上を測る。柵は20cm前後の砂岩と結晶片岩で築いており、内法は南北0.43m、東西0.33mで、残存する深さ0.40mを測る。遺物は土師質土器が出土している。

### 3-105・106・107土坑（図103、図版36）

3-105・106・107土坑は3区の東端で検出した土坑群で、第2遺構面で検出した3-072土坑の下部で、3基とも重複せず、間隔を空けて位置する。

3-105土坑は平面形状が楕円形を呈し、長さ2.80m、幅2.25mで、深さは検出面から1.25mを

測る。壁は直に落ち、底面は平坦である。下層は細砂で自然堆積を示すことから、掘削後しばらく開放した状態であった可能性がある。遺物は肥前系磁器（1011）、肥前系陶器、丹波焼（1012・1013）、備前焼（1014）、土師質土器（1015・1016）、土製品、瓦類（T104）、鉄釘、銭貨（M130）などが出土している（図106・175・187、図版75）。



写真15 3-107土坑断面（北から）

3-106土坑は平面形状が楕円形を呈し、長さ3.70m、幅2.90m、深さは検出面から1.20mを測る。断面形状は船底状を呈する。遺物は肥前系磁器、肥前系陶器、丹波焼、土師質土器、瓦類などが出土している。

3-107土坑は平面形状が楕円形を呈し、長さ2.35m、幅2.05mで、深さは検出面から1.50mを測る。壁は直に落ち、底面はほぼ平坦である。最下層は有機物を含み、木製品が出土している。遺物は肥前系磁器（1017～1022・1025～1027）、瀬戸美濃系磁器（1023・1024）、肥前系陶器（1029～1032）、京・信楽系陶器（1028）、備前焼（1032・1033）、土師質土器（1034～1038）、瓦類（T107）、砥石（S40）、木製品の漆椀（W18）・曲物（W19）・箸（W20・W21）・下駄（W22・W23）・籠状木製品（W24）・部材（W25）などのほか、動物遺存体（貝類）が出土している（図106・107・175・183・190、図版76・91・99）。

#### 3-101土坑（図103・106、図版36・75）

3区の南東隅で検出した土坑で、南と東が調査区域外となり全容は明らかでない。検出した規模は長さ1.40m、幅0.85m、深さ0.35mで、断面形状は船底状を呈すると考えられる。遺物は肥前系磁器、肥前系陶器（1010）、瀬戸美濃系陶器、土師質土器、瓦類などのほか動物遺存体（魚骨）が出土している。

#### 3-090・091土坑（図104）

3-090・091土坑は3区の西側で検出した土坑で、近接して位置する。

3-090土坑は平面形状が楕円形を呈し、規模は長さ1.20m、幅1.00m、深さ0.65mを測る。壁は直に落ち底面は平坦である。遺物は多く出土しており、肥前系磁器（993～996）、肥前系陶器（997～1001）、瀬戸美濃系陶器、京・信楽系陶器（1002）、土師質土器（1003）、土製品（1004・1005）、瓦類、硯、銅製ナイフ（M53）、墨書した骨片（B7）などがある（図105・186・204、図版75・96・107）。

3-091土坑は南東部の上面が攪乱により削平される。平面形状は不整形で、規模は1.70m×1.70m、深さ1.52mを測る。断面形状はU字状を呈する。遺物は肥前系磁器、肥前系陶器（1006）、京・信楽系陶器（1007・1008）、丹波焼、土師質土器、瓦類、煙管（M79）などが出土している（図105・186、図版75・97）。

#### 4-078集石土坑（図104・108・171～174・177、図版76・89～91）

4区の中央付近で検出したもので、平面形状は不整形楕円形を呈する。4-079・080竈と重複し、それらより新しい。規模は長さ2.20m、幅2.00m、深さ0.60mを測る。断面形状は船底状で、東



側が深くなっている。中央付近に10~40cmの砂岩や結晶片岩が集められていた。遺物は肥前系磁器（1053~1055）、肥前系陶器（1056）、京・信楽系陶器（1057）、土師質土器、瓦類（T14・T23・T38・T65・T72・T76・T130）、鉄釘などが出土している。

**4-085土坑（図104・108~110・175・183、図版36・77・94）**

4区の東側で検出した大型の土坑で、西側が攪乱により削平される。平面形状は楕円形を呈し、長さ6.25m、幅4.00m、深さ1.60mを測る。断面形状は船底状で、北の肩部以外は整ったレンズ状堆積で、明確な掘り直しは認められない。遺物は多量に出土しており、肥前系磁器（1065~1074）、肥前系陶器（1075~1084）、京・信楽系陶器、備前焼（1085）、土師質土器（1086~1097）、瓦質土器（1098）、瓦類（T101）、砥石（S41）、鉄釘などのほか、動物遺存体（貝類・魚骨）がある。

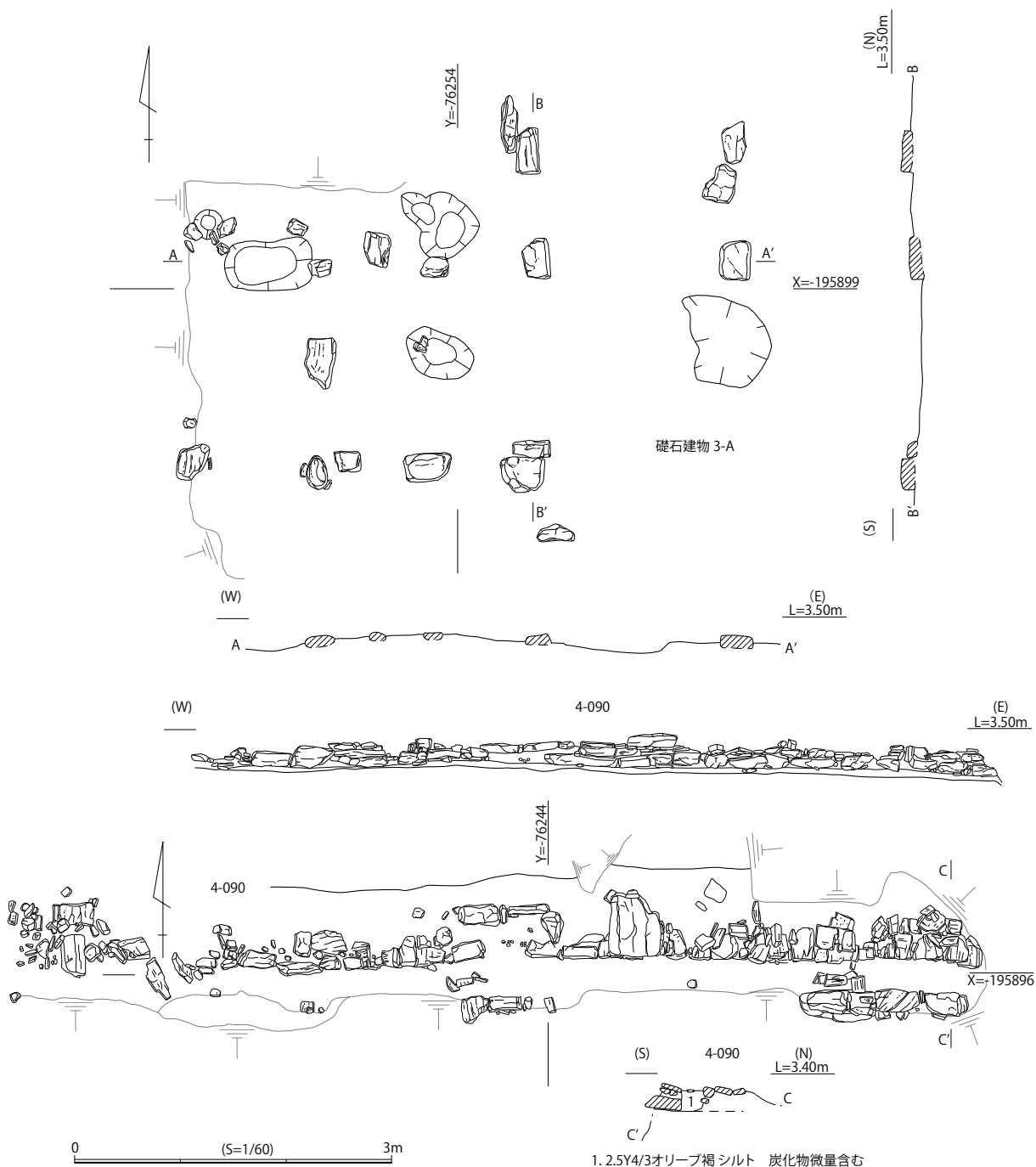


図100 3・4区 第3遺構面 検出遺構（1）

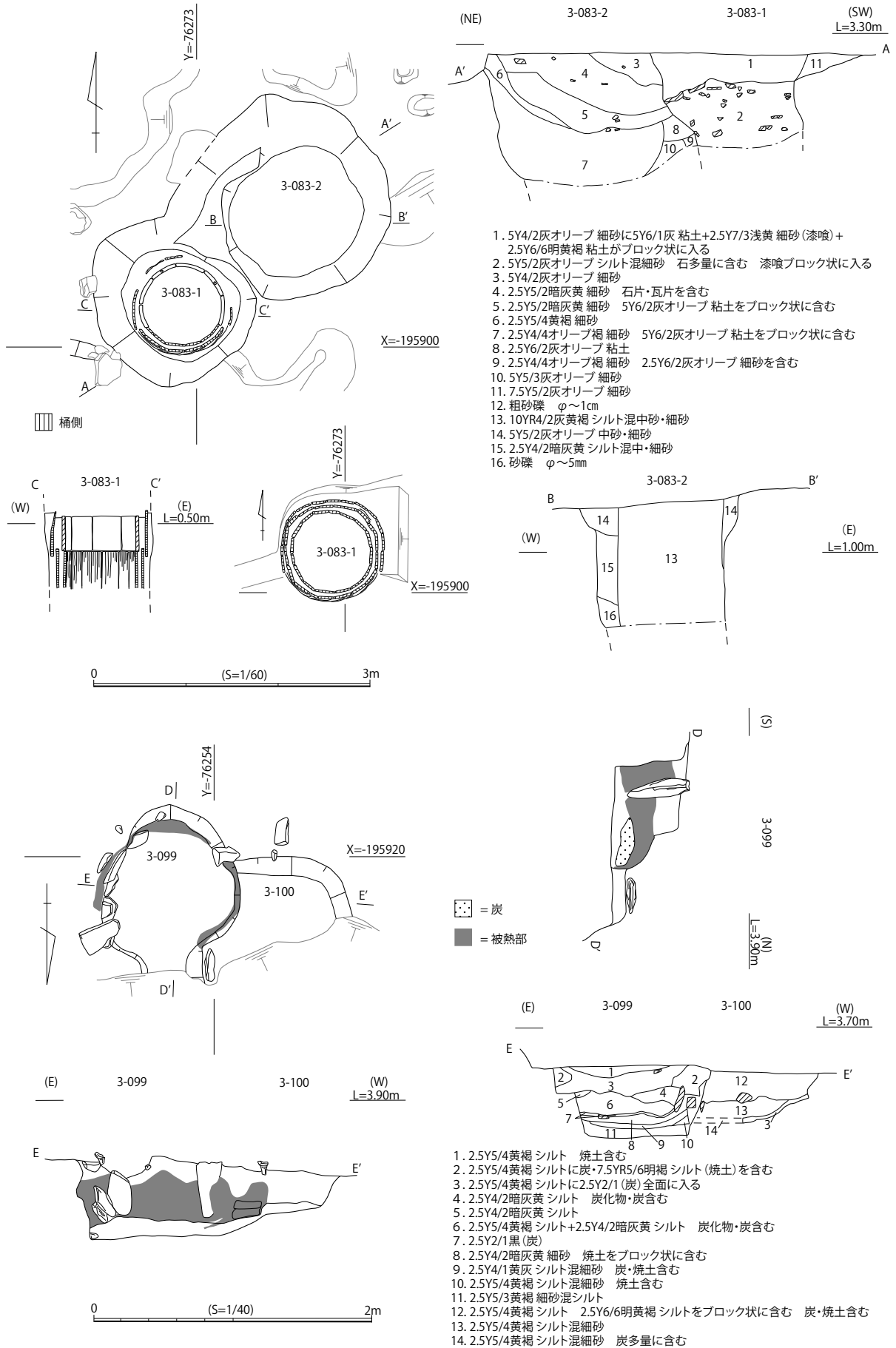


図 101 3・4区 第3遺構面 検出遺構(2)

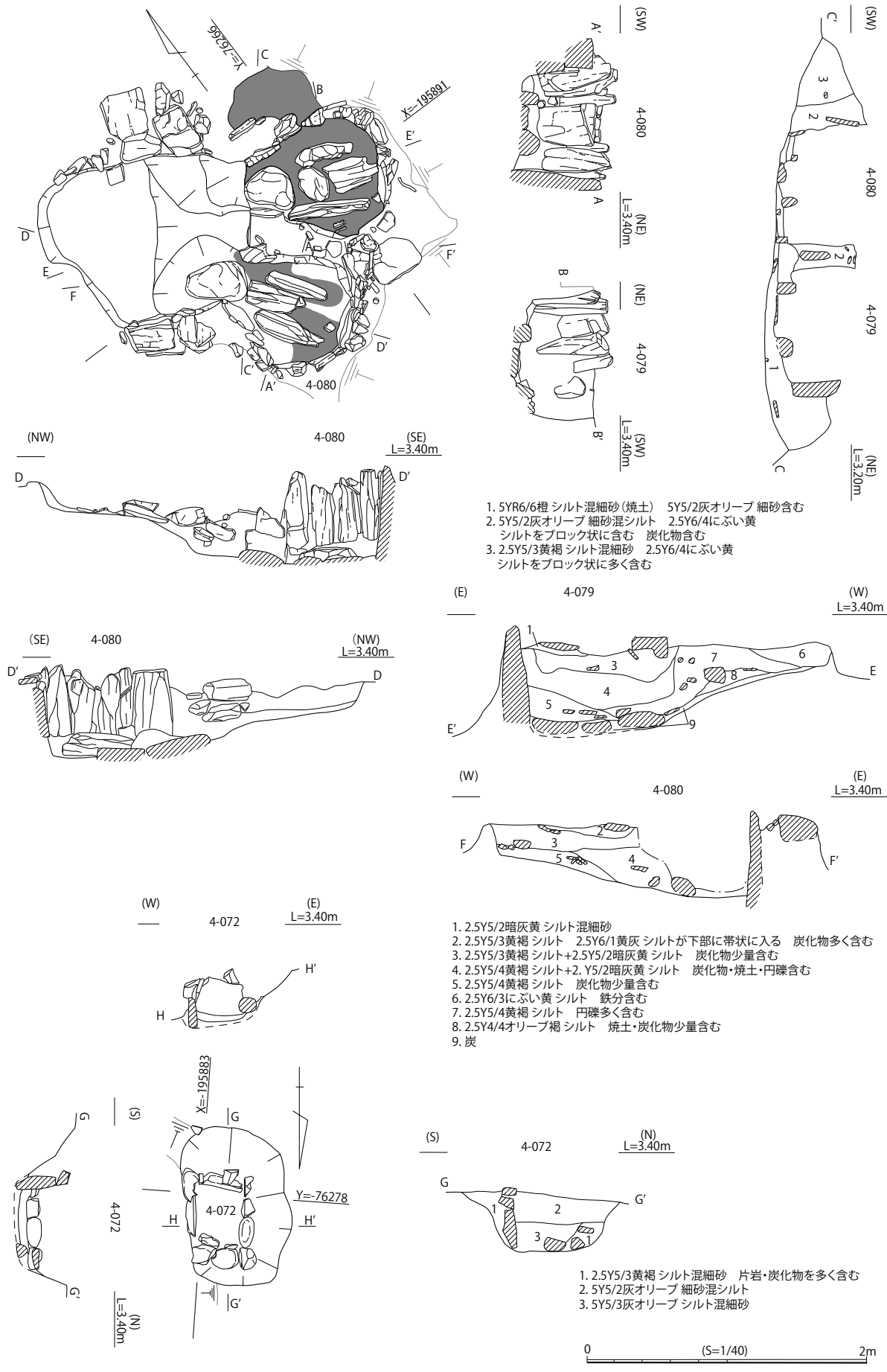


図102 3・4区 第3遺構面 検出遺構(3)

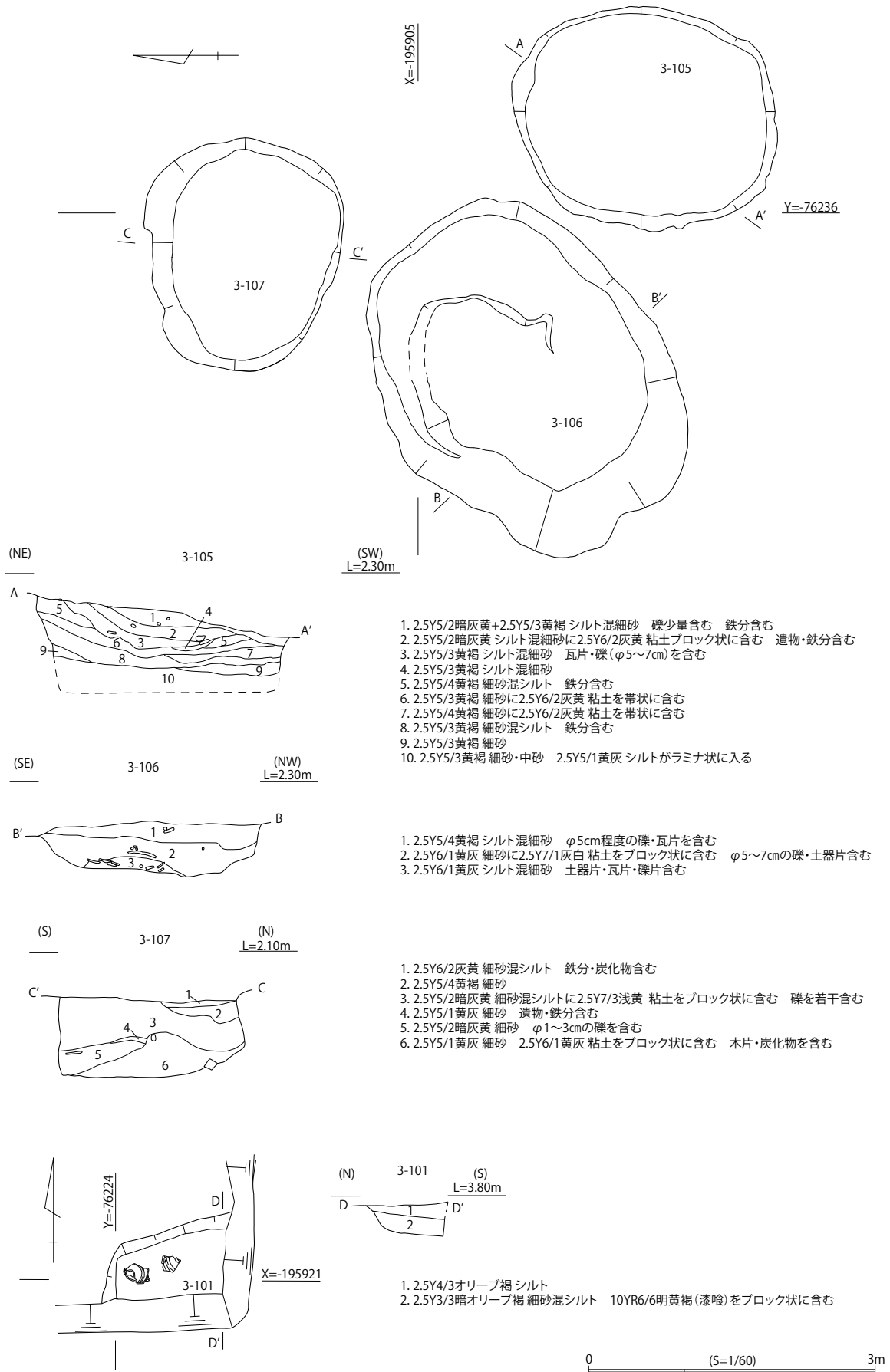
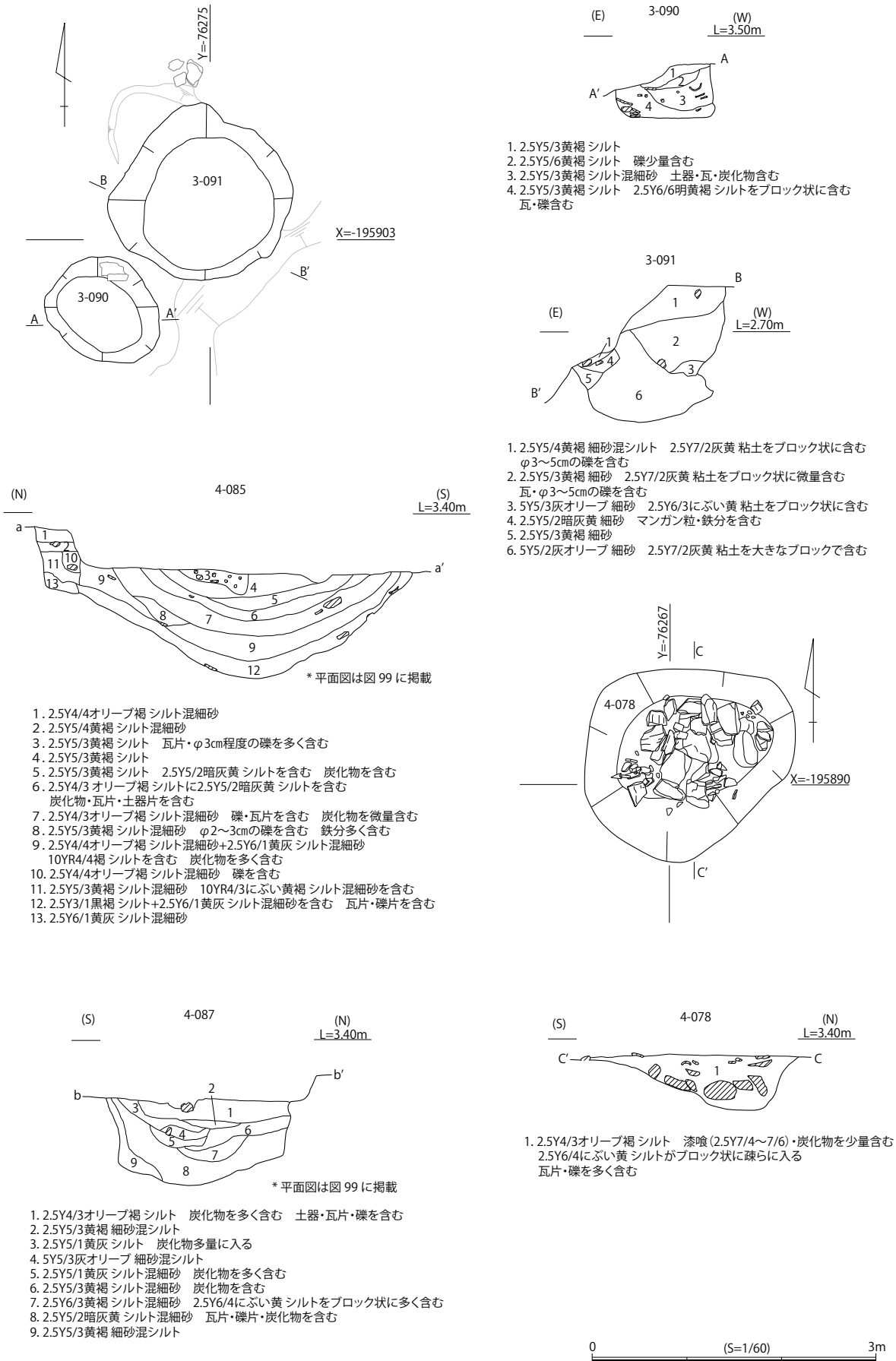


図 103 3・4区 第3遺構面 検出遺構(4)



1. 2.5Y5/3黄褐シルト
2. 2.5Y5/6黄褐シルト 礫少量含む
3. 2.5Y5/3黄褐シルト混細砂 土器・瓦・炭化物含む
4. 2.5Y5/3黄褐シルト 2.5Y6/6明黄褐シルトをブロック状に含む 瓦・礫含む

1. 2.5Y5/4黄褐 細砂混シルト 2.5Y7/2灰黄 粘土をブロック状に含む φ3~5cmの礫を含む
2. 2.5Y5/3黄褐 細砂 2.5Y7/2灰黄 粘土をブロック状に微量含む 瓦・φ3~5cmの礫を含む
3. 5Y5/3灰オリブ 細砂 2.5Y6/3にぶい黄 粘土をブロック状に含む
4. 2.5Y5/2暗灰黄 細砂 マンガン粒・鉄分を含む
5. 2.5Y5/3黄褐 細砂
6. 5Y5/2灰オリブ 細砂 2.5Y7/2灰黄 粘土を大きなブロックで含む

- \* 平面図は図 99 に掲載
1. 2.5Y4/4オリブ褐シルト混細砂
  2. 2.5Y5/4黄褐シルト混細砂
  3. 2.5Y5/3黄褐シルト 瓦片・φ3cm程度の礫を多く含む
  4. 2.5Y5/3黄褐シルト
  5. 2.5Y5/3黄褐シルト 2.5Y5/2暗灰黄シルトを含む 炭化物を含む
  6. 2.5Y4/3オリブ褐シルトに2.5Y5/2暗灰黄シルトを含む 炭化物・瓦片・土器片を含む
  7. 2.5Y4/3オリブ褐シルト混細砂 礫・瓦片を含む 炭化物を微量含む
  8. 2.5Y5/3黄褐シルト混細砂 φ2~3cmの礫を含む 鉄分多く含む
  9. 2.5Y4/4オリブ褐シルト混細砂+2.5Y6/1黄灰シルト混細砂 10YR4/4褐シルトを含む 炭化物を多く含む
  10. 2.5Y4/4オリブ褐シルト混細砂 礫を含む
  11. 2.5Y5/3黄褐シルト混細砂 10YR4/3にぶい黄褐シルト混細砂を含む
  12. 2.5Y3/1黒褐シルト+2.5Y6/1黄灰シルト混細砂を含む 瓦片・礫片を含む
  13. 2.5Y6/1黄灰シルト混細砂

- \* 平面図は図 99 に掲載
1. 2.5Y4/3オリブ褐シルト 炭化物を多く含む 土器・瓦片・礫を含む
  2. 2.5Y5/3黄褐 細砂混シルト
  3. 2.5Y5/1黄灰シルト 炭化物多量に入る
  4. 5Y5/3灰オリブ 細砂混シルト
  5. 2.5Y5/1黄灰シルト混細砂 炭化物を多く含む
  6. 2.5Y5/3黄褐シルト混細砂 炭化物を含む
  7. 2.5Y6/3黄褐シルト混細砂 2.5Y6/4にぶい黄シルトをブロック状に多く含む
  8. 2.5Y5/2暗灰黄シルト混細砂 瓦片・礫片・炭化物を含む
  9. 2.5Y5/3黄褐 細砂混シルト

図 104 3・4区 第3遺構面 検出遺構(5)

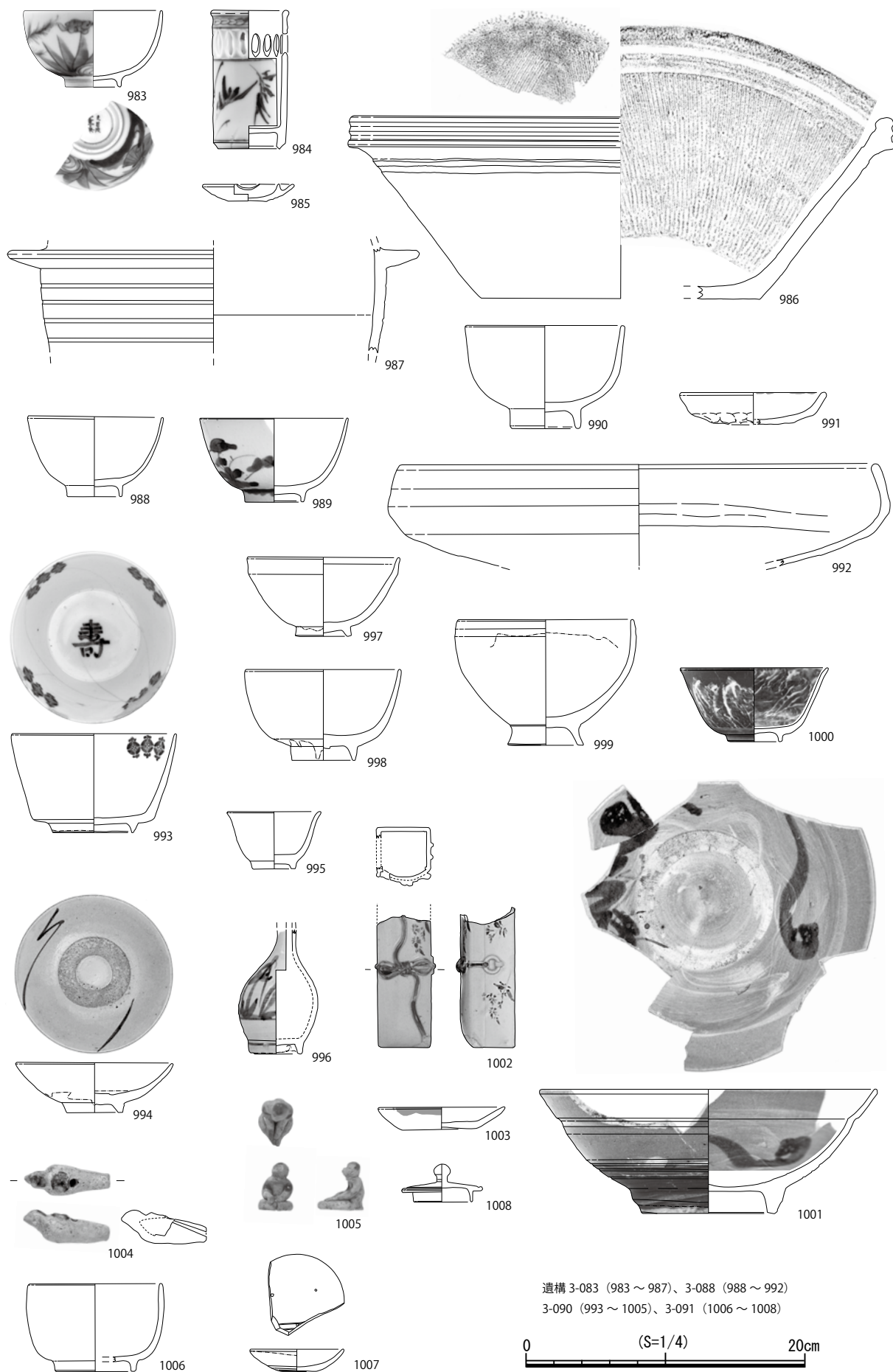


图 105 3・4区 第3遺構面 遺構出土土器 (1)



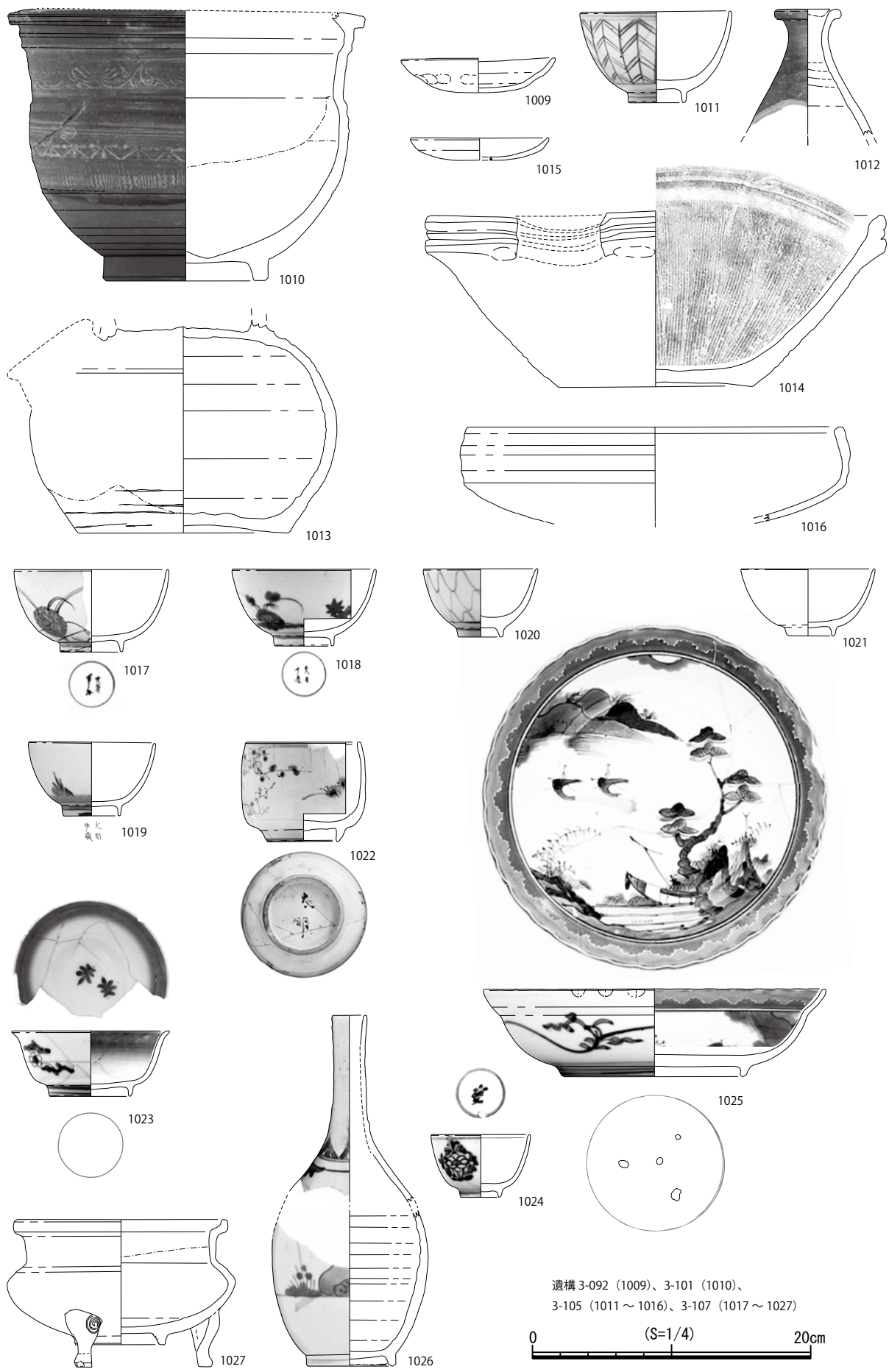


图 106 3·4区 第3遺構面 遺構出土土器 (2)

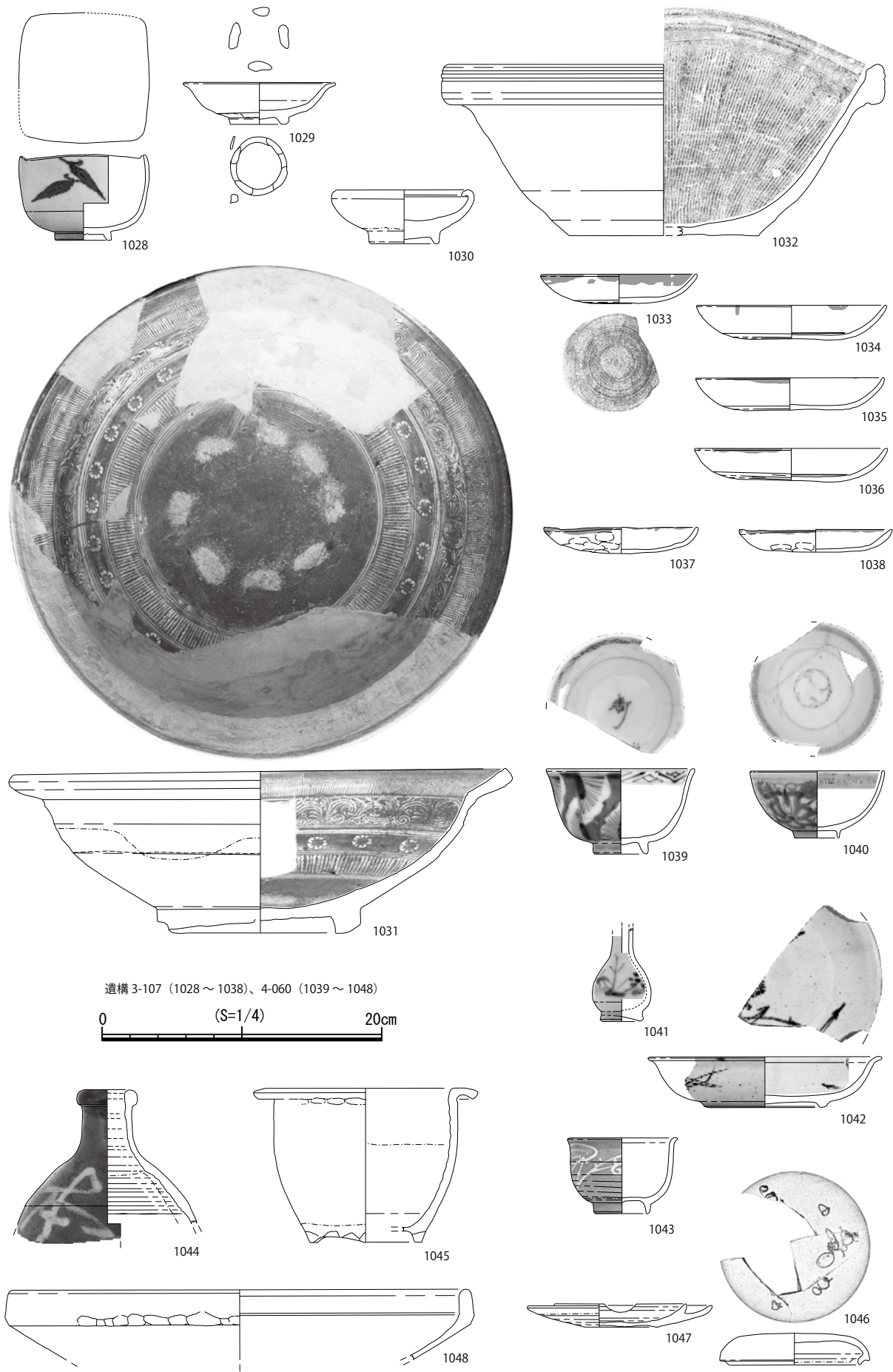
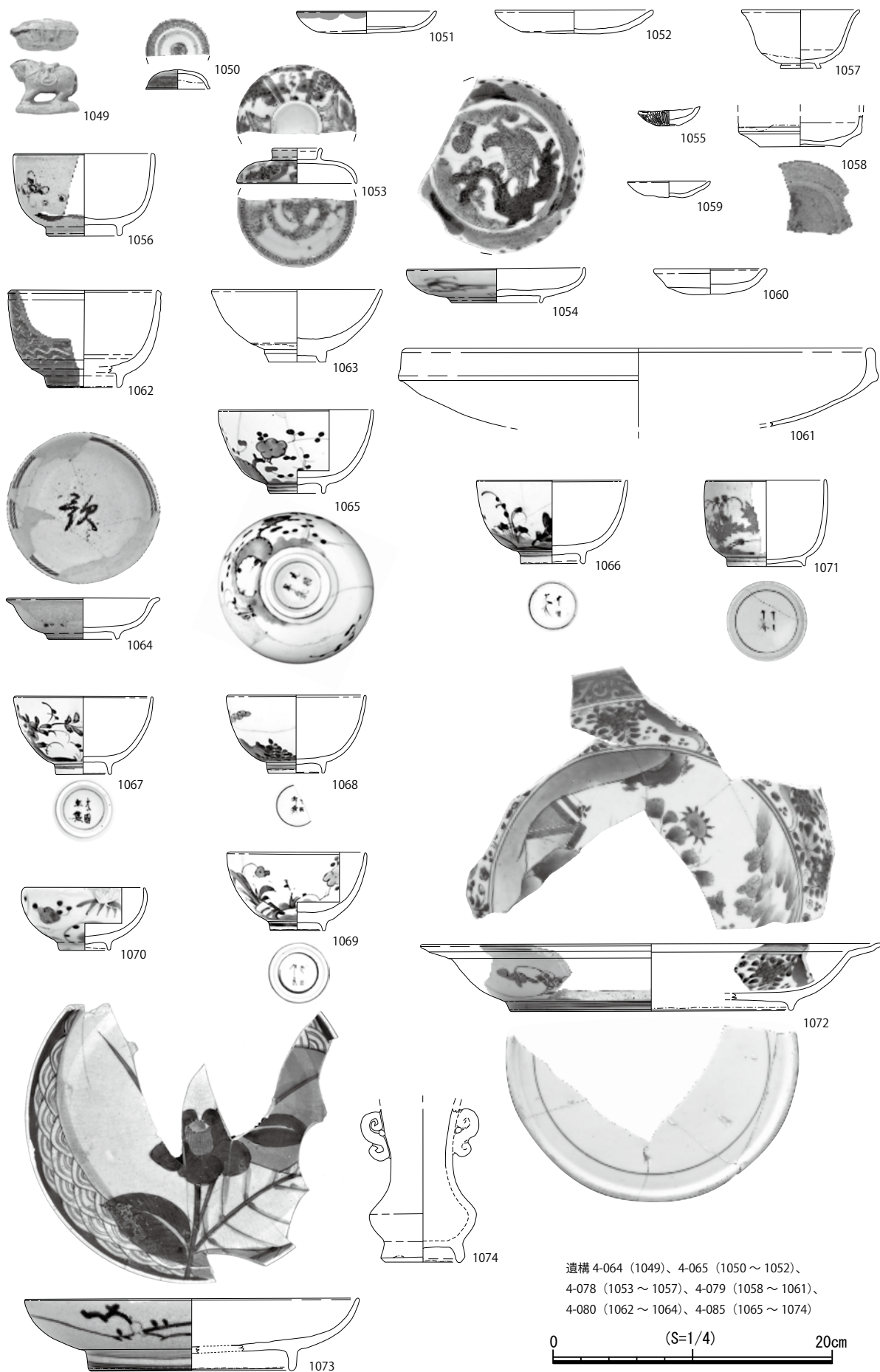


図 107 3・4区 第3遺構面 遺構出土土器 (3)



遺構 4-064 (1049)、4-065 (1050 ~ 1052)、  
 4-078 (1053 ~ 1057)、4-079 (1058 ~ 1061)、  
 4-080 (1062 ~ 1064)、4-085 (1065 ~ 1074)

0 (S=1/4) 20cm

图 108 3·4区 第3遺構面 遺構出土土器(4)



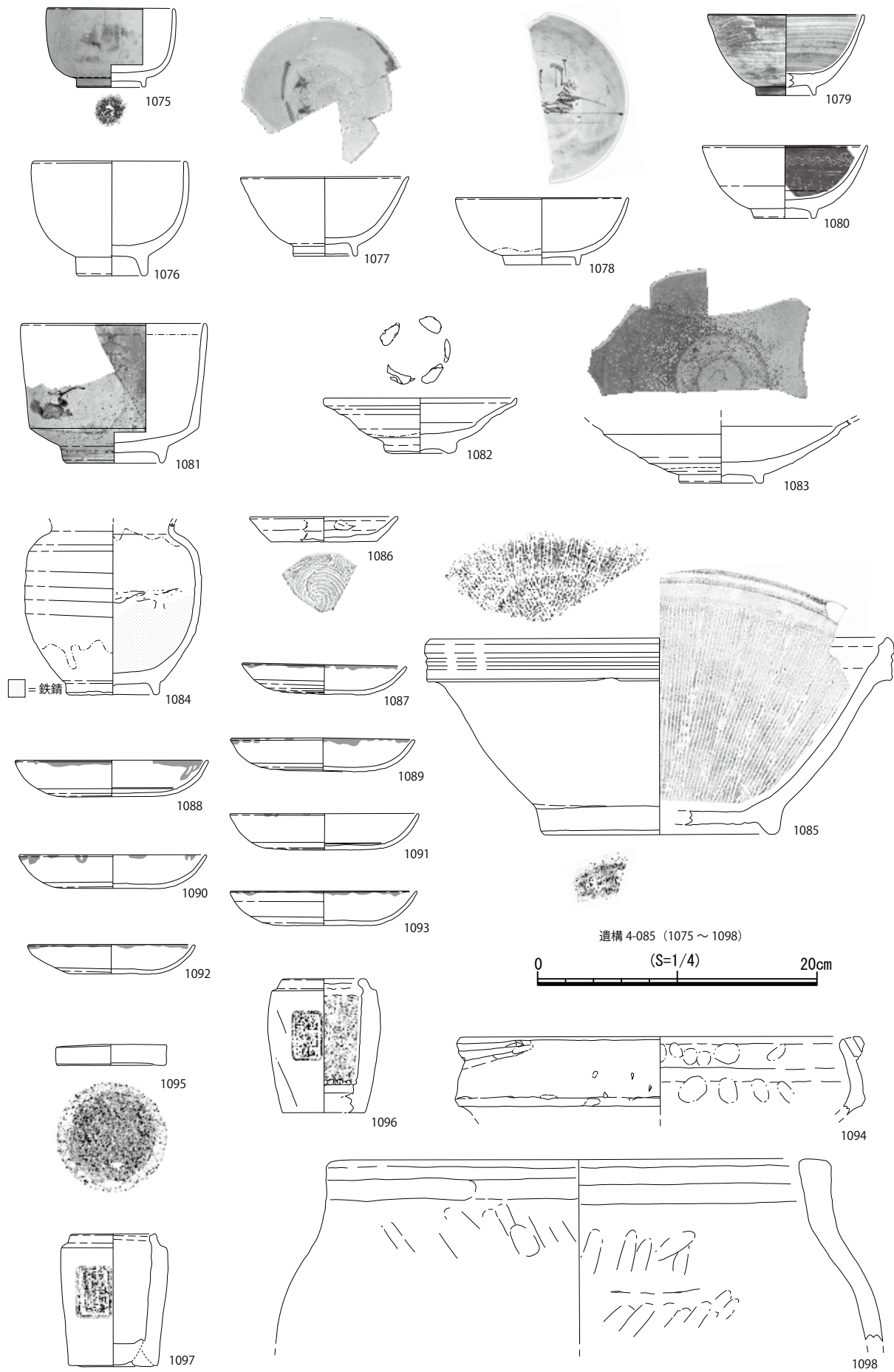


図 109 3・4区 第3遺構面 遺構出土土器 (5)

4-087土坑 (図104・110、図版36・77・78)

4区の東側で検出した大型の土坑で、4-085土坑と東西に並ぶ様に位置する。平面形状は楕円形を呈し、長さ5.35m、幅2.50m、深さ1.30mを測る。断面形状は船底状を呈する。遺物は多量に出土しており、肥前系磁器(1099~1108)、肥前系陶器(1109・1111・1113・1115)、瀬戸美濃系陶器、京・信楽系陶器(1110・1112・1114)、土師質土器(1116~1120)、瓦質土器、土製品(1121)、瓦類、鉄釘などがある。

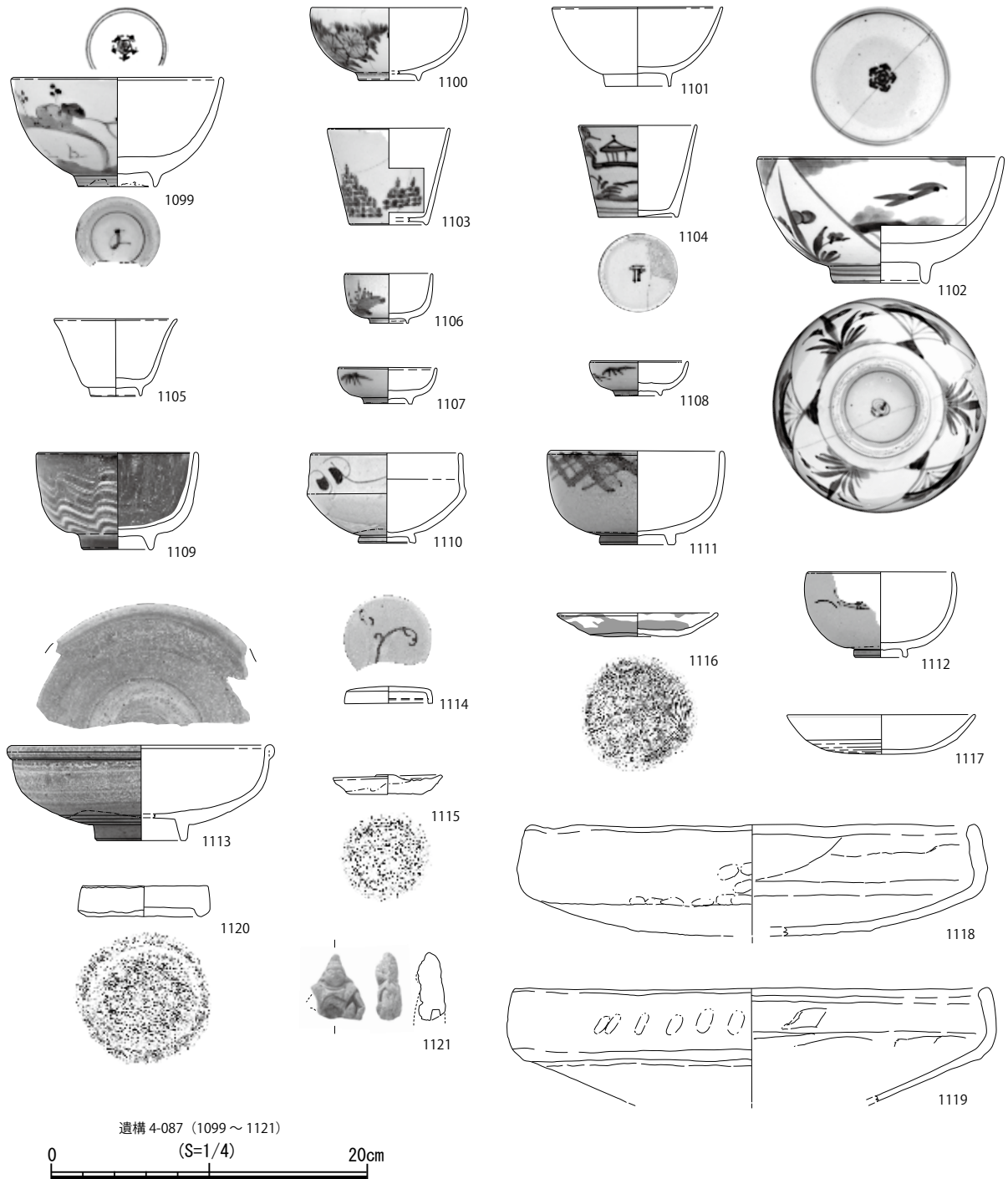


図110 3・4区 第3遺構面 遺構出土土器(6)

## 5 第4-1遺構面の遺構(図111・169・183・186・187・188、図版24～26・86・94・97・98)

17世紀～18世紀の遺構面であると考えられる。検出した遺構には建物遺構の可能性のある竪穴遺構、屋敷境の溝・土塀基礎、井戸、石組柵、集石土坑のほか、大小の土坑などがある。また、遺構検出時に第4-1遺構面の上面から出土した遺物には、肥前系磁器(1615～1619)、肥前系陶器(1623・1624・1626)、瀬戸美濃系陶器(1620～1622)、在地系陶器(1625)、土師質土器(1627)、土製品(1628～1630)、碁石(S33)、小柄(M50)、煙管(M80)、銭貨(M133・M135・M160)などがある。

### 3-123(4-137) 竪穴遺構(図112・118・119・172・178・181、図版36・78・79・88・91・92)

3区・4区の東側で、両区にまたがって検出した竪穴遺構である。平面の基本形は長方形であるが、北東隅が内側に折れ、一見L字状を呈する。3-120土坑と重複し、当遺構の方が新しいが、同時に掘削をおこなったことから、東辺の一部は明らかにできていない。基本軸は正方位で、規模は西辺で9.20m、南辺で9.00m、北辺が5.50m、深さ1.20mを測る。底面は平坦で、壁と底が接する付近には、10～30cmの礫が集中して石列をなし、礫が存在しない箇所には直線的な低い段を確認することができた。断面観察などから、石列付近を境に外側と内側では層位が異なっており、本来は石列付近に板などで構築した壁が存在し、石列より外側は掘形であった可能性がある。石列より内側が建物の本体部とした場合、外側の掘形と同様に北東隅が内側に折れ、その規模は西辺で7.80m、南辺で6.00m、北辺で3.70mを測る。また、石列より内側の層位は、東側より順に丁寧に埋戻して整地した状況が窺える。これらの構造から、半地下式倉庫などの建物遺構であったと想定できる。遺物は肥前系磁器(1144)、肥前系陶器(1145～1147)、備前焼、丹波焼(1148・1149)、土師質土器(1150～1152)、瓦質土器、土製品(1153)、瓦類(T34・T141・T165)などが出土している。

### 4-110竪穴遺構(図113・122・181・186、図版37・81・92・96・97)

4区の西側で検出した遺構で、平面形状は本体部の東側に突出部を持つ凸状を呈する。北側と西側の一部を攪乱により削平を受け、上面も大きく損なわれているものの、壁に沿って石積みが一部で確認できることや、検出時に原位置を離れた多くの石が出土していることから、本来は周囲がすべて石積みであったと判断できる。規模は本体部が東西5.00m以上、南北4.50mで、突出部は東西2.50m、南北2.50mを測り、これが掘形に相当する。石積みの内法は、本体部で東西約4.00m、南北約3.50mと推定できる。石積みの石材は20～50cmの砂岩で、2段・高さ0.30m以上積んでいたと考えられる。床面はかなり攪乱を受けており、突出部付近の一部で敲き締めた面が確認できるが、これが当初のものと考えられる。本体部の床面には炭層が全体的に存在し、床面の下部に敷かれていたものである可能性がある。また底面で30～50cmの扁平な砂岩を5個検出している。すべてが原位置を保つものか明らかでないものの、本来は礎石で、この遺構は竪穴構造の建物であったと想定できる。遺物は中国製磁器(1227)、肥前系磁器(1228)、肥前製陶器、丹波焼、土師質土器(1229～1231)、瓦類(T167)、鉄釘、不明銅製品(M72)、煙管(M92)などのほか、黒色の小礫が多く出土している。

### 4-121石組溝、3-108・138石列、3-114石組(図114、図版37)

4-121石組溝と4-108・138石列は4区の西寄りで検出した遺構で、3-114石組は3区の南側においてその延長上に位置する。これらの遺構は屋敷境に係る遺構であると判断でき、江戸時代の絵

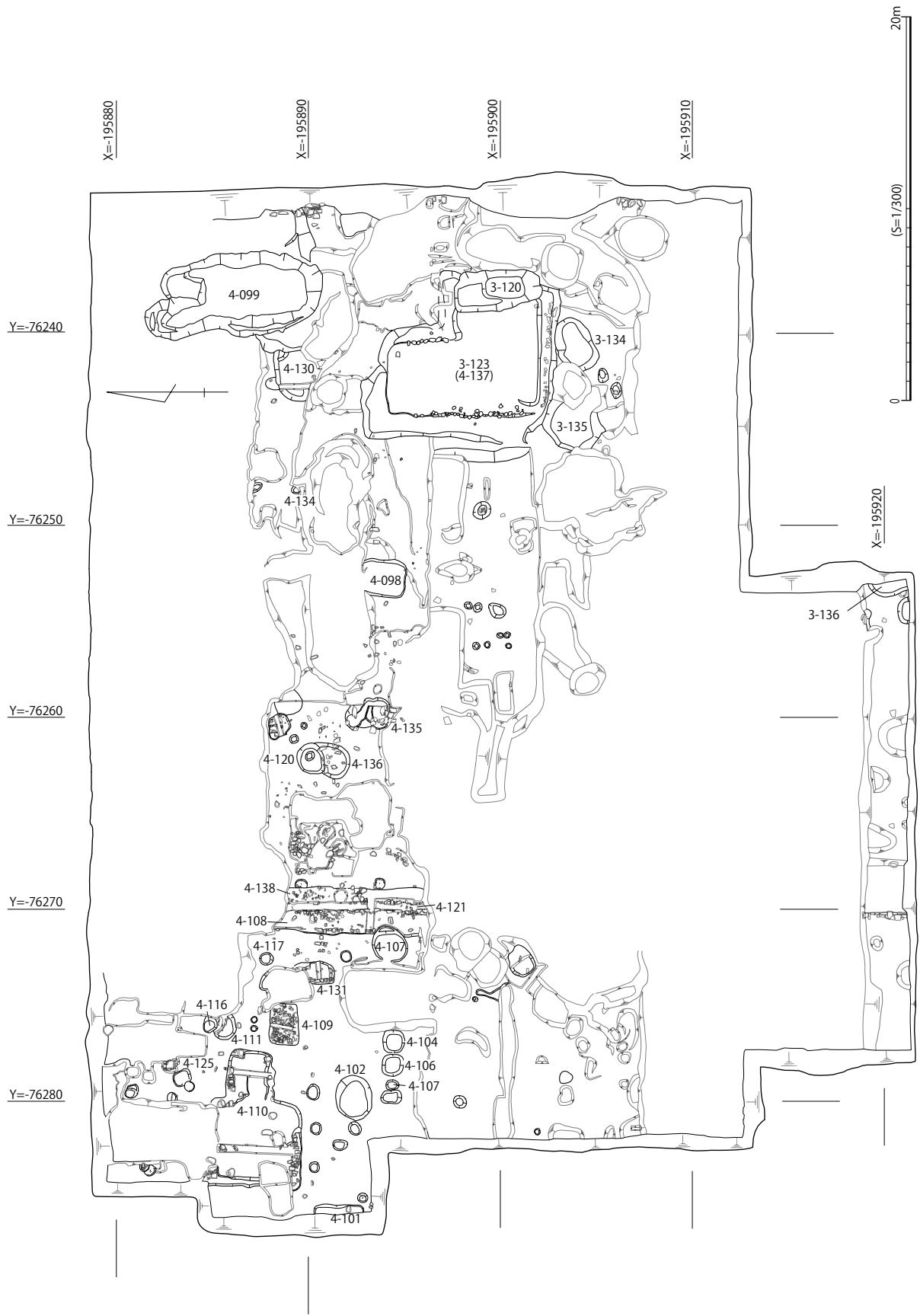


図 111 3・4区 第4-1遺構面 全体図



図とも整合するものである。

4-121石組溝は正方位で南北方向に伸びる。両端が攪乱により削平され、確認した長さは7.45mである。溝の幅は0.23mで、両側の石組みは主に10～50cmの結晶片岩で築かれ、深さは残りの良い箇所では0.38mを測る。遺物は肥前系磁器、土師質土器、瓦などの破片が出土している。

4-108石列は4-121石組溝の西側に平行する石列で、溝の西肩部との間隔は1.20mを測る。その下部は溝状となっているが、これは石組溝構築時に同時に掘削されたものと考えられ、石組溝が機能していた時は埋め戻されて併存し、石組溝に沿う犬走りあるいは土塀の基礎であった可能性がある。遺物は肥前系磁器、肥前系陶器、京・信楽系陶器(1221)、土師質土器(1222～1224)、備前焼、瓦などが出土している(図122、図版81)。

4-138石列は、4-121石組溝の東側と平行する石列で、4-108石列と同様に石組溝構築時に同時に掘削された後に埋め戻されていると考えられる。石組溝と一体のもので、石がかなり散逸していると判断すれば土塀などの基礎である可能性もある。石組溝の東肩部との間隔は0.75mを測る。遺物は中国製磁器、肥前系磁器、肥前系陶器、土師質土器、鉄釘などが出土している。

3-114石組は、北側が攪乱により削平され、南側が調査区域外となる。4-121石組溝の延長上に位置するが、溝ではなくて段差に設けられた石組のみを検出した。確認した長さは2.30mである。石組の石材は、主に10～40cmの結晶片岩で、深さ約0.45m残存していた。石組の上面の一部には漆喰が貼られていた。

#### 4-102井戸(図114・121・175・186・188、図版38・80・91・96～98)

4区の西側で検出した井戸である。検出面での平面形状は楕円形を呈し、規模は長さ2.30m、幅1.90mを測る。ベースが砂であることなどから、深さは0.75mまでしか確認できず、下位の調査はできていないことから井戸側の内容については明らかでない。遺物は肥前系磁器(1197～1201)、肥前系磁器(1202～1204)、土師質土器(1205)、瓦類(T105・T106)、釘、銅製柄杓(M64)、煙管(M83)、銭貨(M145)などが出土している。

#### 4-109石組遺構(図115・122、図版38)

4区の西側で検出した石組遺構で、上面や北東側が削平される。掘形の平面形状は長方形で、規模は東西1.90m、南北1.30mを測る。石組は西辺と南辺の西側のみ残存するが、底面に敷かれた礫はほぼ旧状を保っていると考えられる。石組は掘形いっぱいに構築されており、内法は底面の礫の範囲から東西1.70m、南北1.00mと推定できる。石組の石材は20～40cmの結晶片岩で、それを縦置きしている。残存する石組は基底部1石のみで、元の深さは明らかでない。床面の礫は10cm前後の砂岩あるいは結晶片岩で、ほぼ一面に敷かれていた。遺物は肥前系磁器、肥前系陶器、土師質土器(1225・1226)、瓦、鉄釘などが出土している。

#### 4-131石組柵(図115、図版38)

4区の西側で検出した石組柵で、北側削平され東側も石材が抜き取れている。掘形の平面形状は隅丸方形を呈し、規模は長さ2.10m以上、幅1.10mを測る。石組の内法は石材が抜かれていることから明らかでないが、掘形から東西は0.50mであると推定できる。石組の石材は15～30cm程度の砂岩の割石で、深さは残りの良い箇所では0.20mを測る。遺物は出土していない。

#### 4-098土坑(図115・119・175・183、図版90・94)

4区の中央東寄りで検出した土坑で、北側は攪乱により削平される。平面形状は隅丸長方形を

呈していたと考えられ、規模は南北2.20m以上、東西2.00m、深さは残りの良い箇所で0.85mを測る。壁はほぼ直に落ち、底面は比較的平坦である。遺物は肥前系磁器、肥前系陶器、瀬戸美濃系陶器、備前焼、土師質土器（1157・1158）、瓦類（T102）、不明石製品（S49）、鉄釘などが出土している。

#### 4-104・106土坑（図115）

4区の西側で102井戸の南で大小の土坑が重複しないで東西に並んでおり、そのうち東寄りの2基である。

4-104土坑は東側の土坑で、平面形状は隅丸方形を呈し、規模は1.15m×1.15m、深さ0.64mを測る。壁は直に落ち、底はほぼ平坦である。埋土は1層で、礫や瓦が多量に含まれていた。遺物は肥前系磁器（1206）、肥前系陶器、瀬戸美濃系陶器、備前焼、瓦類、鉄釘、漆喰などのほか動物遺存体（貝類）が出土している（図121）。

4-106土坑は4-104土坑に西接し、平面形状は隅丸方形を呈する。規模は1.15m×1.15m、深さ0.54mを測る。断面形状は深い船底状を呈する。埋土は1層で、礫や瓦が多量に含まれていた。遺物は肥前系磁器、土師質土器、瓦、漆喰などが出土している。

#### 4-107土坑（図115・122・183、図版80・81・94）

4区の西側で検出した土坑で、屋敷境に係ると考えられる4-108石列を切り込む。西側を攪乱により削平される。平面形状は楕円形で、規模は長さ1.95m、幅1.70m、深さは残りの良い箇所で0.45mを測る。断面形状は船底状を呈する。遺物は肥前系磁器（1207～1215）、肥前系陶器、瀬戸美濃系陶器（1217）、京・信楽系陶器（1216）、備前焼（1218）、土師質土器（1219・1220）、瓦質土器、瓦類、砥石（S44）、鉄釘などが出土している。第4遺構面で検出したものの、遺物内容から第3遺構面に帰属する遺構であると考えられる。

#### 4-111・116土坑（図116）

4-111・116土坑は4区の西側で検出した土坑で、二つは重複し、4-116土坑の方が新しい。

4-111土坑は東側が攪乱により削平され、北側で4-116土坑と重複することで全容は明らかでないが、平面形状は円形を呈していたと考えられる。規模は直径0.85m、深さ0.60mを測る。壁はほぼ直に落ち、底面は中央が深くなっている。遺物は肥前系磁器（1232・1233）、肥前系陶器、丹波焼、土師質土器（1234）、瓦質土器、瓦類、砥石などのほか、動物遺存体（貝類）が出土している（図123、図版81）。

4-116土坑は東側の肩部を攪乱により削平される。平面形状は不整楕円形を呈し、長さ0.80m以上、幅0.70m、深さ0.27mを測る。断面形状は船底状を呈する。遺物は肥前系磁器（1235）、肥前系陶器、丹波焼（1236）、瓦類、鉄釘などが出土している（図123）。

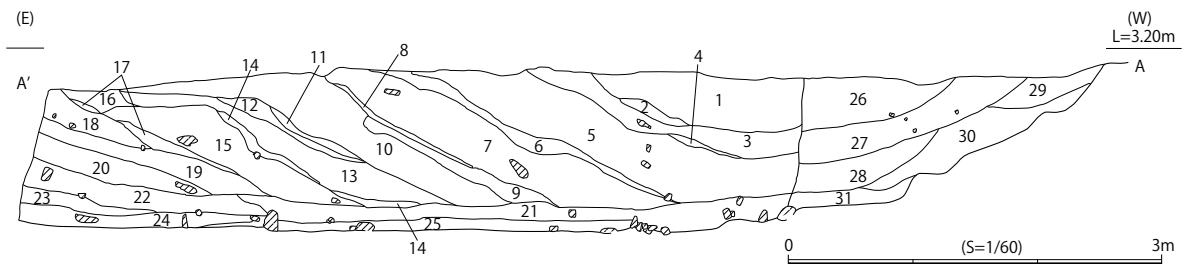
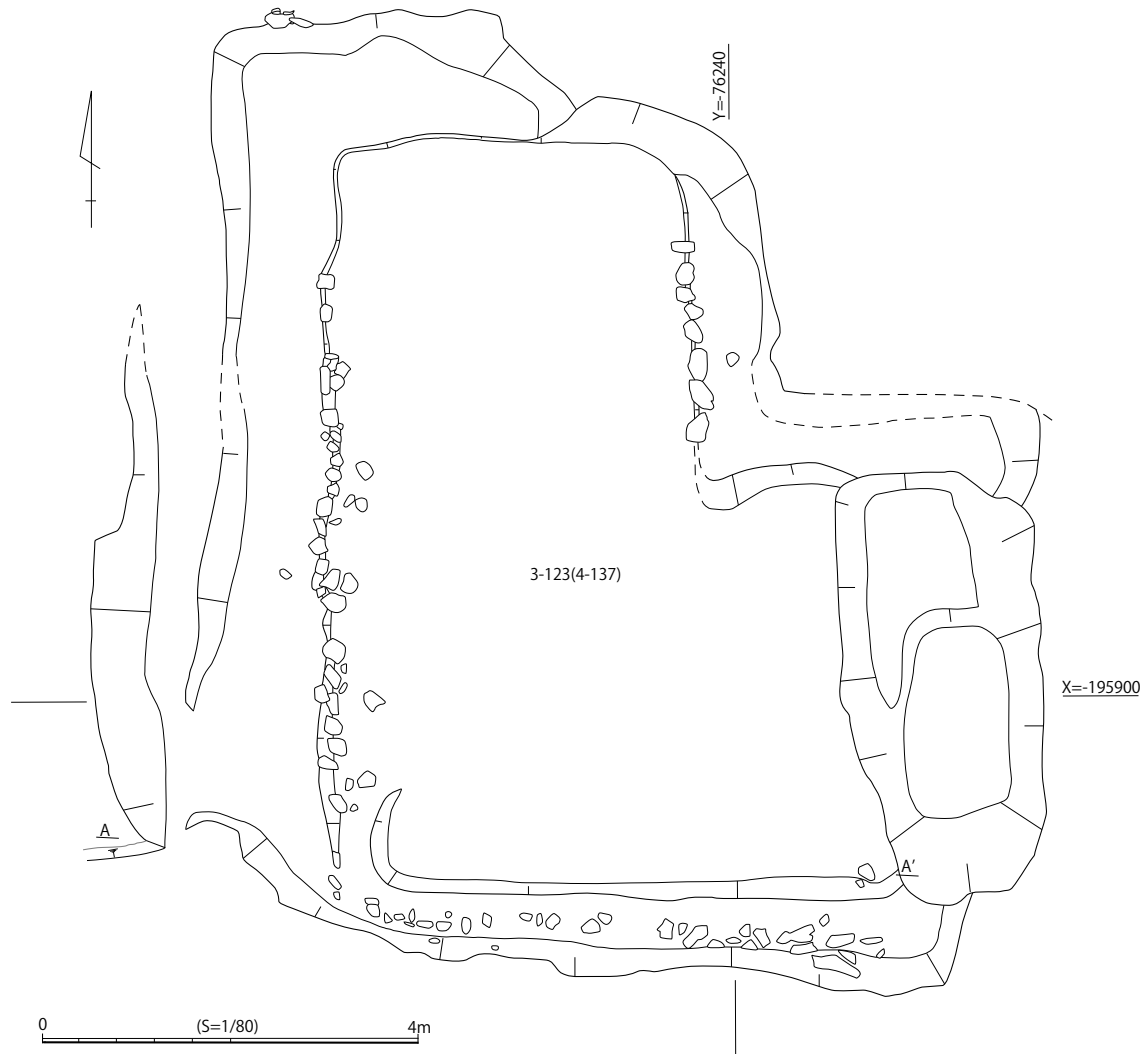
#### 4-120・136土坑（図116）

4区の中央付近で検出した土坑である。4-120土坑と4-136土坑は重複し、4-120土坑の方が新しい。

4-120土坑は平面形状が不整楕円形を呈し、規模は長さ1.60m、幅1.20m、深さ0.64mを測る。壁はほぼ直に落ち、底面は中央が深くなっている。遺物は肥前系磁器、肥前系陶器

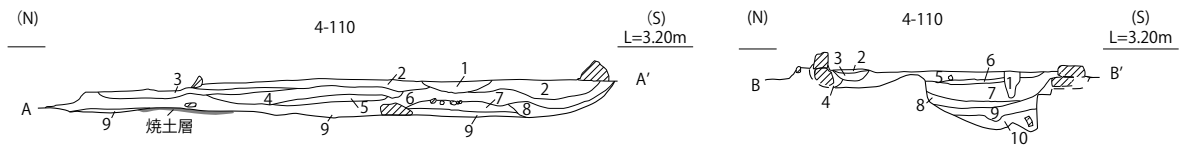
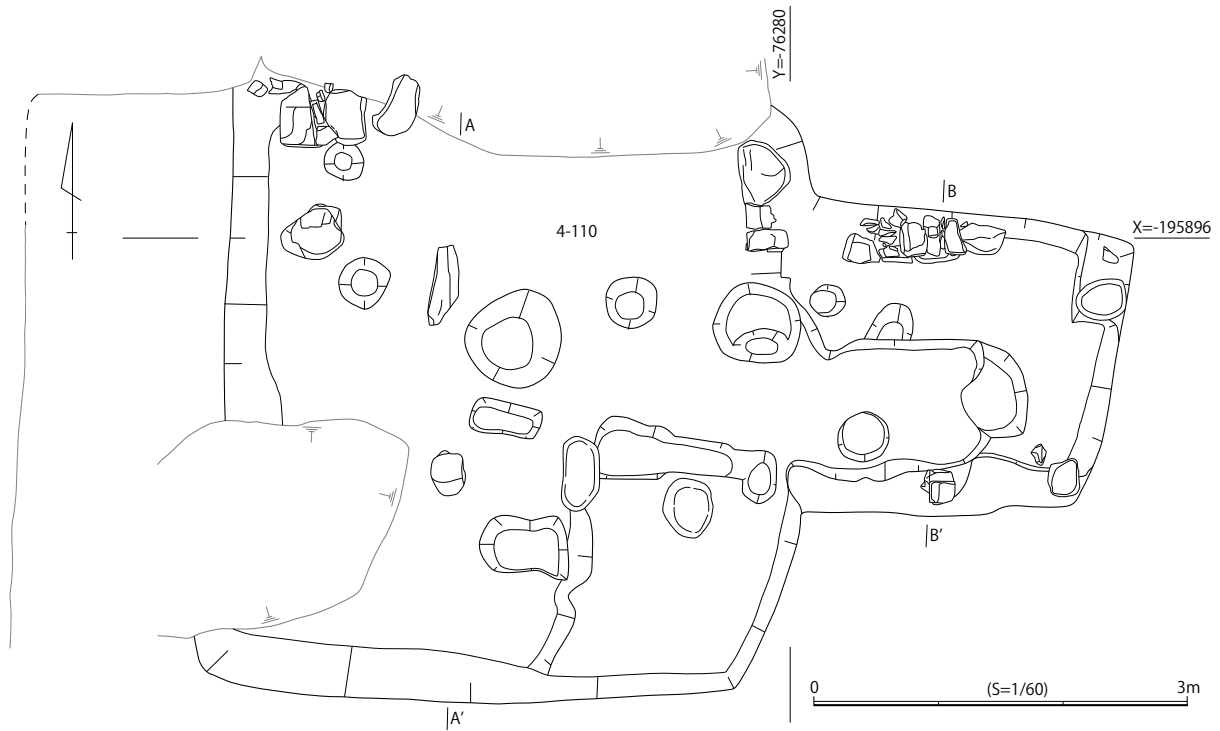


写真16 4-120土坑断面（西から）



1. 2.5Y5/4黄褐シルト 2.5Y6/4にぶい黄粘性シルトを粒状に含む 炭化物・炭化物・礫(φ5cm程度)を疎らに含む
2. 2.5Y5/3灰オリブ細砂 2.5Y6/3にぶい黄粘性シルトをブロック状に含む
3. 2.5Y5/4黄褐細砂混シルト 2.5Y6/3にぶい黄粘性シルトをブロック状に含む 炭化物を微量含む
4. 5Y5/3灰オリブ細砂混シルト 2.5Y7/3浅黄粘土をブロック状に含む
5. 5Y5/3灰オリブ+2.5Y5/3黄褐シルト混細砂 2.5Y6/3にぶい黄粘土(鉄分・マンガン粒混)をブロック状に含む 炭化物・土器片・礫を疎らに含む
6. 5Y5/3灰オリブ細砂混シルト 2.5Y6/3にぶい黄粘土を粒状に含む
7. 5Y5/3灰オリブ+2.5Y5/3黄褐シルト混細砂 2.5Y6/3にぶい黄粘土(鉄分・マンガン粒混)をブロック状に含む 炭化物・土器片・礫を疎らに含む
8. 5Y5/3灰オリブ細砂混シルト 2.5Y6/3にぶい黄粘土を粒状に含む
9. 2.5Y4/3オリブ褐シルト混細砂 5Y6/2灰オリブ粘土を粒状に含む マンガン・炭・鉄分を含む
10. 5Y5/3灰オリブ細砂混シルト 2.5Y6/3にぶい黄粘土を粒状に含む φ1~7cmの礫を多く含む 炭化物微量含む
11. 5Y5/3灰オリブ細砂混シルト 2.5Y6/3にぶい黄粘土を粒状に含む
12. 2.5Y5/4黄褐シルト混細砂 2.5Y6/3にぶい黄粘土を粒状に含む
13. 2.5Y5/4黄褐細砂混シルト 2.5Y6/3にぶい黄・2.5Y6/1黄灰粘土を粒状に含む
14. 2.5Y5/4黄褐シルト混細砂 2.5Y6/3にぶい黄粘土を粒状に含む
15. 2.5Y5/3黄褐細砂混シルト 2.5Y6/3にぶい黄粘土を粒状に含む 炭化物・焼土を疎らに含む
16. 2.5Y5/3黄褐シルト 2.5Y6/3にぶい黄粘土をブロック状に含む
17. 2.5Y5/4黄褐シルト混細砂 2.5Y6/3にぶい黄粘土を粒状に含む
18. 2.5Y5/4黄褐シルト 2.5Y7/2浅黄粘土をブロック状に含む 炭化物・炭・礫を疎らに含む
19. 2.5Y5/4黄褐シルト 2.5Y6/1灰黄粘土をブロック状に含む 炭化物・炭・礫を極微量含む
20. 2.5Y5/4黄褐シルト 2.5Y7/2浅黄粘土をブロック状に含む 炭化物・炭・礫を疎らに含む
21. 2.5Y6/3にぶい黄+7.5Y6/2灰オリブ粘土(鉄分多く含む) 2.5Y5/3黄褐細砂を含む φ10cm大の礫を含む
22. 2.5Y5/3黄褐シルト 2.5Y7/3浅黄粘土を粒状に含む 礫・炭化物を疎らに含む
23. 5Y5/2灰オリブシルト(鉄分を含む) 2.5Y7/3浅黄粘土を粒状に含む
24. 5Y5/2灰オリブ細砂混シルト 鉄分を含む 礫片を含む
25. 7.5Y5/2灰オリブ細砂混シルト 鉄分を含む 礫片を含む
26. 5Y5/3灰オリブシルト混細砂 2.5Y6/3にぶい黄粘土ブロックを粒状に含む 炭化物を微量含む
27. 2.5Y5/4黄褐シルト混細砂 2.5Y6/3にぶい黄粘土をブロック状に含む φ3~5cmの礫を含む
28. 2.5Y5/3黄褐+5Y5/3灰オリブ細砂混シルト 2.5Y6/3にぶい黄粘土をブロック状に含む
29. 2.5Y4/4オリブ褐シルト 2.5Y6/3にぶい黄粘土を粒状に含む 炭化物を微量含む
30. 2.5Y4/4オリブ褐シルト混細砂 2.5Y6/3にぶい黄粘土を粒状に含む
31. 5Y5/2灰オリブシルト混細砂 鉄分を含む

図 112 3・4区 第4-1遺構面 検出遺構(1)



- |   |   |
|---|---|
| <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 2.5Y5/3黄褐 細砂混シルト 2.5Y6/4にぶい黄シルトをブロック状に含む炭化物を含む</li> <li>2. 5Y5/3灰オリブシルト混細砂+2.5Y5/3黄褐シルト混細砂</li> <li>3. 5Y5/3灰オリブ 細砂混シルト</li> <li>4. 2.5Y5/3黄褐 細砂混シルト+2.5Y5/2暗灰黄シルト混細砂 炭化物が帯状に入る</li> <li>5. 2.5Y5/3黄褐シルト混細砂 炭化物微量含む</li> <li>6. 2.5Y5/2暗灰黄シルト混細砂 炭化物を多量・焼土を少量含む</li> <li>7. 2.5Y5/4黄褐 細砂混シルト 炭化物を微量含む</li> <li>8. 2.5Y5/3黄褐シルト混細砂 炭化物を含む</li> <li>9. 2.5Y5/3黄褐シルト混細砂+2.5Y5/2暗灰黄シルト 炭化物・焼土を含む</li> </ol> | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 10YR3/4暗褐シルト+2.5Y5/3黄褐 細砂 2.5Y7/4浅黄シルトが帯状に入る</li> <li>2. 2.5Y6/4にぶい黄シルト マンガン粒・炭化物を含む</li> <li>3. 2.5Y5/4黄褐 細砂混シルト 炭化物を多く含む</li> <li>4. 2.5Y5/6黄褐 細砂 2.5Y4/2暗灰黄シルトをブロック状に含む</li> <li>5. 2.5Y5/3黄褐 細砂混シルト 2.5Y7/4浅黄シルトをブロック状に含む炭化物・円礫含む</li> <li>6. 2.5Y6/6明黄褐シルト混細砂 5Y6/2灰オリブシルトをブロック状に含む</li> <li>7. 5Y5/3灰オリブ+2.5Y5/3黄褐+2.5Y6/6明黄褐シルト混細砂 炭化物を含む</li> <li>8. 2.5Y5/3黄褐 細砂+10YR3/1黒褐シルト φ3cmの円礫を含む</li> <li>9. 5Y5/3灰オリブ 細砂+2.5Y5/3黄褐シルト 2.5Y7/4浅黄シルトをブロック状に含む 炭化物・焼土を含む</li> <li>10. 5Y5/3 灰オリブ+2.5Y5/3黄褐 細砂混シルト</li> </ol> |
|---|---|

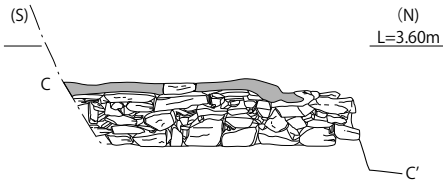
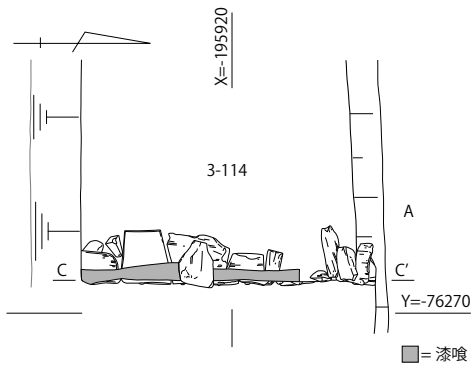
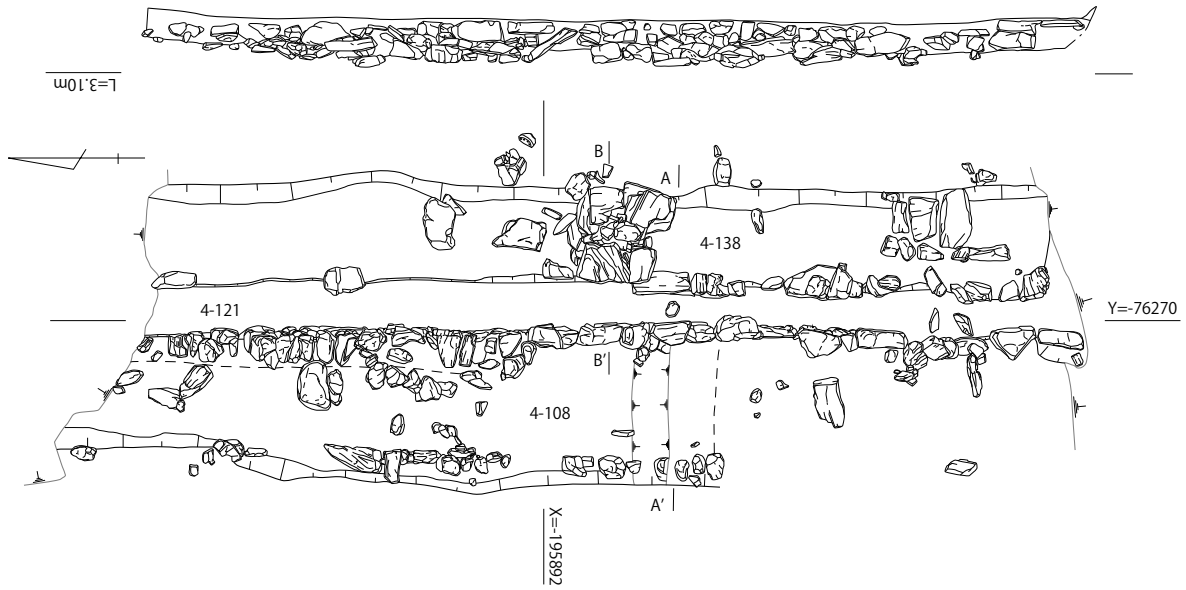
図113 3・4区 第4-1遺構面 検出遺構(2)

(1238)、瓦類のほか石灰岩が出土している(図123、図版81)。

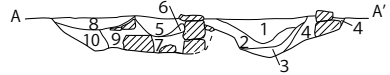
4-136土坑は北側を4-120土坑により削平される。平面形状は不整楕円形を呈していたと考えられ、規模は長さ1.70m以上、幅1.80m、深さ0.16mを測る。断面形状は浅い船底状を呈する。埋土には5~30cmの礫が多く含まれていた。遺物は瀬戸美濃系陶器、備前焼、土師質土器、瓦類、鉄釘、不明銅製品(M70)などが出土している(図178・186)。

**4-135土坑(図116・123・186・188、図版81・97・98)**

4区の中央付近で検出した土坑である。2基の土坑が重複したような形状であるが、断面や覆土・遺物等から不定形を呈する一つの遺構と判断した。東側と南側を攪乱により削平される。規模は南北2.70m以上、東西1.65m以上を測る。上面には20~50cmの礫が集中していた。底は凸凹が著しい。埋土には貝殻が多く混入する。遺物は肥前系磁器、肥前系陶器(1247)、瀬戸美濃系陶器(1248)、土師質土器、瓦、鉄釘、煙管(M93)、銭貨(M150)などのほか、動物遺存体(貝類・獣骨・鳥骨・魚骨)が出土している。



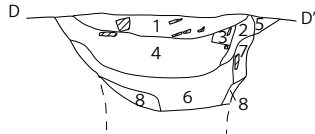
(E) 4-138      4-121      4-108      (W)  
L=3.30m



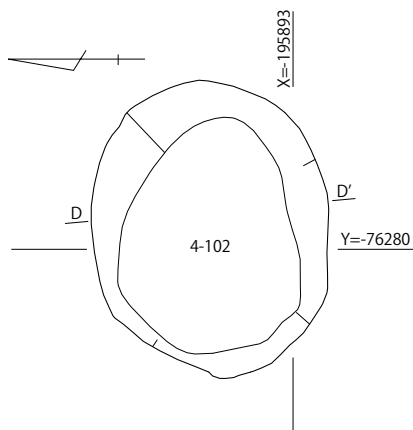
1. 5Y5/2灰オリブシルト      5Y6/3オリブ黄シルトを粒状に含む
2. 5Y5/2灰オリブシルト      5Y6/3オリブ黄シルトをブロック状に含む炭化物を含む
3. 5Y4/2オリブ灰粘性シルト      炭化物を含む
4. 5Y4/2オリブ灰シルト混細砂      炭化物を少量含む
5. 5Y4/2灰オリブシルト混細砂+5Y5/3灰オリブシルト混細砂
6. 5Y4/2灰オリブシルト      5Y5/4オリブシルトを含む
7. 5Y4/2灰オリブシルト      5Y5/4オリブシルトを少量含む
8. 5Y5/3灰オリブシルト混細砂      φ1~3cmの礫・炭化物を含む
9. 5Y4/2灰オリブシルト混細砂+5Y5/3灰オリブシルト混細砂
10. 5Y5/2灰オリブシルト      炭化物を微量含む



(N)      4-102      (S)  
L=3.20m



1. 2.5Y6/4にぶい黄・2.5Y5/2暗灰黄シルト混細砂      礫・瓦片・土器・焼土・炭化物を含む
2. 2.5Y6/4にぶい黄シルト      焼土・炭化物を含む
3. 10YR5/4にぶい黄褐細砂      礫を含む
4. 5Y5/2灰オリブ細砂混シルト+10YR5/3にぶい黄褐細砂      5Y6/3オリブシルトをブロック状に含む      焼土・炭化物を含む
5. 2.5Y5/3黄褐シルト混細砂      炭化物・焼土を含む
6. 5Y5/2灰オリブ細砂混シルト+5Y6/3オリブ黄シルト
7. 5Y5/3灰オリブ細砂
8. 2.5Y2/2黒褐シルト混細砂(炭化物)      焼土含む



0      (S=1/60)      3m

図114 3・4区 第4-1遺構面 検出遺構(3)

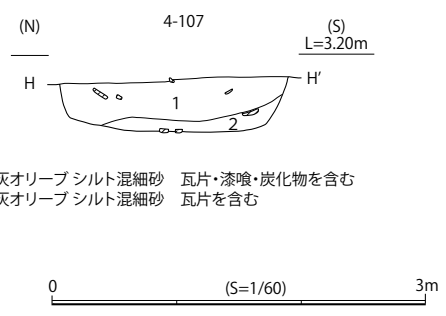
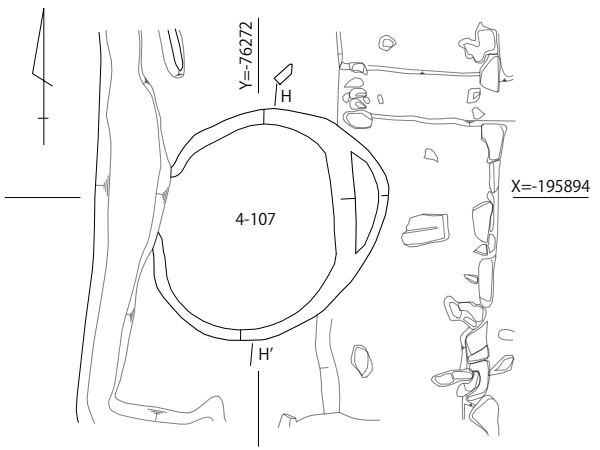
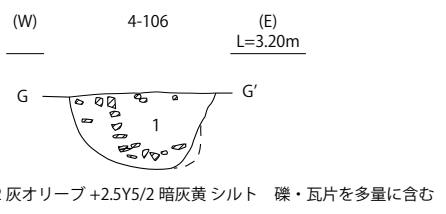
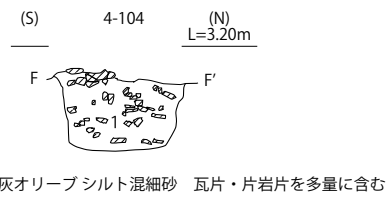
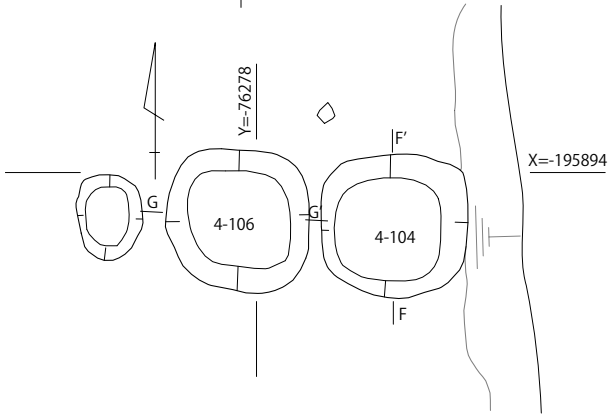
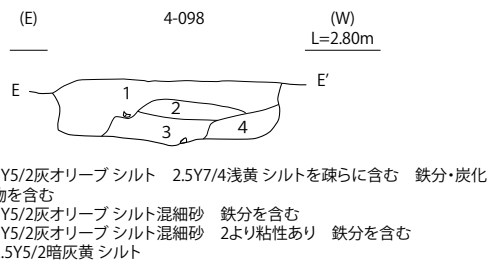
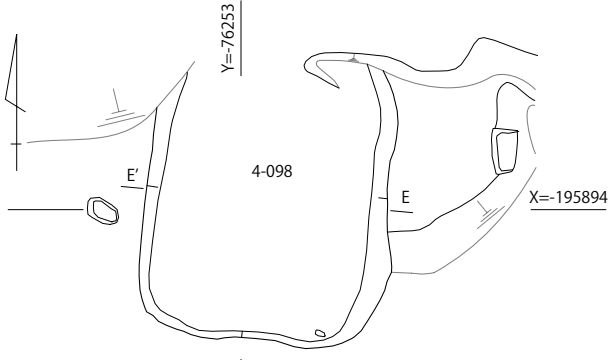
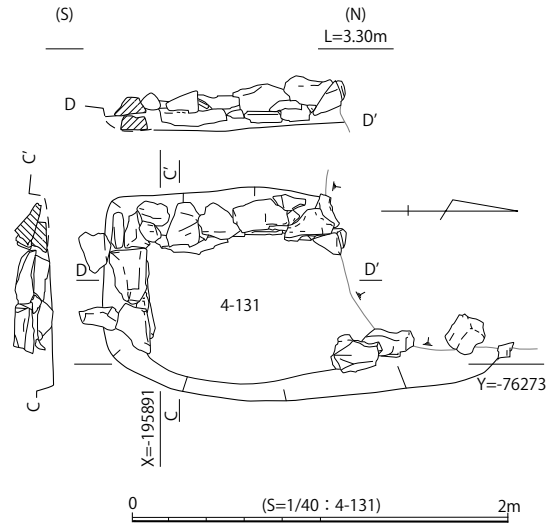
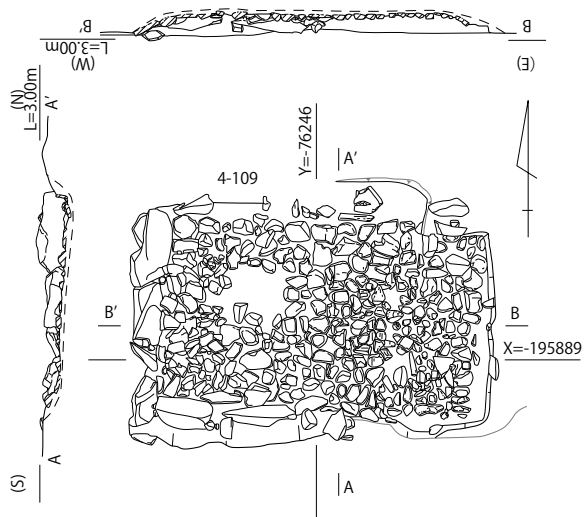


図 115 3・4区 第4-1遺構面 検出遺構(4)



3-120土坑 (図117・118・172・183・187、図版38・78・88・94・98)

3区の東端付近で検出した大型の土坑で、西側の上面を3-123竪穴遺構に、東側の上面を攪乱により削平される。検出面での平面形状は南北に長い隅丸の長方形で、規模は長さ4.60m、幅2.10mで、深さは残りの良い箇所で1.10mを測るが、本来は2.00m以上であったと想定できる。断面形状は船底状であるが、底は北側が一段浅くなっている。遺物は中国製磁器、肥前系磁器(1122~1128)、肥前系陶器(1129・1130・1132・1134)、瀬戸美濃系陶器(1131・1135)、京・信楽系陶器(1133)、備前焼(1136・1137)、土師質土器(1138~1143)、瓦質土器、瓦類(T33)、砥石(S34)、鉄釘、銭貨(M132)などが出土している。

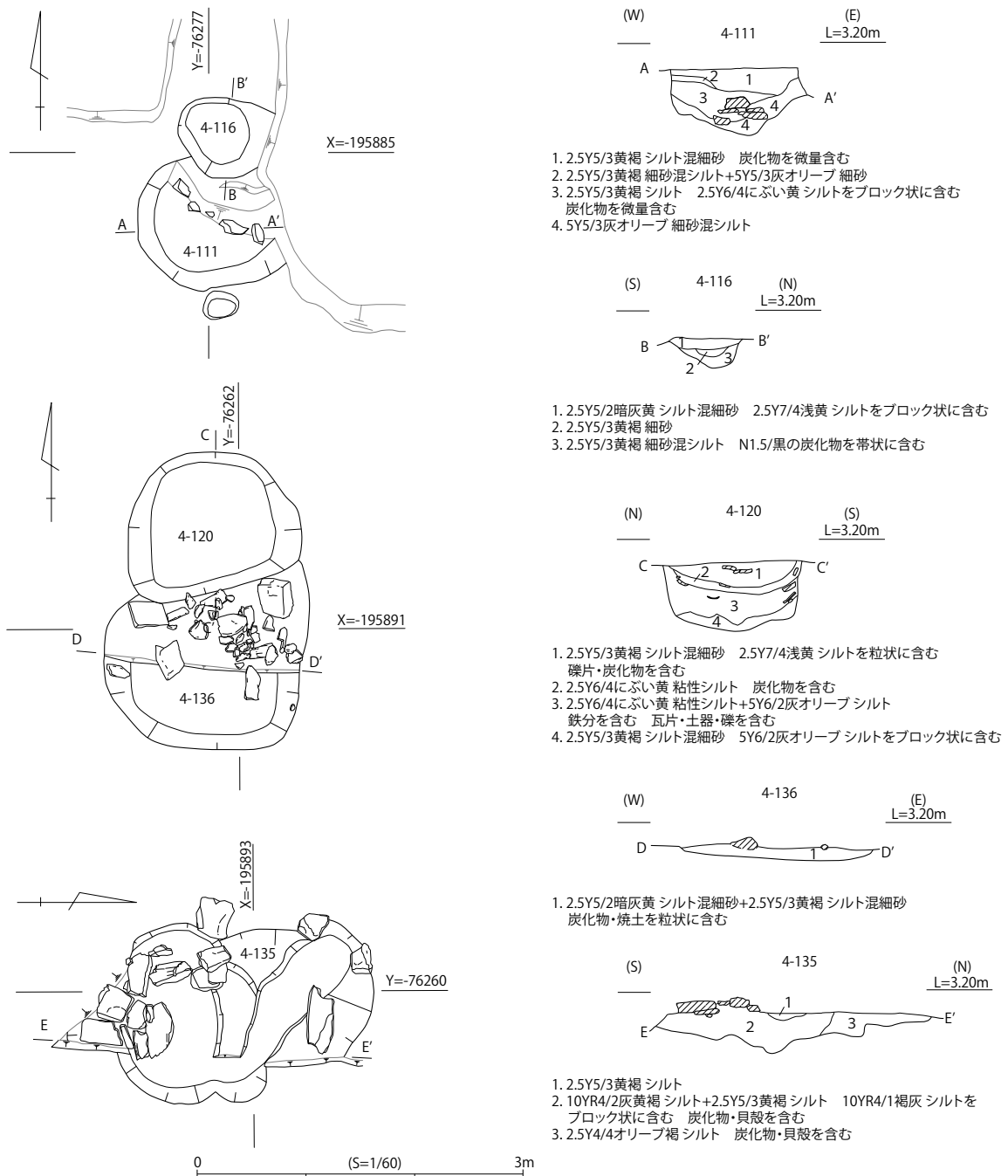
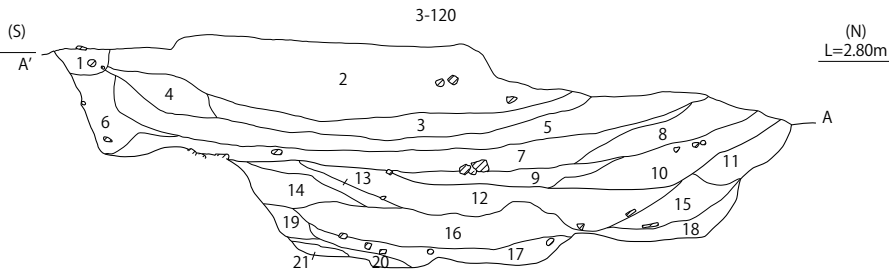
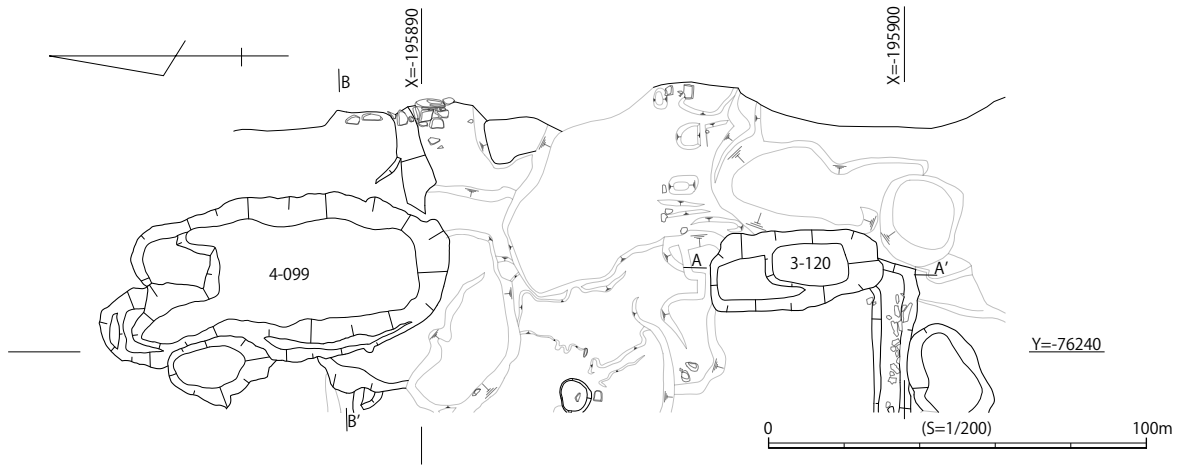
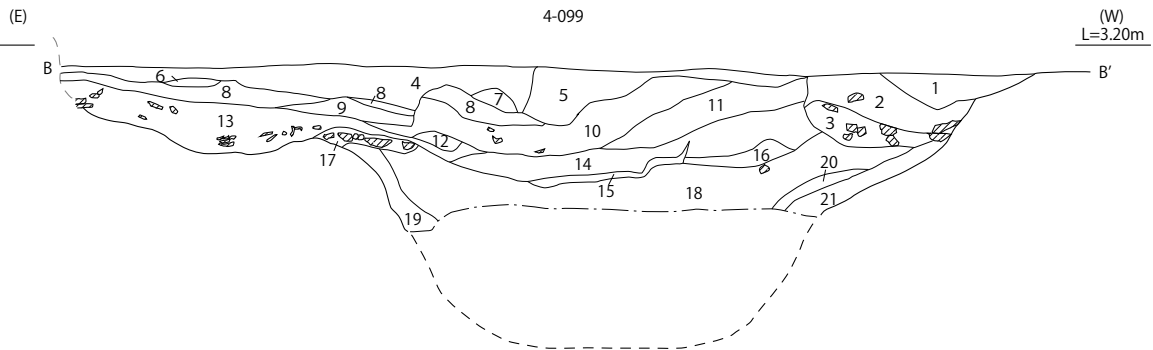


図116 3・4区 第4-1遺構面 検出遺構(5)



- |  |  |
|--|--|
| <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 2.5Y4/4オリーブ褐シルト 漆喰・瓦片・礫を含む</li> <li>2. 2.5Y5/4黄褐シルト 鉄分含む 2.5Y7/3浅黄粘土をブロック状に含む<br/>炭化物・焼土・礫・瓦片を含む</li> <li>3. 2.5Y5/3黄褐シルト 2.5Y7/3浅黄粘土を粒状に含む 炭化物・礫・瓦片を<br/>疎らに含む</li> <li>4. 2.5Y5/4黄褐シルト 2.5Y7/3浅黄粘土をブロック状に含む<br/>炭化物を微量含む</li> <li>5. 5Y5/2灰オリーブシルト 鉄分を多く含む 2.5Y7/3浅黄粘土を<br/>ブロック状に含む</li> <li>6. 2.5Y5/4黄褐シルト 2.5Y7/3浅黄粘土をブロック状に含む<br/>φ5~10cmの礫を含む 炭化物を微量含む</li> <li>7. 5Y5/2灰オリーブ細砂混シルト 鉄分少量含む 礫含む</li> <li>8. 5Y5/2灰オリーブ細砂混シルト 鉄分・マンガン粒を多く含む</li> <li>9. 2.5Y4/2暗灰黄細砂混シルト 2.5Y7/3浅黄粘土をブロック状に含む<br/>φ10cmの礫・炭化物を含む</li> <li>10. 2.5Y5/2暗灰黄細砂混シルト 2.5Y7/3浅黄粘土をブロック状に含む<br/>φ10cm大の礫・炭化物を含む</li> </ol> | <ol style="list-style-type: none"> <li>11. 5Y5/2灰オリーブ細砂混シルト 炭化物を含む</li> <li>12. 5Y4/2灰オリーブ細砂混シルト 2.5Y7/3浅黄粘土をブロック状に含む<br/>炭化物・焼土を含む</li> <li>13. 5Y5/3灰オリーブ細砂混シルト 2.5Y7/3浅黄粘土をブロック状に含む<br/>鉄分少量含む</li> <li>14. 5Y5/3灰オリーブ+10YR5/6黄褐細砂混シルト 鉄分を含む</li> <li>15. 5Y5/2灰オリーブ細砂混シルト 2.5Y7/3浅黄粘土をブロック状に含む<br/>瓦含む</li> <li>16. 2.5Y4/4オリーブ褐+5Y4/2灰オリーブ細砂混シルト 2.5Y7/3浅黄粘土を<br/>ブロック状に含む</li> <li>17. 2.5Y4/4オリーブ褐細砂混シルト 5Y5/1灰粘土を含む 炭化物・礫を含む</li> <li>18. 5Y5/2灰オリーブ細砂+5Y5/2灰オリーブ細砂混シルト</li> <li>19. 5Y5/3灰オリーブ細砂+5Y5/2灰オリーブ細砂混シルト</li> <li>20. 2.5Y5/2黄褐細砂</li> <li>21. 2.5Y5/2黄褐細砂+2.5Y7/3浅黄粘土(鉄分を含む)<br/>炭化物・焼土を多く含む</li> </ol> |
|--|--|



- |   |  |
|---|--|
| <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 2.5Y5/4黄褐シルト混細砂 2.5Y7/4浅黄粘性シルトを粒状に含む<br/>φ3~5cmの円礫を含む</li> <li>2. 2.5Y6/2灰黄粘性シルト(鉄分を含む)+10YR5/4にぶい黄褐細砂<br/>炭化物を微量含む</li> <li>3. 2.5Y5/3黄褐シルト 片岩を非常に多く含む</li> <li>4. 2.5Y5/3黄褐シルト混細砂 2.5Y5/4黄褐シルト混細砂を疎らに含む<br/>炭化物を少量含む</li> <li>5. 2.5Y5/4黄褐シルト混細砂 2.5Y7/4浅黄粘性シルトを粒状に含む<br/>φ3~5cmの円礫を含む</li> <li>6. 2.5Y6/2灰黄粘性シルト 鉄分を含む</li> <li>7. 2.5Y5/4黄褐シルト混細砂 2.5Y7/6明黄褐シルトをブロック状に含む</li> <li>8. 2.5Y5/3黄褐・10YR5/4にぶい黄褐シルト 極少量の炭化物を含む</li> <li>9. 2.5Y4/4オリーブ褐シルト混細砂</li> <li>10. 2.5Y5/4黄褐・2.5Y6/3にぶい黄シルト混細砂 瓦片・片岩を含む</li> </ol> | <ol style="list-style-type: none"> <li>11. 2.5Y5/4黄褐シルト混細砂 φ1~3mmの礫・瓦片を含む 炭化物を少量含む</li> <li>12. 10YR7/6明黄褐シルト 2.5Y5/4黄褐シルト混細砂をブロック状に多く含む</li> <li>13. 2.5Y4/2暗灰黄シルト 下位に瓦片を多く含む 炭化物を含む</li> <li>14. 2.5Y4/3オリーブ褐細砂混シルト 2.5Y6/4にぶい黄粘性シルトを<br/>粒状に含む</li> <li>15. N2/黒シルト(炭化物)+2.5Y5/2暗灰黄シルト</li> <li>16. 2.5Y5/3黄褐細砂混シルト 2.5Y6/4にぶい黄粘性シルトを粒状に含む</li> <li>17. 2.5Y5/4黄褐細砂混シルト 10cm程度の礫を多く含む</li> <li>18. 2.5Y5/2暗灰黄細砂混シルト 炭化物を少量含む</li> <li>19. 2.5Y5/3黄褐細砂混シルト</li> <li>20. 2.5Y5/1黄褐シルト混細砂 炭化物を含む</li> <li>21. 2.5Y5/4黄褐細砂 2.5Y6/4にぶい黄シルトをブロック状に含む</li> </ol> |
|---|--|

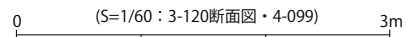


図117 3・4区 第4-1遺構面 検出遺構(6)

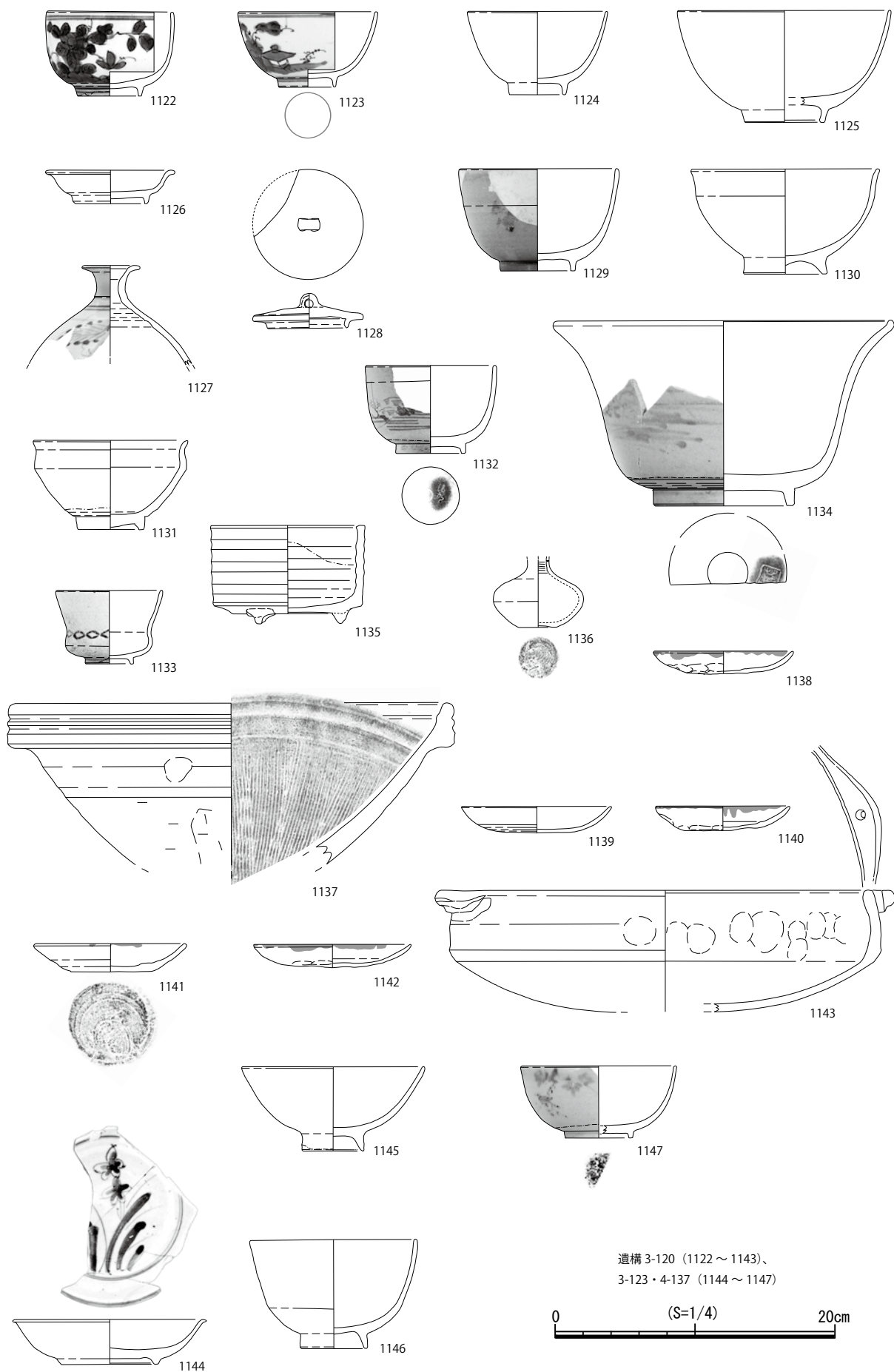


图 118 3・4区 第4-1遺構面 遺構出土土器(1)

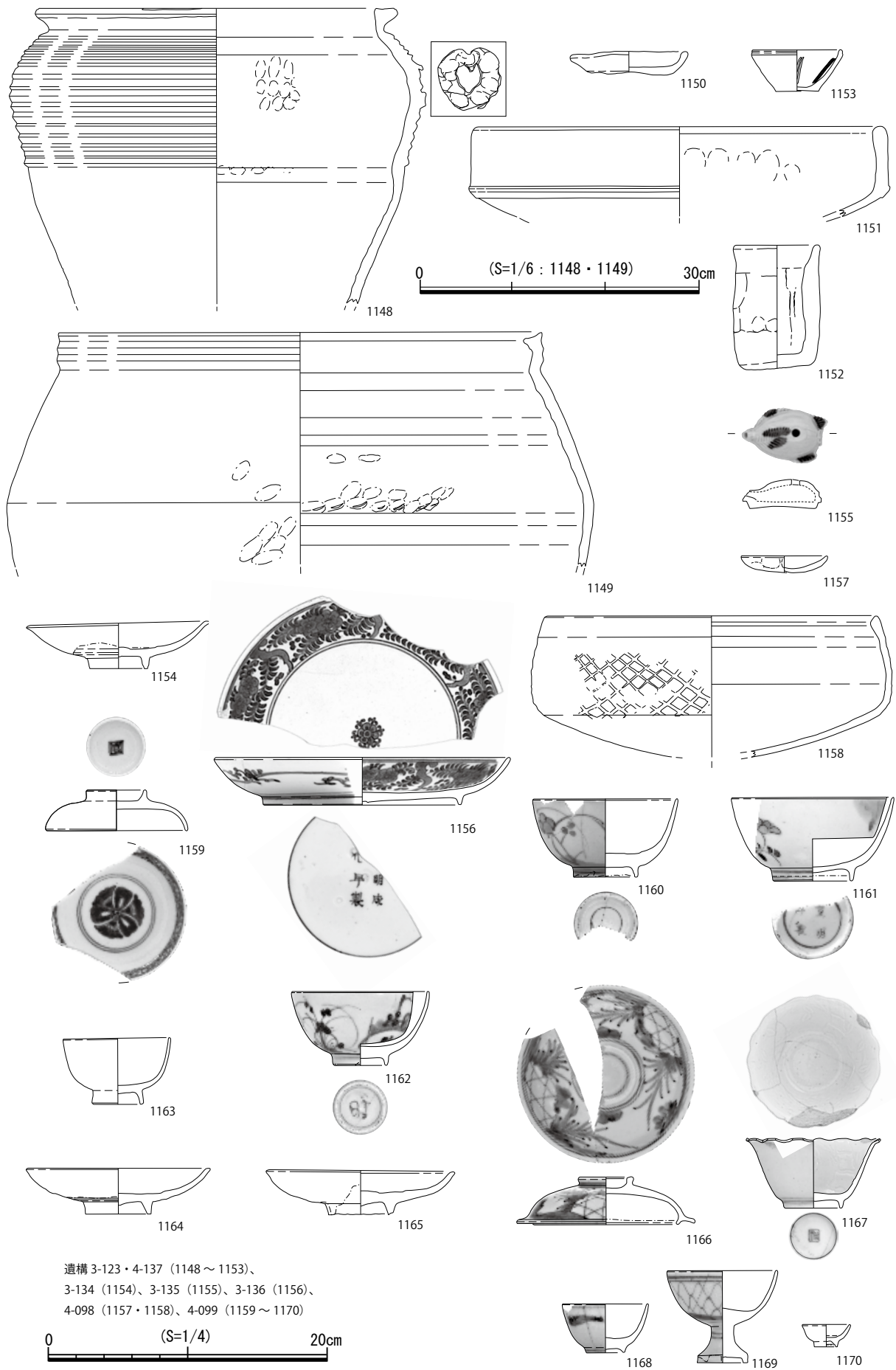


图 119 3·4区 第4-1遺構面 遺構出土土器(2)

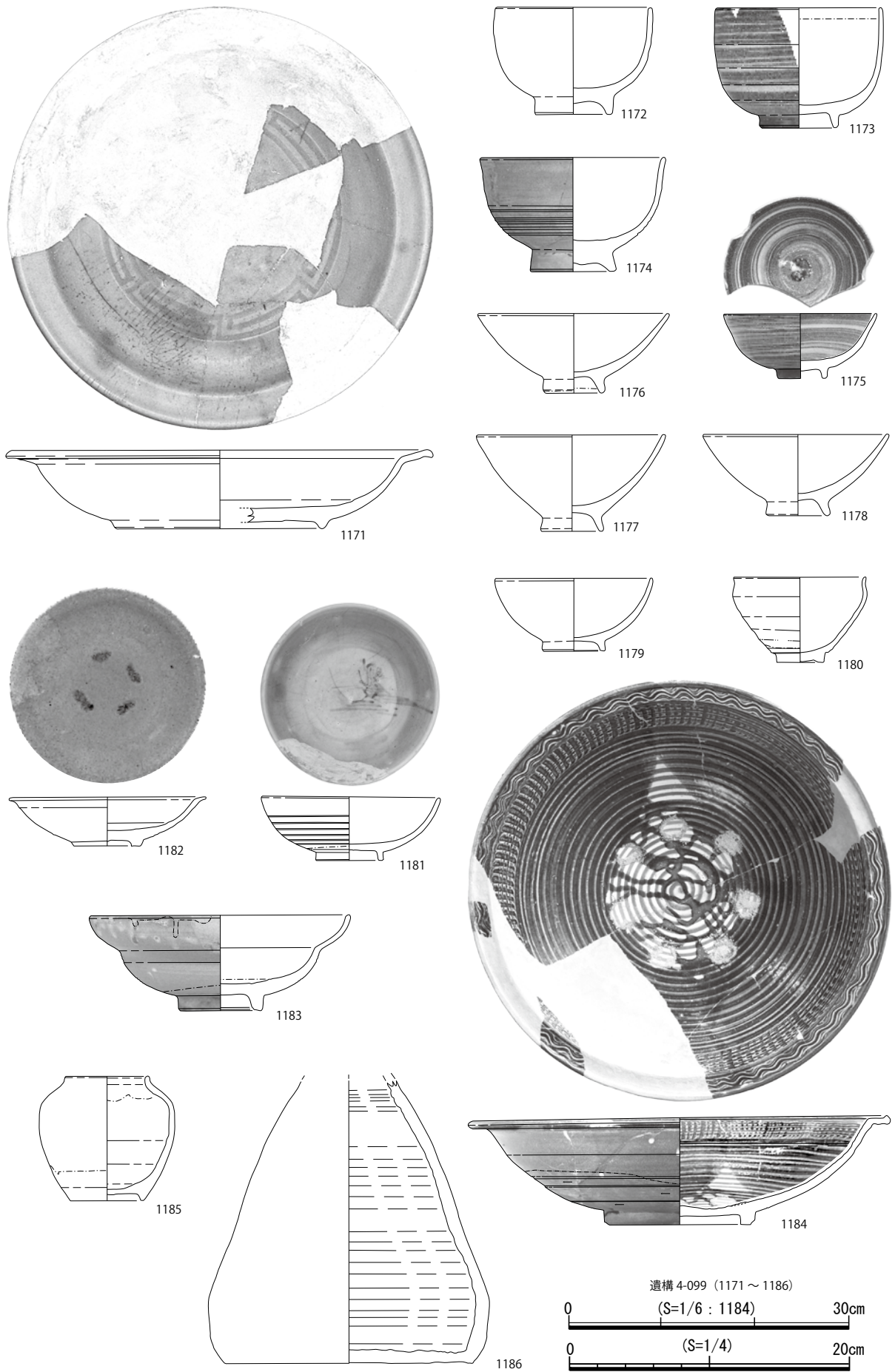
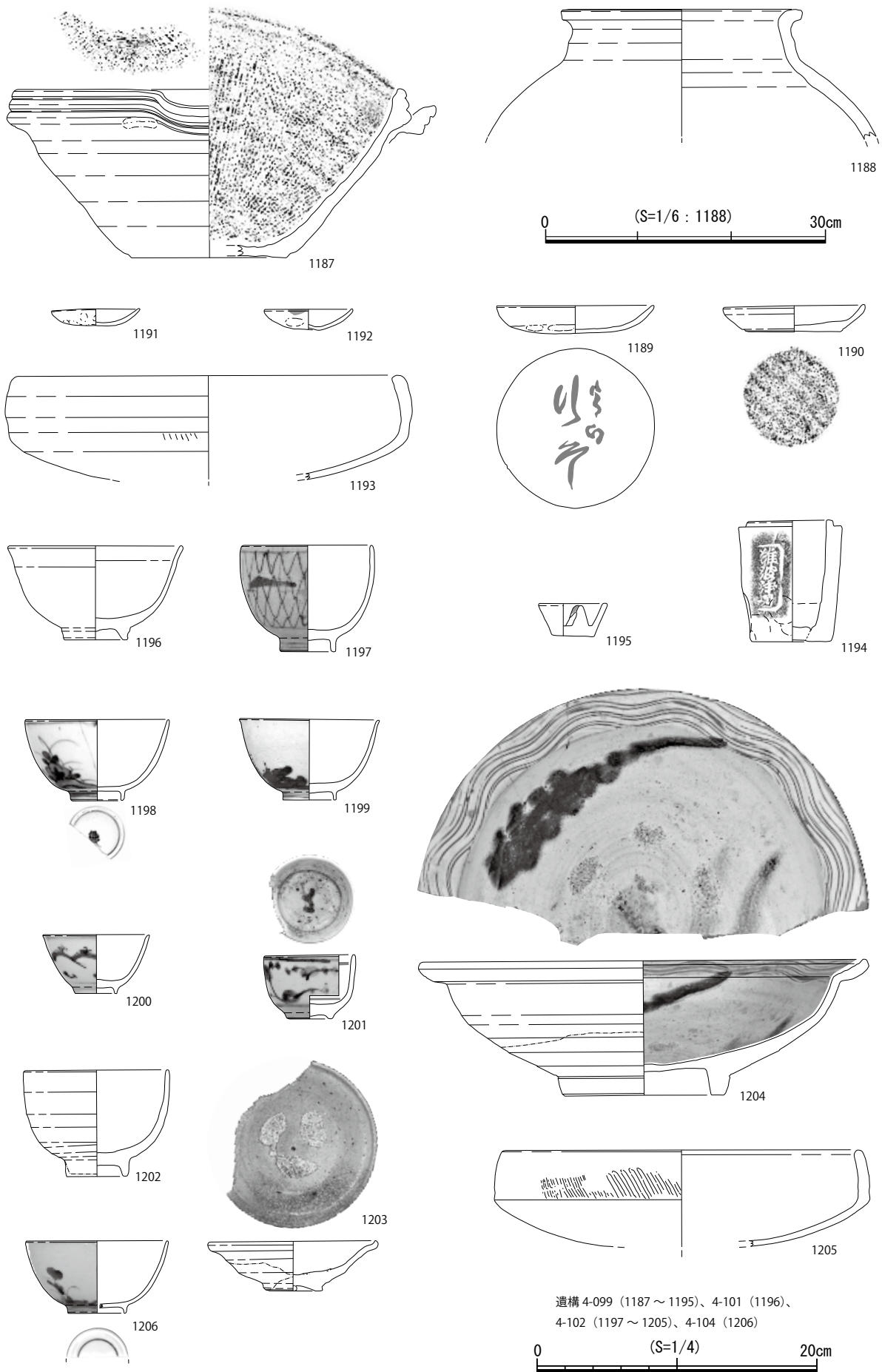


图 120 3·4区 第4-1遺構面 遺構出土土器(3)



遺構 4-099 (1187 ~ 1195)、4-101 (1196)、  
4-102 (1197 ~ 1205)、4-104 (1206)

図 121 3・4区 第4-1遺構面 遺構出土土器 (4)



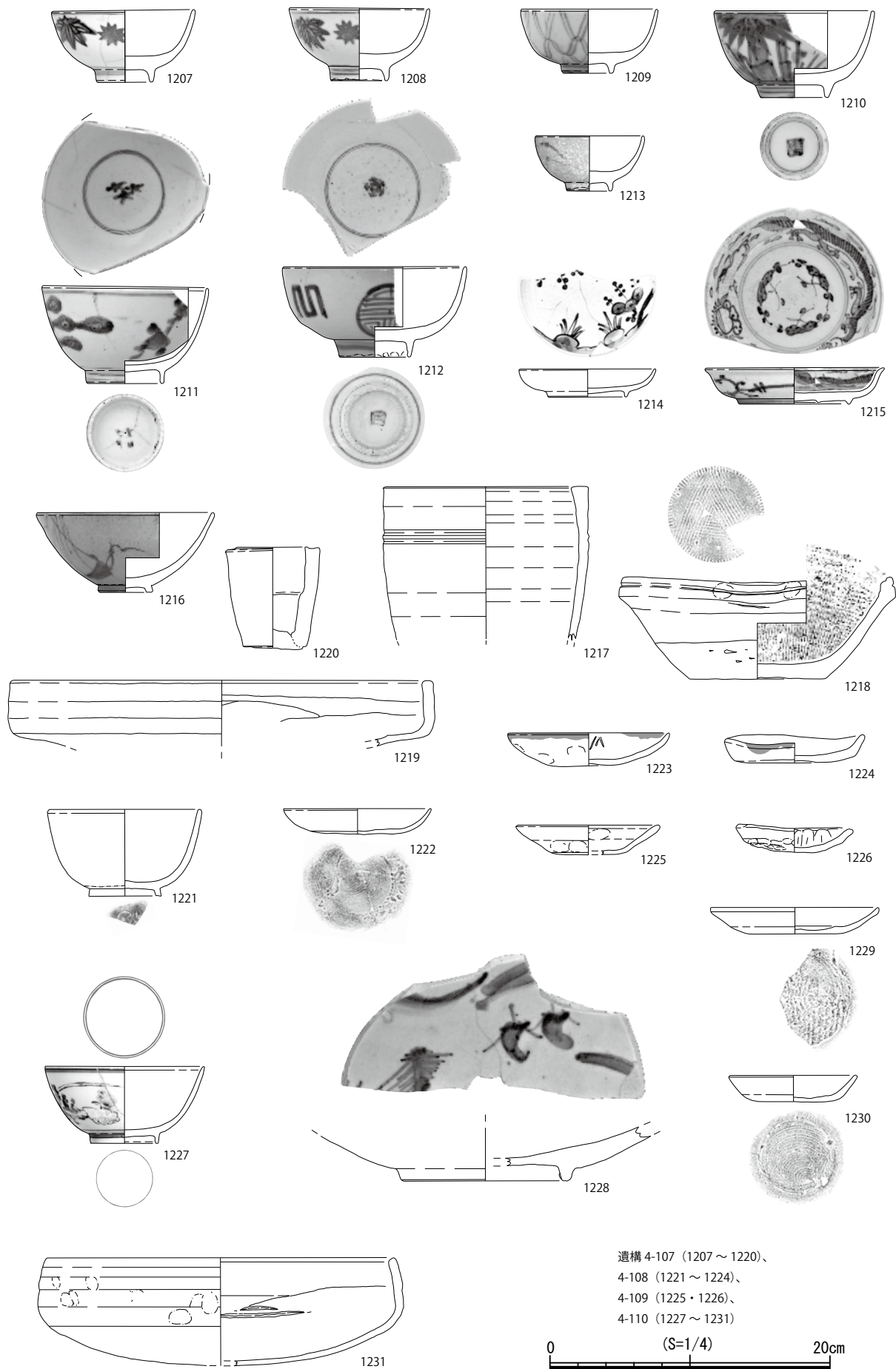


图 122 3·4区 第4-1 遺構面 遺構出土土器 (5)



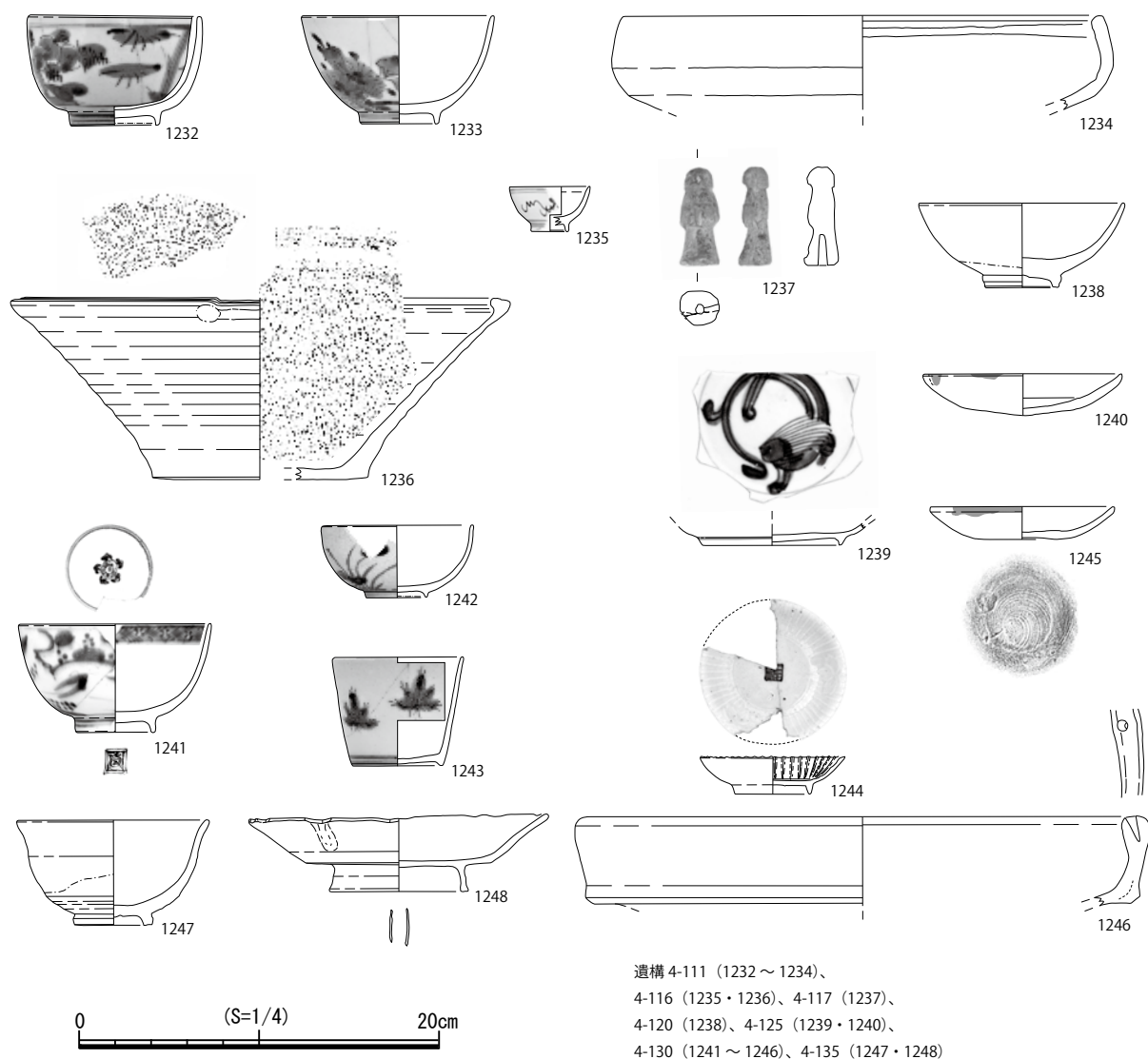


図 123 3・4区 第4-1遺構面 遺構出土土器 (6)

4-099土坑 (図117・119~121・172・173・175・183・186・190、図版38・79・80・88・90・  
 94・96・100)

4区の東端付近で検出した大型の土坑で、北側の上部が攪乱により削平を受けていたため、北半分の掘削は第5遺構面でおこなっている。東側に浅いテラス状の部分があり、本来の土坑東側の上端は調査区域外となることから、全容は明らかでない。また、図示している東側の上端は段落ちする内側の肩部となっている。推定される全体の規模は南北9.50m以上、東西7.80m以上、深さは最高で2.20mを測る。底は北から南に徐々に下がっている。多種多様の遺物が多量に出土しており、屋敷境に掘削された廃棄土坑であると考えられる。遺物には肥前系磁器 (1159~1171)、肥前系陶器 (1172~1179・1181~1185)、瀬戸美濃系陶器 (1180)、備前焼 (1186・1187)、丹波焼 (1188)、土師質土器 (1189~1195)、瓦質土器、瓦類 (T28・T61・T103)、砥石 (S36・S37)、鉄製工具 (M62)、銅製火鋏 (M65)、煙管 (M94)、木製品の箸 (W30~W32)・下駄歯 (W33)・篋 (W34) などが出土している。

## 6 第4-2遺構面の遺構（図124・170・188、図版25・26・86・98）

17世紀代の遺構面であると考えられる。検出した遺構には柵、溝、井戸、石組櫓、土坑などがある。第4-2遺構面で検出した遺構については、明らかに上面の掘残しもあるが、全体的にみても1・2区の第4-2遺構面に比べ、やや新しい傾向がみられる。遺構検出時に第4-2遺構面の上面から出土した遺物には、肥前系磁器（1631）、肥前系陶器（1632）、瀬戸美濃系陶器（1633）、備前焼（1634）、土師質土器（1635・1636）、銭貨（M157）などがある。

### 礎石建物3-B

3区の中央北寄り、第3遺構面の礎石建物3-Aの下位において建物礎石と考えられる石列を検出しているが、攪乱による削平が著しく明確なプランを想定することができなかった。



写真17 礎石建物3-B（北から）

### 柵4-A・4-B、4-214溝（図125、図版38・39）

柵4-A・4-Bと4-214溝は4区の西寄りで検出した屋敷境に係るものである。

柵4-A・4-Bは掘立柱構造で、正方位で約1.00mの間隔を空けて南北方向に平行に伸びることから、対になって一連のものとも考えたが、柱間が異なることから別個のものと判断した。ただ、前後関係は明らかでない。第4-1遺構面の4-121石組溝の下部で検出したもので、北側は調査区域外になり、南側は攪乱により削平される。北側部分については、攪乱が覆っていたことから、第4-2遺構面では調査対象としておらず、第5-1遺構面で柱穴の下部を辛うじて検出した。確認した長さは柵4-Aで15.20m、柵4-Bで13.40mである。柱間は1.40～1.60mであるが、柱間の中ほどには小規模な柱穴があり、柵を構成する一連のものと判断できる。柱穴の平面形状は楕円形を呈するものが多く、規模は0.35～0.70mで、深さは残りの良いもので0.50mを測る。また、柱間の中ほどの柱穴は、平面形状が円形または楕円形で、規模は0.20～0.25mで、深さは残りの良いもので0.35mを測る。柱穴の多くは、底面に20～50cmの扁平な結晶片岩や砂岩が据えられていた。石の上面のレベルは一定でないことから、柵を構築する際の柱の長さも一様でなかったことが窺える。柱穴には柱痕が確認できるものはなく、すべて廃棄時に抜き取られていると考えられる。

遺物はいくつかの柱穴で土器や瓦の破片、鉄釘などが出土している。柵4-Aを構成する柱穴では、4-212柱穴の上面で小刀（M49）、4-230柱穴からは備前焼（1342）が出土している（図132・186、図版96）。柵4-Bを構成する柱穴では、4-239柱穴から肥前系陶器（1343）が出土している（図132）。

4-214溝は柵の西側に沿って南北に伸び、南側と・西側の肩部が攪乱により削平される。確認した長さは7.00mで、柵に沿って延々と伸びるものではないが、位置関係から屋敷境に伴うものと判断した。溝の幅は1.70m、深さ0.65mで、断面形状は深い船底状を呈する。遺物は中国製磁器（1327）、肥前系磁器、肥前系陶器（1328～1333）、瀬戸美濃系陶器、備前焼、土師質土器（1334～1338）、瓦類、鉄釘などが出土している（図132、図版82）。

#### 柵4-C (図126、図版39)

4区の東端で検出した掘立柱構造の柵で、正方位で南北方向に伸びる。6基の柱穴を検出しているが、柱穴の一部が確認できた程度で、大部分は調査区域外となる。市振興財団の調査で確認している屋敷境の石垣の下部に位置し、同様に屋敷境に係る遺構で、柵4-A・4-Bとともに、一つの屋敷地を画するものであると判断できる。柱間は約1.50mで、延長7.50mを測る。柱穴の規模は、断面などから上面で0.60～1.00mあり、深さは0.35～0.70mを測る。いくつかの柱穴の底面には30～40cmの扁平な石を据えているが、石の上の高さは一様でない。遺物は柱穴から土器や瓦の破片が出土している。

#### 3-336井戸 (図126、図版39)

3区の東側で検出した井戸である。検出面での掘形の平面形状は楕円形で、長さ4.10m、幅3.65mである。深さは2.00m(標高0.35m)まで確認しているが、それより下位は不明である。井戸側の構造は明らかでないが、直径約1.40mの範囲で直に落ちる痕跡が確認でき、井戸瓦も出土していないことから、桶であった可能性がある。遺物は中国製磁器が出土している。

#### 4-151井戸 (図126、図版39)

4区の東寄りで検出した井戸で、掘形の肩口を攪乱などにより削平される。検出面での平面形状は楕円形を呈し、規模は長さ2.50m、幅1.90mを測る。また、下位での掘形は、直径が1.35mの円形となっている。井戸側は上位で痕跡が確認できる程度で、構造は明らかでなかったが、下位での断割りにより桶積みであること明らかになった。桶は直径0.80m、高さ1.05m、上下の桶の重ね合わせは約0.15mである。底は標高-1.40mまで確認したが、それ以下の構造については明らかでない。遺物は、肥前系磁器、丹波焼、土師質土器、瓦類、不明銅製品などが出土している。

#### 4-153井戸 (図127、図版39)

4区の東側で検出した井戸である。検出面での平面形状は円形を呈し、直径1.50mを測る。井戸側は上位では構造が明らかでなかったが、下位での断割りにより、直径0.75m、高さ0.75mの桶を検出した。確認した桶は一つのみであるが、痕跡などから上位まで桶積みであったと考えられる。底は標高-1.05mまで確認したが、それ以下の構造については明らかでない。遺物は井戸側内から土師質土器が出土している。

#### 4-154石組樹 (図127、図版40)

4区の中央付近で検出した石組樹で、北側の壁が攪乱により削平される。掘形は隅丸方形で、北側は石組の破壊時に変形していると考えられ、規模は東西1.95m、南北約2.00mを測る。石組は正方位で築かれており、内法は東西1.20mで、南北も約1.20mの方形であったと考えられる。石組の石材は主に結晶片岩で、基底部は35～60cmの大振り of 石を縦置きし、その上は10～20cmの石を横置きしている。確認した深さは0.55mである。遺物は瀬戸美濃系陶器(1249)、備前焼(1250)、土師質土器(1251～1258)、鉄鎌(M55)、不明銅製品などのほか動物遺存体(貝類)が出土している。

#### 4-141土坑 (図127、図版40)

4区の東寄りで検出した土坑で、北側が上面の遺構により削平される。検出面での平面形状は楕円形で、規模は長さ2.45m、幅1.80m、深さ1.10mを測る。断面形状は逆台形で、底部には直

径1.00mの円形の窪みが確認できた。この状況から埋桶遺構であったと考えられ、断面土層に桶の痕跡がないことから、桶が抜き取られて圧痕のみが残存したものと考えられる。遺物は土師質土器、備前焼、土錘、瓦などが出土するが量は少ない。

#### 4-158土坑（図127・129・130・191～197、図版40・41・81・82・100～103）

4区の東寄りで検出した土坑で、南側の肩部を上面の遺構によって削平される。平面形状は楕円形で、規模は長さ2.00m以上、幅1.90m、深さ2.25mを測る。壁はほぼ直に落ち、一部オーバーハングする箇所もある。底面には0.30m×0.40mで、深さ0.45mのピットが掘削されていた。遺物は多量に出土しており、塵芥を処理した廃棄土坑であると考えられる。遺物には深く掘削されていたことで、水分が保たれたこともあって豊富な木製品がある。

出土した遺物には中国製磁器（1275）、肥前系磁器（1263～1274）、肥前系陶器（1276・1279～1284）、瀬戸美濃系陶器（1277・1278）、備前焼（1285）、土師質土器（1286～1288）、瓦質土器（1289）、瓦類、鉄釘、煙管、木製品の荷札（W35）・木簡（W36・W38）・形代（W37）・漆器椀（W39～W44）・漆器盆（W45）・漆器箱（W46）・杓子（W47）・茶筌（W48・W49）・蓋（W50・W51）・曲物（W52～W58）・折敷の部材（W59・W60）・桶の部材（W61～W68）・箸（W69～W108）・火付棒（W109～W116）・楊枝（W117～W119）・下駄（W120～W122）・工具柄（W123）・篋（W124～W129）・刷毛（W130）・漆塗柄（W131）・建築部材または建具部材（W132～W169）・鳥籠（W170）のほか麻縄（W310）、布（W311）、藁、動物遺存体（貝類・魚骨・獣骨）などがある。

#### 4-188・197土坑（図128、図版41）

4区の中央付近で検出した土坑で、4-188土坑と4-197土坑は重複し、4-188土坑の方が新しい。上面の一部を攪乱が覆っていたこともあるが、本来は第4遺構面ないし第3遺構面の遺構であると判断できる。

4-188土坑は平面形状が楕円形を呈し、規模は長さ3.05m、幅2.45mで、深さは約2.50mを測る。4-158土坑のように、井戸状の深い土坑であるが木製品の出土はなく、遺物は上位で礫と一緒に多くの土器類や瓦類が出土しており、とりわけ焼塩壺が多く出土している。遺物には肥前系磁器（1290～1294）、肥前系陶器（1295～1298・1301）、瀬戸美濃系陶器（1299・1304）、京・信楽系陶器（1300・1302）、堺・明石系陶器（1303）、備前焼（1305）、土師質土器（1306～1316）、瓦質土器、瓦類（T39・T74・T111）、鉄釘などが出土している（図130・131、図版82）。

4-197土坑は重複する4-188土坑によって北西側が削平される。旧状は楕円形を呈していたと考えられ、規模は長さ2.80m、幅1.20m以上、深さ0.70mを測る。断面形状は逆台形を呈する。遺物は肥前系磁器（1323・1324）、肥前系陶器、土師質土器（1325）、瓦類、鉄釘などが出土している（図132、図版82）。

#### 4-193土坑（図128・131、図版82）

4区の中央東寄りで検出した土坑である。平面形状は楕円形を呈し、規模は長さ1.20m、幅0.87m、深さ0.60mを測る。上面には10～55cmの礫が並べられていた。遺物は土師質土器（1317～1322）が重なるように出土した。他の遺物には備前焼、瓦などがある。

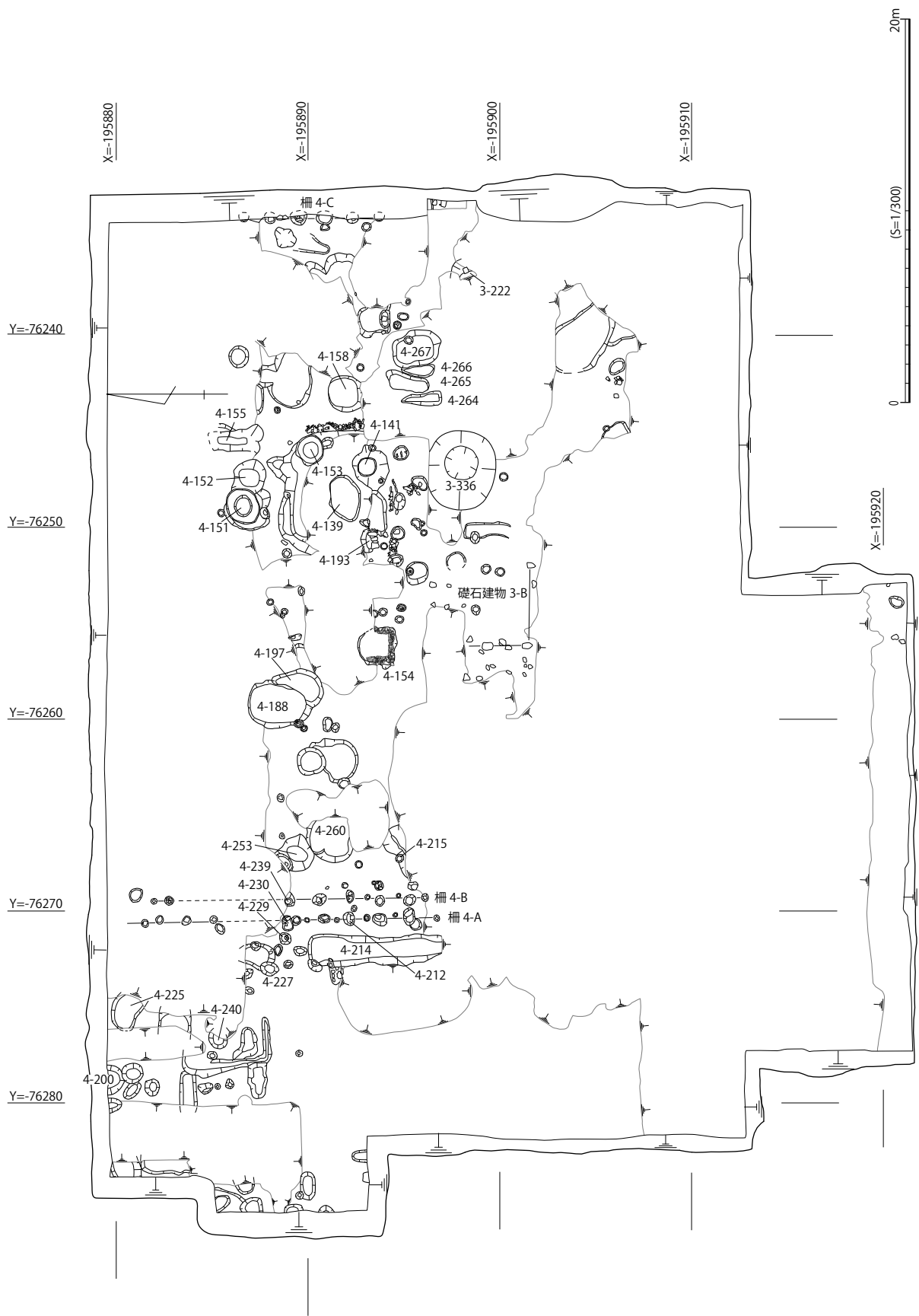
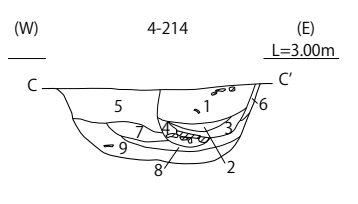
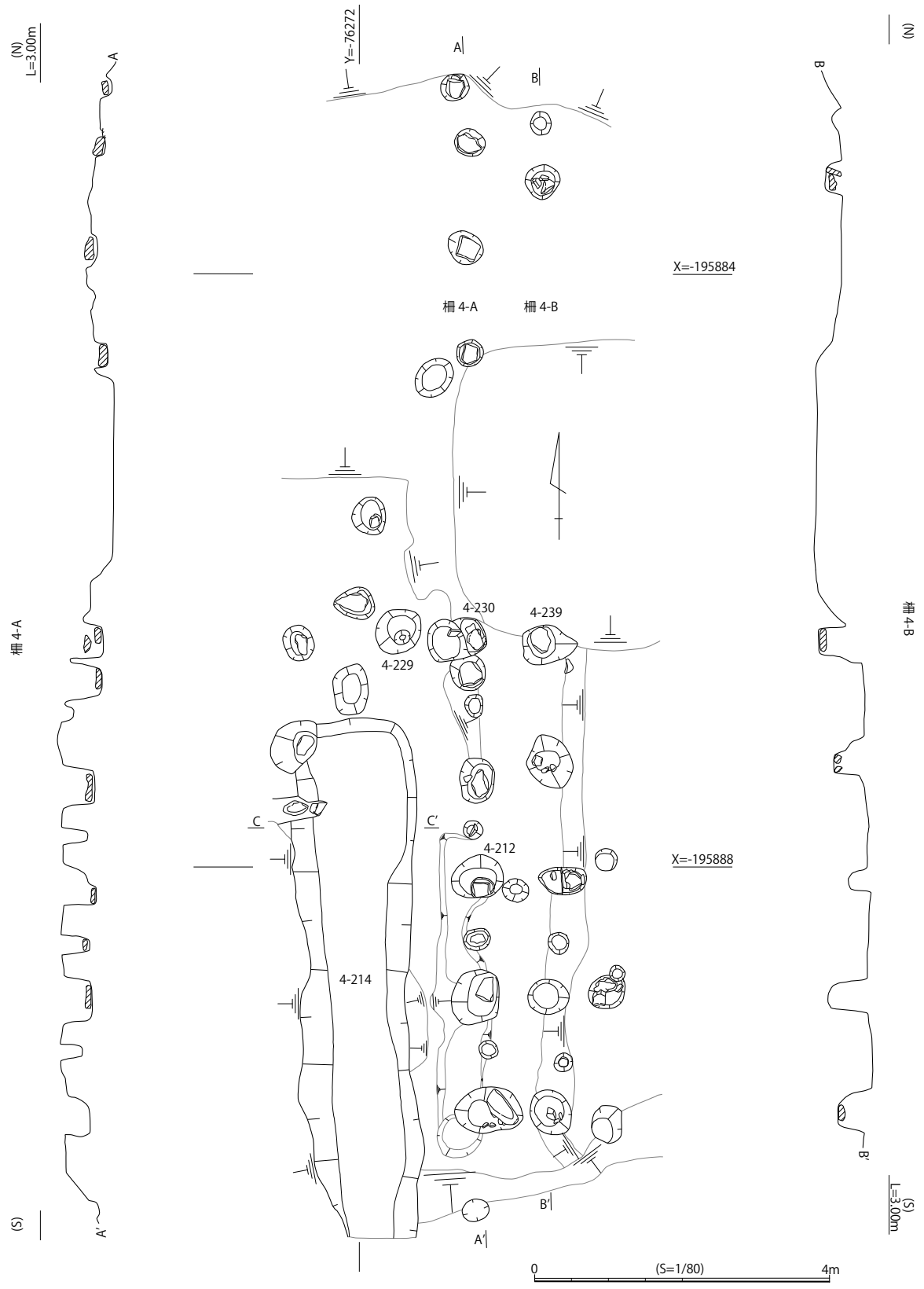


图 124 3・4区 第4-2遺構面 全体図



1. 5Y5/2・5Y5/3灰オリブシルト混細砂 5Y6/2灰オリブ粘性シルトをブロック状に含む炭化物を含む
2. 5Y5/3灰オリブシルト混細砂+2.5Y3/1黒褐シルト(炭化層)
3. 5Y5/1灰粘性シルト 5Y5/3灰オリブ砂を含む
4. 5Y5/3灰オリブ細砂混シルト 瓦片・礫を多く含む 鉄分を含む
5. 2.5Y5/3黄褐シルト混細砂 5Y6/2灰オリブ粘性シルトをブロック状に含む
6. 5Y5/3灰オリブ細砂混シルト 鉄分を含む
7. 2.5Y5/2暗灰黄シルト混細砂 炭化物を帯状に含む
8. 5Y5/3灰オリブ細砂混シルト 鉄分・炭化物を含む
9. 5Y5/3灰オリブ細砂混シルト

図 125 3・4区 第4-2遺構面 検出遺構 (1)

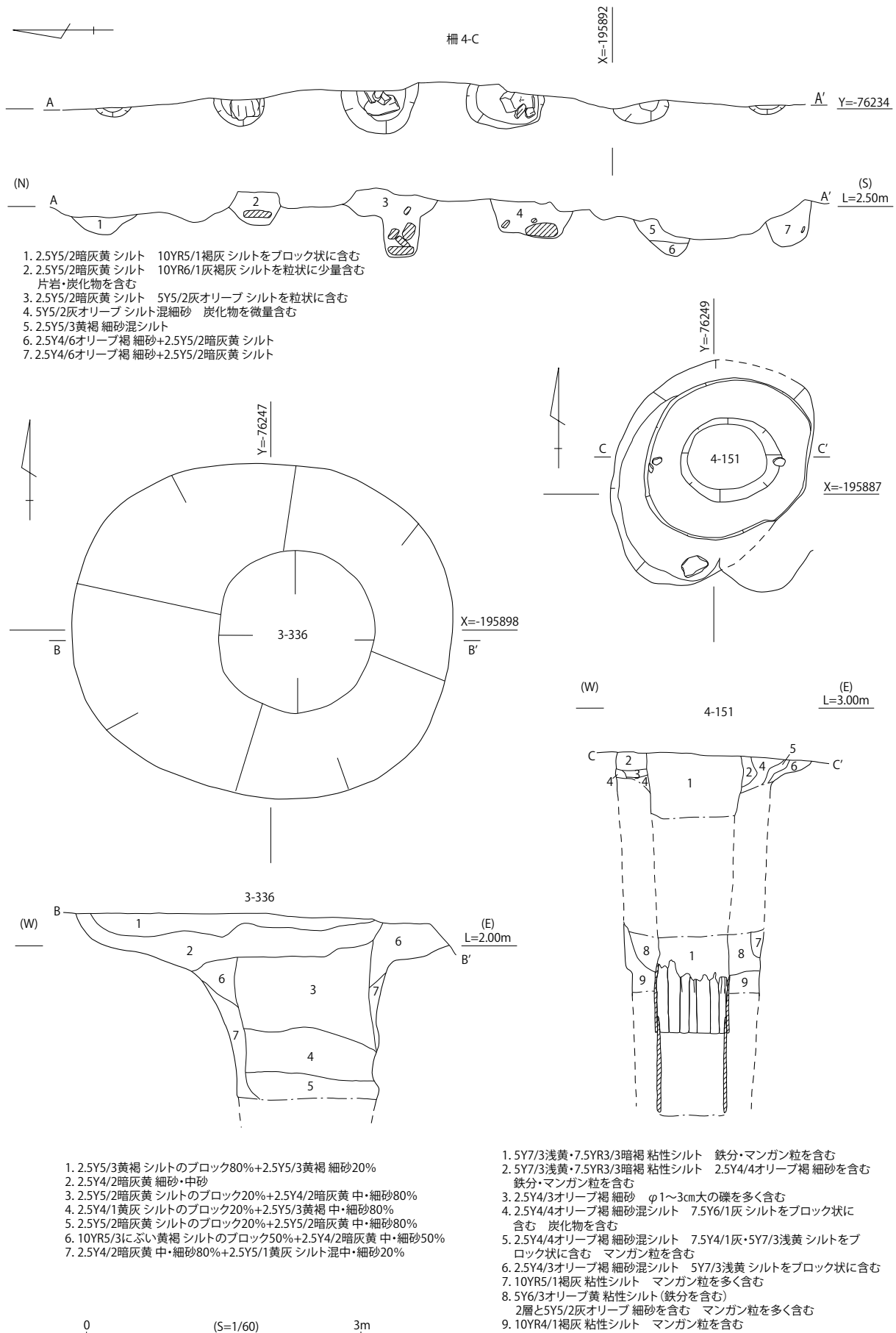
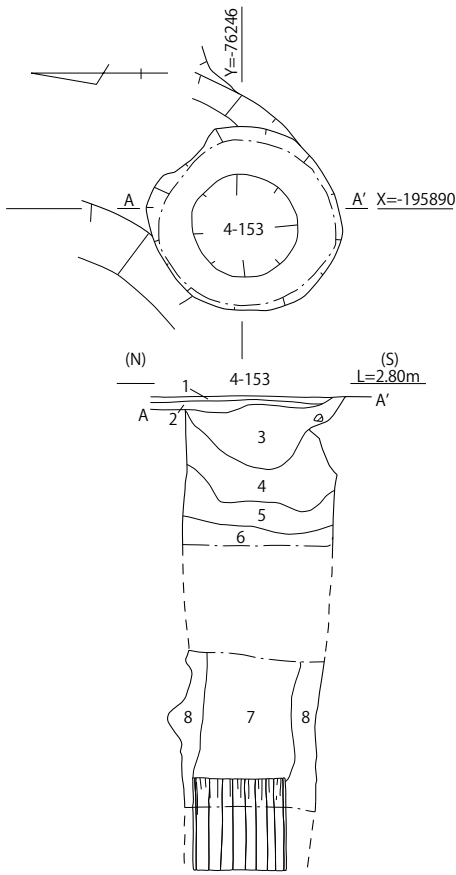
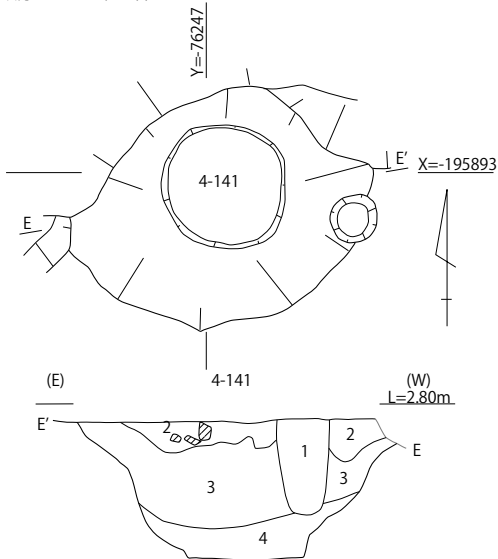


図 126 3・4区 第4-2遺構面 検出遺構(2)



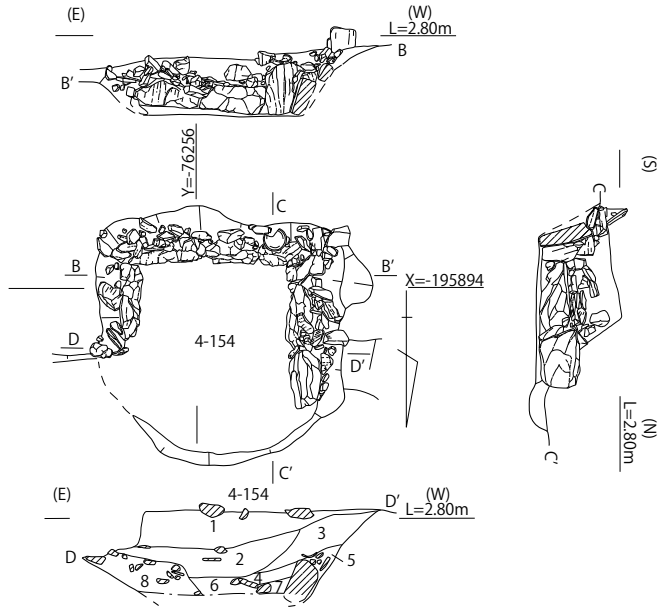


1. 10YR4/1褐灰・2.5Y5/2暗灰黄シルト
2. 5Y5/3灰オリブ 細砂混シルト 鉄分を含む
3. 5Y5/3灰オリブ 細砂 10YR4/1褐灰・5Y6/2灰オリブシルトをブロック状に含む 鉄分を多く含む
4. 5Y5/3灰オリブ 細砂 5Y6/2灰オリブシルトを粒状に多く含む 鉄分を多く含む
5. 5Y5/3灰オリブ 細砂 5Y6/2灰オリブシルトを粒状に含む 鉄分を多く含む
6. 5Y5/3灰オリブ 細砂 5Y6/2灰オリブシルトを粒状に含む
7. 5Y6/2灰オリブ 粘性シルト 5Y5/2灰オリブ 細砂を含む 鉄分・マンガン粒を多く含む
8. 5Y5/2灰オリブ 細砂 5Y6/2灰オリブ 粘性シルトを含む 鉄分・マンガン粒を含む

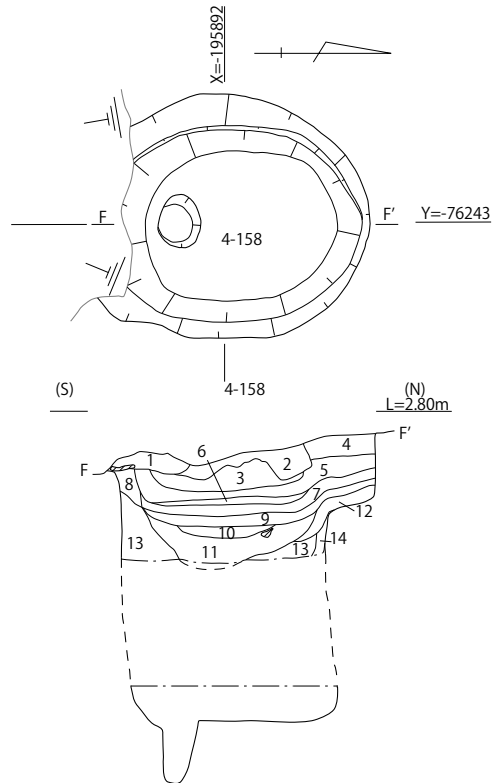


1. 5Y5/3灰オリブ・2.5Y5/3黄褐 細砂混シルト 5Y7/3浅黄シルトを粒状に含む 鉄分を含む
2. 5Y5/3灰オリブ 細砂混シルト+5Y7/3浅黄シルト
3. 5Y5/3灰オリブ・2.5Y5/6黄褐 細砂 底部に4層の砂混入
4. 2.5Y5/2灰オリブ 細砂 5Y7/3浅黄シルトをブロック状に含む

0 (S=1/60) 3m

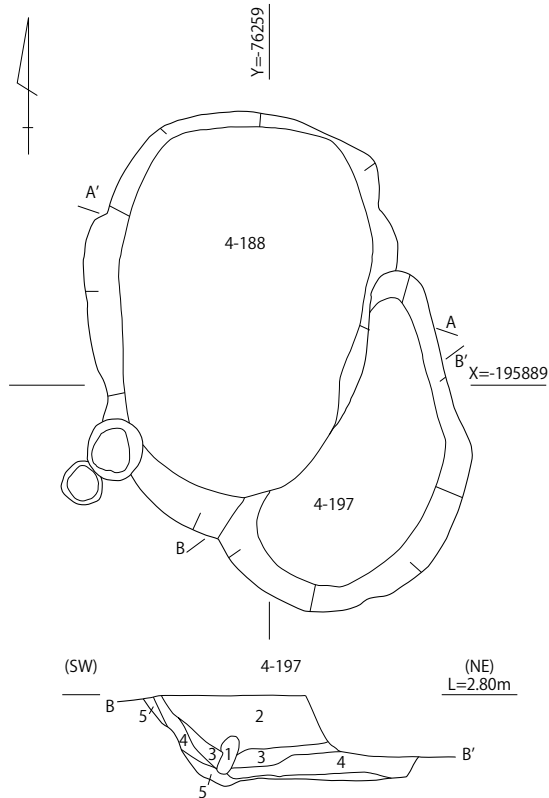


1. 2.5Y6/6明黄褐・2.5Y7/3浅黄・10YR5/1褐灰シルト 2.5Y5/3黄褐 細砂を含む
2. 2.5Y5/3黄褐 細砂混シルト 2.5Y6/2灰黄シルトをブロック状に含む 片岩を含む
3. 2.5Y5/3・2.5Y5/4黄褐 細砂 2.5Y6/2灰黄シルトをブロック状に含む
4. 2.5Y4/3オリブ褐 細砂混シルト 5Y7/3浅黄シルトをブロック状に含む
5. 2.5Y4/4オリブ褐 細砂混シルト 片岩を多く含む
6. 5Y5/2灰オリブ 細砂混シルト 鉄分を含む
7. 2.5Y4/3オリブ褐 細砂混シルト
8. 5Y5/3灰オリブ 細砂混シルト 片岩を多く含む
9. 2.5Y5/3黄褐 細砂混シルト 2.5Y6/4にぶい黄シルトをブロック状に含む

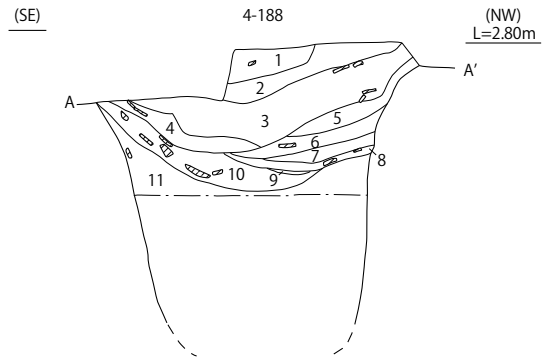


1. 2.5Y4/3オリブ褐シルト混細砂 礫片・炭化物を含む
2. 5Y5/3灰オリブ 細砂+5Y6/3灰オリブシルト 鉄分を含む
3. 5Y5/3灰オリブシルト φ3cmの礫を含む 鉄分を多く含む
4. 5Y5/3灰オリブ 細砂+5Y6/3灰オリブシルト 7.5YR5/6明褐シルト・鉄分を含む
5. 5Y7/4浅黄 粘性シルト マンガン粒・鉄分・φ3~5cmの礫を含む
6. 5Y6/3灰オリブ・10YR6/1褐灰 粘性シルト混細砂 φ3~5cmの礫を含む
7. 5Y5/1灰 粘性シルト混細砂 鉄分を多く含む φ3~5cmの礫を含む
8. 5Y6/3灰オリブ・10YR6/1褐灰 粘性シルト 鉄分を多く含む φ1~3cmの礫を含む
9. 5Y5/3灰オリブ 細砂混シルト φ1cm未満の礫を含む
10. 5Y5/1灰 細砂混シルト 鉄分を少量含む
11. 5Y5/1灰・5Y5/3灰オリブ 細砂混シルト 炭化物を少量含む
12. 5Y5/3灰オリブ 細砂混シルト 鉄分を含む
13. 5Y5/3灰オリブ 細砂 5Y5/3灰オリブ 粘性シルトをブロック状に含む
14. 5Y5/2灰オリブ 細砂混シルト 炭化物を多量に含む

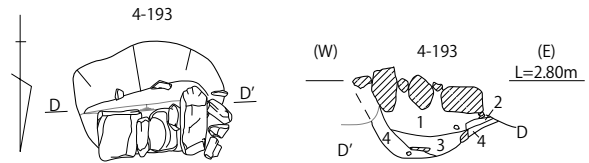
図 127 3・4区 第4-2遺構面 検出遺構(3)



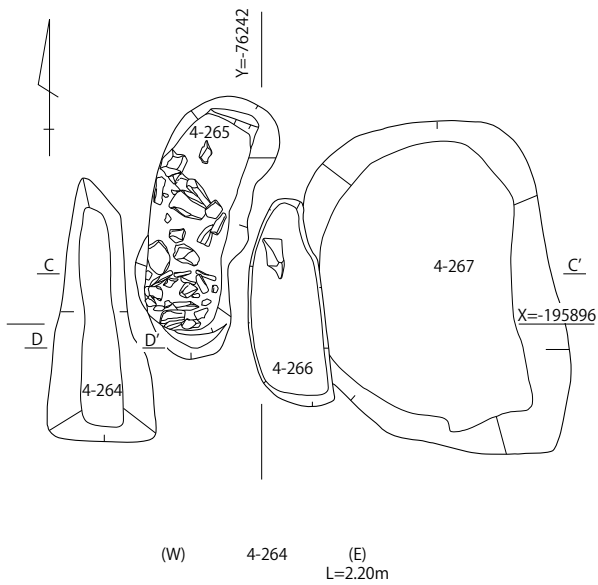
1. 5Y6/4オリーブ黄 シルト混細砂
2. 2.5Y5/4黄褐 シルト混細砂 2.5Y6/4にぶい黄粘性シルトを粒状に含む φ1~2cmの礫を含む
3. 5Y4/2灰オリーブ シルト混細砂 2.5Y6/4にぶい黄粘性シルトを粒状に含む 礫・炭化物を含む
4. 5Y5/3灰オリーブ 細砂混シルト φ3~5cmの礫を含む
5. 5Y5/3灰オリーブ 細砂+5Y5/1灰 シルト



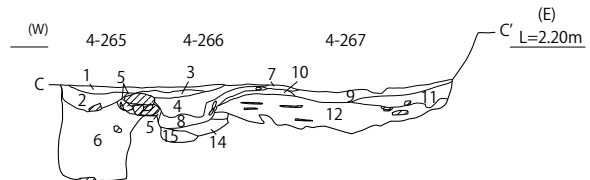
1. 2.5Y5/3黄褐 シルト 5Y7/4淡黄 粘性シルトをブロック状に含む炭化物・焼土を微量含む
2. 2.5Y5/3黄褐 シルト混細砂 φ1~3cmの礫を含む
3. 2.5Y5/2暗灰黄 シルト混細砂 5Y6/2灰オリーブ 粘性シルトを粒状・ブロック状に含む 瓦片・礫片・炭化物を含む
4. 5Y4/2灰オリーブ シルト混細砂 2.5Y6/2灰オリーブ 粘性シルトを粒状・ブロック状に含む 炭化物を多く含む 瓦片を含む
5. 2.5Y5/3黄褐 シルト混細砂 2.5Y7/4浅黄 粘性シルトを疎らに含む炭化物を微量含む
6. 2.5Y6/2暗灰黄 シルト混細砂 2.5Y7/4浅黄 粘性シルトを粒状に含む炭化物を少量含む
7. 2.5Y5/3黄褐 シルト混細砂
8. 5Y4/1灰 細砂混シルト 瓦片を含む
9. 2.5Y6/4にぶい黄 粘性シルト
10. 5Y4/2灰オリーブ シルト 5Y6/4オリーブ黄 粘性シルトを含む 炭化物・瓦片を多く含む
11. 2.5Y5/3黄褐 シルト混細砂 5Y7/4浅黄 粘性シルトをブロック状に含む



1. 5Y5/3灰オリーブ シルト混細砂 5Y6/2灰オリーブシルトを含む 炭化物を含む
2. 2.5Y6/3灰オリーブ 細砂
3. 5Y5/2灰オリーブ シルト混細砂 炭化物を含む
4. 5Y5/3灰オリーブ 細砂混シルト 礫片含む



1. 5Y4/2灰オリーブ シルト+2.5Y5/4黄褐 細砂
2. 5Y4/2灰オリーブ シルト混細砂 鉄分を含む
3. 5Y5/3灰オリーブ 細砂 鉄分を含む
4. 5Y4/2灰オリーブ シルト混細砂 鉄分を含む
5. 5Y4/3灰オリーブ シルト混細砂



1. 5Y5/2灰オリーブ シルト混細砂 鉄分を多く含む
2. 5Y4/2灰オリーブ シルト混細砂 5Y6/2灰オリーブシルトを含む鉄分を含む
3. 5Y5/2・5Y5/3灰オリーブ シルト混細砂 5Y6/2灰オリーブ 粘性シルトをブロック状に含む
4. 5Y4/1灰 シルト 5Y6/2灰オリーブ 粘性シルトをブロック状に含む炭化物・木屑を含む
5. 5Y4/1灰・5Y3/1オリーブ黒 シルト 10~20cmの礫が詰まる
6. 5Y3/1オリーブ黒 シルト混細砂 2層が混じる 木屑・木製品を含む
7. 5Y5/3灰オリーブ シルト混細砂 鉄分を含む
8. 5Y4/2灰オリーブ シルト 10YR2/2黒褐 シルト(木屑)を含む5Y6/2灰オリーブ 粘性シルトをブロック状に含む
9. 5Y5/2灰オリーブ シルト混細砂 5Y6/2灰オリーブ 粘性シルトをブロック状に含む 鉄分を多く含む
10. 5Y5/2灰オリーブ 細砂 鉄分を含む
11. 5Y5/2灰オリーブ・2.5Y5/4黄褐 細砂
12. 5Y5/1灰 シルト混細砂 10YR2/2黒褐 シルト(木屑)を含む板材・炭化物を多く含む
13. 2.5GY6/1オリーブ灰 シルト 鉄分を含む
14. 5Y4/1灰 シルト混細砂+10YR4/2灰黄褐 5Y6/2灰オリーブ粘性シルトをブロック状に含む
15. 5Y6/2灰オリーブ 粘性シルト 5Y4/1灰・10YR4/2灰黄褐 シルトを含む

0 (S=1/60) 3m

図 128 3・4区 第4-2遺構面 検出遺構(4)

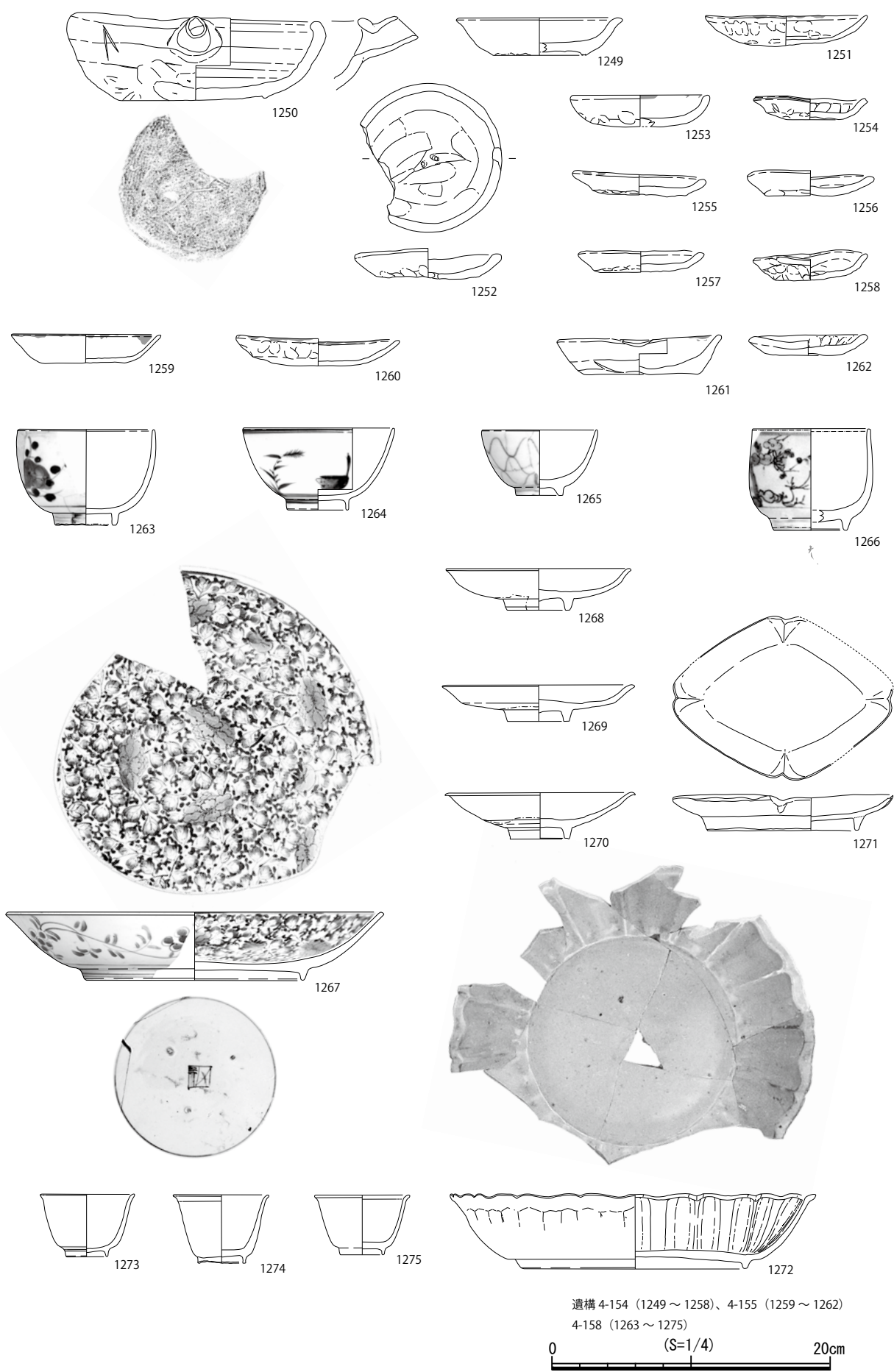


图 129 3·4区 第4-2遺構面 遺構出土土器 (1)

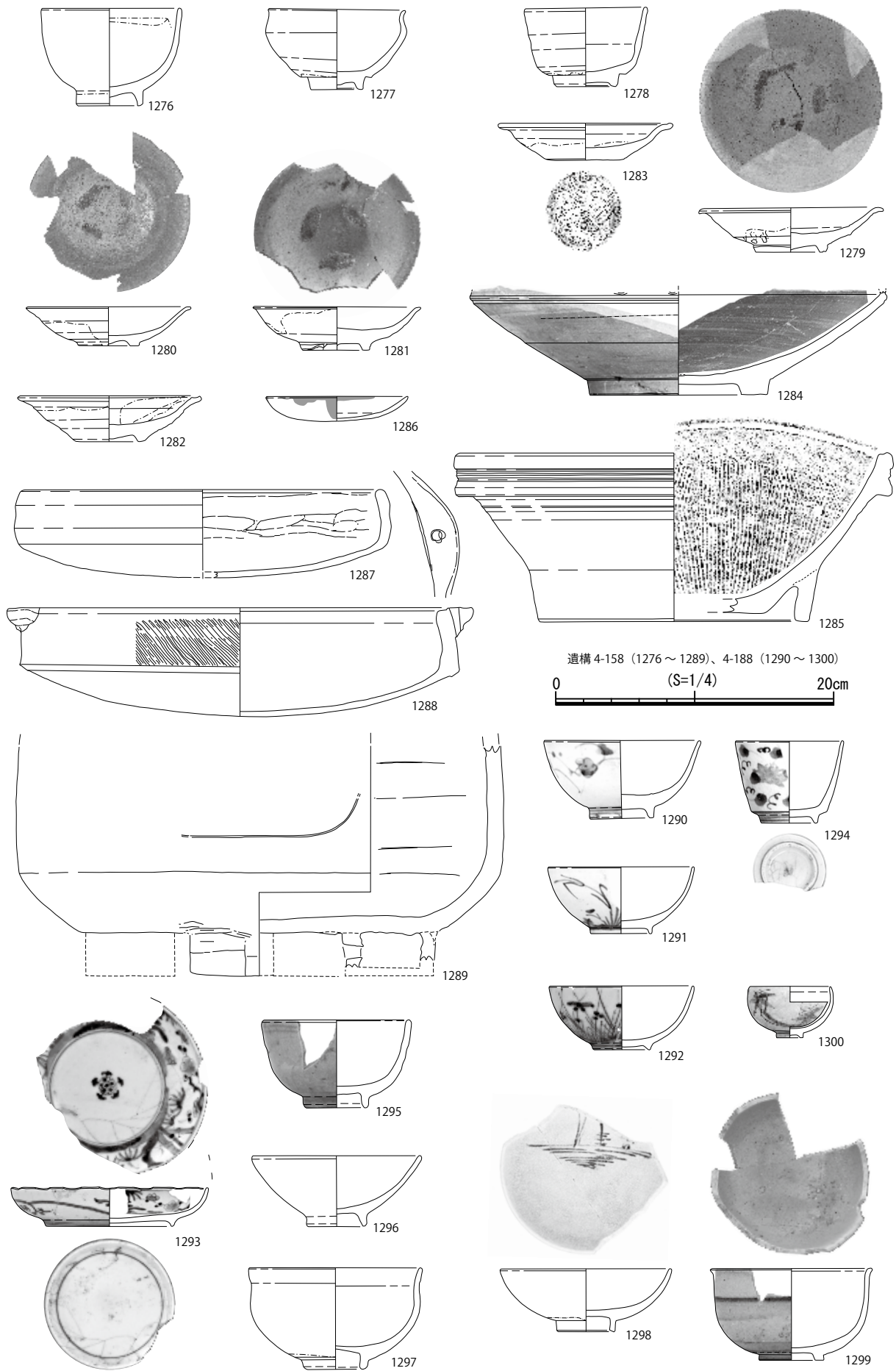


图 130 3・4区 第4-2遺構面 遺構出土土器 (2)

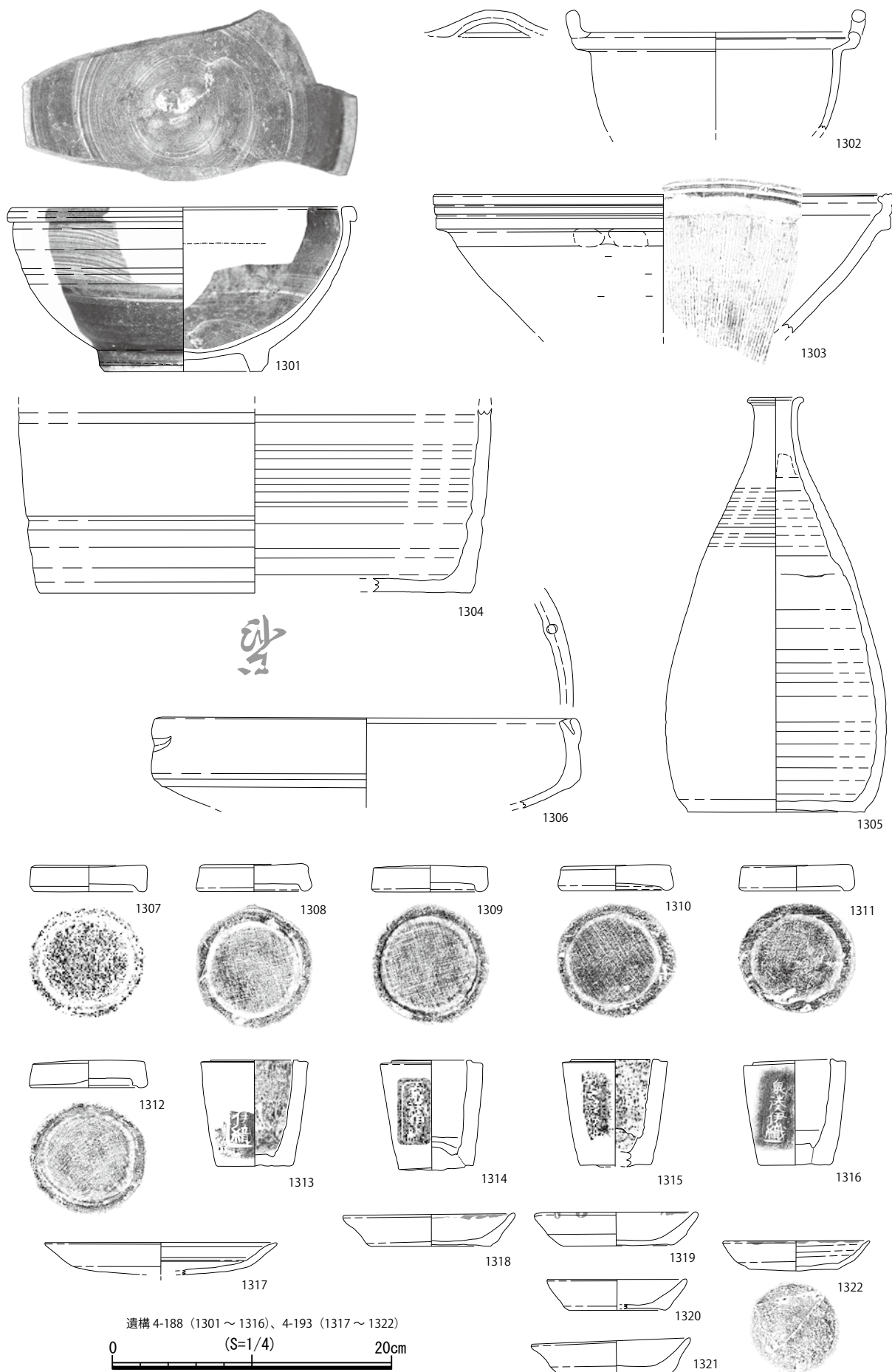


图 131 3·4区 第4-2遺構面 遺構出土土器 (3)



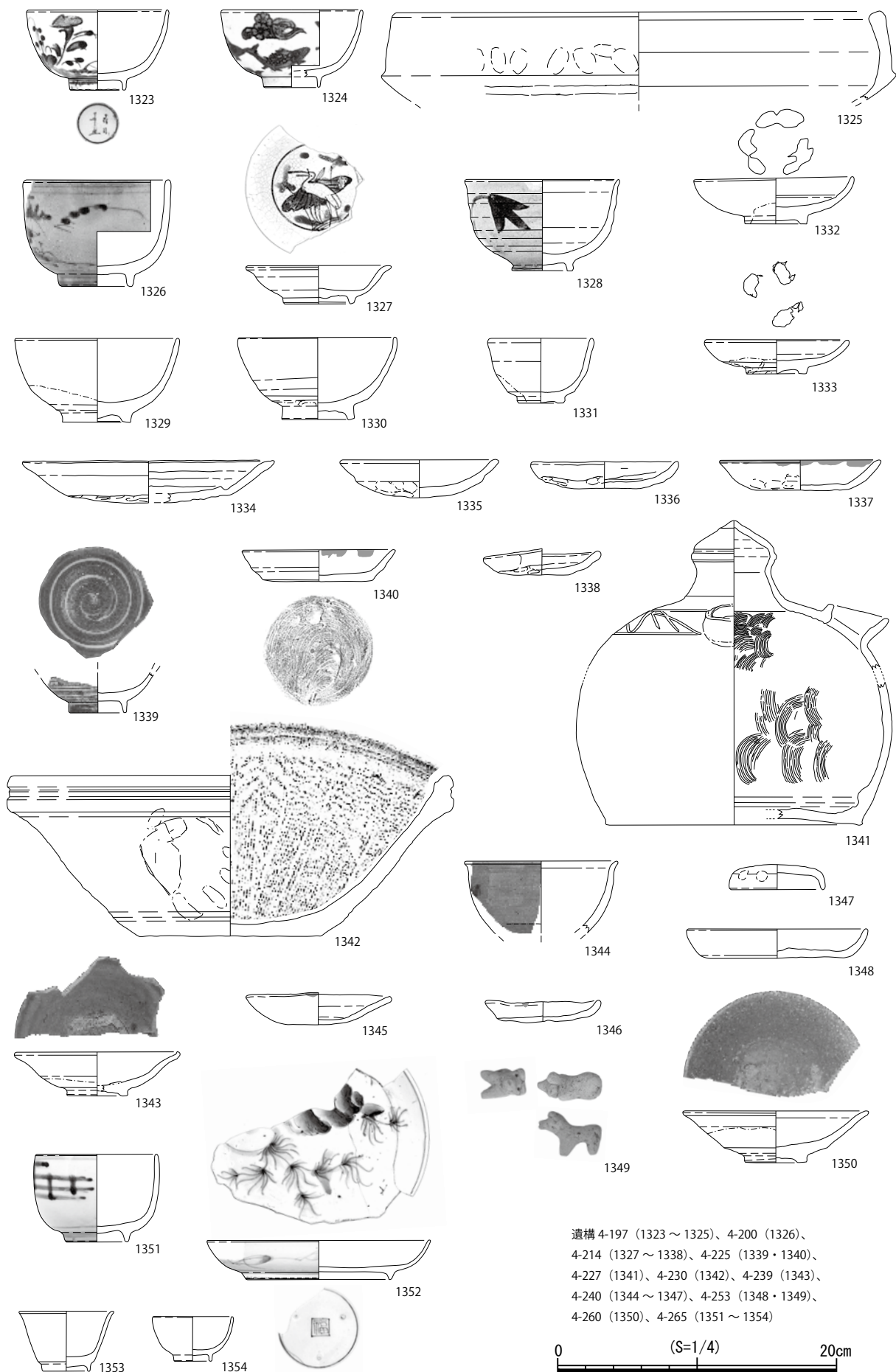


图 132 3・4区 第4-2遺構面 遺構出土土器(4)

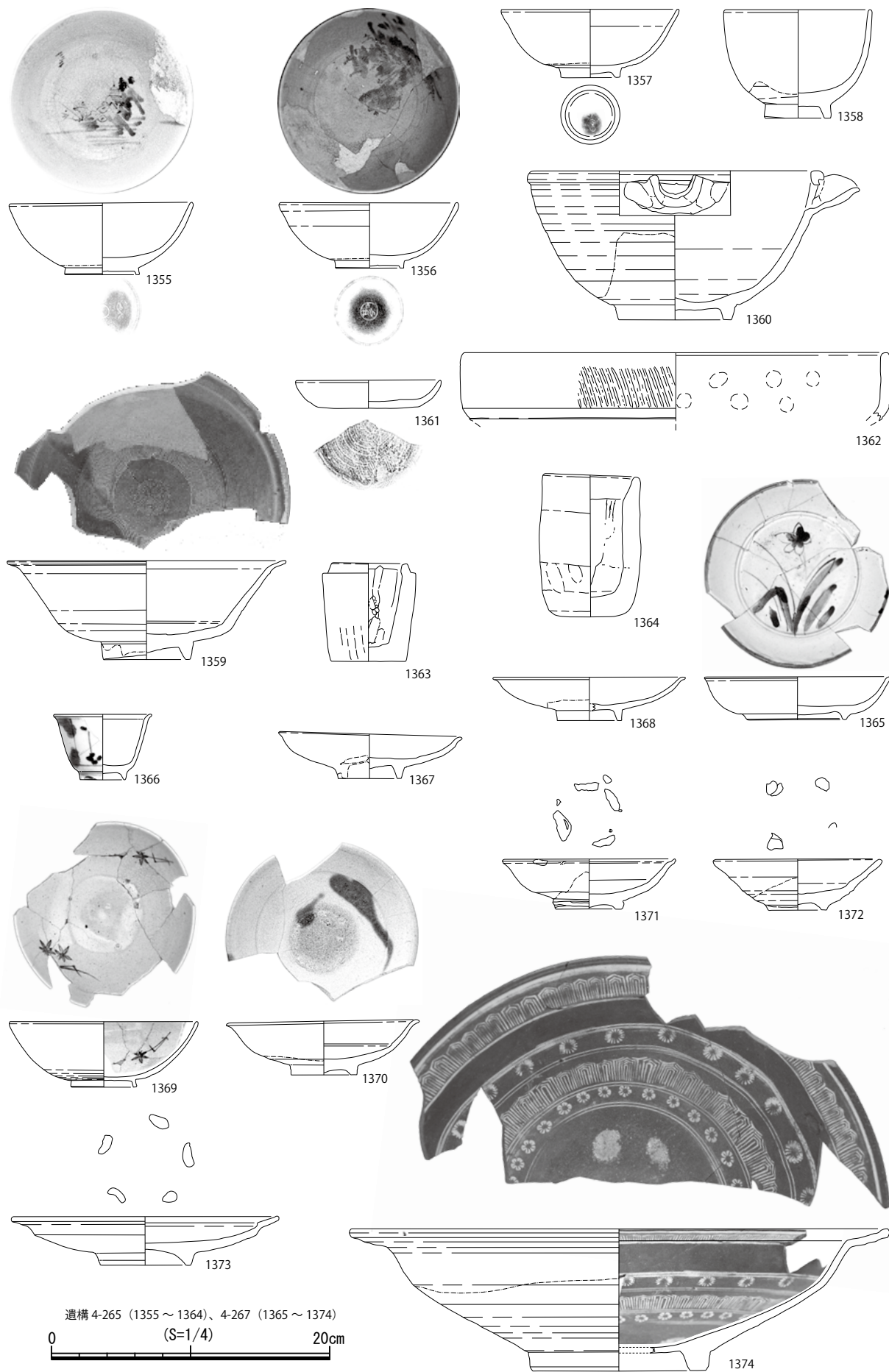


图 133 3·4区 第4-2遺構面 遺構出土土器 (5)



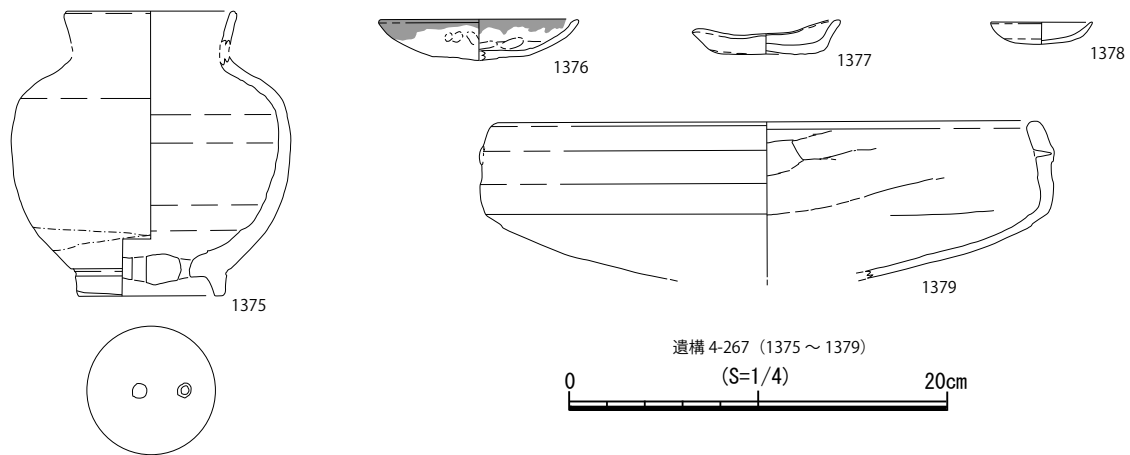


図134 3・4区 第4-2遺構面 遺構出土土器（6）

#### 4-264・265・266・267土坑（図128、図版41）

第4遺構面の3-123竪穴遺構の底で検出した土坑群で、西から4-264土坑、4-265土坑、4-266土坑、4-267土坑の順で並んでいる。土層観察から4-264土坑以外は、ほぼ同時期に埋まっていることが窺え、同じラインでアゼを設定していなかった4-264土坑についても、埋土などから同時期のものと判断できる。

4-264土坑は平面形状が不整長方形を呈し、長さ2.08m、幅最大で0.85m、深さ0.15mを測る。断面形状は船底状を呈する。遺物は出土していない。

4-265土坑は平面形状が不整楕円形を呈し、規模は長さ2.10m、幅0.80m、深さ0.75mを測る。断面形状はU字状を呈する。底面には10～25cmの多くの礫が入っていた。遺物は土器類のほかに木製品も多量に出土しており、中国製磁器、肥前系磁器（1351～1354）、肥前系陶器（1355・1356・1358～1360）、京・信楽系陶器（1357）、備前焼、土師質土器（1361～1364）、瓦類（T27・T112）のほか木製品の木簡（W171～W177）・木札（W178）・漆器椀（W179～W182）・曲物部材（W183～W186）・桶部材（W187・W217～W219）・折敷部材（W188～W191）・箸（W192～W212）・楊枝（W213・W214）・杓子（W215・W216）・下駄（W220・W221）・刷毛（W222）・工具柄（W223）・建築部材・建具部材（W224～W234）や動物遺存体（魚骨）がある（図132・133・172・175・197～199、図版82・83・88・104・105）。

4-266土坑は平面形状が不整楕円形を呈し、長さ1.65m、幅0.60m、深さ0.30mを測る。断面形状はU字状を呈する。遺物は肥前系磁器、土師質土器などが出土している。

4-267土坑は平面形状が不整楕円形を呈し、規模は長さ2.70m、幅1.85m、深さ0.35mを測る。断面形状は船底状を呈する。遺物は4-265土坑と同様に土器類のほかに木製品も多量に出土しており、肥前系磁器（1365～1368）、京・信楽系陶器（1369）、肥前系陶器（1370～1375）、備前焼、土師質土器（1376～1379）、瓦類（T113・T115）などのほか木製品として曲物（W235）・箸（W236・W237）・下駄（W238）、建築部材（W239～W241）がある（図133・134・200、図版83・105）。

## 7 帰属面不明の遺構 (図135)

深い攪乱などによって、本来の帰属面で調査できなかった江戸時代の遺構で、主に深く掘削された土坑や井戸などがある。遺物観察表では1～4-2と表記している。

### 3-121・320・321井戸 (図136、図版42)

3区の西側で重複するように検出した3基の井戸で、切合い関係から3-320井戸→3-321井戸→3-121井戸の順で構築されている。

3-121井戸は検出面での平面形状が不整円形を呈し、規模は2.45m×2.45mを測る。井戸側の痕跡は上位で確認できているものの、下位の断割りをおこなっても構造は確認できなかった。ただ、下位の埋土で井戸瓦の破片が出土していることから、瓦積みで、廃棄に伴って抜き取った可能性も否定できない。検出面からの深さ2.10m(標高-0.20m)まで確認したが、それより下部の構造は明らかでない。遺物は肥前系磁器(1380)、瀬戸美濃系陶器、瓦などが出土している(図144)。

3-320・3-321井戸は3-121井戸の南に接し、検出面で一つの遺構として判断して3-124井戸としていたが、掘削した結果、重複する二つの井戸になったことで、3-320井戸・3-321井戸と遺構名を変更している。3-320井戸の西側を切り込んで3-321井戸が構築されている。二つの井戸が重複する状態での検出面の平面形状は不整楕円形で、規模は長さ2.40m、幅1.90mを測る。井戸側の構造はどちらも上位では明らかにできなかったが、下位での調査で明らかになっている。また、上位で出土した遺物には、肥前系磁器(1381)、肥前系陶器(1382)、備前焼(1383)がある(図144)。

3-320井戸は下位面での掘形の形状が円形を呈し、規模は直径1.05mを測る。井戸側は辛うじて立った状態で検出した井戸瓦の破片と桶、井戸側内に落ち込んだ井戸瓦の存在から、瓦積みの下部に桶を置く構造であることが分かった。井戸瓦は標高0.25mまで使用され、それより下位は桶になる。桶は直径0.85m、高さ0.60mである。標高-0.35mまで確認したが、それより下部の構造は明らかでない。遺物は肥前系磁器のほか井戸瓦(T155)がある(図180・図版92)。

3-321井戸は下位面での掘形の形状が円形を呈し、規模は直径1.15mを測る。井戸側は瓦積みの下に桶を置く構造で、瓦積み部の内法は直径0.80mで、一段あたり11枚の井戸瓦を用いて、上下の目地が揃わないように積み上げていた。確認した瓦積みは2段である。桶は直径0.78mで、瓦積みの内側に約0.08m重ね合わせて置いていた。深さは標高-0.50mまで確認したが、それより下部の構造は明らかでない。遺物は肥前系磁器(1494)、土師質土器のほか瓦類(T17・T154)等が出土している(図148・180、図版92)。

### 3-126井戸 (図136・144・181、図版42・92)

3区の中央付近で検出した井戸で、検出面での平面形状が不整円形を呈し、規模は2.50m×2.40mを測る。掘形は上位ではラップ状に広がることから大きいですが、下位では直径約1.40mになる。井戸側は上位面では痕跡のみで明らかでなかったが、中位以下に瓦積みの井戸側が確認できた。井戸側の内法は直径0.80mで、一段あたり9枚の井戸瓦を用いて、上下の目地が揃わないように積み上げていた。瓦積みは5段分、深さは標高-0.50mまで確認したが、それ以下は桶になるものの最下部の構造については明らかでない。肥前系磁器、瀬戸美濃系磁器(1384)、肥前系陶器(1385)、備前焼(1386)、土師質土器、瓦類(T161)などのほか、動物遺存体(貝類)が出

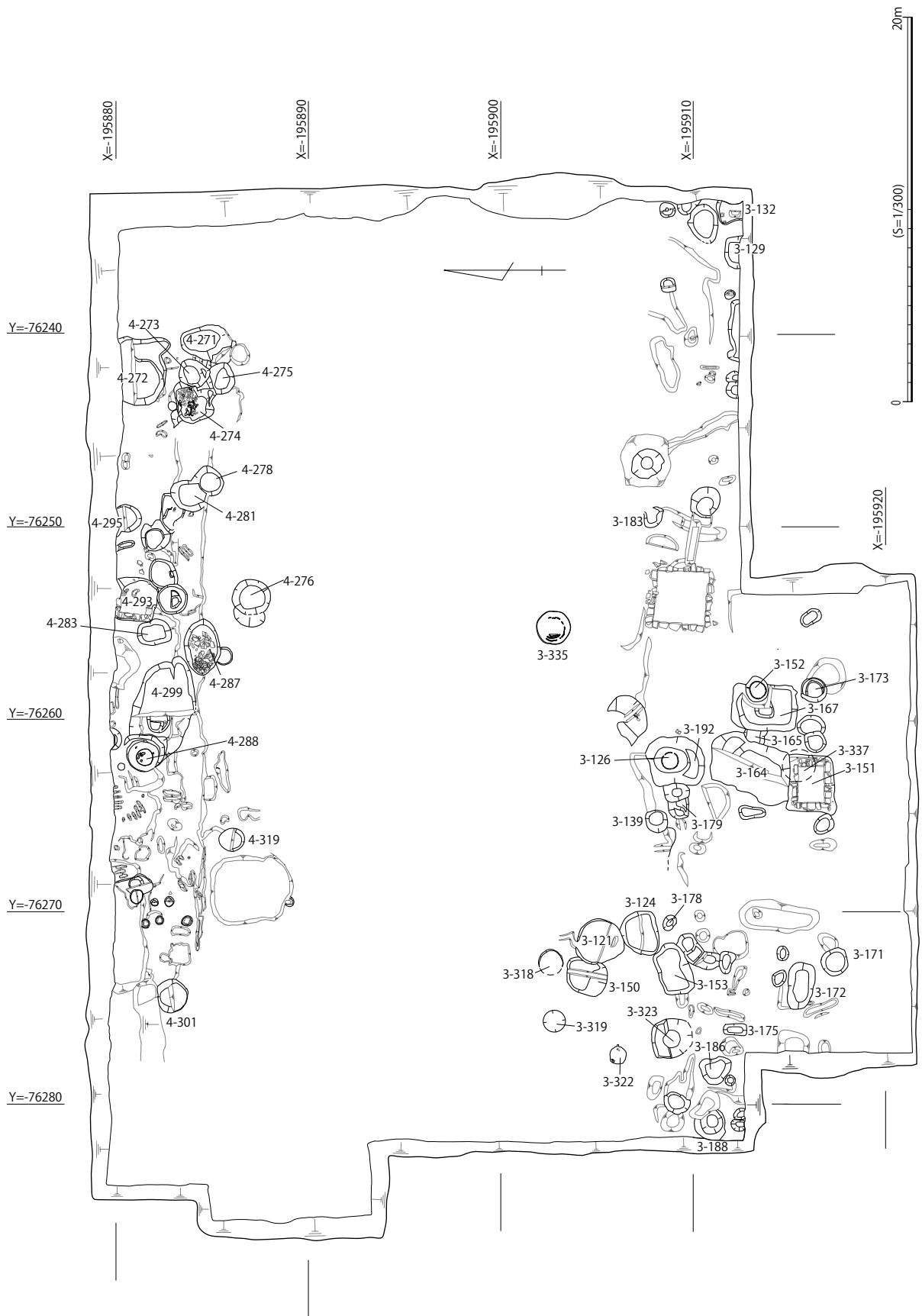


図 135 3・4区 帰属面不明の遺構 全体図

土している。

### 3-139井戸（図137、図版42）

3区の中ほどで検出した井戸で、北側の肩部を攪乱により削平される。検出面での平面形状は円形で、規模は1.15m×1.10mを測る。下位面で標高0.00m付近まで断割りをおこなったが、井戸側は明らかにできなかつた。ただ、標高0.00m付近になるとベースが砂になることから、素掘りの井戸ではなく、本来は桶などの木質の井戸側で、それが腐朽したものと考えることができる。遺物は肥前系磁器。土師質土器の破片が出土している。

### 3-152井戸（図137・144・172・173・181・184、図版42・88・92・94）

3区の中央南寄りで検出した井戸で、3-167土坑を切り込んで構築されている。検出面での掘形の形状は円形を呈し、規模は直径1.20mを測る。井戸側は瓦積みで内径0.80mを測り、一段あたり9枚の井戸瓦を用いて、上下の目地が揃わないように積み上げていた。確認した瓦積みは8段である。深さは標高-0.10mまで確認したが、さらに井戸瓦が続いており、それより下部は明らかでない。遺物は肥前系磁器（1392）、瀬戸美濃系陶器（1393）、京・信楽系陶器、瓦類（T30・T67・T162・T164）、石臼（S50）、鉄釘などが出土している。

### 3-164井戸（図137・146・179・183、図版42・43・92・94）

3区の中央南寄りで検出した井戸で、南側の3-151石組榦と重複し、それより新しい。検出面での掘形の平面形状は本体部の北東側に突出部をもつ柄鏡状で、本体部の直径3.15m×3.10m、突出部は長さ1.50m、幅1.75mを測る。突出部は当初、別遺構が重複している可能性も考えたが、断面を精査した結果、井戸と同時期のもので、深い井戸を掘削する際の工法に係るものであると判断することができる。井戸側は上位では痕跡のみであったが、中位以下で瓦積みを確認した。井戸側の内径は0.77mを測り、一段あたり10枚の井戸瓦を用いて、上下の目地が揃わないように積み上げていた。確認した瓦積みは4段であるが、井戸側内に多くの井戸瓦が落ち込んでいる状況から、上位まで瓦が積まれていたと判断できる。井戸瓦が使用されているのは標高0.25mまでで、それ以下は桶となる。桶は直径0.78mで、高さ1.00mを測り、一段分を確認したが、それ以下にも積まれていたと考えられる。確認した深さは、標高-0.75mまでで、それより下位の構造については明らかでない。遺物は肥前系磁器（1453）、肥前系陶器（1454・1455）、瀬戸美濃系陶器、備前焼（1456）、土師質土器（1457）、瓦類（T153）、石臼（S47）、鉄釘などが出土している。また、井戸側内からレンガなども出土していることから、近代以降も開口していたと考えられる。

### 3-173井戸（図138・147、図版43・85）

3区の中央南寄りで検出した井戸である。検出面での掘形の平面形状は円形で、規模は直径1.30mを測る。井戸側は上位では痕跡のみで、下位（標高-0.10m）で桶を検出した。桶は直径0.75m、高さ0.60mで、下方も更に桶を積んでいると考えられるものの、確認したのは桶一つ分の標高-0.70mまでで、それより下部の構造は不明である。また、桶の内側には、直径4cmの節を抜いた竹筒が垂直方向に入っており、井戸廃棄時に息抜きに差し込まれたものと判断できる。遺物は肥前系磁器（1470・1471）、肥前系陶器、土師質土器、瓦類、鉄釘などが出土している。

### 3-188井戸（図138・148・180、図版43・92）

3区の西端で検出した井戸で、検出面での掘形の平面形状は楕円形で、規模は東西1.35m、南

北1.25mを測る。井戸側は瓦積みで、内径は0.90mを測る。一段あたり12枚程度の井戸瓦を用いて、上下の目地が揃わないように積み上げているが、他の瓦積み井戸とは異なり、半裁した井戸瓦も使用して全周させている。調査区の壁際に位置したことから断割りはおこなっておらず、確認した瓦積みは4段分で、掘削をおこなったのは標高1.70mまでである。遺物は肥前系陶器(1490)、土師質土器、瓦(T156)などが出土し、井戸側内にはガラスなども含まれていたことから近代以降まで開口していたと判断できる。

### 3-319井戸(図138・148)

3区の西側で検出した井戸で、上位面では確認することができず、最終的に第5-1遺構面の大溝の底で検出した。検出面での掘形の平面形状は円形を呈し、規模は直径1.40mを測る。明確な井戸側は確認できていないが、直径1.10mの痕跡が残り、桶に使われていたと考えられる箍の一部が残存することから、少なくとも井戸側の下位は桶積みであったと考えられる。遺物は肥前系磁器(1493)、土師質土器、瓦が出土している。

### 3-322井戸(図138・148、図版43)

3区の西端で検出した井戸で、検出面での掘形の平面形状は円形を呈し、規模は直径0.90mを測る。断面観察から径0.35~0.60mの井戸側の痕跡が確認できるが、構造については明らかでない。遺物は肥前系陶器(1495)、備前焼(1496)が出土している。

### 3-323井戸(図138・148、図版43)

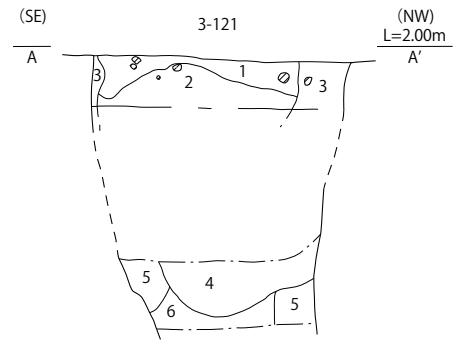
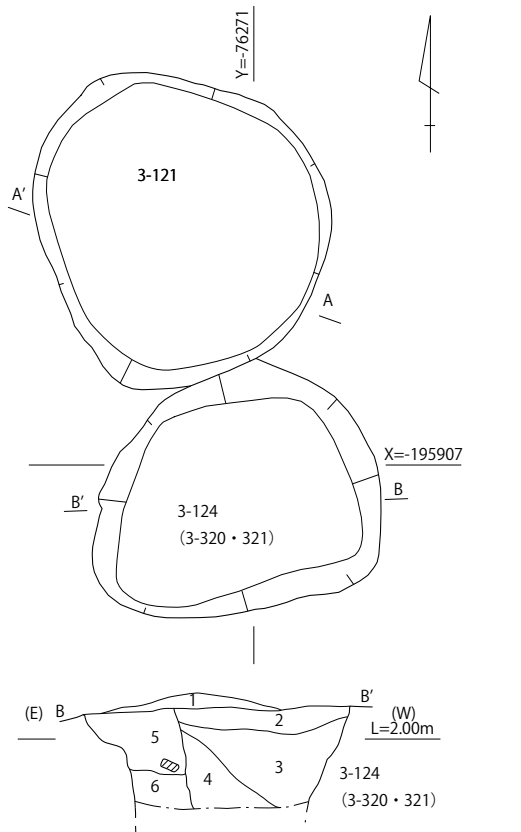
3区の西端で検出した井戸で、南側の一部は調査区域外となる。検出面での掘形の形状は隅丸方形を呈していたと考えられ、規模は東西2.05m、南北1.80m以上を測る。井戸側は桶積みで、3段分を確認した。法量が明らかな桶は直径0.70m、高さ0.92mで、3カ所に箍が残っていた。桶は下位の桶の外側に重ねるように上位の桶が積み上げられていた。標高-0.10mまで確認したが、それより下位の構造は明らかでない。中国製磁器、肥前系磁器、肥前系陶器、瀬戸美濃系陶器、遺物は備前焼(1497)、瓦類などが出土している。

### 3-335井戸(図138・148・180、図版44・92)

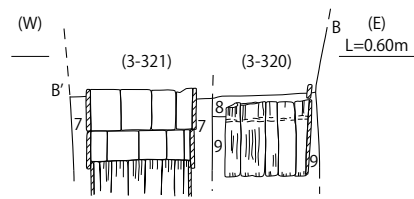
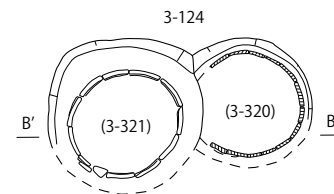
3区の中央付近で検出した井戸で、検出面での掘形の平面形状は円形を呈し、規模は直径1.75mを測る。中央にコンクリートのヒューム管が入れられていたことから、当初は最近の井戸であると判断していたが、下位面での調査で周囲に井戸瓦が積まれていることで、江戸時代の井戸を転用して後世に使われたと判断した。瓦積みの井戸側の内径は1.20mで、一段あたり13枚の井戸瓦を用いて、上下の目地が揃わないように積み上げていた。確認した瓦積みは4段で、標高-0.15mまで確認したが、それより下部の構造については明らかでない。遺物は瀬戸美濃系陶器(1498)、井戸瓦(T159)が出土している。

### 3-337井戸(図138、図版44)

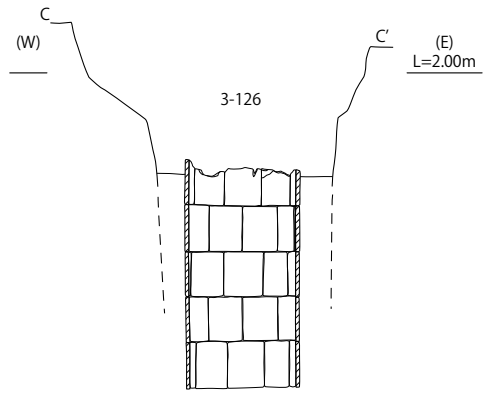
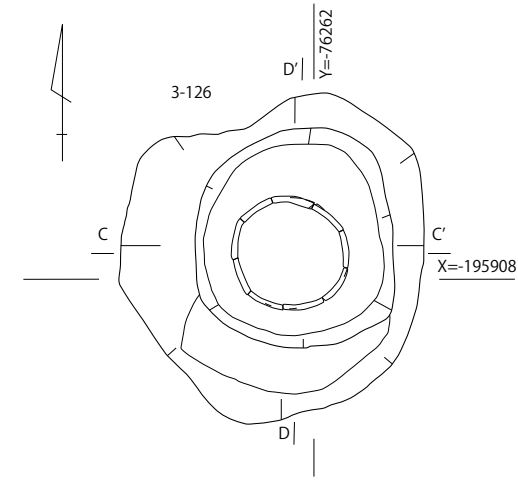
3区の中央南寄りで検出した井戸で、3-151石組柵の下位で検出した。3-164井戸と重複して、それより古い。検出面での掘形の平面形状は楕円形で、規模は長さ1.80m、幅1.65mを測る。上位の井戸側は明らかでないが、標高0.50m以下で桶を確認している。確認した箇所での井戸側の構造は、0.57~0.67mの直径が異なる桶を3重に重ねていた。桶の高さは0.72~0.75mを測る。桶は標高-0.70mまで確認したが、それより下位の構造については明らかでない。



1. 5Y6/1灰 細砂+7.5Y6/3オリブ黄 細砂 鉄分を多く含む φ3~5cmの礫を含む
2. 2.5GY5/1オリブ灰・N4/灰 細砂混粘土 φ3~5cmの礫を含む
3. 2.5GY6/1オリブ灰 細砂混シルト
4. 5Y4/2灰オリブ 中・細砂
5. N4/灰シルト混砂礫 礫はφ~1cmが主体
6. 5Y3/1オリブ黒シルト混砂礫 礫はφ~1cmが主体



1. 2.5Y6/1黄灰シルト 鉄分・マンガン粒含む φ0.5~1cmの礫を含む
2. 2.5Y5/4黄褐 細砂混シルト 鉄分を多く含む φ1~3cmの礫を多く含む
3. 5Y5/2灰オリブ 細砂 5Y6/2灰オリブ 粘土混細砂をブロック状に含む
4. 5Y5/2灰オリブ 細砂 2.5Y7/3浅黄 粘土をブロック状に含む 礫を含む
5. 5Y4/2灰オリブ 細砂混シルト 7.5Y5/1灰粘土をブロック状に含む 礫を含む
6. 5Y5/2灰オリブ 細砂 φ3~10cmの礫を含む
7. 2.5Y4/3オリブ褐 細砂 φ~3cmの礫50%
8. 5Y4/2灰オリブシルト混粗砂・細砂
9. 2.5Y4/3オリブ褐 粗砂 φ~3cmの礫50%



1. 5Y5/2灰オリブシルト混細砂 鉄分・φ1~5cmの礫を多く含む
2. 5Y5/2灰オリブシルト 2.5Y6/4にぶい黄 粘性シルトを粒状に多く含む 漆喰(2.5Y7/6明黄褐)・炭化物を疎らに含む φ3~5cmの礫を含む
3. 5Y4/2灰オリブシルト 瓦片を多く含む
4. 5Y5/3灰オリブシルト 2.5Y6/4にぶい黄 粘性シルトを粒状に含む 鉄分を含む
5. 2.5Y5/黄褐シルト混細砂 φ3~5cmの礫を多く含む
6. 2.5Y4/3オリブ褐シルト混細砂 2.5Y6/4にぶい黄 粘性シルトをブロック状に含む φ3~7cmの礫を多く含む
7. 5Y5/2灰オリブ 細砂混シルト 2.5Y6/4にぶい黄 粘性シルトをブロック状に含む 漆喰(2.5Y7/6)を疎らに含む φ3~7cmの礫を含む
8. 5Y4/2灰オリブ 中・細砂
9. 5Y5/2灰オリブシルト混細砂 2.5Y6/4にぶい黄 粘性シルトをブロック状に含む φ1~3cmの礫を疎らに含む
10. 5Y4/2灰オリブシルト混細砂 固くしまる 鉄分多く含む φ5~10cmの礫を疎らに含む

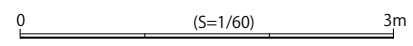
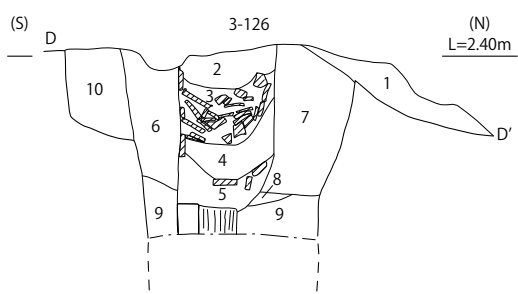
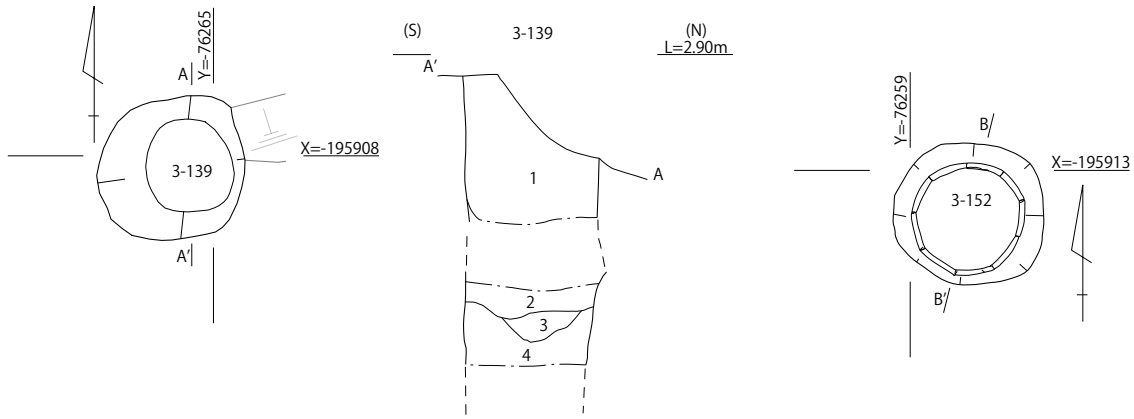
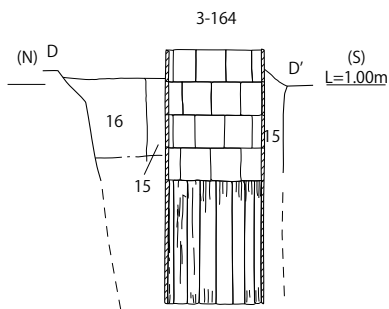
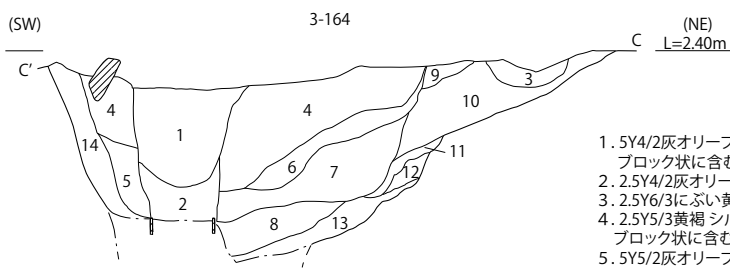
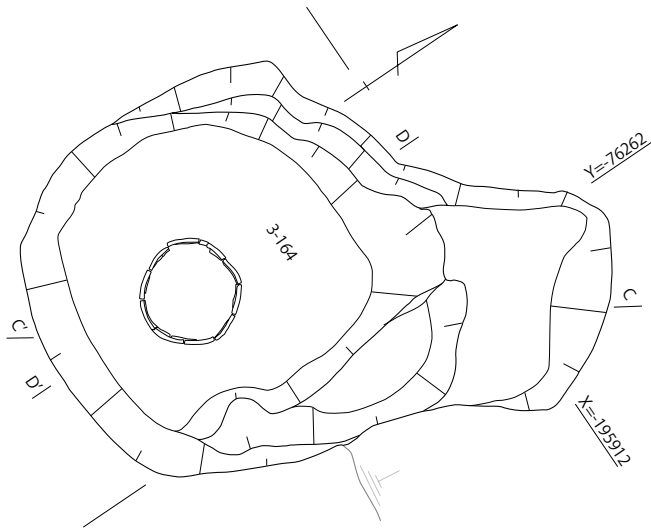


図 136 3・4区 帰属面不明の遺構(1)



1. 7.5Y6/1灰 細砂+5Y5/2灰オリブ 弱粘質土+10YR4/1褐灰 弱粘質土
2. 2.5Y4/2暗灰黄 シルト混中・細砂
3. N3/暗灰 シルト混中・細砂 φ~20cmの礫を含む
4. 5Y5/2灰オリブ 中・細砂

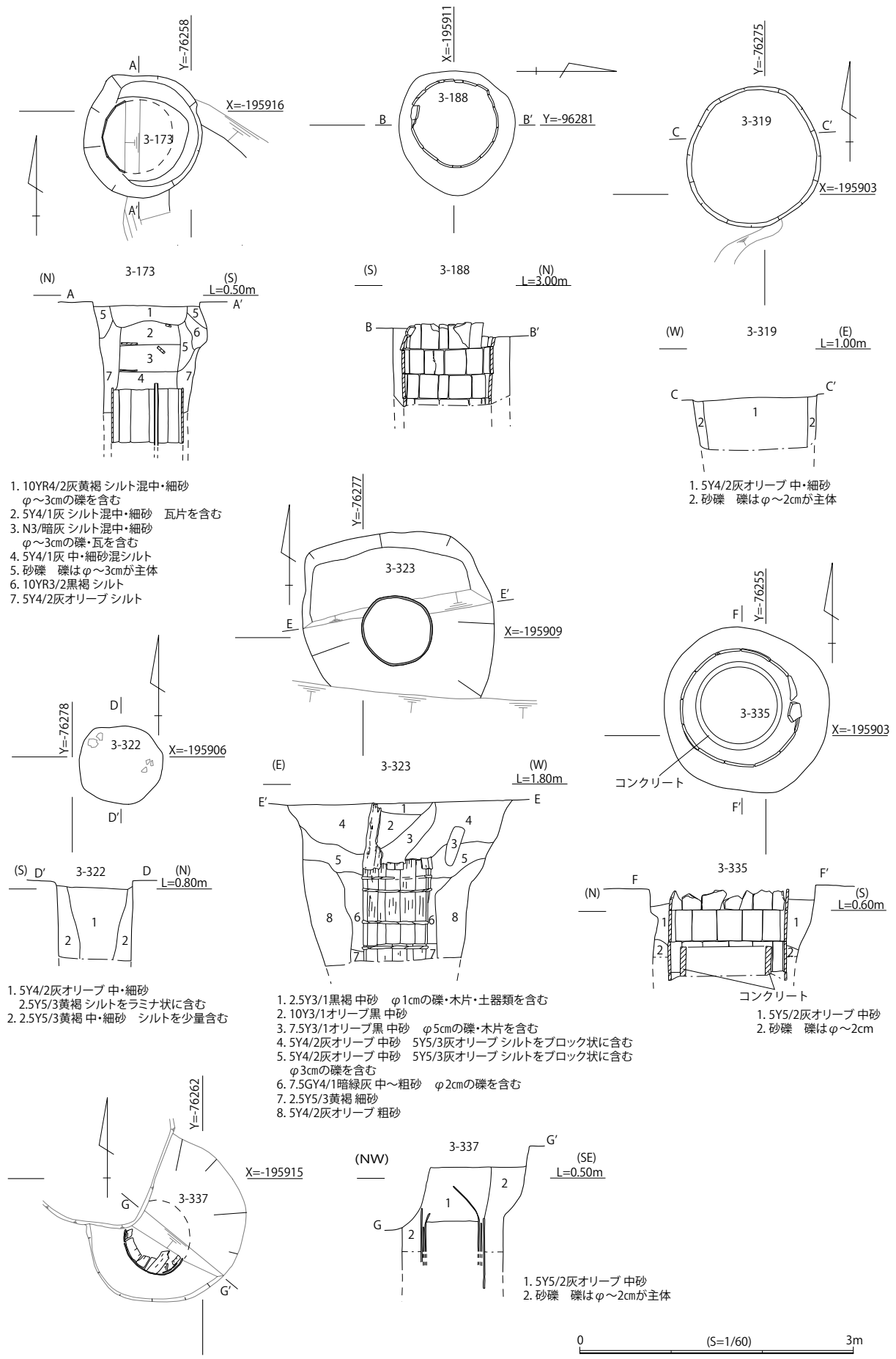


1. 5Y4/2灰オリブ 細砂混シルト+2.5Y5/4黄褐 細砂 2.5Y6/1黄灰 粘土をブロック状に含む 炭化物を多く含む 瓦片を含む
2. 2.5Y4/2灰オリブ 細砂混粘土 2.5Y5/4黄褐 細砂を含む 炭化物を少量含む
3. 2.5Y6/3にぶい黄 シルト+2.5Y5/3黄褐 シルト 炭化物を含む
4. 2.5Y5/3黄褐 シルト混細砂 2.5Y6/2灰黄・2.5Y5/2暗灰黄 粘土をブロック状に含む 礫を含む
5. 5Y5/2灰オリブ 細砂混じる φ5~10cmの礫を含む
6. 5Y5/2灰オリブ 細砂混シルト 2.5Y5/2暗灰黄 粘土をブロック状に含む 鉄分を含む 石・瓦片を含む
7. 5Y5/2灰オリブ 細砂混シルト 2.5Y7/1灰白 粘土を粒状に・2.5Y5/2暗灰黄 粘土をブロック状に多く含む 鉄分を含む
8. 2.5Y5/3黄褐 細砂混シルト 2.5Y7/1灰白 粘土と2.5Y5/2暗灰黄 粘土をブロック状に多く含む 鉄分を含む
9. 2.5Y6/3にぶい黄 細砂 鉄分を含む 2.5Y6/3にぶい黄 粘土を粒状に含む
10. 2.5Y6/3にぶい黄・2.5Y7/1灰白・2.5Y5/2暗灰黄 粘性シルト
11. 2.5Y6/3にぶい黄 シルト 鉄分を含む
12. 10YR4/3にぶい黄褐 細砂
13. 2.5Y5/3黄褐 細砂混シルト 鉄分を含む
14. 5Y5/2灰オリブ 細砂混シルト 2.5Y7/1灰白 粘土と2.5Y5/2暗灰黄 粘土をブロック状に含む
15. 砂礫 φ~3cm
16. 2.5Y4/2暗灰黄 シルト混中・細砂

0 (S=1/60) 3m

図 137 3・4区 帰属面不明の遺構 (2)





- 1. 10YR4/2灰黄褐シルト混中・細砂  
φ~3cmの礫を含む
- 2. 5Y4/1灰シルト混中・細砂 瓦片を含む
- 3. N3/暗灰シルト混中・細砂  
φ~3cmの礫・瓦を含む
- 4. 5Y4/1灰中・細砂混シルト
- 5. 砂礫 礫はφ~3cmが主体
- 6. 10YR3/2黒褐シルト
- 7. 5Y4/2灰オリーブシルト

- 1. 2.5Y3/1黒褐中砂 φ1cmの礫・木片・土器類を含む
- 2. 10Y3/1オリーブ黒中砂
- 3. 7.5Y3/1オリーブ黒中砂 φ5cmの礫・木片を含む
- 4. 5Y4/2灰オリーブ中砂 5Y5/3灰オリーブシルトをブロック状に含む
- 5. 5Y4/2灰オリーブ中砂 5Y5/3灰オリーブシルトをブロック状に含む φ3cmの礫を含む
- 6. 7.5GY4/1暗緑灰中~粗砂 φ2cmの礫を含む
- 7. 2.5Y5/3黄褐細砂
- 8. 5Y4/2灰オリーブ粗砂

- 1. 5Y4/2灰オリーブ中・細砂
- 2. 砂礫 礫はφ~2cmが主体

- 1. 5Y5/2灰オリーブ中砂
- 2. 砂礫 礫はφ~2cm

図 138 3・4区 帰属面不明の遺構 (3)

#### 4-276井戸 (図139・172・173、図版44)

4区の中央付近で検出した井戸である。検出面での掘形の平面形状は楕円形で、規模は長さ2.00m、幅1.80mを測る。上層には20cm大の礫が多量に含まれていた。井戸側は上位では明らかでなく、下位においても弥生時代の溝内であったことから断割りがおこなえず、構造については明らかでない。ただ、遺物のなかに井戸瓦の破片が数点あることから、瓦積みであった可能性もある。深さは標高-0.10mまで確認しているが、それより下部については不明である。遺物は上位を中心に肥前系陶器、土師質土器、瓦類(T31・T66)が出土している。

#### 4-278井戸・4-281土坑 (図139、図版44)

4区の中央北東寄りで検出した。4-278井戸と4-282土坑は重複し、南東側に位置する4-278井戸が新しい。

4-278井戸は、検出面での掘形の平面形状が楕円形で、規模は長さ1.60m、幅1.20mを測る。井戸側は上位で痕跡も確認できず、下位で行った断割りで直径0.75mの痕跡を確認したが、構造については明らかでない。ただ、遺物のなかに井戸瓦の破片が数点あることから、上位については瓦積みであった可能性がある。また、井戸側の下位については周囲が砂であることを考慮すれば素掘りとは考えられず、本来は桶などの木質の井戸側で、それが腐朽したものと判断できる。深さを標高-0.50mまで確認したが、それより下部の構造については明らかでない。遺物は肥前系磁器、瀬戸美濃系陶器、土師質土器、瓦類が出土している。

4-281土坑は4-278井戸に一部削平される。検出面での平面形状は楕円形を呈し、規模は長さ2.00m、幅1.60m、深さ0.80mを測る。上面より底部の幅が広がっており、断面の形状は袋状となっている。遺物は土師質土器(1503)、瓦が出土している。遺物内容などからも江戸時代ではなく第5-2遺構面に帰属する可能性もある(図148)。

#### 4-295井戸 (図139・149、図版44)

4区の東寄りの北端部で検出した井戸で、第5-2遺構面の4-306土坑を切り込んでいる。北端は調査区域外となり全容は明らかでない。検出面での平面形状は楕円形を呈し、規模は長さ1.45m、幅1.10m以上を測る。調査区北壁際であることから深く掘削ができておらず、確認したのは検出面からの深さ1.00m(標高1.10m)までで、それ以下については明らかでない。また、井戸側の構造についても痕跡もなく明らかでないが、遺物に井戸瓦の破片が出土していることから、上位は瓦積みであった可能性がある。遺物は肥前系磁器(1518)、肥前系陶器、備前焼、土師質土器(1519)、瓦類などが出土している。

#### 4-288井戸 (図140・149・180・181・203、図版45・85・92)

4区の中央北端で検出した井戸で、4-299土坑と重複し、それより新しい。検出面での掘形の平面形状は楕円形で、最も外側の規模は長さ2.05m、幅1.90mで、段落ちしての内側の規模は長さ1.70m、幅1.50mを測る。井戸側は上方が瓦積みで、内径は0.80mを測る。井戸瓦の大きさは2種類あり、確認した上位4段は11枚の井戸瓦を用いて全周させ、下位2段は9枚の井戸瓦で全周させ、上下の目地が揃わないように積み上げていた。瓦積みの井戸側は標高-0.20mまでで、それより下位は桶積みとなる。桶は直径0.85m、高さ0.38mで1段分を検出した。確認した深さは標高-0.40mまでで、それより下部の構造は明らかでない。遺物は肥前系磁器(1513・1514)、瀬戸美濃系磁器(1512)、肥前系陶器(1515)、瀬戸美濃系陶器(1516・1517)、京・

信楽系陶器、土師質土器、瓦類（T157・T163）、鉄釘、不明鉄製品のほか木製品の建築部材（W289）などが出土している。遺物内容から第1遺構面または第2遺構面に帰属すると考えられるが、井戸瓦が2種類あって、大きい井戸瓦の方が古く位置付けられる傾向があることから、下位の方は古く、上位の小さい瓦を使用した箇所は、井戸の再利用で作り替えている可能性もある。

#### 4-301井戸（図140・150、図版45・85）

4区西側の北端で検出した井戸である。検出面での掘形の平面形状は楕円形で、規模は長さ1.70m、幅1.50mを測る。井戸側は標高-0.15mまで掘り下げたが痕跡もなく、構造は不明であるが、遺物に井戸瓦の破片が出土していることから、瓦積みであった可能性がある。遺物は肥前系磁器、肥前系陶器、瀬戸美濃系陶器、産地不明の緑釉陶器（1543）、京・信楽系陶器（1544）、備前焼、丹波焼、土師質土器（1545）、瓦類が出土している。

#### 4-319井戸（図140・180、図版45・92）

4区の中央北寄りで検出した井戸である。検出面での掘形の平面形状は楕円形で、南北1.33m、東西1.20mを測る。井戸側は上位では痕跡のみで、下位の断割りでも井戸瓦と桶を確認した。確認した瓦積みは1段のみで、標高-0.10m以下は桶となる。瓦部分の井戸側の内径は0.75mで、10枚の井戸瓦を用いて全周させていた。井戸瓦は、確認した1段分以外にも井戸側内に落ち込んだ状態で出土していることから、上位は瓦積みであったと考えられる。桶は直径0.75m、高さ0.87mで、1段のみを確認している。確認した深さは標高-0.96mまでで、それより下位については明らかでない。遺物は瓦類（T158）が出土している。

#### 3-151石組榦（図140・144、図版45）

3区の中央南寄りで検出した石組榦である。北に接する3-164井戸に掘形の一部が削平されている。掘形の形状は不整の隅丸方形で、規模は東西3.00m、南北2.40m以上を測る。榦は正方位で構築されており、内法は東西1.80m、南北1.30m、深さは残りの良い箇所でも0.40mを測る。石材は10～50cmの結晶片岩で、横置きを基本に積まれていた。遺物は肥前系磁器、肥前系陶器（1390）、土師質土器（1391）、瓦類などが出土している。

#### 4-293石組榦（図140、図版45）

4区の中央北端で検出した石組榦である。上部を削平され、東側の石材は抜き取られていた。掘形の平面形状は、本来隅丸方形であったと考えられるが、東側は大きく変形している。現状での規模は南北2.00m、東西2.10mで、深さは残りの良い箇所でも0.30mを測る。榦は正方位で構築されており、内法は南北1.30m、東西0.65m以上を測る。石材は結晶片岩で、西側の基底部のみが残存していた。遺物は出土していない。

#### 3-153土坑（図141・144～146・173・186、図版45・83・84・89・96・97）

3区の西側で検出した土坑で、平面形状は隅丸長方形を呈する。規模は長さ2.75m、幅1.70m、深さ0.35mを測る。遺物は多種多様で多量に出土しており、とりわけ土製品の出土が多い。遺物には肥前系磁器（1394～1415）、肥前系陶器（1420・1421・1423・1426・1427）、美濃瀬戸系陶器（1416・1417・1424・1425・1431）、京・信楽系陶器（1418・1419・1422・1428・1429）、丹波焼、堺・明石系陶器（1422・1423）、軟質施釉陶器（1441）、土師質土器（1430・1434～1440・1442）、土製品（1443～1452）、瓦類（T64）、刀子（M52）、鉄釘、煙管

(M78)、銅線などのほか、動物遺存体（魚骨）がある。

### 3-167土坑（図141・147・175、図版85）

3区の中央南寄りで検出した土坑で、北東部で3-152井戸が切り込んでいる。平面形状は隅丸長方形を呈し、規模は南北3.30m、東西2.40mで、深さは最大で0.92mを測る。壁は直に落ち、底面は平坦であるが、中央部が窪んでいる。遺物は中国製磁器（1460）、肥前系陶器（1461・1462）、備前焼（1463）、土師質土器、瓦類（T109）、鉄釘などが出土している。

### 3-171・172土坑（図141・147、図版45）

3区の南西部で検出した土坑で、3-172土坑の南東部に3-171土坑が位置する。

3-171土坑は平面形状が円形を呈し、規模は直径1.40m、深さ0.55mを測る。壁は直に落ち、底面はほぼ平坦である。遺物は肥前系陶器（1464）、丹波焼（1465）、土師質土器、瓦質土器、瓦類などのほか、動物遺存体（貝類）が出土している。

3-172土坑は平面形状が楕円形を呈し、規模は長さ2.45m、幅1.35m、深さ0.55mを測る。断面形状は船底状を呈する。遺物は肥前系磁器（1466・1467）、肥前系陶器（1468）、丹波焼、土師質土器（1469）、瓦質土器、瓦類、砥石などが出土している。

### 3-186土坑（図141・148・173、図版45・85）

3区の西端で検出した土坑で、平面形状は不整楕円形を呈する。規模は長さ1.60m、幅1.45m、深さ0.50mを測る。断面形状は船底状を呈する。埋土には漆喰が多量に含まれている。遺物は肥前系磁器（1484・1485）、肥前系陶器、瀬戸美濃系陶器（1487）、丹波焼（1486）、堺・明石系陶器、土師質土器、土製品（1489）、瓦類（T63）などが出土している。

### 4-271・273・274・275土坑（図142、図版46）

4区の北東部で検出した土坑群で、複雑に重複しているが、前後関係は明確でない。どの遺構も出土遺物は少なく、その内容からはほぼ同時期である可能性がある。

4-271土坑は土坑群のなかで、最も東に位置する。東側を第4遺構面で検出している4-099土坑により削平されている。検出面での平面形状は不整楕円形で、規模は長さ2.65m、幅1.90mで、深さは残りの良い箇所では1.15mを測る。断面の形状は船底状を呈する。遺物は肥前系陶器（1499）、土師質土器、瓦、鉄釘などが出土している（図148、図版85）。

4-273土坑は4-274・4-275土坑と重複している。検出面での平面形状は不整円形で、規模は1.60m×1.55mで、深さは残りの良い箇所では1.10mを測る。断面の形状は東側にテラス状の段があるが、基本的に船底状である。遺物は瀬戸美濃系陶器（1502）のみが出土している（図148）。

4-274土坑は検出面での平面形状が隅丸方形で、規模は長さ2.25m、幅2.05mで、深さは残りの良い箇所では1.10mを測る。断面の形状は東側にテラス状の段があるが、基本的にU字状または船底状である。底面には10～25cmの礫が敷くように入っていた。遺物は肥前系磁器、土師質土器、瓦が出土している。

4-275土坑は検出面での平面形状が楕円形で、規模は長さ1.60m、幅1.25m、深さ0.48mを測る。断面形状は船底状である。遺物は肥前系磁器が出土している。

### 4-283・287・299土坑（図143、図版46）

4区の中央北寄りで検出した大小の土坑である。

4-283土坑は平面形状が楕円形を呈し、規模は長さ1.75m、幅1.30m、深さ1.20mを測る。断

面形状はU字状を呈する。埋土には多量の瓦が混入していた。遺物には肥前系磁器（1504）、肥前系陶器、備前焼、土師質土器、瓦類（T12・T13）、鉄釘、鋸（M59）などが出土している（図148・171・186、図版85・88・96）。

4-287土坑は平面形状が楕円形を呈し、規模は長さ2.90m、幅1.85m、深さ1.95mを測る。断面形状はU字状を呈する。上位には10~50cmの多量の礫が入っていた。木製品をはじめ多種多様の遺物が多量に出土している。これらには中国製磁器（1505）、肥前系磁器（1506・1507）、肥前系陶器、瀬戸美濃系陶器（1508）、備前焼（1509）、丹波焼（1510）、土師質土器（1511）、瓦類、瓦質土器、砥石（S35）、鉄片のほか木製品の漆器椀（W242・W243）、曲物部材（W244~

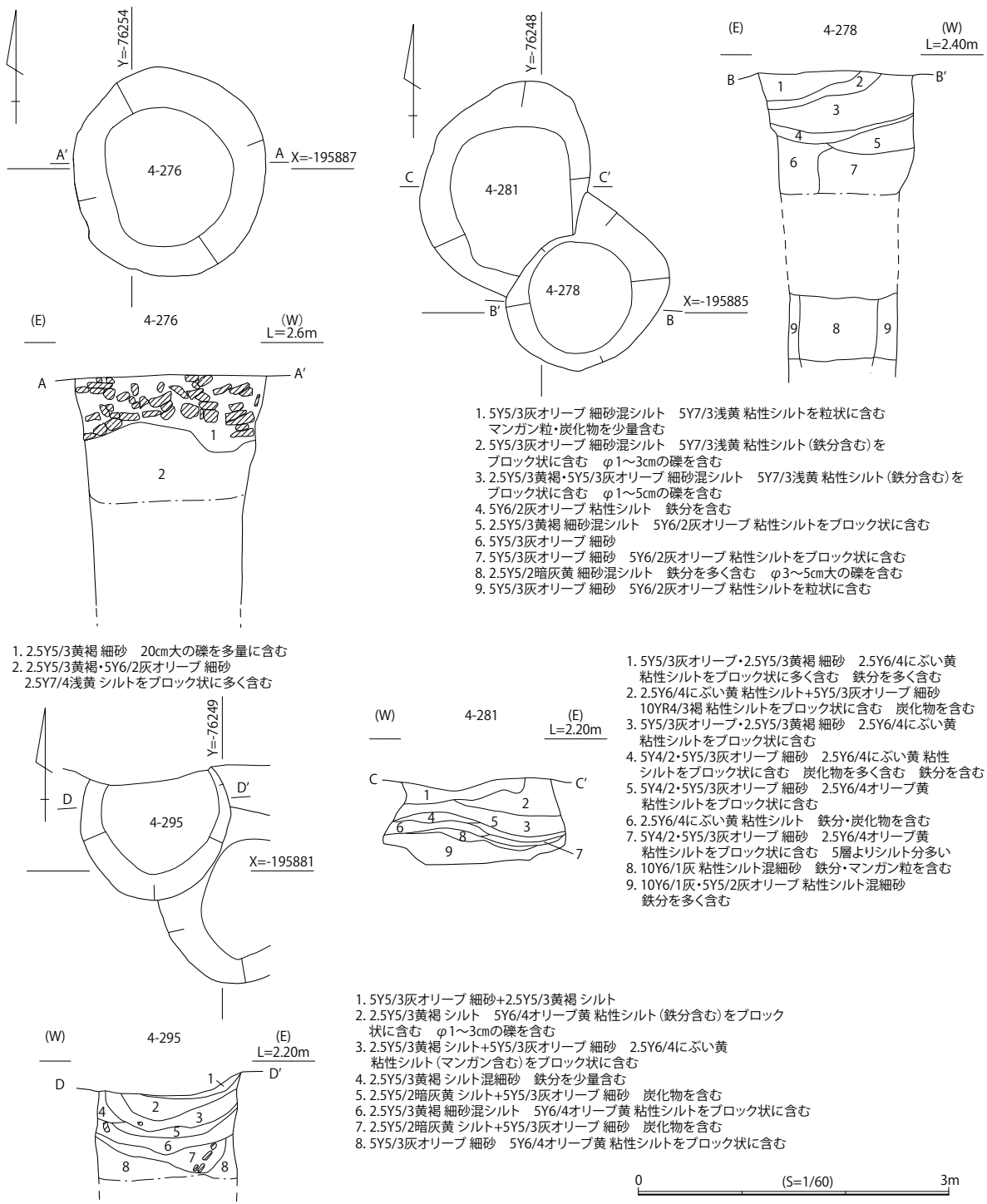


図139 3・4区 帰属面不明の遺構(4)

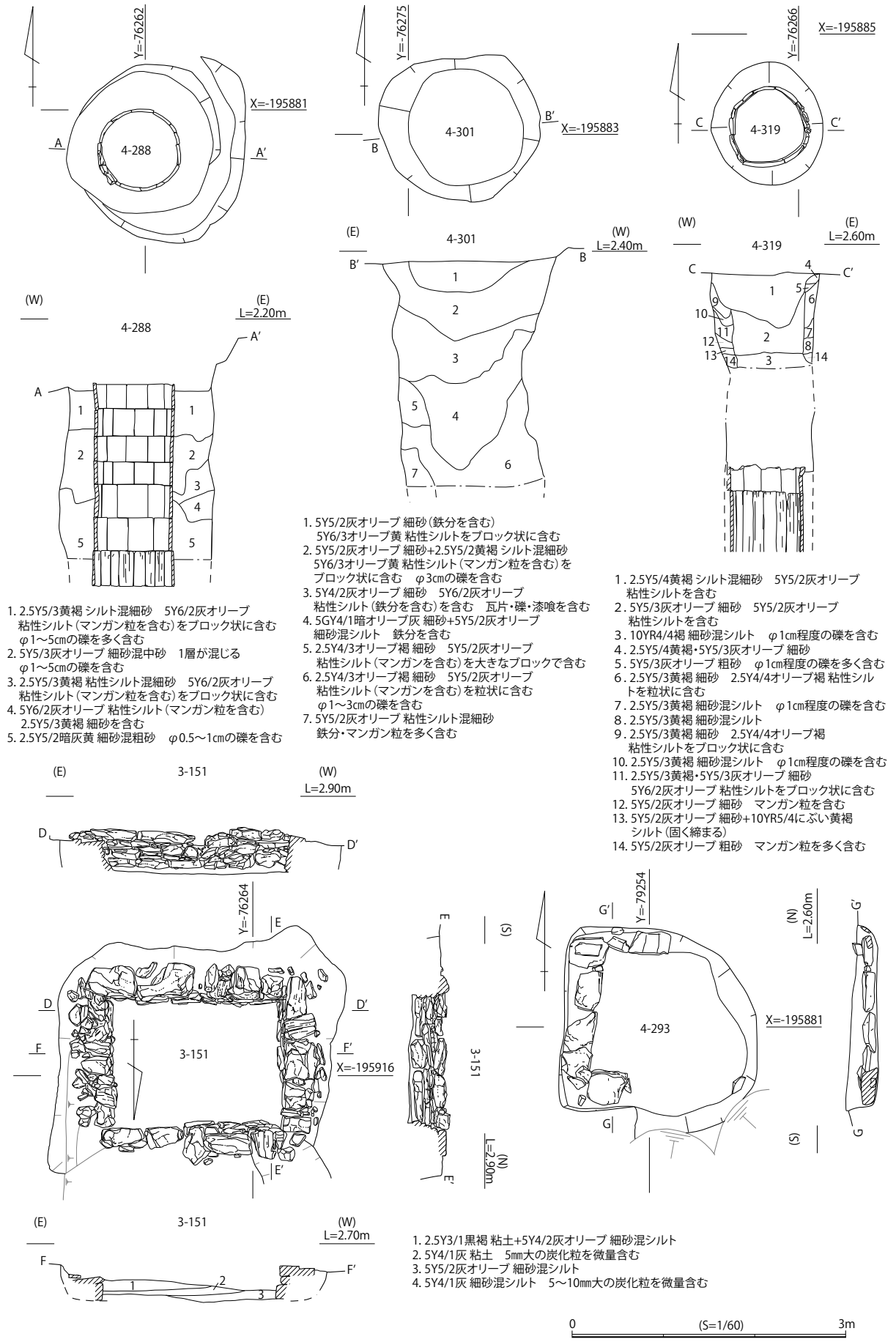
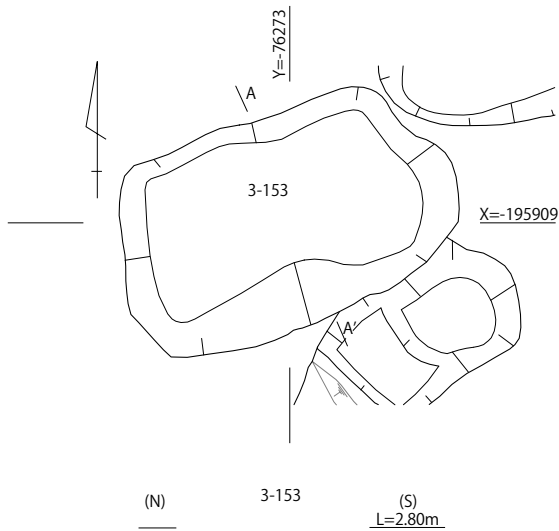


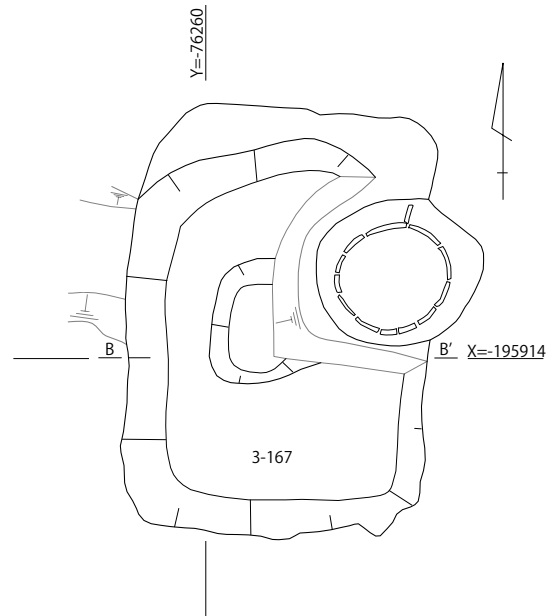
図 140 3・4区 帰属面不明の遺構 (5)



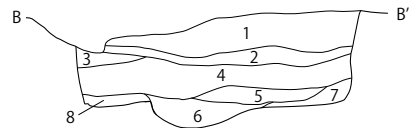
(N) 3-153 (S)  
L=2.80m



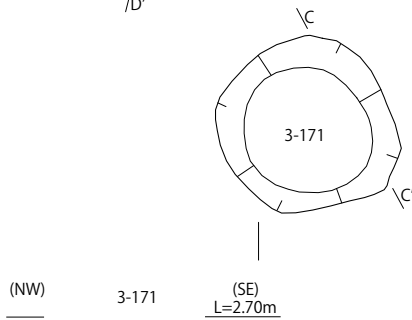
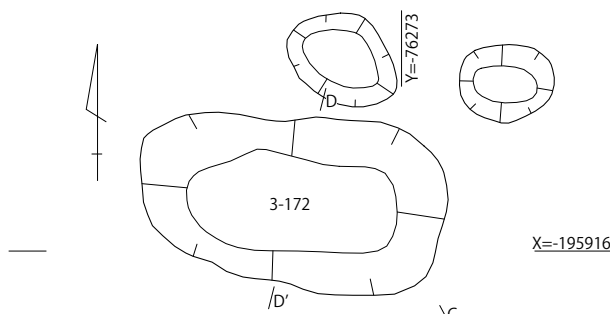
1. 5Y5/3灰オリーブ 細砂混シルト 片岩・礫を多く含む
2. 2.5Y4/2灰オリーブ 細砂混シルト 土器片・φ1~10cmの礫・瓦片・炭化物を含む
3. 2.5Y4/2暗オリーブシルト+5Y5/3灰オリーブ 細砂 土器片・φ5cm大の礫・瓦片多く含む 炭化物を少量含む



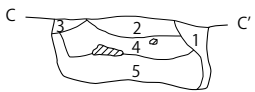
(W) 3-167 (E)  
L=2.70m



1. 2.5Y6/2灰黄・2.5Y4/1黄灰 粘土 鉄分を多く含む
2. 5Y5/2灰オリーブ・2.5Y5/4黄褐・2.5Y5/2暗灰黄 細砂混シルト 鉄分・マンガン粒を含む
3. 2.5Y5/6黄褐 細砂
4. 5Y5/2灰オリーブ・2.5Y5/3黄褐シルト混細砂 礫少量含む 鉄分を含む
5. 2.5Y5/3黄褐シルト 鉄分を含む
6. 5Y5/2灰オリーブ 細砂 鉄分を含む
7. 2.5Y5/3黄褐 細砂混シルト
8. 2.5Y5/3黄褐シルト混細砂 鉄分を含む

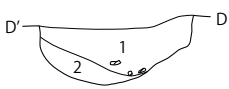


(NW) 3-171 (SE)  
L=2.70m

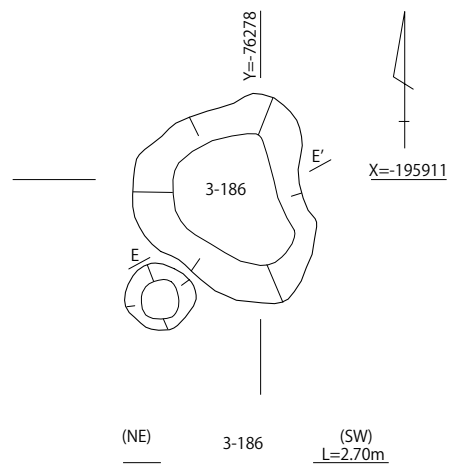


1. 5Y4/2灰オリーブ 細砂 固く締まる
2. 5Y5/3灰オリーブシルト混細砂 土器片・礫・貝殻を含む
3. 5Y5/4オリーブ 細砂
4. 5Y5/3灰オリーブ・5Y5/2灰オリーブシルト混細砂 炭化物・焼土・礫を含む
5. 5Y5/3灰オリーブ 細砂+2.5Y5/3黄褐シルト 礫・炭化物を含む

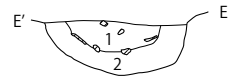
(S) 3-172 (N)  
L=2.70m



1. 5Y5/3灰オリーブシルト混細砂 炭化物を多く含む φ3~5cmの礫・貝殻・土器片・瓦片を含む
2. 5Y5/4オリーブシルト混細砂 2.5Y7/3浅黄粘土をブロック状に含む φ1~3cmの礫・貝殻・炭化物を含む



(NE) 3-186 (SW)  
L=2.70m



1. 5Y5/2灰オリーブ 細砂混シルト 漆喰(2.5Y7/4浅黄)を多量に含む 礫・瓦片を含む
2. 5Y4/2灰オリーブ 細砂混シルト 漆喰(2.5Y7/4浅黄)を含む φ5~10cmの礫を多く含む

0 (S=1/60) 3m

図 141 3・4区 帰属面不明の遺構 (6)



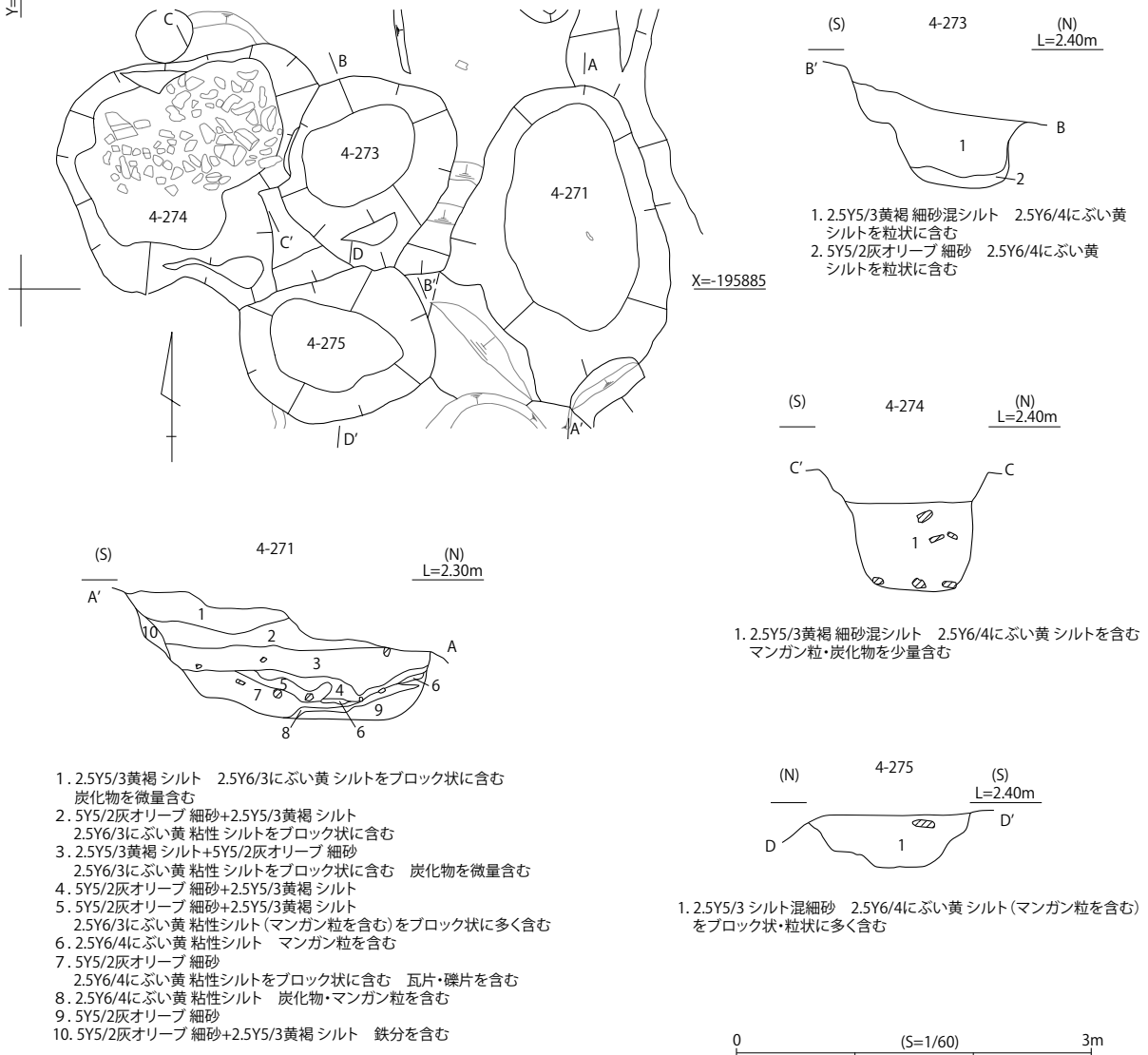
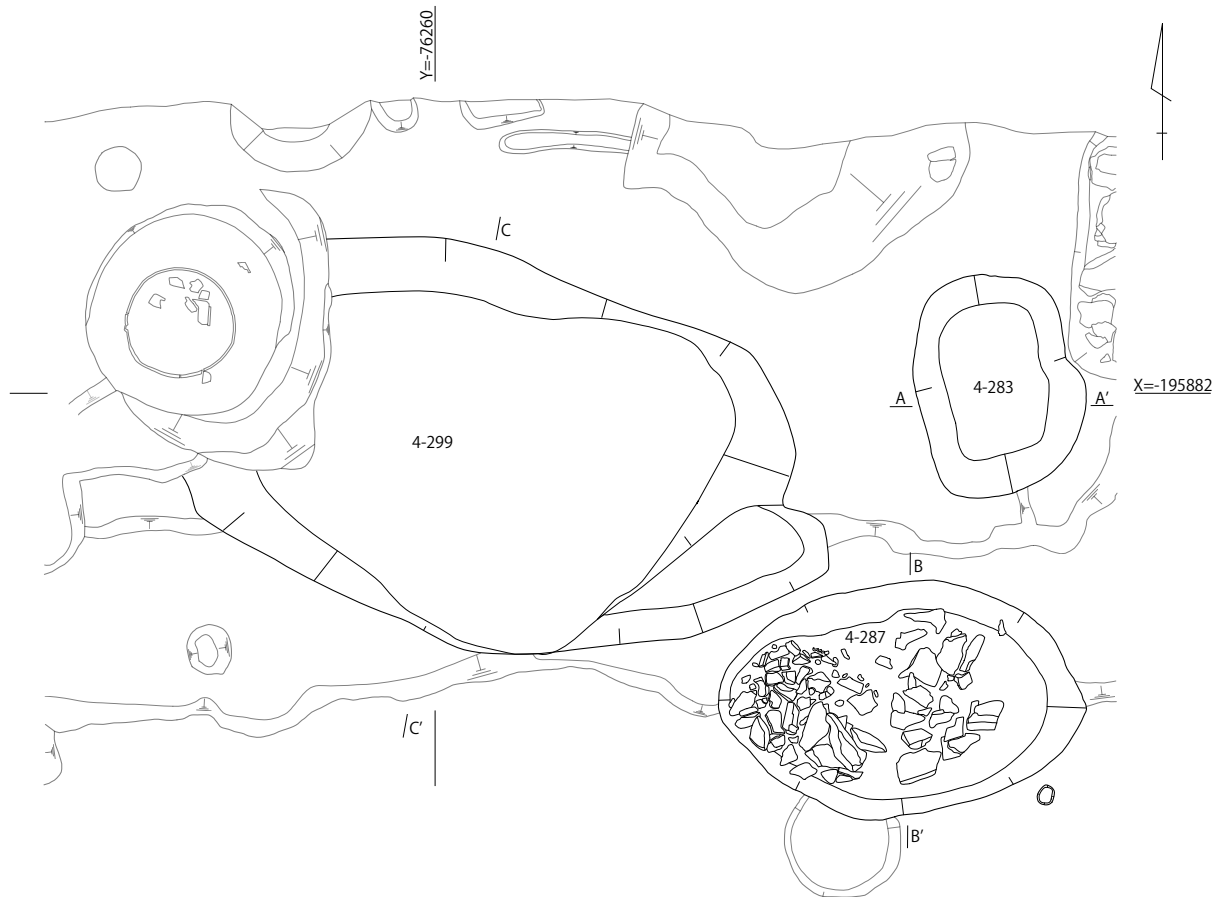


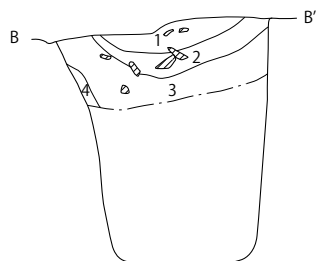
図 142 3・4区 帰属面不明の遺構(7)

W247)、折敷・三宝部材(W248~W250)、箸(W251~W256)、桶部材(W257~W261)下駄(W262~W265)、櫛(W266~W268)、扇骨(W269)、鎌(W270)、工具柄(W271)、篋(W272)、建具・建築部材(W273~W288)などのほか動物遺存体(貝類)がある(図149・183・200~203、図版85・94・105・106)。

4-299土坑は西側を4-288井戸によって削平される。平面形状は不整楕円形を呈し、規模は長さ5.80m以上、幅3.05m、深さ1.50mを測る。壁は直に落ちるか、オーバーハングし、底面は比較的平坦である。木製品をはじめ多種多様の遺物が多量に出土している。これらには肥前系磁器(1520~1530)、肥前系陶器(1532~1534)、瀬戸美濃系陶器(1531)、備前焼(1535~1537)、丹波焼(1538)、土師質土器(1539~1541)、瓦質土器(1542)、瓦類(T32)、石灰岩、鉄釘、煙管(M85)のほか、木製品の荷札(W290)・漆器椀(W291~W299)・箸(W300)・下駄(W301~W307)・木槌(W308)・工具柄(W309)などのほか、動物遺存体(貝類)が出土している(図149・150・172・186・203・204、図版85・97・106・107)。

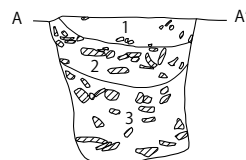


(N) 4-287 (S) L=2.60m



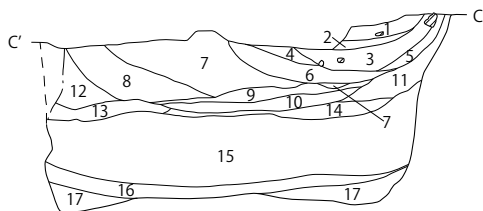
1. 2.5Y6/4にぶい黄シルト (鉄分を含む)
2. 2.5Y5/3黄褐シルトを含む 炭化物を含む
2. 2.5Y5/3黄褐粘性シルト (鉄分を含む)
- 5Y5/3灰オリブ・10YR3/3暗褐シルトを含む
3. 5Y5/3灰オリブ・10YR3/3暗褐シルト
- 2.5Y5/2暗灰黄シルトを粒状に含む
4. 2.5Y5/3浅黄シルト混細砂+5Y6/2灰オリブ粘性シルト 鉄分多く含む

(W) 4-283 (E) L=2.60m



1. 2.5Y5/3黄褐シルト混細砂 5Y6/2灰オリブ粘性シルト (鉄分を含む) をブロック状に含む
2. 5Y5/2灰オリブ細砂 2.5Y4/2暗灰黄シルトと5Y6/3オリブ黄粘性シルトをブロック状に含む
3. 5Y6/2灰オリブ細砂混シルト 鉄分を含む

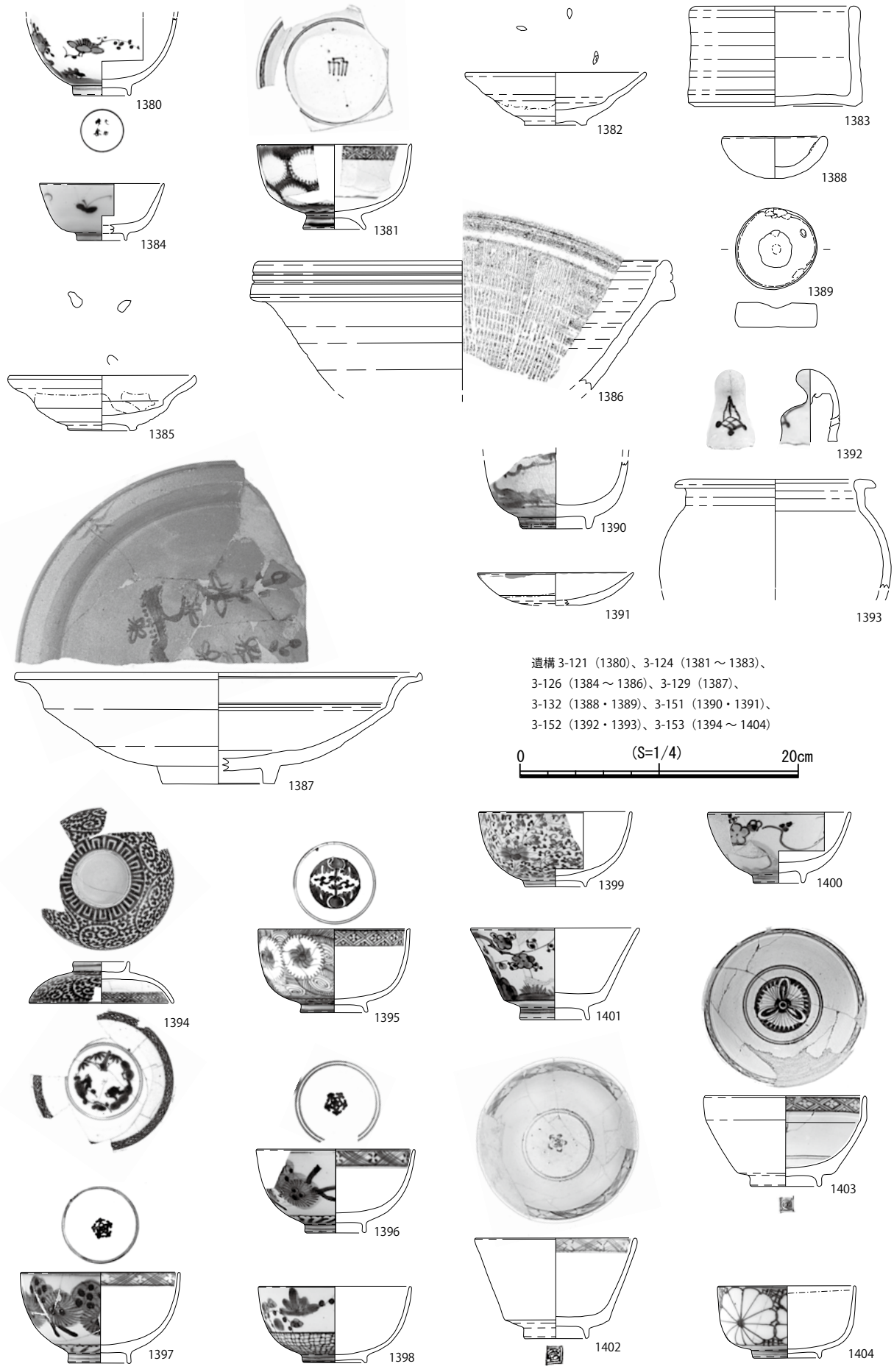
(S) 4-299 (N) L=2.80m



1. 2.5Y5/3黄褐シルト混細砂 炭化物・瓦を含む
2. 2.5Y5/3黄褐シルト混細砂 炭化物を微量含む
3. 2.5Y5/2暗灰黄シルト混細砂 炭化物を多く含む
4. 2.5Y5/3黄褐シルト混細砂 2.5Y6/3にぶい黄粘性シルトをブロック状に含む
5. 2.5Y5/3・2.5Y5/4黄褐細砂混シルト 2.5Y6/4にぶい黄粘性シルトを粒状に含む 炭化物を少量含む
6. 2.5Y5/2暗灰黄シルト混細砂 2.5Y6/3にぶい黄粘性シルトを含む
7. 2.5Y5/3・2.5Y5/4黄褐細砂混シルト 2.5Y6/4にぶい黄粘性シルトを粒状に含む 炭化物を少量含む
8. 2.5Y5/3・2.5Y5/4黄褐細砂混シルト 2.5Y6/4にぶい黄粘性シルトを粒状に多く含む 炭化物を少量含む
9. 2.5Y5/2暗灰黄粘性シルト 炭化物を微量含む
10. 2.5Y3/2オリブ黒粘性シルト 炭化物を含む
11. 2.5Y5/2暗灰黄粘性シルト 炭化物を含む
12. 2.5Y5/3黄褐・5Y6/2灰黄細砂混シルト
13. 5Y6/2灰オリブ細砂混シルト
14. 2.5Y5/2暗灰黄粘性シルト+5Y6/2灰オリブ細砂 炭化物を微量含む
15. 5Y6/2灰オリブ細砂 (鉄分を含む) 2.5Y6/4にぶい黄粘性シルトをブロック状に含む φ1~2cmの礫を含む
16. 2.5GY5/1オリブ灰細砂
17. 5GY2/1オリブ黒粘性シルト 木製品を多く含む

0 (S=1/60) 3m

図 143 3・4区 帰属面不明の遺構 (8)



遺構 3-121 (1380)、3-124 (1381 ~ 1383)、  
 3-126 (1384 ~ 1386)、3-129 (1387)、  
 3-132 (1388・1389)、3-151 (1390・1391)、  
 3-152 (1392・1393)、3-153 (1394 ~ 1404)

0 (S=1/4) 20cm

図 144 3・4区 帰属面不明の遺構 出土土器 (1)

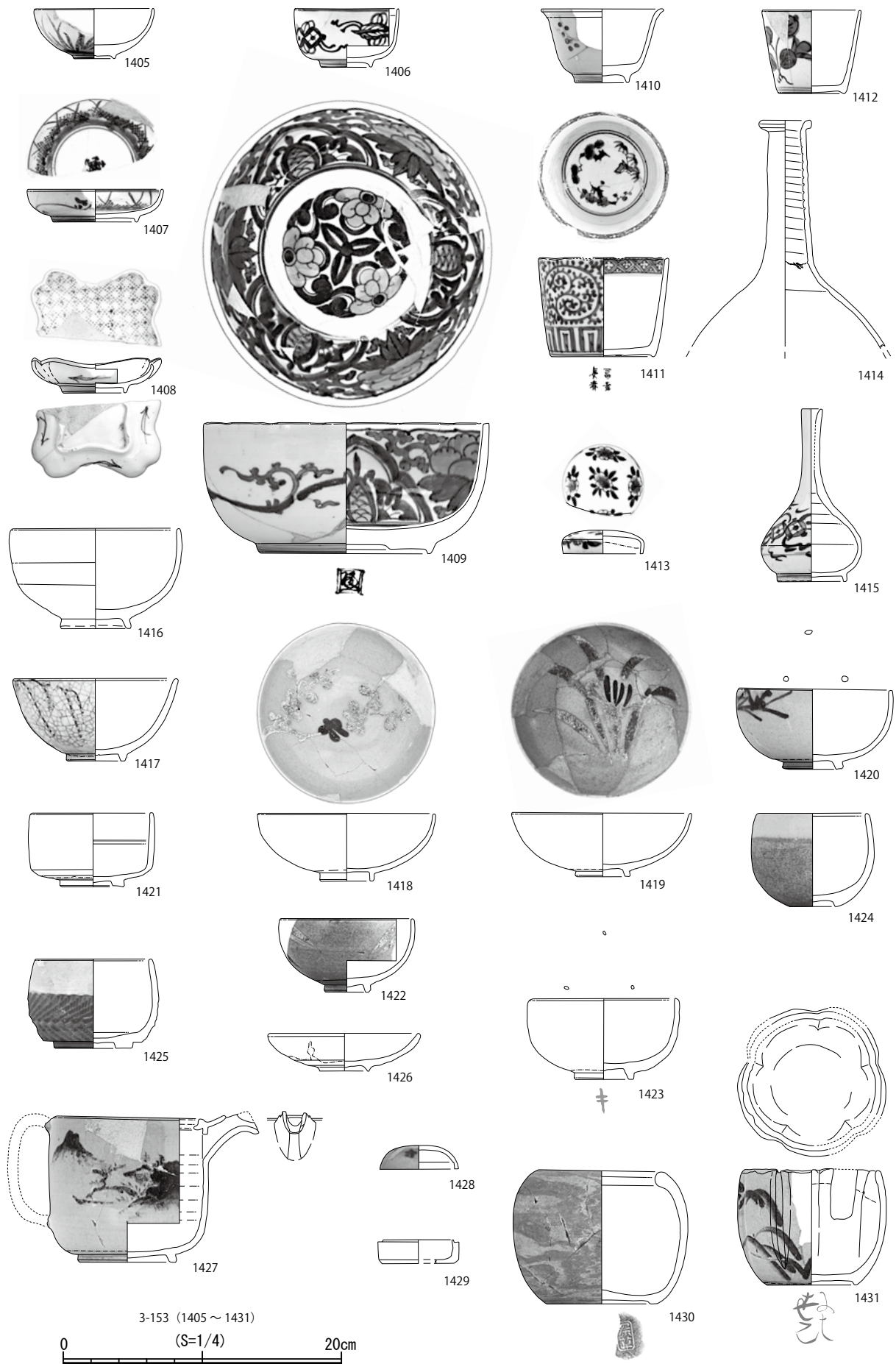


図 145 3・4区 帰属面不明の遺構 出土土器 (2)

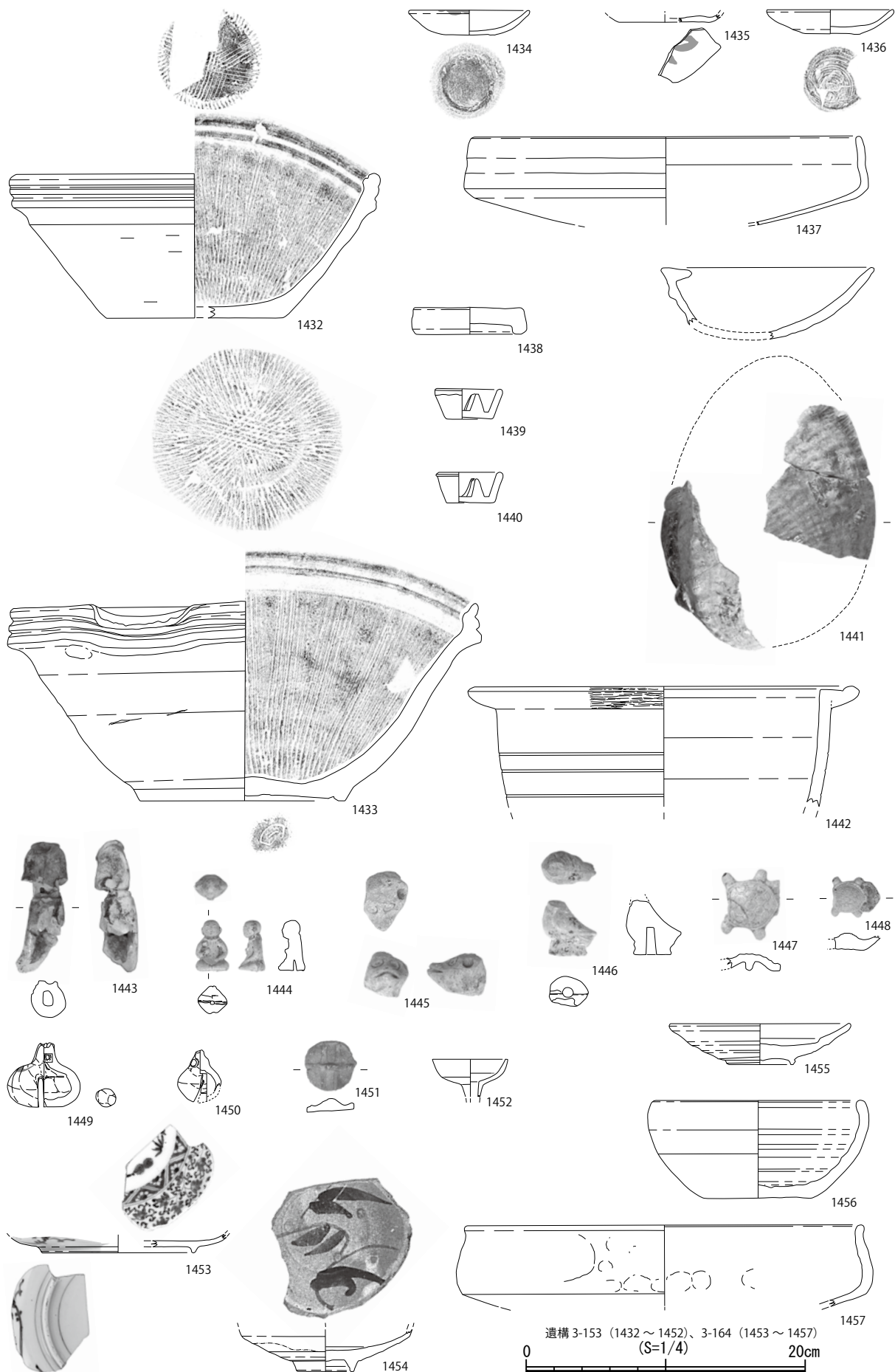
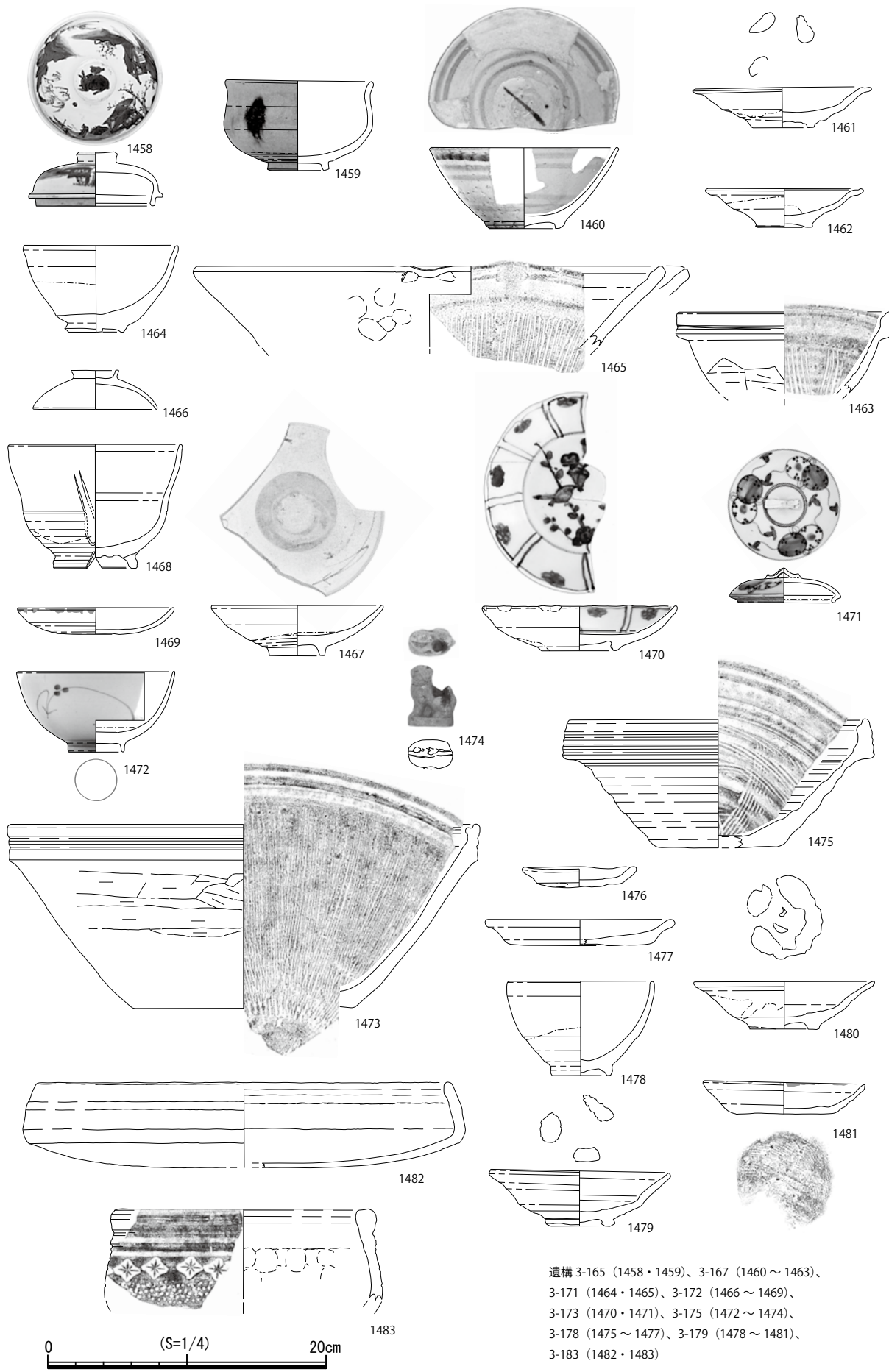


図 146 3・4区 帰属面不明の遺構 出土土器 (3)





遺構 3-165 (1458・1459)、3-167 (1460～1463)、  
 3-171 (1464・1465)、3-172 (1466～1469)、  
 3-173 (1470・1471)、3-175 (1472～1474)、  
 3-178 (1475～1477)、3-179 (1478～1481)、  
 3-183 (1482・1483)

図 147 3・4区 帰属面不明の遺構 出土土器 (4)

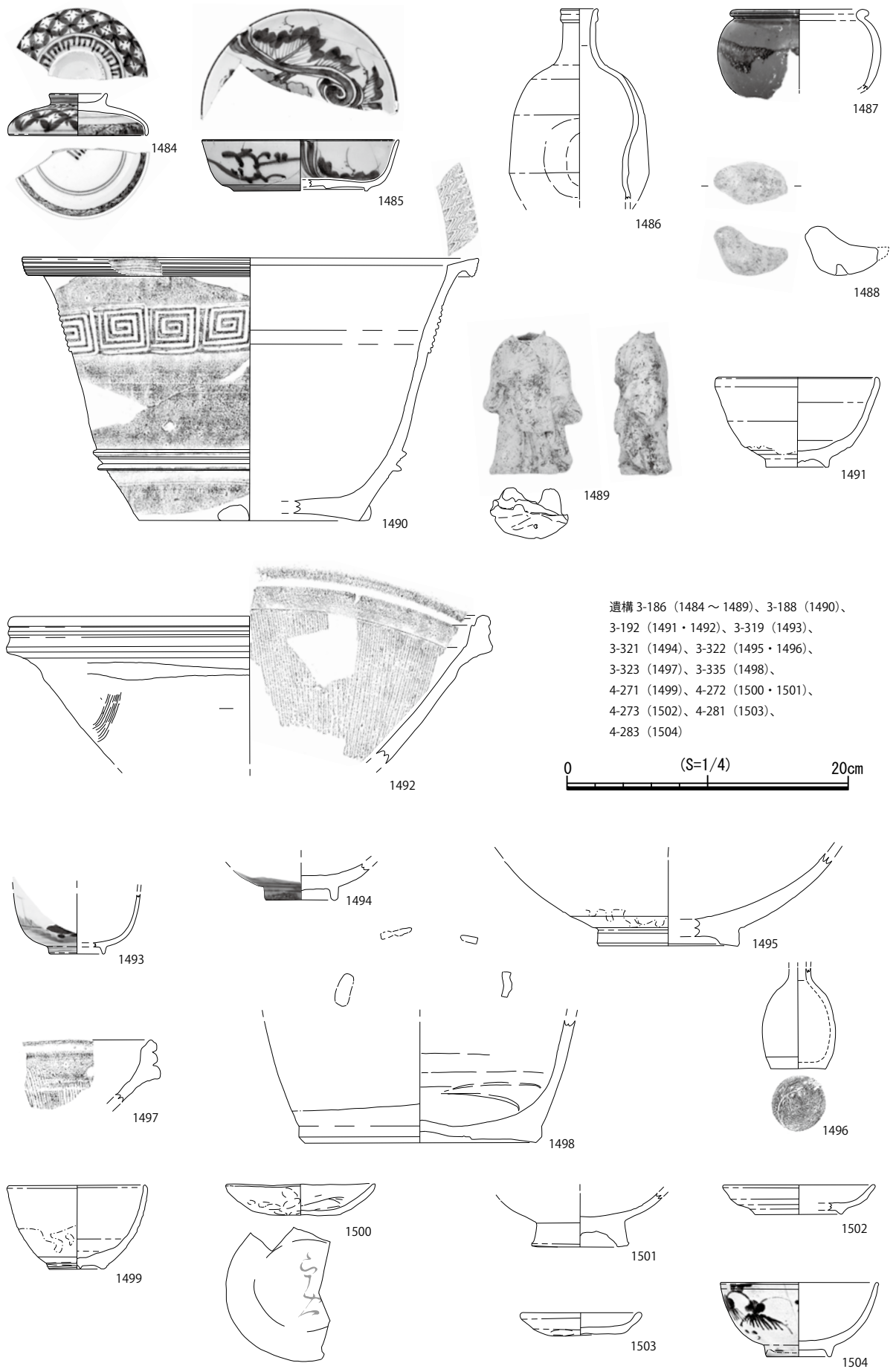


図 148 3・4区 帰属面不明の遺構 出土土器 (5)



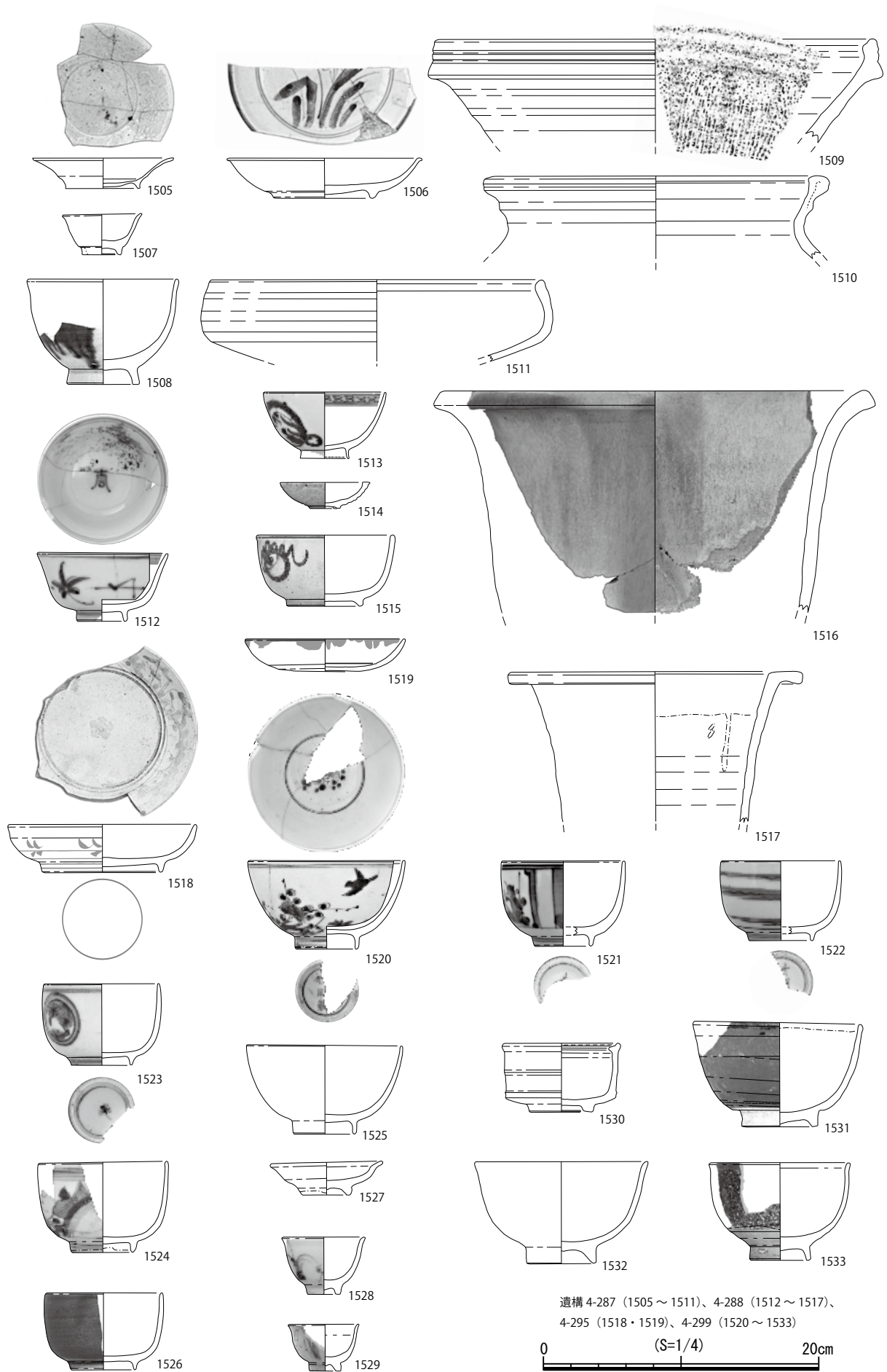


図 149 3・4区 帰属面不明の遺構 出土土器 (6)

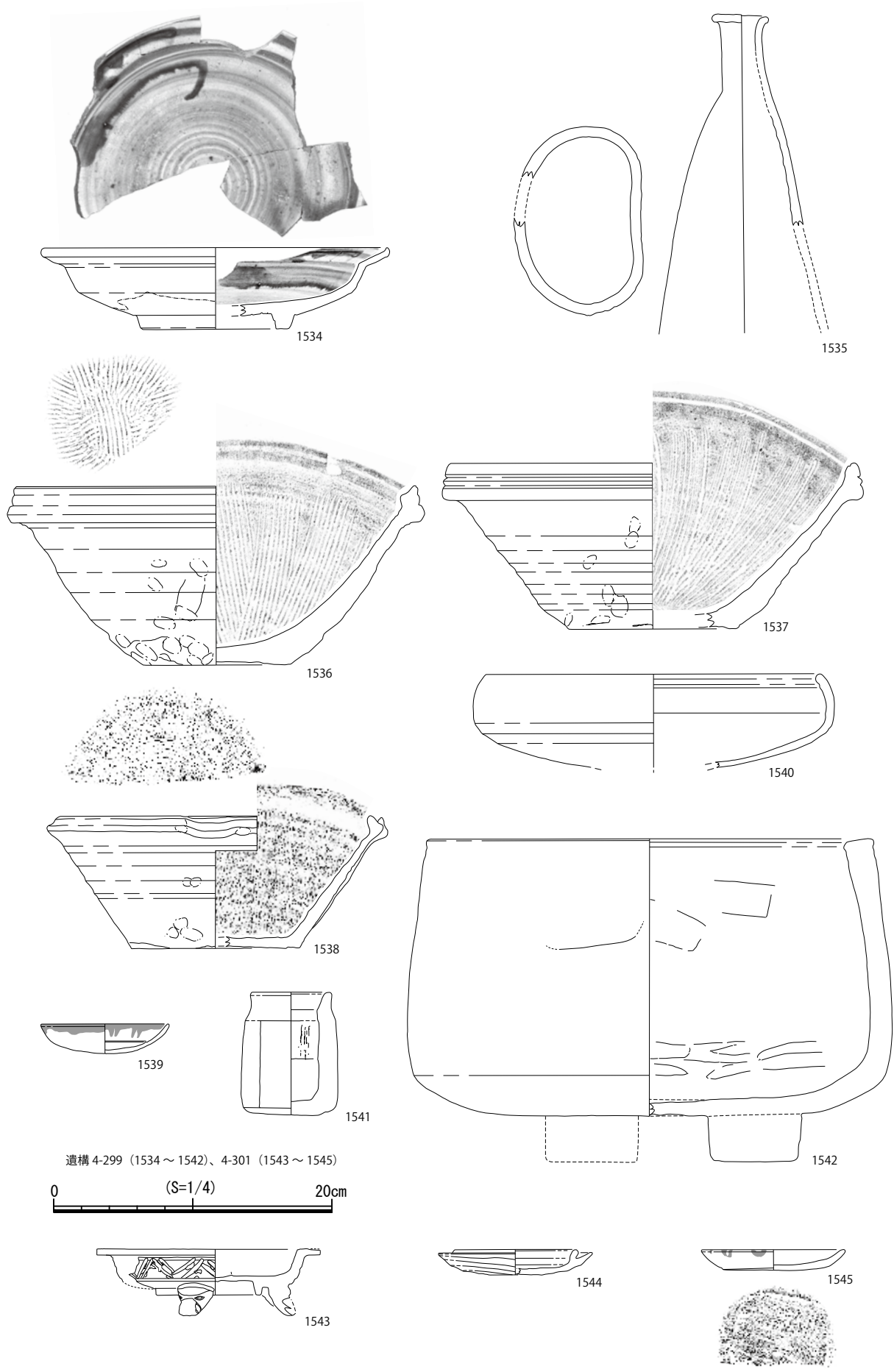


図 150 3・4区 帰属面不明の遺構 出土土器 (7)

## 8 第5-1遺構面の遺構（図151、図版25・26・28）

1・2区と同様に風成堆積した砂に埋没した状態で、大溝と畝の畝を検出している。畝は大溝から東側で検出しているが、1・2区側に比べ砂層が厚くないことから、上面の遺構や攪乱の影響を受けて、検出した箇所は部分的である。土坑等も検出しているが、本来は上面遺構の掘り残しか第5-2遺構面に帰属する遺構であると考えられる。大溝については、第5-2遺構面で説明する。

### 畝

大溝より東側で検出した畝の畝は、1・2区と同様に東西方向で、畝間溝は1.30～1.80mの間隔である。畝の西端は大溝から2.50～5.00m隔てており、その間に道などを想定することができる。また、畝が確認できる東端は大溝から20.00m付近までで、1・2区同様に大溝から東側の畝は畝が長く伸びるものでなかった可能性がある。畝の畝は重層するものでないことから、耕作は1期のみで終了していると判断できる。

## 9 第5-2遺構面の遺構（図152・170、図版27・29・86）

大溝の東側で畑の耕作土あるいは整地土を除去した面で石組柵、井戸・土坑などを検出した。井戸は存在するものの、建物遺構は検出できなかった。また、上位の整地層や遺構検出時に出土した遺物には瀬戸美濃系陶器（1637～1641）、土師質土器（1642～1650）、瓦質土器（1651）、取鍋（1652・1653）などがある。

### 3-290石組柵（図153、図版47）

3区の東側で検出した石組柵で、削平されて基底部の一部が残る程度である。掘形は明確でなく、石組の内法は1.90m四方に復元でき、深さは残りの良い箇所で0.15mを測る。石材は10～30cmの結晶片岩で、2段積まれた箇所も確認できた。遺物は土師質土器が出土している。

### 4-270井戸（図153、図版47）

4区の中央東寄りで検出した井戸である。検出面での掘形の平面形状は不整円形を呈し、規模は1.15m×1.10mを測る。井戸側は上方では確認できず、下位で断割りをおこない標高-0.80mまで掘り下げたがそれでも確認することができなかった。遺物は瓦片が出土している。

### 4-325井戸（図153・156、図版47・86）

4区の中央東寄りで検出した井戸である。第4-2遺構面で検出した4-151井戸に北側を削平されている。検出面での平面形状は楕円形で、規模は長さ3.35m、幅2.70mを測る。井戸側は上位が石積みで、内径は直径0.45mを測る。検出面から0.70m下の標高1.4m付近までが石積みとなっている。石材は5～20cm程度の比較的小さな結晶片岩で、それを横位を基本に積み上げていた。中位での井戸側は痕跡のみであったが、下位で行った断割りで桶が積まれていることが明らかになった。桶は直径が0.55m、高さが0.75m以上を測る。確認した深さは標高-0.50mまでで、桶が何段積まれているか明らかでない。また、石積みと桶との間の井戸側も、本来は桶積みであったと判断できる。遺物は瀬戸美濃系陶器（1571）、備前焼（1572）、土師質土器などが出土している。

### 3-242土坑（図154、図版47）

3区の中央付近で検出した土坑で、平面形状は楕円形を呈する。規模は長さ2.05m、幅1.90

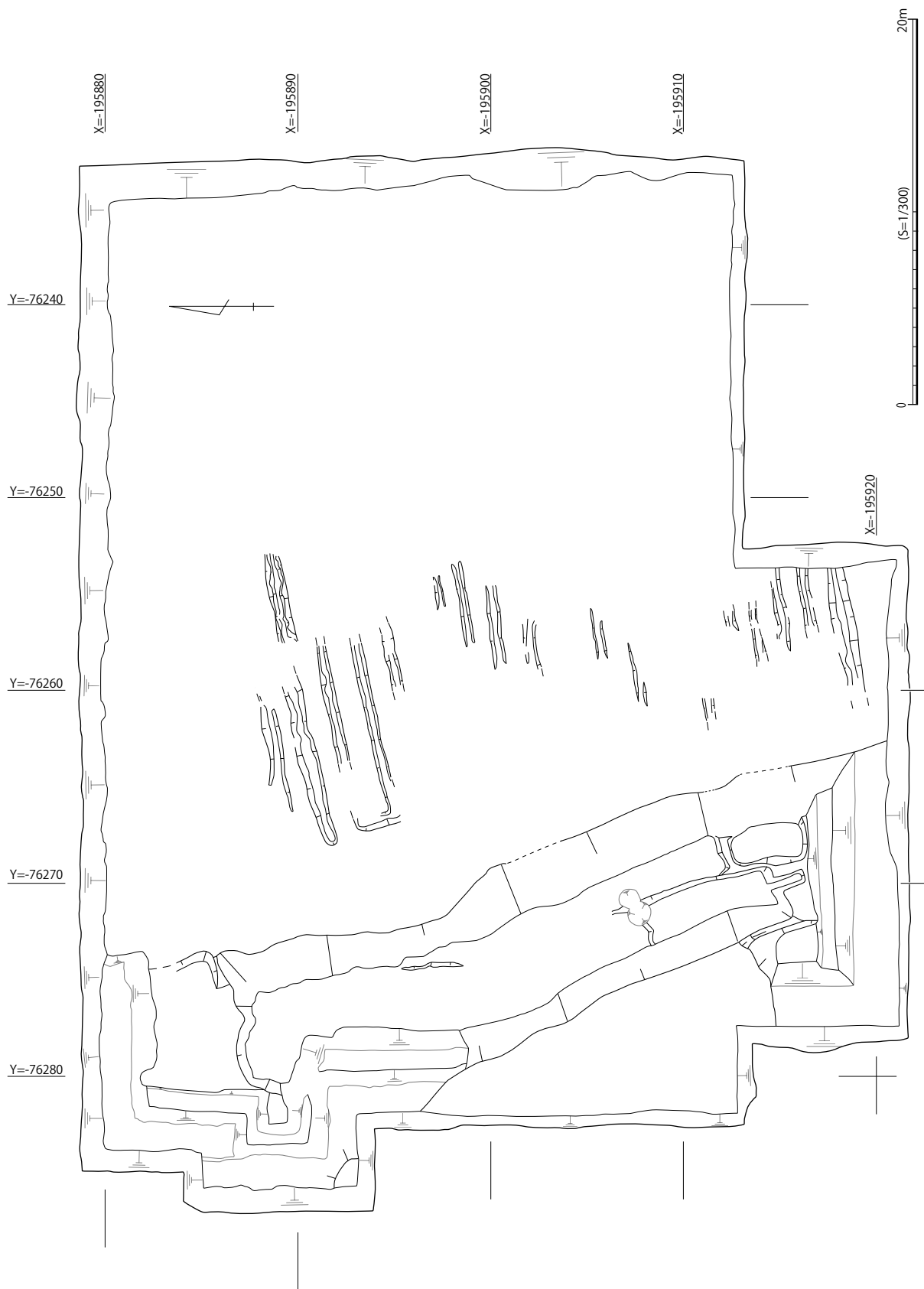


图 151 3・4区 第5-1遺構面 全体図

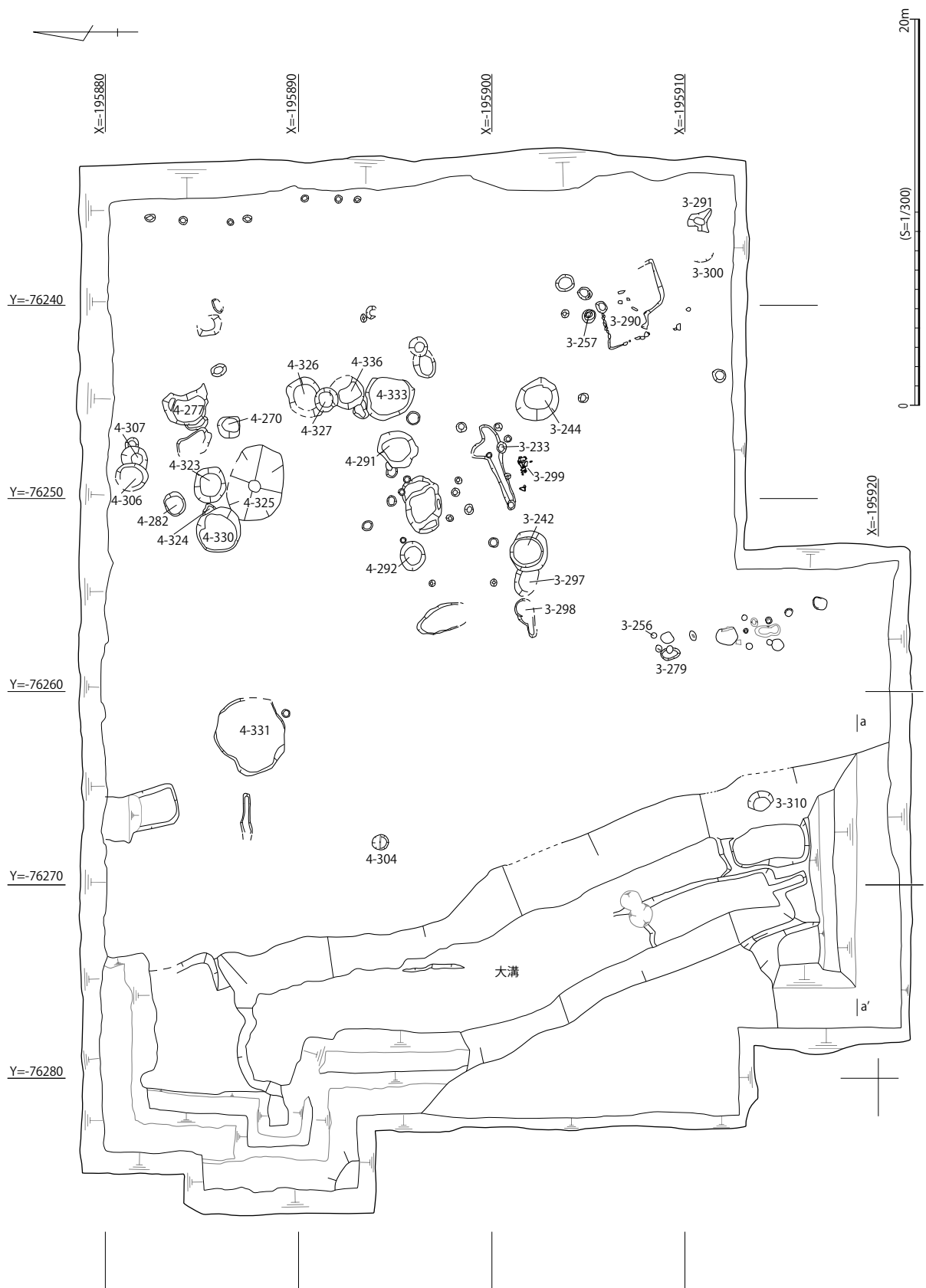


図 152 3・4区 第5-2遺構面 全体図

m、深さ2.40mを測る。断面形状はU字状を呈する。断面は崩壊によって図化することができなかった。遺物は土師質土器、瓦が出土している。平面や断面の形状、深さなどから井戸の可能性も考えたが、井戸側の痕跡がないこと、井戸ほど深くないことや遺物が少ないことなどから粘土採掘土坑の可能性もある。

### 3-244土坑（写真18）

3区の中央付近で検出した土坑で、平面形状は楕円形を呈する。規模は長さ2.20m、幅2.00m、深さ0.95mを測る。断面は崩壊によって図化することができなかったが、直径1.00mの範囲で底面が平坦になっていることから、埋桶遺構の可能性が考えられる。掘削中にも桶の痕跡は確認できなかったことから、桶を抜き取っていたと判断できる。遺物は瓦片が出土している。



写真18 3-244土坑（北西から）

### 4-277土坑（図154・156）

4区の北東部で検出した土坑で、東側を江戸時代の4-274土坑に削平される。検出面での平面形状は不整楕円形を呈し、規模は長さ2.30m、幅1.70mで、深さは残りの良い箇所では1.05mを測る。断面の形状は深い船底状を呈する。遺物は瀬戸美濃系陶器（1559）、備前焼、土師質土器、瓦の細片のほか、混入遺物として古代の須恵器が出土している。

### 4-291・292土坑（図154、図版47）

4区中央の東寄りで東西に並ぶ様に検出した土坑で、埋桶遺構と考えられる。

4-291土坑は平面形状が不整円形を呈し、規模は2.00m×1.90m、深さ0.70mを測る。断面形状は深い船底状を呈し、底は平坦である。底面は直径約1.00mの範囲でわずかに窪み、桶の痕跡であると考えられる。断面土層は底部付近を除き、細砂で一気に埋まった状況を示すことから、桶を抜き取った直後に埋まったと判断できる。このこともあって、遺物は出土していない。

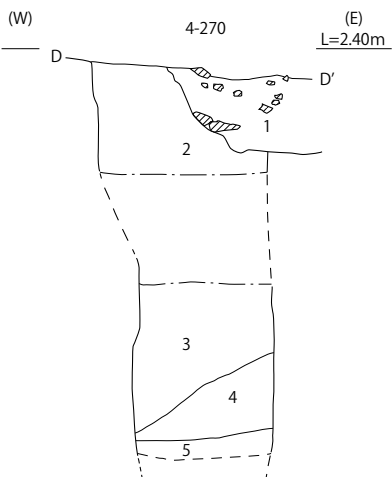
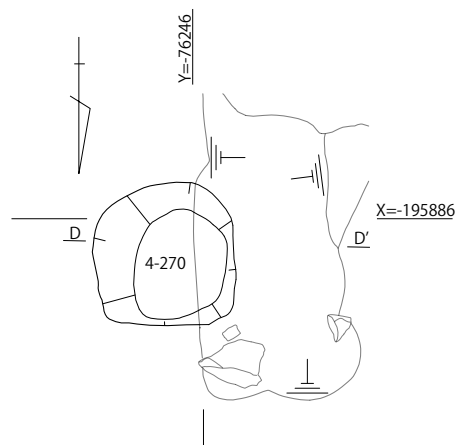
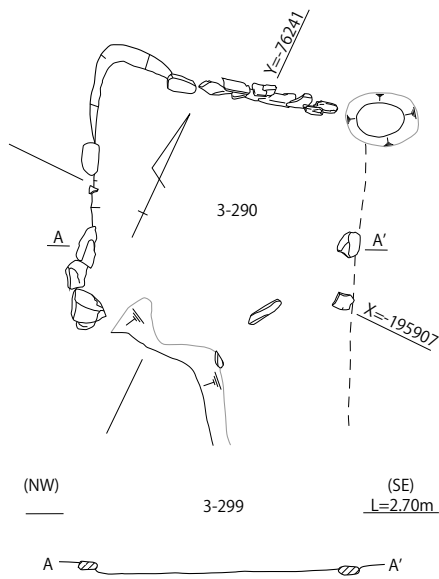
4-292土坑は4-291土坑の西側に位置し、平面形状が楕円形を呈する。規模は長さ1.48m、幅1.17m、深さ0.45mを測る。断面形状は船底状を呈し、底は平坦である。底面には直径約0.90mの範囲で圧痕が認められ、桶の痕跡であると考えられる。4-291土坑と同様に上位は細砂で一気に埋まった状況を示すことから、桶を抜き取った直後に埋まった可能性がある。このこともあって、遺物は出土していない。

### 4-306・307土坑（図155）

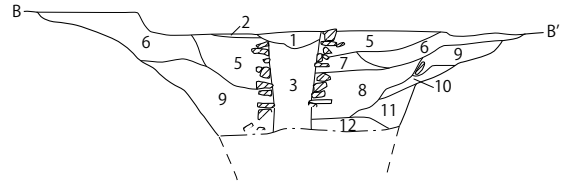
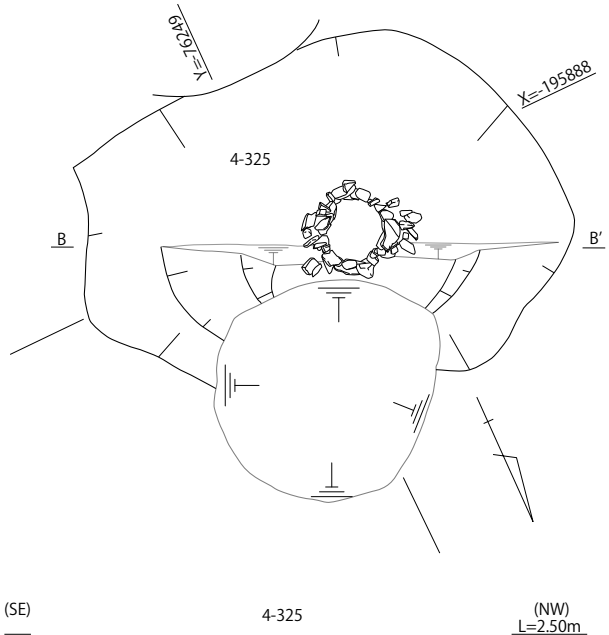
4区の東寄りの北端部で検出した土坑群である。4-306土坑は北西側の4-295井戸によって削平され、東側の4-307土坑を削平する。

4-306土坑は平面形状が楕円形で、規模は長さ1.63m、幅1.40m以上、深さ0.80mを測る。断面形状は深い船底状を呈する。遺物は少ないが、備前焼（1566）、瓦質土器（1567）、土師質土器（1568）、鉄塊などが出土している（図156、図版86）。

4-307土坑は平面形状が楕円形を呈していたと考えられ、規模は長さ1.25m、幅1.00mを測る。断面形状は船底状を呈する。遺物は少なく、土師質土器、瓦が出土している。



1. 4-155埋土
2. 5Y5/3灰オリブ 細砂 5Y5/2灰オリブ・10YR5/1褐灰 粘性シルトをブロック状に多く含む
3. 5Y5/2灰オリブ 細砂 5Y6/2灰オリブ 粘性シルト (鉄分・マンガン粒を含む)をブロック状に多く含む
4. 5Y5/2灰オリブ・10YR5/1褐灰・10YR4/1褐灰 粘性シルト
5. 10YR5/1褐灰 粘性シルト混細砂



1. 5Y5/2灰オリブ 細砂 5Y5/3浅黄 粘性シルトを粒状に含む 全体的にマンガン粒を含む
2. 5Y5/3灰オリブ 細砂 5Y5/3浅黄 粘性シルトを粒状に含む 全体的にマンガン粒を含む
3. 5Y5/3灰オリブ・10YR5/4にぶい黄褐 細砂 マンガン粒を含む
4. 5Y5/3灰オリブ 細砂
5. 2.5Y5/3黄褐シルト混細砂 2.5Y6/4にぶい黄・10YR6/1褐灰 粘性シルトと2.5GY6/1オリブ灰シルトをブロック状に多く含む
6. 2.5Y5/3黄褐シルト混細砂 2.5Y6/4にぶい黄 粘性シルト (マンガンを含む)・2.5GY6/1オリブ灰シルトをブロック状に多く含む
7. 2.5Y4/2暗灰黄シルト混細砂
8. 2.5Y4/2暗灰黄シルト混細砂 2.5Y6/4にぶい黄・10YR5/1褐灰 粘性シルトと2.5GY6/1オリブ灰シルトをブロック状に含む
9. 2.5Y5/2暗灰黄シルト混細砂 2.5Y6/4にぶい黄・10YR6/1 粘性シルトと2.5GY6/1オリブ灰シルトをブロック状に含む
10. 5Y5/2灰オリブ 細砂混細砂 2.5Y6/4にぶい黄 粘性シルトをブロック状に多く含む
11. 2.5Y6/3にぶい黄 粘性シルト 5Y6/2灰オリブ 細砂を含む
12. 10YR6/1褐灰 粘性シルト 5Y6/2灰オリブ 細砂を含む 鉄分・マンガン粒を含む
13. 5Y5/2灰オリブ 粘性シルト混細砂 (鉄分を含む) 10YR4/1褐灰・5Y6/3オリブ黄 粘性シルトをブロック状に含む
14. 5Y6/2オリブ灰 粘性シルト (鉄分・マンガン粒を含む) 5Y5/2オリブ灰 細砂を含む

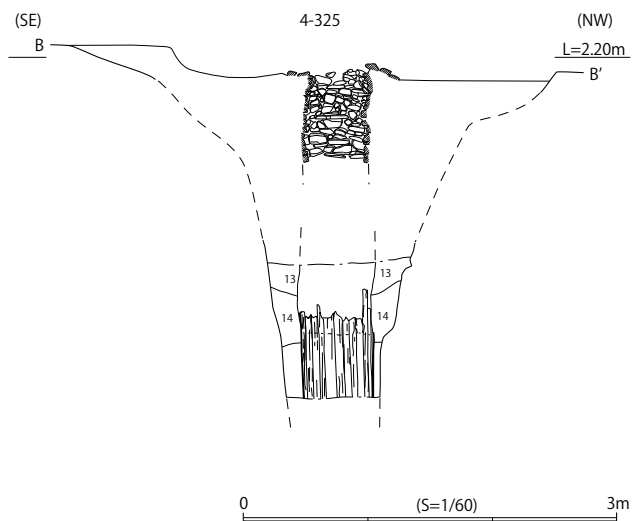
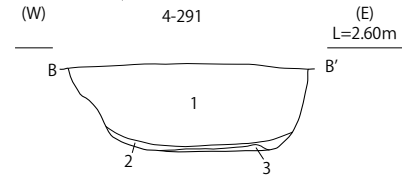
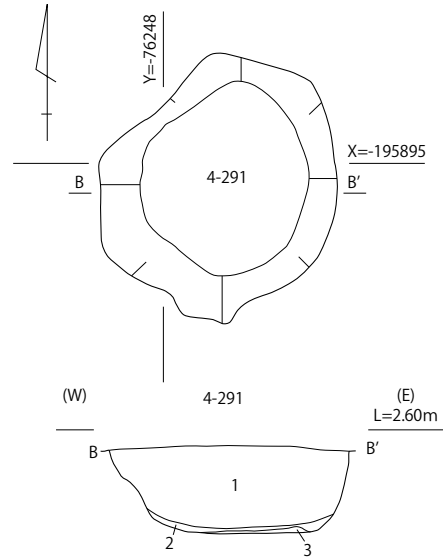
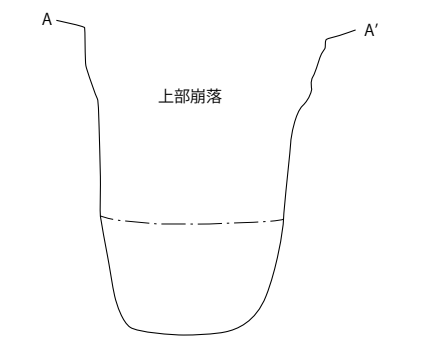
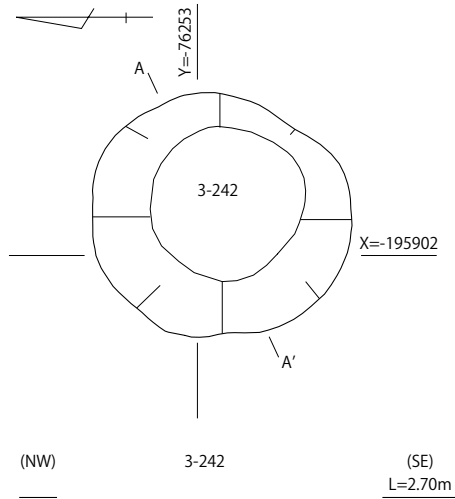
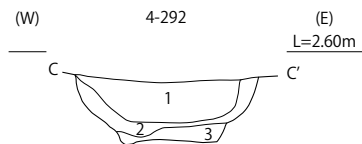
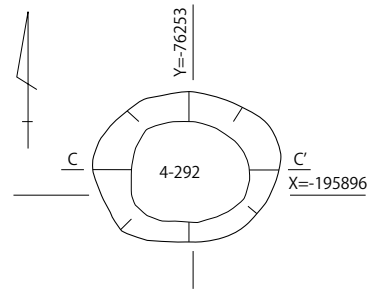


図 153 3・4区 第5-2遺構面 検出遺構(1)

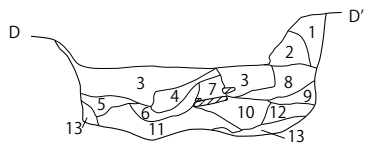
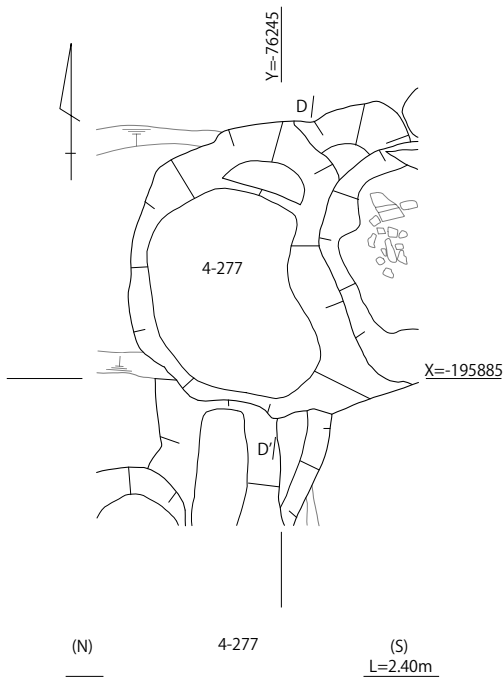




- 1. 5Y5/2灰オリブ 細砂 10Y4/2オリブ灰シルトを含む
- 2. 5Y5/2灰オリブ 細砂 鉄分を多く含む
- 3. 5Y5/2灰オリブ 細砂 5Y6/2灰オリブ 粘性シルトを含む 鉄分を含む



- 1. 5Y5/3灰オリブ 細砂
- 2. 2.5Y5-黄褐シルト 5Y5/3灰オリブ細砂と5Y6/3オリブ黄 粘性シルトをブロック状に含む
- 3. 5Y5/2灰オリブ 細砂 5Y6/3オリブ黄 粘性シルトをブロック状に含む



- 1. 2.5Y5/2暗灰黄シルト混細砂 2.5Y6/4にぶい黄シルト(マンガン粒を含む)ブロック状に含む 炭化物を含む
- 2. 2.5Y6/4にぶい黄 粘性シルト マンガン粒を含む
- 3. 5Y5/2・5Y5/3灰オリブ 細砂混シルト
- 4. 2.5Y6/4にぶい黄 粘性シルト マンガン粒を含む 2.5Y4/1褐灰 粘性シルトを帯状に含む 炭化物を含む
- 5. 2.5Y6/4にぶい黄 粘性シルト マンガン粒を含む 5Y5/3灰オリブ 細砂を含む
- 6. 5Y5/3灰オリブ 細砂 2.5Y5/2暗灰黄 粘性シルトをブロック状に含む
- 7. 2.5Y6/4にぶい黄 粘性シルト マンガン粒を多く含む 2.5Y4/1褐灰 粘性シルトを帯状に含む 炭化物を含む
- 8. 2.5Y6/4にぶい黄 粘性シルト マンガン粒を含む 5Y5/3灰オリブ 細砂 +2.5Y4/1褐灰 粘性シルトを含む
- 9. 5Y5/3灰オリブ 細砂 2.5Y5/2暗灰黄 粘性シルトをブロック状に含む
- 10. 2.5Y6/4にぶい黄 粘性シルト+5Y6/2灰オリブ 細砂 マンガン粒を含む
- 11. 5Y5/3灰オリブ 細砂 2.5Y6/4にぶい黄 粘性シルト(マンガン粒含む)をブロック状に含む
- 12. 2.5Y6/4にぶい黄 粘性シルト マンガン粒を多く含む
- 13. 2.5Y6/2灰黄 粘性シルト(鉄分を含む) 5Y5/3灰オリブ 細砂を含む

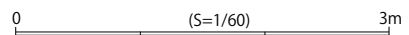
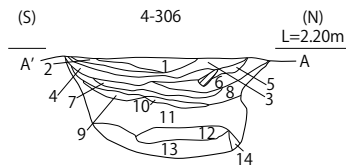
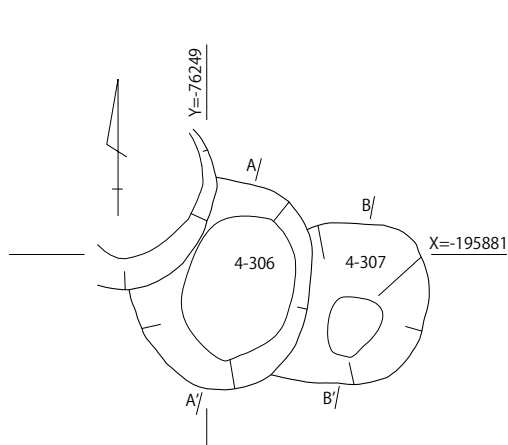
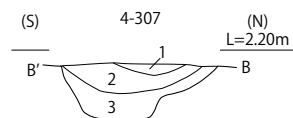
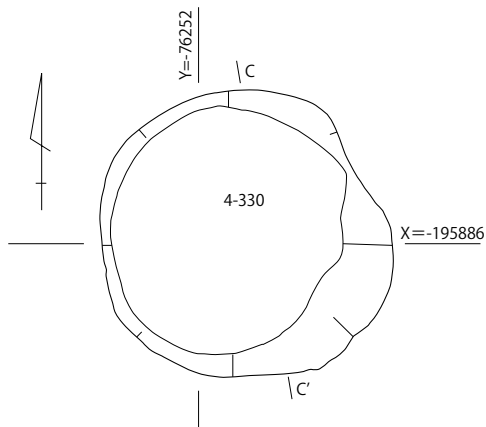


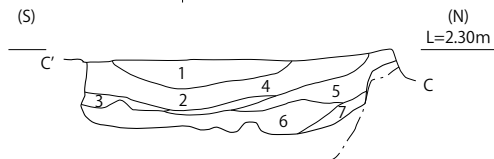
図154 3・4区 第5-2遺構面 検出遺構(2)



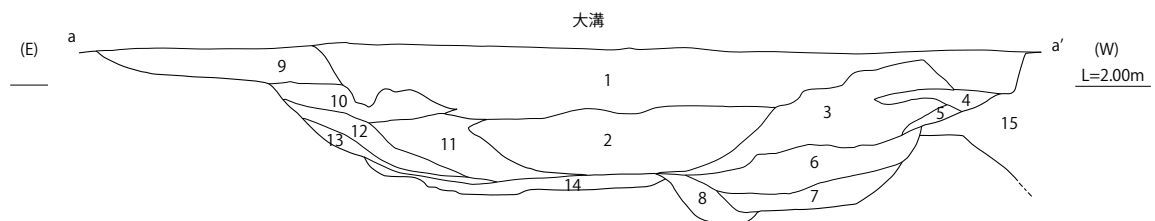
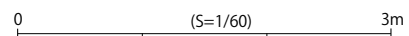
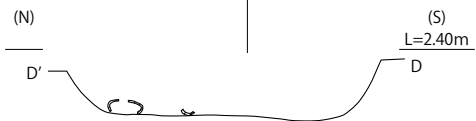
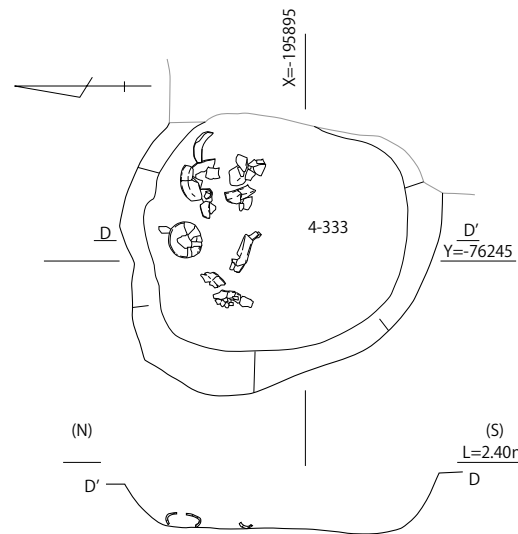
1. 2.5Y5/3黄褐シルト 2.5Y6/4にぶい黄粘性シルトをブロック状に含む
2. 2.5Y5/6黄褐 細砂
3. 5Y5/2灰オリブシルト混細砂 マンガン粒・土器片を含む
4. 5Y5/2・5Y5/3灰オリブシルト混細砂 炭化物を微量含む
5. 5Y5/2灰オリブシルト混細砂 2.5Y6/4にぶい黄粘性シルトをブロック状に含む 炭化物を多く含む
6. 5Y5/3灰オリブ・2.5Y5/3黄褐シルト混細砂 炭化物を含む
7. 5Y5/3灰オリブ・2.5Y5/3黄褐シルト混細砂 2.5Y6/4にぶい黄粘性シルトをブロック状に含む 炭化物を含む
8. 2.5Y5/3黄褐シルト混細砂 2.5Y6/4にぶい黄粘性シルトを粒状に含む 炭化物を含む
9. 2.5Y5/1黄灰シルト混細砂
10. 5Y5/3灰オリブ 細砂
11. 5Y5/2灰オリブ 細砂+2.5Y6/4にぶい黄粘性シルト(鉄分含む) 炭化物を少量含む
12. 5Y6/2灰オリブ 細砂 2.5Y6/4にぶい黄粘性シルト(鉄分を含む)をブロック状に多く含む 炭化物を多く含む
13. 2.5Y6/4にぶい黄粘性シルト 5Y6/2灰オリブ 細砂を含む
14. 5Y6/2灰オリブ 細砂



1. 2.5Y5/3黄褐シルト混細砂 炭化物を帯状に含む
2. 2.5Y5/3・2.5Y5/2暗灰黄シルト混細砂 焼土・炭化物を含む
3. 5Y5/2灰オリブ 細砂+2.5Y6/4にぶい黄粘性シルト(鉄分含む)



1. 2.5Y5/3黄褐 細砂混シルト 5Y6/2灰オリブ 粘性シルトをブロック状に含む 炭化物・マンガン粒を含む
2. 2.5Y5/3黄褐 細砂混シルト 5Y6/2灰オリブ 粘性シルトをブロック状に含む 炭化物を疎らに含む
3. 2.5Y5/4黄褐・5Y5/3灰オリブ 細砂
4. 5Y5/2灰オリブ 細砂 5Y6/2灰オリブ 粘性シルト・2.5Y2/1黒シルトを帯状に含む
5. 5Y5/2灰オリブ 細砂混シルト 5Y6/2灰オリブ 粘性シルトを粒状に含む
6. 2.5Y5/2暗灰黄 細砂混シルト(マンガン粒を含む) 5Y6/2灰オリブ 粘性シルト(鉄分を含む)を多く含む
7. 5Y6/2灰オリブ 粘性シルト 5Y5/2灰オリブ 細砂を含む



1. 5Y5/3灰オリブ 中・細砂
2. 2.5Y4/3オリブ褐 中・細砂
3. 10YR5/2灰黄褐シルトのブロック90%+10YR4/2灰黄褐 中砂10%
4. 2.5Y4/2暗灰黄 中・細砂
5. 2.5Y4/3オリブ褐 中・細砂
6. 10YR5/2灰黄褐シルトブロック70%+10YR4/2灰黄褐 中・細砂30%
7. 2.5Y4/2暗灰黄シルト混中細砂
8. 2.5Y4/1黄灰シルト90%+10YR4/2灰黄褐 中砂10%
9. 2.5Y5/3黄褐 中・細砂 10YR5/3にぶい黄褐シルトをブロックで含む
10. 10YR4/3にぶい黄褐シルト混中砂
11. 10YR5/2灰黄褐シルトのブロック70%+10YR4/2灰黄褐 中砂30%
12. 10YR5/2灰黄褐シルトのブロック40%+10YR4/2灰黄褐 中砂60%
13. 10YR5/2灰黄褐シルトのブロック80%+10YR4/1~4/1(褐灰~灰黄褐) 中・細砂20%
14. 2.5Y4/1黄灰シルト50%+2.5Y4/1黄灰 中・細砂50%
15. 5Y5/3灰オリブ 中砂

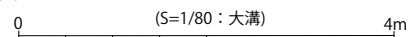


図 155 3・4区 第5-2遺構面 検出遺構(3)

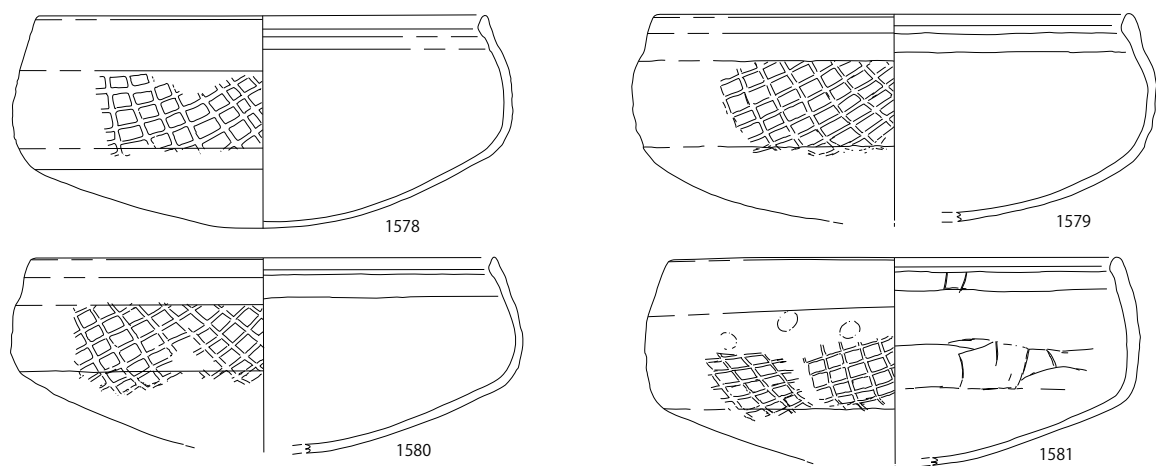
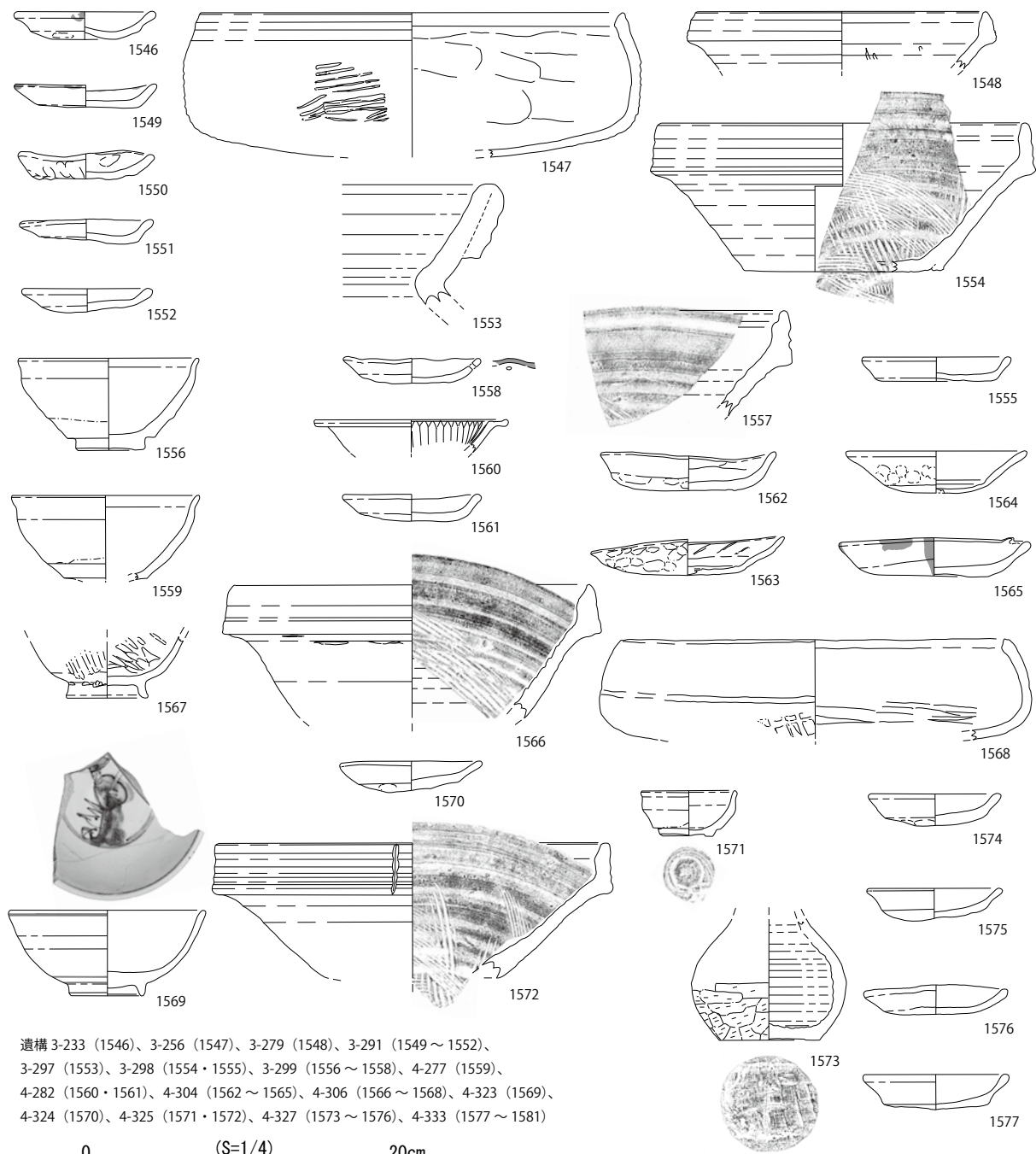


図 156 3・4区 第5-2遺構面 遺構出土土器(1)

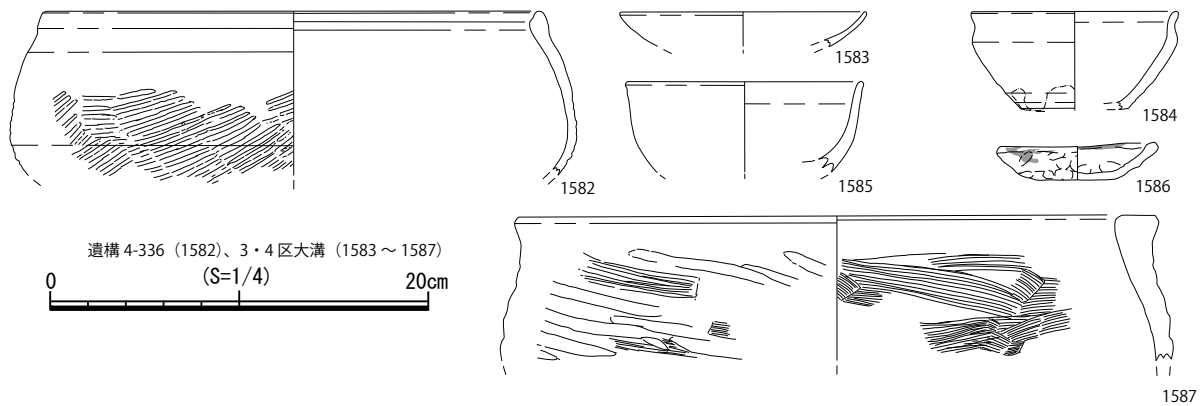


図 157 3・4区 第5-2遺構面 遺構出土土器（2）

#### 4-330土坑（図155、図版48）

4区の中央付近で検出した土坑で、4-325井戸の北西に接する。平面形状は円形で、規模は直径2.30m、深さ0.65mを測る、平面形状は船底状であるが、底面はやや凹凸がある。遺物は備前焼、土師質土器などが出土している。

#### 4-333土坑（図155・156、図版48・86、写真19）

4区中央の南東寄りで検出した土坑で、東側が後世の遺構に削平されている。平面形状は不整楕円形で、規模は長さ2.55m、幅2.20m以上を測る。断面形状は船底状を呈する。遺物は底面の北位置付近を中心に土師質土器皿（1577）や土師質土器焙烙（1578～1581）がまとまって出土している。その他の遺物には備前焼、瓦などがある。



写真19 4-333土坑 遺物出土状況（南から）

#### 大溝（図155・157、図版48）

3・4区の西側で検出したもので、断面観察からも、この遺構面で掘削され第5-1遺構面でも機能していたと判断できる。第4-2遺構面が形成される直前に一気に埋まっている。1・2区の大溝と繋がり、南南東―北北西方向に伸びる。北端では浅くなり、西への折れも検出できたことから、西方へ屈曲するか分岐していると考えられる。底の高さは一様でなく、断面観察からは明確な水の流れは認められない。3・4区内での大溝は幅11.00m前後、深さ1.50～1.90mで、長さ約42.00mを確認している。検出時には明らかにできなかったが、断面観察から、再掘削が行われていることが確認できる。遺物は中国製磁器（1583）、肥前系陶器（1585）、瀬戸美濃系陶器（1584）、土師質土器（1586）、瓦質土器（1587）、砥石などが出土している。

#### 10 第6-2遺構面の遺構（図159、図版27～29）

第6-2遺構面はマンガン粒が多く沈着したシルトを基調とする層の上面である。1区で調査している第6-1遺構面は、遺構密度が低いことから調査対象としていない。検出した遺構には耕作溝などがある。なお、この面で検出した土坑については、遺物や土層の堆積状況などから第5-2

遺構面に帰属すると判断した。

#### 耕作溝（図版48）

耕作溝は大溝から東側で検出している。幅は0.15～0.30mで、基本的に東西方向で、密に平行して伸びる。ほとんど重複しないことから、比較的短期な耕作面であると捉えることができる。耕作溝は長いもので約25.00mを確認しており、また調査した範囲内に畦畔が確認できないことから、比較的大きな水田区画を想定することができる。

### 11 第6-3遺構面の遺構（図160、図版27）

第7遺構面の一つ上の水田耕作面で、溝（3-326）と畦畔（3-340・341・342・343）を検出している。ただ、溝と畦畔の一部は、第7遺構面と同位置であることから、第7遺構面の遺構を踏襲していると考えられる。遺構密度も低いことから、調査は3区でのみおこない、4区では調査対象としていない。

#### 3-326溝（図158）

3区の東側に位置し、第7遺構面の3-327溝の上位を南北方向に伸びる溝である。幅は1.10～2.60m、深さ0.15mで、調査区内で約10.50mを確認している。

#### 3-340・341畦畔

3-326溝の東側に沿うのが3-340畦畔で、その畦畔に直交して東側に伸びるのが3-341畦畔である。3-340畦畔は幅約1.00m、検出した長さ約3.00mを測る。3-341畦畔は幅0.50～0.85mで、長さ約5.30mを確認しており、東端は調査区内で痕跡が検出できなくなっている。

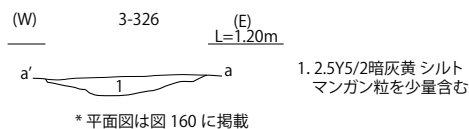


図158 3・4区 第6-3遺構面 3-326溝断面

#### 3-342・343畦畔

3区の西側で検出した東西方向の畦畔で、幅約11.5mの間隔を空けている。

3-342畦畔は3区の北西側で東西に伸び、幅0.65～1.10mで、西側は後世の遺構によって削平され、東側は途中で検出できなくなる。確認した長さは約9.00mである。

3-343畦畔は、3-326溝付近から西側に伸びる。第7遺構面で検出している3-344畦畔の上部に位置し、それを踏襲していると考えられる。幅は0.30～0.50mで、中ほどで攪乱や調査区域外となるが、その間を含めて検出した長さは約19.40mである。

### 12 第7遺構面の遺構（図161・170、図版29～31）

水田耕作面で、検出した遺構には井戸・溝・大小の畦畔がある。溝は基本的に畦畔に沿っており、畦畔の片側あるいは両側に掘削されている。畦畔がすべて同時期のものであるとすると、大区画水田ではないことが窺える。耕作土に相当する第7遺構面上から出土した遺物には瓦器（1655・1656）、土師器（1657～1660）があり、古代末頃の遺構面であると判断できる。

#### 4-358井戸（図162、図版49）

4区の北東部で検出した井戸である。検出面での平面形状は楕円形で、規模は長さ1.50m、幅1.20mを測る。下位に向かって径を小さくしており、深さ標高-0.50mまで掘り下げたが井戸側

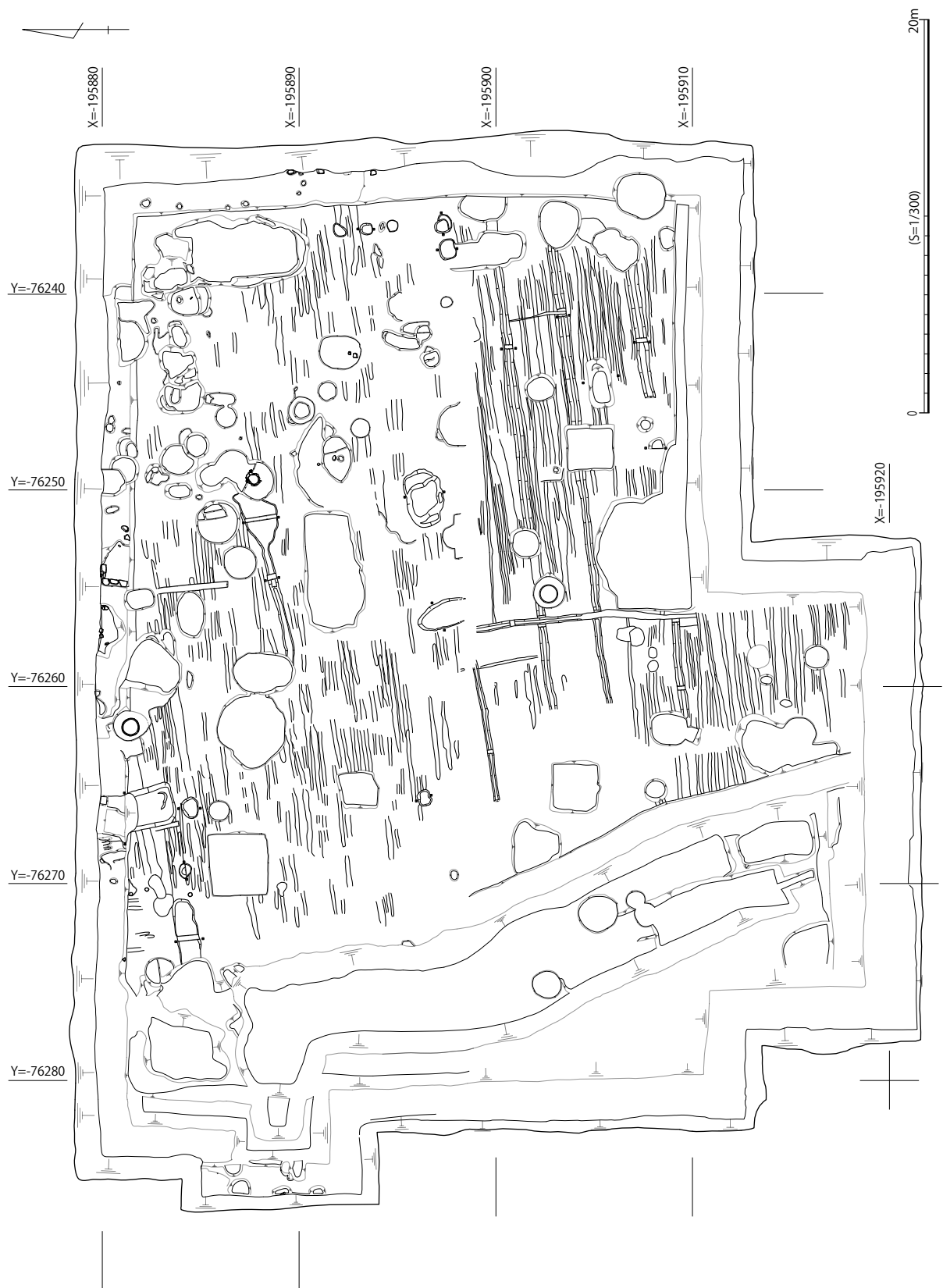


图 159 3·4区 第6-2遺構面 全体図

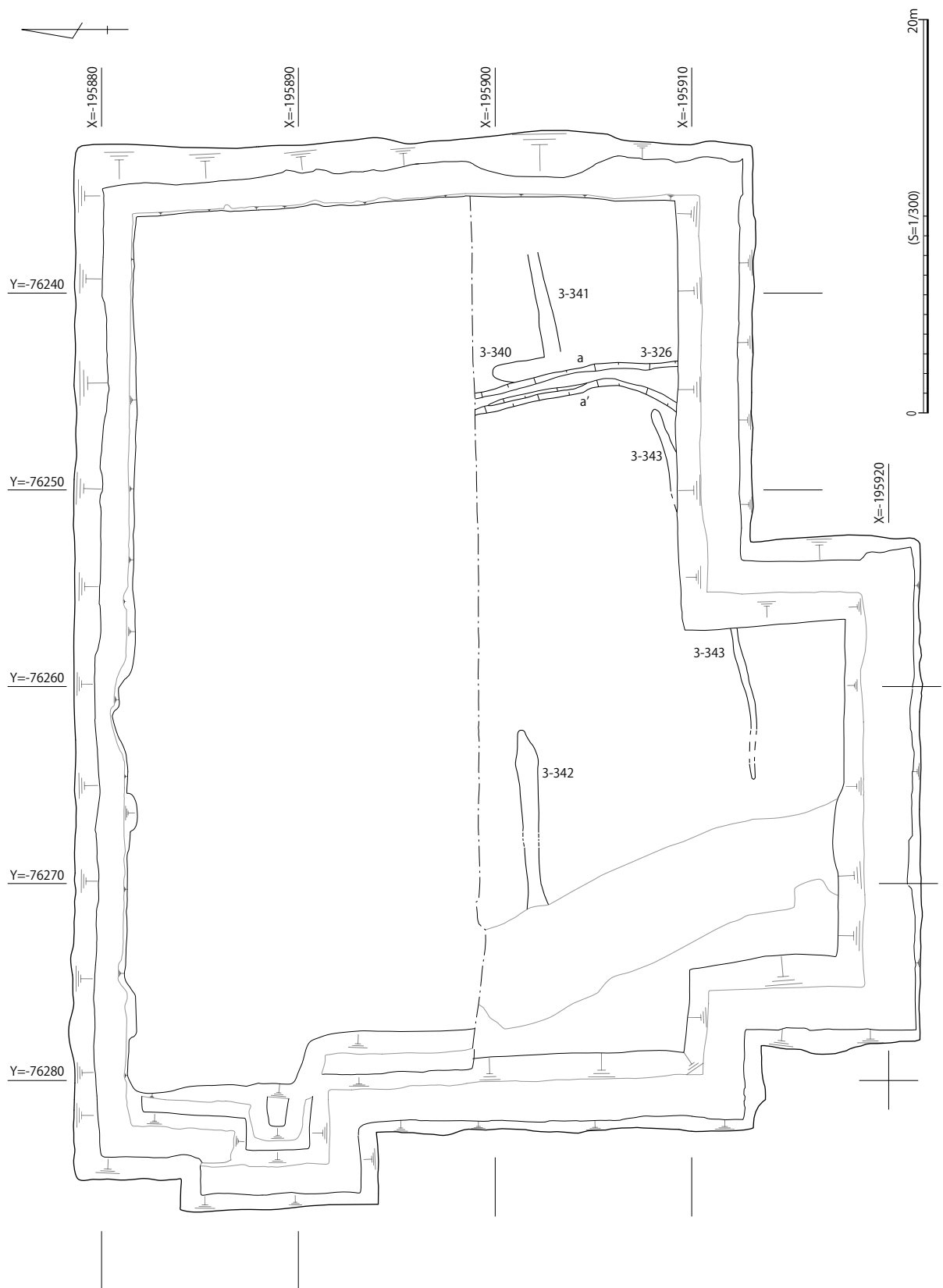


图 160 3·4区 第6-3遺構面 全体図



の構造は明らかにできなかった。遺物は出土していない。

### 3-343畦畔、3-331・327溝、4-353・364溝（図162）

3-343畦畔、3-331・327溝、4-364溝は3・4区の東側にあつて南北に伸びる。また、3-331溝は3-343畦畔の東に沿ひ、3-327・4-364溝は畦畔の西に沿う。

3-343畦畔は南側が調査区域外に伸び、北側は東西方向に伸びる4-380畦畔に直交するように取り付く。幅は1.20～2.20mで、耕作面よりは約0.10～0.15m高くなつてゐる。検出した長さは約17.00mである。

3-331溝は3-343畦畔と同様に南側は調査区域外となる。北側は4-380畦畔を横切つて4-353溝に合流する。規模は幅0.80～1.25m、深さ0.20mを測る。検出した長さは約21.30mである。遺物は土師器・須恵器・黒色土器が出土している。

3-327溝は南側が3区の南側を東西に伸びる3-328溝に合流する。北側は4-380畦畔を横切つて4-353溝に合流する。規模は幅0.50～1.10m、深さ0.20mを測る。検出した長さは約18.00mである。遺物は中国製磁器（1591）、瓦器（1590）、土師器などが出土している（図168）。

4-364溝は南側が幅約0.80mのテラス状となつて3-344畦畔に繋がる。北側は幅0.55～0.70m、深さ0.18mの溝となつて4-380畦畔付近で東側に折れる。4-360溝に繋がる可能性もある。検出した長さは溝・テラス部分を合わせて約15.00mである。

### 3-334畦畔・3-328・329・330溝（図162、図版48）

3-334畦畔・3-328・329・330溝は3区の南側を東西に伸びる。3-344畦畔の北側を分流しながら3-328・329・330溝が位置する。

3-334畦畔は、東側は3-332畦畔に取り付き、西側に伸びるが西端は第5遺構面の大溝によって削平される。幅0.60～0.80mで、高さは耕作面から0.10～0.15mを測る。中ほどで攪乱や調査区域外となるが、その間を含めて検出した長さは約24.00mである。

3-328溝は東側が3-343畦畔の西から始まり、西端は調査区域外に伸びる。平行する溝の中ではメインになる溝であると考えられる。規模は幅1.20m前後、深さ0.45mを測り、溝の断面は底面中央が一段深くなる段落ちを呈する。中ほどで攪乱や調査区域外となるが、その間を含めて検出した長さは約31.00mである。

3-329溝は東側が3-328溝から分かれ、西端は調査区域外に伸びる。規模は幅0.80～1.00m、深さ0.25mを測る。溝の断面は底面中央が一段深くなる段落ちを呈する。東側で大きく攪乱されるが、その間を含めて検出した長さは約26.00mとなる。

3-330溝は3-329溝から分かれると考えられるが、分流地点と考えられる付近に大きな攪乱があることから詳細は不明である。3-329溝の北側を流れ、西端は調査区域外となる。規模は幅0.55～0.70mで、深さ0.20mを測る。溝の断面は船底状を呈する。検出した長さは18.50mである。遺物は土師器が出土している。

### 3-345畦畔

3-345畦畔は3区の西側で検出した畦畔で、南北方向に伸びる。南側は3-344畦畔に繋がると考えられるが3本の溝が横切ることから途切れている。北側は3区の範囲内では検出できたものの、4区側では検出面がグライ化のため確認することができなかった。幅0.80～1.00mで、高さは0.10～0.15mを測る。この畦畔の下位では、第8遺構面でもほぼ同じ位置に畦畔が存在する。

#### 4-380畦畔・4-353・360溝（図162、図版49）

4-380畦畔・4-353・360溝は4区の中ほどを東西に伸びる。

4-380畦畔は東側が調査区域外で、西側は4-354溝付近で明確でなくなる。幅は2.80～4.00mで、高さは残りの良い箇所約0.50mを測る。西に向かって低くなるが、これは上部が削平されているからで、その分西側の検出面での幅が広がっている。3・4区で検出した畦畔のなかでは大畦畔に相当すると言える規模である。この畦畔は直下の第8遺構面には形成されており、第7遺構面のさらに上位の面でも踏襲されていることが明らかになっている。検出した長さは約36.00mである。

4-353溝は4-380畦畔の北に沿う。規模は幅1.00～1.80m、深さ0.20～0.30mを測る。断面形状は船底状を呈する。調査区内で検出した長さは約36.00mである。遺物は瓦器（1588）・土師器（1589）が出土している（図168）。

4-360溝は、4-380畦畔の南に沿い、東端は調査区域外となる。西端は調査区域内で終わっているが、4-364溝と繋がる可能性がある。規模は幅0.50m前後で、深さは0.05m前後である。遺物は出土していない。

#### 4-356溝（図162）

4区の北東隅付近で検出した溝で、4-353溝に直交して北側に伸び、北端は調査区域外となる。規模は1.20～1.30mで、北に向かって深くなっており、北端での深さは0.45mを測る。断面形状は船底状を呈する。検出した長さは3.50mである。遺物は出土していない。

#### 4-354溝

4区の西側を南北に伸びる溝で、北端は調査区域外に伸び、南端は調査区内で終わっている。ただ、検出面がグライ化して検出が困難であったことから、南へもう少し伸びていた可能性もある。規模は幅1.25～1.50m、深さ0.15mで、断面形状は船底状を呈する。検出した長さは約12.00mを測る。遺物は出土していない。検出状況では4-353溝を切り込んでおり、他の溝に後出すると判断できる。

### 13 第8遺構面の遺構（図164・170、図版30・31・50）

第7遺構面直下の水田耕作面で、検出した遺構には畦畔や溝がある。4-381畦畔より南側の畦畔は、規模などを変えて基本的にほぼ同じ位置にあり、第8遺構面に形成された畦畔を、第7遺構面も基本的に踏襲している。耕作土に相当する第8遺構面上から出土した遺物には灰釉陶器（1661）・黒色土器（1662）、須恵器（1663）、土錘（1667・1668）や混入遺物の埴輪（1666）、弥生土器（1664・1665）があり、古代の遺構面であると判断できる。

#### 3-346畦畔（図版49）

3・4区の東側にあつて南北に伸びる畦畔で、第7遺構面の3-343畦畔の下部に位置する。南端は調査区域外に伸び、北は4-381畦畔に繋がっていたと考えられる。規模は幅2.00～2.70mで、高さは耕作面から約0.10mを測る。第7遺構面で畦畔の両側にあつた溝については、当遺構面から掘削されていた可能性もあるが、内容は明らかでない。

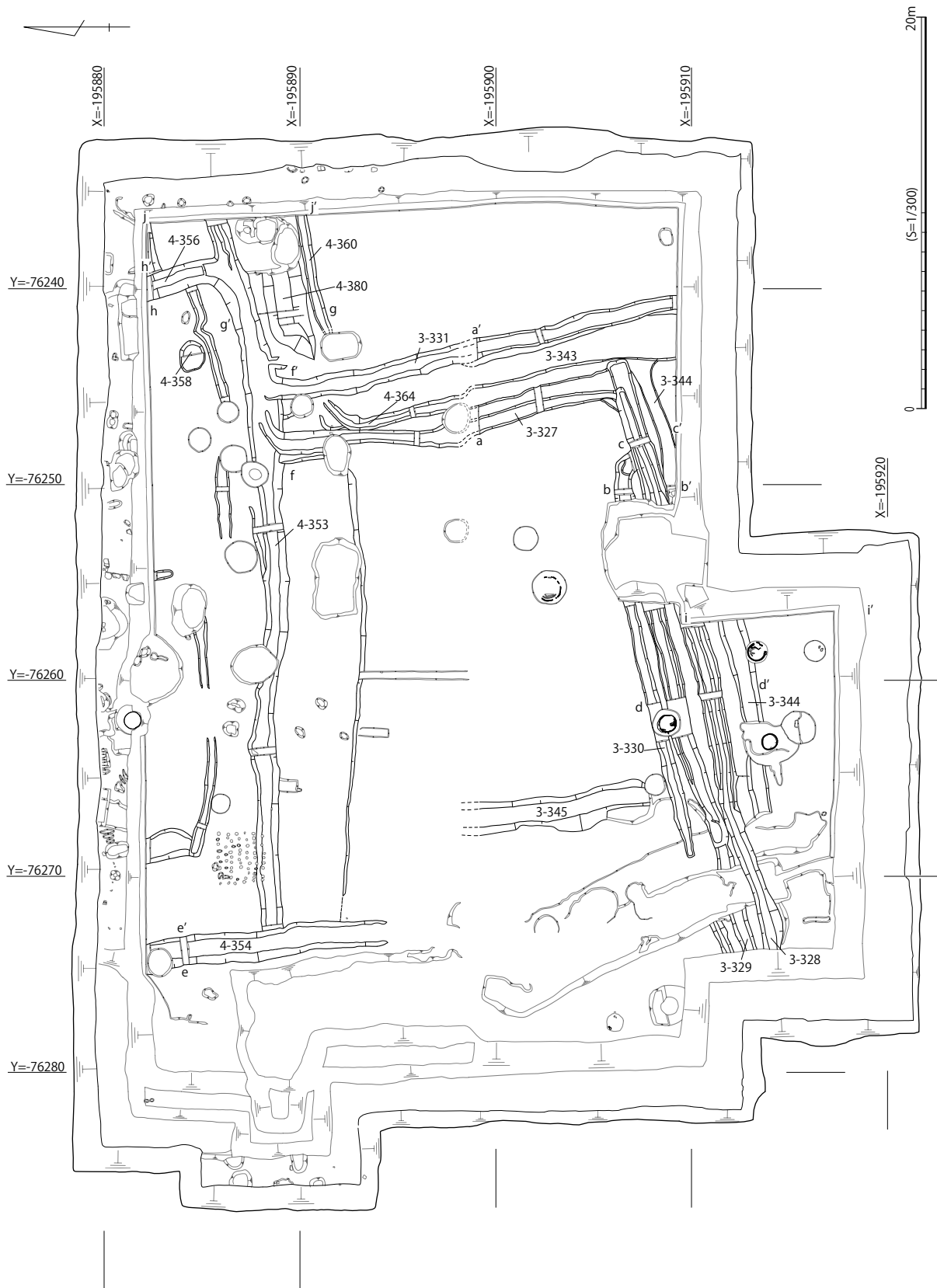


图 161 3·4区 第7遺構面 全体図

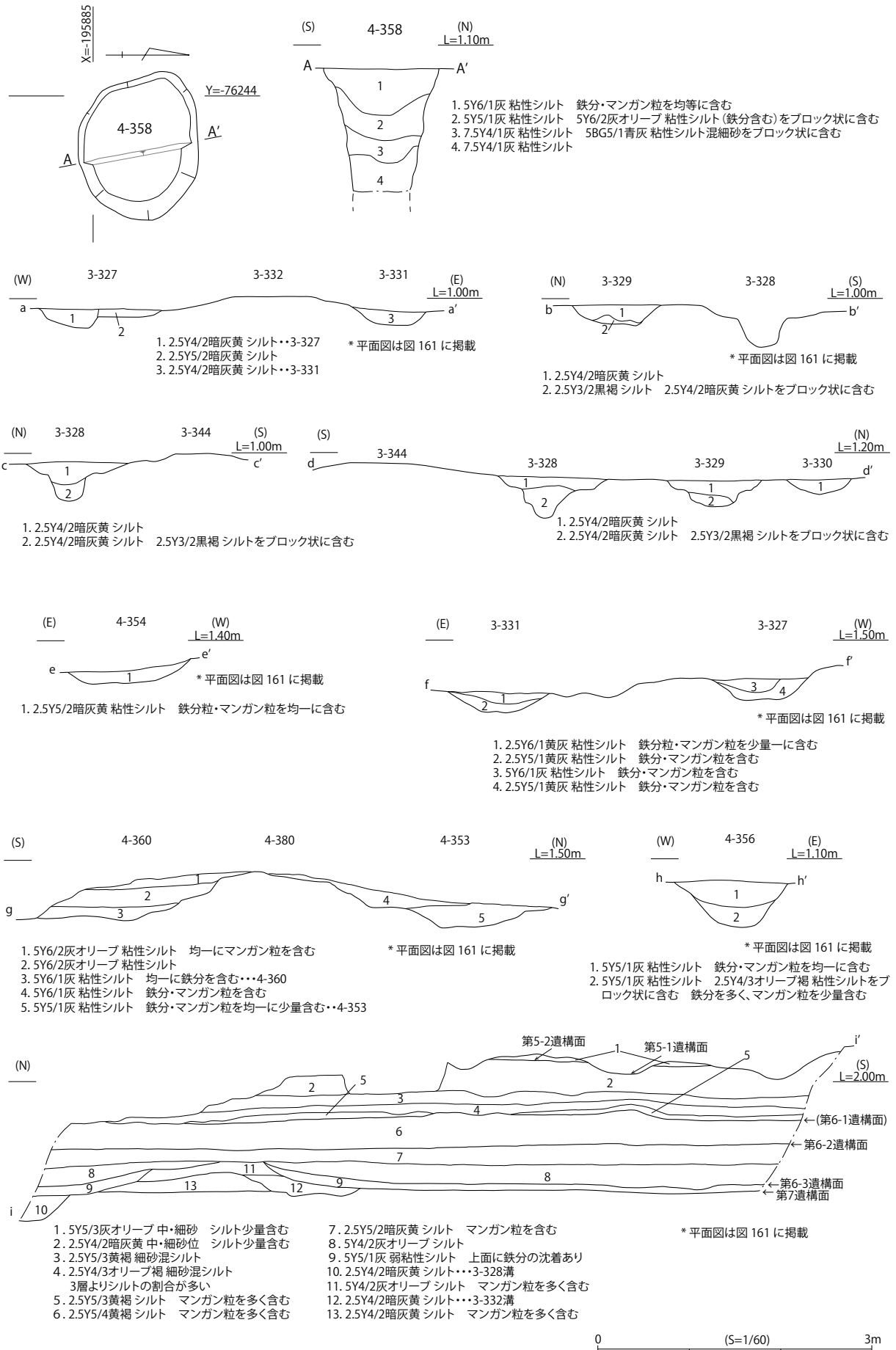


図162 3・4区 第7遺構面 検出遺構(1)

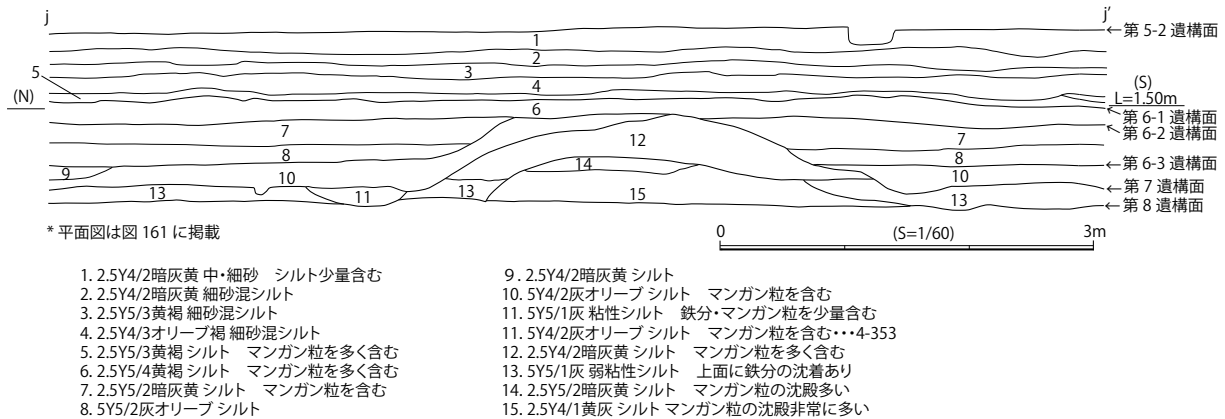


図 163 3・4区 第7遺構面 検出遺構（2）

### 3-347畦畔・3-332溝（図版49）

3区の南側を東西に伸びる畦畔と溝である。

3-347畦畔は、第7遺構面の3-344畦畔の下部に位置する。東端が3-346畦畔に繋がり、西端が削平されて3区の南西隅付近で途切れるが、更に続いていると考えられる。規模は幅1.00～1.80mで、高さは耕作面から約0.10mを測る。中ほどで攪乱や調査区域外となるが、その間を含めて検出した長さは約26.50mである。

3-332溝は3-347畦畔の南に沿う。東西両端は調査区域外に伸び明らかでない。規模は幅0.80～1.20m、深さ0.05～0.10mを測る。

### 3-348畦畔

3区の西側で検出した畦畔で、南北方向に伸びる。第7遺構面の3-345畦畔の下部に位置する。南側は3-347畦畔に繋がると考えられるが、上面の溝に切られていることから途切れている。北端は4-381畦畔には繋がらず、途中で切れている。規模は幅0.50～2.20mを、高さは耕作面から0.05～0.10mを測る。

### 4-381畦畔・4-366溝（図版50）

4区の中ほどを東西に伸びる。

4-381畦畔は、第7遺構面の4-380畦畔の下部に位置する。東端が調査区域外に伸び、西端は不鮮明となって調査区域外に続くのか明らかでない。蛇行しながら伸びており、規模は幅1.00～1.50m、高さは耕作面0.05～0.10mを測る。確認した長さは約38.00mである。

4-366溝は4-381畦畔の南に沿い、東端は調査区域外に伸び、西端は4-381畦畔と同様に不鮮明となって終わっている。規模は幅0.70～1.40m、深さ0.05～0.10mで、確認した長さは約38.50mである。遺物は古代の須恵器（1592）、土師器のほか混入遺物としてサヌカイトが出土している（図168）。

### 4-382・383・384畦畔

4区の北側で、4-381畦畔に繋がって伸びる畦畔である。それぞれの畦畔と4-381畦畔により小規模な水田を区画している。4-382畦畔は西側で4-381畦畔に繋がり北北西に伸びる。北端は調査区域外で、規模は幅1.00～1.50m、高さ0.05～0.20mを測る。長さは約6.00mを確認した。

4-383畦畔は中央西寄り4-381畦畔に繋がり北北西に伸びる。北端は調査区域外で、規模は幅



图 164 3·4区 第8遺構面 全体図



图 165 3·4区 第9-1 遺構面 全体図





图 166 3·4区 第9-2 遺構面 全体図

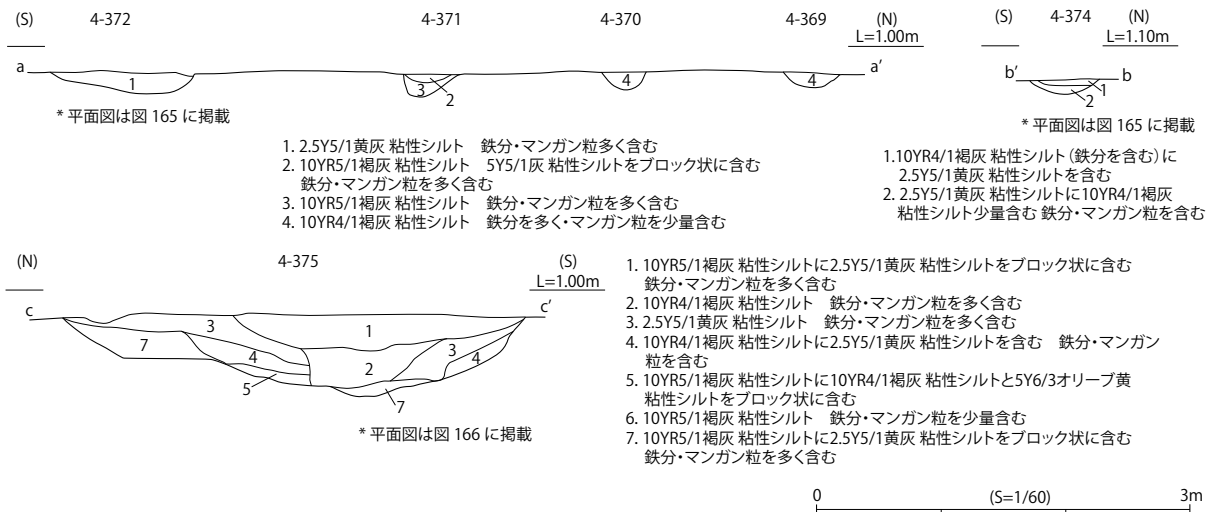


図167 3・4区 第9-1・2遺構面 検出遺構

1. 80～2.20m、高さ0.12～0.23mを測る。長さは約8.00mを確認した。

4-384畦畔は西側で4-381畦畔に繋がり北北東に伸びる。北端は調査区域外で、規模は幅0.40～0.55m、高さ0.05～0.10mを測る。長さは約6.00mを確認した。

4-381・382・383畦畔が区画する水田は、東西約10.00m、南北8.00m以上、4-381・383・384畦畔が区画する水田は、東西約14.50m、南北8.50m以上、4-381・4-383畦畔が区画する水田は、東西10.00m以上、南北6.50m以上を測る。

#### 14 第9-1遺構面の遺構 (図165、図版31・50)

3区では確認できなかったが、4区の北寄り第8遺構面直下において、東西方向に伸びる多条の溝を検出している。水田耕作に係る溝と考えられるが詳細は不明である。第9-1遺構面の上から出土する遺物には須恵器、土師器、弥生土器があり、須恵器や土師器の出土から古墳時代の遺構面であると判断できる。

##### 4-369・370・371溝 (図167、図版50)

第9-1遺構面で検出した溝のうち北寄りの3本の溝で、同等の規模で0.50～1.30mの間隔をあけて平行に伸びている。遺構名は北から順に4-369溝、4-370溝、4-371溝である。

4-369溝は幅0.30～0.40m、深さ0.10～0.15mで、東端は調査区域外となり西端は後世の遺構により削平される。検出した長さは約26.00mを測る。西端付近で分岐して二つの溝となっている。遺物は須恵器と弥生土器が出土している。

4-370溝は幅0.30～0.40m、深さ0.10～0.20mで、東は4区中央東寄り付近から始まり、西端は後世の遺構によって削平される。検出した長さは約26.70mを測る。遺物は須恵器が出土している。

4-371溝は幅0.30～0.45m、深さ0.10～0.20mで、東は4区中央東寄り付近から始まり、西端は後世の遺構によって削平される。検出した長さは約26.60mを測る。遺物は弥生土器が出土している。

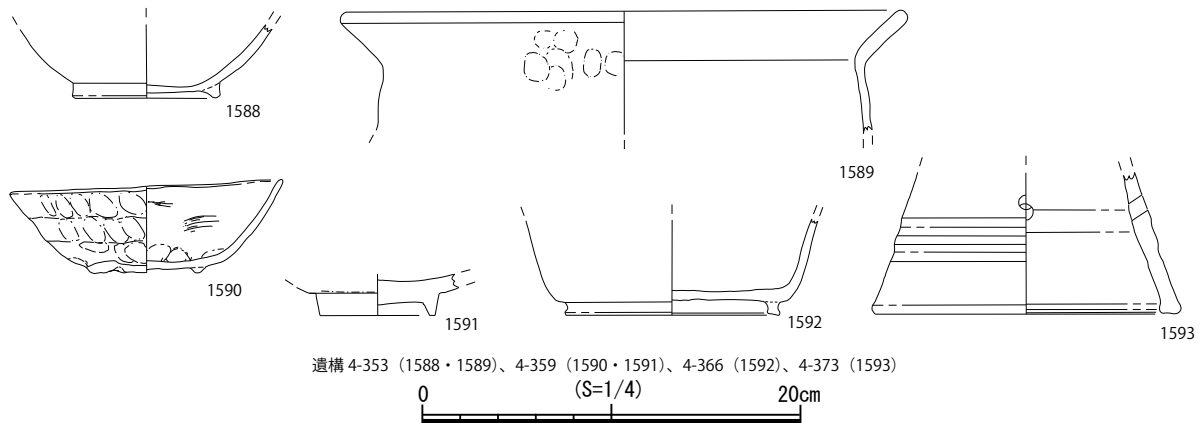


図168 3・4区 第7・9-1・9-2 遺構面 遺構出土土器

#### 4-372・373・374溝 (図167)

4-371溝の南に平行する溝である。

4-372溝は両端がほぼ調査区内で完結した状態で検出したが、本来は両側にさらに伸びていたと考えられる。規模は幅0.60～1.10m、深さ0.10～0.20mで、確認した長さは約38.00mを測る。中央付近で二つの溝が繋がるような食違いが確認できる。遺物は土師器・弥生土器が出土している。

4-373溝は東端が調査区域外に伸び、西端が調査区内で完結した状態で検出している。規模は幅0.60～1.80m、深さ0.10～0.20mで、確認した長さは約32.00mを測る。遺物は須恵器・土師器のほか弥生土器(1593)が出土している(図168)。

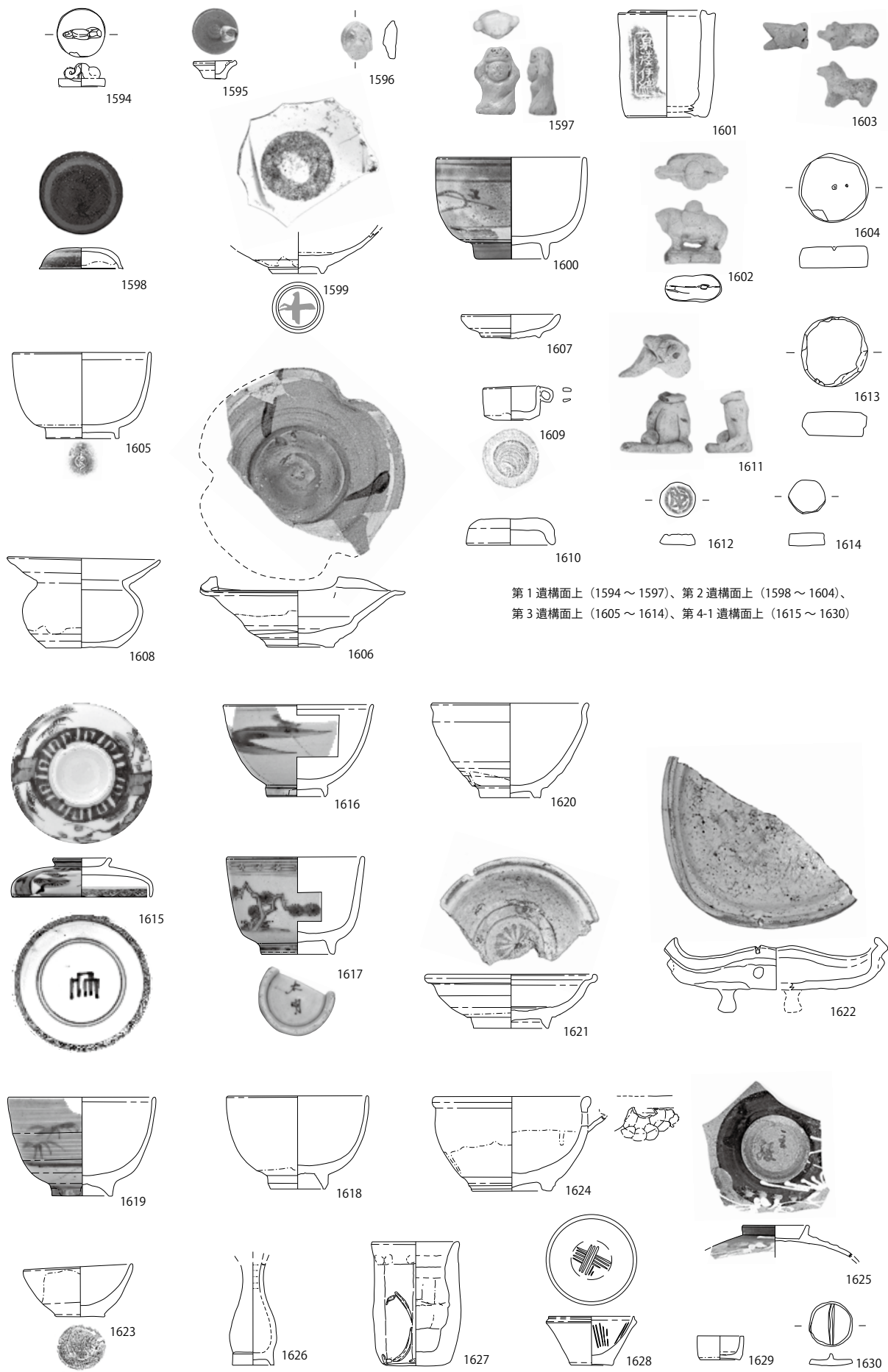
4-374溝は調査区の西側で検出したもので、西端は後世の遺構によって削平される。規模は幅0.40～0.55m、深さ0.10～0.20mで、長さ約11.00mを測る。遺物は混入遺物として弥生土器が出土している。4-372溝が途中で食違うことから、4-373・374溝についても、一連の溝とすべきかもしれない。

#### 15 第9-2遺構面の遺構 (図166・170、図版50・86)

第9-1遺構面で検出した多条の溝に重なるように、1条の溝(4-375)を検出している。ただ、同一面では検出できない箇所もあり、弥生時代中期の土器(1669・1670)を含む薄い層を剥がして全体の形状が明らかになったことから第9-2遺構面としている。

#### 4-375溝 (図167、図版50)

4区の北寄りでは検出した東西方向の溝で、規模は幅2.30～3.40m、深さ0.65mを測る。東端は調査区域外に伸び、西端は後世の遺構によって削平される。確認した長さは約39.00mである。東側で北側からの溝が合流しているように検出できたが、詳細は明らかでない。遺物は弥生時代中期の土器が出土している。



第1遺構面上 (1594 ~ 1597)、第2遺構面上 (1598 ~ 1604)、  
第3遺構面上 (1605 ~ 1614)、第4-1遺構面上 (1615 ~ 1630)

図 169 3・4区 整地土・包含層等出土遺物 (1)

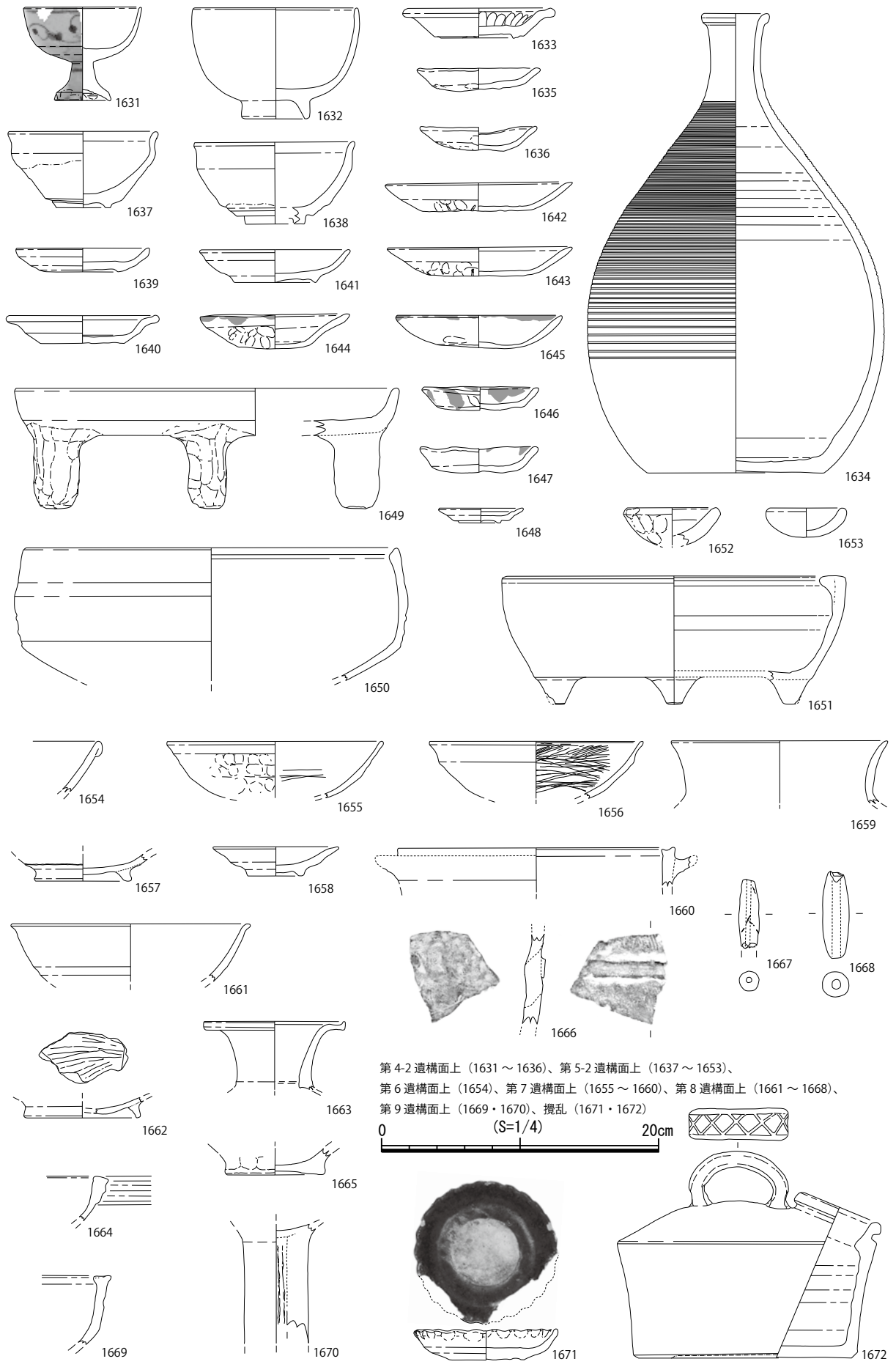


图 170 3・4区 整地土・包含層等出土遺物 (2)

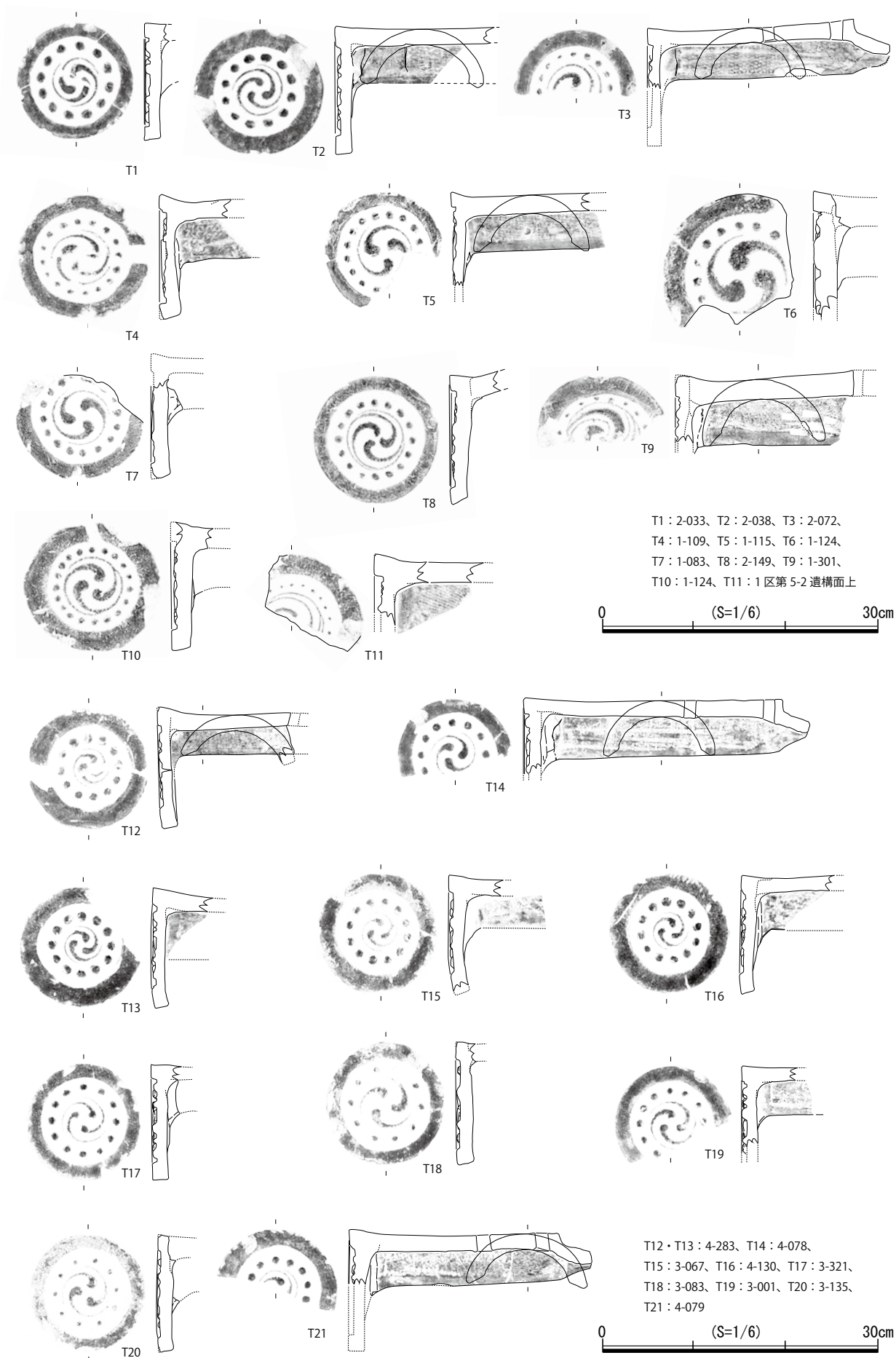
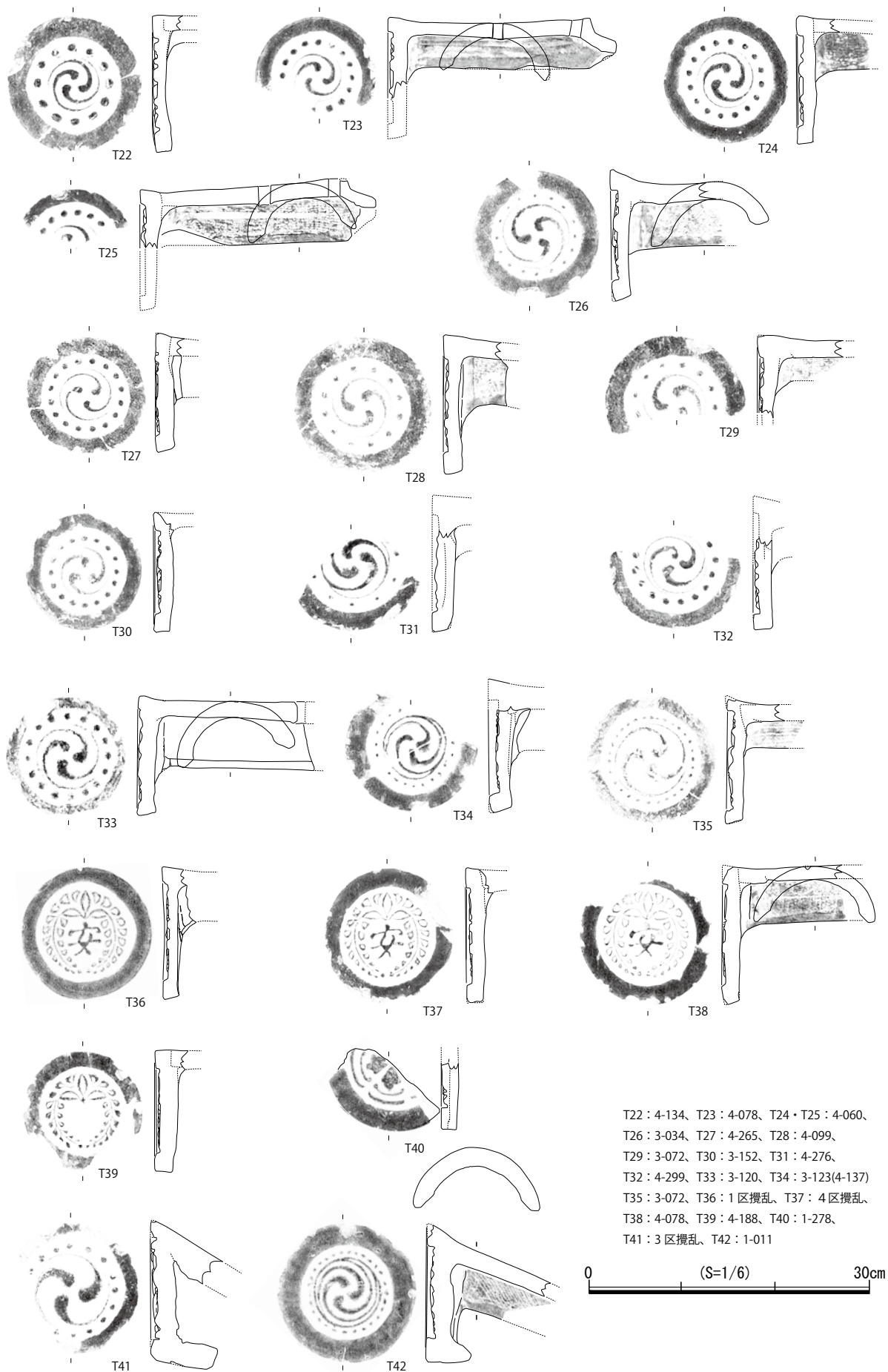


图 171 出土遺物 瓦類 (1)

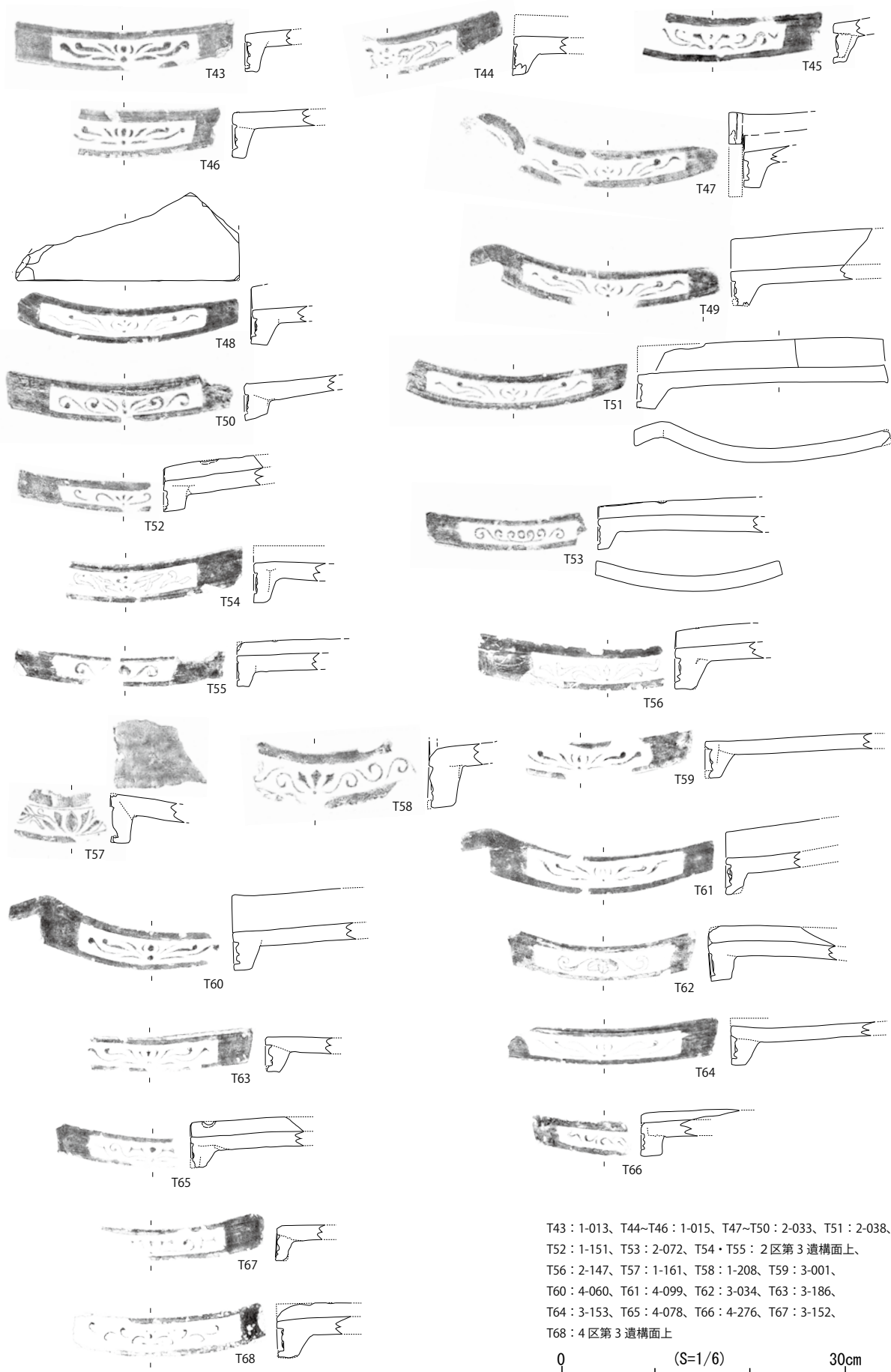




T22 : 4-134、 T23 : 4-078、 T24 · T25 : 4-060、  
 T26 : 3-034、 T27 : 4-265、 T28 : 4-099、  
 T29 : 3-072、 T30 : 3-152、 T31 : 4-276、  
 T32 : 4-299、 T33 : 3-120、 T34 : 3-123(4-137)  
 T35 : 3-072、 T36 : 1区攪乱、 T37 : 4区攪乱、  
 T38 : 4-078、 T39 : 4-188、 T40 : 1-278、  
 T41 : 3区攪乱、 T42 : 1-011

图 172 出土遺物 瓦類 (2)





T43 : 1-013、T44~T46 : 1-015、T47~T50 : 2-033、T51 : 2-038、  
 T52 : 1-151、T53 : 2-072、T54·T55 : 2区第3遺構面上、  
 T56 : 2-147、T57 : 1-161、T58 : 1-208、T59 : 3-001、  
 T60 : 4-060、T61 : 4-099、T62 : 3-034、T63 : 3-186、  
 T64 : 3-153、T65 : 4-078、T66 : 4-276、T67 : 3-152、  
 T68 : 4区第3遺構面上

0 (S=1/6) 30cm

图 173 出土遺物 瓦類 (3)

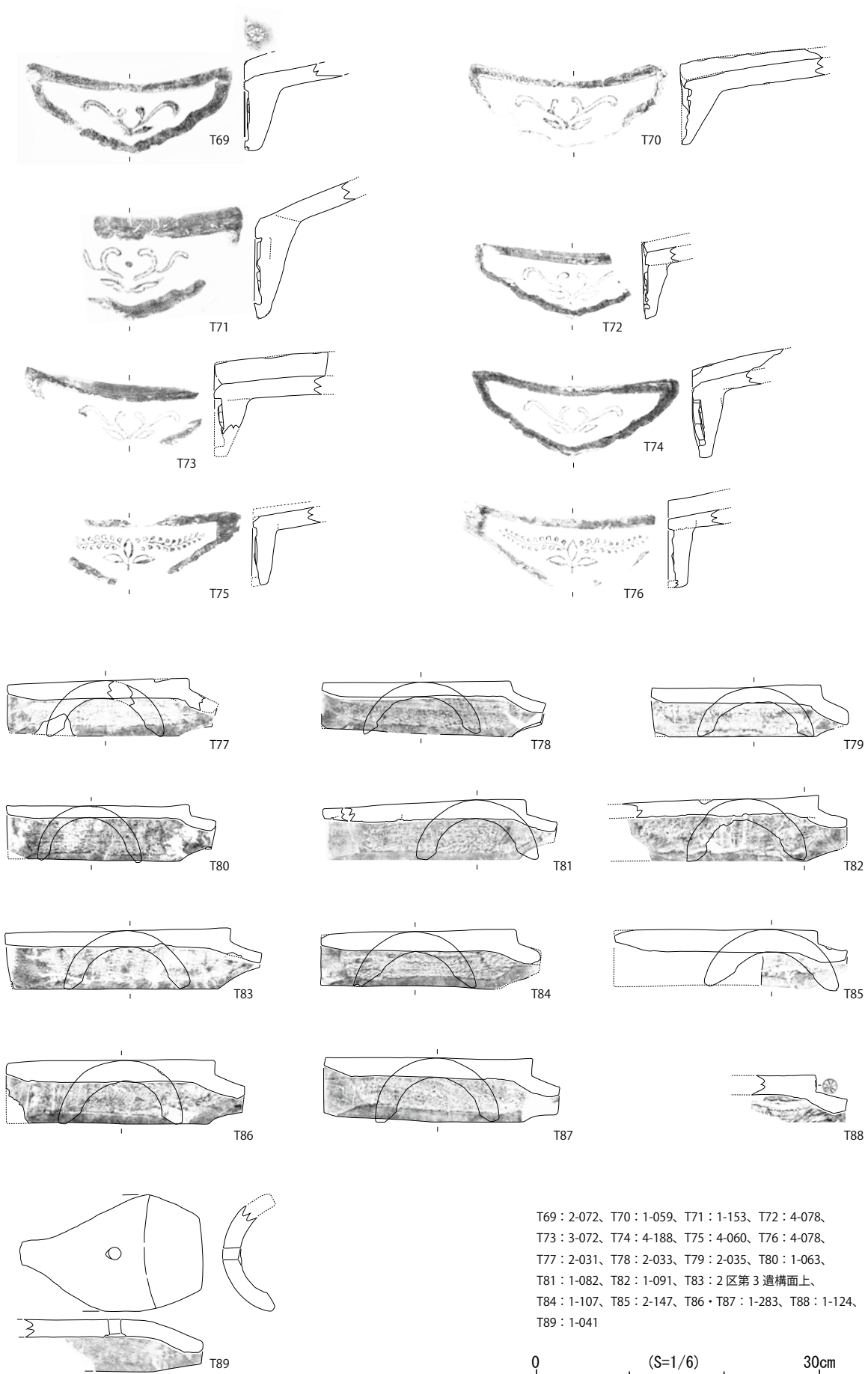


图 174 出土遺物 瓦類 (4)

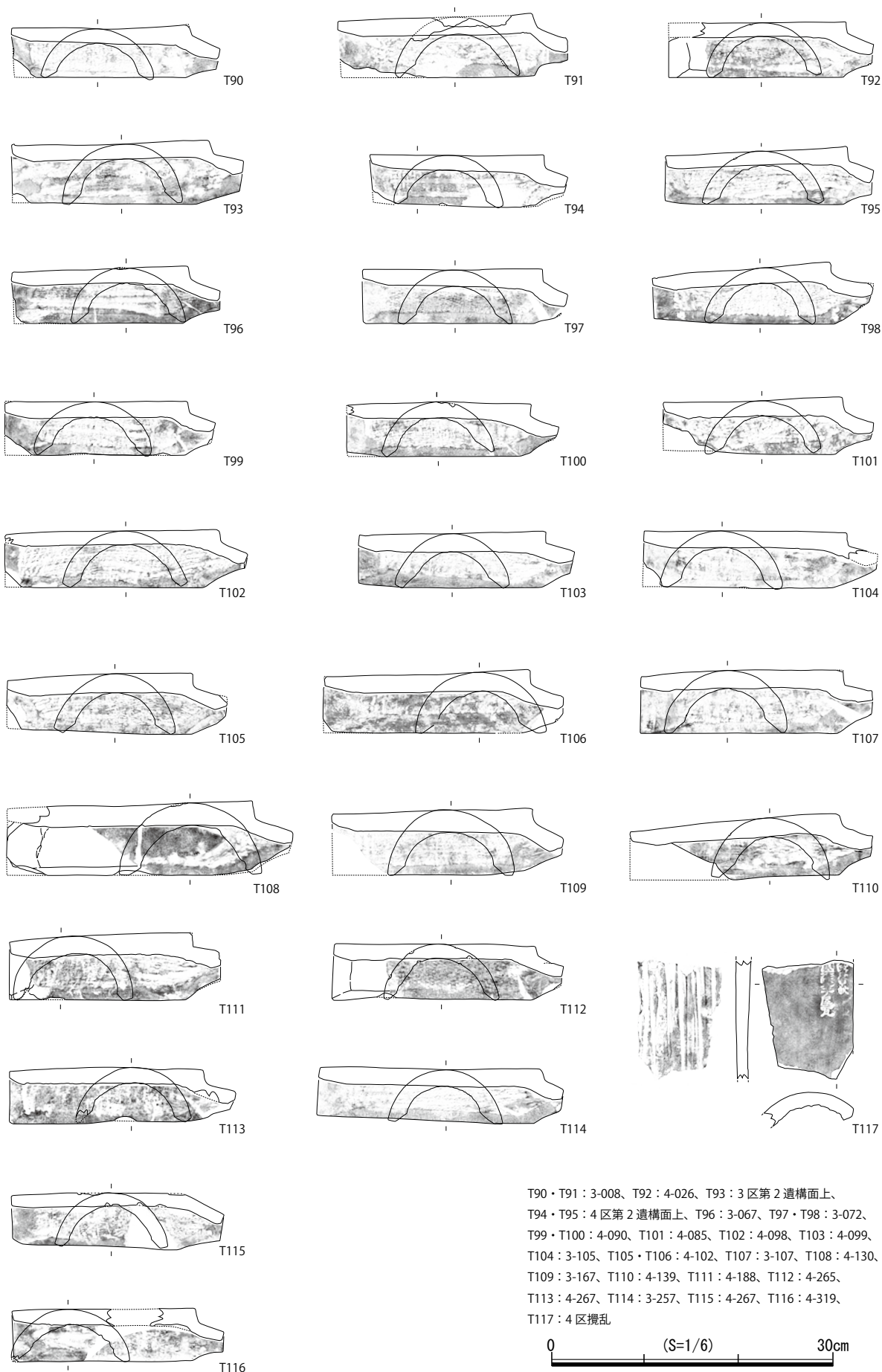


図 175 出土遺物 瓦類 (5)

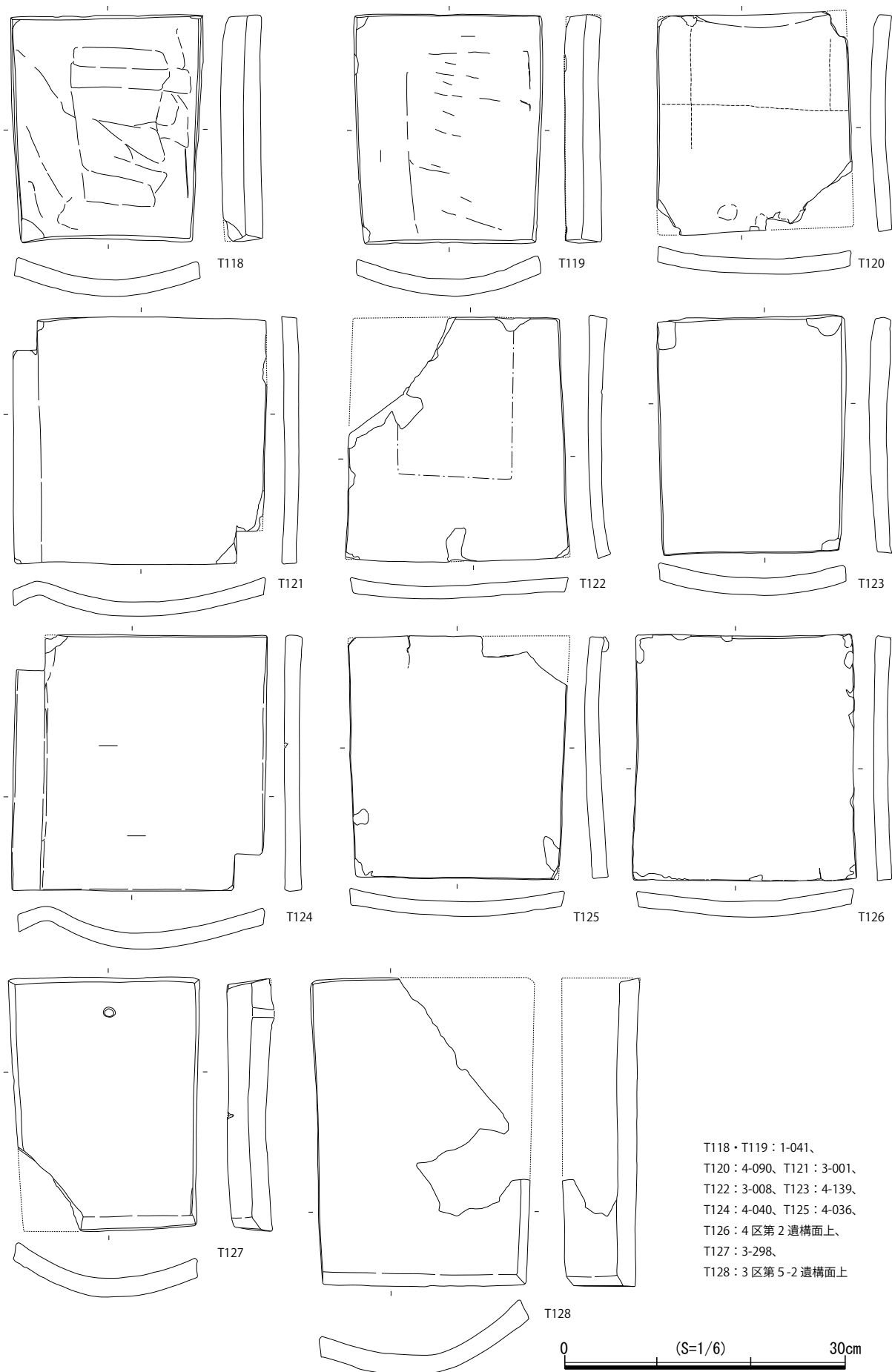


図 176 出土遺物 瓦類 (6)

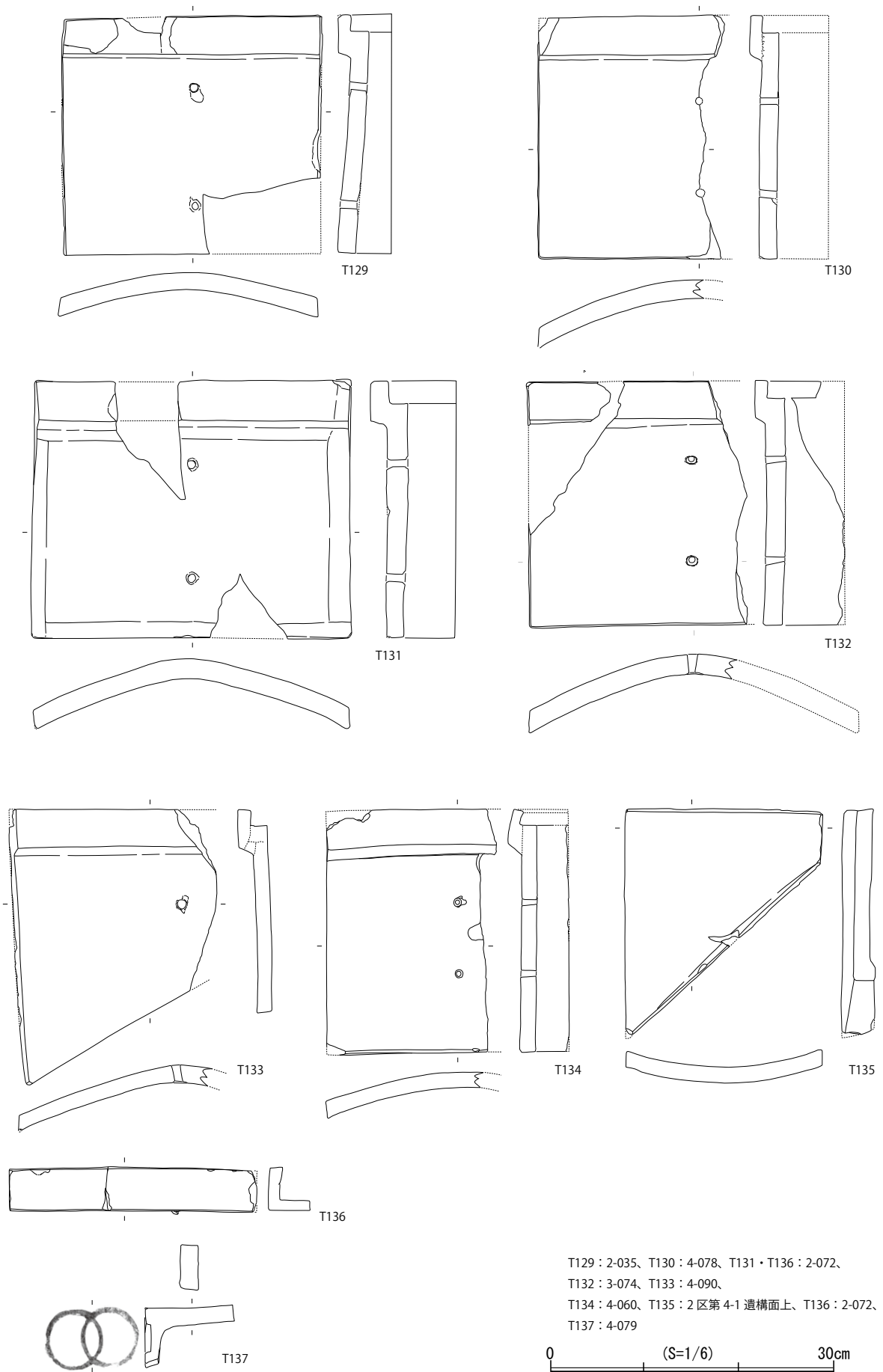
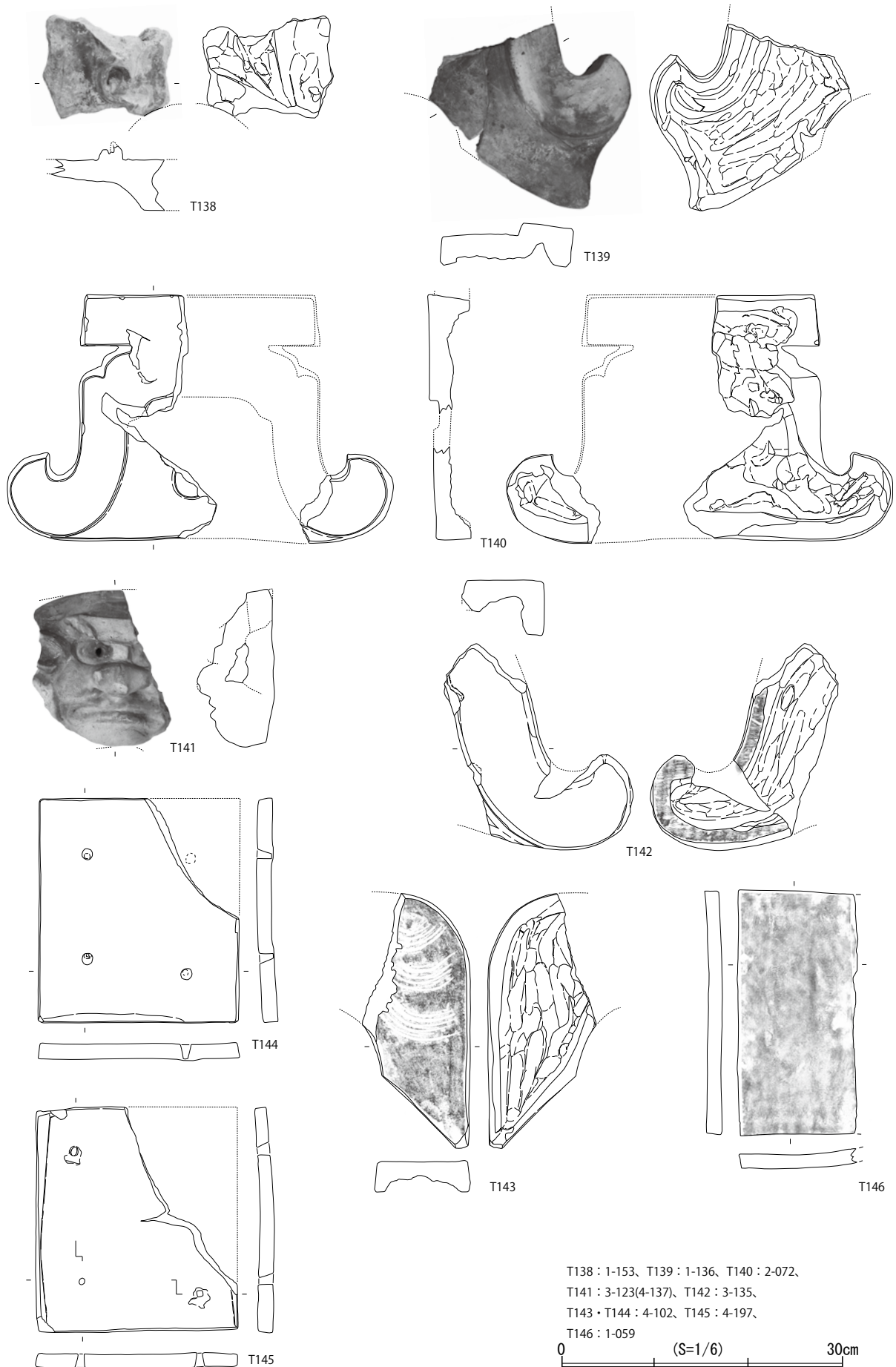


图 177 出土遺物 瓦類 (7)

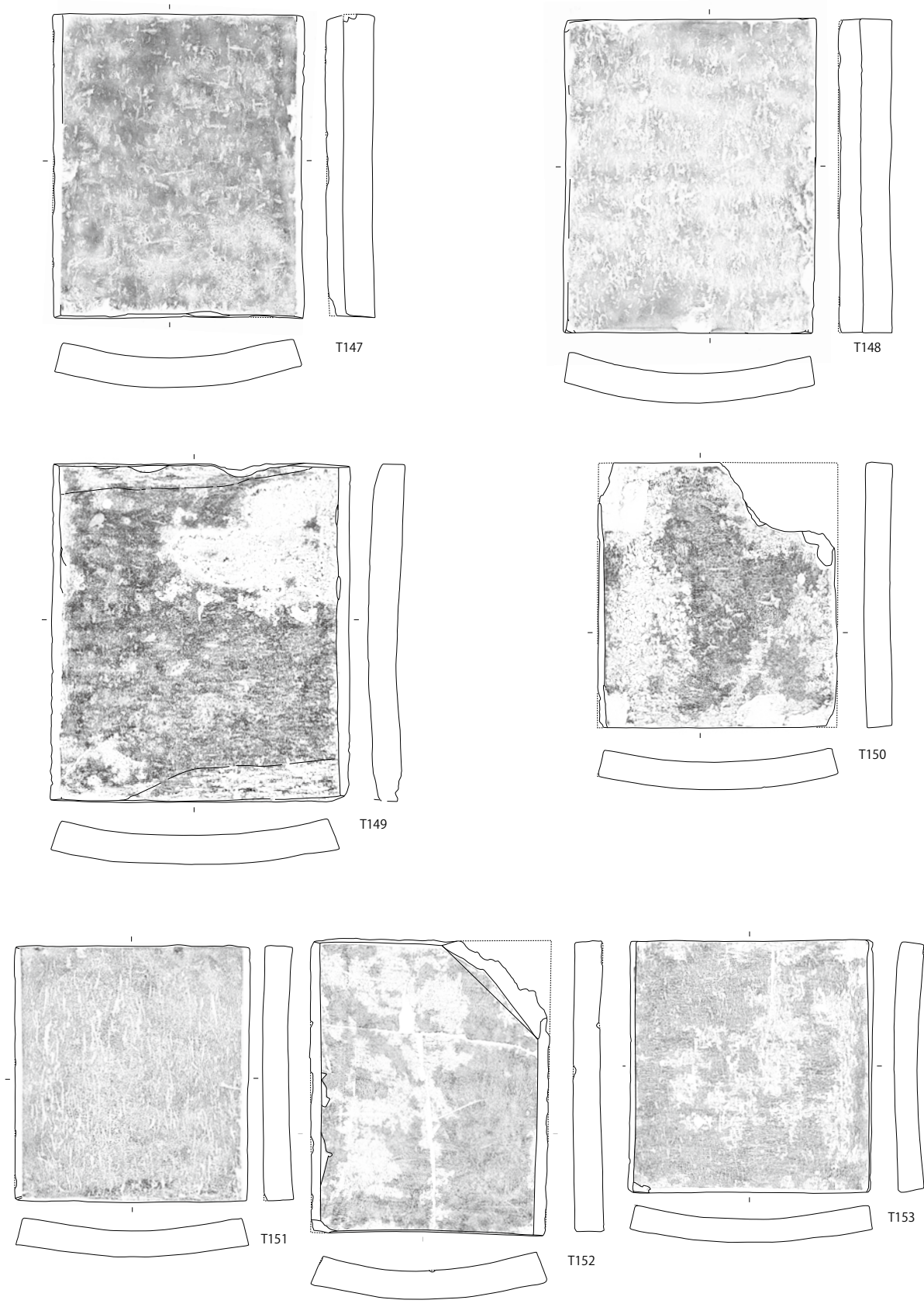


T138 : 1-153、 T139 : 1-136、 T140 : 2-072、  
 T141 : 3-123(4-137)、 T142 : 3-135、  
 T143 · T144 : 4-102、 T145 : 4-197、  
 T146 : 1-059

0 (S=1/6) 30cm

图 178 出土遺物 瓦類 (8)



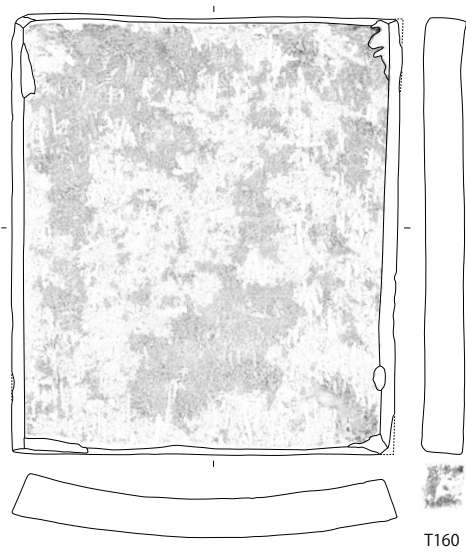
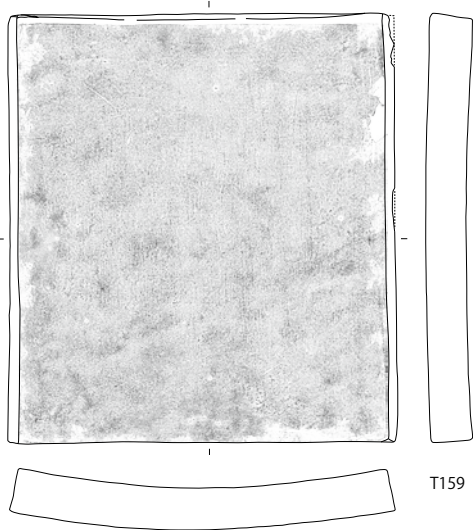
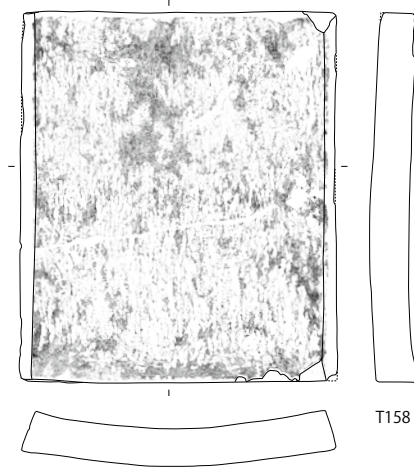
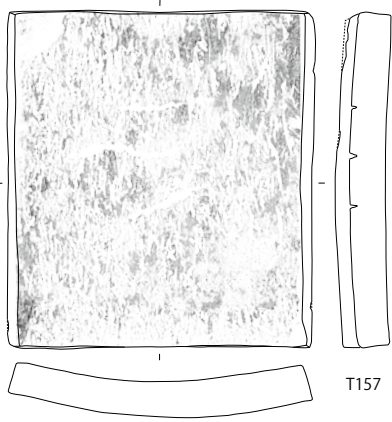
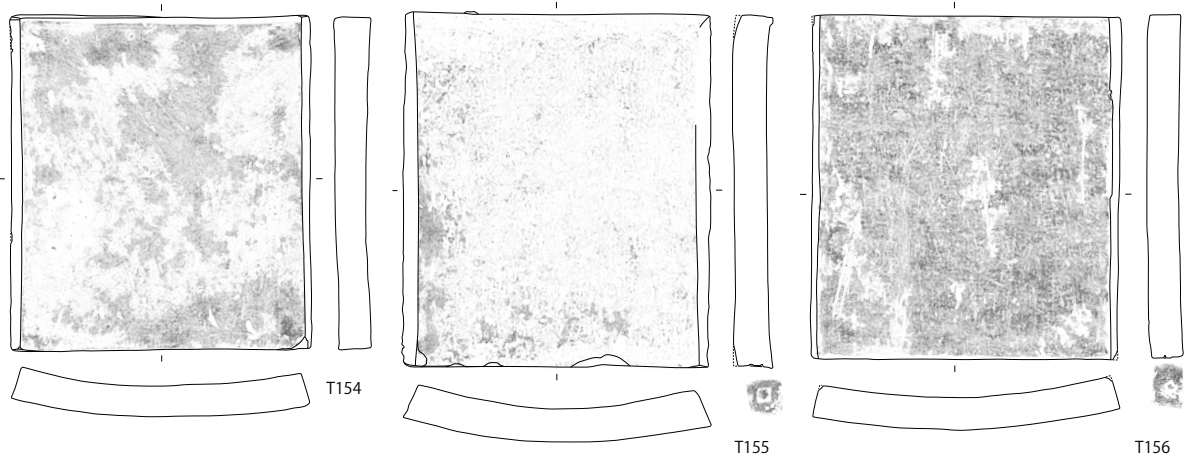


T147 : 1-201、T148 : 1-068、T149 : 2-256、T150 : 2-264、  
 T151 : 3-064、T152 : 3-054、T153 : 3-164

0 (S=1/6) 30cm

图 179 出土遺物 瓦類 (9)

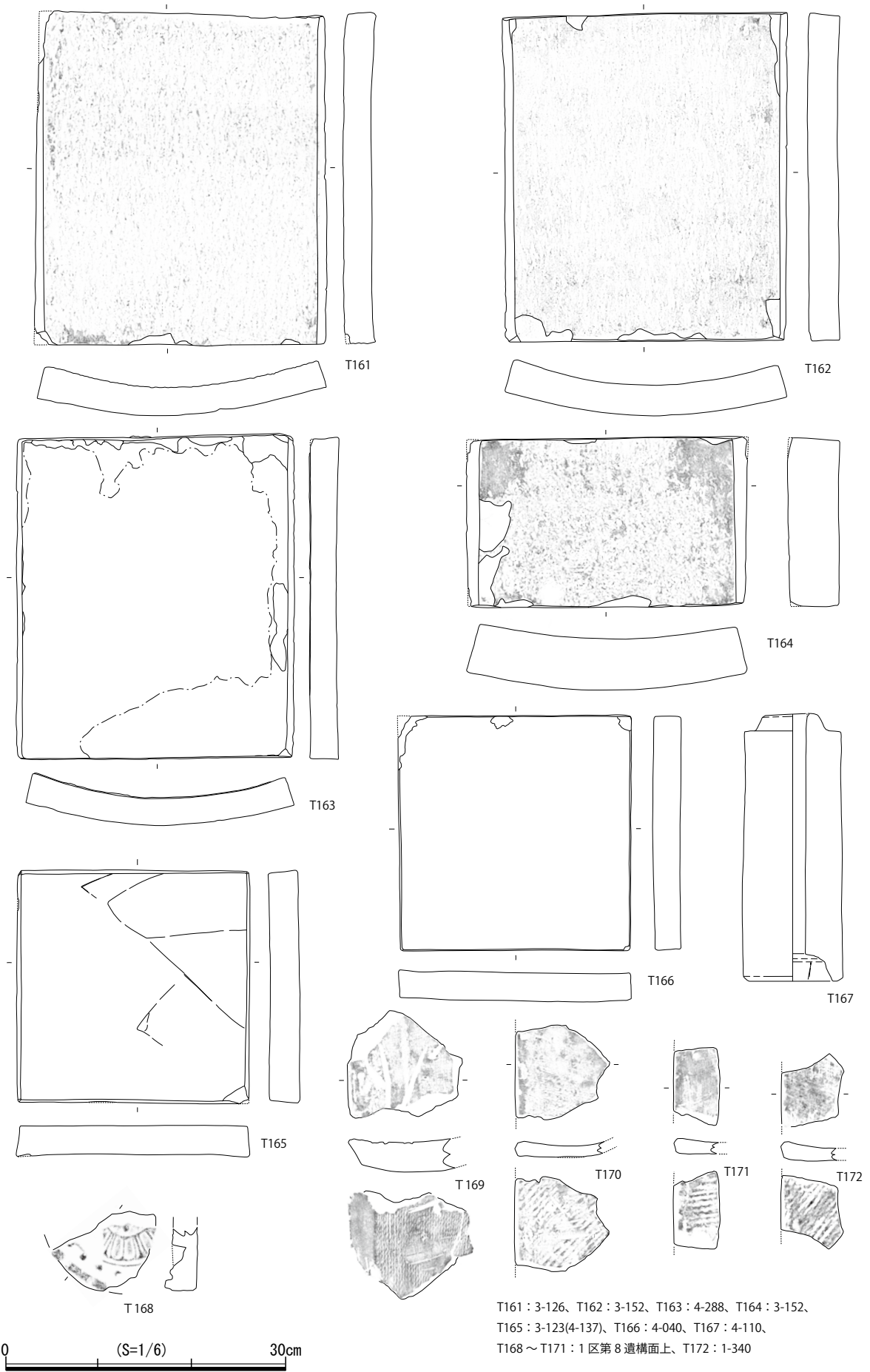




T154 : 3-321、T155 : 3-320、T156 : 3-188、T157 : 4-288、  
 T158 : 4-319、T159 : 3-335、T160 : 3-083

0 (S=1/6) 30cm

图 180 出土遺物 瓦類 (10)

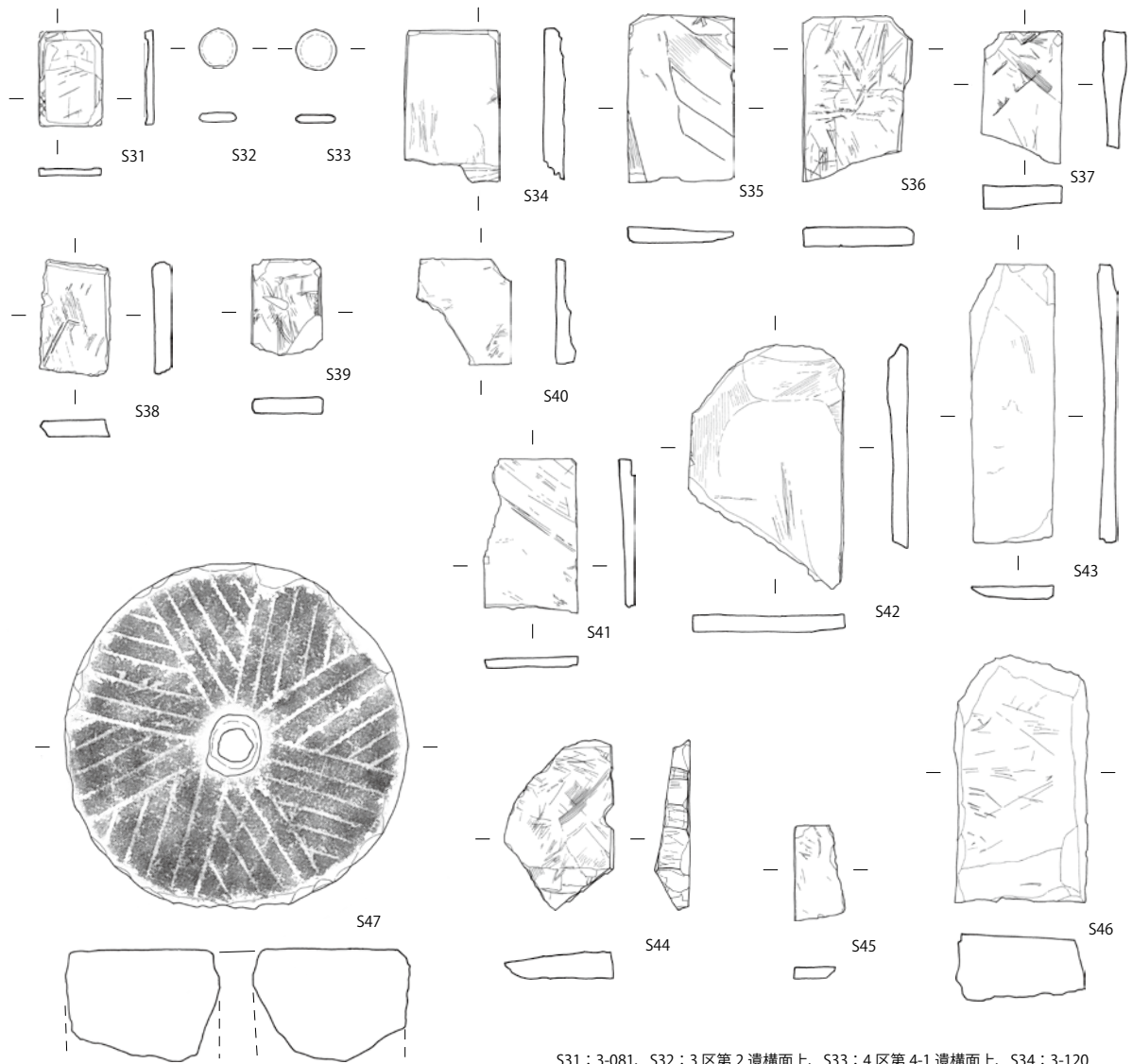


T161 : 3-126、T162 : 3-152、T163 : 4-288、T164 : 3-152、  
 T165 : 3-123(4-137)、T166 : 4-040、T167 : 4-110、  
 T168 ~ T171 : 1区第8遺構面上、T172 : 1-340

図 181 出土遺物 瓦類 (11)



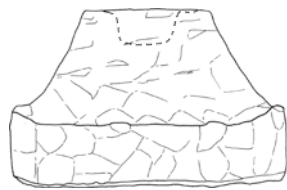
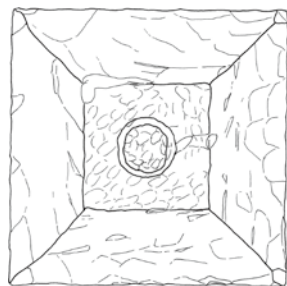
図 182 出土遺物 石製品 (1)



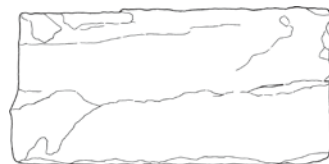
S31 : 3-081、S32 : 3区第2遺構面上、S33 : 4区第4-1遺構面上、S34 : 3-120  
 S35 : 4-287、S36・S37 : 4-099、S38 : 3-111、S39 : 4-152、S40 : 3-107、  
 S41 : 4-085、S42 : 3-064、S43 : 3-072、S44 : 4-107、S45 : 4-215、S46 : 3-300、  
 S47 : 3-164、S48 : 3-222、S49 : 4-098

0 (S=1/4 : S31 ~ S46) 20cm

0 (S=1/6 : S47 ~ S49) 30cm



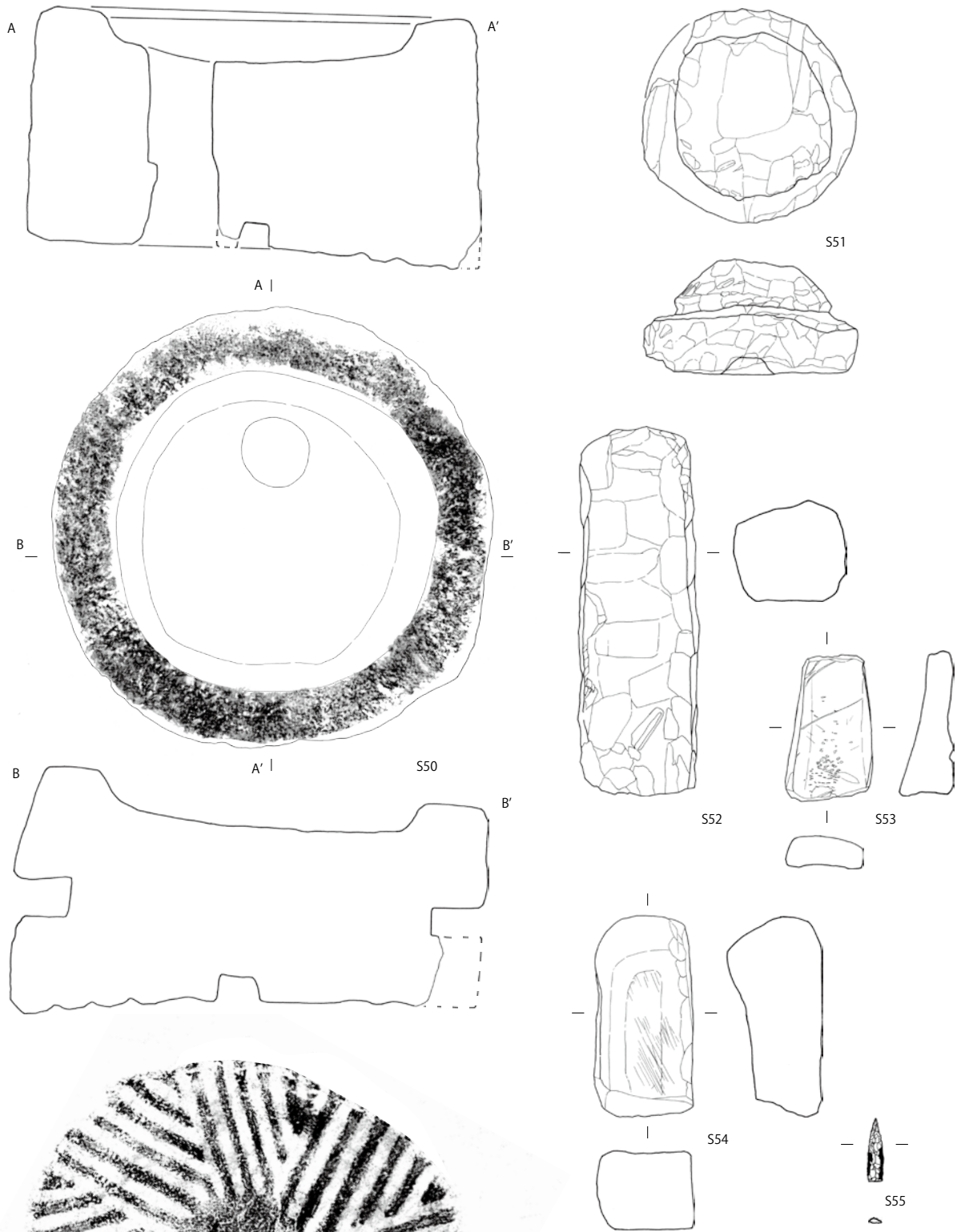
S48



S49

図 183 出土遺物 石製品 (2)





S50 : 3-152、S51・S52 : 4-355、S53 : 4-353、  
 S54 : 4-373、S55 : 4区第8遺構面上

(S=1/8 : S50)

0 40cm

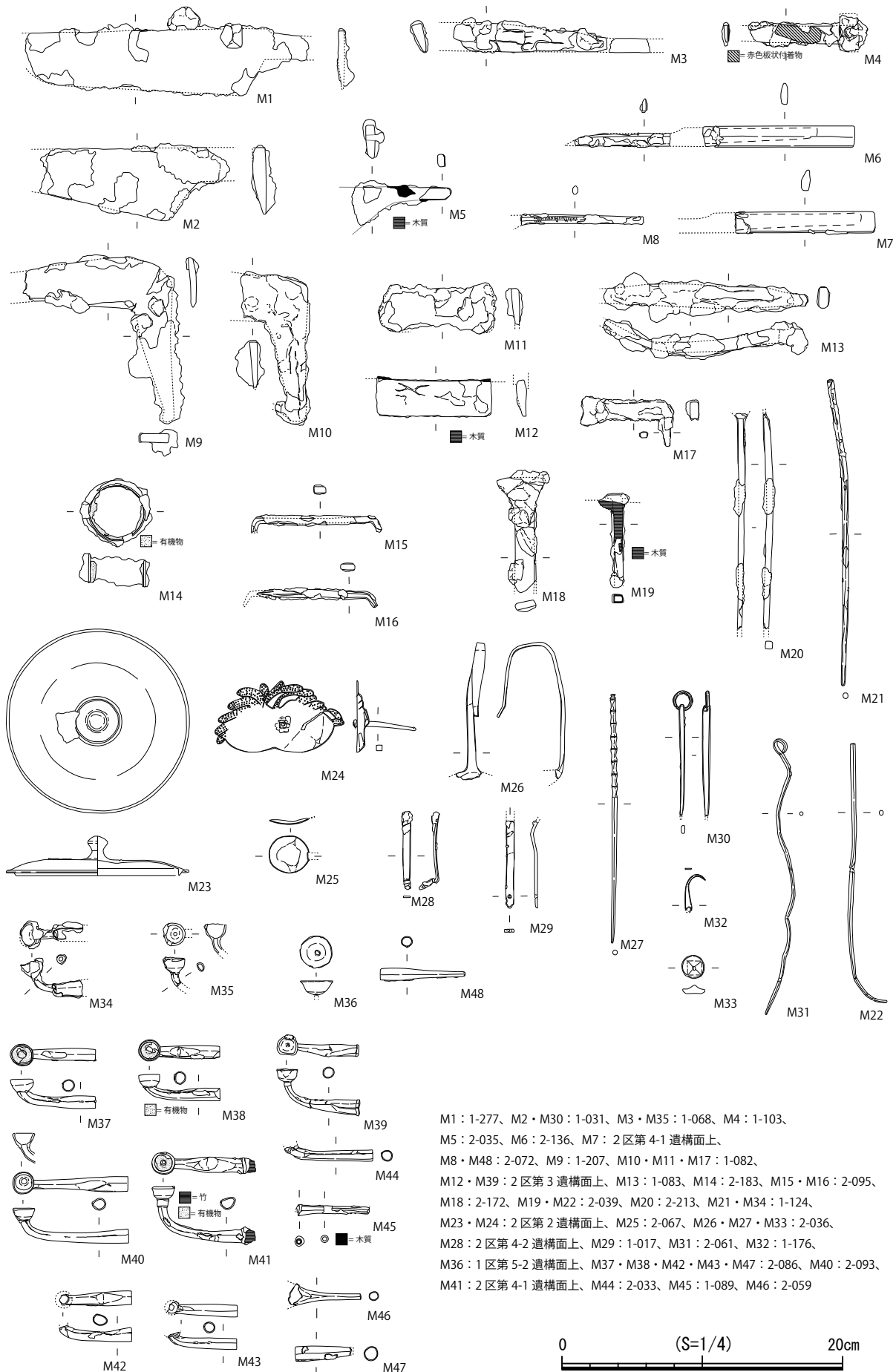
(S=1/6 : S51・S52)

0 30cm

(S=1/4 : S53 ~ S55)

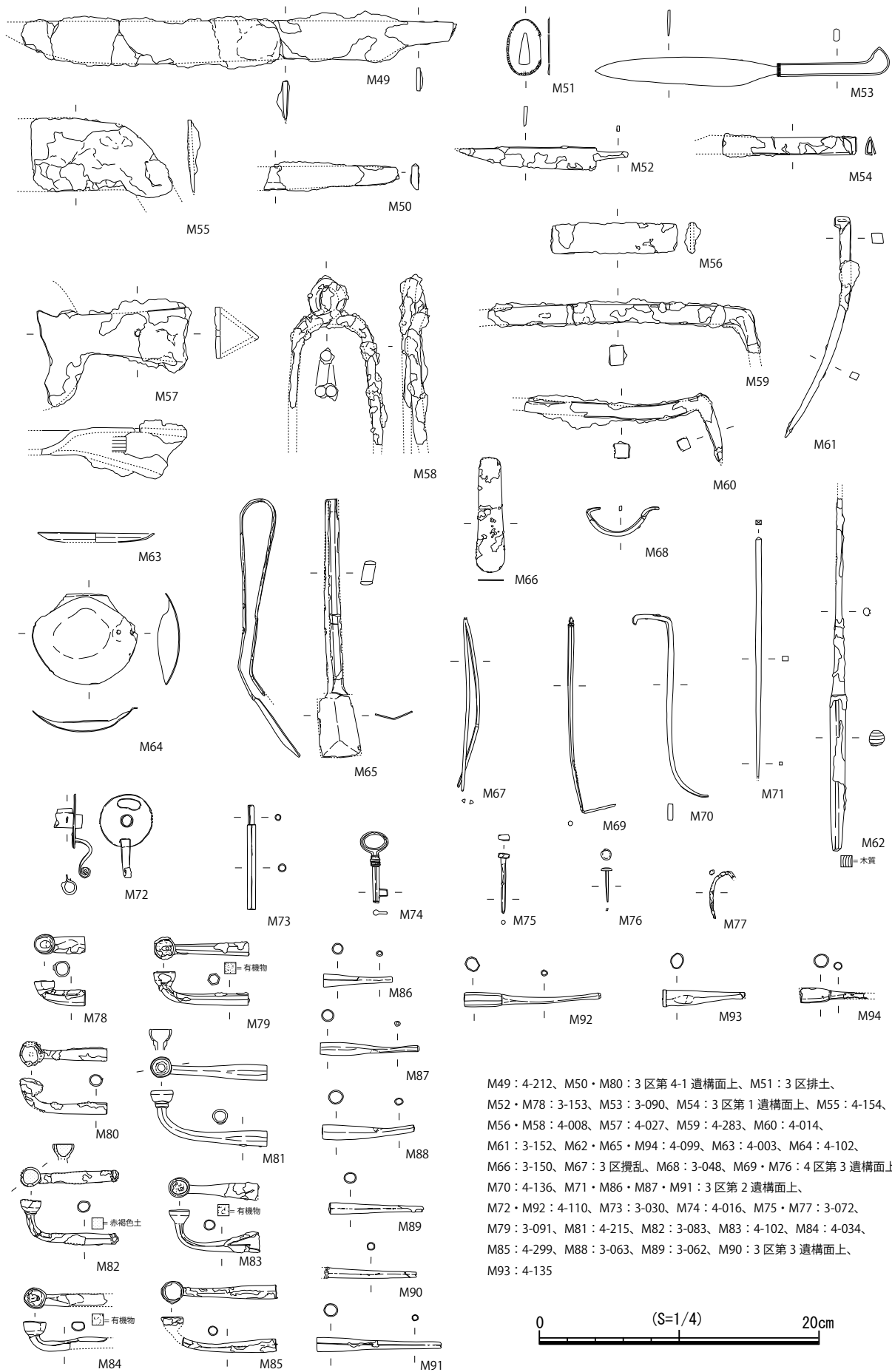
0 20cm

図 184 出土遺物 石製品 (3)



M1 : 1-277、M2 · M30 : 1-031、M3 · M35 : 1-068、M4 : 1-103、  
M5 : 2-035、M6 : 2-136、M7 : 2区第4-1 遺構面上、  
M8 · M48 : 2-072、M9 : 1-207、M10 · M11 · M17 : 1-082、  
M12 · M39 : 2区第3 遺構面上、M13 : 1-083、M14 : 2-183、M15 · M16 : 2-095、  
M18 : 2-172、M19 · M22 : 2-039、M20 : 2-213、M21 · M34 : 1-124、  
M23 · M24 : 2区第2 遺構面上、M25 : 2-067、M26 · M27 · M33 : 2-036、  
M28 : 2区第4-2 遺構面上、M29 : 1-017、M31 : 2-061、M32 : 1-176、  
M36 : 1区第5-2 遺構面上、M37 · M38 · M42 · M43 · M47 : 2-086、M40 : 2-093、  
M41 : 2区第4-1 遺構面上、M44 : 2-033、M45 : 1-089、M46 : 2-059

图 185 出土遺物 金属 (1)

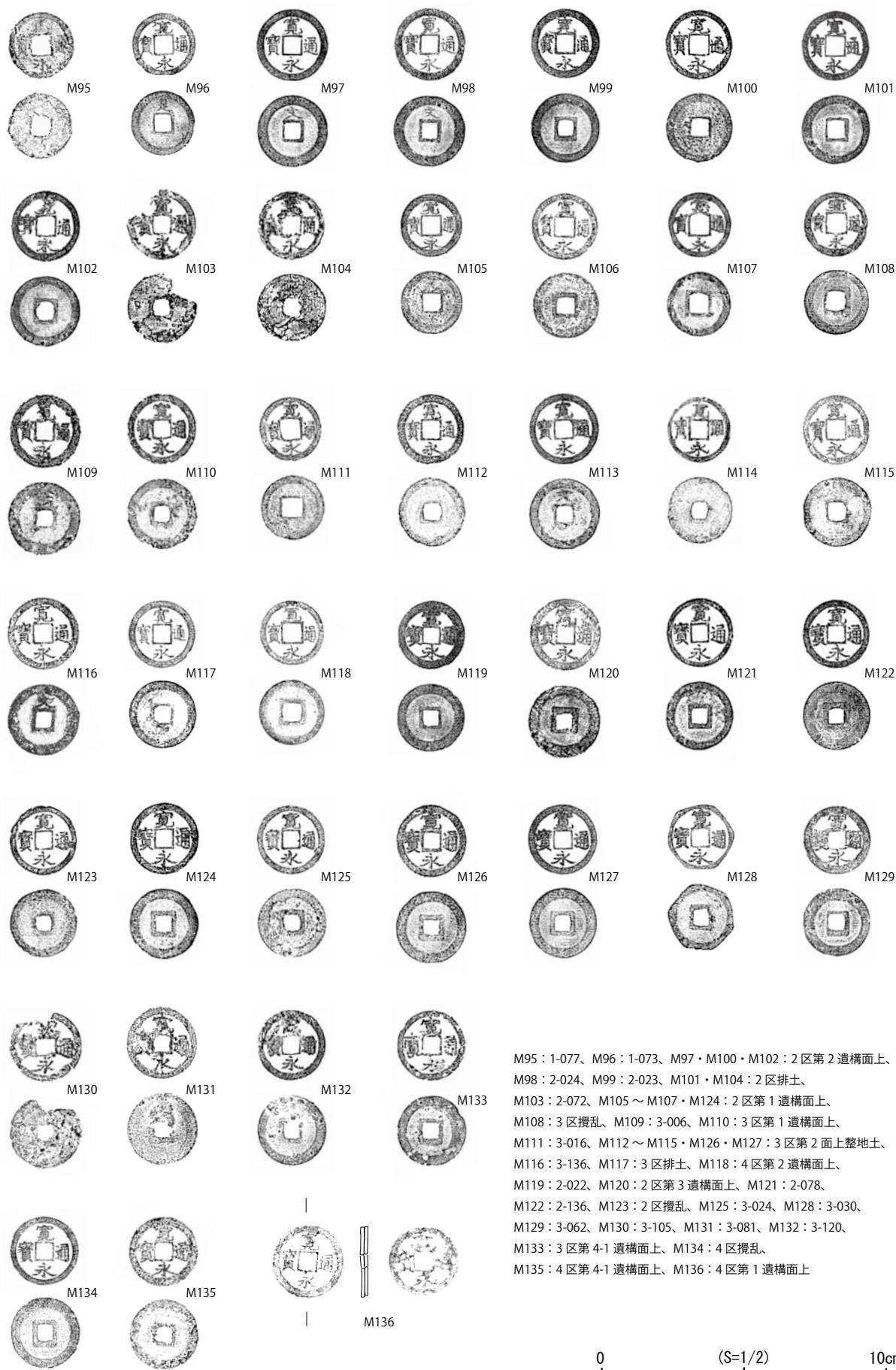


M49 : 4-212、M50・M80 : 3 区第 4-1 遺構面上、M51 : 3 区排土、  
M52・M78 : 3-153、M53 : 3-090、M54 : 3 区第 1 遺構面上、M55 : 4-154、  
M56・M58 : 4-008、M57 : 4-027、M59 : 4-283、M60 : 4-014、  
M61 : 3-152、M62・M65・M94 : 4-099、M63 : 4-003、M64 : 4-102、  
M66 : 3-150、M67 : 3 区攪乱、M68 : 3-048、M69・M76 : 4 区第 3 遺構面上、  
M70 : 4-136、M71・M86・M87・M91 : 3 区第 2 遺構面上、  
M72・M92 : 4-110、M73 : 3-030、M74 : 4-016、M75・M77 : 3-072、  
M79 : 3-091、M81 : 4-215、M82 : 3-083、M83 : 4-102、M84 : 4-034、  
M85 : 4-299、M88 : 3-063、M89 : 3-062、M90 : 3 区第 3 遺構面上、  
M93 : 4-135

0 (S=1/4) 20cm

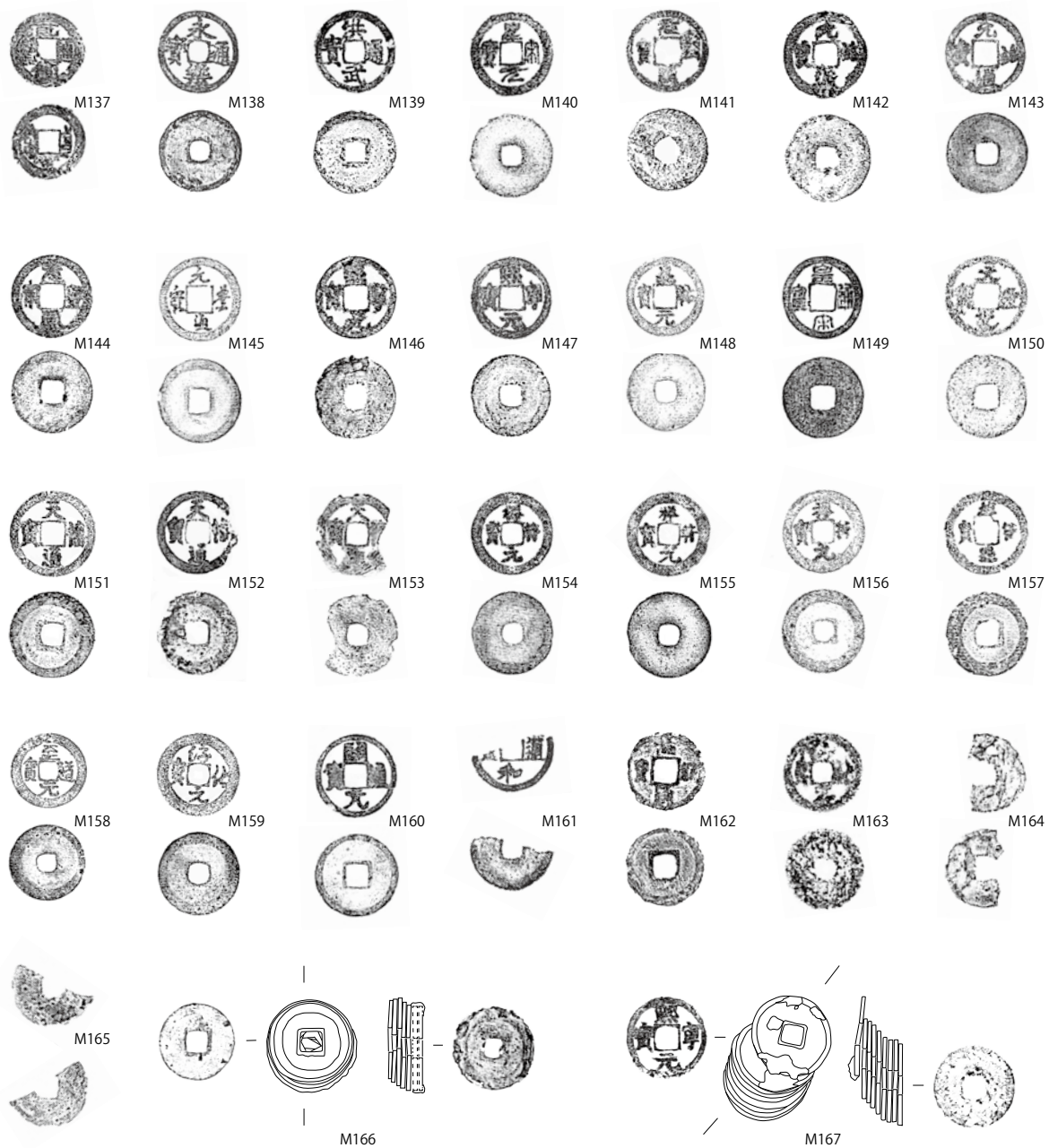
图 186 出土遺物 金属 (2)





M95 : 1-077、M96 : 1-073、M97・M100・M102 : 2区第2遺構面上、  
 M98 : 2-024、M99 : 2-023、M101・M104 : 2区排土、  
 M103 : 2-072、M105～M107・M124 : 2区第1遺構面上、  
 M108 : 3区攪乱、M109 : 3-006、M110 : 3区第1遺構面上、  
 M111 : 3-016、M112～M115・M126・M127 : 3区第2面上整地土、  
 M116 : 3-136、M117 : 3区排土、M118 : 4区第2遺構面上、  
 M119 : 2-022、M120 : 2区第3遺構面上、M121 : 2-078、  
 M122 : 2-136、M123 : 2区攪乱、M125 : 3-024、M128 : 3-030、  
 M129 : 3-062、M130 : 3-105、M131 : 3-081、M132 : 3-120、  
 M133 : 3区第4-1遺構面上、M134 : 4区攪乱、  
 M135 : 4区第4-1遺構面上、M136 : 4区第1遺構面上

図 187 出土遺物 錢貨 (1)



M137・M165～M167：3区第2遺構面上、M138：1区第2遺構面上、  
M139：1-203、M140：3区第1遺構面上、M141：1区攪乱、M142・M158：1区  
第4遺構面上、M143・M147・M155：3区第2遺構面上、M144：1区第3遺構面上、  
M145：4-102、M146：1-083、M148：4区第2遺構面上、M149：2区排土、  
M150：4-135、M151：1区攪乱、M152：1-252、M153：3区第1遺構面上、  
M154：2区第4-2遺構面上、M156：4-048、M157：4区第4-2遺構面上、  
M158：1区第4-1遺構面上、M159：1区第3遺構面上、M160：3区第4-1遺構面上、  
M161：2区第3遺構面上、M162：1区第5-2遺構面上、  
M163：2-147、M164：2-172、G1：2-031

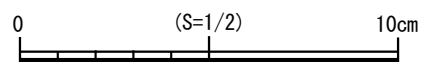
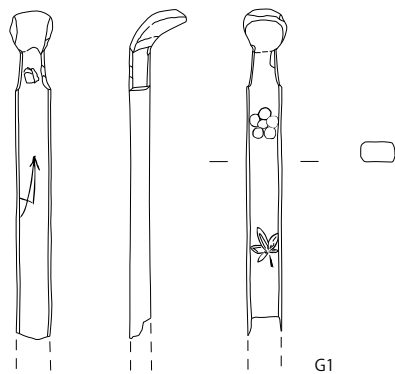
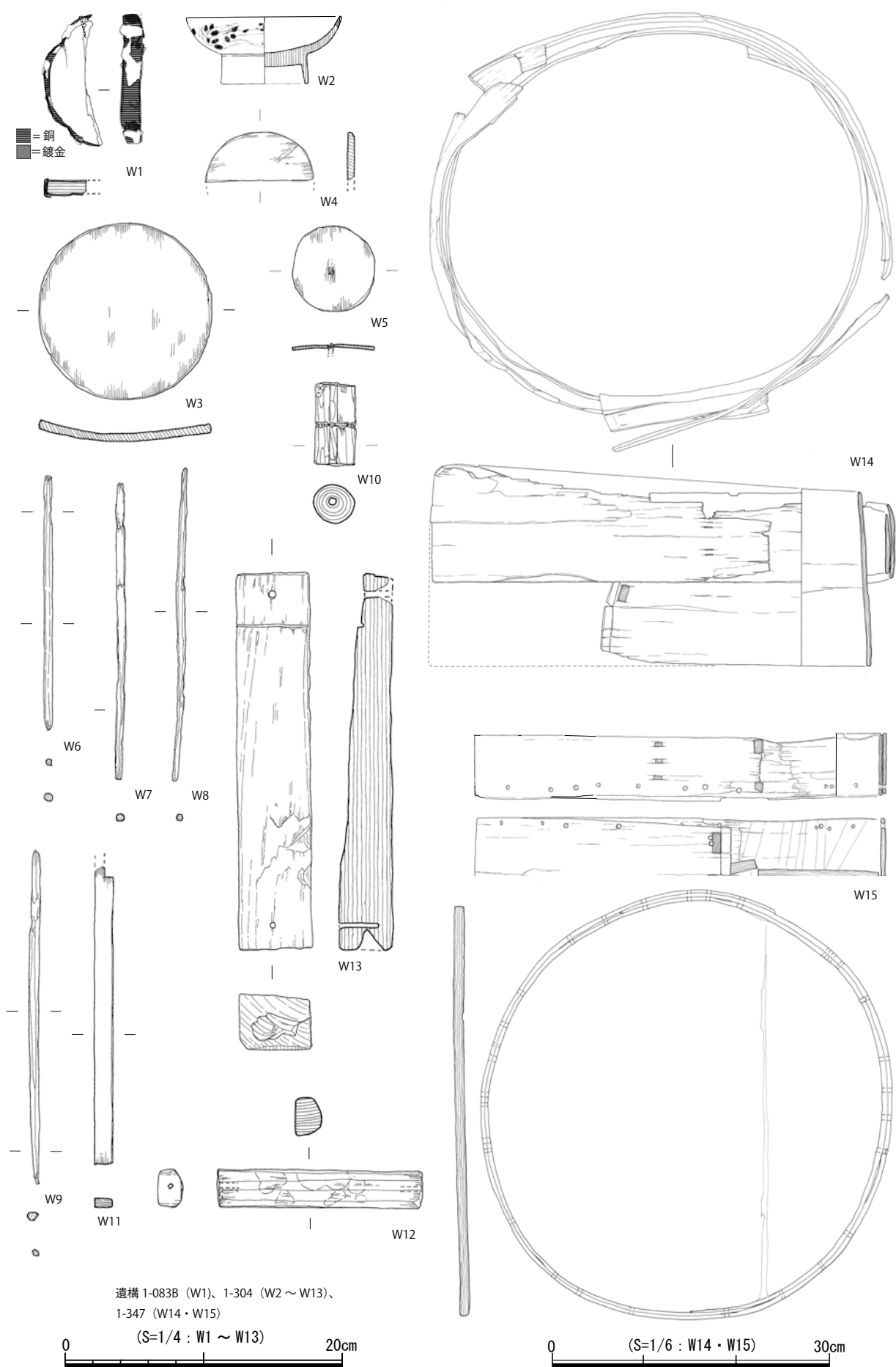


図 188 出土遺物 錢貨(2)・ガラス製品



遺構 1-083B (W1)、1-304 (W2 ~ W13)、  
1-347 (W14 · W15)

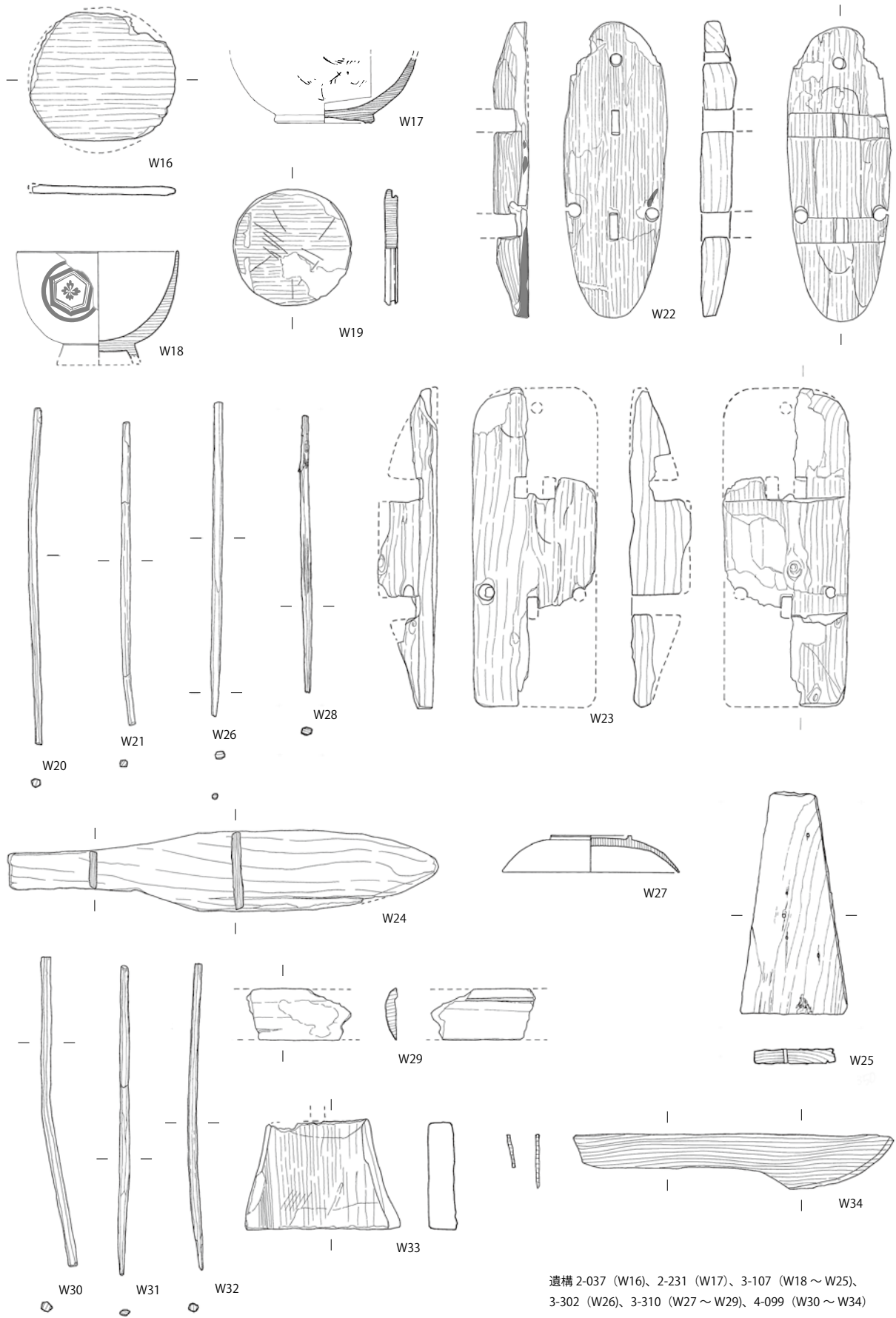
(S=1/4 : W1 ~ W13)

0 20cm

(S=1/6 : W14 · W15)

0 30cm

图 189 出土遺物 木製品 (1)



遺構 2-037 (W16)、2-231 (W17)、3-107 (W18 ~ W25)、  
3-302 (W26)、3-310 (W27 ~ W29)、4-099 (W30 ~ W34)

0 (S=1/4) 20cm

图 190 出土遺物 木製品 (2)



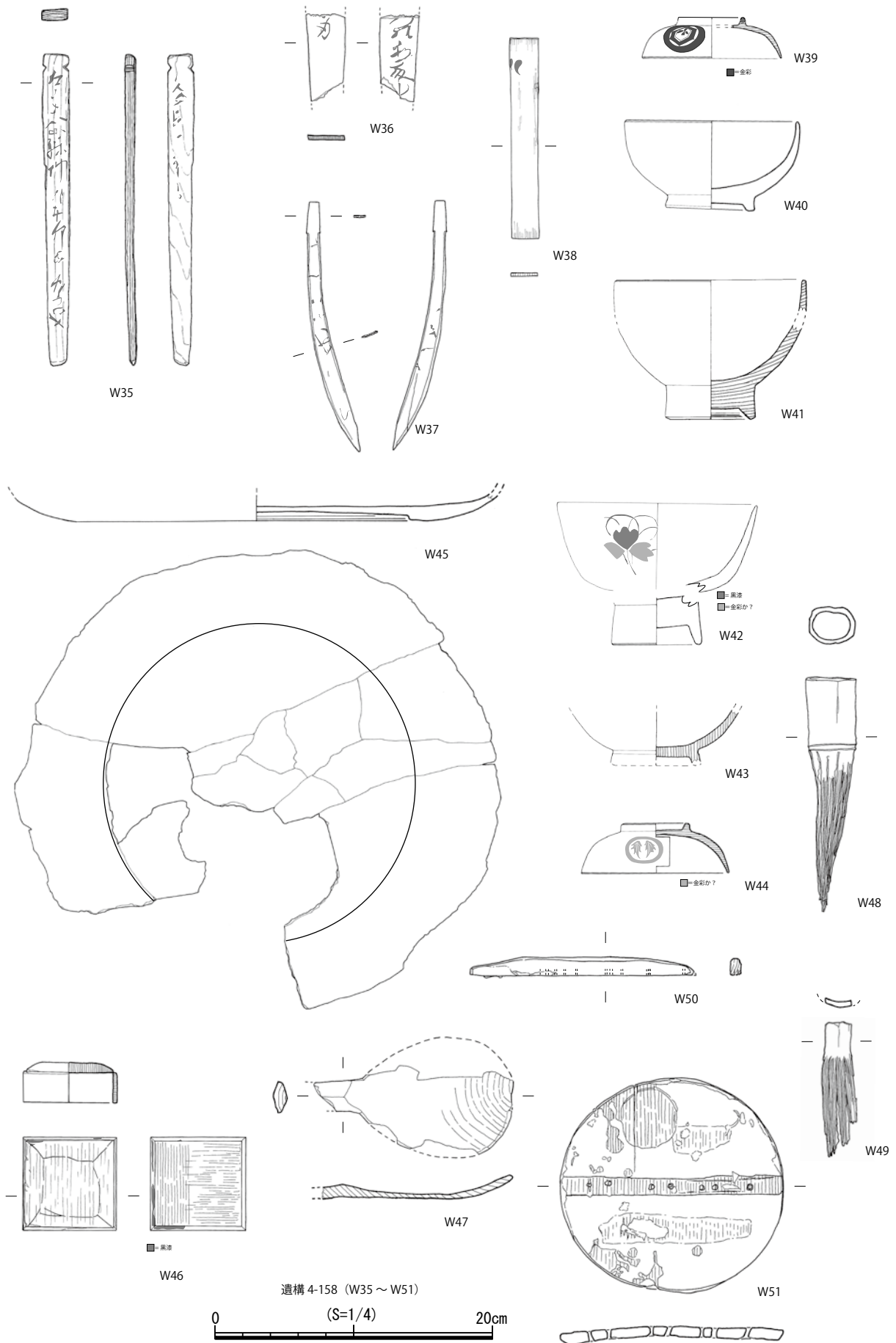


図 191 出土遺物 木製品 (3)

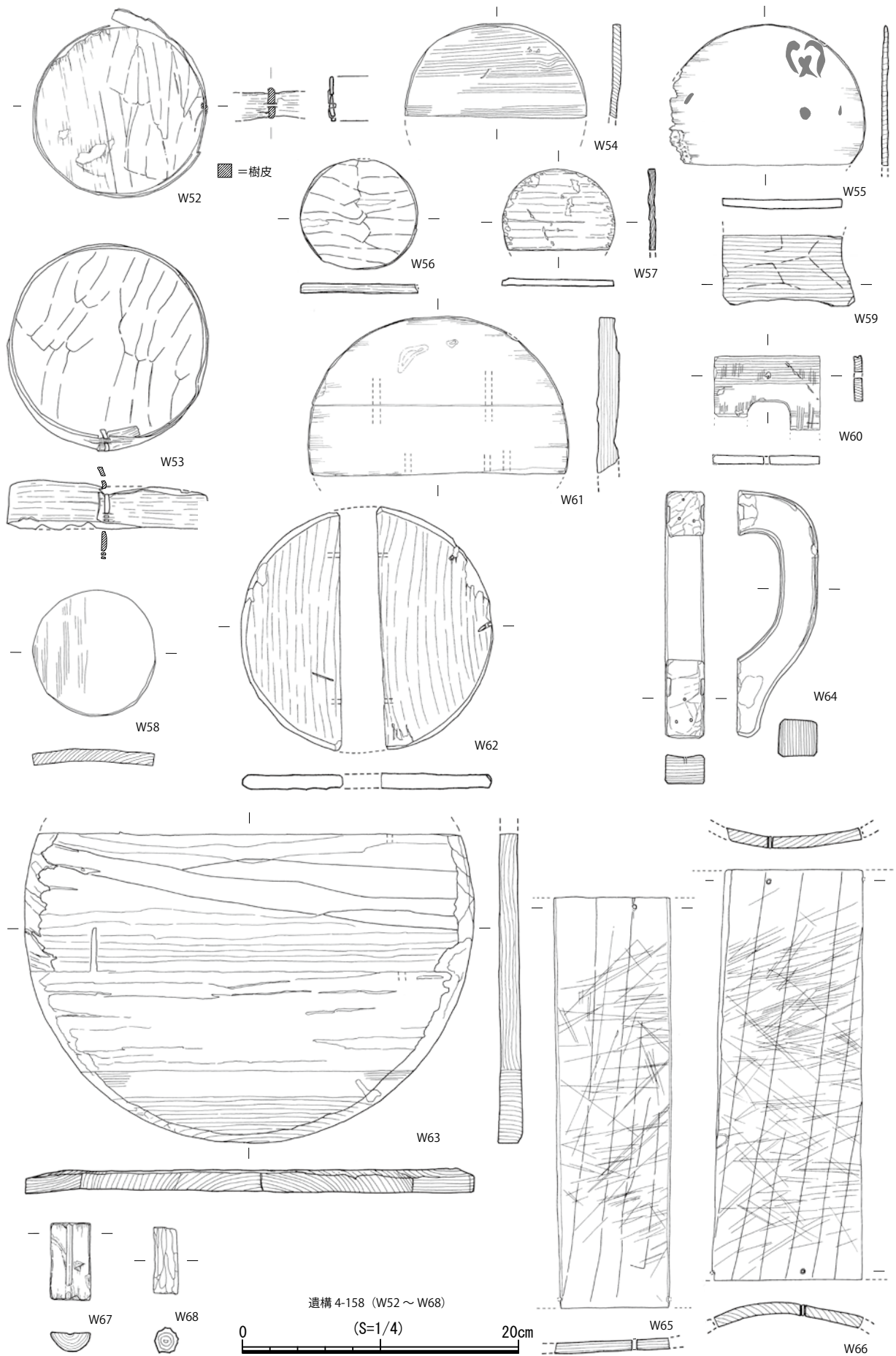


圖 192 出土遺物 木製品 (4)

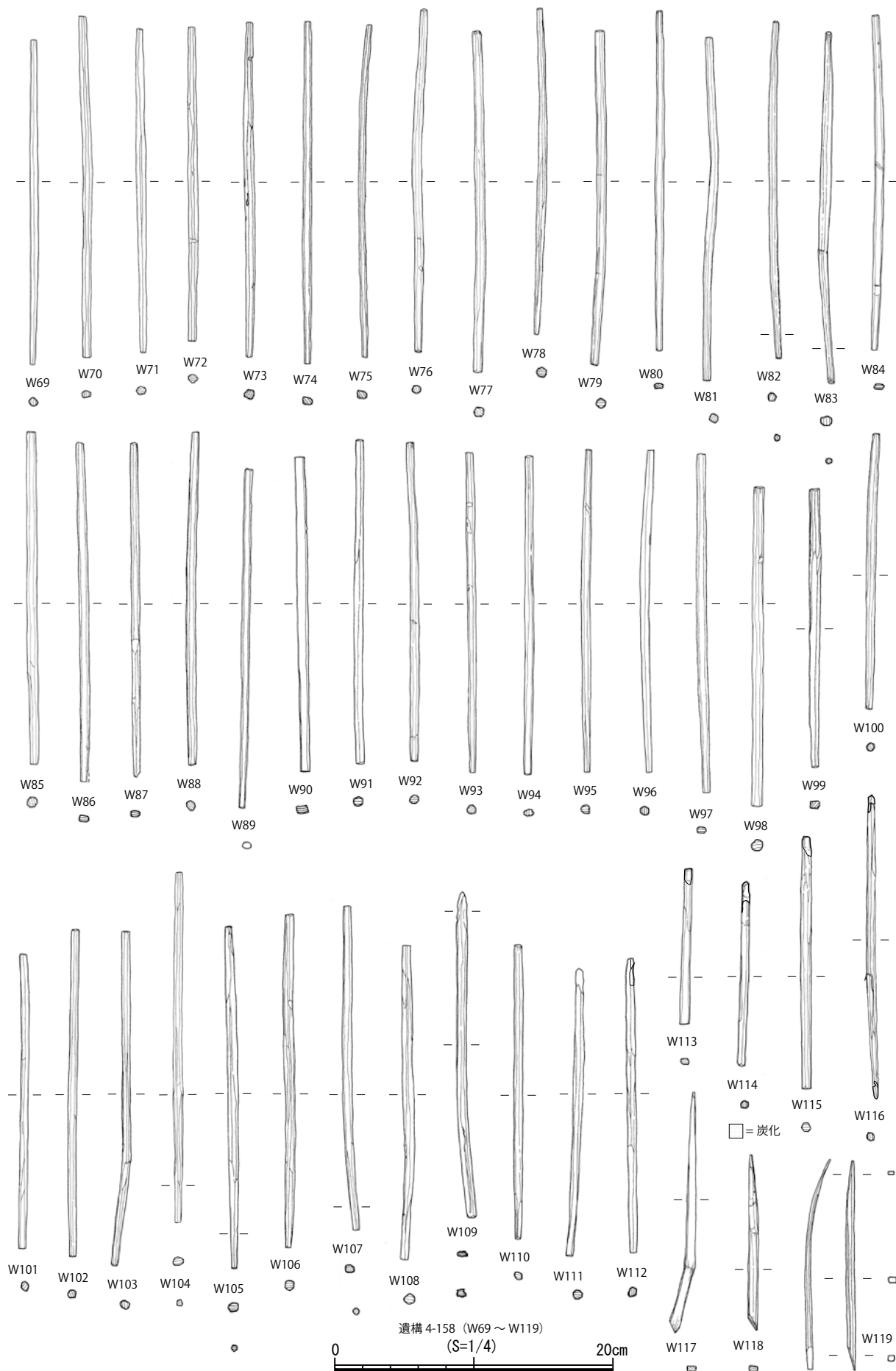


图 193 出土遺物 木製品 (5)



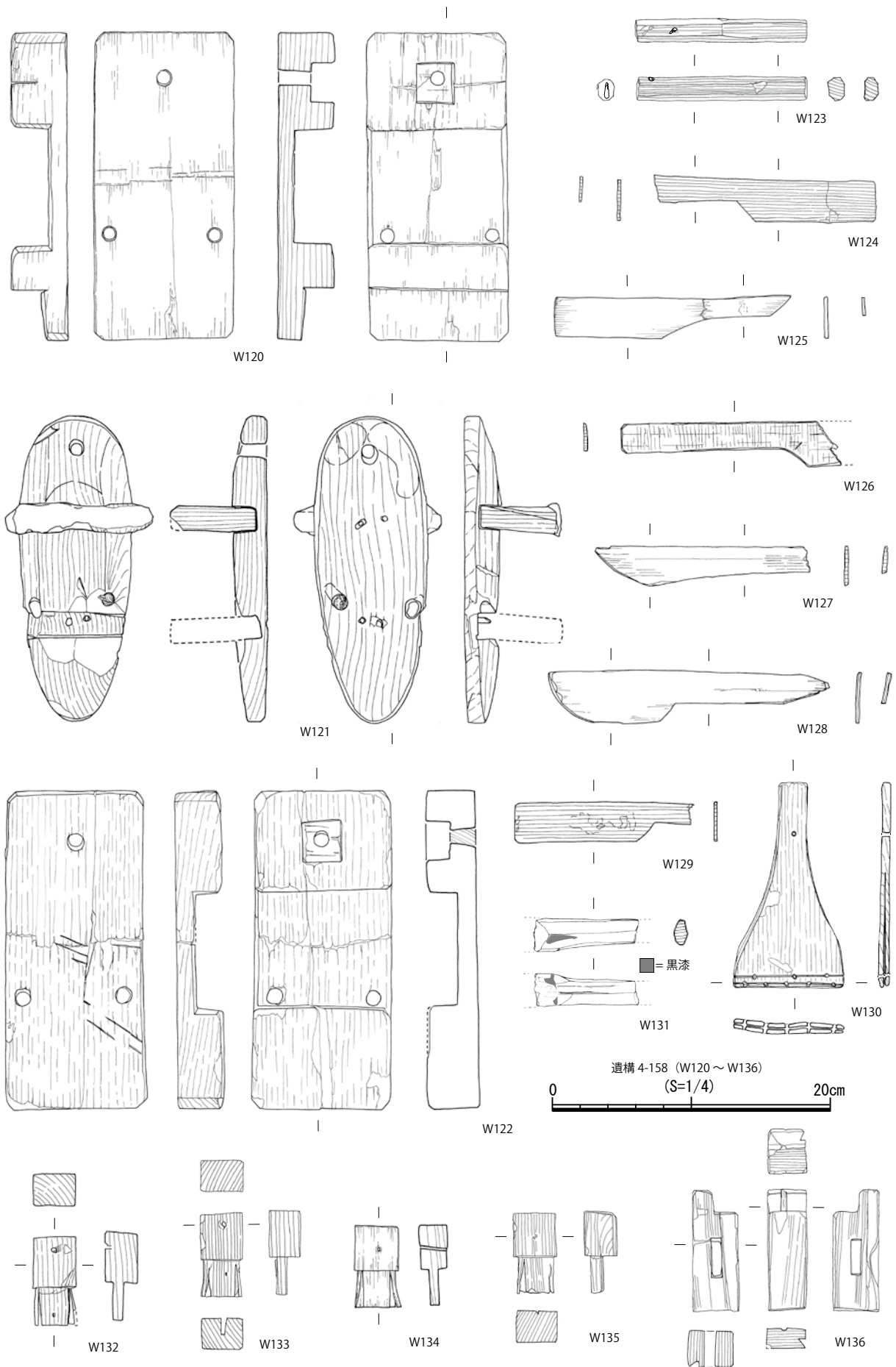


図 194 出土遺物 木製品 (6)

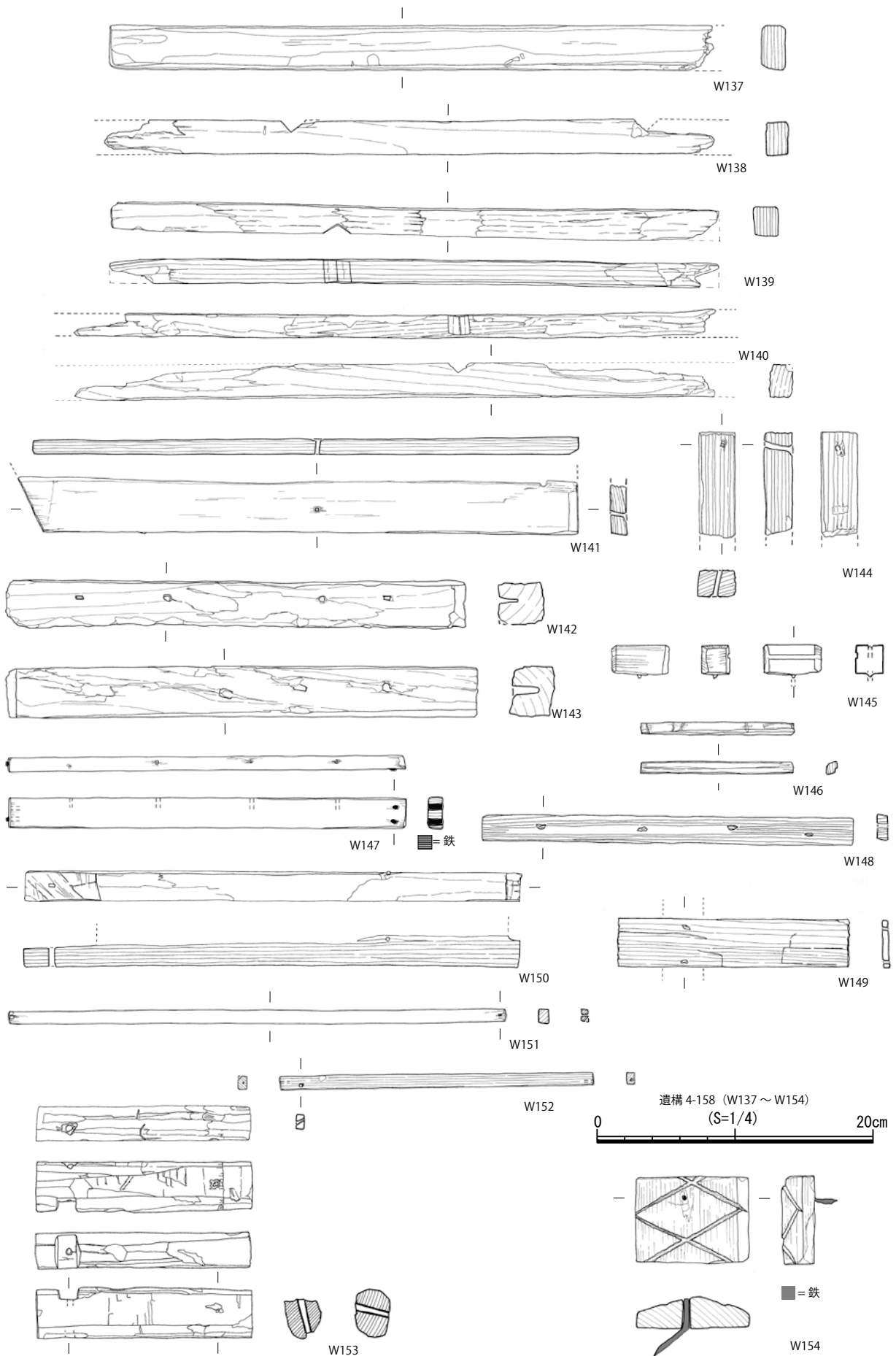


図 195 出土遺物 木製品 (7)

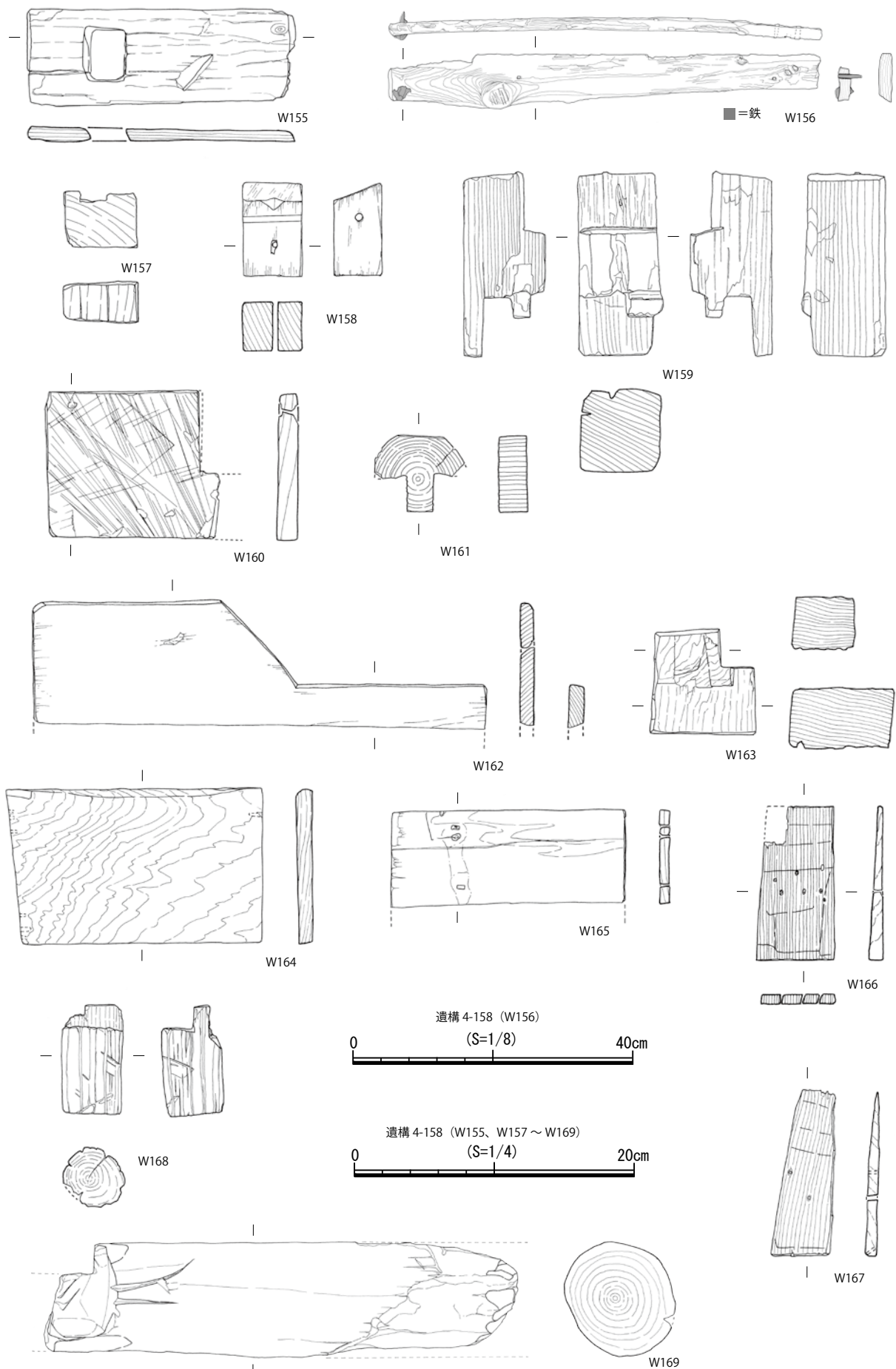
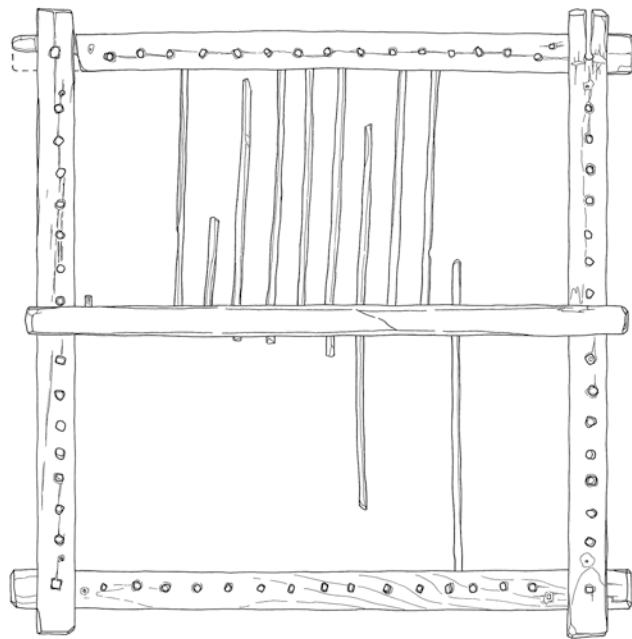
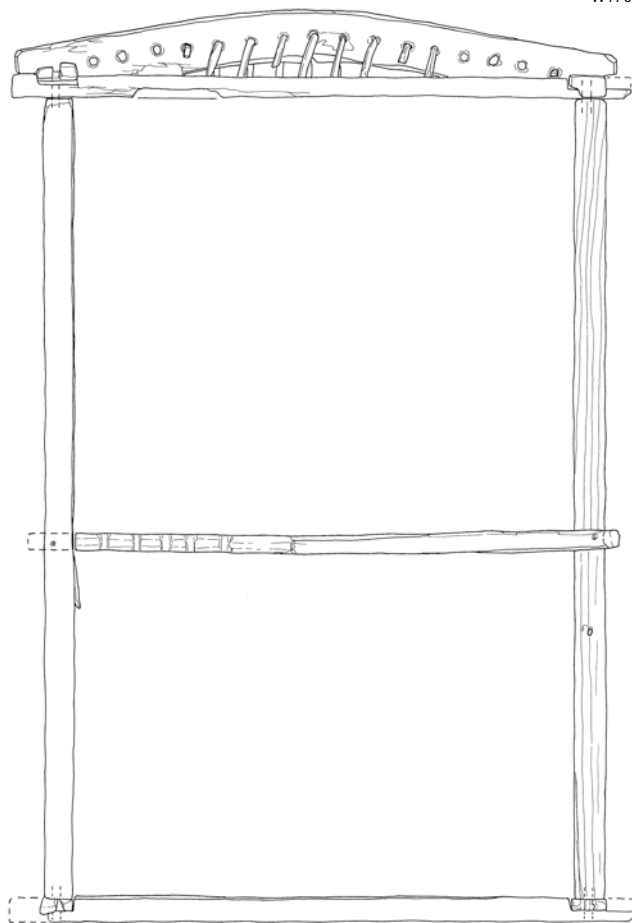
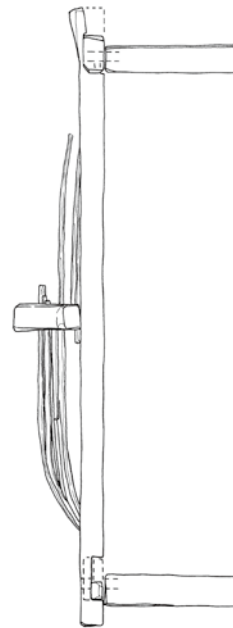


図 196 出土遺物 木製品 (8)



W170



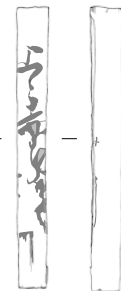
W171



W172



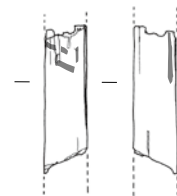
W173



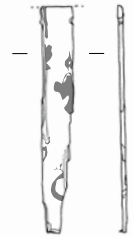
W174



W175



W176



W177

遺構 4-158 (W170)、4-265 (W171 ~ W178)

0 (S=1/4) 20cm



W178

图 197 出土遺物 木製品 (9)

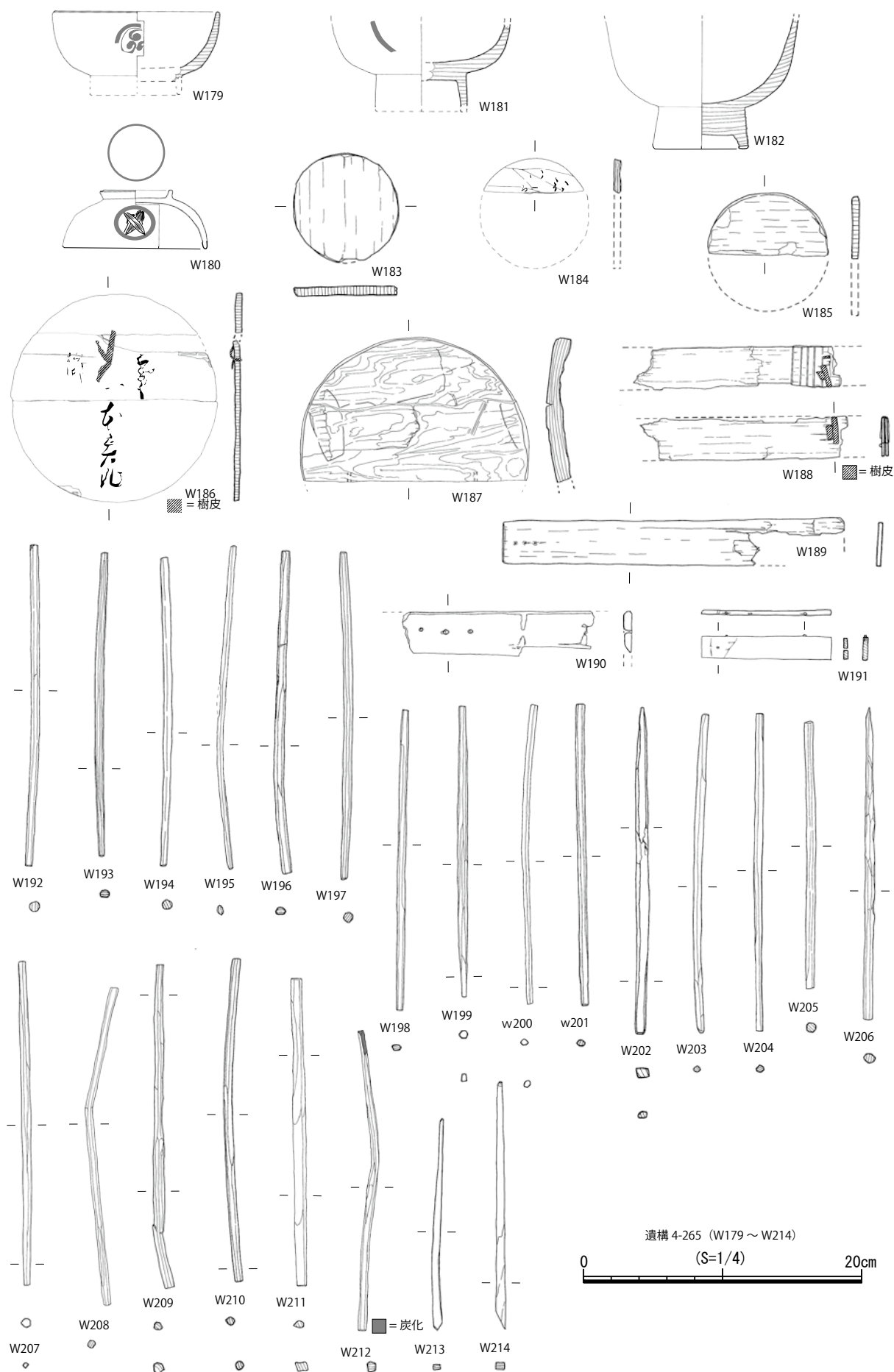


图 198 出土遺物 木製品 (10)



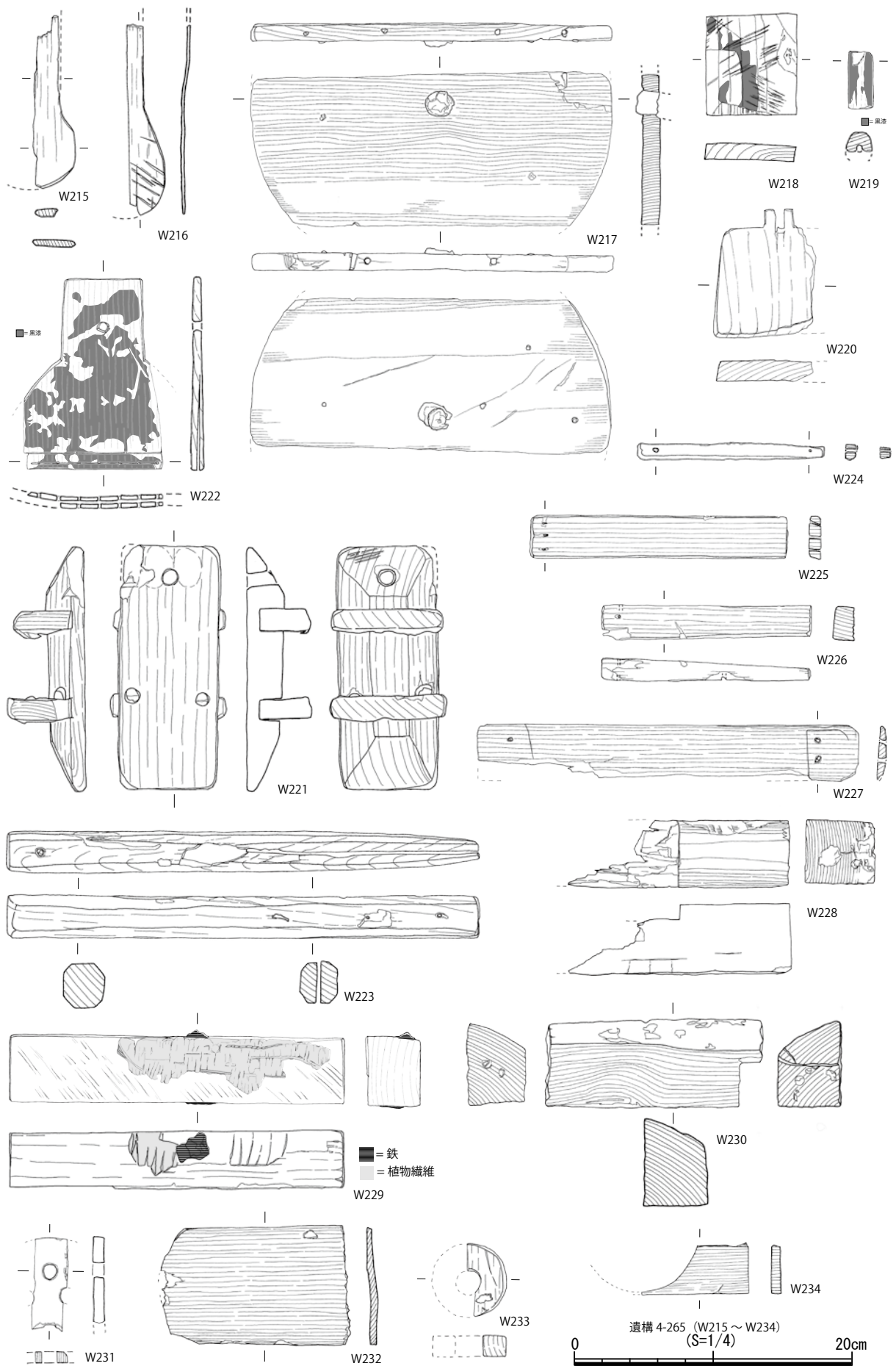


图 199 出土遺物 木製品 (11)

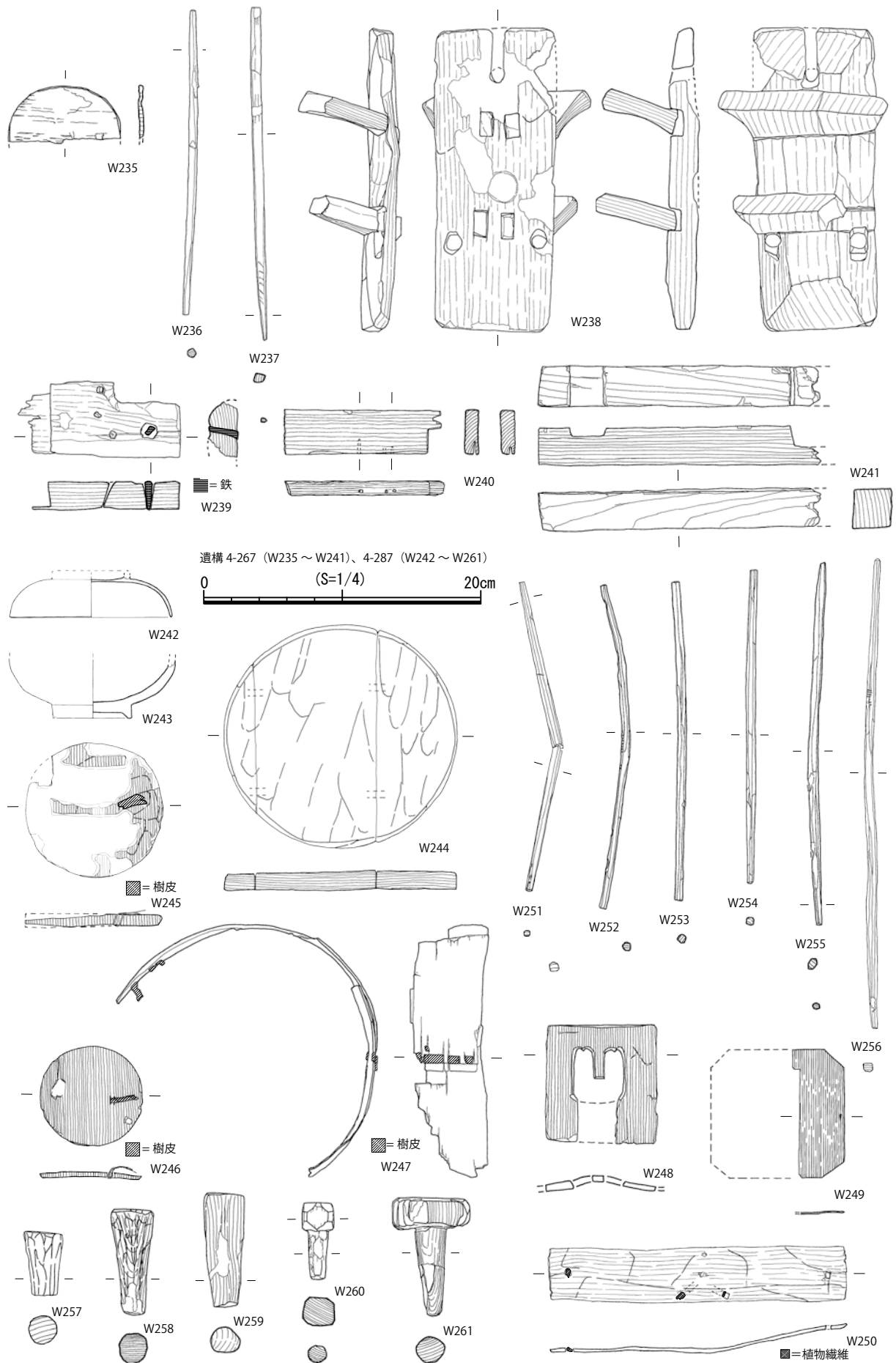


図 200 出土遺物 木製品 (12)



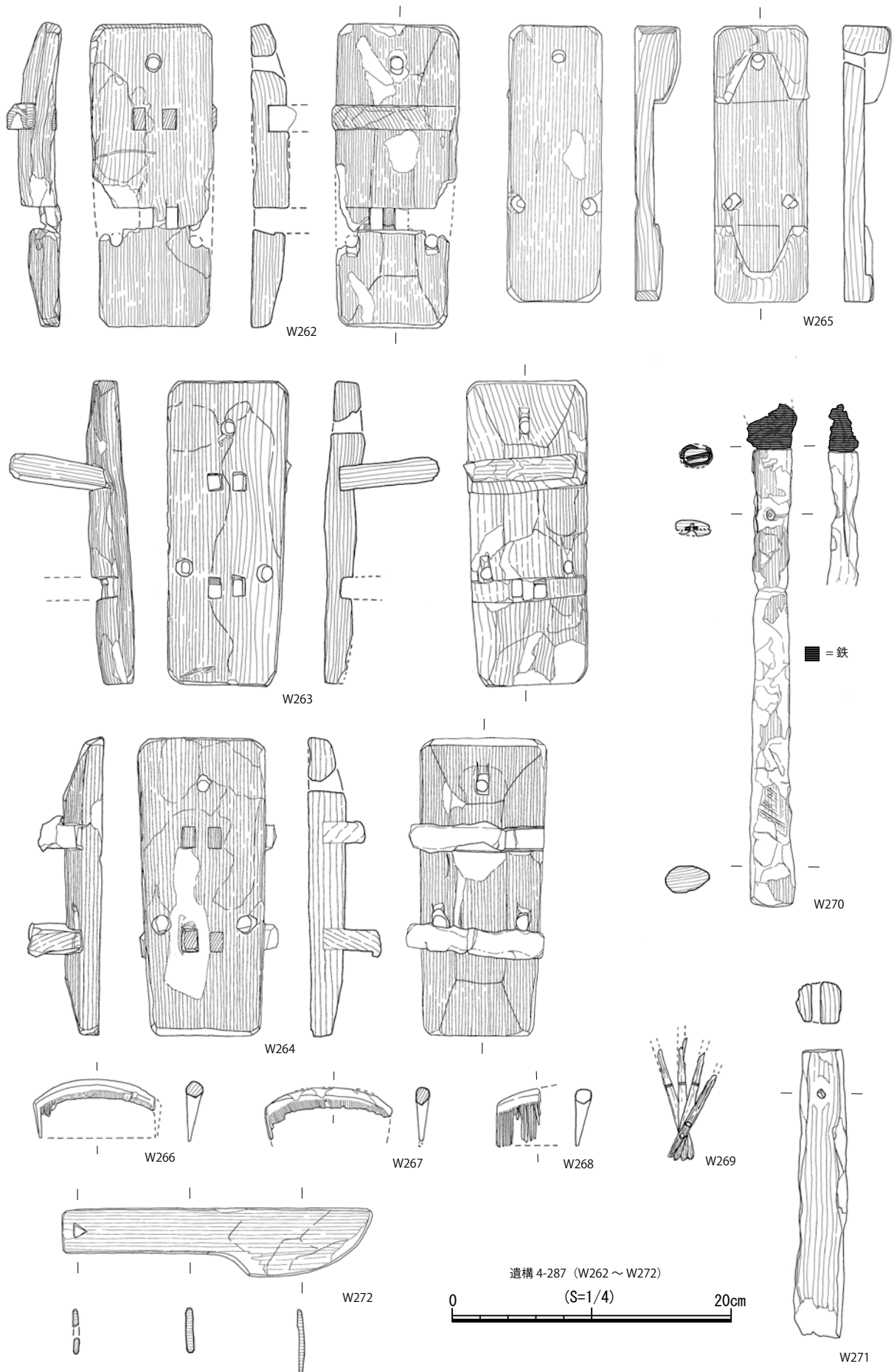


図 201 出土遺物 木製品 (13)

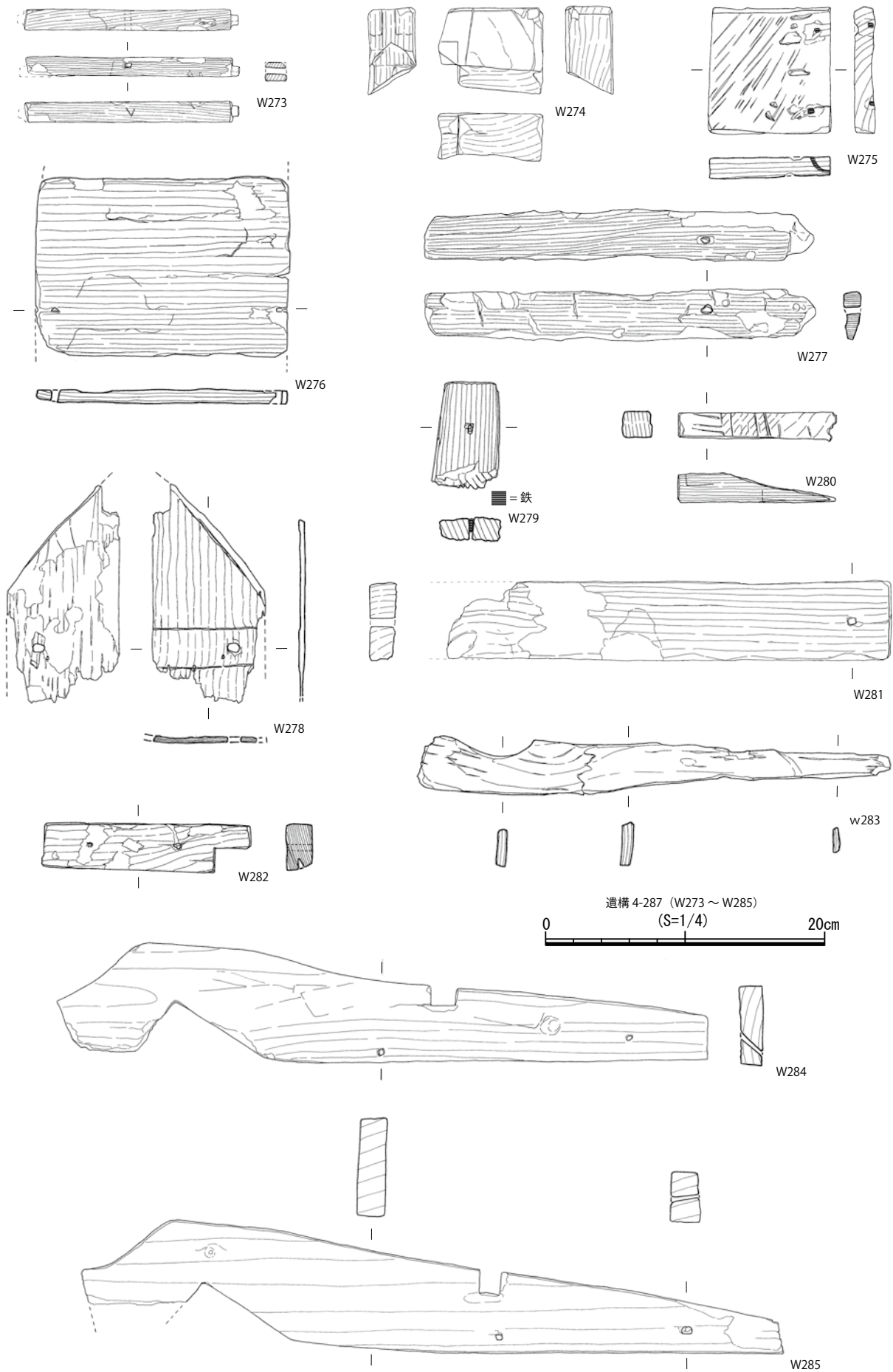


图 202 出土遺物 木製品 (14)

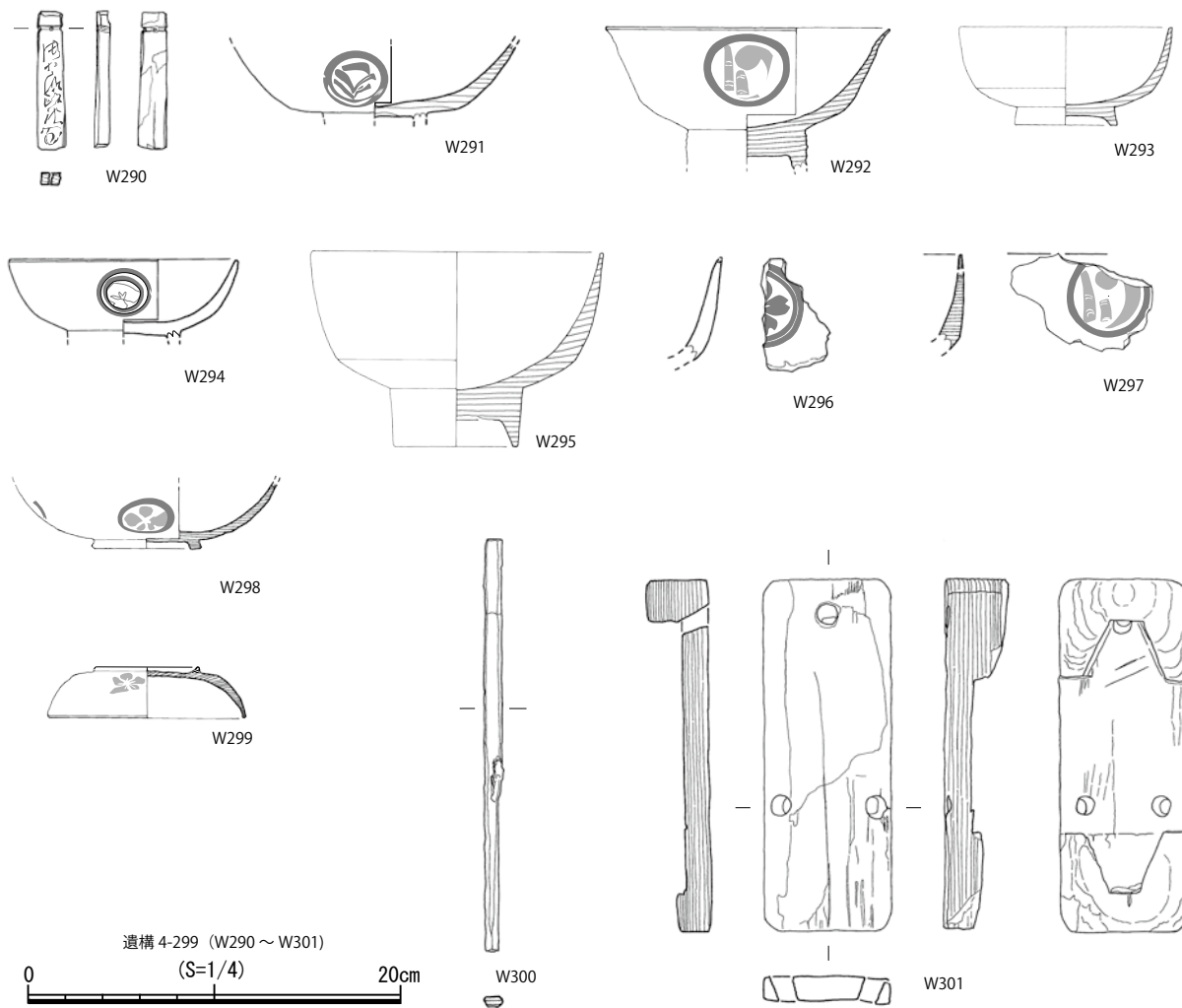
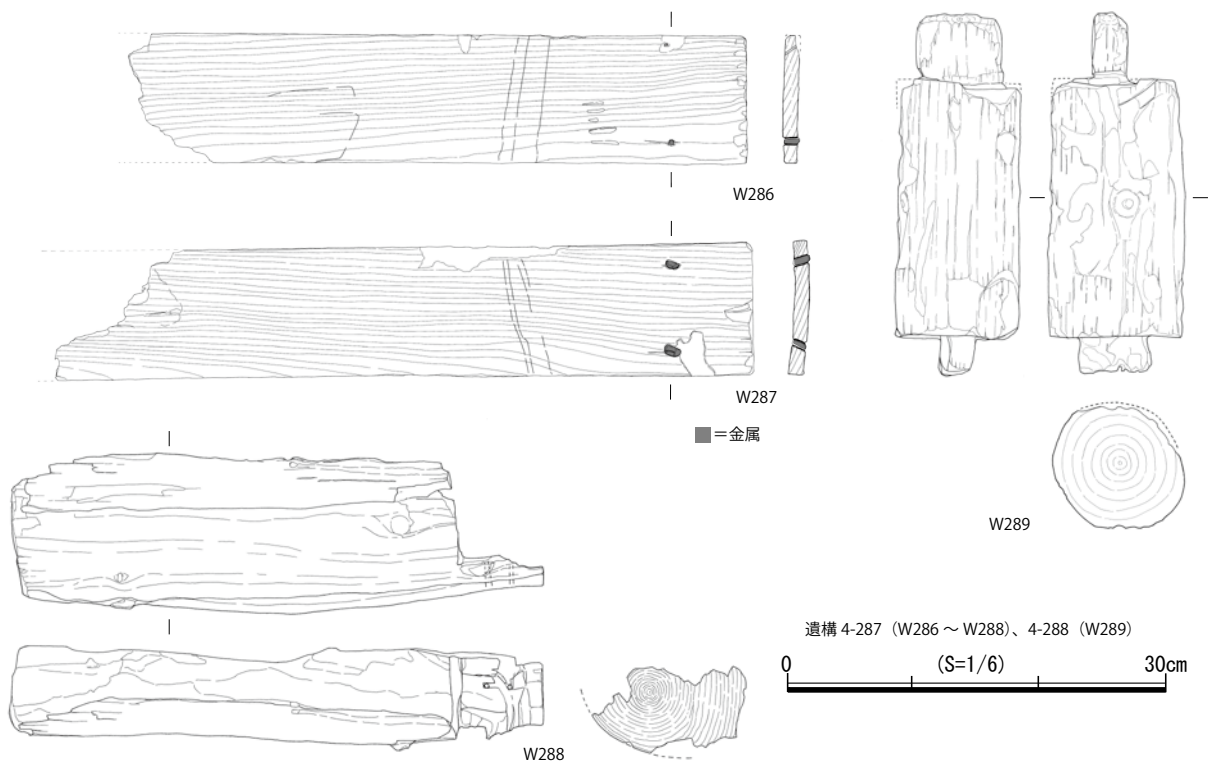
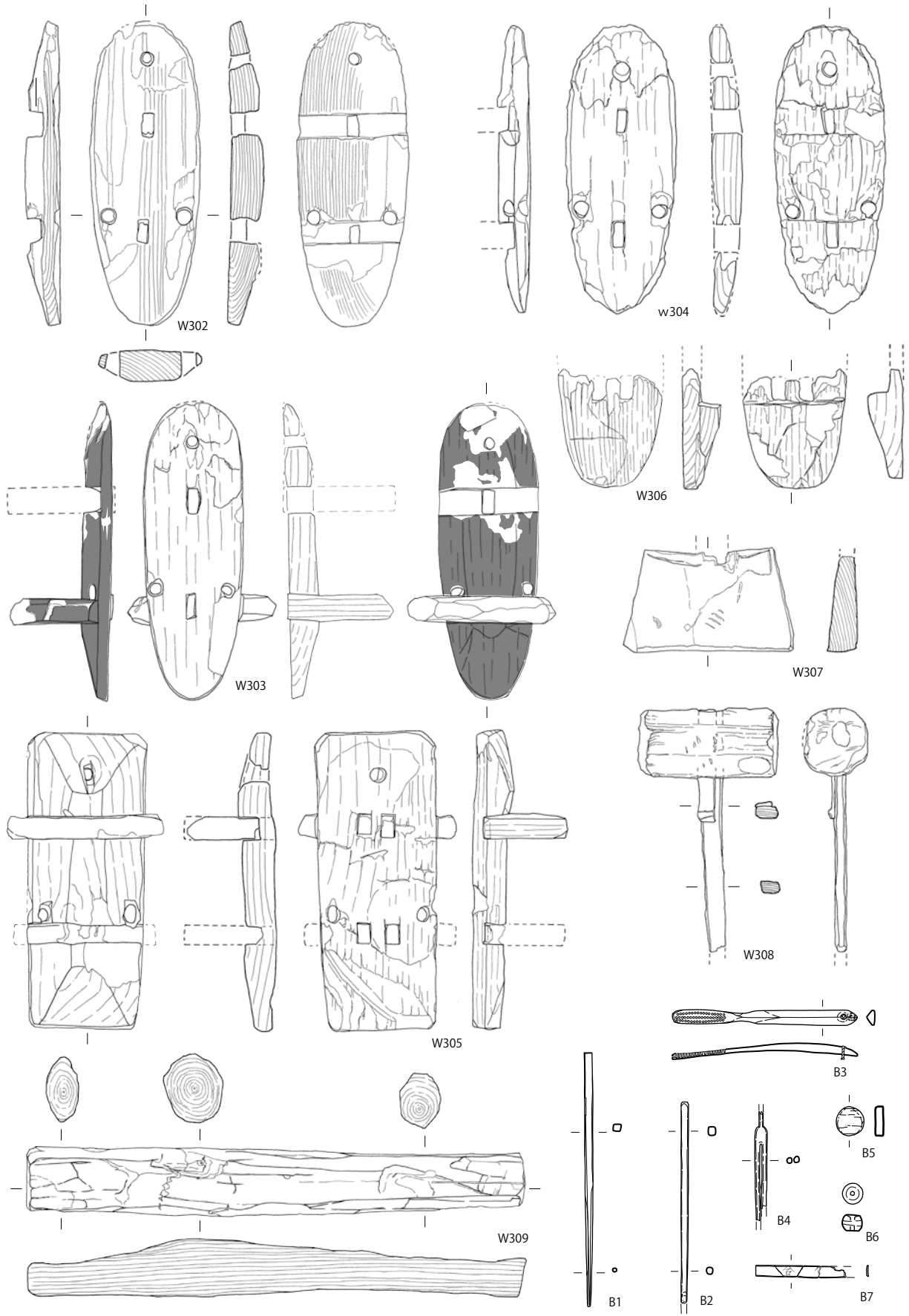


图 203 出土遺物 木製品 (15)



遺構 4-299 (W302 ~ W309)、4-015 (B1)、1-011 (B2)、4区攪乱 (B3)、  
2-033 (B4)、1-028 (B5)、3区第1面 (B6)、3-090 (B7)

图 204 出土遺物 木製品 (16)・骨角製品



## 第4章 5区の調査成果

### 第1節 調査の方法と基本層序

#### 1 座標と地区割

調査区の地区割は、調査区の北西に任意の基点 (X=-195, 964m、Y=-76, 296m) を設定した。この基点から、東方向及び南方向にそれぞれ4mメッシュの杭を打設し、出土遺物の取上げ及び遺構実測をおこなった。

#### 2 調査の手順

調査は、擁壁基礎により埋蔵文化財が損壊を受ける範囲を対象として実施した。排土搬出作業を円滑におこなうため、調査区を東西に二分し、西側部分を5-1区、東側部分を5-2区とした。5-1区については、5-2区の第1遺構面検出後、一部、5-2区と同時並行で調査をおこなった。なお、調査区は、公益財団法人和歌山県文化財センターによる県7次調査の調査区名を踏襲し5区とした。

掘削作業は、現代攪乱層(第0層)は機械によりおこない、第1遺構面以下(第1層~第3層)及び遺構は人力でおこなった。また、5-1区の北西隅にて下層確認トレンチを設定し、標高2.20m付近まで掘り下げをおこなった。排土は場外搬出にて処分、または現代攪乱層上に埋め戻した。

遺構検出及び遺構掘削を行った後に、写真撮影及び実測図作成をおこなった。写真撮影は、フルサイズデジタルカメラ(4575万画素)にて撮影をおこなった。各遺構面の土層断面図及び平面図は、縮尺20分の1で実測した。

#### 3 基本層序(図205)

第0層は現代攪乱層である。これは、旧伏虎中学校の建設に伴うものである。

江戸時代の遺構面である第1遺構面及び第2遺構面は、第1層及び第3層上面に形成される。第1遺構面下には、近世の整地土と考えられる第2層が堆積する。なお、5-1区は第1・2層が存在しないため、第3層上面を第2遺構面として調査した。

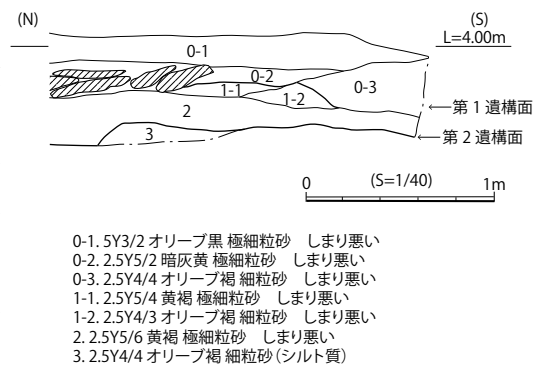


図205 5区の基本層序

### 第2節 調査の成果

#### 1 第1遺構面(図206、図版51)

第1遺構面は5-2区のみで確認した。遺構面の標高は、T.P. +3.60m~T.P. +3.70mとなる。5-2区北半では現代の攪乱が大きく、遺構の検出ができたのは5-2区全体の5分の1程度であったが、ピット1基、土坑1基及び溝状遺構1条を検出した。

5-002ピット(図207・209、図版52) 5-2区南半の東側において検出したピットである。掘

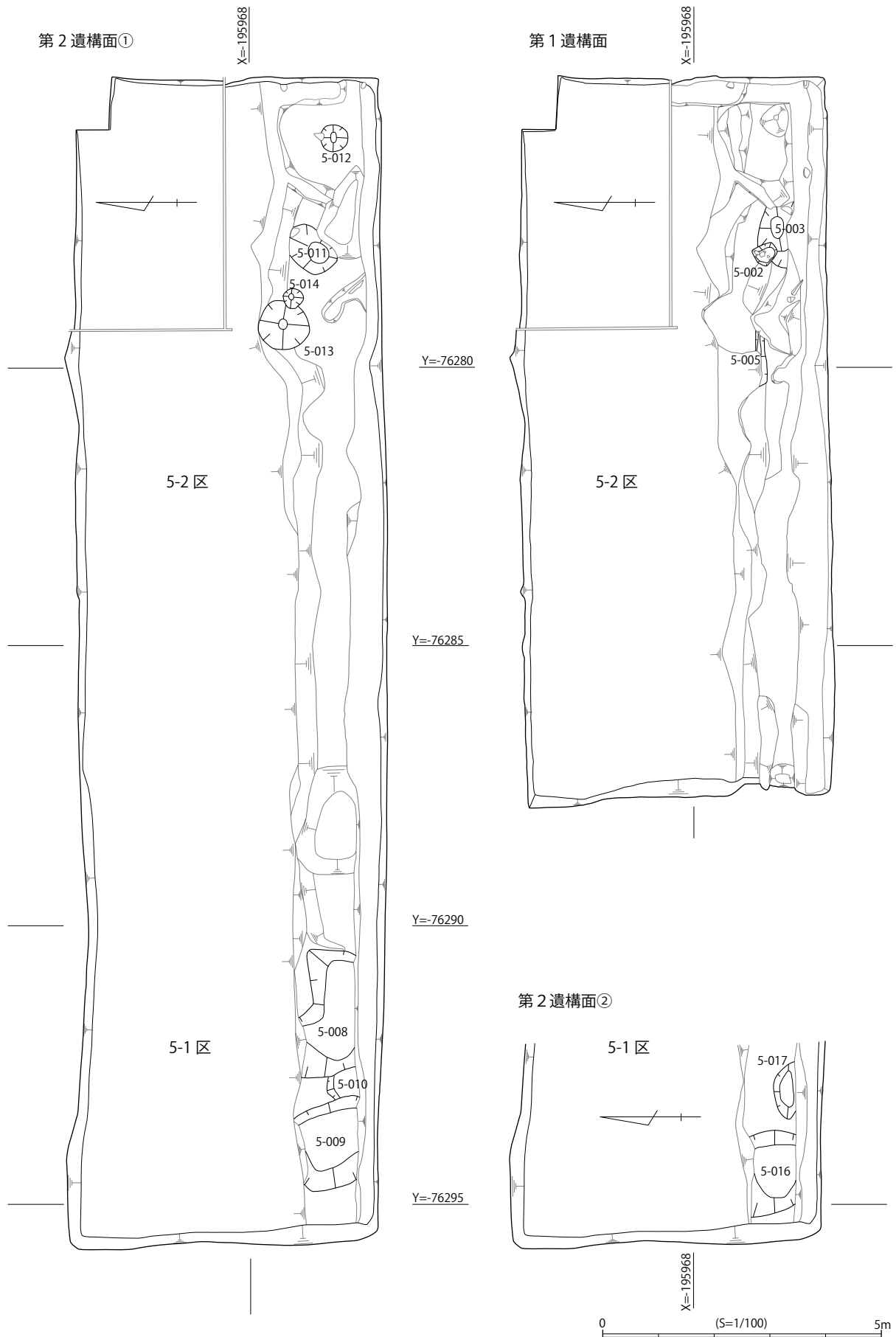


图 206 5区平面图

形の平面形はほぼ円形を呈し、規模は直径約0.40m、深さは約0.20mを測る。埋土は2層に分層でき、底は平坦となる。埋土全体には10～20cm大の礫を複数含む他、第2層からは瓦が出土した。遺物は、瓦片、肥前系染付碗（1673）及び肥前系磁器輪花杯（1674）が出土した。

**5-003土坑（図207・209、図版52）** 5-2区南半の東側において検出し、5-002との切り合い関係は、5-002が後出する。掘形の平面形は、東及び南に攪乱が及んでいるため形状は不明である。規模は南北約0.50m、東西約1.10m、深さは約0.50mを測る。埋土は3層に分層が可能である。遺物は、肥前系染付碗（1675）、蓋（1676）及び土師質土器皿（1677）が出土した。

**5-005溝状遺構（図207、図版52）** 5-2区南半のやや東寄りの中央において検出した溝状遺構である。掘形の平面形は、東及び北西に攪乱が及んでいるため全形は不明であるが、残存状況から、細長い形状であったと考えられる。規模は南北約0.20m、東西約1.00mを測る。遺物の出土は認められなかった。

## 2 第2遺構面（図206・図版51）

第2遺構面は、5-1区、5-2区ともに検出できた。遺構面の標高は、T.P.+3.20m～であり、西側から東側へ緩やかに昇るよう傾斜している。第1遺構面と同様に、5区北半では現代の攪乱が大きく、遺構の検出ができたのは5区全体の5分の1程度であったが、土坑4基及びピット5基を検出した。

### [5-1区]

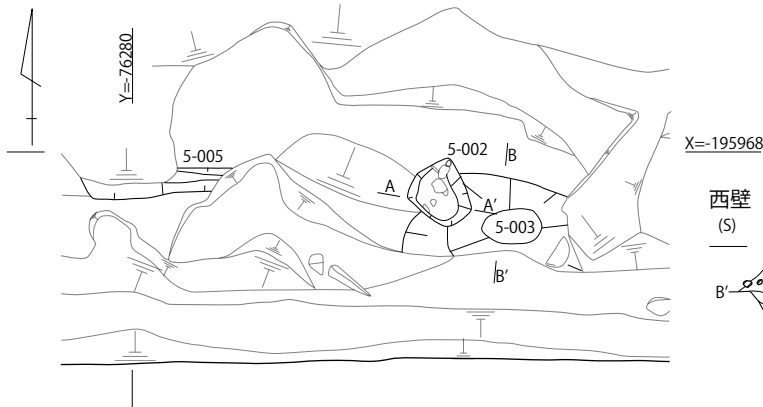
**5-008土坑（図207・209、図版52・87）** 5-1区南半のほぼ中央で検出した土坑である。掘形の平面形は、北及び南に攪乱が及んでいるため不整形となる。規模は南北約1.00m、東西約2.40m、深さは約0.70mを測る。埋土は5層に分層が可能である。遺物は、肥前系磁器碗（1678）・徳利（1679）や瀬戸美濃系施釉陶器碗（1680）、京・信楽系施釉陶器碗（1681）、土師質土器灯明油皿（1682）・受皿（1683）、遊玩具土人形（1684）など多数出土した。1679は口縁部のみ残存し、体部内面は露胎がする。1680は外面の底体部に褐釉が施される。1682及び1683は内面に透明釉が施され、外底部には回転糸切痕が認められる。1684は獅子を模した中空の土人形であり、一部型押しにより製作される。

**5-009土坑（図207・209、図版52・87）** 5-1区南半の西隅で検出した土坑である。掘形の平面形は、北及び南に攪乱が及んでいるため不整形となる。規模は南北約1.20m、東西約1.50m、深さは約0.30mを測る。埋土には4cm大の礫や土器片、焼土、炭が含まれていることから、火事場整備に伴って掘られた穴である可能性がある。遺構の重複が大きく、平面では検出できなかったが、土層断面の検討から、別遺構が5-009の上層に存在していたことを確認した。遺物は、肥前系染付碗（1685）、唐津施釉陶器碗（1686）及び土師質土器焙烙（1687）、鉄釘（M168・M169）が出土した。1685は見込み部に蛇の目釉剥ぎの技法が認められる。1686は内外面ともに白土により刷毛目文が施される。

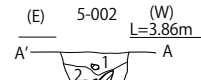
**5-010ピット（図207、図版52）** 5-1区南半の5-008と5-009の間にて検出したピットである。掘形の平面形は、南に攪乱が及んでおり、また、東西は遺構の重複により平面形は不整形となる。5-008及び5-009との切り合い関係は、5-008及び5-009が後出する。規模は南北約0.60m、東西約0.50m、深さは約0.60mを測る。埋土は3層に分層が可能である。



5-2区 第1遺構面検出遺構

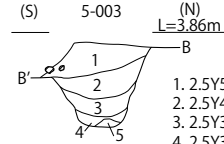


南壁



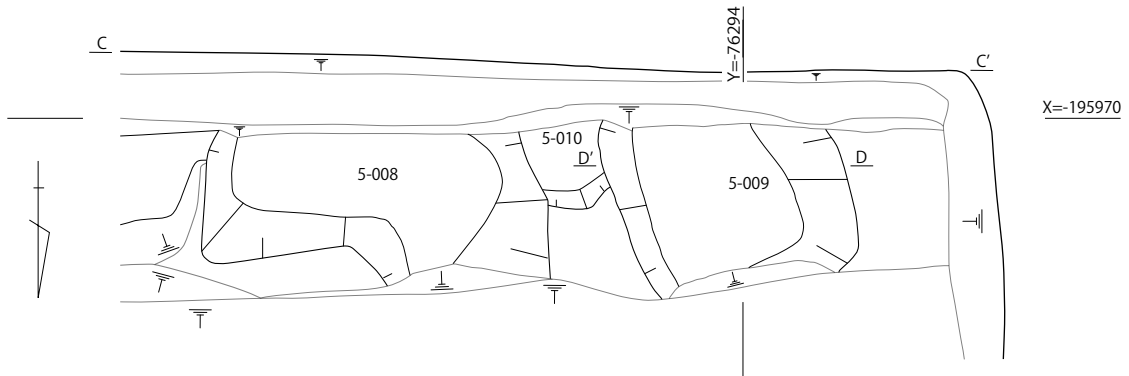
1. 2.5Y6/3にぶい黄 極細砂 しまり悪い
2. 2.5Y4/3オリーブ褐 極細砂 しまり悪い

西壁

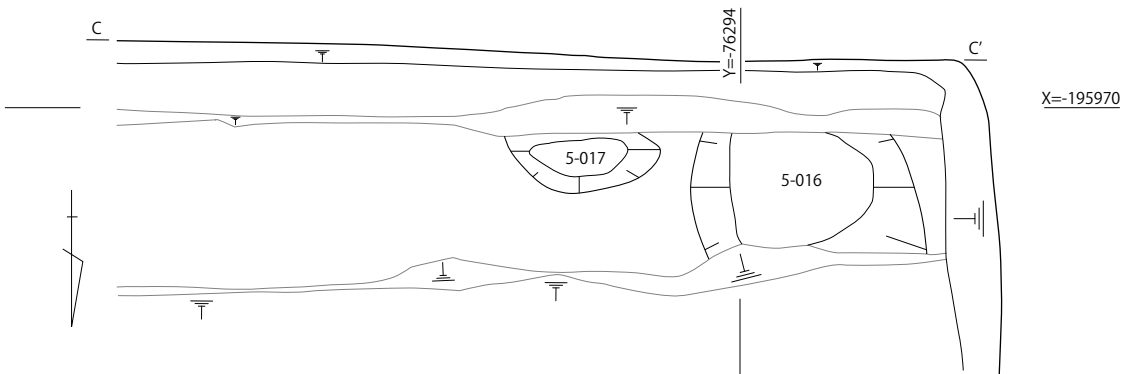


1. 2.5Y5/3黄褐 極細砂 しまり悪い
2. 2.5Y4/3オリーブ褐 細砂 しまり悪い
3. 2.5Y3/3暗オリーブ褐 極細砂 しまり悪い
4. 2.5Y3/3暗オリーブ褐 細砂 しまり悪い
5. 2.5Y3/2黒褐 極細砂 ややしり悪い

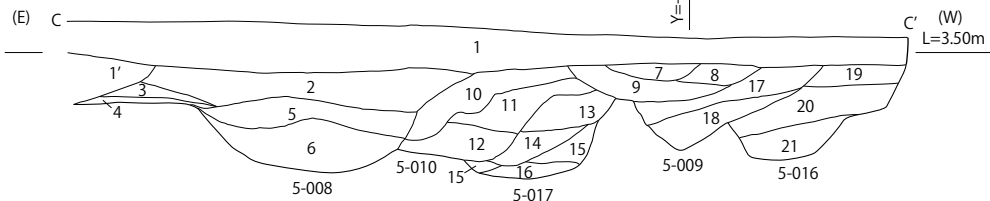
5-1区 第2遺構面検出遺構①



5-1区 第2遺構面検出遺構②

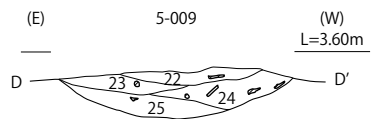


南壁



- |                                |                                  |
|--------------------------------|----------------------------------|
| 1. 1. 表土・攪乱                    | 13. 2.5Y4/4オリーブ褐 極細砂 しまり悪い       |
| 2. 2.5Y4/4オリーブ褐 極細砂 しまり悪い      | 14. 2.5Y4/3オリーブ褐 細砂 しまり悪い        |
| 3. 2.5Y4/3オリーブ褐 細砂 ややしり良い      | 15. 2.5Y5/4黄褐 細砂 しまり悪い           |
| 4. 2.5Y4/2暗灰黄 極細砂 しまり悪い        | 16. 2.5Y4/3オリーブ褐 極細砂 ややしり良い      |
| 5. 2.5Y4/4オリーブ褐 細砂 しまり悪い       | 17. 2.5Y4/4オリーブ褐 極細砂(シルト質) しまり悪い |
| 6. 2.5Y5/3黄褐 極細砂 しまり悪い         | 18. 2.5Y4/2暗灰黄 極細砂 しまり悪い         |
| 7. 2.5Y4/3オリーブ褐 細砂 しまり悪い       | 19. 2.5Y3/3暗オリーブ褐 極細砂 しまり悪い      |
| 8. 2.5Y4/2暗灰黄 細砂 しまり悪い         | 20. 2.5Y4/3オリーブ褐 極細砂(シルト質) しまり悪い |
| 9. 2.5Y3/2黒褐 極細砂 しまり良い         | 21. 2.5Y4/2暗灰黄 極細砂(シルト質)         |
| 10. 2.5Y4/2暗灰黄 極細砂 しまり悪い       | 22. 2.5Y3/3暗オリーブ褐 極細砂 しまり悪い      |
| 11. 2.5Y4/3オリーブ褐 極細砂 しまり悪い     | 23. 2.5Y4/3オリーブ褐 極細砂 しまり悪い       |
| 12. 2.5Y4/2暗灰黄 極細砂(シルト質) しまり悪い | 24. 2.5Y4/2暗灰黄 極細砂 しまり悪い         |
|                                | 25. 2.5Y4/3オリーブ褐 細砂 しまり悪い        |

南壁



1. 2.5Y6/3にぶい黄 極細砂 しまり悪い
2. 2.5Y5/3黄褐 極細砂 しまり悪い
3. 2.5Y4/3オリーブ褐 極細砂 しまり悪い

0 (S=1/50) 3m

図 207 5区検出遺構 平面図及び土層断面図①

5-016土坑 (図207・209、図版52・87) 5-009掘削後、5-1区南半の西隅で検出した土坑である。掘形の平面形は、北及び南に攪乱が及んでいるため不整形となる。規模は南北約0.90m、東西約1.50m、深さは約0.50mを測る。掘形は二段となり、深い東側の側壁は緩く下方に下がり、底は平坦となる。遺物は、肥前系染付碗 (1691) や肥前系施釉陶器の仏飯器 (1693)、瀬戸美濃系施釉陶器鉢 (1697)、遊玩具土人形 (1703) など多量に出土した。1691は印判により外面が染付される。1693は貫入や畳付釉剥ぎといった技法が施される。1697は内底部に目跡が3か所残存する。1703は騎乗人物を模した中実の土人形であり、型合わせにより製作される。また、型離れをよくするためのキラコが付着する他、底部に棒を刺す穴が施される。

5-017土坑 (図207・209、図版52・87) 5-008及び5-010掘削後、5-1区南半の5-010の下層において検出した土坑である。掘形の平面形は、南に攪乱が及んでいるため不整形となる。規模は南北約0.40m、東西約1.00m、深さは約0.40mを測る。埋土は2層に分層できるが、細粒砂ブロックが認められ、人為的に埋められたと考えられる。遺物は、下層において備前焼播鉢 (1706) が出土したのみである。

[5-2区]

5-011・5-012・5-013・5-014ピット (図208・209、図版52・87) 5-2区南半の東隅で検出したピット群である。掘形の平面形はほぼ円形を呈する。5-011からは瀬戸美濃系施釉陶器輪花皿 (1688) が出土し、貫入や高台畳付釉剥ぎといった技法が認められる。また、埋土には20cm大の礫を多数含む。5-012の埋土上面には20cm大の礫を検出した。5-013は3層に分層が可能である。また、切り合い関係により、5-014と重複し、5-014が後出する。

3 小結

5区の発掘調査の結果、第2遺構面までを実施したが、広い範囲に現代の攪乱が及んでいたため、全容を捉えることができた遺構は少なかった。検出した遺構について言えるのは、埋土に土器片や焼土・炭化物を含んでいた5-009については、火災に伴って掘られた土坑の可能性もある。また、細片となった遺物が多量に出土した5-016については、廃棄土坑である可能性がある。

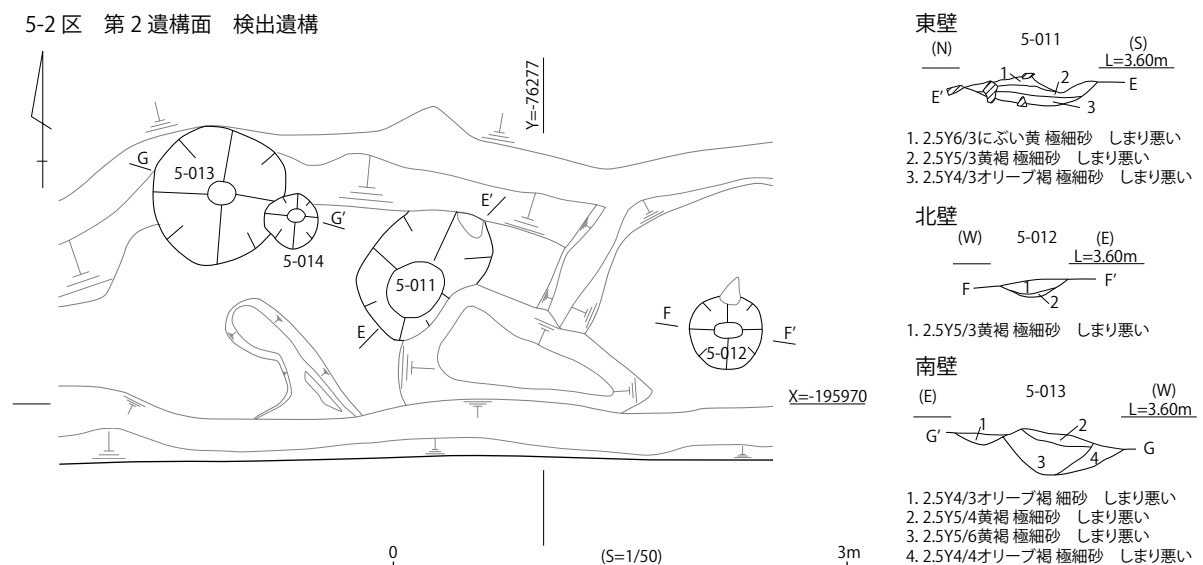


図 208 5区検出遺構 平面図及び土層断面図②

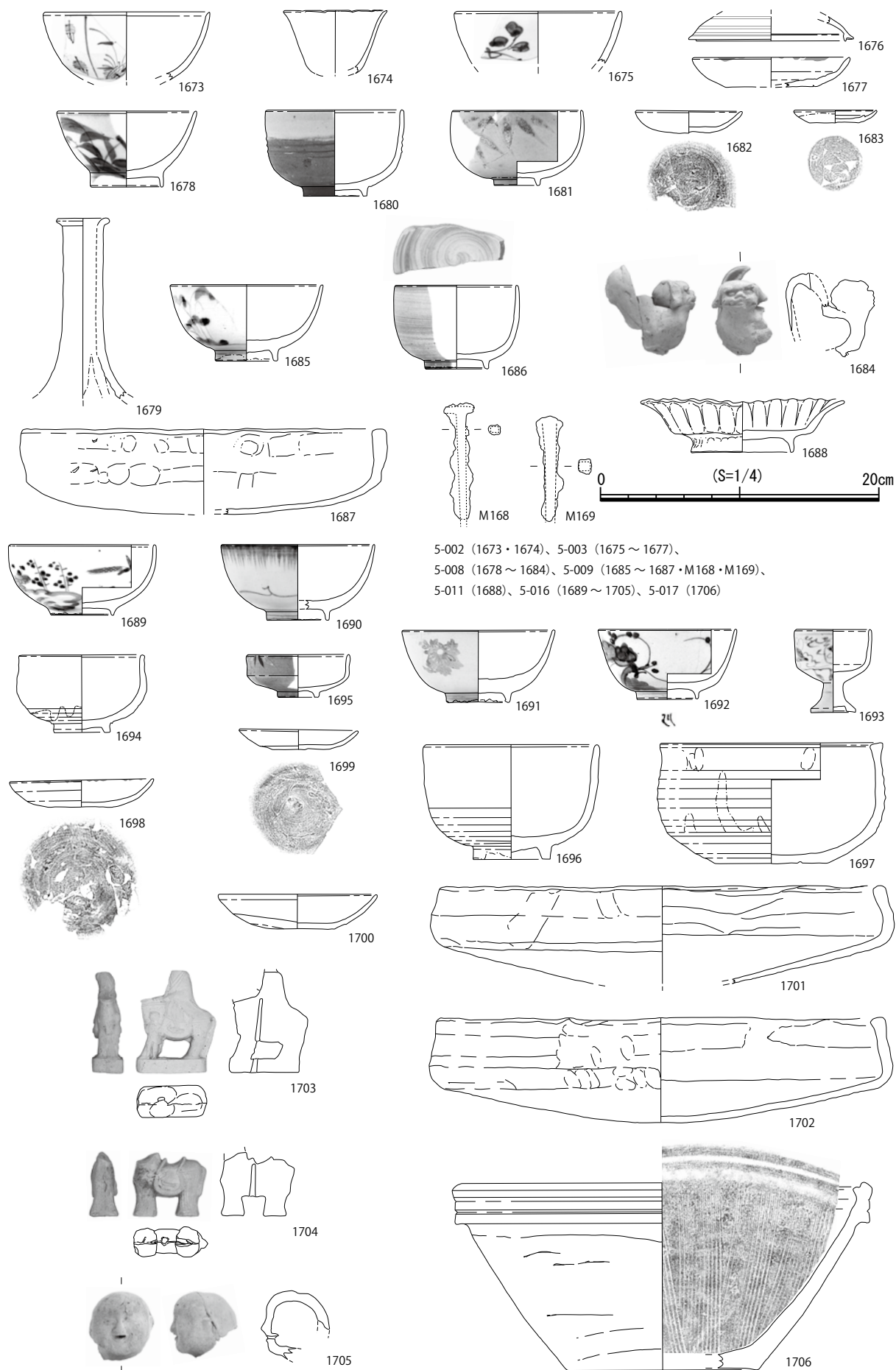


图 209 5区出土遗物

## 第5章 まとめ

### 第1節 江戸時代

#### 1 遺構面の再整理

江戸時代の遺構面は、1・2区と3・4区で、それぞれ5面確認している。整理をおこなっていく段階で気が付いたが、掘り残しなどのノイズを除いても1・2区側と3・4区側では各面の時期に誤差が生じている。これは、遺構面の認識の間違いなのか、嵩上げを伴う整地の時期差に起因するものなのか判断できなかった。少なくとも各遺構面を比べた場合、3・4区側がどの遺構面も一時期新しくなっていると考えられ、例えば第1遺構面については、3・4区側で瀬戸美濃系磁器を多く含む遺構が存在する一方で、1・2区側では瀬戸美濃系磁器が少ない傾向がある。また、第4-2遺構面を比べた場合は、浅野期の三の丸の使われ方にも関係するのかもしれないが、胎土目の唐津焼や志野焼・織部焼など17世紀初頭の土器のみが出土する遺構は1・2区側に限られている。今回の調査では、同じ遺構面の名称を使っている、1・2区側と3・4区側では同じ時期を示すものでなく、今後、周辺部の調査事例なども含めて遺構面の整合性を考えなければならない。

#### 2 屋敷地の変遷

##### 1・2区の屋敷地

和歌山城下を描いた絵図はいくつか遺されているが、そのうち三の丸の屋敷地を詳細に描いた絵図で最古のものは、17世紀中頃とされる「和歌山古屋敷絵図」（図210・註1）となる。「和歌山古屋敷絵図」の描く三の丸の屋敷地は、幕末の区画と大きく変わるものでなく、基本的にはほぼ踏襲されていることが窺える。

「和歌山古屋敷絵図」から窺うと、1・2区は東側が大藪家、西側が藺田家の屋敷に相当することが窺える。ちなみに両家の東西の並びには街路間に6区画あったことがわかる。三の丸の他の街路間では時代の変遷とともに屋敷地の数変動するものの、この並びだけは幕末まで6区画で踏襲されており、屋敷境も大きく移動していないと考えられる。

18世紀初頭の「和歌山城下屋敷大絵図」（図211・註2）では、大藪家の屋敷地が津田家の屋敷地に、藺田家の屋敷地が田宮家の屋敷地に替わり、幕末の「和歌山城下町絵図」（図3・註3）からは両家が幕末まで同じ屋敷地に居を構えていたことが窺える。ちなみに幕末の資料からは、津田家の禄高は900石、田宮家が600石であったとされる。「和歌山城下屋敷大絵図」には、屋敷地の間口と奥行きが間・尺の単位で記述されており、津田家の間口が19間、田宮家が20間4尺で、奥行きはともに28間となっている。これを1間約1.818mとしてメートルに換算すると、津田家の屋敷地が間口約34.5m、田宮家の間口が約37.0mで、奥行きは約51.0mとなる。また、屋敷地の表については、この手の絵図の特徴として、絵図に記された屋敷当主の名前の書き始める方向が正面とされていることから、北側が表であったことが分かり、南隣の屋敷地とは背中合わせになっていたことが窺える。

津田家と田宮家の屋敷境は、2-1区の西側に存在することが市振興財団の調査から明らかに



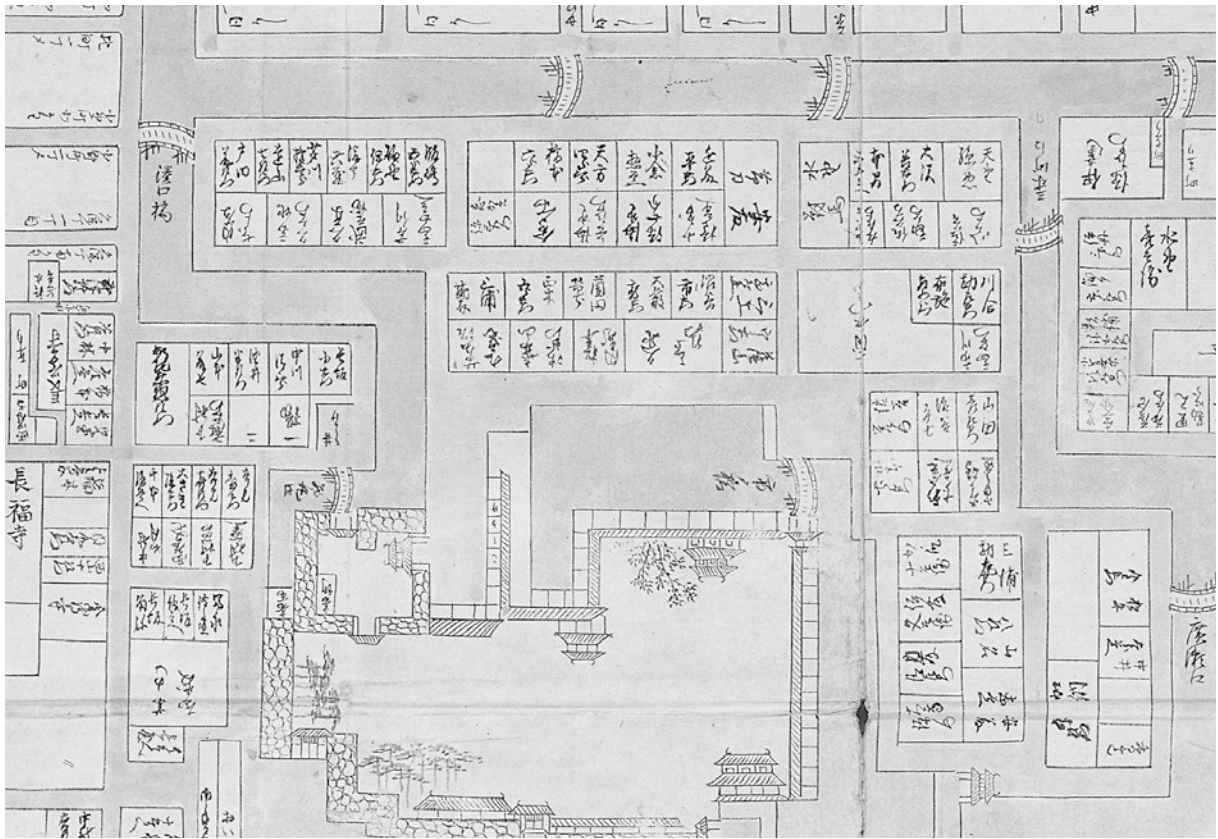


図 210 和歌山古屋敷絵図 (和歌山県立図書館蔵)



図 211 和歌山城下屋敷大絵図 (和歌山県立図書館蔵)

なっており、おおよそ1区東端が津田家東側の屋敷境、2区西端が田宮家の西側の屋敷境付近に相当することが分かり、当文化財センターでは、それぞれの屋敷地の北側（表側）を調査したことになる。調査では明確な屋敷境に伴う遺構は検出できていないが、1区東端の第2遺構面で検出した礫を充填した1-030溝状遺構や第3遺構面で検出した柵1-Bなどは、その位置からも屋敷境に関わる可能性も考えられる。ただ、これらの置構は廃棄土坑などとの重複することから積極的に肯定できない。

田宮家（藺田家）の屋敷地については、当文化財センターにおいて江戸時代の遺構面の調査をおこなっていないことから詳細はあきらかでないが、帰属面不明の井戸が屋敷地の北西側と東端に存在し、中央付近には井戸が存在しないことが明らかになっている。北西側の井戸に関しては、隣接して5基存在することからも、屋敷地の造成がおこなわれるたびに、新たに井戸を掘削していることが窺え、井戸の位置が制約されることについては、屋敷地の主屋などの位置も面ごとで大きく変わるものでなかったことに起因すると考えられる。また、この後触れる他の屋敷地のように、第5遺構面以下に到達するような深く掘削された廃棄土坑なども存在しない特徴もある。

津田家（大藪家）の屋敷地は、攪乱が多く断片的にしか把握できないものの、屋敷内の様子を窺う資料を得ることができている。第1・2遺構面で検出している畠の畝間溝については、屋敷地内の畠に伴うものであると考えることもできる。ただ、第3遺構面で検出している礎石建物2-Aの上面でもあり、屋敷地内の主屋などの位置が大きく変わらないとした場合には、その位置に疑問も感じる。

建物については、江戸時代後半段階は礎石で、17世紀代にはそれに掘立柱構造の建物が存在することが調査で明らかになっている。また、建物位置には廃棄土坑と考えられる大型土坑や井戸などは存在しないはずであることから、礎石や柱穴が残っていてもこれらの遺構が存在しない一定の範囲の空白地があれば、そこに建物遺構を想定することができる。津田家の屋敷地では東西の屋敷境付近に大型土坑や井戸が築かれている。また、1-1区・2-1区の北に沿うように多くの土坑が存在し、その背後の西端に第3遺構面では礎石建物2-Aが位置することになる。また、その東側にも礎石建物1-Aが存在している。礎石建物2-A・1-A付近が各遺構面で井戸・廃棄土坑と考えられる大型土坑が存在しない空白地となっている。屋敷地内で礎石建物2-Aから表側の様子がどうであったかは明らかでないが、礎石建物2-Aが主屋であったなら、前庭などの空閑地が存在した可能性もある。

第4-2遺構面では、半地下式倉庫の可能性のある石組遺構や底面に据石を置いた柱穴が多く検出されている。建物プランが想定できなかったのは、上面で大型土坑が多かった1-1区の北側や東側に柱穴が集中していることに関係している。このことから当遺構面での建物位置は、第4-1遺構面より上位の建物位置とは異なっていると捉えることができる。第4-2遺構面で検出した遺構の中で、明らかに17世紀第1四半期に帰属する土器のみを含む一群が存在する。この時期は、浅野期に相当することからも、建物位置の変化は、浅野期と徳川期の三の丸の屋敷地割りに違いがあったからかもしれない。

### 3・4区の屋敷地

「和歌山古屋敷絵図」を使って、1・2区側の屋敷割に照合させて3・4区側を見ると2つの



屋敷地があり、どちらも海野家であったと推定することもできる。これに関しては、後程もう一度考証してみたい。

海野家の並びには街路間に6区画の屋敷地があり、一番東端が付家老である安藤家の屋敷地の一部となっている。この段階では安藤家の屋敷地は、京橋から一の橋沿いの大手筋に面して南北に長い屋敷地を持っている。おおよそ他の家臣の屋敷地の2区画分を占地する程度であることから、さほど大きな屋敷地を有しているとは言えない。下って18世紀の初め頃の「和歌山城下屋敷大絵図」では、海野家の並びは6区画から4区画になっている。これは安藤家の屋敷地が西側に拡張されたため、安藤家の西隣の小出家と海野家の屋敷地（東側にあった海野家）、更には小出家の北側にあった近藤家の屋敷地も取り込まれている。

1・2区と同様に「和歌山城下屋敷大絵図」に記述された屋敷地の間口や奥行きの数値を使い、関係する屋敷の規模を現在の数値に置き換えて、屋敷境がどの位置にあったか考察してみる。安藤家の屋敷地の規模は、大手筋に向かって間口が55間半で奥行きが54間半+18間5尺となっている。18間5尺が別書きされているのは、本来その場所にあった屋敷地の寸法が書き残されたもので、それは安藤家の屋敷地に取り込まれた海野家の間口寸法に相当すると考えることができる。さらに推測するなら、この図面には小出家の屋敷地の間口寸法が書かれていないことから、安藤家の屋敷地の拡張は段階的におこなわれたと考えることもできる。さて安藤家の奥行きは、換算すると約132.5mとなる。大手筋は若干道幅が変わっていても、現有の道としてほぼ同じ位置に遺る。現在の地図を使い、安藤家の東限・大手筋の街路付近から奥行き方向の約132.5m西側が、丁度3・4区の東端に相当する。ほぼそのラインには、市振興財団がおこなった校舎基礎解体に伴う調査において屋敷境と考えられる石積みが確認されている。3・4区では石積みは攪乱されて確認できなかったが、付近では多くの石材が攪乱された土に混じって出土しており、またその下部の第4-2遺構面で柵4-Cを検出している。

次に安藤家の西側にあった海野家の屋敷の規模については、間口20間、奥行き28間となっている。これを現在の数値に置き換えると間口が約36.5m、奥行きが約51.0mとなる。3・4区の西寄りでは第4-1遺構面において屋敷境と考えられる南北方向の4-121石組溝と3-114石組を、第4-2遺構面ではほぼ同じ位置で柵4-A・4-Bを検出している。4-121石組溝と市振興財団が検出した石積みのライン、また、柵4-A・4-Bと柵4-Cの間隔は約36.0～37.0mで、海野家の間口の寸法に合致する。このことから3・4区の東寄りには、海野家の屋敷地が存在したことになり、4-121石組溝あるいは柵4-A・4-Bから西側については、絵図から窺うと会所の敷地となる。これまで会所（後の評定所）の位置は、中橋から南に向かう現有の道路より西側に想定されていたが、逆に現有の道路より東側寄りに広がっていたことになる。このことは、幕末に描かれた「和歌山城下町絵図」の中橋の位置と評定所の位置関係にも矛盾するものではない。

第4-1遺構面の4-121石組溝の時期については、時期幅を考慮して18世紀代に機能していたと考えられ、「和歌山城下屋敷大絵図」の頃の遺構であると考えられる。また、第4-2遺構面の柵4-A・4-Bの時期については、作られた時期は明らかでないものの、柱穴の埋土に含まれる土器の特徴から、17世紀末から18世紀初め頃に取り壊された可能性が考えられ、「和歌山古屋敷絵図」の頃の遺構であると捉えることもできる。いくつかの絵図を見比べると屋敷替えなどに伴って屋敷境が移動しているようにも読み取れるが、発掘調査の結果から屋敷境は基本的にほぼ踏襲され



ていることが窺える。屋敷地の拡張に際しても、安藤家の屋敷地の拡張にみられるように、1区画の屋敷地すべてを取り込む形でおこなわれたと考えられ、18世紀初めまでに3区画を取りこみ、更にはもう1区画を取り込んだのが、幕末の「和歌山城下町絵図」にある安藤家の屋敷地であると考えられる。

3・4区の東側を占める海野家の屋敷地では、道路に面する南端部を除き、おおよそ全域を調査していることになる。海野家の屋敷地の並びは、先に書いた理由からも安藤家を除き、南の街路側に正面があったことが窺える。攪乱が多いことで、同一面の遺構の構成が把握し難いが、少なくとも安藤家との屋敷地境付近に廃棄土坑と考えられる大型土坑が掘削され、それを除く南東側を中心に建物があったことが、検出した建物遺構からも想定できる。また、建物の北側には井戸や大型土坑が、西側にも井戸が掘削されていたことが窺える。この屋敷地だけでも17基の井戸が確認されていることから、屋敷地内には一時期に複数の井戸が存在したことが窺える。

一方、会所あるいは評定所であったと考えられる西側の屋敷地では、建物遺構は明確でないが西寄りに井戸が多く掘削されていたことが窺える。

### 3 屋敷地内の様子

検出した土坑には、廃棄土坑と考えられる大型土坑が多く検出されている。必要でなくなった日常雑器や瓦・食物残渣などを土中に処分したものである。17世紀代の大型土坑は限られるものの、18～19世紀にかけては一気に多くなる。土坑から出土する遺物からは、当時の生活様式や食生活を窺うことができる。今回の調査では、木製品を多量に廃棄した土坑を複数検出した。深く掘削されていたことで、常時水分があり、密封された状態であったことから、良好に木製品が遺存したものである。内容は漆椀や下駄・箸・折敷・曲物・各種部材などの他に、鳥籠や茶筌など発掘調査ではあまり出土しないような製品までである。土器類以外にも、これらの木製品からも屋敷地内の生活の様子を窺うことができる。

4区第3遺構面で検出した4-079・080竈は、半地下式構造で2基並立する。両方とも直径0.80～0.90m、深さ0.70mと大型のものである。また、同じ面で検出した3-099竈も半地下式構造で、単体ではあるもののほぼ同規模である。大型の竈は炊飯用の竈とは異なり、大量の湯を沸かすのに利用されたと考えられている。二基以上の並立する半地下式竈は兵庫県の姫路城下町跡や伊丹郷町遺跡で見つかっており、酒造りや醤油造りに利用されたと評価されている。ただ、家臣が屋敷地内で酒や醤油を造っていたとは考え難い。

3区3-152井戸から出土した大型の石臼（S50）は、直径58cm、高さ30cmある。重量は計測できていないが体積に花崗岩の比重を乗じると約200kgになる。一人では回すことができない大きさであり、実際、挽手穴が側面に二つ穿たれており、場合によっては牛や馬に挽かせた可能性も考えられる。また、石臼の目は粗く、穀物などを挽くものでないことが明らかである。大型石臼の利用方法については、民俗例などから火薬製造が挙げられるが、屋敷地内で火薬製造は考え難く、他の品物の製造に使われたと考えられる。これらの竈・石臼は、規模から日常生活に使うものでなく、また、鋳型や取鍋も出土していることから屋敷内の生産作業について文献史料も含め検討する必要がある。

#### 4 井戸（図212、表2）

調査で検出した井戸の総数は53基で、内訳は平安時代が2基、安土桃山時代が6基、江戸時代が45基となる。ここでは江戸時代以前の井戸も含め、概観してみたい。

##### 平安時代の井戸

1区第7遺構面で検出した1-347井戸は、出土した土器から12世紀代と考えられる。下位で石敷きの間に置かれた曲物を検出した。曲物の下位には底板を置いており、井戸底であると判断した。底は標高約-0.60mで、江戸時代の井戸に比べかなり浅いことが窺える。また、井戸使用時は、石敷きまで開いた状態で、石敷きから曲物内の水を汲む構造であったと想定できる。

4区第7遺構面で検出した井戸は、出土遺物がないことから明確な時期は明らかでないが、検出面から平安時代と考えている。井戸側の構造は明らかでなく、標高-0.50mまで掘り下げたが底まで到達できてない。

##### 安土桃山時代の井戸

第5-2遺構面において、1区で4基、4区で2基検出している。すべて大溝から東側となる。このうち井戸側に石積みを採用する井戸には、1-254・4-325井戸がある。1-254井戸は井戸側が上位から下位まで石積みで、標高0.25m付近が底であると考えられる。4-325井戸は上位が石積みで、下位が桶積みとなっている。井戸の底は標高-0.50m以下となる。

1-302井戸は下位に桶を置く構造で、4-270井戸は井戸側を確認していないが、直に落ちる壁から、本来は桶積みであった可能性もある。1-273・1-306井戸は、基本的に構造は似ているが井戸側については明らかでない。井戸側からの遺物は、江戸時代にもものに比べ少ない。

##### 江戸時代の井戸（図212、表2）

屋敷地別では津田（大藪）家で9基、田宮（藪田）家で7基、海野家で17基、評定所（会所）で12基となる。当時の遺構面が保たれている箇所が少なく帰属面不明の井戸が多いことから、同時併存する井戸の組み合わせは明確でないが、少なくとも屋敷地内にいくつもの井戸が存在したことが窺える。また、近接あるいは重複する井戸が多いことから、屋敷地を嵩上げする（遺構面）ごとにはほぼ同じ位置に井戸を掘削していたことが窺える。

井戸側には瓦積み・石積み・桶積みがあり、それぞれを組み合わせた構造が多い。深く掘削されていることから、安全面から底を確認したものはないが、基本的に標高-1.00m以下まで掘り下げていると考えられ、確認し得た最も深いもので標高-2.00m以下である。当時の遺構面が3.00m以上あることから、地表下5.00m以上掘り下げていることになる。調査の過程では、標高0.00m付近で湧水が著しく、また、安土桃山時代以前の井戸に標高-1.00mまでで底が確認できた井戸があることから、必要以上の深さとも言える。

井戸側の上位に井戸瓦を用いるものは、基本的に下位に桶を置いている。上位まで井戸瓦が残存する井戸もあれば、上位で井戸側が確認できず、下位で辛うじて井戸瓦の井戸側を確認したものや、井戸瓦が落ち込んだ状態で出土した井戸もある。これらのうち、落ち込んだ井戸瓦が破片の場合や量が少ないものに関しては、井戸の廃棄に伴って井戸瓦を取り外して再利用している可能性がある。大振りの井戸瓦が古く位置付けられると考えられるが、再利用を考えた場合、一概に井戸瓦の大きさと井戸の時期決定は難しくなると言える。通例、井戸瓦は割らずに使用することから、円弧・サイズから必然的に井戸側の大きさが決定される。ただ、3-188井戸のように一

部に割った井戸瓦を使用するのが一例のみある。また、4-288井戸は使用する井戸瓦の大きさが途中で変わるが、下位が大きな井戸瓦で上位が小さな井戸瓦であることから、改修をおこなっている可能性も考えられる。井戸側の井戸瓦から桶に替わるのは標高0.00m前後であるが、これは層位がシルトを含む砂から均一な砂に変わる高さとはほぼ一致しており、工法的にもそれ以下の構築には桶が適していたものと判断できる。

井戸側で下位から上位まで桶積み構造のものは一定数あったと考えられるが、桶が腐朽して痕跡を留めていない場合は確証を得ない。ただ3-323井戸などは、明らかに下位から上位まで井戸側が桶であったと考えられる。また、一般の集落で多く用いられる石積み井戸は一例のみで、それも2-213井戸のように上位が桶で、その下に石積みの井戸側を構築するものである。

井戸の構築に際しては、掘形を1-201・1-301井戸のように段掘りするタイプや3-164井戸のよ

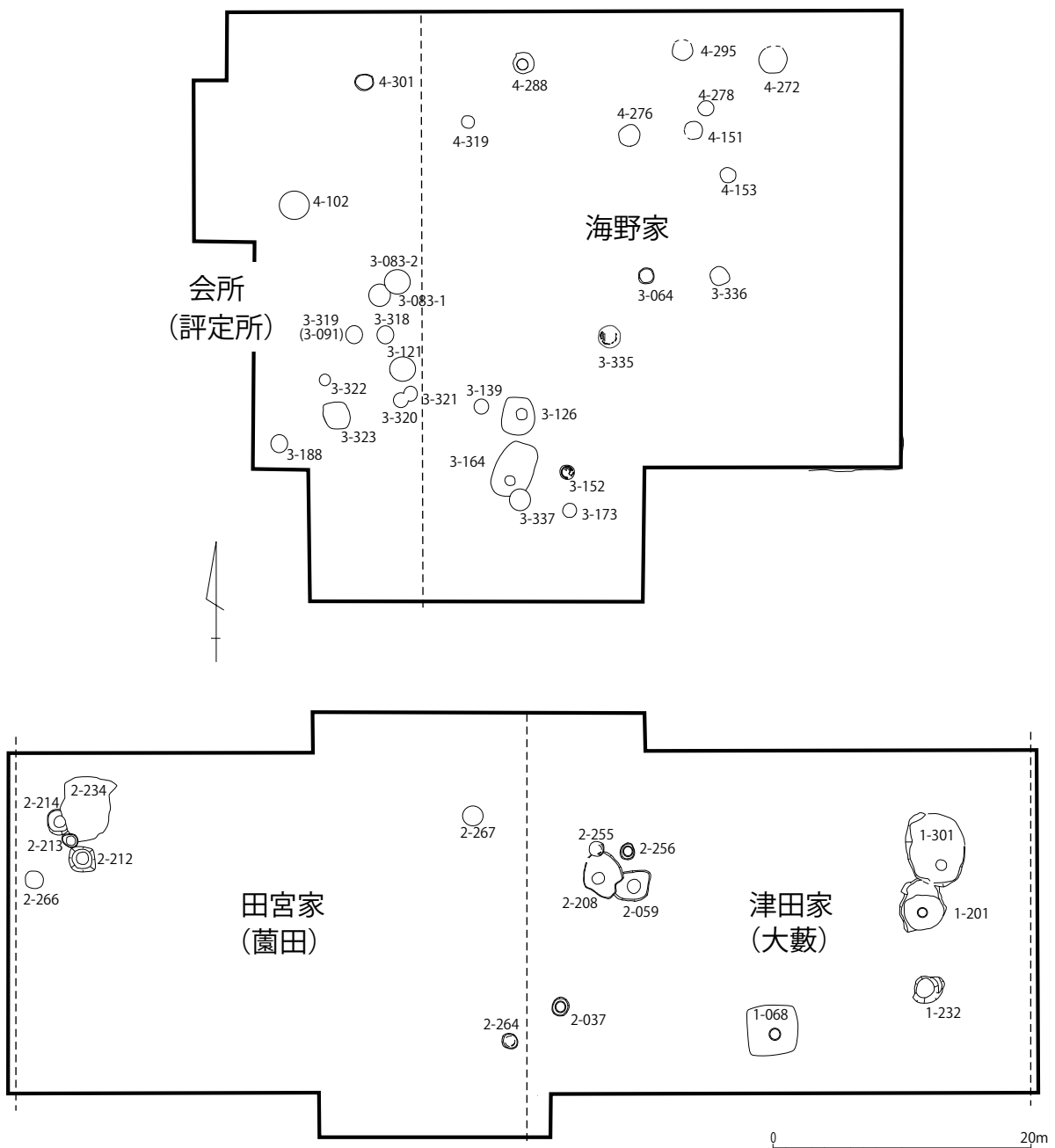


図 212 江戸時代の井戸配置図

表2 江戸時代の井戸一覧表

	屋敷地	井戸	遺構面	検出面での掘形規模		井戸側					最深部 標高 (m)	備 考	
				長さ (m)	幅 (m)	上部	径 (m)	一段の 瓦枚数	上部下部 境の標高 (m)	下部			径 (m)
1A4	津田家 (大敷家)	2-037	3	2.85	1.90	井戸瓦	0.80	?	0.20	桶	0.75	-1.00以下	
2		2-059	3	2.60	2.50	桶?	(1.00)	-	-	桶	?	0.00以下	
3		1-068	4-1	4.30	4.30	井戸瓦	0.95	12	0.15	桶	0.95	-0.50以下	
4		1-201	4-2	4.45以上	3.80	井戸瓦	0.70	9	0.10	桶	0.75	-1.10以下	
5		1-232	1~4-2	2.15	2.00	・	・	・	・	・	・	0.00以下	
6		1-301	1~4-2	5.50以上	4.50	井戸瓦	0.80	9	-0.60	桶	0.80	-1.60以下	
7		2-208	1~4-2	3.65	3.15	桶?	(0.80)	-	-	桶	0.85	-1.10以下	
8		2-255	1~4-2	1.00	1.00?	井戸瓦?	・	・	・	・	・	0.00以下	
9		2-256	1~4-2	1.25	1.25	井戸瓦	0.80	9	-0.30	桶	0.85	-1.00以下	
1	田宮家 (藺田家)	2-212	1~4-2	2.45	2.10	井戸瓦?	・	・	・	桶	1.05 1.10	-2.00以下	遺物に井戸瓦
2		2-213	1~4-2	1.27	1.03	桶?	0.65	-	0.00	石積み	0.53	-0.70以下	2-234を切る
3		2-214	1~4-2	2.00	(2.00)	桶?	0.80	-	-	桶	0.80	0.60以下	2-234に切られる
4		2-234	1~4-2	5.00	3.60	・	・	・	・	・	・	・	
5		2-264	1~4-2	1.10	(1.10)	井戸瓦	0.80	・	0.10	桶	0.60	-0.75以下	
6		2-266	1~4-2	1.55	-	桶?	(0.80)	-	-	桶?	(0.80)	0.90以下	
7		2-267	1~4-2	約1.00	-	桶?	・	・	・	・	・	0.00以下	
1	海野家	3-064	2	1.70	1.05	桶?	・	9	1.30	井戸瓦	0.70	0.60以下	井戸瓦の下は桶の可能性も
2		3-336	4-2	4.10	3.65	桶?	1.40?	-	-	・	・	0.35以下	
3		4-151	4-2	2.50	1.90	桶?	・	-	-	桶	0.80	-1.40以下	
4		4-153	4-2	1.50	1.50	桶?	・	-	-	桶	0.75	-1.05以下	
5		3-126	1~4-2	2.50	2.40	井戸瓦	0.80	9	-0.50	桶	?	-0.60以下	
6		3-139	1~4-2	1.15	1.10	桶?	・	-	-	桶?	?	0.00以下	
7		3-152	1~4-2	1.20	1.20	井戸瓦	0.80	9	-	?	?	-0.10以下	
8		3-164	1~4-2	3.15	3.10	井戸瓦	0.77	10	0.25	桶	0.78	-0.75以下	掘形の突出部1.75m× 1.50m 近代以降も利用
9		3-173	1~4-2	1.30	1.30	桶?	・	-	-	桶	0.75	-0.70以下	息抜きの竹筒
10		3-335	1~4-2	1.75	1.75	井戸瓦	1.20	13	・	・	・	-0.15以下	近代以降再利用
11		3-337	1~4-2	1.80	1.65	桶?	・	-	-	桶	0.57 ~0.67	-0.70以下	
12		4-272	1~4-2	3.50	2.40	・	・	・	・	・	・	1.25以下	
13		4-276	1~4-2	2.00	1.80	・	・	・	・	・	・	-0.10以下	遺物に井戸瓦片
14		4-278	1~4-2	1.60	1.20	・	・	・	・	・	・	-0.50以下	遺物に井戸瓦片
15		4-288	1~4-2	2.05	1.90	井戸瓦	0.80	11	-0.20	桶	0.85	-0.40以下	2種類の井戸瓦を使用
16		4-295	1~4-2	1.45	1.10+	・	・	・	・	・	・	1.10以下	遺物に井戸瓦片
17		4-319	1~4-2	1.33	1.20	井戸瓦	0.75	10	-0.10	桶	0.75	-0.96以下	
1	会所 (評定所)	3-083-1	3	1.80	1.30	井戸瓦	0.80	9	0.20	桶	0.80	0.10以下	3-083-2と重複 新しい
2		3-083-2	3	2.10	1.90	桶?	・	-	-	桶	1.20?	0.20以下	3-083-1と重複 古い 井戸側の外側に桶
3		3-121	1~4-2	2.45	2.45	・	・	・	・	・	・	-0.20以下	遺物に井戸瓦片
4		3-188	1~4-2	1.35	1.25	井戸瓦	0.90	12前後	・	・	・	1.70以下	近代以降も使用
5		3-318	1~4-2	1.25	1.25	・	・	・	・	・	・	0.50以下	
6		3-319	1~4-2	1.40	1.40	・	・	・	・	桶	1.20?	0.30以下	3-091?
7		3-320	1~4-2	1.05	1.05	井戸瓦	・	・	0.25	桶	0.85	-0.35以下	3-321と重複 古い
8		3-321	1~4-2	1.15	1.15	井戸瓦	0.80	11	0.00	桶	0.78	-0.50以下	3-320と重複 新しい
9		3-322	1~4-2	0.90	0.90	・	・	・	・	・	・	0.00以下	
10		3-323	1~4-2	2.05	1.80	桶	0.70	-	-	桶	0.70	-0.10以下	
11		4-102	4-1	2.30	1.90	・	・	・	・	・	・	2.20以下	
12		4-301	1~4-2	1.70	1.50	・	・	・	・	・	・	-0.15以下	遺物に井戸瓦片

うに横に斜坑を掘るタイプ、1-068井戸のようにV字状に掘るタイプがある一方で、井戸側とさほど変わらない大きさでほぼ垂直に掘りこむタイプが存在する。ただ、どの掘削方法であっても周囲の地盤が弱く、標高0.00m以下になると掘削と同時に周囲が崩壊するような砂であることから、難工事であったことが窺える。屋敷の嵩上げを行っても井戸側を上には足せば、新たに井戸を掘削しなくても済むと考えられ、危険を冒して井戸瓦を取り外し、再利用してまで掘削する必要性は何だったのか明らかでない。なお、3-081-1井戸では井戸側の外側に掘形に添うように桶を検出しており、地盤の崩壊を防ぐため桶を落とし込みながら掘削する工法を想定できる。

## 第2節 安土桃山時代

第5-1・5-2遺構面で検出した大溝は、1・2区から3・4区を縦断して基本的に北北西-南

南東方向に伸び、4区付近で西方に折れている可能性がある。規模は場所によって異なるが、幅7.00～11.00m、深さ1.50～2.10mで、再掘削も一部で認められる。土層の堆積からも水が流れた状況でもないこと、壁の立ち上がり之急であることからなどから、織豊期の城下町を区画する堀であった可能性もある。第5-2遺構面では、大溝を境に東側で井戸や土坑、大溝より西側で畠を検出している。また、第5-1遺構面では、大溝の西側だけでなく東側も畠となっており、大溝より東側の土地利用が変化していることが窺える。第5-1遺構面上は風成堆積した砂層によって一気に埋まっているが、この砂は調査区付近を含め和歌山城周辺に広く厚く堆積して砂丘を形成していることが、和歌山市がおこなった発掘調査などから明らかになっている。第5-2遺構面の時期が、景德鎮窯・漳州窯磁器、備前焼・瀬戸美濃系陶器などの出土遺物から16世紀後半から末頃であると判断でき、砂層の上面が17世紀初頭頃であることから江戸時代の直前あるいは極初期に砂が一気に堆積したことになる。このことから、桑山期から浅野期にかけての生活面が連続と続くのではなく、砂が厚く堆積する期間の間断期があり、更に、この時期大きく地形が変化していることが窺える。地形変化をもたらした原因については、大溝の西の海浜部が桑山期には開発されおらず松等が生い茂っていたものが、江戸時代になって城下町形成により松等の防風林を伐開されたことによるもので、短期間に一気に砂丘が形成されたことが窺える。

### 第3節 室町時代以前

古代から中世にかけては、耕作に伴う鋤溝や水路と考えられる溝や水田畦畔を検出しており、水田などの生産域であったことが窺える。ただ、東側に限れば、井戸が検出されていること、西側に比べ遺物が多く出土していることなどから、直近に集落があったことが想像できる。畦畔や溝・鋤溝の方向、すなわち地割の方向は、江戸時代以降の町割りの方向が正方位なのに対して南北軸がやや西偏している。耕作溝や畦畔の方向に規則性が窺えるものの、古代の畦畔には弧状に伸びているものがあり、また、小区画の水田も存在することから条里に則り整然と作られた水田区画ではなかったと考えられる。遺物のなかで特筆できるものとして古代の蓮華文軒丸瓦(T168)があり、付近に文献などには登場しない寺あるいは官衙(役所)が存在した可能性がある。

調査では、散発的に弥生時代の土器や石鏃、サヌカイト剥片などが出土しているが、4区の第9遺構面において古墳時代の溝の下部で、弥生時代中期と考えられる溝を検出した。一直線に伸びることや自然流路に見られるような流れ堆積がないことから、水田耕作に伴う水路の用途が考えられる。この面の標高が1.00m未満であるものの、和歌山城跡周辺においても弥生時代中期頃にはすでに開発され、直近に集落が存在して可能性がある。

### 第4節 総括

和歌山城北部地域で、人々が生活を始めるのは弥生時代中期頃で、今回の調査区付近は、集落隣接地の生産域であった可能性がある。和歌山平野の拠点集落である太田・黒田周辺と同じような水田風景が広がっていたと考えられる。

古墳時代では須恵器とともに埴輪が2点出土している。これまでも周辺の調査では埴輪が出土することが多く、付近に埴輪を樹立した古墳があった可能性が高い。古墳の造営主体としては、

和歌山城の南東部に位置する刺田比古神社に所縁があり、また「続日本紀」の内容から当地との関連が窺える大伴氏を挙げるができる。

古代以降中世にかけても水田などとして土地利用が行われ、9～12世紀頃には隣接地に集落等が存在した可能性が高い。古代の蓮華文軒丸瓦の出土から、付近に寺や官衙の存在が窺え、「日本霊異記」にでてくる「宇治保」との関係が注目されよう。また、中世において当地は、海部郡雑賀荘の「宇治郷」にも比定することもでき、それに属した水田が広がっていたと考えられる。

安土桃山時代になり、調査区付近は大きく改変がおこなわれ、大溝が掘削される。大溝の東側では集落が存在するが、西側では畠が広がっていたことが窺える。このことは、桑山期の城下町は、浅野期以降の城下町とは大きく異なっていることになる。和歌山城は岡山を中心に桑山期に石垣を築くなどの普請がおこなわれたとされるが、安土桃山時代の地盤高や大溝の存在・方向などから、現在でも残る和歌山城を囲む内堀は江戸時代以降になって掘削されたものと判断できる。

16世紀末頃から17世紀初頭にかけて、三の丸西側を中心に一気に砂が堆積して砂丘が形成され、その上に江戸時代の屋敷地が築かれことになる。砂丘が形成される以前は、東側の標高がやや高かったものが、砂丘によって逆に西側の方が高くなり、その地形にあわせて東側に向かって低くなる屋敷地が階段状に造成されたことが窺える。屋敷地の段差は、整地がおこなわれるたびに徐々に解消されていったと考えられる。

#### 註

註1 「和歌山古屋敷絵図」和歌山県立図書館蔵 万治元～寛文4年（1658～61）の状況を描いたものとされる。

註2 「和歌山城下屋敷大絵図」和歌山県立図書館蔵 宝永6～正徳4年（1709～14）の状況を描いたものとされる。

註3 「和歌山城下町絵図」和歌山市立博物館蔵 安政2年（1855）に製作されたもの。

#### 参考文献

『角川地名大辞典30和歌山県』1985 角川書店

額田雅裕「和歌山城三の丸の景観変遷」『南海の鎮・和歌山城—その歴史と文化—』07年秋季特別展資料 2007  
和歌山市立博物館

新谷和之「文献・絵図からみた和歌山城「三の丸」」『和歌山考古学研究』第19号 2016 紀伊考古学研究会

大木 要「和歌山城三の丸整備時の土地利用とその後の展開」『和歌山考古学研究』第19号 2016 紀伊考古学研究会



## 付章 和歌山城跡（17-01・375）出土の動物遺存体

丸山 真史（東海大学）

### 1) 動物遺存体の概要

近年の和歌山城跡の発掘調査では、貝類や魚類を中心とする動物遺存体の出土が相次いでおり、当調査でも大量の動物遺存体出土している。今回、報告する動物遺存体は、和歌山城三の丸の武家屋敷跡から出土したものであり、貝類、魚類、鳥類、哺乳類が含まれており、破片数にして1,465点にのぼる。これらの動物遺存体は、多数の遺構の埋土と遺構面を形成する整地土から出土している。本稿では時期が明確になっている遺構から出土した資料について概要を報告する。

### 2) 種類別の特徴

#### a) サンゴ類および貝類

花虫綱はサンゴの仲間であり、いずれもキクメイシなどを含むイシサンゴ目の小片である。腹足綱（巻貝）ではダンベイキサゴが最も多く出土しているが、4区4-158土坑に集中して出土しており、当調査区に普遍的に出土するものではない。次にサザエが多く、多数の遺構から出土している。サザエのうち、保存状態に恵まれて殻体が保存されているものでは、棘が発達していない個体が多く、棘があるものは1点に留まる。その他、アワビ類、スガイ、コシダカガンガラ、ツメタガイ、テングニシ、バイ、アカニシが出土している。斧足綱（二枚貝）では、ヤマトシジミが最も多く出土しており、最小個体数にしても最多の出土量を示す。次にシオフキが多く出土しているが、1区1-011土坑に集中して出土している。ハマグリ属と同定したものには、ハマグリ以外にチョウセンハマグリが含まれている可能性がある。また、イタヤガイは保存状態の良い2点は、体部に穿孔が施されており、貝杓子と考えられる。これらのほかに、アカガイを含むフネガイ科、マガキ、ベンケイガイを含むタマキガイ科、オキシジミ、バカガイ、コタマガイ、ワスレガイが出土している。

#### b) 魚類

マダイが最も多く、頭部を中心に出土しており、正中方向に切断された「兜割」された個体もみられる。そのほかのキダイ、チダイ、クロダイ属などを含むタイ科が全体の半数近くを占める。タイ科の骨は堅固であり、イヌなどからの食害を受けにくいことが一因として考えられる。タチウオ科も多く出土しているが、3区3-008土坑のみで出土しており、同一個体の可能性がある椎骨ばかりで、個体数にすれば少なくなる。これらのほかに、ハモ属、カサゴ属、コチ科、ホウボウ科、ボラ科、マダラ、アンコウ科、ブリ属、アジ科、カツオ、マグロ族、ヒラメ、フグ科が出土している。

#### c) 爬虫綱

スッポンとイシガメが出土しているが、出土量は少ない。

#### d) 鳥類

キジ科が最も多く、野生のキジやヤマドリのほか、家禽のニワトリが含まれている可能性がある。次にカモ科が多く、やや大型のガン族が多く、カモ族の方が少ない。スズメ目も出土しているが、少ない。そのほかの種類も出土しているが、まだ同定できていないものがある。

#### e) 哺乳類

シカが最も多く、頭部や胴部の骨はみられず、上腕骨や大腿骨などの四肢骨が出土している。また、頭蓋骨から切断された枝角があり、鋸で切断した痕跡がみられる。大型獣では、イノシシあるいはブタとカモシカが出土しているが、シカに比べて少ない。シカ、イノシシ/ブタには骨端が癒合していない若獣が含まれている。小・中型哺乳類では、イヌ、タヌキ、ネコ、ネズミ科が出土しており、これらは食用にはなるが、それを示すような解体痕はみられない。特にネズミ科は、比較的大きな個体であり、クマネズミやドブネズミといった屋敷に棲みついたものが、駆除されたものと考えられる。

### 3) 考察

出土量が多い水産物について、若干の考察を加えると、海産物が圧倒的であり淡水産の魚貝類の利用は低調である。また、大部分が食用となるものであるが、サンゴの仲間の用途は判然としない。動物遺存体のなかで、貝類が最も多く出土しており、その大部分は海産貝類である。特に多く出土しているヤマトシジミは、河口付近の干潟に多く生息しており、ツメタガイやアカニシなどの巻貝、シオフキやハマグリなどの二枚貝も干潟で捕獲できる。一方、サザエは沿岸の磯などで獲得でき、このような岩礁性の貝類は、アワビ類、スガイ、コシダカガンガラといったものがある。遺構埋土の水洗篩別をしていないため、微小な魚骨が見逃されている可能性があるが、多様な海産物の消費が窺えることから、海産物利用が活発であったと言える。マダイに見られる兜割は、近世の消費地遺跡では一般的にみられ、和歌山も例外でなく、骨に含まれる旨味となる出汁を利用していたのであろう。マダラは寒海性であり、和歌山湾沿岸では漁獲できない遠隔地から搬入されたものであり、流通網の発達を窺える。大阪湾沿岸の歴史時代の遺跡では貝類ではコタマガイやワスレガイ、魚類ではアンコウ科の出土は稀であるが、和歌山市内の中・近世の遺跡では珍しくない。当地でも少量に留まるが出土しており、和歌山の地域的な特徴がみられる。

### 4) まとめ

当調査では、17世紀から19世紀の遺構から大量の貝類、魚類を中心とする動物遺存体が出土している。水産物利用が活発であったことが窺え、豊かな漁場であったと考えられる和歌山湾を擁した城下町の食生活の一端が垣間見える。コタマガイやワスレガイ、アンコウ科といった和歌山の中・近世に特徴的な種類もみられる。本資料は、江戸時代の和歌山の食習慣や地域性を明らかにすることができる資料として、貴重であり、今後の周辺地域との詳細な比較によって、和歌山の食の地域性を明らかにすることができるであろう。

表3 和歌山城跡（17-01・375）出土の動物遺存体集計表

遺構	種類	検出面	帰属面	時期	大分類	小分類	部位	左	右	-
1-011	大型土坑	2	2	18～19世紀	腹足綱	サザエ	殻			5
						ツメタガイ	殻		1	
						テングニシ	殻		2	
						アカニシ	殻		1	
					斧足綱	タマキガイ科	殻		1	
						ヤマトシジミ	殻	180	153	16
						ハマグリ	殻		1	
						ハマグリ属	殻	1		
						バカガイ	殻		1	
						シオフキ	殻	48	39	
哺乳綱	シカ	枝角	3							
1-012	大型土坑	2	2	18～19世紀	花虫綱	イシサンゴ目	-		1	
1-015	大型土坑	2	2	18～19世紀	斧足綱	ヤマトシジミ	殻	1		
1-017	大型土坑	2	2	18～19世紀	腹足綱	サザエ	殻			1
						フネガイ科	殻			1
					斧足綱	ヤマトシジミ	殻			1
						ワスレガイ	殻			1
1-028	土坑	2	3 4-1	17～18世紀	花虫綱	イシサンゴ目	-			1
					腹足綱	サザエ	蓋			1
							殻			2
					硬骨魚綱	ハモ属	前頭骨			1
						アンコウ科	歯骨	1		
						スズキ属	歯骨	1	1	
							角骨	1	1	
						マダイ	前頭骨	1		
						タイ科	椎骨			2
					マグロ族	前上顎骨		1		
					哺乳綱	ネコ	下顎骨		1	
							寛骨	1		
							脛骨		1	
1-041	溜枿	3	3	18世紀	斧足綱	フネガイ科	殻		1	
1-070	土坑	3	3	18世紀	腹足綱	サザエ	殻		1	
					鳥綱	キジ科	尺骨		1	
1-083B	土坑	4-1	4-1	17世紀	腹足綱	アカニシ	殻		1	
1-097	土坑	4-1	4-1	17世紀前半	斧足綱	ハマグリ	殻		2	
						ハマグリ属	殻	1		
1-103	土坑	4-1	4-1	17世紀	腹足綱	アカニシ	殻		1	
1-107	土坑	4-1	4-1	17世紀	腹足綱	テングニシ	殻			1
						アカニシ	殻			1
1-124	大型土坑	4-1	4-2?	17世紀初	花虫綱	イシサンゴ目	-		1	
1-150	石組遺構	4-2	4-2	17世紀初	斧足綱	ハマグリ	殻		1	
2-026	耕作溝	2	2	18～19世紀	腹足綱	バイ	殻			1
					腹足綱	サザエ	殻			1
2-031	大型土坑	2	2	18～19世紀	斧足綱	ヤマトシジミ	殻	1		
						ワスレガイ	殻	2	1	
					硬骨魚綱	タイ科	主鰓蓋骨	1		
							上擬鎖骨		1	
					骨角器	ミシマオコゼ科	擬鎖骨		1	
骨角器	竿秤の棟?	未製品			1					
2-032	土坑	2	2	18～19世紀	硬骨魚綱	カサゴ属	前頭骨		1	
						タイ科	鋤骨			1
							椎骨			1
2-033	大型土坑	2	2	18～19世紀	腹足綱	テングニシ	殻			1
					斧足綱	ヤマトシジミ	殻	1	1	
					硬骨魚綱	アンコウ科	擬鎖骨		1	
2-036	大型土坑	2	2	18～19世紀	腹足綱	アワビ類	殻			1
					硬骨魚綱	マダイ	角骨	1		
					爬虫綱	スッポン	肩甲骨・前烏口骨			1
					鳥綱	ガン族	上腕骨		1	
尺骨		1								
2-042	土坑	3	3	18世紀	斧足綱	ハマグリ	殻		1	
2-067	土坑	3	3	18世紀	腹足綱	テングニシ	殻		1	
2-069	土坑	3	3	18世紀	硬骨魚綱	マダイ	角骨	1		
2-072	大型土坑	3	3	18世紀	硬骨魚綱	カツオ	舌顎骨		1	
						アカガイ	殻			1
2-078	土坑	3	3	18世紀	斧足綱	バンケイガイ	殻		?1	

遺構	種類	検出面	帰属面	時期	大分類	小分類	部位	左	右	-	
2-081	柱穴	3	3	18世紀	硬骨魚綱	タイ科	椎骨			1	
2-086	土坑	3	3	18世紀	硬骨魚綱	ハモ属	歯骨	1	2		
							角骨		2		
						マダイ	上後頭骨			1	
2-093	カマド	4-1	4-1	17世紀	鳥綱	ガン族	手根中手骨	1			
2-136	土坑	4-1	4-1	17世紀	腹足綱	サザエ	蓋			4	
							殻			30	
							ツメタガイ	殻			1
					斧足綱	イタヤガイ	殻			1	
							オキシジミ	殻	1		
					硬骨魚綱	マダイ	ハマグリ属	殻	12	8	
							カツオ	椎骨			1
							コチ科	椎骨			1
							フグ科	主鰓蓋骨	1		
							ホウボウ科	前頭骨			1
								前頭骨			1
								上後頭骨			2
								副蝶形骨			1
								椎骨			5
								主上顎骨	2	1	
						前上顎骨		1			
						口蓋骨		1			
	歯骨		2								
	角骨	1									
鳥綱	カモ族	ガン族	大腿骨	1							
		キジ科	尺骨	1							
哺乳綱	ネズミ科	寛骨			1						
2-147	土坑	1~4-2	1?	19世紀~	腹足綱	サザエ	蓋			2	
							殻			11	
							スガイ	殻			5
							テングニシ	殻			2
					斧足綱	パイ	殻			1	
							イタヤガイ	殻		1	
							コタマガイ	殻	1		
							バカガイ	殻		1	
							ハマグリ	殻		1	1
							ハマグリ属	殻	4	1	
							フネガイ科	殻	2		
					マガキ	殻	2				
					硬骨魚綱	サバ属	角舌骨	1			
							椎骨				1
							タイ科	前鰓蓋骨		1	
							擬鰓蓋骨			1	
					鳥綱	ブリ属	口蓋骨		1		
カモ族	上腕骨		1								
キジ科	尺骨		1								
哺乳綱	スズメ目	下顎骨	1								
		イヌ	上腕骨	1							
			橈骨	1							
			尺骨	1							
			中手骨	3							
2-150	土坑	4-2	4-2	17世紀前半	硬骨魚綱	ネズミ科	肩甲骨		1		
2-152	土坑	4-2	4-2	17世紀前半	硬骨魚綱	クロダイ属	歯骨	1			
							スズキ属	歯骨		1	
							マダイ	前頭骨			1
2-161	土坑	4-2	3?	18世紀	腹足綱	サザエ	殻			2	
2-169	土坑	4-2	4-2	17世紀初め	斧足綱	イタヤガイ	殻	?	1		
							ハマグリ属	殻	1		
3-001	土坑	1	1	19世紀	硬骨魚綱	サバ属	椎骨			1	
3-008	土坑	1	1	19世紀~	硬骨魚綱	アジ科	主上顎骨		1		
							前上顎骨		1		
					鳥綱	タチウオ科	椎骨			20	
3-020	土坑	1	1	19世紀~	哺乳綱	キジ科	橈骨	1			
							シカ	大腿骨	1		
3-021	土坑	1	1	19世紀~	斧足綱	ハマグリ属	殻			1	
					斧足綱	ハマグリ	殻			1	

遺構	種類	検出面	帰属面	時期	大分類	小分類	部位	左	右	-	
3-030	土坑	2	3?	18世紀	腹足綱	アカニシ	殻			1	
						サザエ	殻			3	
3-031	土坑	2	3?	18世紀	斧足綱	コタマガイ	殻	1	1		
3-061	土坑	2	2	18世紀	腹足綱	サザエ	蓋			1	
3-063	石組榊	2	2	18世紀	斧足綱	ハマグリ	殻			1	
3-067	瓦溜り	2	2	18~19世紀	斧足綱	ハマグリ	殻			1	
3-101	土坑	3	3	18世紀	硬骨魚綱	ハタ科	主鰓蓋骨		1		
3-107	土坑	3	3	18世紀	腹足綱	アカニシ	殻			1	
3-126	井戸	1~4-2	1・2	18~19世紀	腹足綱	アカニシ	殻			1	
3-136	土坑	4-1	3?	18世紀	硬骨魚綱	ハタ科	主鰓蓋骨		1		
					腹足綱	サザエ	殻			1	
3-153	土坑	1~4-2	1・2	18~19世紀	硬骨魚綱	ハタ科	前鰓蓋骨		1		
3-171	土坑	1~4-2	4-1・2	17世紀	腹足綱	サザエ	殻			1	
3-192	土坑	1~4-2	2?	18世紀~	腹足綱	アカニシ	殻			2	
3-279	土坑	5-2	5-2	16世紀	哺乳綱	シカ	大腿骨			1	
							脛骨			1	
							距骨			1	
							足根骨			1	
							中足骨			1	
4-060	土坑	3	1・2	18~19世紀	硬骨魚綱	マダイ	上後頭骨			1	
4-085	大型土坑	3	3	17~18世紀	硬骨魚綱	タイ科	前上顎骨/歯骨			1	
					腹足綱	サザエ	殻			1	
4-102	井戸	4-1	4-1	17~18世紀	腹足綱	サザエ	蓋			1	
							殻			6	
					硬骨魚綱	タイ科	副蝶形骨			1	
						チダイ	上後頭骨			1	
					哺乳綱	イノシシ/ブタ	上腕骨	1			
							脛骨	1			
							指骨			2	
カモシカ	上腕骨	1									
シカ	橈骨	1									
	脛骨	1									
4-104	土坑	4-1	2	18世紀~	腹足綱	サザエ	殻			1	
					斧足綱	フネガイ科	殻			1	
4-111	土坑	4-1	4-1?	17~18世紀	腹足綱	アカニシ	殻			1	
4-135	土坑	4-1	4-1	17世紀	腹足綱	サザエ	蓋			2	
							殻			2	
					斧足綱	ハマグリ	殻		1		
						ハマグリ属	殻	1	1		
硬骨魚綱	マダイ	前頭骨			1						
4-140	大型土坑	4-1	1	19世紀	哺乳綱	シカ	肩甲骨	1			
							鳥口骨			1	
							大腿骨	1			
							脛足根骨			1	
4-140	大型土坑	4-1	1	19世紀	哺乳綱	シカ	中足骨		1		
4-154	石組榊	4-2	4-2	17世紀初め	腹足綱	サザエ	殻			9	
					斧足綱	ハマグリ属	殻	3	4		
4-158	土坑	4-2	4-2?	17世紀	腹足綱	キクスズメ	殻				1
						コシダカガンガラ	殻				3
						ダンバイキサゴ	殻				108
						サザエ	蓋				3
							殻				1
							殻				1
					斧足綱	コタマガイ	殻				1
						ハマグリ	殻			1	
						ハマグリ属	殻				1
							殻	5	7		
					硬骨魚綱	フネガイ科	殻				1
						ヤマトシジミ	殻	7	8		3
						マダラ	椎骨				1
							舌顎骨	1			
アンコウ科	擬鎖骨	1									
ボラ科	椎骨					2					
スズキ属	歯骨	1									
ハタ科	主鰓蓋骨	1									
マダイ	椎骨					1					
	歯骨	1									
	タイ科	椎骨				4					
	サバ属	前上顎骨	1								
	歯骨	1									

遺構	種類	検出面	帰属面	時期	大分類	小分類	部位	左	右	-		
					哺乳綱	ヒラメ	椎骨			1		
4-287	土坑	1~4-2	4-1・2	17世紀	哺乳綱	タヌキ	大腿骨		1			
4-299	土坑	1~4-2	4-1・2	17世紀	腹足綱	アカニシ	蓋			1		
304	土坑	5-2	5-2	16世紀	腹足綱	アカニシ	蓋			1		
					腹足綱	ハマグリ属	殻	3				
					腹足綱	アワビ類	殻			2		
					腹足綱	サザエ	蓋			10		
					腹足綱	サザエ	殻			2		
					斧足綱	ヤマトシジミ	殻	1	3			
					斧足綱	ハマグリ	殻	12	13			
					斧足綱	ハマグリ属	殻	7	3			
					硬骨魚綱	ハモ属	椎骨			1		
							歯骨			2		
							角骨			1		
						コイ	咽頭骨	1				
						ホウボウ科	神経頭蓋				1	
						コチ科	椎骨				1	
							基鱗骨	1				
						スズキ属	椎骨				8	
							主上顎骨	1				
							前上顎骨			1		
							角骨			1		
							主鰓蓋骨	1				
							舌顎骨	1				
						マダラ	上擬鎖骨		1			
							椎骨				3	
							歯骨	1				
							角骨	1				
						マダラ	主鰓蓋骨			1		
							ブリ属	椎骨			1	
						アジ科	椎骨				1	
						ボラ科	椎骨				2	
						ボラ属	主鰓蓋骨	1				
						マダイ	前頭骨				4	
							上後頭骨					3
							副蝶形骨					1
							主上顎骨	1	2			
							前上顎骨			4		
							口蓋骨	1				
							歯骨	2	1			
							角骨	2	2			
							方骨	2				
							舌顎骨	1				
							前鰓蓋骨				1	
							主鰓蓋骨	1	2			
							角舌骨・上舌骨			1		
							キダイ	椎骨				1
						前頭骨						1
						前上顎骨				1		
						タイ科	歯骨	1				
							基後頭骨					1
					椎骨						8	
					タイ科	舌顎骨	2					
						擬鎖骨	1	1				
					カツオ	舌顎骨	1					
					ヒラメ	椎骨				1		
					フグ科	舌顎骨	1					
					鳥綱	カモ族	尺骨	1				
						キジ科	肩甲骨	1				
							鳥口骨	1				
							上腕骨	1				
							手根中手骨			1		
					足根中足骨				1			
					哺乳綱	シカ	中手骨				1	
						クマネズミ属	下顎骨			1		
						ネズミ科	頭蓋骨			1		
							寛骨	2	1			
							大腿骨	3	2			
					ネズミ科	脛骨	1	1	1			

表4 主要遺構一覧表 本文に記載がない主要遺構

調査区	遺構番号	図	図版	検出面	大区画	小区画	種別	時代	規模			平面形状	遺物	備考
									長さ(m)	幅(m)	深さ(m)			
1	1-008	175	-	1	M10	gh13	土坑	19世紀～	2.00	1.20	0.20	楕円	肥前系磁器 瀬戸美濃系陶器 土師質土器 瓦類 (T90・T91)	北・南側攪乱
2	2-008	10	-	1	M10	o13	土坑	19世紀～	0.72	0.43	0.14	楕円形	土師質土器 京・信楽系陶器 (2) 瓦	
2	2-011	10	-	1	M10	no15	溝状遺構	19世紀～	2.40以上	0.35	0.10	直線	土師質土器 (3) 肥前系磁器 丹波焼 瓦	耕作溝 西側攪乱
2	2-014	10	-	1	M10	no16	溝状遺構	19世紀～	3.08	1.15・0.34	0.10	直線	土師器 肥前系磁器 (4・5) 瀬戸美濃系陶器 瓦	耕作溝 西側攪乱
2	2-017	10	-	1	M10	no16	溝状遺構	19世紀～	3.42	0.42	0.10	直線	肥前系磁器 (6) 施釉陶器 瓦	耕作溝 西側攪乱
1	1-016	20	56	2	M10	i15	大型土坑	18～19世紀	2.55	2.15	0.38	隅丸方形	肥前系磁器 (107・108) 肥前系陶器 (110) 瀬戸美濃系陶器 (109) 土製品 (111)	北・西側攪乱
1	1-031	21 185	56 95	2	M10	f16・17	溝	18～19世紀	8.00以上	0.50以上	0.83	直線	肥前系磁器 (149・151) 瀬戸美濃系磁器 (150) 肥前系陶器 京・信楽系陶器 堺・明石系陶器 (152) 土師質土器 瓦類 包丁 (M2) 不明銅製品 (M30) 鉄釘	東・北・南側調査区域外 1-017より古い
2	2-022	187	98	2	M10	m16	溝状遺構	18～19世紀	1.12	0.46	0.08	楕円形	銭貨 (M119)	耕作溝の一部 東側調査区域外
2	2-023	187	97	2	M10	m16	溝状遺構	18～19世紀	1.28	0.29	0.05	長楕円形	銭貨 (M99)	耕作溝の一部 東側調査区域外
2	2-024	187	97	2	M10	116	溝状遺構	18～19世紀	2.40	0.32	0.14	直線	銭貨 (98)	耕作溝 東側調査区域外
2	2-028	21	-	2	M10	113	溝状遺構	18～19世紀	3.50以上	0.55	0.25	弧状	肥前系磁器 (153・154) 土師質土器 焼締・施釉陶器 瓦	北側攪乱 東側調査区域外
2	2-038	29 171 173	61 88 89	2	M10	n13	土坑	18～19世紀	1.85	1.30	0.57	不整楕円形	肥前系磁器 (299～303) 肥前系陶器 瀬戸美濃系陶器 堺・明石系陶器 土師質土器 瓦質土器 瓦類 (T2・T51)	2-031に切られる
2	2-039	29 185	61 95	2	M10	m12	土坑	18～19世紀	1.75	1.25以上	1.05	不整楕円形?	肥前系磁器 (304・305) 肥前系陶器、土師質土器、土製品 瓦 鉄釘 (M19) 銅製蓋 (M23)	2-035に切られる
1	1-040	35	-	3	M10	f13・14	土坑?	18世紀～	4.10以上	0.50以上	0.48	?	肥前系磁器 (306～309) 瀬戸美濃系陶器 京・信楽系陶器 堺・明石系陶器 土師質土器 土人形 瓦類	大部分調査区外
1	1-046	35	62	3	M10	f 17	土坑?	18～19世紀	0.75以上	0.35以上	0.12	?	肥前系磁器 (311) 在地系陶器 (312) 土師質土器 (313・314) 土人形 (315) 土製基石 (316・317)	大部分調査区域外 第2遺構面?
1	1-047	35	-	3	M10	f 16	土坑	18世紀	1.90	0.70以上	0.19	隅丸方形?	土師質土器 (318) 丹波焼 瓦類	東側調査区域外
1	1-063	35 174 182	62 90 93	3	M10	f12・13他	大形土坑	18世紀～	2.20	1.30以上	0.35	楕円	肥前系磁器 (319・320) 瀬戸美濃系陶器 (321・323) 京・信楽系陶器 大谷焼 (322) 在地系陶器 (324) 堺・明石系陶器 (325) 土師質土器 瓦質土器 瓦類 (T80) 硯 (S7) 不明鉄製品 (S25) 釘 不明鉄製品	1-040より古い 東・北調査区域外
1	1-073	187	97	3	M10	114	ピット	18世紀	0.30	0.30	0.04	円	銭貨 (M96)	柵1-A 1-071～075
2	2-042	36	-	3	M10	m14・15	土坑	18世紀	0.92	0.88	0.30	不整円形	肥前系磁器 (342) 肥前系陶器 (343) 土師質土器 瓦	
2	2-047	36	-	3	M10	116	土坑	18世紀	0.50	0.40	0.17	不整円形	土師質土器 (344)	
2	2-060	36	-	3	M10	115	土坑	18世紀	0.64以上	0.30	0.12	?	備前焼 (348)	東側調査区域外
2	2-063	36	-	3	M10	115	土坑	17～18世紀	0.75	0.70	0.05	楕円形	肥前系陶器 (349) 土師質土器	
2	2-064	36	-	3	M10	m15	土坑	18世紀	0.75	0.62	0.07	楕円形	土師質土器 (350)	
2	2-065	36	63	3	M10	m14	土坑	17～18世紀	0.55	0.55	0.10	円形	肥前系磁器 肥前系陶器 (351) 土師質土器 磁器 施釉陶器 瓦質土器 瓦 壁土	
2	2-067	36	63	3	M10	o14	ピット	18世紀	0.40	0.40	0.67	円形	肥前系磁器 (352) 土師質土器 (353～356) 磁器	灯明皿18枚
2	2-073	38	-	3	M10	o16・17	土坑	18世紀	2.40	0.78	0.28	長楕円形	肥前系磁器 (387) 土師質土器 瓦	
2	2-075	38	-	3	M10	m13	小土坑	17～18世紀	0.50	0.32	0.14	不整楕円形	丹波焼 (388) 瓦	
2	2-078	38 187	64 98	3	M10	o15	土坑	18世紀	1.20以上	0.60以上	0.30	楕円形?	肥前系磁器 (389) 京・信楽系陶器 (390・391) 備前焼 土師質土器 (392) 瓦 銭貨 (M121)	2-077・090を切る 2-037に切られる 西側攪乱
2	2-095	39 185	95	3	M10	n15・16	小土坑	18世紀	0.43	0.38	0.04	隅丸方形	肥前系陶器 (415) 土師質土器 鏝 (M16)	
2	2-096	39	64	3	M10	o14	土坑	18世紀	1.10	0.80以上	0.21	楕円形?	肥前系磁器 施釉陶器 (416) 土師質土器 瓦 漆喰	
1	1-081	46	64	4-1	M10	f14	土坑	17～18世紀	1.50以上		0.73	不明	肥前系磁器 (428・429) 瀬戸美濃系陶器、京・信楽系陶器 丹波焼 瓦類	東側調査区域外 調査区東壁で確認 上面遺構の可能性もあり



調査区	遺構番号	図	図版	検出面	大区画	小区画	種別	時代	規模			平面形状	遺物	備考
									長さ(m)	幅(m)	高さ(m)			
1	1-085	48	65	4-1	M10	g14	ピット	17世紀	0.70	0.60	0.47	楕円形	肥前系陶器(477・478) 瀬戸美濃系陶器 備前焼 土師質土器 瓦類	
1	1-086	182	93	4-1	M10	g13	ピット	17世紀	0.58	0.58	0.32	不整	肥前系陶器 瀬戸美濃系陶器 土師質土器 瓦類 砥石(S18)	
1	1-095	49 182	66 93	4-1	M10	g12	土坑	18世紀	0.95	0.15 以上	0.30	?	中国製磁器(495) 肥前系磁器(496 ~499) 肥前系陶器 瀬戸美濃系陶器 京・信楽系陶器 備前焼(500・501) 丹波焼 土人形(502) 瓦類 壁土 硯 (S4) 軽石 鉄釘	第3面遺構か
1	1-098	50	-	4-1	M10	i13	土坑	17世紀	1.35	0.70	0.50	楕円形	肥前系陶器(511) 瀬戸美濃系陶器 備前焼 土師質土器(512) 瓦類	
1	1-116	51	66	4-1	M10	k14	土坑	17世紀	1.50	1.42	0.18	楕円形	土師質土器(542) 瓦類 鉄釘	東側攪乱
1	1-136	178	-	4-1	M10	j13	ピット	17世紀	0.70	0.45	0.47	楕円形	肥前系磁器 土師質土器 瓦(T139)	
2	2-136	187	98	4-1	M10	m15	土坑	17世紀	5.70	2.70	0.20	不整形	肥前系磁器 肥前系陶器 瀬戸美濃系 陶器、備前焼、土師質土器 瓦 銭貨 (M122) 動物遺存体	
1	1-151	56 173	-	4-2	M10	g16 17	土坑	17世紀	3.25	1.00 以上	0.73	楕円形?	肥前系磁器(570・571) 備前焼 (572) 土師質土器 瓦質土器 瓦類 (T52) 釘 鉄塊	南側調査区域外
1	1-153	56 174 178	67 90	4-2	M10	f16	土坑	18世紀~	2.25	1.10 以上	0.91	楕円形	肥前系磁器(573~575) 備前焼 (576) 土師質土器(577・578) 瓦 類(T71・T138) 鉄釘	第2遺構面? 東側調査 区域外
1	1-161	173	-	4-2	M10	i13	土坑	17世紀 前半	1.65	0.70 以上	0.84	楕円形?	瓦類(T57)	北側上面遺構によって 切られる
1	1-164	56	-	4-2	M10	f15	土坑	17世紀 前半	1.40	0.40 以上	0.67	楕円形?	土師質土器(579) 肥前系陶器 瓦	東側調査区域外
1	1-165	56	-	4-2	M10	j13	ピット	17世紀 前半	0.55 以上	0.50	0.25	楕円形?	瓦質土器(580) 瓦	柱穴 底に据石
1	1-173	56	-	4-2	M10	k12・ 13	土坑	17世紀 前半	1.40 以上	0.75 以上	0.63	楕円形?	中国製磁器(581) 肥前系陶器 (582) 備前焼(583) 土師質土器 瓦	北東側上面遺構によっ て切られる
1	1-175	56	-	4-2	M10	j13	土坑	17世紀 前半	1.50 以上	1.25	0.39	不整形	肥前系磁器 備前焼 土師質土器 (584・585) 瓦	北・南側上面遺構に切 られる 1-165より 古い
1	1-176	185	-	4-2	M10	f13	土坑	17世紀 前半	1.50 以上	0.25 以上	0.40	?	肥前系磁器 肥前系陶器 土師質土器 瓦質土器 瓦 銅製吊り金具(M32) 鉄 塊	東側大部分調査区域外
1	1-178	56	-	4-2	M10	g16	ピット	17世紀 前半	0.55 以上	0.50 以上	0.53	円形	肥前系陶器(586)	東側上面遺構に切られ る 底に据石
1	1-206	182	93	4-2	M10	gh14	土坑	17世紀 前半	1.10 以上	1.00 以上	0.16	隅丸方 形?	瀬戸美濃系陶器 瓦 基石(S8)	北側攪乱
1	1-207	185	95	4-2	M10	g17	礎石	17世紀 前半	0.36	0.25	-		鎌(M9)	地鎮?
1	1-208	56 173	89	4-2	M10	h14	土坑	17世紀 前半	2.15 以上	1.68	0.49	楕円形	肥前系陶器(588) 瀬戸美濃系陶器 備前焼(589) 土師質土器(590) 瓦 類(T58) 鉄釘	北側1-201に切られる
2	2-148	57	67	4-2	M10	o16	土坑	17世紀 前半	1.00 以上	0.80	0.45	楕円形?	肥前系陶器(591) 備前焼、丹波焼 (592) 土師質土器(593~595) 瓦	東側上面遺構に切られ る 台風で流失 計測 値の深さ以外は略図か ら
2	2-149	57 171	67 88	4-2	M10	o17	土坑	17世紀 前半	2.00	1.00 以上	0.65	?	肥前系陶器(596・597) 土師質土器 (598) 瓦(T8)	北側上面遺構に切られ る 台風で流失 計測 値の深さ以外は略図か ら
2	2-152	57	-	4-2	M10	o14	小土坑	17世紀 前半	0.60 以上	0.50	0.54	楕円形?	肥前系陶器(599・600) 瀬戸美濃系 陶器 土師質土器(601) 瓦質土器 (602) 瓦	北側削平
2	2-158	57	67	4-2	M10	o14	ピット?	17世紀 前半	0.57	0.45 以上	0.45	隅丸方 形?	中国製磁器 肥前系陶器(603) 土師 質土器(604・605)	
2	2-165	182	-	4-2	M10	lm13	土坑	17世紀 前半	1.40	0.70 以上	?	?	肥前系陶器 瀬戸美濃系陶器 土師質土 器 砥石(S19)	西側削平
2	2-169	57	67	4-2	M10	m14	小土坑	17世紀 前半	0.75	0.60	0.38	楕円形	肥前系陶器(606) 土師質土器	
2	2-172	188	-	4-2	M10	113	溜樹	17世紀 前半	0.40	0.40	0.28		土師質土器 瓦 銭貨(M164)	結晶片岩を方形に組む
2	2-175	58	-	4-2	M10	o14	ピット?	17世紀 前半	0.75	0.50 以上	0.44	隅丸方 形?	土師質土器(616~618) 瓦	南側削平
2	2-183	185	95	4-2	M10	m14	小土坑	17世紀 前半	0.60	0.50	0.20	不整楕 円形	土師質土器 銚(M14)	2-169より古い?
2	2-189	182	-	4-2	M10	m13・ 14	小土坑	17世紀 前半	0.65	0.37	0.24	楕円形	砥石(S15)	
1	1-277	63 182 185	67 93 95	1~ 4-2	M10	k10 11	土坑	19世紀~	1.90 以上	1.70 以上	0.51 以上	不明	肥前系磁器(619) 瀬戸美濃系磁器 (620) 肥前系陶器 京・信楽系陶 器 丹波焼 塚・明石系陶器 大谷焼 在 地系陶器 土師質土器 瓦質土器 土製 品(621) 瓦 硯(S2) 砥石(S22) 包丁(M1) 鉄釘	幕末から明治

調査区	遺構番号	図	図版	検出面	大区画	小区画	種別	時代	規模			平面形状	遺物	備考
									長さ(m)	幅(m)	高さ(m)			
1	1-278	63 172 182	67	1～ 4-2	M10	110 11	土坑	18～ 19世紀	1.95	0.80 以上	0.36	楕円形？	肥前系磁器 (622・623) 肥前系陶器 (625) 瀬戸美濃系陶器 (626) 京・信楽系陶器 (624) 備前焼 (627) 土師質土器 (628・629) 瓦類 (T40) 硯 (S6) 鉄釘	
1	1-283	63 174	67	1～ 4-2	M10	111・ 12	土坑	17世紀 前半	2.20	1.30	2.00	不整形	中国製磁器 (630) 瀬戸美濃系陶器 (631・632) 備前焼 (633・634) 土師質土器 (635～639) 瓦類 (T86・T87) 鉄釘	17世紀初め
1	1-288	63 68	67 68	1～ 4-2	M10	mn11	土坑	18～ 19世紀	1.45	1.05 以上	0.55	楕円形？	肥前系磁器 (640) 肥前系陶器 (641) 瀬戸美濃系陶器 (645) 大谷焼 (642) 京・信楽系陶器 (643・644) 在地系陶器 土師質土器 (646) 土製品 (647～649) 不明鉄製品	18～19世紀
1	1-291	64	68	1～ 4-2	M10	m12	土坑	18世紀	1.60	1.20	0.50	不整形	肥前系磁器 (650・651) 肥前系陶器 (652・653) 土師質土器 瓦 鉄釘	
1	1-292	64	-	1～ 4-2	M10	n11	土坑	17世紀 前半	1.00	0.65	0.44	楕円形	肥前系陶器 備前焼 (654) 土師質土器 瓦 鉄釘	17世紀初頭
2	2-255	66	18	1～ 4-2	M10	no12 ・ 13	井戸	19世紀	1.00	1.00	0.50	円形	京・信楽系陶器 (697) 瓦	殆ど攪乱される
2	2-267	-	19	1～ 4-2	M10		井戸	-	約 1.00	-	-	円形	-	大溝底で検出 崩壊して計測できていない
1	1-220	72	69	5-2	M10	i15	土坑	16世紀	1.40	1.00 以上	0.2	楕円形？	瀬戸美濃系陶器 (704) 備前焼 (705) 土師質土器 瓦 鉄釘	
1	1-228	72	-	5-2	M10	g15	土坑	16世紀	1.10	0.20 以上	0.05	不整形	土師質土器 (707)	
1	1-229	72	-	5-2	M10	g14 15	ピット	16世紀	0.50	0.50	0.33	隅丸方形	瀬戸美濃系陶器 土師質土器 (708)	
1	1-234	72	69	5-2	M10	j15	土坑	16世紀	0.70	0.50 以上	0.23	？	中国製磁器 (709) 土師質土器	
1	1-252	188	98	5-2	M10	hi 13	小土坑	16世紀	0.80	0.60	0.15	楕円形	壁土 銭貨 (M152)	
1	1-264	72	69	5-2	M10	j14	土坑	16世紀	1.50	0.80 以上	0.3	楕円形？	瀬戸美濃系陶器 (710) 土師質土器 (711) 瓦質土器 瓦	
1	1-266	72	-	5-2	M10	j14	土坑	16世紀	0.90	0.20 以上	0.3	？	中国製磁器 (712)	
1	1-275	182	-	5-2	M10	k15	土坑	16世紀	0.75	0.75	0.37	不整形 円形	土師器 施釉陶器 砥石 (S12)	
1	1-310	72	69	5-2	M10	hi11	土坑	16世紀	1.40	0.80 以上	0.9	楕円形？	中国製磁器 (717) 瓦	北側調査区域外
1	1-314	72	-	5-2	M10	g12・ 13他	土坑	16世紀	4.50	2.40 以上	1.2	楕円形？	中国製磁器 土師質土器 (718) 瓦質土器 (719) 瓦	東側調査区域外
2	2-231	190	99	5-2	M10	no14 ほか	土坑	16世紀	1.60	1.60	0.12	不整形 円形	土師質土器 漆椀 (W17)	
2	2-236	72	-	5-2	M10	m15・ 16	土坑	16世紀	4.60 以上	1.50	0.40	長方形？	瀬戸美濃系陶器 (728) 土師質土器 須恵器	粘土採掘坑 2-237と重複
3	3-016	187	97	1	M10	u1	土坑	19世紀～	1.25	0.75 以上	0.26	楕円形？	銭貨 (M111)	西側調査区域外
3	3-024	92	-	1	M10	q5・6	土坑	19世紀～	3.55 1.70	2.15 以上	0.15	不整形	肥前系磁器 肥前系陶器 (920) 土師質土器	北側攪乱 南側調査区域外10～30cmの礫を多く含む
3	3-028	92	73	1	M10	t5・6	土坑	19世紀～	1.25 以上	0.60 以上	0.39	楕円形？	土師質土器 (921・922)	北側攪乱 西側調査区域外
4	4-003	186	96	1	M9	s22	土坑	19世紀～	2.30 以上	1.80 以上	0.18	楕円形？	肥前系磁器 瀬戸美濃系磁器 瀬戸美濃系陶器 丹波焼 大谷焼 堺・明石系陶器 土師質土器 瓦質土器 瓦 銅製皿 (M63)	攪乱？
4	4-008	186	96	1	M9	rs24	土坑	19世紀～	1.90	1.20	0.38	不整形	肥前系磁器 瀬戸美濃系陶器 京・信楽系陶器 土師質土器 瓦質土器 土錘 瓦 スラグ 火打金 (M56) 不明鉄製品 (M58)	
4	4-014	186	96	1	M9	t22	土坑	19世紀～	1.90	0.80	0.35	隅丸長方形	肥前系磁器 瀬戸美濃系陶器 丹波焼 堺・明石系陶器 土師質土器 瓦質土器 瓦 スラグ 漆喰 錠 (M60)	
4	4-015	204	107	1	M9	t23	土坑	19世紀～	0.95	0.80	0.38	楕円形	骨角製箸 (B1)	
4	4-016	186	97	1	M9	s22	土坑	19世紀～	2.20	1.80	0.90	隅丸方形	肥前系磁器 瀬戸美濃系磁器 肥前系陶器 在地系陶器 土師質土器 瓦 銅製鍵 (M74)	
4	4-026	175	-	1	M9	v23	土坑	19世紀～	0.70	0.65	0.17	不整形 円形	瓦 (T92)	
4	4-027	186	96	1	M9	u23	ピット	19世紀～	0.40	0.30	0.21	楕円形	瀬戸美濃系陶器 瓦 十能 (M57)	
4	4-036	176	91	1	M9	k124	土坑	19世紀～	2.90	1.50 以上	0.50	不整形 楕円形？	瀬戸美濃系陶器 瓦 (T125)	北側調査区域外

調査区	遺構番号	図	図版	検出面	大区画	小区画	種別	時代	規模			平面形状	遺物	備考
									長さ(m)	幅(m)	深さ(m)			
3	3-030	96 186 187	73 74 97 98	2	M10	p5・6	土坑 落ち	18世紀	4.00以上	2.10以上	0.34	不整形	肥前系磁器 (924) 肥前系陶器 土師質土器 (925~927) 瓦 不明銅製品 (M73) 銭貨 (M128)	北側攪乱 南側調査区域外 1時期古い遺構
3	3-037	96	-	2	M10	tu1・2	土坑	18~19世紀	1.45	1.30	0.49	楕円形	肥前系磁器 (936) 肥前系陶器 土師質土器、瓦	2段落ち
3	3-054	179	92	2	M9	t25	土坑	18~19世紀	1.80	1.35	0.20	楕円形	肥前系磁器、肥前系陶器 瀬戸美濃系陶器 塚・明石系陶器 土師質土器瓦 (T152)	
3	3-062	96 186 187	97 98	2	M9	t25	集石土坑	18~19世紀	0.95	0.90	0.05	不整形	肥前系磁器 (937) 土師質土器 瓦 煙管 (M89) 銭貨 (M129)	5~30cmの礫を多く含む
3	3-067	96 171 175	74 88	2	M9・10	k125・1	瓦溜め	18~19世紀	5.50	2.50以上	0.02		肥前系磁器 瀬戸美濃系磁器 瀬戸美濃系陶器 (939) 備前焼 土師質土器 (940・941) 瓦 (T15 T96) 鉄釘 瓦器 石灰岩	北・南側攪乱 多くの瓦が敷くように出土
3	3-074	177	-	2	M10	m1	集石土坑	18~19世紀	0.95以上	0.85以上	0.15	不整形	土師質土器 瓦 (T132)	5~30cmの礫を多く含む
4	4-040	176 181	92	2	M9	p23	土坑	18~19世紀	1.20	0.65	0.25	楕円形	瓦 (T122) 磚 (T166)	
4	4-048	188	98	2	M9	t22・23	土坑	18~19世紀	3.15	1.10	0.20	不整形楕円形	肥前系磁器 土師質土器 瓦 銭貨 (M156)	
4	4-052	98	-	2	M9	r24	土坑	18~19世紀	2.00	0.90以上	0.49	不整形	肥前系磁器 瀬戸美濃系陶器 塚・明石系陶器 土師質土器 (982) 瓦質土器 瓦	南側攪乱
3	3-081	183 187	94 98	3	M10	tu1	土坑	19世紀~	2.55以上	1.00	0.66	長楕円形	肥前系磁器 瀬戸美濃系磁器 肥前系陶器 瀬戸美濃系陶器 京・信楽系陶器 塚・明石系陶器 土師質土器 瓦質土器 瓦 硯 (S31) 銭貨 (M131)	西側調査区域外
3	3-088	105	75	3	M10	st2	土坑	18世紀	2.50	1.20	0.34	不整形	肥前系磁器 (988・989) 肥前系陶器 (990) 土師質土器 (991・992) 瓦 壁土	
3	3-092	106	-	3	M10	s1	小土坑	18世紀	0.60	0.60	0.14	不整形	肥前系陶器 土師質土器 (1009)	
3	3-111	183	-	3	M10	k1	土坑	18世紀	0.90	0.75	0.20	不整形楕円形	肥前系陶器 瓦 砥石 (S38)	
4	4-060	107 172 173 174 177	76 88 89 90	3	M9	q23	土坑	18~19世紀	3.00以上	2.00	0.60	不整形	肥前系磁器 (1040・1041) 瀬戸美濃系磁器 (1039) 肥前系陶器 (1042・1043・1045~1047) 瀬戸美濃系陶器 丹波焼 (1044) 在地系陶器 塚・明石系陶器 土師質土器 (1048) 瓦 (T24・T25・T60・T75・T134)	南側攪乱 4-079・080を切る
4	4-064	108	-	3	M9	v23	ピット	18世紀	0.60	0.60	0.30	円形	肥前系磁器 備前焼 土師質土器 土製品 (1049) 瓦	
4	4-065	108	-	3	M9	v23	土坑	18世紀	1.00	0.80	0.26	楕円形	肥前系磁器 (1050) 肥前系陶器 瀬戸美濃系陶器 丹波焼 土師質土器 (1051・1052) 瓦	
3	3-134	119	79	4-1	M10	jk2	土坑	17~18世紀	2.90	1.90	0.46	不整形楕円形	肥前系磁器 (1154) 肥前系陶器 土師質土器 瓦	
3	3-135	119 171 178	88	4-1	M10	l1・2	土坑	17~18世紀	3.10	2.10以上	0.55	不整形	肥前系磁器 (1155) 肥前系陶器 備前焼 土師質土器 瓦 (T20・T142)	東側攪乱
3	3-136	119 187	98	4-1	M10	n5・6	土坑	17~18世紀	2.00以上	0.80以上	0.32	楕円形?	肥前系磁器 (1156) 肥前系陶器 土師質土器 瓦 銭貨 (M116)	東・南側調査区域外
4	4-101	121	80	4-1	M9	v23・24	土坑	17~18世紀	2.60	0.50以上	0.15	楕円形?	肥前系陶器 (1196)	西側調査区域外
4	4-117	123	-	4-1	M9	s22・23	ピット	17~18世紀	0.65	0.65	0.14	円形	土師質土器 瓦 土製品玩具 (1237)	
4	4-125	123	-	4-1	M9	t21	土坑	17~18世紀	0.95	0.80	0.24	隅丸方形	中国製磁器 (1239) 肥前系磁器 土師質土器 (1240) 瓦	
4	4-130	123 171 175	81 88	4-1	M9	k23	土坑	17~18世紀	2.50以上	1.90以上	0.61	隅丸方形?	肥前系磁器 (1241~1244) 肥前系陶器 土師質土器 (1245・1246) 瓦 (T16・T108)	南側攪乱
4	4-134	172	88	4-1	M9	m23	ピット	17~18世紀	0.50	0.35以上	0.03	楕円形?	瓦 (T22)	南側攪乱
3	3-222	183	94	4-2	M9	i25	土坑	17世紀	1.30以上	0.70以上	0.38	?	五輪塔 (S48)	周囲殆ど攪乱
4	4-139	175 176	91	4-2	M9	?	大型土坑	17世紀~	2.40	1.65	0.53	楕円形	肥前系磁器 肥前系陶器 瀬戸美濃系陶器 丹波焼 土師質土器 瓦 (T110・T124) 壁土	
4	4-152	183	94	4-2	M9	122	土坑	17世紀~	1.65以上	1.60	0.74	不整形	肥前系磁器 肥前系陶器 土師質土器 瓦 砥石 (S39)	4-151に切られる
4	4-155	129	-	4-2	M9	122	土坑	17世紀~	2.20以上	1.25	1.17	不整形楕円形	肥前系磁器 肥前系陶器 土師質土器 (1259~1262) 瓦	
4	4-200	132	-	4-2	M9	t20・21	土坑	17世紀~	1.50	0.80以上	0.15	円形?	肥前系磁器 肥前系陶器 (1326) 土師質土器	北側調査区域外

調査区	遺構番号	図	図版	検出面	大区画	小区画	種別	時代	規模			平面形状	遺物	備考
									長さ(m)	幅(m)	高さ(m)			
4	4-212	186	96	4-2	M9	r24	柱穴	17世紀～	0.70	0.57	0.45	楕円形	肥前系磁器 瓦 短刀 (M49)	柵4-A 底に据石
4	4-215	183 186	97	4-2	M9	q24	ピット?	17世紀～	0.40	0.40	0.20	円形?	肥前系磁器 肥前系陶器 土師質土器 瓦質土器 瓦 砥石 (S45) 煙管 (M81) 石灰岩	
4	4-225	132	-	4-2	M9	S20・21	土坑	17世紀～	1.80以上	1.43	0.20	楕円形?	肥前系陶器 (1339) 備前焼 土師質土器 (1340)	東・西側攪乱
4	4-227	132	-	4-2	M9	s22・23	小土坑	17世紀初頭?	0.95	0.70	0.19	楕円形	肥前系陶器 (1341) 瓦	
4	4-230	132	-	4-2	M9	r23	柱穴	17世紀～	0.50	0.30以上	0.45	楕円形	備前焼 (1342) 瓦	柵1-A 底に据石
4	4-239	132	-	4-2	M9	r23	柱穴	17世紀～	0.75	0.55	0.60	楕円形	肥前系陶器 (1343) 瓦	柵1-B 底に据石
4	4-240	132	-	4-2	M9	t22	小土坑	17世紀～	1.00	0.60以上	0.30	楕円形?	肥前系陶器 (1344) 土師質土器 (1345～1347)	東側攪乱
4	4-253	132	-	4-2	M9	q23	土坑	17世紀～	1.80	1.60以上	0.50	不整形円形?	土師質土器 (1348) 土人形 (1349) 瓦	
3	3-129	144	-	1～4-2	M10	ij3	土坑	17世紀	1.70	0.70以上	0.42	隅丸方形?	肥前系陶器 (1387) 土師質土器 瓦	南側調査区域外
3	3-132	144	-	1～4-2	M10	i3・4	土坑	17世紀?	1.40以上	1.20以上	0.15	?	土師質土器 瓦質土器 取鍋 (1388) 砥石 瓦転用面子 (1389)	南・東側調査区域外
3	3-150	186	-	1～4-2	M10	s1・2	土坑	不明	2.10	1.80	0.14	隅丸方形	土師質土器 不明銅製品 (M66)	2-121に切られる
3	3-165	147	84	1～4-2	M10	op4	土坑	18世紀?	1.10	0.70以上	0.31	?	肥前系磁器 (1458) 瀬戸美濃系陶器 (1459) 土師質土器 磁器 施釉陶器 瓦	3-164・3-167に切られる
3	3-175	147	-	1～4-2	M10	t3・4	土坑	18世紀	1.20	0.60	0.22	隅丸方形	肥前系磁器 (1472) 肥前系陶器 堺・明石系陶器 (1473) 土師質土器 土製品 (1474) 瓦	
3	3-178	147	-	1～4-2	M10	rs3	小土坑	17世紀前半	0.85	0.60	0.26	楕円形	肥前系磁器 瀬戸美濃系陶器 備前焼 (1475) 土師質土器 (1476・1477) 瓦	
3	3-179	147	85	1～4-2	M10	pq3	土坑	17世紀	1.05	1.00以上	0.20	不整形楕円形?	肥前系陶器 (1478～1480) 瀬戸美濃系陶器 備前焼 土師質土器 (1481) 焼締・施釉陶器 瓦質土器 瓦	
3	3-183	147	-	1～4-2	M10	m2・3	土坑	18世紀	1.00以上	1.00	0.16	不整形楕円形?	肥前系磁器 肥前系陶器 土師質土器 (1482) 瓦質土器 (1483) 瓦	東側削平
3	3-192	148	-	1～4-2	M10	p3	土坑	18世紀	2.50	1.00以上	0.82	楕円形?	肥前系陶器 (1491) 瀬戸美濃系陶器 土師質土器 堺・明石系陶器 (1492) 瓦 基石	3-126に切られる
3	3-318	-	-	1～4-2	M10	s1	井戸	不明	1.25	1.25	0.30以上	円形	-	大溝の底
4	4-272	148	-	1～4-2	M9	k21	井戸	17世紀?	3.50	2.40	0.75	円形	中国製磁器 (1501) 備前焼 肥前系陶器 土師質土器 (1500) 瓦	北側調査区域外 井戸部分は径2.40m
4	4-273	148	-	1～4-2	M9	k21・22	土坑	17世紀?	2.50以上	2.00	0.50	不整形	瀬戸美濃系陶器 (1502)	
3	3-233	156	-	5-2	M10	l1	ピット		0.50	0.50	0.39	円形	土師質土器 (1546) 瓦	
3	3-256	156	-	5-2	M10	o3	ピット	16世紀	0.40	0.40		円形	土師質土器 (1547)	
3	3-257	175	91	5-2	M10	k2	小土坑	16世紀	0.75	0.62	0.13	楕円形	丸瓦 (T114)	
3	3-279	156	-	5-2	M10	o3	小土坑	16世紀	1.00	0.65	0.08	楕円形	備前焼 (1548) 瓦 土物遺存体 (獣骨)	
3	3-291	156	86	5-2	M10	ij3	土坑	16世紀	1.30	0.97	0.18	不整形	土師質土器 (1549～1552) 瓦 壁土	
3	3-297	156	86	5-2	M10	n1	土坑	16世紀	1.35以上	1.15	0.14	楕円形	備前焼 (1553) 瓦質土器 瓦	
3	3-298	156 176	91	5-2	M10	no1	土坑	16世紀	1.75	0.80	0.11	不整形	備前焼 (1554) 土師質土器 (1555) 瓦 (T127)	
3	3-299	156	-	5-2	M10	m1	集石	16世紀	1.80	0.60	-	-	瀬戸美濃系陶器 (1556) 備前焼 (1557) 土師質土器 (1558)	掘形なく、10～40cmの礫を集める
3	3-300	183	94	5-2	M10	j3	小土坑	16世紀	0.45以上	0.30以上	0.10	?	土師質土器 瓦 砥石 (S46)	礫・瓦を立てる
3	3-310	190	99	5-2	M10	q4	土坑	16世紀	1.10	0.90以上	0.23	円形?	備前焼 土師質土器 漆椀 (W27) 刀装具 (W29) 箸 (W28)	大溝の一部の可能性もあり
4	4-282	156	-	5-2	M9	m21	土坑	16世紀	1.20	1.05	0.53	楕円形	瀬戸美濃系陶器 (1560) 土師質土器 (1561) 瓦	
4	4-304	156	-	5-2	M9	qr24	土坑	16世紀	0.82	0.80	0.12	円形	瀬戸美濃系陶器 土師質土器 (1562～1565)	
4	4-323	156	-	5-2	M9	m22	土坑	16世紀	1.85	1.60	0.91	楕円形	中国製磁器 (1569)	
4	4-324	156	-	5-2	M9	m22	土坑	16世紀	0.80	0.45以上	0.44	不整形	土師質土器 (1570)	西側4-330に切られる
4	4-327	156	86	5-2	M9	l23	土坑	16世紀	1.25	1.23	0.48	円形	中国製磁器 瀬戸美濃系陶器 備前焼 (1573) 土師質土器 (1574～1576)	
4	4-336	157	-	5-2	M9	l24	土坑	16世紀	1.80以上	1.65以上	0.43	不整形楕円形	土師質土器 (1582)	

表5 出土遺物観察表(土器類)

遺構面で帰属面不明の遺構は1~4-2と記載  
 法量の( )内は復元した大きさ +はそれ以上  
 色調は土色帖を基にし、マンセル記号を省略している また、内・外は「面」を省略している

報告書番号	図・図版番号	産地種類	器種	調査地区	遺構面	遺構層位等	法量			残存率	調整・技法	色調	胎土	備考
							口径cm	高さcm	底径cm					
1	図10	土師質土器	平仄	1 M10f16	1	1-006	(6.7)	3.6	(4.4)	30%	内面から外面口縁部褐釉 外底部回転系切	釉:黒褐 露胎: 淡黄	密	一部反転復元
2	図10	京・信楽系陶器	小杉碗	2 M10o13	1	2-008	(8.8)	5.2	(3.5)	20%	高台付近露胎 外面若杉文	釉:灰白 露胎: 灰白	密	反転復元
3	図10	土師質土器	焙烙	2 M10mo15	1	2-011	(21.6)	2.7	(23.0)	10%以下	口縁部回転ナデ	にぶい橙	1~2mmの長石・赤色・金雲母粒含む	反転復元
4	図10	肥前系磁器	染付広東碗	2 M10mo16	1	2-014	(11.3)	6.5	6.0	25%	総釉 墨付釉剥 内外面染付	青灰	密	反転復元
5	図10	肥前系磁器	染付瓶	2 M10mo16	1	2-014	-	3.8+	4.4	底部100%	内面露胎 墨付釉剥・珪砂 外面染付	釉:淡青灰 露胎: 灰白	密	反転復元
6	図10	肥前系磁器	染付碗	2 M10mo16	1	2-017	(10.3)	4.8	(4.0)	20%	総釉 墨付釉剥 内外面染付	外:淡青灰 内: 白	密	反転復元
7	図15 図版53	肥前系磁器	染付碗	1 M10g15	2	1-011	10.0~ 10.3	6.1	4.0	90%	総釉 墨付釉剥 内外面染付	釉:淡青灰	密	
8	図15 図版53	肥前系磁器	青磁染付碗	1 M10g15	2	1-011	11.2	6.9	4.0	90%	総釉 外面青磁釉 墨付釉剥 内底部染付	外:緑灰 内:淡 青灰	密	
9	図15 図版53	肥前系磁器	色絵碗	1 M10g15	2	1-011	(10.9)	5.3	4.2	50%	総釉 墨付釉剥 外面色絵 高台内朱園線	白色絵:朱・淡青・ 金彩	密	反転復元
10	図15	肥前系磁器	染付杯	1 M10g15	2	1-011	(6.4)	3.6	2.4	50%	総釉 外底部釉剥 外面染付	淡青灰	密	一部反転復元 中国製?
11	図15 図版53	肥前系磁器	染付皿	1 M10g15	2	1-011	21.2	4.4	7.0	70%	総釉 墨付釉剥・珪砂 内 底部染付	淡青灰	密	
12	図15 図版53	肥前系磁器	染付 御神酒德利	1 M10g15	2	1-011	1.7	12.1	3.6	100%	内面露胎 外面染付 墨付 釉剥・珪砂	淡青灰	密	
13	図15 図版53	肥前系磁器	染付 仏飯器	1 M10g15	2	1-011	(6.7)	6.2	4.0	55%	外底部露胎 外面染付	釉:淡青灰 露胎: 灰白	密	一部反転復元
14	図15 図版53	肥前系磁器	染付 段重	1 M10g15	2	1-011	(14.8)	6.1	(9.4)	20%	口縁端部・墨付露胎 外面 染付	外:淡青灰 内: 白	密	反転復元
15	図15 図版53	肥前系磁器	青磁花瓶	1 M10g15	2	1-011	8.4	15.2	6.0	90%	青磁釉 内面頸部以下露胎 墨付釉剥	明緑灰	密	
16	図15	瀬戸美濃系陶器	小碗	1 M10g16	2	1-011	(8.8)	4.25	4.0	30%	褐釉 高台付近露胎・回転 ヘラケズリ	釉:暗赤褐~黒 露胎:灰白	密	一部反転復元
17	図15	瀬戸美濃系陶器	志野皿	1 M10g16	2	1-011	11.3	2.6	6.5	95%	長石釉 総釉 内底部目痕 3か所	灰白	密	
18	図15 図版53	肥前系陶器	火入れ	1 M10g16	2	1-011 下層	(12.4)	7.2	7.2	55%	灰釉 内面・外面下位露胎 外底部回転ヘラケズリ	釉:灰オリブ・灰 白 露胎:赤褐	密	一部反転復元 被熱する
19	図15 図版53	京・信楽系陶器	土瓶蓋	1 M10g15	2	1-011	4.4	1.8		70%	灰釉 貫入 下面露胎	釉:オリブ灰 露胎:にぶい黄橙	密	
20	図15 図版53	肥前系陶器	御神酒德利	1 M10g15	2	1-011	1.6	8.3	(2.5)	95%	銅緑釉 内面・外底部露胎	釉:オリブ灰 露胎:淡黄	密	
21	図15 図版53	瀬戸美濃系陶器	花生	1 M10g15	2	1-011	-	6.8+	5.0	80%	鉄釉 内面露胎 外底部露 胎・回転系切	釉:赤黒 露胎: 灰白	密	
22	図15	堺・明石系陶器	播鉢	1 M10g15	2	1-011	(25.8)	6.1+	-	10%	内面回転ナデ 外面回転ナ デ・回転ヘラケズリ	灰赤	密 1~5mmの長 石粒等含む	反転復元
23	図15	堺・明石系陶器	播鉢	1 M10g15	2	1-011	(31.4)	6.2+	-	10%以下	口縁部回転ナデ 外面体部 回転ヘラケズリ 播目6本 /2.4cm	赤	密	反転復元
24	図15	堺・明石系陶器	火入れ	1 M10g15	2	1-011	(12.4)	5.3	12.9	50%	回転ナデ 外底部未調整	内:にぶい赤褐 外:灰赤	やや粗 1~2mm の長石粒等多い	一部反転復元
25	図15	土師質土器	皿	1 M10g16	2	1-011	10.0	1.8		80%	内面ヨコナデ・ナデ 外面ヨ コナデ・ユビオサエ・ナデ	灰白	密	
26	図15	土師質土器	灯明受皿	1 M10g15	2	1-011	(6.0)	1.05	3.0	45%	内面・外面口縁部付近透明 釉 外底部回転系切	釉:黄橙 露胎: 浅黄橙	密	一部反転復元
27	図15	土製品	遊玩具 泥面子	1 M10g15	2	1-011	3.05	3.0	0.9	95%	面打 円盤状 文様型押し 三巴	橙	密	
28	図16	肥前系磁器	染付 小碗	1 M10g15	2	1-012	(8.0)	3.8	3.1	30%	総釉 墨付釉剥 外面染付	白	密	一部反転復元
29	図16 図版53	肥前系磁器	染付 筒形碗	1 M10g15	2	1-012 下層	7.4	5.2	3.5	70%	総釉 墨付釉剥・珪砂 内 外面染付	淡青灰	密	印判五弁花文
30	図16 図版53	肥前系磁器	染付 皿	1 M10g15	2	1-012 下層	12.4	2.6	5.9	95%	総釉 墨付釉剥 内面染付		密	
31	図16	肥前系磁器	染付 段蓋	1 M10g15	2	1-012 下層	(8.9)	2.7		40%	総釉 口縁端部釉剥・珪砂 付着 内面染付	外:淡青灰 内: 白	密	反転復元
32	図16	肥前系磁器	猪口	1 M10g15	2	1-012	(4.8)	3.2	3.0	50%	総釉 貫入 墨付釉剥	灰白	密	一部反転復元
33	図16	肥前系磁器	染付 仏飯器	1 M10g15	2	1-012	-	5.8+	4.2	60%	底部墨付露胎 外面体部染 付	白	密	一部反転復元
34	図16 図版53	京・信楽系陶器	灯明受皿	1 M10g15	2	1-012 下層	10.6	2.2	4.2	90%	灰釉 貫入 外面露胎・回 転ナデ	釉:灰黄 露胎:浅黄	密	
35	図16 図版53	瀬戸美濃系陶器	徳利	1 M10g15	2	1-012	3.8	19.2	7.2	80%	灰釉 内面・外面底部付近 露胎	釉:オリブ灰 露胎:淡黄	密	外底部・体部 最下半墨書
36	図16 図版53	在地系陶器	行平鍋 蓋	1 M10g15	2	1-012	17.5	4.1	摘み径 4.3	90%	外面トピカンナを挟み上下に 褐釉 イッチン文様 銅緑 釉を散らす 内面灰釉	外面釉:暗赤褐 内面釉:明オリ ブ灰 露胎:にぶ い黄橙	密	
37	図16	在地系陶器	行平鍋 蓋	1 M10g15	2	1-012	(25.4)	2.4+		55%	口縁部外面露胎 外面トピ カンナを挟み銅釉 イッチン 文様 内面灰釉	内面:にぶい黄 銅釉:灰褐 露 胎:灰白	密	反転復元
38	図16	在地系陶器	土瓶蓋	1 M10g15	2	1-012 下層	(8.6)	4.2	摘み径 2.8	45%	上面灰釉 イッチン文様 下面露胎	釉:黄褐 露胎: にぶい黄橙	密	一部反転復元
39	図16 図版53	京・信楽系陶器	土瓶	1 M10g15	2	1-012	7.2	8.2	5.8	80%	灰釉 内面露胎 外面底部 体部下半露胎・回転ヘラケ ズリ	釉:灰黄 露胎: 浅黄	密	注口欠落
40	図16 図版53	大谷焼	甕	1 M10g15	2	1-012	(20.3)	23.3	14.0	70%	褐釉 外底部露胎	釉:暗赤灰 露胎: 赤	密 2~3mmの長 石粒含む	一部反転復元

報告書番号	図・図版番号	産地種類	器種	調査区地区	遺構面	遺構層位等	法量			残存率	調整・技法	色調	胎土	備考
							口径cm	高さcm	底径cm					
41	図16	大谷焼	播鉢	1 M10g15	2	1月12日	(15.6)	5.6+	-	40%	内面口縁部から外面にかけて褐釉 播目9本/1.6cm	釉:黒褐 露胎:灰褐	密	反転復元
42	図16	堺・明石系陶器	播鉢	1 M10g15	2	1-012	(26.1)	9.5+	-	口縁部15%	内面回転ナデ 外面回転ナデ・回転ヘラクスリ 播目8本/2.4cm	極暗赤褐	密 1mm前後の長石粒等少量含む	反転復元
43	図16	堺・明石系陶器	植木鉢	1 M10g15	2	1-012	-	8.3+	10.6	40%	三足 外底部に墨書	橙	密 1mm前後のチャート少量含む	
44	図16	土師質土器	灯明油皿	1 M10g15	2	1-012	6.2	1.1	2.4	90%	外面口縁部から内面透明釉 外底部回転糸切	釉:明赤褐 露胎:橙	密 2mm台の砂粒含む	口縁部スス付着 灯明皿
45	図16 図版53	土製品	遊玩具泥面子	1 M10g15	2	1-012	3.1	3.1	1.1	99%	面打 円盤状 文様型押し 変り炎玉(宝珠?)	浅黄橙	密	
46	図16 図版53	土製品	遊玩具泥面子	1 M10g15	2	1-012	3.0	2.9	0.8	95%	面打 円盤状 文様型押し 葡萄の葉?	にぶい橙	密	
47	図16 図版53	瓦質	鉢型	1 M10g15	2	1-012 下層	長さ14.5	幅7.5	厚さ2.8	90%	投網の鏝か? 表裏に鉢型面あり	灰白	密	
48	図16	肥前系磁器	色絵小碗	1 M10i13	2	1-014	(8.4)	4.4	(1.9)	45%	全釉 高台壘付釉剥ぎ 外面色絵	白	密	反転復元
49	図16	肥前系磁器	染付碗?	1 M10i13	2	1-014	-	6.2+	6.8	底部100%	総釉 基筋底 壘付釉剥・珪砂 外面染付	外:淡青灰 内:白	密	焼継の痕跡あり一部反転復元
50	図16	肥前系陶器	唐津碗	1 M10i13	2	1-014	-	5.3+	4.3	45%	総釉 灰釉 壘付釉剥・珪砂 内外面白土刷毛目	釉:にぶい黄橙 白土:灰白	密	反転復元
51	図17 図版54	肥前系磁器	染付碗蓋	1 M10k13	2	1-015	9.4	2.4	摘み径3.8	70%	総釉 貫入 摘み端部釉剥ぎ 内外面染付	淡青灰	密	反転復元
52	図17 図版54	肥前系磁器	染付碗蓋	1 M10k13	2	1-015	10.0	2.9	5.5	85%	総釉 摘み端部釉剥 内外面染付	灰白	密	115碗とセット
53	図17 図版54	肥前系磁器	染付碗蓋	1 M10k13	2	1-015	9.8	2.7	摘み径3.8	80%	総釉 摘み端部釉剥 内外面染付	淡青灰	密	
54	図17 図版54	肥前系磁器	染付碗蓋	1 M10k13	2	1-015	(8.2)	2.2	摘み径(3.0)	45%	総釉 内外面染付	白	密	反転復元
55	図17 図版54	肥前系磁器	染付碗	1 M10k13	2	1-015	(10.4)	5.95	4.2	45%	総釉 壘付釉剥 内底部目痕3か所 内外面染付	淡青灰	密	一部反転復元
56	図17	肥前系磁器	染付碗	1 M10k13	2	1-015 上層	(11.2)	6.0	4.6	35%	総釉 壘付釉剥 見込み染付(花文) 内外面染付	淡青灰	密	一部反転復元
57	図17 図版54	肥前系磁器	染付碗	1 M10k13	2	1-015	9.6	5.1	3.9	50%	総釉 壘付釉剥 内外面染付	淡青灰	密	反転復元
58	図17 図版54	肥前系磁器	染付碗	1 M10k13	2	1-015	(11.0)	6.0	(4.8)	30%	総釉 壘付釉剥 内外面染付	淡青灰	密	反転復元
59	図17 図版54	肥前系磁器	染付碗	1 M10k13	2	1-015	(11.1)	6.6	5.0	60%	総釉 壘付釉剥 内外面染付 外面東坡の漢詩 内底部「永楽歳製」	淡青灰	密	反転復元 焼継痕
60	図17 図版54	肥前系磁器	染付碗	1 M10k13	2	1-015	11.0~11.4	6.35	6.2	70%	総釉 壘付釉剥 外面染付 草花文 内外面染付	淡青灰	密	
61	図17 図版54	肥前系磁器	染付碗	1 M10k13	2	1-015	10.0	5.4	4.0	90%	総釉 貫入 壘付釉剥 内外面染付	白	密	
62	図17 図版54	肥前系磁器	染付湯呑碗	1 M10k13	2	1-015	(8.4)	5.5	(3.2)	40%	総釉 壘付釉剥 内外面染付	白	密	反転復元
63	図17 図版54	肥前系磁器	染付皿	1 M10k13	2	1-015	13.4	3.2	7.5	85%	蛇の目凹形高台 内外面染付	淡青灰	密	
64	図17 図版54	肥前系磁器	染付皿	1 M10k13	2	1-015	10.1	2.0	6.3	85%	総釉 壘付釉剥 内面染付	白	密	
65	図17 図版54	肥前系磁器	染付端反皿	1 M10k13	2	1-015	(15.0)	3.7	7.9	60%	総釉 壘付釉剥・珪砂 内外面染付	淡青灰	密	
66	図17 図版54	肥前系磁器	染付皿	1 M10k13	2	1-015	16.2	3.5	8.8	70%	総釉 貫入 壘付釉剥 内面染付 高台内「富貴長春」	白	密	
67	図17 図版54	肥前系磁器	葉形皿	1 M10k13	2	1-015 下層	7.3~10.8	2.5	3.3~7.2	99%	総釉 壘付釉剥・珪砂	灰白	密	
68	図18 図版54	肥前系磁器	染付八角鉢	1 M10k13	2	1-015	15.3	7.95	7.5	70%	蛇の目凹形高台 高台内トチンの痕 内外面染付	淡青灰	密	
69	図18 図版54	肥前系磁器	染付鉢	1 M10k13	2	1-015	17.9	6.5	9.8	75%	蛇の目凹形高台 外面青磁釉 内面染付	外:明緑灰 内:淡青灰 露胎:白	密	
70	図18 図版54	肥前系磁器	染付大鉢	1 M10k13	2	1-015	21.8	10.2	8.3	98%	総釉 壘付釉剥 内外面染付	淡青灰	密	
71	図18 図版54	肥前系磁器	染付段重蓋	1 M10k13	2	1-015	7.2	2.4		95%	口縁部かえり露胎 外面染付	外:淡青灰 内:白	密	
72	図18 図版54	肥前系磁器	青磁段重蓋	1 M10k13	2	1-015	(8.8)	3.5		60%	総釉 外面青磁釉 口縁部かえり露胎・珪砂	外:明緑灰 内:灰白	密	口縁部内面墨書(・中)
73	図18 図版55	肥前系磁器	染付段重蓋	1 M10k13	2	1-015 下層	8.8	3.1		60%	全釉 口縁部かえり釉剥 外面染付	淡青灰	密	一部反転復元
74	図18 図版55	肥前系磁器	染付段重蓋	1 M10k13	2	1-015 上層	14.2	4.4	最大径15.2	80%	総釉 口縁部かえり釉剥・珪砂 外面染付	外:淡青灰 内:灰白	密	一部反転復元
75	図18 図版55	肥前系磁器	染付段重	1 M10k13	2	1-015 上層	(17.4)	6.6	12.4	55%	総釉 口縁部・底体部境 釉剥ぎ 外面染付	淡青灰	密	一部反転復元
76	図18 図版55	肥前系磁器	蕎麦猪口	1 M10k13	2	1-015 上層	(7.6)	5.9	5.6	70%	総釉 壘付釉剥 内外面染付	淡青灰	密	一部反転復元
77	図18 図版55	肥前系磁器	染付杯	1 M10k13	2	1-015 下層	(6.2)	5.5	3.4	40%	総釉 壘付釉剥 外面染付	灰白	密	反転復元
78	図18	肥前系磁器	染付杯	1 M10k13	2	1-015 下層	5.9	3.1	2.0	55%	総釉 壘付釉剥 外面染付	白	密	
79	図18 図版55	肥前系磁器	紅皿	1 M10k13	2	1-015 下層	4.4~4.6	1.5	1.5	100%	内面・外面上半施釉 型押し成型	白	密	
80	図18 図版55	肥前系磁器	染付仏飯器	1 M10k13	2	1-015 下層	(7.8)	5.7	4.4	60%	底部付近のみ露胎 外面口縁部染付	淡灰黄	密	一部反転復元
81	図18 図版55	肥前系磁器	染付仏飯器	1 M10k13	2	1-015 上層	(5.75)	5.55	3.5	75%	総釉 壘付釉剥 外面体部染付	白	密	一部反転復元
82	図18 図版55	瀬戸美濃系陶器	端反碗	1 M10k13	2	1-015	(9.0)	4.5	3.0	55%	高台付近露胎 黄釉 口縁部はの上に銅緑釉	釉:淡黄・暗緑灰 露胎:淡黄	密	一部反転復元
83	図18 図版55	京・信楽系陶器	端反碗	1 M10k13	2	1-015 上層	9.0	4.6	2.9	70%	灰釉 貫入 口縁部圏縁 外底部露胎	釉:灰白 露胎:灰白	密	

報告書番号	図・図版番号	産地種類	器種	調査区地区	遺構面	遺構層位等	質量			残存率	調整・技法	色調	胎土	備考
							口径cm	高さcm	底径cm					
84	図18 図版55	瀬戸美濃系陶器	輪花皿	1 M10k13	2	1-015	11.8	3.0	6.0	90%	灰釉 全釉 貫入 壘付釉	灰黄〜黄灰	密	
85	図18 図版55	瀬戸美濃系陶器	馬の目皿	1 M10k13	2	1-015	25.2	5.6	13.2	50%	灰釉 外底部付近露胎 内面鉄絵で渦巻き文様	釉:灰 鉄絵:暗褐 露胎:灰白	1mm前後の砂粒少量含む	一部反転復元
86	図18	肥前系陶器	鉢	1 M10k13	2	1-015	15.6	6.6	6.8	50%	褐釉 外底部露胎 口縁不整形	釉:黒褐 露胎:にぶい黄褐	密	反転復元
87	図18 図版55	瀬戸美濃系陶器	両手鍋	1 M10k13	2	1-015	(15.0)	7.5	5.8	50%	褐釉 外面底部露胎・ヘラケズリ・粘土塊3か所貼付	釉:褐 露胎:にぶい黄橙	密	底部比熱痕反転復元
88	図18 図版55	京・信楽系陶器	行平鍋蓋	1 M10k13	2	1-015	26.8	4.1	摘み径4.4	70%	灰釉 総釉 口縁端部釉剥	オリーブ	密	
89	図18	在地系陶器	行平鍋	1 M10k13	2	1-015	(20.8)	12.9+	-	70%	被熱で釉が融ける 把手裏「化物堂」	にぶい黄橙	密	反転復元 太田焼
90	図19	京・信楽系陶器	土瓶	1 M10k13	2	1-015	8.8	13.4+	-	60%	外面体部から内面口縁部褐釉 外底部露胎 口縁端部釉剥 内面底付近薄い釉	釉:にぶい赤褐 露胎:黄橙	密	底部スス付着
91	図19 図版55	大谷焼	徳利	1 M10k13	2	1-015	-	19.3+	8.0	90%	褐釉 外底部・内面底体部露胎 体部焼成前陰刻「湊中治」	釉:極暗褐 露胎:にぶい赤褐	密	
92	図19 図版55	丹波焼	徳利	1 M10k13	2	1-015	4.2	(25.0)	8.0	40%	褐釉 外面から内面口縁部施釉 外底部砂目	釉:黒褐 露胎:にぶい黄褐	密	口縁部以外反転復元
93	図19 図版55	堺・明石系陶器	播鉢	1 M10k13	2	1-015	31.1	12.1	14.6	90%	内面回転ナデ 外面回転ナデ・ヘラケズリ・ナデ 播目10本/2.8cm	赤褐	1mm前後の長石粒等多い	
94	図19	土師質土器	小皿	1 M10k13	2	1-015 下層	(7.8〜9.0)	2.1		60%	内面ヨコナデ・ナデ 外面ヨコナデ・ユビオサエ	橙	密 1mmまでの赤色砂粒少量含む	口縁部スス付着 灯明皿
95	図19	土師質土器	灯明油皿	1 M10k13	2	1-015	7.0	1.3	3.2	98%	内面から外面口縁部透明釉 外底部回転系切	釉:橙 露胎:明赤褐	密	スス付着 外面剥離著しい
96	図19	土師質土器	灯明油皿	1 M10k13	2	1-015	7.4	1.1	3.9	99%	内面透明釉 外面露胎 外底部回転系切	釉:橙 露胎:赤褐	密	内面剥離著しい 口縁部スス付着
97	図19 図版55	土師質土器	灯明受皿	1 M10k13	2	1-015 上層	9.0	1.8	4.3	95%	内面透明釉 外面露胎 外底部回転系切	釉:橙 露胎:橙	密	
98	図19	土師質土器	灯明受皿	1 M10k13	2	1-015 下層	6.7	1.2	3.5	98%	内面透明釉 外面露胎 外底部回転系切	釉:明赤褐 露胎:橙	密	
99	図19	土師質土器	灯明受皿	1 M10k13	2	1-015 上層	6.7	1.2	3.0	100%	内面・外面口縁部施釉 外底部回転系切	釉:橙 露胎:橙	密	
100	図19	土師質土器	灯明受皿	1 M10k13	2	1-015	6.6	1.1	3.2	90%	内面から外面口縁部透明釉 外底部回転系切	釉:黄橙 露胎:橙	密	
101	図19	土師質土器	焼塩蓋	1 M10k13	2	1-015 上層	7.6	8.0	1.7	60%	外面回転ナデ 内面布目圧痕	橙	1mmまでの長石・金雲母粒多く含む	
102	図19	土師質土器	焙烙	1 M10k13	2	1-015	(32.0)	5.0+	(32.6)	40%	内面・外面口縁・体部回転ナデ 外底部ヘラナデ?	にぶい橙	長石・赤色砂粒・雲母粒含む	反転復元
103	図19 図版55	土師質土器	風炉	1 M10k13	2	1-015 下層	25.2	25.5	25.5	80%	台部円孔 挟り	橙	密	
104	図19 図版55	土師質土器	風炉	1 M10k13	2	1-015	-	21.2+	27.8	30%	台部透かし穴 外面赤色塗料塗布	露胎:橙 塗料:赤	密	
105	図19 図版55	土製品	遊玩具泥面子	1 M10k13	2	1-015	3.1	3.1	1.0	100%	面打 円盤状 文様型押し 違い轆轤? (十字)	橙		
106	図19 図版55	土製品	遊玩具泥面子	1 M10g15	2	1-015	3.1	2.9+	0.9	80%	面打 円盤状 文様型押し 波銭 (十一波)	にぶい橙		
107	図20 図版56	肥前系磁器	染付碗蓋	1 M10i15	2	1-016	10.0	2.2	摘み径4.1	70%	全釉 貫入 壘付釉剥 内外面染付	淡青灰	密	
108	図20	肥前系磁器	染付うがい茶碗	1 M10i15	2	1-016	(15.5)	6.35	(5.6)	30%	総釉 壘付釉剥 内面染付	白	密	反転復元
109	図20	瀬戸美濃系陶器	壺	1 M10i15	2	1-016	(10.9)	7.2+	-	口頸部15%	外面から口縁部内面まで褐釉 耳あり	釉:黒褐 露胎:灰白	密	反転復元
110	図20 図版56	肥前系陶器	唐津甕	1 M10i15	2	1-016	(28.6)	12.2+	-	口縁部13%	灰釉 白土で刷毛 銅緑釉・褐釉掛け	黒褐(地) 灰白(刷毛) 極暗赤褐・緑	密	反転復元
111	図20	土製品	遊玩具泥面子	1 M10i15	2	1-016	5.0	4.2	2.0	90%	芥子面 人面型押し	にぶい橙		
112	図20 図版56	肥前系磁器	染付碗蓋	1 M10f16	2	1-017	(10.0)	2.9	摘み径4.0	50%	総釉 摘み端部釉剥 内外面染付	淡青灰	密	一部反転復元
113	図20 図版56	肥前系磁器	染付碗	1 M10f15	2	1-017 上層	(11.4)	5.7	4.5	55%	総釉 壘付釉剥 内外面染付	淡青灰	密	一部反転復元
114	図20 図版56	瀬戸美濃系陶器	染付端碗	1 M10f15	2	1-017	9.0	5.0	3.6	98%	総釉 壘付釉剥 内外面染付	淡青灰	密	
115	図20 図版56	肥前系磁器	染付広東碗	1 M10f16	2	1-017	(11.3)	6.1	(7.0)	20%	総釉 壘付釉剥 内外面染付	淡青灰	密	反転復元
116	図20 図版56	肥前系磁器	染付皿	1 M10f15	2	1-017 上層	12.3	3.2	8.4	60%	蛇の目凹形高台 内外面染付	釉:淡青灰 露胎:白	密	南紀山焼?
117	図20	肥前系磁器	染付小碗	1 M10f15	2	1-017 上層	(7.6)	4.0	(3.2)	40%	総釉 壘付釉剥 外面染付	明オリーブ灰	密	反転復元
118	図20 図版56	肥前系磁器	染付輪花皿	1 M10f15	2	1-017	14.7〜15.2	4.6	8.9	70%	蛇の目凹形高台 内面染付 口鏝	釉:露胎:白	密	
119	図20	京・信楽系陶器	端碗	1 M10f15	2	1-017 上層	(9.5)	5.05	3.0	25%	灰釉 貫入 高台付近露胎	釉:オリーブ灰 露胎:灰白	密	反転復元
120	図20 図版56	京・信楽系陶器	土瓶	1 M10f15	2	1-017	10.4	12.1	9.4	90%	灰釉 口縁端部・外面体部下層・内面露胎	釉:灰白 露胎:にぶい橙	密	底部付近スス付着
121	図20	京・信楽系陶器	急須蓋	1 M10f15	2	1-017	4.2	3.4+		90%	口縁部から内面露胎	釉:オリーブ灰 露胎:にぶい黄橙	密	
122	図20	瀬戸美濃系陶器	餌猪口	1 M10f15	2	1-017 中層	(3.6)	3.2	3.0	50%	灰釉 貫入 外底部露胎・回転系切	釉:露胎:灰	密	一部反転復元
123	図20 図版56	軟質施釉陶器	人形徳利	1 M10f15	2	1-017	-	4.8+	2.7	75%	型合わせ成型 体部の三方にくぼみ 一つに布袋のレリーフ	釉:緑 露胎:灰白	密	
124	図20	堺・明石系陶器	播鉢	1 M10f15	2	1-017	(39.8)	9.2+	-	10%	口縁部回転ナデ 外面体部回転ヘラケズリ 播目8本/2.9cm	赤〜にぶい赤褐	密 1〜2mmの長石粒等含む	反転復元



報告書番号	図・図版番号	産地種類	器種	調査区地区	遺構面	遺構層位等	法量			残存率	調整・技法	色調	胎土	備考
							口径cm	高さcm	底径cm					
125	図20	土師質土器	灯明受皿	1 M10f15	2	1-017上層	6.9	1.3	3.6	97%	内面から外面口縁部透明釉外底部回転糸切	釉:明赤褐 露胎:橙	密 1mmまでの長石粒少量含む	
126	図20	土師質土器	炉	1 M10f15	2	1-017	-	9.7+	18.6	底部100%	内面回転ナデ 外面ミガキ外底部に「ふか草」「新州」の刻印	橙	密	
127	図21	堺・明石系陶器	播鉢	1 M10j13	2	1-018	-	7.4+	-	50%	口縁部回転ナデ 外面体部回転ヘラケズリ 播目10本/3.0cm	にぶい赤褐	密 1mmまでの長石粒等少量含む	2次焼成受ける
128	図21	土師質土器	小皿	1 M10j13	2	1-027	7.2	1.6	-	100%	口縁部ヨコナデ 内面ナデ外底部未調整	橙	1~2mmの長石粒・赤色砂粒含む	歪が著しい
129	図21	肥前系磁器	碗	1 M10g16	2	1-028	11.4~12.1	5.8	4.4	70%	総釉 畳付釉剥・珪砂	白	密	歪あり
130	図21 図版56	肥前系磁器	染付碗	1 M10g16	2	1-028南穴	(10.8)	6.8	4.5	55%	総釉 貫入 畳付釉剥・珪砂 外面染付	灰白	密	一部反転復元
131	図21	肥前系磁器	染付鉢	1 M10g16	2	1-028南穴	(15.4)	9.9	(6.5)	20%	総釉 畳付釉剥 外面染付	淡緑灰	密	反転復元
132	図21 図版56	肥前系磁器	杯	1 M10g15	2	1-028北穴	7.8	5.0	2.8	80%	総釉 畳付釉剥	白	密	一部反転復元
133	図21 図版56	肥前系磁器	染付杯	1 M10g16	2	1-028南穴	6.0	3.85	2.4	100%	総釉 畳付釉剥 外面染付	灰白	密	
134	図21	肥前系磁器	染付碗	1 M10g16	2	1-028南穴	4.2	2.7	2.3	80%	総釉 畳付釉剥 外面染付	白	密	ままごと道具
135	図21 図版56	肥前系磁器	仏飯器	1 M10g15	2	1-028北穴	7.4	5.7	4.9	90%	裾部露胎 貫入	灰白	密	歪あり
136	図21 図版56	肥前系陶器	呉器手碗	1 M10g16	2	1-028	12.2	7.6	5.0	85%	総釉 畳付釉剥	灰白	密	
137	図21 図版56	肥前系陶器	唐津火入れ	1 M10g16	2	1-028	(15.4)	7.1	6.8	35%	内面・外面底部付近露胎割高台 灰釉に白土で刷毛・その上に銅緑釉 見込み目目痕4か所以上	灰釉:暗オリーブ 灰 白土:白 銅緑釉:緑灰 露胎:にぶい赤褐	ざっくりしている	反転復元
138	図21 図版56	瀬戸美濃系陶器	火入れ	1 M10g15	2	1-028北穴	(13.0)	(6.2)	9.4	50%	褐釉 内面・外底部付近露胎 口縁部細かく欠け	釉:灰赤 露胎:にぶい黄橙	ざっくりしている	一部反転復元 煙草盆
139	図21 図版56	肥前系陶器	唐津火入れ	1 M10g15	2	1-028北穴	(12.8)	6.9	(7.6)	50%	褐釉 内面・外面下半露胎 外面刷毛目波状文 口縁部内端細かく欠け	釉:黒褐 露胎:明赤褐	密	反転復元 煙草盆
140	図21	備前焼	播鉢	1 M10g15	2	1-028北穴	(29.4)	9.6+	-	10%	内外面回転ナデ 重ね焼きの痕跡 播目10本/2.5cm	暗赤褐	密	反転復元
141	図21	土師質土器	皿	1 M10g16	2	1-028南穴	11.7	2.3	8.9	75%	外面体部から内面回転ナデ外底部回転糸切	内:明黄褐 外:にぶい黄褐	密 1mm前後の砂粒少量含む	
142	図21	土師質土器	皿	1 M10g15	2	1-028北穴	11.2	1.7	7.2	50%	口縁・体部ヨコナデ 部外底部回転糸切・ハケ状ナデ	灰白	密 1mm前後の砂粒少量含む	口縁部スス付着 灯明皿
143	図21	土師質土器	皿	1 M10g16	2	1-028南穴	10.6	1.7	6.9	90%	口縁部・体部ヨコナデ 内底部ナデ 外底部回転糸切・板状圧痕	灰白	密 1mm前後の砂粒含む	口縁部スス付着 灯明皿
144	図21	土師質土器	皿	1 M10g16	2	1-028南穴	(8.1)	1.5	-	50%	内面ヨコナデ・ナデ 外面ヨコナデ・ユビオサエ+ナデ	灰白	密	
145	図21	土師質土器	皿	1 M10g15	2	1-028北穴	11.6	2.0	-	90%	内面ヨコナデ・ナデ 外面ユビオサエ+ナデ	浅黄橙	密	口縁部スス付着 灯明皿
146	図21	土師質土器	焙烙	1 M10g16	2	1-028南穴	(22.4)	7.9+	-	15%	内面ヨコナデ・ナデ 外面ヨコナデ・平行タタキ	灰黄褐・にぶい褐	1mmまでの長石粒等多い	反転復元
147	図21	肥前系磁器	朝顔形碗	1 M10f14	2	1-030	(10.3)	7.2	(4.0)	30%	全釉 畳付釉剥	外:淡青灰 内:白	密	反転復元
148	図21	堺・明石系陶器	播鉢	1 M10f14	2	1-030	(34.4)	6.4+	-	10%以下	口縁部回転ナデ 外面体部ヘラケズリ 播目11本/4.0cm	暗赤褐	密 φ~3mmの長石粒等含む	反転復元
149	図21 図版56	肥前系磁器	染付広東碗	1 M10f17	2	1-031	(10.9)	6.6	5.9	40%	総釉 畳付釉剥・珪砂 内外面染付	淡青灰	密	一部反転復元
150	図21 図版56	瀬戸美濃系磁器	染付端反小碗	1 M10f17	2	1-031	7.1	4.1	2.8	75%	総釉 畳付釉剥 外面染付	内:灰白 外:鉄紺	密	
151	図21 図版56	肥前系磁器	染付筆立	1 M10f16	2	1-031	-	11.6+	(3.9)	60%	竹筒の意匠 内面露胎 畳付釉剥 外面染付	釉:灰白 露胎:白	密	一部反転復元
152	図21	堺・明石系陶器	播鉢	1 M10f16	2	1-031	(22.0)	8.8+	-	25%	口縁部回転ナデ 外面体部回転ヘラケズリ 播目9本/2cm	暗赤褐	密 1~2mmの長石・チャート等含む	反転復元
153	図21	肥前系磁器	染付小碗	2 M10i13	2	2-028	-	2.6+	3.0	30%	高台付近露胎 外面染付	釉:淡青灰 露胎:灰白	密	
154	図21	肥前系磁器	染付瓶	2 M10i13	2	2-028	5.6	4.6+	-	口縁部100%	外面染付	淡青灰	密	
155	図22 図版57	瀬戸美濃系磁器	染付碗蓋	2 M10m13	2	2-031	8.6	2.7	摘み径3.4	80%	総釉 摘み端部釉剥 内外面染付 摘み内銘	淡青灰	密	
156	図22 図版57	肥前系磁器	染付碗蓋	2 M10m13	2	2-031	9.1	2.5	5.1	85%	総釉 摘み端部釉剥 内外面染付	灰白	密	
157	図22 図版57	肥前系磁器	染付碗	2 M10m13	2	2-031アゼ	12.8	6.3	4.8	65%	総釉 畳付釉剥 内外面染付	釉:淡青灰	密	歪著しい 磁器片3か所に付着
158	図22 図版57	瀬戸美濃系? 磁器	染付碗	2 M10n13	2	2-031	11.4	5.0	4.6	90%	総釉 畳付釉剥 内外面染付	白	密	南紀男山焼?
159	図22 図版57	肥前系磁器	染付広東碗	2 M10m13	2	2-031	11.0	6.0	5.9	75%	総釉 畳付釉剥 内外面染付	淡青灰	密	
160	図22 図版57	肥前系磁器	染付碗	2 M10m13	2	2-031	11.3	5.1	4.8	80%	総釉 畳付釉剥 内外面染付 内底部目痕3か所	淡青灰	密	
161	図22 図版57	肥前系磁器	染付碗	2 M10n13	2	2-031	11.2	6.3	4.2	80%	総釉 貫入 畳付釉剥 内外面染付 内底部寿文	淡黄灰	密	
162	図22 図版57	肥前系磁器	染付小碗	2 M10n13	2	2-031北西部	7.3	3.4	2.7	100%	総釉 畳付釉剥 外面染付	灰白	密	
163	図22 図版57	肥前系磁器	染付皿	2 M10m13	2	2-031	(12.8)	3.2	(6.2)	50%	総釉 畳付に珪砂 内底部蛇の目釉刺 内面染付	青灰	密	反転復元
164	図22 図版57	肥前系磁器	染付鉢	2 M10m13	2	2-031	19.3	7.1	7.5	75%	内面菊花文型押成型 総釉 畳付釉剥 内外面染付	淡青灰	密	
165	図22 図版57	肥前系磁器	紅皿	2 M10m13	2	2-031	4.65	1.6	1.4	100%	型合わせ成型 外面口縁付近より下露胎	灰白	密	

報告書番号	図・図版番号	産地種類	器種	調査区地区	遺構面	遺構層位等	法量			残存率	調整・技法	色調	胎土	備考
							口径cm	高さcm	底径cm					
166	図22 図版57	肥前系 磁器	染付 仏飯器	2 M10m13	2	2-031	6.8	6.0	3.6	98%	外底部付近露胎 体部外面染付	釉:淡青灰 露胎:灰白	密	
167	図22 図版57	肥前系 磁器	染付 蓋物蓋	2 M10m13	2	2-031	(20.0)	3.6	摘み径8.0	50%	総釉 摘み端部釉剥 外面染 摘み内銘「富貴長春」	白	密	焼継痕あり 一部反転復元
168	図22 図版57	瀬戸美濃系 陶器	端反碗	2 M10m13	2	2-031	9.1	4.8~ 4.95	2.9	80%	総釉 灰釉 口縁部緑釉 墨付釉刺	釉:明オリーブ 灰・青灰	密	
169	図22 図版57	京・信楽系 陶器	端反碗	2 M10m13	2	2-031	(9.2)	5.0	3.2	50%	灰釉 高台付近露胎 口縁部付近鋼緑釉	釉:灰黄・緑 露胎:淡黄	密	反転復元
170	図22 図版57	京・信楽系 陶器	端反碗	2 M10m13	2	2-031	9.2	4.8	3.2	55%	灰釉 高台付近露胎 外面体部若杉文	釉:灰白 露胎:灰白	密	
171	図22 図版57	京・信楽系 陶器	端反碗	2 M10m13	2	2-031	9.0	4.6~ 4.8	3.0	85%	灰釉 貫入 底部露胎	釉:灰オリーブ 露胎:灰白	密	
172	図22 図版57	京・信楽系 陶器	蓋	2 M10m13	2	2-031	9.7	2.3	摘み径3.1	100%	灰釉 総釉 口縁端部釉刺	灰オリーブ	密	
173	図22 図版57	京・信楽系 陶器	蓋物	2 M10m13	2	2-031	7.2	3.8	4.7	100%	灰釉 貫入 外底部・口縁端部露胎	灰白	密	
174	図22	京・信楽系 陶器	土瓶	2 M10m13	2	2-031	(6.2)	9.3+	(6.0)	60%	褐釉 外底部・内面露胎 底部突起3か所	釉:赤褐 露胎:明赤褐	密	一部合成反転復元
175	図23 図版57	大谷焼	徳利	2 M10m13	2	2-031	2.0	12.8	(5.2)	60%	褐釉 内面底体部・外底部露胎	釉:暗赤褐 露胎:赤褐	密	一部反転復元
176	図23 図版57	大谷焼	徳利	2 M10m13	2	2-031	2.1	17.0	6.4	80%	褐釉 内面底体部・外底部露胎	釉:黒褐 露胎:にぶい赤褐	密	
177	図23 図版57	瀬戸美濃系 陶器	徳利	2 M10m13	2	2-031	-	18.9+	6.8	80%	灰釉 内面底体部露胎 外底部露胎・回転ヘラケズリ 外底部中央回転糸切	釉:オリーブ 灰 露胎:にぶい橙~灰白	密	
178	図23 図版58	瀬戸美濃系 陶器	壺	2 M10m13	2	2-031	-	15.5	9.0	75%	灰釉 口縁部・底部露胎 双耳壺	釉:灰オリーブ 露胎:灰黄	ざっくりしている	内面2mm厚の 付着物あり
179	図23 図版58	瀬戸美濃系 陶器	火鉢	2 M10m13	2	2-031	-	15.0+	18.3	60%	灰釉に緑釉掛け 外底部褐釉刷毛塗 内面底部付近露胎 三足 底部に小孔3か所 側面に孔2か所	釉:淡黄・暗黄 露胎:暗赤褐 露胎:灰白	ざっくりしている	
180	図23 図版58	肥前系 陶器	甕	2 M10m13	2	2-031	33.9	49.5	17.3	95%	口縁部肥厚 肩部下沈線6条 体部下に銭貨付着	暗赤褐~極暗赤褐		
181	図23	堺・明石系 陶器	播鉢	2 M10m13	2	2-031	(31.4)	11.1	(14.4)	35%	外面口縁部から内面回転ナデ 外面体部回転ヘラケズリ	赤~極暗赤褐	2~5mmの長石粒等含む	反転復元
182	図23	土師質 土器	灯明油皿	2 M10m13	2	2-031	8.6	1.2		90%	内面透明釉 外底部回転糸切	釉:橙 露胎:にぶい橙	密	口縁部ス 器壁の剥離著 しい
183	図23	土師質 土器	灯明受皿	2 M10m13	2	2-031	8.4	1.35	3.6	75%	外面口縁部から内面透明釉 外底部回転糸切	釉:明赤褐 露胎:橙	密	口縁部ス付 着
184	図23	土師質 土器	焙烙	2 M10m13	2	2-031	(30.0)	5.5+	(31.0)	25%	外底部以外回転ナデ 把手部肥厚・貫通しない小孔2か所	橙	1mm前後の長石・ 赤色砂粒等右含 む	反転復元
185	図23	土製品	遊玩具 土人形	2 M10m13	2	2-031	2.25	2.20	1.1	100%	鳥(鶏?) 型合わせ成形 中実	明赤褐	密	
186	図23 図版58	肥前系 磁器	染付 碗蓋	2 M10112	2	2-032	9.8	3.0	摘み径5.0	95%	総釉 貫入 摘み端部釉刺 内外面染付龍	淡青灰	密	
187	図23 図版58	肥前系 磁器	染付 広東碗	2 M10112	2	2-032	(11.0)	6.2	(6.2)	35%	総釉 墨付釉刺 内外面染付	淡青灰	密	反転復元
188	図23 図版58	肥前系 磁器	染付 端反碗	2 M10112	2	2-032	10.7	6.1	4.4	70%	総釉 墨付釉刺 内外面染付	淡青灰	密	
189	図23 図版58	肥前系 磁器	染付 杯	2 M10112	2	2-032	7.6	3.7	2.6	80%	総釉 墨付釉刺 外面染付	淡青灰	密	
190	図23	肥前系 磁器	染付 皿	2 M10112	2	2-032	(13.6)	4.2	8.4	60%	蛇の目凹底形高台 内外面染付	淡青灰	密	反転復元
191	図24 図版58	肥前系 磁器	染付 大皿	2 M10112	2	2-032	(28.0)	5.3	(16.6)	15%	総釉 墨付釉刺 内外面染付	淡灰白	密	反転復元
192	図24 図版58	肥前系 磁器	染付 仏飯器	2 M10112	2	2-032	(6.7)	5.7	3.4	70%	外底部露胎 体部外面染付	灰白	密	一部反転復元
193	図24 図版58	肥前系 磁器	染付 段重	2 M10112	2	2-032	14.0~ 14.4	7.0	10.0	45%	総釉 口縁端部・墨付釉刺 外面染付	釉:淡青灰	密	一部反転復元
194	図24 図版58	京・信楽系 陶器	碗	2 M10112	2	2-032	(9.0)	4.85	2.9	80%	灰釉 貫入 高台付近露胎	釉:オリーブ 灰 露胎:灰白	密	
195	図24 図版58	京・信楽系 陶器	碗	2 M10112	2	2-032	8.1	5.1	3.3	80%	総釉 貫入 墨付釉刺 外面体部亀甲状に削る	灰白	密	
196	図24 図版58	京・信楽系 陶器	土瓶蓋	2 M10112	2	2-032		2.2		80%	灰釉 下面露胎	釉:灰オリーブ 露胎:にぶい橙	密	
197	図24	京・信楽系 陶器	土瓶	2 M10112	2	2-032	(7.5)	6.9	(5.6)	45%	灰釉 外底部・内面底体部露胎 底部端突起3か所	釉:灰白 露胎:灰黄	密	反転復元
198	図24	京・信楽系 陶器	鍋?	2 M10112	2	2-032	-	2.2+	(8.0)	-	灰釉 外底部露胎	釉:灰白 露胎:浅黄	密	反転復元 外 底部墨書
199	図24	瀬戸美濃系 陶器	鉢	2 M10112	2	2-032	-	12.0+	15.8	50%	外面体部灰釉・外底部露胎・三脚 内面上部灰釉・下部錆釉	灰釉:灰白 錆釉:暗赤褐~黒褐	ざっくりしている	反転復元
200	図24 図版58	大谷焼	播鉢	2 M10112	2	2-032	(14.6)	6.3	(6.0)	60%	褐釉 外底部・内面露胎	釉:黒褐 露胎:灰褐	密	反転復元 播 目15本/2.0cm
201	図24	堺・明石系 陶器	播鉢	2 M10112	2	2-032 南半分	(38.0)	15.4	(18.0)	35%	外面ヨコナデ・回転ヘラケズリ 内面回転ナデ 播目8本/3.0cm	暗赤褐	密 3mm前後の 長石粒等含む	反転復元
202	図24 図版58	堺・明石系 陶器	播鉢	2 M10112	2	2-032 南半分	(39.2)	15.7	15.6	45%	外面回転ナデ・ヘラケズリ 内面回転ナデ 播目9本/3cm	内:褐 外:橙	やや粗い 3~5 mmの長石粒等多 く含む	一部反転復元
203	図24 図版58	土師質 土器	焙烙	2 M10112	2	2-032	31.4	6.1+	33.0	50%	把手肥厚 上方から貫通しない孔2か所ずつ 外底部以外回転ナデ	にぶい橙	1mm前後の長石・ 金雲母等含む	一部反転復元
204	図24	土製品	遊玩具 箱庭道具	2 M10112	2	2-032	5.7	6.5	3.1	90%	家型合わせ成形 キラコ付着 屋根に小孔あり	にぶい橙	密	
205	図25 図版58	肥前系 磁器	染付 碗蓋	2 M10m13	2	2-033	9.6	2.7	摘み径3.6	90%	総釉 摘み端部釉刺 内外面染付	白	密	
206	図25 図版58	肥前系 磁器	染付 碗蓋	2 M10m13	2	2-033	9.9	2.9	摘み径3.7	75%	総釉 摘み端部釉刺 内外面染付 渦福 五弁花文	淡青灰	密	

報告書番号	図・図版番号	産地種類	器種	調査区地区	遺構面	遺構層位等	法量			残存率	調整・技法	色調	胎土	備考
							口径cm	高さcm	底径cm					
207	図25 図版58	肥前系磁器	染付碗蓋	2 M10m13	2	2-033	(10.2)	2.75	幅み径3.9	40%	総釉 幅み端部釉剥 内外面染付	白	密	一部反転復元
208	図25 図版58	肥前系磁器	染付碗	2 M10m13	2	2-033 北東部	10.2	5.4	4.3	75%	総釉 貫入 墨付釉剥 内外面染付 五弁花文	淡灰白	密	
209	図25 図版58	肥前系磁器	染付碗	2 M10m13	2	2-033	9.8	5.1	4.0	100%	総釉 墨付釉剥 外面染付 高台内不明落款	灰白	密	
210	図25	肥前系磁器	染付碗	2 M10m13	2	2-033	10.0	4.7	3.4	55%	総釉 貫入 墨付釉剥 外面染付	灰白	密	
211	図25 図版59	肥前系磁器	染付碗	2 M10m13	2	2-033	(10.4)	4.85	(4.0)	40%	総釉 貫入 墨付釉剥 外面染付	白	密	反転復元
212	図25 図版59	肥前系磁器	染付小碗	2 M10m13	2	2-033 中～下	8.3	3.9～4.0	3.1	65%	総釉 墨付珪砂 外面染付	灰黄	密	
213	図25 図版59	肥前系磁器	青磁染付碗	2 M10m13	2	2-033	8.6	5.0	3.8	98%	総釉 外面青磁釉 墨付釉剥 内面染付	オリーブ灰 貝白	密	
214	図25	肥前系磁器	朝顔形碗	2 M10m13	2	2-033	(11.4)	7.0	4.6	45%	総釉 墨付釉剥	灰白	密	反転復元
215	図25 図版59	肥前系磁器	小碗	2 M10m13	2	2-033	7.3	3.7	2.7	98%	総釉 墨付釉剥・珪砂	灰白	密	
216	図25	肥前系磁器	染付杯	2 M10m13	2	2-033 中～下	(5.3)	3.3	2.0	35%	総釉 墨付釉剥 外面染付	白	密	一部反転復元
217	図25 図版59	肥前系磁器	杯	2 M10m13	2	2-033 中～下	6.4	3.2	2.6	100%	総釉 墨付釉剥	灰	密	
218	図25 図版59	肥前系磁器	染付碗	2 M10m13	2	2-033	(7.7)	5.4	(3.6)	45%	総釉 墨付釉剥 内外面染付	淡青灰	密	反転復元
219	図25 図版59	肥前系磁器	染付蕎麦猪口	2 M10m13	2	2-033	6.4	5.9	4.4	60%	総釉 墨付釉剥 外面染付	白	密	
220	図25	肥前系磁器	染付皿	2 M10m13	2	2-033	(14.1)	2.7	(9.2)	35%	総釉 墨付釉剥 内外面染付 唐草文 五弁花文	白	密	反転復元
221	図25 図版59	肥前系磁器	染付皿	2 M10m13	2	2-033	9.8	2.5	5.6	98%	総釉 墨付釉剥 内外面染付 高台内不明文 五弁花文	灰白	密	
222	図25 図版59	肥前系磁器	染付油壺	2 M10m13	2	2-033	-	11.3+	5.4	90%	外面全釉 高台墨付釉剥 外面染付	淡青灰	密	
223	図25 図版59	肥前系磁器	染付瓶	2 M10m13	2	2-033	4.5	22.2	7.0	70%	内面底部露胎 墨付釉剥 外面染付	灰白	密	
224	図25 図版59	肥前系磁器	青磁皿	2 M10m13	2	2-033 中～下	21.3	2.9	11.2	70%	総釉 貫入 墨付釉剥・珪砂	オリーブ灰	密	歪大きい
225	図25 図版59	肥前系磁器	青磁香炉	2 M10m13	2	2-033	9.9	4.6	4.2	95%	高台付近・内面体部以下露胎 体部下に突起3か所	釉:オリーブ灰 露胎:灰白	密	
226	図25	瀬戸美濃系陶器	碗	2 M10m13	2	2-033	(14.2)	6.3	5.2	50%	緑釉 高台付近露胎・回転ヘラケズリ 高台内墨書	釉:緑 露胎:灰白	ざっくりしている	反転復元
227	図25 図版59	瀬戸美濃系陶器	碗	2 M10m13	2	2-033 中～下	(13.0)	5.3	4.6	50%	緑釉 高台付近露胎・回転ヘラケズリ 高台内墨書	釉:緑 露胎:灰白	ざっくりしている	反転復元
228	図25	京・信楽系陶器	碗	2 M10m13	2	2-033	9.6	5.6	3.1	40%	灰釉 貫入 外面鉄絵 外底部付近露胎	釉:オリーブ灰 露胎:灰白	密	
229	図25 図版59	京・信楽系陶器	碗	2 M10m13	2	2-033 中～下	(11.4)	5.7	4.4	50%	灰釉 鉄絵 貫入 高台付近露胎 内底部目跡3か所	釉:灰白 露胎:淡黄	密	一部反転復元
230	図25 図版59	京・信楽系陶器	碗	2 M10m13	2	2-033 南東	(10.0)	5.6	3.5	45%	灰釉 貫入 外底部露胎	釉:灰白 露胎:灰白	密	反転復元
231	図25	肥前系陶器	唐津鉢	2 M10m13	2	2-033 中～下	19.5	6.5	9.35	40%	灰釉 高台付近露胎 内底部蛇の目釉剥 内面白土で刷毛目	釉:オリーブ灰 露胎:浅黄	密	
232	図25 図版59	京・信楽系陶器	蓋物	2 M10m13	2	2-033 中～下	8.0	4.4	4.7	80%	灰釉 口縁端部・外底部露胎	釉:灰白 露胎:灰白	密	
233	図25	京・信楽系陶器	鍋	2 M10m13	2	2-033 中～下	(12.6)	5.5	(6.0)	30%	褐釉 外底部付近露胎	釉:にぶい赤褐 露胎:浅黄	密	反転復元
234	図26 図版59	肥前系陶器	蓋	2 M10m13	2	2-033	6.5	3.7	幅み径2.25	95%	上面褐釉 下面露胎	釉:暗赤褐 露胎:にぶい赤褐	密	
235	図26 図版59	京・信楽系陶器	土瓶蓋	2 M10m13	2	2-033	9.2	1.6		85%	上面灰釉 貫入 下面露胎・回転ヘラケズリ	釉:灰白 露胎:灰白	ざっくりしている	
236	図26 図版59	京・信楽系陶器	土瓶蓋	2 M10m13	2	2-033 中～下	8.6	2.2		98%	上面褐釉 下面露胎	釉:暗赤灰 露胎:にぶい橙	密	
237	図26	堺・明石系陶器	播鉢	2 M10m13	2	2-033	(20.0)	6.7+	-	10%	内面回転ナデ 外面回転ナデ・回転ヘラケズリ 播目10本/2.1cm	灰赤	密	反転復元
238	図26	土師質土器	小皿	2 M10m13	2	2-033 南東部	7.2～7.7	1.9		90%	内面ヨコナデ・ナデ 外面ヨコナデ・ユビオサエ・ナデ	橙	1mm前後の長石等含む	歪著しい
239	図26	土師質土器	灯明油皿	2 M10m13	2	2-033	8.9	1.8		60%	外面口縁部から内面にかけて透明釉 外底部回転糸切	釉:明赤褐 露胎:にぶい黄橙～黒褐	密	外面ススける
240	図26 図版59	土師質土器	灯明受皿	2 M10m13	2	2-033	9.6	2.0	4.0	90%	外面口縁部から内面にかけて透明釉 外底部回転糸切	釉:橙 露胎:にぶい橙	密	口縁部部分的にスス付着
241	図26 図版59	土師質土器	焼塩壺蓋	2 M10m13	2	2-033 中～下	7.7	1.8		100%	外面ヨコナデ 内面布目匠痕	にぶい黄～灰黄褐	1mmまでの微砂粒・金雲母含む	
242	図26	土製品	土鍾	2 M10m13	2	2-033	長さ3.9	幅1.4	高さ1.2	100%	紡錘形管状	橙	密	
243	図26 図版60	肥前系磁器	染付碗蓋	2 M10m12	2	2-035	9.4	2.5	幅み径3.6	60%	総釉 幅み端部釉剥 内外面染付	白	密	
244	図26 図版60	肥前系磁器	染付碗蓋	2 M10m12	2	2-035 東半分	9.4	2.8	幅み径3.9	90%	総釉 幅み端部釉剥 内外面染付	淡青灰	密	
245	図26 図版60	肥前系磁器	染付広東碗	2 M10m12	2	2-035 西半分	11.7	6.7	6.6	70%	総釉 墨付釉剥 内外面染付	淡青灰	密	
246	図26 図版60	肥前系磁器	染付碗	2 M10m12	2	2-035	(10.2)	4.7	4.0	60%	総釉 墨付釉剥 外面染付	白	密	反転復元
247	図26 図版60	肥前系磁器	碗	2 M10m12	2	2-035	9.5	5.1	3.1	60%	総釉 墨付釉剥	灰白	密	
248	図26 図版60	瀬戸美濃系磁器	染付小碗	2 M10m12	2	2-035 東半分	7.1	3.7	2.9	99%	総釉 墨付釉剥 内外面染付	淡青灰	密	
249	図26 図版60	肥前系磁器	染付小碗	2 M10m12	2	2-035	8.0	3.8	2.8	60%	総釉 墨付釉剥 内外面染付	淡青灰	密	
250	図26 図版60	肥前系磁器	染付蕎麦猪口	2 M10m12	2	2-035	8.4	6.1	5.4	95%	総釉 墨付釉剥 内外面染付	淡青灰	密	

報告書番号	図・図版番号	産地種類	器種	調査区地区	遺構面	遺構層位等	法量			残存率	調整・技法	色調	胎土	備考
							口径cm	高さcm	底径cm					
251	図26	肥前系磁器	染付皿	2 M10m12	2	2-035	10.0	2.1	6.4	70%	総釉 壘付釉剥 内面染付	淡青灰	密	
252	図26 図版60	肥前系磁器	染付皿	2 M10m12	2	2-035	13.7	3.4	9.3	85%	貫入 蛇の目凹形高台 内外面染付	淡青灰	密	
253	図26 図版60	肥前系磁器	染付菱皿	2 M10m12	2	2-035	12.6×15.8	4.1	7.6×9.9	80%	釉 壘付釉剥 口鏝 内外面染付 高台内角渦福	淡青灰	密	一部反転復元
254	図26 図版60	肥前系磁器	青磁香炉	2 M10m12	2	2-035	8.8	4.0	6.0	80%	蛇の目凹形高台	釉:明オリーブ灰 露胎:灰白	密	
255	図26	瀬戸美濃系陶器	輪花皿	2 M10m12	2	2-035 東半分	(20.6)	5.9	7.3	40%	灰釉 貫入 高台付近露胎 内底部目痕3か所	釉:灰オリーブ 露胎:灰白	ざつくりしている	一部反転復元
256	図26	京・信楽系陶器	蓋	2 M10m12	2	2-035	(17.4)	4.5	3.9	30%	灰釉 貫入 口縁端部釉剥	釉:灰オリーブ	密	反転復元
257	図26	在地系?陶器	土瓶?	2 M10m12	2	2-035	-	-	-	-	内面鏝釉 外底部露胎	にぶい黄橙	密	外底部墨書判読できない
258	図26 図版60	大谷焼	德利	2 M10m12	2	2-035	2.3	13.1	5.2	65%	褐釉 外底部・内面底底部露胎	釉:黒褐 露胎:褐灰	密	一部反転復元
259	図26	丹波焼	甕	2 M10m12	2	2-035	(53.2)	12.7+	-	10%以下	内外面回転ナデ 塗土	暗赤褐	1~3mmの長石等多く含む	反転復元
260	図27 図版60	堺・明石系陶器	播鉢	2 M10m12	2	2-035	34.0	14.2	16.8	60%	外面回転ナデ・ヘラケズリ 内面回転ナデ 播目8本/3cm	橙へにぶい褐	密 1~5mmの長石等含む	
261	図27	堺・明石系陶器	播鉢	2 M10m12	2	2-035	-	7.8+	(18.0)	10%以下	外面ヘラケズリ 内面摩滅著しい	にぶい赤褐	1~3mmの長石・黒色砂粒多く含む	反転復元 外面に墨書あり
262	図27 図版60	土師質土器	平仄	2 M10m12	2	2-035 東半分	4.8	2.1	2.3	85%	型合わせ成型	橙	密 1mm前後の赤色酸化粒含む	一部反転復元
263	図27 図版60	瓦質土器	火鉢	2 M10m12	2	2-035 東半分	19.2	8.9	16.6	60%	体部外面ヘラミガキ 三脚	灰	密	
264	図27 図版60	肥前系磁器	染付碗蓋	2 M10o13	2	2-036	10.2	2.6	摘み径3.8	80%	総釉 摘み端部釉剥 内外面染付	白	密	一部反転復元
265	図27 図版60	肥前系磁器	青磁染付碗蓋	2 M10o13	2	2-036	10.6	3.3	4.0	75%	総釉 摘み端部釉剥 口縁端部口鏝 内外面染付印判手 摘み内「大明年製」	外:明緑灰 内:白	密	
266	図27 図版60	肥前系磁器	染付広東碗	2 M10o13	2	2-036 西半分	11.2	6.0~6.1	6.5	90%	総釉 壘付釉剥 内外面染付	淡青灰	密	
267	図27 図版60	肥前系磁器	青磁染付碗	2 M10o13	2	2-036	10.6	6.65	4.4	65%	総釉 外面青磁釉 壘付釉剥 内面染付 高台内銘「大明年製」 口縁端部鏝釉	釉:明緑灰・灰白	密	
268	図27 図版60	肥前系磁器	染付碗	2 M10o13	2	2-036	10.2	6.1	3.9	65%	総釉 壘付釉剥 外面染付 高台内銘「大明年製」か	淡青白	密	
269	図27 図版60	肥前系磁器	染付うがい茶碗	2 M10o13	2	2-036	15.3	6.3	5.4	75%	総釉 壘付釉剥 内面染付	白	密	
270	図27 図版61	肥前系磁器	青磁皿	2 M10o13	2	2-036	13.7	3.5	4.5	60%	高台付近露胎・珪砂 内面蛇の目釉剥・珪砂	釉:明オリーブ灰 露胎:にぶい橙	密	
271	図27 図版61	肥前系磁器	染付蓋物	2 M10o13	2	2-036	7.8	4.0	4.0	65%	口縁端部釉剥 高台部打ち欠いて平滑にする 外面染付	灰白	密	
272	図27 図版61	肥前系磁器	染付杯	2 M10o13	2	2-036	(7.0)	3.7	2.4	55%	総釉 壘付釉剥 外面染付	灰白	密	一部反転復元
273	図27 図版61	肥前系磁器	染付杯	2 M10o13	2	2-036	5.6	3.1	6.2	90%	総釉 壘付き釉剥 外面染付	白	密	
274	図27	肥前系磁器	染付碗	2 M10o13	2	2-036	口径3.7	器高1.9	底径1.6	55%	総釉 壘付釉剥 外面染付	白	密	ままごと道具
275	図27 図版61	肥前系磁器	染付仏飯器	2 M10o13	2	2-036	8.0	5.8	4.2	80%	底部付近露胎 外面染付	白	密	
276	図27 図版61	肥前系磁器	紅皿	2 M10o13	2	2-036	4.65	1.3	1.3	100%	外面下半露胎 型合わせ成型	白	密	
277	図27 図版61	肥前系陶器	唐津碗	2 M10o13	2	2-036	10.4	5.2	4.0	70%	褐釉 全釉 壘付釉剥 内外面白土掛	黒褐・灰白	密	
278	図27 図版61	肥前系陶器	唐津碗	2 M10o13	2	2-036 南側	(10.0)	7.5	4.6	55%	灰釉 総釉 壘付釉剥 内外面白土で刷目	赤褐・灰白	密	一部反転復元
279	図27 図版61	京・信楽系陶器	小杉碗	2 M10o13	2	2-036	(9.6)	5.95	(3.9)	50%	灰釉 高台付近露胎 外面体部若杉文	釉:灰白 露胎:灰白	密	反転復元
280	図27 図版61	京・信楽系陶器	碗	2 M10o13	2	2-036	9.4	5.3	3.4	45%	灰釉 貫入 高台付近露胎 外面白土・鉄釉で文様 内底部目痕3か所	釉:浅黄 露胎:淡黄	密	反転復元
281	図27 図版61	肥前系陶器	鉢	2 M10o13	2	2-036	19.8	7.3~7.8	5.3	50%	外面灰釉 高台付近露胎 内面銅緑釉 内底部蛇の目釉剥	釉:灰白・緑灰 露胎:灰白	密	反転復元
282	図28	堺・明石系陶器	播鉢	2 M10o13	2	2-036	(23.0)	7.5	(11.6)	50%	口縁部ヨコナデ 外面体部回転ヘラケズリ 播目8本/1.7cm	灰赤~赤褐		一部反転復元
283	図28	堺・明石系陶器	播鉢	2 M10o13	2	2-036	(39.4)	16.1	(18.6)	35%	外面口縁部から内面回転ナデ 外面体部ヘラケズリ 播目7本/2.8cm	暗赤褐	2~8mmのチャート・長石等多く含む	反転復元
284	図28	土師質土器	灯明皿	2 M10o13	2	2-036	11.0	1.9		65%	外面口縁部から内面にかけて透明釉 内面回転ナデ 外面回転ナデ・ヘラケズリ	釉:赤褐 露胎:明赤褐	1~2mmの長石・赤色砂粒含む	口縁部全体にス付着
285	図28	土師質土器	焼壺蓋	2 M10o13	2	2-036	6.0	1.7		100%	手づくね成型 外面ヨコナデ 内面ナデ	にぶい橙	1mm前後の長石・赤色砂粒・金雲母含む	
286	図28	土師質土器	焙烙	2 M10o13	2	2-036	(29.2)	6.3+	(30.0)	20%	内面ヨコナデ・ナデ 外面ヨコナデ・ユビオサエ・ナデ	橙	1~5mmの赤色砂粒・長石含む	反転復元
287	図28 図版61	土師質土器	焙烙	2 M10o13	2	2-036 西側	(32.4)	7.0	(33.8)	45%	把手部肥厚 孔2個 上方から貫通せず 内面・外面体部回転ナデ 底底部の境ユビオサエ	橙	1mmまでの長石粒等多い	
288	図28	土製品	遊玩具	2 M10o13	2	2-036	口径3.9	器高2.6	底径3.4	90%	片口鉢 ロクロ成型 キラコ付着	灰黄	密	ままごと道具
289	図28	土製品	遊玩具土人形	2 M10o13	2	2-036	4.3+	2.0+	0.9+	20%	魚 型合わせ成形	灰白	密	

報告書番号	図・図版番号	産地種類	器種	調査区地区	遺構面	遺構層位等	法量			残存率	調整・技法	色調	胎土	備考
							口径cm	高さcm	底径cm					
290	図28 図版61	肥前系磁器	染付碗	2 M10o12	2	2-036-2	10.7	6.3	4.6	90%	総釉 壘付釉剥 外面染付高台内銘「大明年製」	淡青白	密	
291	図28	肥前系陶器	碗	2 M10o12	2	2-036-2	(12.2)	4.9	4.3	40%	灰釉 高台付近露胎 高台内印刻銘 内面山水文	釉:淡黄 露胎:灰白	密	一部反転復元 京焼風
292	図28 図版61	京・信楽系陶器	碗	2 M10o12	2	2-036-2	11.6	4.25	4.2	70%	灰釉 高台付近露胎 内面絵柄	釉:灰白 露胎:淡黄	密	
293	図28 図版61	肥前系磁器	唐津鉄絵皿	2 M10o12	2	2-036-2	11.9	3.8	4.5	70%	灰釉 内面鉄絵 口縁端部鉄釉 外下半露胎	釉:灰オリーブ 露胎:にぶい赤褐	ざつくりしている	
294	図28	肥前系陶器	皿	2 M10o12	2	2-036-2	16.0	4.5	5.1	45%	総釉 灰釉 壘付釉剥 外面体部上半から内面は灰釉に銀白色の釉	釉:にぶい黄褐 銀灰	密	
295	図28 図版61	肥前系陶器	唐津鉢	2 M10o12	2	2-036-2	30.0	10.0	12.1	70%	外面下半露胎 外面褐釉 内面褐釉に白色土でハケ目線釉流し掛け 内底部目痕7か所	釉:暗褐・淡黄・褐 露胎:明赤褐	密	
296	図28 図版61	丹波焼	徳利	2 M10o12	2	2-036-2	2.4	15.3	(7.0)	70%	褐釉 内面底体部露胎	釉:暗赤褐 露胎:灰黄	密	一部反転復元
297	図28	土師質土器	皿	2 M10o12	2	2-036-2	10.3	2.4	6.0	90%	内面回転ナデ 外面回転ナデ・ナデ・糸切	浅黄橙	1~3mmの長石粒等含む	口縁部スス付着 灯明皿
298	図28	土製品	遊玩具土人形	2 M10o12	2	2-036-2	3.1+	2.5	2.1	上部欠損	人物 型合わせ成形 キラコ付着 中実	にぶい黄橙	密	
299	図29 図版61	肥前系磁器	染付碗蓋 広東碗蓋	2 M10n13	2	2-038	9.4	3.0	3.9	80%	総釉 壘付釉剥 内外面染付 壘付内「大明年製」	白	密	
300	図29	肥前系磁器	青磁染付碗蓋	2 M10n13	2	2-038	(9.6)	3.3	3.8	50%	総釉 外面青磁釉 壘付端部釉剥 壘付内満福 内面染付	外:緑灰 内:淡青灰	密	一部反転復元
301	図29 図版61	肥前系磁器	染付碗	2 M10n13	2	2-038	10.7	5.6~6.1	4.3	80%	総釉 壘付釉剥 内外面染付	外:白 内:灰白	密	
302	図29	肥前系磁器	染付碗蓋 広東碗蓋	2 M10n13	2	2-038	(11.2)	6.4	6.0	45%	総釉 貫入 壘付釉剥 内外面染付	白	密	一部反転復元
303	図29 図版61	肥前系磁器	染付輪花皿	2 M10n13	2	2-038	14.0	4.3	7.6	65%	蛇の目凹形高台 内面染付	白	密	
304	図29	肥前系磁器	染付碗蓋	2 M10n12	2	2-039	10.3	2.8	3.8	50%	全釉 壘付端部釉剥 外面染付 壘付内「宣明年製」	白	密	
305	図29 図版61	肥前系磁器	染付碗	2 M10m12	2	2-039	(9.8)	5.3	(4.0)	30%	総釉 壘付釉剥 外面染付	白	密	反転復元
306	図35	肥前系磁器	染付碗蓋	1 M10f13	3	1-040	(8.0)	2.3	3.4	30%	総釉 壘付端部釉剥 内外面染付	淡青灰	密	反転復元
307	図35	肥前系磁器	青磁染付碗蓋	1 M10f14	3	1-040	-	2.2+	3.8	40%	総釉 壘付端部釉剥 外面体部青磁釉 内面染付 壘付内「満福」	外:緑灰 内:淡青灰	密	反転復元
308	図35	肥前系磁器	染付碗	1 M10f13	3	1-040	-	4.4+	4.0	50%	総釉 壘付釉剥 外面染付銘「大明年製」	灰白	密	反転復元
309	図35	肥前系磁器	染付碗	1 M10f14	3	1-040	(11.7)	5.9	4.4	45%	全釉 高台壘付釉剥 珪砂付着 外面染 高台内銘		密	一部反転復元
310	図35	肥前系磁器	染付皿	1 M10i15	3	1-041	(18.6)	4.3	(8.7)	45%	内底部蛇の目釉剥 壘付釉剥 内外面染付	灰白	密	反転復元
311	図35 図版62	肥前系磁器	染付皿	1 M10f17	3	1-046	9.4	1.9	4.5	90%	総釉 壘付釉剥 内外面染付	灰白	密	
312	図35	在地系陶器	土瓶	1 M10f17	3	1-046	7.0	14.8+		口縁部50%	外面灰釉の上に褐釉 線刻文様 内面部分的に灰釉	釉:赤黒・にぶい黄褐 露胎:浅黄橙	密	反転復元
313	図35	土師質土器	灯明受皿	1 M10f17	3	1-046	7.0	1.3	3.5	99%	内面・外面口縁部透明釉 外底部回転糸切	釉:橙 露胎:明赤褐	密 1mmまでの赤色砂粒少量含む	
314	図35	土師質土器	灯明油皿	1 M10f17	3	1-046	7.2	1.3	3.3	100%	内面透明釉 外面露胎 外底部回転糸切	釉:橙 露胎:浅黄橙	密	灯芯の痕多数
315	図35 図版62	土製品	遊玩具土人形	1 M10f17	3	1-046	4.65+	3.4	1.8	頭部・手欠損	人物(唐人?) 型合わせ成型 中実	にぶい橙	密	
316	図35 図版62	土製品	遊玩具碁石	1 M10f17	3	1-046	2.0	1.95	0.6	99%	黒く塗る 両面織り圧痕	橙	密	
317	図35 図版62	土製品	遊玩具碁石	1 M10f17	3	1-046	2.04	2.04	0.55	85%	黒く塗る 両面織り圧痕	橙	密	
318	図35	土師質土器	小皿	1 M10f16	3	1-047	(8.2)	1.3	(4.4)	30%	内面回転ナデ・ナデ 外面回転ナデ 外底部回転糸切	橙	密	
319	図35 図版62	肥前系磁器	染付碗蓋	1 M10f13	3	1-063	10.2	5.9	4.0	60%	総釉 壘付釉剥 内外面染付	灰白	密	
320	図35 図版62	肥前系磁器	染付碗	1 M10f13	3	1-063	(10.4)	5.3	5.8	65%	内底部蛇の目釉剥 壘付釉剥 内外面染付	淡青灰	密	一部反転復元
321	図35 図版62	瀬戸美濃系陶器	大皿	1 M10f13	3	1-063	21.5	5.1	9.1	95%	灰釉 内底部胎土目5か所 外面体部下半露胎 体部下半ヘラケズリ 碁笥底	釉:灰白~灰オリーブ 露胎:淡黄	密 1mm前後の白色砂粒中量含む	
322	図35 図版62	大谷焼	徳利	1 M10f13	3	1-063	4.0	20.5+	-	30%	外面から内面頸部付近まで施釉(褐釉) 体部3方向に線刻の文字	釉:極暗赤褐 露胎:にぶい赤褐	密	一部反転復元
323	図35	瀬戸美濃系陶器	灯明受皿	1 M10f13	3	1-063	(10.6)	2.25	4.2	60%	灰釉 貫入 外面露胎 回転ナデ・ヘラケズリ	釉:露胎:灰白	密	破碎後比熱一部反転復元
324	図35 図版62	在地系陶器	行平鍋蓋	1 M10f13	3	1-063	15.4	3.5	3.7	55%	外面トピカンナを挟み鏽釉 内面灰釉	内:灰褐 鏽釉:にぶい赤褐 露胎:にぶい黄橙	密	
325	図35 図版62	堺・明石系陶器	植木鉢	1 M10f13	3	1-063	(15.8)	9.1	8.8	45%	内外面回転ナデ 外底部「久喜」の刻印 明石か?	明赤褐~暗赤褐	白色微砂粒多く含む	反転復元 内面鉄付着
326	図35 図版62	肥前系磁器	染付碗蓋	1 M10k13	3	1-070	9.6	2.9	5.2	80%	総釉 壘付端部釉剥 内外面染付	白	密	
327	図35 図版62	肥前系磁器	染付碗蓋	1 M10k13	3	1-070	9.8	2.8	4.2	90%	総釉 壘付端部釉剥 貫入内外面染付	淡青灰	密	
328	図35 図版62	肥前系?磁器	染付端反碗	1 M10k13	3	1-070	11.0	6.1	4.8	50%	総釉 壘付釉剥 内外面染付	白	密	反転復元 焼継の痕跡あり
329	図35 図版62	肥前系磁器	染付広東碗	1 M10k13	3	1-070	10.2	5.9	5.5	90%	総釉 壘付釉剥 内外面染付	淡青灰	密	

報告書番号	図・図版番号	産地種類	器種	調査区地区	遺構面	遺構層位等	法量			残存率	調整・技法	色調	胎土	備考
							口径cm	高さcm	底径cm					
330	図35 図版62	肥前系磁器	染付 広東碗	1 M10k13	3	1-070	9.6	5.6	(4.7)	55%	総釉 壘付釉剥 内外面染付	白	密	反転復元
331	図35 図版62	肥前系磁器	染付 蕎麦猪口	1 M10k13	3	1-070	7.0	6.3	4.5	80%	総釉 貫入 壘付釉剥・珪砂 外面染付	淡青灰	密	
332	図35 図版62	肥前系磁器	染付 油壺	1 M10k13	3	1-070	-	7.9+	4.1~ 4.4	55%	内面露胎 壘付釉剥 外面染付	淡青灰	密	底部以外反転復元
333	図35 図版62	瀬戸美濃系陶器	筒茶碗	1 M10k13	3	1-070	7.2	5.6	3.8	90%	灰釉 外面縞文 高台部露胎	釉:灰白 露胎:灰白	密	
334	図35 図版62	在地系陶器	土瓶	1 M10k13	3	1-070	6.6	10.8	7.0	85%	内面口縁部から外面上半褐釉・灰釉で文様 口縁端部釉剥 内外面中位以下透明釉 外底部露胎	褐釉:黒褐 透明釉:にぶい赤褐 露胎:にぶい赤褐 灰釉:暗灰黄	密	
335	図36	土師質土器	灯明油皿	1 M10k13	3	1-070	7.2	1.4	2.1	70%	内面・外面口縁部透明釉 外底部回転糸切	釉:明赤褐 露胎:橙	密	灯芯跡1か所
336	図36	土師質土器	灯明受皿	1 M10k13	3	1-070	7.0	1.9	3.0	80%	内面・外面口縁部透明釉 外底部回転糸切	釉:露胎:橙	密	口縁部内外面スス付着
337	図36 図版62	土師質土器	焼塩壺身	1 M10k13	3	1-070	(5.2)	6.8	5.1	60%	ロクロ成型 外底部回転糸切 口縁部短く突出	橙	1mmまでの長石・赤色粒多く含む	一部反転復元
338	図36 図版62	肥前系磁器	染付 大皿	2 M10o15	3	2-037	24.8	4.4	13.4	85%	壘付釉剥 内外面染付 高台内「富貴長春」	白	密	焼継痕あり
339	図36 図版62	肥前系陶器	唐津碗	2 M10o15	3	2-037	10.8	6.2~ 6.6	4.6	60%	灰釉 外面下半露胎 高台付近回転ヘラケズリ	釉:灰オリーブ 露胎:にぶい黄橙	ざっくりしている	
340	図36 図版62	肥前系陶器	唐津皿	2 M10o15	3	2-037	11.7~ 12.0	3.5	4.6	90%	外面下半露胎 外底部回転ヘラケズリ 内底部胎土目3か所	釉:灰~灰白 露胎:にぶい黄橙	密	
341	図36	土師質土器	皿	2 M10o15	3	2-037	11.1	2.55		90%	内面ヨコナデ・ナデ 外面ヨコナデ・ユビオサエ・ナデ	橙	1~2mmの長石等含む	
342	図36	肥前系磁器	染付 碗	2 M10m14	3	2-042	(10.0)	4.6	4.4	35%	全釉 壘付釉剥 外面染付 草花文	白	密	反転復元
343	図36	肥前系陶器	唐津 折縁皿	2 M10m15	3	2-042	(11.9)	3.0	3.9	40%	褐釉 外面下半露胎 内底部砂目	釉:灰オリーブ~灰褐 露胎:にぶい赤褐	密	一部反転復元 火中している
344	図36	土師質土器	皿	2 M10l16	3	2-047	9.6	2.1		100%	内面ヨコナデ・ナデ 外面ヨコナデ・ユビオサエ・ナデ	橙	1mm前後の長石・赤色酸化粒等多く含む	
345	図36	肥前系陶器	唐津皿	2 M10m14	3	2-052	(11.0)	3.2	3.6	35%	灰釉 外面底体部露胎 内底部胎土目	釉:灰 露胎:黄灰	ざっくりしている	反転復元
346	図36	肥前系陶器	唐津 天目茶碗	2 M10n13	3	2-059	-	3.5+	4.2	高台部100%	褐釉 底部付近露胎 内底部茶筌傷多い	釉:黒 露胎:にぶい褐	ざっくりしている	
347	図36	丹波焼	播鉢	2 M10n13	3	2-059	(27.6)	5.4+	-	10%以下	内外面回転ナデ 播目6本/1.9cm	暗赤褐	密 1~7mmの長石粒等含む	反転復元
348	図36	備前焼	播鉢	2 M10l15	3	2-060	(28.6)	10.1+	-	15%	内外面回転ナデ 播目8本/2.6cm	灰	密	反転復元
349	図36	肥前系陶器	唐津 折縁皿	2 M10l15	3	2-063	12.0	3.4	4.8	60%	灰釉 外面下半露胎 内底部砂目	釉:黄灰 露胎:にぶい赤褐	ざっくりしている	
350	図36	土師質土器	小皿	2 M10m15	3	2-064	7.6~ 8.2	1.7		95%	内面ヨコナデ・ナデ 外面ヨコナデ・ユビオサエ・ナデ	にぶい褐	1mm前後の長石等含む	著しい部分的にススける
351	図36 図版63	肥前系陶器	唐津 染付碗蓋	2 M10m14	3	2-065	12.8	2.75	4.5	90%	灰釉 外面約半分露胎 内底部砂目3か所	釉:にぶい黄橙 露胎:浅黄橙	密	
352	図36 図版63	肥前系磁器	染付 碗蓋	2 M10o14	3	2-067	(10.1)	2.8	3.9	45%	総釉 摘み端部釉剥 内外面染付	白	密	一部反転復元
353	図36 図版63	土師質土器	灯明皿	2 M10o14	3	2-067	6.4	1.0	4.7	95%	外面口縁部から内面にかけて透明釉 外底部回転糸切	釉:橙 露胎:橙	密	
354	図36 図版63	土師質土器	灯明皿	2 M10o14	3	2-067	6.2	1.1	4.3	90%	外面口縁部から内面にかけて透明釉 外底部回転糸切	釉:明褐 露胎:橙	密	口縁部の一部スス付着
355	図36 図版63	土師質土器	灯明皿	2 M10o14	3	2-067	6.6	1.2	4.1	100%	外面口縁部から内面にかけて透明釉 外底部回転糸切	釉:明赤褐 露胎:橙	密	口縁部の一部スス付着
356	図36 図版63	土師質土器	灯明皿	2 M10o14	3	2-067	6.7	1.2	4.2	90%	外面口縁部から内面にかけて透明釉 外底部回転糸切	釉:明赤褐 露胎:橙	密	口縁部の一部スス付着
357	図37 図版63	肥前系磁器	染付 碗蓋	2 M10o16	3	2-072	10.2	2.6	5.8	100%	総釉 摘み端部釉剥 内外面染付	白	密	
358	図37 図版63	肥前系磁器	染付 碗蓋	2 M10o16	3	2-072	10.2	2.6	4.0	80%	総釉 貫入 摘み端部釉剥 内外面染付	淡青灰	密	
359	図37 図版63	肥前系磁器	染付 碗蓋	2 M10o16	3	2-072	10.0	2.3	4.0	100%	総釉 摘み端部釉剥 外面染付	白	密	
360	図37	肥前系磁器	青磁染付 碗	2 M10o16	3	2-072	11.7	6.6	4.3	70%	総釉 貫入 壘付釉剥 外面青磁釉 内面染付 高台内角溝福	内:灰白・外:緑灰	密	
361	図37 図版63	肥前系磁器	染付 碗	2 M10o16	3	2-072	9.5	5.4	3.7	80%	総釉 壘付釉剥 内外面染付	淡青灰	密	
362	図37 図版63	肥前系磁器	染付 碗	2 M10o16	3	2-072	9.0	4.3	3.2	75%	総釉 壘付釉剥 内外面染付 五弁花文	白	密	
363	図37 図版63	肥前系磁器	染付 碗	2 M10o16	3	2-072	(11.2)	6.0	4.5	60%	総釉 壘付釉剥 内外面染付	淡青灰	密	一部反転降K元
364	図37 図版63	肥前系磁器	染付 碗	2 M10o16	3	2-072	8.2	3.8	3.5	98%	総釉 壘付釉剥 内外面染付	淡青灰	密	
365	図37 図版63	肥前系磁器	青磁碗	2 M10o16	3	2-072	10.3	6.4	4.3	75%	高台付近露胎	釉:明緑灰 露胎:灰白	密	
366	図37 図版63	肥前系磁器	染付 碗	2 M10o16	3	2-072	9.7	5.1	4.0	100%	総釉 壘付釉剥 外面染付 高台内落款「？」	灰白	密	
367	図37 図版63	肥前系磁器	染付 杯	2 M10o16	3	2-072	6.0	3.75	3.1	98%	総釉 壘付釉剥 外面染付	白	密	
368	図37 図版63	肥前系磁器	染付 皿	2 M10o16	3	2-072	13.4	3.7	7.55	75%	蛇の目凹形高台 内外面染付 五弁花文	明青灰	密	
369	図37 図版63	肥前系磁器	皿(碗蓋?)	2 M10o16	3	2-072	9.4	2.8	3.7	80%	総釉 壘付釉剥	白	密	
370	図37 図版63	肥前系磁器	蓋物 蓋	2 M10o16	3	2-072	10.9	2.9		90%	総釉 口縁端部釉剥 外面染付	外:淡青灰 内:白	密	一部反転復元
371	図37 図版63	肥前系磁器	染付 段重蓋	2 M10o16	3	2-072	7.3	2.55		100%	総釉 口縁端部付近釉剥 外面染付	外:淡青灰 内:白	密	

報告書番号	図・図版番号	産地種類	器種	調査区地区	遺構面	遺構層位等	法量			残存率	調整・技法	色調	胎土	備考
							口径cm	高さcm	底径cm					
372	図37 図版63	肥前系磁器	染付蓋物	2 M10o16	3	2-072	(9.1)	5.2	(5.4)	45%	総釉 貫入 口縁端部・壘付釉剥 外面染付	灰白	密	反転復元
373	図37 図版63	肥前系磁器	染付段重	2 M10o16	3	2-072	(12.0)	6.8	7.0	40%	総釉 壘付・口縁端部釉剥 外面染付	淡青灰	密	反転復元
374	図37 図版63	京・信楽系陶器	碗	2 M10o16	3	2-072	(10.8)	7.5	4.6	45%	灰釉 貫入 高台付近露胎 外面体部中央に帯状の絵付	釉:灰黄 露胎:浅黄	密	一部反転復元
375	図37 図版63	肥前系陶器	唐津向付	2 M10o16	3	2-072	(15.6)	5.1	5.2	65%	灰釉 内面褐釉で絵柄 外底部露胎 形状隅切りの四角	釉:暗オリーブ 露胎:赤褐	密	一部反転復元
376	図37	瀬戸美濃系陶器	(双)耳壺	2 M10o16	3	2-072	(7.6)	5.9+	-	口頸部25%	外面褐釉 アーチ状の耳	釉:黒〜褐 露胎:浅黄橙	密	反転復元
377	図37 図版64	肥前系陶器	陶胎染付油壺	2 M10o16	3	2-072	-	6.2+	5.6	90%	外面施釉 灰釉に褐釉を掛け鉄絵 壘付釉剥	釉:灰オリーブ・灰黄褐	密	
378	図37	瀬戸美濃系陶器	鍋	2 M10o16	3	2-072	(17.7)	10.7	(6.6)	25%	褐釉 外底部露胎・回転ヘラケズリ	釉:暗赤褐 露胎:灰白	密	反転復元
379	図38	堺・明石系陶器	播鉢	2 M10o16	3	2-072	(33.8)	10.4+	-	20%	口縁部回転ナデ 外面体部回転ヘラケズリ 播目9本/3.5cm	明赤褐	密	反転復元
380	図38 図版64	丹波焼	播鉢	2 M10o16	3	2-072	19.5	8.9	11.0	60%	内面回転ナデ 外面回転ナデ・ユビオサエ 外底部付近回転ヘラケズリ 播目4本/1.5cm	内面:灰黄褐・赤褐 外面:極暗褐・にぶい赤褐	密 1~2mmの長石・チャート粒等含む	
381	図38 図版64	丹波焼	甕	2 M10o16	3	2-072	(33.2)	23.4+	-	25%	塗土 内面体部下露胎 内外面回転ナデ 肩部耳	外:褐 内:にぶい褐	密 1~3mmの長石粒等多く含む	反転復元
382	図38	土師質土器	皿	2 M10o16	3	2-072	(11.2)	1.5	(8.2)	30%	内面ヨコナデ・ナデ 外面ヨコナデ 外底部回転糸切	灰白	密	反転復元
383	図38	土師質土器	小皿	2 M10o16	3	2-072	8.4	1.7		95%	内面ヨコナデ・ナデ 外面ヨコナデ・ナデ・ユビオサエ	灰白・にぶい黄橙	1~3mmの長石・赤色砂粒・片岩含む	歪著しい
384	図38	土師質土器	皿	2 M10o16	3	2-072	(9.8)	2.5		40%	内面ヨコナデ・ナデ 外面ヨコナデ・ナデ	橙	1~2mmの長石・赤色砂粒等多い	反転復元
385	図38	土師質土器	皿	2 M10o16	3	2-072	11.5~12.2	2.3		100%	内面ヨコナデ・ナデ 外面ヨコナデ・ユビオサエ・ナデ	浅黄橙・橙	1~2mmの長石・片岩等多く含む	約1/5黒斑状に黒くなる
386	図38	土製品	遊玩具泥面子	2 M10o16	3	2-072	3.3+	3.0+	2.9	?	芥子面 型押し成形 キラコ付着	浅黄橙	密	
387	図38	肥前系磁器	青磁香炉	2 M10o16	3	2-073	-	4.7+	(6.6)	高台部55%	蛇の目凹形高台 内面露胎	釉:明緑灰 露胎:橙	密	反転復元
388	図38	丹波焼	播鉢	2 M10m13	3	2-075	(25.6)	9.5+	-	20%	内面回転ナデ・ナデ 外面回転ナデ・ナデ・ユビオサエ 播目3本/1cm	暗赤褐	1~5mmの長石等含む	反転復元
389	図38 図版64	肥前系磁器	染付碗	2 M10o15	3	2-078	11.0	6.1	4.8	70%	総釉 貫入 壘付釉剥 内外面染付 印判手 角渦福	淡青灰	密	
390	図38	京・信楽系陶器	小杉碗	2 M10o15	3	2-078	(10.6)	7.15	5.0	30%	灰釉 高台付近露胎 外面体部若杉文	明オリーブ灰	密	反転復元
391	図38	京・信楽系陶器	碗	2 M10o15	3	2-078	-	3.0+	(6.8)	高台部40%	高台付近露胎 高台内墨書	釉:灰白 露胎:淡黄	ざっくりしている	反転復元
392	図38	土師質土器	皿	2 M10o15	3	2-078	11.4	1.7		70%	内面ヨコナデ・ナデ 外面ヨコナデ・軽いユビオサエ・ナデ	灰白	密 1~3mmの砂粒少量含む	口縁部全体にスス 灯明皿
393	図38 図版64	肥前系磁器	染付碗	2 M10o15	3	2-086	(11.0)	6.0	5.1	50%	総釉 貫入 壘付釉剥 外面染付	淡青灰	密	一部反転復元
394	図38 図版64	肥前系磁器	碗	2 M10o15	3	2-086	9.1	5.6	3.9	70%	総釉 壘付釉剥・珪砂	灰白	密	
395	図38 図版64	肥前系磁器	染付小碗	2 M10o15	3	2-086	(7.6)	4.6	3.2	30%	総釉 壘付釉剥 外面染付	淡青灰	密	一部反転復元
396	図38	肥前系磁器	染付蕎麦猪口	2 M10o15	3	2-086	7.8	5.5	3.8	50%	総釉 壘付釉剥・珪砂 外面染付	灰	密	一部反転復元
397	図38 図版64	肥前系磁器	染付皿	2 M10o15	3	2-086	13.0	3.5	7.2	95%	総釉 壘付釉剥 内外面染付 高台内銘 印判手五弁花文	淡青灰	密	
398	図38	肥前系磁器	染付皿	2 M10o15	3	2-086	(12.0)	3.2	(4.0)	45%	高台付近露胎 内底部蛇の目釉剥 内面染付	釉:淡青灰 露胎:白	密	反転復元
399	図38 図版64	肥前系磁器	染付四方皿	2 M10o15	3	2-086	5.2	3.7	1.3	100%	総釉 壘付釉剥	白	密	ままごと道具
400	図38 図版64	京・信楽系陶器	碗	2 M10o15	3	2-086	9.2	5.8	3.2	60%	灰釉 貫入 高台付近露胎 白土・緑釉で薬文	釉:明黄褐 露胎:灰白	密	
401	図38 図版64	肥前系陶器	筒型茶碗	2 M10o15	3	2-086	(8.2)	5.55	4.6	50%	灰釉 貫入 鉄絵で漢字 高台付近露胎	釉:灰オリーブ 露胎:淡黒	密	一部反転復元
402	図39 図版64	肥前系陶器	唐津輪花鉢	2 M10o15	3	2-086	20.6	6.6	7.4	80%	灰釉 外面下半露胎・回転ヘラケズリ 内面白土で刷毛目	釉:黄褐〜黄 露胎:浅黄	1mm前後の砂粒含む	
403	図39 図版64	丹波焼	鉄漿壺	2 M10o15	3	2-086	(7.6)	8.9	(6.8)	65%	内面・外底部露胎 灰釉に褐釉を流し掛け	釉:オリーブ灰・黒褐 露胎:暗赤褐〜灰	密	反転復元 内面全体に鉄錆 鉄製品固着
404	図39 図版64	肥前系陶器	蓋	2 M10o15	3	2-086	(10.6)	4.2	掴み径1.6	50%	灰釉 内面中央部以外露胎 外面白土で刷毛目	釉:暗オリーブ 露胎:にぶい黄橙	密	反転復元
405	図39 図版64	肥前系陶器	土瓶	2 M10o15	3	2-086	9.4	11.0	7.1	75%	褐釉 口縁端部・外底部付近露胎	釉:暗赤褐 露胎:にぶい褐	密	
406	図39 図版64	堺・明石系陶器	播鉢	2 M10o15	3	2-086	36.0	15.5	19.4	60%	外面回転ナデ・回転ヘラケズリ 内面回転ナデ 播目10本/3.9cm	暗赤褐・明赤褐・黒	1~3mmの長石粒等多く含む	外底部墨書「寛延二己五月上旬」
407	図39 図版64	堺・明石系陶器	播鉢	2 M10o15	3	2-086	37.1	15.5	18.9	45%	外面回転ナデ・回転ヘラケズリ 内面回転ナデ 底部高台状 播目8本/3.1cm	外面:にぶい赤褐 内面:赤褐	1~3mmの長石粒等含む	
408	図39	土師質土器	焙烙	2 M10o15	3	2-086	(28.6)	7.5	(30.9)	25%	内面ヨコナデ・ナデ 外面ヨコナデ	内:橙 外:にぶい赤褐	1mm前後の長石等多く含む	反転復元
409	図39 図版64	土製品	遊玩具	2 M10o15	3	2-086	口径3.0	器高0.9		100%	合子蓋 施釉 内外面貫入 文様あり 口縁端部付近釉剥	灰オリーブ・灰	密	ままごと道具?
410	図39	土製品	遊玩具土人形	2 M10o15	3	2-086	6.2	2.3	2.2	98%	鳩笛 緑釉 透明釉	灰オリーブ 浅黄橙	密	



報告書番号	図・図版番号	産地種類	器種	調査区地区	遺構面	遺構層位等	質量			残存率	調整・技法	色調	胎土	備考
							口径cm	高さcm	底径cm					
411	図39	土製品	遊玩具土人形	2 M10o15	3	2-086	5.7+	3.8	3.1	頭部欠損	瓦猿	灰	密	
412	図39	土製品	遊玩具土人形	2 M10o15	3	2-086	7.0	2.7	2.6	98%	鷹型合わせ成形 キラコ付着 中実 底に棒を刺し込む穴	にぶい黄橙	密	
413	図39	土製品	遊玩具土人形	2 M10o15	3	2-086	5.9	4.2	1.8	脚約1/2欠	馬型合わせ成形 キラコ付着 中実 底後脚に棒を挿す穴	にぶい黄橙	密	
414	図39	土製品	遊玩具箱庭道具	2 M10o15	3	2-086	7.1+	2.8	3.1	70%?	太鼓橋 施釉(透明釉・緑釉)	橙	密	
415	図39	肥前系陶器	唐津皿	2 M10n16	3	2-095	(12.7)	3.3	(4.6)	35%	灰釉 外面下半露胎 内底部胎土目2か所以上	釉:灰オリーブ露胎:にぶい赤褐	ざっくりしている	歪著しい 反転復元
416	図39 図版64	施釉陶器	尿瓶	2 M10o14	3	2-096	6.8	16.8	13.4	100%	褐釉 外底部目痕6か所	灰褐～黒	密	
417	図46	瀬戸美濃系陶器	天目碗	1 M10k16	4-1	1-068 西半	(10.9)	5.7+	-	20%	褐釉 外底部付近露胎 内面鉄釉流し掛け	釉:褐 黒 露胎:灰白	密	反転復元
418	図46 図版64	肥前系陶器	唐津皿	1 M10k16	4-1	1-068 東半	(13.8)	3.5	(4.2)	65%	灰釉 外面底底部露胎 内底部胎土目3か所	釉:にぶい黄褐 露胎:にぶい黄橙	密	一部反転復元
419	図46	瀬戸美濃系陶器	志野鉄絵皿	1 M10k16	4-1	1-068 西半	(12.0)	2.4	(7.1)	40%	長石釉 貫入 基本的に全釉 高台内に釉切れあり	灰白	ざっくりしている	反転復元
420	図46	瀬戸美濃系陶器	志野鉄絵皿	1 M10k16	4-1	1-068 西半	(11.6)	2.35	(7.4)	45%	長石釉 貫入 基本的に全釉 高台内に釉切れあり	灰白	ざっくりしている	反転復元
421	図46	肥前系陶器	鉢	1 M10k16	4-1	1-068 東半	-	3.2+	4.9	30%	総釉 灰釉の上に白色釉 内底部部砂目5か所	灰釉:オリーブ灰 白色釉:灰黄	密	
422	図46	肥前系陶器	唐津火入れ	1 M10k16	4-1	1-068 東半	(16.0)	6.7+	-	30%	透明釉の上に白色釉流し掛け 内面・体部下露胎	釉:灰白 露胎:橙	密	割れたのちに被熟
423	図46	丹波焼	播鉢	1 M10k16	4-1	1-068 東半	-	8.0+	-	10%以下	口縁部回転ナデ 外面体部ユビオサエ・ナデ 播目4本/1.8cm	口縁部:灰 体部:灰黄褐	1mm前後の長石粒等多く含む	反転復元
424	図46	瓦質土器	火鉢	1 M10k16	4-1	1-068 西半	(29.6)	11.5+	-	10%	外面突帯3条 内面板ナデ・回転ナデ 外面回転ナデ	灰黄褐	1mm前後の長石粒等多く含む	反転復元
425	図46	土師質土器	皿	1 M10k16	4-1	1-068 東半	(10.3)	2.6	5.4	55%	回転ナデ・ナデ 外底部回転系切	浅黄橙	密	
426	図46	土師質土器	焼塩壺	1 M10k16	4-1	1-068 西半	7.0	2.0	-	85%	ヨコナデ ナデ	外:褐灰 内:にぶい橙	粗い 1mmまでの砂粒多く含む	
427	図46	土師質土器	焼塩壺	1 M10k16	4-1	1-068 東半	6.4	1.9	-	80%	口縁部ヨコナデ	外:橙 内:にぶい橙	1mmまでの長石・赤色砂等多く含む	2次焼成を受ける
428	図46 図版64	肥前系磁器	青磁香炉?	1 M10f14	4-1	1-081	(14.4)	6.5+	-	香炉部50%	総釉 双耳? 脚台接合部で剥離	明緑灰	密	反転復元
429	図46 図版64	肥前系?磁器	染付四方皿	1 M10f14	4-1	1-081	4.9×4.9	1.55	2.8×2.8	70%	総釉 壘付釉刺 内面染付	釉:明黄褐	密	ままごと道具
430	図46 図版65	肥前系磁器	染付碗	1 M10g14	4-1	1-082 西半	9.6	7.3	4.2	80%	総釉 壘付釉刺 外面染付	淡黄灰	密	
431	図46 図版65	肥前系磁器	染付皿	1 M10f15	4-1	1-082	13.2	2.6	5.9	90%	総釉 高台壘付釉刺・珪砂 内面染付	明緑灰	密	初期伊万里
432	図46	肥前系磁器	染付四方皿	1 M10g15	4-1	1-082	一辺(13.5)	3.1	5.2	35%	総釉 壘付釉刺 内面染付	明 緑 灰	密	反転復元 形状は長方形?
433	図46 図版65	肥前系陶器	唐津大鉢	1 M10f16	4-1	1-082 東半	(39.4)	12.3	14.6~14.8	45%	外面下半露胎・上半灰釉 内面灰釉に白土で刷毛目 褐釉で螺旋・直線文 銅緑釉掛け 内底部・壘付に砂目それぞれ6か所	灰釉:暗褐 白土:灰白 銅緑釉:緑灰 褐釉:褐 露胎:赤褐	密	一部反転復元
434	図46	土師質土器	皿	1 M10g14	4-1	1-082	9.8	1.7	-	75%	内面ヨコナデ・ナデ 外面ユビオサエ・ナデ	灰白	密 1mm前後の赤色砂粒等少量含む	口縁部スス付着 灯明皿
435	図46	土師質土器	皿	1 M10g14	4-1	1-082 東半	(12.6)	2.3	-	65%	内面ヨコナデ・ナデ 外面ユビオサエ・ナデ	灰白～灰黄	密	楕円形
436	図46	土師質土器	焙烙	1 M10g14	4-1	1-082 東半	(22.4)	7.7+	-	20%	外面斜め方向平行タタキ	外:灰黄褐 内:褐灰・にぶい黄橙	粗い 1mmまでの砂粒多く含む	反転復元
437	図47 図版65	肥前系磁器	染付丸碗	1 M10g13	4-1	1-083 下層	10.0~10.5	7.1	4.0	50%	総釉 高台内釉刺 外面染付	淡青灰 露胎:白	密	一部反転復元
438	図47 図版65	肥前系磁器	染付丸碗	1 M10g13	4-1	1-083	(10.0)	6.6	4.2	60%	総釉 一部貫入 高台内釉刺 外面染付	淡青灰 露胎:白	密	一部反転復元
439	図47	肥前系磁器	染付碗	1 M10g13	4-1	1-083	9.4+	5.3+	4.3	60%	総釉 壘付釉刺・珪砂 内外面染付	淡青灰	密	一部反転復元
440	図47	肥前系磁器	染付皿	1 M10g13	4-1	1-083	12.8	3.3	5.0~5.2	60%	総釉 壘付釉刺・珪砂 内外面染付	釉:淡緑灰	密	初期伊万里
441	図47	中国製磁器	染付皿	1 M10f13	4-1	1-083	-	2.3+	5.2	20%	基底 体部下露胎 外底部鉄カンナ痕 内外面染付	淡青灰 露胎:白	密	反転復元
442	図47	肥前系磁器	染付杯	1 M10f13	4-1	1-083	5.7	3.4	3.0	75%	総釉 壘付釉刺 外面染付	白	密	
443	図47	肥前系磁器	杯	1 M10g13	4-1	1-083 北半	(5.3)	4.8	2.8~3.0	60%	総釉 貫入 壘付珪砂	淡青灰	密	一部反転復元
444	図47	肥前系磁器	染付碗	1 M10g13	4-1	1-083	2.7	1.8	1.4	50%	全釉 外面染付 壘付珪砂	灰白	密	ままごと道具
445	図47	肥前系陶器	碗	1 M10 f 13	4-1	1-083	(13.0)	7.0	(6.6)	30%	褐釉 総釉 壘付釉刺	釉:黒褐 露胎:灰白	密	反転復元
446	図47	肥前系陶器	呉器手碗	1 M10f13	4-1	1-083	(13.0)	(7.0)	5.0	60%	灰釉 総釉 貫入 壘付砂目3か所	にぶい黄	密	一部反転復元
447	図47	肥前系陶器	碗	1 M10f12	4-1	1-083 北半	-	5.4+	4.4~4.6	40%	灰釉 全釉 高台珪砂多く付着	灰白	密	一部反転復元
448	図47	肥前系陶器	唐津鉢	1 M10f13	4-1	1-083	-	5.1+	4.6	30%	底部付近露胎 外面灰釉 内面褐釉に灰釉掛け分け	釉:黒・灰白 露胎:暗赤褐	ざっくりしている	一部反転復元
449	図47	肥前系陶器	唐津天目茶碗	1 M10g13	4-1	1-083 北半	-	5.2+	3.9	65%	灰釉 貫入 外底部付近露胎 ロクロ目顕著	釉:オリーブ灰 露胎:褐	密	
450	図47	瀬戸美濃系陶器	天目茶碗	1 M10g13	4-1	1-083	-	4.1+	5.0	30%	褐釉に鉄釉流し掛け	釉:褐～黒 露胎:明灰黄	1~3mmの長石粒・黒色砂粒多く含む	一部反転復元
451	図47	瀬戸美濃系陶器	白天目茶碗	1 M10g13	4-1	1-083	(11.5)	7.4+	-	口縁部50%	灰釉 貫入 高台付近露胎	釉:灰白 露胎:黄灰	ざっくりしている	反転復元

報告書番号	図・図版番号	産地種類	器種	調査区地区	造構面	造構層位等	質量			残存率	調整・技法	色調	胎土	備考	
							口径cm	高さcm	底径cm						
452	図47 図版65	肥前系陶器	碗	1 M10g13	4-1	1-083	(9.8~10.4)	7.5	(4.6~4.9)	60%	灰釉 貫入 総釉	釉:灰オリーブ	密	歪み著しい 香茶碗か?	
453	図47	瀬戸美濃系陶器	碗	1 M10f12	4-1	1-083	(10.2)	6.7	5.2	45%	全釉 高台付近釉剥左右で長石釉と褐釉を掛け分け	釉:黒褐・灰白 露胎:灰白	ざっくりしている	一部反転復元 香茶碗か?	
454	図47 図版65	肥前系陶器	唐津鉄絵皿	1 M10f13	4-1	1-083	12.4	3.3	4.1	85%	内面灰釉鉄絵・一部露胎外面高台付近露胎	内外面:灰白 露胎部:橙	密	火中する	
455	図47 図版65	肥前系陶器	唐津折縁皿	1 M10f13	4-1	1-083	11.9	3.2	4.8	70%	褐釉・灰釉掛け分け 外面下半露胎 内底部胎土目4カ所	釉:灰白~黒褐 露胎:にぶい赤褐	密 1mm前後の長石粒等含む	比熱により釉が変色	
456	図47	肥前系陶器	唐津折縁皿	1 M10g13	4-1	1-083	11.2	2.6	3.9	60%	灰釉 高台付近露胎 内底部・高台部に砂目	釉:にぶい黄褐 露胎:にぶい黄褐	密	やや粗い 2mm以下の白色・黒色粒微量含む	
457	図47 図版65	肥前系陶器	唐津折縁皿	1 M10g13	4-1	1-083	12.2	3.4	4.2	60%	灰釉 外面下半露胎 内底部砂目3カ所	釉:灰 露胎:明赤褐	密		
458	図47 図版65	肥前系陶器	唐津折縁皿	1 M10g13	4-1	1-083	12.1	3.8	4.9	60%	灰釉 外面下半露胎 内底部胎土目3カ所	釉:淡緑灰 露胎:にぶい橙	密	歪あり	
459	図47 図版65	肥前系陶器	小碗	1 M10g13	4-1	1-083	(7.0)	3.5	2.8	60%	灰釉 外面底部を中心に約50%露胎 外底部回転糸切	釉:黄灰 露胎:にぶい黄橙	密	反転復元	
460	図47 図版65	瀬戸美濃系陶器	鉢	1 M10g13	4-1	1-083	(28.9)	7.7~8.2	16.2	45%	灰釉 高台内露胎 内底部・高台部砂目痕 内底部欄同心円・菊花文	釉:浅黄 露胎:淡黄	密	ざっくりしている	一部反転復元
461	図47	瀬戸美濃系陶器	片口鉢	1 M10f13	4-1	1-083下層	(11.1)	5.0+	-	口縁部60%	褐釉	釉:オリーブ黒	密	反転復元	
462	図47 図版65	瀬戸美濃系陶器	徳利	1 M10f12	4-1	1-083	1.8	10.5	4.8	98%	外面褐釉 内面露胎 体部2カ所窪む	釉:褐 露胎:灰白	密		
463	図47 図版65	京・信楽系陶器	蓋	1 M10f13	4-1	1-083下層	5.7	3.2		90%	外面灰釉 貫入 内面露胎	釉:明緑灰 露胎:にぶい黄褐	密		
464	図47	施釉陶器	水滴	1 M10f13	4-1	1-083下層	5.0+	3.8+		?	猫の意匠 長石釉(貫入)に金彩	釉:灰白 露胎:浅黄			
465	図48	丹波焼	鉢	1 M10g13	4-1	1-083	(29.8)	6.4	(20.4)	10%	内外面回転ナデ 外底部未調整	にぶい赤褐	粗い 1~3mmの長石粒等多く含む	反転復元	
466	図48	備前焼	播鉢	1 M10g13	4-1	1-083	(29.0)	13.0	(15.0)	30%	内面回転ナデ 外面回転ナデ・ナデ 播目7本/2.1cm	橙・灰赤	粗い 1mm前後の長石粒等多く含む	反転復元	
467	図48 図版65	丹波焼	播鉢	1 M10g13	4-1	1-083南半	29.2	12.7	12.4	80%	外面ヨコナデ・ユビオサエ 播目8本/1.8cm	赤褐~暗赤	1~3mmの長石粒等多く含む		
468	図48	土師質土器	皿	1 M10f13	4-1	1-083	11.6	2.0		50%	内面ヨコナデ・ナデ 外面指押さえナデ	内:浅黄橙 外:灰白	密 0.5mm以下の褐色粒を微量含む	口縁部灯芯跡5カ所 灯明皿	
469	図48	土師質土器	小皿	1 M10g13	4-1	1-083北半	6.4	1.2	4.5	95%	口縁部ヨコナデ 内底部ナデ 外底部回転糸切	灰白	密		
470	図48 図版65	土師質土器	焙烙	1 M10f13	4-1	1-083上層	24.0~24.5	7.8		65%	口縁部・体部ヨコナデ 内底部ナデ 体部下平行タキ	橙	密 金雲母含む	一部反転復元	
471	図48 図版65	土師質土器	焙烙	1 M10f13	4-1	1-083南半	24.2	7.2+		60%	外面口縁部~内面ヨコナデ 外面体部ナデ・平行タキ	にぶい橙	微砂粒・金雲母・チャート粒含む	外面スス付着	
472	図48	瓦質土器	瓦灯蓋	1 M10g13	4-1	1-083	摘み径(9.7)	6.6+		?	外面回転ナデ ヘラナデ	にぶい黄褐	密 1mmの赤色・雲母粒多く含む		
473	図48 図版65	肥前系磁器	遊玩具面子	1 M10g13	4-1	1-083北半	4.75	4.7	0.6	100%	染付碗の高台部を打ち欠いて成型	暗紫青	密		
474	図48	土師質土器	遊玩具面子	1 M10g13	4-1	1-083	2.65	2.1	0.55	100%	土師質土器皿転用 円形に打ち欠く	灰白	密		
475	図48	土師質土器	遊玩具面子	1 M10g13	4-1	1-083	2.65	2.4	0.4	100%	土師質土器皿転用 円形に打ち欠く	浅黄橙	密		
476	図48 図版65	瓦	遊玩具面子	1 M10g13	4-1	1-083北半	5.3	4.85	1.8	100%	瓦を打ち欠いて成型 中央にφ0.9cmの孔	灰	密		
477	図48 図版65	肥前系陶器	唐津碗	1 M10g14	4-1	1-085	11.2	6.8	4.7	70%	灰釉 貫入 外底部付近露胎・回転ヘラケズリ	釉:オリーブ灰 露胎:にぶい黄橙	密		
478	図48 図版65	肥前系陶器	唐津皿	1 M10g14	4-1	1-085	10.6	3.1~3.4	(4.0)	60%	灰釉 高台付近露胎 内底部胎土目3カ所以上	釉:灰オリーブ 露胎:灰白	密	一部反転復元	
479	図48 図版65	肥前系磁器	染付碗	1 M10k13	4-1	1-089	(12.2)	7.3	(5.0)	40%	総釉 畳付釉剥・珪砂 外面染	淡青灰	密	反転復元	
480	図48 図版66	瀬戸美濃系陶器	天目茶碗	1 M10k13	4-1	1-089	(11.0)	7.6	3.6	50%	鉄釉 外底部付近露胎	釉:黒 露胎:灰白	密	ざっくりしている	一部反転復元
481	図48 図版66	肥前系陶器	唐津折縁皿	1 M10k13	4-1	1-089	12.7	3.1	4.0	80%	褐釉 外面底底部露胎 内底部砂目3カ所	釉:褐灰 露胎:にぶい橙	密 1mmまでの白色砂粒多い		
482	図48	施釉陶器	水滴	1 M10k12	4-1	1-089	6.3	4.7+	2.9+	上部欠損	天神の意匠 施釉	にぶい赤褐・オリーブ黄・緑	密		
483	図48	土師質土器	皿	1 M10k13	4-1	1-089	(10.4)	3.35	6.4	30%	内外面回転ナデ 外底部回転糸切	灰白	密 1mm前後の砂粒微量含む	反転復元	
484	図48	土師質土器	焙烙	1 M10k12	4-1	1-089	(21.8)	6.1+		口縁部40%	内面粗いハケ 外面ヨコナデ 平行タキ	にぶい橙	密 赤色・白色微砂粒含む	反転復元 外面全体にスス	
485	図49 図版66	肥前系磁器	染付碗	1 M10i12	4-1	1-091	(10.6)	7.6	4.3	40%	貫入 高台付近露胎 外面染付	淡青灰	密	一部反転復元	
486	図49 図版66	肥前系磁器	染付皿	1 M10i12	4-1	1-091	13.0	3.3	5.3	75%	総釉 畳付釉剥・珪砂 内外面染付	淡青灰	密	初期伊万里	
487	図49	肥前系磁器	染付皿	1 M10i12	4-1	1-091	8.0	2.1	3.6	60%	総釉 畳付釉剥・珪砂 内外面染付	淡青灰	密		
488	図49	肥前系磁器	染付鉢	1 M10i12	4-1	1-091南半	(27.0)	7.1	(10.0)	20%	総釉 畳付釉剥・珪砂 内外面染付	淡青灰	密	反転復元	
489	図49 図版66	肥前系磁器	染付芙蓉手鉢	1 M10i12	4-1	1-091南半	(25.2)	9.3	9.0	40%	総釉 高台付近に釉切れ 畳付釉剥 内外面染付	淡青灰	密	一部反転復元	
490	図49	備前焼	播鉢	1 M10i12	4-1	1-091南半	(28.8)	9.0	-	10%	内外面回転ナデ 口縁部下に重焼痕あり 播目14本/3.7cm	にぶい赤褐	1mmの長石粒等多く含む	反転復元	
491	図49	土師質土器	皿	1 M10i12	4-1	1-091南半	(13.4)	2.5		40%	口面ヨコナデ・ナデ・黒く燻す 外底部ハケ	内:黒 外:にぶい黄橙	密	反転復元 口縁部スス 灯明皿	

報告書番号	図・図版番号	産地種類	器種	調査区地区	遺構面	遺構層位等	法量			残存率	調整・技法	色調	胎土	備考
							口径cm	高さcm	底径cm					
492	図49	土師質土器	焙烙	1 M10i12	4-1	1-091	(25.0)	7.2+		20%	外面口縁部～内面ヨコナデ・ナデ 外面ナデ・平行タタキ	橙	密 1mm前後の長石粒等含む	外面スス付着
493	図49	瓦質土器	火舎	1 M10i12	4-1	1-091	-	12.6+	(23.8)	底部20%	内面ユビオサエ・ナデ 外面ミガキ?	黒	細かい白色砂粒等多い	反転復元
494	図49 図版66	土師質土器	焼塩壺	1 M10i12	4-1	1-092	5.2	8.9	5.3～6.4	95%	輪積み成型 底部靱殻・藁?痕	橙	粗い 8mmまでの真岩含む	歪あり
495	図49 図版66	中国製磁器	染付広東碗	1 M10g12	4-1	1-095	11.7	6.2	6.5	55%	総釉 壘付釉刺 内外面染付	白	密	高台内銘「福」
496	図49	肥前系磁器	染付小碗	1 M10g12	4-1	1-095	(8.0)	3.6	(2.8)	50%	総釉 壘付釉刺 外面染付	白	密	反転復元
497	図49 図版66	肥前系磁器	染付輪花皿	1 M10g12	4-1	1-095	14.0	4.5	7.4	85%	総釉 壘付釉刺 内外面染付 角満福	灰白	密	
498	図49 図版66	肥前系磁器	染付皿	1 M10g12	4-1	1-095	13.6	3.1	7.0	98%	内面蛇の目釉刺 壘付釉刺 内面染付 高台内粗い鉄カナン痕	釉:淡青灰	密	
499	図49	肥前系磁器	紅皿	1 M10g12	4-1	1-095	(4.2)	1.4	1.5	60%	内面施釉 外面下半露胎 胎型押し成型	白	密	一部反転復元
500	図49	備前焼	播鉢	1 M10g12	4-1	1-095	(32.6)	12.1	(19.2)	20%	外面回転ナデ・一部板ナデまたは回転ヘラケズリ	灰褐～明赤褐	1～5mmの長石粒等含む	反転復元
501	図49	備前焼	匣鉢	1 M10g12	4-1	1-095	(9.6)	6.1	(10.7)	25%	内面～外面体部回転ナデ 外底部ヘラケズリ	にぶい橙	1～2mmの長石粒など多く含む	反転復元
502	図49	土製品	遊玩土人形	1 M10g12	4-1	1-095	5.8	6.0	2.1	95%	鳩 型合わせ成形 キラコ 附着 中実 底に棒を刺し込む穴	釉:赤橙 露胎:灰黄	密	
503	図50 図版66	瀬戸美濃系陶器	天目茶碗	1 M10h13	4-1	1-097	(10.0)	7.9	3.8	35%	褐釉 底部付近露胎・回転ヘラケズリ	釉:褐～黒 露胎:灰白	密	一部反転復元
504	図50 図版66	肥前系陶器	唐津折縁皿	1 M10h13	4-1	1-097	(13.6)	3.6～4.0	4.6	45%	灰釉 貫入 高台付近のみ露胎 内底部・高台部砂目	釉:明緑灰 露胎:にぶい赤褐	密	一部反転復元
505	図50 図版66	肥前系陶器	唐津刷毛目皿	1 M10jh13	4-1	1-097	12.8	3.5	5.0	95%	灰釉 壘付釉刺 内面白土で刷毛目花文 内底部胎土目	オリーブ灰	ざっくりしている	
506	図50	土師質土器	皿	1 M10h13	4-1	1-097	9.6	2.3	5.6	100%	内面回転ナデ・ナデ 外面回転ナデ 外底部回転糸切	淡黄～黄灰	密 1mm前後の砂粒微量含む	灯明皿 灯芯跡5か所
507	図50	土師質土器	皿	1 M10h13	4-1	1-097	(11.0)	2.2	6.9	45%	内面回転ナデ・ナデ 外面回転ナデ 外底部回転糸切	灰白	密	内外面炭化物反転復元
508	図50	土師質土器	小皿	1 M10h13	4-1	1-097	7.7～7.9	1.7		85%	内面ヨコナデ・ナデ 外面ヨコナデ・ユビオサエ	橙～にぶい黄橙	粗い 1～3mmの長石粒等多く含む	歪む 内面スス 灯明皿
509	図50	土師質土器	小皿	1 M10h13	4-1	1-097	7.6	1.7		98%	内面ヨコナデ・ナデ 外面ヨコナデ・ユビオサエ・ナデ	橙	2～8mmの長石粒等多く含む	歪む 灯芯跡3か所 灯明皿
510	図50	土師質土器	小皿	1 M10h13	4-1	1-097	7.8	1.7		100%	口縁部ヨコナデ 内面ナデ 外底部弱いナデ・未調整	橙	1mm前後の長石粒等多く含む	歪が著しい
511	図50	肥前系陶器	唐津折縁皿	1 M10i13	4-1	1-098	(12.0)	3.3	5.0	45%	灰釉 外面下半露胎 内底部胎土目	釉:灰白 露胎:にぶい橙	微砂粒多い 1mm前後の赤色砂粒含む	反転復元 火中する 鉄付着
512	図50	土師質土器	皿	1 M10i13	4-1	1-098	(12.0)	2.4	(6.4)	50%	内面回転ナデ・ナデ 外面回転ナデ 外底部回転糸切	灰黄	密	反転復元
513	図50	土師質土器	播鉢	1 M10g15	4-1	1-099	(25.8)	10.2	(15.6)	25%	片口 内面ヨコナデ・ヨコハケ 外面ユビオサエ・ナデ	橙	密 1～3mmの長石粒・赤色砂粒含む	反転復元
514	図50	信楽焼陶器	播鉢	1 M10j13	4-1	1-101	(27.2)	7.4+	-	口縁部20%	内外面回転ナデ 播目5本/1.3cm	にぶい褐～橙	1～6mmの長石粒多い	
515	図50	土師質土器	皿	1 M10j13	4-1	1-101	11.6	2.4		75%	内面ヨコナデ・ナデ 外面ヨコナデ・ユビオサエ・ナデ	内:浅黄橙 外:橙	微砂粒含む	
516	図50	土師質土器	皿	1 M10j13	4-1	1-101	10.4～10.6	2.0		95%	内面ヨコナデ 外面ヨコナデ・ナデ・未調整	くすんだ黄赤	1～2mmの長石粒・赤色砂粒多く含む	口縁部スス多量 灯明皿
517	図50	土師質土器	小皿	1 M10j13	4-1	1-101	8.6～9.0	1.65		45%	内面ヨコナデ・ナデ 外面ヨコナデ・ナデ	橙	密 微砂粒含む	歪む 反転復元
518	図50 図版66	肥前系陶器	唐津向付	1 M10j13	4-1	1-103	(11.5)～(12.3)	4.2	4.7	60%	灰釉 貫入 内面鉄絵 高台付近露胎 口縁部皮靨	釉:灰白 露胎:橙	1mmまでの微砂粒多い	一部反転復元
519	図50	備前焼	鉢	1 M10j13	4-1	1-103	(19.0)	6.2	(11.0)	20%	内面回転ナデ 外面回転ナデ・ヘラケズリ 底部刻印	にぶい赤褐 にぶい褐	1～3mmの長石・赤色砂粒含む	反転復元 外面全体的にスス
520	図50	土師質土器	皿	1 M10j13	4-1	1-103	13.1	2.0		55%	口縁部ヨコナデ 外面軽いユビオサエ・ナデ	にぶい黄橙	密	口縁部スス付着 灯明皿
521	図50	土師質土器	皿	1 M10j13	4-1	1-103	10.1	2.8		90%	外面指押さえナデ 内面ヨコナデ・ナデ	浅黄橙	密 1mm以下の白色粒を微量含む	口縁部灯芯跡 灯明皿
522	図50	土師質土器	皿	1 M10j13	4-1	1-103	10.5～11.8	3.0		100%	内面ヨコナデ・ナデ 外面ヨコナデ・ユビオサエ	明赤褐	密 3mm大の片岩粒含む	内面スス多量に付着 歪大い
523	図50	土師質土器	皿	1 M10j13	4-1	1-103	10.3	2.2	5.0	95%	内面ヨコナデ・ナデ 外面ユビオサエ・ナデ	浅黄橙～褐灰	密	
524	図50	土師質土器	小皿	1 M10j13	4-1	1-103	8.5～9.0	2.1		100%	内面ヨコナデ・ナデ 外面ヨコナデ・ナデ・未調整	橙	密 1mm前後の白色粒等少量含む	灯芯3か所 灯明皿
525	図50	土師質土器	小皿	1 M10j13	4-1	1-103	7.5～8.0	1.8		98%	内面ヨコナデ・ナデ 外面ヨコナデ・ユビオサエ・未調整	橙	密 2mmまでの長石粒等含む	歪む
526	図50	土師質土器	小皿	1 M10j13	4-1	1-103	7.6～7.8	1.6	5.7	100%	内面ヨコナデ・ナデ 外面ヨコナデ・ナデ	橙～浅黄橙	密 5mmまでの長石粒等含む	歪む
527	図50	土師質土器	小皿	1 M10j13	4-1	1-103	7.7～8.4	1.6		100%	内面ヨコナデ・ナデ 外面ヨコナデ・未調整	橙	密 1mmまでの長石粒等含む	歪む
528	図50	土師質土器	小皿	1 M10j13	4-1	1-103	7.5～7.8	2.0		100%	内面ヨコナデ・ナデ 外面ヨコナデ・ユビオサエ	にぶい黄橙	密 1mm前後の長石粒等少量含む	歪著しい
529	図50	土師質土器	小皿	1 M10j13	4-1	1-103	7.6～8.2	1.7		100%	内面ヨコナデ・ナデ 外面ヨコナデ・ナデ	橙	密 1mmまでの長石粒等少量含む	歪む

報告書番号	図・図版番号	産地種類	器種	調査区地区	遺構面	遺構層位等	法量			残存率	調整・技法	色調	胎土	備考
							口径cm	高さcm	底径cm					
530	図50	土師質土器	小皿	1 M10j13	4-1	1-103	7.9~8.2	1.7		95%	内面ヨコナデ・ナデ 外面ヨコナデ・ナデ・未調整	橙	密 1mmまでの長石粒等少量含む	歪む
531	図50	土師質土器	小皿	1 M10j13	4-1	1-103	6.4	1.6		70%	内面回転ナデ 外面回転ナデ・ナデ	灰白	密	
532	図50	土師質土器	焼塩壺蓋	1 M10j13	4-1	1-103	6.4	1.8		100%	外面ヨコナデ・ユビオサエ・ナデ 内面ナデ	淡黄	1mm前後の砂粒多く含む	やや歪
533	図50	施釉陶器	沓茶碗	1 M10i13	4-1	1-104	(17.0)	7.0	4.0~6.0	25%	黒釉 高台付近露胎 高台楕円形	釉:黒 露胎:灰黄	粗くばさばさしている。	反転復元 黒染?
534	図50 図版66	備前焼	二耳壺	1 M10j12	4-1	1-104	11.8	15.3+	最大径15.8	25%	内外面回転ナデ 肩部から体部中位多条の凹線 自然釉	内外:灰	1mm前後の砂粒多い	反転復元
535	図50	土師質土器	焙烙	1 M10i13	4-1	1-104	(26.4)	7.8+	(29.2)	20%	内面ヨコナデ、強いナデ 強いナデ・幅広並行タタキ	内:橙 外:にぶい黄褐	1mm前後の長石粒等多く含む	反転復元
536	図50	土製品	鞆羽口	1 M10j12	4-1	1-104	4.65+	4.2+	2.4+	-	溶解物付着		1mm前後の長石粒等含む	
537	図51	中国製磁器	染付皿	1 M10f16	4-1	1-107	-	2.6	5.1	高台部100%	外底部露胎 鉄カンナ痕 内面染付	釉:淡青灰 露胎:浅黄橙	密	
538	図51 図版66	肥前系磁器	染付杯	1 M10f16	4-1	1-107	6.0	4.3	2.4	70%	総釉 壘付釉剥・珪砂 外面染付	淡青灰	密	
539	図51	土師質土器	皿	1 M10f16	4-1	1-107	11.4	2.1		70%	内面ヨコナデ・ナデ 外面ユビオサエ・ナデ	浅黄橙	密	口縁部スス付着 灯明皿
540	図51	土師質土器	小皿	1 M10f16	4-1	1-107	6.0	1.5		55%	内面ナデ 外面ヨコナデ・ユビオサエ・ナデ	浅黄橙	密	
541	図51 図版66	肥前系陶器	唐津碗	1 M10k13	4-1	1-115	11.1	6.7	4.6	90%	灰釉 外底部付近露胎 回転ヘラケズリ痕顕著	釉:暗オリーブ 露胎:にぶい赤褐	粗い 1mm前後の白色・黒色粒多い	反転復元
542	図51 図版66	土師質土器	焼塩壺	1 M10k14	4-1	1-116	5.1	9.8	5.4	85%	口縁付近ヨコナデ 内面ナデ・シボリ痕 外面ヘラナデ	橙	密 1mm程度の長石粒等含む	
543	図51	土師質土器	皿	1 M10k13	4-1	1-121	12.0	2.2		90%	口縁部ヨコナデ 内面ナデ 外面ユビオサエ ナデ?	浅黄橙	密 1~4mmの砂粒少量含む	口縁部スス 灯明皿
544	図51	土師質土器	焙烙	1 M10k13	4-1	1-121	(25.8)	7.1+	(25.8)	20%	内面回転ナデ・ナデ 外面ヨコナデ・ナメ平行タタキ	明黄褐 黒	1mm以下の長石粒等多い	反転復元 外面スス
545	図51 図版66	肥前系陶器	唐津碗	1 M10i13	4-1	1-124中・下層	11.1	6.9	4.6	80%	内面褐釉 外面灰釉掛け分け 高台付近露胎	褐釉:黒 灰釉:オリーブ灰 露胎:にぶい褐	密	
546	図51 図版66	肥前系陶器	唐津皿	1 M10i13	4-1	1-124	11.9	3.4	4.5	80%	灰釉 外面下半露胎 内底部胎土目3か所 口縁部鉄釉(皮鯨)	釉:灰 露胎:にぶい黄橙	密 微砂粒多く含む	
547	図51 図版66	肥前系陶器	唐津皿	1 M10i13	4-1	1-124中・下層	12.9	3.7	4.8	70%	灰釉 外面下半露胎 内底部胎土目4か所	釉:灰白 露胎:明赤褐	密	火中する
548	図51	瀬戸美濃系陶器	志野小碗	1 M10i13	4-1	1-124下層	(8.2)	2.9	4.2	40%	長石釉 全釉 貫入 碁笥底	灰白	ざっくりしている	反転復元
549	図51 図版66	瀬戸美濃系陶器	志野向付	1 M10i13	4-1	1-124上層	13.3×13.0	2.1~2.3		70%	長石釉 貫入 内外面鉄絵 全釉 底部日痕3か所 3足	釉:灰白	密	
550	図51	瀬戸美濃系陶器	志野向付	1 M10i13	4-1	1-124	9.4	4.2+	5.7	50%	長石釉 全釉 貫入 底部は丸で体部角型 碁笥底 外底部にトチの痕跡	灰白	ざっくりしている	
551	図51	瀬戸美濃系陶器	志野碗	1 M10i13	4-1	1-124中・下層	-	5.1+	5.9	高台部100%	長石釉 全釉 貫入 外面鉄絵 内底部目跡4か所	灰白	密	反転復元
552	図51	肥前系陶器	唐津?瓶	1 M10i13	4-1	1-124下層	(8.4)	(23.0)	11.5	20%	内面体部同心円タタキ 釉:上位褐釉・中位灰釉? 外底部付近露胎	釉:オリーブ黒・淡黄 露胎:赤	密 1mm前後の長石粒少量含む	朝鮮王朝? 反転・合成復元
553	図51	土師質土器	皿	1 M10i13	4-1	1-124	11.4	2.2	5.9	90%	内面ヨコナデ・ナデ 外面ヨコナデ・ユビオサエ・ナデ	灰白	密	灯芯の跡1か所 灯明皿
554	図51	土師質土器	皿	1 M10i13	4-1	1-124	10.9	2.4		99%	内面ヨコナデ・ナデ 外面ヨコナデ・ユビオサエ・ナデ	橙	1~10mmの片岩粒・長石粒多く含む	口縁部スス付着 灯明皿
555	図51	土師質土器	皿	1 M10i13	4-1	1-124	9.8	2.5		98%	内面ヨコナデ・ナデ 外面ヨコナデ・ユビオサエ・ナデ	橙	1~3mmの長石・片岩粒・金雲母含む	底部粘土紐の接合痕有
556	図51	土師質土器	皿	1 M10i13	4-1	1-124中・下層	10.5	2.2		75%	内面ヨコナデ・ナデ 外面ヨコナデ・ユビオサエ・ナデ	灰白	1~5mmの砂粒含む	口縁部スス付着 灯明皿
557	図51	土師質土器	小皿	1 M10i13	4-1	1-124中・下層	9.6	2.1		100%	ユビオサエ ヨコナデ ナデ	浅黄橙	密 1mm前後の砂粒少量含む	口縁部スス付着 灯明皿
558	図51	土師質土器	小皿	1 M10i13	4-1	1-124中・下層	7.9~8.3	1.8		100%	内面ヨコナデ・ナデ 外面ヨコナデ・ユビオサエ・ナデ	灰白	密 1mm前後の長石粒等含む	歪著しい
559	図51	土師質土器	小皿	1 M10i13	4-1	1-124中・下層	7.0~8.3	2.1		100%	内面ヨコナデ・ナデ 外面ヨコナデ・ユビオサエ・ナデ	橙	密 1mm程度の長石粒等含む	歪が著しい
560	図51	土師質土器	焼塩壺	1 M10i13	4-1	1-124下層	5.0	8.9	4.7	98%	外面ユビオサエ・板状工具ナデ 内面ユビオサエ・ナデ	浅黄橙~橙	粗い 1~3mmの長石粒等多く含む	
561	図51	土師質土器	皿	1 M10j13	4-1	1-132	11.4	2.6		100%	内面ヨコナデ・ナデ 外面ヨコナデ・ユビオサエ・ナデ	橙	1~2mmの長石粒等含む	
562	図51	土師質土器	皿	1 M10j13	4-1	1-132	10.0~10.6	2.5		100%	内面ヨコナデ・ナデ 外面ヨコナデ・ユビオサエ・ナデ	橙	1mm前後の長石粒等含む	歪あり
563	図51	肥前系磁器	染付碗	2 M10n13	4-1	2-093	-	5.1+	(4.4)	25%	総釉 壘付釉剥・珪砂 外面染付	灰	密	反転復元
564	図51	肥前系磁器	染付皿	2 M10n13	4-1	2-093	(13.2)	2.75	(4.9)	20%	全釉 壘付釉剥・珪砂 内面染付吹墨 口縁端部錆釉	淡青灰	密	反転復元 初期伊万里
565	図51	備前焼	播鉢	2 M10n13	4-1	2-093	(24.8)	4.5+	-	10%以下	内外面回転ナデ 重ね焼きの痕跡 播目8本/3.4cm	褐灰	密	反転復元
566	図51	土師質土器	皿	2 M10n14	4-1	2-093	(9.6)	2.0		60%	内面ヨコナデ・ナデ 外面ヨコナデ・ユビオサエ・ナデ	にぶい黄橙	密	反転復元
567	図56	肥前系磁器	染付碗	1 M10g13	4-2	1-150	(9.8)	7.1	(4.8)	25%	総釉 壘付釉剥・珪砂 外面染付	淡青灰	密	反転復元 初期伊万里

報告書番号	図・図版番号	産地種類	器種	調査区地区	遺構面	遺構層位等	法量			残存率	調整・技法	色調	胎土	備考
							口径cm	高さcm	底径cm					
568	図56 図版67	瀬戸美濃系 陶器	天目茶碗	1 M10g13	4-2	1-150	(11.2)	6.8	4.9	60%	褐釉 高台付近露胎 釉は 斑模様	釉:褐+黒 露胎: 灰白	やや粗 3mmの 長石粒含む	一部反転復元
569	図56	土師質 土器	小皿	1 M10g13	4-2	1-150	6.4	2.2	4.6	90%	口縁部ココナデ 内底部ナ デ 外底部回転糸切・板状 圧痕	浅黄橙	密 1mm前後の 砂粒含む	外底部に墨書
570	図56	肥前系 磁器	染付 瓶	1 M10g16	4-2	1-151	-	4.7+	3.5	20%	内面露胎 墨付釉剥・粗い 砂 外面染付	灰	密	一部反転復元
571	図56	肥前系 磁器	染付 端反皿	1 M10g16	4-2	1-151 西半	(20.8)	3.7	(7.7)	20%	総釉 墨付釉剥・珪砂 内 外面染付	釉:淡青灰	密	反転復元
572	図56	備前焼	播鉢	1 M10g16	4-2	1-151 西半	-	9.0+	-	10%以下	内外面回転ナデ 重ね焼き の痕跡? 播目7本/2.8cm	暗赤褐	粗い 1~3mmの 長石粒等多く含 む	
573	図56 図版67	肥前系 磁器	染付 碗	1 M10f16	4-2	1-153	(9.7)	5.1	4.2	60%	総釉 墨付釉剥・珪砂 外 面印判手染付	灰白	密	一部反転復元
574	図56	肥前系 磁器	青磁染付 碗	1 M10f16	4-2	1-153	(11.0)	6.6	(4.0)	20%	総釉(外面青磁釉) 貫入 墨付釉剥 内面染付	内:淡青灰 外: 明緑灰	密	反転復元
575	図56	肥前系 磁器	染付 皿	1 M10f16	4-2	1-153	-	2.5+	9.4	60%	総釉 墨付釉剥 内外面染 付	淡青灰	密	一部反転復元
576	図56	備前焼	匣鉢	1 M10f16	4-2	1-153	(12.0)	6.7	(12.1)	20%	回転ナデ 口縁端部と底部 端に重ね焼きの痕跡	外面:暗赤褐 内面:灰	粗い 1mm前後の 長石粒等含む	反転復元
577	図56 図版67	土師質 土器	焼壺蓋	1 M10f16	4-2	1-153	6.2	7.6	5.4	100%	粘土板を巻いて成型 底は 円盤充填	橙	赤色砂粒・長 石・金雲母等含 む	「泉湊伊織」 の刻印あり
578	図56	土師質 土器	風炉	1 M10f16	4-2	1-153	(25.6)	14.5+	-	10%	内面ココナデ 外面ミガキ	橙	1~2mmの長石・ 赤色砂粒含む	反転復元
579	図56	土師質 土器	皿	1 M10f15	4-2	1-164	(10.8)	3.3	(7.8)	30%	内外面回転ナデ 外底部へ テ起こし	灰白	3mmまでの長石 粒等含む	反転復元 全 面に炭化物付 着
580	図56	瓦質土器	火鉢	1 M10j13	4-2	1-165	(30.8)	3.9+	-	口縁部 10%	外面ココナデ 内面ナデ 突帯2条	褐灰	1~5mmの片岩・ 長石粒含む	反転復元
581	図56	中国製 磁器	染付 碗	1 M10k13	4-2	1-173	(10.6)	4.0+	-	10%以下	内外面染付	淡青灰	密	反転復元
582	図56	肥前系 陶器	碗	1 M10k13	4-2	1-173	(11.0)	4.9+	-	10%	灰釉	明灰黄	ざっくりしている	反転復元
583	図56	備前焼	播鉢	1 M10k13	4-2	1-173	29.4+	8.3+	(15.4)	20%	内外面回転ナデ 播目11本 /2.8cm	明赤褐	粗い 1~2mmの 長石粒・黒色粒 含む	反転復元 内 面摩滅著しい
584	図56	土師質 土器	皿	1 M10j13	4-2	1-175	10.5	2.0	6.2	70%	内面回転ナデ・ナデ 外面 回転ナデ・ユビオサエ・ナデ	橙	密 1mmまでの 長石粒等少量含 む	至著しい
585	図56	土師質 土器	皿	1 M10j13	4-2	1-175	(12.1)	2.0	(6.9)	30%	内外面ココナデ ナデ	灰白	密 1mm前後の 砂粒少量含む	反転復元 口 縁部スス 明皿
586	図56	肥前系 陶器	鉢	1 M10g16	4-2	1-178	(25.4)	2.7+	-	10%	灰釉 貫入	にぶい黄	密	反転復元
587	図56	土師質 土器	小皿	1 M10g14	4-2	1-203	8.2	1.9	-	90%	内外面ココナデ・ナデ 外 底部植物繊維の圧痕	橙	密 細かな雲 母・赤色砂粒含 む	至あり
588	図56	肥前系 陶器	鉢	1 M10h14	4-2	1-208	-	4.1+	(9.0)	10%	灰釉 外底部付近露胎 内 底部目痕	釉:灰オリーブ 露胎:浅黄	密	反転復元
589	図56	備前焼	播鉢	1 M10h14	4-2	1-208 上層	-	7.4+	(14.0)	15%	内外面回転ナデ 播目タテ 方向のちナメ方向 播目 12本/4cm	赤褐	1~5mmの長石粒 等多く含む	反転復元
590	図56	土師質 土器	小皿	1 M10h14	4-2	1-208	7.5	1.6	-	80%	内面ココナデ・ナデ 外面 ココナデ・ユビオサエ・ナデ	にぶい黄橙	密 1mmまでの 長石粒等含む	
591	図57 図版67	肥前系 陶器	唐津 向付	2 M10o16	4-2	2-148	13.7	3.7	4.2	80%	灰釉 外面中位以下露胎 口縁 内面胎土目3カ所	釉:にぶい褐 露 胎:にぶい橙	密	
592	図57	丹波焼	播鉢	2 M10o16	4-2	2-148	-	13.8	-	10%以下	内面ココナデ・ナデ 外面 ココナデ・部分ナデ 播目3本 /1.4cm	灰赤・橙	1mm前後の長石 等多く含む	
593	図57	土師質 土器	皿	2 M10o16	4-2	2-148	10.6	2.1	5.9	100%	内面回転ナデ・ナデ 外面 回転ナデ 外底部回転糸切	灰白	密 2mm前後の 砂粒少量含む	口縁部スス付 着 灯明皿
594	図57	土師質 土器	小皿	2 M10o16	4-2	2-148	6.4	1.35	4.1	80%	内面回転ナデ・ナデ 外面 回転ナデ 外底部回転糸切	淡黄	密	
595	図57	土師質 土器	焼壺蓋	2 M10o16	4-2	2-148	6.4	1.7	-	100%	内外面ココナデ ナデ	にぶい橙	1mmまでの長石 粒等含む	
596	図57 図版67	肥前系 陶器	唐津 天目茶碗	2 M10o17	4-2	2-149	(11.0)	6.8	3.9	50%	灰釉 底部付近露胎・回転 ヘラケズリ	釉:暗オリーブ ヘラケズリ 露 胎:にぶい橙~橙	密	一部反転復元
597	図57 図版67	肥前系 陶器	唐津 皿	2 M10o17	4-2	2-149	(12.4)	3.5	4.1	50%	灰釉 外面中位以下露胎 内底部胎土目2カ所以上	釉:灰褐 露胎: にぶい橙	ざっくりしている	反転復元
598	図57	土師質 土器	皿	2 M10o17	4-2	2-149	11.2	2.3	5.9	65%	内面回転ナデ・ナデ 外面 回転ナデ・ヘラケズリ 外 底部回転糸切	灰白	密	口縁部スス付 着 灯明皿
599	図57	肥前系 陶器	唐津 皿	2 M10o15	4-2	2-152	(11.2)	4.0	4.3	40%	灰釉 外面下半露胎 内底 部胎土目3カ所	釉:にぶい赤褐~ 灰白 露胎:にぶ い橙	ざっくりしている	一部反転復元
600	図57	肥前系 陶器	唐津 皿	2 M10o15	4-2	2-152	(12.0)	4.0	4.7	60%	灰釉 外面下半露胎 内底 部胎土目4カ所	釉:暗灰黄・灰白 露胎:灰黄・黒	ざっくりしている	一部反転復元 火中する
601	図57	土師質 土器	皿	2 M10o15	4-2	2-152	(11.4)	2.3	-	40%	内面回転ナデ・ナデ 外面 回転ナデ 外底部回転糸切	にぶい黄橙 褐 灰	密	反転復元 口 縁部スス 明皿
602	図57	瓦質土器	火鉢	2 M10o15	4-2	2-152	(33.1)	14.9	(30.6)	30%	内面ナデ 外面体部ヘラミ ガキ 外底部ナデ 三脚 か?	灰	密	反転復元
603	図57	肥前系 陶器	唐津 皿	2 M10o14	4-2	2-158	(11.2)	3.0	3.8~ 4.0	45%	灰釉 外面下半露胎 口縁 内底部胎土目4カ所	釉:褐灰 露胎: にぶい赤褐	ざっくりしている	一部反転復元 火中する
604	図57 図版67	土師質 土器	へそ皿	2 M10o15	4-2	2-158	6.8	1.5	-	100%	内面ココナデ・ナデ 外面 ココナデ・ユビオサエ・ナデ	浅黄橙	密	
605	図57 図版67	土師質 土器	(へそ) 皿	2 M10o14	4-2	2-158	6.6	1.55	-	99%	内面ココナデ・ナデ 外面 ココナデ・ナデ	にぶい黄橙	密	
606	図57 図版67	肥前系 陶器	絵唐津 向付	2 M10m14	4-2	2-169	15.3~ 15.4	5.6	-	65%	外面下半露胎 内面鉄絵	釉:オリーブ灰 露胎:赤褐	密	

報告書番号	図・図版番号	産地種類	器種	調査区地区	造構面	造構層位等	法量			残存率	調整・技法	色調	胎土	備考
							口径cm	高さcm	底径cm					
607	図57 図版67	肥前系陶器	唐津皿	2 M101m13	4-2	2-170	11.5	3.8	4.5	99%	灰釉 貫入 外底部付近露胎 内底部胎土目4か所	釉:オリーブ灰露胎:にぶい黄橙	ざっくりしている	
608	図57 図版67	瀬戸美濃系陶器	志野四方皿	2 M10m13	4-2	2-170	一边 (19.4)	4.6	一边 (10.0)	45%	長石釉 貫入 内面鉄絵四脚	灰白	ざっくりしている	反転復元
609	図57	瀬戸美濃系陶器	織部四方皿	2 M10113	4-2	2-170	16.8+ 11.8+	4.5		30%	外底部露胎 灰釉鉄絵・緑釉掛け 四脚?	釉:灰白・暗オリーブ 露胎:淡黄	ざっくりしている	
610	図58 図版67	瀬戸美濃系陶器	織部四方皿	2 M10m13	4-2	2-170	18.5~ 19.7	6.2	18.5	75%	粘土板を接ぎ合わせて体部・脚部を成型 灰釉・銅緑釉に褐釉で蔓文 外底部露胎に一部灰釉	釉:暗オリーブ~オリーブ黒 黒褐~黒 露胎:にぶい褐~灰黄	ざっくりしている	
611	図58	肥前系陶器	鉢	2 M101m13	4-2	2-170	(32.2)	6.5	(17.6)	25%	内面回転ナデ 外面回転ナデ・回転ヘラケズリ	灰オリーブ	密	反転復元
612	図58 図版67	備前焼	播鉢	2 M10m13	4-2	2-170	(27.6)	10.8	(13.2)	25%	内外面回転ナデ 播目ナメ・タテ 重ね焼き痕あり	にぶい赤	密 1mm前後の長石粒含む	反転復元
613	図58	土師質土器	皿	2 M101m13	4-2	2-170	(10.0)	2.6		45%	内面ナデ 外面ユビオサエ・ナデ	橙	1~3mmの長石・片岩粒等含む	反転復元
614	図58	土師質土器	焼塩壺蓋	2 M10m13	4-2	2-170	7.1	2.05		100%	内面ヨコナデ・ナデ 内面ヨコナデ・ユビオサエ・ナデ	淡赤橙・橙	1mm前後の長石等含む	二次焼成受ける
615	図58	土製品	遊玩具	2 M101m13	4-2	2-170	口径 0.8	器高 4.5	底径 2.4	70%	瓢箪 型押し成形 表裏接合 中空 体部下半まで施釉	釉:オリーブ灰露胎:灰白	密	ままごと道具
616	図58	土師質土器	皿	2 M10o14	4-2	2-175	(10.6)	2.0	5.6	50%	内面回転ナデ・ナデ 外面回転ナデ 外底部回転糸切	浅黄橙	密	反転復元
617	図58	土師質土器	へそ皿	2 M10o14	4-2	2-175	6.6	1.5		98%	内面ヨコナデ 外面ヨコナデ・ユビオサエ・ナデ	浅黄橙	密	
618	図58	土師質土器	へそ皿	2 M10o14	4-2	2-175	6.5	1.8		100%	内面ヨコナデ 外面ヨコナデ・ユビオサエ・ナデ	灰白		
619	図63 図版67	肥前系磁器	杯	1 M10k11	1~ 4-2	1-277	7.4	3.2	2.1	99%	総釉 畳付釉剥	白	密	
620	図63 図版67	瀬戸美濃系磁器	染付皿	1 M10k11	1~ 4-2	1-277	10.0	2.0	5.4	90%	総釉 畳付釉剥 内外面染付 高台内銘	白	密	
621	図63	土製品	遊玩具箱庭道具	1 M10k11	1~ 4-2	1-277	7.1+	3.0		50%	太鼓橋 施釉(透明釉・緑釉)	釉:橙・緑灰 露胎:にぶい橙	密	ままごと道具
622	図63	肥前系磁器	染付碗	1 M10111	1~ 4-2	1-278	(12.0)	6.2	(4.9)	30%	総釉 畳付釉剥 外面染付 高台内滴福	淡青灰	密	反転復元
623	図63 図版67	肥前系磁器	小碗	1 M10111	1~ 4-2	1-278	8.4	5.2	3.2	98%	総釉 畳付釉剥・珪砂	淡緑灰	密	
624	図63 図版67	京・信楽系陶器	小杉碗	1 M10111	1~ 4-2	1-278	8.7	5.3	3.25	95%	灰釉 高台付近露胎 外面若杉文	釉:淡黄 露胎:淡黄	密	
625	図63	肥前系陶器	火入れ	1 M10111	1~ 4-2	1-278	(10.9)	7.6	(5.8)	40%	外面下半褐釉 上半灰釉に緑釉で絵 内面露胎 畳付珪砂	釉:赤褐・明オリーブ灰 露胎:にぶい褐	密	反転復元
626	図63 図版67	瀬戸美濃系陶器	植木鉢	1 M10111	1~ 4-2	1-278	(30.0)	19.1	(19.4)	40%	灰釉 貫入 外底部・内面底部露胎	釉:灰白 露胎:明灰黄	1mm以下の長石粒等多い	反転復元
627	図63	備前焼	灯明皿	1 M10111	1~ 4-2	1-278	(10.9)	1.3		30%	内外面回転ナデ 外底部回転糸切のち回転ヘラケズリ	灰黄褐・にぶい赤褐	密	反転復元 口縁部スス灯明皿
628	図63 図版67	土師質土器	焼塩壺	1 M10111	1~ 4-2	1-278	(5.2)	8.5	5.4	90%	口縁部ヨコナデ 外面ヘラナデ 内面ナデ・シボリ痕	灰黄褐~橙	粗い 1~2mmの砂粒多く含む	一部反転復元
629	図63	土師質土器	平仄	1 M10111	1~ 4-2	1-278	4.6	2.1	2.2	98%	型押し成型(外型)	橙	密	
630	図63	中国製磁器	染付碗	1 M10k12	1~ 4-2	1-283	(11.4)	4.9	4.6	25%	総釉 畳付釉剥・珪砂 内外面染付	淡青灰	密	反転復元
631	図63	瀬戸美濃系陶器	天目茶碗	1 M101k11	1~ 4-2	1-283	-	6.3+	4.2	20%	褐釉 外底部付近露胎	釉:黒 露胎:浅黄橙	密 5mm程度のチャート含む	反転復元
632	図63 図版67	瀬戸美濃系陶器	志野向付	1 M10k12	1~ 4-2	1-283	12.8× 13.1	4.1		90%	長石釉 貫入 内外面鉄絵全釉 底部目痕3か所 三足	釉:灰	密	底はクロク成型 粘土板で体部を成型
633	図63	備前焼	壺	1 M10112	1~ 4-2	1-283	(12.8)	14.4	-	20%	内外面回転ナデ 肩部自然釉	灰	密 1mm前後の長石粒等含む	反転復元
634	図63	備前焼	建水	1 M10k12	1~ 4-2	1-283	(17.6)	(12.1)	(15.8)	20%	内外面回転ナデ 外面塗土・自然釉 外底部に重ね焼きの痕跡	外:暗赤褐 内:灰赤	密 1mm前後の長石粒等多く含む	反転復元
635	図63 図版67	土師質土器	皿	1 M10k111	1~ 4-2	1-283	10.9	2.2	5.4	85%	内面ヨコナデ・ナデ 外面ヨコナデ・ユビオサエ・ナデ	浅黄橙	密	口縁部スス付着 灯明皿
636	図63	土師質土器	皿	1 M10k111	1~ 4-2	1-283	11.4	2.2		80%	内面ヨコナデ・ナデ 外面ヨコナデ・ユビオサエ・ナデ	灰白	密	口縁部スス付着 灯明皿
637	図63	土師質土器	皿	1 M10k111	1~ 4-2	1-283	9.6	2.2		90%	内面ヨコナデ・ナデ 外面ヨコナデ・ユビオサエ・ナデ	灰白	密 1mm前後の砂粒含む	歪著しい
638	図63	土師質土器	焼塩壺蓋	1 M10k12	1~ 4-2	1-283	(7.0)	1.9		55%	内面ヨコナデ 外面ヨコナデ・ナデ	橙	1mm前後の長石・チャート等多く含む	反転復元
639	図63	土師質土器	焼塩壺蓋	1 M10112	1~ 4-2	1-283	(5.8)	5.0+	-	25%	内面ヨコナデ・ナデ・シボリ痕 外面ヨコナデ・ナデ	外:灰黄褐・にぶい黄橙 内:淡赤橙	密 1mm前後の長石粒等多く含む	反転復元
640	図63	肥前系磁器	染付碗蓋	1 M10n11	1~ 4-2	1-288	(9.2)	2.8	摘み径 3.8	40%	総釉 摘み端部釉剥 内外面染付	白	密	一部反転復元
641	図63 図版67	肥前系陶器	唐津皿	1 M10n11	1~ 4-2	1-288	11.2	3.7	4.0	80%	灰釉 外面下半露胎 内面鉄絵 内底部胎土目4か所	釉:にぶい黄露胎:浅黄橙	密	歪が著しい向付?
642	図63	大谷焼	壺	1 M10n11	1~ 4-2	1-288	(6.5)	7.5+	-	25%	褐釉 口縁端部釉剥 内面の一部露胎	釉:暗褐 露胎:赤	密	反転復元
643	図63 図版68	京・信楽系陶器	蓋	1 M10n11	1~ 4-2	1-288	8.5	3.9	2.3	100%	灰釉 下面露胎	釉:にぶい褐 露胎:黄褐	密	
644	図63 図版68	京・信楽系陶器	土瓶蓋	1 M10n11	1~ 4-2	1-288		2.1	3.7	80%	灰釉 下面露胎・回転ヘラケズリ	釉:オリーブ灰露胎:にぶい黄橙	密	
645	図63 図版68	瀬戸美濃系陶器?	土瓶	1 M10n11	1~ 4-2	1-288	6.6	12.4	(7.1)	60%	内面灰釉 外面黄釉 外底部露胎 外面騎馬武者の鉄絵	外:灰白・内:にぶい黄 露胎:灰白	密	被熱痕有
646	図63	土師質土器	灯明油皿	1 M10n11	1~ 4-2	1-288	6.6	1.2	3.0	85%	内面・外面上部透明釉 外底部回転糸切	釉:橙 露胎:明黄橙	密	灯芯の痕あり

報告書番号	図・図版番号	産地種類	器種	調査区地区	遺構面	遺構層位等	質量			残存率	調整・技法	色調	胎土	備考
							口径cm	高さcm	底径cm					
647	図63 図版68	土製品	遊玩具	1 M10n11	1 4-2	1-288	6.5	5.4	5.9	80%	内外面回転ナデ 外底部回転糸切	淡黄	密	ままごと道具
648	図63	土製品	遊玩具	1 M10n11	1 4-2	1-288	口径3.1	器高1.5		100%	羽釜蓋 H型の摘み 上面褐釉 下面露胎	釉:赤褐 露胎:橙	密	ままごと道具
649	図63	土製品	遊玩具	1 M10n11	1 4-2	1-288	口径4.0	器高2.9	底径2.2	98%	釜型 ロクロ成型 内面・外面体部上半緑釉・金彩文様(波濤)丁寧 外面底付近露胎	釉:緑 金 露胎:浅黄	密	玩具以外の用途も?
650	図64	肥前系磁器	染付碗	1 M10m12	1 4-2	1-291	(9.8)	5.5	3.9	35%	総釉 壘付釉剥 外面染付	白	密	反転復元
651	図64	肥前系磁器	染付小碗	1 M10m12	1 4-2	1-291	(6.7)	4.1	(3.5)	50%	総釉 壘付釉剥 外面染付	白	密	反転復元
652	図64 図版68	肥前系陶器	碗	1 M10m12	1 4-2	1-291	(10.5)	7.8	5.0	55%	灰釉 総釉 貫入 壘付釉剥	灰白	密	一部反転復元
653	図64	肥前系陶器	京焼風碗	1 M10m12	1 4-2	1-291	(8.8)	5.8	4.5	50%	灰釉 貫入 高台付近露胎 外面呉須絵 高台内刻印	釉:淡黄 露胎:灰白	密	一部反転復元
654	図64	備前焼	播鉢	1 M10n11・12	1 4-2	1-292	(31.9)	10.15	(15.4)	20%	内外面回転ナデ 播目ナナメ	明赤褐~暗赤褐	2~4mmの長石粒等含む	反転復元
655	図64	肥前系陶器	碗	1 M10h12	1 4-2	1-301	(9.3)	4.6+	-	口縁部30%	灰釉 外底部付近露胎	釉:オリープ 褐 露胎:にぶい褐	密	反転復元
656	図64	肥前系陶器	唐津碗	1 M10h12	1 4-2	1-301	-	3.3+	(4.6)	高台部30%	灰釉 高台付近露胎	釉:灰 露胎:にぶい橙	密	反転復元
657	図64	肥前系磁器	青磁香炉	1 M10h12	1 4-2	1-301	-	3.7+	6.5~6.8	100%	外面青磁釉 内面露胎 壘付釉剥・珪砂	釉:極薄い緑 露胎:灰白	密	
658	図64	備前焼	大甕	1 M10h12	1 4-2	1-301	-	-	-	-	肩部「二石」の刻印 自然釉かかる	内:にぶい赤褐 外:灰赤	1~2mmの長石粒等多く含む	
659	図64 図版68	肥前系陶器	唐津天目茶碗	1 M10h14	1 4-2	1-304	(10.9)	6.6	4.8	50%	褐釉 外面底部付近露胎	釉:黒褐 露胎:にぶい赤褐	密	一部反転復元
660	図64 図版68	肥前系陶器	唐津皿	1 M10h14	1 4-2	1-304底	(12.3)	3.8	4.4	60%	灰釉 体部下露胎 口縁部内外面に鉄釉	釉:オリープ黒・灰 露胎:にぶい赤褐	密	一部反転復元 高台内スス付着
661	図64 図版68	備前焼	播鉢	1 M10h14	1 4-2	1-304底	(29.0)	11.3	(12.5)	30%	内外面回転ナデ 播目放射状+ナナメ 播目10本/3.4cm	暗赤	密 1mm前後の長石粒等少量含む	反転復元
662	図64 図版68	備前焼	大鉢	1 M10h14	1 4-2	1-304	42.1	8.3	22.4	60%	内面回転ナデ 外面回転ナデ・回転ヘラケズリ 外底部糸切 中央窯印	赤褐	密 1~3mmの長石粒・赤色砂粒含む	
663	図64	土師質土器	皿	1 M10h14	1 4-2	1-304底	10.9	2.1		55%	内・外面ヨコナデのちナデ 外底部ユビオサエ・未調整	にぶい黄橙	密	口縁部スス付着 灯明皿
664	図64	土師質土器	小皿	1 M10h14	1 4-2	1-304底	8.2	1.5		55%	内面ヨコナデ・ナデ 外面ヨコナデ・いユビオサエ・ナデ	橙	密 1mmまでの長石粒等少量含む	灯芯の痕1か所あり 灯明皿
665	図64	土師質土器	焼塩壺蓋	1 M10h14	1 4-2	1-304底	6.6~7.0	1.9		100%	口縁部ヨコナデ 内面布目 庄痕	内:にぶい橙 外:にぶい橙	密 1mm前後の長石粒等多く含む	
666	図64 図版68	土師質土器	焼塩壺	1 M10h14	1 4-2	1-304	4.4	8.8	6.0	70%	内面ヨコナデ・シボリ 外面ヨコナデ・ナデ	橙	密 1mmまでの長石粒等中量含む	一部反転復元
667	図64 図版68	瀬戸美濃系磁器	染付碗蓋	2 M10o14	1 4-2	2-147	7.4	2.2	摘み径3.0	98%	総釉 摘み端部釉剥 内外面染付 摘み内銘	淡青灰	密	
668	図64 図版68	肥前系磁器	染付碗	2 M10o14	1 4-2	2-147	10.0	5.6	3.8	75%	総釉 壘付釉剥 外面染付 印判手	白	密	
669	図64 図版68	肥前系磁器	色絵碗	2 M10o14	1 4-2	2-147	9.8	5.6	4.0	75%	総釉 壘付釉剥 外面色絵	白	密	
670	図64 図版68	肥前系磁器	染付碗	2 M10o14	1 4-2	2-147	13.7	7.7	5.5	60%	総釉 壘付釉剥・珪砂 外面染付 高台内銘「大明年製」?	灰	密	
671	図64	肥前系磁器	染付広東碗	2 M10o14	1 4-2	2-147	(10.2)	5.7	5.8	45%	総釉 貫入 壘付釉剥 内外面染付 内底部目跡	白	密	反転復元
672	図64 図版68	肥前系陶器	陶胎染付碗	2 M10o14	1 4-2	2-147	(10.8)	8.0	5.0	65%	総釉 壘付釉剥 内面染付	灰	ざっくりしている	一部反転復元
673	図65 図版68	瀬戸美濃系磁器	染付豆角皿	2 M10o14	1 4-2	2-147	7.7×7.7	2.2	3.9×3.9	100%	全釉 壘付釉剥・珪砂 型押し成型 内面染付	白	密	
674	図65 図版68	瀬戸美濃系磁器	染付豆角皿	2 M10o14	1 4-2	2-147	7.8×7.8	2.2	3.7×3.7	90%	全釉 壘付釉剥・珪砂 型押し成型 内面染付	白	密	
675	図65	肥前系磁器	青磁鉢	2 M10o14	1 4-2	2-147	(29.6)	9.9	11.4	40%	貫入 蛇の目凹形高台 内面片切彫草文	明緑灰	密	一部反転復元
676	図65 図版68	肥前系磁器	染付長頸瓶	2 M10o14	1 4-2	2-147	(6.9)	6.2	3.8	70%	外底部付近露胎 外面染付	淡青灰	密	一部反転復元
677	図65 図版68	肥前系磁器	染付長頸瓶	2 M10o14	1 4-2	2-147	3.7	27.6	(8.9)	40%	外面総釉 壘付釉剥 内面下半露胎 外面染付	釉:淡青灰 露胎:灰白	密	一部反転復元
678	図65 図版68	肥前系磁器	染付杯	2 M10o14	1 4-2	2-147	4.7	2.7	3.0	90%	口縁端部から内面上部露胎 外面染付	釉:淡青灰 露胎:白	密	
679	図65 図版68	肥前系陶器	唐津碗	2 M10o14	1 4-2	2-147	(8.8)	4.8	3.0	45%	灰釉 外底部付近露胎 回転糸切	釉:灰オリープ 露胎:灰黄褐	密	一部反転復元
680	図65 図版68	瀬戸美濃系陶器	香炉	2 M10o14	1 4-2	2-147	9.7	4.6	7.3	90%	灰釉 内外底部付近露胎・回転ヘラケズリ	釉:灰オリープ 露胎:淡黄	密	
681	図65 図版69	京・信楽系陶器	蓋	2 M10o14	1 4-2	2-147	9.1	4.6	摘み径3.5	100%	上面灰釉・イッチン文様・タンパン掛け 下面露胎	釉:灰オリープ 露胎:にぶい黄橙	密	天井部に釘付着
682	図65 図版69	京・信楽系陶器	土瓶	2 M10o14	1 4-2	2-147	10.5	12.5+	-	80%	灰釉 口縁端部・外底部・内面底体部露胎 外面イッチン文様タンパン掛け	釉:オリープ 灰 露胎:淡黄	密	一部反転復元
683	図65	堺・明石施釉陶器	播鉢	2 M10o14	1 4-2	2-147	(34.8)	15.3	(17.4)	15%	口縁部回転ナデ 外面体部回転ヘラケズリ 播目8本/3.3cmを密に重ねる	暗赤褐	密	反転復元
684	図65 図版69	備前焼	水指	2 M10o14	1 4-2	2-147	(14.6)	14.5	9.5~10.3	70%	外面回転ナデ ヘラケズリ 内面回転ナデ・ナデ	暗赤褐	密 2~3mmの長石粒等含む	歪著しい 一部反転復元
685	図65	土師質土器	皿	2 M10o14	1 4-2	2-147	10.4	2.0	6.1	85%	内面回転ナデ・ナデ 外面回転ナデ・ナデ 外底部回転糸切	浅黄橙	密	



報告書番号	図・図版番号	産地種類	器種	調査区地区	遺構面	遺構層位等	法量			残存率	調整・技法	色調	胎土	備考
							口径 cm	高さ cm	底径 cm					
686	図65	土師質土器	皿	2 M10o14	1~4-2	2-147	10.6	2.0		95%	外面回転ナデ・回転系切内面回転ナデ	黒~浅黄橙	密	口縁部全体にスス 灯明皿
687	図65	土師質土器	皿	2 M10o13	1~4-2	2-147アゼ	11.7	2.0		90%	外面ヨコナデ・ユビオサエ・ナデ 内面ヨコナデ・ナデ	浅黄橙	密	
688	図65	土師質土器	小皿	2 M10o14	1~4-2	2-147	(6.0)	2.25	3.7	70%	口縁・体部回転ナデ 内底部ナデ 外底部回転系切	浅黄橙	密	一部反転復元
689	図65	土師質土器	焙烙	2 M10o14	1~4-2	2-147	(30.0)	3.2+	(29.8)	20%	把手部肥厚 上方から小穴・貫通しない 外底部以外回転ナデ	橙	2~4mmの赤色砂粒多く含む	反転復元
690	図66 図版69	瓦質土器	火鉢	2 M10o14	1~4-2	2-147	22.4	21.0	16.0	90%	回転ナデ 外面体部亀甲状・獅子頭	暗灰	密	一部反転復元
691	図66 図版69	土製品	遊玩具	2 M10n14	1~4-2	2-147	5.6	4.6	1.5	90%?	方形火鉢? 上面灰釉・緑釉 把手?欠損 型押し成	暗緑灰にぶい橙	密	ままごと道具
692	図66	肥前系磁器	染付碗	2 M10y12	1~4-2	2-213	(11.6)	6.4	(4.8)	35%	総釉 墨付釉刺 外面染付	白	密	反転復元
693	図66	肥前系磁器	染付蕎麦猪口	2 M10y12	1~4-2	2-213	-	5.4+	4.6	30%	総釉 墨付釉刺 外面染付	白	密	一部反転降K元
694	図66	肥前系陶器	甕	2 M10y12	1~4-2	2-213	(33.6)	9.1+	-	5%以下	斑に灰釉がかかる 内外面回転ナデ	釉:淡黄~オリープ黄 露胎:灰黄褐	密	反転復元
695	図66	肥前系磁器	染付皿	2 M10y12	1~4-2	2-214	(12.8)	2.6	(7.4)	30%	総釉 墨付釉刺 内外面染付	淡青灰	密	反転復元
696	図66 図版69	肥前系陶器	唐津折縁皿	2 M10x11	1~4-2	2-234	(13.2)	4.0	4.6	55%	灰釉 貫入 外底部付近露胎 内底部砂目4か所	釉:オリープ灰 露胎:灰黄褐	密	一部反転復元
697	図66	京・信楽系陶器	蓋	2 M10n12	1~4-2	2-255	(8.2)	0.9	(6.6)	30%	灰釉 貫入 総釉 口縁端部付近釉刺	淡黄	密	反転復元
698	図66 図版69	肥前系磁器	染付碗蓋	2 M10n12	1~4-2	2-256	10.2	3.1	摘み径4.0	90%	総釉 貫入 摘み端部釉刺 内外面染付	灰白	密	
699	図66	肥前系磁器	杯	2 M10n12	1~4-2	2-256	5.6	2.3	2.15	85%	総釉 墨付釉刺	灰白	密	
700	図66 図版69	京・信楽系陶器	土瓶蓋	2 M10n12	1~4-2	2-256	4.5	1.7	3.0	90%	褐釉 下面露胎	釉:暗赤褐 露胎:灰褐	密	
701	図66	京・信楽系陶器	鍋	2 M10n12	1~4-2	2-256	(20.0)	11.15	(8.2)	20%	灰釉 貫入 外底部付近露胎	釉:灰白 露胎:灰黄	密	スス多く付着 反転復元
702	図66 図版69	丹波焼	鉄漿壺	2 M10n12	1~4-2	2-256	(7.6)	9.2	(7.6)	30%	片口 褐釉 外底部・内面底部露胎	釉:暗赤褐 露胎:にぶい橙	1mmまでの長石粒等多く含む	内面鉄錆付着
703	図66	堺・明石系陶器	播鉢	2 M10n12	1~4-2	2-256	-	7.6+	-	10%以下	口縁部横ナデ 外面体部回転ヘラケズリ 播目9本/3.2cm	内:赤灰 外:暗赤褐	密	
704	図72 図版69	瀬戸美濃系陶器	皿	1 M10i15	5-2	1-220	10.4	2.2	5.7	90%	灰釉 内底部・高台内露胎 トチンの痕跡あり	釉:明緑灰	密	
705	図72	備前焼	播鉢	1 M10i15	5-2	1-220	-	7.9+	(12.6)	10%	内外面回転ナデ 播目タテ・ナナム	内:黄灰 外:灰	2~5mmの軟質砂粒多い	反転復元
706	図72	瀬戸美濃系陶器	天目茶碗	1 M10h15	5-2	1-221 1層	(11.0)		6.2+	10%	褐釉 外底部付近露胎	釉:にぶい褐・黒 露胎:淡黄	ざっくりしている	反転復元
707	図72	土師質土器	小皿	1 M10g15	5-2	1-228	(8.4)	1.9		30%	内面ヨコナデ・ナデ 外面ヨコナデ・ユビオサエ・未調整	橙	密	歪著しい 2次焼成を受ける
708	図72	土師質土器	小皿	1 M10g15	5-2	1-229	7.7~8.2	2.2		100%	内面ヨコナデ・ナデ 外面ヨコナデ・ユビオサエ・ナデ	にぶい黄橙・褐 灰・黒	密	歪著しい 全体的に煤ける
709	図72 図版69	中国製磁器	染付芙蓉手皿	1 M10j15	5-2	1-234	(31.4)	5.4	(16.4)	40%	総釉 墨付釉刺 内外面染付	淡青灰	密	反転復元 景德鎮窯
710	図72 図版69	瀬戸美濃系陶器	天目茶碗	1 M10	5-2	1-264	(11.6)	6.2	(4.0)	45%	褐釉 高台付近露胎	釉:褐~黄灰 露胎:黄褐	密	反転復元 内底部茶先傷
711	図72	土師質土器	甕	1 M10	5-2	1-264	(14.2)	4.0+		10%以下	口縁部ヨコナデ 内面体部板状工具ナデ 外面体部ナデ	にぶい黄橙	密 微砂粒・金雲母含む	反転復元
712	図72	中国製磁器	白磁端反碗	1 M10j14	5-2	1-266	(11.5)	2.8+	-	10%以下		灰白	密	反転復元 景德鎮窯
713	図72	備前焼	播鉢	1 M10g14	5-2	1-303	(29.0)	9.7+	-	15%	内外面回転ナデ 播目ナナム8本/2.6cm	外:灰白~灰 内:灰黄褐	1~5mmの長石粒等多く含む	反転復元 使用痕跡著
714	図72	土師質土器	小皿	1 M10g14	5-2	1-303	7.8	1.5		80%	内面ナデ 外面ユビオサエ・ナデ	橙	1mm前後の片岩・赤色砂粒含む	口縁部スス付着 灯明皿
715	図72	土師質土器	小皿	1 M10h14	5-2	1-305 北半	8.4	1.6		100%	内面ナデ 外面ユビオサエ・ナデ 外底面に板状の圧痕	外:橙 内:にぶい褐	1mm前後の片岩粒・赤色砂粒含む	内面全体煤けている
716	図72	土師質土器	小皿	1 M10h14	5-2	1-305 北半	7.5~9.2	1.8		100%	内面ナデ 外面ユビオサエ・ナデ 外底面に板状の圧痕	にぶい橙	1~2mmの長石粒・赤色砂粒含む	歪著しい 口縁部スス 灯明皿
717	図72 図版69	中国製磁器	染付皿	1 M10h11	5-2	1-310	11.6~11.8	3.2	5.0	95%	高台付近露胎 内外面染付	釉:灰白 露胎:灰白	密	漳州窯
718	図72	土師質土器	小皿	1 M10g12	5-2	1-314	(8.4)	1.75		50%	内面ヨコナデ・ナデ 外面ヨコナデ・ユビオサエ・ナデ	橙	1~5mmの長石・片岩粒等多く含む	反転復元
719	図72	瓦質土器	甕	1 M10g12	5-2	1-314	-	4.4+	-	10%以下	体部ヨコ方向平行タタキ内面横ハケ	灰白	1~2mmの長石粒等多く含む	
720	図72	須恵器	短頸壺	1 M10n10	5-2	大溝	-	3.3+		20%	内面回転ナデ 外面体部回転ナデ・ナデ 外底部ヘラケズリ	灰	1mm前後の長石粒等含む	反転復元
721	図72	中国製磁器	白磁端反皿	1 M10o11	5-2	大溝	(12.2)	2.7	(6.6)	25%	総釉 墨付釉刺	白	密	反転復元 景德鎮窯
722	図72	中国製磁器	染付端反皿	1 M10o11	5-2	大溝	(10.6)	2.6	(4.4)	30%	貫入 高台付近露胎 内外面染付	釉:灰白 露胎:淡黄	密	反転復元 漳州窯
723	図72	備前焼	播鉢	1 M10n10	5-2	大溝	(25.0)	6.0+	-	10%以下	内外面回転ナデ 播目9本/2.4cm	にぶい赤褐~灰	粗い 1~2mmの長石粒等多く含む	反転復元
724	図72 図版69	中国製磁器	染付端反碗	2 M10m14	5-2	2-205	(12.1)	4.8+		15%	内外面染付	白	密	反転復元 景德鎮窯
725	図72	朝鮮王朝?白磁	皿	2 M10m14	5-2	2-205	(16.2)	1.8+	-	10%以下	貫入	灰白	密	反転復元

報告書番号	図・図版番号	産地種類	器種	調査区地区	造構面	造構層位等	法量			残存率	調整・技法	色調	胎土	備考
							口径cm	高さcm	底径cm					
726	図72	備前焼	播鉢	2 M10m13	5-2	2-205	(29.0)	12.6+	-	20%	内外面回転ナデ 播目ナメ・タテ 10本/3.4cm	にぶい赤褐	密 2~6mmの砂粒少量含む	反転復元
727	図72	土師質土器	小皿	2 M10m14	5-2	2-205	8.0	1.7	-	50%	内面ナデ 外面ヨコナデ・ユビオサエ・ナデ	橙	密	歪著しい
728	図72	瀬戸美濃系陶器	天目茶碗	2 M10m16	5-2	2-236アゼ南	(10.2)	4.6+	-	10%以下	褐釉	釉:黒褐	密	反転復元
729	図79 図版69	瓦器	椀	1 M10k13	7	1-340	(15.8)	5.6	(5.9)	40%	内面ヨコナデ・ヘラミガキ内底部分割ヘラミガキ 外面ヨコナデ・ユビオサエのち粗いヘラミガキ	内:灰 外:灰白~灰	密	反転復元
730	図79	瓦器	椀	1 M10i11	7	1-340	(15.2)	5.3	(6.6)	40%	内外面横密なヘラミガキ見込み部分割ジグザグ状ヘラミガキ	内:灰 外:灰銀	密	反転復元
731	図79 図版69	瓦器	椀	1 M10j12	7	1-340	(16.2)	5.6~6.5	6.1~6.2	45%	内面密なヘラミガキ 外面口縁部ヨコナデ・ヘラミガキ体部ユビオサエのちヘラミガキ	灰白~灰	密	一部反転復元 やや焼成不良
732	図79	土師器	杯	1 M10i14	7	1-340	(12.8)	3.3	-	25%	口縁部ヨコナデ 外面底体部ユビオサエ・ナデ	橙	密	反転復元
733	図79	土師器	皿	1 M10h14	7	1-340	(10.8)	2.1	6.8	65%	外面多段ヨコナデ	にぶい橙	1~3mmの長石粒・赤色酸化粒含む	一部反転復元
734	図79 図版69	土師器	皿	1 M10h15	7	1-340	(10.6)	2.3	7.1	70%	外面多段ヨコナデ	橙	1mm前後の赤色砂粒・長石粒多く含む	反転復元
735	図79	土師器	甕	1 M10h14	7	1-340	(17.4)	5.6+	-	口縁部10%	内面板状工具ナデ・ヨコナデ 外面ヨコナデ・ユビオサエ・ヘラケズリ	にぶい橙	1~2mmの長石・金雲母多く含む	反転復元
736	図79	土師器	甕	1 M10h14	7	1-340	(23.8)	10.3+	-	10%以下	外面口縁部から内面ヨコナデ 外面体部タテハケ	にぶい褐	1~3mmの長石・片岩粒多い	反転復元
737	図79	土師器	甕	1 M10j13	7	1-340	(26.4)	6.7+	-	10%以下	内面ヨコナデ 外面粗いユビオサエ	にぶい橙	粗い 1~3mmの長石粒等多い	外面スス付着
738	図79	土師器	甕	1 M10h14	7	1-340	(24.5)	3.0+	-	口縁部40%	口縁部ヨコナデ 頸部タテ方向の板状工具ナデ	橙	密 1mm前後のクサリ礫含む	反転復元
739	図79	埴輪	石見型	1 M10h14	7	1-340	9.2+	7.3+	-	-	形象部の基部 ナデ	にぶい黄橙	片岩・黒雲母・石英含む	
740	図79 図版69	土製品	土錘	1 M10h15	7	1-340	長さ7.0	幅5.1	高さ4.7	90%	棒状のものに粘土を巻いて成型 孔径2.0cm	灰黄~黄灰	密	
741	図79	須恵器	杯身	1 M10h13	7	1-341	(12.6)	3.1+	-	20%	内面回転ナデ 外面回転ナデ・回転ヘラケズリ	内:灰白 外:灰	1mm前後の長石・チャート粒を含む	反転復元 焼成不良
742	図79 図版69	瓦器	椀	1 M10i12	7	1-346	(15.2)	5.0+	-	35%	内面ヘラミガキ 外面ユビオサエのちヘラミガキ	暗灰	密 1mm前後の長石粒等少量含む	反転復元
743	図79	土師器	羽釜	1 M10j13	7	1-346	-	2.6+	-	10%以下	外面回転ナデ	灰黄褐	1~3mmの赤色砂粒・長石粒等多く含む	反転復元
744	図79 図版69	土師器	椀	1 M10i13	7	1-347	(12.6)	3.6	5.2	45%	外面多段ヨコナデ	にぶい橙	1~3mmの赤色砂粒・長石粒等多く含む	反転復元
745	図79	瓦器	椀	1 M10i13	7	1-347	(15.0)	4.4+	-	15%	内面密なヘラミガキ 外面ユビオサエ・密なヘラミガキ	黒	密 2mmの長石粒含む	反転復元
746	図79	土師器	甕	1 M10h13	7	1-347	-	4.7+	-	10%以下	内面ヨコナデ 外面口縁部横ハケ 体部縦ハケ	にぶい黄褐	粗い 1~3mmの長石粒等多く含む	内外面スス多く付着
747	図79	瓦器	椀	2 M10r16	7	2-239	-	1.8+	5.7	高台部60%	内面ヘラミガキ?	暗灰	密 1mm前後の砂粒少量含む	反転復元
748	図79	須恵器	壺?	1 M10i12	8	1-364	-	2.5+	(7.0)	高台部35%	内外面回転ナデ 高台内静止采切?	灰	φ~1mmの長石・チャート含む	反転復元
749	図79	黒色土器A	椀	2 M10n13	8	2-242(1-364)	(13.6)	4.1	(5.0)	15%	内面ヨコナデ・下半ヘラミガキ 外面ヨコナデ	内:黒 外:にぶい黄橙	1~2mmの長石粒等含む	反転復元
750	図79	黒色土器A	鉢	2 M10m12	8	2-242(1-364)	(19.0)	6.0	(8.9)	20%	口縁部ヨコナデ 摩滅	外:橙 内:黒	1mm前後の長石・赤色砂粒等含む	反転復元
751	図79	土師器	皿	2 M10i12	8	2-242(1-364)	(12.8)	3.0	(7.2)	10%	内外面回転ナデ?	にぶい橙	1mm前後の赤色酸化粒多く含む	反転復元
752	図79	土師器	甕	2 M10i12	8	2-242(1-364)	(23.2)	3.8+	-	10%以下	内面剥離 外面口縁部ヨコナデ	にぶい橙	1~5mmの長石・片岩等多量に含む	反転復元 外面スス多量に付着
753	図79	土師器	竈	2 M10i12	8	2-242(1-364)	-	-	-	-	ヨコナデ・ナデ	明赤褐	1~5mmの長石・片岩等多量に含む	
754	図82	瀬戸美濃系陶器	碗	2 M10	1上	整地土	(8.8)	6.1	4.4	60%	褐釉 総釉 墨付釉剥	黒~褐	ざっくりしている	反転復元
755	図82	土製品	遊玩具土人形	2 M10	1上	整地土	7.3	3.8	3.2	100%	雀型合わせ成形 キラコ付着中実 底に棒を刺し込む穴	橙	密	
756	図82	肥前系磁器	染付広東碗	2 M10n13	2上	整地土	(11.2)	6.2	6.0	55%	総釉 貫入 墨付釉剥 内外面染付	淡青灰	密	反転復元
757	図82	瀬戸美濃系磁器	染付小碗	2 M10n13	2上	整地土	(8.1)	4.6	3.1	55%	総釉 墨付釉剥 内外面染付	白	密	
758	図82	肥前系陶器	平仄	1 M10k13	2上	整地土	(3.8)	2.8	2.6	65%	褐釉 外底部露胎	釉:褐灰 露胎:にぶい赤褐	密	一部反転復元
759	図82	堺・明石系陶器	播鉢	2 M10o14	2上	整地土	(34.6)	5.7+	-	10%以下	外面口縁部から内面回転ナデ 外面体部回転ヘラケズリ 播目8本/2.6cm	極暗赤褐	密 1~5mmの長石粒等含む	反転復元
760	図82	土師質土器	焙烙	2 M10n14	2上	整地土	(33.0)	4.2+	(33.6)	20%以下	把手部肥厚 外面体部から内面にかけて回転ナデ	外面:黒褐 内面:橙	密	反転復元
761	図82	土師質土器	焼塩蓋	2 M10n14	2上	整地土	7.3	2.5	-	98%	外面ヨコナデ・ナデ 内面布目	にぶい橙 二次焼成で一部黒	1mm前後の長石・赤色砂粒・金雲母含む	

報告書番号	図・図版番号	産地種類	器種	調査区地区	造構面	造構層位等	法量			残存率	調整・技法	色調	胎土	備考
							口径cm	高さcm	底径cm					
762	図82 図版70	土師質 土器	焼塩壺	2 M10n13	2上	整地土	5.0	7.0	4.6	100%	内面ゴザ状圧痕・ナデ 外面ナデ	にぶい橙	1mmまでの長石・ 赤色砂粒・金雲 母含む	
763	図82 図版70	肥前系 磁器	玩具 皿?	1 M10i13	2上	整地土	3.2	9.9	1.4	100%	外底部・口縁部露胎	白	密	ままごと道具
764	図82 図版70	土製品	遊玩具	2 M10014	2上	整地土	口径 2.8	高さ 2.3	底径 1.4	100%	羽釜 型合わせ成型?後ナ デ キラコ付着	にぶい橙	密	ままごと道具
765	図82	土製品	遊玩具	2 M10n15	2上	整地土	4.8+	2.4+		把手部 100%	褐釉 行平鍋の取手	黒褐	密	ままごと道具
766	図82 図版70	瀬戸美濃系 陶器	輪花皿	2 M10m16	3上	整地土	(8.0)	2.2	4.1	40%	褐釉に灰釉を流し掛け 高 台付近露胎 高台内墨書 「廣山」	釉:黒褐へにぶい 赤褐・オリブ黄 露胎:灰黄	密	一部反転復元
767	図82	在地系 陶器	土瓶 蓋	1 M10f13	3上	整地土	-	2.4	4.0	50%	灰釉 下面露胎 底部回転 糸切 摘み亀の形状	釉:灰白 露胎: 橙	密	反転復元 下面 墨書・落書き
768	図82 図版70	土師質 土器	焼塩壺	2 M10o14	3上	整地土	6.2	10.7	5.5	98%	内面ヨコナデ・ユビオサエ・ ナデ・シボリ 外面ヨコナ デ・ナデ	橙	1mmまでの長石・ チャート粒等多 い	刻印 「天下・・・」
769	図82 図版70	肥前系 磁器?	水滴	2 M10i16	3上	整地土	5.0	4.5	2.0	100%	貝と蟹の意匠 底面無釉 孔2か所	明青灰 灰白	密	
770	図82 図版70	土製品	遊玩具	2 M10013	3上	整地土	口径 5.0	器高 1.6	底径 2.8	98%	注口皿? ロコ成形 キ ラコ付着 底部糸切	にぶい黄橙	密	ままごと道具
771	図82 図版70	土製品	遊玩具	2 M10n16	3上	整地土	3.1	1.3		100%	容器蓋 宝珠様のつまみ 上面施釉 下面露胎・ヘラ ケズリ	釉:オリブ 露胎:灰黄	密	ままごと道具
772	図82 図版70	土製品	遊玩具 土人形	2 M10n13	3上	整地土	4.4+	2.6	2.5	下部欠 損	人物(南蛮人?) 水滴の可能 性もあり(孔2個所) 黒 釉 緑釉	オリブ黒 オリブ褐	密	
773	図82	肥前系 磁器	染付 碗	2 M10n15	4-1 上	整地土	(10.2)	7.6	4.8	35%	総釉 壘付釉剥 外面染付	淡青灰	密	一部反転復元
774	図82 図版70	瀬戸美濃系 陶器	天目茶碗	2 M10n16	4-1 上	整地土	(11.4)	8.1	4.3	60%	褐釉 高台付近露胎・回転 ヘラケズリ	釉:黒褐 露胎: 灰黄	密	一部反転復元
775	図82 図版70	瀬戸美濃系 陶器	天目茶碗	2 M10	4-1 上	整地土	(10.2)	7.3	4.5	70%	褐釉 鉄釉流し掛け 高台 部付近露胎	釉:赤褐・黒 露 胎:灰黄	密	一部反転復元
776	図82 図版70	瀬戸美濃系 陶器	志野 鉄絵皿	1 M10k13	4-1 上	整地土	(10.0)	2.4	5.7	45%	長石釉 貫入 総釉 内面 鉄絵 高台内に胎土目3か所 以上	灰白	微砂粒多い 1 mm前後の赤色砂 粒含む	反転復元
777	図82 図版70	瀬戸美濃系 陶器	菊皿	1 M10i13	4-1 上	整地土	18.3	3.7	10.0	80%	灰釉 貫入 総釉 内底部 胎土目4か所 高台内輪状の 重焼き痕	オリブ黄	密	
778	図82	肥前系 陶器	唐津 皿	2 M10n14	4-1 上	整地土	(14.2)	3.2	4.5	40%	灰釉 貫入 高台付近露胎 内底部砂目3か所	釉:灰オリブ 露胎:灰白	密	一部反転復元
779	図82 図版70	肥前系 陶器	唐津 折縁皿	2 M10o14	4-1 上	整地土	11.7~ 12.1	2.5~ 3.2	4.0	100%	褐釉 外面下半露胎 内面 輪状に砂目	釉:にぶい赤褐へ 黒褐 露胎:灰黄	密	焼歪著しい 冷め割れあり
780	図82 図版70	肥前系 陶器	唐津 折縁皿	1 M10f13	4-1 上	整地土	12.7	2.5	5.4	100%	褐釉 外面底面部露胎 内 底部・高台部砂目4か所	釉:極暗赤褐 露 胎:暗褐	密	
781	図82 図版70	肥前系 陶器	唐津 皿	2 M10o14	4-1 上	整地土	10.4	2.6~ 3.0	3.6	98%	灰釉 貫入 外面下半露胎	釉:オリブ 灰 露胎:にぶい黄	密	
782	図82 図版70	肥前系 陶器	唐津 向付	1 M10g14	4-1 上	整地土	12.9	4.4	3.7	65%	灰釉 外底部露胎 内面鉄 絵・胎土目3か所以上	釉:オリブ 露 胎:褐	密	
783	図83 図版70	肥前系 陶器	唐津 蓋	1 M10k13	4-1 上	整地土	9.2	2.4	摘み径 1.1	90%	灰釉 上面白土で刷毛目 下面口縁部以外露胎 中央 部回転糸切	釉:灰白・にぶい 褐 露胎:橙	密 1mmまでの 白色微砂粒多い	
784	図83	丹波焼	鉢	2 M10n14	4-1 上	整地土	(30.0)	6.1	(20.6)	30%	内面回転ナデ・ナデ 外面 回転ナデ・ユビオサエ	暗赤褐	やや粗い 2~5 mmの砂粒等多く 含む	反転復元
785	図83	土師質 土器	皿	2 M10	4-1 上	整地土	(10.4)	2.45	(6.0)	50%	内面回転ナデ・ナデ 外面 回転ナデ・ナデ 外底部回 転糸切	浅黄橙	密	反転復元
786	図83	土師質 土器	小皿	2 M10n14	4-1 上	整地土	7.2~ 8.0	2.2		90%	内面ヨコナデ・ナデ 外面ヨ コナデ・ユビオサエ・ナデ	内:橙 外:浅黄 橙	1~5mmの長石・ 片岩等多く含む	歪著しい
787	図83	土師質 土器	小皿	1 M10h13	4-1 上	整地土	7.4~ 7.8	1.7		98%	内面ヨコナデ・ナデ 外面ヨ コナデ・ユビオサエ・ナデ	橙	1~3mmの長石粒 等多く含む	歪む 灯芯跡 2か所 灯明 皿
788	図83	土師質 土器	小皿	2 M10n14	4-1 上	整地土	7.5~ 7.8	1.7		98%	内面ヨコナデ・ナデ 外面ヨ コナデ・ユビオサエ・ナデ	橙	粗い 1~5mmの 長石粒等多量に 含む	歪著しい
789	図83	土師質 土器	焙烙	2 M10n16	4-1 上	整地土	23.0	8.0		60%	口縁部・内面体部ヨコナデ 内外底部ナデ 外面体部平 行タタキ	にぶい赤褐	1mmまでの長石 等含む	一部反転復元
790	図83	土師質 土器	焼塩壺 蓋	2 M10n15	4-1 上	整地土	7.0	1.9		95%	内外面ヨコナデ ナデ	橙	1mmまでのチャート 等多く含む	
791	図83 図版70	土師質 土器	焼塩壺	2 M10n14	4-1 上	整地土	5.4	9.0	4.1	90%	外面ヨコナデ・ナデ 内面 布目ユビオサエ 板ナデ 内面ヨコナデ・ユビオサエ・ ナデ・布目	内:赤橙 外:に ぶい黄橙	1~2mmの長石・ チャート等含む	
792	図83 図版70	土師質 土器	焼塩壺	2 M10o16	4-1 上	整地土	5.2	8.9	4.1	98%	内面ヨコナデ・ユビオサエ・ ナデ 外面ヨコナデ・ナデ	にぶい橙	1~2mmの長石・ チャート等含む	
793	図83	瓦質土器	火鉢	2 M10o15	4-1 上	整地土	-	12.2+	(18.5)	30%	内面ユビオサエ・ナデ 外面 ハケ・回転ナデ・ユビオサエ 三脚	灰	密	反転復元
794	図83 図版70	土製品	遊玩具 土人形	2 M10n15	4-1 上	整地土	6.9	3.4	4.6	片耳・ 三足欠	犬 手捻り成形	灰黄	密	
795	図83 図版70	肥前系 磁器	碗	2 M10o15	4-2 上	整地土	(10.6)	7.2	4.5	65%	総釉 壘付釉剥・珪砂 外 面体部印刻	淡青灰	密	一部反転復元
796	図83 図版70	肥前系 陶器	碗	2 M10o15	4-2 上	整地土	(12.1)	8.3	(4.3)	60%	灰釉 総釉 壘付釉剥	釉:灰白	密	反転復元
797	図83 図版70	肥前系 陶器	唐津 向付	2 M10o15	4-2 上	整地土	11.8	4.3	3.9	65%	灰釉 貫入 内面鉄絵 外 底部付近露胎	釉:暗オリブ褐 露胎:暗赤褐	ざっくりしている	
798	図83	肥前系 陶器	唐津 折縁皿	2 M10o15	4-2 上	整地土	12.0	3.4	4.4	50%	灰釉 貫入 外面底面部露 胎 内底部砂目3か所	釉:灰オリブ 露胎:にぶい黄褐	ざっくりしている	
799	図83	瀬戸美濃系 陶器	志野 皿	2 M10o15	4-2 上	整地土	(12.3)	2.35	(7.8)	35%	長石釉 総釉 貫入 内面 鉄絵	灰白	ざっくりしている	反転復元

報告書番号	図・図版番号	産地種類	器種	調査区地区	遺構面	遺構層位等	法量			残存率	調整・技法	色調	胎土	備考
							口径cm	高さcm	底径cm					
800	図83	備前焼	建水	1 M10f15	4-2上	整地土	(13.9)	6.8+	-	口縁部40%	内面回転ナデ 外面回転ナデ・ナデ	内:灰白 外:赤褐	密	反転復元
801	図83	土師質土器	皿	2 M10n14	4-2上	整地土	14.3	2.4	8.2	60%	内面回転ナデ・ナデ 外面回転ナデ・ナデ・ユビオサエ	にぶい黄橙	1mm前後の砂粒含む	
802	図83	土師質土器	皿	2 M10i13	4-2上	整地土	(12.4)	2.2		50%	内面回転ナデ・ナデ 外面回転ナデ・ユビオサエ・ナデ	浅黄橙	1~2mmの長石等含む	反転復元
803	図83	土師質土器	皿	2 M10i13	4-2上	整地土	10.2	2.4		98%	内面ヨコナデ・外面ヨコナデ・ユビオサエ・ナデ	橙	1mm前後の長石等多く含む 金雲母含む	歪著しい
804	図83	土師質土器	皿	2 M10i13	4-2上	整地土	9.2~9.5	2.35		85%	内面回転ナデ・ナデ 外面回転ナデ・ユビオサエ・ナデ	にぶい橙・橙	1mm前後の長石等含む	歪著しい
805	図83	土師質土器	小皿	2 M10i13	4-2上	整地土	7.7	1.5		65%	内面ヨコナデ・ナデ 外面ヨコナデ・ユビオサエ・ナデ	にぶい褐	粗い 1~5mmの長石・片岩含む	歪著しい
806	図83	中国製磁器	染付碗	2 M10	5-2上	整地土	(13.0)	4.1+		10%以下	内外面染付	白	密	反転復元
807	図83	中国製磁器	染付碗	1 M10j15	5-2上	整地土	-	-	-	10%以下	貫入 内外面染付	灰黄	密	漳州窯 呉須手
808	図83	中国製磁器	白磁輪花皿	1 M10g16	5-2上	整地土	12.1~13.0	3.9	5.2	65%	貫入 高台付近露胎 内底部蛇の目釉刺	釉:灰白 露胎:灰白~淡黄	密	反転復元
809	図83	中国製磁器	白磁輪花皿	1 M10j15	5-2上	整地土	(12.8)	3.15+		10%	外底部露胎 貫入	釉:灰白 露胎:にぶい黄橙	密	反転復元
810	図83	備前焼	播鉢	2 M10m14	5-2上	整地土	-	7.5+	(10.9)	10%	内外面回転ナデ 播目タテ・ナナメ	にぶい赤褐	密 1mm前後の長石等含む	反転復元
811	図83	土師質土器	小皿	1 M10j14	5-2上	整地土	7.8	1.8	6.1	100%	内面ヨコナデ・ナデ 外面ヨコナデ・ユビオサエ・ナデ	黄橙	密 1mmまでの長石・金雲母粒等含む	
812	図83	土師質土器	焙烙	1 M10j16	5-2上	整地土	-	-	-	5%以下	回転ナデ	橙	1mm前後の赤色砂粒・長石粒含む	
813	図83	瓦質土器	羽釜	1 M10j14	5-2上	整地土	-	8.3+	-	10%	内面回転ナデ 外面回転ナデ・ヘラクスリ・ナデ	灰	1mmまでの白色砂粒多い	反転復元
814	図83	中国製磁器	青磁碗	1 M10k13	6-1上	耕作土包含層	-	-	-	10%以下	貫入 線描蓮弁文	オリーブ灰	密	龍泉窯
815	図83	中国製磁器	青磁碗	2 M10v15	6-2上	耕作土包含層	-	-	-	10%以下	縮蓮弁文	暗オリーブ	密	龍泉窯
816	図84 図版70	瓦器	碗	1 M10j11	7上	耕作土包含層	(16.6)	5.5	(6.7)	25%	内面ヨコナデ・ヘラミガキ 外面ヨコナデ・ユビオサエ・ヘラミガキ	暗灰	密 微砂粒含む	反転復元
817	図84	土師器	竈	1 M10i12	7上	耕作土包含層	-	10.0+	-	10%以下	ヨコナデ・ナデ	くすんだ赤みの黄	密 1~4mmの長石・片岩粒等多く含む	
818	図84	須恵器	甕	2 M10	7上	耕作土包含層	-	10.5+		口縁部10%	内外面回転ナデ 口縁部外面凹線間に楕圓刺突文	内:灰 外:暗灰	密	
819	図84	弥生土器	甕	2 M10i16	7上	耕作土包含層	-	3.0+	(7.2)	底部の30%	底端部突出 ユビオサエ	外:橙 内:黒	密 2~5mmの長石・片岩等多く含む	反転復元 紀伊型甕?
820	図84	土師器	高坏	2 M10y14	7上	耕作土包含層	-	10.2+	(12.8)	70%	脚柱部中空 脚柱部から裾部ハケ 内面ユビオサエ・シボリ	橙	密	一部反転復元
821	図84	土製品	土錘	2 M10x11	7上	耕作土包含層	長さ6.0+	幅1.5	厚さ1.1	90%	棒状で両端に孔	明赤褐	密	
822	図84	黒色土器A	碗	1 M10g16	8上	耕作土包含層	(19.0)	(8.0)	(10.0)	30%	内面ヨコナデ・ヘラミガキ 外面ヨコナデ・ナデ	内:黒褐 外:橙	密 1mm前後の赤色酸化粒含む	反転・合成復元
823	図84	黒色土器B	碗	1 M10j14	8上	耕作土包含層	(13.8)	3.9+		10%以下	口縁端部付近ヨコナデ・内面沈線 内外面横方向密なヘラミガキ 外面下方はナナメヘラミガキ	黒	密	反転復元
824	図84	黒色土器B	碗	1 M10i11	8上	耕作土包含層	-	1.4+	7.1	底部90%	摩滅	暗灰黄	密 1mmまでの微砂粒含む	
825	図84	黒色土器A	碗	1 M10h13	8上	耕作土包含層	-	2.4+	(7.6)	高台部30%	ヨコナデ	内面:黒 外面:橙	密 φ~2mmの長石・赤色酸化粒含む	反転復元
826	図84	土師器	皿	2 M10o13	8上	耕作土包含層	(16.0)	2.7	(13.0)	20%	口縁・体部回転ナデ 外底部へラ先による押さえ	橙	密 3mm大の片岩含む	古代
827	図84	土師器	碗	1 M10i12	8上	耕作土包含層	-	1.7+	7.4	高台部50%	内面摩滅 外面回転ナデ	浅黄橙	密 1~3mmの片岩粒等含む	一部反転復元
828	図84	土師器	盤?	1 M10h15	8上	耕作土包含層	-	1.8+	9.0	底部60%	内面ヘラミガキ 外面ヨコナデ	にぶい黄橙	密 1~2mmの砂粒含む	一部反転復元
829	図84	土師器	台付鉢	1 M10h14	8上	耕作土包含層	(25.2)			20%	内面ヨコナデ・板ナデ 外面ヨコナデ・タテハケのちへラナデ	橙	密 1~3mmの長石・赤色砂粒含む	反転復元
830	図84	土師器	台付鉢	1 M10k12	8上	耕作土包含層	-	3.8+	(10.4)	10%以下	内面ヨコナデ・ナデ 外面タテハケ・ヨコナデ	暗灰黄	密 2~3mmの長石・片岩粒等多く含む	反転復元
831	図84	土師器	甕	1 M10h14	8上	耕作土包含層	(14.6)	4.5+		口縁部15%	内面ヨコナデ・ナデ 外面ヨコナデ・タテ方向のハケ	橙	密 1~2mmの長石・片岩粒等多く含む	反転復元
832	図84	土師器	甕	1 M10g15	8上	耕作土包含層	(19.2)	5.0+		10%以下	内面ヨコナデ・ナデ 外面ヨコナデ・ナナメハケ・ナデ	灰褐	密 1~3mmの長石・金雲母粒等多く含む	反転復元
833	図84	土師器	羽釜	1 M10k11	8上	耕作土包含層	(23.6)	5.0+	-	10%以下	ヨコナデ・ユビオサエ	にぶい褐	密 2~6mmの片岩・長石等多く含む	反転復元
834	図84	土師器	鍋?把手	1 M10h13	8上	耕作土包含層	長さ5.0	幅4.8	高さ5.1	-	ユビオサエ	橙	密 1mm前後の赤色砂粒含む	
835	図84	須恵器	坏身	1 M10h16	8上	耕作土包含層	(16.0)	4.8	(11.0)	25%	内面回転ナデ・ナデ 外面回転ナデ	灰白	密 1mmまでの長石粒等少量含む	反転復元
836	図84	須恵器	長頸壺	1 M10i12	8上	耕作土包含層	-	7.0+	-	頸部100%	内外面回転ナデ	灰	密 1~3mmの長石粒等多く含む	一部反転復元
837	図84	須恵器	壺	2 M10o15	8上	耕作土包含層	-	2.1	(6.8)	底部の60%	回転ナデ 外底部回転系切	灰	密	反転復元
838	図84	土師器	高坏	1 M10i12	8上	耕作土包含層	-	9.0+	-	脚柱部100%	中実 摩滅	明赤褐~橙	密 1mm前後の長石粒等多く含む	一部反転復元

報告書番号	図・図版番号	産地種類	器種	調査区地区	造構面	造構層位等	法量			残存率	調整・技法	色調	胎土	備考
							口径cm	高さcm	底径cm					
839	図84	土製品	土玉	1 M10j15	8上	耕作土包含層	4.7	4.3		60%	中央に直径0.8~1.0cmの孔	橙	1mmのチャート・長石・雲母粒含む	
840	図84	土製品	土錘	1 M10j13	8上	耕作土包含層	4.6	1.1	1.1	98%	中央に直径0.8~1.1cmの孔	にぶい橙	1mmまでの赤色酸化粒含む	
841	図84	須恵器	坏身	1 M10h13	9上	包含層	(11.5)	3.7+		45%	内面回転ナデ 外面体部回転ナデ・回転ヘラズリ	青灰	密	反転復元
842	図84	土師器	甕	1 M10g14	9上	包含層	(28.2)	5.4+	-	10%以下	内面ヨコハケ 外面ヨコナデ・タテハケ	にぶい黄橙へにぶい橙	1~2mmの長石・赤色砂粒等多く含む	反転復元
843	図84	土師器	高杯	2 M10g12	9上	包含層	-	7.3+	-	脚部の50%		橙	1mm前後の赤色砂粒含む	反転復元
844	図84	肥前系磁器	段重蓋	1 M10m12		攪乱	10.2	4.4		95%	総釉 口縁部かえり釉剥外面染付	外:淡青灰 内:白	密	
845	図84	肥前系染付	段重蓋	1 M10k13		攪乱	11.5	3.1+		98%	総釉 口縁部かえり釉剥外面染付	外:淡青灰 内:白	密	
846	図84	土製品	遊玩具土人形	2 M10o13		攪乱	4.8	2.9+	1.9	98%	恵比寿天 型合わせ成形透明釉・緑釉 中実	オリーブ灰 淡黄	密	
847	図84	土製品	遊玩具泥面子	2 M10o13		攪乱	2.9	2.9	0.8	98%	面打巾着 円盤状 文様型押し	橙	密	
848	図89 図版71	瀬戸美濃系磁器	染付碗蓋	3 M10j1	1	3-001	8.6	2.5+		95%	総釉 摘み端部釉剥 外面染付	白	密	
849	図89 図版71	瀬戸美濃系磁器	染付端反碗	3 M10j1	1	3-001	(9.6)	5.0	4.4	70%	総釉 豊付釉剥 内外面染付	白	密	一部反転復元
850	図89 図版71	瀬戸美濃系磁器	色絵端反碗	3 M10j1	1	3-001アゼ	(8.0)	4.0	3.3	45%	内外面朱・金彩染付	白	密	一部反転復元
851	図89 図版71	瀬戸美濃系磁器	染付端反碗	3 M10j1	1	3-001	9.4	5.1	4.2	80%	総釉 豊付釉剥 内外面染付	白	密	
852	図89 図版71	瀬戸美濃系磁器	染付端反碗	3 M10j1	1	3-001	9.4	5.25	3.8	90%	総釉 豊付釉剥 外面染付	白	密	
853	図89 図版71	肥前系磁器	染付広東碗	3 M10j1	1	3-001アゼ	12.2	7.2	5.9	75%	総釉 豊付釉剥 内外面染付	オリーブ灰	密	
854	図89 図版71	肥前系磁器	染付広東碗	3 M10j1	1	3-001	11.0	6.3	5.1	85%	総釉 豊付釉剥 内外面染付	淡青灰	密	
855	図89 図版71	瀬戸美濃系磁器	染付端反碗	3 M10j1	1	3-001	9.0	4.6	3.4	98%	総釉 豊付釉剥 外面染付	灰白	密	
856	図89 図版71	肥前系磁器	染付碗	3 M10j1	1	3-001	9.6	5.0	3.5	95%	総釉 豊付釉剥 内外面染付	淡灰白	密	
857	図89 図版71	肥前系磁器	染付輪花皿	3 M10j1	1	3-001	10.6	2.55	6.3	90%	総釉 内面染付	淡灰白	密	
858	図89 図版71	肥前系磁器	染付皿	3 M10j1	1	3-001	14.2	3.7	9.4	55%	口縁部玉縁状 蛇の目凹形高台 内外面染付	淡青灰	密	南紀男山焼?
859	図89 図版71	肥前系磁器	染付皿	3 M10j1	1	3-001アゼ	9.8	2.1	7.1	85%	蛇の目凹形高台 内外面染付	淡青灰	密	
860	図89 図版71	肥前系磁器	染付杯	3 M10j1	1	3-001	6.6	3.1	2.5	98%	総釉 豊付釉剥 外面染付	淡青灰	密	
861	図89 図版71	瀬戸美濃系磁器	染付杯	3 M9j25	1	3-001	6.7	2.8	2.4	85%	総釉 豊付釉剥 外面染付	白	密	
862	図89 図版71	肥前系磁器	染付杯	3 M10j1	1	3-001アゼ	5.4	4.4	4.0	75%	総釉 豊付釉剥 内外面染付	淡青灰	密	
863	図89 図版71	肥前系磁器	染付蓋物碗	3 M10j1	1	3-001下層	8.5	4.8	4.2	95%	豊付・口縁部内面釉剥 外面染付	灰白	密	
864	図89 図版71	京・信楽系陶器	碗	3 M10j1	1	3-001	9.3	5.2	3.2	90%	外底部露胎・回転ヘラズリ 黄釉に口縁部内外面緑釉	釉:緑・灰白 露胎:灰白	密	
865	図89 図版71	京・信楽系陶器	合子	3 M10j1	1	3-001	7.5	4.0	5.3	75%	灰釉 口縁部露胎 外底部露胎・回転ヘラズリ	釉:灰白 露胎:灰白・橙	密	
866	図89 図版71	京・信楽系陶器	合子	3 M10j1・2	1	3-001	8.6	3.8	6.8	70%	灰釉 外底部露胎・回転ヘラズリ	釉:オリーブ灰 露胎:にぶい黄褐	密	
867	図89 図版71	京・信楽系陶器	合子	3 M10j1	1	3-001	9.0	4.7	5.9	75%	灰釉 外底部露胎・回転ヘラズリ	釉:灰白 露胎:灰白	密	
868	図89 図版71	肥前系陶器	唐津鉢	3 M10j1	1	3-001	24.4	10.7	9.4	70%	高台部・口縁部露胎 灰釉に白土で刷毛目文様	釉:褐・黒褐 露胎:にぶい黄橙	1mm前後の長石粒等多く含む	
869	図89 図版72	瀬戸美濃系陶器	鉢	3 M10j1	1	3-001	16.4	7.3	6.8	80%	灰釉 外底部露胎・回転ヘラズリ 内底部目痕3カ所	釉:オリーブ黄 露胎:にぶい黄	1mmまでの長石粒多い	
870	図89 図版72	京・信楽系陶器	鍋蓋	3 M10j1	1	3-001	16.5	4.5	摘み径4.4	50%	総釉 口縁部釉剥 外面体部沈線10条	灰オリーブ	密	
871	図89 図版72	肥前系陶器	鍋	3 M10j1	1	3-001	18.6	8.3+	-	60%	褐釉 外底部露胎 回転ヘラズリ 両手鍋	釉:暗褐 露胎:にぶい黄褐	密	一部反転復元
872	図89 図版72	肥前系陶器	蓋	3 M10j1	1	3-001	7.3	3.85	摘み径2.6	80%	上面施釉	釉:にぶい赤褐 露胎:橙	密	
873	図89 図版72	京・信楽系陶器	灯明受皿	3 M10j1	1	3-001	12.6	2.5	4.5	85%	外面体部露胎・回転ヘラズリ	釉:浅黄 露胎:灰白	密	
874	図89 図版72	堺・明石系陶器	植木鉢	3 M10j1	1	3-001上層	19.5	11.8	12.7	50%	内面回転ナデ 外面回転ナデ・ヘラズリ? 外底部未調整	明赤褐	1~5mmの長石等含む	
875	図90 図版72	堺・明石系陶器	播鉢	3 M10j1	1	3-001上層	(41.4)	14.9	17.0	40%	口縁部回転ナデ 外面体部回転ナデ・ヘラズリ 播目10本/3.9cm	赤	粗い 1~10mmの長石等多量に含む	反転復元 内面釘着
876	図90	土師質土器	皿	3 M10j1	1	3-001	10.6	2.0	6.8	100%	外面体部から内面回転ナデ 外底部回転系切	灰白	1mm前後の砂粒含む	口縁部スス付着 灯明皿
877	図90 図版72	土師質土器	焙烙	3 M10j1	1	3-001	(28.2)	5.1+	(29.2)	口縁部90%	内面回転ナデ 外面体部回転ナデ 外底部ナデ? 把手刺突1カ所	橙	1mm前後の長石粒・金雲母多く含む	一部反転復元
878	図90	土師質土器	焼塩蓋	3 M9j25	1	3-001	7.0	1.9		95%	外面ナデ 内面布目疋痕	にぶい橙	1mm前後の長石粒等含む	
879	図90 図版72	土師質土器	風炉	3 M10j1	1	3-001	-	11.7+	15.0	60%	外面回転ナデ・ヘラナデ 内面回転ナデ・ユビオサエ 脚部円孔	橙	1mm前後の長石等多く含む	一部反転復元

報告書番号	図・図版番号	産地種類	器種	調査区地区	遺構面	遺構層位等	法量			残存率	調整・技法	色調	胎土	備考
							口径 cm	高さ cm	底径 cm					
880	図90 図版72	土師質 土器	ゴマ煎り	3 M10j1	1	3-001	(7.0)	6.6	(9.4)	30%	壺形 内面回転ナデ 外面 回転ヘラケズリ・回転ナデ	外:に ぶい 橙 内:暗灰	1mm前後の砂粒 多く含む	反転復元
881	図90 図版72	土師質 土器	ゴマ煎り	3 M10j1	1	3-001	長さ 23.5	幅 10.2・ 3.5	高さ 2.6+	70%	杓文字状 上面透明釉 下 面露胎	釉:橙 露胎:に ぶい 橙	1mm前後の長石 粒等含む	
882	図90 図版72	瀬戸美濃系 磁器	染付 碗蓋	3 M10k2	1	3-005	8.1	2.4+		70%	内外面染付	白	密	一部反転復元
883	図90 図版72	肥前系 磁器	染付 碗蓋	3 M10k2	1	3-005	9.4	3.15	幅み径 (4.0)	85%	総釉 摺み端部釉刺 外面 内面染付	白	密	一部反転復元
884	図90 図版72	肥前系 磁器	染付 碗	M10k2	1	3-005	10.6	5.9	4.2	80%	総釉 壘付釉刺 内外面染 付	白	密	
885	図90 図版72	肥前系 磁器	染付 杯	3 M10k2	1	3-005	(6.5)	4.8	2.8	45%	高台端部付近露胎 内外面 染付	淡黄灰	密	反転復元
886	図90 図版72	瀬戸美濃系 磁器	染付 小碗	3 M10k2	1	3-005	7.8	3.9	3.0	70%	総釉 壘付釉刺 外面染付	淡青灰	密	
887	図90 図版72	肥前系 磁器	染付 輪花皿	3 M10k2	1	3-005	(10.3)	2.35	6.4	55%	総釉 貫入 口縁端部錆釉 内面染付	淡青灰 淡黄灰	密	反転復元
888	図90 図版72	肥前系 磁器	染付 御 神酒德利	3 M10k2	1	3-005	1.9	10.1	3.8	70%	内面口縁部から外面施釉 壘付釉刺 外面染付	白	密	
889	図91 図版72	瀬戸美濃系 陶器	鉢	3 M10k2	1	3-005	15.4	7.0	6.0	75%	黄釉 貫入 外面下半露 胎・回転ヘラケズリ 内底 部目痕5カ所	釉:淡黄 露胎: 灰白	ざっくりしている	
890	図91 図版72	京・信楽系 陶器	灯明受皿	3 M10k2	1	3-005	6.0	4.8	4.9	98%	内面から外面体部灰釉 外 底面露胎	釉:オリーブ 灰 露胎:にぶい黄橙	密	
891	図91 図版72	堺・明石系 陶器	播鉢	3 M10k2	1	3-005	(31.0)	11.8	(14.0)	口縁部 13cm	内面回転ナデ 外面回転ナ デ・ヘラケズリ 播目10本/3 cm	明赤褐	1~3mmの長石粒 等含む	反転復元
892	図91 図版72	肥前系 磁器	染付 碗蓋	3 M10M1・2	1	3-008	9.6	3.1	幅み径 3.8	50%	総釉 摺み端部釉刺 内外 面染付	白	密	一部反転復元
893	図91 図版72	瀬戸美濃系 磁器	色絵 端反碗	3 M10m1・ 2	1	3-008	10.9	6.05	4.3	75%	総釉 壘付釉刺 内外面 色絵	白	密	
894	図91 図版73	瀬戸美濃系 磁器	染付 端反碗	3 M10M1・2	1	3-008	8.7	5.0	3.3	97%	総釉 壘付釉刺 内外面染 付	白	密	
895	図91 図版73	瀬戸美濃系 磁器	染付 端反碗	3 M10m1・ 2	1	3-008	(9.2)	5.1	4.1	50%	総釉 壘付釉刺 内外面染 付	淡青灰 白	密	反転復元
896	図91 図版73	瀬戸美濃系 磁器	染付 端反碗	3 M10m1・ 2	1	3-008	8.5	4.5	3.3	95%	総釉 壘付釉刺 内外面染 付	淡青灰	密	
897	図91 図版73	瀬戸美濃系 磁器	染付 端反碗	3 M10m1・ 2	1	3-008	9.1	5.2	4.0	95%	総釉 壘付釉刺 内外面染 付	淡青灰 白	密	
898	図91 図版73	瀬戸美濃系 磁器	染付 端反碗	3 M10m1・ 2	1	3-008	9.7	5.5	3.8	75%	総釉 壘付釉刺 内外面染 付	淡青灰 白	密	
899	図91 図版73	瀬戸美濃系 磁器	色絵 蓋物碗	3 M10m1・2	1	3-008	9.0	4.8	4.2	99%	壘付・口縁部内面釉刺 外 面染付	淡灰白	密	焼継痕あり
900	図91 図版73	肥前系 磁器	染付 輪花皿	3 M10m1・ 2	1	3-008	10.6	2.5	5.6	75%	総釉 壘付釉刺 内外面染 付	淡青灰	密	
901	図91 図版73	肥前系 磁器	杯	3 M10m1・ 2	1	3-008	6.3	4.35	2.7	90%	総釉 壘付釉刺	灰白	密	
902	図91 図版73	瀬戸美濃系 陶器	碗	3 M10m1・ 2	1	3-008	(12.0)	7.5	5.0	55%	外面口縁部から内面灰釉 外面体部以下褐釉 壘付釉 刺	灰釉:灰白 褐 釉:暗赤褐	ざっくりしている	反転復元
903	図91 図版73	在地系 陶器	鍋蓋	3 M10m1・ 2	1	3-008	10.9	3.0	幅み径 3.2	98%	内面灰釉 外面露胎・錆釉 イッチン文様 トビカンナ	内面:灰オリーブ 露胎:褐 灰 錆 釉:褐	密	
904	図91 図版73	在地系 陶器	行平鍋蓋	3 M10m1・ 2	1	3-008	19.4	5.0	幅み径 5.3	50%	内面灰釉 外面錆釉・トビ カンナ イッチン文様 緑 釉を散らす	釉:灰白 黒褐 灰白 露胎:にぶ い黄橙	密	一部反転復元
905	図91	京・信楽焼 陶器	水注	3 M10m1・ 2	1	3-008	(7.6)	9.2	(7.6)	50%	外底部露胎 内底部に粗い 珪砂輪状に付着	釉:オリーブ 灰 露胎:灰黄褐	密	
906	図91 図版73	肥前系 陶器	筆立	3 M10m1・ 2	1	3-008	-	9.7+	3.8	不明	外面褐釉 外底部・内面露 胎 竹をモチーフ 内面口 クロ痕顕著	釉:黒 露胎:灰 黄	密	一部反転復元
907	図92 図版73	堺・明石系 陶器	播鉢	3 M10m1・ 2	1	3-008	(29.9)	12.4	13.6	50%	内面回転ナデ 外面回転 ヘラケズリ・回転ナデ・ヘラケ ズリ 播目11本/3cm	明赤褐	1~5mm大の長石 ・チャート等 多く含む	一部反転復元
908	図92 図版73	堺・明石系 陶器	匣鉢	3 M10m1・ 2	1	3-008	11.5	5.4	11.0	85%	回転ナデ 外底部未調整	赤褐	1~10mmの長石 等含む	
909	図92	土師質 土器	皿	3 M10m2	1	3-008	(13.8)	2.4	5.8	50%	内面回転ナデ 外面回転 ヘラケズリ	にぶい黄橙 黒	密	反転復元
910	図92	土師質 土器	灯明受皿	3 M10m1・ 2	1	3-008	(6.8)	1.0	3.6	50%	内面回転ナデ 外面回転ナ デ 外底部回転糸切 外面 上部から内面透明釉	釉:橙 露胎:橙	密	一部反転復元
911	図92	土師質 土器	焙烙	3 M10m1・2	1	3-008	(30.2)	4.5	(31.2)	口縁部 20%	内面回転ナデ 外面回転ナ デ・ナデ	橙	1mm前後のクサリ 礫・金雲母含む	反転復元
912	図92 図版73	瓦質土器	風炉	3 M10m1・ 2	1	3-008	-	14.3+	23.4	底部 100%	外面横方向ヘラミガキ 脚 部内回転ナデ・板状圧痕 内面回転ナデ	暗灰	1~3mmの長石・ 赤色砂粒等 多く含む	一部反転復元
913	図92	瀬戸美濃系 陶器	瓜形皿	3 M9u25	1	3-015	-	4.1	-		灰釉 貫入 外底部小さい 突起状の脚 目痕5カ所	オリーブ	密	
914	図92	京・信楽系 陶器	皿	3 M1012	1	3-018	10.7	2.2	3.7	75%	灰釉 貫入 外面底面露 胎・回転ヘラケズリ 内底 部目痕3カ所	釉:灰白 露胎: 浅黄	密	
915	図92 図版73	京・信楽系 陶器	蓋	3 M1012	1	3-018	7.2	1.2		85%	灰釉 下面露胎	釉:明オリーブ 灰 露胎:灰白	密	

報告書番号	図・図版番号	産地種類	器種	調査区地区	遺構面	遺構層位等	法量			残存率	調整・技法	色調	胎土	備考
							口径cm	高さcm	底径cm					
916	図92	土師質土器	焼塩壺蓋	3 M1012	1	3-018	6.9	1.4		75%	粘土皿盤をわずかに調整 外面ヨコナデ・ナデ 内面 布目圧痕	にぶい橙	長石・金雲母多く含む	
917	図92 図版73	肥前系磁器	染付鉢	3 M10r5・6	1	3-021	21.6	6.7	9.5	65%	総釉 壘付釉剥 内外面染付	淡青灰	密	高台内銘「角福」
918	図92 図版73	肥前系陶器	京焼風碗	3 M10r5・6	1	3-021	11.3~11.7	4.7	4.3	100%	灰釉 貫入 高台部露胎・ 回転ヘラズリ 内面山水文	釉:浅黄 露胎:灰白	密	
919	図92	土製品	玩具鳩笛	3 M10r5・6	1	3-021	6.3	体部1.2~2.2	厚さ1.2~1.8	95%	透明釉 緑釉掛け ナデ	釉:浅黄橙 緑	密	
920	図92	肥前系陶器	皿	3 M10p5・6	1	3-024	(12.8)	3.1	(5.9)	35%	灰釉 貫入 高台付近露胎	釉:灰 オリーブ 露胎:浅黄	ざっくりしている	反転復元
921	図92	土師質土器	皿	3 M10t5・6	1	3-028	11.0	2.2	6.1	95%	内面回転ナデ・ナデ 外面 回転ナデ 外底部回転糸切・ 板状圧痕	灰白	密 1~2mmの長石粒等含む	
922	図92 図版73	土師質土器	皿	3 M10t5・6	1	3-028	11.4	2.3	6.7	99%	内面回転ナデ 外面回転ナデ 外底部回転糸切・板状 圧痕	灰白	密	
923	図92 図版73	肥前系染付	碗	4 M9123	1	4-034	9.3	5.1	4.3	70%	総釉 壘付釉剥 外面染付	淡灰白 白	密	
924	図96 図版73	肥前系染付	碗	3 M10n5	2	3-030	11.5	5.5	4.3	80%	高台壘付釉剥 内底部蛇の 目釉剥き 外面染付 印判 手	オリーブ灰	密	
925	図96	土師質土器	皿	3 M10n5	2	3-030	(9.6)	1.9	5.2	50%	内面回転ナデ 外面回転ナデ ・ヘラズリ 線描文様	橙	密	反転復元
926	図96	土師質土器	皿	3 M10p6	2	3-030	10.2	2.35	4.5	85%	内面ヨコナデ・ナデ 外面ヨ コナデ・ユビオサエ・ナデ	灰白 灰黄	密	
927	図96 図版74	土師質土器	焙烙	3 M10on5	2	3-030	(30.0)	6.5	(32.1)	20%	内面回転ナデ 外面回転ナデ ・ヘラズリ	橙	1mmまでの砂粒含む	反転復元
928	図96 図版74	肥前系磁器	染付碗	3 M10p5・6	2	3-034 下面	(9.9)	5.6	(4.0)	45%	総釉 壘付釉剥 外面染付	淡青灰	密	反転復元
929	図96	肥前系磁器	青磁染付碗	3 M10p5・6	2	3-034	(12.0)	6.0	(4.9)	35%	外面青磁釉 内面染付	緑灰 淡青灰	密	反転復元 高台内「満福」
930	図96	肥前系磁器	染付大皿	3 M10p5・6	2	3-034	(29.9)	5.5	(17.2)	20%	総釉 貫入 壘付釉剥 内 外面染付	淡青灰	密	反転復元 高台内銘「角福」
931	図96	肥前系磁器	染付合子蓋	3 M10p5・6	2	3-034	(5.4)	1.2		30%	型押し成型 口縁部内面露胎 外面速弁・染付	釉:淡緑灰 露胎:灰白	密	反転復元
932	図96	肥前系陶器	碗	3 M10p6	2	3-034	(12.3)	7.8	4.6	30%	灰釉 総釉 貫入 壘付釉 剥	灰白	ざっくりしている	一部反転復元
933	図96	丹波焼	甕	3 M10p5・6	2	3-034 下面	(54.0)	8.1+	-	10%以下	回転ナデ 内外面刷毛で塗	にぶい赤褐	密 1mm前後の長石粒等含む	
934	図96	丹波焼	甕	3 M10p5・6	2	3-034 下面	-	22.2+	-	10%以下	内外面 塗土	にぶい赤褐	やや粗い 1mm前後の長石粒等多く含む	
935	図96	丹波焼	甕	3 M10p6	2	3-034	(33.6)	11.2+	-	口縁部25%	内外面回転ナデ 塗土	暗赤褐	粗い 1~3mmの長石粒等多く含む	反転復元
936	図96	肥前系磁器	染付壺物鉢	3 M10t1	2	3-037	(13.8)	8.6	7.0	20%	貫入 壘付・内面口縁部露胎 外面染付	白	密	反転復元
937	図96	肥前系磁器	遊玩具面子	3 M9t25	2	3-062	タテ4.3	ヨコ4.2	厚さ0.8	100%	壘付釉剥 内外面染付	白	密	転用 染付碗 底部打ち欠き
938	図96	瀬戸美濃系陶器	碗	3 M9n25	2	3-064	(11.1)	6.2	(5.5)	35%	総釉 壘付釉剥 内外面文様	淡黄	ざっくりしている	反転復元
939	図96 図版74	瀬戸美濃系陶器	徳利	3 M10k1	2	3-067	2.7	19.2	6.4	90%	灰釉 外底部露胎 口縁部 片口	釉:オリーブ灰 露胎:にぶい黄橙	1mmまでの長石粒等多く含む	
940	図96	土師質土器	焙烙	3 M10j1	2	3-067	(33.8)	5.0+	(36.0)	口縁部15%	内外面回転ナデ	橙	1~2mmの長石粒等多く含む	反転復元
941	図96	土師質土器	焙烙	3 M10k1	2	3-067	(31.0)	3.8+	(32.1)	口縁部40%	内面回転ナデ 外面体部回転 ナデ 外底部ナデ? 把手 刺突2か所	明赤褐	1mm前後の長石粒・金雲母多く含む	反転復元
942	図97 図版74	肥前系磁器	染付碗	3 M10j2	2	3-072	10.6	6.2	4.4	70%	総釉 壘付釉剥 外面染付	淡青灰	密	高台内銘「大明年製」
943	図97 図版74	肥前系磁器	染付碗	3 M10j1	2	3-072	(10.4)	6.2	4.0	70%	総釉 壘付釉剥 外面染付	淡い灰白	密	歪著しい 施釉雑
944	図97 図版74	肥前系磁器	染付鉢	3 M10j1・2	2	3-072 底部	(15.2)	8.3	6.4	70%	総釉 壘付釉剥 内外面染付 高台内銘「大明年製」	淡青灰	密	一部反転復元
945	図97 図版74	肥前系磁器	染付皿	3 M10j1・2	2	3-072	12.9	2.9	8.1	85%	総釉 壘付釉剥 内外面染付	淡青灰	密	
946	図97 図版74	肥前系磁器	染付蕎麦猪口	3 M10j2	2	3-072 3層	(7.2)	6.0	4.8	65%	総釉 壘付釉剥・珪砂 外面 染付 高台内銘「?」	淡青灰	密	一部反転復元
947	図97 図版74	肥前系磁器	染付蕎麦猪口	3 M10j1・2	2	3-072 底部	(7.6)	5.4	4.1	50%	総釉 壘付釉剥 外面染付	淡灰白	密	一部反転復元
948	図97	肥前系磁器	青磁鉢	3 M10j2	2	3-072	(23.4)	9.1	8.3	35%	蛇の目凹形高台 露胎部重 ね焼きの痕跡 内面片切彫 りの文様	釉:緑灰 露胎:橙	密	一部反転復元
949	図97 図版74	肥前系磁器	染付蓋	3 M10j1	2	3-072	6.9	3.55	摘み径1.15	100%	口縁部付近露胎 外面染付	淡青灰	密	
950	図97 図版74	肥前系磁器	染付蓋	3 M10j1	2	3-072	6.7	3.4	摘み径1.1	55%	口縁部付近露胎 外面染付	淡青灰	密	
951	図97 図版74	肥前系陶器	碗	3 M10j1・2	2	3-072	(11.5)	8.4	4.9	50%	総釉 貫入 壘付釉剥	灰白	ざっくりしている	一部反転復元



報告書番号	図・図版番号	産地種類	器種	調査区地区	遺構面	遺構層位等	法量			残存率	調整・技法	色調	胎土	備考	
							口径cm	高さcm	底径cm						
952	図97 図版74	肥前系 陶器	唐津碗	3 M10j2	2	3-072 3層	10.8	7.3	4.2	90%	灰釉 総釉 壘付釉剥 内 外面白土でハケ文様	灰 灰白	ざっくりしている		
953	図97 図版74	肥前系 陶器	唐津碗	3 M10j1・ 2	2	3-072	11.1	7.0	4.2	55%	灰釉 総釉 壘付釉剥 内 外面白土でハケ文様	灰褐 灰白	ざっくりしている	一部反転復元	
954	図97	瀬戸美濃系 陶器	白天目 茶碗	3 M10j2	2	3-072 3層	11.3	7.8	4.4	60%	貫入 高台付近露胎 回転 ヘラケズリ	釉:淡黄 露胎: 灰白	密		
955	図97	肥前系 陶器	京焼風 碗	3 M10j1・ 2	2	3-072	-	3.0+	5.6	高台部 100%	灰釉 貫入 高台付近露胎 高台内刻印「清水」	釉:浅黄 露胎: 灰白	密		一部反転復元
956	図97	肥前系 陶器	京焼風 碗	3 M10j1・ 2	2	3-072	-	4.3+	4.7	高台部 100%	灰釉 貫入 高台付近露胎 高台内「善」の刻印	釉:浅黄 露胎: 灰白	密		反転復元
957	図97	肥前系 陶器	京焼風 碗	3 M10j1・ 2	2	3-072	9.2	6.3	5.1	50%	総釉 貫入 壘付釉剥 外 面文様	にぶい黄	密		
958	図97 図版74	肥前系 陶器	唐津皿	3 M10j1	2	3-072	13.2	3.6	4.2	90%	灰釉 外面下半露胎・回転 ヘラケズリ	釉:灰 オリーブ 露胎:灰褐	密		
959	図97 図版74	肥前系 陶器	皿	3 M10j1・ 2	2	3-072 上層	13.3	4.2	4.6	55%	内面銅緑釉・蛇の目釉剥ぎ 外面灰釉 外底部付近露胎 ・回転ヘラケズリ	釉:灰黄・緑 露 胎:灰黄	密		
960	図97 図版74	肥前系 陶器	皿	3 M10i2	2	3-072	18.3	5.3	5.7	90%	内面銅緑釉・蛇の目釉剥ぎ 外面灰釉 外底部付近露胎 ・回転ヘラケズリ	釉:灰黄・緑 露 胎:灰白	密		
961	図97	肥前系 陶器	唐津鉢	3 M10j2	2	3-072	(19.9)	10.5	10.0	65%	褐釉 外面下半露胎・回転 ナデ・回転ヘラケズリ 内 面カキ目	釉:暗赤褐 露 胎:黒褐	密		反転復元
962	図97 図版74	肥前系 陶器	土瓶蓋	3 M10i1j1	2	3-072		3.0		85%	褐釉 上面施釉 下面回転 ナデ・回転糸切	釉:オリーブ 黒 露胎:灰褐	ざっくりしている		
963	図97	備前焼	德利	3 M10j1・ 2	2	3-072	3.5	14.2+	-	口頸部 80%	塗土 内面体部露胎 肩部 カキ目顕著	釉:暗赤褐 露 胎:明赤褐	密		一部反転復元
964	図97 図版74	丹波焼	甕	3 M10i1j2	2	3-072	(32.4)	11.2+		口縁部 15%	口縁部T字状 内外面回転 ナデ	黒褐	粗い 1mm前後 の長石粒等多量 に含む		反転復元
965	図98 図版74	備前焼	播鉢	3 M10j2	2	3-072 3層	36.5	13.0	14.0	75%	内面口縁部・外面回転ナデ 外底部未調整 播目14本 /2.8cm	赤褐	1mm前後の長石 粒等多量に含む		反転復元
966	図98 図版74	備前焼?	播鉢	3 M10j2	2	3-072	(40.6)	19.3	(20.1)	45%	内外面回転ナデ 底部高台 播目9本/2.7cm	にぶい赤褐	1mm前後の長石 粒等多量に含む		反転復元
967	図98	丹波焼	播鉢	3 M10i2	2	3-072	(36.0)	14.2	(12.6)	20%	内外面回転ナデ 播目6本 /2.1cm	明赤褐	粗い 1~5mmの 長石等多量に含む		反転復元
968	図98 図版75	備前焼	水指	3 M10i2	2	3-072	(12.6)	13.7	(10.3)	30%	外面体部から内面回転ナデ 外底部端回転ヘラケズリ 外 底部中央ナデ	外:褐灰 内:に ぶい赤褐	密 1mmまでの 長石粒等多量に 含む		反転復元
969	図98	土師質 土器	皿	3 M10j2	2	3-072 2層	15.6	2.9	7.6	85%	内面回転ナデ 外面回転ナ デ・ヘラケズリ	灰白~にぶい黄 橙 暗灰	密 1mmまでの 砂粒少量含む		口縁部スス付 着 灯明皿
970	図98	土師質 土器	皿	3 M10j2	2	3-072 2層	15.4	2.9		97%	外面体部から内面回転ナデ 外底部回転ヘラケズリ	灰白 灰	密 1mmまでの 砂粒含む		口縁部スス付 着 灯明皿
971	図98	土師質 土器	皿	3 M10j2	2	3-072 3層	9.2	1.4	4.2	100%	外面体部から内面回転ナデ クロコ痕顕著 外底部回転 糸切	浅黄橙	密		
972	図98	土師質 土器	灯明受皿	3 M10j2	2	3-072 2層	(11.0)	2.0		40%	外面口縁部付近から内面透 明釉 回転ナデ 外底部回 転糸切	釉:橙 露胎:橙	密		反転復元
973	図98	土師質 土器	焙烙	3 M10j2	2	3-072 3層	(26.8)	7.5+	(28.8)	20%	内面ヨコナデ・ナデ 外面ヨ コナデ 外底部ハケ状工具 ナデ	橙	1mmまでの長石 粒等多量に含む		反転復元
974	図98	土師質 土器	焙烙	3 M10j2	2	3-072 3層	(29.2)	7.4+		口縁部 25%	口縁部・外面体部ヨコナデ 内面ナデ 外面底体部ユビ オサエ・ナデ	灰褐	やや粗い 1mm までの長石粒等 多く含む		反転復元
975	図98	土師質 土器	焼塩蓋	3 M10j1・ 2	2	3-072 下層	7.9	2.5		90%	円盤状の粘土から成型 外 面ヨコナデ ナデ	にぶい橙	1~3mmの長石 粒等含む		
976	図98	土師質 土器	焼塩蓋	3 M10j2	2	3-072 1層	(7.1)	1.8		85%	円盤状の粘土から成型 外 面ヨコナデ ナデ 内面布 目	橙	1mmまでの長石 等多量に含む		上面に墨書で 「一」
977	図98	土師質 土器	焼塩蓋	3 M10j1	2	3-072 下層	7.0	1.9		60%	内外面ヨコナデ ユビオサ エ・ナデ 内面部分的に布 目	にぶい橙	1mm前後の長石 等多量に含む		
978	図98	土師質 土器	焼塩蓋	3 M10j1	2	3-072 下層	5.7	9.9	5.7	90%	外面摩擦 内面ゴザ状圧痕	橙 にぶい橙	1~3mmの長石・ 赤色砂粒等多量 に含む		
979	図98	土師質 土器	鬺水入れ	3 M10j2	2	3-072	長さ 8.3+	幅 4.0+	高さ 3.5	20%	粘土板を接ぎ合わせて成型 外底部以外透明釉 外底 部布目	明褐	密		
980	図98 図版75	瀬戸美濃系 陶器	植木鉢	4 M9p23	2	4-039	32.0	21.5	20.0	95%	外面体部から内面口縁部緑 釉 外底部薄い褐釉 内面 底体部露胎	釉:緑 褐 露 胎:にぶい黄橙	密		踳跡
981	図98 図版75	瀬戸美濃系 陶器	植木鉢	4 M9p23	2	4-039	24.4	19.1	19.0	80%	灰釉 外底部付近・内面底 体部露胎	釉:浅黄 露胎: 淡黄	露胎		踳跡
982	図98	土師質 土器	火入れ?	4 M9r24	2	4-052	-	6.2+	5.8	底部 85%	内面回転ナデ 外面回転ナ デのちナデ 外底面ナデ・ 「宇治」の刻印	にぶい黄橙	1mm前後の長石 等多量に含む		反転復元
983	図105	肥前系 磁器	染付 碗	3 M9rs25	3	3-083	(9.8)	5.5	(3.9)	30%	総釉 壘付釉剥 外面染付 高台内銘「大明成化年製」	白	密		反転復元
984	図105 図版75	肥前系 磁器	染付 筆立	3 M9r25	3	3-083	5.15	9.9	4.4	75%	総釉 壘付釉剥 体部上面 楕円の透かし 外面染付	淡青灰	密		
985	図105	京・信楽系 陶器	灯明受皿	3 M9rs25	3	3-083	6.4	1.2	2.7	70%	灰釉 外面露胎	釉:浅黄 露胎: 灰白	密		
986	図105 図版75	堺・明石系 陶器	播鉢	3 M9s25	3	3-083	(38.2)	13.0	(20.0)	25%	内外面回転ナデ 外底部板 状圧痕 播目11本/3.4cm	赤	1mm前後の長石 等多量に含む		反転復元

報告書番号	図・図版番号	産地種類	器種	調査区地区	遺構面	遺構層位等	法量			残存率	調整・技法	色調	胎土	備考
							口径cm	高さcm	底径cm					
987	図105	瓦質土器	羽釜	3 M9s25	3	3-083 中層	-	7.5+		10%以下	外面鏝より下に凹線3条以上 内面回転ナデ・外面回転ナ デ・ミガキ	黒	1~3mmの長石・ 赤色砂粒多く含む	反転・合成復元
988	図105 図版75	肥前系 磁器	碗	3 M10t2	3	3-088	9.7	5.7	3.8	70%	総釉 壘付釉剥	白	密	
989	図105 図版75	肥前系 磁器	染付 碗	3 M10st2	3	3-088	(10.5)	6.0	4.2	65%	総釉 壘付釉剥 外面染付	白	密	一部反転復元
990	図105	肥前系 陶器	碗	3 M10st2	3	3-088	(11.2)	7.4	4.9	45%	灰釉 総釉 壘付釉剥	にぶい黄褐	ざっくりしている	一部反転復元
991	図105	土師質 土器	皿	3 M10t2	3	3-088	(10.4)	2.3		45%	内面ヨコナデ・ナデ 外面ヨ コナデ・ユビオサエ・ナデナ デ	橙	1mm前後の長石・ 片岩含む	反転復元
992	図105	土師質 土器	焙烙	3 M10t2	3	3-088	(33.8)	7.25+	(33.6)	口縁部 25%	外面体部から内面ヨコナデ	褐灰 灰黄褐	1mm前後の長石・ 金雲母含む	反転復元
993	図105 図版75	肥前系 磁器	青磁染付 碗	3 M10t1	3	3-090	11.6	7.1	5.7	90%	総釉 壘付釉剥 外面青磁 釉 内面染付	釉:明緑灰 白	密	
994	図105 図版75	肥前系 磁器	染付 皿	3 M10t2	3	3-090	11.2	3.6	4.0	100%	外底部付近露胎 内底部蛇 の目釉剥き	釉:にぶい黄 橙 浅黄橙	密	
995	図105 図版75	肥前系 磁器	杯	3 M10st1	3	3-090	6.6	4.1	3.0	100%	総釉 壘付釉剥	淡灰白	密	
996	図105 図版75	肥前系 磁器	染付 御 神酒德利	3 M10st1	3	3-090	-	8.9+	3.6	90%	壘付釉剥 内面露胎 外面 染付	灰白	密	一部反転復元
997	図105 図版75	肥前系 陶器	碗	3 M10t2	3	3-090	10.8	5.7	4.0	80%	灰釉 貫入 高台付近露胎	釉:オリーブ 灰 露胎:灰白	ざっくりしている	
998	図105 図版75	肥前系 陶器	碗	3 M10st1	3	3-090	11.0	6.5	4.5	90%	灰釉 外底部露胎・回転ヘ ラクスリ	釉:オリーブ 黄 露胎:灰白	ざっくりしている	
999	図105 図版75	肥前系 陶器	碗	3 M10t2	3	3-090	(12.4)	8.0	5.4	50%	灰釉 壘付釉剥 透明釉・ 口縁部薄銅線釉	にぶい黄橙	ざっくりしている	一部反転復元
1000	図105 図版75	肥前系 陶器	唐津 鉢	3 M10t1	3	3-090	10.6	5.3	3.6	70%	刷毛・筆状工具 打ちかけ	釉:オリーブ 黒 灰白	密	
1001	図105	肥前系 陶器	唐津 鉢	3 M10t2	3	3-090	(23.9)	8.9	9.4	55%	高台付近露胎 外面下半褐 釉・上半灰釉 内面灰釉に 白色土でハケ・褐釉で文様	釉:橙・黒褐 灰 白 露胎:浅黄橙	ざっくりしている	一部反転復元
1002	図105	京・信楽系 陶器	水滴	3 M10st1	3	3-090	長さ 10.0+	幅 3.9	高さ 4.2	75%	灰釉 長持形の箱をモチーフ 花文	灰白	密	
1003	図105	土師質 土器	皿	3 M10t2	3	3-090	9.0	1.6	5.3	70%	口縁部・体部回転ナデ 外 底部回転糸切	にぶい黄橙	1mm前後の砂粒 多い	口縁部ス付 着 灯明皿
1004	図105 図版75	土製品	玩具 鳩笛	3 M10t1	3	3-090	6.1	1.05~ 2.1	1.05~ 1.9	100%	透明釉 緑釉掛け ナデ	釉:浅黄橙 緑	密	
1005	図105 図版75	土製品	玩具 土人形	3 M10t2	3	3-090	2.3	2.3		100%	猿 透明釉 緑釉掛け	釉:浅黄橙 緑	密	
1006	図105	肥前系 陶器	碗	3 M10s1	3	3-091	(9.4)	6.3	5.6	40%	総釉 貫入 壘付釉剥	黄褐	ざっくりしている	反転復元
1007	図105	京・信楽系 陶器	灯明皿	3 M10s1	3	3-091	(6.7)	1.6	2.1	60%	灰釉 外面口縁部から内面 施釉 外底部回転ヘラクスリ	釉:灰白 露胎: 灰白	密	一部反転復元
1008	図105 図版75	京・信楽系 陶器	蓋	3 M10s1	3	3-091 上層	4.1	2.7	摘み径 1.2	100%	摘み宝珠状 灰釉 下面露 胎	釉:黄橙 露胎: 浅黄橙	密	
1009	図106	土師質 土器	皿	3 M10S1	3	3-092	11.0	2.5		90%	内面ヨコナデ・ナデ 外面ヨ コナデ・ユビオサエ・ナデ	にぶい黄橙	1mm前後の砂粒 含む	
1010	図106 図版75	肥前系 陶器	唐津 甕	3 M10n6	3	3-101	(21.0)	(19.6)	11.4	70%	三鳥手 内外体部下半・底 部褐釉 内外体部上半・口 縁部灰釉 壘付釉剥 体 部外面線刻・スタンプ・ハケ 口縁部上面スタンプ	釉:暗オリーブ 褐	密	一部反転復元
1011	図106 図版75	肥前系 磁器	染付 碗	3 M10i2・ 3	3	3-105	10.6	6.6	3.9	60%	総釉 壘付釉剥・珪砂付着 外面染付	淡灰白	密	冷め割れ顕著
1012	図106	丹波焼	德利	3 M10i2・ 3	3	3-105	4.2	9.1+	-	口縁部 100%	内外面回転(クロロ)ナデ 内面口縁部から外面に刷毛 で塗土	塗土:暗赤褐 露 胎:にぶい橙	1mm前後の長石 等多く含む	
1013	図106 図版75	丹波焼	尿瓶	3 M10i2・ 3	3	3-105	-	14.8+	(15.0)	60%	外面褐釉 内面露胎 口縁 部・把手欠失 内面回転ナ デ	釉:暗赤褐 露胎:黒褐	粗い 1~3mmの 長石粒等多く含む	一部反転復元
1014	図106 図版75	備前焼	播鉢	3 M10i2・ 3	3	3-105	(32.2)	12.6	(14.0)	40%	内外面回転ナデ 外底部周 縁回転ヘラクスリ 播目12 本/2.5cm	内赤褐 外面口 縁部のみ赤褐	1~2mmの長石・ 赤色砂粒等多く 含む	反転復元
1015	図106	土師質 土器	皿	3 M10i2・3	3	3-105	9.9	1.6		45%	内外面ヨコナデ・ナデ	灰白	密	反転復元
1016	図106	土師質 土器	焙烙	3 M10j1・ 2	3	3-105	(27.0)	6.7+	(27.4)	15%	内面回転ナデ・ヨコナデ 外面回転ナデ・ナデ	外:灰黄褐 内: にぶい赤褐	1mm前後の長石・ 赤色砂粒多く含む	反転復元
1017	図106 図版76	肥前系 磁器	染付 碗	3 M9ij25	3	3-107	10.8	5.9	4.3	60%	総釉 貫入 壘付釉剥 外 面染付 印判手 高台内銘 「大明年製」	灰白	密	
1018	図106 図版76	肥前系 磁器	染付 碗	3 M10ij1	3	3-107	(10.2)	5.5	4.1	50%	総釉 貫入 壘付釉剥・珪 砂付着 外面染付高台内銘 「大明年製」	白	密	一部反転復元
1019	図106 図版76	肥前系 磁器	染付 碗	3 M10ij1	3	3-107	9.0	5.35	4.0	95%	総釉 壘付釉剥 外面染付 高台内銘「大明年製」	白	密	
1020	図106 図版76	肥前系 磁器	染付 小碗	3 M10ij1	3	3-107	(8.1)	4.9	3.1	45%	総釉 壘付釉剥・珪砂 外 面染付	緑灰	密	一部反転復元
1021	図106 図版76	肥前系 磁器	碗	3 M10ij1	3	3-107	9.5	4.8	3.7	60%	総釉 壘付釉剥・珪砂	白	密	
1022	図106 図版76	肥前系 磁器	染付 蓋物碗	3 M10ij1	3	3-107	(8.1)	7.1	5.1	50%	壘付・口縁端部釉剥 外面 染付	灰白	密	一部反転復元
1023	図106 図版76	瀬戸美濃系 磁器	染付 端反碗	3 M10ij1	3	3-107	10.2	4.7	5.7	55%	総釉 壘付釉剥 内外面染 付	白	密	
1024	図106 図版76	瀬戸美濃系 磁器	染付 小碗	3 M10ij2	3	3-107	7.0	4.5	(2.8)	70%	総釉 壘付釉剥 内外面染 付	白	密	磁器片付着
1025	図106 図版76	肥前系 磁器	染付 輪花皿	3 M10ij1	3	3-107	24.4	6.3	12.7	99%	総釉 壘付釉剥・珪砂 内 外面染付 高台内へり痕4か 所	淡青灰	密	

報告書番号	図・図版番号	産地種類	器種	調査区地区	遺構面	遺構層位等	法量			残存率	調整・技法	色調	胎土	備考
							口径cm	高さcm	底径cm					
1026	図106	肥前系磁器	染付瓶	3 M10i j1	3	3-107	2.4	25.2+	6.3	60%	内面口縁部以外露胎・ロクロ目 墨付釉刺・珪砂 外面染付	釉:淡灰白 露胎:灰白	密	
1027	図106 図版76	肥前系磁器	青磁香炉	3 M10i j1	3	3-107	14.8	10.6	6.3	75%	外面体部より下露胎 墨付釉刺・珪砂付着 獸脚3カ所	釉:暗オリーブ 露胎:灰黄褐	密	脚は合成復元
1028	図107 図版76	京・信楽系陶器	四方碗	3 M10i j1	3	3-107	8.8×8.8	6.1	3.9	80%	灰釉 外底部露胎・回転ヘラケズリ 体部に褐釉で薬	釉:灰オリーブ 露胎:灰白	密	
1029	図107 図版76	肥前系陶器	皿	3 M10i j1	3	3-107	10.6	3.0	4.0	98%	灰釉 外底部付近露胎・回転ヘラケズリ 内底部・高台 端部砂目痕	釉:オリーブ 灰 露胎:灰	密	
1030	図107 図版76	肥前系陶器	灰入	3 M10i j1	3	3-107	9.4	3.85	4.8	99%	灰釉 内面口縁部以下露胎 外底部露胎・回転ヘラケズリ	釉オリーブ黒〜黒 露胎:にぶい黄橙	粗い 1mmまでの長石等多く含む	
1031	図107 図版76	肥前系陶器	三鳥手鉢	3 M10j2	3	3-107	35.2	11.5	14.5	50%	高台墨付露胎 体部下半褐釉によるハケ 外面体部上半灰釉 内面灰釉 文様スタンプに白土 内底部砂目8カ所	灰釉:灰褐 褐 露胎:暗赤灰 胎:明赤褐	密	
1032	図107	備前焼	播鉢	3 M10i j1	3	3-107	(30.6)	12.2	(13.6)	25%	内外面回転ナデ 外面口縁部下重ね焼きの痕跡 播目12本/2.5cm	赤褐 外面口縁部のみ暗赤灰	1〜3mmの長石・黒色砂粒等多く含む	反転復元
1033	図107	備前焼	灯明皿	3 M10i j2	3	3-107	11.0	2.1		55%	外面体部から内面回転ナデ 外底部回転ヘラケズリ・糸切	赤褐	密	口縁部内外面にスス多量に付着
1034	図107	土師質土器	皿	3 M10i j3	3	3-107	13.4	2.5		90%	内面回転ナデ 外面回転ナデ・ヘラケズリ	浅黄橙	密	口縁部部分的にスス付着 灯明皿
1035	図107	土師質土器	皿	3 M10i j1	3	3-107	13.4	2.3		95%	外面体部から内面回転ナデ 外底部回転ヘラケズリ	浅黄橙	密 1mmまでの砂粒少量含む	口縁部部分的にスス付着 灯明皿
1036	図107	土師質土器	皿	3 M10i1j1	3	3-107	13.6	2.4		98%	外面体部から内面回転ナデ 外底部回転ヘラケズリ	浅黄橙 暗灰	密	口縁部スス付着 灯明皿
1037	図107	土師質土器	皿	3 M10i j1	3	3-107	10.8〜11.0	1.9		85%	内面ヨコナデ・ナデ 外面 ユビオサエ・ナデ	灰白	密	歪著しい 口縁部スス付着 灯明皿
1038	図107	土師質土器	皿	3 M10i1j2	3	3-107	10.3〜10.8	1.6		80%	内面ヨコナデ・ナデ 外面 ユビオサエ・ナデ	灰白	密	口縁部スス多量に付着 灯明皿
1039	図107 図版76	瀬戸美濃系磁器	染付端反碗	4 M9pq23	3	4-060	(10.4)	6.1	3.6	50%	総釉 墨付釉刺 内外面染付	淡青灰 白	密	一部反転復元
1040	図107 図版76	肥前系磁器	染付碗	4 M9q23	3	4-060	9.5	4.8	3.2	75%	総釉 内外面染付	淡青灰 白	密	焼継痕有
1041	図107 図版76	肥前系磁器	染付御神酒德利	4 M9q23	3	4-060	-	6.7+	2.7	85%	外底部露胎 外面染付	白	密	
1042	図107	肥前系陶器	皿	4 M9pq23	3	4-060	(16.4)	3.6	(8.0)	30%	総釉 墨付釉刺 内外面鉄絵	灰白	ざっくりしている	反転復元
1043	図107 図版76	肥前系陶器	杯	4 M9q23	3	4-060	7.7	5.4	3.7	90%	灰釉 外底部露胎 外面体部イッチン文様	釉:オリーブ黄 露胎:浅黄	ざっくりしている	
1044	図107	丹波焼	德利	4 M9pq23	3	4-060	3.1	9.6+	-	口頸部50%	外面褐釉 内面体部以下露胎・ロクロナデ顕著 外面イッチン文字「本・」	釉:黒褐・黒 露胎:褐灰 イッチン:灰白	ざっくりしている	反転復元
1045	図107 図版76	肥前系陶器	植木鉢	4 M9q23	3	4-060	(12.2)	11.0	(8.0)	40%	灰釉 外底部・内面下半露胎	釉:オリーブ 灰 露胎:浅黄	密	反転復元
1046	図107	肥前系陶器	蓋物蓋	4 M9q23	3	4-060	9.3	2.3		55%	口縁端部付近露胎 外面文様	釉:灰白 露胎:にぶい赤褐	ざっくりしている	反転復元 1053とセット?
1047	図107	肥前系陶器	灯明受皿	4 M9pq23	3	4-060	9.3 12.9	1.65	5.1	80%	灰釉 外面底体部露胎・回転ヘラケズリ	釉:にぶい黄褐 露胎:にぶい黄橙	ざっくりしている	
1048	図107	土師質土器	焙烙	4 M9pq23	3	4-060	(32.3)	5.0+	(33.0)	10%以下	外面体部から内面回転ナデ	橙	1mmまでの長石・金雲母等多く含む	反転復元
1049	図108	土製品	遊玩具土人形	4 M9v23	3	4-064	4.3	2.0	3.8	100%	飾馬 型合わせ成型 キラコ付着	橙	密	
1050	図108	肥前系磁器	染付合子蓋	4 M9v23	3	4-065	4.6	1.4		55%	口縁部内面露胎 型押し成型(菊花) 外面染付	白	密	
1051	図108	土師質土器	皿	4 M9v23	3	4-065	9.9	1.6	7.2	75%	内面ヨコナデ・ナデ 外面 ユビオサエ	浅黄橙	密 微砂粒含む	口縁部にスス付着 灯明皿
1052	図108	土師質土器	皿	4 M9v23	3	4-065	11.2	1.7	7.4	98%	内面ヨコナデ・ナデ 外面 ユビオサエ・ナデ	灰黄 黄灰	密	
1053	図108	肥前系磁器	染付碗蓋	4 M9q23	3	4-078	8.4	2.55	摘み径(3.4)	55%	総釉 摘み端部釉刺 内外面染付	白	密	一部反転復元 焼継痕有
1054	図108 図版76	肥前系磁器	染付皿	4 M9q23	3	4-078	12.6	2.5	6.4	80%	型押し成型 総釉 墨付釉刺 内外面染付 スタンプ	白	密	
1055	図108	肥前系磁器	紅皿	4 M9q23	3	4-078	3.9	1.1	1.4	100%	型押し成型 外面露胎	白	密	
1056	図108	肥前系陶器	蓋物碗	4 M9q23	3	4-078 アゼ	(9.8)	5.9	5.1	35%	灰釉 高台墨付・口縁端部釉刺 外面鉄絵	淡黄	密	反転復元 1046とセット?
1057	図108	京・信楽系陶器	碗	4 M9q23	3	4-078	(8.1)	4.2	2.9	25%	灰釉 高台付近露胎	釉:明オリーブ 灰 露胎:にぶい黄橙	密	反転復元
1058	図108	京・信楽系陶器	合子?	4 M9q23	3	4-079	-	2.2+	(5.8)	底部30%	灰釉 外底部付近露胎 外底部墨書	釉:灰黄 露胎:灰白	密	反転復元
1059	図108	土師質土器	小皿(へそ皿)	4 M9q23	3	4-079	(5.9)	1.2		70%	内面ヨコナデ? 外面 ユビオサエ・ナデ	灰白	密	一部反転復元
1060	図108	土師質土器	小皿	4 M9q23	3	4-079 下面	7.9	1.9	5.3	65%	内面ナデ 外面ヨコナデ・ナデ・ユビオサエ	橙	1〜3mmの長石・片岩等多く含む	
1061	図108	土師質土器	焙烙	4 M9q23	3	4-079	(33.2)	5.6+	(34.2)	10%	外面体部から内面回転ナデ	橙	1mmまでの長石・金雲母等多く含む	反転復元
1062	図108	肥前系陶器	唐津碗	4 M9q23	3	4-080	(10.4)	7.0	(5.0)	30%	総釉 墨付釉刺 内面打刷毛目 外面波状刷毛目	暗褐 灰白	ざっくりしている	反転復元

報告書番号	図・図版番号	産地種類	器種	調査区地区	造構面	造構層位等	法量			残存率	調整・技法	色調	胎土	備考
							口径cm	高さcm	底径cm					
1063	図108 図版76	肥前系 陶器	碗	4 M9q23	3	4-080	(12.0)	5.2	4.1	50%	灰釉 貫入 外底部露胎 内底部蛇の目釉	釉:にぶい黄橙 露胎:灰白	密	一部反転復元
1064	図108 図版77	肥前系 陶器	皿	4 M9q23	3	4-080	10.8	3.0	4.8	75%	総釉 墨付釉剥 内外面鉄 絵	黄	密	
1065	図108 図版77	肥前系 磁器	染付 碗	4 M9m23	3	4-085 上層	10.9	6.0	4.0	85%	総釉 墨付釉剥 外面染付 高台内銘「大明年製」	淡青灰	密	
1066	図108 図版77	肥前系 磁器	染付 碗	4 M9m23	3	4-085 下層	(10.6)	6.0	4.5	50%	総釉 墨付釉剥 外面染付 高台内銘「大明年製」	淡青灰	密	反転復元
1067	図108 図版77	肥前系 磁器	染付 碗	4 M9m23	3	4-085 上層	9.7	5.6	3.9	60%	総釉 墨付釉剥 外面染付 高台内銘「大明年製」	淡青灰	密	
1068	図108	肥前系 磁器	染付 碗	4 M9123	3	4-085 上層	(9.7)	5.6	(4.0)	50%	総釉 墨付釉剥 外面染付 高台内銘「大明年製」	淡青灰	密	反転復元
1069	図108 図版77	肥前系 磁器	染付 碗	4 M9m23	3	4-085 上層	9.8	5.6	3.9	70%	総釉 貫入 墨付釉剥 外 面染付 高台内銘「大明 年製」	淡青灰	密	
1070	図108 図版77	肥前系 磁器	染付 丸碗	4 M9123	3	4-085 上層	(8.5)	4.5	3.5	60%	総釉 墨付釉剥 外面染付	オリーブ灰	密	
1071	図108 図版77	肥前系 磁器	染付 碗	4 M9m23	3	4-085 下層	8.5	6.2	5.5	75%	総釉 貫入 墨付釉剥 外 面染付・印判手 高台内銘 「大明年製」	淡青灰	密	
1072	図108	肥前系 磁器	染付 大皿	4 M9122	3	4-085	(32.8)	4.8	20.1	30%	総釉 墨付釉剥 内外面染 付 外底部目痕4か所以上	淡青灰	密	反転復元
1073	図108 図版77	肥前系 磁器	染付 皿	4 M9m23	3	4-085 下層	(23.7)	5.2	14.5	50%	総釉 貫入 墨付釉剥 内 外面染付 高台内銘「大・ 化年製」	淡青灰	密	反転復元
1074	図108 図版77	肥前系 磁器	青磁 花瓶	4 M9123	3	4-085 上層	-	11.0+	5.4	80%	双耳 外面青磁釉 墨付釉 剥 内面露胎	釉:明緑灰 露 胎:灰白	密	
1075	図109 図版77	肥前系 陶器	京焼風 碗	4 M9m23	3	4-085	8.9	5.7	4.8	60%	灰釉 貫入 高台付近露胎 外面体部山水文 高台内ス タンプ「木下弥」	釉:灰白 露胎: 灰白	密	
1076	図109 図版77	肥前系 陶器	碗	4 M9123	3	4-085 下層	10.8	8.2	4.8	90%	灰釉 総釉 貫入 墨付釉 剥	浅黄橙	ざっくりしている	火中する
1077	図109 図版77	肥前系 陶器	陶胎染付 碗	4 M9m23	3	4-085 上層	(11.8)	5.7	4.5	50%	総釉 墨付釉剥 貫入 内 面染付	明オリーブ灰	密	反転復元
1078	図109 図版77	肥前系 陶器	京焼風 碗	4 M9m23	3	4-085 下層	(12.2)	4.8	(5.3)	50%	灰釉 高台付近露胎 高台 内刻印「福次」	釉:淡黄 露胎: 灰白	密	反転復元
1079	図109 図版77	肥前系 陶器	唐津 碗	4 M9123	3	4-085 上層	(10.9)	5.8	4.2	50%	総釉 墨付釉剥 内外面灰 釉に白土で刷毛目文様	釉:暗灰黄 白 土:灰白	密	反転復元
1080	図109	肥前系 陶器	三島手 碗	4 M9m23	3	4-085	(11.6)	5.2	4.3	50%	褐釉 内面波状文・沈線等 の文様をキザミ、白色土を入 れる	釉:暗赤褐 白色 土:灰白	ざっくりしている	一部合成反転 復元
1081	図109	肥前系 陶器	陶胎染付 蓋物	4 M10m23	3	4-085	(13.0)	10.0	6.8	45%	墨付・口縁部内面釉剥 外 面染付	灰白	密	反転復元
1082	図109	肥前系 陶器	唐津 皿	4 M9m23	3	4-085 下層	(13.6)	3.95	5.0	45%	灰釉 外面下平露胎 内底 部・高台端部砂目4か所	釉:灰白 露胎: にぶい橙	ざっくりしている	反転復元
1083	図109	肥前系 陶器	皿	4 M9m23・ 24	3	4-085	-	5.5+	5.9	30%	外底部露胎・回転ヘラケズ リ 外面灰釉 内面銅緑釉 内底部蛇の目釉	釉:緑灰 灰白 露胎:灰白	ざっくりしている	反転復元
1084	図109 図版77	肥前系 陶器	壺	4 M9m23	3	4-085	-	12.2+	6.3	60%	外面下半透明釉 外面上半 から内面口縁部褐釉 内面 鉄分付着	褐釉:黒褐 透明 釉:褐 露胎:に ぶい黄橙	ざっくりしている	一部反転復元 鉄漿壺か
1085	図109	備前焼	播鉢	4 M9123	3	4-085 下層	(32.4)	14.0	(16.5)	20%	内外面回転ナデ 外面塗土 播目11本/2.8cm 外底部刻 印「割菱」	暗褐	1mmまでの長石 粒等多く含む	反転復元
1086	図109	土師質 土器	皿	4 M9m23	3	4-085 上層	(10.3)	1.3	(7.5)	25%	外面体部から内面回転ナデ 外底部回転系切	浅黄橙	1mmまでの砂粒 含む	反転復元
1087	図109	土師質 土器	皿	4 M9m23	3	4-085 下層	11.6	2.15		60%	外面体部から内面にかけて 回転ナデ 外底部回転系切	にぶい黄褐 暗 灰	密	口縁部スス付 着 灯明皿
1088	図109 図版77	土師質 土器	皿	4 M9m23	3	4-085 上層	13.7	2.6		85%	外面体部から内面回転ナデ 外底部回転ヘラケズリ	浅黄橙 暗灰	密	口縁部スス付 着 灯明皿
1089	図109	土師質 土器	皿	4 M9m23	3	4-085 下層	13.0	2.4		65%	外面体部から内面回転ナデ 外底部回転ヘラケズリ	灰白 暗灰	密	口縁部スス付 着 灯明皿
1090	図109	土師質 土器	皿	4 M9123	3	4-085	13.3	2.4		65%	外面体部から内面回転ナデ 外底部回転ヘラケズリ	灰白 暗灰	密	口縁部スス付 着 灯明皿
1091	図109	土師質 土器	皿	4 M9m23	3	4-085	13.4	2.6		60%	外面体部から内面回転ナデ 外底部回転ヘラケズリ	灰白 暗灰	密	口縁部スス付 着 灯明皿
1092	図109	土師質 土器	皿	4 M9123	3	4-085	(11.8)	2.1		50%	外面体部から内面にかけて 回転ナデ 外底部回転系切	にぶい黄褐 暗 灰	密	一部反転復元 口縁部スス付 着 灯明皿
1093	図109 図版77	土師質 土器	皿	4 M9123	3	4-085	13.2	2.45	7.2	75%	外面体部から内面回転ナデ 外底部回転ヘラケズリ	灰白 暗灰	密	口縁部スス付 着 灯明皿
1094	図109	土師質 土器	焙烙	4 M9m23	3	4-085 下層	(27.0)	5.7+	(28.8)	20%	内面ヨコナデ・ユピオサエ 外面ヨコナデ	明赤褐	1~9mmの長石等 含む	反転復元
1095	図109	土師質 土器	焼塩壺 蓋	4 M9m23	3	4-085 上層	7.7	1.5		98%	外面ヨコナデ・ナデ 内面 布目目痕	にぶい橙	1~3mmの長石・ チャート等多く 含む	
1096	図110	土師質 土器	焼塩壺	4 M9m23	3	4-085	(5.1)	9.6	(6.0)	30%	外面ヨコナデ・ナデ 内面 布目目痕	橙	1~3mmの長石等 多く含む	反転復元 刻 印「御塩壺師 堺湊伊織」
1097	図110 図版77	土師質 土器	焼塩壺	4 M9m23	3	4-085 上層	5.9	9.5	6.3	99%	外面ヨコナデ・ナデ・ユピオ サエ 内面ゴザ状目痕	橙	1~5mmの長石・ 赤色砂粒等多く 含む	刻印「御塩壺 師堺湊伊織」
1098	図110	瓦質土器	甕	4 M9123	3	4-085 上層	(32.0)	13.2+	-	口縁部 25%	内面ヨコナデ ユピオサエ・ ナデ 外面ヨコナデ・ナデ	褐灰	1~5mmの長石等 多く含む	反転復元
1099	図110	肥前系 磁器	染付 碗	4 M9jk23	3	4-087	(13.2)	6.9	4.9	40%	総釉 墨付釉剥 内外面染 付	淡青灰	密	反転復元
1100	図110	肥前系 磁器	染付 碗	4 M9jk23	3	4-087	9.8	4.6	(3.8)	60%	総釉 墨付釉剥 外面染	淡青灰	密	一部反転復元
1101	図110 図版77	肥前系 磁器	碗	4 M9jk23	3	4-087	10.6	5.0	4.1	100%	総釉 墨付釉剥 体部下平 ナメ方向カンナ痕	白	密	
1102	図110 図版77	肥前系 磁器	染付 鉢	4 M9jk23	3	4-087	15.3	8.0	5.8	90%	総釉 墨付釉剥 内外面染 付 高台内「滴福」	淡青灰	密	

報告書番号	図・図版番号	産地種類	器種	調査区地区	遺構面	遺構層位等	法量			残存率	調整・技法	色調	胎土	備考
							口径cm	高さcm	底径cm					
1103	図110	肥前系磁器	染付蕎麦猪口	4 M9jk23	3	4-087	7.6	6.1	4.8	50%	総釉 壘付釉剥 外面染付	淡青灰	密	
1104	図110 図版77	肥前系磁器	染付蕎麦猪口	4 M9jk23	3	4-087	7.4	5.8	5.0	60%	総釉 貫入 壘付釉剥 外面染付 高台内銘「？」	淡青灰	密	一部反転復元
1105	図110 図版77	肥前系磁器	杯	4 M9jk23	3	4-087	(7.7)	4.9	3.1	55%	総釉 壘付釉剥	白	密	一部反転復元
1106	図110	肥前系磁器	染付杯	4 M9jk23	3	4-087	5.4	3.15	2.4	55%	総釉 貫入 壘付釉剥 外面染付	淡灰白	密	
1107	図110 図版78	肥前系磁器	染付杯	4 M9jk23	3	4-087	6.1	2.3	3.0	90%	総釉 壘付釉剥 外面染付	淡青灰	密	
1108	図110 図版78	肥前系磁器	染付杯	4 M9jk23	3	4-087	6.0	2.2	2.8	100%	総釉 壘付釉剥して錆釉外面染付	淡青灰	密	
1109	図110 図版78	肥前系陶器	唐津碗	4 M9jk23	3	4-087	(10.0)	6.15	4.3	40%	総釉 壘付釉剥 外面白土でハケ 内面白土で打ハケ	釉:暗赤灰 白土:灰白	ざっくりしている	反転復元
1110	図110 図版78	京・信楽系陶器	碗	4 M9jk23	3	4-087	9.4	5.7	3.5	75%	灰釉 高台付近露胎 外面鉄絵	釉:オリーブ灰 露胎:淡黄	密	
1111	図110 図版78	肥前系陶器	碗	4 M9jk23	3	4-087	10.9	6.0	4.6	85%	灰釉 高台付近露胎・回転ヘラケズリ 外面鉄絵	釉:オリーブ灰 露胎:灰黄	密	
1112	図110	京・信楽系陶器	碗	4 M9jk23	3	4-087	(9.1)	5.4	3.2	35%	灰釉 高台付近露胎 外面鉄絵	釉:灰白 露胎:灰黄	密	反転復元
1113	図110	肥前系陶器	鉢	4 M9jk23	3	4-087	(16.4)	6.0	(5.6)	35%	高台付近露胎 内底部蛇の目釉剥 灰釉に白土でハケ	釉:灰 オリーブ白土:灰白 露胎:灰黄	密	反転復元
1114	図110 図版78	京・信楽系陶器	合子蓋	4 M9jk23	3	4-087	5.0	1.1		75%	灰釉 口縁部内面露胎 外面赤と黒で絵柄	釉:灰白	密	
1115	図110 図版78	肥前系陶器	蓋	4 M9jk23	3	4-087	6.3	1.25	4.4	95%	褐釉 下面中央露胎・回転糸切	釉:にぶい赤褐 露胎:淡黄	ざっくりしている	
1116	図110	土師質土器	皿	4 M9jk23	3	4-087	(9.8)	1.5	4.4	70%	外面体部から内面回転ナデ 外底部回転糸切	浅黄橙 黒	密	一部反転復元 内外面ターレット状の付着物
1117	図110	土師質土器	皿	4 M9jk23	3	4-087	11.8	2.5		65%	外面体部から内面回転ナデ 外底部回転ヘラケズリ	にぶい黄橙 黒	密	
1118	図110	土師質土器	焙烙	4 M9jk23	3	4-087	(28.0)	7.0+		30%	内面ヨコナデ・ナデ 外面ヨコナデ・ユビオサエ	橙	1mm前後の長石等多く含む	反転復元
1119	図110	土師質土器	焙烙	4 M9jk23	3	4-087	(29.9)	7.2+		25%	内面ヨコナデ・ナデ 外面ヨコナデ・ユビオサエ	橙	1mm前後の長石等多く含む	反転復元
1120	図110	土師質土器	焼塩蓋	4 M9jk23	3	4-087	7.2	1.9		100%	外面回転ナデ 内面布目圧痕	橙	1mmまでの長石・金雲母含む	
1121	図110	土製品	遊玩具土人形	4 M9jk23	3	4-087	4.0+	3.0+	1.3	60%	恵比寿 型合わせ成型 下方から棒を挿す孔	にぶい橙	密	下半欠損 右腕欠損
1122	図118 図版78	肥前系磁器	染付碗	3 M10j1	4-1	3-120 下層	8.8	6.1	4.5	80%	総釉 壘付釉剥 外面染付	淡青灰	密	
1123	図118 図版78	肥前系磁器	染付碗	3 M9j25	4-1	3-120	9.8	5.4	4.0	99%	総釉 壘付釉剥 外面染付	淡青灰	密	
1124	図118 図版78	肥前系磁器	碗	3 M9j25	4-1	3-120	(9.9)	5.95	4.0	50%	総釉 壘付釉剥	白	密	一部反転復元
1125	図118 図版78	肥前系磁器	碗	3 M10j1	4-1	3-120	(15.1)	8.0	(5.6)	40%	総釉 壘付釉剥	白	密	反転復元
1126	図118 図版78	肥前系磁器	皿	3 M9j25	4-1	3-120	(8.6)	2.4	5.1	65%	総釉 壘付釉剥	白	密	一部反転復元
1127	図118	肥前系磁器	染付油壺	3 M9j25	4-1	3-120	4.1	7.0+	-	20%	内面頸部以下露胎 外面染付	淡青灰	密	一部反転復元
1128	図118 図版78	肥前系磁器	青磁蓋	3 M9j25	4-1	3-120	5.5	3.0		85%	上面施釉 貫入	釉:明緑灰 露胎:灰白	密	
1129	図118 図版78	肥前系陶器	碗	3 M10j1	4-1	3-120 下層	11.1	7.3	5.3	65%	総釉 貫入 壘付釉剥 呉須絵	にぶい黄褐	密	
1130	図118	肥前系陶器	碗	3 M9j25	4-1	3-120	(13.3)	7.5	6.8	40%	灰釉 総釉 貫入 高台内の一部に露胎あり 壘付きに目痕	淡黄	ざっくりしている	一部反転復元
1131	図118 図版78	瀬戸美濃系陶器	天目茶碗	3 M10j1	4-1	3-120 下層	(10.9)	6.4	4.7	50%	褐釉 外底部露胎・回転ヘラケズリ	釉:黒褐 露胎:灰白	密	反転復元
1132	図118 図版78	肥前系陶器	京焼風碗	3 M10j1	4-1	3-120 下層	9.1	6.3	4.9	65%	高台付近露胎 外面山水文 高台内銘「清水」	釉:淡黄 露胎:灰白	密	
1133	図118 図版78	京・信楽系陶器	碗	3 M9j25	4-1	3-120	7.4	5.3	3.4	65%	灰釉 貫入 高台部露胎 外面絵柄	釉:灰黄 露胎:淡黄	密	
1134	図118	肥前系陶器	京焼風鉢	3 M10j1	4-1	3-120 下層	(23.8)	13.2	9.8	30%	灰釉 貫入 外底部露胎・回転ヘラケズリ 外面山水文 高台内スタンプ「蔵」	釉:オリーブ黄 露胎:灰白	密	反転復元
1135	図118 図版78	瀬戸美濃系陶器	灰入	3 M10j1	4-1	3-120 下層	(11.0)	7.0	(7.9)	45%	内面体部以下露胎 外底部露胎・回転ヘラケズリ 脚台3カ所か?	釉:暗オリーブ褐 露胎:灰白	ざっくりしている	反転復元
1136	図118 図版78	備前焼	小壺	3 M10j1	4-1	3-120	-	4.8+	2.7	90%	外面鉄釉塗り 内面露胎 外底部回転糸切	暗赤褐	密	一部反転復元
1137	図118	備前焼	播鉢	3 M9j1	4-1	3-120	(31.0)	11.5+	-	20%	内面回転ナデ 外面回転ナデ・回転ヘラケズリ・ヘラケズリ 播目14本/3.2cm	明赤褐 外面口縁部のみ灰	密 1mm前後の長石粒等多く含む	反転復元
1138	図118	土師質土器	皿	3 M10j1	4-1	3-120	10.6	1.9		80%	口縁部回転ナデ 外底部回転ヘラケズリ	にぶい橙	密	内面から外面口縁部白色・黒色物付着
1139	図118 図版78	土師質土器	皿	3 M10j1	4-1	3-120	9.8	1.65		97%	内面ヨコナデ・ナデ 外面ユビオサエ・ナデ	浅黄橙	密	口縁部スス多量に付着 灯明皿
1140	図118	土師質土器	皿	3 M10j1	4-1	3-120	9.6	1.8		90%	内面ヨコナデ・ナデ 外面ヨコナデ 外底部ユビオサエ・ナデ	灰白	密	口縁部スス付着 灯明皿
1141	図118	土師質土器	皿	3 M9j25	4-1	3-120 上層	10.6	2.0	5.7	90%	内面回転ナデ・ナデ 外面回転ナデ・ナデ 外底部回転糸切	灰白	密 1~2mmの砂粒粗む	
1142	図118 図版78	土師質土器	皿	3 M10j1	4-1	3-120	11.2	1.65		95%	内面ヨコナデ・ナデ 外面ヨコナデ 外底部ユビオサエ・ナデ	灰白	密	口縁部スス付着 灯明皿

報告書番号	図・図版番号	産地種類	器種	調査区地区	遺構面	遺構層位等	法量			残存率	調整・技法	色調	胎土	備考
							口径cm	高さcm	底径cm					
1143	図118	土師質土器	焙烙	3 M10j1	4-1	3-120下層	(29.6)	8.7+	(30.8)	20%	内面回転ナデ・ユビオサエ 外面ナデ・ユビオサエ・ヨコナデ 把手部肥厚	にぶい褐	1~2mmの長石粒等多く含む	反転復元
1144	図118	肥前系磁器	染付皿	4 M9k124	4-1	3-123(4-137)	(13.3)	3.2	6.9	40%	総釉 壘付釉剥・珪砂 内面染付	淡青灰	密	反転復元 初期伊万里?
1145	図118 図版78	肥前系陶器	碗	3 M9j25	4-1	3-123(4-137)	(12.9)	6.0	4.3	40%	灰釉 貫入 高台端部付近	オリーブ黄	密	反転復元
1146	図118 図版78	肥前系陶器	碗	3 M9j25	4-1	3-123(4-137)	11.7	7.8	(4.6)	65%	総釉 壘付釉剥	にぶい黄	密	
1147	図118	肥前系陶器	京焼風碗	4 M9k124	4-1	3-123(4-137)	(10.9)	5.2	(4.8)	30%	灰釉 高台付近露胎 貫入 外面染付 高台内刻印「清水」	釉:灰白 露胎:灰白	密	反転復元 京焼風
1148	図119 図版78	丹波焼	甕	4 M9k124	4-1	3-123(4-137)	(36.0)	31.8+	-	15%	環状耳 外面塗土 外面 肩部自然釉 外面肩部から 体部上半凹線 内面回転ナ デ・ユビオサエ	灰赤	1mm前後の長石等多く含む	反転復元
1149	図119 図版79	丹波焼	甕	4 M9k124	4-1	3-123(4-137)	(48.0)	24.8+		口縁部20%	内外面 塗土 回転ナデ・ ヨコナデ・ナデ・ユビオサエ 肩部自然釉	極暗赤褐	粗い 1~3mmの長石粒等多く含む	反転復元
1150	図119	土師質土器	小皿	3 M9j25	4-1	3-123(4-137)	8.0	1.7		65%	内面ナデ 外面ヨコナデ・ ナデ 外底部未調整・ナデ	外:明赤褐 内: 暗赤褐		
1151	図119	土師質土器	焙烙	3 M9j25	4-1	3-123(4-137)	(28.6)	6.4+	(29.0)	10%以下	内面回転ナデ・部分的に ユビオサエ 外面体部回転 ナデ	にぶい橙	1~2mmの長石・赤色砂粒・金雲母含む	反転復元
1152	図119 図版79	土師質土器	焼塩壺	3 M9j25	4-1	3-123(4-137)	5.8	8.9	4.7	98%	口縁部ヨコナデ 外面体部 ユビオサエ・ナデ 内面体 部ンボリ・布目	橙	1mm前後の長石粒等多く含む	
1153	図119	土製品	玩具播鉢	3 M9j25	4-1	3-123(4-137)	(6.2)	2.95	3.0	40%	内外面回転ナデ 播目3本 /0.65cm	にぶい橙	1~2mmの長石粒含む	反転復元
1154	図119 図版79	肥前系磁器	青磁皿	3 M10k2	4-1	3-134	12.5	3.4	4.1	80%	外底部露胎・回転ヘラケズ リ 内底部蛇の目釉剥	釉:明緑灰 露胎:白	密	
1155	図119	肥前系?磁器	水滴	3 M10j1	4-1	3-135	長6.0	幅3.9	高2.0	100%	果物の意匠 イチジクか? 上面染付 底部露胎	白	密	
1156	図119	肥前系磁器	染付皿	3 M10n5	4-1	3-136下層	(21.0)	3.4	(14.0)	35%	総釉 壘付釉剥 内外面染 付 高台内銘「明成化年 製」・ハリあと3か所以上	淡青灰	密	反転復元
1157	図119	土師質土器	へそ皿	4 M9n24	4-1	4-098	5.7~6.0	1.2		98%	内面回転ナデ 外面ユビ オサエ・ナデ	浅黄橙	密	
1158	図119	土師質土器	焙烙	4 M9n24	4-1	4-098	(23.5)	8.1	(24.0)	10%	外面口縁部から内面回転 ナデ 外面体部格子タキ	橙	1mm前後の長石等多く含む	反転復元
1159	図119 図版79	肥前系磁器	青磁染付碗蓋	4 M9j22	4-1	4-099上層	(10.0)	2.9	摘み径4.1	60%	総釉 貫入 外面青磁釉 摘み端部釉剥 内面染付 摘み内銘	外:青磁釉 内: 淡青白	密	一部反転復元
1160	図119 図版79	肥前系磁器	染付碗	4 M9j22	4-1	4-099上層	(10.2)	5.6	4.5	60%	総釉 壘付釉剥 内底部蛇 の目釉剥 外面染付	淡青灰	密	
1161	図119	肥前系磁器	染付碗	4 M9j21	4-1	4-099	(11.5)	6.0	5.5	45%	総釉 壘付釉剥 外面染付 高台内銘「宣明年製」	淡青灰	密	反転復元
1162	図119 図版79	肥前系磁器	染付碗	4 M9j23	4-1	4-099	9.7	5.3	3.7	75%	総釉 壘付釉剥・珪砂 外 面染付 高台内銘「大 明・」	淡青灰	密	
1163	図119 図版79	肥前系磁器	小碗	4 M9j22	4-1	4-099上層	7.5	4.8	3.5	100%	総釉 壘付釉剥	白	密	
1164	図119	肥前系磁器	青磁皿	4 M9j22	4-1	4-099	12.4	3.3	4.7	60%	外底部露胎 内底部蛇の目 釉剥	釉:明緑灰 露胎:灰白	密	
1165	図119 図版79	肥前系磁器	青磁皿	4 M9j22	4-1	4-099	13.1	3.15	4.7	99%	高台付近露胎 内面蛇の目 釉剥	釉:明緑灰 露胎:灰白	密	
1166	図119 図版79	肥前系磁器	染付蓋	4 M9j22	4-1	4-099上層	12.8	3.4	摘み径4.0	80%	口縁部下面露胎 外面染付	淡青灰	密	
1167	図119 図版79	肥前系磁器	染付輪花碗	4 M9j21	4-1	4-099	9.4	5.0	4.0	90%	型押し成型 総釉 壘付 釉剥 外面染付 高台内銘 「?」 内面浮き彫り状文 様	白	密	
1168	図119	肥前系磁器	染付杯	4 M9j22	4-1	4-099下層	(6.0)	3.5	2.6	70%	総釉 壘付釉剥 外面染付	淡青灰	密	反転復元
1169	図119 図版79	肥前系磁器	染付仏飯器	4 M9j22	4-1	4-099	(7.8)	6.6	3.6	70%	外底部露胎 外面染付	淡青灰	密	一部反転復元
1170	図119	肥前系?磁器	遊玩具碗	4 M9j23	4-1	4-099	3.1	1.7	1.6	60%	外底部付近露胎	白	密	ままごと道具
1171	図120 図版79	肥前系磁器	青磁大皿	4 M9j22	4-1	4-099下層	(29.6)	5.6	(14.6)	45%	貫入 高台内輪状に釉剥 内底部雷文様の文様	釉:オリーブ灰 露胎:暗赤褐	密	反転復元
1172	図120 図版79	肥前系陶器	碗	4 M9j21	4-1	4-099	11.0	7.7	5.3	65%	灰釉 総釉 貫入 壘付釉 剥	浅黄	ざっくりしている	
1173	図120 図版79	肥前系陶器	唐津碗	4 M9j22	4-1	4-099	(11.6)	8.6	5.3	45%	内面灰釉 外面白色土によ るハケ 壘付釉剥	外:灰褐 灰白 内:褐灰	ざっくりしている	反転復元
1174	図120 図版79	肥前系陶器	碗	4 M9j22	4-1	4-099	(13.0)	8.15	5.8	50%	灰釉 総釉 外面白土をか ける 壘付釉剥	にぶい黄橙	ざっくりしている	一部反転復元
1175	図120 図版79	肥前系陶器	唐津碗	4 M9j22	4-1	4-099	(10.8)	4.6	3.3	60%	総釉 壘付釉剥・珪砂 内 外面褐釉に白色土でハケ	黒褐 灰白	ざっくりしている	
1176	図120 図版79	肥前系陶器	碗	4 M9j23	4-1	4-099下層	13.5	13.5	5.7	65%	灰釉 総釉 貫入 壘付釉 剥	オリーブ	密	一部反転復元
1177	図120 図版79	肥前系陶器	碗	4 M9j23	4-1	4-099	13.3	6.9	4.3	75%	灰釉 総釉 貫入 壘付釉 剥	オリーブ	密	
1178	図120 図版79	肥前系陶器	碗	4 M9j23	4-1	4-099	(13.1)	5.8	4.2	60%	灰釉 総釉 貫入 壘付釉 剥	灰オリーブ	密	一部反転復元
1179	図120 図版79	肥前系陶器	碗	4 M9j22	4-1	4-099上層	(11.1)	5.2	4.3	50%	灰釉 総釉 貫入 壘付釉 剥	浅黄	密	一部反転復元
1180	図120	瀬戸美濃系陶器	天目茶碗	4 M9j23	4-1	4-099	(9.4)	6.1	3.3	45%	褐釉 外底部露胎・回転ヘ ラケズリ	釉:褐 露胎:灰白	ざっくりしている	一部反転復元

報告書番号	図・図版番号	産地種類	器種	調査区地区	造構面	造構層位等	法量			残存率	調整・技法	色調	胎土	備考
							口径cm	高さcm	底径cm					
1181	図120 図版79	肥前系 陶器	京焼 碗	4 M9ij22	4-1	4-099 上層	12.6	4.6	4.6	90%	灰釉 貫入 外底部露胎 内面山水文	釉:オリーブ灰 露胎:灰白	密	
1182	図120 図版80	肥前系 陶器	皿	4 M9ij22	4-1	4-099 下層	12.6	3.5	4.8	85%	灰釉 貫入 墨付釉剥 内底部砂目4カ所	灰白	密	
1183	図120	肥前系 陶器	鉢	4 M9ij22	4-1	4-099 上層	(18.4)	6.8	5.8	30%	外面灰釉 外底部露胎 内 面銅緑釉 内底部蛇の目 剥・中央褐釉	釉:にぶい黄橙・ 緑灰・黒褐 露 胎:灰白	密	反転復元
1184	図120 図版80	肥前系 陶器	唐津 鉢	4 M9j22	4-1	4-099 下層	44.2	11.6	15.0	75%	内面灰釉に白土で同心円文・ トビカンナ・波状文 其の 上に褐釉・銅緑釉掛け分け 外面灰釉 下半露胎 内底 部日痕7カ所	釉:灰黄褐・赤 褐・緑 赤灰 白土:灰白 露胎: にぶい赤褐	密	
1185	図120 図版80	肥前系 陶器	壺	4 M9ij22	4-1	4-099 上層	(5.8)	8.9	5.2	60%	内面口縁部黄釉・底体部褐 釉 外面口縁部・体部黄釉 外底部露胎	黄釉:浅黄 褐 釉:黒褐 露胎: にぶい黄褐	ざっくりしている	反転復元
1186	図120	備前焼	船徳利	4 M9j23	4-1	4-099	-	20.2+	17.6	45%	外面体部から内面回転ナデ 外面体部下ヨコナデ 外底 部ナデ・ヘラケズリ 肩部自 然釉	内:暗赤褐 外: 赤褐 暗赤褐 自然釉:灰黄	密 1mm前後の 砂粒含む	反転復元
1187	図121 図版80	備前焼	播鉢	4 M9ij23	4-1	4-099	(27.4)	12.0	(11.2)	40%	内外面回転ナデ 播目13本 /3.3cm 重ね焼きの痕跡	暗赤褐	1mm前後の長石 等多く含む	反転復元
1188	図121	丹波焼	甕	4 M9j22	4-1	4-099 下層	(25.8)	60.0+	19.0	30%	回転ナデ・ナデ	内:灰黄褐 外: 極暗赤褐	1~3mmの長石等 多量に含む	底体部は未掲載
1189	図121	土師質 土器	皿	4 M9ij23	4-1	4-099	11.2	2.0		100%	内面ヨコナデ 外面ヨコナ デ・ユビオサエ・ナデ 外底 部墨書	浅黄橙	1mm前後の砂粒 含む	
1190	図121	土師質 土器	皿	4 M9ij22	4-1	4-099 下層	10.0	1.9	6.9	75%	外面体部から内面にかけて 回転ナデ 外底部回転糸切	灰白	密	
1191	図121 図版80	土師質 土器	小皿	4 M9ij22	4-1	4-099	5.7~ 6.1	1.2		100%	内面ナデ 外面ユビオサ エ・ナデナデ	灰白	密	口縁部の一部 にスス 灯明 皿
1192	図121 図版80	土師質 土器	小皿 (へそ 皿)	4 M9ij22	4-1	4-099	6.2	1.5		100%	内面ヨコナデ 外面ヨコナ デ・ユビオサエ・ナデ 外底 部墨書ナデ	灰白	密	口縁部にスス 灯明皿
1193	図121	土師質 土器	焙烙	4 M9ij23	4-1	4-099	(26.8)	7.4+	(28.4)	20%	外面体部・内面ヨコナデ 外底部ナデ	にぶい褐 明黄 褐	1~3mmの長石・ 赤色砂粒含む	反転復元
1194	図121 図版80	土師質 土器	焼塩壺	4 M9ij22	4-1	4-099 上層	6.0	8.7	5.6	98%	口縁部ヨコナデ 内面ゴザ 状庄痕 外面ユビオサエ・ ナデ 外面刻印「難波浄 因」	にぶい褐	1~3mmの長石・ 金雲母多く含む	
1195	図121	土師質 土器	平仄	4 M9ij22	4-1	4-099 下層	4.8	2.4	2.9	90%	型押し成型 スス付着	橙	微砂粒多い	
1196	図121 図版80	肥前系 陶器	碗	4 M9v23	4-1	4-101	(12.3)	6.7	4.5	60%	灰釉 貫入 総釉 墨付釉 剥・珪砂	にぶい黄橙	ざっくりしている	一部反転復元
1197	図121 図版80	肥前系 磁器	染付 碗	4 M9u23	4-1	4-102	(9.2)	7.6	3.7	60%	総釉 貫入 墨付釉剥・珪 砂 外面染付	乳白	密	一部反転復元
1198	図121	肥前系 磁器	染付 碗	4 M9t23	4-1	4-102	(10.2)	5.8	3.6	50%	総釉 貫入 墨付釉剥・珪 砂 外面染付 高台内銘 「製」	白	密	一部反転復元
1199	図121 図版80	肥前系 磁器	染付 碗	4 M9t23	4-1	4-102	9.8	5.8	3.8	65%	総釉 貫入 墨付釉剥 外 面染付	白	密	
1200	図121	肥前系 磁器	染付 杯	4 M9u23	4-1	4-102	(7.5)	4.2	2.9	55%	総釉 墨付釉剥 外面染付	淡青白	密	一部反転復元
1201	図121 図版80	肥前系 磁器	染付 杯	4 M9t23	4-1	4-102	6.4	4.6	3.0	80%	総釉 墨付釉剥 外面染付	淡青白	密	
1202	図121 図版80	肥前系 陶器	碗	4 M9t23	4-1	4-102	(10.2)	7.6	4.3	55%	灰釉 貫入 高台付近露胎 釉垂れ顕著	釉:灰オリーブ 露胎:灰白	密	一部反転復元
1203	図121 図版80	肥前系 陶器	唐津 皿	4 M9t23	4-1	4-102	11.7	3.6	4.1	70%	内面灰釉 外面灰釉・褐釉 貫入 高台付近露胎 内底 部砂目痕3カ所	釉:オリーブ灰・ 褐 露胎:にぶい 黄褐	ざっくりしている	
1204	図121 図版80	肥前系 陶器	唐津 鉢	4 M9tu23	4-1	4-102	(31.5)	9.6	15.4	50%	外面下半露胎 外面褐釉 内面白色土ハケ 褐釉・タ ンパンで意匠不明の文様 内底部砂目4カ所以上	釉:灰黄褐 暗褐 灰白 緑 露 胎:にぶい褐	ざっくりしている	反転復元
1205	図121	土師質 土器	焙烙	4 M9tu23	4-1	4-102	(25.2)	6.9	(26.8)	20%	内面回転ナデ 外面回転ナ デ 体部平行タタキ 外底 部ヘラケズリ	橙	1mmまでの長石・ 金雲母多く含む	反転復元
1206	図121	肥前系 磁器	染付 碗	4 M9t24	4-1	4-104	(10.0)	5.2	(4.0)	45%	総釉 墨付釉剥 外面染付	白	密	反転復元
1207	図122 図版80	肥前系 磁器	染付 碗	4 M9rs24	4-1	4-107	10.1	5.2	3.9	90%	総釉 墨付釉剥 外面染 付・印判手	灰白	密	
1208	図122 図版80	肥前系 磁器	染付 碗	4 M9rs24	4-1	4-107	9.8	5.2	4.0	100%	総釉 墨付釉剥 外面染 付・印判手	灰白	密	
1209	図122 図版80	肥前系 磁器	染付 碗	4 M9rs24	4-1	4-107	9.6	4.6	3.5	70%	総釉 墨付釉剥 外面染付	淡灰白	密	
1210	図122 図版80	肥前系 磁器	染付 碗	4 M9rs24	4-1	4-107	11.2	6.2	4.8	65%	総釉 墨付釉剥・珪砂 外 面染付 高台内銘「？」	淡青白	密	
1211	図122	肥前系 磁器	染付 碗	4 M9rs24	4-1	4-107	11.7	7.0	5.4	60%	総釉 貫入 墨付釉剥 内 外面染付 高台内銘「宣明 化年」	淡青白	密	歪著しい
1212	図122	肥前系 磁器	染付 碗	4 M9rs24	4-1	4-107	(12.9)	6.5	5.0	50%	総釉 墨付釉剥 内外面染 付 高台内銘「宣明化年」	淡青白	密	一部反転復元
1213	図122 図版80	肥前系 磁器	染付 小碗	4 M9rs24	4-1	4-107	7.6	3.95	3.0	70%	総釉 墨付近露胎 外面 染付 施釉は雑	灰白	密	
1214	図122	肥前系 磁器	染付 皿	4 M9rs24	4-1	4-107	9.6	2.0	5.5	55%	総釉 墨付釉剥 内面染付	淡灰白	密	
1215	図122 図版80	肥前系 磁器	染付 皿	4 M9rs24	4-1	4-107	12.6	2.6	7.8	75%	貫入 蛇の目凹形高台 内 外面染付	白	密	
1216	図122 図版80	京・信楽系 陶器	碗	4 M9rs24	4-1	4-107	(12.5)	5.7	3.6	60%	灰釉 貫入 高台付近露胎 外面体部文様	釉:明オリーブ灰 露胎:灰白	密	一部反転復元
1217	図122	瀬戸美濃系 陶器	建水?	4 M9rs24	4-1	4-107	14.6	10.9+	-	40%	内外面褐釉	灰褐	ざっくりしている	反転復元



報告書番号	図・図版番号	産地種類	器種	調査区地区	造構面	造構層位等	法量			残存率	調整・技法	色調	胎土	備考
							口径cm	高さcm	底径cm					
1218	図122 図版80	備前焼	播鉢	4 M9rs24	4-1	4-107	18.8	6.9	9.6	60%	内面回転ナデ 外面回転ナデ・ヘラケズリ	灰赤	1mmまでの長石粒等多く含む	
1219	図122	土師質土器	焙烙	4 M9rs24	4-1	4-107	(29.8)	4.7+	(29.6)	15%	内外面ヨコナデ	内:橙 外:灰褐	1mm前後の長石粒等多く含む	反転復元
1220	図122 図版81	土師質土器	焼塩壺	4 M9rs24	4-1	4-107	5.0	7.3	5.5	100%	外面ヨコナデ・ナデ 内面ゴザ状圧痕・ナデ	にぶい橙	1mmまでの長石・金雲母粒多く含む	
1221	図122	京・信楽系陶器	碗	4 M9r24	4-1	4-108	(10.7)	6.2	(5.2)	20%	灰釉 貫入 高台付近露胎・回転ヘラケズリ 高台内刻印「清水」	釉:オリープ黄 露胎:灰オリープ	密	反転復元 京焼風?
1222	図122	土師質土器	皿	4 M9r24	4-1	4-108	10.4	1.8	6.6	65%	外面体部から内面回転ナデ 外底部回転系切	橙	密	
1223	図122 図版81	土師質土器	皿	4 M9r23	4-1	4-108	11.4	2.4		85%	内面ヨコナデ・ナデ 外面ヨコナデ ユビオサエ・ナデ	にぶい黄橙	1~5mmのチャート等含む	口縁部 附着 灯明皿
1224	図122 図版81	土師質土器	皿	4 M9r23	4-1	4-108	9.8	2.0	9.5	98%	内面回転ナデ・ナデ 外面ナデ・未調整	橙	1~5mmの片岩・長石・赤色砂粒等多く含む	
1225	図122	土師質土器	皿	4 M9st23	4-1	4-109	(10.0)	2.1	(5.3)	25%	内面ヨコナデ・ユビオサエ 外面ヨコナデ・ユビオサエ・ナデ	にぶい橙	1mm程度の砂粒含む	反転復元
1226	図122	土師質土器	小皿	4 M9st23	4-1	4-109	7.7	1.7	4.7	50%	内面ナデ 外面ヨコナデ ユビオサエ・ナデ	橙	1~2mmの長石・片岩等含む	
1227	図122 図版81	中国製磁器	色絵碗	4 M9ut22	4-1	4-110	(11.3)	5.5	4.8	50%	総釉 墨付釉剥 内外面染付 外面色絵	淡青灰	密	
1228	図122	肥前系磁器	染付鉢	4 M9tu22	4-1	4-110	-	3.8+	(11.6)	10%	総釉 墨付釉剥・珪砂 内面染付	淡青灰	密	反転復元
1229	図122	土師質土器	皿	4 M9tu22	4-1	4-110	(11.8)	1.9	(7.0)	35%	内面回転ナデ・強いナデ 外面回転ナデ 外底部回転系切・ゴザ状圧痕	浅黄橙	密 1mmまでの砂粒含む	反転復元
1230	図122	土師質土器	小皿	4 M9v22	4-1	4-110	8.9	1.9	5.5	100%	外面体部から内面回転ナデ 外底部回転系切	浅黄橙	密 1mm程度の砂粒含む	
1231	図122 図版81	土師質土器	焙烙	4 M9tu22	4-1	4-110	(24.7)	7.7	(24.6)	25%	内面ヨコナデ 外面体部ヨコナデ・ユビオサエ	橙	ざっくりしている	反転復元
1232	図123 図版81	肥前系磁器	染付碗	4 M9st22	4-1	4-111	9.3	6.2	4.8	99%	総釉 墨付釉剥 外面染付	淡青灰	密	
1233	図123 図版81	肥前系磁器	染付碗	4 M9st22	4-1	4-111	10.5	5.0	4.2	60%	総釉 貫入 墨付釉剥・珪砂 外面染付	淡青灰	密	
1234	図123	土師質土器	焙烙	4 M9st22	4-1	4-111	(26.6)	5.2+	(25.8)	15%	内外面回転ナデ	橙	1~2mmの長石等多く含む	反転復元
1235	図123	肥前系?磁器	遊玩具 染付碗	4 M9st22	4-1	4-116	口径(4.4)	高さ(2.5)	底径(2.0)	45%	碗 総釉 墨付釉剥 外面染付	淡青灰	密	反転復元 ままごと道具
1236	図123	丹波焼	播鉢	4 M9st22	4-1	4-116	(26.0)	10.1	12.0	20%	内面回転ナデ・ナデ 外面回転ナデ 口縁部自然釉 播目7本/2.1cm	暗赤褐	粗い 1~5mmの長石等多く含む	反転復元
1237	図123	土製品	遊玩具 土人形	4 M9s22	4-1	4-117	5.5	2.3	1.9	100%	虚無僧 型合わせ成型 中実 底部に棒を挿す穴	浅黄	密	
1238	図123 図版81	肥前系陶器	碗	4 M9p23	4-1	4-120	(11.3)	4.7	4.0	50%	灰釉 外底部付近露胎 内底部蛇の目釉刺	釉:灰オリープ 露胎:灰黄	ざっくりしている	反転復元
1239	図123	中国製磁器	染付皿	4 M9t12	4-1	4-125	-	1.2+	7.7	高台部85%	墨付釉剥 高台内鉄カンナ痕 内面染付	淡青灰	密	反転復元
1240	図123	土師質土器	皿	4 M9t12	4-1	4-125	(11.0)	2.3		45%	内面ヨコナデ・ナデ 外面ヨコナデ ユビオサエ・ナデ	浅黄橙	密	口縁部スス 附着 灯明皿
1241	図123 図版81	肥前系磁器	染付碗	4 M9k23	4-1	4-130	(10.6)	6.0	4.2	55%	総釉 墨付釉剥 内外面染付 高台内銘「角福」	淡青灰	密	一部反転復元
1242	図123	肥前系磁器	染付丸碗	4 M9k23	4-1	4-130	8.1	4.0	3.35	45%	総釉 貫入 墨付釉剥 外面染付	淡灰白	密	反転復元
1243	図123 図版81	肥前系磁器	染付蕎麦猪口	4 M9k23	4-1	4-130	7.1	6.0	5.0	50%	総釉 墨付釉剥 外面染付	淡青灰	密	
1244	図123 図版81	肥前系磁器	染付皿	4 M9k23	4-1	4-130	8.0	2.1	4.2	70%	型押し成型 内面体部蓮弁状・葉文が三方向 内底部染付銘「福?」	白	密	
1245	図123	土師質土器	皿	4 M9k23	4-1	4-130	(10.0)	1.8		60%	外面体部から内面回転ナデ 外底部回転系切	灰白 褐灰 黒	密	反転復元
1246	図123	土師質土器	焙烙	4 M9k23	4-1	4-130	(30.4)	4.9	(29.8)	5%	内外面回転ナデ 把手部肥厚 上方からの円孔・貫通せず	橙	1mm前後の長石等多く含む	反転復元
1247	図123 図版81	肥前系陶器	碗	4 M9o24	4-1	4-135	(10.5)	5.85	4.2	45%	灰釉 貫入 外面下半露胎・回転ヘラケズリ	釉:灰オリープ 露胎:にぶい赤褐	密	反転復元
1248	図123 図版81	瀬戸美濃系陶器	輪花皿	4 M9op24	4-1	4-135	16.4	4.3	7.6	65%	灰釉 総釉 貫入 高台内ヘラ先による線刻	灰白	ざっくりしている	軟質施釉 陶器?
1249	図129	瀬戸美濃系陶器	志野皿	4 M9no24	4-2	4-154	(11.5)	2.7	(6.6)	15%	長石釉 貫入 墨付露胎 高台内目跡	灰白	密	反転復元
1250	図129 図版81	備前焼	注口鉢	4 M9o24	4-2	4-154	16.3~16.8	6.0	10.3	70%	内面回転ナデ 外面底回転ナデ・ヘラケズリ・ナデ 外面体部ヘラ記号	灰白 にぶい赤褐	粗い 1~3mmのチャート等多く含む	合成復元
1251	図129	土師質土器	皿	4 M9no24	4-2	4-154	(11.4)	2.1	5.5	60%	内面ヨコナデ・ユビオサエ 外面ユビオサエ・ナデ	浅黄橙	密	一部反転復元 口縁部スス 附着 灯明皿
1252	図129	土師質土器	小皿	4 M9no24	4-2	4-154	9.5	1.3~2.1	6.4	80%	内面ヨコナデ・ナデ 外面ヨコナデ ユビオサエ・ナデ	橙	1~2mmの長石・片岩粒等含む	一部反転復元 底部に焼成後の小穴2か所
1253	図129	土師質土器	小皿	4 M9no24	4-2	4-154	9.2~10.0	2.25	6.5	80%	内面ヨコナデ・摩擦 外面ヨコナデ ユビオサエ・ナデ	橙	1~2mmの長石等含む	口縁部スス 附着 灯明皿
1254	図129	土師質土器	小皿	4 M9no24	4-2	4-154	7.7	1.5	3.8	90%	内外面ヨコナデ ユビオサエ・ナデ	橙	1mm前後の赤色砂粒等含む	
1255	図129 図版81	土師質土器	小皿	4 M9o24	4-2	4-154	8.1~9.0	1.4	5.7	100%	内面ヨコナデ・ナデ 外面ヨコナデ ユビオサエ・ナデ	橙	1~2mmの長石・片岩粒等含む	口縁部スス 附着 灯明皿
1256	図129 図版81	土師質土器	小皿	4 M9no24	4-2	4-154	7.3~8.5	1.8	5.9	100%	内面ヨコナデ・ナデ 外面ヨコナデ ユビオサエ・ナデ	橙	1~2mmの長石・片岩粒等含む	歪著しい

報告書番号	図・図版番号	産地種類	器種	調査区地区	遺構面	遺構層位等	法量			残存率	調整・技法	色調	胎土	備考
							口径cm	高さcm	底径cm					
1257	図129	土師質土器	小皿	4 M9no24	4-2	4-154中層	8.3	1.5	5.4	90%	内面ヨコナデ・ナデ 外面ヨコナデ ユビオサエ・ナデ	橙	1mm前後の長石等含む	
1258	図129	土師質土器	小皿	4 M9no24	4-2	4-154中層	7.9~8.2	1.9	5.1	95%	内面ヨコナデ・ナデ 外面ヨコナデ ユビオサエ・ナデ	橙	1~2mmの長石・片岩・赤色砂粒等含む	歪著しい 口縁部スス付着 灯明皿
1259	図129	土師質土器	皿	4 M9123	4-2	4-155	10.4	2.0	5.9	80%	内外面口縁・体部ヨコナデ 外底部板状圧痕?	浅黄橙	1mmまでの砂粒	口縁部スス付着 灯明皿
1260	図129	土師質土器	皿	4 M9123	4-2	4-155	11.0	1.95	6.3	80%	内面ヨコナデ・ナデ 外面 ユビオサエ・ナデナデ	浅黄橙	1~2mmの長石粒等含む	口縁部スス付着 灯明皿
1261	図129	土師質土器	皿	4 M9123	4-2	4-155	11.3	2.5	8.0	90%	口縁部片口状の挟り 内面ヨコナデ 外面ヨコナデ・ケズリ・ナデ	にぶい黄橙	1mmまでの砂粒多く含む	口縁部スス付着 灯明皿
1262	図129	土師質土器	小皿	4 M9122	4-2	4-155	7.3	1.5	5.5	100%	内面ナデ・ユビオサエ 外面ヨコナデ・ユビオサエ・ナデ	橙 褐灰	1mm前後の赤色酸化粒等含む	内外面煤けている
1263	図129	肥前系磁器	染付碗	4 M9k23	4-2	4-158	(9.6)	6.9	4.3	40%	総釉 貫入 壘付釉剥・珪砂 外面染付	淡青灰	密	反転復元
1264	図129 図版81	肥前系磁器	染付碗	4 M9k23	4-2	4-158	10.8	5.9	4.2	90%	総釉 壘付釉剥 外面染付	淡青灰	密	
1265	図129	肥前系磁器	染付碗	4 M9k23	4-2	4-158	(8.2)	4.7	3.3	30%	総釉 壘付釉剥 外面染付	青灰	密	反転復元
1266	図129	肥前系磁器	染付蓋物碗	4 M9k23	4-2	4-158	8.4	7.3	5.2	35%	壘付・口縁端部釉剥 外面染付 高台内銘「大・」	灰白	密	反転復元
1267	図129 図版81	肥前系磁器	染付大皿	4 M9k23	4-2	4-158	(26.8)	4.9	15.6	50%	総釉 壘付釉剥 内外面染付 高台内銘「福」	淡青灰	密	反転復元
1268	図129	肥前系磁器	青磁皿	4 M9k23	4-2	4-158	(13.2)	3.0	4.4	50%	青磁釉 高台付近露胎 内底部蛇の目釉剥	釉:明緑灰 露胎:灰白	密	反転復元
1269	図129	肥前系磁器	青磁皿	4 M9k23	4-2	4-158	(13.2)	2.6~3.4	4.4	50%	青磁釉 高台付近露胎 内底部蛇の目釉剥	釉:明緑灰 露胎:灰白	密	反転復元
1270	図129	肥前系磁器	青磁皿	4 M9k23	4-2	4-158	(13.0)	3.3	4.2	50%	青磁釉 高台付近露胎 内底部蛇の目釉剥	釉:明緑灰 露胎:灰白	密	一部反転復元
1271	図129 図版81	肥前系磁器	菱皿	4 M9k23	4-2	4-158	11.4×15.5	2.1~2.6	7.4×10.8	90%	総釉 壘付釉剥	白	密	
1272	図129	肥前系磁器	青磁輪花大皿	4 M9k23	4-2	4-158	25.6	5.4	15.8	70%	青磁釉 貫入 高台内輪状に釉剥	釉:オリーブ灰 露胎:黒褐	密	
1273	図129 図版81	肥前系磁器	染付杯	4 M9k23	4-2	4-158	6.6	4.5	3.9	99%	総釉 壘付釉剥・珪砂 外面染付	淡灰白	密	
1274	図129 図版81	肥前系磁器	杯	4 M9k23	4-2	4-158	6.5~7.0	4.9	3.4	98%	総釉 壘付釉剥・珪砂	白	密	歪あり
1275	図129	中国製? 磁器	杯	4 M9k23	4-2	4-158	(6.7)	4.3	3.1	55%	総釉 壘付釉剥・珪砂 体部外面カンナ痕	白	密	反転復元
1276	図130 図版81	肥前系陶器	碗	4 M9k23	4-2	4-158	9.8	7.0	4.4	95%	内面口縁部灰釉・底体部褐釉 外面灰釉・高台部露胎	灰釉:灰白 褐釉:赤黒 露胎:暗赤灰	ざっくりしている	
1277	図130 図版81	瀬戸美濃系陶器	天目茶碗	4 M9k23	4-2	4-158	9.7	5.8	3.8	70%	黒釉 高台付近露胎	釉:黒 露胎:灰白	ざっくりしている	
1278	図130 図版82	瀬戸美濃系陶器	小碗	4 M9k23	4-2	4-158	8.6	5.7	4.2	85%	灰釉 外底部露胎・回転ヘラケズリ 内底部目痕3カ所	釉:オリーブ灰 露胎:黄灰	ざっくりしている	
1279	図130 図版82	肥前系陶器	皿	4 M9k23	4-2	4-158	12.0	3.2	5.0	70%	灰釉 外面下半露胎・回転ヘラケズリ 内底部砂目4カ所 冷め割れあり	釉:灰オリーブ 露胎:黄灰	密	
1280	図130 図版82	肥前系陶器	皿	4 M9k23	4-2	4-158	11.7	2.8	4.2	70%	灰釉 外面約半分露胎 内底部砂目痕4カ所	釉:にぶい黄褐 露胎:にぶい黄橙	密	
1281	図130	肥前系陶器	皿	4 M9k23	4-2	4-158底	11.4	3.1	4.8	60%	灰釉 外面口縁付近の一部露胎 内底部・高台部砂目3カ所ずつ	釉:灰オリーブ 露胎:黒褐	密	
1282	図130 図版82	肥前系陶器	唐津折縁皿	4 M9k23	4-2	4-158	12.8	3.3	4.9	75%	褐釉 内面一部と外面底体部露胎	釉:灰赤 露胎:明赤褐	ざっくりしている	
1283	図130 図版82	肥前系陶器	唐津折縁皿	4 M9k23	4-2	4-158底	12.2	2.7	5.6	85%	褐釉 内面中央付近・外面下半露胎 外底部回転糸切・砂目痕3カ所	釉:赤黒 露胎:にぶい赤褐	ざっくりしている	
1284	図130	肥前系陶器	唐津鉢	4 M9k23	4-2	4-158底	-	7.4	14.8		内面褐釉・灰釉で刷毛目 外面上半灰釉 下半褐釉 高台壘付・高台内露胎	褐釉:暗赤褐 灰釉:褐灰 露胎:灰赤	密	反転復元
1285	図130	備前焼	播鉢	4 M9k23	4-2	4-158底	(30.8)	12.1	19.2	20%	内外面回転ナデ 播目8本/2.3cm	にぶい赤褐	密 微砂粒多く含む	反転復元
1286	図130	土師質土器	皿	4 M9k23	4-2	4-158	10.1	1.8		99%	内面ヨコナデ・ナデ 外面ヨコナデ ユビオサエ・ナデ	灰白	密	口縁部スス付着 灯明皿
1287	図130	土師質土器	焙烙	4 M9k23	4-2	4-158	(25.5)	6.3	(26.4)	35%	内面強いヨコナデ・ナデ 外面ヨコナデ・ナデ	灰黄褐 暗灰	1mmまでの長石等含む	反転復元
1288	図130 図版82	土師質土器	焙烙	4 M9k23	4-2	4-158	30.0	7.8	31.6	65%	内面回転ナデ 外面体部ナメ平行タタキ 把手外側に肥厚・円孔	にぶい黄橙 黒褐	1mm前後の砂粒含む	
1289	図130	瓦質土器	風炉	4 M9k23	4-2	4-158底	-	16.5+	(25.7)	30%	内面板ナデ 外面ミガキ? 四脚?	黒	密	反転復元
1290	図130 図版82	肥前系磁器	碗	4 M9o22	4-2	4-188下層	11.1	5.7	4.4	75%	壘付釉剥・珪砂 内底部蛇の目釉剥 外面染付	淡青灰	密	
1291	図130	肥前系磁器	碗	4 M9o22	4-2	4-188上層	10.4	4.9	4.4	55%	総釉 貫入 壘付釉剥 外面染付	白	密	一部反転復元
1292	図130 図版82	肥前系磁器	碗	4 M9o22	4-2	4-188下層	(10.3)	4.6	4.0	50%	総釉 壘付釉剥 外面染付	淡青灰	密	一部反転復元
1293	図130	肥前系磁器	染付輪花皿	4 M9o22	4-2	4-188下層	(14.0)	2.8	9.0	55%	総釉 壘付釉剥 内外面染付	白	密	反転復元
1294	図130	肥前系磁器	染付蕎麦箸口	4 M9o22	4-2	4-188下層	7.6	5.9	4.0	55%	総釉 貫入 壘付釉剥 外面染付 印判手	淡青灰	密	
1295	図130	肥前系陶器	陶胎染付碗	4 M9o22	4-2	4-188	(10.4)	6.3	4.4	50%	総釉 貫入 壘付釉剥・珪砂 外面染付	釉:オリーブ灰	密	一部反転復元
1296	図130	肥前系陶器	碗	4 M9o22	4-2	4-188下層	12.0	5.1	4.1	55%	灰釉 貫入 総釉 壘付釉剥	オリーブ	密	
1297	図130	肥前系陶器	碗	4 M9o22	4-2	4-188下層	(12.3)	7.3	3.9	35%	灰釉 貫入 高台付近露胎	釉:にぶい黄褐 露胎:灰白	密	反転復元

報告書番号	図・図版番号	産地種類	器種	調査区地区	遺構面	遺構層位等	法量			残存率	調整・技法	色調	胎土	備考
							口径cm	高さcm	底径cm					
1298	図130	肥前系陶器	京焼碗	4 M9o22	4-2	4-188下層	(12.2)	4.5	4.0	50%	灰釉 貫入 高台付近露胎 内面山水文	釉:灰オリーブ 露胎:灰黄	密	一部反転復元
1299	図130	瀬戸美濃系陶器	碗	4 M9o22	4-2	4-188下層	(11.4)	6.6	4.6	55%	灰釉 貫入 外底部露胎 外面錆釉で縞状文様 内底部日痕3カ所	釉:オリーブ 灰 露胎:浅黄	密	一部反転復元
1300	図130	京・信楽系陶器	杯	4 M9o22	4-2	4-188上層	5.8	3.7	1.9	95%	高台部露胎 外面錆釉と呉須で竹文	釉:淡黄 露胎:灰白	密	
1301	図131	肥前系陶器	鉢	4 M9o22	4-2	4-188上層	(24.3)	11.8	11.2	25%	畳付・高台内露胎 外面下半褐釉 外面上半灰釉に白土で刷毛目 内面褐釉に白土で刷毛目	褐釉:赤黒 灰 釉:オリーブ 灰 白土:灰白 露胎:にぶい赤褐	1mmまでの長石等多く含む	反転復元
1302	図131	京・信楽系陶器	鍋	4 M9o22	4-2	4-188下層	(19.6)	7.0+	-	20%	両手鍋 褐釉	褐	密	反転復元
1303	図131	堺・明石系陶器	播鉢	4 M9o22	4-2	4-188下層	(32.7)	9.9+	-	10%	内面回転ナデ 播目密 外面回転ナデ・回転ヘラケズリ	赤褐	1~2mmの長石粒等多く含む	反転復元
1304	図131	瀬戸美濃系陶器	?	4 M9o22	4-2	4-188上層	-	13.3+	(30.8)	底部20%	灰釉 外底部露胎 墨書「・野?」	灰白	ざっくりしている	反転復元
1305	図131	備前焼	船徳利	4 M9o22	4-2	4-188下層	(3.6)	29.7	(12.6)	35%	褐釉 内外面回転ナデ 内面頸部以下露胎	釉:暗赤褐 露胎:灰白~褐灰	密	反転復元
1306	図131	土師質土器	焙烙	4 M9o22	4-2	4-188下層	(29.4)	6.4+	(30.5)	15%	内外面回転ナデ	にぶい橙	1mm前後の長石・金雲母等多く含む	反転復元
1307	図131	土師質土器	焼塩壺蓋	4 M9o22	4-2	4-188上層	7.9	1.9		100%	外面ヨコナデ・ナデ 内面布目瓦痕	明赤褐	1mmまでの黒色砂粒・金雲母粒多く含む	
1308	図131	土師質土器	焼塩壺蓋	4 M9o22	4-2	4-188下層	7.5	2.0		98%	外面回転ナデ 内面布目瓦痕	橙	1mm前後の長石・金雲母等多く含む	
1309	図131	土師質土器	焼塩壺蓋	4 M9o22	4-2	4-188上層	7.5	1.9		100%	外面回転ナデ 内面布目瓦痕	橙	1mm前後の長石・金雲母等含む	
1310	図131	土師質土器	焼塩壺蓋	4 M9o22	4-2	4-188下層	7.3	1.9		98%	外面回転ナデ 内面布目瓦痕	にぶい橙	1mm前後の長石・金雲母等多く含む	
1311	図131	土師質土器	焼塩壺蓋	4 M9o22	4-2	4-188下層	7.4	1.9		95%	外面回転ナデ 内面布目瓦痕	橙	1mm前後の長石・金雲母等多く含む	
1312	図131	土師質土器	焼塩壺蓋	4 M9o22	4-2	4-188下層	7.9	2.0		100%	外面回転ナデ 内面布目瓦痕	にぶい橙	1mm前後の長石・金雲母等含む	
1313	図131	土師質土器	焼塩壺蓋	4 M9o22	4-2	4-188下層	(6.2)	7.6	5.2	40%	内面ナデ? 外面ヨコナデ 刻印「・伊織」	橙	1~2mmの長石等多く含む	反転復元
1314	図131 図版82	土師質土器	焼塩壺蓋	4 M9o22	4-2	4-188上層	5.7	7.9	5.2	90%	内面ゴザ状瓦痕 外面回転ナデ 刻印「泉湊伊織」	にぶい橙	1mmまでの長石・金雲母粒多く含む	
1315	図131	土師質土器	焼塩壺蓋	4 M9o22	4-2	4-188下層	6.2	7.7	5.1	40%	内面ゴザ状瓦痕・ナデ 外面ナデ 刻印「泉湊伊織」	橙	1mmまでの赤色砂粒・金雲母等含む	反転復元
1316	図131 図版82	土師質土器	焼塩壺蓋	4 M9o22	4-2	4-188下層	5.7	7.6	5.0	99%	内面ヨコナデ 外面ヨコ(回転)ナデ 刻印「泉湊伊織」	橙	1mm前後の長石・金雲母等多く含む	
1317	図131	土師質土器	皿	4 M9m24	4-2	4-193	(16.5)	2.3		30%	内面ヨコナデ・ナデ 外面ヨコナデ・ユビオサエ・ナデ	にぶい黄橙	密 微砂粒含む	反転復元
1318	図131	土師質土器	皿	4 M9m24	4-2	4-193	12.1	2.35	8.4	90%	摩滅により調整不明	橙	1~3mmの長石・赤色砂粒等多く含む	口縁部スス付着 灯明皿
1319	図131 図版82	土師質土器	皿	4 M9m24	4-2	4-193	11.5	2.4	7.9	95%	内面ナデ 外面回転ナデ・ヘラケズリ 外底部ナデ	にぶい橙	1mmまでの砂粒多く含む	口縁部スス付着 灯明皿
1320	図131 図版82	土師質土器	皿	4 M9m24	4-2	4-193	(9.9)	2.2	6.8	50%	内外面摩滅 調整不明	にぶい黄橙	1mmまでの長石粒等含む	反転復元
1321	図131	土師質土器	皿	4 M9m24	4-2	4-193	11.2	2.6	7.7	90%	口縁部ヨコナデ 摩滅著しい	にぶい黄橙	1mmまでの砂粒含む	
1322	図131	土師質土器	皿	4 M9m24	4-2	4-193	10.3	2.1	6.2	99%	外面体部から内面回転ナデ 外底部回転ナデ切	灰白	微砂粒含む	口縁部スス付着付着 灯明皿
1323	図132 図82	肥前系磁器	染付碗	4 M9o23	4-2	4-197	(9.9)	5.75	3.9	55%	総釉 貫入 畳付釉剥 外面染付 高台内銘「大明年製」	白青灰	密	一部反転復元
1324	図132 図82	肥前系磁器	染付碗	4 M9o23	4-2	4-197	(10.0)	5.6	(3.8)	45%	総釉 畳付釉剥 外面染付 印判手	淡黄灰	密	反転復元
1325	図132	土師質土器	焙烙	4 M9o23	4-2	4-197	(34.6)	6.3+	(37.0)	10%	内面回転ナデ 外面回転ナデ・ユビオサエ	橙	2mmまでの長石・赤色砂粒等多い	反転復元
1326	図132	肥前系陶器	陶胎染付碗	4 M9t20	4-2	4-200	(10.0)	7.65	4.9	65%	総釉 貫入 畳付釉剥 外面染付	緑灰	ざっくりしている	一部反転復元
1327	図132 図82	中国製磁器	染付皿	4 M9rs24	4-2	4-214下層	(10.0)	2.8	4.7	50%	総釉 貫入 畳付釉剥 内面染付	浅黄	密	一部反転復元
1328	図132 図82	肥前系陶器	碗	4 M9rs24	4-2	4-214上層	(10.3)	6.55	4.3	60%	灰釉 貫入 外面下半露胎 外面鉄絵	釉:灰白 露胎:浅黄	密	一部反転復元
1329	図132 図82	肥前系陶器	碗	4 M9rs24	4-2	4-214	11.6	6.0	4.8	50%	灰釉 外底部露胎・回転ヘラケズリ	釉:オリーブ 黄 露胎:にぶい赤褐	ざっくりしている	一部反転復元 釉かなり剥離
1330	図132 図82	肥前系陶器	碗	4 M9rs23	4-2	4-214	11.1	5.9	5.2	80%	灰釉 貫入 高台付近露胎・回転ヘラケズリ	釉:オリーブ 黄 露胎:浅黄橙	ざっくりしている	
1331	図132 図82	肥前系陶器	杯	4 M9rs23	4-2	4-214	(7.3)	4.65	3.2	60%	灰釉 外底部露胎・回転ヘラケズリ	釉:灰オリーブ 露胎:灰白	密	反転復元
1332	図132 図82	肥前系陶器	皿	4 M9	4-2	4-214	11.3	3.4	4.4	90%	灰釉 高台部周辺露胎 内底部砂目3カ所	釉:灰白 露胎:浅黄橙	密	
1333	図132 図82	肥前系陶器	皿	4 M9rs24	4-2	4-214	10.0	2.4	4.2	70%	灰釉 外面下半露胎 内底部砂目3カ所	釉:オリーブ 黄 露胎:にぶい橙	密	
1334	図132	土師質土器	大皿	4 M9rs24	4-2	4-214	(17.5)	3.0	(11.5)	30%	内面ヨコナデ・ナデ 外面ヨコナデ・ユビオサエ・ナデ	浅黄橙	1mmまでの長石粒等多く含む	反転復元
1335	図132	土師質土器	皿	4 M9rs24	4-2	4-214	11.0	1.7		60%	口縁部ヨコナデ 外底部ユビオサエ	外:にぶい赤褐 内:黒・黒褐	1mmまでの長石・片岩粒等多く含む	反転復元 内面タール状物質

報告書番号	図・図版番号	産地種類	器種	調査区地区	遺構面	遺構層位等	法量			残存率	調整・技法	色調	胎土	備考
							口径cm	高さcm	底径cm					
1336	図132	土師質土器	皿	4 M9rs24	4-2	4-214	(10.2)	1.9	(4.5)	50%	内面ヨコナデ・ナデ 外面ヨコナデ・ユビオサエ 外底部板目圧痕	橙	1~2mmの片岩・赤色酸化粒含む	一部反転復元
1337	図132	土師質土器	皿	4 M9rs24	4-2	4-214	11.3	2.2		50%	内面ヨコナデ・ナデ 外面ヨコナデ ユビオサエ・ナデ	灰白	密	口縁部スス付着 灯明皿
1338	図132	土師質土器	小皿	4 M9rs24	4-2	4-214下層	7.0~7.8	1.9		80%	内面ヨコナデ・ナデ 外面ヨコナデ・ユビオサエ・ナデ	橙	1mm程度の長石等含む	
1339	図132	肥前系陶器	唐津碗	4 M9st21	4-2	4-225	-	2.9+	4.1	底部100%	豊付釉刺 内外面白土で刷毛目	褐釉:黒褐 白土:灰白	ざっくりしている	
1340	図132	土師質土器	皿	4 M9st21	4-2	4-225	10.8	2.3	7.8	99%	内面回転ナデ・ナデ 外面回転ナデ 外底部回転系切	にぶい橙	密 微砂粒含む	口縁部スス付着 灯明皿
1341	図132	肥前系陶器?	尿瓶	4 M9s22・23(ほか)	4-2	4-227	(4.2)	20.8	(18.4)	25%	内外面褐釉 外底部露胎 外面肩部沈線間に波状文 内面同心円タタキ	釉:暗褐・極暗褐 露胎:黒褐	密	合成反転復元 薩摩焼?
1342	図132	備前焼	播鉢	4 M9r23	4-2	4-230	(30.6)	11.5	(13.0)	25%	内外面回転ナデ 外底部ナデ 播目密12本/2.4cm	明赤褐 外面口縁部のみ灰白	密 1mm前後の長石粒等含む	反転復元
1343	図132	肥前系陶器	唐津皿	4 M9r23	4-2	4-239	(11.5)	3.15	(4.2)	30%	灰釉 高台付近露胎 高台部・内底部砂目	釉:灰オリーブ 露胎:にぶい赤褐	密	反転復元
1344	図132	肥前系陶器	碗	4 M9r22	4-2	4-240	(10.7)	5.2+	-	10%	灰釉 外底部付近露胎 外面体部絵柄	釉:灰オリーブ 露胎:明赤褐	密	反転復元
1345	図132	土師質土器	皿	4 M9r22	4-2	4-240	10.0	2.3		80%	内面ヨコナデ・ナデ 外面ヨコナデ・?	灰白	1~2mmの長石・チャート含む	表面摩滅・剥離 口縁部スス付着 灯明皿
1346	図132	土師質土器	小皿	4 M9r22	4-2	4-240	7.8~8.0	1.6	6.8	100%	外面体部から内面ナデ 外底部未調整・ナデ	橙	1~5mmの片岩等の砂粒含む	口縁部スス付着 灯明皿 歪著しい
1347	図132	土師質土器	焼塩壺蓋	4 M9r22	4-2	4-240	(6.6)	1.8		40%	外面ヨコナデ・ユビオサエ・ナデ 内面ヨコナデ・ナデ 部分的に網目痕	橙	1~3mmの長石粒等多く含む	反転復元
1348	図132	土師質土器	皿	4 M9q23	4-2	4-253	(12.7)	2.1	9.6	60%	外面体部から内面体部ヨコナデ 外底部ナデ・未調整 粘土紐の接合痕顕著	橙 暗灰	1~5mm大の長石・片岩等多量に含む	歪著しい
1349	図132	土製品	遊玩具土人形	4 M9q23	4-2	4-253	4.5	3.2	2.1	左前脚欠損	大 手捻り成型 中実	にぶい黄橙	密	
1350	図132	肥前系陶器	皿	4 M9r24	4-2	4-260	(13.0)	3.7	4.4	45%	灰釉 外面底体部露胎 内底部胎土目2か所以上	釉:灰オリーブ 露胎:にぶい黄橙・赤褐	ざっくりしている	反転復元
1351	図132	肥前系磁器	染付碗	4 M9k24	4-2	4-265	(8.5)	6.3	4.3	30%	総釉 豊付釉刺 外面染付	淡青灰	密	反転復元
1352	図132	肥前系磁器	染付皿	4 M9k24・25	4-2	4-265	(16.0)	2.8	10.3	35%	総釉 豊付釉刺 内外面染付 高台内銘角福 外底部カンナ痕 高台内ハリ痕	淡青灰	密	一部反転復元
1353	図132	肥前系磁器	杯	4 M9k24	4-2	4-265	(6.6)	4.3	3.4	55%	総釉 豊付釉刺・珪砂	白	密	一部反転復元
1354	図132	肥前系磁器	杯	4 M9k24	4-2	4-265	(5.6)	3.2	2.6	45%	総釉 豊付釉刺・珪砂	白	密	反転復元
1355	図133 図版82	肥前系陶器	京焼風碗	4 M9k24	4-2	4-265	13.1	5.2	5.3	90%	灰釉 高台付近露胎 高台内銘「清水」 内面山水文	釉:オリーブ黄 露胎:灰白	密	
1356	図133 図版83	肥前系陶器	京焼風碗	4 M9k24	4-2	4-265	12.7	4.7	4.9	75%	灰釉 高台付近露胎 内面山水文 高台内「吉小松」	釉:オリーブ黄 露胎:灰白	密	
1357	図133	京・信楽系陶器	碗	4 M9k24	4-2	4-265	(12.7)	4.9	4.2	35%	外底部露胎 釉貫入生じる 高台内スタンプ「京」	釉:灰白 露胎:灰白	ざっくりしている	反転復元
1358	図133	肥前系陶器	碗	4 M9k24	4-2	4-265	(10.4)	7.8	4.7	45%	灰釉 外底部露胎・回転ヘラケズリ	釉:オリーブ褐へ黒 露胎:灰黄褐	ざっくりしている	一部反転復元
1359	図133	肥前系陶器	鉢	4 M9k24	4-2	4-265	(19.7)	7.1	6.2	40%	外面灰釉 高台付近露胎 内面褐釉・銅緑釉 内底部蛇の目釉刺	灰釉:灰黄 褐釉:黄褐 双緑釉:緑 露胎:灰白	密	一部反転復元
1360	図133 図版83	肥前系陶器	片口鉢	4 M9k24	4-2	4-265	(20.6)	10.7	8.1	55%	内面黒釉 外面上半褐釉 下半露胎	黒釉:黒 褐釉:黒褐 露胎:暗赤褐	密	
1361	図133	土師質土器	皿	4 M9k24	4-2	4-265	(10.4)	2.0	(7.0)	35%	外面体部から内面回転ナデ 外底部回転系切・板状圧痕	灰黄 黒	密	反転復元
1362	図133	土師質土器	焙烙	4 M9k24	4-2	4-265	(30.6)	4.9+	(30.6)	口縁部15%	内面回転ナデ・ユビオサエ 外面回転ナデ・ナメ平行タタキ	外:黒 内:にぶい褐	1mmまでの長石等多く含む	反転復元
1363	図133 図版83	土師質土器	焼塩壺	4 M9k24	4-2	4-265	5.4	7.1	5.3	100%	内面布目・ナデ 外面ヨコナデ・ナデ	橙	1mm前後の長石・赤色砂粒等含む	
1364	図133 図版83	土師質土器	焼塩壺	4 M9k24	4-2	4-265	6.4	10.3	5.7	97%	口縁部ヨコナデ 内面シボリ 外面ヨコナデ・ナデ・ユビオサエ 刻印「天下一堺」	にぶい橙	1~2mmの長石粒等多く含む	
1365	図133 図版83	肥前系磁器	染付皿	4 M9k24	4-2	4-267	13.5	3.1	6.9	80%	総釉 豊付釉刺・珪砂 内面染付	淡青灰	密	
1366	図133	肥前系磁器	染付杯	4 M9k24	4-2	4-267	(7.0)	4.7	3.2	45%	総釉 豊付釉刺・珪砂 外面染付	淡青灰	密	一部反転復元
1367	図133 図版83	肥前系磁器	青磁皿	4 M9k24	4-2	4-267	12.9	3.4	4.5	90%	高台付近露胎 内底部蛇の目釉刺	釉:明緑灰 露胎:灰白	密	
1368	図133 図版83	肥前系磁器	青磁皿	4 M9k24	4-2	4-267	(13.8)	3.1	4.6	70%	外面下半露胎 内底部蛇の目釉刺	釉:明緑灰 露胎:灰白	密	反転復元
1369	図133	京・信楽系施釉陶器	碗	4 M9k24	4-2	4-267	13.4	4.7~5.1	4.7	75%	灰釉 貫入 外底部露胎 内面鉄絵 目痕4か所	釉:灰白 露胎:灰白	密	歪著しい
1370	図133	肥前系陶器	皿	4 M9k24	4-2	4-267	13.6	3.95	4.7	60%	灰釉 外底部付近露胎 内面銅緑釉 内底部砂目	灰釉:灰白 銅緑釉:露胎:灰白	密	
1371	図133	肥前系陶器	皿	4 M9k24	4-2	4-267	(12.2)	3.6	4.5	50%	灰釉 外面下半付近露胎 内底部砂目4か所	釉:灰黄 露胎:灰白	ざっくりしている	一部反転復元
1372	図133	肥前系陶器	皿	4 M9k24	4-2	4-267	(11.7)	3.7	4.1	50%	灰釉 外面下半露胎 内底部胎土目4か所か?	釉:銀色(火中のため) 露胎:にぶい赤褐	ざっくりしている	反転復元
1373	図133 図版83	肥前系陶器	皿	4 M9k24	4-2	4-267	19.0	3.5	6.4	75%	灰釉 総釉 貫入 内底部砂目5か所	灰黄	ざっくりしている	

報告書番号	図・図版番号	産地種類	器種	調査区地区	遺構面	遺構層位等	法量			残存率	調整・技法	色調	胎土	備考
							口径cm	高さcm	底径cm					
1374	図133	肥前系陶器	三島手鉢	4 M9k24	4-2	4-267	(38.4)	10.2	(12.4)	30%	外面上半灰釉 外面下半露胎 内底部砂目	内(釉):黒褐 外(釉):黄灰 胎:暗褐	密	反転復元
1375	図134 図版83	肥前系陶器	壺	4 M9k24	4-2	4-267	(8.3)	15.0+	7.6	30%	内面底部露胎 外底部薄く褐釉 外面体部から内面口縁部灰釉 底部焼成後穿孔2か所	灰釉:黒褐 灰白褐釉:にぶい赤褐 露胎:にぶい橙	ざっくりしている	反転復元
1376	図134	土師質土器	皿	4 M9k24	4-2	4-267	(10.3)	2.0		40%	内面ヨコナデ・ナデ 外面ヨコナデ・ユビオサエ・ナデ	にぶい黄橙	密	反転復元 口縁部スス明皿
1377	図134	土師質土器	小皿	4 M9k24	4-2	4-267	7.6	1.1		75%	内面ヨコナデ ナデ 外面ヨコナデ ユビオサエ・ナデ	にぶい橙	1~5mmの長石・片岩等多く含む	歪著しい
1378	図134	土師質土器	極小皿	4 M9k24	4-2	4-267	5.3	1.2		90%	外面体部から内面ナデ 外底部軽いユビオサエ・ナデ	灰白	密	
1379	図134	土師質土器	焙烙	4 M9k24	4-2	4-267	(28.5)	8.2+	(29.8)	20%	内面ナデ 外面ヨコナデ・ナデ・ケズリ 内面体部二箇一の貫通しない刺突	にぶい橙	1mmまでの砂粒含む	反転復元
1380	図144	肥前系磁器	染付碗	3 M10rs2	1~4-2	3-121	-	5.6+	4.0	40%	総釉 外面染付 高台内銘「大明年製」	白	密	一部反転復元
1381	図144	肥前系磁器	染付碗	3 M10rs2	1~4-2	3-124	(11.0)	6.1	(4.4)	40%	総釉 貫入 壘付釉剥 内外面染付	淡青灰	密	一部反転復元
1382	図144	肥前系陶器	唐津皿	3 M10r2	1~4-2	3-124	(12.7)	3.8	4.4	40%	灰釉 外底部付近露胎・回転ヘラケズリ 内底部胎土目3カ所以上	釉:灰黄 露胎:淡黄	密	一部反転復元
1383	図144	備前焼	水指 水鉢	3 M10rs2	1~4-2	3-124	(11.4)	7.2	(11.6)	25%	外面体部・内面回転ナデ 外底部端回転ヘラケズリ・重ね焼きの痕跡	暗赤灰	1~2mmの長石粒等多く含む	反転復元
1384	図144	瀬戸美濃系磁器	染付碗	3 M10p2・3	1~4-2	3-126	(8.9)	4.1	(3.5)	35%	総釉 壘付釉剥 外面染付	白	密	反転復元
1385	図144	肥前系陶器	唐津皿	3 M10p3	1~4-2	3-126	(13.2)	4.0	4.6	50%	灰釉 外面下半・内面の一部露胎 内底部胎土目3カ所以上	釉:灰 露胎:褐灰	ざっくりしている	反転復元
1386	図144	備前焼	播鉢	3 M10p2・3	1~4-2	3-126	(29.3)	9.3+	-	10%以下	内外面回転ナデ 播目13本/3.2cm	にぶい赤褐	1mm前後の長石粒等多く含む	反転復元
1387	図144	肥前系陶器	絵唐津鉢	3 M10i4	1~4-2	3-129	(29.0)	8.0	8.0	25%	総釉 壘付釉剥 内面鉄絵胎土目2カ所以上	にぶい黄橙	密	反転復元
1388	図144	土製品	取鍋	3 M10i3	1~4-2	3-132	(7.1)	3.0		30%	手づくね 内面溶解物付着	灰	1mmまでの砂粒多い	反転復元
1389	図144	土製品	遊玩具 面子?	3 M10i4	1~4-2	3-132	直径5.8	厚さ1.8		100%	円形 中央部窪む	灰白	1~2mmのクサリ 鏝多く含む	瓦転用
1390	図144	肥前系陶器	陶胎染付碗	3 M10p5	1~4-2	3-151	-	4.9+	(4.8)	20%	総釉 貫入 壘付釉剥 外面染付	青灰	密	反転復元
1391	図144	土師質土器	灯明皿	3 M10p4	1~4-2	3-151	(11.2)	2.3			外面上半から内面透明釉 外面体部回転ナデ 外底部回転ヘラケズリ	釉:褐 露胎:赤褐	ざっくりしている	反転復元 口縁部スス付着
1392	図144	肥前系磁器	染付水滴	3 M10o4	1~4-2	3-152	長4.2	幅3.4	高5.2+		外面染付	白	密	
1393	図144	瀬戸美濃系陶器	壺	3 M10o4	1~4-2	3-152	(14.4)	8.8+	-	10%以下	褐釉	にぶい赤褐	ざっくりしている	反転復元
1394	図144 図版83	肥前系磁器	染付碗蓋	3 M10s3	1~4-2	3-153	10.3	3.0	4.0	70%	総釉 貫入 摘み端部釉剥 内外面染付	淡青灰	密	
1395	図144 図版83	肥前系磁器	染付碗	3 M10s3	1~4-2	3-153	10.8	6.0	4.7	85%	総釉 壘付釉剥 内外面染付	白	密	
1396	図144	肥前系磁器	染付碗	3 M10s3	1~4-2	3-153	(11.2)	6.0	4.2	50%	総釉 壘付釉剥 内外面染付	淡青灰	密	一部反転復元
1397	図144 図版83	肥前系磁器	染付碗	3 M10s3	1~4-2	3-153	11.4	6.5	4.3	80%	総釉 壘付釉剥 内外面染付	淡青灰	密	
1398	図144 図版83	肥前系磁器	染付碗	3 M10s3	1~4-2	3-153	10.8	5.5	4.4	99%	総釉 壘付釉剥 外面染付	淡青灰	密	
1399	図144 図版83	肥前系磁器	染付碗	3 M10s3	1~4-2	3-153	10.8	5.4	4.3	85%	総釉 壘付釉剥 外面染付	淡青灰	密	
1400	図144 図版83	肥前系磁器	染付碗	3 M10s3	1~4-2	3-153	10.1	5.1	3.5	75%	総釉 壘付釉剥・珪砂 外面染付	灰	密	施釉雑
1401	図144 図版83	肥前系磁器	染付碗	3 M10s3	1~4-2	3-153	11.9	6.6	4.8	80%	総釉 壘付釉剥 外面染付	淡黄灰	密	
1402	図144 図版83	肥前系磁器	青磁染付碗	3 M10s3	1~4-2	3-153	11.4	7.2	4.5	70%	外面青磁釉 貫入 内面染付 高台内「滴福」	内:灰 外:緑灰	密	
1403	図144 図版83	肥前系磁器	青磁染付碗	3 M10s3	1~4-2	3-153	11.5	6.5	4.8	75%	外面青磁釉 貫入 壘付釉剥 内面染付 高台内「滴福」	内:淡青灰 外:緑灰	密	
1404	図144 図版83	肥前系磁器	染付蓋物碗	3 M10s3	1~4-2	3-153	9.7	5.2	4.7	60%	壘付・口縁部内面釉剥 外面染付	白	密	
1405	図145	肥前系磁器	染付杯(小碗)	3 M10s3	1~4-2	3-153	(8.4)	3.6	2.9	50%	総釉 外面染付	灰白	密	
1406	図145 図版83	肥前系磁器	染付蓋物碗	3 M10s3	1~4-2	3-153	7.4	4.2	3.5	90%	壘付・口縁部内面釉剥 貫入 外面染付	淡青灰	密	
1407	図145	肥前系磁器	染付皿	3 M10s3	1~4-2	3-153	(9.6)	2.35	5.9	45%	総釉 内外面染付	淡黄灰	密	反転復元
1408	図145	肥前系磁器	染付変形四方皿	3 M10s3	1~4-2	3-153	8.5	4.5+	2.5	50%	総釉 壘付釉剥 内外面染付	淡青灰	密	合成復元
1409	図145 図版83	肥前系磁器	染付輪花鉢	3 M10s3	1~4-2	3-153	20.2~21.5	9.4	12.1	90%	蛇の目凹形高台 内外面染付 外底部中央銘「角福」	淡青灰	密	歪著しい
1410	図145	肥前系磁器	染付杯	3 M10s3	1~4-2	3-153	8.8	5.3	3.8	55%	総釉 壘付釉剥・珪砂 外面染付	淡青灰	密	一部反転復元
1411	図145 図版84	肥前系磁器	染付蕎麦猪口	3 M10s3	1~4-2	3-153	9.2	7.1	7.2	95%	口縁部輪花状 内外面染付 蛇の目凹形高台 外底部中央銘「富貴長春」	淡青灰	密	
1412	図145 図版84	肥前系磁器	染付蕎麦猪口	3 M10s3	1~4-2	3-153	7.0	6.0	3.7	75%	総釉 壘付部分的に露胎 外面染付	淡青灰	密	

報告書番号	図・図版番号	産地種類	器種	調査区地区	造構面	造構層位等	法量			残存率	調整・技法	色調	胎土	備考
							口径cm	高さcm	底径cm					
1413	図145 図版84	肥前系 磁器	染付 合子蓋	3 M10s3	1~ 4-2	3-153	5.7	1.7		70%	内面口縁部付近露胎 外面染付	白	密	一部反転復元
1414	図145	肥前系 磁器	瓶	3 M10s3	1~ 4-2	3-153	3.3	16.2+	-	口頭部	内面頸部以下露胎 ロクロ目顕著	白	密	一部反転復元
1415	図145 図版84	肥前系 磁器	染付 御 神酒徳利	3 M10s3	1~ 4-2	3-153	1.4	12.4	4.9	99%	総釉 壘付釉刺 外面染付	淡黄灰	密	
1416	図145 図版84	瀬戸美濃系 陶器	碗	3 M10s3	1~ 4-2	3-153	11.9	7.2	4.9	70%	灰釉 総釉 貫入 壘付釉 刺	釉:灰白 露胎: 灰白		
1417	図145 図版84	瀬戸美濃系 陶器	碗	3 M10s3	1~ 4-2	3-153	(11.6)	5.9	4.1	40%	長石釉 貫入 外底部露胎 外面絵柄	釉:灰白 露胎: 灰白		一部反転復元
1418	図145 図版84	京・信楽系 陶器	碗	3 M10s3	1~ 4-2	3-153	12.6	4.9	3.7	75%	灰釉 貫入 外底部露胎・ 回転ヘラケズリ 内面花文	釉:灰 オリーブ 露胎:灰白	密	
1419	図145 図版84	京・信楽系 陶器	碗	3 M10s3	1~ 4-2	3-153	12.8	4.6	3.7	60%	灰釉 貫入 高台付近露 胎・回転ヘラケズリ 内面 花文	釉:灰白 露胎: 灰白	密	
1420	図145 図版84	肥前系 陶器	碗	3 M10s3	1~ 4-2	3-153	10.8	5.85	4.2	85%	灰釉 外底部露胎・回転ヘ ラケズリ 体部外面文様 内底部目痕3カ所	釉:オリーブ 灰 露胎:灰黄	密	
1421	図145 図版84	肥前系 陶器	筒茶碗	3 M10s3	1~ 4-2	3-153	(8.6)	5.3	4.4	65%	外底部露胎・回転ヘラケズ リ 内面染付	釉:明緑 灰 露 胎:灰黄	密	一部反転復元
1422	図145	京・信楽 施釉陶器	碗	3 M10s3	1~ 4-2	3-153	(9.4)	5.3	3.1	35%	外底部露胎・回転ヘラケズ リ 外面体部文様	釉:浅黄 露胎: 灰白	密	一部反転復元
1423	図145 図版84	肥前系 陶器	碗	3 M10s3	1~ 4-2	3-153	10.2	5.8	4.1	85%	灰釉 貫入 外底部露胎 高台内墨書「キ」 内底部 目痕3カ所	釉:灰白 露胎: 浅黄		
1424	図145 図版84	瀬戸美濃系 陶器	碗	3 M10s3	1~ 4-2	3-153	7.7	6.7	3.2	85%	口縁部外面から内面黄釉 貫入 外面体部薄い褐釉・ 回転ヘラケズリ 春筋底	褐釉:にぶい黄褐 黄釉:浅黄	ざっくりしている	
1425	図145	瀬戸美濃系 陶器	鍔茶碗	3 M10s3	1~ 4-2	3-153	(8.1)	6.4	5.4	40%	壘付釉刺 外面下半釉 外面上半から内面灰釉 貫 入	釉:灰白 にぶい 赤褐 露胎:淡黄	やや粗い	一部反転復元
1426	図145	肥前系 陶器	皿	3 M10s3	1~ 4-2	3-153	(10.6)	2.7	3.5	50%	灰釉 貫入 外底部付近露 胎・回転ヘラケズリ	釉:暗オリーブ 灰 露胎:にぶい橙	密	一部反転復元 冷め割れあり
1427	図145 図版84	肥前系 陶器	水注	3 M10s3	1~ 4-2	3-153	10.3	10.5 (10.8)	6.9	80%	灰釉 貫入 外底部露胎・ 回転ヘラケズリ 内面口縁 部露胎 外面山水文	釉:オリーブ 灰 露胎:灰白	密	
1428	図145 図版84	京・信楽系 陶器	合子蓋	3 M10s3	1~ 4-2	3-153	5.0	2.7		80%	灰釉 貫入 口縁部釉刺 き 外面文様	釉:灰白 暗青灰 露胎:淡黄	密	
1429	図145	京・信楽系 陶器	合子身	3 M10s3	1~ 4-2	3-153	5.0	1.7	5.2	65%	灰釉 貫入 口縁部露胎 外底部露胎・回転ヘラケズ リ	釉:黄橙 露胎: 浅黄橙	密	
1430	図145 図版84	土師質土器	練上手 火入れ	3 M10s3	1~ 4-2	3-153	9.0	9.7	8.0	50%	内外面回転ナデ 外底部 「深草」のスタンプ	橙+明褐灰	密	
1431	図145 図版84	瀬戸美濃系 陶器	輪花火入	3 M10s3	1~ 4-2	3-153	9.3	8.2	6.3	70%	灰釉 貫入 外面文様 内 面底体部・外底部露胎	釉:淡黄 露胎: 灰白	密	口縁部打ち 欠き?
1432	図146 図版84	堺・明石 焼締陶器	播鉢	3 M10s3	1~ 4-2	3-153	25.6	10.3	12.6	55%	内面回転ナデ 外面回転ナ デ・ヘラケズリ 播目10本 /2.5cm	暗赤褐 灰褐	1~5mmの長石粒 等多く含む	一部反転復元
1433	図146 図版84	堺・明石 焼締陶器	播鉢	3 M10s3	1~ 4-2	3-153	32.9	14.3	14.6	80%	内面回転ナデ 外面回転ナ デ・ヘラケズリ・ナデ 外底 部スタンプ 播目8本/2.6cm	赤褐	1~2mmの長石粒 等多く含む	
1434	図146	土師質土器	小皿	3 M10s3	1~ 4-2	3-153	8.5	1.8	3.5	97%	内外面回転ナデ 外底部回 転系切	にぶい橙	密	口縁部スス付 着 灯明皿
1435	図146	土師質土器	皿	3 M10s3	1~ 4-2	3-153	-	0.6+	(6.5)	5%以下	内外面回転ナデ 外底部回 転系切・墨書	にぶい橙		反転復元
1436	図146	土師質土器	灯明皿	3 M10s3	1~ 4-2	3-153	9.0	1.8	4.2	80%	外面口縁部付近から内面 にかけて透明釉 外底部回 転系切	釉:橙 露胎:橙	密	
1437	図146	土師質土器	焙烙	3 M10s3	1~ 4-2	3-153	(27.5)	6.3+	(29.0)	30%	内面回転ナデ 外面回転ナ デ・ヨコナデ	明赤褐	1mmまでの長石 等多く含む	反転復元
1438	図146	土師質土器	焼塩蓋	3 M10s3	1~ 4-2	3-153	7.4	1.95		98%	外面回転ナデ 内面布目 痕	にぶい褐		
1439	図146 図版84	土師質土器	平仄	3 M10s3	1~ 4-2	3-153	4.5	2.2	3.3	80%	型合わせ成型	にぶい橙	密	
1440	図146 図版84	土師質土器	平仄	3 M10s3	1~ 4-2	3-153	4.4	2.2	3.3	95%	型合わせ成型 芯台スス付 着	にぶい橙	密	
1441	図146	軟質施釉陶器	アワビ形 容器	3 M10s3	1~ 4-2	3-153	長さ (20.5)	幅 (15.1)	高さ (5.2)	30%	内面灰釉 外面灰釉・銅緑 釉 アワビの殻を忠実に模 写	内:浅黄 外:に ぶい黄・黒褐・緑	密	
1442	図146	土師質土器	釜	3 M10s3	1~ 4-2	3-153	(27.0)	8.6+	-	10%以下	内面口縁部から外面ヘラミ ガキ 内面体部回転ナデ 沈線3条	赤褐	密	反転復元
1443	図146	土製品	遊玩具 土人形	3 M10s3	1~ 4-2	3-153	9.5+	3.8	3.4	70%	人形 手捻り成型 中空	にぶい黄橙	密	
1444	図146	土製品	遊玩具 土人形	3 M10s3	1~ 4-2	3-153	3.6	2.4	1.9	100%	地藏 型合わせ成型 中実 底部に棒を刺す穴	にぶい黄橙	密	
1445	図146	土製品	遊玩具 土人形	3 M10s3	1~ 4-2	3-153	4.2	3.3+	3.3+		猿面? 手捻り成型 中実 頭部のみ	橙	密	
1446	図146	土製品	遊玩具 土人形	3 M10s3	1~ 4-2	3-153	3.9	2.5	3.9+		鳩 型合わせ成型 キラコ 付着 中実 底に棒を刺す 穴	にぶい橙	密	
1447	図146	土製品	遊玩具 泥面子	3 M10s3	1~ 4-2	3-153	4.3+	5.1	1.2		芥子面? 亀 型押し成型 キラコ付着	橙	密	
1448	図146	土製品	遊玩具 土人形	3 M10s3	1~ 4-2	3-153	3.4+	2.9	1.2		亀 型合わせ成型 キラコ 付着 中実	にぶい黄橙	密	
1449	図146	土製品	遊玩具 土鈴	3 M10s3	1~ 4-2	3-153	長さ 5.2	高さ 4.5		50%	手捻り成型で上部を絞る 玉の径1.2cm	灰白	密	
1450	図146	土製品	遊玩具 土鈴	3 M10s3	1~ 4-2	3-153	長さ 3.7	高さ 3.1		80%	手捻り成型で上部を絞る	橙	密	
1451	図146	土製品	遊玩具	3 M10s3	1~ 4-2	3-153	3.7	3.5	1.0	100%	鍋蓋 キの字状の摘み 手 捻り成型	明赤褐	密	ままごと道具

報告書番号	図・図版番号	産地種類	器種	調査区地区	遺構面	遺構層位等	法量			残存率	調整・技法	色調	胎土	備考
							口径cm	高さcm	底径cm					
1452	図146	土製品	遊玩具	3 M10s3	1~4-2	3-153	口径5.4	器高2.7+		40%?	漏斗? 内面透明釉	釉:黄 露胎:橙	密	ままごと道具?
1453	図146	肥前系磁器	染付皿	3 M10p4	1~4-2	3-164	-	1.3+	(10.8)	高台部15%	畳付釉刺 内外面染付	淡青灰	密	反転復元
1454	図146	肥前系陶器	唐津向付	3 M10p4	1~4-2	3-164	-	3.0+	4.0	50%	灰釉 鉄絵 外面下半露胎・回転ヘラケズリ 内面胎土目4か所	釉:褐灰 露胎:灰褐	ざっくりしている	反転復元
1455	図146	肥前系陶器	皿	3 M10p4	1~4-2	3-164	(12.8)	2.9	4.8	50%	灰釉 外面下半露胎・回転ヘラケズリ	釉:灰褐 露胎:灰褐	ざっくりしている	一部反転復元
1456	図146	備前焼	鉢	3 M10p4	1~4-2	3-164	(14.6)	7.0	7.6	30%	内外面ヨコナデ ユビオサエ・ナデ	灰赤	密	反転復元
1457	図146	土師質土器	焙烙	3 M10p4	1~4-2	3-164	(28.2)	5.8+	(29.0)	10%以下	内外面ヨコナデ ユビオサエ・ナデ	明赤褐	粗い 1mm前後の長石粒等多く含む	反転復元
1458	図147 図版84	肥前系磁器	染付蓋	3 M10p4	1~4-2	3-165	8.5	3.9	摘み径2.9	95%	口縁部露胎 外面染付	淡青灰	密	
1459	図147 図版84	瀬戸美濃系陶器	碗	3 M10op4	1~4-2	3-165	10.4	6.5	3.6	80%	外底部露胎・回転ヘラケズリ	釉:灰白 露胎:灰白	密	
1460	図147 図版85	中国製磁器	染付碗	3 M10p4	1~4-2	3-167	(13.3)	5.8	5.0	40%	貫入 高台付近露胎・回転ヘラケズリ・鉄カンナ痕 内外面染付	釉:淡青灰	密	一部反転復元
1461	図147 図版85	肥前系陶器	唐津折縁皿	3 M10op4	1~4-2	3-167	12.6	2.9	4.4	60%	灰釉 外底部付近露胎・回転ヘラケズリ 内底部胎土目3か所以上	釉:灰 オリーブ 露胎:灰黄褐	密	
1462	図147	肥前系陶器	唐津折縁皿	3 M10o4	1~4-2	3-167	(10.9)	2.8	4.0	45%	灰釉 外面下半・内面の一部露胎 外底部回転糸切のち回転ヘラケズリ	釉:灰白 露胎:にぶい黄橙	ざっくりしている	反転復元
1463	図147	備前焼	播鉢	3 M10op4	1~4-2	3-167	(15.0)	5.8+	-	20%	内面回転ナデ 外面回転ナデ・ヘラケズリ 播目6本 /1.9cm	黒褐 外面口縁部のみ暗赤褐	密 1~2mm大の長石等含む	反転復元
1464	図147	肥前系陶器	唐津碗	3 M10rs5	1~4-2	3-171	(10.9)	6.2	3.9	50%	灰釉 体部下露胎 外底部回転ヘラケズリ 内面釉	釉:暗オリーブ・にぶい黄 露胎:にぶい赤褐・黄褐	ざっくりしている	一部反転復元
1465	図147	丹波焼	播鉢	3 M10rs5	1~4-2	3-171	(33.0)	5.8+	-	10%以下	内外面回転ナデ 外面一部ユビオサエ 片口 播目6本 /1.9cm	灰褐	密 1mm前後の長石粒等含む	反転復元
1466	図147	肥前系磁器	碗蓋	3 M10s4	1~4-2	3-172	8.8	2.8	摘み径3.4	80%	総釉 摘み端部釉刺	白	密	
1467	図147	肥前系磁器	染付皿	3 M10s4	1~4-2	3-172	(12.2)	3.6	4.0	55%	外底部付近露胎・回転ヘラケズリ 内底部蛇の目釉刺 内面染付	釉:灰白 露胎:灰白	密	一部反転復元
1468	図147	肥前系陶器	碗	3 M10s4	1~4-2	3-172	(12.2)	8.9	(5.8)	25%	灰釉 外底部露胎 割高台回転ナデ・ヘラケズリ 体部中位沈線 タテ方向窓による窪み	釉:オリーブ 黄 露胎:にぶい赤褐	密	反転復元
1469	図147	土師質土器	灯明皿	3 M10s4	1~4-2	3-172	(11.1)	1.9		40%	内面回転ナデ・ナデ 外面回転ナデ 外底部回転ヘラケズリ・糸切	内(錆釉):暗赤褐 外(露胎):明赤褐	密	口縁部スス付着
1470	図147	肥前系磁器	染付輪花皿	3 M10o5	1~4-2	3-173	(13.8)	3.2	5.4	50%	総釉 畳付釉刺・珪砂 釉厚一定でない 内面染付 冷め割れあり	淡青白	密	焼歪 初期伊万里 反転復元
1471	図147 図版85	肥前系磁器	染付段重蓋	3 M10o5	1~4-2	3-173	6.75	2.5	摘み径2.6×0.55	100%	総釉 口縁端部釉刺 外面染付	淡青白 白	密	
1472	図147	肥前系磁器	染付碗	3 M10t4	1~4-2	3-175	(11.2)	5.8	3.9	55%	畳付釉刺・珪砂 内底部蛇の目釉刺 外面染付	淡青灰	密	一部反転復元
1473	図147	堺・明石系陶器	播鉢	3 M10t4	1~4-2	3-175	(33.3)	13.2	(15.5)	15%	外面口縁部から内面回転ナデ 外面体部ヘラケズリ・回転ナデ 播目9本/3.1cm	にぶい赤褐	密	反転復元
1474	図147	土製品	遊玩具土人形	3 M10t3	1~4-2	3-175	4.4	3.4	2.1	85%	狛犬 型合わせ成形 総釉(透明釉 緑釉) 中実	暗黄緑 明黄褐 橙	密	
1475	図147	備前焼	播鉢	3 M10s3	1~4-2	3-178	(21.0)	9.2	(8.3)	15%	内外面回転ナデ 播目タテ・ナメ 外面口縁部下重ね焼きの痕跡	灰赤	密 1~2mmの長石粒等含む	反転復元
1476	図147	土師質土器	小皿	3 M10s3	1~4-2	3-178	8.0	1.5		90%	内面ヨコナデ・ナデ 外面ヨコナデ 外底部ユビオサエ・ナデ	橙 にぶい橙	1~5mmの長石・片岩粒等多い	
1477	図147	土師質土器	皿	3 M10s3	1~4-2	3-178	(13.2)	1.9	(11.0)	45%	内外面ヨコナデ・ナデ	橙~灰褐	1mm前後の砂粒多く含む	反転復元
1478	図147	肥前系陶器	唐津鉢	3 M10p3	1~4-2	3-179	(10.2)	6.8	4.2	50%	灰釉 外面下半露胎・回転ヘラケズリ	釉:オリーブ 黒 露胎:にぶい黄褐	ざっくりしている	一部反転復元
1479	図147 図版85	肥前系陶器	唐津皿	3 M10p3	1~4-2	3-179	12.7	3.95	4.9	60%	外底部露胎・回転ヘラケズリ 内底部砂目3カ所	釉:明褐 灰白 露胎:明赤褐	密	
1480	図147	肥前系陶器	唐津皿	3 M10p3	1~4-2	3-179	(12.6)	3.4	5.0	60%	灰釉 外面下半露胎 外底部回転ヘラケズリ 内底部砂目	釉:灰 オリーブ 露胎:灰黄	密	一部反転復元 歪著しい
1481	図147	土師質土器	皿	3 M10p3	1~4-2	3-179	11.4	2.3	6.8	80%	内面ヨコナデ・ナデ 外面ヨコナデ 外底部繊維状圧痕	淡黄	密	口縁部スス付着 灯明皿
1482	図147	土師質土器	焙烙	3 M10m2	1~4-2	3-183	(29.2)	6.1	(31.0)	50%	内面ヨコナデ・ナデ 外面ヨコナデ・ナデ・ヘラケズリ	橙	1~10mm大の長石等多く含む	反転復元
1483	図147	瓦質土器	火鉢	3 M10m2	1~4-2	3-183	(18.0)	6.5+	-	10%以下	内面回転ナデ・ユビオサエ・ナデ 外面回転ナデ・スタンプ	黒	ざっくりしている	反転復元
1484	図148	肥前系磁器	染付碗蓋	3 M10t3	1~4-2	3-186	(9.7)	3.0	摘み径4.0	40%	総釉 貫入 摘み端部釉刺 内外面染付	淡青灰	密	一部反転復元
1485	図148	肥前系磁器	染付皿	3 M10t3	1~4-2	3-186	(13.9)	3.65	(9.45)	40%	蛇の目凹形高台 口錆 内外面染付	釉:淡青灰 露胎:白	密	反転復元
1486	図148 図版85	丹波焼	徳利	3 M10t3	1~4-2	3-186	2.5	13.6+	-	70%	褐釉 内面体部露胎 体部2か所対に窪む	釉:暗赤褐 露胎:灰白	密	
1487	図148	瀬戸美濃系陶器	壺	3 M10t3	1~4-2	3-186	(8.8)	5.7+	-	30%	褐釉に灰釉を流し掛け	暗赤褐	ざっくりしている	反転復元



報告書番号	図・図版番号	産地種類	器種	調査区地区	造構面	造構層位等	法量			残存率	調整・技法	色調	胎土	備考	
							口径cm	高さcm	底径cm						
1488	図148	土製品	遊玩具土人形	3 M10t3	1~4-2	3-186	3.5	5.3	3.1	尾部欠損	鳩または雀 外面一部朱色の彩色 手捻り成型 中実底部に棒を刺す穴	にぶい黄橙	密		
1489	図148	土製品	遊玩具土人形	3 M10t3	1~4-2	3-186	10.2+	7.0	4.1	頭部欠損	人物 型合わせ成形 中空	浅黄橙	密		
1490	図148	肥前系陶器	鉢	3 M10u3	1~4-2	3-188	(32.4)	18.7	(15.6)	20%	内外面回転ナデ 外面突帯・雷文帯 口縁部上面波状文	暗赤灰	密 1~2mm大の長石等多い	反転復元	
1491	図148	肥前系陶器	唐津碗	3 M10p3	1~4-2	3-192	(11.2)	6.4	(4.4)	25%	灰釉 外底部露胎・回転ヘラケズリ	釉:暗オリーブ露胎:灰黄褐	ざっくりしている	反転復元	
1492	図148	堺・明石系陶器	播鉢	3 M10m3	1~4-2	3-192	(33.2)	10.5+	-	10%以下	口縁部回転ナデ 外面体部回転ナデ・ヘラケズリ	暗赤褐	1~5mmの長石粒等多く含む	反転復元	
1493	図148	肥前系磁器	染付碗	3 M10	1~4-2	3-319	-	4.3+	(3.8)	10%	総釉 墨付釉剥 外面染付	淡青灰	密	反転復元	
1494	図148	肥前系磁器	染付碗	3 M10r2	1~4-2	3-321	-	2.6+	5.2	25%	墨付釉剥 内底部蛇の目釉剥 外面染付	淡青灰	密	一部反転復元	
1495	図148	肥前系陶器	鉢	3 M10t2	1~4-2	3-322	-	6.6+	(9.9)	高台部30%	灰釉 高台付近露胎・回転ヘラケズリ	釉:暗灰黄 露胎:にぶい赤褐	ざっくりしている	反転復元	
1496	図148 図版85	備前焼	德利	3 M10t2	1~4-2	3-322	-	7.2+	3.9	90%	外面体部回転ナデ・底部付近回転ヘラケズリ 外底部回転系切	灰赤	密 1~2mmの長石等含む		
1497	図148	備前焼	播鉢	3 M10t3	1~4-2	3-323	-	4.4+	-	10%以下	内外面回転ナデ	にぶい赤褐	密 1mmまでの長石等含む		
1498	図148	瀬戸美濃系陶器	鉢	3 M10n1	1~4-2	3-335	-	8.7+	(16.4)	底部60%	内外面褐釉 外底部外縁露胎 内底部目痕	釉:暗赤褐 露胎:浅黄橙	密	反転復元	
1499	図148 図版85	肥前系陶器	碗	4 M9jk21・22	1~4-2	4-271	9.4	5.9	3.9	70%	灰釉 外面下半露胎 高台付近回転ヘラケズリ	釉:明オリーブ灰露胎:にぶい褐	ざっくりしている		
1500	図148	土師質土器	皿	4 M9k21	1~4-2	4-272	(10.5)	2.2	4.8	60%	内面ヨコナデ・ナデ 外面ヨコナデ・ユビオサエ・ナデ 外底部墨書	浅黄橙	密	一部反転復元	
1501	図148	中国製磁器	鉢	4 M9k21	1~4-2	4-272	-	3.8+	7.8	高台部100%	総釉 墨付目痕3カ所 高台内ヘラ切痕	白	密		
1502	図148	瀬戸美濃系陶器	皿	4 M9k21	1~4-2	4-273	(10.6)	2.1	6.0	25%	灰釉 内底部露胎	釉:白 灰オリーブ 露胎:灰白	密	反転復元 火中する?	
1503	図148	土師質土器	小皿	4 M9m21	1~4-2	4-281	8.2	1.7	-	98%	内面ナデ 外面ユビオサエ・ナデ	外:にぶい橙 内:黒	1mmまでの長石・片岩等含む	内面全体煤ける	
1504	図148 図版85	肥前系磁器	染付碗	4 M9n21	1~4-2	4-283	11.1	5.3	4.5	95%	高台墨付付近露胎 内底部蛇の目釉剥 外面染付	釉:灰白 露胎:白	密		
1505	図149	中国製磁器	皿	4 M9no2	1~4-2	4-287	(10.2)	2.2	5.4	50%	総釉 墨付釉剥・珪砂 型押し成型 内面浮き彫り状に花文	白	密	反転復元	
1506	図149	肥前系磁器	染付皿	4 M9no22	1~4-2	4-287	(13.8)	2.9	7.0	30%	総釉 墨付釉剥・珪砂 内面染付	淡灰白	密	一部反転復元	
1507	図149 図版85	肥前系磁器	杯	4 M9no22	1~4-2	4-287	下層	5.5	3.0	2.8	98%	貫入 高台付近露胎	灰白	密	
1508	図149	瀬戸美濃系陶器	碗	4 M9on22	1~4-2	4-287	中~下層	(10.8)	7.65	5.0	55%	灰釉 貫入 墨付釉剥 銅緑釉かけ流し	灰釉:淡黄 銅緑釉:緑	ざっくりしている	一部反転復元
1509	図149	備前焼	播鉢	4 M9no21	1~4-2	4-287	(31.4)	7.5+	-	15%	内外面回転ナデ 播目9本	赤褐 にぶい赤褐	1mm前後の長石・黒色砂粒等多く含む	反転復元	
1510	図149	丹波焼	壺	4 M9no22	1~4-2	4-287	中~下層	(23.0)	6.0+	-	5%以下	口縁端部露胎 外面褐釉 内面褐釉+灰釉(自然釉)?	黒褐	長石等の微砂粒多く含む	反転復元
1511	図149	土師質土器	焙烙	4 M9no21	1~4-2	4-287	(23.9)	5.9+	(25.2)	10%以下	内外面ヨコナデ・ナデ	橙 黒褐	1mm前後の長石粒等多く含む	反転復元	
1512	図149 図版85	瀬戸美濃系陶器	染付碗	4 M9p21	1~4-2	4-288	9.4	5.0	3.5	95%	総釉 墨付釉剥 内外面染付	白	密		
1513	図149	肥前系磁器	染付碗	4 M9p21	1~4-2	4-288	(8.8)	4.8	3.5	45%	総釉 墨付釉剥 内外面染付	白	密	反転復元	
1514	図149	肥前系磁器	杯	4 M9p21	1~4-2	4-288	6.5	1.9	2.2	60%	総釉 墨付釉剥・珪砂 型押し成型 外面唐草文浮き彫り状になる	灰白	密		
1515	図149 図版85	肥前系陶器	蓋物碗	4 M9p21	1~4-2	4-288	9.8	5.2	5.3	70%	黄釉 貫入 墨付・口縁端部釉剥 外面端部褐釉で文様	淡黄	ざっくりしている		
1516	図149	瀬戸美濃系陶器	植木鉢	4 M9p21	1~4-2	4-288	井側内	(30.0)	16.0+	口縁部20%	灰釉に白色・青色の釉を流し掛け	灰釉:淡黄 やわらかい青緑 露胎:黄緑 んだ黄緑	ざっくりしている	反転復元	
1517	図149	瀬戸美濃系陶器	植木鉢	4 M9p21	1~4-2	4-288	底	(16.5)	10.9+	口縁部20%	灰釉 貫入 内面体部以下露胎	釉:浅黄 露胎:灰白	ざっくりしている	反転復元	
1518	図149	肥前系磁器	染付皿	4 M9m21	1~4-2	4-295	(13.6)	3.5	8.4	50%	総釉 墨付釉剥 内外面染付	灰白	密	反転復元 火中している	
1519	図149	土師質土器	皿	4 M9m21	1~4-2	4-295	11.6	2.35	-	60%	外面体部から内面回転ナデ 外底部回転ヘラケズリ	浅黄橙 暗灰	密		
1520	図149 図版85	肥前系磁器	染付碗	4 M9p21	1~4-2	4-299	11.2	6.4	4.4	80%	総釉 貫入 墨付釉剥 内外面染付 高台内銘「... 化年製」	淡青灰	密		
1521	図149	肥前系磁器	染付碗	4 M9op21	1~4-2	4-299	(8.8)	6.2	(4.0)	30%	総釉 墨付釉剥 外面染付 高台内銘「大」	淡青灰	密	反転復元	
1522	図149	肥前系磁器	染付碗	4 M9o21	1~4-2	4-299	(8.5)	5.8	(4.6)	25%	総釉 墨付釉剥 外面染付 高台内銘「大明」	淡青灰	密	反転復元	
1523	図149 図版85	肥前系磁器	染付碗	4 M9p21	1~4-2	4-299	下層・底	8.2	5.9	4.4	70%	総釉 墨付釉剥 外面染付 高台内銘「製」	淡青灰	密	反転復元
1524	図149 図版85	肥前系磁器	染付碗	4 M9p21	1~4-2	4-299	下層・底	9.2	6.6	4.4	75%	高台部約1/2露胎 外面染付	淡青灰	密	

報告書番号	図・図版番号	産地種類	器種	調査地区	造構面	造構層位等	法量			残存率	調整・技法	色調	胎土	備考
							口径 cm	高さ cm	底径 cm					
1525	図149 図版85	肥前系磁器	碗	4 M9p21	1~4-2	4-299 下層・底	11.2	6.5	4.3	95%	総釉 壘付釉剥	白	密	
1526	図149	肥前系磁器?	瑠璃釉 金彩碗	4 M9p21	1~4-2	4-299	8.3	5.6	4.6	75%	総釉 壘付釉剥 外面瑠璃釉 金彩で青海波 家紋「下り藤」等の文様	内・高台内:灰白 外:紺	密	
1527	図149 図版85	肥前系磁器	青磁小皿	4 M9op21	1~4-2	4-299	8.0	2.45	3.5	97%	青磁釉 高台付近露胎	釉:薄緑 露胎:灰白	密	
1528	図149	肥前系磁器	染付杯	4 M9p21	1~4-2	4-299 上層	(5.8)	4.15	2.4	45%	総釉 壘付釉剥 外面染付	淡青灰	密	反転復元
1529	図149	肥前系磁器	染付杯	4 M9p21	1~4-2	4-299 下層・底	5.0	3.4	2.3	60%	高台内露胎 外面染付	淡青灰	密	
1530	図149	肥前系磁器	香炉	4 M9p21	1~4-2	4-299 下層・底	(8.2)	5.0	4.4	50%	貫入 高台壘付・内面露胎	釉:白 露胎:灰白	密	反転復元
1531	図149 図版85	瀬戸美濃系陶器	碗	4 M9p21	1~4-2	4-299	12.1	7.7	5.5	65%	褐釉 外底部露胎 口縁部灰釉	褐釉:にぶい赤褐 灰釉:黄褐~黒 露胎:灰白	ざっくりしている	
1532	図149	肥前系陶器	碗	4 M9o21	1~4-2	4-299 下層・底	(12.4)	7.4	5.0	30%	灰釉 総釉 貫入 壘付釉剥	暗灰黄	ざっくりしている	一部反転復元
1533	図149	肥前系陶器	碗	4 M9 p 21	1~4-2	4-299 下層・底	(10.0)	7.1	4.2	35%	灰釉 外面下半露胎・回転ヘラケズリ 内底部茶突傷あり	釉:暗オリーブ灰 ~黒 露胎:灰黄褐	ざっくりしている	反転復元
1534	図150	肥前系陶器	唐津鉢	4 M9p21	1~4-2	4-299 下層・底	(24.5)	5.9	(10.4)	40%	外面下半露胎・回転ヘラケズリ 上半灰釉 内面白色土ハケ目 褐釉 銅緑釉流し掛け	内:オリーブ 灰白 くすんだ黄緑 外:灰オリーブ	密	反転復元
1535	図150 図版85	備前焼	徳利	4 M9o21	1~4-2	4-299 下層・底	3.5	22.8+	-	70%	外面から内面口縁部塗土意図的に体部を扁平に潰しているか?	赤黒	密	
1536	図150 図版85	備前焼	播鉢	4 M9o21	1~4-2	4-299 中層	(28.5)	12.8	(10.6)	40%	内面回転ナデ 外面回転ナデ・ユビオサエ 播目9本/2.9cm	明赤褐	1mm前後の長石粒等多く含む	反転復元
1537	図150	備前焼	播鉢	4 M9p21	1~4-2	4-299 下層・底	(28.2)	11.9	(12.0)	30%	内面回転ナデ 外面回転ナデ・ユビオサエ 外底部未調整 播目8本/2.7cm	灰赤 外面口縁部のみ灰オリーブ 灰白	密 1~3mmのチャート・長石等含む	反転復元
1538	図150 図版85	丹波焼	播鉢	4 M9o21	1~4-2	4-299 下層・底	(22.2)	9.5	(12.0)	40%	内外面回転ナデ 外底部未調整 播目5本/1.4cm	黒褐 暗赤褐	粗い 1~3mmの長石粒等多く含む	反転復元
1539	図150	土師質土器	皿	4 M9p21	1~4-2	4-299 下層・底	9.2	2.15		55%	内面回転ナデ 外面ユビオサエ・ナデ	にぶい黄橙	密	口縁部ス多量に付着 灯明皿
1540	図150	土師質土器	焙烙	4 M9p21	1~4-2	4-299 下層・底	(24.0)	6.2+	(24.6)	10%	内面強いヨコナデ・ナデ 外面ヨコナデ・ヘラケズリ・ナデ	にぶい黄褐	1mmまでの微砂粒多く含む	反転復元
1541	図150	土師質土器	焼塩壺	4 M9p21	1~4-2	4-299 下層・底	5.6	8.9	6.5	90%	口縁部ヨコナデ 外面軽い面取り・ヨコナデ 内面シボリ・ユビオサエ	にぶい橙	1mm前後の長石・黒色砂粒等多く含む	
1542	図150	瓦質土器	風炉	4 M9o21	1~4-2	4-299 下層・底	(28.6)	23.2	(23.6)	40%	内面ナデ 外面ミガキ? 三脚か?	明赤褐	1mm前後の長石粒等多く含む	反転復元 火中する
1543	図150 図版85	緑釉陶器	燭台	4 M9s21	1~4-2	4-301	(12.6)	4.8	7.3	70%	軟質 燭台部欠損 獣足三足	釉:くすんだ黄緑 断面:淡黄	密	一部反転合成復元
1544	図150	京・信楽系陶器	灯明受皿	4 M9s21	1~4-2	4-301	(8.2)	1.8	(3.7)	30%	軟質 外面口縁部から内面施釉	釉:オリーブ褐 露胎:灰黄	ざっくりしている	反転復元
1545	図150	土師質土器	皿	4 M9s21	1~4-2	4-301	10.1	1.5	7.6	50%	内面ヨコナデ・ナデ 外面体部ヨコナデ 外底部回転糸切のち板状圧痕	灰白	1mm前後の砂粒含む	
1546	図156	土師質土器	小皿	3 M10m1	5-2	3-233	(8.4)	1.7		45%	内面ヨコナデ・ナデ 外面ヨコナデ 外底部ユビオサエ・ナデ	橙	1~2mmの長石・赤色酸化粒含む	反転復元 口縁部ス多量に付着 灯明皿
1547	図156	土師質土器	焙烙	3 M10o3	5-2	3-256	(25.9)	8.5+		15%	口縁部ヨコナデ 内面丁寧なナデ 外面体部平行タタキ	にぶい橙	やや粗い	反転復元
1548	図156	備前焼	播鉢	3 M10o3	5-2	3-279	(17.8)	3.6+	-	口縁部20%	内外面回転ナデ 播目間隔をあげナメ	内:黒 外:灰褐	1mm前後の長石等多く含む	反転復元
1549	図156 図版86	土師質土器	小皿	3 M10i3	5-2	3-291	8.5	1.5	6.2	90%	内面ヨコナデ・ナデ 外面ヨコナデ 外底部ユビオサエ・ナデ	明赤褐	1~3mmの赤色酸化粒含む	口縁部ス多量に付着 灯明皿
1550	図156	土師質土器	小皿	3 M10j3	5-2	3-291	7.3~7.8	1.5	5.5~6.0	80%	内面ナデ 外面ユビオサエ・ナデ	橙	1mm前後の片岩・長石等含む	歪著しい
1551	図156	土師質土器	小皿	3 M10j3	5-2	3-291	7.7	2.1	6.1	60%	ヨコナデ 外底部ユビオサエ・ナデ	黒	1mm前後の長石等含む	二次焼成か
1552	図156 図版86	土師質土器	小皿	3 M10i3	5-2	3-291	7.6	1.5		97%	内面ナデ 外面ヨコナデ・ナデ 外底部ユビオサエ・ナデ	橙	1~2mmの砂粒含む	
1553	図156 図版86	備前焼	甕	3 M10n1	5-2	3-297	-	-	-	-	内外面回転ナデ	外:暗赤褐 内:灰褐	1~5mm大の長石粒等多い	
1554	図156	備前焼	播鉢	3 M10o1	5-2	3-298	(22.5)	9.2	(12.0)	20%	内外面回転ナデ 播目10本/3.5cm タテ・ナメ	灰赤	密	反転復元
1555	図156	土師質土器	小皿	3 M10o1	5-2	3-298	(9.0)	1.5	(7.6)	35%	内面ヨコナデ・ナデ 外面ヨコナデ 外底部ナデ・未調整	橙	1mmまでに長石等多く含む	
1556	図156 図版86	瀬戸美濃系陶器	天目茶碗	3 M10m1	5-2	3-299	11.0	5.7	4.0	95%	高台付近露胎・回転ヘラケズリ・鬼板掛け 火中する	釉:黒・暗褐 露胎:灰黄褐	密 1mm前後の砂粒含む	
1557	図156	備前焼	播鉢	3 M10m1	5-2	3-299	-	6.5+	-	10%以下	内外面回転ナデ 摺目ナメ	暗赤褐	密 1mmまでの長石等含む	
1558	図156	土師質土器	小皿	3 M10m1・2	5-2	3-299	8.3	1.7		100%	内面ヨコナデ・ナデ 外面ヨコナデ 外底部ユビオサエ・ナデ 口縁部小穴	橙	1~5mmの長石・片岩粒含む	小穴付近ス多量に付着 灯明皿
1559	図156	瀬戸美濃系陶器	天目茶碗	4 M9121	5-2	4-277	(11.6)	5.2+	-	20%	褐釉 外面下半露胎・回転ヘラケズリ	釉:極暗褐 露胎:浅黄橙	ざっくりしている	反転復元

報告書番号	図・図版番号	産地種類	器種	調査区地区	遺構面	遺構層位等	法量			残存率	調整・技法	色調	胎土	備考	
							口径cm	高さcm	底径cm						
1560	図156	瀬戸美濃系陶器	菊皿	4 M9m21	5-2	4-282	(11.8)	2.0+	-	10%	灰釉	浅黄	ざっくりしている	反転復元	
1561	図156	土師質土器	小皿	4 M9m21	5-2	4-282	8.2	1.7		98%	内面ヨコナデ・ナデ 外面ヨコナデ ユビオサエ・ナデ	明赤褐	1~2mmの長石・片岩粒等多く含む		
1562	図156	土師質土器	皿	4 M9qr24	5-2	4-304	10.7	2.15	5.1	70%	内面ヨコナデ・ナデ 外面ヨコナデ ユビオサエ・ナデ	にぶい橙 褐灰	1~5mmの片岩等含む		
1563	図156	土師質土器	皿	4 M9qr24	5-2	4-304	(10.9)~11.9	2.3	6.1	60%	内面ヨコナデ・ナデ 外面ヨビオサエ・ナデ	黄灰	1mm前後の砂粒含む	至著しい	
1564	図156	土師質土器	皿	4 M9qr24	5-2	4-304	(11.0)	2.6	6.4	45%	内面ヨコナデ・ナデ 外面ヨコナデ・ユビオサエ	黒褐 にぶい黄橙	密		反転復元
1565	図156	土師質土器	皿	4 M9qr24	5-2	4-304	10.8~11.8	2.4		100%	内面ナデ 外面ナデ・ユビオサエ	明赤褐	1~2mmの長石・赤色砂・粒	口縁部スス付着 灯明皿	
1566	図156 図版86	備前焼	播鉢	4 M9m21	5-2	4-306	(21.7)	8.2+	-	口縁部25%	内外面回転ナデ 播目ナメ	灰褐	密 5mm大の砂粒含む	反転復元	
1567	図156	瓦質土器	椀	4 M9m21	5-2	4-306	-	3.5+	(4.1)	底部50%	高台貼付け・ヨコナデ 体内外面ヘラミガキ	灰	密	反転復元	
1568	図156	土師質土器	焙烙	4 M9m21	5-2	4-306	(23.3)	6.2+		25%	口縁部・体部ヨコナデ・ナデ 外面底体部境格子タタキ	灰	1mm前後の長石粒等多く含む	至著しい	
1569	図156	中国製磁器	染付碗	4 M9m22	5-2	4-323	(12.0)	5.3	4.4	35%	総釉 墨付釉刺 内外面染付	灰白	密	反転復元	
1570	図156	土師質土器	小皿	4 M9m22	5-2	4-324	8.6	1.95	6.2	100%	内面ナデ 外面ヨコナデ・ユビオサエ・ナデ 外底部繊維状の圧痕	にぶい橙	1~2mmの片岩・長石粒等含む	至著しい	
1571	図156 図版86	瀬戸美濃系陶器	杯	4 M9m22	5-2	4-325	5.7	2.8	3.1	98%	褐釉 外面下半露胎 回転ヘラケズリ 外底部回転糸切のち回転ヘラケズリ	釉:褐 黒 胎:淡黄	ざっくりしている		
1572	図156	備前焼	播鉢	4 M9m22	5-2	4-325	(23.8)	8.35	-	20%	内外面回転(ロクロ)ナデ 播目タテ・ナメ原体違うか	外面:赤褐 内面:灰赤	密 1~5mmの長石粒等含む	反転復元	
1573	図156 図版86	備前焼	小壺	4 M9123	5-2	4-327	-	7.5+	6.25	50%	内面ヨコナデ 外面回転ナデ・ヘラケズリ 外底部「千」の窯印	外:暗赤灰 内:暗赤灰	密	反転復元	
1574	図156	土師質土器	小皿	4 M9123	5-2	4-327	8.9	1.85		80%	内面ヨコナデ・ナデ 外面ナデ・ヨコナデ・ユビオサエ	橙	1~3mmの長石・赤色砂粒含む		
1575	図156	土師質土器	小皿	4 M9123	5-2	4-327	7.8	2.0	6.0	100%	内面ヨコナデ・ナデ 外面ヨコナデ・ユビオサエ・ナデ	にぶい橙	1~5mm大の長石・片岩等多く含む		
1576	図156	土師質土器	小皿	4 M9123	5-2	4-327	8.0~8.5	2.0	6.5	85%	内面ヨコナデ・ナデ 外面ヨコナデ・ユビオサエ・ナデ 粗粒圧痕	橙	1~3mmの長石・片岩等多く含む	至著しい	
1577	図156	土師質土器	小皿	4 M9124	5-2	4-333	(9.0)	2.15	(6.4)	45%	内外面ヨコナデ・ナデナデ	橙	密	反転復元 至著しい	
1578	図156 図版86	土師質土器	焙烙	4 M9124	5-2	4-333	23.5	11.2		98%	内面ヨコナデ・ナデ 外面ヨコナデ・格子タタキ・ナデ	内:にぶい黄橙 外:黒(スス)	1~3mmの長石・チャート等多く含む		
1579	図156 図版86	土師質土器	焙烙	4 M9124	5-2	4-333	24.8	11.0+		65%	内面ヨコナデ・ナデ・ケズリ 外面ヨコナデ・格子タタキ	橙 黒	1mmまでの砂粒多く含む	反転復元 スス多量に付着	
1580	図156 図版86	土師質土器	焙烙	4 M9124	5-2	4-333	24.1	10.3+		80%	内面ヨコナデ・ナデ 外面ヨコナデ・格子タタキ	橙	1mmまでの砂粒多く含む	スス多量に付着	
1581	図156	土師質土器	焙烙	4 M9124	5-2	4-333	23.2	11.0+		85%	内面ヘラナデ・ナデ 外面ヨコナデ・ユビオサエ・格子タタキ	橙	1mmまでの砂粒多く含む	反転復元 スス多量に付着	
1582	図157	土師質土器	焙烙	4 M9124	5-2	4-336	(26.0)	8.6+		20%	外面口縁部から内面ヨコナデ 外面体部ナメ方向並行タタキ	外:黒(スス) 内:橙	ざっくりしている	反転復元	
1583	図157	中国製?磁器	白磁皿	4 M9s23	5-2	大溝	(13.0)	1.8+	-	10%		白	密	反転復元	
1584	図157	瀬戸美濃系陶器	天目茶碗	4 M9s23	5-2	大溝 東肩	(10.8)	5.2+	-	口縁部20%	褐釉 外底部付近露胎	釉:暗褐 露胎:淡黄	密	反転復元	
1585	図157	肥前系?陶器	碗	3 M10	5-2	大溝	(12.4)	4.8+	-	10%	灰釉 貫入	オリーブ灰 黒	密	反転復元	
1586	図157	土師質土器	小皿	4 M9t21	5-2	大溝	8.1	1.8		95%	内面ユビオサエ・ナデ 外面ユビオサエ・ナデ	明赤褐	1mm前後の砂粒含む	口縁部スス付着 灯明皿	
1587	図157	土師質土器	甕	4 M9s23	5-2	大溝 東肩	(29.4)	7.5+	-	口縁部15%	外面ハケ・ヘラ上工具ナデ 内面ハケ状工具ナデ	にぶい橙	1~2mmの長石・チャート等多く含む	反転復元	
1588	図168	瓦器	鉢	4 M9123	7	4-353	-	3.9+	7.4~7.7	高台部100%	全体的に摩滅 内外面ヘラミガキか?	灰褐	1mmまでの微砂粒多く含む	反転復元	
1589	図168	土師器	甕	4 M9123	7	4-353	(29.4)	6.5+	-	口縁部20%	摩滅著しい 外面頸部ユビオサエ	橙	1~10mm大の片岩等多く含む	反転復元	
1590	図168	瓦器	椀	4 M9m23	7	4-359	14.1	4.6	5.6	80%	外面ユビオサエ 内面細いヘラミガキ 不鮮明	暗灰	1mm前後の砂粒多く含む		
1591	図168	中国製磁器	白磁碗	4 M9m23	7	4-359	-	2.2+	6.1	高台部70%	高台付近露胎・回転ヘラケズリ	釉:灰白 露胎:灰白			
1592	図168	須恵器	坏身	4 M9p24	8	4-366	-	5.1+	(11.2)	35%	内面回転ナデ・ナデ 外面回転ナデ 外底部回転ヘラ切	灰	密 1~3mmの長石粒等含む	反転復元	
1593	図168	弥生土器	器台	4 M9p24	9-1	4-373	-	7.5+	(16.0)	10%以下	脚部凹線2条 円孔	橙	粗い 1mm前後の長石粒等多く含む	反転復元	
1594	図169	土製品	遊玩具	3 M10P1	1上	整地土	口径3.4	器高1.7		95%	鍋蓋 身部はロクロ成型 上面透明釉 掴みの一部に白濁釉 下面露胎糸切	橙	密	ままごと道具	
1595	図169	土製品	遊玩具	3 M10P4	1上	整地土	口径3.1	器高1.4	底径1.6	100%	鉢 ロクロ成型 内面透明釉 部分的に緑釉・黄釉 底部糸切	橙	密	ままごと道具	
1596	図169	土製品	遊玩具 泥面子	4 M9g24	1上	整地土	2.8	2.2	1.0	100%	芥子面 媼 型押し成型	橙	密		
1597	図169	土製品	遊玩具 土人形	4 M9g24	1上	整地土	4.9	3.2	2.2	100%	磁器 角兵衛獅子 獅子付近に金彩残る 型合わせ成型 中実	白	密		
1598	図169	肥前系磁器	染付合子蓋	3 M10t2	2上	整地土	6.0	1.5		100%	口縁部内面露胎 外面染付	灰白	密		

報告 書 番 号	図・ 版 番 号	産地 種 類	器種	調査区 地 区	造構 面	造構 層位等	法量			残存率	調整・技法	色 調	胎土	備 考
							口径 cm	高さ cm	底径 cm					
1599	図169	肥前系 磁器	染付 皿	3 M10t2	2上	整地土	-	3.0+	3.7	高台部 100%	外底部付近露胎 内底部蛇 の目軸 内面染付 高台 内墨書「十」	釉:白・露胎:にぶ い黄橙	密	
1600	図169	肥前系 陶器	陶胎染付 碗	3 M10o5・ 6	2上	整地土	10.6	7.3	5.1	55%	総釉 畳付釉刺 外面染付	灰	密	
1601	図169	土師質 土器	焼塩壺蓋	3 M10o5・ 6	2上	整地土	(5.2)	7.7	(5.6)	35%	外面ヨコナデ・ナデ 内面 コザ状庄痕 「泉湊伊織」 の刻印	橙	1mm前後の赤色 砂粒・金雲母含 む	反転復元
1602	図169	土製品	遊玩具 土人形	3 M9u25	2上	整地土	4.1	2.7	4.6	100%	荷馬 型合わせ成形 作り 丁寧 キラコ附着 中実 底部に棒を挿す孔あり	にぶい黄橙	密	
1603	図169	土製品	遊玩具 土人形	3 M10p5・6	2上	整地土	3.2	1.9	3.2	左前足 欠損	大 手捻り成形 中実 キ ラコ附着	にぶい黄橙	密	
1604	図169	土製品	遊玩具 面子	3 M10p5・6	2上	整地土	5.0	5.0	1.5	98%	瓦転用 コンパスで円を書 き成形	灰	1mm前後の砂粒 含む	
1605	図169	肥前系 陶器	京焼風 碗	3 M10t1	3上	整地土	9.8	6.2	5.2	70%	灰釉 貫入 外底部露胎 高台内銘「清水」	釉:灰白 露胎: 灰白	密 5mm程度の 砂粒含む	
1606	図169 図版86	肥前系 陶器	唐津向 付	3 M10u1	3上	整地土		5.1	4.7	60%	灰釉 貫入 鉄絵 外面下 半露胎・回転ヘラケズリ	釉:黄褐 露胎: にぶい黄橙	ざっくりしている	推定合成復元
1607	図169 図版86	瀬戸美濃系 陶器	小皿	3 M9t25	3上	整地土	7.0	1.7	4.1	100%	灰釉 総釉 貫入 外底部 トチンのあと	オリーブ黄		
1608	図169 図版86	肥前系 陶器	唾壺	4 M9・22	3上	整地土	(10.8)	6.6	7.1	80%	灰釉 外面底部付近露胎・ 回転ヘラケズリ	釉:オリーブ黄 露胎:灰白	1mm前後の長石 等多く含む	一部反転復元
1609	図169 図版86	京・信楽系 陶器	餌猪口	4 M9t23	3上	整地土	3.8	2.45	2.6	100%	灰釉 外底部露胎・回転糸 切	釉:明オリーブ灰 露胎:灰白	1mmまでの長石 粒等含む	
1610	図169	土師質 土器	焼塩壺 蓋	4 M9t23	3上	整地土	6.0	1.95		99%	口縁部・内面ヨコナデ 外 面大耳部ナデ	外:にぶい橙 内:橙	1mm前後の長石 粒等多く含む	
1611	図169	土製品	遊玩具 土人形	3 M10t2	3上	整地土	5.2	3.2	4.2	頭部欠 損	猿? 手捻り成形	灰白	密	
1612	図169	土製品	遊玩具 泥面子	3 M9n25	3上	整地土	2.6	2.5	0.9	100%	面打 漢字の「戊」 文様 型押し成形 キラコ附着	橙	密	
1613	図169	土製品	遊玩具 面子	3 M10u2	3上	整地土	5.1	4.8	1.8	100%	瓦転用 円形に打ち欠く	灰	1mm前後の砂粒 含む	
1614	図169	土製品	遊玩具 面子	3 M1011	3上	整地土	2.7	2.4	0.9	100%	瓦質土器転用 円形に打ち 欠く	黄灰	密	
1615	図169	肥前系 磁器	染付 碗蓋	4 M9qr24	4-1 上	整地土	9.9	1.8	4.1	97%	総釉 摘み端部釉刺 内外 面染付	白	密	
1616	図169	肥前系 磁器	染付 碗	4 M9uv23	4-1 上	整地土	(10.6)	6.6	4.2	60%	高台内露胎 外面染付	淡青灰	密	一部反転復元
1617	図169	肥前系 磁器	染付 碗	4 M9uv23	4-1 上	整地土	9.7	7.0	5.2	55%	総釉 畳付釉刺 外面染付 高台内銘「大明」	淡青灰	密	
1618	図169	肥前系 磁器	碗	4 M9uv23	4-1 上	整地土	(10.0)	6.7	3.9	55%	高台付近露胎・回転ヘラケ ズリ	淡緑灰	密	一部反転復元
1619	図169	肥前系 磁器	染付 碗	4 M9st24	4-1 上	整地土	(10.4)	7.1	4.3	55%	総釉 高台畳付釉刺 外面 染付	淡青灰	密	一部反転復元
1620	図169	瀬戸美濃系 陶器	天目茶碗	3 M10t2	4-1 上	整地土	(11.1)	6.8	4.3	40%	鉄釉 外底部露胎・回転ヘ ラケズリ 高台部目痕あり 内底部茶筌傷	釉:黒 露胎:に ぶい黄橙	粗い 1~2mmの 長石粒等多く含 む	一部反転復元
1621	図169	瀬戸美濃系 陶器	折縁皿	3 M10t1	4-1 上	整地土	(12.0)	3.9	(5.4)	45%	灰釉 外底部付近露胎 内 底部蛇の目釉刺き・菊花文 スタンプ	釉:オリーブ黄 露胎:灰白	ざっくりしている	反転復元
1622	図169	瀬戸美濃系 陶器	志野向 付	3 M9s25	4-1 上	整地土	(14.2)	5.4		50%	長石釉 方形 体部外面こ ぶ状の突起 三足?	釉:灰白 露胎: 橙	ざっくりしている	反転復元
1623	図169	肥前系 陶器	杯	3 M10n1	4-1 上	整地土	7.7	3.8	3.4	80%	灰釉 外面下半露胎・回転 ナデ 外底部回転糸切	釉:暗灰黄 露 胎:黄褐	密	
1624	図169 図版86	肥前系 陶器	注口鉢	3 M10n1	4-1 上	整地土	(11.0)	6.8	5.6	60%	内外面下半露胎 外底部回 転ヘラケズリ	釉:暗褐 露胎: 灰褐	密 1~3mmの長 石粒等含む	反転復元
1625	図169	在地系 陶器	銅蓋	3 M1011	4-1 上	整地土	-		4.7	30%	内面灰釉 外面 錆釉 イッチン・灰釉文様 トピカ			摘み内に墨書 「主・」
1626	図169	肥前系 陶器	御神酒徳 利	4 M9qr24	4-1 上	整地土	-	7.4+	3.0	90%	銅緑釉 外底部・内面露胎	釉:暗緑灰 露 胎:灰黄	密	
1627	図169	土師質 土器	焼塩壺	4 M9p23	4-1 上	整地土	6.1	8.9	4.9	90%	口縁部ヨコナデ・ユビオサエ 外面体部軽い面取り・ナデ ヘラによる刻み 外底部葉 の庄痕	橙	1mm前後の赤色 砂粒等多く含む	
1628	図169	土製品	遊玩具	3 M9m25	4-1 上	整地土	口径 6.0	器高 3.5	底径 3.0	45%	播鉢 ロクロ成型 総釉 (透明釉) 底部糸切	明褐		ままごと道具
1629	図169	土製品	遊玩具	4 M9ij23	4-1 上	整地土	口径 3.3	器高 1.7	底径 2.8	80%	鉢 一部透明釉 手捻り成 型	橙		ままごと道具
1630	図169	土製品	遊玩具	4 M9t22	4-1 上	整地土	3.25	3.1		100%	鍋蓋 一文字の摘み 手捻 り成型 作り雑	橙		ままごと道具
1631	図170 図版86	肥前系 磁器	染付 仏飯器	4 M9lm22	4-2 上	整地土	(8.2)	6.25	3.9	60%	外底部付近露胎 外面染付 圏線・唐草文		密	反転復元
1632	図170	肥前系 陶器	碗	4 M9tu21	4-2 上	整地土	(11.6)	8.0	4.5	45%	灰釉 貫入 総釉 高台畳 付釉刺	灰黄 にぶい黄	ざっくりしている	反転復元
1633	図170 図版86	瀬戸美濃系 陶器	菊皿	4 M9u23	4-2 上	整地土	(10.2)	2.15	(5.5)	50%	灰釉 内底部露胎 内外底 部に目痕あり	釉:オリーブ黄 露胎:橙	ざっくりしている	反転復元
1634	図170 図版86	備前焼	徳利	4 M9rs22	4-2 上	整地土	4.6	33.15	(12.8)	55%	外面塗り土 内面露胎 内 外面ヨコナデ	外:にぶい赤褐 内:褐灰	密	反転復元
1635	図170	土師質 土器	小皿	4 M9tu21	4-2 上	整地土	8.2~ 8.7	1.8	6.2	99%	内面ヨコナデ・ナデ 外面ヨ コナデ ユビオサエ・ナデ	橙	1mm前後の長石・ 片岩等含む	
1636	図170	土師質 土器	小皿	4 M9tu21	4-2 上	整地土	8.5	1.7	6.7	80%	内面ナデ 外面ヨコナデ ユビオサエ・ナデナデ	橙	1mm前後の長石・ 片岩・赤色砂粒 含む	
1637	図170 図版86	瀬戸美濃系 陶器	天目茶碗	3 M10k2	5-2 上	整地土	(10.6)	5.5	3.9	50%	外面下半露胎 高台付近回 転ヘラケズリ	釉:黒 露胎:に ぶい褐 黒褐		一部反転復元
1638	図170 図版86	瀬戸美濃系 陶器	天目茶碗	4 M9k22	5-2 上	整地土	(11.5)	5.9	(4.2)	40%	褐釉 外底部露胎・回転ヘ ラケズリ	釉:褐 露胎:浅 黄橙	ざっくりしている	反転復元
1639	図170	瀬戸美濃系 陶器	丸皿	3 M10k2	5-2 上	整地土	(9.5)	1.7	5.2	45%	全釉 高台内目痕あり 施 釉にむらあり	オリーブ	ざっくりしている	反転復元

報告書番号	図・図版番号	産地種類	器種	調査区地区	遺構面	遺構層位等	法量			残存率	調整・技法	色調	胎土	備考
							口径cm	高さcm	底径cm					
1640	図170	瀬戸美濃系陶器	皿	3 M10n6	5-2上	整地土	(10.5)	2.0	5.0	50%	灰釉 内底部・外底部中央露胎	釉:オリーブ黄 露胎:淡黄	ざっくりしている	反転復元
1641	図170	瀬戸美濃系陶器	丸皿	3 M10k2	5-2上	整地土	(9.5)	1.7	5.2	45%	全釉 高台内日痕あり 釉にむらあり	オリーブ	ざっくりしている	反転復元
1642	図170	土師質土器	皿	3 M10n1	5-2上	整地土	13.3	2.05	7.8	80%	内面ヨコナデ・外面ヨコナデ・ナデ・ユビオサエ 糸状圧痕	橙 灰(黒斑)		
1643	図170	土師質土器	皿	3 M10n1	5-2上	整地土	13.1	2.05	6.6	70%	内面ヨコナデ・ナデ 外面ヨコナデ・ユビオサエ・ナデ	にぶい黄橙 1黒褐(黒斑)		
1644	図170	土師質土器	皿	3 M9o25	5-2上	整地土	10.7	2.45	5.2	90%	内面ヨコナデ・ナデ 外面ユビオサエ 外底部糸状圧痕	浅黄橙		口縁部スス付着 灯明皿
1645	図170	土師質土器	皿	3 M9o25	5-2上	整地土	11.8	2.4		75%	内面ヨコナデ・ナデ 外面ナデ・ユビオサエ	灰白	密	歪著しい 口縁部スス付着 灯明皿
1646	図170	土師質土器	小皿	3 M10m2	5-2上	整地土	8.2	1.7	6.0	98%	内面ヨコナデ・ナデ 外面ヨコナデ 外底部オサエ	橙		口縁部スス多く付着 灯明皿
1647	図170	土師質土器	小皿	4 M9k24	5-2上	整地土	8.0~8.6	1.9	7.5	95%	内面ナデ 外面ヨコナデ・ユビオサエ・ナデ 外底部糸状圧痕	橙	1~5mmの片岩・長石等多く含む	歪著しい 口縁部スス付着 灯明皿
1648	図170	土師質土器	極小皿	3 M9N25	5-2上	整地土	6.0	1.05	3.0	97%	高台 回転ナデ	灰白	密 1mm前後の長石粒・金雲母含む	
1649	図170	土師質土器	台付盤	3 M10p5	5-2上	整地土	(27.5)	8.65			棒状の脚台4か所?	外:橙 内:にぶい赤褐・黒	密 10mmのチャート少量含む	推定・反転復元
1650	図170	土師質土器	焙烙	3 M10j3	5-2上	整地土	(26.7)	9.6+	(27.4)	10%以下	内面ヨコナデ・ナデ 外面ヨコナデ・格子タタキ	外:灰褐 内:橙	1mmまでの長石粒等多く含む	反転復元
1651	図170	瓦質土器	火鉢	4 M9o21	5-2上	整地土	(23.9)	9.25	(20.0)	20%	内面回転ナデ 外面ヘラミガキ?	暗灰	1mm程度の長石粒等含む	反転復元
1652	図170	土製品	取鍋	4 M9k22	5-2上	整地土	(6.0)		3.0+	25%	外面ユビオサエ 溶解物付着	外:にぶい橙 内:褐灰 褐灰	粗い 1~3mm大の砂粒多い	反転復元
1653	図版86	土製品	取鍋	4 M9k22	5-2上	整地土	5.4	2.1		95%	内面に付着物あり	黄灰	1mmまでの長石等多く含む	
1654	図170	中国製磁器	白磁碗	3 M10k2	6-2上	包含層耕作土	-	3.6+	-		口縁部玉縁状	灰白	密	中国閩南窯
1655	図170	瓦器	碗	3 M10o2	7上	包含層耕作土	(15.6)	4.1+		10%	外面ヨコナデ・ユビオサエ 内面細いヘラミガキ	暗灰	密	反転復元
1656	図170	瓦器	碗	3 M10r2	7上	包含層耕作土	(15.4)	4.1+	-	10%	内面細かいヘラミガキ	暗灰	密	反転復元
1657	図170	土師器	碗	4 M9i23	7上	包含層耕作土	-	2.0+	6.8	高台部80%	高台貼付け ヨコナデ 高台内粉殻圧痕	にぶい黄橙	1mm前後の長石・クサリ礫等多く含む	反転復元
1658	図170	土師器	皿	4 M9o22	7上	包含層耕作土	(8.9)	2.1	4.0	30%	内外面摩滅 調整不明	橙	1mm前後の赤色砂粒等含む	反転復元
1659	図170	土師器	甕	4 M9q23	7上	包含層耕作土	(15.5)	4.5+		口縁部20%	内外面摩滅 調整不明	橙	1~2mmの長石等多く含む	反転復元
1660	図170	土師器	羽釜	3 M10k3	7上	包含層耕作土	(19.8)	2.7+	-	口縁部15%	ヨコナデ	にぶい橙	粗い 1~5mm大の長石・片岩等多く含む	反転復元
1661	図170	灰釉陶器	碗	4 M9q23	8上	包含層耕作土	(17.0)	4.15	-	5%以下	内面施釉 外面回転ナデ	外:灰白 内:オリーブ灰	密	反転復元
1662	図170	黒色土器A	碗	3 M10j2	8上	包含層耕作土	-	1.2+	(8.4)	底部25%	内面ヘラミガキ	内面:黒 外面:にぶい橙	密	反転復元
1663	図170	須恵器	壺	3 M10l2	8上	包含層耕作土	(10.0)	4.9+	-	口縁部50%	回転ナデ 口縁部内面自然釉	灰	密	反転復元
1664	図170	弥生土器	鉢?	3 M9i25	8上	包含層耕作土	-	3.2+	-		摩滅著しく調整不明	淡黄 黒褐(黒斑)	粗い 1~3mmの片岩等含む	
1665	図170	弥生土器	壺?	3 M10o1	8上	包含層耕作土	-	1.9+	(6.8)	底部40%	やや上げ底	にぶい赤褐	粗い 1~5mmの長石・角閃石等含む	反転復元
1666	図170	埴輪	円筒	3 M10o1	8上	包含層耕作土	タテ6.4	ヨコ6.4	厚さ0.8		外面ハケ 内面ユビオサエ	外:橙 内:灰	1mm前後の長石粒・赤色酸化粒含む	
1667	図170	土製品	土錘	3 M10j2	8上	包含層耕作土	長さ5.0	幅1.4	厚さ1.1	80%	管状 孔径0.6cm	褐灰	1mmまでの微砂粒含む	
1668	図170	土製品	土錘	4 M9r23	8上	包含層耕作土	長さ6.2	幅1.9	厚さ1.8	90%	管状 孔径0.7cm	暗灰	1~2mmの長石粒等含む	
1669	図170	弥生土器	高坏	4 M9o23	9-2上	包含層	-	5.0+	-	5%以下	口縁部外面凹線	にぶい黄橙	1~2mmの片岩・長石粒等多く含む	中期
1670	図版86	弥生土器	高坏	4 M9s22	9-2上	包含層	-	8.6+	-	脚柱部80%	円筒状 内面シボリ痕 外面タテヘラミガキか?	にぶい黄橙	1~3mmの片岩・長石・赤色砂粒等含む	反転復元 中期
1671	図170	瀬戸美濃系陶器	輪花皿	3 M10m2		攪乱	10.2	2.2	5.3	85%	褐釉 内底部釉剥 外底部トチンの痕	釉:黒褐 露胎:にぶい黄橙	ざっくりしている	第5-2遺構面の遺物か?
1672	図版86	施釉陶器	尿瓶	3 M10p1		攪乱	5.7	14.9	15.4	100%	褐釉 外底部露胎 把手上面×状の繋ぎ文	釉:赤黒 露胎:赤	密 1mmまでの長石粒含む	
1673	図209	肥前系磁器	染付碗	5 M10	1	5-002	(11.7)	4.9+	-	15%	貫入 外面染付	淡青灰	密	反転復元
1674	図209	肥前系磁器	輪花杯	5 M10	1	5-002	(7.3)	4.5+	-	20%	貫入	白	密	反転復元
1675	図209	肥前系磁器	染付碗	5 M10t18	1	5-003上層	(11.8)	3.8+	-		内外面染付	淡灰白	密	反転復元
1676	図209	肥前系磁器	染付蓋	5 M10t18	1	5-003	(10.6)	1.75+		10%以下	口縁部露胎 外面染付	白	密	反転復元
1677	図209	土師質土器	皿	5 M10t18	1	5-003	(11.1)	2.1	(6.5)	25%	内面回転ナデ・ナデ 外面回転ナデ	灰白	密	反転復元 口縁部スス付着 灯明皿
1678	図版87	肥前系磁器	染付碗	5 M10w18	2	5-008	(9.8)	5.45	(5.1)	30%	総釉 墨付釉剥 内外面染付	淡青灰	密	

報告書番号	図・図版番号	産地種類	器種	調査地区	遺構面	遺構層位等	法量			残存率	調整・技法	色調	胎土	備考
							口径cm	高さcm	底径cm					
1679	図209 図版87	肥前系 磁器	德利	5 M10w18	2	5-008	3.2	(13.0)	-	口縁部 95%	内面体部露胎	淡青灰	密	一部反転復元
1680	図209 図版87	瀬戸美濃系 陶器	碗	5 M10w18	2	5-008	(9.6)	6.2	4.5	30%	内面から外面口縁部灰釉・ 貫入 外面底体部褐釉 豊 付釉剥	釉:灰白・明赤褐 淡黄	ざっくりしている	一部反転復元
1681	図209 図版87	京・信楽系 陶器	碗	5 M10w18	2	5-008	9.1	5.4	3.2	60%	灰釉 貫入 高台付近露胎 外面文様・笹	釉:灰白 露胎: 淡黄	密	
1682	図209	土師質 土器	灯明油皿	5 M10w18	2	5-008	7.4	1.1	2.6	70%	内面透明釉 外底部回転糸 切	釉:明赤褐、露胎: 橙	密	口縁部の一部 スス付着
1683	図209	土師質 土器	灯明受皿	5 M10w18	2	5-008	5.8	0.9	3.5	95%	内面透明釉 外底部回転糸 切	釉:明赤褐、露胎: 橙	密	
1684	図209	土製品	遊玩具 土人形	5 M10w18	2	5-008	6.45+	6.55+	4.05+	40%	獅子 一部型押し成型 合 体 中空	にぶい黄橙	密	
1685	図209 図版87	肥前系 磁器	染付 碗	5 M10x18	2	5-009	(10.8)	5.5	4.3	40%	豊付釉剥・砂 見込み部蛇 の目釉剥 外面染付	灰白	密	一部反転復元
1686	図209	肥前系 陶器	唐津 碗	5 M10x18	2	5-009	(8.6)	6.0	(4.3)	20%	灰釉 白土で刷毛目文 豊 付釉剥	釉:灰白・灰	密	反転復元
1687	図209	土師質 土器	焙烙	5 M10x18	2	5-009	(25.8)	6.1	(25.4)	20%	内面ヨコナデ・ナデ 外面 ユビオサエ・ナデ	内:黒褐 外:橙	1mmまでの長石・ 金雲母等多く含む	反転復元
1688	図209 図版87	瀬戸美濃系 陶器	輪花皿	5 M10t18	2	5-011	(14.3)	3.6	7.2	50%	灰釉 貫入 総釉 高台豊 付釉剥ぎ	灰白	ざっくりしている	一部反転復元
1689	図209 図版87	肥前系 染付	碗	5 M10x18	2	5-016	(10.2)	5.05	(4.5)	50%	総釉 豊付釉剥 外面染付	淡青灰	密	反転復元
1690	図209 図版87	肥前系 磁器	染付 碗	5 M10x18	2	5-016	(10.8)	5.4	(4.4)	40%	豊付釉剥 内底部蛇の目釉 剥 外面染付	淡青灰	密	反転復元
1691	図209 図版87	肥前系 磁器	染付 碗	5 M10x18	2	5-016	(10.7)	5.2	4.4	80%	豊付釉剥・珪砂 内底部蛇 の目釉剥 外面染付印判手	淡青灰	密	
1692	図209 図版87	肥前系 磁器	染付 碗	5 M10x18	2	5-016	9.7	5.0	4.3	80%	総釉 豊付釉剥 外面染付	灰白	密	
1693	図209 図版87	肥前系 磁器	染付 仏飯器	5 M10x18	2	5-016	(5.2)	5.95	3.2	60%	総釉 貫入 豊付釉剥 外 面染付	淡灰白	密	一部反転復元
1694	図209 図版87	肥前系 陶器	碗	5 M10x18	2	5-016	(8.6)	5.55	3.9	50%	灰釉 貫入 外底部露胎	釉:灰白 露胎: 灰白	ざっくりしている	反転復元
1695	図209 図版87	京・信楽系 陶器	碗	5 M10x18	2	5-016	(7.2)	3.05	2.9	40%	灰釉 貫入 外底部露胎 外面絵柄	釉:灰オリーブ 露胎:淡黄	密	一部反転復元
1696	図209 図版87	肥前系 陶器	碗	5 M10x18	2	5-016	(12.2)	8.25	5.5	35%	灰釉 豊付・高台内露胎	釉:灰オリーブ 露胎:黄灰	密	一部反転復元
1697	図209 図版87	瀬戸美濃系 陶器	鉢	5 M10x18	2	5-016	(15.7)	8.6	8.0	40%	灰(黄)釉・外底部露胎 内 底部目痕3カ所	釉:灰白 露胎: 灰白	ざっくりしている	一部反転復元 口縁部円くない
1698	図209 図版87	土師質 土器	皿	5 M10x18	2	5-016	10.1	1.95	4.6	70%	内面回転ナデ 外面回転ナ デ・回転糸切	橙	密	口縁部スス付 着 灯明皿
1699	図209 図版87	土師質 土器	皿	5 M10x18	2	5-016	8.3	1.4	4.1	70%	内面回転ナデ 外面回転ナ デ・回転糸切	にぶい黄橙	密 3mmの赤色 酸化粒を含む	
1700	図209 図版87	土師質 土器	皿	5 M10x18	2	5-016	(11.2)	2.5	5.2	60%	内面施釉 外面回転ナデ・ ケズリ	釉:にぶい黄褐 露胎:黒褐	1~2mmの長石粒 等含む	一部反転復元
1701	図209 図版87	土師質 土器	焙烙	5 M10x18	2	5-016	(30.7)	7.0+		50%	内面ヨコナデ・ナデ 外面ヨ コナデ・ユビオサエ・ケズリ	明赤褐	1~5mmの長石・ 赤色砂粒等含む	反転復元
1702	図209 図版87	土師質 土器	焙烙	5 M10x18	2	5-016	(30.0)	7.5		60%	内面ヨコナデ・ナデ 外面ヨ コナデ・ユビオサエ・ケズリ	にぶい褐 黒褐	1~5mmの長石・ 赤色砂粒等含む	反転復元
1703	図209	土製品	遊玩具 土人形	5 M10x18	2	5-016	7.2+	5.0+	2.3	頭部欠 損	馬 騎乗人物 馬子 型合 わせ成型 中美 キラコ付 着 底部に棒を刺す穴	にぶい黄橙	密	
1704	図209	土製品	遊玩具 土人形	5 M10x18	2	5-016	4.6+	5.3+	2.15	頭部欠 損	飾り馬 型合わせ成型 中 実 キラコ付着 底部に棒 を刺す穴	にぶい黄橙	密	
1705	図209	土製品	遊玩具 土人形	5 M10x18	2	5-016	5.05+	4.8		頭部の み	地藏 型合わせ成型 中空 キラコ付着	にぶい黄橙	密	頭部のみ
1706	図209 図版87	備前焼	播鉢	5 M10x18	2	5-017	(28.8)	13.4	(13.7)	20%	内外面回転ナデ 播目11本 /3.0cm	暗赤褐	1~5mmの長石等 多く含む	反転復元

表6 出土遺物観察表 (瓦類)

遺構面で帰属面不明の遺構は1~4-2と記載  
 巴文の巻は、頭から尾に向かって巻方向  
 法量の ( ) 内は復元した大きさ +はそれ以上

報告書 番号	図 版 番号	種類 器種	調査区 地区	遺構面	遺構 層位	瓦当 cm	長 cm	幅 cm	厚さ cm	残存率	技 法	備 考
T1	図171 図版88	軒丸瓦	2 M10m13	2	2-033 アゼ	直径 12.7				瓦当面の98%	右巴文 珠文12個	
T2	図171 図版88	軒丸瓦	2 M10n13	2	2-038	直径 13.9	17.3+	13.4	高さ 6.1	瓦当面の 100%	左巴文 珠文12個 凹面布目 凸面ミガキ	
T3	図171	軒丸瓦	2 M10o16	3	2-072	直径 (12.8)	26.3	12.0	高さ 5.6	瓦当面の50%	左巴文 珠文16個? 凹面布目 凸面ミガキ 釘穴2か所	
T4	図171 図版88	軒丸瓦	1 M10j13	4-1	1-109	直径 13.5	7.9+			瓦当面の95%	左巴文 珠文16個 凹面布目 凸面ミガキ	
T5	図171	軒丸瓦	1 M10k13	4-1	1-115	直径 (13.0)	15.1+	12.6	高さ 6.1	60%	右巴文 珠文16個? 凹面布目 凸面ミガキ	
T6	図171	軒丸瓦	1 M10i13	4-1	1-124	直径 (18.0)				瓦当面の60%	右巴文 珠文16個?	
T7	図171	軒丸瓦	1 M10f13	4-1	1-083 南半	直径 (13.4)				瓦当面の65%	右巴文 珠文16個	
T8	図171 図版88	軒丸瓦	2 M10o17	4-2	2-149	直径 14.1				瓦当面の 100%	左巴文の尾は繋がる 珠文16個	
T9	図171	軒丸瓦	1 M10h12	1~ 4-2	1-301 掘形	直径 14.0	19.4	13.4	高さ 7.2	瓦当面の75%	左巴文の尾は繋がる 珠文 凹面布目・コビキ A 凸面ミガキ 釘穴1か所	16世紀?
T10	図171 図版88	軒丸瓦	1 M10i13	4-1	1-124 下層	直径 14.0				瓦当面の95%	左巴文の尾は繋がる 珠文19個	
T11	図171	軒丸瓦	1 M10g16	5-2上	整地土	直径 (16.0)				瓦当面の25%	左巴文の尾は繋がる 珠文小さい 凹面布目・ コビキA 凸面ミガキ	16世紀
T12	図171 図版88	軒丸瓦	4 M9n21	1~ 4-2	4-283	直径 13.2	14.6+	12.1+		瓦当面の98%	左巴文 珠文12個 凹面布目・コビキB 凸面 ミガキ	
T13	図171	軒丸瓦	4 M9n21	1~ 4-2	4-283	直径 13.1	6.8+			瓦当面の85%	左巴文 珠文12個	
T14	図171	軒丸瓦	4 M9q23	3	4-078	直径 12.4	31.1	12.0	高さ 6.0	80%	左巴文 珠文12個 凹面布目コビキB 凸面ミ ガキ 釘穴2か所	
T15	図171 図版88	軒丸瓦	3 M10k1	2	3-067	直径 13.1	5.9+			瓦当面の98%	左巴文 珠文12個	
T16	図171 図版88	軒丸瓦	4 M9k23	4-1	4-130	直径 12.9				瓦当面の 100%	左巴文 珠文12個	
T17	図171 図版88	軒丸瓦	3 M10r2	1~ 4-2	3-321	直径 12.6	3.3+			瓦当面の98%	左巴文 珠文12個	
T18	図171 図版88	軒丸瓦	3 M9s25	3	3-083	直径 13.4				瓦当面の98%	左巴文 珠文10個	
T19	図171	軒丸瓦	3 M9j25 M10j1	1	3-001	直径 (12.6)	6.1+			瓦当面の65%	左巴文 珠文12個	
T20	図171 図版88	軒丸瓦	3 M10i11・2	4-1	3-135	直径 12.7				瓦当面の80%	左巴文 珠文10個	
T21	図171	軒丸瓦	4 M9q23	3	4-079	直径 (13.3)	26.4	13.2	高さ 5.8	70%	左巴文 珠文12個 凹面布目・コビキB 凸面 ミガキ 釘穴2か所	
T22	図172 図版88	軒丸瓦	4 M9m23	4-1	4-134	直径 14.5	3.3+			瓦当面の 99%	左巴文 珠文12個	
T23	図172	軒平瓦	4 M9q23	3	4-078	直径 13.0	24.4	11.7	高さ 5.6	80%	左巴文 珠文16個? 凹面布目・タタキ 凸面 ミガキ	
T24	図172 図版88	軒丸瓦	4 M9q23	3	4-060	直径 13.7	4.7+			瓦当面の 100%	左巴文 珠文16個 凹面布目 凸面ミガキ	
T25	図172	軒丸瓦	4 M9q23	3	4-060	直径 (12.9)	25.2	11.2	高さ 5.7	70%	左巴文 凹面布目・タタキ 凸面ミガキ 釘穴 2か所 瓦当面キラコ付着	
T26	図172 図版88	軒丸瓦	3 M10p5・6	2	3-034 下面	直径 14.0	10.3+	12.8		瓦当面の 98%	右巴文 珠文16個 凹面布目・コビキA 凸面 ミガキ	
T27	図172 図版88	軒丸瓦	4 M9k24・25	4-1	4-265	直径 12.8				瓦当面の 100%	左巴文 珠文16個	
T28	図172 図版88	軒丸瓦	4 M9i j22・ 23	4-1	4-099 上層	直径 14.9	6.8+			瓦当面の 100%	右巴文 珠文12個 凹面布目 凸面ミガキ	
T29	図172	軒丸瓦	3 M10j2	2	3-072 1層	直径 14.6	9.2+			瓦当面の65%	右巴文 珠文12個?	
T30	図172 図版88	軒丸瓦	3 M10o4	4-1	3-152	直径 12.9				瓦当面の90%	左巴文 珠文16個	
T31	図172	軒丸瓦	4 M9n22	1~ 4-2	4-276	直径 (14.6)				瓦当面の45%	右巴文の尾繋がる 珠文12個?	
T32	図172	軒丸瓦	4 M9op21	1~ 4-2	4-299	直径 14.3				瓦当面の80%	左巴文の尾繋がる 珠文16個?	
T33	図172 図版88	軒丸瓦	3 M10j1	4-1	3-120 下層	直径 12.7	17.1+	12.7		瓦当面の90%	左巴文 珠文16個 凹面布目	
T34	図172 図版88	軒丸瓦	4 M9k124	4-1	3-123 下層	直径 (14.2)				瓦当面の80%	左巴文の尾繋がる 珠文22個?	4-137
T35	図172 図版88	軒丸瓦	3 M10j1・2	2	3-072 底	直径 (13.7)				瓦当面の95%	左巴文の尾繋がる 珠文30個	
T36	図172 図版88	軒丸瓦	1 M10j12	攪乱		直径 14.2				瓦当面の 100%	安藤家家紋瓦 下り藤に「安」	
T37	図172 図版89	軒丸瓦	4 M9i24	攪乱		直径 14.4				瓦当面の90%	安藤家家紋瓦 下り藤に「安」	
T38	図172 図版89	軒丸瓦	4 M9q23	3	4-078	直径 14.7	12.9+	13.0	高さ 6.1	瓦当面の80%	安藤家家紋瓦 下り藤に「安」 凹面布目 凸 面ミガキ	
T39	図172 図版89	軒丸瓦	4 M9o22・23	4-2	4-188 下層	直径 13.0				瓦当面の80%	安藤家家紋瓦 下り藤	
T40	図172	軒丸瓦	1 M10i11	1~ 4-2	1-278	直径 (14.4)				瓦当面の30%	家紋瓦	
T41	図172 図版89	鳥衾瓦	3 M10k1	攪乱		直径 (14.0)				瓦当面の85%	左巴文 珠文16個?	
T42	図172 図版89	鳥衾瓦	1 M10g15	2	1-011 北半	直径 14.7	13.5+	13.5	高さ 6.5	瓦当面の 100%	左巴文の尾は繋がる 珠文28個 凹面コビキA	16世紀?



報告書 番号	図 版 番号	種類 器種	調査区 地区	遺構面	遺構 層位	瓦当 cm	長 cm	幅 cm	厚さ cm	残存率	技 法	備 考
T43	図173 図版89	軒平瓦	1 M10h15	2	1-013	23.0× 4.0	5.0+		1.6	瓦当面の90%	均整唐草文	
T44	図173	軒平瓦	1 m10k13	2	1-015	(25.0) ×4.1	6.0+		1.7	瓦当面の60%	均整唐草文	
T45	図173	軒平瓦	1 M10k13	2	1-015 下層	(23.6) ×4.1	3.3+		1.7	瓦当面の70%	均整唐草文	
T46	図173	軒平瓦	1 M10k13	2	1-015	?× 4.9	8.8+		1.7	瓦当面の70%	均整唐草文	
T47	図173 図版89	軒棧瓦	2 M10m13	2	2-033	?× 3.9	12.5+		1.7	瓦当面の80%	均整唐草文	
T48	図173 図版89	隅軒平瓦	2 M10m13	2	2-033	(23.5) ×3.6	5.9+		1.6	瓦当面の98%	均整唐草文 下面ナデ 上面板ナデ	
T49	図173 図版89	一文字軒瓦	2 M10m13	2	2-033 アゼ	26.6× 3.7	12.8+		1.7	瓦当面の80%	均整唐草文 下面板ナデ	
T50	図173 図版89	軒平瓦	2 M10m13	2	2-033 アゼ	23.7× 4.0	9.7+		1.7	瓦当面の90%	均整唐草文 上下面ナデ やや平行四辺形	
T51	図173 図版89	一文字軒平瓦	2 M10m13	2	2-038	(26.8) ×3.7	26.5	26.8	1.9	95%	均整唐草文 下面板ナデ 上面ミガキ	
T52	図173	軒平瓦	1 M10g16	4-2	1-151	(22.6) ×3.2	10.6+		1.8	瓦当面の60%	均整唐草文	
T53	図173 図版89	軒平瓦	2 M10o16	3	2-072	(24.5) ×3.2	17.4+	24.5	1.7	80%	均整唐草文	
T54	図173 図版89	軒平瓦	2 M10n14	3上	整地土	(25.0) ×4.2	7.6+		1.8	瓦当面の70%	均整唐草文上下面板ナデ	
T55	図173 図版89	軒平瓦	2 M10o14	3上	整地土	(22.0) ×3.3	11.0+		1.7	瓦当面の80%	均整唐草文 下面板ナデ	
T56	図173 図版89	軒平瓦	2 M10o14	4-2	2-147	(27.0) ×4.3	9.4+		1.6	瓦当面の70%	均整唐草文 下面ナデ 上面板ナデ	
T57	図173	軒平瓦	1 M10i13	4-2	1-161	?× 5.2	7.8+		2.0	瓦当面の25%	均整唐草文 下面ナデ 上面板ナデ	中世
T58	図173 図版89	軒平瓦	1 M10h14	4-2	1-208 上層	?× 6.0	6.0+		2.0	瓦当面の60%	均整唐草文	中世
T59	図173	軒平瓦	3 M10j1	1	3-001 南	(24.6) ×3.9	17.7+		1.6	瓦当面の70%	均整唐草文	
T60	図173 図版89	軒棧瓦	4 M9q23	3	4-060	(27.0) ×4.0	13.1+		1.7	瓦当面の90%	均整唐草文 上面丁寧なナデ 下面板ナデ	
T61	図173	軒棧瓦	4 M9j22・ 23	4-1	4-099 上層	26.6× 3.9	10.0+		1.6	丸瓦面の98%	均整唐草文 瓦当面にキラコ付着	
T62	図173 図版89	軒平瓦	3 M10p6	2	3-034	19.8× 3.6	15.0+	19.2	1.5	瓦当面の98%	均整唐草文	
T63	図173	軒平瓦	3 M10t3	4-1	3-186	(23.0) ×3.6	8.6+		1.6	瓦当面の90%	均整唐草文 キラコ付着	
T64	図173 図版89	軒平瓦	3 M10s3	4-1	3-153 アゼ	24.0× 4.0	15.5		1.6	瓦当面の95%	均整唐草文 瓦当面にキラコ付着	
T65	図173	軒平瓦	4 M9q23	3	4-078	(20.8) ×3.2	12.0+		1.5	瓦当面の90%	均整唐草文 上下面板ナデ	
T66	図173	軒平瓦	4 M9n22	1~ 4-2	4-276	?× 3.4	10.4+		1.5	瓦当面の40%	均整唐草文	
T67	図173	軒平瓦	3 M10o4	4-1	3-152	(24.8) ×3.2	7.5+		1.6	瓦当面の60%	均整唐草文	
T68	図173 図版89	軒平瓦	4 M9p23	3上	整地土	(24.2) ×3.8	7.9+		2.0	瓦当面の90%	均整唐草文 上下面板ナデ	
T69	図174 図版89	滴水瓦	2 M10o16	3	2-072	22.0× 7.3	10.4+		1.6	瓦当面の90%	唐草文 瓦当面の上面菊花の刻印	
T70	図174 図版90	滴水瓦	1 M10g13	3	1-059	21.0× 6.8	16.8+	20.5	1.8	瓦当面の・	唐草文	
T71	図174 図版90	滴水瓦	1 M10f16	4-2	1-153	17.5× 9.5	10.8+		1.8	瓦当面の70%	唐草文	
T72	図174 図版90	滴水瓦	4 M9q23	3	4-078	(21.2) ×7.0	3.0+		1.6	瓦当面の80%	唐草文	
T73	図174	滴水瓦	3 M10j1	2	3-072	(23.0) ×?	11.7+		1.8	瓦当面の65%	唐草文	
T74	図174 図版90	滴水瓦	4 M9o22・23	4-2	4-188 下層	22.3× 7.2	9.7+	22.2	1.6	瓦当面の 100%	唐草文	
T75	図174 図版90	滴水瓦	4 M9q23	3	4-060	(24.0) ×?	7.3+		1.6	瓦当面の75%	安藤家家紋瓦 藤	
T76	図174 図版90	滴水瓦	4 M9q23	3	4-078	(23.4) ×7.2	5.9+		1.6	瓦当面の90%	安藤家家紋瓦 藤	
T77	図174	丸瓦	2 M10m13	2	2-031		22.2	12.4	高さ 5.9	85%	凹面布目内タタキ 凸面ミガキ	
T78	図174 図版90	丸瓦	2 M10w13	2	2-033		23.7	12.4	高さ 5.8	98%	凹面布目内タタキ 凸面ミガキ	
T79	図174 図版90	丸瓦	2 M10m12	2	2-035 西側		20.9	12.3	高さ 5.3	98%	凹面布目内タタキ 凸面ヨコナデのちミガキ	
T80	図174 図版90	丸瓦	1 M10f13	3	1-063		22.2	11.0	高さ 5.9	98%	凹面布目 凸面ミガキ	
T81	図174	丸瓦	1 M10g14	4-1	1-082 西半		24.8	12.9	高さ 6.4	70%	凹面布目 凸面ミガキ	
T82	図174	丸瓦	1 M10i12	4-1	1-091 南半		23.8+	12.6	高さ 6.6	40%	凹面コビキB 凸面ミガキ	
T83	図174 図版90	丸瓦	2 M10n15	3上	整地土		27.3	13.4	高さ 6.2	98%	凹面布目コビキB 凸面ミガキ	
T84	図174 図版90	丸瓦	1 M10f16	4-1	1-107		23.2	12.9	高さ 6.0	90%	凹面布目 凸面ミガキ	
T85	図174	丸瓦	2 M10o14	4-2	2-147		24.6	14.2	高さ 6.3	70%	凹面布目 凸面ミガキ	
T86	図174	丸瓦	1 M10k12	1~ 4-2	1-283		25.2	13.2	高さ 6.7	90%	凹面布目 凸面ミガキ	
T87	図174	丸瓦	1 M10k12	1~ 4-2	1-283		25.0	13.1	高さ 6.7cm	100%	凹面布目 凸面ミガキ	

報告書 番号	図 版 番号	種類 器種	調査区 地区	遺構面	遺構 層位	瓦当 cm	長 cm	幅 cm	厚さ cm	残存率	技 法	備 考
T88	図174	丸瓦	1 M10i13	4-1	1-124					10%以下	凹面布目 凸面ミガキ 菊花の刻印	
T89	図174 図版90	丸瓦 (行基葺)	1 M10i15	3	1-041 底		18.9+	(12.3)	高さ 5.5	50%	凹面布目 釘穴1か所	
T90	図175 図版90	丸瓦	3 M10m1・2	1	3-008 アゼ北側		22.2	12.0	高さ 5.3	90%	凹面布目内タタキ 凸面ミガキ・ヨコナデ	
T91	図175 図版90	丸瓦	3 M10m1・2	1	3-008 アゼ北側		24.5	13.3	高さ 6.4	90%	凹面布目内タタキ 凸面ミガキ	
T92	図175	丸瓦	4 M9k124	1	4-026		21.9	12.3	高さ 5.9	75%	凹面布目内タタキ 凸面ミガキ	
T93	図175 図版90	丸瓦	3 M10p5・6	2上	整地土		24.7	12.8	6.4	98%	凹面布目コビキB 凸面ミガキ	
T94	図175	丸瓦	4 M9i24	2上	整地土		21.1	11.6	高さ 5.6	90%	凹面布目内タタキ 凸面ミガキ・ヨコナデ	
T95	図175 図版90	丸瓦	4 M9i24	2上	整地土		22.2	13.0	高さ 5.7	98%	凹面布目内タタキ 凸面ミガキ	
T96	図175	丸瓦	3 M10k1	2	3-067		22.2	12.2	5.5~ 6.1	80%	凹面布目内タタキ 凸面ミガキ	
T97	図175 図版90	丸瓦	3 M10j3	2	3-072 中層		21.9	12.2	5.8	95%	凹面布目内タタキ 凸面ミガキ	
T98	図175 図版90	丸瓦	3 M10j2	2	3-072 3層		23.5	11.8	5.9~ 6.5	98%	凹面布目コビキB 凸面ミガキ	
T99	図175	丸瓦	4 M9i25	3	4-090		22.5	12.5	高さ 5.7	70%	凹面布目タタキ 凸面ミガキ	
T100	図175 図版90	丸瓦	4 M9i24・25	3	4-090		22.6	12.0	5.8	95%	凹面布目 凸面ミガキ	
T101	図175	丸瓦	4 M9m23・24	3	4-085 西		22.5	12.3	高さ 5.7	90%	凹面布目 凸面ミガキ・ヨコナデ	
T102	図175 図版90	丸瓦	4 M9m24	4-1	4-098		25.9	13.3	高さ 6.0	99%	凹面布目 凸面ミガキ	
T103	図175 図版90	丸瓦	4 M9i j 22・ 23	4-1	4-099 上層		23.0	12.2	高さ 5.8	90%	凹面布目コビキB 凸面ミガキ	
T104	図175	丸瓦	3 M10i2・3	3	3-105		24.9	13.0	高さ 6.2	70%	凹面布目コビキB 凸面ミガキ	
T105	図175 図版91	丸瓦	4 M9t23・24	4-1	4-102 アゼ東側		23.0	12.9	高さ 6.4	90%	凹面布目コビキB 凸面ミガキ	
T106	図175 図版91	丸瓦	4 M9u23・24	4-1	4-102 アゼ西側		25.1	14.0	高さ 7.1	90%	凹面布目 凸面ミガキ	
T107	図175 図版91	丸瓦	3 M10i j1・2	3	3-107		24.8	13.2	高さ 6.7	98%	凹面布目コビキB 凸面幅の広いミガキ	
T108	図175	丸瓦	4 M9k23	4-1	4-130		25.5	15.3	高さ 7.7	85%	凹面布目 凸面ミガキ	
T109	図175	丸瓦	3 M10o4	4-1	3-167 北半		24.7	13.5	高さ 7.0	90%	凹面布目コビキB 凸面ミガキ・板ナデ	
T110	図175	丸瓦	4 M9m23・ 24	4-2	4-139 底		23.9	12.6	高さ 6.6	85%	凹面布目コビキB 凸面ミガキ	
T111	図175	丸瓦	4 M9o22・23	4-2	4-188 下層		22.5	12.7	高さ 6.8	80%	凹面布目コビキB 凸面ミガキ	
T112	図175	丸瓦	4 M9k24・25	4-2	4-265		24.7	12.3	高さ 6.0	90%	凹面布目コビキB 凸面ミガキ	
T113	図175 図版91	丸瓦	4 M9k24	4-2	4-267		24.1	12.3	高さ 5.8	95%	凹面布目コビキB 凸面ミガキ	
T114	図175 図版91	丸瓦	3 M10k2	5-2	3-257		26.2	12.2	高さ 5.8	98%	凹面布目コビキA 凸面縄目圧痕のちみミガキ	16世紀
T115	図175	丸瓦	4 M9k24	4-2	4-267		22.7	12.0	高さ 6.0	80%	凹面布目コビキB 凸面ミガキ・ハケ目?	
T116	図175	丸瓦	4 M9q22	不明	4-319		22.6	12.6	高さ 5.6	75%	凹面布目のちナデ 凸面ミガキ	
T117	図175 図版91	丸瓦	4 M9 s 23	攪乱			12.7+	9.8+	—	—	凹面布目内タタキ 凸面ミガキ 凹面刻印「・ 政庚申秋 ・海野子屋瓦」	
T118	図176 図版91	平瓦	1 M10i15	3	1-041		24.2	19.0× 20.6	1.9	98%	上面ナデ 下面粗いナデ	
T119	図176	平瓦	1 M10i15	3	1-041		24.2	18.3× 20.0	2.0	99%	上面ナデ 下面粗いナデ	
T120	図176 図版91	平瓦	4 M9m24・25	3	4-090		23.0	20.1× 21.0	1.6	90%	上下面ナデ やや平行四辺形	
T121	図176 図版91	棧瓦	3 M9 j25 M10j1	1	3-001 アゼ		26.4	27.1	1.6	98%	上下面ナデ	
T122	図176 図版91	平瓦	3 M10m1・2	1	3-008 アゼ北側		26.1	22.1× 24.0	1.3~ 2.0	80%	板ナデ	
T123	図176 図版91	平瓦	4 M9i23・ 24	4-1	4-139		25.6	18.8× 20.0	2.2	95%	上面ナデ 下面板ナデ	
T124	図176	棧瓦	4 M9p23	2	4-040		27.4	27.4	1.8	98%	上面ナデ 下面板ナデ	
T125	図176 図版91	平瓦	4 M9k124	1	4-036		26.0	21.7× 23.5	1.7	90%	上面丁寧なナデ 下面粗いナデ	
T126	図176 図版91	平瓦	4 M9k25	2上	整地土		26.5	23.7× 24.0	1.6	98%	上面丁寧なナデ 下面板ナデ	
T127	図176 図版91	平瓦	3 M10o1	5-2	3-298		26.9	18.6× 20.3	2.4	85%	板ナデ	16世紀
T128	図176	平瓦	3 M10m1・2	5-2上	整地土		32.9	21.6× 23.9	2.2	70%	上面ナデ 下面板ナデ	16世紀
T129	図177 図版91	雁振瓦	2 M10m12	2	2-035 東側		25.2	27.4	1.9	80%	上面ナデ 下面ミガキ	
T130	図177 図版91	雁振瓦	4 M9q23	3	4-078		25.7	17.6+ (34.1)	1.9	50%	上面ナデ 下面板ナデ	

報告書 番号	図 版 番号	種類 器種	調査区 地区	遺構面	遺構 層位	瓦当 cm	長 cm	幅 cm	厚さ cm	残存率	技 法	備 考
T131	図177 図版91	雁振瓦	2 M10o16	3	2-072		27.4	33.9	2.2	70%	下面板ナデ 上面ミガキ	
T132	図177	雁振瓦	3 M10m1・2	2	3-074		25.8	(34.9)	2.1	55%	中央に釘穴2穴	
T133	図177	雁振瓦	4 M9	3	4-090		29.1	(25.0)	1.7	70%	上面板ナデ 下面ナデ 釘穴1か所	
T134	図177	雁振瓦	4 M9q23	3	4-060		26.1	18.0+ (27.6)	1.7	55%	上面ナデ 下面板ナデ 釘穴2か所	
T135	図177 図版91	平隅瓦	2 M10o14	4-1上	整地土		23.9	21.0	1.6	98%	上面ナデ 下面板ナデ	
T136	図177	面戸瓦?	2 M10o16	3	2-072		26.2	4.6	1.5	98%	鍵(L字)状ナデ	
T137	図177 図版91	道具瓦 棟飾瓦	4 M9q23	3	4-079	10.0× 6.5	9.5		1.7	100%	瓦当 輪違 上下面ナデ	
T138	図178	鬼瓦	1 M10f16	4-2	1-153		13.9+	10.9+	6.9	10%	鬼面の一部のみ残存	
T139	図178	鬼瓦	1 M10j13	4-1	1-136		20.0+	21.5+	4.6	10%	右袖の裾部	
T140	図178 図版91	鬼瓦	2 M10o16	3	2-072		(41.3)	26.2	3.7~ 4.6	50%	左袖と右袖の一部が残存	
T141	図178 図版91	鬼瓦	3 M10k1	4-1	3-123		16.5	14.9+	8.2	50%	鬼面のみ残存	4-137
T142	図178	鬼瓦	3 M10i1・2	4-1	3-135		22.0+	20.1+	8.8	30%	右袖の一部残存	
T143	図178 図版91	鬼瓦	4 M9u23・24	4-1	4-102 アゼ 西側		27.2+	11.5+	3.4	40%	右袖の一部残存 扇形文	
T144	図178 図版92	壁瓦	4 M9u23・24	4-1	4-102 アゼ西側		23.9	21.5	1.6	80%	釘穴4個か(貫通しない) 板ナデ	
T145	図178	壁瓦	4 M9o23	4-2	4-197		24.2	21.5	1.6	65%	釘穴4個か ナデ	
T146	図178	熨斗瓦	1 M10g13	3	1-059		26.0	12.6 (12.0)	1.7	100%	ナデ・ヘラナデ 平瓦の中央に切り込みの線刻	
T147	図179 図版92	井戸瓦	1 M10h13	4-2	1-201		30.9	25.3	3.1	98%	内面細かなキザミ 外面板ナデ	
T148	図179 図版92	井戸瓦	1 M10k16	4-1	1-068		32.0	25.5	3.2	98%	内面細かなキザミ 外面板ナデ	
T149	図179 図版92	井戸瓦	2 M10n12	1~ 4-2	2-256		34.6	内28.0 外31.0	3.2~ 3.6	98%	内面細かなキザミ 外面板ナデ	
T150	図179	井戸瓦	2 M10g16	1~ 4-2	2-264		27.0	内23.0 外24.5	2.8	80%	内外面摩滅	
T151	図179 図版92	井戸瓦	3 M10n1	2	3-064 井側		26.0	内22.2 外23.9	3.0	100%	内面細かなキザミ 外面板ナデ	
T152	図179 図版92	井戸瓦	3 M9t25	2	3-054		30.4	内21.8 外24.1	3.0	85%	内外板ナデ	
T153	図179 図版92	井戸瓦	3 M10	1~ 4-2	3-164 井戸側		25.8	内23.9 外24.7	2.6	95%	内面細かなキザミ 外面板ナデ	
T154	図180 図版92	井戸瓦	3 M10R2	1~ 4-2	3-321 井戸側		26.6	内22.0 外23.6	3.9	99%	内面丁寧な板ナデ 外面粗いナデ	
T155	図180 図版92	井戸瓦	3 M10r2	1~ 4-2	3-320 井戸側		28.1	24.5	3.1	95%	内面細かなキザミ 外面板ナデ 小ロスタンプ	3-124
T156	図180 図版92	井戸瓦	3 M10u3	1~ 4-2	3-188		27.3	内23.0 外24.4	2.5	98%	内面細かなキザミ 外面板ナデ 小ロスタンプ	
T157	図180 図版92	井戸瓦	4 M9	1~ 4-2	4-288		26.8	内22.7 外24.1	3.0	98%	内面細かなキザミ 外面板ナデ	
T158	図180 図版92	井戸瓦	4 M9q22	1~ 4-2	4-319		29.3	内23.0 外24.9	3.1	98%	内面細かなキザミ 外面板ナデ	
T159	図180 図版92	井戸瓦	3 M10n1	1~ 4-2	3-335 掘形		30.5	内29.2 外30.5	3.3	99%	内面細かなキザミ 外面板ナデ	
T160	図180 図版92	井戸瓦	3 M9s25	3	3-083		35.0	内27.9 外30.6	3.1	95%	内面やや粗いキザミ 外面板ナデ	
T161	図181 図版92	井戸瓦	3 M10p3	1~ 4-2	3-126 井戸側		35.8	31.0	3.6	95%	内面細かなキザミ 外面ナデ・板ナデ	
T162	図181 図版92	井戸瓦	3 M10o4	1~ 4-2	3-152 井戸側		35.1	内28.4 外30.2	3.4	98%	内面細かなキザミ 外面板ナデ	
T163	図181 図版92	井戸瓦	4 M9	1~ 4-2	4-288		34.8	内27.1 外28.8	3.1	98%	外:板ナデ	
T164	図181 図版92	井戸瓦?	3 M10o4	1~ 4-2	3-152		18.3	内27.5 外29.9	5.6	95%	板ナデ	
T165	図181 図版92	磚	4 M9k124	4-1	3-123 上~中層		25.2	25.0	3.3	98%	上下面板ナデ	4-137
T166	図181 図版92	磚	4 M9p23	2	4-040		25.0	25.0	3.4	98%	上下面板ナデ	
T167	図181 図版92	瓦製土管	4 M9tu22・ 23	4-1	4-110	直径 10.7	28.7	孔径 3.7	4.0	90%	ミガキ	
T168	図181 図版93	軒丸瓦	1 M10i14	8上	包含層	直径 (19.7)				瓦当面の15%	複弁蓮弁文 珠文	古代瓦
T169	図181 図版93	平瓦	1 M10i14	8上	包含層		11.5+	12.3+	3.1	10%	凹面布目 凸面縄目	古代瓦
T170	図181 図版93	平瓦	1 M10g16	8上	包含層		10.1+	10.1+	1.5	10%	凹面布目 凸面縄目	古代瓦
T171	図181	平瓦	1 M10g16	8上	包含層		8.3+	5.0+	1.7	10%以下	凹面布目 凸面縄目	古代瓦
T172	図181	平瓦	1 M10h13	8	1-340		9.3+	7.6+	1.5	10%以下	凹面布目 凸面縄目	古代瓦

表7 出土遺物観察表(石製品)

遺構面で帰属面不明の遺構は1~4-2と記載  
法量の+はそれ以上

報告書 番号	図・ 図版番号	種別	石材	調査区	遺構面	遺構 層位	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g (kg)	残存率	備 考
S1	図182 図版93	硯	粘板岩	2 M10o15	3	2-086	16.9	7.6	2.2	428.00+	85%	裏面「高嶋青石」刻印
S2	図182 図版93	硯	粘板岩系	1 M10k11	1~4-2	1-277	5.5+	6.75	2.5	138.03+	-	破片 海部
S3	図182 図版93	硯	粘板岩系	2 M10m12	2	2-035 西	6.5+	8.2	3.3	196.21+	-	破片 海部
S4	図182 図版93	硯	粘板岩系	1 M10g12	4-1	1-095	10.9+	7.1	1.9	260.00+	-	海部欠損
S5	図182 図版93	硯	粘板岩	2 M10o13	1上	整地土	11.0+	6.1	1.7	175.24+	80%	海部欠損
S6	図182	硯	粘板岩系	1 M10111	1~4-2	1-278	8.9+	5.4+	1.75	103.62+	-	陸の一部遺存 欠損後砥石 に転用
S7	図182 図版93	硯	粘板岩	1 M10f13	3	1-063	8.45+	4.0	1.2	59.88+	85%	海部の一部欠損
S8	図182 図版93	碁石(黒)	頁岩	1 M10h16	4-2	1-206	直径 2.1		0.5	3.88	100%	
S9	図182 図版93	碁石(黒)	頁岩	2 M10m12	2	2-033	直径 2.25		0.6	4.21	100%	
S10	図182	碁石(黒)	頁岩	2 M10y12	1~4-2	2-213	直径 1.9~2.0		0.7	4.65	100%	
S11	図182 図版93	砥石	粘板岩	1 M10g16	2	1-028	7.5+	4.1	0.6~0.9	77.44+	-	
S12	図182	砥石	粘板岩	1 M10k15	5-2	1-275	6.55+	3.4	0.6~1.0	33.06+	-	片小口欠損
S13	図182	砥石	粘板岩	1 M10gh14	1~4-2	1-304 底	6.4+	3.95	0.85	36.05+	-	両小口欠損
S14	図182	砥石	粘板岩	2 M10o15	3	2-037	5.0+	3.65	0.8	18.77+	-	片小口欠損
S15	図182	砥石	粘板岩	2 M10m14	4-2	2-189	3.6+	4.0	0.6~0.7	17.16+	-	片小口欠損
S16	図182	砥石	粘板岩	2 M10m12	2	2-035 西	11.3+	7.0+	1.25	93.92+	-	欠損多い
S17	図182 図版93	砥石	粘板岩	2 M10o16	3	2-072	8.3+	5.7	0.7~0.85	70.46+	-	片小口欠損
S18	図182 図版93	砥石	粘板岩	1 M10g13	4-1	1-086	6.9	5.5	0.8~0.9	52.74	100%	欠損した面を整え台形にし ている
S19	図182	砥石	粘板岩	2 M10m13	4-2	2-165	4.85+	3.3	0.8	16.49+	-	両小口欠損
S20	図182 図版93	砥石	粘板岩	2 M10	2	2-033	6.8	4.9	0.5~0.9	54.09+	-	片小口欠損
S21	図182	砥石	粘板岩	1 M10f12	4-1	1-083	7.1	5.6	0.9~1.5	83.29+	-	片小口欠損
S22	図182 図版93	砥石	粘板岩系	1 M10k11	1~4-2	1-277	5.3+	1.95~2.3	1.0	22.82+	-	丸刃研ぎ 表裏に溝 片小 口欠損
S23	図182 図版93	砥石	粘板岩	2 M10	1~4-2	2-208	6.0+	2.25	0.9~1.1	30.40+	-	片小口欠損
S24	図182 図版93	砥石	粘板岩系	1 M10k13	3	1-070	6.35+	2.6~3.1	0.7~1.2	44.94+	-	片小口欠損
S25	図182 図版93	不明	礫岩	1 M10f13	3	1-063	12.55+	13.65	3.8~6.1		-	表面に研ぎ及び削り痕あり 再利用?
S26	図182 図版93	火打石	チャート	2 M10		排土	4.25	2.9	1.2~1.4	21.87	100%	
S27	図182 図版93	礫石器 敲石	硬砂岩	1 M10i13	7	1-340	10.20	8.9	2.9~3.4	485.00	100%	両面・周縁に敲打痕 混入 か
S28	図182 図版93	礫石器 敲石	硬砂岩	1 M10i14	7	1-342	7.35	7.0	4.8	330.00	100%	両面に敲打痕 周縁に敲打 痕・擦痕
S29	図182 図版93	砥石	砂岩	2 M10pq13	9上	包含層	6.15+	5.1	2.1~3.8	160.45+	-	片小口欠損
S30	図182 図版94	石鏃	サヌカイト	2 M10n13	9上	包含層	3.55+	1.05	0.5	1.90	85%	先端及び基部欠損
S31	図183 図版94	硯	頁岩	3 M10u1	3	3-081	5.35	3.5	0.4	14.73+	90%	携帯用
S32	図183 図版94	碁石(黒)	頁岩	3 M9t25	2上	整地土	直径 2.05	0.5		3.43+	95%	
S33	図183 図版94	碁石	頁岩	4 M9124	4-1上	整地土	直径 2.2	0.4		3.23	100%	
S34	図183 図版94	砥石	粘板岩	3 M10j1	4-1	3-120 下層	8.5+	5.2	1.0	91.03	-	2つに割れる
S35	図183 図版94	砥石	粘板岩	4 M9no21	5-2	4-287	9.4	5.85	0.6~0.8	84.13+	98%	表裏若干剥離しているが平 面は元の大きさ
S36	図183 図版94	砥石	粘板岩	4 M9j23	4-1	4-099	9.3+	6.1	0.9~1.0	111.23+	-	欠損
S37	図183 図版94	砥石	粘板岩	4 M9ij23	4-1	4-099	7.4+	4.4	0.6~1.3	66.39+	-	片小口欠損
S38	図183	砥石	粘板岩	3 M10	3	3-111	6.55	3.9	0.9~1.1	45.06+	90%	
S39	図183 図版94	砥石	粘板岩	4 M9122	4-2	4-152	5.4+	3.9	0.9	36.23+	-	片小口欠損
S40	図183	砥石	粘板岩	3 M10ij1・2	3	3-107	5.1+	5.8	1.1	30.04+	-	欠損 剥離
S41	図183 図版94	砥石	粘板岩	4 M9w23・24	3	4-085 上層	8.6+	5.15	0.5~0.8	55.40+	-	片小口欠損
S42	図183 図版94	砥石	粘板岩	3 M9n25	2	3-064	13.6+	8.6	0.8~1.1	169.20+	-	欠損
S43	図183 図版94	砥石	粘板岩	3 M10j2	2	3-072 3層	15.5	4.4~4.7	0.65~0.95	110.58+	85%	破損
S44	図183 図版94	砥石	粘板岩	4 M9rs24	4	4-107	9.35+	6.1+	0.75 ~1.4	85.06+	-	欠損 丸ノミの研砥痕有

報告書 番号	図・ 図版番号	種別	石材	調査区	遺構面	遺構 層位	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g (kg)	残存率	備考
S45	図183 図版94	砥石	粘板岩	M9q24	4-2	4-215	5.3+	2.35	0.25~0.6	14.17+	-	1・2 遺構面
S46	図183 図版94	砥石	粘板岩	M10i3	5-2	3-300	13.75+	6.8~7.5	2.7~3.6	(0.7+)	-	
S47	図183 図版94	石臼	砂岩	M10	1~4-2	3-164 井戸側内	直径 28.8		8.8~9.8	(13.1+)	80%	下臼
S48	図183 図版94	五輪塔 火輪	砂岩	M9j25	4-2	3-222	21.7	21.7	14.0	(10.8)	100%	
S49	図183 図版94	不明石製品	砂岩	M9n24	4	4-098 底	25.3	-	高さ12.5	(8.4+)	-	破片 本来は方柱状で中央に円形の穴か？
S50	図184 図版94	石臼	花崗岩	M10	1~4-2	3-152 井戸側内	直径 57.8		30.0	(約200)	95%	上臼 上面が斜めになる 挽手穴対象に2か所
S51	図184 図版94	石塔？ 笠	不明	M9l23	7	4-355	直径 21.0		高さ12.0	(3.3+)	80%	頂部欠損 下部にホソ穴 S52と同じ石材 セットか
S52	図184 図版94	石塔？ 支柱	不明	M9l23	7	4-355	35.5	11.0	9.5	(4.3)	-	S51と同じ石材 セットか
S53	図184 図版94	砥石	砂岩	M9n23	7	4-353	9.65	3.6~5.7	1.5~3.1	202.5	100%	
S54	図184 図版94	砥石	砂岩	M9o24	9-1	4-373	13.1+	6.55	4.3~6.2	(0.9+)	-	片小口欠損
S55	図184 図版94	石鏝	サヌカイト	M9q21・22	8上	包含層	4.1	0.9	0.35	1.65+	98%	

表8 出土遺物観察表(金属製品) 遺構面で帰属面不明の遺構は1~4-2と記載  
法量の()内は復元した大きさ +はそれ以上

報告書 番号	図 図版番号	種類 器種	調査区 地区	遺構面	遺構 層位	長 cm	幅 cm	厚 cm	長さ g	残存率	備考
M1	図185 図版95	鉄製品 包丁	M10k11	1~ 4-2	1-277	20.2+	1.8~4.8	0.4	127.77+	95%	柄基部・刃部先端欠損
M2	図185 図版95	鉄製品 包丁	M10m13	2	1-031 アゼ北西	13.5+	2.5~4.8	0.9	130.48+	-	柄部・刃部先端欠損
M3	図185 図版95	鉄製品 小刀	M10k16	3	1-068 東半	10.9+ 2.9+	2.0	0.7	32.52+	-	捻じれる？ 破損
M4	図185 図版95	鉄製品 小刀	M10j13	4-1	1-103	7.9+		0.3	20.20+	-	青め金具残 柄部・刃部先端部欠 損
M5	図185	鉄製品 小刀？	M10m12	2	2-035 西側	7.1+	0.9~3.2	0.6	23.03+	-	刃部欠損 柄の木質一部残存
M6	図185 図版95	銅製品 小柄	M10m15	3	2-136	(20.0)	1.5	0.5	39.26+	85%	刃部一部欠損 柄部とは接合せず
M7	図185 図版95	銅製品 小柄	M10n15	4-1 上	整地土	柄部 10.0	1.5	0.6	31.61+	柄部 100%	柄部のみ 刃部欠損
M8	図185	鉄製品 不明	M10o16	3	2-072	8.8+	0.6	0.4	10.99+	-	片方欠損 小柄刃部の柄か？
M9	図185 図版95	鉄製品 鎌	M10g17	4-2	1-207	柄部11.9 刃部11.5	3.6	0.3~0.7	72.34+	85%	刃部先端欠損
M10	図185 図版95	鉄製品 鎌	M10g14	4-1	1-082 西半	柄部7.0 刃部5.0	刃部3.4	刃部0.6	69.58+	50%	刃部殆ど欠損
M11	図185 図版95	鉄製品 火打金	M10g14	4-1	1-082 東半	8.4	3.7	0.5	26.37	100%	短冊状の板
M12	図185 図版95	鉄製品 火打金	M10o15	3上	整地土	8.2	2.9	0.8	28.60	100%	短冊状の板 片方の長辺に木質残 存
M13	図185 図版95	鉄製品 不明	M10g13	4-1	1-083 南半	14.6	1.5	0.7	62.9+	90%	
M14	図185 図版95	鉄製品 不明	M10m14	4-2	2-183	径5.2	高さ 2.1	0.1	14.38	100%	内面に竹状の有機物 口金または 継手の可能性あり
M15	図185 図版95	鉄製品 鏝	M10n16	3	2-095	9.4+	0.9	0.7	10.63+	90%	両端屈曲 先端欠損
M16	図185 図版95	鉄製品 鏝	M10n16	3	2-095	8.6+	1.0	0.4	10.10+	85%	片端欠損 片方屈曲・先端欠損
M17	図185	鉄製品 目録釘	M10g14	4-1	1-082 東半	7.2+	1.9	0.6	19.85	100%	孔1か所
M18	図185 図版95	鉄製品 不明	M10l13	4-2	2-172	8.8+	1.4×0.4	頭部3.8	38.83+	-	片方欠損 釘？
M19	図185 図版95	鉄製品 釘	M10m12	2	2-039	6.7+	0.6	0.5	11.46+	90%	頭部強い折れ 木質付着
M20	図185 図版95	鉄製品 釘	M10y12	1~ 4-2	2-213	15.4+	0.5	0.5	13.66+	90%	両端欠損 片方の端部やや折れる 強い折れ
M21	図185 図版95	銅製品 箸	M10i13	4-1	1-124 中・下層	21.8	0.4	0.4	17.78+	98%	やや折れる
M22	図185	銅製品 箸	M10m12	2	2-039	18.5	0.4	0.3	9.52	100%	片方曲がる 断面丸
M23	図185 図版95	銅製品 蓋	M10n15	2上	整地土	口径11.6	最大径 13.0	器高 2.8	140.00	100%	宝珠状の摘み 口縁部内面に返り 状の突起
M24	図185 図版95	銅製品 飾金具	M10o13	2上	整地土	9.2	5.1	4.4	26.95	100%	襷状の裝飾に魚子打ち 中央に角 釘
M25	図185	銅製品 匙	M10o14	3	2-067	2.8+	2.7		1.89+	-	柄部欠損
M26	図185 図版95	銅製品 匙？	M10o13	2	2-036 東側	9.8+	0.6	0.2	13.84+	-	匙部？欠損 片方U字状に折れる
M27	図185 図版95	銅製品 箸	M10o13	2	2-036 東側	17.7	径0.35		9.58	-	片端尖る 片方竹節状になる
M28	図185	銅製品 不明	M10l13	4-2上	整地土	5.6	0.5	0.1	2.32	100%	L字状に折れ曲がる
M29	図185 図版95	銅製品 不明	M10f15	2	1-017	6.2+	0.7	0.2	3.39+	-	片方欠損 やや折れる 片端付近 φ0.2cmの孔
M30	図185 図版95	銅製品 不明	M10f17	2	1-031	8.9+	0.6	0.4	7.37+	98%	片端わずかに欠損 片端にφ0.9 cmの環

報告書 番号	図 図版番号	種類 器種	調査区 地区	遺構面	遺構 層位	長 cm	幅 cm	厚 cm	重さ g	残存率	備考
M31	図185 図版95	銅製品 不明	2 M10o16	3	2-061	18.5	0.3	0.3	6.76	100%	片端を輪状に丸める 断面四角
M32	図185	銅製品 吊り金具	1 M10f13	4-2	1-176	2.7	1.5		0.34+	-	基部欠損 孔の痕跡あり
M33	図185	鉛製品 不明	2 M10o13	2	2-036 南側	1.6×1.6	高さ0.6		7.16	100%	円盤状
M34	図185	銅製品 煙管雁首	1 M10i13	4-1	1-124 下層	4.4+	火口径 1.7	基部径 1.2	6.37	-	
M35	図185	銅製品 煙管雁首	1 M10k16	4-1	1-068 西半	1.4+	火口径 1.4		2.09+	-	火皿付近のみ残存
M36	図185	銅製品 煙管雁首	1 M10g16	5-2上	整地土		火口径 2.3		1.72+	-	
M37	図185 図版95	銅製品 煙管雁首	2 M10o15・16	3	2-086	6.1	火口径 1.7	小口径 0.9	7.22	100%	火皿内有機物付着
M38	図185 図版96	銅製品 煙管雁首	2 M10o15・16	3	2-086	5.8+	火口径 1.6	小口径 0.9	6.58+	98%	火皿内有機物付着
M39	図185 図版96	銅製品 煙管雁首	2 M10n15	3上	整地土	5.9	火口径 1.5×1.4	小口径 1.2×0.8	5.12	100%	
M40	図185 図版96	銅製品 煙管雁首	2 M10n14	4-1	2-093	8.2	火口径 1.6×1.5	小口径 1.1×1.0	12.80	100%	火皿基部側の側面にφ0.15cmの穿孔
M41	図185 図版96	銅製品 煙管雁首	2 M10o14	4-1上	整地土	7.4	火口径 1.6×1.5	小口径 1.1×0.8	12.66	100%	火皿内有機物付着 小口に羅宇(竹)の一部が残る
M42	図185	銅製品 煙管雁首	2 M10o15・16	3	2-086	5.1+		小口径 1.0×1.0	4.41+	80%	火皿欠損
M43	図185	銅製品 煙管雁首	2 M10o15・16	3	2-086	5.0+		小口径 0.9×0.8	3.75+	80%	火皿欠損
M44	図185	銅製品 煙管雁首	2 M10m13	2	2-033	6.3+		基部径 0.8	6.28+	80%	雁首欠損
M45	図185	銅製品 煙管吸口	1 M10k12	4-1	1-089 北半	5.2+			2.85+	80%	木質(羅宇) 残存
M46	図185	銅製品 煙管吸口	2 M10m13	3	2-059	5.2+	0.4~1.6+		2.22+	80%	片方大きく広がる(裂ける)
M47	図185	銅製品 煙管吸口	2 M10o15・16	3	2-086	4.0+	0.6~1.0		4.79+	80%	吸口部分欠損
M48	図185	銅製品 煙管吸口	2 M10o16	3	2-072	6.1	6.1	0.4~0.9	4.68	100%	
M49	図186 図版96	鉄製品 短刀	4 M9r24	4-2	4-212	31.1+	刃部2.3 柄部1.3	刃部0.3 柄部0.3	170.64+	98%	錆化著しい 刃部先端欠損
M50	図186	鉄製品 小刀柄	3 M9t25	4-1上	整地土	9.1+	1.7	0.45	26.35+	?	刃部欠損
M51	図186 図版96	銅製品 切羽	3	排土中		4.0	2.5	0.1	3.64	100%	短刀用? 側面に小柄櫛用の繰り込み刃部穴2.3cm×0.8cm 周囲に細かい刻み
M52	図186 図版96	鉄製品 刀子	3 M10s3	1~ 4-2	3-153 東半	9.8 以上	1.7	0.3	14.00+	98%	肩部先端・柄の基部わずかに欠損
M53	図186 図版96	銅製品 ナイフ	3 M10t25	3	3-090	刃部13.0 柄部8.0	刃部2.1 柄部2.0	刃部0.2 柄部0.4	54.41	100%	刃部槌葉状 柄部の刃部側に2条の沈線・基部上方に折れる
M54	図186 図版96	銅製品 小柄	3 M10r6	1上	整地土	柄部 9.6	1.2~1.3	(0.7)	21.07+	柄部 98%	錆化著しい 刃部欠損
M55	図186 図版96	鉄製品 鎌	4 M9no24	4-2	4-154	10.1+	5.3	0.1	63.56+	-	柄部 刃部半分程度欠損
M56	図186 図版96	鉄製品 火打金	4 M9rs24	1	4-008	9.1	2.2	(0.3)	26.91	100%	錆化著しい 短冊状
M57	図186 図版96	鉄製品 十能?	4 M9u23	1	4-027	11.1+			264.00+	-	スコップ状 柄部は断面三角形の袋状 木質一部遺存 目釘跡
M58	図186 図版96	鉄製品 不明	4 M9rs24	1	4-008	12.1+			48.71+	-	鉄棒をU字状に折り曲げる 折り曲げ部を輪状に交差
M59	図186 図版96	鉄製品 錠	4 M9n21	1~ 4-2	4-283	19.5+	1.5	1.0	124.00+	-	片方の欠損 片方先端欠損
M60	図186 図版96	鉄製品 錠	4 M9t22	1	4-014	14.1+	1.1	1.0	81.03+	-	片側の折り曲げ欠損
M61	図186	鉄製品 釘	3 M10o4	1~ 4-2	3-152	15.8+	0.8	0.7	34.5+	98%	断面方形 頭部強い折れ やや湾曲する
M62	図186 図版96	鉄製品 工具	4 M9i_j23	4-1	4-099	14.1+	柄部径 1.0	身部径 0.6×0.5	30.19+	-	柄部木質残存 身部先端付近欠損
M63	図186 図版96	銅製品 皿	4 M9s22	1	4-003	口径 8.3	高さ 0.7	器壁 0.01	15.60+	45%	中央付近欠損
M64	図186 図版96	銅製品 杓子	4 M9t23・24	4-1	4-102 アゼ東側	7.5×6.5	1.6	0.1	10.41	100%?	二枚貝状 側部にφ0.3cmの孔2か所
M65	図186 図版96	銅製品 火鉢?	4 M9i_j22・23	4-1	4-099 上層	18.4	柄部 0.8×0.25		26.83+	90%	U字に折り曲げた左右対称 身部台形で断面がV字
M66	図186	銅製品 不明	3 M10s2	1~ 4-2	3-150	8.2	1.4~2.1	0.1以下	4.82	100%?	碗状 両小口円弧
M67	図186 図版96	銅製品 簪	3 M10k1	1	3-004	12.4+	0.2	0.2	4.99+	-	松葉状 基部欠損 身部断面三角形
M68	図186	銅製品 不明	3 M10p5	2	3-048	5.2	0.4	0.2	2.61	-	湾曲する
M69	図186 図版96	銅製品 箸?	4 M9p23	3上	整地土	14.0	0.4	3.0	7.81+	100%	先端尖る 基部挟りを入れ米粒程度の頭部を作り出す
M70	図186	銅製品 不明	4 M9p23	4-1	4-136	13.1	1.2	0.3	42.65	100%?	断面長方形 片方先端尖る もう一方は鉤型に折れる
M71	図186 図版96	銅製品 箸?	3 M9u25	2上	整地土	17.1	0.4	0.3	12.31	100%	断面方形 頭部角兎巾
M72	図186 図版96	銅製品 不明	4 M9tu22	4	4-110	本体部 径3.7		0.1	13.33	100%	中央に直交して円筒 突起の先端は滴巻き状になる
M73	図186 図版97	銅製品 不明	3 M10o5・6	2	3-030	7.5	径0.4 径0.6		4.73	100%?	管状 片方段違いで細くなる
M74	図186 図版97	銅製品 鍵	4 M9s22	1	4-016	5.1	身部径 0.4	基部	7.87	100%	基部環状 鍵の突起は一つ

報告書 番号	図 図版番号	種類 器種	調査区 地区	遺構面	遺構 層位	長 cm	幅 cm	厚 cm	重さ g	残存率	備考
M75	図186 図版97	銅製品 釘	3 M9・ 101j25・1	2	3-072	4.0	頭部 0.2×0.4	身部 0.3×0.3	1.55	100%	頭部長方形 身部多角形
M76	図186	銅製品 鉢	4 M9m24	3上	整地土	2.5	頭部 0.7×0.8	身部 0.15×0.15	0.44	100%	頭部丸 身部断面菱形
M77	図186	銅製品 吊り金具	3 M10j2・3	2	3-072 3層	3.4	1.8	0.4	0.85	-	先端欠損
M78	図186 図版97	銅製品 煙管雁首	3 M10s3	1~ 4-2	3-153 西半	3.6	火口径 1.3×1.4	小口径 1.2	8.04	100%	
M79	図186 図版97	銅製品 煙管雁首	3 M10s1	3	3-091	6.7	火口径 1.5	小口幅 0.9	11.06	100%	火皿内有機物付着 肩部六角形
M80	図186 図版97	銅製品 煙管雁首	3 M10s3	4-1上	整地土	6.2	火口径 1.6	小口径 0.9	10.82	100%	火皿内錆で埋まる
M81	図186 図版97	銅製品 煙管雁首	4 M9q24	4-2	4-215	8.3	火口径 1.5×1.6	基部径 1.0	16.66	100%	火皿基部側の側面にφ0.1cmの穿孔 1・2遺構面?
M82	図186 図版97	銅製品 煙管雁首	3 M9r25	3	3-083	8.5	火口径 1.4	小口径 0.9	8.29	100%	火皿内赤褐色土充填 火皿基部側の 側面にφ0.15cmの穿孔
M83	図186 図版97	銅製品 煙管雁首	4 M9t23・24	4	4-102 アゼ東側	6.5	火口径 1.4	小口径 (1.0)	8.67	98%	火皿内有機物付着 小口付近裂け る
M84	図186	銅製品 煙管雁首	4 M9k23	1	4-034	6.0+	火口径 1.6×1.5	基部径 0.7~1.0	4.54+	-	基部欠損
M85	図186 図版97	銅製品 煙管雁首	4 M9op21	1~ 4-2	4-299	6.7+	火口径 1.5×1.6	基部径 0.85×1.0	7.95+	90%	首部分欠損
M86	図186 図版97	銅製品 煙管吸口	3 M10n5・6	2上	整地土	4.9	径 0.4~1.0		3.42	100%	
M87	図186 図版97	銅製品 煙管吸口	3 M10n5・6	2上	整地土	7.1	径 0.5~0.9		7.42	100%	
M88	図186 図版97	銅製品 煙管吸口	3 M9n25	2	3-063	6.6	径 0.4~1.0		8.73	100%	やや折れる
M89	図186 図版97	銅製品 煙管吸口	3 M9t25	2	3-062	6.6	0.4~0.8		5.58	100%	
M90	図186 図版97	銅製品 煙管吸口	3 M9u25	3上	整地土	6.6+	0.35~0.8		2.44	100%	
M91	図186 図版97	銅製品 煙管吸口	3 M9n25	2上	整地土	8.9	径 0.4~1.0		8.23	100%	
M92	図186 図版97	銅製品 煙管吸口	4 M9tu22・23	4-1	4-110	12.4	0.45~1.1		6.66	100%	小口付近は断面不整形な八角 他 は円筒状
M93	図186 図版97	銅製品 煙管吸口	4 M9o24	4-1	4-135	5.9	0.5~1.2		3.54	100%	基部口巻状に段になる
M94	図186	銅製品 煙管吸口	4 M9i j23	4-1	4-099	4.8+	0.6~1.1		2.37+	80%	欠損著しい
M168	図209	鉄製品 釘	5 M10x18	5-1	5-009	8.4+	0.9	0.7	21.55+	90%	
M169	図209	鉄製品 釘	5 M10x18	5-1	5-009	7.7+	1.0	1.1	20.30+	-	

表9 出土遺物観察表(銭貨)

遺構面で帰属面不明の遺構は1~4-2と記載  
法量の+はそれ以上

報告書 番号	図 図版番号	種類 器種	調査区 地区	遺構面	遺構 層位	直径 cm	厚さ cm	重さ g	初铸	備考
M95	図187 図版97	銭貨 寛永通寶	1 M10j13	3	1-077	2.27	0.10	1.88	江戸時代	新寛永
M96	図187 図版97	銭貨 寛永通寶	1 M10l14	3	1-073	2.26	0.10	1.63	江戸時代	新寛永 背足(足尾銭)
M97	図187 図版97	銭貨 寛永通寶	2 M10m14	2上	整地土	2.52	0.13	3.20	江戸時代	新寛永 背文
M98	図187 図版97	銭貨 寛永通寶	2 M10l16	2	2-024	2.53	0.15	3.62	江戸時代	新寛永 背文
M99	図187 図版97	銭貨 寛永通寶	2 M10m16	2	2-023	2.24	0.13	3.79	江戸時代	新寛永
M100	図187 図版97	銭貨 寛永通寶	2 M10l16	2上	整地土	2.39	0.13	2.72	江戸時代	新寛永
M101	図187 図版97	銭貨 寛永通寶	2 M10l16	排土		2.43	0.11	3.25	江戸時代	新寛永
M102	図187 図版97	銭貨 寛永通寶	2 M10o16	2上	整地土	2.45	0.12	3.27	江戸時代	新寛永
M103	図187 図版97	銭貨 寛永通寶	2 M10o16	3	2-072	2.42	0.14	2.60+	江戸時代	新寛永
M104	図187 図版97	銭貨 寛永通寶	2 M10	排土		2.40	0.12	2.03	江戸時代	新寛永
M105	図187 図版97	銭貨 寛永通寶	2 M10m15	1上	整地土	2.21	0.08	2.11	江戸時代	新寛永
M106	図187 図版97	銭貨 寛永通寶	2 M10m15	1上	整地土	2.33	0.13	3.28	江戸時代	新寛永
M107	図187 図版97	銭貨 寛永通寶	2 M10n15	1上	整地土	2.28	0.10	2.15	江戸時代	新寛永
M108	図187 図版97	銭貨 寛永通寶	3 M10u1	攪乱		2.22	0.09	2.26	江戸時代	新寛永
M109	図187 図版97	銭貨 寛永通寶	3 M10j1	1	3-006	2.56	0.18	4.01	江戸時代	新寛永
M110	図187 図版97	銭貨 寛永通寶	3 M10u1	1上	整地土	2.46	0.14	3.64	江戸時代	
M111	図187 図版97	銭貨 寛永通寶	3 M10n1	1	3-016	2.23	0.07	1.56	江戸時代	新寛永
M112	図187 図版97	銭貨 寛永通寶	3 M10u25	2上	整地土	2.40	0.11	2.50	江戸時代	新寛永
M113	図187 図版98	銭貨 寛永通寶	3 M10p5・6	2上	整地土	2.50	0.13	3.94	江戸時代	新寛永 背文



報告書 番号	図 版番号	種類 器種	調査区 地区	遺構面	遺構 層位	直径 cm	厚さ cm	重さ g	初鑄	備考
M114	図187 図版98	銭貨 寛永通寶	3 M10i1	2上	整地土	2.31	0.14	2.81	江戸時代	新寛永
M115	図187 図版98	銭貨 寛永通寶	3 M10m1	2上	整地土	2.41	0.09	2.80	江戸時代	新寛永
M116	図187 図版98	銭貨 寛永通寶	3 M10n5・6	4-1	3-136 上層	2.56	0.15	4.45	江戸時代	新寛永 背文
M117	図187 図版98	銭貨 寛永通寶	3 M10	排土		2.36	0.09	2.17	江戸時代	新寛永
M118	図187 図版98	銭貨 寛永通寶	4 M9t24	2上	整地土	2.29	0.09	2.02	江戸時代	新寛永
M119	図187 図版98	銭貨 寛永通寶	2 M10m16	1	2-022	2.40	0.11	3.03	江戸時代	古寛永
M120	図187 図版98	銭貨 寛永通寶	2 M10n15	3上	整地土	2.57	0.15	4.38	江戸時代	古寛永
M121	図187 図版98	銭貨 寛永通寶	2 M10o15	3	2-078	2.40	0.15	3.32	江戸時代	古寛永
M122	図187 図版98	銭貨 寛永通寶	2 M10m15	4-1	2-136	2.39	0.13	3.75	江戸時代	古寛永
M123	図187 図版98	銭貨 寛永通寶	2 M10m14		攪乱	2.40	0.12	2.60	江戸時代	古寛永
M124	図187 図版98	銭貨 寛永通寶	2 M10n16	1上	整地土	2.49	0.12	3.37	江戸時代	古寛永
M125	図187 図版98	銭貨 寛永通寶	3 M10q5・6	1	3-024	2.43	0.12	3.57	江戸時代	古寛永
M126	図187 図版98	銭貨 寛永通寶	3 M10n5・6	2上	整地土	2.51	0.13	4.16	江戸時代	古寛永
M127	図187 図版98	銭貨 寛永通寶	3 M10u25	2上	整地土	2.45	0.12	3.68	江戸時代	古寛永
M128	図187 図版98	銭貨 寛永通寶	3 M10no5・6	2	3-030	2.41	0.17	3.42	江戸時代	古寛永 六角形
M129	図187 図版98	銭貨 寛永通寶	3 M9t25	2	3-062 北半	2.39	0.10	2.44	江戸時代	古寛永
M130	図187	銭貨 寛永通寶	3 M10j2・3	3	3-105	2.50	0.16	2.55+	江戸時代	
M131	図187 図版98	銭貨 寛永通寶	3 M10u1	3	3-081	2.47	0.13	2.95	江戸時代	
M132	図187 図版98	銭貨 寛永通寶	3 M10j1	4-1	3-120 下層	2.46	0.11	2.65	江戸時代	
M133	図187 図版98	銭貨 寛永通寶	3 M10j1	4-1上	整地土	2.43	0.12	3.13	江戸時代	
M134	図187 図版98	銭貨 寛永通寶	4 M9p24		攪乱	2.45	0.11	2.95	江戸時代	
M135	図187 図版98	銭貨 寛永通寶	4 M9t22	4-1上	整地土	2.45	0.20	3.67	江戸時代	
M136-1	図187 図版98	銭貨 寛永通寶	4 M9i23	1上	整地土	2.52	0.12	6.19	江戸時代	新寛永 銭譜? 寛永通寶2枚重なる
M136-2		銭貨 寛永通寶				江戸時代			新寛永 銭譜? 寛永通寶2枚重なる	
M137	図188 図版98	銭貨 乾隆通寶	3 M10p4	2上	整地土	2.24	0.16	3.71	清 1736年	背文
M138	図188 図版98	銭貨 永樂通寶	1 M10h13	2上	整地土	2.42	0.11	2.68	明 1408年	真書
M139	図188 図版98	銭貨 洪武通寶	1 M10g14	4-2	1-203	2.42	0.17	2.35	明 1368年	真書
M140	図188 図版98	銭貨 聖宋元寶	3 M10r6	1上	整地土	2.46	0.13	2.59	北宋 1101年	篆書
M141	図188 図版98	銭貨 元祐通寶	1 M10j15		攪乱	2.44	0.14	3.08	北宋 1086年	篆書
M142	図188 図版98	銭貨 元祐通寶	1 M10f15	4-1上	整地土	2.52	0.09	2.33	北宋 1086年	真書
M143	図188 図版98	銭貨 元祐通寶	3 M10p5・6	2上	整地土	2.43	0.09	2.49	北宋 1086年	真書
M144	図188 図版98	銭貨 元豐通寶?	1 M10g13	3上	整地土	2.41	0.13	2.70	北宋 1078年	篆書
M145	図188 図版98	銭貨 元豐通寶	4 M9u22・24	4-1	4-102	2.48	0.12	3.69	北宋 1078年	真書
M146	図188 図版98	銭貨 熙寧元寶	1 M10g13	4-1	1-083 北半	2.44	0.11	3.21	北宋 1068年	真書
M147	図188 図版98	銭貨 熙寧元寶	3 M10o5・6	2上	整地土	2.41	0.14	3.46	北宋 1068年	真書
M148	図188 図版98	銭貨 嘉祐元寶	4 M9s24	2上	整地土	2.34	0.13	3.34	北宋 1056年	真書
M149	図188 図版98	銭貨 皇宋通寶	2 M10m16	排土		2.43	0.11	2.97	北宋 1038年	篆書
M150	図188 図版98	銭貨 天聖元寶	4 M9op24	4-1	4-135	2.48	0.14	3.04	北宋 1023年	模鑄銭?
M151	図188 図版98	銭貨 天禧通寶	1 M10j15		攪乱	2.51	0.12	2.93	北宋 1017年	真書
M152	図188 図版98	銭貨 天禧通寶	1 M10hi13	5-2	1-252	2.47	0.15	1.93	北宋 1017年	真書
M153	図188 図版98	銭貨 天禧通寶	3 M10r6	1上	整地土	2.42	0.13	3.07+	北宋 1017年	
M154	図188 図版98	銭貨 祥符元寶	2 M10o15	4-2上	整地土	2.44	0.11	3.21	北宋 1008年	
M155	図188 図版98	銭貨 祥符元寶	3 M10u2	2上	整地土	2.50	0.12	3.01	北宋 1008年	
M156	図188 図版98	銭貨 祥符元寶	4 M9t23	2	4-048	2.45	0.10	2.81	北宋 1008年	
M157	図188 図版98	銭貨 祥符通寶	4 M9i23・24	4-2上	整地土	2.50	0.11	2.76	北宋 1008年	

報告書 番号	図 図版番号	種類 器種	調査区 地区	遺構面	遺構 層位	直径 cm	厚さ cm	重さ g	初鑄	備考
M158	図188 図版98	銭貨 至道元寶	1 M10h15	4-1上	整地土	2.44	0.10	2.38	北宋 995年	真書
M159	図188 図版98	銭貨 淳化元寶	1 M10k14	3上	整地土	2.46	0.14	2.91	北宋 990年	草書
M160	図188 図版98	銭貨 開元通寶	3 M9n25	4-1上	整地土	2.44	0.12	2.87	唐 621年	
M161	図188	銭貨 □和通寶	2 M10m16	3上	整地土	2.50	0.12	1.54+		真書
M162	図188 図版98	銭貨 銭種不明	1 M10g12	5-2上	整地土	2.30		2.66		銭文鑄潰れる 鏝銭か
M163	図188 図版99	銭貨 銭種不明	2 M10o14	4-2	2-147	2.44	0.15	2.45		模鑄銭?
M164	図188	銭貨 銭種不明	2 M10l13	4-2	2-172	2.36	0.15	1.09+		模鑄銭?
M165	図188	銭貨 銭種不明	3 M10t3	2上	整地土	2.41	0.08	0.80+		半分に割れる
M166-1	図188 図版99	銭貨 銭種不明	3 M10o5・6	2上	整地土	2.27				銭縉 7枚重なる 両側とも裏面
M166-2		銭貨 銭種不明				2.41				
M166-3		銭貨 銭種不明				2.49				
M166-4		銭貨 銭種不明				2.39				
M166-5		銭貨 銭種不明				2.46				
M166-6		銭貨 銭種不明				鑄のため計 測不能				
M166-7		銭貨 銭種不明				鑄のため計 測不能				
M167-1	図188 図版99	銭貨 熙寧元寶	3 M10u25	2上	整地土	2.39	0.12		北宋 1068年	銭縉 9枚が重なる
M167-2		銭貨 熙寧元寶				2.45	0.16		北宋 1068年	
M167-3		銭貨 元符通寶				2.48	0.17		北宋 1098年	
M167-4		銭貨 熙寧元寶				2.42	0.13		北宋 1068年	
M167-5		銭貨 銭種不明				2.45		31.29		
M167-6		銭貨 銭種不明				2.38				
M167-7		銭貨 銭種不明				2.49				
M167-8		銭貨 銭種不明				2.43				
M167-9		銭貨 銭種不明				2.41	0.12			

表10 出土遺物観察表（ガラス製品） 法量の+はそれ以上

報告書 番号	図 図版	種別	調査区 地区	遺構面	遺構 層位	日付	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	残存率	備考
G1	図188 図版99	簪	2 M10n13	2	2-031	180511	8.7+	1.15	0.5	?	耳かき状 先端欠損 松葉・紅 葉・梅鉢の線刻

表11 出土遺物観察表（木製品） 帰属面不明の遺構は1～4-2と記載  
法量の（）内は復元した大きさ +はそれ以上  
樹種同定は、保存処理作業をおこなった（株）文化財サービスによるものである。

報告書 番号	図 図版	種別	調査区 地区	遺構面	遺構 層位	樹種	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	残存率	備考
W1	図189 図版99	建具 把手?	1 M10f13	4-1	1-083B 上層	サワラ	9.3	4.2	1.3	?	金具付着 耳状の木の側の側面を銅金 具で巻いて鉋で留める 木地には漆
W2	図189 図版99	漆器 腰高椀	1 M10g h 14	1～ 4-2	1-304 底	トチノキ	口径 11.0+	器高 4.4+	底径 6.4	50%	内：朱 外：黒、赤漆で草花文
W3	図189 図版99	曲物 底板	1 M10g h 14	1～ 4-2	1-304 底	スギ	直径 12.4		0.6	100%	
W4	図189	曲物 底板	1 M10g h 14	1～ 4-2	1-304 底		直径 8.0		0.5	50%	
W5	図189 図版99	蓋 天板	1 M10g h 14	1～ 4-2	1-304 底	ヒノキ	6.1	5.9	0.2	100%	円形 中央に樹皮を貫通させる
W6	図189	箸	1 M10g h 14	1～ 4-2	1-304 底		18.2	0.6	0.5	100%	
W7	図189 図版99	箸	1 M10g h 14	1～ 4-2	1-304 底		21.2	0.6	0.5	100%	
W8	図189 図版99	箸	1 M10g h 14	1～ 4-2	1-304 底		22.4	0.6	0.5	100%	
W9	図189 図版99	箸	1 M10g h 14	1～ 4-2	1-304 底		23.4	0.7	0.5	100%	
W10	図189 図版99	不明木製品	1 M10g h 14	1～ 4-2	1-304 底	マツ属複雑 管束亜属	6.0	2.9	2.8	100%	木錘状 円柱中ほどに浅い挟り 芯 に直径0.5cmの穿孔
W11	図189	部材?	1 M10g h 14	1～ 4-2	1-304 底		21.2+	1.3	0.6	-	片端かぎ型に切れ込み
W12	図189 図版99	部材? 不明木製品	1 M10g h 14	1～ 4-2	1-304 底		14.7	2.7	1.9	100%	両小口に釘孔

報告書 番号	図 版	種別	調査区 地区	遺構面	遺構 層位	樹種	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	残存率	備 考
W13	図189 図版99	建築部材?	1 M10g h 14	1~ 4-2	1-304 底		27.2	5.2	3.9	100%	
W14	図189 図版99	曲物 側	1 M10h13	7	1-347 底	ヒノキ	(44.0)			-	井戸側 上段
W15-1	図189 図版99	曲物 側	1 M10h13	7	1-347 底	ヒノキ	(44.0)			-	井戸側 下段 綴じ合わせの穴あり
W15-2	図189 図版99	曲物 底板	1 M10h13	7	1-347 底	ヒノキ	直径 43.8		1.0	100%	井戸側 底板 側面に木釘及び木釘 痕密
W16	図190	曲物 底板	2 M10o15	3	2-037 下層		10.4+		0.6	85%	
W17	図190 図版99	漆器 椀	2 M10no14	5-2	2-231	コナラ属 コナラ節	口径	器高 4.7+	高台径 6.8	70%	内:朱 外:黒 文様? 織豊期
W18	図190 図版99	漆器 椀	3 M10i1j1・2	3	3-107	トチノキ	口径 11.5	器高 7.6+	高台径 5.8+	75%	内:朱 外:黒、金彩(丸に亀甲に 花角)
W19	図190 図版99	曲物 蓋平板	3 M10i1j1・2	3	3-107	ヒノキ	直径 8.3		0.9	95%	周囲に側板接合のための丁寧な切り 込みあり
W20	図190 図版99	箸	3 M10i1j1・2	3	3-107		23.8	0.8	0.6	100%	やや反っている
W21	図190 図版99	箸	3 M10i1j1・2	3	3-107		21.5	0.7	0.5	100%	2か所折れ
W22	図190 図版99	下駄 台部	3 M10i1j1・2	3	3-107	アスナロ	21.0	7.4	2.5	台部 90%	露卯下駄(差歯・ホヅ穴) 台部楕 円形 黒漆塗布か?
W23	図190 図版99	下駄 台部	3 M10i1j1・2	3	3-107	ヒノキ	22.6	8.9	4.2	台部 70%	露卯下駄(差歯・ホヅ穴) 台部隅 丸方形
W24	図190 図版99	籠状木製品	3 M10i1j1・2	3	3-107	スギ	30.7	5.4	0.8	98%	
W25	図190	部材	3 M10i1j1・2	3	3-107		15.7	3.3~7.6	1.1	100%	台形の板 釘穴5か所
W26	図190 図版99	箸	3	5-2	大溝	スギ	22.3	0.7	0.6	100%	
W27	図190 図版99	漆器 椀蓋	3 M10q4	5-2	3-310	トチノキ	口径 12.5	器高 2.6	摘み径 5.7	50%	外:黒 内:朱
W28	図190	箸	3 M10q4	5-2	3-310		19.6+	0.6	0.6	100%	
W29	図190	刀装具 鞘	3 M10q4	5-2	3-310		7.4+	3.6	0.8+	-	
W30	図190 図版100	箸	4 M9j22・23	4-1	4-099		21.9	0.7	0.6	100%	折れる
W31	図190 図版100	箸	4 M9j22・23	4-1	4-099		21.9	0.7	0.5	100%	
W32	図190 図版100	箸	4 M9j22・23	4-1	4-099		21.7	0.6	0.6	100%	
W33	図190	下駄 歯	4 M9j22	4-1	4-099		11.0	7.6	2.0	90%	露卯下駄 差歯 ホヅ欠ける
W34	図190 図版100	籠	4 M9j22・23	4-1	4-099	スギ	22.7	身:3.8 柄:2.4	0.2	100%	包丁状を呈する 身部は弧状を呈 し、先端が尖る
W35	図191 図版100	荷札	4 m9k23・24	4-2	4-158	サワラ	22.3	1.9	0.8	100%	上端近くの両側に切れ込み 2面に 墨書
W36	図191	木札	4 m9k23・24	4-2	4-158	サワラ	6.3+	2.8+	0.3	-	板状 上下面に墨書
W37	図191 図版100	形代 刀?	4 m9k23・24	4-2	4-158	アスナロ	17.9	1.2	0.1	100%	柄・刃部表現 弓状 木簡を転用か 墨書あり
W38	図191	木簡?	4 m9k23・24	4-2	4-158	ヒノキ	14.5	1.9+	0.2	-	墨書 文字が切れることから横につ ながるか
W39	図191 図版100	漆器 椀蓋	4 m9k23・24	4-2	4-158	トチノキ	口径 10.0	器高 2.8+	摘み径 (4.8)	70%	内:朱 外:黒、金彩で丸に亀甲に花 菱文?
W40	図191 図版100	漆器 椀	4 m9k23・24	4-2	4-158	ブナ属	口径 12.6	器高 6.4	高台径 6.4	60%	内:朱 外:黒
W41	図191 図版100	漆器 椀	4 m9k23・24	4-2	4-158	ブナ属	口径 (13.4)	器高 (10.0)	高台径 5.8~6.8	65%	内:朱 外:黒
W42	図191	漆器 椀	4 m9k23・24	4-2	4-158	ブナ属	口径 (14.3)	器高 6.3+		碗部30%	内外:朱 外面文様 黒漆・金彩 草花文
W43	図191	漆器 椀	4 m9k23・24	4-2	4-158	ブナ属	口径 11.9+	器高 3.3+	高台径 (6.1)	高台部 100%	内:朱 外:黒 体部とは別個体
W44	図191 図版100	漆器 椀蓋	4 m9k23・24	4-2	4-158	トチノキ	口径 10.6	器高 3.5	摘み径 4.9	95%	内:朱 外:黒、丸に葉の文様(金 彩?) 3か所
W45	図191 図版100	漆器 口クロ目丸盆	4 m9k23・24	4-2	4-158	ケヤキ	口径 35.0+	高さ 1.7+	底径 22.6	60%	碁笥底 内外
W46	図191 図版100	漆器 組合箱蓋	4 m9k23・24	4-2	4-158	アスナロ	6.3	6.3	高さ 2.9	100%	天井部面取り 黒漆塗布
W47	図191	杓子	4 m9k23・24	4-2	4-158		13.6+	身部6.0+ 柄部2.15	身部0.3~ 0.5	-	3片に割れる
W48	図191 図版100	茶筌	4 m9k23・24	4-2	4-158	マダク属	(16.7)	3.6		70%	穂は閉じている 破損した穂の破片 あり
W49	図191 図版100	茶筌	4 m9k23・24	4-2	4-158	タケ亜属	9.8+	1.85+		-	穂・柄部の一部
W50	図191	蓋 部材	4 m9k23・24	4-2	4-158	ヒノキ科	16.1	0.7	1.3	摘み部 100%	摘み部分 木釘穴15か所 赤漆塗布 か?
W51	図191 図版100	蓋 部材	4 m9k23・24	4-2	4-158	ヒノキ	直径 16.0		0.7~0.8	80%	摘み部分欠落(釘穴7か所) 黒漆塗 布か?
W52	図192 図版100	曲物	4 m9k23・24	4-2	4-158	ヒノキ	直径 16.8	高さ 3.2	底板0.4 側板0.25	80%	側板は樫で綴じる2か所 底板と側 板を留める目釘は5か所?
W53	図192 図版100	曲物	4 m9k23・24	4-2	4-158	ヒノキ	直径 14.5	高さ 2.8	側板0.2 底板0.3	95%	樫で綴じる 1か所
W54	図192	曲物 底板	4 m9k23・24	4-2	4-158		直径 (13.1)		0.6	50%	コンパス痕(円弧) 残る
W55	図192 図版100	曲物 底板	4 m9k23・24	4-2	4-158	アスナロ	直径 (14.0)		0.4	70%	片面墨書?

報告書 番号	図 図版	種別	調査区 地区	遺構面	遺構 層位	樹種	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	残存率	備 考
W56	図192 図版100	曲物 底板	4 m9k23・24	4-2	4-158	ヒノキ	直径 8.4		厚さ 0.6	100%	柄杓
W57	図192	曲物 底板	4 m9k23・24	4-2	4-158		直径 8.0		0.5	70%	
W58	図192 図版100	曲物 底板	4 m9k23・24	4-2	4-158		9.0	8.5	1.2	100%	やや楕円 部分的にスス付着
W59	図192	折敷 脚?	4 m9k23・24	4-2	4-158		9.5	5.1	0.6	-	
W60	図192 図版100	折敷 脚?	4 m9k23・24	4-2	4-158		4.5+	7.6	0.6	-	中央?に窓状の抉り 釘穴1か所
W61	図192 図版100	桶? 底板	4 m9k23・24	4-2	4-158		直径 (19.0)		1.5	60%	2分割を木釘?で接合 元々は3分割か
W62	図192 図版100	桶? 底板	4 m9k23・24	4-2	4-158		直径 18.0		1.1	80%	中央部欠損 竹釘で3枚の板材を接合か
W63	図192 図版101	桶? 底板	4 m9k23・24	4-2	4-158		直径 32.5		1.7	70%	板材を木釘で接合 元々は4枚接合で3枚が残存
W64	図192 図版101	桶? 把手	4 m9k23・24	4-2	4-158	ヒノキ	12.0	5.8	2.7×1.8	100%	仕上げ丁寧 黒漆 本体に接合のための木釘残る
W65	図192	桶 側板	4 m9k23・24	4-2	4-158		29.7	8.4	0.8	-	両端に木釘穴 表面刃物傷多数
W66	図192	桶 側板?	4 m9k23・24	4-2	4-158		29.7	10.9	0.8	-	両端に木釘 ほぼ等間隔にあり 両面に刃物傷多数
W67	図192 図版101	桶 栓	4 m9k23・24	4-2	4-158		5.6	2.8		50%	半分に分れる?
W68	図192 図版101	桶 栓	4 m9k23・24	4-2	4-158		4.8	1.8	1.7	100%	面取り痕顕著
W69	図193 図版101	箸	4 m9k23・24	4-2	4-158		23.1	0.6	0.6	100%	
W70	図193 図版101	箸	4 m9k23・24	4-2	4-158		24.3	0.6	0.5	100%	
W71	図193 図版101	箸	4 m9k23・24	4-2	4-158	ヒノキ	23.1	0.7	0.5	100%	墨書?
W72	図193 図版101	箸	4 m9k23・24	4-2	4-158		22.5	0.7	0.6	100%	折れている
W73	図193 図版101	箸	4 m9k23・24	4-2	4-158		23.9	0.65	0.6	99%	
W74	図193 図版101	箸	4 m9k23・24	4-2	4-158		24.4	0.7	0.5	100%	
W75	図193 図版101	箸	4 m9k23・24	4-2	4-158		23.8	0.5	0.5	100%	
W76	図193 図版101	箸	4 m9k23・24	4-2	4-158		24.5	0.7	0.6	100%	
W77	図193 図版101	箸	4 m9k23・24	4-2	4-158		24.3	0.7	0.6	100%	
W78	図193 図版101	箸	4 m9k23・24	4-2	4-158		23.4	0.7	0.7	100%	
W79	図193 図版101	箸	4 m9k23・24	4-2	4-158		23.9	0.7	0.6	100%	
W80	図193 図版101	箸	4 m9k23・24	4-2	4-158		24.2	0.6	0.3	100%	
W81	図193 図版101	箸	4 m9k23・24	4-2	4-158		24.6	0.6	0.6	100%	曲がる
W82	図193 図版101	箸	4 m9k23・24	4-2	4-158		24.1	0.6	0.6	100%	
W83	図193 図版101	箸	4 m9k23・24	4-2	4-158		25.2	0.8	0.6	100%	折れる
W84	図193 図版101	箸	4 m9k23・24	4-2	4-158		22.9	0.7	0.4	100%	
W85	図193 図版101	箸	4 m9k23・24	4-2	4-158		23.8	0.7	0.7	100%	
W86	図193 図版101	箸	4 m9k23・24	4-2	4-158		24.2	0.7	0.5	99%	
W87	図193 図版101	箸	4 m9k23・24	4-2	4-158		23.9	0.6	0.5	99%	
W88	図193 図版101	箸	4 m9k23・24	4-2	4-158		23.9	0.7	0.7	100%	
W89	図193 図版101	箸	4 m9k23・24	4-2	4-158		24.2	0.6	0.5	100%	
W90	図193 図版101	箸	4 m9k23・24	4-2	4-158		22.5	0.8	0.6	100%	
W91	図193 図版101	箸	4 m9k23・24	4-2	4-158		23.1	0.7	0.7	100%	
W92	図193 図版101	箸	4 m9k23・24	4-2	4-158		22.8	0.6	0.55	100%	
W93	図193 図版101	箸	4 m9k23・24	4-2	4-158		22.9	0.6	0.6	100%	
W94	図193 図版101	箸	4 m9k23・24	4-2	4-158		22.7	0.7	0.5	100%	湾曲する
W95	図193 図版101	箸	4 m9k23・24	4-2	4-158		23.1	0.6	0.6	100%	
W96	図193 図版101	箸	4 m9k23・24	4-2	4-158		23.1	0.6	0.5	100%	
W97	図193 図版101	箸	4 m9k23・24	4-2	4-158		24.2	0.6	0.4	100%	
W98	図193 図版101	箸	4 m9k23・24	4-2	4-158		22.8	0.8	0.7	99%	
W99	図193 図版101	箸	4 m9k23・24	4-2	4-158		20.0+?	0.7	0.5	100%?	
W100	図193 図版101	箸	4 m9k23・24	4-2	4-158		19.7	0.6	0.6	100%	

報告書 番号	図 図版	種別	調査区 地区	遺構面	遺構 層位	樹種	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	残存率	備 考
W101	図193 図版101	箸	4 m9k23・24	4-2	4-158		21.0	0.6	0.5	100%	
W102	図193 図版101	箸	4 m9k23・24	4-2	4-158		23.3	0.6	0.5	100%	
W103	図193 図版101	箸	4 m9k23・24	4-2	4-158		23.9	0.7	0.6	99%	折れる
W104	図193 図版101	箸	4 m9k23・24	4-2	4-158	スギ	25.1	0.7	0.7	100%	
W105	図193 図版101	箸	4 m9k23・24	4-2	4-158		24.5	0.7	0.6	100%	
W106	図193 図版101	箸	4 m9k23・24	4-2	4-158		23.8	0.8	0.7	100%	
W107	図193 図版101	箸	4 m9k23・24	4-2	4-158		23.1	0.6	0.6	100%	
W108	図193 図版101	箸	4 m9k23・24	4-2	4-158		22.4	0.8	0.7	99%	
W109	図193 図版101	箸 火付け棒	4 m9k23・24	4-2	4-158	スギ	23.4	0.7	0.6	100%	片端炭化 箸を火付け棒に転用
W110	図193 図版101	箸 火付け棒	4 m9k23・24	4-2	4-158		21.1	0.6	0.5	100%	片端炭化 箸を火付け棒に転用
W111	図193 図版101	箸 火付け棒	4 m9k23・24	4-2	4-158		20.5	0.6	0.6	100%	片端炭化 箸を火付け棒に転用
W112	図193 図版101	箸 火付け棒	4 m9k23・24	4-2	4-158		21.0	0.7	0.7	100%	片端炭化 箸を火付け棒に転用
W113	図193 図版101	箸 火付け棒	4 m9k23・24	4-2	4-158		11.2	0.7	0.5	100%	片端炭化 箸を火付け棒に転用
W114	図193 図版101	箸 火付け棒	4 m9k23・24	4-2	4-158		13.2	0.6	0.6	100%	片端炭化 箸を火付け棒に転用
W115	図193 図版101	箸 火付け棒	4 m9k23・24	4-2	4-158		11.2	0.7	0.5	100%	片端炭化 箸を火付け棒に転用
W116	図193 図版101	箸 火付け棒	4 m9k23・24	4-2	4-158	スギ	21.7	0.6	0.6	100%	両端炭化 箸を火付け棒に転用
W117	図193 図版101	楊枝	4 m9k23・24	4-2	4-158	サワラ	17.0	0.6	0.4	100%	
W118	図193 図版101	楊枝	4 m9k23・24	4-2	4-158		12.5+	0.7	0.4	100%	片端尖る 片端斜めに切り落とす
W119	図193 図版101	楊枝	4 m9k23・24	4-2	4-158		15.1	0.6	0.4	100%	両端細く尖らす 片端弓りになる
W120	図194 図版102	下駄	4 m9k23・24	4-2	4-158	ツガ属	22.1	10.0	4.0	98%	連齋(割り)下駄 台部隅を落とした長方形
W121	図194 図版102	下駄	4 m9k23・24	4-2	4-158	アスナロ	22.0	8.0	6.9	後ろ歯欠損	陰印下駄(差歯) 台部楕円形 竹釘で歯の接合を補修 鼻緒孔に藁縄残存
W122	図194 図版102	下駄	4 m9k23・24	4-2	4-158	ツガ属	22.8	10.1	3.4	98%	連齋(割り)下駄 台部隅を落とした長方形
W123	図194 図版102	工具? 柄	4 m9k23・24	4-2	4-158	ヒノキ	12.2	1.7	1.2	柄部100%	鉄製品基部、柄部の中に遺る
W124	図194 図版102	篋	4 m9k23・24	4-2	4-158	スギ	15.9	2.9	0.2	100%	片面黒い塗料痕あり
W125	図194 図版102	篋	4 m9k23・24	4-2	4-158	スギ	17.0	身部:2.9 柄部:1.3	0.2	100%	身部と刃部に分かれる 刃部・先端とも一文字
W126	図194	篋	4 m9k23・24	4-2	4-158		15.8+	身部:3.1 柄部:2.0	0.2	70%?	身部欠損
W127	図194	篋	4 m9k23・24	4-2	4-158		15.3+	身部:2.8 柄部:1.8	0.2~0.3	80%?	柄部の基部欠損
W128	図194 図版102	篋	4 m9k23・24	4-2	4-158	ツガ属	20.1	身部:3.6 柄部:2.2	0.2~0.3	80%	
W129	図194	篋	4 m9k23・24	4-2	4-158		12.9+	1.5 2.9	0.2	80%?	
W130	図194 図版102	工具 刷毛	4 m9k23・24	4-2	4-158	アスナロ	14.8	2.2~8.0	0.8	毛以外残存	撥状 切り割りに毛を挟み、細い2条の溝に沿って糸で綴じる 柄部に穿孔あり
W131	図194 図版102	柄	4 m9k23・24	4-2	4-158		7.5+	1.8~2.4	0.9	-	部分的に漆?
W132	図194 図版102	板戸横棧	4 m9k23・24	4-2	4-158		6.5	3.0	2.2	100%	ホゾ: 楔を打ち込む 釘穴1か所
W133	図194 図版102	板戸横棧	4 m9k23・24	4-2	4-158		6.1	3.0	2.2	100%	ホゾ: 楔を打ち込む 釘穴1か所
W134	図194 図版102	板戸横棧	4 m9k23・24	4-2	4-158		6.0	3.3	2.0	100%	ホゾ: 楔を打ち込む 釘穴? 1か所貫通
W135	図194 図版102	板戸横棧	4 m9k23・24	4-2	4-158		5.9	3.1	2.3	100%	ホゾ: 楔を打ち込む 釘穴1か所
W136	図194 図版102	板戸縦棧	4 m9k23・24	4-2	4-158		8.7	3.2	2.6	98%	ホゾ穴 切り欠き
W137	図195 図版102	部材?	4 m9k23・24	4-2	4-158		43.3+	3.2	1.7	-	工具柄?
W138	図195 図版102	部材	4 m9k23・24	4-2	4-158		43.7+	2.4	1.6	-	棧? V字状の切り欠き2か所
W139	図195 図版102	部材	4 m9k23・24	4-2	4-158		43.7	2.1	1.8	-	棧? V字状の切り欠き1か所
W140	図195 図版102	部材	4 m9k23・24	4-2	4-158		46.0+	2.5	1.6	-	棧? V字状の切り欠き1か所
W141	図195 図版102	部材	4 m9k23・24	4-2	4-158		40.3	3.9+	1.2	-	釘穴1か所
W142	図195 図版103	部材	4 m9k23・24	4-2	4-158		33.4	3.4	3.1	100%?	垂木? 方柱状 釘穴4か所7
W143	図195 図版103	部材	4 m9k23・24	4-2	4-158		34.3	3.8	3.7	100%?	垂木? 方柱状 釘穴4か所7
W144	図195	部材	4 m9k23・24	4-2	4-158		7.6+	2.7	2.0	-	釘穴貫通 釘残片?
W145	図195 図版103	部材	4 m9k23・24	4-2	4-158		4.1	2.4	2.0	100%	方柱状 釘残る 側面に細い溝

報告書 番号	図 図版	種別	調査区 地区	遺構面	遺構 層位	樹種	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	残存率	備 考
W146	図195	部材	4 m9k23・24	4-2	4-158		11.0	0.9	0.8	100%?	一部炭化
W147	図195 図版103	部材	4 m9k23・24	4-2	4-158		28.6	2.2	1.0	100%	木釘上面端2か所、片方の小口2か所 片方側面4か所
W148	図195 図版103	部材	4 m9k23・24	4-2	4-158		26.1	2.0	0.7	100%	釘穴4か所
W149	図195 図版103	部材	4 m9k23・24	4-2	4-158		16.8	3.5	0.45	100%	板状 釘穴2か所 交差する板の痕 跡
W150	図195 図版103	部材	4 m9k23・24	4-2	4-158		36.0	2.3+	2.0	-	棧 切り欠き 釘穴
W151	図195 図版103	部材	4 m9k23・24	4-2	4-158		35.9	1.0	0.7	100%	片端に小孔穿つ 柄杓柄?
W152	図195 図版103	部材	4 m9k23・24	4-2	4-158		22.6	0.8	0.6	100%	片端木釘穴 両小口木釘穴 鳥籠?
W153	図195 図版103	部材	4 m9k23・24	4-2	4-158		15.6	3.7	2.6	100%	断面楕円形 切り欠き 釘穴2か所 貫通
W154	図195 図版103	部材	4 m9k23・24	4-2	4-158		8.1	6.4	2.3	100%	かまぼこ状 釘1か所刺さったまま 残る 上面に鋸により連続する菱文
W155	図196 図版103	部材	4 m9k23・24	4-2	4-158		19.0	7.1	0.8	100%	板材 4.0cm×2.9cmの方形の孔
W156	図196 図版103	部材	4 m9k23・24	4-2	4-158		61.3	7.7	1.9	100%	釘1箇所残る 釘穴
W157	図196 図版103	部材	4 m9k23・24	4-2	4-158		5.3	4.0	2.9	100%	幅2.0cmの溝あり
W158	図196 図版103	部材	4 m9k23・24	4-2	4-158		6.6	4.2	3.4	100%	釘穴2方向から貫通
W159	図196 図版103	部材	4 m9k23・24	4-2	4-158		13.0	5.7	5.7	-	ホゾ穴 切り欠き?
W160	図196 図版103	部材	4 m9k23・24	4-2	4-158		12.4+	10.5	1.5	-	板状 切り欠き 釘穴1か所 表面 刃物傷多数
W161	図196 図版103	部材	4 m9k23・24	4-2	4-158		6.3+	5.4	2.0	100%?	ホゾ状の切り欠きあり
W162	図196 図版103	部材	4 m9k23・24	4-2	4-158		32.4	8.8+	1.1	-	切り欠き
W163	図196	部材	4 m9k23・24	4-2	4-158		7.5	7.5	4.3	100%?	切り欠き
W164	図196	部材	4 m9k23・24	4-2	4-158		18.3	11.1	1.2	100%	板材 小口に木釘穴
W165	図196	部材	4 m9k23・24	4-2	4-158		16.8	6.7	0.7	-	板状 釘穴側面含め4か所
W166	図196	部材	4 m9k23・24	4-2	4-158		11.0	5.5	0.4~1.0	90%	楔状 木釘7か所
W167	図196	部材	4 m9k23・24	4-2	4-158		11.7	4.6	0.2~0.9	100%	楔状 木釘3か所
W168	図196	部材	4 m9k23・24	4-2	4-158		6.3	4.8	4.2	100%	丸太状 切り欠き
W169	図196 図版103	建築部材 柱材	4 m9k23・24	4-2	4-158		33.9+	8.1	8.0	-	丸太材 切り欠きあり
W170	図197 図版103	鳥籠	4 m9k23・24	4-2	4-158	スギ トガサワラ タケ亜属	47.7	33.0	32.7	棹90% 竹ひご 10%	縦長の籠
W171	図197 図版104	木簡	4 M9k24・25	4-2	4-265	コウヤマキ	8.3+	1.9+	0.3	-	表裏に墨書
W172	図197 図版104	木簡	4 M9k24・25	4-2	4-265	アスナロ	15.0	4.8	0.3	-	表裏に墨書
W173	図197 図版104	木簡	4 M9k24・25	4-2	4-265	アスナロ	16.0+	2.3+	0.2	-	表裏に墨書
W174	図197 図版104	木簡	4 M9k24・25	4-2	4-265	ヒノキ	15.0	1.7+	0.25	-	表裏に墨書
W175	図197 図版104	不明	4 M9k24・25	4-2	4-265	ヒノキ	9.2+	1.9+	0.2	-	表裏に墨書
W176	図197	木札	4 M9k24・25	4-2	4-265	ヒノキ	7.8	2.2	0.2	-	墨書
W177	図197	木札	4 M9k24・25	4-2	4-265	ヒノキ	12.0+	1.5+	0.2	-	墨書
W178	図197	木札	4 M9k24・25	4-2	4-265	アスナロ	4.5	2.8	0.2	100%	墨書?
W179	図198 図版104	漆器 椀	4 M9k24・25	4-2	4-265	トチノキ	口径 12.0	器高 4.6+	高台径 6.5+	20%	細片 内:朱 外:黒、朱で丸に三 つ巴
W180	図198 図版104	漆器 椀蓋	4 M9k24・25	4-2	4-265	トチノキ	口径 10.0+	器高 4.0+	摘み径 4.1	80%	内:朱 外:黒、朱で丸に違い鷹の 羽3方向
W181	図198	漆器 椀	4 M9k24・25	4-2	4-265	トチノキ	口径 12.4+	器高 7.0+	高台径 6.6+	20%	細片 内:朱 外:黒、朱で丸
W182	図198 図版104	漆器 椀	4 M9k24・25	4-2	4-265	ブナ属 トチノキ	口径 13.6+	器高 9.3+	高台径 6.7	70%	内:朱 外:黒
W183	図198 図版104	曲物柄杓 底板	4 M9k24・25	4-2	4-265		直径 7.8×7.4		0.7	95%	周囲側面に細い切込1周する
W184	図198	曲物 底板	4 M9k24・25	4-2	4-265	ヒノキ	直径 (7.8)		0.5	25%	柄杓? 墨書あり
W185	図198	曲物 底板	4 M9k24・25	4-2	4-265		直径 (8.4)		0.5	50%	柄杓か? 半裁
W186	図198 図版104	曲物 蓋天板	4 M9k24・25	4-2	4-265	ヒノキ	直径 14.7		0.4	95%	中央より外寄りに榫継ぎ・接合部材 不明 墨書
W187	図198 図版104	桶? 底板	4 M9k24・25	4-2	4-265		直径 16.4		1.0	60%	2分割以上 竹釘の装着痕
W188	図198 図版104	折敷 側板	4 M9k24・25	4-2	4-265		14.9+	3.1	0.4	-	榫で綴じる
W189	図198 図版104	折敷 側板	4 M9k24・25	4-2	4-265		24.4	3.2	0.3	-	目釘穴3か所
W190	図198 図版104	折敷 側板	4 M9k24・25	4-2	4-265		13.7+	3.1	0.6	-	黒漆塗布 榫孔? 3か所

報告書 番号	図 図版	種別	調査区 地区	遺構面	遺構 層位	樹種	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	残存率	備 考
W191	図198	折敷? 側板	4 M9k24・25	4-2	4-265		9.3	1.6	0.35	-	小口 片端釘穴
W192	図198 図版104	箸	4 M9k24・25	4-2	4-265		23.0	0.8	0.8	100%	
W193	図198 図版104	箸	4 M9k24・25	4-2	4-265		21.7	0.6	0.5	100%	
W194	図198 図版104	箸	4 M9k24・25	4-2	4-265	ヒノキ科	22.0	0.7	0.7	100%	丁寧に面取りをおこなう
W195	図198	箸	4 M9k24・25	4-2	4-265		23.2	0.6	0.5	98%	やや弓なりになる
W196	図198 図版104	箸	4 M9k24・25	4-2	4-265		23.0	0.7	0.5	100%	
W197	図198 図版104	箸	4 M9k24・25	4-2	4-265		23.5	0.6	0.6	100%	
W198	図198	箸	4 M9k24・25	4-2	4-265		21.4	0.6	0.4	100%	
W199	図198 図版104	箸	4 M9k24・25	4-2	4-265		20.8	0.6	0.6	100%	
W200	図198 図版104	箸	4 M9k24・25	4-2	4-265		21.4	0.5	0.5	100%	
W201	図198 図版104	箸	4 M9k24・25	4-2	4-265		21.5	0.6	0.5	100%	
W202	図198	箸	4 M9k24・25	4-2	4-265		23.3	0.8	0.7	100%	
W203	図198 図版104	箸	4 M9k24・25	4-2	4-265		22.8	0.5	0.5	100%	
W204	図198	箸	4 M9k24・25	4-2	4-265		22.7	0.6	0.6	100%	
W205	図198	箸	4 M9k24・25	4-2	4-265		19.2	0.7	0.7	100%	
W206	図198	箸	4 M9k24・25	4-2	4-265		22.3	0.7	0.6	98%	
W207	図198 図版104	箸	4 M9k24・25	4-2	4-265		23.1	0.6	0.6	100%	
W208	図198	箸	4 M9k24・25	4-2	4-265		22.8	0.6	0.5	100%	くの字に折れる
W209	図198	箸	4 M9k24・25	4-2	4-265		23.0	0.9	0.8	100%	
W210	図198 図版104	箸	4 M9k24・25	4-2	4-265		23.1	0.6	0.6	100%	やや弓なりになる
W211	図198	箸	4 M9k24・25	4-2	4-265		21.9	0.6	0.6	100%	
W212	図198	箸	4 M9k24・25	4-2	4-265		21.4	0.7	0.6	100%	片端炭化。火つけ棒として使用した可能性あり
W213	図198 図版104	楊枝	4 M9k24・25	4-2	4-265	ヒノキ	15.2	0.5	0.4	98%	片端尖る 片端斜めに切り落とす
W214	図198 図版104	楊枝	4 M9k24・25	4-2	4-265	ヒノキ	17.6	0.7	0.5	98%	片端尖る 片端斜めに切り落とす
W215	図199 図版104	杓子	4 M9k24・25	4-2	4-265		12.3+	3.0+	0.6	-	
W216	図199 図版104	杓子	4 M9k24・25	4-2	4-265		13.6+	2.5+	0.2	-	
W217	図199 図版104	桶? 蓋	4 M9k24・25	4-2	4-265		25.8	10.7+	1.3	-	数分割の一枚 木釘で継ぐ 中央部に栓
W218	図199	桶 側板	4 M9k24・25	4-2	4-265		7.2	6.6	1.2	-	
W219	図199	栓?	4 M9k24・25	4-2	4-265	マツ属複雑 管束亜属	4.1	直径 1.8		50%	円柱状 芯に穿孔 外面漆塗布
W220	図199	下駄 歯	4 M9k24・25	4-2	4-265		高さ 7.4+	9.3	1.5	-	台形状 差し歯ホゾ
W221	図199 図版105	下駄	4 M9k24・25	4-2	4-265	台部モミ属 歯ヒノキ	17.4	台部7.4 歯7.4	高さ 5.6	95%	陰卯下駄 差し歯 台部隅丸方形
W222	図199 図版105	刷毛	4 M9k24・25	4-2	4-265	アスナロ	13.9	9.9+ 柄5.5	0.9	75%	切り割に毛を挟み、細い2条の溝に沿って糸で綴じる 外面漆付着?
W223	図199 図版105	工具 柄	4 M9k24・25	4-2	4-265	ヒノキ	34.1	3.1	3.0	柄部 98%	片方割り込み状の溝 目釘痕2か所
W224	図199	部材	4 M9k24・25	4-2	4-265		13.3	1.1	0.8	100%?	両端近くに小穴
W225	図199 図版105	部材	4 M9k24・25	4-2	4-265		18.5	3.1	0.9	100%	棧? 片端に釘穴3か所
W226	図199 図版105	部材	4 M9k24・25	4-2	4-265		15.0	2.4	1.7	100%	角柱状片細り 太い側平・側面に釘穴
W227	図199 図版105	部材	4 M9k24・25	4-2	4-265		27.5	4.0	0.6	-	両端に釘穴 別部材の装着痕あり
W228	図199	建築部材	4 M9k24・25	4-2	4-265		16.0+	5.0	4.7	-	垂木 切り欠き
W229	図199	部材	4 M9k24・25	4-2	4-265		24.0	4.9	4.0	100%	方柱状 むしろ状の繊維・金属付着
W230	図199	部材	4 M9k24・25	4-2	4-265		14.0	5.9	4.2	100%?	切り欠き
W231	図199	部材	4 M9k24・25	4-2	4-265		6.7+	2.4+	0.8	-	直径約1.0cm孔3か所以上
W232	図199	部材	4 M9k24・25	4-2	4-265		13.6	8.4	0.5	-	板材
W233	図199	部材 戸車?	4 M9k24・25	4-2	4-265		直径 (5.3)		1.5	45%	中心孔径1.3cm 繊維付着
W234	図199	部材	4 M9k24・25	4-2	4-265		7.7+	3.5	0.8	-	円弧の切り欠き
W235	図200	曲物 底板	4 M9k24・25	4-2	4-267		直径 (8.1)		0.4	50%	柄杓か



報告書 番号	図 図版	種別	調査区 地区	遺構面	遺構 層位	樹種	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	残存率	備 考
W236	図200 図版105	箸	4 M9k24・25	4-2	4-267		21.8	0.7	0.7	100%	
W237	図200 図版105	箸	4 M9k24・25	4-2	4-267		23.8	0.8	0.6	100%	
W238	図200 図版105	下駄	4 M9k24・25	4-2	4-267	トネリコ属	21.8	台部8.7 歯12.0	高さ6.2 歯合む	95%	露卯下駄(差歯・ホゾ穴) 台部隅丸方形
W239	図200 図版105	部材	4 M9k24・25	4-2	4-267		11.6+	5.5	2.0	-	切り欠き 釘
W240	図200	部材	4 M9k24・25	4-2	4-267		10.4	3.2	1.0	-	切り欠き 側面に釘穴3か所
W241	図200 図版105	部材	4 M9k24・25	4-2	4-267		20.3+	2.9	2.8	-	垂木状 切り欠き2か所
W242	図200 図版105	漆器 椀蓋	4 M9on21・22	1~ 4-2	4-287	トチノキ	口径 11.6	器高 3.0+	摘み径 5.6	85%	内外:黒
W243	図200 図版105	漆器 椀	4 M9on21・22	1~ 4-2	4-287	ブナ属	口径	器高 4.2+	高台径 5.7	65%	内:朱 外:黒
W244	図200 図版105	曲物? 底板	4 M9on21・22	1~ 4-2	4-287	スギ	直径 16.7		1.4	底板 100%	三枚に分かれる 木釘で接合
W245	図200 図版105	曲物 蓋天板	4 M9on21・22	1~ 4-2	4-287		直径 9.7×9.9		厚 0.8	天板 85%	樺綴じ・接合部材不明 腐食著しい
W246	図200 図版105	曲物 蓋天板	4 M9on21・22	1~ 4-2	4-287	アスナロ	直径 7.3×7.2		厚 0.3	天板 100%	樺綴じ・接合部材不明 形状はw-092と類似
W247	図200 図版105	曲物 側板	4 M9on21・22	1~ 4-2	4-287		直径 (19.2)	高さ 4.9		45%	樺で綴じる2か所以上
W248	図200 図版105	部材 三玉脚?	4 M9on21・22	1~ 4-2	4-287	スギ	8.6	8.0	0.5	80%	装飾の透かしあり
W249	図200 図版105	折敷? 底板?	4 M9on21・22	1~ 4-2	4-287	アスナロ	9.2	3.7+	0.1	-	隅を落とした方形? 墨書あり
W250	図200 図版105	部材	4 M9on21・22	1~ 4-2	4-287		21.4	3.6	0.3	-	折敷? 樺孔6か所
W251	図200	箸	4 M9on21・22	1~ 4-2	4-287		(22.8)	0.7	0.7	100%	くの字に折れる
W252	図200	箸	4 M9on21・22	1~ 4-2	4-287		23.3	0.6	0.6	100%	弓状に曲がる
W253	図200 図版105	箸	4 M9on21・22	1~ 4-2	4-287		22.8	0.6	0.6	100%	
W254	図200 図版105	箸	4 M9on21・22	1~ 4-2	4-287		22.6	0.6	0.6	100%	
W255	図200 図版105	箸	4 M9on21・22	1~ 4-2	4-287		25.9	0.8	0.6	100%	
W256	図200 図版105	箸?	4 M9on21・22	1~ 4-2	4-287		33.9	0.8	0.7	100%	
W257	図200 図版105	桶 木栓	4 M9on21・22	1~ 4-2	4-287		4.7	2.8		100%	円柱状 片側細くなる
W258	図200 図版105	桶? 木栓	4 M9on21・22	1~ 4-2	4-287		7.5	3.5	3.1	100%	円柱状 片側細くなる
W259	図200 図版105	桶? 木栓	4 M9on21・22	1~ 4-2	4-287		8.2	2.8		98%	円柱状 片側細くなる
W260	図200 図版105	桶? 木栓	4 M9on21・22	1~ 4-2	4-287		5.6	頭部2.3× 2.3	身部径 1.3	95%	頭部は角の取れた立方 身は円柱状で先端が細くなる
W261	図200 図版105	桶? 木栓	4 M9on21・22	1~ 4-2	4-287	スギ	8.5	頭部5.5	身部2.0	98%	頭部は円盤状 身部は円柱状 先端に向かって細くなる
W262	図201 図版106	下駄	4 M9on21・22	1~ 4-2	4-287	トネリコ属	21.6	8.8	高さ 3.5+	80%	w-125と接合 露卯下駄(差歯・ホゾ穴) 台部隅丸方形
W263	図201 図版106	下駄	4 M9on21・22	1~ 4-2	4-287	ツガ属	21.6	8.7	8.2	85%	露卯下駄(差歯・ホゾ穴) 台部隅丸方形 後ろの歯欠落 鼻緒の繊維わずかに残る
W264	図201 図版106	下駄	4 M9on21・22	1~ 4-2	4-287	トネリコ属	21.2	7.7	高さ 5.3	95%	露卯下駄(差歯・ホゾ穴) 台部隅丸方形
W265	図201 図版106	下駄	4 M9on21・22	1~ 4-2	4-287	ヒノキ	19.7	6.6	3.2	98%	削り下駄 歯の部分台形状に切り欠き 台部隅丸方形
W266	図201 図版106	梳櫛	4 M9on21・22	1~ 4-2	4-287	イスノキ	8.6	4.2	1.2	-	歯はかなり欠損
W267	図201 図版106	梳櫛	4 M9on21・22	1~ 4-2	4-287	イスノキ	9.1	3.8+	1.0	-	歯はかなり欠損
W268	図201 図版106	解かし櫛	4 M9on21・22	1~ 4-2	4-287	イスノキ	3.2+	4.1	1.2	-	歯の間隔広い
W269	図201 図版106	扇骨	4 M9on21・22	1~ 4-2	4-287	扇骨 タケ 亜属 要 サカキ	8.8+			-	扇骨4枚以上を要で綴じる
W270	図201 図版106	鎌	4 M9on21・22	1~ 4-2	4-287	コナラ属 アカガシ亜 属	36.0+	木質柄部 32.7		柄部90%	金属部の柄部分が木質柄に接合 口金・目釘残る
W271	図201 図版106	工具 柄	4 M9on21・22	1~ 4-2	4-287		20.5+	3.2	2.9	-	片端近くに釘穴1か所
W272	図201 図版106	篋	4 M9on21・22	1~ 4-2	4-287	スギ	22.0	3.0 4.9	0.4~0.6	100%	柄端部付近に三角形の透かし穴
W273	図202 図版106	部材	4 M9on21・22	1~ 4-2	4-287		15.3+	1.5	1.4	95%	両小口にホゾ状の突出 中央に釘穴
W274	図202	部材	4 M9on21・22	1~ 4-2	4-287		7.4+	6.2+	3.4	-	切り欠きあり 仕上げ丁寧
W275	図202	部材	4 M9on21・22	1~ 4-2	4-287		9.1	8.9	1.5	100%?	方形の板材 釘穴2か所
W276	図202 図版106	部材 板材	4 M9on21・22	1~ 4-2	4-287		18.1	12.9	1.0	-	小口両端近くに釘穴
W277	図202	部材	4 M9on21・22	1~ 4-2	4-287		28.0+	3.5	1.3	-	釘穴
W278	図202	部材	4 M9on21・22	1~ 4-2	4-287		15.6+	8.0+	0.4	-	穿孔? 釘穴痕?
W279	図202	部材	4 M9on21・22	1~ 4-2	4-287		7.6+	4.8	1.7	-	釘穴・釘

報告書 番号	図 版	種別	調査区 地区	遺構面	遺構 層位	樹種	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	残存率	備 考
W280	図202	部材 楔	4 M9on21・22	1～ 4-2	4-287		11.2	2.1	1.8	100%	台形状
W281	図202	建築部材? 板材	4 M9on21・22	1～ 4-2	4-287		31.8+	5.7	2.0	-	端近くに釘穴
W282	図202	建築部材?	4 M9on21・22	1～ 4-2	4-287		14.8	3.5	1.8	100%?	片側かぎ型に切れ込み 釘穴3か所 (うち2か所貫通)
W283	図202	不明木製品	4 M9on21・22	1～ 4-2	4-287		33.8+	3.1	0.9	98%	工具柄?
W284	図202 図版106	建築部材?	4 M9on21・22	1～ 4-2	4-287	スギ	46.1	7.5	1.8	98%	切り欠き W285と同じ部材
W285	図202 図版106	建築部材?	4 M9on21・22	1～ 4-2	4-287	スギ	49.7	7.0	1.9	95%	切り欠き W284と同じ部材
W286	図203	建築部材 板材	4 M9on21・22	1～ 4-2	4-287		48.4+	10.2	1.1	-	釘穴2か所 桶材転用か? W287と 同じ部材か?
W287	図203	建築部材 板材	4 M9on21・22	1～ 4-2	4-287		55.0+	10.6	1.2	-	釘穴2か所 桶材転用か? W286と 同じ部材か?
W288	図203	建築部材 柱?	4 M9on21・22	1～ 4-2	4-287		41.8+	12.8+	8.1+	-	丸太材 片側切り欠き(ホゾ穴)、 釘2か所
W289	図203	建築部材	4 M9	1～ 4-2	4-288		28.7	10.7	9.9	100%?	丸太材 両小口に方向が食い違うホ ゾあり
W290	図203 図版106	荷札	4 M9p21	1～ 4-2	4-299 下層底	ヒノキ	7.3	1.5	0.8	95%	上端近くに溝状の挟り・0.15cmの穿 孔 1面に墨書
W291	図203 図版106	漆器 椀	4 M9p21	1～ 4-2	4-299 下層底	ブナ属	-	器高 4.0+	-	70%	内:朱 外:黒、二方向に丸に?の 文様
W292	図203 図版106	漆器 椀	4 M9p21	1～ 4-2	4-299 下層底	ブナ属	口径 15.1	器高 7.6+	-	80%	内外:朱 外面に黒漆で○に巴・ 箭? 3方向? W297と同一個体
W293	図203 図版106	漆器 椀	4 M9p21	1～ 4-2	4-299	ブナ属	口径 (11.4)	高さ 5.3	底径 5.4	90%	歪著しい 内:朱 外:黒
W294	図203 図版107	漆器 椀	4 M9p21	1～ 4-2	4-299 下層底	ブナ属	口径 12.1	器高 4.1+	-	70%	内外:朱 外面に丸に?の文様4方 向
W295	図203 図版107	漆器 椀	4 M9p21	1～ 4-2	4-299	ブナ属	口径 (15.5)	高さ 10.4	底径 6.6	98%	歪著しい 内:朱 外:黒
W296	図203 図版107	漆器 椀	4 M9p21	1～ 4-2	4-299 下層底		-	-	-	10%以下	内:朱 外:黒 外面に朱で丸に山 桜文
W297	図203	漆器 椀	4 M9p21	1～ 4-2	4-299 下層底		口径 15.1	器高 7.6+	-	10%	内外:朱 外面に黒漆で○に巴・ 箭? 3方向? W292と同一個体
W298	図203 図版107	漆器 椀	4 M9p21	1～ 4-2	4-299 下層底	ハリギリ	口径	器高 3.5+	高台径 (5.6)	60%	内:朱 外:黒 外面に朱で丸に? の文様2方向
W299	図203 図版107	漆器 椀蓋	4 M9p21	1～ 4-2	4-299 下層底	トチノキ	口径 (10.4)	器高 2.6+	摘み径 5.4	70%	内:朱 外:黒 外面に文様
W300	図203	箸	4 M9p21	1～ 4-2	4-299 下層底		21.8	0.9	0.55	100%	
W301	図203 図版107	下駄	4 M9p21	1～ 4-2	4-299 下層底	トガサワラ	18.7	6.8	3.3	100%	割り下駄 歯の部分台形状に切り欠 き 台部隅丸方形
W302	図204 図版107	下駄 台部	4 M9p21	1～ 4-2	4-299 下層底	スギ	21.5	7.8	2.3	台部のみ	露卯下駄(差歯・ホゾ穴) 台部隅 円形 黒漆塗布か?
W303	図204 図版107	下駄	4 M9p21	1～ 4-2	4-299	台部ヒノキ 歯カツラ	21.1	7.1	7.8	前歯欠損	露卯下駄(差歯・ホゾ穴) 台部隅 円形 黒漆塗布 W302とセットか?
W304	図204 図版107	下駄	4 M9p21	1～ 4-2	4-299	トネリコ属	20.3	7.9	2.2+	歯欠損	露卯下駄(差歯・ホゾ穴) 台部隅 円形 腐食著しい
W305	図204 図版107	下駄	4 M9p21	1～ 4-2	4-299	スギ	21.2	7.6	6.2	後歯欠損	露卯下駄(差歯・ホゾ穴) 台部隅 丸方形
W306	図204	下駄	4 M9p21	1～ 4-2	4-299		8.5+	7.3+	2.5+	台部の 約30%	露卯下駄(差歯・ホゾ穴) 台部隅 円形
W307	図204	下駄 歯	4 M9p21	1～ 4-2	4-299 下層底		12.0	7.4	1.9	歯 90%	台形状
W308	図204 図版107	木槌	4 M9p21	1～ 4-2	4-299 下層底	打部・柄 ツガ属	槌部10.0 柄部12.3+	槌部4.9 柄部1.5	槌部4.5 柄部0.7	柄基部欠 損	挿入部に竹製の楔
W309	図204 図版107	工具 柄	4 M9p21	1～ 4-2	4-299 下層底		35.5	4.6	4.1	100%	
W310	図版103	シュロ縄	4 M9k23・24	1～ 4-2	4-158	シュロ				100%	残存状態良好
W311	図版103	布	4 M9k23・24	1～ 4-2	4-158					-	腐食著しい 木綿か?

表12 出土遺物観察表(骨角製品)

法量の+はそれ以上

報告書 番号	図 版	種別	調査区 地区	遺構面	遺構 層位	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	残存率	備 考
B1	図204 図版107	箸	4 M9t23	1	4-015	18.1	0.6	0.5	100%	断面方形
B2	図204 図版107	箸	1 M10g15	2	1-011	14.4+	0.6	0.55	85%	断面方形 先端欠損
B3	図204 図版107	櫛拵	4 M9u23	1	4-022	13.2	1.0	0.6	100%	歯ブラシ状
B4	図204 図版107	簪	2 M10m13	2	2-033	7.75+	0.9	0.4	50%?	二又 基部・先端欠損
B5	図204 図版107	双六 コマ	1 M10g16	2?	1-028	2.1	1.95	0.55	100%	円盤状
B6	図204 図版107	有孔玉	3 M9u25	1上	整地土	1.5	1.5	0.9	100%	算盤玉状 孔0.3cm
B7	図204 図版107	(骨) 簡	3 M10t2	3	3-090	6.1+	0.75	0.05	?	短冊状 墨書「合・」